

山下心頭再開発の方向性について(答申)

横浜市山下心頭再開発検討委員会

令和6年12月

「山下ふ頭再開発の方向性について（答申）」（目次）

| | |
|--|----------------|
| はじめに | 2 |
| 1 山下ふ頭再開発が目指すべき姿 | 8 |
| (1) 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間の創造 | |
| (2) 市民と共に歩み、豊かなみらいに繋げる持続可能な まちの実現 | |
| (3) 横浜らしさと賑わいが広がり、新たな活力を創出する 都市モデルの構築 | |
| 2 基盤・空間の考え方 |24 |
| (1) まちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実 | |
| (2) 安全・安心とレジリエンス*の確保 *強靱性、適応力 | |
| (3) 横浜らしさを感じる景観づくり | |
| 今後のまちづくりに向けて |30 |
| (参考) |31 |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会委員名簿 | |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会審議経過 | |
| 付属資料 | |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 資料（一式） | |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 会議録（一式） | |

はじめに

私たちは今、人口減少と少子高齢化の急速な進展、自然災害の激甚化・頻発化、深刻化する気候変動問題など、時代の大きな転換期を迎えている。377万人の市民を擁する我が国最大の基礎自治体である横浜市は、こうした局面に立ち向かいながらも、都市の活力を未来につなげていく役割を果たしていかなければならない。その中で、山下ふ頭の再開発は、港町・横浜を象徴する美しいウォーターフロントを舞台に、新たな価値を創造し、世界の人々を惹きつける魅力的なまちづくりを実現するプロジェクトとして位置づけられている。

これまで市においては、横浜市民の理解が得られる、そして事業性のある再開発を目指し、令和3年度から市民意見募集や市民意見交換会を重ねるなど、幅広い取組が丁寧に進められてきた。

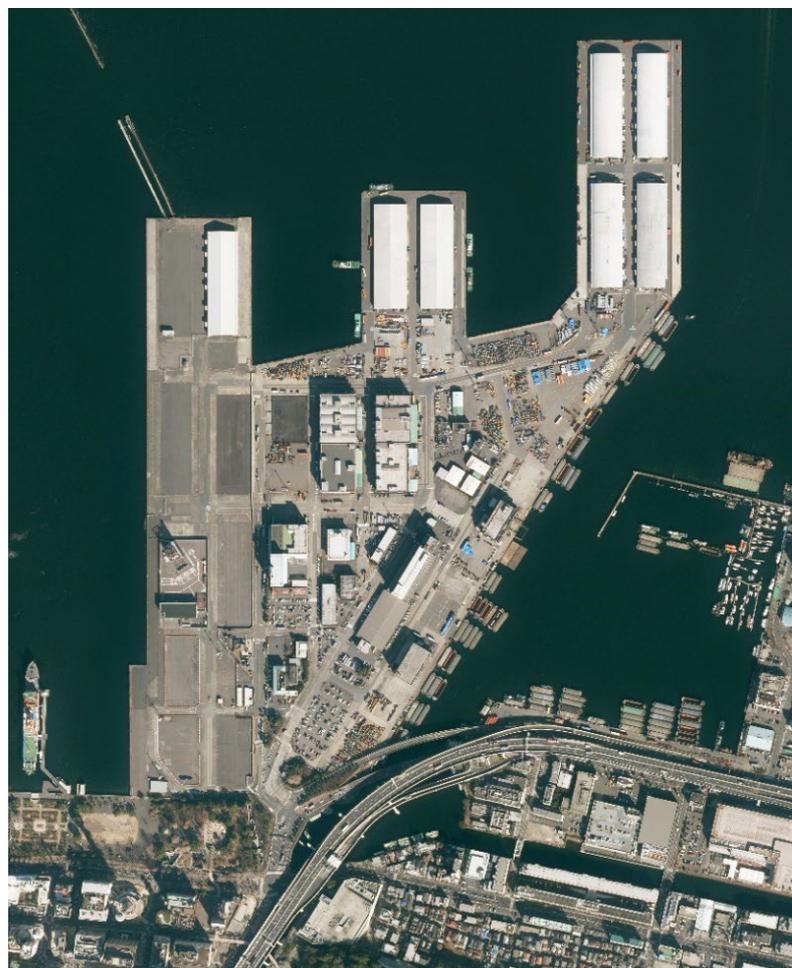
横浜市山下ふ頭再開発検討委員会は、山下ふ頭の優れた立地や広大な開発空間を活かした、新しい時代の象徴となるまちづくりに向けて、その方向性について議論するための機関として設置されたものである。

本委員会においては、市が抱える課題等のファクトや市民意見等の説明、地域関係団体委員の意見書の提出、学識者委員のプレゼンテーションなどが行われるとともに、各委員が活発に意見を交わし、議論を積み重ねてきた。

また、開催にあたっては、傍聴に加え、インターネットによる生配信を行うなど、透明性を確保しながら運営が行われたことは、特筆すべき点である。さらには、視聴をされた方々からいただいたご意見を、委員会各回で報告を受け、多様な市民意見を取り入れながら委員会を進めてきた。

この度とりまとめた答申は、本委員会での議論を「目指すべき姿」と「基盤・空間の考え方」に整理をしたものである。今後は、この答申を羅針盤としながら、魅力あふれるまちづくりを実現していただきたい。

山下ふ頭の概要

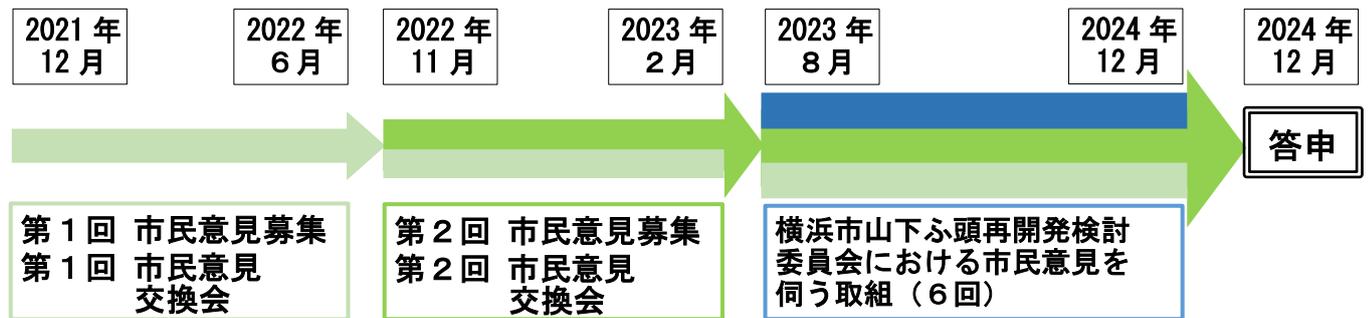


| | |
|------|-------------------------|
| 敷地面積 | 約 47ha |
| 用途地域 | 商業地域 |
| 容積率 | 400% |
| 建蔽率 | 80% |
| 高度地区 | 第 7 種高度地区 (最高限 31m) |
| 防火地域 | 準防火地域 |
| 臨港地区 | 横浜港臨港地区 (分区：商港区) |
| その他 | 都市再生緊急整備地域・特定都市再生緊急整備地域 |

【市民意見募集、市民意見交換会等の取組】

横浜市では、横浜市民の理解が得られる、そして事業性のある再開発を目指し、令和3年度から市民意見募集や市民意見交換会を重ねるなど、幅広い取組が進められ、**合計 11, 123 件の意見が寄せられた。**

○ 経緯



○ 主な取組内容

■ 2021 (R3) 年 12 月
~2022 (R4) 年 6 月

第1回 市民意見募集

山下ふ頭再開発の新たな事業計画の策定に向け、市民の皆様から再開発のイメージ (海・みなど、国際性など) や再開発に取り入れる視点 (持続可能なまちづくり、多様性社会など) について、意見を募集。

○回答数 3, 721 件 (うち、自由意見があったもの: 1, 942 件)

■ 2022 (R4) 年 5 月
~2022 (R4) 年 6 月

第1回 市民意見交換会

第1回 市民意見募集の一環として、市民から直接意見を伺うため、まちづくりのテーマなどについて、市民意見交換会 (ワークショップ) を実施。

○参加者総数 221 人、意見の数 3, 120 件

①結果の公表

(※ 詳細は付属資料を参照)

■ 2022 (R4) 年 11 月
~2023 (R5) 年 2 月

第2回 市民意見募集

第1回の市民意見募集や市民意見交換会を踏まえ、より具体的な再開発のイメージなどについて、意見 (自由意見) を募集。

○回答数 1, 284 件 (全て自由意見)

■ 2022 (R4) 年 12 月
~2023 (R5) 年 2 月

第2回 市民意見交換会

第2回市民意見募集の一環として、直接市民意見を伺うため、より具体的な再開発のイメージなどについて、市民意見交換会 (ワークショップ) を実施。

○参加者総数 172 人、意見の数 2, 555 件

②結果の公表

(※ 詳細は付属資料を参照)

これまでの市民意見募集等では、「海と緑が調和」「持続可能で環境にやさしい」「幅広い世代が楽しめる」「横浜ブランドを創る」など、数多くの声が寄せられた。

これらの市民意見を基に横浜市山下ふ頭再開発検討委員会で議論がスタートした。

■ 2023（R5）年8月 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会における ～2024（R6）年12月 市民意見を伺う取組

委員会の開催にあたっては、傍聴に加え、インターネットによる生配信を行うなど、透明性を確保しながら運営が行われた。

また、視聴をされた方々に対して、各回、インターネットフォームによる意見募集が行われ、その結果が委員会で、都度、報告された。

第1回 意見者数 39 人、意見数 78 件

第2回 意見者数 39 人、意見数 105 件

第3回 意見者数 55 人、意見数 111 件

第4回 意見者数 33 人、意見数 36 件

第5回 意見者数 61 人、意見数 82 件

第6回 意見者数 28 人、意見数 31 件

市民意見募集等の結果をまとめた資料が、委員会で配布され説明を受けた。

○総意見者数 255 人、総意見数 443 件

(※ 詳細は付属資料を参照)

■ 2024（R6）年12月 答申

これまでの市民意見等を踏まえて、委員会での議論を進め、3つの「目指すべき姿」と「基盤・空間の考え方」を整理し、答申を作成したものである。

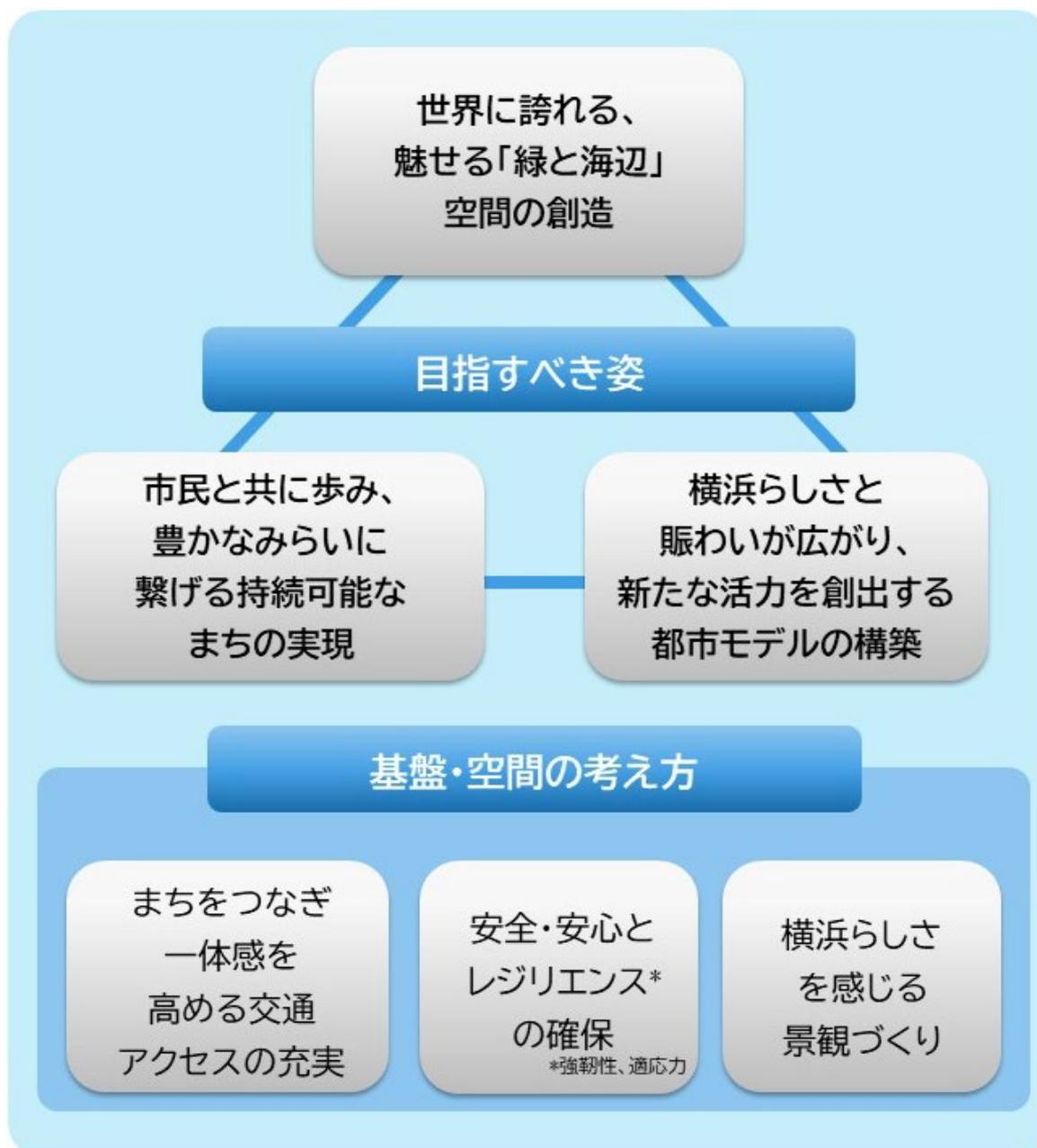
【市民意見募集、市民意見交換会等の取組の様子】



【本答申の構成について】

本答申では、まちづくりの大きな方向性を示すことに主眼を置き、山下ふ頭再開発が「目指すべき姿」を明確にしたうえで、その実現に向けた土台となる「基盤・空間の考え方」を整理することとした。

【答申の全体像】



1 山下ふ頭再開発が目指すべき姿

本答申では、まず、まちづくりの方向性や導入機能、持つべき視点として「目指すべき姿」を以下の通り整理し、取りまとめを行った。

目指すべき姿①：世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間の創造

(1) 実現に向けた方向性と導入機能

(方向性)

- 世界の都市開発でも見られる「緑の再生」を核としながら、臨港パークから山下公園に至る水際線と連続したまとまりのある緑化空間を創出し、人々を呼び込み、デスティネーションとなる魅力的な緑を中心としたまちづくりを推進すべき。
- 三方を海に囲まれた地の利を活かして、世界のウォーターフロント開発をリードする臨海部再開発モデルを構築すべき。

(導入機能)

- 臨港パークから大さん橋、山下公園までの水際線と連続し、市民や来街者が憩い、賑わうオープンスペースの形成
- 建築物と一体となった立体的な緑の創出
- 水際線の賑わいのある歩行者空間の形成
- 水上からのアクセス環境の整備
- 緑や水際線を活かした上質な滞在空間の形成

などが必要。

【委員会での主な意見】

- 世界の都市開発では緑の再生が主流であり、周辺地域の緑地と連携して緑の総量を増やし、人々を呼び込む計画が必要。
- みなとみらい 21 地区から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線を活かし、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性を向上させるとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保すべき。
- インフラを整備し、緑を確保した上で、その中に建物を整備する発想も考えられる。その際、周辺地域への経済的効果の波及も意識することが必要。
- 再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を活かし、世界のウォーターフロント開発を先行する臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。
- 観光産業の活性化や水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする人々の視点を意識すべき。
- 水面の賑わい創出、客船誘致に向けた整備、水際における非日常空間の形成など、ウォーターフロント都市として相応しい取組を進めるべき。

【緑でつながる歩行者空間づくり】



(2) 実現に向けて持つべき視点

①市民の憩いと共生

市民が緑や海の自然を楽しめる憩いの場の創出や、そこに集う人々がコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを感じられる新しいまちづくりを考える。

②人々の行動変容を促す取組

環境や海洋分野において、若い世代への教育的な役割を果たす機能を考える。

[委員会での主な意見]

- 市民がリラックスして楽しめる場所を提供し、自然やコミュニティと共生しながら、文化や生活の豊かさを求める人々が集まる新しい都市モデルを追求すべき。
- 誰もが自由に楽しめる憩いの場を作り出し、同時に経済の活性化を図る開発を進めることが必要。
- 将来の海洋人材などの育成を目指し、若い世代への教育的な役割を果たす開発も考えられる。

紹介事例1 (第4回検討委員会)

スタンレーパーク(カナダ)では、従来は、単なる市民の自然系リゾート地としての役割を果たしていたが、娯楽機能の整備がなされ、近年は、ファミリー層や観光客向けに、自然系アクティビティを楽しむ機会が提供されている。



スタンレーパーク遠景
出典：iStock.com/edb3_16



自然系アクティビティ「ローンボーリング」
出典：iStock.com/HamidEbrahimi



自然系アクティビティ「サイクリングコース」
出典：iStock.com/Marc Bruxelles

| | |
|--|--|
| <p>紹介事例 2 (第5回検討委員会)</p> <p>ジャルディーニ (イタリア) では、都心近くの造船所跡に都市公園が設けられている。低い建蔽率で各国のパビリオンが建てられ、ビエンナーレの会場として使われており、都市観光のエンジンとなっている。</p> |  <p>ジャルディーニ遠景 出典：iStock.com/ BMG_Borusse</p> |
|  <p>公園 出典：iStock.com/greta6</p> |  <p>パビリオン 出典：iStock.com/Bojanikus</p> |
| <p>紹介事例 3 (第5回検討委員会)</p> <p>セントラルパーク (米国) では、広大な芝生、森林、小川、湖といった自然に加えて、野球場やサッカー場、回転木馬、スケートリンク、動物園、コンサートや劇場などが導入され、毎年約 4,200 万人が訪れている。</p> |  <p>セントラルパーク遠景 出典：iStock.com/ stockinasia</p> |
| <p>紹介事例 4 (第5回検討委員会)</p> <p>ダンディー (イギリス) では荒廃したウォーターフロントの整備により都市機能を水辺まで延長して、水辺を都市に取り込み、商業、オフィス、住居及びレジャーの機能を整備する計画となっている。</p> |  <p>博物館「V&A ダンディー」 出典：iStock.com/ tekinturkdogan</p> |

【立地特性の活用】



【客船受入施設】



目指すべき姿②：市民と共に歩み、豊かなみらいに繋げる持続可能なまちの実現

(1) 実現に向けた方向性と導入機能

(方向性)

- 多くの市民が集い、地域の賑わい創出等に取り組める場を創り、様々な人材や技術が交流し新しい価値を常に生み出す、持続的に発展するまちを目指すべき。また、若者など次代を担う多様な人材が、環境分野等の新たな技術を体感し学べる空間を創出すべき。
- グリーントランスフォーメーション等の新たな価値に対応するイノベーション創出など、横浜の強みとなるような拠点の形成を図るべき。また、エネルギーの効率的な利用の推進や、用途に応じた最適な組み合わせの実現を目指すべき。

(導入機能)

- カーボンニュートラル、次世代モビリティの導入などを促進する新たな技術の社会実証・実装、体験・体感の場としての活用
- 多様な人材が集まるプラットフォームの展開
- 市民をはじめ多様な主体がまちづくりに参画できる仕組み
- エネルギー利用を最小化した施設の導入など、脱炭素型まちづくりの推進

などが必要。

[委員会での主な意見]

- 次世代のニーズに応え続けるため、イノベーションを創出し、拠点を集中的に配置する。また、新しい技術や地域の賑わい創出等の社会実証・実装の場として活用していくべき。
- DX化とGX化による新たな価値に対応して、山下ふ頭を含めて横浜港の強化を図ることも必要。
- カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小限に抑えた施設の導入や、用途に応じたエネルギーの最適な組み合わせを実現することで、日本初の脱炭素型再開発プロジェクトを目指すべき。
- 再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを国内外に広くプロモーションする場所としても活用するべきである。
- 元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区とのアクセスを向上させるモビリティを導入し、未来の多彩な交通手段の革新を目指すべき。
- 人口減少や外国人の定住人口の増加を見据え、多様な人材が集まる多文化共生のプラットフォームを展開し、街の発展に繋げていくべき。
- 官民の役割を明確にし、海外からの直接投資の増加、世界中の優れた人材の確保、教育的な役割の追加を目指すことが必要。
- 事業計画策定後には、市民など多様な主体が管理に参加できる仕組みの検討も必要。

(2) 実現に向けて持つべき視点

①持続可能なまちづくり

50年後、100年後を見据え、環境面と経済面で未来に負担を残さない持続可能なまちづくり、適切な市民参画、全体最適となる事業の実現を考える。

②柔軟性のあるまちづくり

まちづくりのテーマの統一性を保ちつつ、将来の情勢やニーズ、災害発生等に柔軟に対応できるよう、一定規模の可変性があるオープンスペースを確保し、段階的な整備を考える。

[委員会での主な意見]

- 世界のウォーターフロント開発のトップランナーとして、50年後、100年後を見据えた永続的な運営が可能な開発を行い、国内外に誇れる横浜を作るべき。
- 答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を行うプロセスを経ることが適当である。また、市民参画の在り方や開発に対する市民意見の伝達手法についても考慮することが必要。
- 山下ふ頭の再開発が部分最適だけでなく全体最適の事業となるよう、バランスを取るべきである。
- 横浜市がイニシアチブを持ち、市民のための再開発を行う視点と、経済成長や財政収支を両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。
- 市の関係部局が横断的に連携し、中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発を行うべきである。
- 横浜港や市域全体のグランドデザインや、これまで議論されてきた構想との関係性を常に意識し、山下ふ頭の事業について大きな時間空間の視座に立って十分な議論・審議を行うべきである。
- 開発テーマの統一性を保ちつつ、将来の情勢やニーズ、災害発生等に柔軟に対応できるよう、一定規模の可変性あるオープンスペースを確保し、段階的に整備を進める計画を立てるべき。

| | |
|--|---|
| <p>紹介事例 5 (第4回検討委員会)</p> <p>ハーフェンシティ (ドイツ) では、2006年に高等教育・研究機関を設立、2017年にはかつての倉庫を基盤として建てられた文化施設が開館するなど、学術研究施設や文化・芸術施設の集積が進んでいる。</p> |  <p>ハーフェンシティ遠景 出典：iStock.com/golero</p> |
|  <p>学術研究施設「ハーフェンシティ大学」 出典：iStock.com/Tupungato</p> |  <p>文化・芸術施設「エルプフィルハーモニー」 出典：iStock.com/Lukas Bischoff</p> |
| <p>紹介事例 6 (第2回検討委員会)</p> <p>バンクサイド・ヤード (イギリス) では、再生可能エネルギーによる発電で運用され、敷地の建物は最先端のエネルギーネットワークを使用することで、エネルギー使用の効率化、節電につながっている。</p> |  <p>バンクサイド・ヤード遠景 出典：iStock.com/mediartist Matthias Schloenvogt</p> |

【多彩な交通手段】

| | |
|--|--|
|  <p>都市型循環式ロープウェイ「YOKOHAMA AIR CABIN」</p> |  <p>LRT/Streetcar 出典：iStock.com/jdornoff</p> |
|  <p>空飛ぶ車「eVTOL」 出典：iStock.com/peepo</p> |  <p>グリーンスローモビリティ 出典：iStock.com/y-studio</p> |

**目指すべき姿③：横浜らしさと賑わいが広がり、
新たな活力を創出する都市モデルの構築**

(1) 実現に向けた方向性と導入機能

(方向性)

- 160年以上にわたる横浜港の発展の歴史や横浜独自の都市文化を活かしたまちづくりを進めるべき。また、既存の観光資源の活性化を含め、海外からの関心、人流、投資などを惹きつけるべき。
- 横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、魅力的な施設の導入を図り、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅のデスティネーションとなる開発にすべき。

(導入機能)

- インバウンドの目的地としての横浜の価値向上
- まちづくりへの投資による都市の文化的魅力の向上
- 付加価値の高い魅力的な施設の提供
- ユニバーサルデザインに配慮したインクルーシブな空間の整備
などが必要。

[委員会での主な意見]

- 横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。
- 未来を担う若者のために、先進的な技術やグローバルな社会に合致する要素を取り入れつつ、伝統的な技術や文化を継承する拠点を形成するべき。
- 既存の観光資源の活性化を含め、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込み、海外からの関心、人流、投資等を惹きつける必要がある。
- 横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。

- 元町や中華街、山下公園通りなどの近隣エリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような今までと違った新たなまちづくりを目指すべき。
- 周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発や、日本のテクノロジーやカルチャーの集積により独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が必要。
- 新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。
- インフラ投資により都市の文化の魅力を向上させることに加え、外国人が憧れを抱く日本文化等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていくことが必要。
- インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、その価値を形にしていくべき。また、滞在時間や消費単価が高い層の需要に応えるようなサービス機能も必要。
- 経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。
- デジタルとリアルを有効にミックスユースした横浜市全体の土地利用を背景として、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することが必要。
- 今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。
- 横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、インクルーシブな空間を整えることが必要。

【東京湾沿岸部における開発事例】



| | | |
|------------------|---------------------------------|---|
| 企業・大学等のイノベーション施設 | | ● |
| ① | みなとみらい 21 地区 | |
| ② | 殿町キングスカイフロント、羽田イノベーションシティ、末広町地区 | |
| ③ | 臨海副都心青海地区 | |
| ④ | 幕張新都心業務研究地区・文教地区 | |
| その他 | 豊洲 1～3 丁目地区 | |

| | | |
|-------------------------|--|---|
| スポーツ、コンサート等エンターテインメント施設 | | ● |
| ① | 横浜スタジアム、Kアリーナ | |
| ③ | 有明アリーナ、TOKYO A-ARENA | |
| ④ | ZOZO マリンスタジアム La La arena ToKYO-BAY | |

| | | |
|-----------|----------|---|
| 国際展示場等の施設 | | ● |
| ① | パシフィコ横浜 | |
| ③ | 東京ビッグサイト | |
| ④ | 幕張メッセ | |

| | | |
|---|------------------------------|---|
| 緑 | | ● |
| ① | 臨港パーク（芝生広場、人工海浜） | |
| ② | 東扇島東公園（芝生広場、バーベキュー広場、人工海浜） | |
| ③ | 海の森公園【整備中】（森、広場、水上競技場） | |
| ④ | 稲毛海浜公園（ビーチ、グランピング、プール、美術館 等） | |

| | | |
|--------|------------|---|
| テーマパーク | | ● |
| ④ | 東京ディズニーランド | |

| | | |
|---------|--|---|
| 最近の主な開発 | | ● |
|---------|--|---|

紹介事例 7 (第4回検討委員会)

ミッションベイ (米国) では、ライフサイエンス産業の研究開発機能の集積を目指した再開発計画が進行。スポーツ・エンターテインメント施設も整備されるなど、複合的なまちづくりが行われている。サンフランシスコ全体では年間 2,310 万人の来街者、3.6 万人の雇用、約 65 億ドルの産業生産をもたらした。



ミッションベイ遠景

出典：iStock.com/DianeBentleyRaymond



大学・研究機関「カリフォルニア大学サンフランシスコ校」

出典：iStock.com/Tomsmith585



アリーナ「チェイスセンター」

出典：iStock.com/DaineBentleyRaymond

紹介事例 8 (第5回検討委員会)

シドニー (オーストラリア) では、シドニー湾の都心に美しい水際公園が設けられている。公園内にあるオペラハウスは 1973 年に竣工し、世界遺産にも登録され、オーストラリアの象徴的な建物の一つとなっている。

また、造船所跡地のコッカトゥーアイランドには、キャンプ施設があり市民の憩いの場になっている。



シドニー湾遠景

出典：iStock.com/jamenpercy



王立植物園

出典：iStock.com/LeoPatrizi



オペラハウス

出典：iStock.com/julianneBirch

(2) 実現に向けて持つべき視点

①人々を呼び込む拠点形成

定住人口が減少する時代において、巨視的な視点を持ち、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を図るとともに、山下ふ頭の立地特性を活かし、横浜経済の核となるシンボリックな拠点の形成を考える。

②横浜全体のブランド価値の向上と成長の牽引

国内外からの人流や投資を呼び込むため、環境価値や感性価値に優れた事業の創出により、横浜全体のブランド価値の向上を考える。また、市の収益向上や産業の活性化、雇用創出、港湾機能の活用など将来にわたる地域経済への波及効果により、市民生活を支えるまちづくりを考える。

[委員会での主な意見]

- 定住人口が減少する時代にあって、魅力ある将来に繋がるまちづくりを目指し、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。
- 日本の経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響、港や空港の機能による人流の動向も考慮する必要がある。
- プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーを構築し、国内外から人流や投資を呼び込む力を醸成することで、顧客のニーズが変わっていく中でも飽きられず時代遅れとならないよう継続的な投資を促すことが必要。
- 観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識するべき。
- 横浜港は横浜市民だけでなく日本国民にとって重要な港であり、山下ふ頭が港と市街地を結節する場所だということを十分に意識することが必要。
- 観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応じていくため、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。

- 地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。
- 古きを尊重し、新しいものを取り入れることで、横浜の不易と流行を組み合わせ、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。
- 日本経済を牽引する気概を持って、横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。
- 市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、横浜の成長を牽引し、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。
- 子から孫へと世代を繋ぐまちづくりの構想や、税収効果を生み出し雇用創出を図る取り組みを進めることで、将来にわたる経済効果の維持と市民生活の支援を両立させるべき。
- 新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。
- 再開発を契機とし、周辺地域で働く人々の収益向上や、消費・雇用の創出、より良い労働環境や高い生産性の確保を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。
- 日本、東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。

紹介事例 9 (第 4 回検討委員会)

ボルチモア (米国) では、公園やオフィスビル、ホテル、小売店の再建等の複合的な開発が進められた。1970 年代以降、歴史的な船舶の展示や国立水族館、体験型科学博物館等の建設が進められ、観光地としての地位を築いている。

2012 年の調査では 1,000 万人以上が訪れ、23 億ドルの経済波及効果を及ぼしている。



ボルチモア遠景
出典：iStock.com/Brendan Beale



国立水族館「ナショナルアクアリウム」
出典：iStock.com/drnadig



体験型科学博物館「メリーランド科学センター」
出典：iStock.com/eurobanks

紹介事例 10 (第 4 回検討委員会)

マルセイユ旧港地区 (フランス) では、劇場、博物館、商業施設等が立地した複合的なまちづくりが行われている。倉庫を劇場に転用するなど、既存施設を活用し、地域の歴史を尊重するとともに、周辺の景観と調和した開発がなされている。



マルセイユ旧港地区遠景
出典：PORALU MARINE



劇場「ラ・クリエ劇場」
出典：iStock.com/olrat



商業施設「ギャラリー・ラファイエット」
出典：iStock.com/Marina113

紹介事例 11 (第 4 回検討委員会)

LA ウォーターフロント (米国) では、現在もコンテナ輸送が行われているロサンゼルス港のオープンスペースを活用し、経済活性化や公共空間の拡充等の都市的土地利用を目的として、2000年代より、商業施設や公園、レクリエーション施設を含む複合的な開発が行われている。



LA ウォーターフロント遠景
出典：iStock.com/Kirk Wester



商業施設「サンペドロマーケット」
出典：iStock.com/Debbie Ann Powell



公共空間「ダウタウンハーバー」
出典：iStock.com/ianmcdonnell

紹介事例 12 (第 4 回検討委員会)

バルセロナ旧港地区 (スペイン) では、水族館や博物館等の文化施設に加え、ケーブルカーや遊覧船、ヘリコプター等、バルセロナ旧港の景色を楽しむことができる交通機関が整備されている。年間約 1,600 万人以上の観光客が来訪するとともに、約 70 の企業進出の創出に貢献している。



バルセロナ旧港地区遠景
出典：iStock.com/pawel.gaul



水族館を併設した商業施設「ポルト・ベル」
出典：iStock.com/taranik



博物館「カタルーニャ歴史博物館」
出典：iStock.com/David Taijat

2 基盤・空間の考え方

山下ふ頭再開発の目指すべき姿の実現に向けて、再開発エリア全体のインフラ整備や空間デザインの土台となる「基盤・空間の考え方」を以下のとおり整理した。

基盤・空間の考え方①：まちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実

都心臨海部の水際線に連続する緑の快適な歩行者空間の整備による回遊性向上や、郊外部との交通アクセス強化を図るべき。また、羽田空港とのアクセスや防災の観点から水上交通の活用を図るべき。

さらに、山下ふ頭へのアクセスは限られていることや、再開発による来街者の大幅な増加を見据え、新たな進入路や埠頭内での円滑な移動手段、臨港幹線道路、水上交通等の交通インフラ整備により、利便性向上、防災機能の強化、周辺住民や物流への影響緩和を図るべき。

[委員会での主な意見]

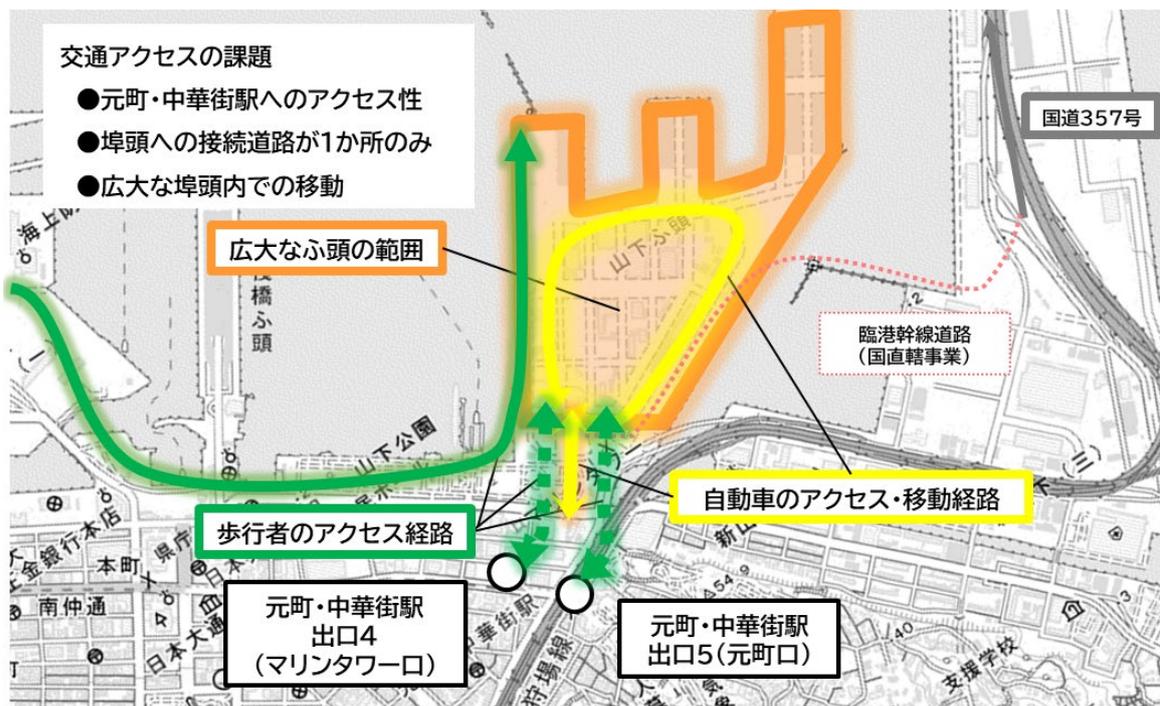
- 市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。
- 三方を海で囲まれた立地条件を最大限活かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。
- 山下ふ頭の入り口から先端まで距離があることや、元町・中華街駅とのアクセス性に課題があることから、来街者の埠頭内での円滑な移動や周辺地域との回遊性向上に寄与する交通インフラの整備が必要。
- 山下ふ頭へのアクセス箇所が限られていることや、再開発による来街者の大幅な増加を見据え、新たな進入路や歩行者動線の確保、臨港幹線道路の整備等により、利便性向上や防災機能の強化、周辺住民や物流への影響緩和を図るとともに、市内で取り組まれている水上交通の活用も推進していくべき。

【都心臨海部の主な交通ネットワーク】



第5回山下ふ頭再開発検討委員会資料を編集 (出典:国土地理院地図を基に作成)

【山下ふ頭への交通アクセス】



第5回山下ふ頭再開発検討委員会資料を編集 (出典:国土地理院地図を基に作成)

基盤・空間の考え方②：安全・安心とレジリエンス*の確保 *強靱性、適応力

大規模地震等への災害対応力の向上や感染症対策の強化を図るべき。旧上瀬谷通信施設地区との連携を見据え、物資や救援部隊の海上からの受け入れ、病院船の着岸等が可能な耐震強化岸壁の整備など、インフラ整備により、防災機能の強化、山下ふ頭周辺の安全性向上を進めるべき。防災的役割を果たす新たな機能を導入することで、市民と来街者の安全・安心を確保し、持続可能なまちづくりの実現を目指すべき。

[委員会での主な意見]

- 世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入するべき。
- 旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全・安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。
- 海上からの物資や救援部隊の受け入れだけでなく、国で議論されている病院船などが着岸できる耐震強化岸壁や新たな歩車道の整備等により防災機能を強化することが必要。
- 横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、新たな機能付加が必要。

紹介事例 13（第4回検討委員会）

マンハッタン（米国）では、U字形沿岸部約16kmを水害から守ることを主目的としつつ、堤防の役割を果たす都市公園や防潮壁を兼ね備えた親水空間等で囲み、洪水や海水面の上昇から守るなど、防災機能の向上を図っている。



マンハッタン遠景
出典：Rebuild by Design

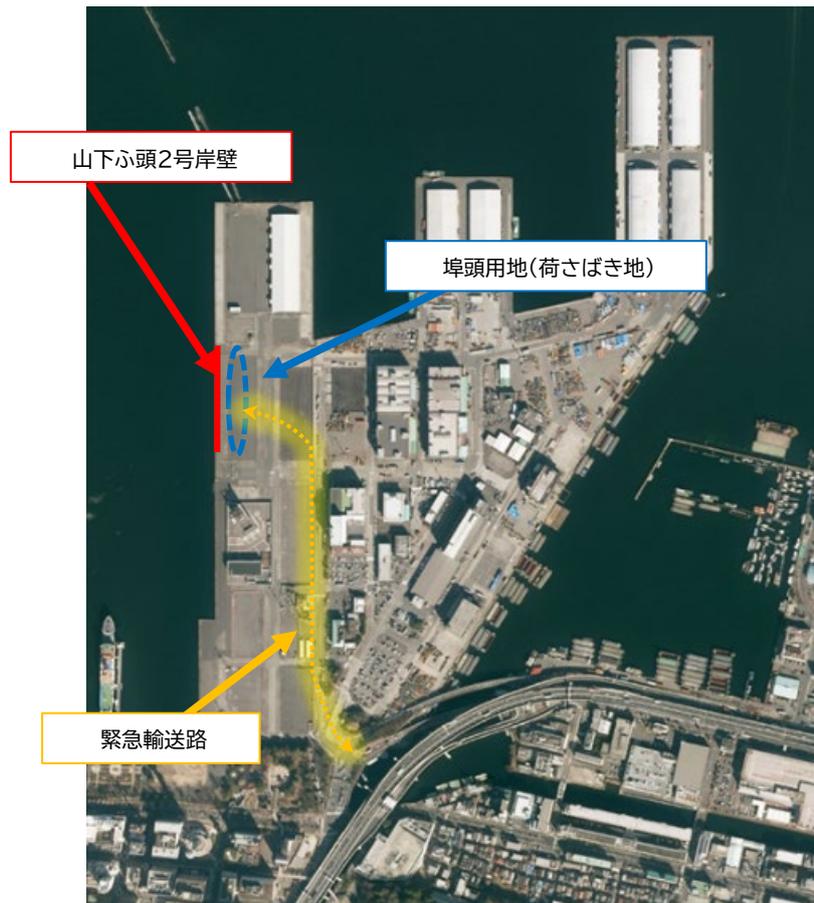


防潮堤



遊水地公園

【耐震強化岸壁の概要】



第5回山下ふ頭再開発検討委員会資料

山下ふ頭では、延長 200m・水深 12m の耐震強化岸壁の整備（国直轄事業）を計画しており、災害時に背後の荷さばき地やオープンスペースと一体的に利用することで、水や食料などの緊急物資や復旧資機材等の輸送を確保するための海上輸送拠点となる。

紹介事例 14（第4回検討委員会）

GREEN×EXPO 2027 開催後の跡地には、「環境」と「防災」をテーマとする公園を整備し、大規模地震などが起きた場合に、「広域防災拠点」として、全国から集まる広域支援部隊（消防、警察、自衛隊等）の活動や、市内各避難所に救援物資をいち早く送り届けるための活動を支える拠点となる。



基盤・空間の考え方③：横浜らしさを感じる景観づくり

海陸両面からの山下ふ頭の見え方や周辺地区との景観のバランスを意識したまちづくりを行うべき。また、羽田空港からベイブリッジを渡る来街者やクルーズ客にとっての横浜の入口としての魅力的なロケーションを活かしたまちづくりを進めるべき。

【委員会での主な意見】

- 横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえ、海と陸の両方の視点場から見た山下ふ頭の景観や、周辺地区とのバランスを意識した開発を行うべき。
- 羽田空港からベイブリッジを渡ってくる来街者や、その下をくぐって訪れるクルーズ客にとって、横浜への入口となる場所であり、市街地にも近いという魅力的なロケーションを活かした開発を進めることが必要。

【海側からの視点】



【陸側（港の見える丘公園）からの視点】



【みなとみらい21地区のスカイライン】



出典：iStock.com/ DoctorEgg

紹介事例 15（第4回検討委員会）

ダブリン・ドックランズ（アイルランド）では、文化施設や MICE 施設等の複合開発が進展。劇場や MICE 施設から周辺の河川や山脈、市内中心部のパノラマの景色を眺められるなど、景観に配慮した施設構成となっている。



ダブリン・ドックランズ遠景
出典：iStock.com/anyaivanova



劇場「スリーアリーナ」
出典：iStock.com/Derick Hudson



ダブリン・ドックランズ遠景
出典：iStock.com/ AirfilmDrone

今後のまちづくりに向けて

令和5年8月から6回にわたり行われてきた本委員会では、山下ふ頭再開発の方向性について、多様な意見をもとに様々な角度から議論が交わされた。個々の意見に目を向けると、より具体的な言及なども見られたが、答申においては、まちづくりの大きな方向性を示すことに主眼を置き、取りまとめを行った。

これらの個別具体の意見についても参考にしていただくとともに、今後この答申を受けて、市の政策や方向性に照らし整合を図りながら、市において事業計画のさらなる検討を進めていただきたい。

加えて、委員会での議論やこれまでの本委員会を視聴した市民からのご意見を踏まえ、次の2点を申し述べる。

1 市域全体への波及を見据えたまちづくり

本委員会において、周辺地域や市域への波及、連携等の言及があり、その重要性を共有した。

それらや関連する市の広域的な計画を踏まえ、山下ふ頭の再開発においては、その恩恵を47ヘクタールの中に留めず、都心臨海部や、GREEN×EXPO 2027の開催及びその後の開発が計画されている旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部と連動させ、市域全体の更なる活性化に向けて相乗効果が最大限発揮されるよう取り組む必要がある。

2 まちづくりへの市民の関わり

2度にわたり実施された市民意見募集等では、延べ10,000件を超える意見が寄せられ、また本委員会における議論に対しても延べ443件の意見をいただいております、引き続き多様な意見を問うプロセスを経ることが望ましいと考える。

市は、市民の思いに応え、未来を担う子どもたちをはじめ、一人ひとりの豊かな暮らしを実現していかなければならない。

臨港パークから山下公園に至る水際線と連続し、人々を呼び込む魅力的な緑や海辺が広がる山下ふ頭を舞台に、歴史と文化が継承され、新たな価値や活力を創出するまちづくりにより、横浜市全体の持続的な発展につながることを大いに期待したい。

(参考)

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会委員名簿（敬称略）

学識者委員（五十音順）

令和6年12月時点

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------|--------------------|----------------------------|
| 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所取締役会長 |
| 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工芸社代表取締役社長 |
| 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

地域関係団体委員

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|-------|---------------------|------------------|
| 高橋 伸昌 | まちの活性化を推進している 団体 | 関内・関外地区活性化協議会 会長 |
| 藤木 幸夫 | | 横浜港振興協会 会長 |
| 坂倉 徹 | 地域の経済活動を担っている 団体 | 横浜商工会議所 副会頭 |
| 宝田 博士 | | 協同組合元町エスエス会 理事長 |
| 田留 晏 | 埠頭で事業を営む事業者の 団体 | 神奈川倉庫協会 会長 |
| 藤木 幸太 | | 横浜港運協会 会長 |

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会審議経過

| 開催回 | 開催年月日 | 主な議題 |
|-----|------------|---------------------------------|
| 第1回 | 令和5年8月28日 | 現地視察、埠頭の歴史・周辺地区の状況の説明、意見交換等 |
| 第2回 | 令和5年11月30日 | 委員のプレゼンテーション、意見交換等 |
| 第3回 | 令和6年1月12日 | 委員のプレゼンテーション、意見書説明、意見交換等 |
| 第4回 | 令和6年7月12日 | 委員のプレゼンテーション、意見書説明、意見交換等 |
| 第5回 | 令和6年8月22日 | 委員のプレゼンテーション、意見書説明、とりまとめに向けた議論等 |
| 第6回 | 令和6年12月9日 | 答申（案）のとりまとめに向けた議論等 |

*注 紹介事例は、「山下ふ頭再開発の方向性について（答申）」として包括的、総合的な観点からまちづくりの方向性をとりまとめるに当たり、幅広い観点からの議論に資するよう、会議において報告されたものである。

日時：令和5年8月28日（月）
14:00 ～ 16:00
場所：ホテルメルパルク横浜

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合

次 第

（現場視察）

- 1 市長挨拶
- 2 学識者会合委員長の選任
- 3 議事
 - (1) 山下ふ頭の概要
 - (2) 意見交換
 - (3) 地域関係団体の参加について
 - (4) その他

【配布資料】

- 資料1：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 委員一覧
資料2：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 座席表
資料3：山下ふ頭の概要

参考資料：市民や事業者の皆様からいただいたご意見・ご提案のまとめ

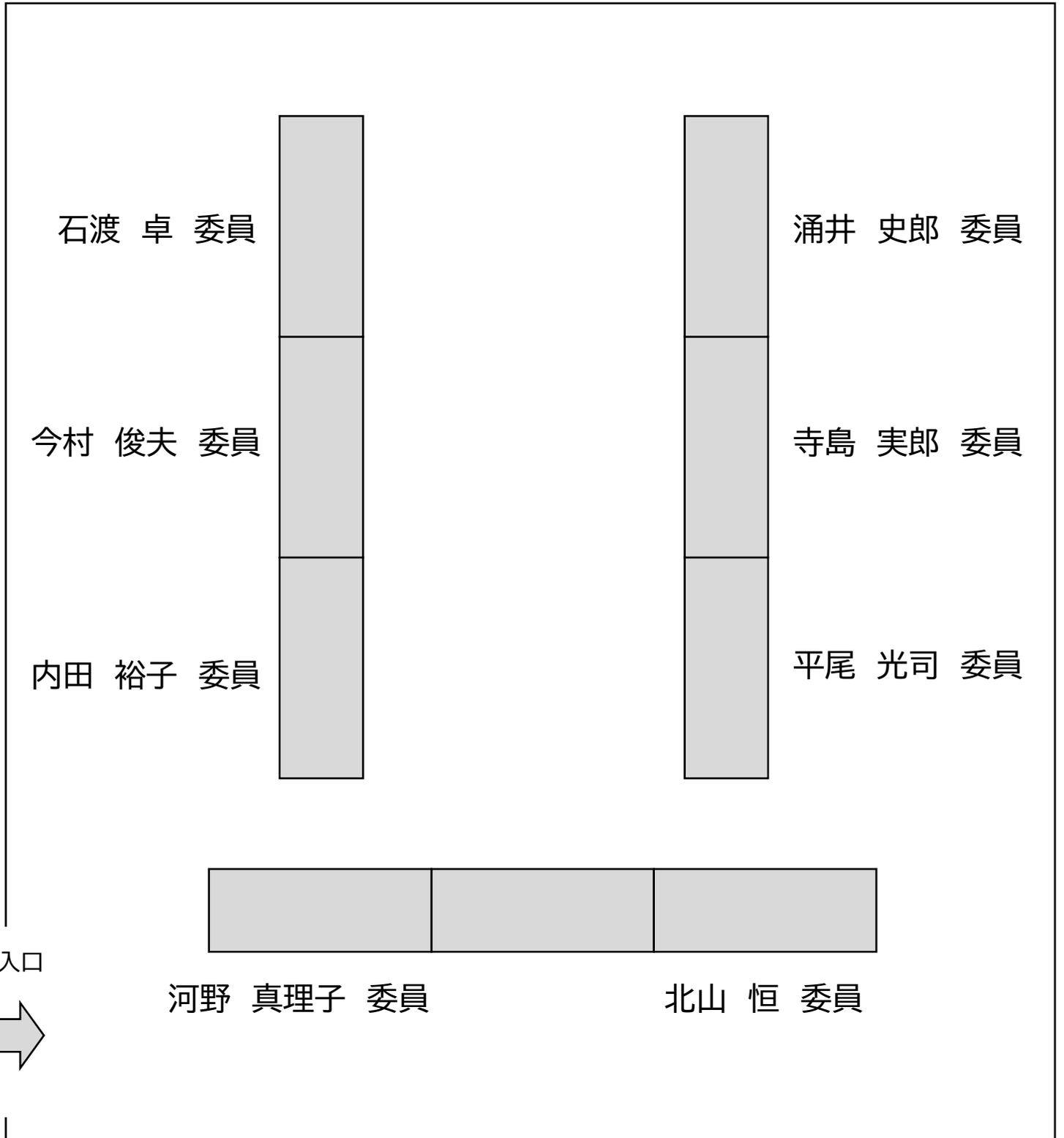
山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 名簿一覧

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------------|--------------------|----------------------------|
| いしわた たかし 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| いまむら としお 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所代表取締役会長 |
| うちだ ゆうこ 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| かわの まりこ 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| きたやま こう 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| くま けんご 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| こうだ まさはる 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工藝社代表取締役社長 |
| てらしま じつろう 寺島 実郎 | 社会科学、地政学 | 一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長 |
| ひらお こうじ 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| むらき みき 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| わくい しろう 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

横浜市山下心頭再開発検討委員会 学識者会合

座席表



横浜市山下心頭再開発検討委員会 学識者会合

山下心頭の概要



目次

1. 横浜港の歴史（埋立と築港）
2. 山下小頭の歴史（港としての役割の変遷）
3. 山下小頭再開発検討の経緯
4. 山下小頭の現状、周辺地区の状況
5. 既往計画
6. 現状と特徴、取り巻く環境

1. 横浜港の歴史

埋立と築港

1865(元治2)年頃 はしけによる荷役

1920(大正9)年頃 棧橋、岸壁、鉄道、
工業地帯埋立
関東大震災・震災復興

沖合に停泊する本船と
波止場の間をはしけを
使って荷役を行って
いた

波止場

1. 横浜港の歴史

埋立と築港

1945(昭和20)年 第二次世界大戦終戦、
戦災復興期に入る

1953(昭和28)年 瑞穂ふ頭の代替施設として
山下ふ頭埋立開始

1963(昭和38)年 山下ふ頭埋立完了

瑞穂ふ頭は1945(昭和20)年に完成したが、戦後駐留軍の接收を受ける。1953(昭和28)年、日米安全保障条約によって無期限使用が決定

接收された
公共埠頭

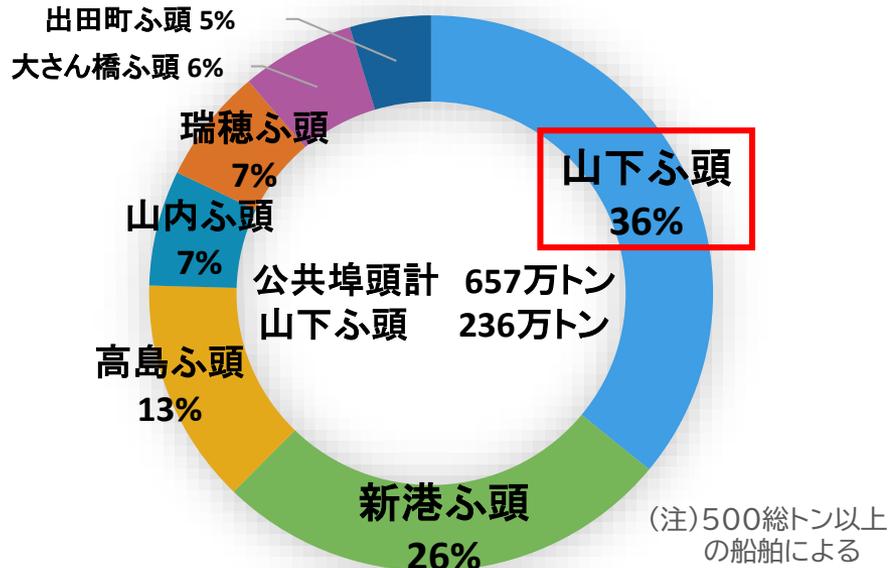


2. 山下ふ頭の歴史（港としての役割の変遷）

高度経済成長期～現在

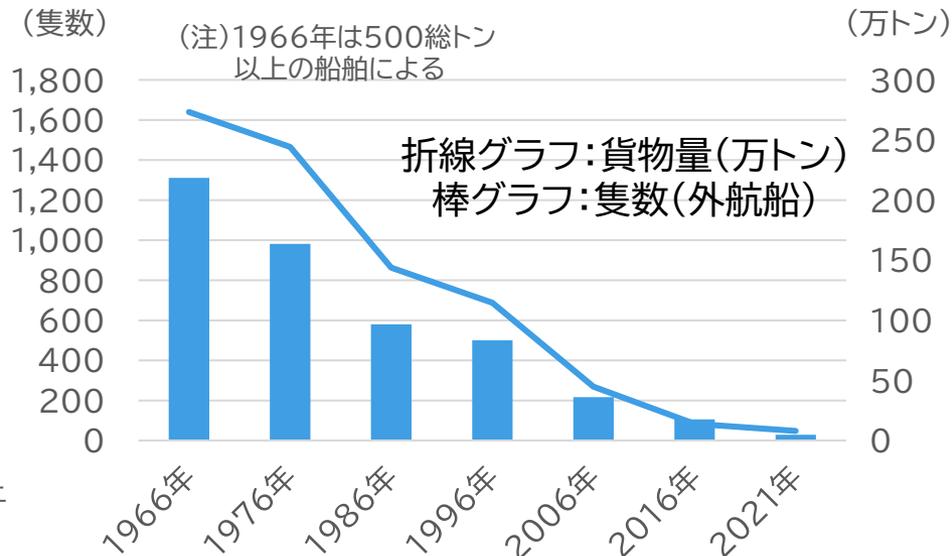
- 1964(昭和39)年には横浜港公共埠頭における取扱貨物量の3分の1以上を扱う、主要埠頭
- その後、コンテナ物流が主体となり、本牧、大黒等のコンテナ埠頭が建設され、取扱貨物量が減少
- 1997(平成9)年の港湾計画で中長期的に都市的な土地利用に転換するゾーンと位置付けました。
- 現在でも、本牧等のコンテナ埠頭を補完する物流機能を担っています。

1964(昭和39)年 取扱貨物量



出典:横浜市「横浜港統計年報」より作成

山下ふ頭の取扱貨物量と着岸隻数の推移



出典:横浜市「横浜港統計年報」より作成

2. 山下ふ頭の歴史（港としての役割の変遷）

高度経済成長期まで

1958(昭和33)年頃の建設中の山下ふ頭



1964(昭和39)年頃の完成後の山下ふ頭



1963(昭和38)年12月荷積み作業

出典:横浜市「昭和の横浜 写真集」



3. 山下心頭再開発検討の経緯

- | | |
|----------------|---|
| 2014(平成26)年11月 | 港湾計画改訂により、山下心頭を新たな賑わい拠点として都市的な土地利用への転換を位置付け |
| 2015(平成27)年2月 | 横浜市都心臨海部再生マスタープランを策定し、都心臨海部の一体的なまちづくりを推進 |
| 2019(令和元)年8月 | 山下心頭へのIR(カジノを含む統合型リゾート)誘致の意思を表明 |
| 2021(令和3)年8月 | 山中竹春市長就任 |
| 2021(令和3)年9月 | IR(カジノを含む統合型リゾート)誘致の撤回を表明 |
| 2021(令和3)年12月 | 第1回市民意見募集、意見交換会、事業者提案募集 |
| 2022(令和4)年11月 | 第2回市民意見募集、意見交換会、法人提案募集 |

4-1. 山下ふ頭の詳細

広大な開発空間



4-1. 山下ふ頭の様相

① マリントワーから見た山下ふ頭(全景)



② GUNDAM FACTORY YOKOHAMA



③ バス待合所、連節バス「ベイサイドブルー」



4-2. 周辺地区の状況

スタジアム・アリーナ施設

| No. | 名称 |
|-----|---|
| ① | Kアリーナ横浜 (延床面積:約11.8ha、収容人数:約20,000人) |
| ② | ぴあアリーナMM (延床面積:約2.3ha、収容人数:約12,000人) |
| ③ | 横浜スタジアム (延床面積:約4.6ha、収容人数:約34,000人) |
| ④ | 横浜BUNTAI (延床面積:約1.5ha、収容人数:約5,000人) |

Kアリーナ横浜
(2023(令和5).9開業予定)



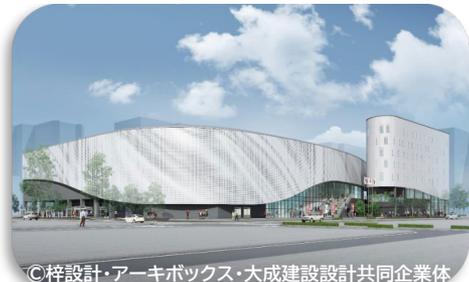
横浜スタジアム



ぴあアリーナMM



横浜BUNTAI
(2024(令和6).4開業予定)



4-2. 周辺地区の状況

大学

神奈川大学
みなとみらいキャンパス



| No. | 名称 |
|-----|--|
| ① | 神奈川大学 みなとみらいキャンパス (延床面積:約5.0ha) |
| ② | 横浜国立大学 みなとみらいキャンパス (ランドマークタワー18階) |
| ③ | 横浜市立大学 みなとみらいサテライトキャンパス (ランドマークタワー7階) |
| ④ | 東京藝術大学 横浜キャンパス (馬車道校舎・万国橋校舎・元町中華街校舎) |
| ⑤ | 関東学院大学 横浜・関内キャンパス (延床面積:約2.7ha) |

関東学院大学
横浜・関内キャンパス



4-2. 周辺地区の状況

企業(研究開発機能を設置)

日産自動車株式会社



株式会社資生堂



株式会社シンクロン



株式会社村田製作所



| No. | 名称 |
|-----|--|
| ① | 日産自動車株式会社 (延床面積:約9.2ha) |
| ② | 富士フィルムビジネスイノベーション株式会社 (延床面積:約13.5ha) |
| ③ | ソニー株式会社 (延床面積:約10.0ha) |
| ④ | 株式会社資生堂 (延床面積:約5.6ha) |
| ⑤ | ヤマハ株式会社 |
| ⑥ | LG Japan Lab株式会社 (延床面積:約3.6ha) |
| ⑦ | エバラ食品工業株式会社 (延床面積:約0.5ha) |
| | 日本KFCホールディングス株式会社 |
| ⑧ | 株式会社シンクロン (延床面積:約1.4ha) |
| ⑨ | 株式会社村田製作所 (延床面積:約6.5ha) |
| ⑩ | TSMCデザインテクノロジージャパン株式会社 |
| | フォルクスワーゲングループジャパン株式会社 |
| ⑪ | 京セラ株式会社 |
| ⑫ | スタンレー電気株式会社 |
| | Hyundai Mobility Japan株式会社 レノボ・ジャパン合同会社 |

この地図の著作権は横浜市が保有します。

4-2. 周辺地区の状況

企業(ミュージアム)



日産 グローバル本社ギャラリー



| No. | 名称 |
|-----|---|
| ① | 日産 グローバル本社ギャラリー (延床面積:約4,000m ²) |
| ② | 原鉄道模型博物館 (延床面積:約1,700m ²) |
| ③ | 京急ミュージアム (延床面積:約400m ²) |
| ④ | S/PARK |
| ⑤ | LG横浜イノベーションセンター |
| ⑥ | Mulabo!(延床面積:約1,000m ²) |
| ⑦ | 三菱みなとみらい技術館 |
| ⑧ | カップヌードルミュージアム 横浜 (延床面積:約10,000m ²) |
| ⑨ | 日本郵船歴史博物館 |

Mulabo !



引用元:株式会社村田製作所HP

三菱みなとみらい技術館



©三菱みなとみらい技術館

カップヌードルミュージアム 横浜



4-2. 周辺地区の状況

国際展示場



4-2. 周辺地区の状況

テーマパーク等



横浜アンパンマンこどもミュージアム



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

よこはまコスモワールド



運河パーク駅



GUNDAM FACTORY YOKOHAMA



©創通・サンライズ

| No. | 名称 |
|-----|------------------------------------|
| ① | 横浜アンパンマンこどもミュージアム (延床面積:約1.4ha) |
| ② | よこはまコスモワールド (延床面積:約2.2ha) |
| ③ | GUNDAM FACTORY YOKOHAMA (暫定利用) |

4-2. 周辺地区の状況

公園・緑地

臨港パーク

赤レンガパーク

カップヌードルミュージアムパーク

象の鼻パーク

日本大通り

港の見える丘公園

山下公園

| No. | 名称 |
|-----|------------------|
| ① | 臨港パーク |
| ② | カップヌードルミュージアムパーク |
| ③ | 赤レンガパーク |
| ④ | 象の鼻パーク |
| ⑤ | 日本大通り |
| ⑥ | 山下公園 |
| ⑦ | 港の見える丘公園 |

4-2. 周辺地区の状況

主な商業施設

横浜バイクォーター

横浜ハンマーヘッド

横浜ワールドポーターズ

コレットマーレ

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

みなとみらい5
ふかりさん橋
運河
山下町
石川町

橋駅
戸部駅
中央
役所
紅葉ヶ丘
桜木町駅
出町駅
関内駅
横浜公園
石川町

©横浜バイクォーター

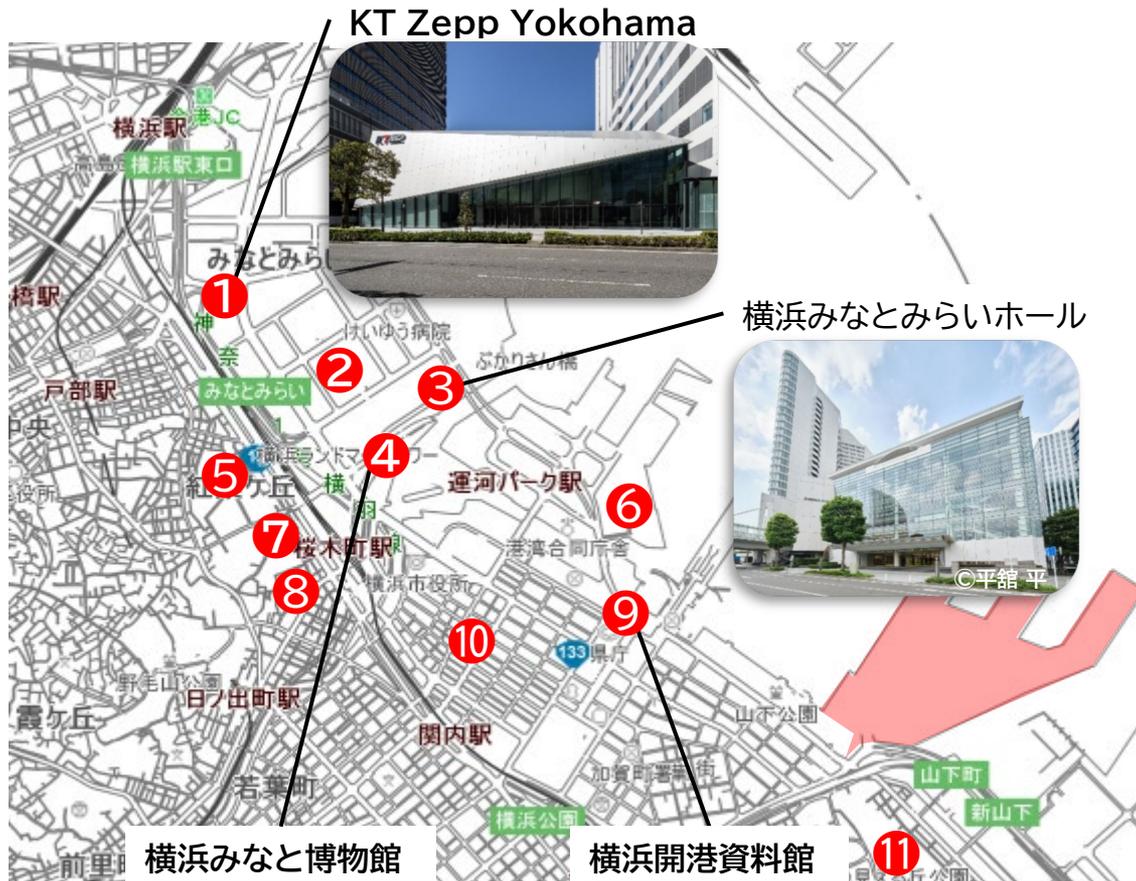
画像提供:横浜ハンマーヘッド

©ヒューリックみなとみらい
コレットマーレ

| No. | 名称 |
|-----|---|
| ① | ルミネ横浜 |
| ② | 横浜ポルタ |
| ③ | 横浜バイクォーター (延床面積:約5.1ha) |
| ④ | MARK IS みなとみらい (延床面積:約11.6ha) |
| ⑤ | クイーンモール |
| ⑥ | みなとみらい東急スクエア (延床面積:約2.5ha) |
| ⑦ | ランドマークプラザ (延床面積:約7.4ha) |
| ⑧ | 横浜ハンマーヘッド |
| ⑨ | MARINE & WALK YOKOHAMA (延床面積:約1.3ha) |
| ⑩ | 横浜ワールドポーターズ (延床面積:約10.0ha) |
| ⑪ | コレットマーレ |
| ⑫ | セルテ (延床面積:約2.1ha) |

4-2. 周辺地区の状況

文化芸術施設



| No. | 名称 |
|-----|--|
| ① | KT Zepp Yokohama (延床面積:約4,500m ²) |
| ② | 横浜美術館 (延床面積:約26,800m ²) |
| ③ | 横浜みなとみらいホール (延床面積:約18,600m ²) |
| ④ | 横浜みなと博物館 (延床面積:約7,400m ²) |
| ⑤ | 横浜能楽堂 (延床面積:約5,600m ²) |
| ⑥ | 赤レンガ倉庫1号棟 (延床面積:約5,500m ²) |
| ⑦ | 横浜市民ギャラリー (延床面積:約3,400m ²) |
| ⑧ | 横浜にぎわい座 (延床面積:約4,300m ²) |
| ⑨ | 横浜開港資料館 (延床面積:約2,900m ²) |
| ⑩ | 横浜関内ホール (延床面積:10,000m ²) |
| ⑪ | 大佛次郎記念館 (延床面積:約1,100m ²) |



4-2. 周辺地区の状況

ラグジュアリーホテル等

ヒルトン横浜
(2023(令和5).9開業予定)



ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜



| No. | 名称 |
|-----|------------------------------|
| ① | 横浜バイシェラトン ホテル&タワーズ |
| ② | ヒルトン横浜 |
| ③ | ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜 |
| ④ | ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル |
| ⑤ | ウェスティンホテル横浜 |
| ⑥ | 横浜バイホテル東急 |
| ⑦ | インターコンチネンタル横浜Pier8 |
| ⑧ | 横浜ロイヤルパークホテル |
| ⑨ | オークウッドスイーツ横浜 |
| ⑩ | ハイアットリージェンシー横浜 |
| ⑪ | ホテルニューグランド |

横浜バイシェラトン
ホテル&タワーズ



ウェスティンホテル横浜



横浜バイホテル東急



ハイアット
リージェンシー横浜



ホテルニューグランド



5. 既往計画

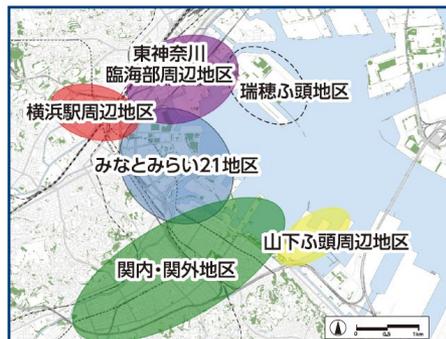
横浜市都心臨海部再生マスタープラン

- 社会状況の変化に対応し、将来にわたり輝き続け、魅力にあふれた『世界都市』の顔としての都心臨海部を形成するため、目標年次を2050年(第一段階2025年)として、2015(平成27)年2月に策定。
- 「みなと交流軸」の形成や「地区の結節点」における連携強化により、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりを推進します。

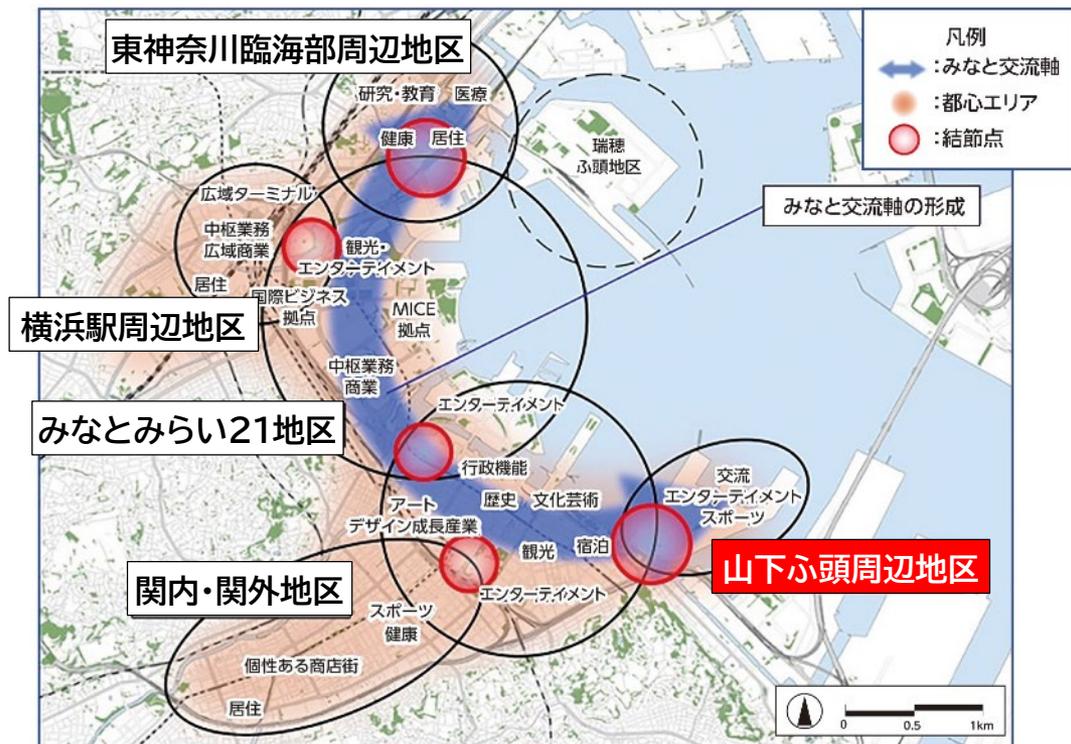
都心臨海部の将来像



計画の範囲



都心臨海部の機能配置とみなと交流軸・結節点の配置イメージ



6. 現状と特徴、取り巻く環境

現状と特徴

立地特性

- 優れた立地特性、大規模な開発用地
- 山下ふ頭へのアクセスの脆弱さ

歴史・文化

- 豊かな水域と港の景観、開港時からの国際性や歴史・文化の集積
- 周辺地区における公園・緑地、観光・文化施設の集積や連携した取組

産業・人材

- オープンイノベーションの進展、学術・研究開発機関や人材集積
- 他政令市等に比べ、昼夜間人口比率・就従比率が低い

観光

- 宿泊客に比べ、日帰り客の割合が高い

取り巻く環境

社会・経済

- アジアの人口増・経済状況変化や中長期的に拡大するインバウンド需要
- 人口動態の変化(少子高齢化、人口減)や税収の減少、担い手不足、需要の減少
- 都市間競争への対応
- 山下ふ頭の都市的な土地利用転換／GREEN×EXPO 2027の開催、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業などの機会

交通

- 広域アクセス網の改善

環境・技術

- SDGsの実現／GX・DXの加速(カーボンニュートラル、デジタル技術活用)による社会的要請
- 気候変動に伴う環境問題・自然災害等の影響拡大

これまでに市民や事業者の皆様からいただいた
ご意見・ご提案のまとめ

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER



令和5年8月

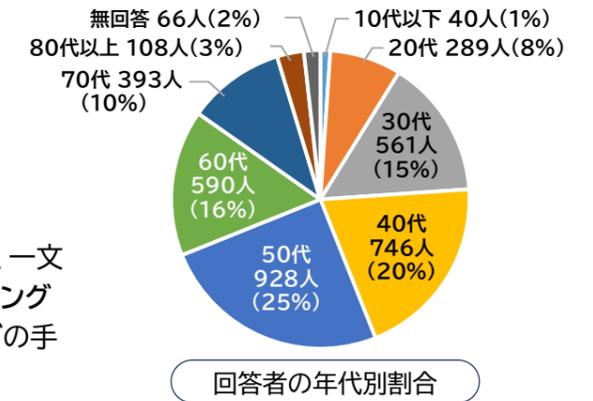
第1回 市民意見募集

募集期間

令和3年12月23日(木)～令和4年6月30日(木)

回答数

3,721件 ※うち、自由意見があったもの:1,942件

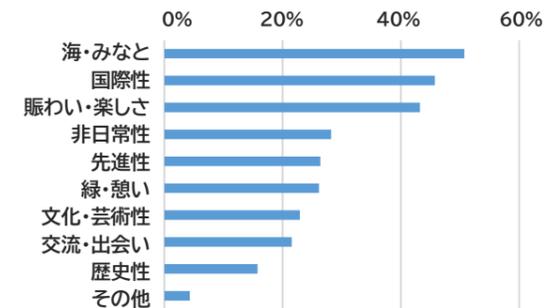


集計・分析結果と市民意見の傾向

択一式質問の集計(下図左)とともに、自由意見については、一文ずつに分け、類似の意見を分類して抽出するアフターコーディングの手法と、出現頻度の高い単語を抽出するテキストマイニングの手法により、問ごとに分析(下図右)を行いました。

再開発のイメージ

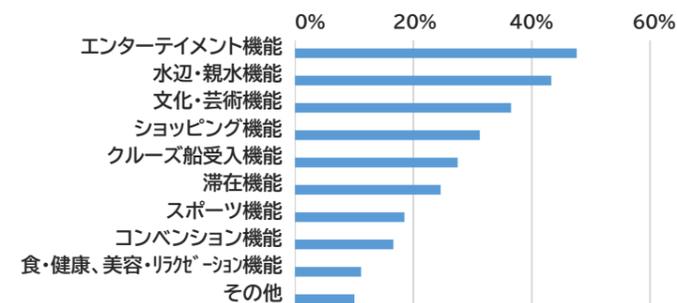
海・みなど、国際性、賑わい・楽しさをメインテーマとしつつ、文化や歴史、海と緑の調和、観光、市民も楽しめるまちづくりなどの視点を取り込むことも必要



市民意見募集・意見交換会

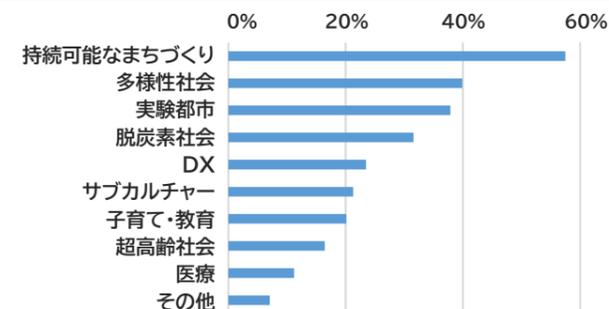
ふさわしい導入機能

エンターテインメント機能、水辺・親水機能、文化・芸術機能のほか、スタジアム等のスポーツ機能やホテル等の滞在機能を複合的に導入していくとともに、観光・交通の充実、楽しさなどの視点も必要



再開発に取り入れる視点

持続可能なまちづくり、多様性社会、実験都市といった視点に加え、市民への還元、防災や環境対策の充実、将来を見据えたまちづくり、税収の確保、企業誘致による産学連携などの視点も必要



第1回 市民意見交換会

開催概要 参加者総数 221人 付箋で出されたご意見の数 3,120件

| 開催日 | 場所 | エリア | 参加者数 |
|--------------|----------|---------------|------|
| 第1回 5月29日(日) | 市庁舎 | 鶴見、神奈川、西、中、南 | 70人 |
| 第2回 6月12日(日) | 泉公会堂 | 保土ヶ谷、旭、泉、瀬谷 | 34人 |
| 第3回 6月18日(土) | 港北公会堂 | 港北、緑、青葉、都筑 | 60人 |
| 第4回 6月26日(日) | 金沢地区センター | 港南、磯子、金沢、戸塚、栄 | 57人 |



意見交換会の様子

グループワークにおける意見の傾向

市民意見交換会において、付箋でいただいたご意見を要約して分類・集計(下図)を行いました。中心の円の大きさはご意見の数をイメージしています。

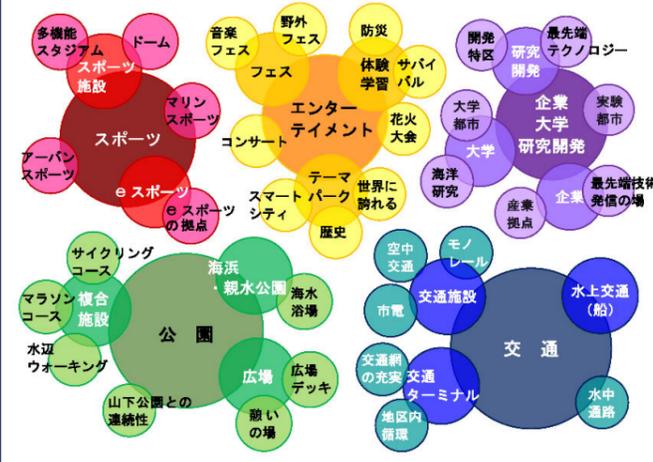
まちづくりのテーマ

- ・シンボリックな空間の創造と横浜の歴史や文化を生かしたまちづくり
- ・子育て・教育にも配慮した市民のための再開発
- ・税金を意識した環境にも優しいサステナブルなまち



ふさわしい導入機能

- ・スポーツ、音楽等を中心とするエンターテインメント施設
- ・最先端技術等を扱う企業・大学・研究開発施設
- ・海を生かした公園と水上交通を含めた充実した交通インフラ



第2回 市民意見募集

募集期間

令和4年11月22日(火)～令和5年2月28日(火)

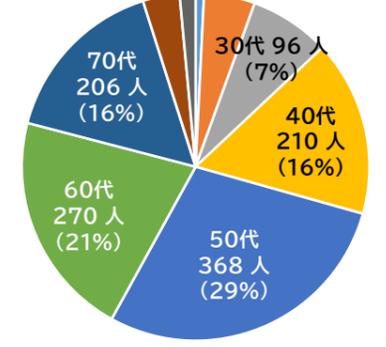
回答数

1,284件

意見の取りまとめ方法

意見内容を、類似の意見に分類するアフターコーディングの手法により「再開発のイメージ」「導入機能」「理由」に分類し、類型化した上で集計・分析しました。

無回答 19人(2%)
80代~ 44人(3%)
~10代 10人(1%)
20代 61人(5%)

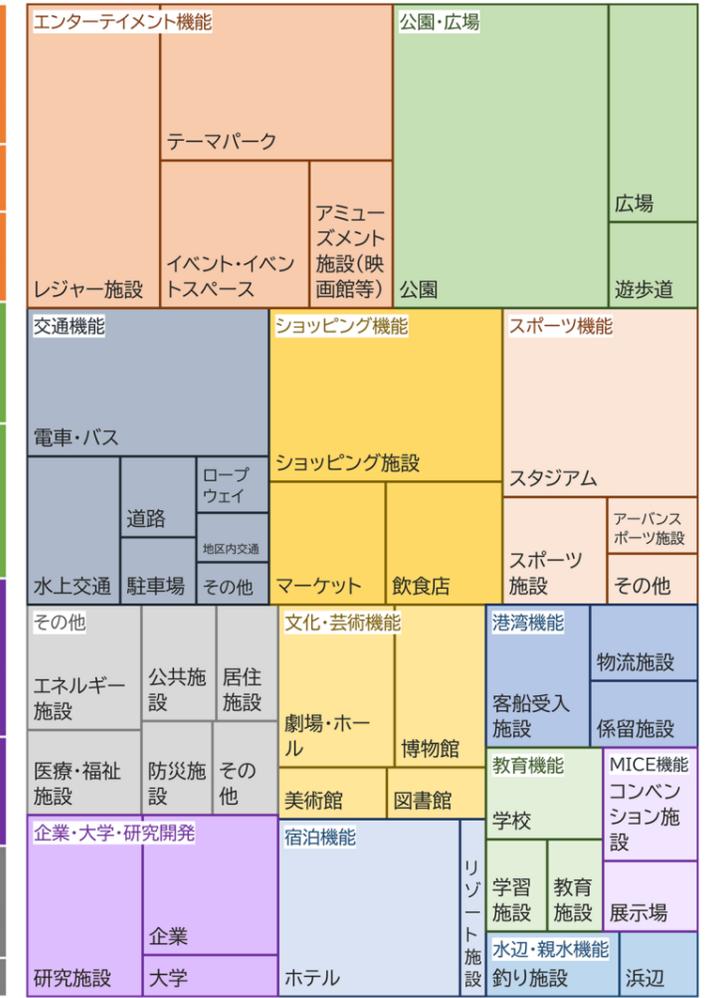


回答者の年代別割合

再開発のイメージ



導入機能



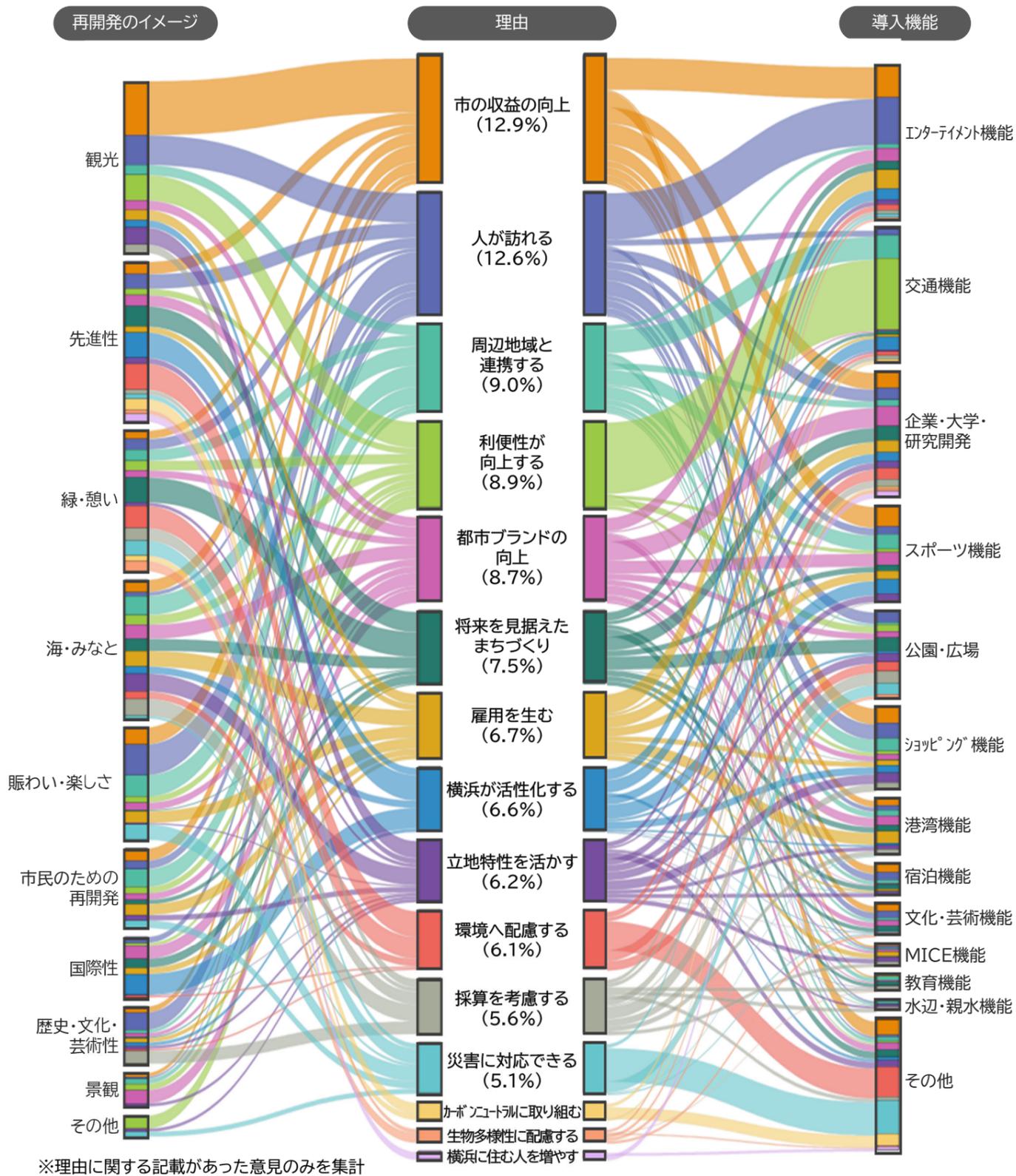
※図の見方: 類型化した意見をテーマごとに集積して色分け、面積の大きさは意見の多さを表す

「幅広い世代が楽しめる」「市民が利用できる」「自然が豊かである」「観光資源を作る」「海・港を活かす」等の意見が多い

「公園」「レジャー施設」「ショッピング施設」「スタジアム」「テーマパーク」「電車・バス」「ホテル」等の意見が多い

第2回 市民意見募集

再開発のイメージ及び導入機能を提案した理由



「市の収益の向上」「人が訪れる」「周辺地域と連携する」「利便性が向上する」「都市ブランドの向上」「将来を見据えたまちづくり」などが提案の大きな理由となっている

第2回 市民意見交換会

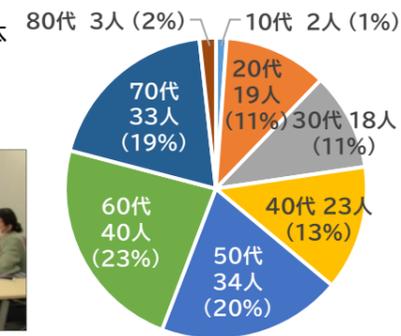
開催概要 参加者総数 172人 付箋で出された意見の数 2,555件

前回の市民意見募集や意見交換会の結果等から整理したテーマをもとに具体的な再開発のイメージについて意見交換するとともに、導入機能の具体的なアイデアと山下ふ頭である理由、期待される効果について意見交換を行いました。

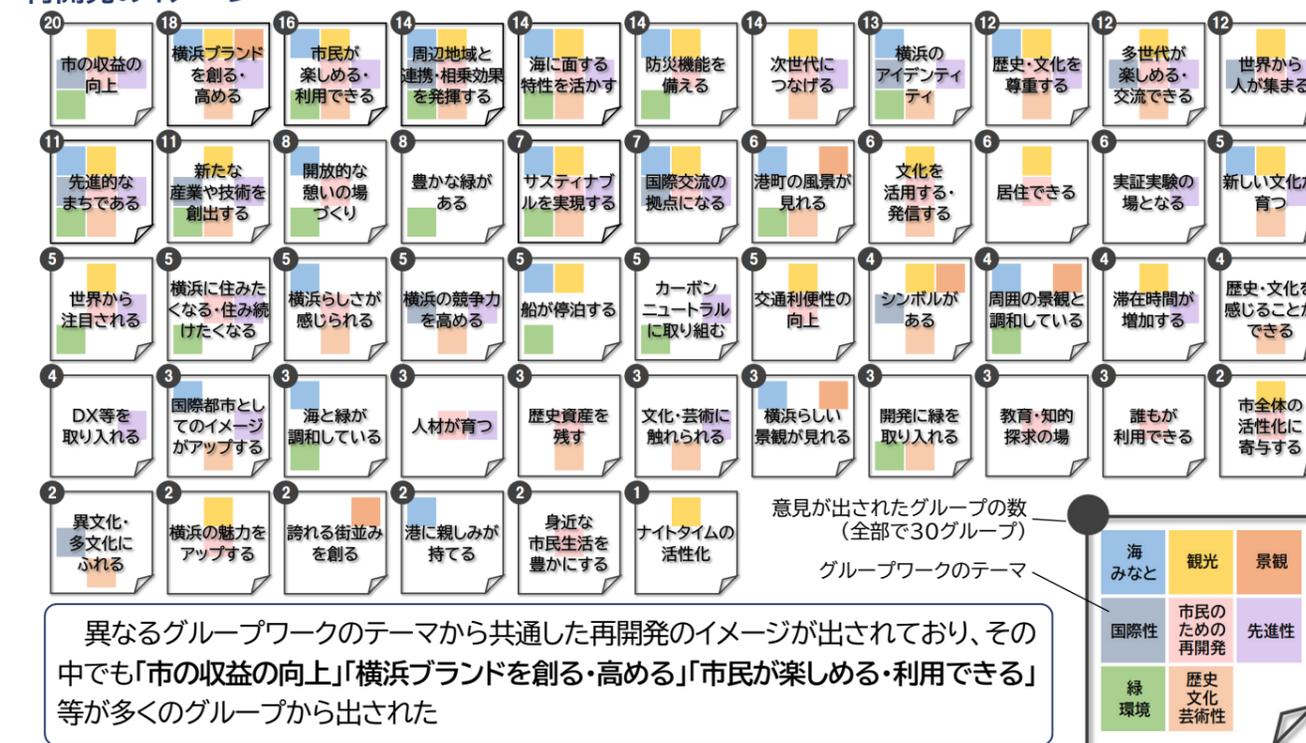
| | 開催日 | 場所 | 参加者数 |
|-----|-----------|--------------|------|
| 第1回 | 12月17日(土) | 市庁舎 | 44人 |
| 第2回 | 1月14日(土) | 横浜市庁舎 | 38人 |
| 第3回 | 1月21日(土) | 山内地区センター | 21人 |
| 第4回 | 1月28日(土) | 神奈川県労働文化センター | 26人 |
| 第5回 | 2月5日(日) | 市庁舎 | 43人 |



意見交換会の様子



再開発のイメージ



導入機能

| 《期待される効果・理由等》 | 《期待される効果・理由等》 | 《期待される効果・理由等》 | 《期待される効果・理由等》 | 《期待される効果・理由等》 |
|--|--|--|--|--|
| ● 実証実験の場につながる ● 世界的な知名度・ブランド価値の向上 ● 羽田からのアクセスが良い ● 教育や文化への投資は持続性ある取り組み ● 教育への投資、若者の定着 ● エネルギー問題等への貢献等 | ● 国内外から人を集められる ● 事業収益が見込める ● 海に囲まれた立地特性(景観、騒音対策等)を活かしたい ● プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい ● 非常時には防災施設になる等 | ● 市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい ● 子育てしやすい環境づくりに寄与 ● 海と緑を一体的に体感できる場所にしたい ● 山下公園との連続性が大事 ● 先進的な自然環境を世界にアピールできる等 | ● 開港・横浜発祥・埠頭の歴史都市の記憶の継承 ● 海に面した横浜らしい場所を活かしたい ● 市民と来街者の交流を生む ● 子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持って ● 文化芸術を創る人を育てる等 | ● 陸・海・空、海外からもアクセスしやすい ● 回遊を生みにぎわいを創出する ● 先進的で多様な交通を実現する ● 街の眺望、海の眺望を活かせる ● 海の玄関口として象徴的な役割を果たす等 |
| 先進性 ブランド向上 立地特性 教育文化 諸問題への貢献 | 観光 市の収益の向上 立地特性 地域資源活用 防災 | 市民利用 子育て 立地特性 自然環境 | 歴史 立地特性 市民利用 文化芸術 | 利便性の向上 立地特性 |
| 学術・研究開発機能 先端研究施設、企業と大学の集積等 | 大規模集客機能 スタジアム、屋内アリーナ、展示場等 | 公園・レクリエーション機能 親水公園、遊歩道、サイクリングコース等 | 文化・交流機能 図書館・美術館・博物館、音楽ホール等 | 交通機能 交通結節点の整備(陸・海・空)等 |

先進性やブランド力の向上等を期待して「学術・研究開発機能」、観光や市の収益の向上等を期待して「大規模集客機能」、市民利用や子育て等の視点から「公園・レクリエーション機能」、歴史等の視点から「文化・交流機能」、利便性の向上等を期待して「交通機能」が出された

これまでの市民意見募集・意見交換会で いただいたご意見をまとめました



市民が主体

市の収益をしっかりと確保！

山下ふ頭は都心臨海部に残された希少な空間。
収益をしっかりと確保することで身近な市民サービスの充実を！



Service!

市民が楽しみ、利用できるように！

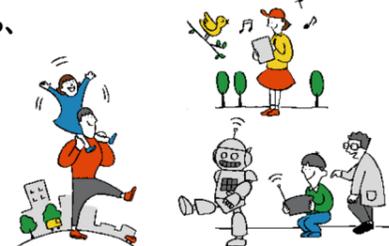
子どもも働く世代も高齢者の方も。
市民の誰もが笑顔になれるまちに！



Smile!

子育て・教育につながるまちに！

親子で過ごす、自由に遊ぶ、体験を通して学べる、・・・。
子育てや教育の視点も取り入れた再開発に！



Play!Learn!

港ヨコハマの象徴

横浜ブランドを創る・高める！

先進的でここにしかないもの、市民が誇れるもの、・・・。
世界から注目される横浜、住みたくなる横浜であることが重要！



Branding!

いろんな人が訪れるまち！

にぎわいが生まれる、交流できる、文化が育つ、・・・。
市民も観光客も日本人も外国人も訪れるまちに！



Welcome!

周辺地域と連携を！

横浜を代表する観光スポットに囲まれた山下ふ頭。
再開発が起爆剤となって地域全体の魅力がアップするように！



Enjoy!

山下ふ頭の持つ特性を活かす！

三方を海で囲まれた立地、埠頭特有の形状、港の歴史や文化、・・・。
再開発に活かせる特性が山下ふ頭にはたくさんある！



Culture!

交通機能の充実で利便性の向上を！

訪れやすくなる、周辺との回遊性を生む、・・・。
山下ふ頭へ陸や海などからのアクセスを良くすることが必要！



Go!Go!

港町ヨコハマらしい景観づくり！

新たなシンボル、周辺と調和した街並み、・・・。
山下ふ頭がthe横浜の景観の一部になる！みなとみらい、ベイブリッジ、船、そんな風景が楽しめる場所もあるといい！



Bayview!

持続的なまち

持続可能なまちづくりで次世代につなげる！

50年後、100年後まで夢や希望が溢れる。
次世代の子どもたちにイイね！と言ってもらえる再開発に！



Future!

海や緑などの自然が感じられるまちに！

豊かな緑の中で、海風を感じながら、ゆっくりくつろげる。
そんな空間があってほしい！



Relax!

防災や環境対策もしっかり！

いざという時は防災拠点になったり、カーボンニュートラルや生物多様性など、先進的な環境の取組があるといい！



Safe!

市民意見募集、意見交換会の取組

第1回 市民意見募集・意見交換会
(令和3年12月から4年6月)

再開発のイメージや
ふさわしい導入機能などについて

- ・市民意見募集
回答数:3,721件
(うち自由意見があったもの 1,942件)
- ・意見交換会(全4回開催)
参加者数:221人
意見数:3,120件



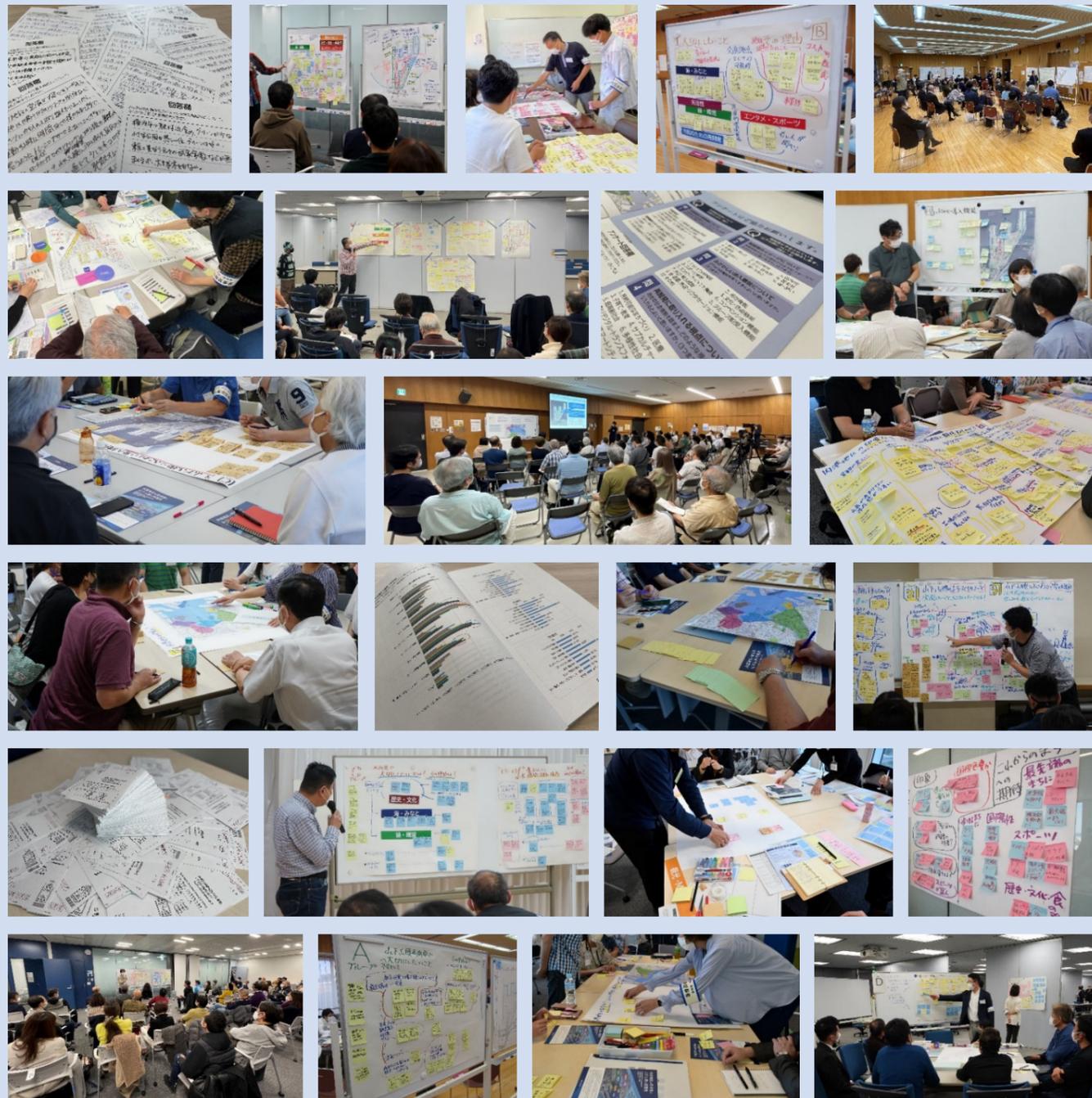
第2回 市民意見募集・意見交換会
(令和4年11月から5年2月)

前回の結果を踏まえた、
より具体的な再開発のイメージや
導入機能などについて

- ・市民意見募集
回答数:1,284件
- ・意見交換会(全5回開催)
参加者数:172人
意見数:2,555件



市民意見募集、意見交換会の様子



事業者提案募集

第1回 事業者提案募集（令和3年12月～4年6月）

いただいた10件の提案のうち、イメージ図等が提案され、事業者の承諾を得たものを掲載します。

企業・大学等のイノベーション施設を中心とした提案



- (1)開発コンセプト Civic Campus City
- (2)導入施設 キャンパス型オフィス 93万㎡(グローバル企業、研究機関、大学等)、中長期滞在施設 16万㎡(サービスアパートメント、スポーツ・医療ツーリズム、研修施設、研究者用滞在施設等)、複合集客施設 6万㎡(ホール・シアター、ミュージアム、フードホール、エンターテインメント施設)、リゾート型滞在施設 5万㎡ (200室～300室)、賑わい施設 4万㎡ 商業、飲食等

大規模集客施設を中心とした提案



- (1)開発コンセプト 夢・希望・期待・楽しさを抱ける場所
- (2)導入施設 国際展示場 25万㎡、コンサート・イベント会場(7～8万人収容)、SDGsエネルギー施設、その他施設(次世代中長期滞在型宿泊施設(7,000～10,000室)、植物工場・生鮮食料品市場・レストラン、給食センター、F1、医療防災拠点、教育施設)



- (1)開発コンセプト 周辺市街地の魅力向上を目指したFUSION ISLAND
- (2)導入施設 マルチアリーナ 12万㎡(スポーツ、コンサート、コンベンション等)、ホテル 28万㎡ (3,500室)、商業施設等 13万㎡、展示場・会議室 10万㎡、客船ターミナル 1万㎡、エネルギー施設 1万㎡、歩行者デッキ 14万㎡

緑を中心とした提案



- (1)開発コンセプト 世界一の環境港湾都市 山下山～緑の山をつくる
- (2)導入施設 緑 28万㎡、水素発電・浄化システム 7万㎡、滞在・研修施設 9万㎡、運動・健康施設 4万㎡、水際線プロムナード 3万㎡、客船ターミナル 5万㎡、生態館 2万㎡



- (1)開発コンセプト スマート・グリーンシティ型開発
- (2)導入施設 (検討例) エンターテインメント施設(海上一体型半屋外シアター、水上ステージ、全天候型プール等、フードマーケット)、文化芸術施設(メディア芸術(デジタルアート)、グローバル拠点施設)、研究施設(海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター)

開発の効果 ※提案のあったデータの範囲のみを掲載

| 投資見込み額 | 年間延べ来街者数 | 雇用者数 |
|----------------|--------------|-------------|
| 約1,000～8,000億円 | 約530～4,500万人 | 約2.5～12.6万人 |

開発に関する主なご意見等

- ・埠頭内だけでなく、周辺地区の開発促進やアクセス強化も必要である。
- ・段階的な開発の考え方も導入する必要がある。
- ・整備における公民の役割分担の協議や行政による支援をお願いしたい。

提案いただいた法人・グループ名(50音順)

①鹿島建設株式会社 ②株式会社竹中工務店 横浜支店 ③(グループ)株式会社TERRAデザイン(代表)・株式会社空間設計パートナーズ・万葉倶楽部株式会社 ④(グループ)横浜魚類株式会社(代表)・金港青果株式会社・横浜魚市場卸協同組合・横浜市場冷蔵株式会社・横浜中央卸売市場関連事業者協同組合・横浜中央市場青果卸協同組合・横浜丸魚株式会社・横浜丸中青果株式会社 ⑤一般社団法人横浜港ハーバーリゾート協会 ⑥(グループ)リスト株式会社(代表)・株式会社ホテル、ニューグランド

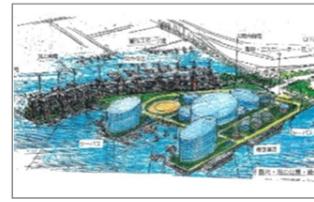
※他、4件については事業者名の公表を希望されませんでした。

第2回 事業者提案募集（令和4年11月～5年2月）

スポーツ・コンサート等のエンターテインメント施設を中心とした提案



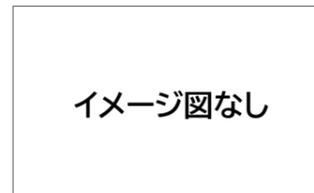
- (1)開発コンセプト 環境と共生する『世界基準の遊び』を創造
- (2)導入施設 発信する11万㎡(アリーナ・半屋外ステージ、美術館、商業施設等)、学が7.5万㎡(大学、専門学校、産学連携施設等)、創る7万㎡(制作スタジオ・アトリエ、研究開発等)、宿泊17.9万㎡(ホテル、コンベンションホール等)
- (3)法人名 株式会社久米設計(グループ代表)、パシジャンスキャピタルグループ株式会社



- (1)開発コンセプト 横浜文化発、世界の若者の成長拠点
- (2)導入施設 文化施設2万㎡、スポーツ拠点、エンターテインメント・コンベンション機能5万㎡、ホテル・滞在(若者のみ)施設・教育・ショッピング・行政・医療等日常利用施設10万㎡、レストラン・ギャラリー・休憩・映画・トイレ0.3万㎡
- (3)法人名 株式会社像建築設計事務所



- (1)開発コンセプト 周辺市街地の魅力向上を目指したFUSION ISLAND
- (2)導入施設 スポーツ、コンサート、コンベンション等マルチアリーナ12万㎡、オフィス施設10万㎡、ホテル24.5万㎡ (3,200室)、商業施設9万㎡、展示場・会議室10万㎡、滞在型研修施設2.5万㎡、客船ターミナル1万㎡、エネルギー施設1.4万㎡
- (3)法人名 リスト株式会社(グループ代表)、株式会社ホテル、ニューグランド



イメージ図なし

- (1)開発コンセプト 海と風のヨコハマ・エンターテインメント・タウン「YET」
- (2)導入施設 横浜デザインミュージアム(企画展、海外施設の巡回展)、県内外の大学の研究施設の誘致、MICE、ワールドカップ(インドアスポーツ、食)、エンターテインメント(大小コンサート、食)、ホテル10,000室
- (3)法人名 NPO法人デザインニッポンの会(グループ代表)、有限会社天野和俊デザイン事務所

体験型テーマパークを中心とした提案



- (1)開発コンセプト BAY CRUISE YOKOHAMA
- (2)導入施設 世界最大の陸上クルーズ船(様々な客室、国内外文化体験、イベント)、日本全国アンテナショップ(アンテナショップ)、日本最大の文化体験スタジオ(ダンス・イノベーション・e-sports等)、スペースクルーズ(宇宙旅行模擬体験)
- (3)法人名 ken-ken有限公司(グループ代表)、株式会社アイヴィクト、リンクス都市企画一級建築士事務所



- (1)開発コンセプト SPACEPORT「YOKOHAMA」
- (2)導入施設 アミューズメント施設、展示館(月面基地、アルテミス計画、火星移住計画、体験広場)、ハード展示館(体験広場)、インターネット配信サービス(NASA制作の映像配信、教育)、スペースショップ・レストラン
- (3)法人名 ヒロ・インターナショナル株式会社 横浜支店

国際展示場等の施設を中心とした提案



- (1)開発コンセプト 夢・希望・期待・楽しさを抱ける場所
- (2)導入施設 国際展示場25万㎡、コンサート・イベント会場(7～8万人収容)、SDGs・水素エネルギー施設、その他施設(次世代中長期滞在型宿泊施設(7,000～10,000室)、植物工場・生鮮食料品市場・レストラン、給食センター、F1、医療防災拠点、教育施設)
- (3)法人名 一般社団法人横浜港ハーバーリゾート協会



- (1)開発コンセプト Yokohama WaterRing - Ship
- (2)導入施設 国際展示場25万㎡、野外展示場、多目的ホール(コンサート・スポーツイベント会場)、エネルギーセンター、ホテル
- (3)法人名 株式会社山手総合計画研究所

市民意見募集等の結果の詳細は、以下の横浜市ホームページからご覧になれます。

第1回
市民意見募集、意見交換会、事業者提案募集



<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkihon/torikumi/rinkaibu/naiko/kekka.html>

第2回
市民意見募集、意見交換会、事業者提案募集



<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkihon/keikaku/yamashita/joi/aratanatorikumi/kekka.html>

日時：令和5年11月30日（木）
13:15 ～ 15:15
場所：ロイヤルホール横浜 2階

第2回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合

次 第

1 議 事

- (1) 前回学識者会合後の市民意見等
- (2) ファクトシートの説明
 - ・「横浜港の国際競争力強化に向けた取組」について
 - ・委員長からの報告
- (3) 委員からのプレゼンテーション
- (4) 意見交換

2 その他

【配付資料】

- 資料1：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 名簿
- 資料2：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 座席表
- 資料3：前回学識者会合後の市民意見等
- 資料4：ファクトシート【横浜港取組編】
- 資料5：委員長報告資料

参考資料：日本インフラの体力診断

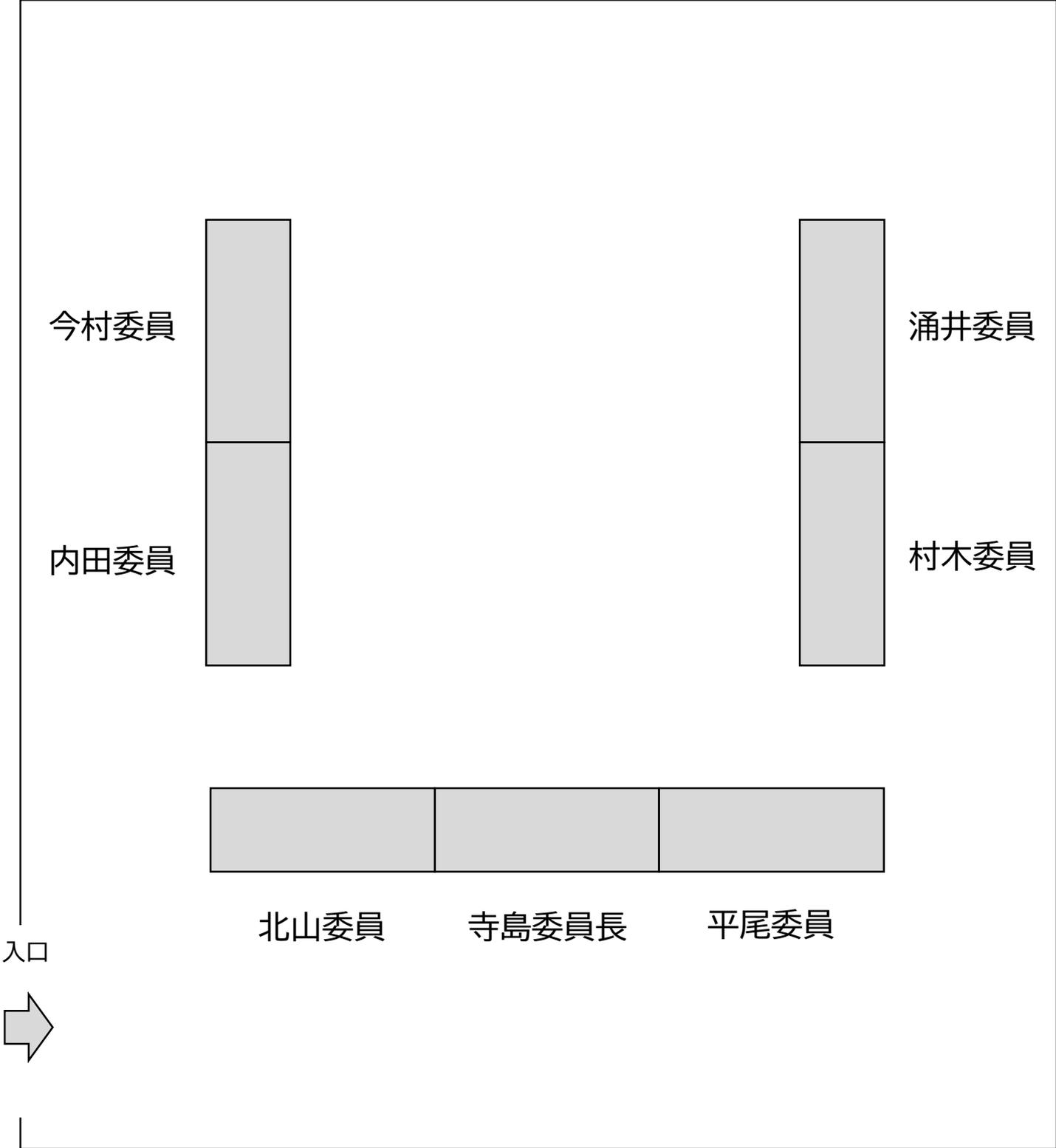
山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 名簿一覧

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------------|--------------------|----------------------------|
| いしわた たかし 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| いまむら としお 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所代表取締役会長 |
| うちだ ゆうこ 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| かわの まりこ 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| きたやま こう 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| くま けんご 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| こうだ まさはる 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工藝社代表取締役社長 |
| てらしま じつろう 寺島 実郎 | 社会科学、地政学 | 一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長 |
| ひらお こうじ 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| むらき みき 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| わくい しろう 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

第2回 横浜市山下心頭再開発検討委員会 学識者会合

座席表



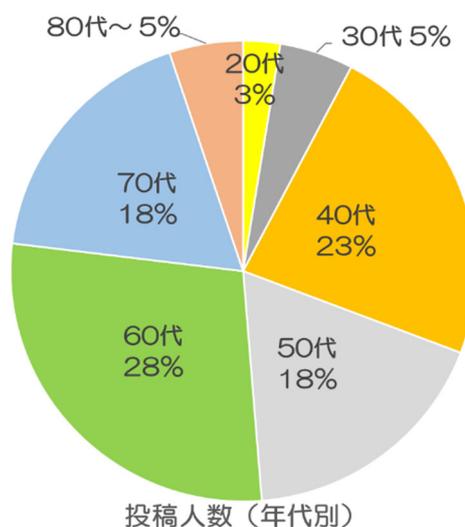
山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合（8月開催）後にインターネットフォームに寄せられた市民意見等について

1 受付期間

令和5年8月28日から令和5年11月27日まで

2 意見数

市民意見等は39名から78件の投稿をいただきました。
※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、投稿数から除外しています。



3 御意見の内訳（78件）

(1) まちづくりの方向性・導入機能等に関する御意見（27件）

○まちづくりの方向性（17件）

- ・再開発にあたっては、**広域的（東京湾全体、横浜市全体等）な視点**での山下ふ頭の位置付けを考えるべき
- ・横浜らしい個性ある持続可能な都市像と山下ふ頭のあり方を議論するため、横浜の都市づくりの歴史をたどり、**先人の精神と経験に学ぶべき**
- ・2050年位を目指して、**社会情勢に合わせてフレキシブルに対応することが持続的な発展に必要**
- ・企業中心の開発ではなく、**市民生活や地域産業にも依拠した開発**を検討するべき
- ・山下埠頭の再開発が**日本の未来を切り開くプロジェクト**になるよう、最高のプランを提示してほしい
- ・**市民の山下ふ頭の利用を視野に入れる**ことが肝要
- ・山下ふ頭再開発が**横浜の中心の山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画**を望む
- ・寺島委員長が示した「付加価値」「Fact Sheetで裏付け」「固定観念の打破」の**3方針で議論が進む**ことに期待
- ・世界に誇れる**ダイナミックな未来像**を描いてもらいたい
- ・再開発にあたっては**公共性のない事業に多額の補助金が入らないように**してもらいたい
- ・本質的な委員会での**議論をオープン**にやってほしい
- ・「人間中心の都市」・「持続可能な環境」などを理念として掲げる「**都心臨海部・インナーハーバー整備構想**」を参照すべき
- ・事業性や収益性に捉われるのではなく、**横浜市民にとって快適なまちづくり**を目指すべき
- ・**日本でここ独自というもの**を用意していただきたい。斬新で革新的なアイデアに期待
- ・市民が幸せな生活を営んでゆくために、**夢や希望を抱きながらもの考えるスペース**を作っていくことの重要性を提案したい

○導入機能（10件）

- ・基礎研究ができる**研究開発拠点**、技術者・研究者を生み出す**教育拠点**
- ・横浜スタジアムが狭いので、**大きなスタジアム**（野球場）
- ・子供たちにプロサッカーを近くで見せてあげられる**サッカー専用スタジアム**
- ・横浜と強いつながりのあるポケモンなど**日本の漫画・アニメ文化を発信するテーマパーク**
- ・横浜にインバウンドを招致するため、**ビール工場、ウイスキー蒸留所、ビアホールを集合させたテーマパーク**
- ・横浜の知的財産を確保するための**国際図書館、大学機関**の誘致
- ・横浜があらゆる世代にとって魅力的であり続けるために横浜市民の象徴的な場所としての**多機能図書館**
- ・横浜や神奈川の特産品や海鮮市場などが販売できる**横浜観光マーケット**
- ・公共財の管理に市民が参画していく**現在版の入会地、里山のようなスペース**
- ・横浜の伝統を護る政策に絞った**Europeの文化を活かしたまちづくり**

（2）地域関係団体の参画に関する御意見（10件）

- ・6つの地域関係団体は、**地元の意見代表として必ず参加すべき**
- ・**地元の人々の意見を第一優先で取り入れるべき**
- ・地元の意見を聞かない運営には反対。**有識者だけで決めないでほしい**
- ・**地域の声は必要だが、利益供与を疑ってしまう人を委員にはして欲しくない**
- ・提示した「**地域関係団体**」は**経済・産業団体**であり、**市民生活の一部**でしかない など

（3）市民の参加に関する御意見（8件）

- ・**まちづくりに市民が主体的に参画**することで地域主権主義に通じる市民自治を進める
- ・さまざまなテーマで自主的に活動し、まちづくりや市民生活の課題解決に実践的に携わっている**市民グループの声こそ「新しいまちづくり」に必要**
- ・検討委員会に最初から**市民代表を参加させてほしかった**
- ・**若い人の感性を取り込むことが不可欠**、また、市民参加の各種形態を入れ込んでいくことに集中してもらいたい など

（4）その他の御意見・御感想（33件）

- ・自由な議論がされそうで、会議全ての動画も公開していて、**今後の議論が楽しみ**
- ・寺島さんのリーダーシップに期待する。**この学識者会合はなかなか良いと思った**
- ・委員会の内容を後日確認することができ、**とても良かった**
- ・**市民や市民団体が提出している意見をお示しし、委員会の議論に反映させるべき**
- ・長期的に1000回の市民ミーティングを行う「**1000ミーティング**」を提案
- ・各局の課題解決または創造的なプランを創出するため、**若いスタッフを集めた組織横断的なチーム**を作る
- ・**カジノ、ギャンブルを検討対象としないことを望む**
- ・瑞穂ふ頭の部隊配備撤回等を検討すべき など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

インターネットフォームに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|---|-----|------|--|
| 1 | 磯子区 | 60歳代 | 地元の意見を聞かない運営には反対です！歴史も将来も有識者だけで決めるのですか？ |
| 2 | 中区 | 70歳代 | 寺島委員長が「検討委員会は意思決定機関ではなく、山下ふ頭再開発の方向性を示すだけ」と言っていました。一人ひとりの委員が自分なりの意見を言っていました。残念ながら、これまで港湾局が実施したワークショップでの市民の意見を知らないようでした。委員会では、「これまでに市民や事業者の皆様からいただいたご意見・ご提案のまとめ」が配布されましたが、このようなまとめ方では、各委員が市民がどんなことを考えているか、一生懸命読んだとしても理解できないと思います。また、事業提案書を提出している市民や市民団体がいると聞いています。私(〇〇)も山下ふ頭再開発提案を提出しています。これらは委員の皆様そのまま見せればよいだけです。まずは、これを実施していただければと思います。 |
| 3 | 市外 | 20歳代 | ポケモンと横浜は強いつながりがあるのでポケモンをテーマにしたエリアを作るのはどうだろうか？ また、インバウンドを重視するのであれば日本の漫画・アニメ文化を発信するテーマパークを作ってはどうか？ |
| 4 | 港北区 | 60歳代 | ①議事(3)の「地域関係団体の参加について」北山、涌井両委員、寺島委員長、三人の話は真っ当です。利益調整組織にならないよう、この委員会は独立していた方がよい、議論にある程度の方向性が見えた段階で地域関係者の意見聴取は必要であり合理性があるが、いつの段階から参加していくかは大事な論点である、行政の方で調整して貰えば着地点は見えてくるのではないかと。行政側は、この議論をしっかりと踏まえてまずは学識者会合での検討の行方を見守って欲しい。②委員長から、明治から77年、敗戦から77年、そして2023年から77年が21世紀最後の年、ここを見据えての「視界と構想力」が問われている、夢とワクワク感のある選択肢を示していきたい、との気宇壮大な発言がありました。横浜の歴史から内発的に展開される、世界に誇れるダイナミックな未来像を描いて貰いたい。③委員長から市民参画について、意見を述べるだけでなく、山下埠頭を支えていく、そのメンテナンスと方向付けに責任を担いながら関わっていく、との提言がありました。この計画に市民がどう関与していくのかの「手順」については、幸田委員も言及していました。期待します。 |
| 5 | 中区 | 40歳代 | 自由な議論がされそうであり、会議全ての動画も公開していて、今後の議論が楽しみです。今後、本格的に議論を進めてほしい。 |
| 6 | 中区 | 40歳代 | 山下埠頭の再開発は、山下埠頭で仕事をして生活をしている人達が、何にするのか決めるのは当然であり、何も関係ない方々が決める方が、我田引水になり山下埠頭と地元横浜の秩序が壊される。地元の人々の意見を第一優先で取り入れるべきである。 |
| 7 | 泉区 | 50歳代 | この委員会は事業予定者を審査決定するものではないので横浜市が選定した6つの地域関係団体は、地元の意見代表として必ず参加すべきです。 |
| 8 | 南区 | 70歳代 | まず、寺島さんが議長になってよかったと思う。委員会の3つのコンセプトを提示して委員の発言にフレームを与えたことにより議論が散漫になることを予防した。委員会の使命3つのコンセプトは(1)決定を下すのではなく付加価値を与える。(2)事務局は市民が知るべきファクトシートを提示する。(3)多様な選択肢を提供する。また、今回の会議では委員各人は10分間のプレゼンテーションを行うことが提案された。これによって各人のスタンスや提案がわかりやすくなって議論もスムーズに進むだろう。次回が楽しみだ。次に事務局から山下埠頭の歴史、現況等の概要説明があった。コンパクトによくまとめたものだったが、山下埠頭や地域の人々についての記述がなかった。初回として各委員の思いを語る場面では上の3つのコンセプトが効いていて聞く側としてわかりやすく整理しやすいものだった。未来へつなげる、広域連動することなどほとんどの委員が発言した。興味深い発言がいくつかあった。平尾さんは、文化的資源の強化、イノベーション拠点化が見られるが現状はバラバラなのでクラスター化する必要がある。石渡さんの発言の、点在する文化・歴史を |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|--|
| 9 | 南区 | 70歳代 | <p>(2) ネットワークするハブとして山下埠頭を機能させるというプランに通じる意見だ。そのためにはまず市民の意見を聞くことと、付け加えた。平尾さんはさらに交通アクセスは隣接する地域を含めて考える必要がある、とモビリティマネジメントへの言及もあった。「ウォーカブルシティ」のモデル地区として山下埠頭開発を行い、そこから隣接地域へ広がっていく姿が思い浮かんだ。北山さんが共感できる発言が最も多かった。「船がない水面は寂しい」という感覚が素敵だ。インナーハーバー全体の港湾の変化がほしい。タワマン林立のみなどみらいは残念。そもそも「再開発」という言葉自体が古い。経済効率を求めるのではなく、効率は悪いが未来あるプラン、不便で文化的なまちづくりがいい。「横浜都市(まち)づくり構想」「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」等のビジョンを進めてきた都市デザイン室の機能を復活してほしいと思った。寺島さんは最後に各委員の発言を小気味よくまとめた。山下埠頭開発に必要なのは(1)経済・産業・物流のファンダメンタルの把握(2)22世紀までの未来を見据える(3)広域連動(4)市民参画(5)引き付ける力、</p> |
| 10 | 南区 | 70歳代 | <p>(3) ダイナミズム。寺島さんのリーダーシップに大いに期待する。最後に事務局から、地域団体参画の計画が提示された。一覧※を見ると「地域団体」とは経済団体ばかりだ。さっそく北山さんから、狭いエリアの利益団体ばかりではだめ、とクレームが出された。涌井さんからも、スタディ→方向性→地域の意見という順番とそのタイミングが重要、という意見。寺島さんのまとめでも重要項目の一つとして「市民参画」が挙げられている。この学識者会議はなかなかいいと思った。次の課題は市民参画の具体的な方法だろう。※(関内・関外地区活性化協議会、一般社団法人横浜港振興協会、横浜商工会議所、協同組合元町エスエス会、横浜港運協会、横浜港運協会)まず事務局は庁内のデータベースをもっと活用すべきだ。経済局、港湾局だけでなく、各局に人的資源のデータはたくさん構築されているはずだ、市民局や健康福祉局、スポーツ文化局、環境創造局、都市整備局、こども青少年局、教育委員会等等、また各区役所から集めるべきだ。組織横断的なチーム「山下埠頭再開発協創室」をつくり各局から若いスタッフを集め山下埠頭の活用に向けて、各局の課題解決または創造的な</p> |
| 11 | 南区 | 70歳代 | <p>(4) プランを創出する。そこには市民参画が必須となる。各局で市民参加を呼びかけてもいい。さらに私は「1000ミーティング」を提案したい。パブコメや町内会経由の公聴の他に各地で大規模に市民ミーティングを行う仕組みを作るべきだ。1区あたり25箇所50回、長期間に渡ってのべ1000回の市民ミーティングを行うことを提案する。370万人に対して1000回だとのべ3700人。全てというわけにはいかないがかなり網羅できるだろう。規模やノウハウが必要になるのでそのための機構づくりが必要になると思うが、その仕組みが構築されたら山下埠頭開発だけでなく、様々なことに有効な市民参画の仕組みと思う。(了)</p> |
| 12 | 戸塚区 | 70歳代 | <p>山下埠頭の開発が利権のモザイク画になることを危惧していたので、地域関係団体の委員の参加を遅らせることに賛成です。明治維新から77年で太平洋戦争の終戦、その後77年へて今日があり、更に77年後には22世紀になる歴史観が提示されました。横浜の最初の77年は文明開化と殖産興業が基本理念であり、戦後の77年は飛鳥田市政の6大プロジェクトにより今日の横浜が生まれたので、これからの77年についても明確な理念が必要だと思います。政府より日本が目指すべき未来社会として、人間中心の社会(Society5.0)が提示されています。2045年には人工知能が人間の知能を凌駕するシンギュラリティが起きると予想されており、人工知能やロボットが社会で活躍するようになります。システム設計の方法として、まず理想システムを考え、次に実際に作る現実システムを設計する考え方があります。最初から各種利権の調整を図るようなシステム設計では、矮小化された将来性のないシステムになる危険性が大きく、将来の市民の失望を買うこととなります。山下埠頭の再開発が日本の未来を切り開くプロジェクトになるよう、最高のプランをご提示下さい。</p> |
| 13 | 市外 | 50歳代 | <p>横浜スタジアムにベイスターズの応援で通っていますが、昨今、阪神ファンなどビジターチームとの座席のとりあい座席が取れないことが多々あります。また、球場も狭いので山下埠頭に大きなスタジアムを作っていただけると有難いです。関内駅からは遠くなりますが、名古屋ドームのように試合ある日は地下鉄の本数を増やすなど工夫すると良いと思います。25年もリーグ優勝できないのは選手にとって、球場の環境(練習会場含む)の問題もあると思います。ぜひよろしく願いいたします。</p> |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|---|
| 14 | 中区 | 30歳代 | 横浜と横浜市は別物です。まずそこをしっかりと認識し区別して考えなさい。横浜市内には中区やみなとみらい等の元来からのYOKOHAMAのエリア以外にも、大黒埠頭や鶴見線周辺や新横浜・羽沢・岸根・第二京浜国道沿い等等（東海道や稲毛道沿いの江戸時代の旧街は言及から外しておきました）など多くの開発を必要としている地があります。よって、中区やみなとみらい等の幕末時代から始まるYOKOHAMAの旧地---山下埠頭も--- においては、それらの伝統を護る制作に絞り、それ以外の無駄な開発は中止したり予算等の制約により十分な施策が行えないなら中途半端なことをせずに保留しておきなさい。続く 横浜市として収入が必要なのは判りますが、上記の通り他にも開発する場所は沢山ありますから山下埠頭に拘る理由はありません。 |
| 15 | 中区 | 30歳代 | 続き YOKOHAMAの文化とはEurope居留地の歴史から始まる文化です(居留地に居留できた人間はEurope諸国に加えAmericanやRussianも含んだそうですが、USAもRussiaも当時とは状況が大いに異なるため誤解を避けるためEuropeと言います)。 USAに接收されたのはその後暫く後の事であって、中区にある多くの古い建物や遺構はそのずっと前に存在していたものであってUSA遺構ではありません。ましてや中華だったこともありません。中華街と寿町は戦後に野毛や黄金町の辺りから移されてきたものです。(野毛や横浜道はYOKOHAMAの外部としています) 港町とかinternationalという説明も多く見かけましたが、一昔前と今ではinternationalの指すものが変わってしまい、我々YOKOHAMAもどちらを選ぶのかの選択を迫られました。 中区の旧地域として選ぶべきなのは一昔前の意味 European Standardに近い意味の方です。(逆に言えば横浜市全体ではglobal Standardを目指したりすればいい--- 新しいのは大黒埠頭や新横浜の方) |
| 16 | 中区 | 30歳代 | なので、山下埠頭や新山下や根岸住宅跡地では、牧場を作ったり かつての居留地の牧場や農場を再建したり植林したり地下水の水質を改善したりジェラール瓦工場を再建したりサリー・ワイルのレピを復活させたりしていなさい。寿町は移転させたり野毛や黄金町に戻しなさい。中華街は新横浜や大黒埠頭や鶴見線浜川崎周辺に移転しなさい。元来のYOKOHAMAを支えた基盤は居留地のEurope人住民達です。 YOKOHAMAを再興するためにはこれに代わる者を取り戻すしかありません。中区(横浜市全体ではダメです中区やみなとみらいです)ではEurope EUとのコネクションを作り強化する制作や制度を整えなさい。EU民に限り滞在条件を緩和したり関税を撤廃させたり 職人を誘致したりチーズを作ったりしなさい。 |
| 17 | 港北区 | 50歳代 | 委員からIRを再考との意見が、ありました。 私は、国会でも参考人として意見を述べた静岡大学、〇〇教授の話聞き、自分でも調べて、世界にはすでに魅力的なIRがたくさんあり、日本は周回遅れ。カジノのターゲットは、世界の富裕層ではなく、ギャンブル好きな日本人。IRそのものに反対してきました。それについて横浜市は(カジノはIRのたった3% (たった3%でも巨大なものができる) 「カジノではない。日本型IR」 (IRの収益の8割はカジノ)。林市長による市民説明会も全く?明になっていない。会場は騒然としていました。それを自民党の市議は、「反対派がうるさくて、?明が聞けない」と、いつも間違った反論をしてきます。カジノの振り返りも有識者の意見を入れて「市民への?明が足りなかった」と結論づけられました。横浜市の?明はデータを詐称したものです。令和元年9月6日本会議。立憲、荻原市議の質疑。私は薬剤師の資格を持っていて、「ギャンブル依存症に効く薬はない」と言えます。ということは、家庭での治療は非常に難しい。一定期間の入院を必要とし、対策費がすくないという問題ではありません。 |

| | 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|----|-----|------|--|
| 18 | 港北区 | 50歳代 | 市民は本当にIRに反対していたのか。パブリックコメントを全部確認した市民がいます。私も街頭にたち署名を集めましたが、横浜市だけではなく、川崎市、相模原市、東京都の人からも、反対の声を聞きました。女性が主です。ギャンブル依存症のほとんどが男性です。ギャンブル依存症の治療は難しいと街のクリニックも言っています。当事者は困らない。困るのは家族です。ギャンブルは検討しないでください。山下ふ頭は市有地で、倉庫をどかすのにも税金がかかっています。税収があがると言っても、人々を不幸にする街には、すみたくありません。また、すぐ近くに、巨大なギャンブル場があるところに、人はすみません。ラスベガスは、なにもない砂漠にIRの街ができました。成熟した都市である横浜市にギャンブル場ができれば、それは成長戦略にはなりません。成長はストップして、衰退してしまいます。ギャンブルで税収が上がるわけですから。なにもないところにつくるべき。シンガポールと横浜市は違います。シンガポールは規制が厳しく、観光には乏しい国です。シンガポールは都市国家ですが、横浜市は地方都市です。 |
| 19 | 港北区 | 50歳代 | 事業者からの提案としてスポーツベッティングもあります。市長は、「市民から理解の得られないものはやらない」と市議会で言いましたが、中学校給食も市民の理解が得られていないのに、デリバリー弁当。一方的な?明です。おかずが冷たいので、美味しくはありません。検討するとしたら、市民に広く知らせてください。新聞報道、タウン紙など。スポーツベッティングも検討する。これが事実です。市民が反対するであろうことを、市民の理解が深まっていないと言って、黙っているのは、卑怯。不誠実。また検討するなら、有識者の中に地元の寿町支援団体を入れてもらいたい。体をはってカジノを止めたのは、この支援団体の方々です。〇〇先生からギャンブル依存症等に関する話を聞いてください。不公平です。 |
| 20 | 中区 | 40歳代 | 一部の委員や市民団体の声だけに反応せずに、本質的な委員会での議論をオープンにやってほしいです。誰が委員会で発言してもいいはずであり、入る前から言論規制するのはおかしいと思います。有識者が50年100年先の議論をというが、100年先の予想なんて、勝手な考えになるので、重点を置き過ぎてもしょうがないと思います。人口予測から、生産年齢人口が減少し、高齢者が多い中でも、次の発展に繋げる場所として、2050年ぐらいを目指して、社会情勢に合わせてフレキシブルに対応できることが持続的な発展に必要であるとおもいます。議論を有識者による雲の上のことにして、地元の人々や市民を排除するといった、現実的な課題から逃げないでほしいです。 |
| 21 | 港北区 | 60歳代 | インナーハーバー地区すなわち内港地区には、瑞穂埠頭があります。大半を米軍が接收していて早期返還が待たれていたところ、今年になり、実戦部隊が配備されることになり、基地の固定化、恒常化に繋がると懸念されています。検討委員会では、委員の誰からも、このノースドック問題について言及がありませんでした。港湾機能について、日本全体、東京湾全体、横浜港全体のファクトと将来展望が不可欠との識見が数多く示されたにも拘らず、事、瑞穂埠頭地区に関しては、全く触れられないとは残念の極みです。地方自治体は国の出先機関ではなく、地方は国に隷属する組織でもありません。横浜港が軍港と化するのを拱手傍観しているばかりでは、地方自治の名が泣きます。まして、横浜港の管理権は横浜市長にあります。危険極まりない、米軍ノースドック基地への実戦部隊の配備、これを撤回するように、市長に対して、国への要求を強める勧告の発出も検討委員会の役割と考えます。 |
| 22 | 港北区 | 60歳代 | 既往計画として2015年（平成27）2月策定の「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」が挙げられていますが、その僅か5年前、平成22年3月に提言された「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」こそ、上位計画として参照すべき構想と考えます。何故ならば、その基本理念が、正に現在で打ち立てられるべき理念の先取りであるからです。そして、実は、「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」にはカジノが取り上げられているからでもあります。「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」の掲げる理念は、①人間中心の都市②持続可能な環境③人材・知財を活かす社会④文化芸術創造都市の更なる展開⑤市民社会の実現、と今日的課題に正面から答えるものばかりです。明らかに、カジノを含むIR構想の萌芽が含まれる「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」より前の「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」に戻るのが、ポストカジノの山下ふ頭再開発に相応しい振り返りと言えます。 |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|------|-----------|--|
| 23 | 港北区 | 60歳代 | 寺島委員長は、明治維新、敗戦、現在、22世紀という時の流れを視野に入れて構想を立てていく、と発言していましたが、8月27日に行われた「みなとから考える横浜のまちづくり」シンポジウムの対談では、遙か昔に遡っての話が聞けました。〇〇氏は、生命誌研究の泰斗だけに、何と40億年の生き物の歴史から、〇〇氏にあっても、一万年前の縄文時代の地歴から説き起こす、という長大な時空を見据えての横浜のまちづくりが語られていました。「川の上にある」横浜の「内発的展開」の物語を紡いでいくという概念を堅持することで、「市民の共有財産」としての山下埠頭を巨大資本やデベロッパーの金儲けの場にはさせない。コモン、公共財の管理に市民が参画して行く。文化、芸術、子育て、介護等の分野で、幾世代にも亘って市民が手を加えながら、共同で使用して維持して行く。いわば現代版の入会地、里山のような一角を山下埠頭の付け根3haほどのところに設けていきたいものです。そこは、AIに負けない、生きものとしての人間の育成と再生が行われる場所でもあります。まちづくりに市民が主体的に参画することで地域主権主義に通じる市民自治を進めていく。 |
| 24 | 神奈川区 | 40歳代 | 地域の声を聴くというのは必要であるが、利害関係者の声が一番大きくなってしまふのは非常に良くないと思うので、委員の方が発現されていたように、学識で進めるのが良い。特に、当該地は港湾関係の方の影響が大きそうなので、これまでの関係性から見るに、行政がそちらの意見に引っ張られる可能性があると思います。 |
| 25 | 中区 | 40歳代 | 委員会の内容を後日確認することができ、とても良かったです。ありがとうございます。委員の方々の議論を聞いて、横浜全体の活性化に向けた議論がなされること、これからの世代にとっても誇れる開発につながることを期待しています。地域団体の参加について、まちづくりとして周辺エリアとの連携の必要性を考えると参加は必要と思いますが、委員の発言にありましたように、一部地域の利益のためといった議論にならないように、後々に事業に参加する可能性のある人や利益供与を疑ってしまうような人を委員とすることは、あって欲しくないと思います。 |
| 26 | 中区 | 40歳代 | 人口減、資材物価高騰、中国の景気衰退など加速する日本の衰退局面で未だに「横浜から世界を驚かせる発信ができる何か」を見出そうという考え方が良いのか悪いのか。カジノを嫌ったのではなくIRが必要ないと市民は判断したんです。向こう30年先の日本の技術力の復活を見出す、基礎研究が安心してできる研究開発の拠点と優秀な技術者、研究者を生み出す教育の拠点を山下埠頭跡地につくってほしい。 |
| 27 | 港北区 | 60歳代 | 9月8日に都市整備局臨海部活性化推進課が「水辺空間や歴史的資源の新たな活用による都心臨海部のにぎわい創出に向けた取組を実施します」を発表しました。この取組の上位計画には「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」があると思いますが、この取組と山下埠頭再開発計画との関係はどうなっているのか？ この取組が掲げる「インバウンドの促進や経済活性化」の視点、そして、当該の関内・関外地区を含む内港・都心臨海部全体、延いては横浜市全体のまちづくりをどうするかは山下埠頭再開発検討委員会でも取り上げられていた重要な論点です。縦割り行政の弊害と言ったものが出ているのかも知れません。やはり、上瀬谷の開発計画も取り込んだ、横浜市全体を俯瞰する都市デザイン構想を手掛ける庁内横断の総合的、調整的な組織作りが必要なのではないでしょうか。山下埠頭再開発検討委員会の答申内容も、過去から未来に続く横浜市のランドデザインを描くものとなる筈です。この答申を活かす受け皿として港湾局単独が相応しいかどうかは検討の余地がありそうです。 |
| 28 | 中区 | 80歳代 ～ | <ul style="list-style-type: none"> ・寺島委員長が示した「付加価値」「Fact Sheetで裏付け」「固定観念の打破」の3方針で議論が進むことに期待 ・Fact Sheetは横浜臨海部・港湾区域だけでなく東京湾全体の経済活動・ファンダメンタル及び自然環境・生態系の現状と課題、沿岸各地の再整備の動きを整理すべき ・東京湾全体の国際的・地球環境の視点から位置付けを再定義、その中で経済活動と自然生態系再生の視点から山下埠頭の位置付けを明らかに ・山下埠頭の新しい土地利用・導入機能の方向性・コンセプトだけでなく、その民主的決定プロセス（こうした意見聴取だけでなく市民連続シンポや複数案に対する市民投票など）事業体のあり方（市民や市内企業の参画、ポートオーソリテイのような横浜だけでなく川崎・東京・千葉を含む、港湾・羽田空港・臨港鉄道などインフラ全体を包括する事業体など仕組みの構想）も議論提言すべき |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-------|------|--|
| 29 | 神奈川区 | 60歳代 | 山下埠頭跡地に25000人収容のサッカー専用スタジアムの建設を希望します。三ツ沢は老朽化しており屋根もない。横浜国際競技場は陸上競技場であってトラックがありとても見辛い。川崎市、湘南地区にも専用スタジアムの構想があるのに人口370万の横浜市にサッカー専用スタジアムが無いのはおかしい。東京23区内にもスタジアム建設の構想があります。交通のアクセスも良く最高の条件が整っています横浜市に是非作って欲しい子供達にプロサッカーを近くで見させてあげたいです。 国際展示場、高層マンションは絶対にやめて欲しいです。 |
| 30 | 港北区 | 50歳代 | 横浜市は、このように公共性のない事業計画に、多額の補助金を入れています。財政難は少子高齢化のためとは思っていません。山下ふ頭はこのようにならないようお願いいたします。平成31年 平成31年度予算第一特別委員会 02月26日 ◆岩崎委員 ま横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発事業から伺います。本事業は、国家戦略特区等を適用して、容積率を500%から850%へ大幅に緩和しています。その上に市と国で40億円を超える補助金交付を予定しています。◎池本横浜駅周辺等担当理事 現時点での市街地再開発組合の事業計画書によりますと、総事業費は387億9000万円、そのうち本市からの補助金は国庫補助を含めて40億円としております。総事業費に占める補助金の割合は約10%でございます。権利者の総数は11名で、このうち法人の権利者が6社、個人の権利者が5名でございます。主な土地所有者と面積の割合でございますが、東京急行電鉄株式会社が約34%、株式会社相鉄アーバンクリエイツが約19%、株式会社キャピタルプロパティーズが約17%となっております。 |
| 31 | 中区 | 70歳代 | 明治から中区で4代目。中区が衰退して心を痛めています。開港記念バザー、仮装行列、花火大会、市役所など港みらい地区に移行。新山下再開発が横浜中心の山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画を望む。新山下は、アクセスが悪いので、地下鉄の根岸までの延伸、LRT、道路整備が緊急の課題、解決してほしい。 |
| 32 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | 1、委員長から「明治維新から77年、敗戦から77年、2023年から77年が21世紀最後の年、ここを見据えての『視界と構想力』が問われている」と発言。同感だ。委員会には、短期的利益追求の再開発プランではなく、長期的視界で横浜市民が生活の豊かさを感じ、横浜らしい個性のある持続可能な都市像と、山下ふ頭のあり方を構想する議論を要望する。それには、まずは開港以来の横浜の都市づくりの歴史をたどり、先人の精神と経験に学ぶべき。開港場として歴史に登場した横浜は、文明開化・日本近代化の先進都市として、さらに京浜工業地帯として発展。だが、関東大震災、横浜大空襲、米軍による接収の大災難に。先人たちは、それを乗り越え、今日の横浜を築いてきた。とりわけ飛鳥田市政以来の経験は、市民とともにつくる自治体主導の都市づくりの新たな地平を切り開いた。開港以来の都市づくりの経験から何を学び、何を活かすべきか明らかにすべきだ。併せて、日本はすでに人口減少、縮減時代、世界は国際秩序の動揺、気候危機など歴史的転換期、都市膨張も臨界点を迎える中、どのような「理念」「目標」を掲げて都市づくりをするのか、「構想力」が問われる。2に続く |
| 33 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | 2、そのような検討委員会の課題に照らせば、事務局が用意した「資料3 山下ふ頭の概要」は、はなはだ不十分。これまでの横浜の都市づくりの資料が提供されていない。「不適切」なのは、「既往計画」として「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」(2015年2月策定)だけが唯一の「計画」であるかのように提供されている。その23ページ、34ページにはIR、カジノが明記されている！カジノが市民の声によって撤回させられた経緯を踏まえるなら、「再生マスタープラン」は再検討すべき対象として扱うべきではないか。その際に、「再生マスタープラン」作成時に事実上棚上げされた「次なる50年 横浜は海都へー都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書(2010年)を追加資料として提供すべきである。「ファクトを重視すべき」と言うのなら、加えて「港町 横浜の都市形成史」(企画調整局1981年)、カタログ「都市デザイン横浜 個性と魅力あるまちをつくる」(都市デザイン50周年事業実行委員会、都市整備局、2022年)を事務局から提供すべき。3に続く。 |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-------|------|--|
| 34 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | 3、再開発の「方向性」を検討するからには、瑞穂ふ頭、米軍基地ノース・ドックへの揚陸艇部隊配備問題の議論を避けて通るべきではない。瑞穂ふ頭は、インナーハーバーの中心部に位置し、「活力ある横浜を担う大きなポテンシャルを有している」。それゆえこれまで、行政、市会、市民が一体となって「早期全面返還」を求めてきた。ところが、1月日米2+2で、ノース・ドックへの実戦部隊の配備が「決定」、4月から開始。瑞穂ふ頭は、インナーハーバーの真正面に見える「顔」。山下ふ頭は、米軍が瑞穂ふ頭を永く使うために急造成したもの。この事実をご存じか？50年後も米軍艦船が居座り続ける様はおよそ主権国家にあるまじき姿で、次の世代に残すわけにはいかない。横浜の未来の前に立ち塞がる最大の障害物、戦争を引き寄せかねない「無法危険地帯」となっている。ノース・ドックへの部隊配備撤回、即時返還の明確な態度を打ち出すべき。「米国の要請で国が決めたことだから従うしかない」という態度では、検討委員会としての見識が疑われる。4に続く。 |
| 35 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | 4の1、委員長から、「市民参画のあり方」について「意見を述べるだけでなく、メンテナンスと方向付けに責任を担うべき」との発言があった。もっともである。「市民参画のあり方」は、「再開発」の「方向性」にかかわる1丁目1番地の問題。なぜなら第一に、市民の都市づくりへの関心はかつてなく高まっている。都市デザイン横浜展への参加者が1万人を超えたこと、市民意見募集の回答数が1回目3721件、2回目1284件、意見交換会への参加者も221人、172人。まずこの事実をしっかりと受け止めていただきたい。第二に、市民の中には検討委員会学識者メンバーに伍して「再開発」の「方向性」を議論できる人材がおり、「責任を担える」市民がいるという事実。飛鳥田市政以来の先進的な都市づくりの活動は、市民が誇れるまちをつくってきただけでなく、それを担い、参画してきた人材をも生み出す。都市デザインを担った商店街を含む担い手、大学人、建築家、BankART1929や「創造界限」のクリエイター、アーティスト、横浜運河チャレンジ・濱橋会、関内まちづくり振興会等々、多士済々の老若男女がいる。4の2に続く。 |
| 36 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | 4の2、その中には、こうした知見と経験をもつ市民を集め、市民による市民のための山下ふ頭のあり方を提言し、参画していこうとする意欲的な動きも出てきている。(例えば「山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」プロジェクト)。したがって、検討委員会として心すべきは、「市民の参画」を「再開発」の「方向性」の柱に据えて、こうした市民の知見と力に頼ることではあるまいか。他方で、市民は本来なら検討委員会に「市民」が参加して当然であるが、そうっていないこと。「参考資料」として提供された、2回にわたる市民意見募集、市民意見交換会の「まとめ」の仕方も機械的で、「市民の参画」という言葉に疑問を持っている。検討委員会としては、市民の中にこうした危惧があることを認識し、「市民の参画」をどのように保障していくのか、きちんとした「方向性」を示してもらいたい。5に続く。 |
| 37 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | 5、議事(3)の「地域関係団体の参加について」は、議論があり、検討課題として残った。われわれは、いわゆる「村人」(地域の中小事業者など)というべき「地域関係団体」の参加問題は、本来「市民」の参加問題と並んで前向きに議論されるべきだと考える。しかし、委員からの発言があり、検討委員会が利益調整組織にならないよう、独立した自由な議論を保障するために、参加時期など考慮すべきであろう。また、意見聴取の仕方を含め検討すべきである。 |
| 38 | 中区 | 40歳代 | 私は横浜市内でクラフトビール製造会社を営んでいる〇〇株式会社・〇〇と申します。山下ふ頭のIR計画が消えた際に、横浜にインバウンドを招致する為に魅力的な街をつくるべきと真っ先に考えました。そこで弊社では、ビール工場に加え、ウイスキー蒸溜所(兼スピリッツ製造)、ビアホールを一ヶ所に集合させた一大テーマパークをつくる構想の着案に至りました。同じ貿易港のアメリカ・シアトルでのクラフトビールとクラフトウイスキー業界は、2017年以降大きな盛り上がりを見せており、醸造所や蒸溜所の数も年5-10軒ペースで増え続けております。ビール工場やウイスキー蒸溜所の見学ツアーも人気を集めており、シアトル北部のワイン醸造所の人気も重なり、世界中から観光客が押し寄せる街となっております。横浜もシアトルのように可能性を秘めた都市であり、2012年頃から盛り上がりを見せているクラフトビールを中心に、横浜初のウイスキー蒸溜所を併設し、更にドイツ・ミュンヘンのようなビアホールを構えれば、日本初のビールテーマパークが完成します。横浜の新しい観光スポット構築を、是非弊社に提案させてください。 |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|--|
| 39 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その1】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課長 殿 〇〇会会員〇〇 (60代男 鶴見区在住) 標記、「山下ふ頭再開発検討委員会」(以下、「検討委」という)の第1回会合が開催され話合われた内容等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。「検討委」におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受入れ、第2回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。 ▼今般提起されている、「山下ふ頭の再開発」問題は、単に山下ふ頭に限った「再開発」ではなく、横浜の顔とも言い得る横浜港全体の街づくりの一環である、と位置づける必要があると考える。したがって、臨海部の他の地域との融合性・一体性・相互関連性を欠いた「再開発」は考えられないだろう。 ー以下続く</p> |
| 40 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その2】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課長 殿 〇〇会会員〇〇 (60代男 鶴見区在住) 標記、「山下ふ頭再開発検討委員会」(以下、「検討委」という)の第1回会合が開催され話合われた内容等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。「検討委」におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受入れ、第2回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。 ▼今般提起されている、「山下ふ頭の再開発」問題は、単に山下ふ頭に限った「再開発」ではなく、横浜の顔とも言い得る横浜港全体の街づくりの一環である、と位置づける必要があると考える。したがって、臨海部の他の地域との融合性・一体性・相互関連性を欠いた「再開発」は考えられないだろう。</p> |
| 41 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その2】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課長 殿 〇〇会会員〇〇 (60代男 鶴見区在住) ▼私たち市民は、前市長によるカジノ「白紙の撤回」以降、カジノを止めるべく様々な運動を展開してきた。そして、2年前の市長選挙で、カジノ誘致反対の新市長を選出した。この下での山下ふ頭再開発であることを踏まえれば、カジノに関わるすべての要素は、本「検討委」だけでなく、山下ふ頭再開発事業＝横浜港の街づくりから排除されなければならない。 ▼まず最初に、本件「山下ふ頭再開発」を取組むにあたって市当局は、「都心臨海部再生マスタープラン」を「既往計画」「上位概念」に祭上げている問題がある。この「マスタープラン」は、横浜市においてカジノに言及した最初の「公式文書」だと言われている。このような、カジノを大前提とした「計画」がいまだに横浜市の街づくりの基礎に居座っていることが最大の誤りであり、事業進行の障害・矛盾となっている。「マスタープラン」と、「山下ふ頭再開発」との関係としては、</p> |
| 42 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その3】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課長 殿 〇〇会会員〇〇 (60代男 鶴見区在住) ①「山下ふ頭再開発」を取組む前に、「マスタープラン」の改訂を実施する、かあるいは、②「マスタープラン」を脇におき「山下ふ頭再開発」を進める。③この論議を無視し、本論議にかかわらず、このまま(なにごとくも無かったかのように)「マスタープラン」を下敷きに「山下ふ頭再開発」を押し進める——ことであろう。①ならば、「山下ふ頭再開発」がなるまでにはさらなる時間が掛かる。②ならば、事業進行は比較的スムーズに進むであろう。だが、横浜市全体の、少なくとも横浜「都心臨海部」の(再)開発の一体性等に齟齬が生じる可能性が。また③とするなら、「山下ふ頭再開発」にいつまでも、「マスタープラン」がはらむカジノ導入のカゲがついて回ることになる。 さて、横浜市民の審判を受けて「検討委」の委員に選任されたわけではない、委員にこの結論が出せるのであろうか。</p> |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|--|
| 43 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その4】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室山下ふ頭再開発調整課長 殿 ○○会会員○○ (60代男 鶴見区在住) ▼次は「検討委」の中に紛れ込んだ「カジノ推進派」の問題である。第1回検討委において、「IR=カジノと捉えたのが、不幸の始まり」との趣旨の発言をした委員が2人いた。そんなことはありません。横浜市民は「不幸」など感じておらず、むしろ「IR=カジノ」と見破ったからこそ、林氏を市長の座から引きずり下ろし、カジノ反対の新市長の選出に成功したことは、前述のとおりである。今般「検討委」に選任された委員の中に「カジノ推進派」が紛れ込んだことは既述のとおりだが、当該委員がカジノ問題の決着前(21.8)に横浜市民あてに(?)発言・発信していた。曰く、「IRのチャンスを横浜に呼び込まなかった際には、その不作為の責任はだれが取るのか、横浜は後悔しないように、試算データや、プレゼン資料をもとに、徹底的にメリット、デメリットを議論すべき」と挑戦的に語っていた。</p> |
| 44 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その5】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室山下ふ頭再開発調整課長 殿 ○○会会員○○ (60代男 鶴見区在住) 私たち市民にこのような愚かな質問に答える義務などあるわけがない。しかし、本検討委の委員に押込もうと画策した市港湾局にはその義務があるかどうかは不明である。だが少なくとも、当該「カジノ推進派」委員候補は、港湾局から委員就任を要請された際、前記同様の質問を發したのであろう。一方、市港湾局においては、当該「カジノ推進派」委員候補に対して、どのような「回答」をしたのか、を明らかにすべきであろう。▼当方は、「山下ふ頭再開発」は、横浜港全体の街づくりの一環と述べた。ここで問題となるのが、瑞穂ふ頭である。同ふ頭内にあるいわゆるノースドックの存在だ。市(市会、市民、行政)はこれまで、当該地域の「早期・全面・無条件返還」を求めてきた。これは、横浜の未来の前に立ち塞がる最大の障害物だからである。在日米軍艦船が居座り続ける様は主権国家には到底ありえない姿である。ましてや、この状況を次の世代に残すわけにはいかない。</p> |
| 45 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その6】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室山下ふ頭再開発調整課長 殿 ○○会会員○○ (60代男 鶴見区在住) 本「検討委」が横浜港のみならず、東京湾全体の姿を構想するのに依存はないが、それよりもはるかに前に、横浜港内の「他国による支配」が存在することの異常さに目を向けてもらいたい。▼最後に、検討委がすでに始まってしまった今となつては、「後講釈」なのだろうが、同検討委に最初から、市民代表を参加させて欲しかった。新市長に代わってから、「市政に市民の声を反映させる」姿が目に見えるようになってきた。本「検討委」構成の大半は、横浜の「外」の人間によるもの。こうした「外」の人間だけで、横浜の、横浜港の将来像を勝手に方向づける、という姿は美しいのだろうか。常識人であれば答えは自ずから出るはずである。——以上、検討委のなかで真剣に議論していただきたい。</p> |
| 46 | 旭区 | 60歳代 | <p>約6割以上の市民がカジノ誘致反対を意思表示したことを大前提に山下埠頭開発を進めるべきだ。本来は横浜市文化と観光を恒久的に維持するためには、企業中心の開発事業ではなく市民生活や地域産業にも依拠した開発を検討するべきで、横浜や神奈川の特産品や海鮮市場などが販売できる横浜観光マーケットがあると良い。地球温暖化阻止のための施設(太陽光やバイオマスなど?)も必要で、埠頭内の交通手段は電気自動車・バスにできないか?路面電車などは横浜観光にも貢献できないか?横浜の知的財産を確保するための国際図書館や大学機関の誘致も検討してもらいたい。また、若者たちが活躍できるような競技施設(国際大会可能な)や緑豊かな公園があれば市民の意向の場となる。これまでに、山下埠頭開発の市民参加の意見交換会や市民意見を募集してきた経過からも、再開発検討委員会に市民の意見が十分に反映されるべきで、市民代表なども検討委員会に参加できないか?最後にノースドック(瑞穂埠頭)に米軍揚陸艇部隊が配備されたが、横浜港の安全と平和に対して危険なものとなっているので、ノースドック早期返還を求めたい。○○会・○○</p> |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|---|
| 47 | 港北区 | 70歳代 | <p>カジノを止めた横浜市民の一人として、山下埠頭の利用について国策であるカジノを横浜市が駄目だと決定したことを、将来世代にシッカリと伝えるビジョンが無ければ意味をなさない、学識者会合委員長の寺島氏はスッポリとこのコンセプトが抜け落ちて経済・産業界での視野しかないことを露呈しています。山下埠頭を事業性だけで考える事では駄目です、どんな事業が永続性のある事業であるか誰も判らない、金儲けが先行するのではなく先ず市民が生活し、水辺で暮らしていく山下埠頭の利用を視野に入れる事が肝要です。2013年4月1日付で平原副市長は都市整備局の担当理事兼副局長から都市整備局長に就任、2013年度 庁内検討会議を設置し2014年3月「都心臨海部再生マスタープラン審議会」を設置し「都心臨海部再生マスタープラン」は、「インナーハーバー構想」を棚上げにしカジノ導入を先導し「IR(統合型リゾート)の導入」が明記され、4月25日の第2回審議会等で議論されていることを承知している市民として、何故今回の会合で2015年9月「山下ふ頭開発基本計画」だけが委員会に配布されたのか疑問を禁じ得ない。 追加で配信します。</p> |
| 48 | 港北区 | 70歳代 | <p>74402046の続きです。本来学識経験者が十分に検討した経済観光・港湾委員会資料平成22年5月20日港湾局「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書、『都心臨海部・インナーハーバー整備構想の検討状況』の資料エリア別構想(全体配置図)を含む内容をチェックすれば『都心臨海部再生プラン』のお粗末さが一目瞭然です。論議の中で欠落してはいけないのは瑞穂埠頭米軍の基地がど真ん中にある現実、本来生活の場に不要な基地について撤去しなければ平和な市民自治が損なわれることの認識が不可欠です。国の案件だと放置しては安全な港湾都市とは云えません。いずれにしてもこれからの若い人々を世界の港湾都市に5人一組で10組ほど視察に派遣し若い人の感性を取り組むことが不可欠でしょう。そして市民参加の各種形態を入れ込んでいくことに集中していければと思慮します。</p> |
| 49 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【1】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 □□会会員 □□ (60代 男 鶴見区在住) 標記、「山下ふ頭再開発検討委員会」(以下、「検討委」という)の第1回会合が開催され話合われた内容等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。「検討委」におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受入れ、第2回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。▼今般提起されている、「山下ふ頭の再開発」問題は、単に山下ふ頭に限った「再開発」ではなく、横浜の顔とも言い得る横浜港全体の街づくりの一環である、と位置づける必要があると考える。したがって、臨海部の他の地域との融合性・一体性・相互関連性を欠いた「再開発」は考えられないだろう。 つづく</p> |
| 50 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【2】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 □□ (60代男 鶴見区在住) ▼私たち市民は、前市長によるカジノ「白紙の撤回」以降、カジノを止めるべく様々な運動を展開してきた。そして、2年前の市長選挙で、カジノ誘致反対の新市長を選出した。この下での山下ふ頭再開発であることを踏まえれば、カジノに関わるすべての要素は、本「検討委」だけでなく、山下ふ頭再開発事業＝横浜港の街づくりから排除されなければならない。▼まず最初に、本件「山下ふ頭再開発」を取組むにあたって市当局は、「都心臨海部再生マスタープラン」を「既往計画」「上位概念」に「祭上げ」している問題がある。この「マスタープラン」は、横浜市においてカジノに言及した最初の「公式文書」だと言われている。このような、カジノを大前提とした「計画」がいまだに横浜市の街づくりの基礎に居座っていることが最大の誤りであり、事業進行の障害・矛盾となっている。「マスタープラン」と、「山下ふ頭再開発」との関係としては、 つづく</p> |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|--|
| 51 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【3】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○ (60代男 鶴見区在住) ①「山下ふ頭再開発」を取組む前に、「マスタープラン」の改訂を実施する、かあるいは、②「マスタープラン」を脇におき、「山下ふ頭再開発」を進める。③この論議を無視し、本論議にかかわらず、このまま(なにごとくも無かったかのように)「マスタープラン」を下敷きに「山下ふ頭再開発」を押し進める——ことであろう。①ならば、「山下ふ頭再開発」がなるまでにはさらなる時間が掛かる。②ならば、事業進行は比較的スムーズに進むであろう。だが、横浜市全体の、少なくとも横浜「都心臨海部」の(再)開発の一体性等に齟齬が生じる可能性が。また③とするなら、「山下ふ頭再開発」にいつまでも、「マスタープラン」がはらむカジノ導入のカゲがついて回ることになる。さて、横浜市民の審判を受けて「検討委」の委員に選任されたわけではない、委員にこの結論が出せるのであろうか。 つづく</p> |
| 52 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【4】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○ (60代男 鶴見区在住) ▼次は「検討委」の中に紛れ込んだ「カジノ推進派」の問題である。第1回検討委において、「IR=カジノと捉えたのが、不幸の始まり」との趣旨の発言をした委員が2人いた。そんなことはありません。横浜市民は「不幸」など感じておらず、むしろ「IR=カジノ」と見破ったからこそ、林氏を市長の座から引きずり下ろし、カジノ反対の新市長の選出に成功したことは、前述のとおりである。今般「検討委」に選任された委員の中に「カジノ推進派」が紛れ込んだことは既述のとおりだが、当該委員がカジノ問題の決着前(21.8)に横浜市民あてに(?)発言・発信していた。曰く、「IRのチャンスを横浜に呼び込まなかった際には、その不作為の責任はだれが取るのか、横浜は後悔しないように、試算データや、プレゼン資料をもとに、徹底的にメリット、デメリットを議論すべき」と挑戦的に語っていた。 つづく</p> |
| 53 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【5】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○ (60代男 鶴見区在住) 私たち市民にこのような愚かな質問に答える義務などあるわけがない。しかし、本検討委の委員に押込もうと画策した市港湾局にはその義務があるかどうかは不明である。だが少なくとも、当該「カジノ推進派」委員候補は、港湾局から委員就任を要請された際、前記同様の質問を發したのであろう。一方、市港湾局においては、当該「カジノ推進派」委員候補に対して、どのような「回答」をしたのか、を明らかにすべきであろう。 ▼当方は、「山下ふ頭再開発」は、横浜港全体の街づくりの一環と述べた。ここで問題となるのが、瑞穂ふ頭である。同ふ頭内にあるいわゆるノースドックの存在だ。市(市会、市民、行政)はこれまで、当該地域の「早期・全面・無条件返還」を求めてきた。これは、横浜の未来の前に立ち塞がる最大の障害物だからである。在日米軍艦船が居座り続ける様は主権国家には到底ありえない姿である。ましてや、この状況を次の世代に残すわけにはいかない。 つづく</p> |
| 54 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【6】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○ (60代男 鶴見区在住) 本「検討委」が横浜港のみならず、東京湾全体の姿を構想するのに異存はないが、それよりも前に、足元=横浜港内の、しかももっとも重要な部分を、寺島委員長ではないが「戦後77年」(2023年を基準にすれば78年だが)の今に至っても、「他国による支配」が存在することの異常さに目を向けてもらいたい。 ▼最後に・・・。検討委がすでに始まってしまった今となつては、「後講釈」なのだろうが、同検討委に最初から、市民代表を参加させて欲しかった。新市長に代わってから、「市政に市民の声を反映させる」姿が目に見えるようになってきた。本「検討委」構成の大半は、横浜の「外」の人間によるもの。こうした「外」の人間だけで、横浜の、横浜港の将来像を勝手に方向づける、という姿は美しいのだろうか。常識人であれば答えは自ずから出るはずである。 —— 以上、検討委のなかで真剣に議論していただきたい。 おわり</p> |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|----|-----------|--|
| 55 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見 1 横浜市栄区〇〇 〇〇</p> <p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見・感想を下記のとおり述べます。なお、受信されたらその旨、お知らせください。 1. 同検討委員会学識者会合について記者発表がなされたうえ、そのネット中継と録画が公開され、意見・感想の募集が行われているのはある程度評価できる。しかし、横浜市はかつて山下ふ頭にカジノを含むI R誘致を計画し、6割を超える市民の反対を無視しながら計画を強行しようとしたが、市民は選挙でカジノ反対の市長を選びこの計画が完全に葬り去られたことは、記憶に新しいところである。ところが、この市民の関心が非常に高い山下ふ頭の再開発計画と同委員会に対する意見募集については「広報よこはま」に記載がなく、市民への正式な周知がなされていない。</p> |
| 56 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見 2 横浜市栄区〇〇 〇〇 これらについて「広報よこはま」に記載し、市民への周知徹底を図るべきである。関連で、都市整備局がそのまとめを主管した「横浜IRの誘致に係る取組の振り返り」においても、中間報告とそれへの市民意見募集及び最終報告について記者発表も行われず、市のHPに記載されているのみである。そのうえ「広報よこはま」にそれらの記載がなく、市民への正式な広報がなされていない。港湾局の体質も同様に主権在民からほど遠いものではないかと疑われる。 2. 山下ふ頭の再開発を同学識者会合で検討するにあたっては、下記の諸項目を勘案し、瑞穂ふ頭の在り方についても十分討議いただきたい。</p> <p>(1) 一昨年から昨年にかけて行われた「内港地区の将来像の検討と山下ふ頭再開発の事業計画策定に向けた市民意見募集」においては、瑞穂ふ頭地区や東神奈川臨海部周辺地区をも含め、内港地区全体が視野に入れられており、市民意見集約結果には同区域に関し多様な意見が寄せられている。</p> |
| 57 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見 3 横浜市栄区〇〇 〇〇 この市民の意思を十分に尊重すべきである。 (2) 瑞穂ふ頭の米陸軍基地増強がすでに開始されており、有事において瑞穂ふ頭（ノースドック）は攻撃の対象となり得る。再開発にあたっては、同地区の産業構造が云々されているが、同じ港湾内に存在する軍事基地問題をいかに解決するか先決であるといえる。市民の安全を一義的に担う横浜市として、狭い港湾内に米陸軍基地を擁していることを重く受け止め、返還要求を含めた議論が必要である。特別自治市を標榜する横浜市は、安全保障問題は国が扱うものとして避けて通るのではなく、市民の安寧な生活確保のためにミュニシパリズムを発揮していただきたい。</p> |
| 58 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見 4 横浜市栄区〇〇 〇〇 3. 政府は交付金支給の匙加減で地方自治体を統制し、財政状況の向上は自治体の自己責任であると位置づけ、ふるさと納税制度などを押し付けてきている。しかし、自治体の税収の規模は、人口の多寡や産業構造によって大きく左右され、本来、所得税や消費税を得ている国が適正に交付金を配分すれば、人口が減少していく中、財政改善のための住宅開発やテーマパークづくりなど、不要な競争は必要ないと考えられる。そこで、再開発計画を検討するにあたって同会合では、次の諸項目に留意いただきたい。</p> <p>(1) 度重なる地方分権改革で、国と地方の関係が上下・主従の関係から対等・協力の関係に変革されたはずであり、横浜市は堂々と人口の規模等に見合った適正な交付金を国に要求すべきである。</p> |
| 59 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見 5 横浜市栄区〇〇 〇〇 (2) 事業性や収益性に捉われるのではなく、横浜市民にとって快適なまちづくりを目指すべきである。観光収入を考慮するあまり、テーマパークのようになった街は魅力に欠ける。快適な生活環境を追求した結果、味わいのある街が出来上がるという形が望ましい。 (3) かつて、明石市の駅前開発において、市の収益が見込まれるパチンコ店などが計画されたが、これを取りやめ図書館と市民から要望があった子育て支援施設をつくったところ予測に反し、波及効果で訪れる市民が増え、駅前が猥雑化することなく、活性化したという実例がある。パチンコ店誘致の例では、横浜市がカジノ誘致を試みたことが想起されるが、このような例も視野に入れ計画を検討していただきたい。</p> |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|-----------|--|
| 60 | 栄区 | 80歳代 ～ | 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見 6 横浜市栄区〇〇 〇〇 4. 最近、横浜市ではとみに高層建築が増加しており、同再開発においても高層建築物が計画される可能性が高い。そこで次の要点を視野に街づくりを検討していただきたい。(1) 首都直下型地震は30年以内に70%の確率、南海トラフ地震は40年以内に90%の確率で発生が予測されている。このような巨大地震に対する高層建築物の耐震性能については未知数であり、倒壊はしないまでも上下水道や電気ガスなどのエネルギー供給に支障をきたさないという保証はない。このような巨大地震が起きた場合、長期間にわたって街の機能が麻痺してしまうことが十分考えられる。 |
| 61 | 栄区 | 80歳代 ～ | 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見 7 横浜市栄区〇〇 〇〇 (2) 横浜市の震災対策は、想定される最大級の地震を見込んでおらず、神奈川県が想定している地震より小さい地震にしか対応していない。ちなみに震災対応を比較すると、神奈川県が想定している地震被害における死者数は、9,510人(津波によるものを除く)であるのに対し、横浜市のそれは3,260人で大差がある。すなわち、これは消火・救急・避難所・食料確保などの被災時の対応が、最悪の事態を想定したものになっていないことを意味している。 以上 |
| 62 | 港北区 | 50歳代 | 令和5年2月7日。井上市議の質疑に山中市長は「これらの御指摘をしっかりと受け止め市民の皆様御意見を伺い、透明性の高いプロセスを経ながら再開発の新たな事業計画の策定を進めてまいります。」と答えました。そもそも検討委員会を作るということが、市民にとっては、市民の締め出しです。有識者の中に横浜市影の市長。平原副市長は懐刀とよばれる〇〇のブレン。〇〇氏が、入っています。公平に選んだとは言えません。他にもカジノに対して賛成な方がいます。山中市長は、カジノ誘致の振り返りで厳しい意見を聞いたと言っていますが、国会にも呼ばれた〇〇氏がギャンブル依存症の対策が足りないと言っています。ギャンブル依存症なら寿診療所に聞いてください。横浜市は、いつも聞く相手が恣意的です。カジノに限らず、市民の意見が通ったことがない。ひどい茶番です。また、運営に、地元の権力者である。〇〇の協会(山下埠頭の再開発に対する提案、具体化を図ることを目的とした)の創立者である〇〇氏に委員に入ってもらおうよう打診、内諾とは、言語道断。 |
| 63 | 磯子区 | 30歳代 | IRの構想を是非復活させて欲しいです。残念ながら撤回されてしまいましたが、〇〇さんが以前に出されていたIR施設の完成予想図は素晴らしいものでした。それが無理なら、せめてありがちで他と被るものではなく、日本でここ独自というものを用意していただきたいです。国際展示場やアリーナ、ホテル等では既に供給過多で他と競合してしまい大きな経済効果は見込めないと思います。以前にスポーツベッティングの構想があるというのを見掛けましたが、それには興味があります。また、海側から見た際の景観も気になる所です。みなとみらいから綺麗なスカイラインを描くためにはやはり超高層ビルは不可欠かと考えております。斬新で革新的なアイデアに期待しています! |
| 64 | 旭区 | 40歳代 | 山下ふ頭にスポーツベッティングを取り入れないで下さい。カジノIRは市民の民意により反対されました。「スポーツ」という名目でも賭博は必要ありません。やめてください。 |
| 65 | 旭区 | 40歳代 | 2021年の市長選で、現市長の山中竹春氏の強力な応援者として〇〇氏がいました。市長は「透明性を確保して山下ふ頭の検討を進める」と繰り返していますが、委員のメンバーだけでもすでに透明性がありません。なぜこの人がメンバーに入っているのかと疑問に思うような人ばかりです。市民とのワークショップの内容を中心に検討を進めるようにしてください。また、委員の中に一般市民も複数名入れて下さい。 |
| 66 | 磯子区 | 60歳代 | 将来の子どもたちに負の遺産は残したくありません。スポーツ賭場とか賭け事は絶対ダメですよ! 青い空、青い海を感じることも出来る場所にして下さい。カジノを推進していたと思われる方が名を連ねているのが残念ではありません。そして、何故一市民がメンバーに入れてもらえないのか。委員会に欠席した人の理由は市民には知らされないのは何故か? |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|----|-----------|--|
| 67 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に対する意見・感想を下 記のとおり述べます。なお、受信されたらその旨、お知らせください。 1. 同検討委員 会学識者会合について記者発表がなされたうえ、そのネット中継と録画が 公開され、意 見・感想の募集が行われているのはある程度評価できる。 しかし、横浜市はかつて山 下ふ頭にカジノを含むI R誘致を計画し、6割を超える市民 の反対を無視しながら計画を 強行しようとしたが、市民は選挙でカジノ反対の市長を選び この計画が完全に葬り去られ たことは、記憶に新しいところである。 ところが、この市民の関心が非常に高い山下 ふ頭の再開発計画と同委員会に対する意 見募集については「広報よこはま」に記載がな く、市民への正式な周知がなされていない。 これらについて「広報よこはま」に記載し、 市民への周知徹底を図るべきである。</p> |
| 68 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 関連で、都市整備局がそのまとめを主管した「横浜IRの誘致に係る取組 の振り返り」 においても、中間報告とそれへの市民意見募集及び最終報告について記者発 表も行われ ず、市のHPに記載されているのみである。そのうえ「広報よこはま」にそれら の記載が なく、市民への正式な広報がなされていない。港湾局の体質も同様に主権在民か らほど遠いものではないかと疑われる。 2. 山下ふ頭の再開発を同学識者会合で検討す るにあたっては、下記の諸項目を勘案し、 瑞穂ふ頭の在り方についても十分討議いただき たい。(1) 一昨年から昨年にかけて行われた「内港地区の将来像の検討と山下ふ頭再開 発の 事業計画策定に向けた市民意見募集」においては、瑞穂ふ頭地区や東神奈川臨海部周 辺 地区をも含め、内港地区全体が視野に入れられており、市民意見集約結果には同区域に 関し多様な意見が寄せられている。</p> |
| 69 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 この市民の意思を十分に尊重すべきである。(2) 瑞穂ふ頭の米陸軍基 地増強がすでに開始されており、有事において瑞穂ふ頭(ノース ドック)は攻撃の対象と なり得る。 再開発にあたっては、同地区の産業構造が云々されているが、同じ港湾内に存 在する軍事 基地問題をいかに解決するか先決であるといえる。 市民の安全を一義的に担 う横浜市として、狭い港湾内に米陸軍基地を擁していることを重く 受け止め、返還要求を 含めた議論が必要である。 特別自治市を標榜する横浜市は、安全保障問題は国が扱うもの として避けて通るのではなく、 市民の安寧な生活確保のためにミュニシパリズムを発揮し ていただきたい。</p> |
| 70 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 3. 政府は交付金支給の匙加減で地方自治体を統制し、財政状況の向上 は自治体の自己 責任であると位置づけ、ふるさと納税制度などを押し付けてきている。 しかし、自治体の税収の規模は、人口の多寡や産業構造によって大きく左右され、 本来、 所得税や消費税を得ている国が適正に交付金を配分すれば、人口が減少していく中、 財政 改善のための住宅開発やテーマパークづくりなど、不要な競争は必要ないと考えられる。 そこで、再開発計画を検討するにあたって同会合では、次の諸項目に留意いただきたい。 (1) 度重なる地方分権改革で、国と地方の関係が上下・主従の関係から対等・協力の関係 に変革されたはずであり、横浜市は堂々と人口の規模等に見合った適正な交付金を国に 要 求すべきである。</p> |
| 71 | 栄区 | 80歳代 ～ | <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 (2) 事業性や収益性に捉われるのではなく、横浜市民にとって快適な まちづくりを目指すべきである。観光収入を考慮するあまり、テーマパークのようになっ た街は魅力に欠ける。 快適な生活環境を追求した結果、味わいのある街が出来上がるとい う形が望ましい。(3) かつて、明石市の駅前開発において、市の収益が見込まれるパチ ンコ店などが計画 されたが、これを取りやめ図書館と市民から要望があった子育て支援施 設をつくったところ 予測に反し、波及効果で訪れる市民が増え、駅前が猥雑化することな く、活性化したという 実例がある。 パチンコ店誘致の例では、横浜市がカジノ誘致を試 みたことが想起されるが、このような 例も視野に入れ計画を検討していただきたい。</p> |

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|----|-----------|--|
| 72 | 栄区 | 80歳代 ～ | 港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 4. 最近、横浜市ではとみに高層建築が増加しており、同再開発においても高層建築物が計画される可能性が高い。そこで次の要点を視野に街づくりを検討していただきたい。(1) 首都直下型地震は30年以内に70%の確率、南海トラフ地震は40年以内に90%の確率で発生が予測されている。このような巨大地震に対する高層建築物の耐震性能については未知数であり、倒壊はしないまでも上下水道や電気ガスなどのエネルギー供給に支障をきたさないという保証はない。このような巨大地震が起きた場合、長期間にわたって街の機能が麻痺してしまうことが十分考えられる。 |
| 73 | 栄区 | 80歳代 ～ | 港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 (2) 横浜市の震災対策は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を見込んでおらず、神奈川県が想定している地震より小さい震度にしか対応していない。ちなみに、両自治体とも減災目標として死者数の半減を目指しているが、それを比較すると、横浜市が想定している津波によるものを除く死者数は3,260人であり、神奈川県が想定している横浜市内におけるそれは9,510人であり、大差がある。この差は、横浜市の想定する地震の震度が神奈川県よりも一段階程度小さいことに起因している。(添付の「神奈川県と横浜市が想定する横浜市内における地震の震度分布の比較」参照) |
| 74 | 栄区 | 80歳代 ～ | 港湾局 山下ふ頭再開発調整室 山下ふ頭再開発調整課 御中 横浜市栄区〇〇 〇〇 すなわち、死者数は建物の倒壊、火災発生、がけ崩れ、道路破壊などの震災被害の規模を表しており、横浜市の震災対策は消火、救急、避難所・仮設住宅、食料・飲料水備蓄などにおいて、最悪の事態を想定したものになっていないことを意味している。増加している高層建築の火災対応や居住者救助、被災後の居住場所確保など横浜市の震災対応は、果たして行き届いているのだろうか？ 以上 |
| 75 | 西区 | 60歳代 | 横浜があらゆる世代にとって魅力的であり続けるために山下埠頭再開発地域に横浜市民の象徴的な場所としての多機能図書館を提案します。教育水準と国民の幸福度が高い北欧には、子どもからお年寄りまで誰もが居心地よく過ごせるようデザインされた多機能図書館が発展しています。私は横浜市全体の中で人、もの、ことが魅力的につながる場所が必要だと考えました。横浜港の眺望を仰ぎリラックスしながら滞在できる施設で、自らの思いや想像を巡らせるプライベート空間に、共有スペースではグループで話し合うことも可能でミーティングなどに活用できるスペースも多数用意します。多様な意見の存在を知りよりよい共通項を積み上げていく経験は、高等教育や社会に出てからも有用な力となります。子育て中の家族が気兼ねなく演劇や音楽を楽しむことができるホールも併設し、自由な発想で造形活動ができる(幼児の造形活動から創造力を育む: レッジョ・エミリア教育)施設も併設します。絵本や児童書はふれあい重視の紙媒体とし、分野によってはデジタルアーカイブ的な方法で学習や検索ができるようにします。PCや先端機器を時間貸し、環境に恵まれない子も使えるようにします。 |
| 76 | 西区 | 60歳代 | 有識者会議の方達のご意見の中から、市の中心地の中にありながら、山下公園との繋がりも含めた公園のような自然が保全されたスペースを保つことの重要性についてご提案があり、私も賛成だと思いました。山下埠頭寄りの部分は公園の延長のような広場と屋根付きのオープンスペースに、マルシェやイベント開催など、横浜市内18区の人、物、こと(経験)が繋がるような仕組みを持たせたいと考えました。また、一部の方が、市民からは大きな意見が出ないと言ったご意見があったかと思いますが、直前に提示させていただいた多機能図書館も含めて、市民が幸せな生活を営んでゆくために、夢や希望を抱きながらものを考えるスペースを作っていくことの重要性を提案したいと思います。若者の自殺が多く、ジェンダーギャップ指数が145ヶ国中125位と残念な結果だった日本は、裏を返せば、この問題改善で幸せ度急浮上の可能性を秘めているとも言えます。みなとみらい地区にグローバル企業の本社や研究機関が集まっているという利点を生かし、企業が海外で蓄積してきた経験を地域に生かしてもらおう場を設け、市民との交流から活性化につなげられれば幸いだと考えております。 |

| | 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|----|----|------|---|
| 77 | 南区 | 70歳代 | <p>1127-1) ④「地域関係団体の参加について」、⑤「市民参画のあり方について」において、「市民活動」の視点が抜け落ちているを指摘したい。まちづくりは「経済」「産業」だけで成り立つわけではない。当局が検討委員会に参加させようとしている「地域活動団体」とは、リストを見ると実はこの経済・産業団体です。これらの団体が担っているのは市民生活の一部でしかありません。まちの課題の解決は市民の自主的な活動に負っている部分が非常に大きく、それによってまちの発展がもたらすことができます。主役は市民活動であり、経済・産業はむしろ市民生活のインフラ整備ということができます。</p> <p>市民の自主的な活動は次のようにさまざまな分野に及んでいます。 ・文化 ・芸術 ・福祉 ・教育 ・人権 ・環境 ・労働 ・教育 ・家庭 ・女性 ・青少年 ・暮らし ・食 ・災害 ・地域社会 ・交通 ・スポーツ ・伝統 ・歴史 ・国際交流 ・コミュニティ ・ユニバーサルデザイン ・ダイバーシティ ・公共 ・協働</p> <p>これらのテーマで活動する市民グループは市内に何百、何千とあります。規模や組織形態は様々ですがそれぞれ(→続く)</p> |
| 78 | 南区 | 70歳代 | <p>1127-2) → 1 より続く これらのテーマで活動する市民グループは市内に何百、何千とあります。規模や組織形態は様々ですがそれぞれテーマごとにネットワークを構築したり、行政と連携したり脈々と活動を続けています。横浜市では2000年頃から「協働のあり方の検討」をそれこそ協働で進めてきた経緯があります。「市民活動支援センター」や「市民活動共同オフィス」を各区に整備してきました。各区の地域振興課でも市民活動を推進するミッションがあり市民活動グループと連携して様々な課題を解決しようと活動しています。政策局、市民局をはじめ横浜市各局や外郭団体でも市民活動をサポートする活動を行い連携を図っています。</p> <p>まちづくりや市民生活の課題解決に実践的に携わっている市民グループこそがオーソリティと言えます。彼らの声を聞き、知恵を集めて、さらに大きな力に結集することが「新しいまちをつくる」ことに必要だと思います。</p> |

次のような内容につきましては公表しておりませんので、御承知おきください。

山下ふ頭の再開発に関連しない事項

個人及び団体に関する誹謗中傷

「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」に基づく個人情報

山下心頭再開発検討委員会ファクトシート 【横浜港取組編】

～横浜港の国際競争力強化に向けた取組～



目次

- 1 横浜港の概要
- 2 港湾を取り巻く状況
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
- 4 自動車取扱機能の強化
- 5 クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組
- 7 山下ふ頭再開発検討の経緯

- 1 横浜港の概要**
- 2 港湾を取り巻く状況
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
- 4 自動車取扱機能の強化
- 5 クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組
- 7 山下ふ頭再開発検討の経緯

1. 横浜港の概要

日本を代表する総合港湾 横浜港

外航船寄港数 国内第1位
(1964年以降59年間連続)

客船入港数 国内第1位
(2023年見込、約200回)



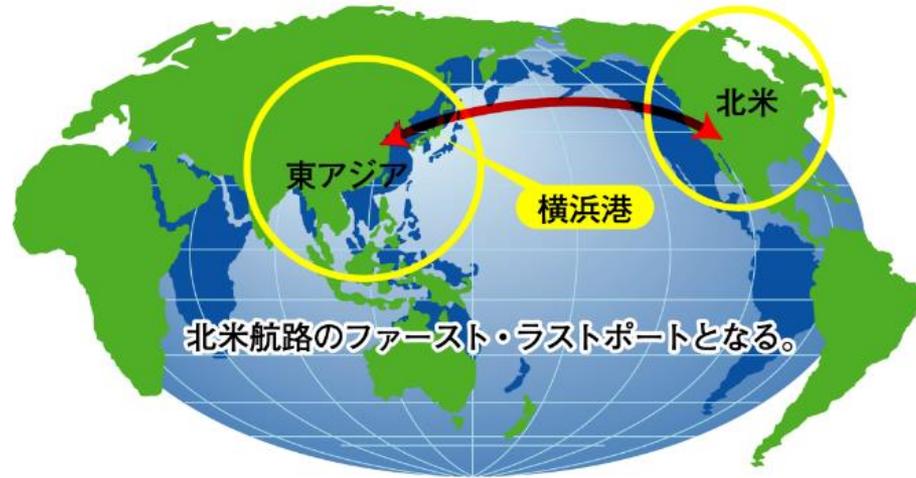
コンテナ貨物取扱数 国内第2位
(2022年、298万TEU)

完成自動車取扱台数 国内第3位
(2022年、68万台)



1. 横浜港の概要

横浜港の地理的条件



- 東アジアと北米西岸を結ぶ北米航路における
ファースト・ラストポート
- 東京湾の湾口に近接
- 静穏な海域と自然水深が深い天然の良港
(河川の流入がないため定期的な浚渫が不要)



1. 横浜港の概要

横浜港 競争力強化と賑わい創出



- 1 横浜港の概要
- 2 **港湾を取り巻く状況**
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
- 4 自動車取扱機能の強化
- 5 クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組
- 7 山下ふ頭再開発検討の経緯

2. 港湾を取り巻く状況

国際コンテナ戦略港湾を推進

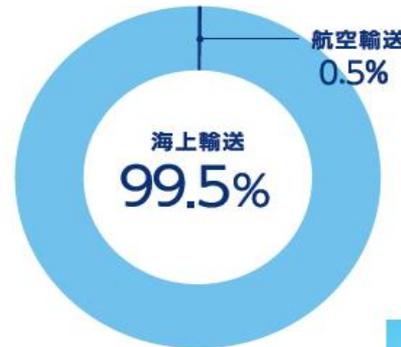
- 我が国の輸出入貨物の**99.5%**が海上輸送
- 横浜港における定期航路の**コンテナ化率は90.8%**
- コンテナ物流はグローバルサプライチェーンの基礎**

⇒ 基幹航路の維持・拡大

衣食住に占める輸入の割合



貿易に占める海上輸送の割合 (トン数ベース)



我が国貿易量の99.5%は海上輸送であり、横浜港の定期航路におけるコンテナ化率は90.8%となっています。

(2021年 横浜港統計年報)

出典: SHIPPING NOW 2022-2023
(公益財団法人日本海事広報協会)



LNG 運搬船



コンテナ船

出典: SHIPPING NOW 2022-2023 (公益財団法人日本海事広報協会)

2. 港湾を取り巻く状況

国際コンテナ戦略港湾を推進

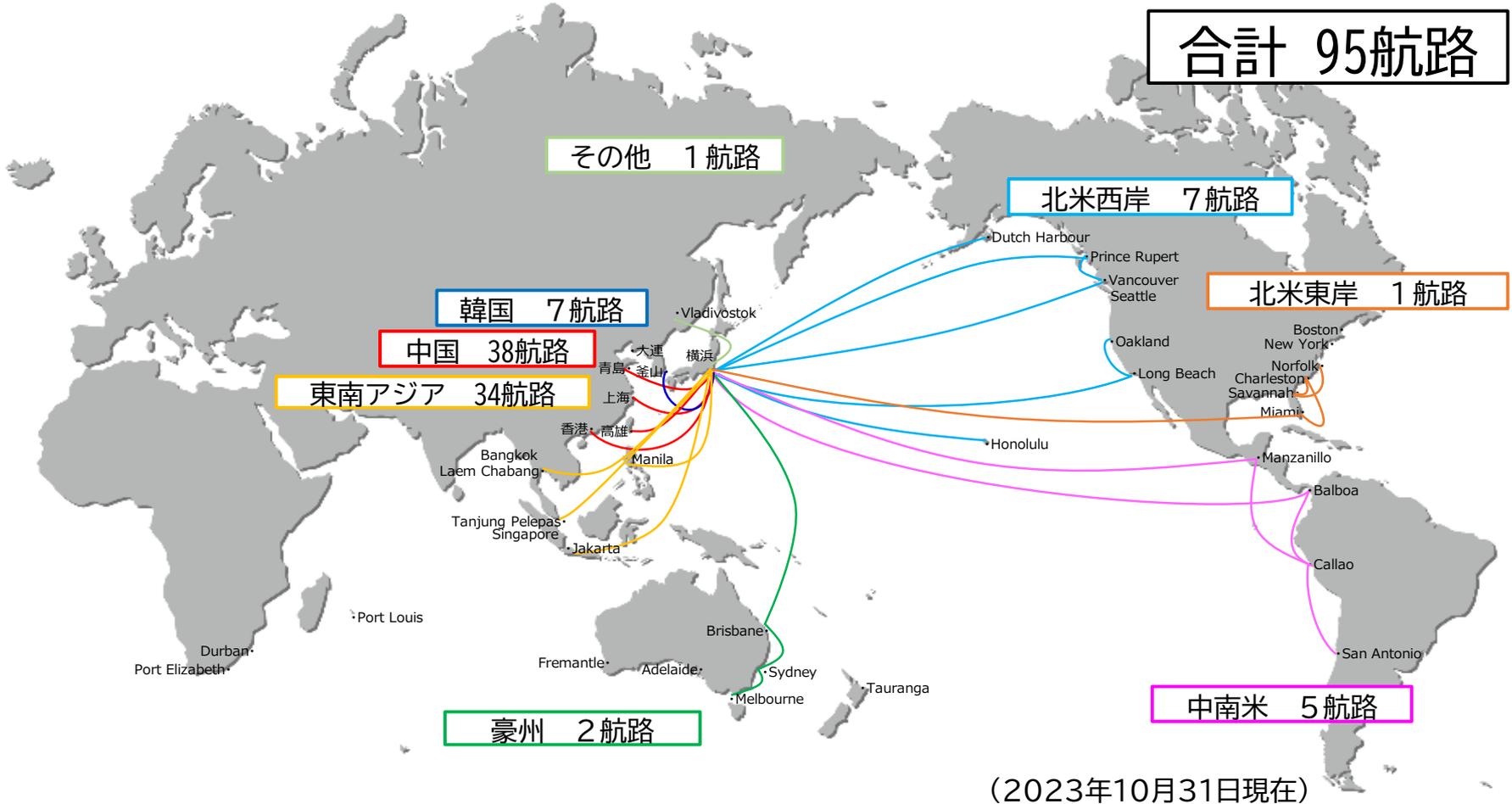
基幹航路の維持・拡大の必要性

○我が国がコンテナ船の基幹航路から外れ、上海港、釜山港等で積み替えと
なってしまうと、貨物の輸送に時間を要する、貨物が傷む、**国際情勢により**
貨物が停滞してしまうなど、**我が国経済に甚大な支障が生ずる恐れ**がある。

⇒ **国際コンテナ戦略港湾の推進**

2. 港湾を取り巻く状況

定期コンテナ航路の就航状況(外貿コンテナ)



2. 港湾を取り巻く状況

国内主要港湾における基幹航路数の比較

(2023年11月現在)

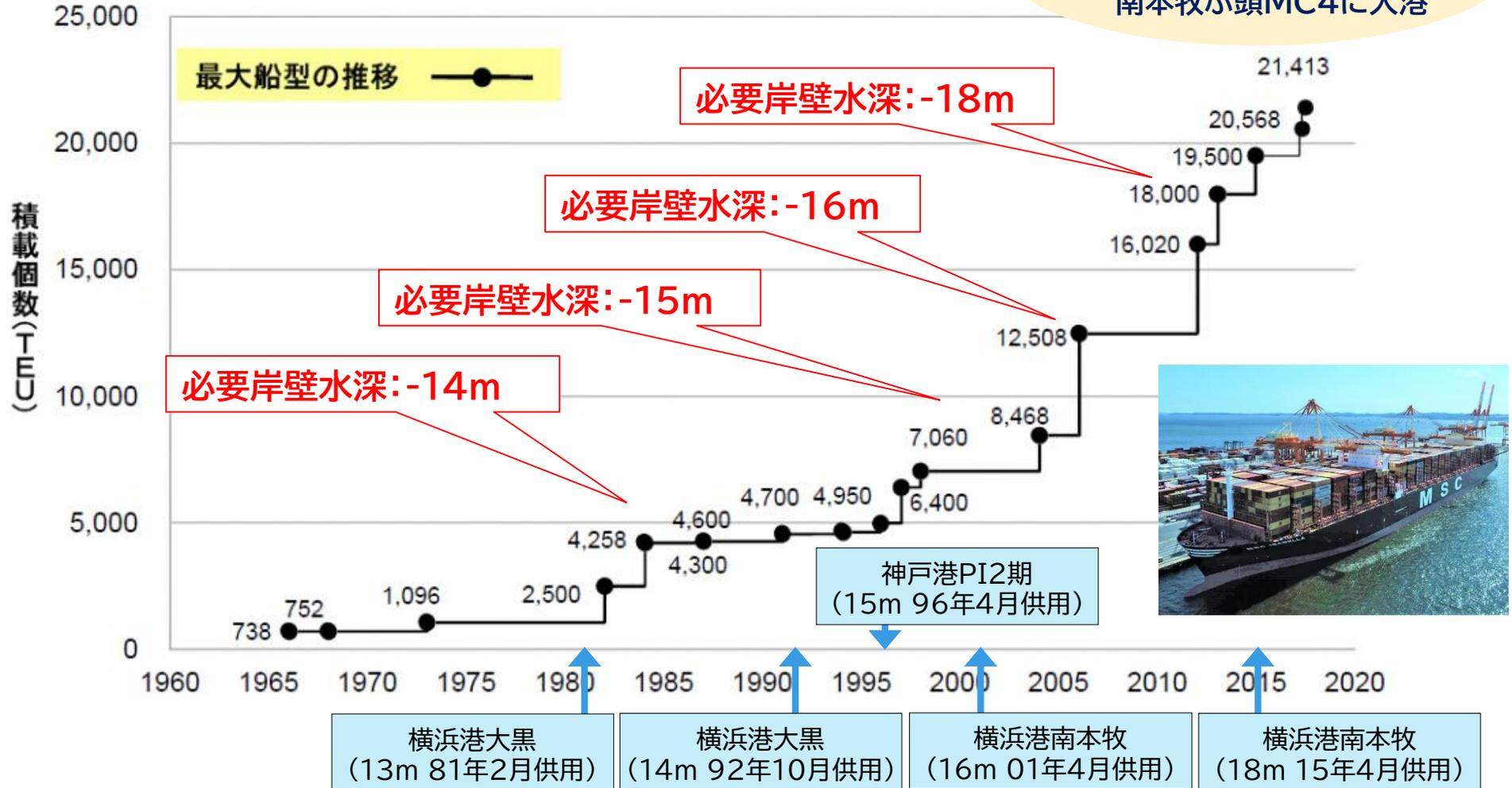
| 航路 | 横浜港 | 東京港 | 大阪港 | 神戸港 | 名古屋港 |
|------|-----|-----|-----|-----|------|
| 北米西岸 | 7 | 7 | 3 | 4 | 2 |
| 北米東岸 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 欧州 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 中南米 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 豪州 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| アフリカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 15 | 9 | 4 | 6 | 3 |

国内最多の基幹航路数

2. 港湾を取り巻く状況

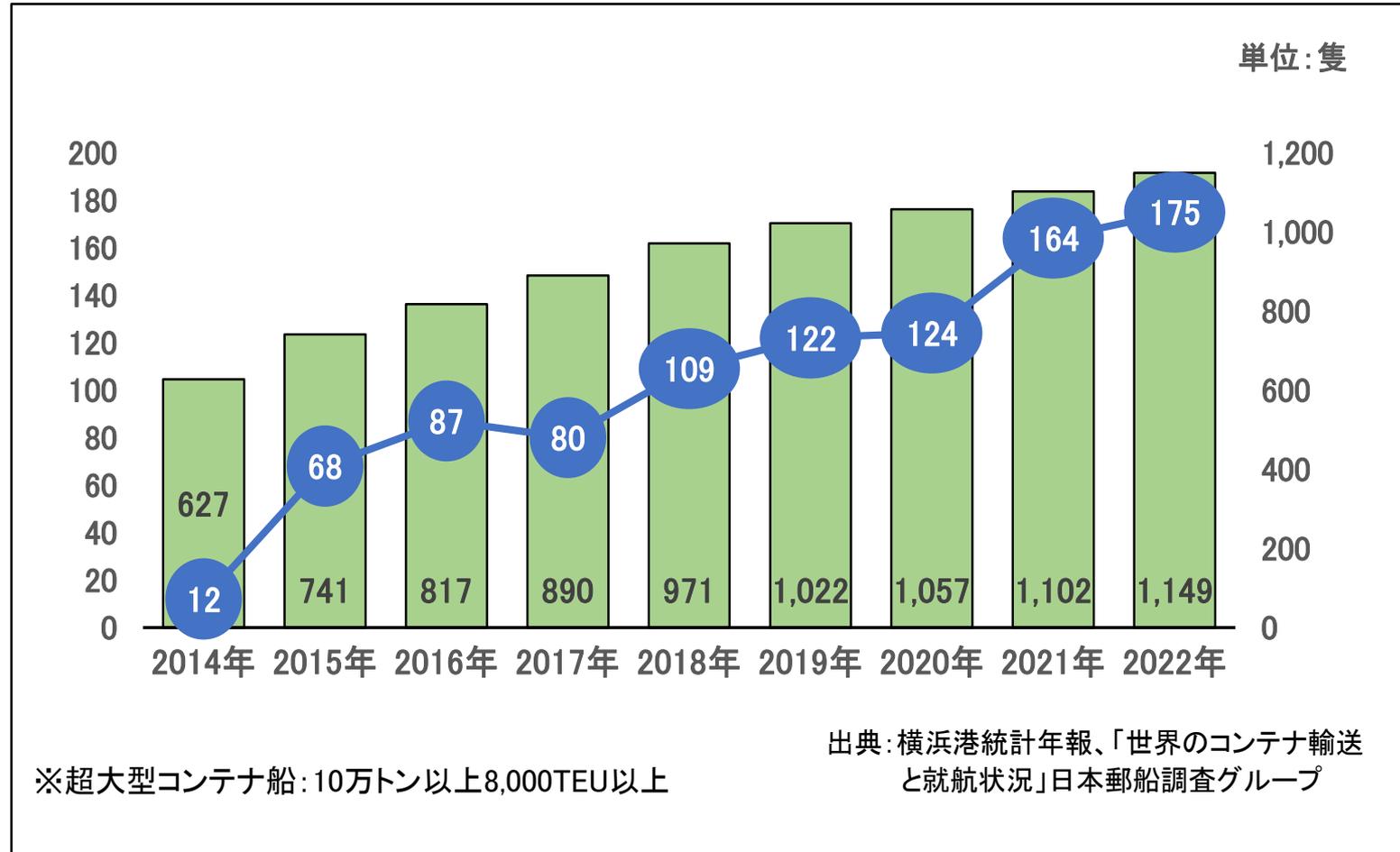
コンテナ船の超大型化

2021年3月
MSC ISABELLA
(積載TEU:23, 656TEU)
南本牧ふ頭MC4に入港



2. 港湾を取り巻く状況

横浜港の超大型コンテナ船※の入港隻数と世界の就航隻数の推移



- 1 横浜港の概要
- 2 港湾を取り巻く状況
- 3 **国際コンテナ戦略港湾の推進**
- 4 自動車取扱機能の強化
- 5 クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組
- 7 山下ふ頭再開発検討の経緯

3. 国際コンテナ戦略港湾の推進

国際コンテナ戦略港湾

国際コンテナ戦略港湾の「競争力強化」

- コンテナ船の大型化や取扱貨物量の増大等に対応した大水深コンテナターミナルの機能強化
- 良好な労働環境と世界最高水準の生産性を確保するため、「ヒトを支援するAIターミナル」を実現

国際コンテナ戦略港湾背後への産業集積による「創貨」

- 荷さばき、流通加工、保管等の複合機能を有する物流施設のコンテナターミナル近傍への立地を促進

国際コンテナ戦略港湾への「集貨」

- 国内外とのフィーダー航路網の強化の促進

※令和4年国際コンテナ戦略港湾政策推進WG（第4回）より一部抜粋

横浜港の取組

●横浜川崎国際港湾株式会社(YKIP)の設立(2016.1)

●南本牧、新本牧ふ頭における大水深・高規格コンテナターミナルの整備

●本牧、南本牧、新本牧ふ頭におけるロジスティクス拠点形成の整備

●国の負担金支援によるYKIPの航路網拡充等の集貨活動
●国際フィーダー網の拡充

(1) 競争力強化の取組

横浜港 競争力強化と賑わい創出

- コンテナターミナル
- 自動車ターミナル
- 客船受入施設
- ロジスティクス拠点

- カーボンニュートラルポートの形成
- LNGバンカリング拠点化推進



客船受入機能強化
・賑わい創出

コンテナ取扱機能強化

自動車取扱機能強化

(1) 競争力強化の取組

南本牧ふ頭コンテナターミナルの整備

- 国内最大唯一の水深-18m、延長1,600mの岸壁
⇒世界最大の超大型コンテナ船の受入が可能
- 横浜スタジアム約135個分のヤード面積
- 2021年より一体運用を開始し、多方面の航路の船舶が船型やスケジュールなどに応じ、施設全体を柔軟に利用できる画期的な運用が実現



南本牧ふ頭に寄港する超大型コンテナ船
「MSC ISABELLA」最大積載数:23,656TEU

(1) 競争力強化の取組

横浜港 競争力強化と賑わい創出

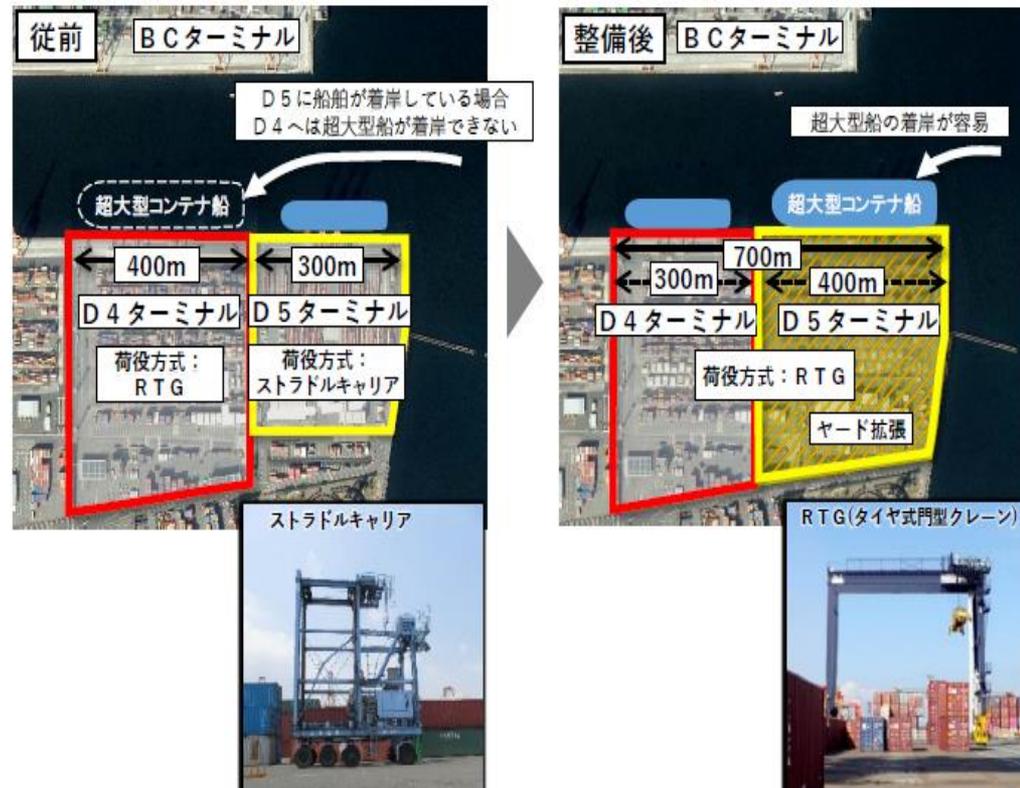


(1) 競争力強化の取組

本牧ふ頭コンテナターミナルの再整備(2021年度から事業開始)

- 現状、D5ターミナルに船舶が着岸している場合に、D4ターミナルへの超大型船の着岸ができないため、**D4・D5の一体運用**を進める。
- ヤードの拡張等の再整備を実施**
- D5ターミナルの**荷役方式**をストラドルキャリアから、**生産性の高いRTG**(タイヤ式門型クレーン)に転換

超大型コンテナ船の接岸状況



(1) 競争力強化の取組

横浜港 競争力強化と賑わい創出



(1) 競争力強化の取組

新本牧ふ頭整備(2021年度から埋立開始)

- 水深-18m以上、延長1,000mの岸壁を持つ高規格コンテナターミナル
- 高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設
- これらを一体的に配置した最新鋭の物流拠点の形成を目指す。



【新本牧ふ頭整備イメージ図】

水深 (-18m~)
延長 (1000m)

第2期地区
コンテナターミナル等
【約50ha】
事業者：国土交通省

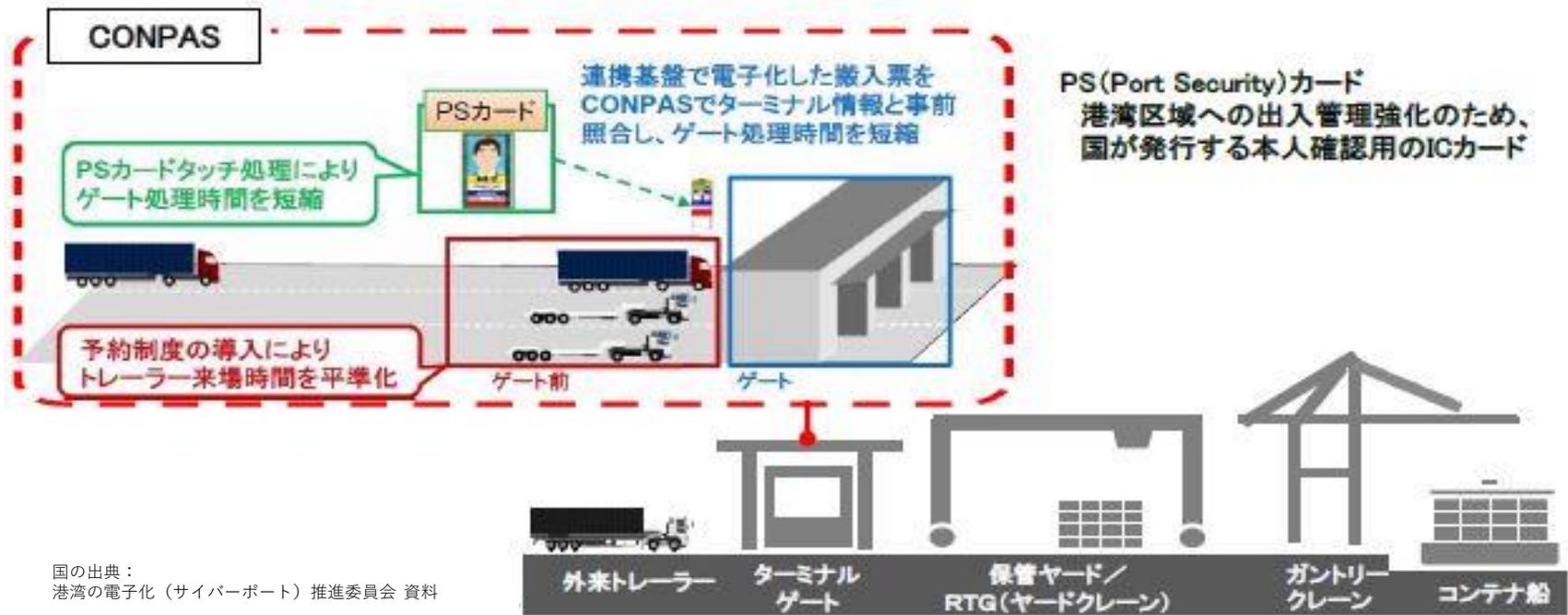
第1期地区
ロジスティクス用地等
【約40ha】
事業者：市



(1) 競争力強化の取組

横浜港のCOMPASの取組

- COMPASを我が国で初めて南本牧ふ頭で2021年から本格導入
これによりゲート前の**平均待機時間が30分から7分**となり大きな削減効果があり、
2022年12月には南本牧ふ頭のCOMPAS予約時間枠を8時30分に拡大
(従来は搬入10時、搬出9時30分) **予約枠が1,150台/日から1,400台/日に増加**
(搬入550台/日から700台/日、搬出600台/日から700台/日)
- 2023年度は本牧ふ頭BC及びD1ターミナルで国と連携して試験運用を実施



国の出典：
港湾の電子化（サイバーポート）推進委員会 資料

(1) 競争力強化の取組

民間事業者におけるDXの導入

- 働きやすい快適な労働環境を創出し、人材確保につなげるため、現在本牧心頭BCターミナルではRTG(タイヤ式門型クレーン)について、管理棟からの遠隔操作の実証事業を行っており、2023年の本格稼働を目指している。
- 民間事業者による荷役作業員を支援するデジタル技術(パレタイザー)の導入

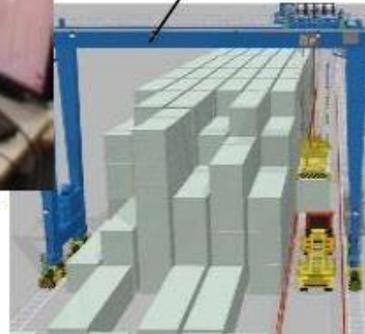
遠隔操作RTGによる荷役作業

遠隔操作室内のオペレーター



快適

遠隔操作 RTG



パレタイザー



【重量センサー等のデジタル技術の導入により、パレットの上に均一の荷姿で貨物を集積する設備(パレタイザー)の状況】

(2) 創貨の取組

横浜港 競争力強化と賑わい創出



(2) 創貨の取組

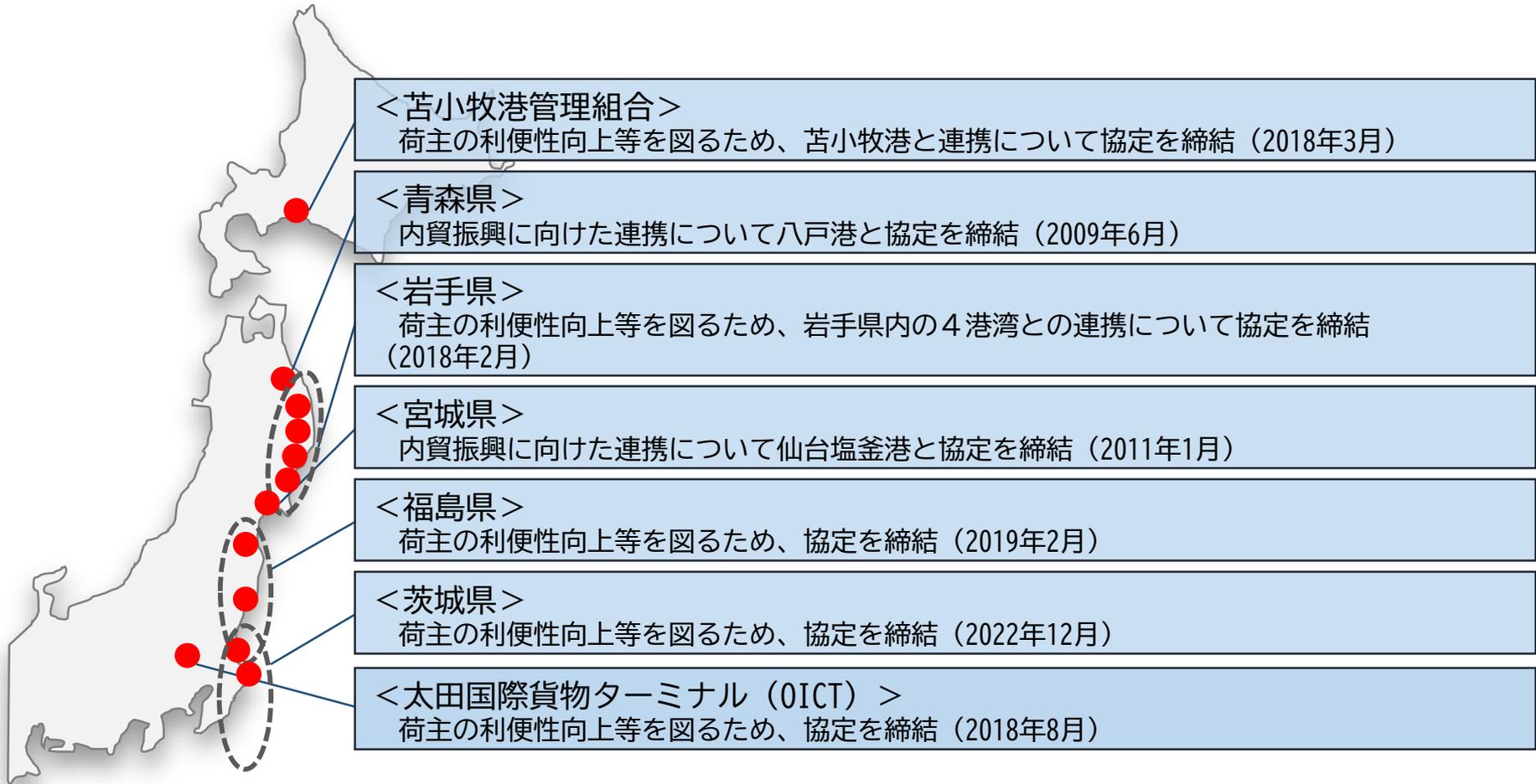
ロジスティクス拠点の整備

- 臨海部の物流拠点は、**保税上の利便性**や迅速な貨物の配送などの環境が整っており、**輸送の効率化**や**雇用の確保**などの点でも注目
- 横浜港では、生産拠点の海外移転なども踏まえ、これまで中心であった輸出貨物に加え、**輸入貨物の取扱機能強化策**としても重要
- コンテナターミナルの近接地に流通加工や温度管理等の高機能な物流サービスを提供するロジスティクス施設を集積、現在は4棟が稼働し、4棟が建設中、**2025年度までに合計10棟のロジスティクス施設が稼働予定**



(3) 集貨の取組

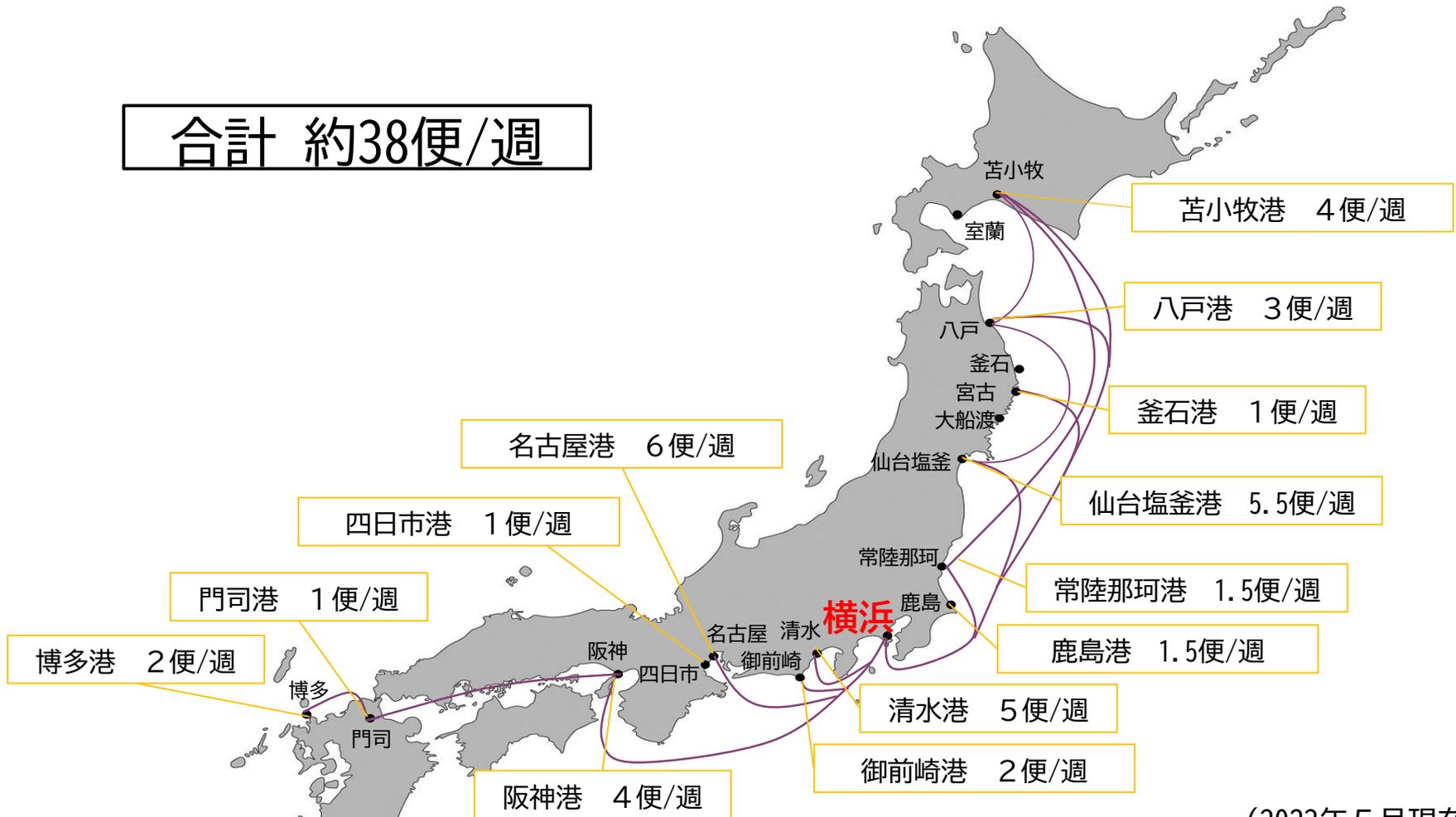
国内港湾との連携による集貨の取組



(3) 集貨の取組

横浜港寄港の国際フィーダー航路

合計 約38便/週



(2023年5月現在)

(3) 集貨の取組

コンテナ個数(2022年速報値)

【横浜港の取扱個数】

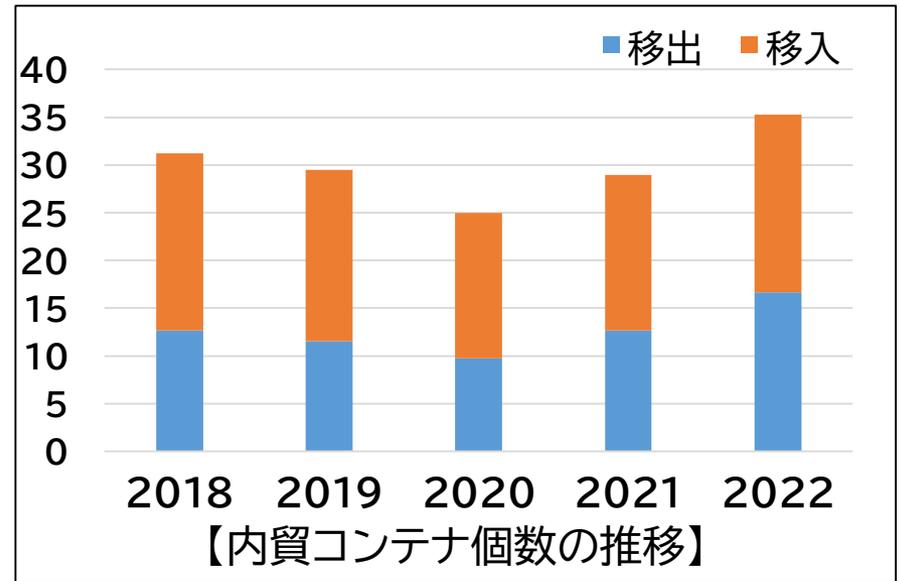
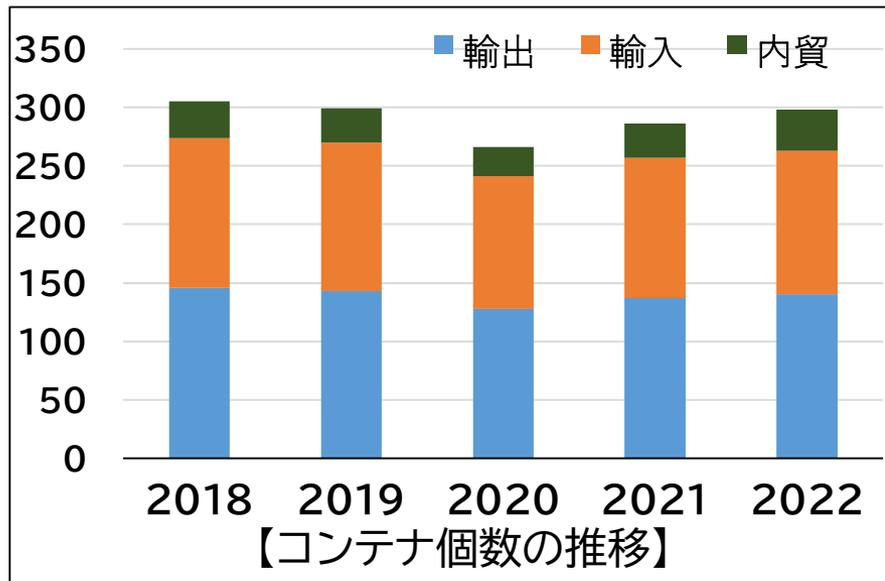
298万個※

外貿：263万個

内貿：35万個

内貿コンテナ個数は、
前年比21.8%増で過去最高

※ 個：20フィートで換算したコンテナ個数 (万個)

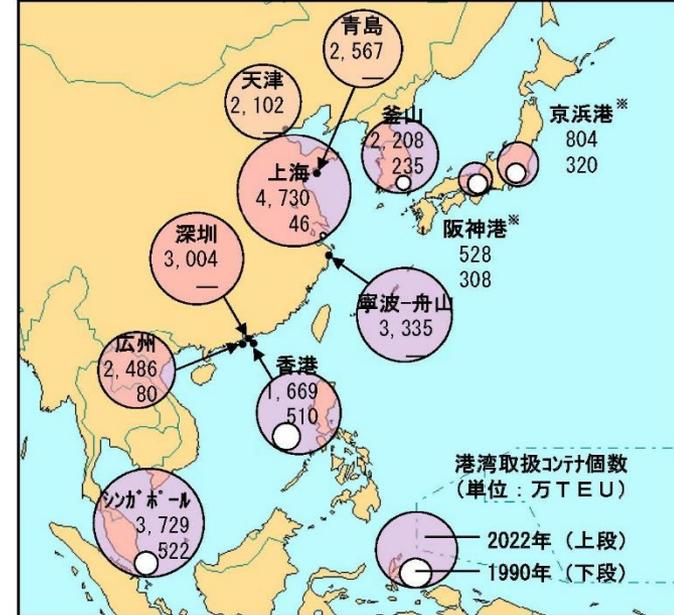


3. 国際コンテナ戦略港湾の推進

世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキング

| 1990年 | | | 1995年 | | | 2022年(速報) | | |
|-------|------------|-----|-------|--------|-------|-----------|--------|-------|
| 順位 | 港名 | 取扱量 | 順位 | 港名 | 取扱量 | 順位 | 港名 | 取扱量 |
| 1 | シンガポール | 522 | 1 | 香港 | 1,255 | 1 | 上海 | 4,730 |
| 2 | 香港 | 510 | 2 | シンガポール | 1,185 | 2 | シンガポール | 3,729 |
| 3 | ロッテルダム | 367 | 3 | 高雄 | 523 | 3 | 寧波 | 3,335 |
| 4 | 高雄 | 349 | 4 | ロッテルダム | 479 | 4 | 深圳 | 3,004 |
| 5 | 神戸 | 260 | 5 | 釜山 | 450 | 5 | 広州 | 2,418 |
| 6 | 釜山 | 235 | 6 | ハンブルグ | 289 | 6 | 青島 | 2,567 |
| 7 | ロサンゼルス | 212 | 7 | 横浜 | 276 | 7 | 釜山 | 2,208 |
| 8 | ハンブルグ | 197 | 8 | ロサンゼルス | 256 | 8 | 天津 | 2,102 |
| 9 | NYニュージャージー | 190 | 9 | ロングビーチ | 239 | 9 | ロングビーチ | 1,905 |
| 10 | 基隆 | 181 | 10 | アントワープ | 233 | 10 | 香港 | 1,669 |
| 11 | 横浜 | 165 | 12 | 東京 | 218 | 46 | 東京 | 493 |
| 13 | 東京 | 156 | 22 | 名古屋 | 148 | 70 | 横浜 | 298 |
| 24 | 名古屋 | 90 | 23 | 神戸 | 146 | 72 | 神戸 | 289 |

アジア主要港のコンテナ取扱個数



※京浜港は東京港・横浜港・川崎港。
阪神港は大阪港・神戸港。

TEU (twenty-foot equivalent unit):
国際標準規格 (ISO規格) の20 フィート・コンテナを1とし、
40フィート・コンテナを2として計算する単位。

[注] 数値はいずれも外内貨を含む。ランキングにおける()内は2021年の順位。
なお、2021年の海外港湾のコンテナ取扱個数は、速報値である。

日本と中国の名目GDP推移(兆ドル)

| | 1990年 | | 1995年 | | 2022年 | |
|----|-------|-----|-------|-----|-------|------|
| 日本 | 3.2 | 約8倍 | 日本 | 5.5 | 約1 | 約1/4 |
| 中国 | 0.4 | | 中国 | 0.7 | 17.9 | |

3. 国際コンテナ戦略港湾の推進

横浜港の国際競争力

コンテナ港湾の効率性を測る指標「CPPI」で、2020年に横浜港が世界一を獲得

- 世界銀行は、2020年コンテナ港湾生産性指数において**横浜港が世界一**と発表
- 横浜港における**効率的なコンテナターミナルの運営**や**高品質な港湾サービス**が総合的に評価

CPPI 2020 ランキング (Administrative approach)

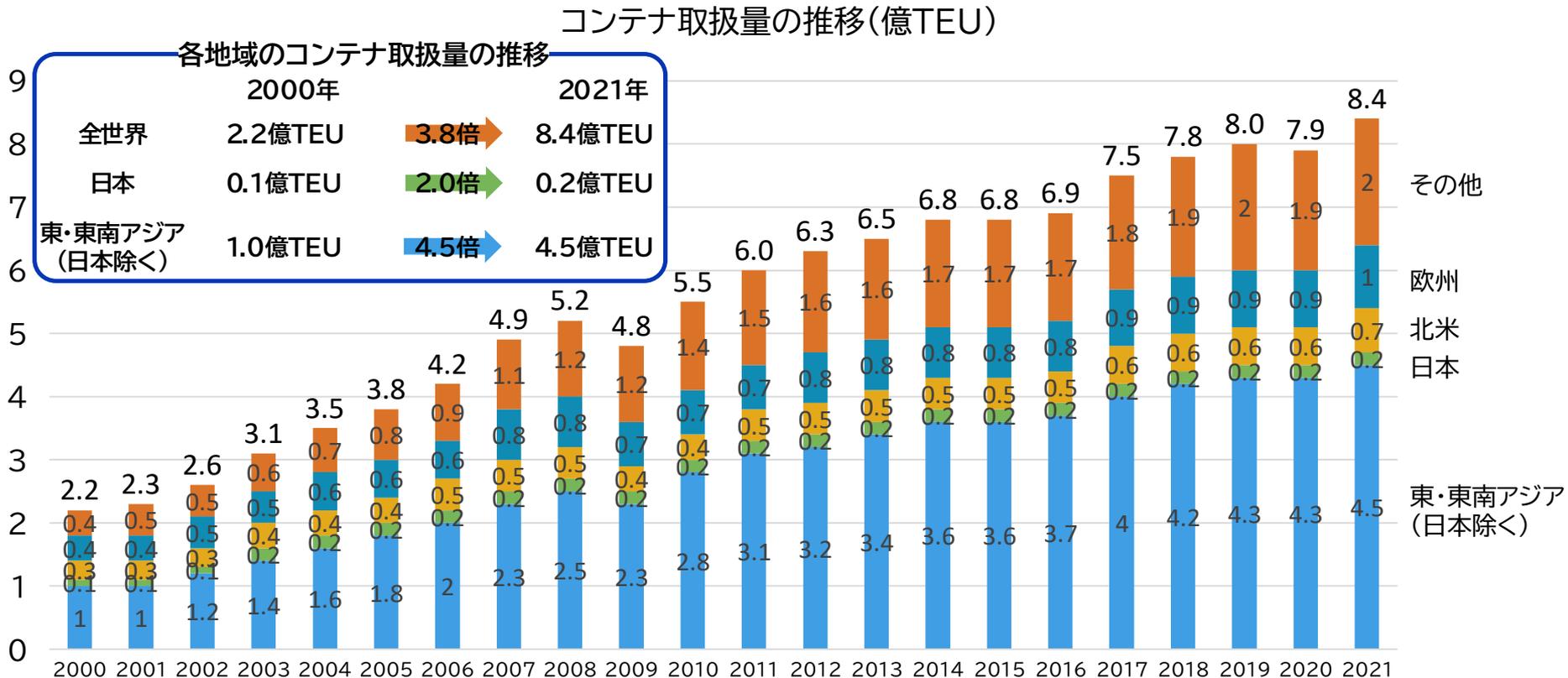
| Rank | Port name |
|------|--------------------|
| 1 | YOKOHAMA |
| 2 | KING ABDULLAH PORT |
| 3 | QINGDAO |
| 4 | KAOHSIUNG |
| 5 | SHEKOU |
| 6 | GUANGZHOU |
| 7 | HONG KONG |
| 8 | ZHOUSHAN |
| 9 | SALALAH |
| 10 | YANGSHAN |



3. 国際コンテナ戦略港湾の推進

世界各地域の港湾におけるコンテナ取扱量の推移

- 世界中のコンテナ取扱量が2021年において対2000年で約4倍に増加しているなか、東・東南アジア(日本を除く)における取扱量は約4.5倍に増加(同年比)
- 日本も、北米や欧州と同様コンテナ取扱量も2021年において対2000年で2倍以上増加しているが、取扱量全体に占める割合は低い。

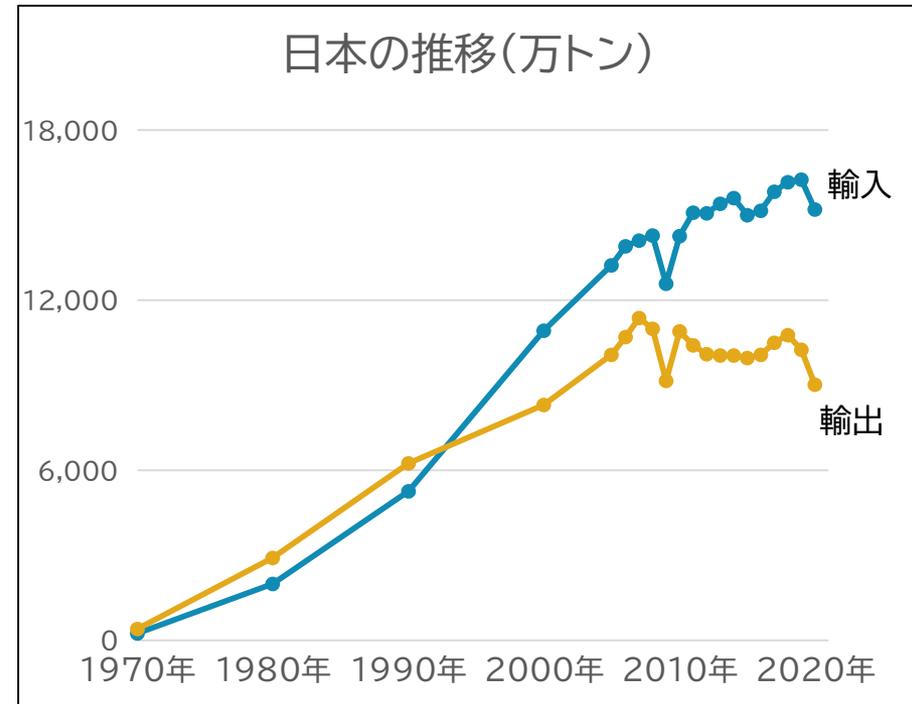
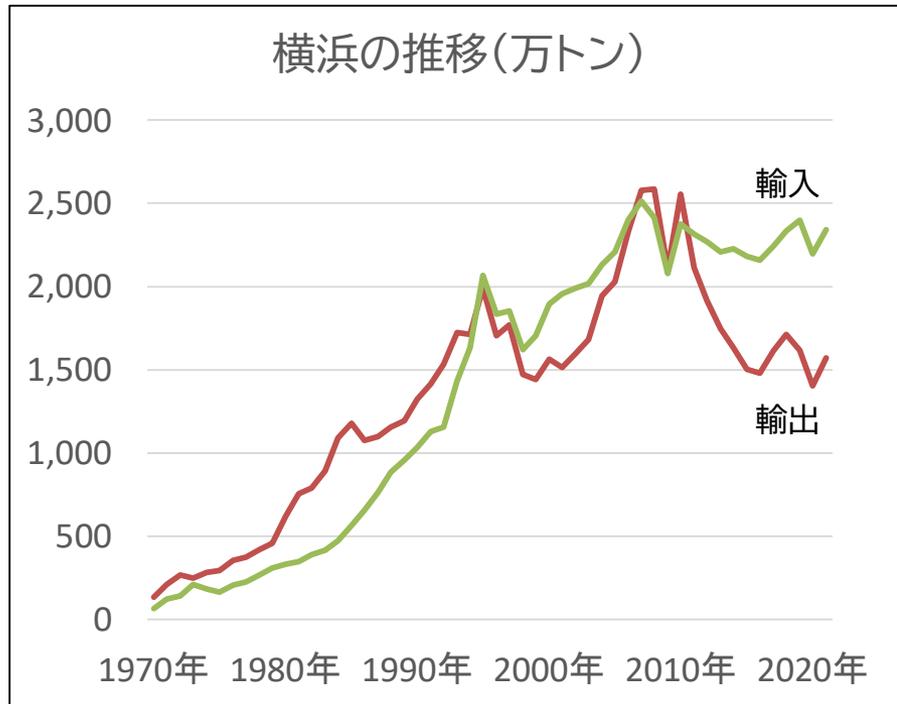


出典:UNCTAD統計データより作成

3. 国際コンテナ戦略港湾の推進

海上出入貨物取扱量(コンテナ)の推移

- 横浜港は、外貿貨物のうち輸出が2008年をピークに減少傾向。**輸入が輸出を上回る。**
- 国内でも、1990年代以降**輸入が輸出を上回っている。**
- 2022年(令和4年)度貿易赤字21.7兆円、過去最大**

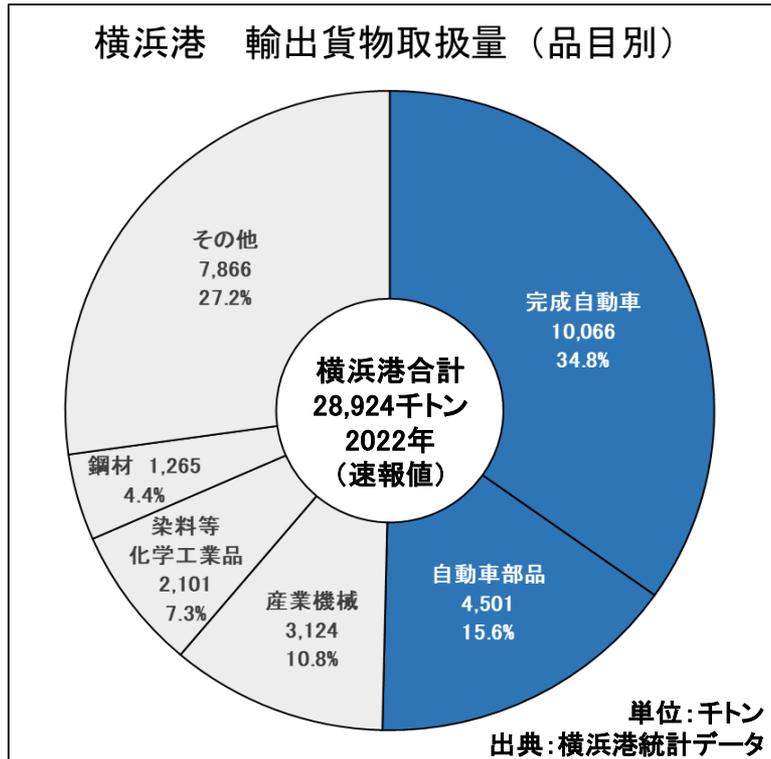


- 1 横浜港の概要
- 2 港湾を取り巻く状況
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
- 4 自動車取扱機能の強化**
- 5 クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組
- 7 山下ふ頭再開発検討の経緯

4. 自動車取扱機能の強化

自動車貨物取扱

- 横浜港の輸出取扱貨物量の約5割は自動車関係品目
- 完成自動車取扱台数(2022年) 国内第3位



完成自動車取扱台数(2022年)

単位:台・%

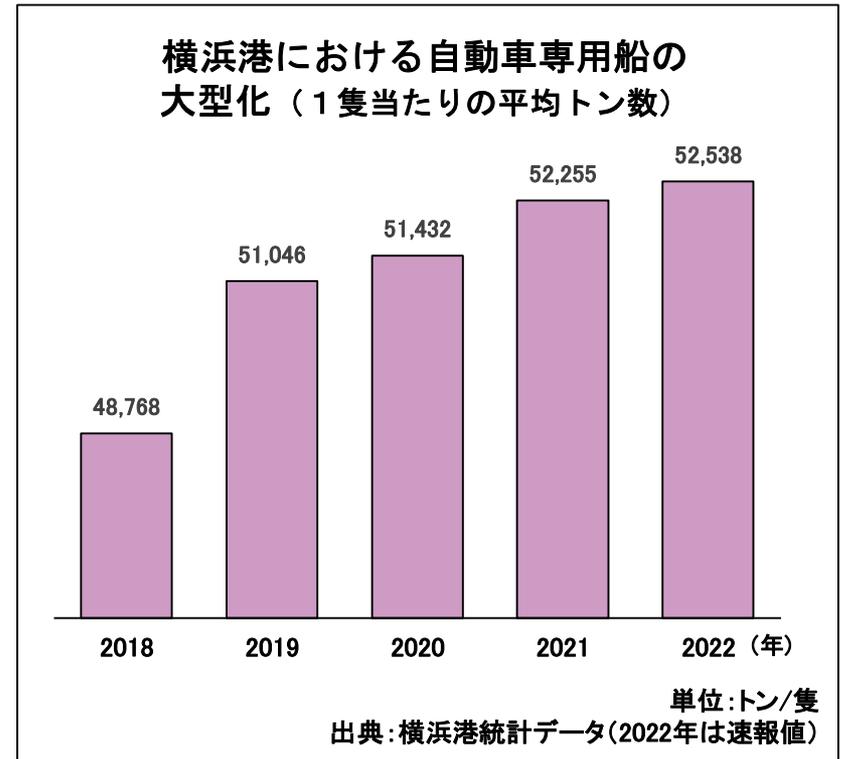
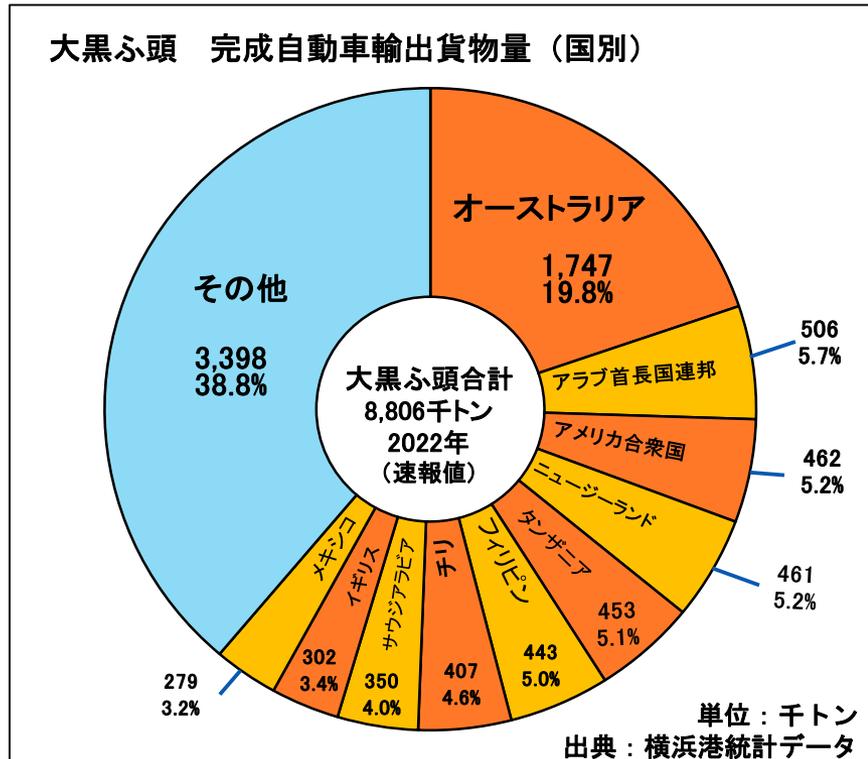
| 順位 | 税関名 | 輸出入計 | 構成比 |
|----|-----------|----------------|--------------|
| 1 | 名古屋(愛知県) | 1,203,848 | 22.4% |
| 2 | 三河(愛知県) | 903,375 | 16.8% |
| 3 | 横浜 | 680,870 | 12.7% |
| 4 | 広島(広島県) | 382,594 | 7.1% |
| 5 | 日立(茨城県) | 283,586 | 5.3% |

出典:財務省貿易統計より港湾局作成

4. 自動車取扱機能の強化

完成自動車輸出先と自動車専用船大型化

- 輸出先は豪州・南米・北米・アジア・アフリカなど世界各国へ。
- 自動車専用船は、世界的に年々大型化が進む。



4. 自動車取扱機能の強化



4. 自動車取扱機能の強化

東日本最大の自動車取扱拠点 大黒ふ頭の整備

- 自動車専用船の大型化や着岸隻数の増加に対応
- 岸壁や荷捌き地の改良、コンテナターミナルの自動車ターミナルへの転換により、
日本最大級となる大型自動車専用船11隻が同時に着岸可能な自動車取扱拠点に
- 今後は、世界的な脱炭素化の潮流を踏まえ、電気自動車の輸入に向け、
民間事業者と連携しながらPDI施設の整備や荷捌き地の拡張等、機能強化を推進



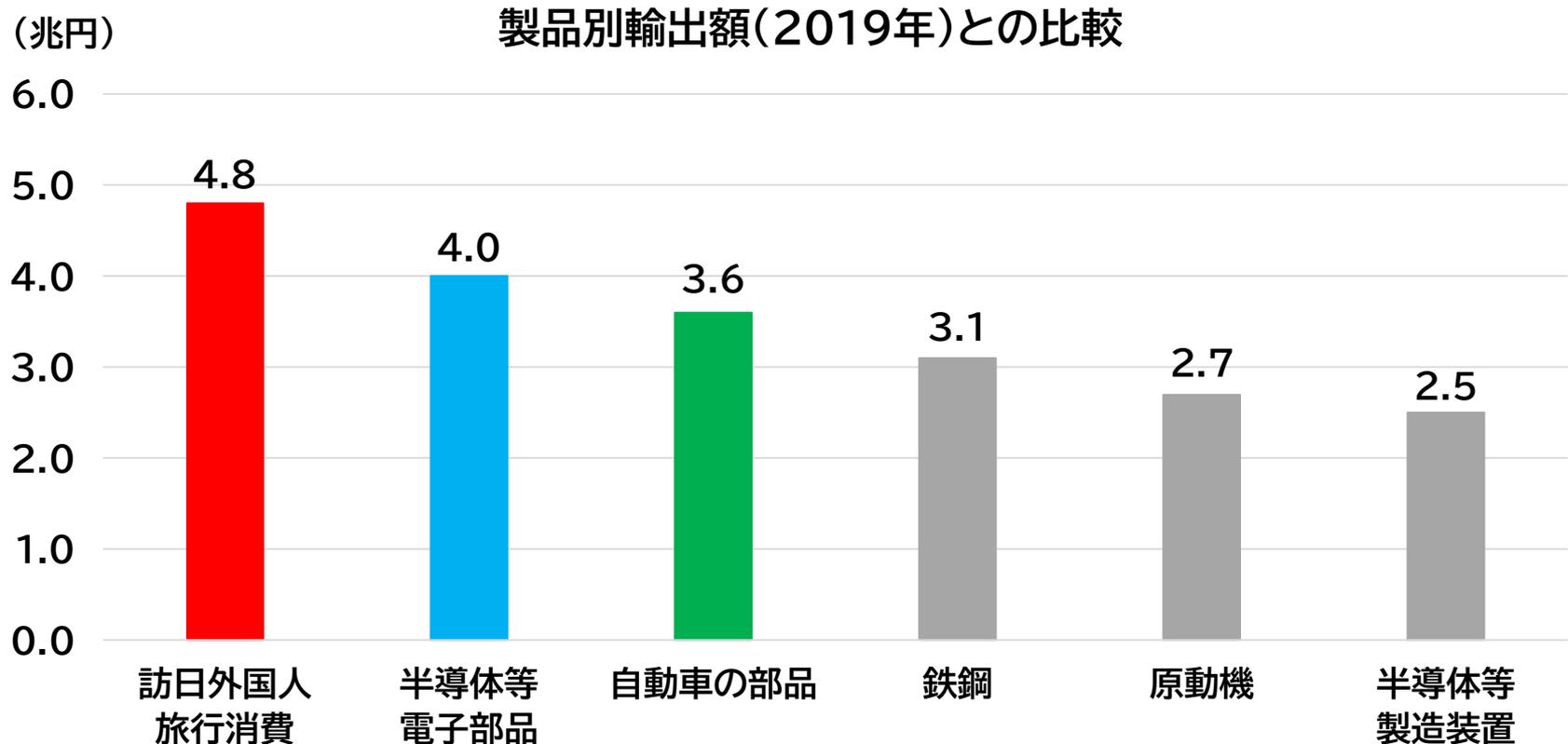
- 1 横浜港の概要
- 2 港湾を取り巻く状況
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
- 4 自動車取扱機能の強化
- 5 **クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化**
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組
- 7 山下ふ頭再開発検討の経緯

5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

訪日外国人旅行消費額

○コロナ禍前2019年のインバウンドによる旅行消費額は、半導体や自動車部品の輸出額を上回っている。

○今や観光立国として、インバウンドの受入は日本経済にとって不可欠な状況



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

横浜港 競争力強化と賑わい創出

- コンテナターミナル
- 自動車ターミナル
- 客船受入施設
- ロジスティクス拠点

- カーボンニュートラルポートの形成
- LNGバンカリング拠点化推進



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

横浜のクルーズ船受入機能（世界最大レベルの7隻同時着岸可能）



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

大黒ふ頭客船ターミナル(2019年4月供用)

- ベイブリッジを通過できない**超大型クルーズ船**に対応
- 自動車ヤードを活用し**ドライブ&クルーズ**の実施
- 隣接する上屋を空調、トイレ等の整備により客船ターミナルとして改修し、
日本で唯一超大型クルーズ船の2隻同時オペレーションが可能



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

新港心頭客船ターミナル(2019年10月供用)

- 日本初の**商業・ホテル一体型の複合客船ターミナル**
- 開発に**PPP (Public Private Partnership) 方式を採用**
(市有地を貸し付け、地代を1階CIQの床の賃借料に充当)



横浜ハンマーヘッド



ホテルの客室



施設内



ハンマーヘッドテラスの様子

5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

大さん橋国際客船ターミナル(2002年供用)



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

クルーズ船一隻あたりの経済波及効果

- 世界一周クルーズ（50,000総トン） → 約3億2,500万円
- アジアクルーズ（110,000総トン） → 約1億7,500万円

経済波及効果

直接効果

クルーズ船が寄港するたびに、入出港に伴う諸経費をはじめ、給油・給水や食材、アメニティグッズ等の各種船用品の需要が発生するとともに、乗客や船を見に来る観光客の土産物や飲食等の支出が発生

1次間接波及効果

観光消費の発生により、原材料購入等を通じ、関連産業の生産を誘発

2次間接波及効果

直接・第1次間接波及効果の発生による雇用者所得の増加から、消費支出が増加し、関連産業の生産を誘発

5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

横浜のクルーズ船寄港に関する状況

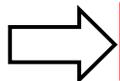
<クルーズ寄港のパターン>

一時寄港

- 地方の港湾に多く、**朝着岸し、船に荷物を置いたまま乗船客が観光等に出掛け、夕方に同じクルーズ船に戻り出港**

発着寄港

- 交通アクセスの優れた都市部の港湾に多く、**着岸すると乗客がすべて下船し、新たなツアーを開始**
- 下船客の多くは観光し、空港等から帰国、乗船客は日本各地または海外から空港等経由で港に来訪
- クルーズ前後の**市内での観光や前後泊も望め、より大きな市内への経済効果**が見込める。



横浜港は、9割以上が発着寄港

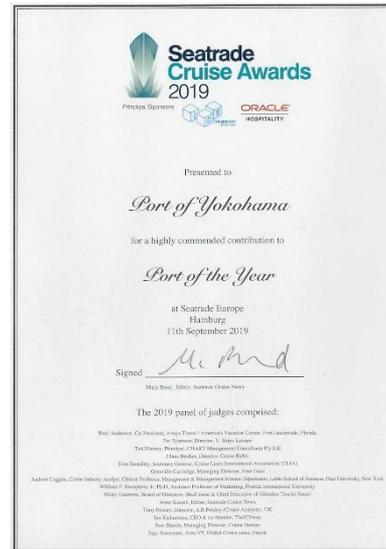
5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

横浜のクルーズ船寄港に関する状況

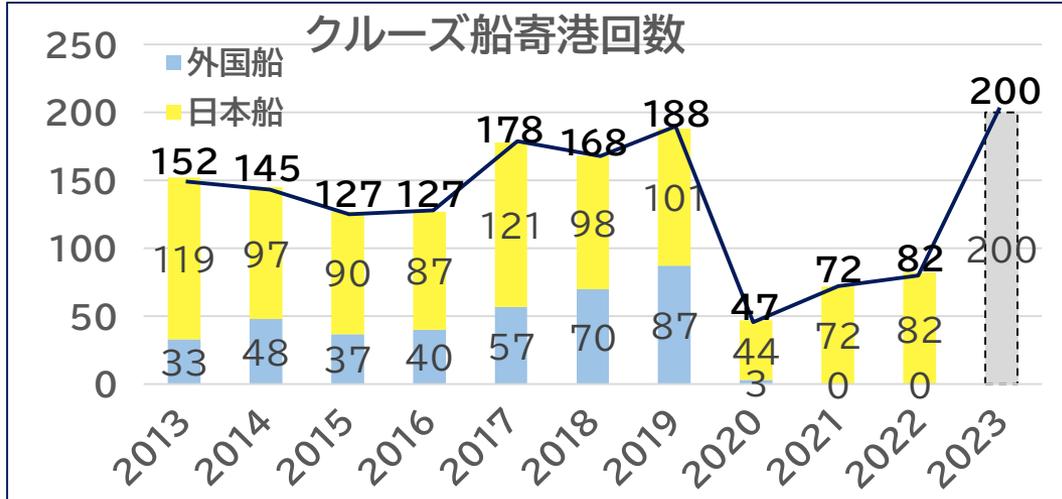
- 2019年の発着寄港回数はアジアで4位 「東アジアのクルーズ発着拠点」
- 2023年3月から外国船による国際クルーズが再開
- 2023年の寄港回数は、過去最多を記録した2019年の188回を上回る約200回 (日本最多)となる見込

2019年アジアにおける
発着寄港回数

| 順位 | 港湾 | 発着数 |
|----|--------|-----|
| 1 | シンガポール | 306 |
| 2 | 上海 | 221 |
| 3 | 基隆 | 220 |
| 4 | 横浜 | 131 |



(クルーズライン国際協会調査より作成)

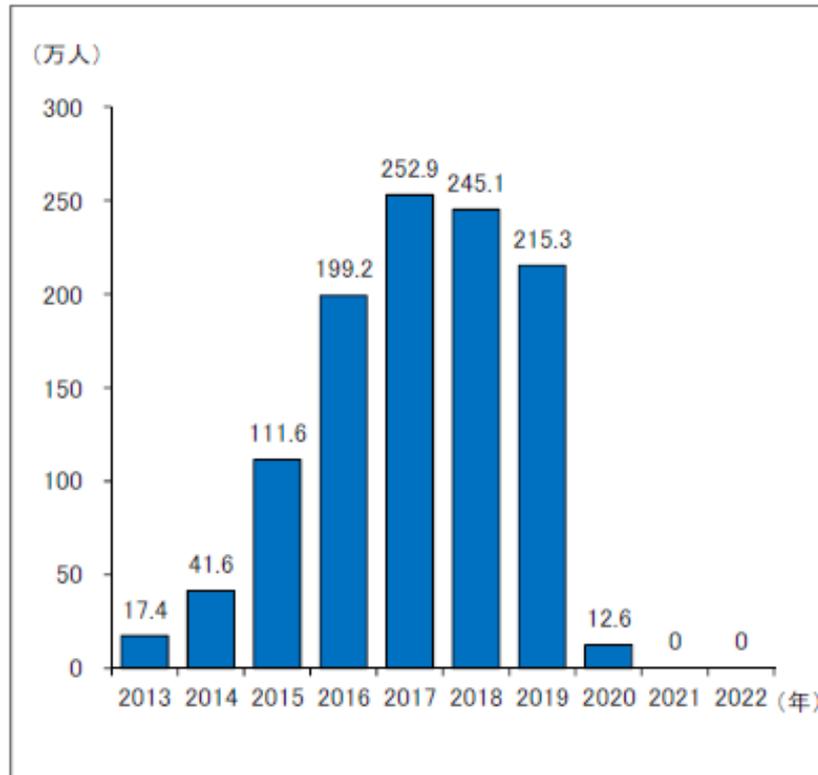


5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

日本のクルーズ船寄港に関する状況

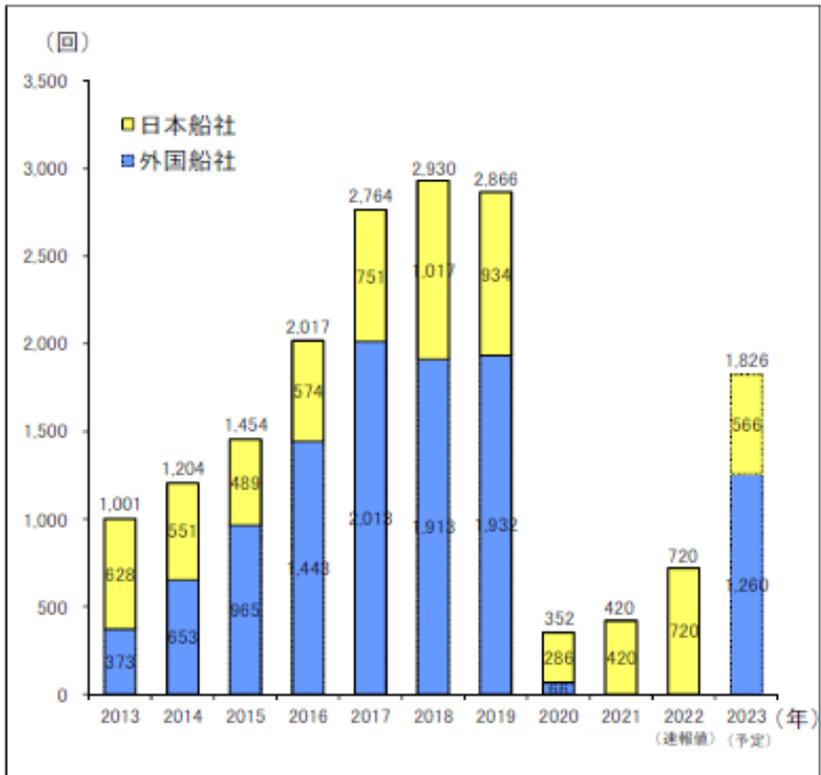
- 2022年の訪日クルーズ旅客数はゼロ、我が国港湾への寄港回数は前年比71.4%増の720回(全て日本船社)となった。(速報値)
- 2023年の寄港回数は1,826回(うち外国船社1,260回)となる予定

訪日クルーズ旅客数



注1) 出入国在留管理庁の集計による外国人入国者数で概数(乗員除く)。
注2) 1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、(各港で重複して計上するのではなく)1人の入国として計上している。

クルーズ船寄港回数

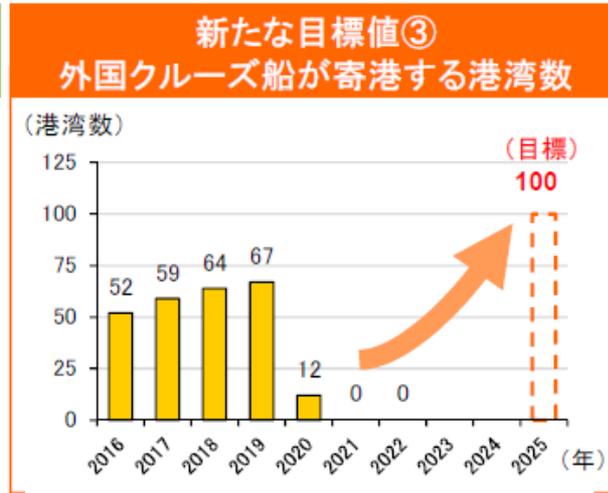
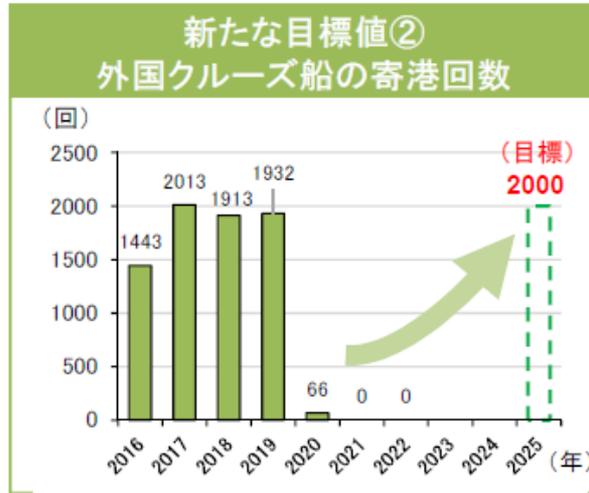
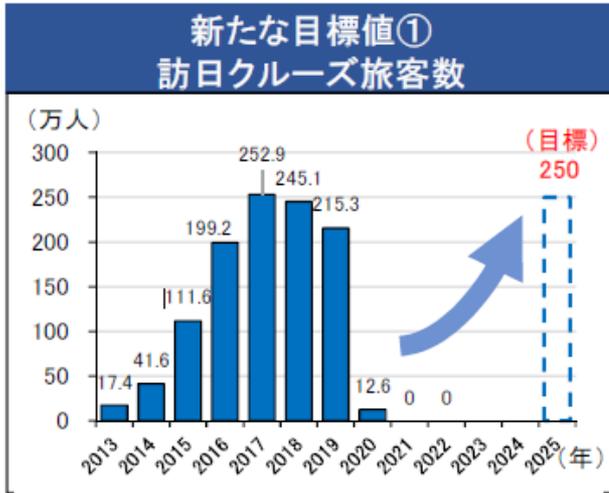


注1) 2013年～2022年は、港湾管理者への聞き取りをもとに、港湾局作成。
注2) 2023年は、船社や船舶代理店への聞き取りをもとに、港湾局作成(2023年5月25日時点)(商業運航のみ計上)。

5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

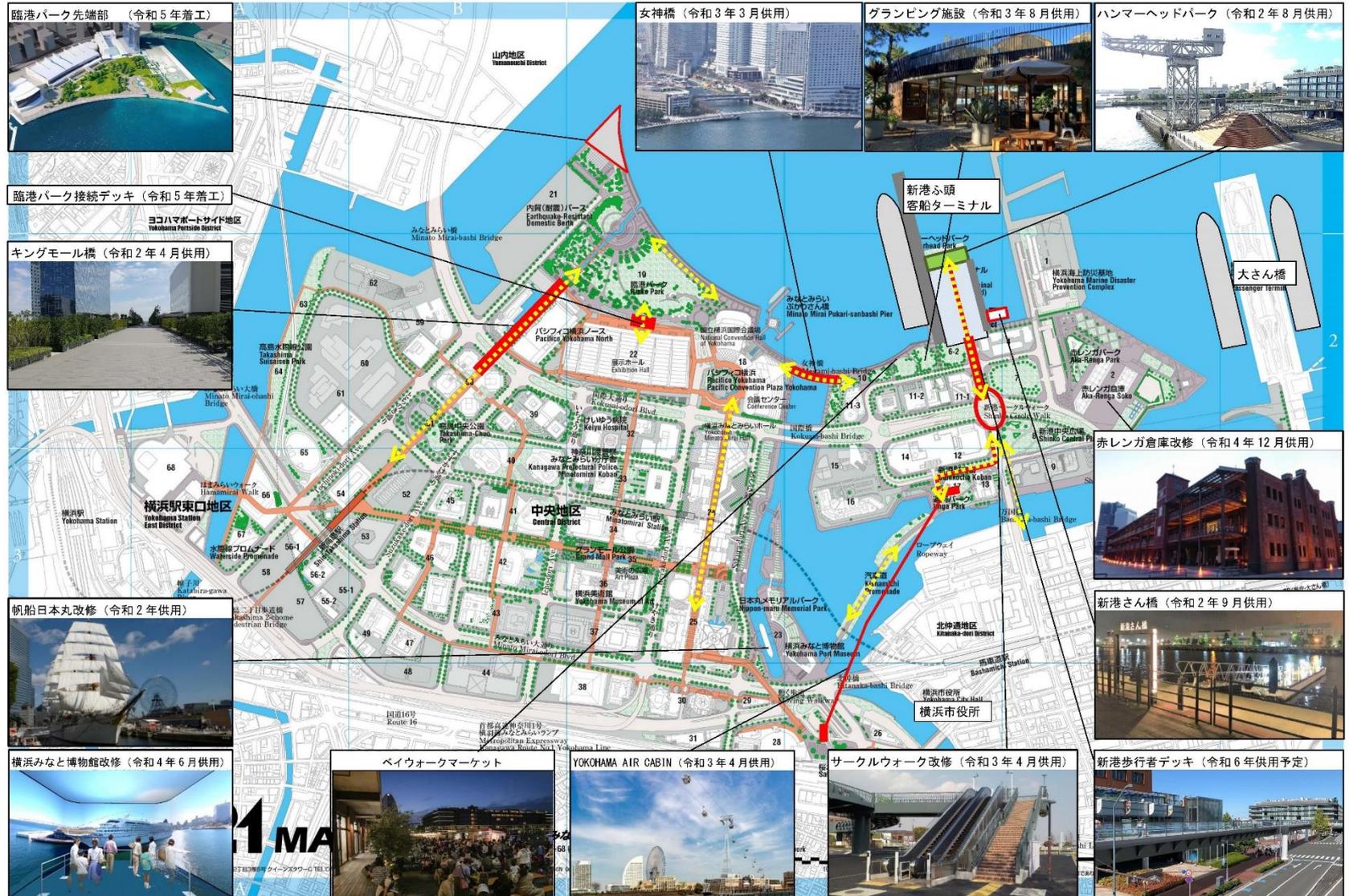
【観光立国推進基本計画(2023年3月31日閣議決定)】 クルーズ再興に向けた訪日クルーズ本格回復への取組

- 日本におけるクルーズ再興に向け、安心してクルーズを楽しめる環境づくりを進め、訪日クルーズ旅客を2025年にコロナ前ピーク水準の250万人まで回復させるとともに、外国クルーズ船の寄港回数がコロナ前ピーク水準の2,000回を超えることを目指した取組を推進する。
- 地方誘客を進めるための外国クルーズ船が寄港する港湾数について、2025年にコロナ前ピーク水準の67港を上回る100港とすることを目指して取り組む。



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

みなとみらい21地区の回遊性向上と賑わい創出



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

みなとみらい21地区の回遊性向上と賑わい創出

○港湾施設条例改正による**港湾緑地への民間施設整備**



【カフェ・ランニングステーション施設イメージ】



【グランピング施設2021年8月供用】



5. クルーズ船の誘致と観光による市内経済の活性化

みなとみらい21地区の回遊性向上と賑わい創出

クルーズ・フレンドリー・プログラム

- 本市はアジアで初めて、南フランス・ヴァール県の商工会議所とライセンス契約を締結
- 都心臨海部80店舗(飲食・物販店等)以上が加盟
- クルーズ旅客やクルーを対象に、割引、英語対応、早朝営業等のサービスを提供



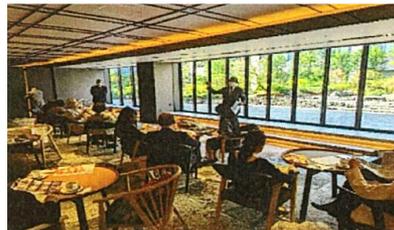
バイウォークマーケット

- 主催: BAY WALK MARKET 2023 実行委員会
- 民間事業者と連携し、カップヌードルミュージアムパーク～赤レンガパーク間の水際線約1kmでマーケットを開催
- 年3回実施、7月は延べ20万人以上、10月は延べ24万人以上の方がご来場、12月にも開催を予定



サロン・ド・ヨコハマ

- 主催: (一社)横浜港振興協会
対象: 旅行会社(JTB、名鉄観光、郵船トラベル等)
- 流れ
客室見学等ホテル紹介→食事(ホテルレストラン)
→ 横浜観光・クルーズ案内



ガイドブック・アプリ・街中の案内板の一体運用

みなと街歩きガイドブック

ウェブアプリ
(15か国語対応)



- 1 横浜港の概要
- 2 港湾を取り巻く状況
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
- 4 自動車取扱機能の強化
- 5 クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組**
- 7 山下ふ頭再開発検討の経緯

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

臨海部における民間事業者等と連携した取組

「Zero Carbon Yokohama」
2050年までの温室効果ガス実質排出ゼロの実現
2018年10月にゼロカーボンヨコハマを宣言



「ゼロカーボン市区町村協議会」会長
として、財務省・環境省に提言書を提出



岡本財務副大臣(当時)(左から2番目)

みなとみらい21地区「脱炭素先行
地域に選定」大都市における脱炭
素モデル構築



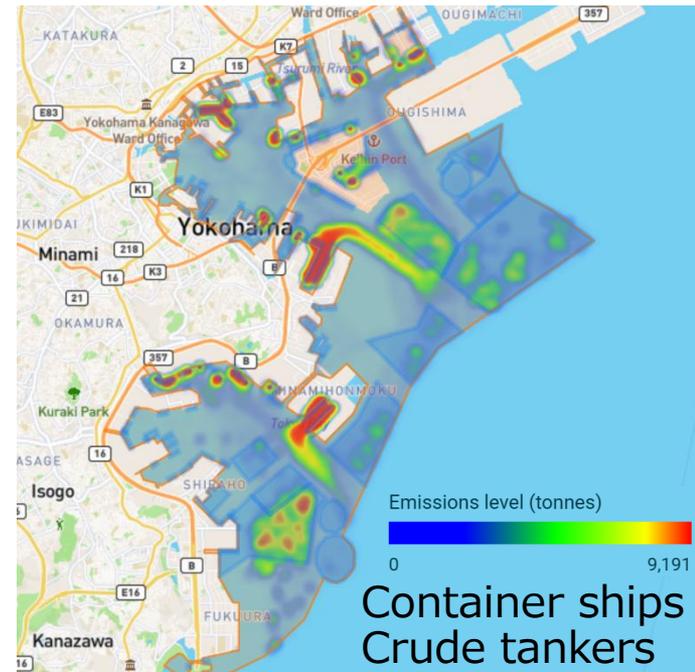
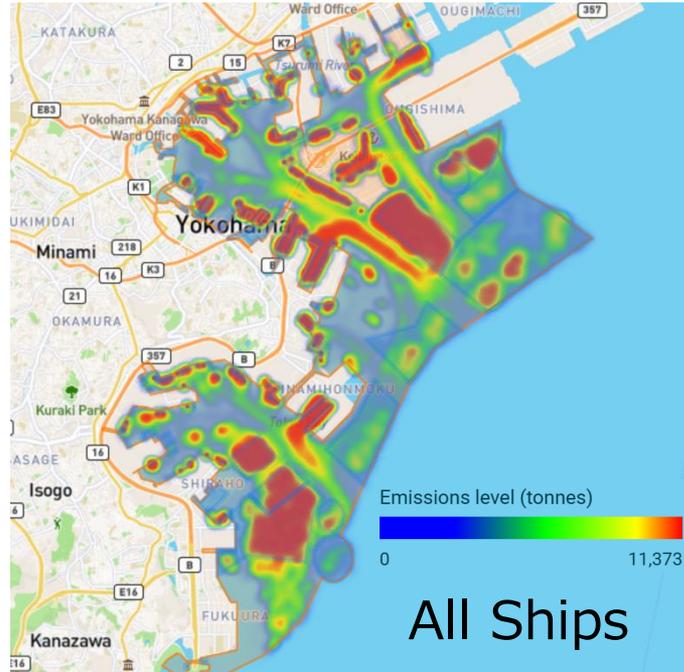
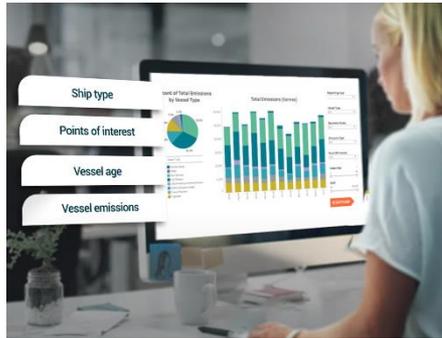
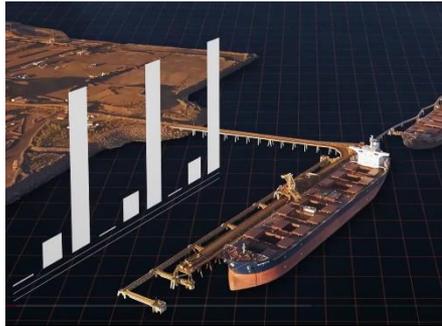
山口環境大臣(当時)(左から3番目)

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

日本初！船舶からの排出ガスの可視化サービスの活用

RIGHTSHIP

○港湾内の船舶から排出される CO2 等の排出ガスを把握し、削減に向けた取組を官民で進めるため、Right Ship社の「Maritime Emission Portal」の活用を通じて、船舶からの排出ガスのより正確な把握に努め、**DX 推進によるカーボンニュートラルポートの形成**に取り組めます。



ライトシップ社とは

2001年に設立。本社はオーストラリア・メルボルン。ESGにフォーカスした世界有数のデジタル海事プラットフォームであり、グローバルな安全性、持続可能性、社会的責任の実践に関する専門知識を提供。現在では800社以上の顧客がライトシップ社のデューデリジェンス、環境、検査サービスを利用しており、リスク管理と全体的な海上安全基準の向上を支援している。

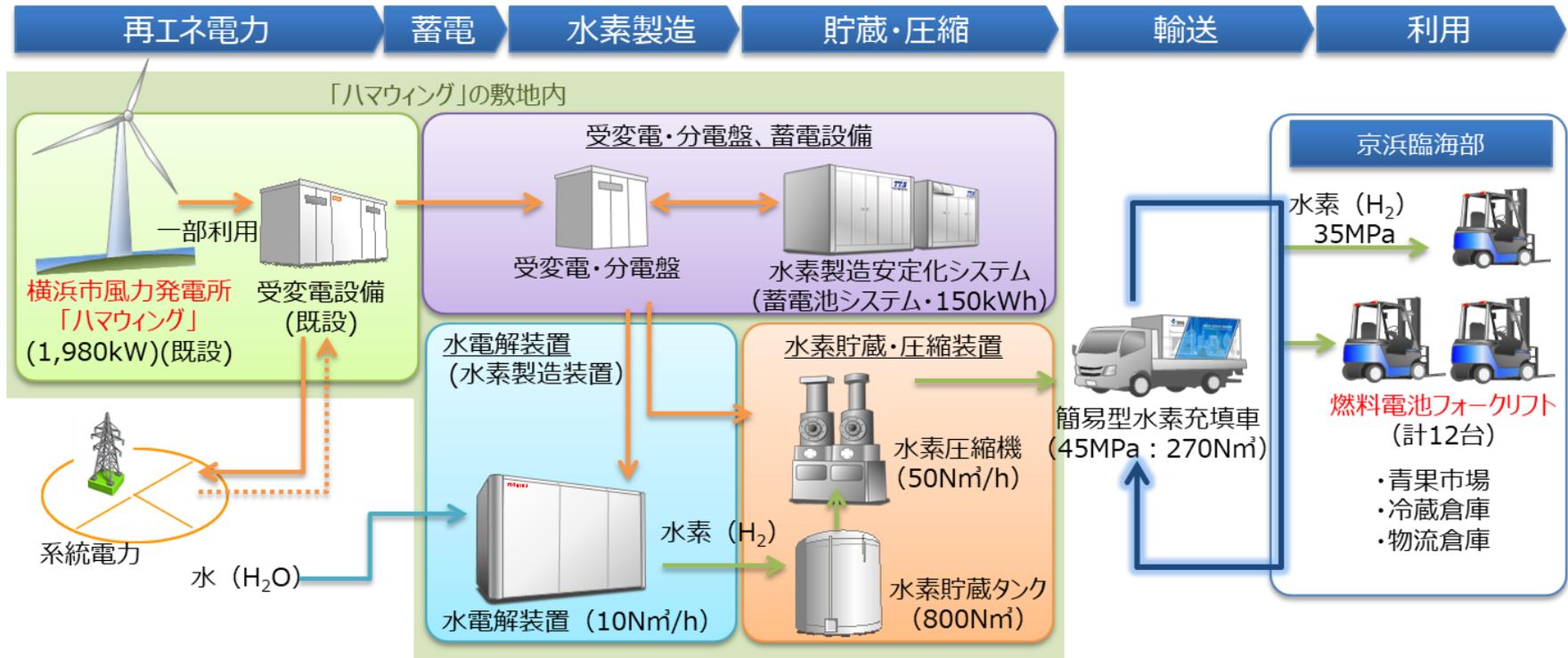
(www.rightship.com)

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

臨海部における民間事業者等と連携した取組

○風力発電による水素活用実証事業(2015～2020年度)

風力発電所ハマウイングにより製造した水素を燃料電池フォークリフトに使用する
水素供給システムの実証実験

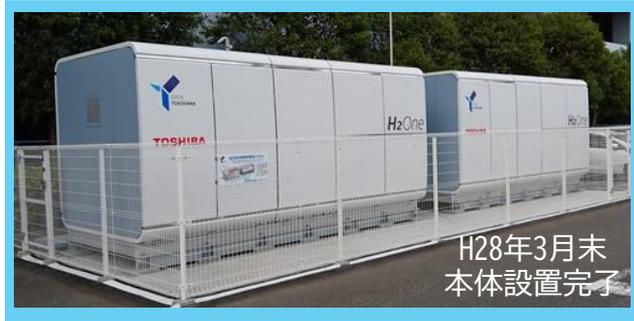


6. 脱炭素化・防災力向上の取組

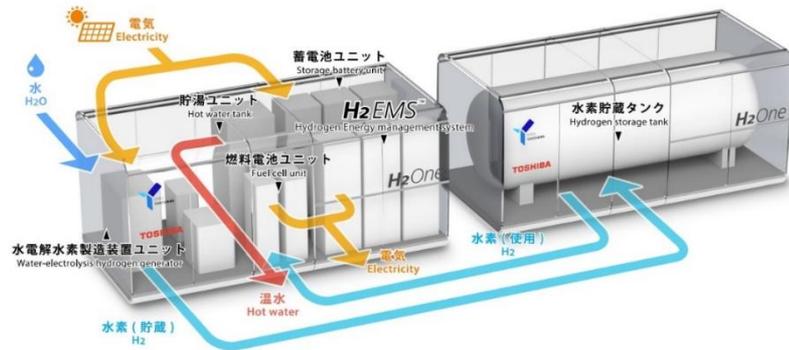
臨海部における民間事業者等と連携した取組

○自立型水素燃料電池システム(2015年～継続)

太陽光パネルと自立型水素燃料電池を導入した電力ピークカットや、非常用電源活用の実証事業



屋上に太陽光パネルを設置。
(発電容量：約25kW)



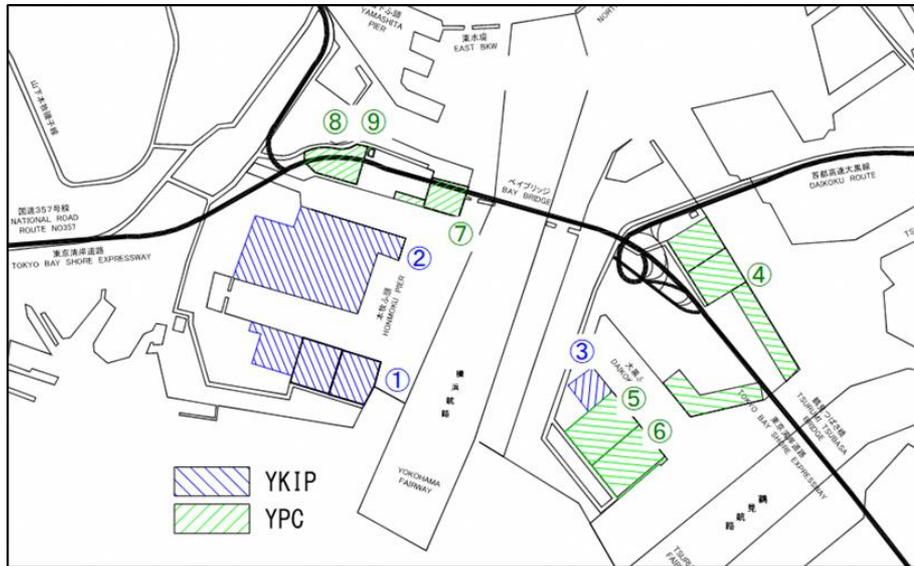
【実証を通じた検証・検討内容】

- グリーン水素(設置当時はCO2フリー水素と呼ぶ)の製造と供給
- 「ピークカット運転」可能性を実証
- 災害時の非常用電源としての利用可能性を実証

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

民間事業者等による脱炭素化に向けた取組

- 横浜川崎国際港湾株式会社(YKIP)、横浜港埠頭株式会社(YPC) 及び大黒ふ頭自動車ターミナル事業者による再生可能エネルギー由来の電力を使ったターミナル運営



| 所管 | 施設名 | 用途 |
|------|---|--------------------|
| YKIP | ① 本牧 D1・D4・D5 コンテナターミナル | コンテナターミナル |
| | ② 本牧ふ頭 BC突堤 | コンテナターミナル等 |
| | ③ 大黒ふ頭 T9ターミナル | コンテナターミナル |
| YPC | ④ 大黒ふ頭総合受電所 | 自動車ターミナル/ライナーターミナル |
| | ⑤ 大黒ふ頭 C3 自動車ターミナル [別途借受者の日本郵船にて導入(2020/10~)] | 自動車ターミナル |
| | ⑥ 大黒ふ頭 C4 自動車ターミナル [別途借受者の川崎汽船・ダトコボレイジにて導入(2022/4~)] | 自動車ターミナル |
| | ⑦ 本牧ふ頭 A5ターミナル | 在来ターミナル |
| | ⑧ 本牧ふ頭 A8 シャーシ整理場 | その他、シャーシ待機場など |
| | ⑨ 本牧ふ頭 A 突堤総合受電所 | その他 |

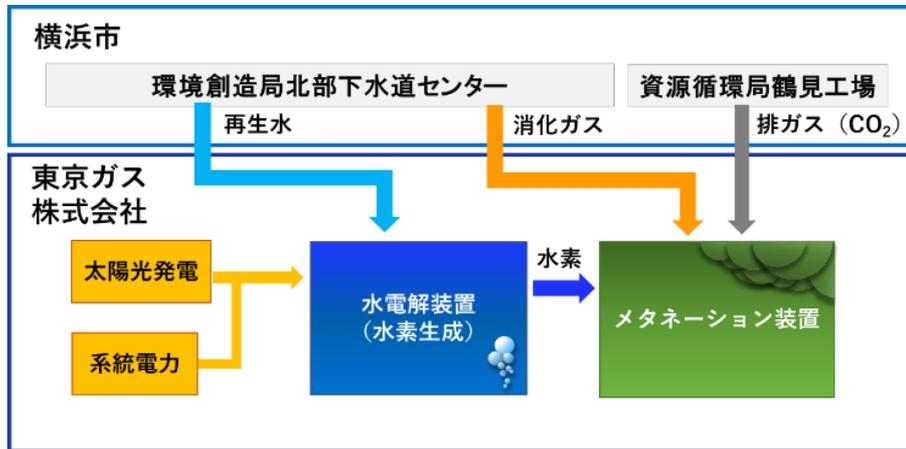
再エネ由来の電力を供給する施設

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

臨海部における民間事業者等と連携した取組

○メタネーションの実証試験(2022年～継続)

下水道センターやごみ焼却工場からバイオマス由来のCO₂等の資源を供給
都市ガスの主成分となるメタンを生成するメタネーションの実証試験



メタネーションの実証試験



未広脱炭素化モデル地区

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

民間事業者等と連携した取組

- 全電気推進タグボートの運航やアンモニア燃料タグボートの実証運航
- 将来の水素燃料電池へ換装可能な荷役機械(RTG)の導入
- 環境配慮船※へのインセンティブ制度の実施

※LNG燃料船、LNG燃料供給船、IAPH（国際港湾協会）が運営するESI制度の認証を受けた船舶など



全電気推進タグボート
東京汽船株式会社 提供



アンモニア燃料船タグボート(イメージ)
日本郵船株式会社 提供



LNGバンカリング船
エコバンカー SHIPPING株式会社 提供

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

カーボンニュートラルレポートとしての国際連携



2022.5.23 日米首脳共同声明

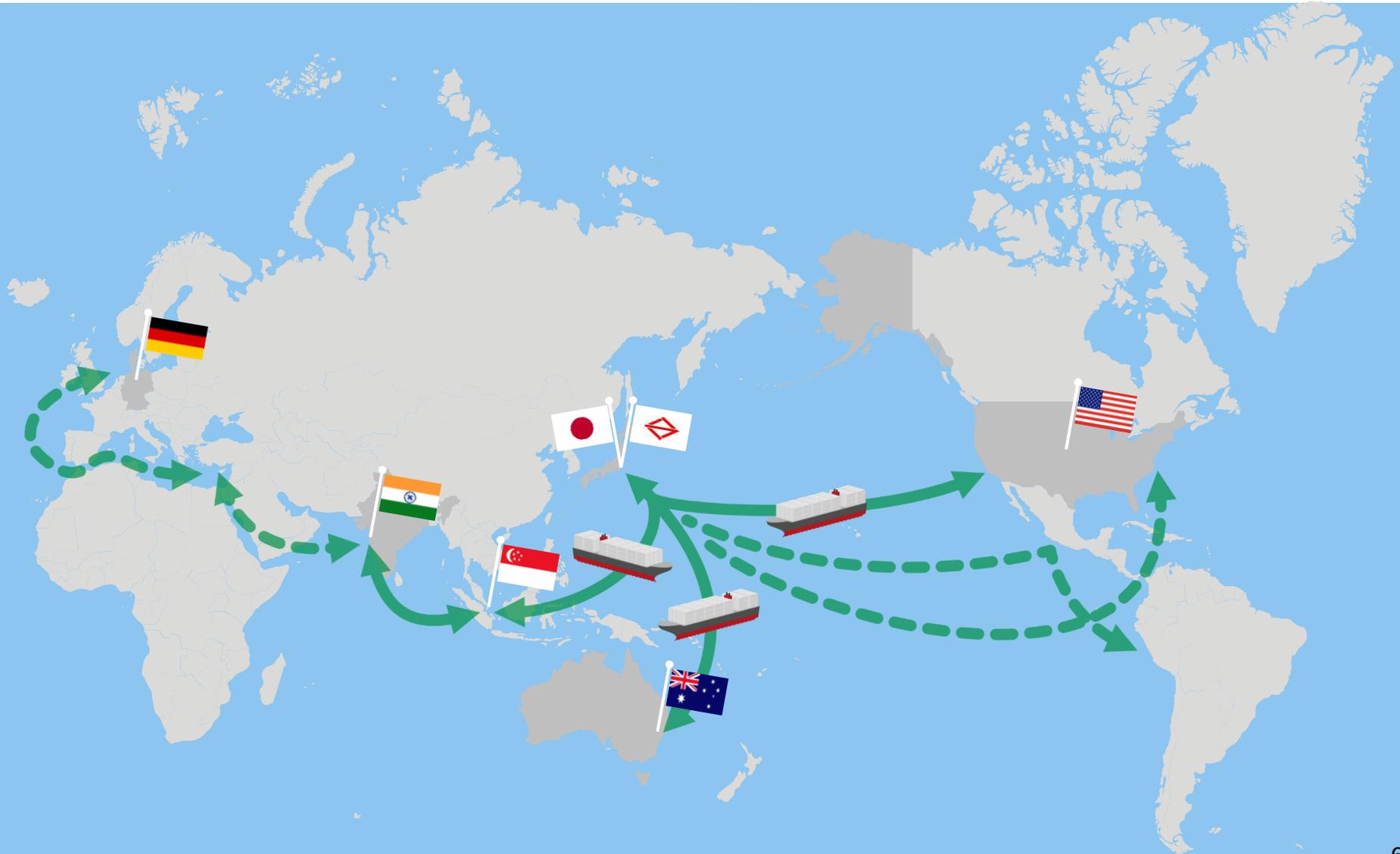


2022.5.24 日米豪印首脳会合

- ・カーボンニュートラルレポート形成について日米協力
- ・日米両政府・ロサンゼルス港湾局と共に港湾の脱炭素化に向けたワークショップを開催
- ・日米豪印首脳会談（QUAD）の枠組みで**横浜・ロサンゼルス・シドニー・ムンバイの4港が連携**、海運・港湾運営の脱炭素化を目指す

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

Advancing GSC across the world



6. 脱炭素化・防災力向上の取組

豊かな海づくり「ブルーカーボン」の取組と市民の連携

○新本牧心頭における**生物共生型護岸**の整備



○**市民連携**による活動

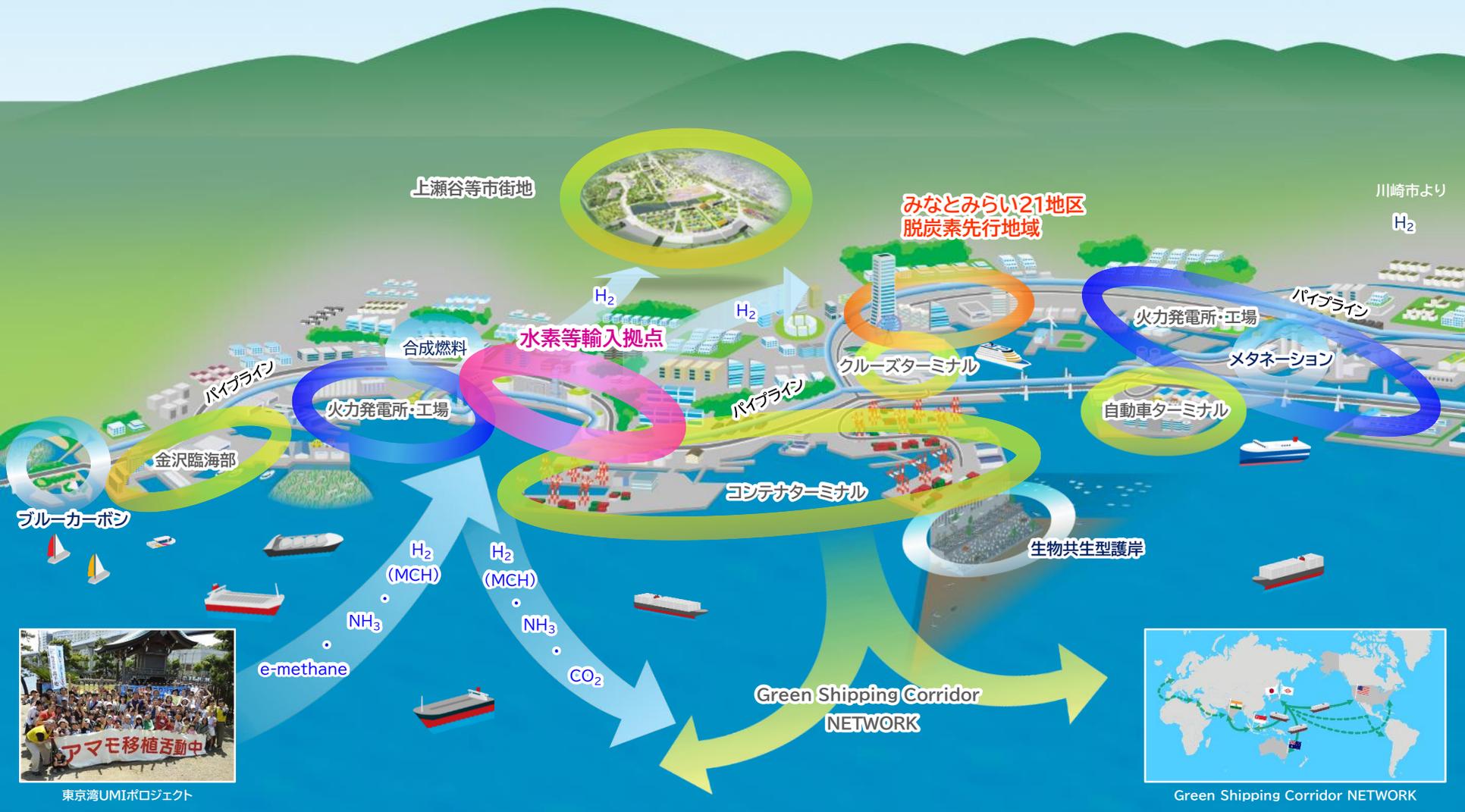


○森林と同程度のCO₂を吸収する**藻場・浅場の形成等**



6. 脱炭素化・防災力向上の取組

横浜が目指す脱炭素イノベーションの方向性



東京湾UMIプロジェクト

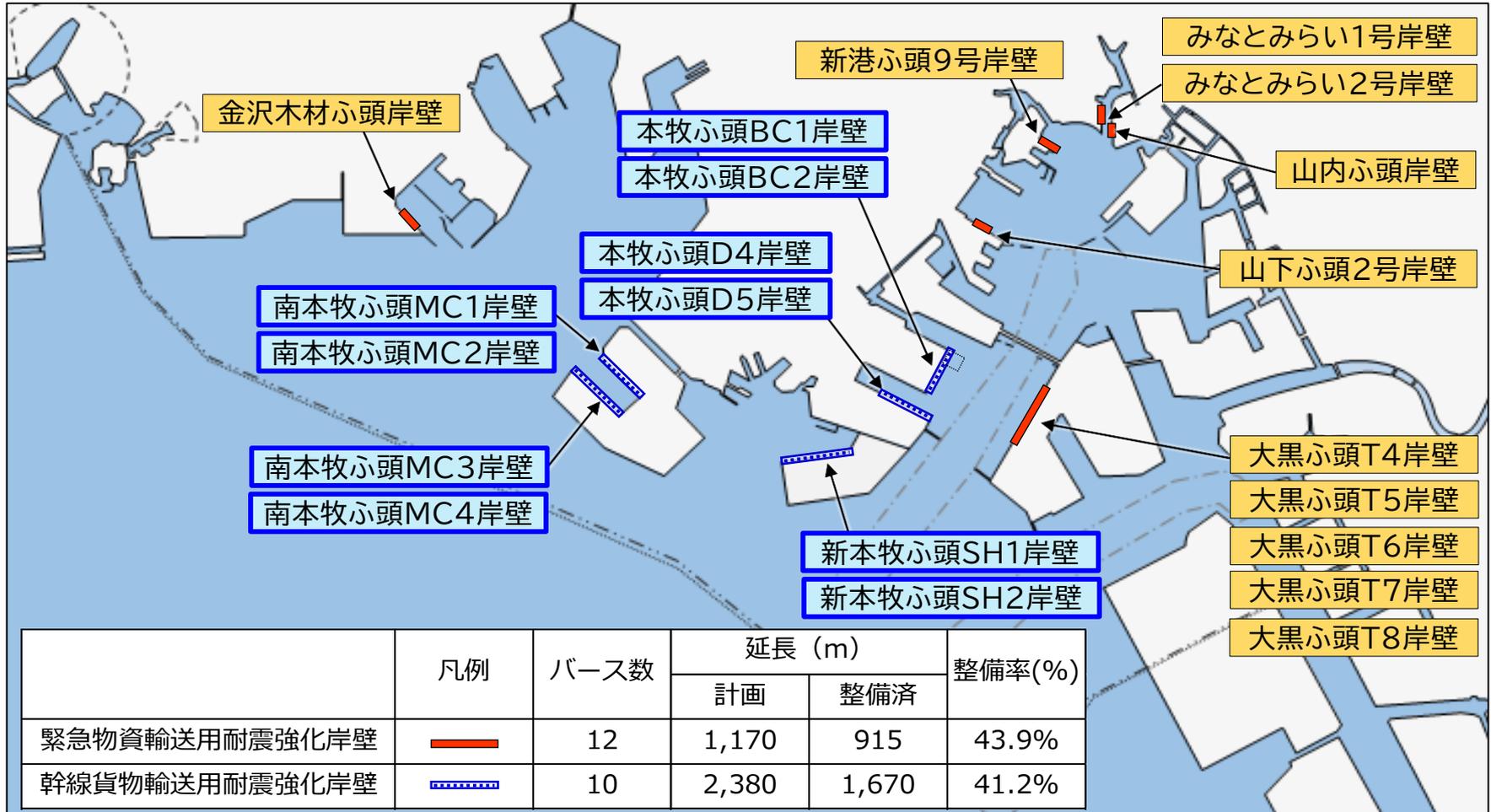


Green Shipping Corridor NETWORK

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

震災時における緊急物資や幹線貨物の輸送を担う耐震強化岸壁の整備推進

<耐震強化岸壁の整備状況(R5.3.31)>

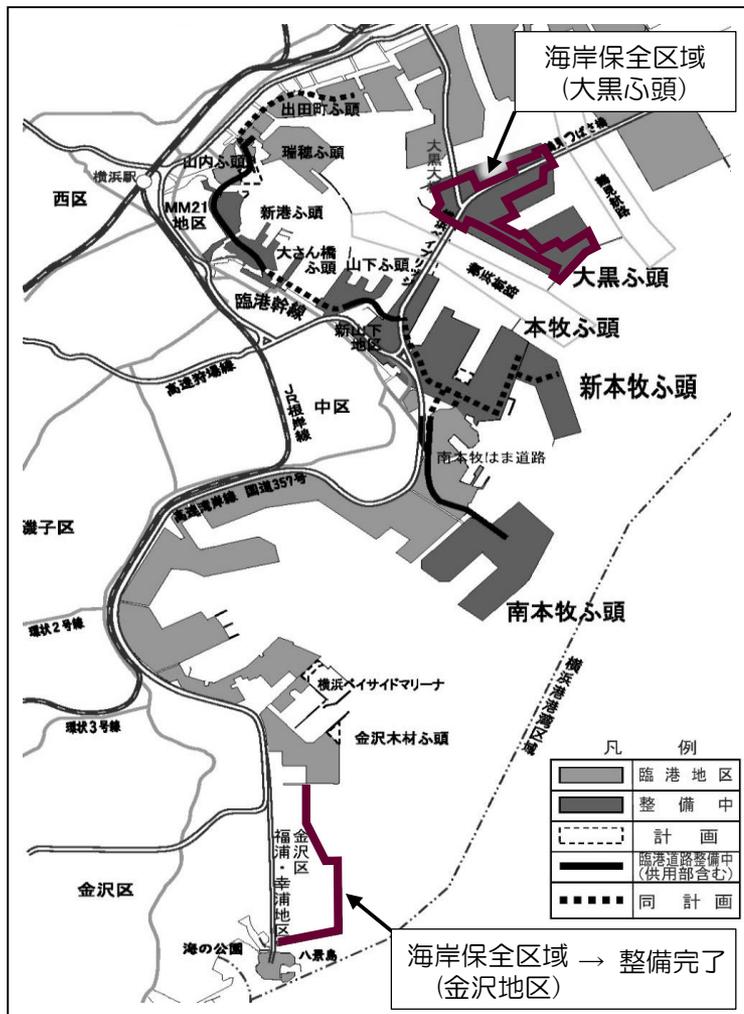


※新港ふ頭9号岸壁は1岸壁2バース換算

6. 脱炭素化・防災力向上の取組

津波・高潮・高波対策として海岸保全施設の整備

< 海岸保全区域位置図 >



< 大黒ふ頭 胸壁整備 >



< 大黒ふ頭 陸閘整備 >



< 金沢地区 護岸復旧 >



6. 脱炭素化・防災力向上の取組

金沢区福浦地区護岸の復旧

○2019年の台風15号による被災状況

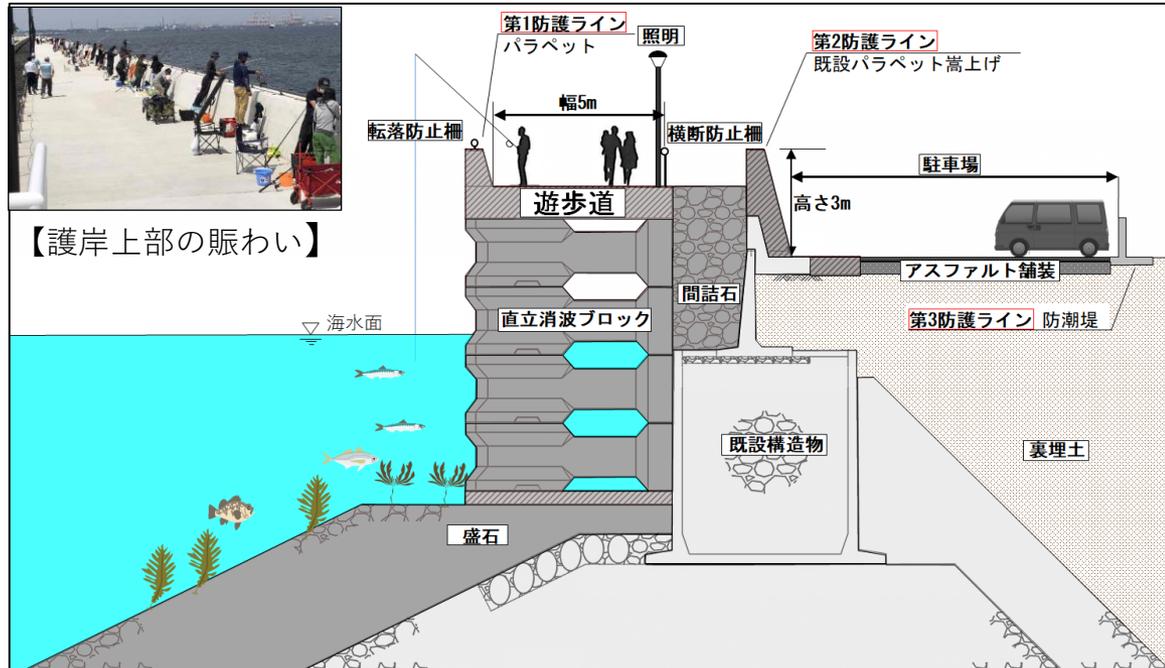


○護岸の復旧仕様

【第1,2防護ライン】
消波ブロックの設置と護岸の嵩上げにより、大潮の満潮及び伊勢湾台風相当の高潮に、2019年の台風15号の高波を重ねた想定し得る最大の高潮、高波による浸水を防ぐことが可能

【第3防護ライン】
年々激甚化する台風被害に備え、防潮堤を整備

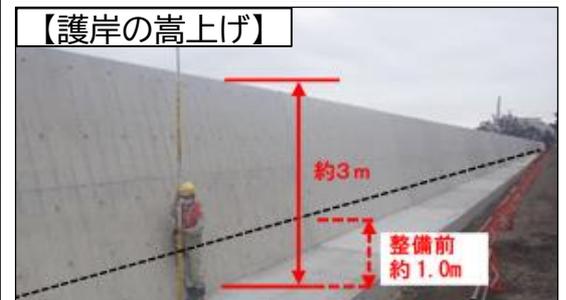
○護岸の復旧



【直立消波ブロック】



【護岸の嵩上げ】



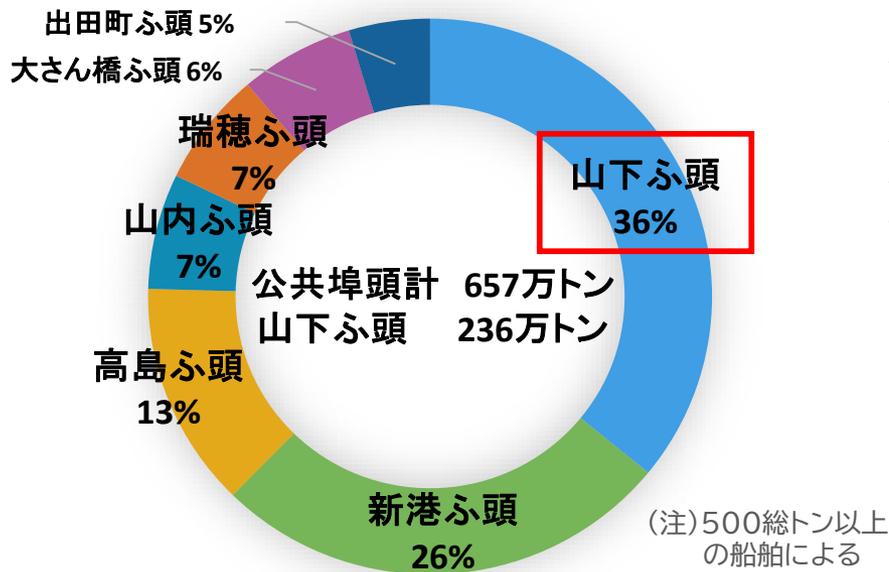
- 1 横浜港の概要
- 2 港湾を取り巻く状況
- 3 国際コンテナ戦略港湾の推進
- 4 自動車取扱機能の強化
- 5 クルーズ船の誘致と
観光による市内経済の活性化
- 6 脱炭素化・防災力向上の取組
- 7 **山下ふ頭再開発検討の経緯**

7. 山下ふ頭再開発検討の経緯

高度経済成長期～現在

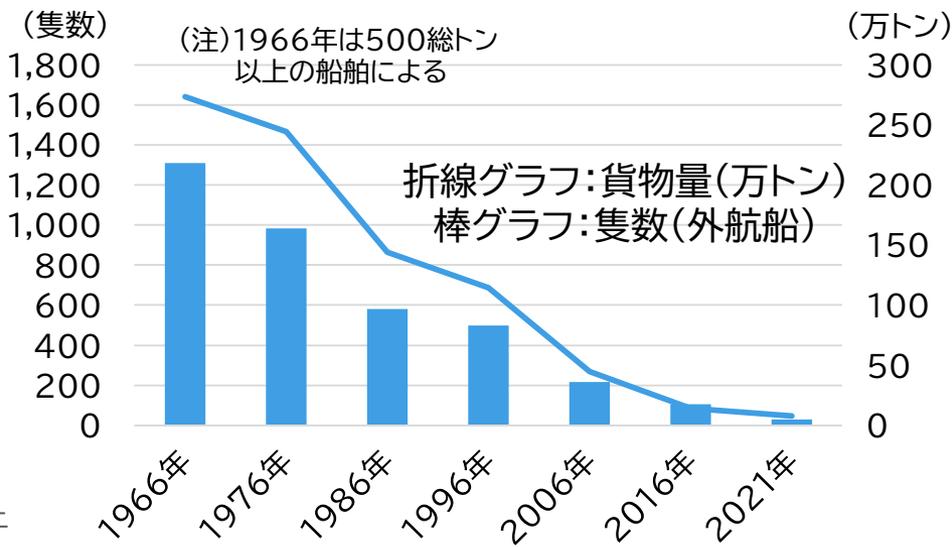
- 1964(昭和39)年には横浜港公共埠頭における取扱貨物量の3分の1以上を扱う、主要埠頭
- その後、コンテナ物流が主体となり、本牧、大黒等のコンテナ埠頭が建設され、取扱貨物量が減少
- 現在でも、本牧等のコンテナ埠頭を補完する物流機能を担う。

1964(昭和39)年 取扱貨物量



出典:横浜市「横浜港統計年報」より作成

山下ふ頭の取扱貨物量と着岸隻数の推移



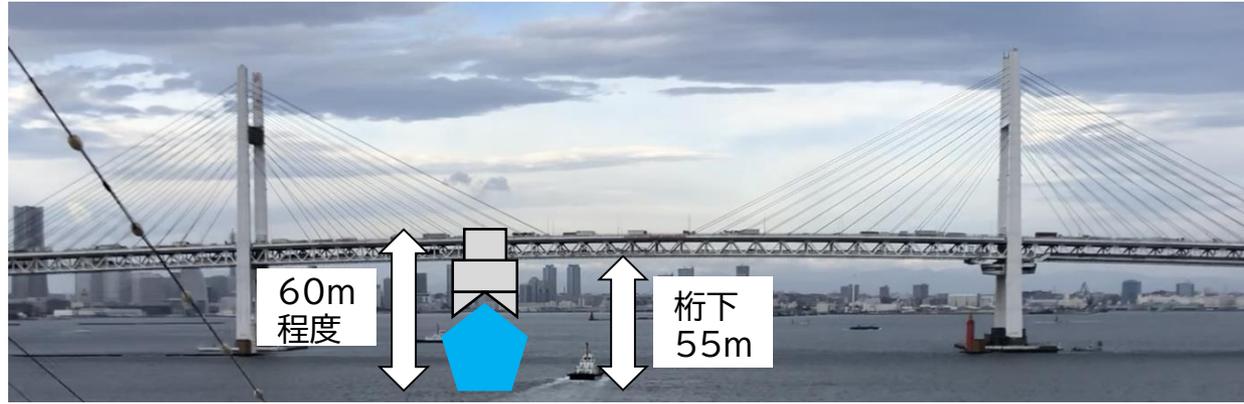
出典:横浜市「横浜港統計年報」より作成

7. 山下ふ頭再開発検討の経緯

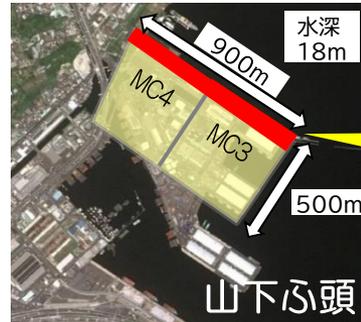
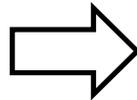
山下ふ頭にコンテナターミナルはできないのか？ ⇒ 困難

- 横浜ベイブリッジ桁下は55mで、大型コンテナ船の海面からの高さは60m程度のため**通過できない**。
- 山下ふ頭の最大の岸壁水深は12mで、大型コンテナ船に必要な水深は16m以深のため**着岸できない**。
- 山下ふ頭の最大水深の岸壁延長は420m・奥行150mで、コンテナターミナルとして必要な岸壁延長の900m・奥行500mのヤードが**確保できない**。

横浜ベイブリッジ桁下



コンテナターミナルヤード



南本牧
コンテナターミナル
MC3、MC4

7. 山下心頭再開発検討の経緯

山下心頭再開発検討の経緯

- 2014(平成26)年11月 港湾計画改訂により、山下心頭を「都心臨海部の新たな賑わい拠点」として都市的な土地利用への転換を位置付け
- 2015(平成27)年2月 横浜市都心臨海部再生マスタープランを策定し、山下心頭を含めて都心臨海部の一体的なまちづくりを推進
- 2021(令和3)年9月～ カジノを含む統合型リゾート(IR)に頼ることなく、山下心頭の持つ優れた立地と広大な開発空間を活かし、横浜経済をけん引する開発を推進することを表明
- 2021(令和3)年12月～
2023(令和5)年2月 市民意見募集・意見交換会、事業者提案募集 等
- 2023(令和5)年8月～ 山下心頭再開発検討委員会学識者会合開催

ご清聴ありがとうございました



【資料】（「寺島実郎の時代認識 資料集」2024年新年号速報版より抜粋）

IMF 世界経済の見通し (実質GDP成長率・2023年10月発表) (%)

| | 2019年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | | | | 24年 | | |
|-----------|---------|------|-------|------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----|
| | | | | | 23年1月発表時 | 23年4月発表時 | 23年7月発表時 | 最新値(予測値) | 23年7月発表時 | 最新値(予測値) | |
| 世界 | 2.8 | ▲2.8 | 6.3 | 3.5 | 2.9 | 2.8 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 2.9 | |
| 先進国 | 米国 | 2.3 | ▲2.8 | 5.9 | 2.1 | 1.4 | 1.6 | 1.8 | 2.1 | 1.0 | 1.5 |
| | ユーロ圏 | 1.6 | ▲6.1 | 5.6 | 3.3 | 0.7 | 0.8 | 0.9 | 0.7 | 1.5 | 1.2 |
| | イギリス | 1.1 | ▲11.0 | 7.6 | 4.1 | ▲0.6 | ▲0.3 | 0.4 | 0.5 | 1.0 | 0.6 |
| | 日本 | ▲0.4 | ▲4.2 | 2.2 | 1.0 | 1.8 | 1.3 | 1.4 | 2.0 | 1.0 | 1.0 |
| BRICS・新興国 | ブラジル | 1.2 | ▲3.3 | 5.0 | 2.9 | 1.2 | 0.9 | 2.1 | 3.1 | 1.2 | 1.5 |
| | ロシア | 2.2 | ▲2.7 | 5.6 | ▲2.1 | 0.3 | 0.7 | 1.5 | 2.2 | 1.3 | 1.1 |
| | インド | 3.9 | ▲5.8 | 9.1 | 7.2 | 6.1 | 5.9 | 6.1 | 6.3 | 6.3 | 6.3 |
| | 中国 | 6.0 | 2.2 | 8.5 | 3.0 | 5.2 | 5.2 | 5.2 | 5.0 | 4.5 | 4.2 |
| | 南アフリカ | 0.3 | ▲6.0 | 4.7 | 1.9 | 1.2 | 0.1 | 0.3 | 0.9 | 1.7 | 1.8 |
| | ASEAN5 | 4.3 | ▲4.4 | 4.0 | 5.5 | 4.3 | 4.5 | 4.6 | 4.2 | 4.5 | 4.5 |
| 参考① | 台湾 | 3.1 | 3.4 | 6.5 | 2.4 | - | 2.1 | - | 0.8 | - | 3.0 |
| 参考② | 実質世界貿易量 | 1.0 | ▲8.1 | 10.8 | 5.4 | 2.4 | 2.4 | 2.0 | 0.7 | 3.7 | 3.5 |

日本の貿易相手国のシェア推移 (貿易総額) (%)

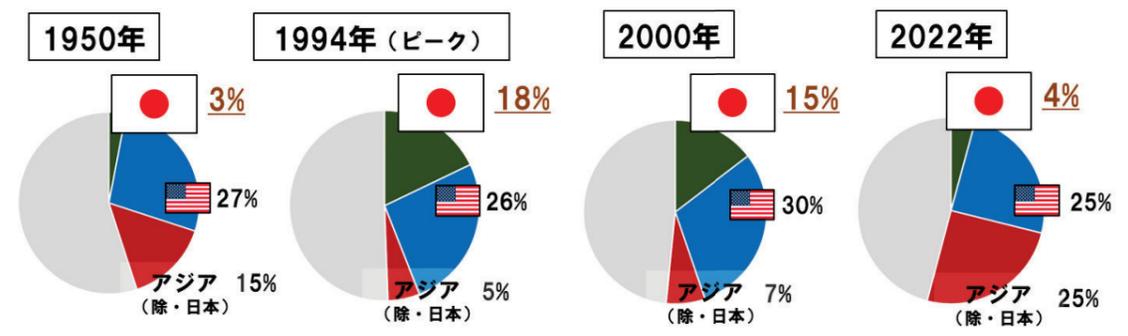
| 年 | ① 米国 | ② 中国 | ③ 中国 (含香港、マカオ) | ④ 大中華圏 (中国、台湾、香港、シンガポール) | ⑤ アジア | ⑥ 上海協力機構 (除香港、マカオ) | ⑦ 上海協力機構 (含香港、マカオ) | ⑧ 中東 | ⑨ EU | ⑩ ロシア | ⑪ ユーラシア |
|-------------|------|------|----------------|--------------------------|-------|--------------------|--------------------|------|------|-------|---------|
| 1990 | 27.4 | 3.5 | 6.4 | 13.7 | 30.0 | 5.9 | 8.8 | 7.5 | 17.0 | 1.1 | 59.4 |
| 1995 | 25.2 | 7.4 | 11.4 | 20.7 | 40.6 | 9.5 | 13.4 | 5.2 | 15.3 | 0.8 | 63.3 |
| 2000 | 25.0 | 10.0 | 13.3 | 22.8 | 41.4 | 11.3 | 14.7 | 6.9 | 14.6 | 0.6 | 64.9 |
| 2001 | 24.5 | 11.8 | 15.1 | 22.9 | 41.3 | 13.1 | 16.4 | 7.3 | 14.5 | 0.6 | 65.2 |
| 2002 | 23.4 | 13.5 | 17.0 | 24.9 | 43.2 | 14.7 | 18.3 | 6.9 | 13.9 | 0.6 | 66.2 |
| 2003 | 20.5 | 15.5 | 19.2 | 26.9 | 45.5 | 17.0 | 20.6 | 7.5 | 14.2 | 0.7 | 69.7 |
| 2004 | 18.6 | 16.5 | 20.1 | 28.2 | 47.0 | 18.1 | 21.8 | 7.6 | 14.2 | 0.9 | 71.1 |
| 2005 | 17.8 | 17.0 | 20.4 | 28.2 | 46.6 | 18.8 | 22.2 | 9.4 | 13.1 | 1.0 | 71.3 |
| 2006 | 17.4 | 17.2 | 20.3 | 27.8 | 45.7 | 19.3 | 22.4 | 10.5 | 12.5 | 1.1 | 71.1 |
| 2007 | 16.1 | 17.7 | 20.8 | 27.8 | 45.8 | 20.4 | 23.5 | 10.5 | 12.8 | 1.6 | 72.0 |
| 2008 | 13.9 | 17.4 | 20.1 | 26.7 | 45.0 | 20.4 | 23.2 | 13.0 | 11.7 | 1.9 | 73.2 |
| 2009 | 13.5 | 20.5 | 23.5 | 30.7 | 49.6 | 23.6 | 26.6 | 10.1 | 11.6 | 1.1 | 74.0 |
| 2010 | 12.7 | 20.7 | 23.7 | 31.1 | 51.0 | 24.5 | 27.5 | 9.8 | 10.5 | 1.6 | 74.6 |
| 2011 | 11.9 | 20.6 | 23.3 | 29.8 | 50.2 | 24.6 | 27.3 | 11.1 | 10.5 | 1.8 | 75.2 |
| 2012 | 12.8 | 19.7 | 22.3 | 28.3 | 49.2 | 23.5 | 26.1 | 11.8 | 9.8 | 2.0 | 74.1 |
| 2013 | 13.1 | 20.0 | 22.6 | 28.6 | 48.9 | 24.0 | 26.5 | 12.0 | 9.7 | 2.2 | 74.2 |
| 2014 | 13.3 | 20.5 | 23.2 | 29.3 | 49.1 | 24.4 | 27.1 | 11.8 | 9.9 | 2.3 | 74.5 |
| 2015 | 15.1 | 21.2 | 24.1 | 31.0 | 51.1 | 24.4 | 27.3 | 8.3 | 10.8 | 1.6 | 73.2 |
| 2016 | 15.8 | 21.6 | 24.5 | 31.6 | 51.7 | 24.5 | 27.4 | 6.7 | 11.9 | 1.3 | 73.1 |
| 2017 | 15.1 | 21.7 | 24.5 | 31.5 | 52.0 | 24.9 | 27.7 | 6.9 | 11.3 | 1.5 | 71.3 |
| 2018 | 14.9 | 21.4 | 23.9 | 30.8 | 51.1 | 24.7 | 27.2 | 7.8 | 11.5 | 1.5 | 73.6 |
| 2019 | 15.4 | 21.3 | 23.8 | 30.7 | 50.6 | 24.3 | 26.8 | 7.2 | 12.0 | 1.5 | 72.9 |
| 2020 | 14.7 | 23.9 | 26.5 | 34.1 | 54.2 | 26.5 | 29.1 | 5.4 | 10.5 | 1.3 | 74.3 |
| 2021 | 14.1 | 22.9 | 25.3 | 32.9 | 53.2 | 25.8 | 28.2 | 6.3 | 10.2 | 1.4 | 73.7 |
| 2022 | 13.9 | 20.3 | 22.4 | 29.8 | 50.3 | 23.0 | 25.1 | 8.4 | 9.6 | 1.2 | 72.0 |
| 2023 (1~9月) | 14.9 | 19.8 | 22.1 | 29.1 | 49.5 | 22.2 | 24.5 | 7.8 | 10.3 | 0.7 | 71.3 |
| 2023 (9月) | 15.5 | 20.8 | 23.6 | 29.9 | 50.1 | 23.0 | 25.8 | 7.4 | 10.3 | 0.4 | 71.3 |

(注1) EUは1994年までは12カ国、1995年から15カ国、2004年から25カ国、2007年から27カ国、2013年7月から28カ国、2020年2月から27カ国
 (注2) 上海協力機構: 加盟9カ国(中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、インド、パキスタン、イラン) オブザーバー3カ国(モンゴル、アフガニスタン、ベラルーシ) ※ベラルーシは加盟に向けて手続き中
 (注3) ユーラシア: アジア、欧州全域、中東の各国の合計値。英国、インドネシア等の島国も含む

(出所)財務省「貿易統計」

「日本の埋没」の再確認

◆世界GDPにおける日本のシェア



◆一人当たりGDP (2022年) : 約3.4万ドル

| 世界 | アジア |
|-----|-----|
| 32位 | 4位 |

(1位 シンガポール、2位 香港、3位 ブルネイ)
 cf. 5位 台湾: 約3.3万ドル、6位 韓国: 約3.2万ドル

◆2022年国際収支の悪化

- ・貿易収支: ▲20.0兆円 (過去最大)
 「鉱物性燃料」輸入額: 33.5兆円、「食料品」輸入額: 9.5兆円
- ・経常収支: +11.4兆円 (前年比47.0%減)
 デジタル赤字 (デジタル・サービスの海外への支出): ▲4.7兆円

1人当たりGDP (単位: 万ドル)

| | シンガポール | マカオ | 香港 | ブルネイ | 日本 | 韓国 | 台湾 | 中国 |
|---------|--------|-----|-----|------|------|------|-----|-----|
| 2020年 | 6.1 | 3.7 | 4.7 | 2.7 | 4.0 | 3.2 | 2.9 | 1.1 |
| 2021年 | 7.8 | 4.4 | 5.0 | 3.2 | 4.0 | 3.5 | 3.3 | 1.3 |
| 2022年 | 8.3 | 3.2 | 4.8 | 3.8 | 3.4 | 3.2 | 3.3 | 1.3 |
| 2023年予測 | 8.8 | 5.4 | 5.1 | 3.4 | 3.4 | 3.3 | 3.2 | 1.3 |
| 2024年予測 | 9.2 | 7.0 | 5.4 | 3.6 | 3.46 | 3.47 | 3.4 | 1.3 |

※IMF2023年10月

アジアダイナミズム

【物流面】

◆2021年世界港湾ランキング（コンテナ取扱量：TEU）⇒太平洋側港湾の空洞化

| 21年 | 20 | 19 | 18 | 17 | 21年 | 20 | 19 | 18 | 17 | 21年 | 20 | 19 | 18 | 17 | | | |
|-----|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|-----|--------|----|----|----|----|----|-----|
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 上海 ★ | 8 | 8 | 9 | 10 | 11 | 天津 ★ | ∴ | ∴ | ∴ | 東京 | | |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | シンガポール ★ | 9 | 9 | 8 | 7 | 5 | 香港 ★ | 46 | 43 | 38 | 27 | 28 | 東京 |
| 3 | 3 | 3 | 3 | 4 | 寧波 ★ | 10 | 10 | 10 | 11 | 11 | ロッテルダム | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | 東京 |
| 4 | 4 | 4 | 4 | 3 | 深圳 ★ | 11 | 11 | 11 | 10 | 9 | ドバイ | 72 | 69 | 60 | 58 | 53 | 横浜 |
| 5 | 5 | 5 | 6 | 7 | 広州 ★ | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | ポートケラン | 73 | 70 | 66 | 64 | 54 | 神戸 |
| 6 | 6 | 7 | 8 | 8 | 青島 ★ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | 77 | 73 | 67 | 68 | 60 | 名古屋 |
| 7 | 7 | 6 | 5 | 6 | 釜山 | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | 82 | 78 | 79 | 77 | 72 | 大阪 |

注：★…「大中華圏」、ポートケラン：マレーシア、20・19・18・17の欄はそれぞれ20年・19年・18年・17年のランキング

（参考：1980年時）ニューヨーク：1位、神戸：4位、横浜：13位、東京：18位、大阪：39位、名古屋：46位

*注目すべき釜山のハブ化：「釜山トランスシップ」の増加

◆日本海物流：外貿コンテナ貨物量の伸び率（2005年→2021年）

※日本海沿岸 13 港平均：43.4%（⇨全国平均：13.8%）

| 浜田 | 酒田 | 金沢 | 舞鶴 | 博多 | 直江津 | 伏木富山 |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 151.3% | 145.2% | 114.4% | 85.7% | 31.2% | 28.2% | 22.9% |

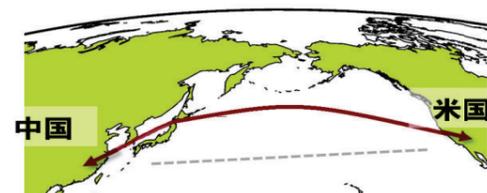
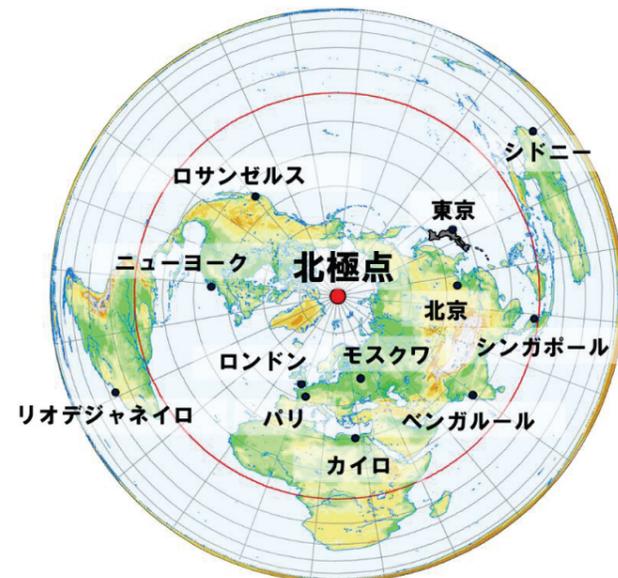
（参考）苫小牧港：24.7% cf. 苫東プロジェクト

アジアダイナミズムと日本海物流

【貿易総額】

| | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
|---------|----------------------------|------------------------------|----------------------------|
| 日本-米国 | 1,833億ドル (19年比：▲350億ドル) | 2,094億ドル (20年比：+261億ドル) | 2,286億ドル (21年比：+192億ドル) |
| 米国-中国 | 5,592億ドル (19年比：+3億ドル) | 6,564億ドル (20年比：+972億ドル) | 6,906億ドル (21年比：+342億ドル) |
| 米国-大中華圏 | 7,394億ドル (19年比：+22億ドル) | 8,691億ドル (20年比：+1,297億ドル) | 9,346億ドル (21年比：+656億ドル) |

（参考）ランベルト正積方位図法



・輸出入主力品目の変化にみる産業構造の変貌：強い産業力とそれへの過剰依存

(%はシェア)

| | 輸出 | | | 輸入 | | | | | | | |
|------------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|
| | 1990年 | 2000年 | 2022年 | 1990年 | 2000年 | 2022年 | | | | | |
| 1 自動車 | 17.8% | 自動車 | 13.4% | 自動車 | 13.3% | 原油及び粗油 | 13.2% | 原油及び粗油 | 11.8% | 原油及び粗油 | 11.2% |
| 2 事務用機器 | 7.2% | 半導体等電子部品 | 8.9% | 半導体等電子部品 | 5.8% | 魚介類 | 4.5% | 事務用機器 | 7.1% | 液化天然ガス | 7.2% |
| 3 半導体等電子部品 | 4.7% | 事務用機器 | 6.0% | 鉄鋼 | 4.8% | 石油製品 | 4.1% | 半導体等電子部品 | 5.2% | 石炭 | 6.6% |
| 4 映像機器 | 4.5% | 科学光学機器 | 5.1% | 半導体等製造装置 | 4.1% | 衣類・同付属品 | 3.7% | 衣類・同付属品 | 5.2% | 医薬品 | 4.8% |
| 5 鉄鋼 | 4.4% | 自動車部品 | 3.6% | 自動車の部分品 | 3.9% | 木材 | 3.2% | 魚介類 | 4.0% | 半導体等電子部品 | 4.1% |
| 6 科学光学機器 | 4.0% | 原動機 | 3.2% | プラスチック | 3.2% | 液化天然ガス | 2.8% | 液化天然ガス | 3.4% | 通信機 | 3.2% |
| 7 自動車部品 | 3.8% | 鉄鋼 | 3.1% | 原動機 | 2.9% | 自動車 | 2.7% | 科学光学機器 | 2.3% | 衣類・同付属品 | 3.0% |
| 8 原動機 | 2.7% | 映像機器 | 2.7% | 科学光学機器 | 2.6% | 石炭 | 2.6% | 石油製品 | 2.3% | 非鉄金属 | 2.8% |
| 9 音響機器 | 2.3% | 有機化合物 | 2.3% | 非鉄金属 | 2.5% | 事務用機器 | 2.2% | 肉類 | 2.3% | 石油製品 | 2.4% |
| 10 通信機 | 2.1% | プラスチック | 2.0% | 電気回路等の機器 | 2.4% | 肉類 | 2.1% | 音響映像機器 | 2.1% | 電算機類 | 2.3% |

(注)2005年1月に貿易統計の品目変更があり、事務用機器は電算機器類などに細分化されたため、現在は品目として存在しない。

●浮かび上がる日本という国の生業（2022年）

鉱物性燃料を 33.5 兆円、食料品を 9.5 兆円、つまり食べ物とエネルギーを約 43.0 兆円輸入

→そのための財資として主力輸出 3 品目（自動車・自動車部品 16.9 兆円、電気機器 17.3 兆円、鉄鋼 4.7 兆円）の

合計約 38.9 兆円を輸出 …「国際収支の天井」を再考すべき時代

（参考）農林水産物・食品の輸出額[2022年]：1兆4,148億円（前年比+14.3%）

| 1位 中国 | 2位 香港 | 3位 米国 | 4位 台湾 | 5位 ベトナム |
|------------------------|---------------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| 2,783億円 (前年比+25.2%) | 2,086億円 (同▲4.8%) | 1,939億円 (同+15.2%) | 1,489億円 (同+19.6%) | 724億円 (同+23.8%) |

【人流面】

◆日本人出国者数[人]

| (抜粋) | 合計 | 中国 | 米国 | 韓国 | 香港 | 台湾 | シンガポール | | | |
|-------|--------|------|------|------|------|------|--------|-------|------|------|
| 2015年 | 1,621万 | 250万 | 376万 | 151万 | 77万 | 8万 | 184万 | 105万 | 163万 | 79万 |
| 16年 | 1,712万 | 259万 | 377万 | 149万 | 75万 | 6万 | 230万 | 109万 | 189万 | 78万 |
| 17年 | 1,789万 | 268万 | 360万 | 157万 | 62万 | 5万 | 231万 | 123万 | 190万 | 79万 |
| 18年 | 1,895万 | 269万 | 349万 | 157万 | 56万 | 3万 | 295万 | 129万 | 197万 | 77万 |
| 19年 | 2,008万 | - | 375万 | 155万 | 68万 | 2万 | 327万 | 108万 | 217万 | 88万 |
| 20年 | 317万 | - | 70万 | 30万 | 14万 | - | 43万 | 5万 | 13万 | 88万 |
| 21年 | 51万 | - | 12万 | 2.4万 | 0.4万 | - | 1.5万 | 0.03万 | 1万 | 0.6万 |
| 22年 | 277万 | - | 60万 | 20万 | 2万 | 0.2万 | 30万 | 0.7万 | 9万 | 13万 |

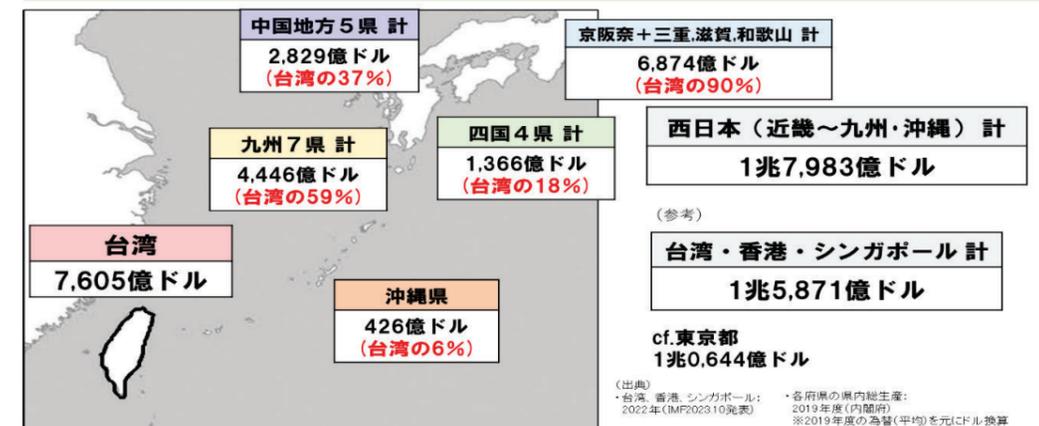
◆訪日外国人数[人]

| (抜粋) | 合計 | 米国 | 大中華圏 | 韓国 | | | | |
|-------|--------|------|--------|------|------|------|------|------|
| 2015年 | 1,974万 | 103万 | 1,050万 | 499万 | 152万 | 368万 | 31万 | 400万 |
| 16年 | 2,404万 | 124万 | 1,274万 | 637万 | 184万 | 417万 | 36万 | 509万 |
| 17年 | 2,869万 | 138万 | 1,456万 | 736万 | 223万 | 457万 | 40万 | 714万 |
| 18年 | 3,119万 | 153万 | 1,578万 | 838万 | 221万 | 476万 | 44万 | 754万 |
| 19年 | 3,188万 | 172万 | 1,727万 | 959万 | 229万 | 489万 | 49万 | 558万 |
| 20年 | 412万 | 22万 | 217万 | 107万 | 35万 | 69万 | 6万 | 49万 |
| 21年 | 25万 | 2万 | 4.7万 | 4万 | 0.1万 | 0.5万 | 0.1万 | 2万 |
| 22年 | 383万 | 32万 | 92万 | 19万 | 27万 | 33万 | 13万 | 101万 |

（参考）・訪日外国人一人当たりの旅行消費額 15.8万円(2019年)、総額4.81兆円

・日本人の国内消費総額（家計最終消費支出[実質]）：295兆円（19年）

台湾の経済規模



(出典) ・台湾、香港、シンガポール：2022年(IMF2023.10発表) ・各府県の県内総生産：2019年度(内閣府) ※2019年度の為替(平均)を元にドル換算

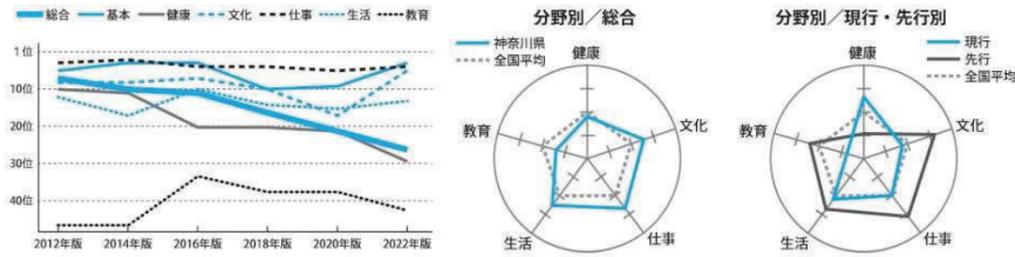
総合24位 神奈川県

人口：924万人（2位） 面積：2,416km²（43位）

| 基本指標 | 人口増加率 | 一人あたり県民所得 | 選挙投票率(国政選挙) | 食料自給率 | 財政健全度 |
|------|-------|-----------|-------------|-------|-------|
| 3位 | 3位 | 10位 | 29位 | 45位 | 2位 |

総合順位の推移
7位→10位→11位→16位→21位→**24位** (2022年)

| 全国トップクラス | 取り組み課題 |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 本社機能流出・流入数（1位） インターネット人口普及率（1位） | 社会教育費（47位） 社会教育学級・講座数（47位） |



| 分野 | 領域 | 現行指標 | | 先行指標 | |
|----|--------|--------------------|----------------|----------------|-----------------|
| | | 現行 | 先行 | 現行 | 先行 |
| 健康 | 医療・福祉 | 生活習慣病受療者数 8位 | 気分障害受療者数 28位 | 産科・産婦人科医師数 43位 | ホームヘルパー数 20位 |
| | 運動・体力 | 健康寿命 24位 | 平均歩数 8位 | 健康診査受診率 20位 | スポーツ施設数 45位 |
| 文化 | 余暇・娯楽 | 教養・娯楽(サービス)支出額 19位 | 余暇時間 44位 | 常設映画館数 35位 | 書籍購入額 2位 |
| | 国際 | 外国人宿泊者数 10位 | 姉妹都市提携数 10位 | 語学教室にける金額 3位 | 海外渡航者率 2位 |
| 仕事 | 雇用 | 若者完全失業率 13位 | 正規雇用者比率 28位 | 高齢者有業率 38位 | インターンシップ実施率 22位 |
| | 企業 | 障害者雇用率 40位 | 製造業労働生産性 14位 | 事業所新設率 3位 | 特許等出願件数 5位 |
| 生活 | 個人(家族) | 持ち家比率 42位 | 生活保護受給率 31位 | 待機児童率 36位 | 一人暮らし高齢者率 34位 |
| | 地域 | 污水处理人口普及率 5位 | 道路整備率 16位 | 一般廃棄物リサイクル率 3位 | エネルギー消費量 15位 |
| 教育 | 学校 | 学力 16位 | 不登校児童生徒率 30位 | 司書教諭発令率 2位 | 大学進学率 5位 |
| | 社会 | 社会教育費 47位 | 社会教育学級・講座数 47位 | 学童保育設置率 19位 | 余裕教室活用率 1位 |

【追加指標】

| 2014年版 | 2016年版 | 2018年版 | 2020年版 | 2022年版 |
|-----------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 信用金庫貸出平均利回り 19位 | 合計特殊出生率 42位 | 訪日外国人客消費単価 12位 | 高齢世帯の相対的貧困率 8位 | コロナ患者受入病床数 44位 |
| 平均寿命 8位 | 女性の労働力人口比率 18位 | 市民農園面積 13位 | 子どものチャレンジ率 42位 | 地域子育て支援拠点数 46位 |
| 自殺死亡者数 13位 | 子どもの運動能力 46位 | コンビニエンスストア数 44位 | 男女の賃金格差 28位 | 一人あたりのごみ排出量 4位 |

総合8位 横浜市

人口：378万人（1位） 面積：438km²（11位）

総合順位の推移 5位→6位→9位→**2022年 8位**

| 全国トップクラス | 取り組み課題 |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 一人あたり市民所得（1位） 語学教室にける金額（1位） | 図書館・博物館等施設数（20位） 図書冊数（20位） |

| 基本指標 | 人口増加率 | 一人あたり市民所得 | 選挙投票率(国政選挙) | 財政健全度 | 合計特殊出生率 | 自殺死亡者数 | 勤労者世帯可処分所得 |
|------|-------|-----------|-------------|-------|---------|--------|------------|
| 4位 | 6位 | 1位 | 5位 | 16位 | 13位 | 7位 | 9位 |

| | | | | | |
|----|--------|-------------------|-------------------|------------------|-----------------|
| 健康 | 医療・福祉 | 産科・産婦人科医師数 17位 | ホームヘルパー数 14位 | 一人あたり医療費 8位 | 生活習慣病による死亡者数 6位 |
| | 運動・体力 | 健康診査受診率 18位 | 体育・スポーツ施設数 16位 | 平均寿命 8位 | 要介護等認定率 6位 |
| 文化 | 余暇・娯楽 | 教養・娯楽(サービス)支出額 9位 | 常設映画館数 14位 | 書籍購入額 1位 | 文化活動等NPO認証数 17位 |
| | 国際 | 姉妹都市提携数 2位 | 語学教室にける金額 1位 | 国際会議外国人参加者数 5位 | 外国人住民数 8位 |
| 仕事 | 雇用 | 若者完全失業率 3位 | 正規雇用者比率 6位 | 高齢者有業率 13位 | 高卒者進路未定者率 19位 |
| | 企業 | 製造業労働生産性 13位 | 事業所新設率 3位 | 女性の労働力人口比率 13位 | 小売業販売額 5位 |
| 生活 | 個人(家族) | 持ち家比率 8位 | 生活保護受給率 7位 | 待機児童率 13位 | 一人暮らし高齢者率 11位 |
| | 地域 | 道路整備率 9位 | 一般廃棄物リサイクル率 7位 | 刑法犯認知件数 2位 | 都市公園面積 17位 |
| 教育 | 学校 | 不登校児童生徒率 12位 | 大学進学率 4位 | 教員一人あたり児童生徒数 17位 | 義務教育費 13位 |
| | 社会 | 社会教育費 16位 | 悩みやストレスのある者の率 16位 | 図書館・博物館等施設数 20位 | 図書冊数 20位 |

日時：令和6年1月12日（金）
14:15 ～ 15:45（予定）
場所：産業貿易センタービル 9階
横浜シンポジア

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会

次 第

1 議 事

- (1) 前回委員会後の市民意見等の説明
- (2) 地域関係団体委員の挨拶・意見書の説明
- (3) 事務局の説明
 - ・市民意見募集等のとりまとめ結果
 - ・ファクトシート「横浜市の現状」について
- (4) 学識者委員プレゼンテーション
- (5) 意見交換

2 その他

【配布資料】

- 資料1：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿
- 資料2：前回委員会後の市民意見等
- 資料3：地域関係団体 意見書
- 資料4：市民意見募集等のとりまとめ結果
- 資料5：ファクトシート【基礎資料編】

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 委員名簿

地域関係団体委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------------|-----------|------------------|
| さかくら とおる 坂倉 徹 | 経済団体 | 横浜商工会議所 副会頭 |
| たかはし のぶまさ 高橋 伸昌 | まちづくり団体 | 関内・関外地区活性化協議会 会長 |
| たからだ ひろし 宝田 博士 | 商店街 | 協同組合元町エスエス会 理事長 |
| たどめ やすし 田留 晏 | 物流業団体 | 神奈川倉庫協会 会長 |
| ふじき こうた 藤木 幸太 | 港湾運送事業団体 | 横浜港運協会 会長 |
| ふじき ゆきお 藤木 幸夫 | 横浜港振興推進団体 | 横浜港振興協会 会長 |

学識者委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------------|--------------------|----------------------------|
| いしわた たかし 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| いまむら としお 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所代表取締役会長 |
| うちだ ゆうこ 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| かわの まりこ 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| きたやま こう 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| くま けんご 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| こうだ まさはる 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工藝社代表取締役社長 |
| てらしま じつろう 寺島 実郎 | 社会科学、地政学 | 一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長 |
| ひらお こうじ 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| むらき みき 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| わくい しろう 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

山下ふ頭再開発検討委員会（11月開催）後に
インターネットフォームに寄せられた市民意見等について

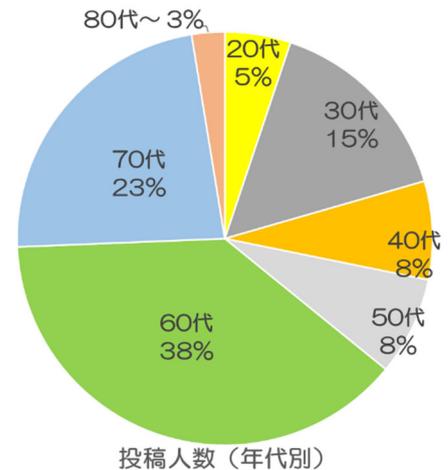
1 受付期間

令和5年11月30日から令和6年1月8日まで

2 意見数

市民意見等は**39名から105件の御意見**をいただきました。

※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、投稿数から除外
しています。



3 御意見の主な内訳

(1) まちづくりの方向性・導入機能等に関する御意見

○まちづくりの方向性

- ・みなとみらい地区との差別化を図るため、**山手・元町・中華街の持つ歴史や文化を活用して、陸側とのつながり**を意識すべき
- ・**脱炭素・省エネが必須**になるという学識者委員の主張は必要事項として議論すべき
- ・横浜のまちづくりの歴史を委員会で共有し、先人の業績に学び、**未来の市民にも誇れる都市づくり**
- ・人口減少を前提に考え、**文化的で落ち着いた街の魅力で集客力を発揮**できる街を目指すべき
- ・新しい事を受け入れ、いま横浜で生まれている**ハマッ子に未来を任せられる開発**となるよう議論をスタートしてほしい
- ・日常はスポーツやイベント等に利用し、火災や地震などの**大規模災害発生時には、海や空からのアクセスが可能な防災拠点**としても活用できる機能の検討が必要
- ・未来世代にも開発余地を残すため、20～30年かけて**段階的・継続的に成長できる開発**の視点も必要
- ・日本の港、横浜港、山下ふ頭の立ち位置を踏まえた**港と結びつける開発**が重要
- ・ベイブリッジを経由する高速道路を使用すれば**羽田空港から短時間でアクセス**できるので、それを活かした開発を検討すべき
- ・他の政令都市に比べて昼間人口比が少ないため、**昼夜間人口のバランスが取れるまちづくり** など

○導入機能

- ・他の観光地との差別化を図るアイデアとして、**鹿鳴館時代の衣装等で町ブラ**ができる魅力的な空間
- ・市民を増やすため、子ども専用のサッカー場や野球場、屋内競技施設など、**子どもたちが繰り返し来たいと思わせる施設**
- ・みなとみらいの眺望など**横浜港が一望**できる飲食店や入浴施設、イベント会場などの**集客施設**
- ・これからの子どもたちと世界のファンに多様な刺激を与えるため、**アニメ、ゲーム、マンガなどの日本の文化を発信する大型施設**

- ・戦争や震災の痛ましさを語り継ぐ場所がないため、ピースメッセンジャー都市にふさわしい**命の大切さや世界の人が平和について語り合うことができる施設**
- ・**脱炭素社会に向けて**、都市の中心部である山下ふ頭に**まとまった樹林地**
- ・アクセスを向上させるため、水上交通やフェリーなどの**海上交通拠点**やバス、タクシー、LRT等の**陸上交通拠点**を設置
- ・みなとみらいとは違ったランドスケープにするため、**市民の憩いの広場**
- ・地球環境保護や海洋都市横浜の振興を目的に、観光客誘致のための**海洋哺乳類を中心とした水族館**など

(2) 地域関係団体や市民の参加に関する御意見

- ・地域関係団体委員についての6団体は**適切な選択**
- ・経済界に限ることなく、地域住民の代表も含めて、**広範な領域からの人選**を考えるべき
- ・様々な分野から、**地元で活動している団体の声や市民団体の提案等の声を聞くべき**
- ・前回学識者会合後の**市民意見等が資料として提供されたことは評価**。今後も継続すべき
- ・委員の皆さんに**市民意見等に目を通したうえで会議に臨むことを要望**
- ・市民の意見を取り入れるには、**市民が主導する市民会議、区民会議を開催することなどが必要** など

(3) その他の御感想等

- ・**自然とコミュニティが共生する都市づくり**こそが、横浜の目指すべき都市づくりにと**いう意見に同意**
- ・**新しい価値観を尊重し、未来の世代のために再開発**をすることが重要
- ・優れた知見に基づく**プレゼンテーションは視聴し甲斐があり、委員間のやりとりも面白い**
- ・学識者3名の**プレゼンテーションは非常に興味深い内容**だった
- ・委員長の報告と3人の委員からの**プレゼンテーションはいずれも聞き応えがあった**
- ・委員会に関する**意見募集等をもっと目立つように広報**すべき
- ・市全域の広域戦略が必要なので、**市庁横断で総合調整組織が設けられるべき**
- ・大阪万博の工事の遅れなどを考慮すると、**供用期限を決めて開発を急ぐべきではない**
- ・山下ふ頭をどうするかは**住民投票で決めるべき**
- ・実際に**供用開始する頃のメインの世代の意見を取り入れるべき**
- ・計画が**特定の企業や組織だけが得をするものにならないようにすべき**
- ・委員会では「**横浜目線**」で話をしてもらいたい
- ・**ノースドックが存在する問題**からも逃げずに積極的に取り上げてもらいたい
- ・「**都心臨海部再生マスタープラン**」を再検討すべき対象として扱うべき
- ・**IRの導入が否定されている事を認識**したうえで話をしてもらいたい など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|---|-----|------|--|
| 1 | 泉区 | 50歳代 | 現在の日本の港、横浜港、山下ふ頭の立ち位置が詳しく説明され、理解が深まり、港と結びつける開発が重要と認識した。学識経験者3名のプレゼンテーションもそれぞれの視点から説明されて非常に興味深い内容であった。地域団体委員については新聞報道で挙がっている地元6団体については適切な選択と思います。 |
| 2 | 港南区 | 20歳代 | 運営に港湾の協会、〇〇の〇〇が入ってるのは公平性にかける。 |
| 3 | 港北区 | 60歳代 | 次の会議からは、地域関係団体の委員が参加することに決まったとのことであるが、この決定は、寺島委員長の差配する議事終了後に、事務局から事務報告として伝えられていたことに過ぎない。その場で傍聴していたにも拘らず、不覚にも事実を翌日の新聞報道によって認識するという、市当局による目眩ましの抜け駆けに驚くばかりである。この件は、委員長をはじめ全ての委員にとっても寝耳に水であったに違いなく、もとより市と委員とがやりとりする場面はなく、委員からの問い掛けなども無かった。市に問い合わせたところ、条例により、委員会の人選については市長に権限があり、何の問題はないとの回答があり、しかも、回答した職員は、前回会議の「議論を踏まえた」ものだとの認識を示した。しかし、「議論を踏まえた」というなら、市当局の決定とは異なる判断となることは、議事録を素直に読むならば明白である。(続く) |
| 4 | 港北区 | 60歳代 | (承前) 第一回委員会では、北山委員と涌井委員が、地域関係団体委員の早期参加に慎重な意見を述べ、これに寺島委員長も、一案として、「ある段階でまとまった形をもって、仮に10分ずつとかですね、この方向付けについてきちっと意見を言ってもらってという機会を設ける」と応じた上で、「行政の方でもって、今日の意見を踏まえてですね、調整していただければ、だいたい見えてくるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。」と結んでいる。市当局は、委員任命の権限を盾に委員会の意向を軽視して独断専行したと言わざるを得ない。誠に遺憾である。第一回委員会終了後に市民から寄せられた意見を見ても、地元の参加を要望する意見が多数とは言い難い。北山、涌井両委員の見解を支持する意見も多くあり、賛否両論が市民意見と言える。当局の決定を市民が支持したとはとても言えるものではない。市は、この検討委員会の運営について、再三再四、「透明性の高い運営を行います」を謳っているが、市民はもとより、委員が出し抜かれたと思ってもおかしくないような進め方が為されたことは、市民の市への信頼を失わせるに十分であり極めて残念である。(続) |
| 5 | 港北区 | 60歳代 | (承前) 報道に依れば、会議後に、寺島委員長が「自分たちの利害のための発言は看過しない」との留保を付けて容認したようであり、市の決定が覆るのは難しいのであろうが、参加予定の地域関係団体は全て経済関係の団体である。行政は経営とは違うのだから、そして、再開発と言っても経済主導とは限らないのだから、地元の意見を聞くと称して経済界の人間に偏った人選が行われるなら、初手からして、市は再開発で金儲けを目論む算段だと色眼鏡で見られてしまう虞があろう。経済界に限ることなく、地域住民の代表も含めて、広範な領域からの人選を考えるべきである。今回の会議での寺島委員長と3人の委員による、優れた知見に基づく、大所高所からのプレゼンテーションは、なかなか視聴し甲斐があり、委員間の遣り取りも面白く、前回に涌井委員が言っていた「スタディー」の趣の討議が展開されている。このような格調の高い議論を継続する中から紡ぎ出されてくる再開発の方向性と付加価値の提示に一定程度の目鼻が付いてから、その次に「方向付けについて」地域の意見表明を求めるという手順をどうして踏めないのか。市の拙速な判断の拙劣さには呆れるばかりである。 |
| 6 | 港北区 | 60歳代 | 市のホームページ上で「広報・広聴・報道」から「各区局の記者発表」に移っても、この委員会に関する意見募集を知ることはできない。一定程度の関心のある市民以外には、容易に辿り着けない意見募集である。広く市民の意見を求めるという姿勢とは裏腹に、むしろ隠し立てして事を進めるような消極的な知らせ方ではあるまいか。残念至極である。今からでも遅くないので、もっと目立つような告知をして頂きたいものである。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|--|
| 7 | 港北区 | 60歳代 | 寺島委員長の報告と3人の委員からのプレゼンテーションはいずれも聞き応えがあった。共通していたのは、現在が文明の転換点にあるとの認識の下、「社会的大変容」の渦中であって、今度の山下埠頭再開発が、これまで行われてきた短期的な経済効率を重視した経済一辺倒の開発とは一線を画すものでなければならないとの見解であった。涌井委員のプレゼンテーションでは、「段階的整備」の概念に注目したい。ミレニアム世代、Z世代が社会で主力を担う20年先を見据えての構想を語る中で、「環境価値」と「感性価値」を基軸に据えた提案が面白かった。「エシカル(倫理的)ライフスタイル」への訴求、「爆発的エネルギー」の導入は、必須の要素と了解した。「段階的」開発となれば、これから生を享ける未来世代にも手渡せると同時に、未来世代が手を入れられる余地も残しておく必要があるだろう。幾世代にも亘って継続的に手を入れていく「現代版里山」の一角を確保していく必要があるのではないかな。 |
| 8 | 港北区 | 60歳代 | 建築家にして都市デザインの専門家である北山委員のプレゼンテーションでのキーワードは、「反転するアーバンイズム」に立脚した「都市モデル」づくり、と捉えたい。資本の活動とは切り離された「自然とコミュニティとの共生」を掲げ、「これから生まれてくる未来の人のための」都市構想によって、未来の横浜「市民のための固有の文化を表現」したい、と語る北山氏の熱い思いに共感を覚えること頻りであった。また、防災面からも、水運を中心とした都市構造に触れ、羽田空港と連携した海上交通網に言及している点にも注目したい。北山委員には、別に、山下埠頭再開発を港湾局だけの管轄ではなく都市整備局にも関与させるべきとの趣旨の発言があった。全く同感である。涌井委員の指摘にもあったように、山下埠頭再開発に当たっては、横浜市全域に関わる広域戦略が求められるのであるから、市庁横断的な、それこそ市長直轄の総合的、俯瞰的、調整的な組織が本答申の受け皿として相応しい筈である。 |
| 9 | 港北区 | 60歳代 | 村木委員のプレゼンテーションでは、山下埠頭再開発が脱炭素の都市再生プロジェクトとして為されねばならないことが説得力をもって語られていた。何代も遅れている日本のエネルギーネットワークの失地回復に繋がるようなものが求められることに異論を差し挟む余地はない。寺島委員長が「脱炭素」に加えて「レジリエンス(回復力、耐久力)」を二大論点として挙げていたことにも共感できる。さらに、委員長がまたしても言及した「市民参画」には大いに注目していきたい。このプロジェクトが「上から目線」で与えられたものではなく、「市民参画」のできるようなものを「意図」したい、との委員長の発言内容が目の目を見るように、市民側からの働きを強めていきたいところである。 |
| 10 | 中区 | 30歳代 | 話が進んでいない。事業者からの提案を集めたのでようやく具体的な開発内容の検討に入るのかと思ったがまた話がリセットされている。市長や委員の自己満足ではなくまず検討ロードマップを市民に対して一刻も早く提示し、その期間内で必要な議論を過不足なく行うようにしてください。 |
| 11 | 中区 | 30歳代 | ・海の方ばかりではなく陸側とのつながりをもっと意識してほしい ・山手・元町・中華街というみなとみらい21にはない文化的バックグラウンドを活用して差別化を図ってほしい ・鉄道ではみなとみらい21より奥になってしまうが、高速道路ではベイブリッジ経由でより羽田に近いことを活用してほしい |
| 12 | 中区 | 30歳代 | ・広さを活用して20-30年かけて成長させるまちづくりをすると思う ・みなとみらい21のように空き地を長期間放置せず、GUNDAM FACTORYのような定期的貸出ができるとよさそう ・昼間人口・夜間人口のバランスを取ってほしい ・あかいくつ・ベイサイドブルー・シーバスなどの交通手段を十分整備してほしい |
| 13 | 青葉区 | 50歳代 | 昨今の資材・人件費の高騰、大阪万博の工事の遅れを考慮すると、供用化の期限を決めて開発を急ぐべきではないと思います。まずは、広域避難場所にもなる緑地を整備し、その後、徐々に、周辺に賑わいを作る施設を、時代のニーズに合わせて建設していく方がよいと、委員会の皆様のお話を伺っても感じました。他の観光地との差別化を図るアイデアとしては、鹿鳴館時代のドレスや、カフェの女給さん、シルクハットとフロックコートなどの衣装で町ブラができ、写真映えするスポットがあると良いと思います。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|-----|------|--|
| 14 | 青葉区 | 20歳代 | 横浜港周辺には、大人が散策するための景観の良い公園は多数ありますが、子供を無料で遊ばせられる、遊具の充実した公園がありません。また、厚生労働省は、児童館の中高生の居場所としての機能を強化する方針を示しており、東京都世田谷区や江東区では、既に中高生の児童館利用に取り組んでいるようですが、横浜市内の子育て拠点は、小さな子供向けのものばかりです。そこで、山下ふ頭には、遊具のある広い公園と、そこに併設する、小さな子供から中高生まで幅広く活動し、また、一人でもくつろげる児童館を要望します。 |
| 15 | 旭区 | 30歳代 | ぜひとも山下埠頭にアニメ・ゲーム・マンガ文化の施設を開発誘致してほしい。先般みなとみらいにて実施されたポケモンカードゲーム大会、日本や海外から絶大な人気があったと聞きました。現在山下埠頭に仮設置してある18mの動くガンダムは海外からの日本への旅行先検索アクセスランキングで1位を獲得したと聞きます。新高島にはアンパンマンミュージアムもあります。少し足を延ばした鎌倉には、中国で大人気のスラムダンクのモデルの地もあります。これほどまでに日本を含めた世界中のアニメ・ゲーム・マンガファンから注目を浴びる施設があり、高速道路も空港も目と鼻の先な好条件立地は山下埠頭しかありません。私はこの横浜で生まれ住み、日本の文化で育った2児の子を持つ市民です。上記のような施設があること誇りに思い、週末は助かっております。これからの子供たちに多様な刺激と世界のファンのためにも山下埠頭に日本文化の大型施設を検討いただきたい。 |
| 16 | 港北区 | 60歳代 | 幸田委員が、平成27年2月に出され、この検討委員会で既往計画」として示されている「都心臨海部再生マスタープラン」について言及していたが、この発言の趣旨は至極真っ当であると評価したい。委員の間で若干の行き違いがあったが、会議中には誤解は解けたようである。幸田委員は「都心臨海部再生マスタープラン」が「カジノ導入のための前捌き」と指摘した。これは本当の事で、当該文書の34ページに、「IR(統合型リゾート)とは、カジノ施設及び会議場施設、宿泊施設、大規模集客施設その他の観光の振興に寄与すると認められる施設が一体となっている施設を指します。」という注釈付きで、導入施設としてIRカジノが紹介されている。横浜からカジノを撃退したからには、少なくともこの件は当該文書から削除されなくてはならないし、この文言を紡ぎ出してくる「マスタープラン」そのものについても、既往計画としての位置付けの正当性が問われる筈である。(続く) |
| 17 | 港北区 | 60歳代 | (承前) その点で、北山委員がプレゼンテーションの中で触れていた平成22年3月の「次なる50年 横浜は海都へ ～ 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書」は、今度の山下埠頭再開発検討に当たって、第一に依拠すべき文書と言えよう。何故ならば、その基本理念が、正に今次打ち立てられるべき理念の先取りであるからである。掲げられている理念は、①人間中心の都市②持続可能な環境③人材・知財を活かす社会④文化芸術創造都市の更なる展開⑤市民社会の実現、と今日的課題に正面から答えるものばかりである。明らかに、カジノを含むIR構想の萌芽が含まれる「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」より前の「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」に戻るのが、ポストカジノの山下ふ頭再開発に相応しい振り返りと言える。この文書の取り扱いについて、市当局の英明な判断を期待したいところである。 |
| 18 | 港北区 | 60歳代 | 寺島委員長の示したデータは、山下埠頭再開発に当たって、巨視的、鳥瞰的、近未来的視界からの構想力が欠かせないとの見識に見合うものだという事は理解します。ただ、横浜港全体、延いては東京湾内地区全体に関わる港湾機能の再検討に資するデータとしては有意義であっても、既に港湾機能面での大半の価値を失って、都市機能面での活用が期待されている山下埠頭の再開発での検討資料としては相応しくないのではないのでしょうか。むしろ、ここでは、北山委員が示した横浜の都市形成史、とりわけ飛鳥田市政での都市(まち)づくりの歴史を基礎資料、ファクトデータとして委員会全体で共有して欲しいものです。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|----|-----|------|---|
| 19 | 港北区 | 60歳代 | 寺島委員長が繰り返し言及する「市民参画」とは、いったいどのように具体化されていくものなのか、大いに注目している。よもや地元の地域関係団体からの意見聴取が「市民参画」ではあるまいが、委員会が答申するという山下埠頭再開発の「方向性」と「付加価値」を議論する場に、経済界の地域関係団体と呼ぶのなら、もっと広範な層から種々の団体をも呼ぶのが、「市民参画」の第一歩ではあるだろう。行政は経営とは違ふし、再開発と言っても経済主導とは限らないし、今時、経済成長に囚われる市政運営は時代錯誤なのだから、医療、介護、子育て、教育、芸術、スポーツ等の分野からも地元で活動している団体の声を聞くべきである。さらに、山下埠頭の一角に市民協働の場を要望している市民団体からの提案にも耳を傾けるべきではないか。市民を決して置き去りにしないという、市当局の初心に鑑みて、「開かれた」委員会の運営をして頂きたいものである。 |
| 20 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その1） 寺島委員長は、山下ふ頭再開発とは無関係なコンテナターミナルに関するプレゼンをしました。この点を荻原課長に指摘したら、「横浜港のファクトとして知ることが重要」と、委員長をかばいました。うんざりして聞いていたので定かではありませんが、山下ふ頭にコンテナが置かれていた事実は話に出なかったと思います。さらに、寺島委員長は第1回会合で、カジノに反対した横浜市民に対して「議論が貧困」と侮辱しました。ですから、寺島委員長主導で検討委員会が進むことを非常に心配しています。このままだと、プロジェクトは100%失敗すると思います。 |
| 21 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その2） 内田委員は第1回会合と第2回会合で、同じことを繰り返しました。寺島委員長の話を補足するような言葉を並べたのです。ご自分の考えより、委員長との同調を重視するような人が学識者として検討委員会に参加するのは極めて不安です。 |
| 22 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その3） 調整課の職員の皆さん、ファシリテーターや学識者に任せるのではなく、市民の意見を自ら分析し、市民がどのような開発を望んでいるか理解しましょう。プロジェクトの成否は職員の皆さんが握っているということ認識してください。 |
| 23 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その4） 私は、令和4年11月～5年2月の意見募集期間中に、独自の構想を凶入りの文書で提案しました。ところが、山下ふ頭再開発調整課は私の構想を公開しませんでした。 |
| 24 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その5） 投稿フォームには「次のような内容は公表しない」と書かれています。①山下ふ頭の再開発に関連しない事項 ②個人及び団体に関する誹謗中傷意見は無記名なので、公表しないかどうかの判断は担当職員の裁量で下されてしまいます。意見には、自分の考えをうまく表現できない場合、腹立ちで強く言いすぎてしまう場合などがあります。意見の中に問題表現がある場合は、本人に確認するのが公務員の仕事です。 |
| 25 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その6） 2回の学識者会合を傍聴して、「こりゃだめだ」と思いました。山下ふ頭をどのようにしたいのかがまったく伝わらないからです。委員はレジリエンス、3Cなどの難解な言葉を使うだけで、市民に何が必要かを語りません。さらに、山下ふ頭がある中区がどのようなところかもあまり知らないようです。これは、港湾局の職員も同じです。そもそも、港運開発ではなく街づくりなので、港湾局にその能力があるか疑問です。事務分掌規則には「その他山下ふ頭の再開発に関する事」と書かれています。重要なプロジェクトがその他扱いでいいのでしょうか。 |
| 26 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その7） スクリーンに映し出されたスライドの内容が細かすぎて、何を示したいのかがまったく分かりませんでした。次回から改善していただけたらと思います。 |
| 27 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その8） 山下ふ頭再開発検討委員会条例第6条には次のようなことが書かれています。委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。そこで、委員長にお願いがあります。その4で示した非公開提案「ダダッピロバ と癒しの施設」を委員会でプレゼンしたいのですが、如何でしょうか。 |
| 28 | 中区 | 70歳代 | 内田委員が2014年に改訂された港湾計画を取り上げて、「山下ふ頭の利用が港湾機能から賑わいのある都市機能に変わった」と言いました。この発言に対し、幸田委員が異議を唱えました。要約すると、「過去の計画は山中市長が横浜IRを中止にしたときにリセットされている」です。委員の皆様と港湾局は過去の計画が適用されないことを認識すべきです。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|----|----------|------|---|
| 29 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その10） 村木委員はイギリスの例を示して、再開発では脱炭素、省エネが必須になることを強調しました。横浜市はSDGs未来都市なので、港湾局も同じことを考えていると思います。ただ、村木委員が示したのは付加価値ではなく、必要事項です。私としては、寺島委員長が言った付加価値より、村木委員が示した必要事項を議論するほうが良いと思います。たとえば、新市庁舎の電気代は年約4億円で、旧市庁舎の10倍になってしまいました。このような問題を防がなければいけません。 |
| 30 | 中区 | 50歳代 | 下記、再開発を提案します。 ①山下埠頭を広大な森林公園（山）にする。山の下に広大な駐車場に。 ②公園の中にキャンプ場（ホテルチックなバンガロー）の設置。手ぶらキャンプ。 ③人工の砂浜（海水浴場）とプール（冬季温水プール） ④みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店。 ⑤みなとみらい側バックに屋外ライブステージ会場。 ⑥遠方の方のためにホテル設置。 ⑦銭湯（横浜港が一望出来る巨大露天風呂） ⑧横浜港が一望出来る夏季ビアガーデン、冬季屋外こたつ式おでん居酒屋。 ⑨シーバス、シータクシー場、各種イベント船のりば、バス停、タクシーのりば ⑩サッカー場、テニス場、卓球、バトミントン、バスケット等、等スポーツ場 |
| 31 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その11） 市民意見について書いた「その3」をもう少し補強します。時間をかけて集収した市民意見は学識者に届いていません。ファシリテーターのまとめ方が分かりづらいからです。さらに、検討委員会に対する市民意見も学識者が読むかどうか分かりません。計画案の作成後も市民から意見を募るそうですが、本計画に生かされないと思います。なぜなら、私は2月にもっと簡単な計画プロセスを提案しましたが、港湾局は検討さえしなかったからです。 |
| 32 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その12） 古い話で恐縮ですが、第1回山下ふ頭再開発検討委員会の学識者会合を傍聴し、「港湾局と山下ふ頭再開発検討委員会の問題」という文書を山下ふ頭再開発調整課に送りました。ところが、調整課は「今回の委員会への提示は文字情報による資料とした」と言って、私の意見を委員にも市民にも見せませんでした。意見書に図や写真が含まれているからです。 |
| 33 | 神奈川 区 | 40歳代 | コストコを是非つくってください！！ |
| 34 | 中区 | 30歳代 | 港の競争力強化の検討ではなく、山下ふ頭に何が相応しいかの検討をしてほしいです。委員長の説明では、山下ふ頭に何が必要かにつながるのか示してほしかったです。いまさら日本海の港が物流で盛り上がるわけでもないし、横浜の山下埠頭との関係がわからないままでした。 |
| 35 | 中区 | 70歳代 | ハマっ子四代目（その13） 港湾局が選んだ地域関係団体を以下に示します。 ・ 関内・関外地区活性化協議会 ・ 横浜港振興協会 ・ 横浜商工会議所 ・ 元町エスエス会 ・ 横浜港運協会 ・ 神奈川倉庫協会 6団体の代表が第3回検討委員会から出席するようですが、次の内容を委員会の最初に説明願います。 1. 各団体を選んだ妥当性 2. 第3回検討委員会から出席するようになった経緯 3. 学識者と団体代表の役割の違い 以上、よろしく願います。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|----------|------|---|
| 36 中区 | 70歳代 | <p>ハマっ子四代目（その14） 私は「山下ふ頭をどうするかは住民投票で決めるべき」と提案しています。そこで、委員の皆様にお願ひがあります。検討委員会で、「住民投票で決める」ということを答申していただけないでしょうか。今回の件に限らず、いつでも住民投票ができる環境を整備することは非常に重要なことです。</p> <p>2021年1月に住民投票条例案が議会で議論されましたが、自民党の黒川議員は「軽々に市民に判断を委ねるような問題ではない」「素晴らしいIR施設の提案が提出されると、賛成者が増えてしまうと思っているのか」「横浜の依存症対策の詳細が発表されると市民の不安が減るので、その前に住民投票で潰してしまおうというのか」と、乱暴なことを言って反対し、総務局長は「私は民意が得意でない」「金がかかる」と言って、条例案を否定しました。港湾局も住民投票をやりたくないようです。なぜなら、私の提案を公表も検討もしなかったからです。横浜IRの反省がまったくありません。</p> |
| 37 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>1、「ファクトシートの説明」は、山下ふ頭の「方向性」を検討するうえで、知っておくべき客観的事実を共有するためという趣旨で行われたと思うが、果たして適切なものだったか疑問が残った。港湾局長による「横浜港の国際競争力強化に向けた取組」の説明、それには見落とされている「日本海物流の拡大」「太平洋物流の空洞化」と背景補足などの委員長報告は、知っておくべき事実ではあろう。しかし、それは主として港湾機能に焦点を当てた国際競争力の現状と問題点を示す「ファクトシート」であって、都市機能としての山下ふ頭の「方向性」を議論するうえでは、いささか過不足を感じる。検討委員会には、（横浜港の国際競争力を高めるための）国の産業構造や物流戦略のあり方などの議論まで求められているわけではない。その一方、山下ふ頭の「方向性」を議論するうえで、どうしても共有しておくべきファクトが提示されていない。飛鳥田市政以来の都市づくり構想（6大事業）、とりわけ山下ふ頭を含むインナーハーバー、「都心部強化」事業の都市づくりの歴史と現状、問題点のファクトである。横浜市民として全国に誇れる都市づくりの到達点のファクトである。2につづく</p> |
| 38 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>この点は、北山委員のプレゼンで相当補足されたものの、本来、事務局の方からきちんと報告されるべきファクトであり、補強報告を求めたい。いま一つ、共有すべきファクトとして、インナーハーバーの「顔」に当たる瑞穂ふ頭の問題がある。瑞穂ふ頭は、戦後78年間も「ノース・ドック」として米軍に接収されたままになっている。さらに今年1月の日米2+2で米揚陸艇部隊の配備が決定、横浜港が戦場になりかねないリスクを負うことになった。山下ふ頭は、米軍が使い勝手のよい瑞穂ふ頭を確保しておくために、「代替ふ頭」としてつくられた経緯がある。瑞穂ふ頭は、山下ふ頭よりも広く（52ヘクタール）、「活力ある横浜の大きなポテンシャル」を有し、行政、市会、市民が一体となって早期全面返還を求めてきた。3につづく</p> |
| 39 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>2、北山委員のプレゼンは、学生時代から横浜の都市づくりに長くかかわってきた建築家として深く思いのこもった都市デザインについての報告だった。飛鳥田市政以来の都市づくりの歴史を総括するとともに、人口急増から人口急減への文明の転換期に、定常社会へと向かう新しい都市モデルを横浜は目指すべき、その一環としての山下ふ頭のあり方について提言。カジノを止めた市民として大いに共感し、啓発されるものがあつた。第一に共感したのは、横浜は開港以来のいくつもの「断絶」を乗り越えて都市を形成、とりわけ飛鳥田市政以来の6大事業が、50年後の横浜の未来を構想して、拡張拡大する都市を構造化するアイデンティティづくりであったこと、背景には強い自治意識をもって「市民の政府」としての自治体を目指す、都市の運営には短期的ではなく、中長期的な視座が必要との理念があつたと総括された点である。さらにその精神を引き継いで、人口減社会へ転ずる次の50年の都市構想として、芸術文化創造都市、「海都横浜構想2059」2009年がすでに提言されていることも報告された。4につづく</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|-------------|------|--|
| 40 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>要するに、これまでの横浜の都市づくりは、市民が大いに誇るべきものであり、それを担った人材が蓄積されていることも判った。山下ふ頭の「方向性」を議論する際には、こうした経験に学び、継承し、これからは活かすことが大事ではないか。そこから離れて「上から目線」「外部から持ち込む」ような議論、短期的な経済一辺倒の議論では、市民の共感と支持は得られないと思う。第二に啓発されたのは、これからの人口急減社会、定常社会に向かう文明の転換期には、新しい都市モデルを目指すべきと提起された点だ。産業革命以来の拡張拡大期の現代都市モデル、とりわけグローバルな資本市場における再開発によってつくられるテーマパーク型都市は世界中どこでも同じような都市風景をもつものになっていると批判。定常型に向かう社会では、都市は資本が活動するだけでなく、自然やコミュニティが共生する、文化や生活の豊かさを求める場になる、という提起は文明の転換期にふさわしく、説得力があった。多くの市民の共感を呼ぶのではないか。 5につづく</p> |
| 41 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>第三に、そうした構想を踏まえて山下ふ頭のあり方が提言された。「未来の市民のための固有の文化を表現したい」は、もう少し中身を聴きたかった。だが、それは主として市民による山下ふ頭づくりをめざすわれわれ自身の課題であり、一緒に議論し、つくり上げるようにしたいと思う。寺島委員長も言われたように北山委員の横浜の都市づくりについての報告は、ぜひとも各委員に共有していただきたいと思う。それを踏まえて、各委員の知見に基づくプレゼンは、その違いも明確になり、「方向性」についての議論が活性化し、深まるに違いない。そうなれば、市民としても議論が理解しやすくなり、議論に積極的に加わり、市民の意見が反映しやすくなると思った。 6につづく</p> |
| 42 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>3、涌井委員と村木委員のプレゼンに対する感想と質問。涌井委員のプレゼンの基本的論点「巨視的に考え、段階的に整備する！社会的大変容の渦中にあることを自覚して、不易と流行を巧みに組み合わせた再生戦略を！」は、大資本の短期的な利益の最大化を追求する再開発ではない論点として理解した。村木委員のプレゼンは、ロンドンでの最近の経験に学んで脱炭素型都市再生の「方向性」を提起された。いずれの論点ももっともらしく聴こえた。だが、両委員が飛鳥田市政以来の6大事業、中でも山下ふ頭が位置する都心臨海部の都市づくりの歴史と現状をどのように評価しているか、よくわからなかった。そこで北山委員の総括と比較してどの点が違うのか質問したい。中でも「市民参画」による都市づくりは、引き継ぐべき重要な経験だと思うが、山下ふ頭のまちづくりの「方向性」として確認できるか、どうか。併せて、これから50年後、文明の転換期をどのようなものとして理解しているか、そこにおける都市づくりの「理念」「方向性」をどのように考考えているかについても質問したい。 7につづく</p> |
| 43 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>4、幸田議員の指摘は極めて重要であった。検討委員会に唯一の「既往計画」として出されていた「都心臨海部再生マスタープラン」(2015年2月)について、「あれはカジノ導入のための『前捌き』であった」という指摘である。幸田委員は、EBPMの手法を用いて横浜市「IR振り返り」でも同様の指摘をされている。この指摘を真摯に受け止めるなら、「都心臨海部再生マスタープラン」を「既往計画」としてではなく、むしろ再検討すべき対象として扱い、削除すべきであろう。それに代わる「既往計画」として、「再生マスタープラン」策定によって棚上げにされていた「次なる50年 横浜は海都へ都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書2010年を提示すべきである。幸田議員の指摘を無視して議論を進めるとなれば、カジノ誘致の蹉跌を踏んだ根本原因にフタをしたまま、山下ふ頭の再開発を議論することになる。それは、カジノを止めた市民に対する欺瞞を重ねる態度であり、到底納得できない。</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|-------------|------|--|
| 44 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>当委員会には、カジノを止めた市民として山下ふ頭のあり方をどうするか特別の関心と 思いをもって傍聴している。今回からは委員によるプレゼンが始まり、実質的な議論に 入った。地方から横浜に来て60年弱、「第二のふるさと」となり、市内に暮らす子ど もと孫をもつ市民の立場から、横浜の未来の都市づくりに参画する意思を込めて感想、 意見を述べたい。 1、第1番目の議題として「前回学識者会合後の市民意見等」が取 り上げられ、「資料3」が提供されたことをまずは評価したい。1回毎に、出された市 民の意見が全文公表され、委員のみならず市民も見ることができ、議題として取り上げ るやり方は、継続していただきたい。 そのうえで、市民の意見がもっと検討委員会の 議論に反映されるようにするために、次の2点を要望したい。 第1に、条例に基づき 検討委員会が開催されていること自体、またその日時や傍聴・動画配信の要領、意見募 集など、市民にもっと周知する広報の仕方を工夫、改善していただきたい。今回開催が 市のホームページに掲載されたのは開催10日前、しかもよほど努力しないと当該ペー ジにたどりつけなかった。運営2につづく</p> |
| 45 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>運営2 カジノを止めた市民は、これからの横浜の都市づくりにかかわる山下ふ頭のあ り方、その「方向性」をめぐる議論には関心が高く、参画したいと願っている。それは 端的に、検討委員会開催に先立って行われた市民意見募集が1回目3221件、2回目 1284件にのぼり、意見交換会にも221人、172人の老若男女が参加、活発に意 見を述べたことに表れている。ところが、第1回検討委員会に対する市民意見は、39 人78件にとどまった。このギャップは、市民への広報の仕方の問題があることを示し ていないか。広報「よこはま」に条例により検討委員会が開催されており、市民が「感 想・意見を述べることができる」ことなどを掲載する、開催の具体的要領については最 低2週間程度の周知期間をとって広報する、市のホームページでも見やすいところに掲 載するなどを求めたい。 運営3につづく</p> |
| 46 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>運営3 第2に、言わずもがなではあるが、検討委員会の委員の皆さんには、報告され た「市民意見等」について、きちんと目を通したうえで会議に臨まれるよう、あえて要 望しておきたい。今回から各委員によるプレゼンが始まり、今後議論も交わされていく ことになるが、その際、市民としては自分たちの意見がどのように受け止められ、扱わ れるか、大きな関心をもって注視している。検討委員会にとっては、「市民参画」を重 視しているかどうかの一つの試金石となる。第1回検討委員会に提出された「参考資料 市民や事業者の皆様からいただいたご意見・ご提案のまとめ」にもぜひ、目を通してお いていただきたい。 運営4につづく</p> |
| 47 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>運営4 2、「地域関係団体」の委員が次回会議から参加する問題が事務局報告によっ て、事実上「決定」されたが、「透明性の高い」会議運営の原則にもとめるもので、強く 抗議する。経過をたどれば、第1回会議では二人の委員から「地域関係団体委員の早期 参加」に対しては慎重意見が出され、事務局に調整が委ねられていた。したがって、委 員会の議題として取り上げ、議論を経て結論を出すのが当然であった。ところが、委員 会には図られず、事務局としてどんな調整努力をしたか何一つ報告もなく、結論だけが 一方的に通告された。委員のなかにも疑問を生じさせ、委員会に対する市民の信頼を損 う誤った運営であった。次回会議では、きちんとした釈明を求めたい。</p> |
| 48 港北区 | 70歳代 | <p>平原氏が2013年4月1日都市整備局長に就任し「都心臨海部再生マスタープラン」が策定 され、幸田委員が『IRカジノの前捌き』の指摘は当該プラン34ページでイラスト入りで 『IRとはカジノ施設』と明確に記述されていますので、マスタープランは『IRカジノの 前捌き』は今後も私達が記憶を呼び戻す為にも将来世代に伝えていきたい、『横浜にカ ジノは要らない』と国策を容認しない市民運動が起きた事を学識経験者は見逃しては駄 目です。そしてなにより北山委員の説明内容を多くの市民により情報共有されることが 大切であることを再度指摘したい。</p> <p>論議の中で欠落してはいけないのは瑞穂埠頭米軍の基地がど真ん中にある現実、米軍 の好き勝手にはさせない国の案件だと放置しては駄目です、戦争は市民自治が損なわれ 安全な港湾都市とは云えません。住んで良かったと実感出来る街、如何に山下埠頭を市 民生活に取り込んでいくか、市民を参画させていくかが学識経験者の皆様に問われてい る課題です。</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| No. | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|-----|----|------|---|
| 49 | 西区 | 60歳代 | <p>委員会を動画で拝見して感じたことです。 山下ふ頭の再構成にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に都市（まち）が完成する頃のメインの使い手世代の意見を取り入れる ・みなとみらいとは違ったランドスケープに →広々とした市民の憩いの公園（災害時の拠点にも） ・水上交通は重要 ・ヨコハマブランドの確立（リブランディング） *ヴェネチア・ビエンナーレのような現代アート・建築などの国際展の会場（公園） <p>に →現代アートはインスタレーションなども多く、変化する作品を体験するために世界中から人が集まる *郊外と都市の二拠点居住のモデルを示す（〇〇氏の構想など） *クルーズ船の誘致 →ベイブリッジを通れない巨大船（メガシップ）ではなく、スモールシップと呼ばれるクラス、中でもラグジュアリークルーズのブティック・クラス（1万トンクラス）の寄港地に選ばれる都市に</p> <p>次世代の市民が未来を語る場があってもいいのではないのでしょうか。</p> |
| 50 | 中区 | 40歳代 | <p>横浜市民として、山下埠頭再開発計画について心からの意見をお伝えしたく書かせていただいております。</p> <p>先般の第2回学識会合を拝見し、既得権益に迎合する風潮が心配されます。山下埠頭は私たち市民の資産であり、その価値を大切に守っていただきたいと切に願っております。</p> <p>何よりも、計画が特定の企業や組織だけが得をするものにならないようお願いいたします。公平かつ誠実な進行を心掛け、市民全体が共感し、利益を享受できるような計画を期待しております。</p> <p>また、学識会合で聞かれた未来志向の声に深く共感しました。新しい価値観を尊重し、未来の世代のために山下埠頭を再開発することが重要です。その中で、山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生されることを切に願っております。</p> <p>最後に、100年後も愛され続ける山下埠頭の実現に向けて、皆様のご尽力に深く感謝いたします。誠意をもって計画を進めていただき、市民の期待に応える素晴らしい未来を築いていただければ幸いです。</p> <p>心より、お願い申し上げます。</p> <p>中区山下町在住40歳代</p> |
| 51 | 中区 | 70歳代 | <p>ハマっ子四代目（その15） 都市の再開発を大別すると、2種類が考えられます。1つは、地上げをしてビルの高さを競う計画です。もう1つは、古くなった建物を撤去して、緑の公園を整備する計画です。前者は業者による金儲けですが、後者は行政による街並みの保全です。横浜市はSDGs未来都市なので、学識者にわざわざ聞かなくても、後者を選ぶのが必然です。ところが、横浜市は旧市庁舎の跡地を三井不動産に渡して、高層ビルの建築を推進しました。行政と業者がグルになって再開発を進めるのを阻止しなければいけません。</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|--------|------|--|
| 52 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その1】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ヨコハマ市民自治を考える会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住) 標記、</p> <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」(以下、「検討委」という)の学識者会合が開催され、今回から各委員によるプレゼンテーションが始まりました。話された内容等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。「検討委」におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受け入れ、第3回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。▼本検討委の目的は、山下ふ頭の再開発にあたっての「方向性」と「導入機能」であるはず。おそらく、山下ふ頭の再開発を展望する市・港湾当局は、山下ふ頭にはこれ以上の港湾機能の付加は考えていないと思料する。ところが、第2回検討委冒頭、市・港湾局が示した「ファクトシート」には、「横浜港の国際競争力強化に向けた取組」とサブタイトルをつけ「国際競争力」を前面に出している。これでは、市は同ふ頭へ港湾機能を残す未練があるかのように受取れる。 つづく</p> |
| 53 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その2】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○ (60代男 鶴見区在住) 確かに、横浜の現状を知る、横浜のおかれている環境を知るうえで、有用な情報ではあるが、山下ふ頭を含む内港の今後の街づくりを考えることに限定している、今般検討委の位置づけから見れば、話が大きすぎはしませんか、そこまで膨らませる必要があるのか、市民はそこまで求めているのですか、と言いたい。▼寺島委員長によるレポートもしかり。「日本(港湾)の埋没」であるとか、「日本海物流」だとか話が大きすぎるのではないだろうか。そして、ここまで話題を広げておいて、話を「横浜」にどのように収斂させるのかと思いきや、「ヨコハマはこの動きに対し戦略的にどう対応するか」であった。身も蓋もなくなはないか。また、横浜の「幸福度」が政令指定都市(20市)のうち、「総合で『8位』」だそうだ。これを、私たち市民はどう捉えるか。どなたかの言ではないが、「1位じゃなくちゃ、いけないんですか」と言うのは、当方だけだろうか。 つづく</p> |
| 54 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その3】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○ (60代男 鶴見区在住) そもそも、ランク付けが妥当なのだろうか。選挙の争点ではないが、「ワンイシュー」で投票先を決めるか、「マルチ(?)イシュー」を総合して候補者を選ぶか、と同様(否、それ以上にもっと単純)、市民各人が自分の意見や要望が市政に届いたと感じられることが一点でも叶えられていれば、「幸福」と感じられるのでは。ま、人それぞれですが。当方の場合、「図書館・博物館等施設数」が20位(資料5-P6)であったとしても、「IR=カジノ」の導入が阻止されたことをもって、幸福感(勝利感)は大きい。▼さて、各委員のプレゼンテーションにうつる。トップバッター涌井氏。氏の場合も、「広域で『戦略』・地域で『差別化』」との主張で、「広域」は東京湾で考える、とのことであった。全地球的・全日本的視点から比べれば守備範囲はかなり身近ではある。 つづく</p> |
| 55 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その4】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○ (60代男 鶴見区在住) それに加え、上瀬谷で計画されている「花博」(=植物)に掛けて、近隣の「ズーラシア」(=動物)との「バイオスフェア」だそうだが、動物は半永久的かもしれないが、植物の方は2027年の一時期に過ぎない。サステナビリティは期待できないのではないだろうか。「柔らかで有機的な空間」のなかで、「世代論」が取上げられている。今後は、ミレニアル世代、Z世代の特長・価値観をもった人達にターゲットを、ベビーブーマー世代とは価値観が違う、とする論であったと解釈した。しかし、差別問題にありがちな、「女性は～」だとか、「(横浜)出身者は～」といった、ありがちな「事実」を網羅して、あたかもそれが、当該集団の特色であるかのような錯覚を聞く人に与える、(ある意味)印象操作が行われる危険性はないのだろうか。 つづく</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|--------|------|--|
| 56 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その5】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 □（60代男 鶴見区在住） 防災問題も挙げられていた。上瀬谷に広域防災拠点进行を設け、非「被災地」からの人員・物資を東名高速から、いったん上瀬谷に集貨・待機させ、横浜市内外に展開、という意味なのであろう。参考になる見解である。これに北山氏の言う（後述）、「水運」の活用を加えれば、防災対策上かなり心強い体制が整えられるのではないだろうか。期待。▼ひとり飛んで、村木氏のプレゼンについて。「脱炭素を含んだ都市開発」を述べていたと思う。ロンドンなどの状況を例示しながら、「サステナビリティ」「省エネ」「効率的エネ供給」「再エネ利用」「オフセット」でないと投資家は集まらず、消費者は買わない。日本は「周回遅れ」だとの指摘だったと思う。脱炭素は、当方も、まったくそのとおりである。 つづく</p> |
| 57 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その5】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 □（60代男 鶴見区在住） 防災問題も挙げられていた。上瀬谷に広域防災拠点进行を設け、非「被災地」からの人員・物資を東名高速から、いったん上瀬谷に集貨・待機させ、横浜市内外に展開、という意味なのであろう。参考になる見解である。これに北山氏の言う（後述）、「水運」の活用を加えれば、防災対策上かなり心強い体制が整えられるのではないだろうか。期待。▼ひとり飛んで、村木氏のプレゼンについて。「脱炭素を含んだ都市開発」を述べていたと思う。ロンドンなどの状況を例示しながら、「サステナビリティ」「省エネ」「効率的エネ供給」「再エネ利用」「オフセット」でないと投資家は集まらず、消費者は買わない。日本は「周回遅れ」だとの指摘だったと思う。脱炭素は、当方も、まったくそのとおりである。 つづく</p> |
| 58 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その7】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 □（60代男 鶴見区在住） ▼もとに戻し、北山氏のプレゼンについて、進駐軍による接收が最後の最後まで続き「戦後復興が遅れた都市＝横浜」の都市デザインについて述べられたと思う。飛鳥田市政時代の6大構想「都市づくり構想」（1965）から、「横浜市基本構想（長期ビジョン）」（1973）、都市アイデンティティ等々、飛鳥田氏が市長退任後も一定、引継がれてきた基本的「街づくり構想」について、徹頭徹尾「横浜」の過不足のない取組み等が、まさに、市民目線で系統的に語られていた。上記、北山プレゼンを聞き、寺島委員長も横浜の都市づくりについての報告は「ぜひとも各委員に共有していただきたい」と述べた。この後、プレゼンをする各委員は、この委員長意見を心して臨んでもらいたい。 つづく</p> |
| 59 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その8】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 □（60代男 鶴見区在住） ▼次に、当局が自ら実行する「瑞穂ふ頭・ノースドック隠し」について述べる。事務局は「ファクトシート」説明のなかで、資料4-P39の写真をもって、「○（まる）で囲んだ部分が内港」と言った。これは間違いである。この区域は、「客船受入施設」が「内港」に集中していることを示したもので、内港そのものを指しているわけではない。港湾当局は当初、内港とは、ベイブリッジ内の港域である、としていた。つまり、同写真（資料4-P39、P5、P15、P17、P19、P23、P35も同じ）では、まさに意図的に隠されている瑞穂ふ頭をはじめ右半分（時計の文字盤に見立て、ベイブリッジを「6時」とすると、「0時～5時」）も含めた区域であるはず。もちろん、右半分には、クルーズ船の接岸可能岸壁は存在しないが、「内港は、客船受入施設（港域）とイコールではない」。 つづく</p> |
| 60 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その9】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 □（60代男 鶴見区在住） 港湾当局は、検討委員に（傍聴、動画視聴の市民に）対して、1) 瑞穂ふ頭を写真から削除することで、ノースドックの存在を見えなくし、2) 「客船受入施設（港域）＝内港」であるかのような錯覚を生じさせる、といった偽情報（ファクトではなくフェイク）を刷り込もうとしている。もうひとつある。資料4の表紙である。「CITY OF YOKOHAMA 山下ふ頭再開発検討委員会ファクトシート【横浜港取組編】～横浜港の国際競争力強化に向けた取組～」と書かれたタイトルのすぐ右。不自然に配された青色の台形をした模様（資料4 と表示のある）。これは、瑞穂ふ頭・ノースドック隠しそのものである。▼最後に、次回以降の本検討委には地元の関係団体が加わることになったことについて。どのような経緯で第3回からの参加が決まったのか不透明感・不快感がぬぐえない。 つづく</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|--------|------|---|
| 61 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その10】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○（60代男 鶴見区在住） ▼第3回以降の議論について。今後も委員によるプレゼンが続くと思うが各委員には、①あくまで「横浜目線」で話をしてもらいたい、②現横浜市長はIRの導入を否定した。このことを認識のうえ話をしてもらいたい、③横浜港には米軍基地（ノースドック）が存在する。市（市会、市民、行政）は、当該基地の「早期・全面・無条件返還」を求めてきている。この問題からも逃げず積極的に採り上げてもらいたい—— 以上、期待を述べ終わりとする。 おわり</p> |
| 62 栄区 | 80歳代 | <p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合（第2回）に関する意見・感想 ○○ Email : ○○</p> <p>1. 市民から応募があった意見・感想の数があまりにも少なすぎる。これは、山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合の開催と意見等の募集について、市のHPにしか公表されておらず、「広報よこはま」による正式な市民への周知がなされていないことによると考えられる。 山下ふ頭再開発は、かつてカジノを含むIRが計画され、市民の関心が非常に高かった。この重要な「まちづくり」の方向性が諮問される学識者会合において、このような少数の市民意見しか反映されないのは、市民自治の趣旨に著しく反するものである。「広報よこはま」による正式な市民への周知が必須である。</p> <p>2. 上記1. の意見を提出しているが、第2回会合の資料3の「インターネットフォーラムに寄せられた市民意見等」のまとめに取り上げられていないのはどういうわけか。</p> |
| 63 栄区 | 80歳代 | <p>3. 「まちづくり」においては安全確保が最重要であり、この検証を怠り上物を計画しても、文字通り砂上の楼閣となる。そこで、次の項目について学識者会合で真摯に検討していただきたい。(1) 資料3の「3 御意見の内訳(78件)のその他の御意見・御感想(33件)」には「・瑞穂ふ頭の部隊配備撤回等を検討すべき」が記されているが、これは最近、瑞穂ふ頭の米軍基地が強化され、市民意見が複数件提出されたことを反映している。この重要な意見について学識者の間で何ら議論が交わされていない。台湾有事ともなれば、攻撃対象となり得る瑞穂ふ頭の至近距離にある山下ふ頭のまちづくりにおいては、必須の検討事項である。(2) 最近、横浜市では、とみに高層建築が増加しており、同再開発においても高層建築物が計画される可能性が高い。高層建築物の耐震性能については、首都直下型地が30年以内に70%の確率、南海トラフ地震が40年以内に90%の確率で発生が予測されているが、このような巨大地震に対する耐震性能は未知数であり、倒壊はしないまでも上下水道や電気ガスなどのエネルギー供給に支障をきたさないという保証はない。</p> |
| 64 栄区 | 80歳代 | <p>このような巨大地震が起きた場合、長期間にわたって街の機能が麻痺してしまうことが十分考えられる。ところが、横浜市の震災対策は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を見込んでおらず、神奈川県が想定している地震より小さい震度しか対応していない。ちなみに、両自治体とも減災目標として死者数の半減を目指しているが、それを比較すると、横浜市が想定している津波によるものを除く死者数は3,260人であるのに対し、神奈川県が想定している横浜市内におけるそれは9,510人であり大差がある。すなわち、死者数は建物の倒壊、火災発生、がけ崩れ、道路破壊などの震災被害の規模を表しており、横浜市の震災対策は消火、救急、避難所・仮設住宅、食料・飲料水備蓄などにおいて、最悪の事態を想定したものになっていないことを意味している。増加している高層建築の火災対応や居住者救助、被災後の居住場所確保など横浜市の震災対応は果たして行き届いているか、先ずこの最重要の安全問題についての検証が必要である。</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| No. | 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|-----|-----|------|--|
| 65 | 栄区 | 80歳代 | <p>なお、横浜市は震災対策において市民による自助・共助の重要性を呼び掛けているが、横浜市は市民に元禄型関東地震の想定震度図を提示している。しかし、これは神奈川県が提示している対照型関東地震のそれよりも、1～2段階弱い震度となっている。これでは、横浜市民は想定される最大規模の地震について何ら知らされていないこととなり、自助・共助に大きな支障が生じるのは明らかである。</p> <p>4. インターネットフォームに寄せられた投稿一覧には、市民からの意見・感想がそのまま掲載されているが、フォームの制約もあってか、文章がベタ張りとなっていて非常に読みづらい。学識者の意見は多色の箇条書きとなっており説得力のあるものとなっている。</p> <p>市民による多色・箇条書きの読みやすい意見が投稿一覧に提示されるよう、改善が必要である。</p> |
| 66 | 港北区 | 60歳代 | <p>あと2日でこの意見募集は締め切られますが、開始直後に、市民にもっと周知する広報の仕方を工夫、改善していただきたいとの要望を上げていたにも拘らず、市においては全く善処されなかったことをたいへん残念に思います。市のホームページで「広報・広聴・報道」「記者発表」「港湾局」と潜っていても、意見募集は出て来ません。配信されている動画に関しても、27日時点で553回の視聴数に留まっています。明らかに、市民に知られていない、裏を返せば、市が本気になって市民に知らせていないという実態を如実に示していて遺憾です。カジノ誘致を止めた横浜市民に対して不誠実な対応と言えるのではないのでしょうか。ポストカジノの山下埠頭再開発がどうなっていくのか、市民は強い関心を依然として持っています。この関心と参画の意欲に水を差すような市当局の姿勢には疑問を感じます。やはり、この計画を港湾局だけで仕切ろうとしている市の取組体制の弱さから来る問題があります。北山委員が言っているように、港湾局だけではなく、都市整備局との連携が必要ですし、さらに言えば、市長直属の全市庁横断的な、総合調整的部署が設けられて然るべきです。</p> |
| 67 | 港北区 | 60歳代 | <p>山下埠頭再開発の「方向性」を検討するうえで知っておくべき客観的事実を共有するためという趣旨で為されたと思われる市当局および寺島委員長からの「ファクト」の説明でしたが、「ファクト」の共有という点で、北山委員による横浜の都市（まち）づくりの歴史についての報告は不可欠のものと思います。これについては寺島委員長からも指摘があった通りです。とりわけ、平成22年（2010年）3月の「次なる50年 横浜は海都へ ～ 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書」は、カジノ導入を検討する前に出された「ファクト」であり、「カジノ導入のための前捌き」（幸田委員）となった「都心臨海部再生マスタープラン」（平成27年（2015年）2月）に替えて、「既往計画」として委員会が参照しなければならない上位の計画書です。</p> |
| 68 | 瀬谷区 | 70歳代 | <p>山下ふ頭再開発に関する私見 □□ 70歳代 男性 瀬谷区在住（A）以下では、山下ふ頭再開発についての具体的な施設の提案ではなく、一市民として横浜市の街づくりがこうあってほしいという私の考えを述べます。検討委員会の様子をYouTube で拝見しましたが、寺島委員長の発想の原点には、未だに経済成長の夢を追いかける姿勢が見てとれます。またある経済団体は、山下ふ頭再開発では、少子化の結果市民税が減るから、それを補うためIRに変わる施設を考えてほしいと言っています。この提言には、市民税の不足をどう補うかの経済的視点しかなく、横浜をどうしたいのかとの方向性が欠如しています。日本は最早、高度成長が止まって、成熟した社会に移行する段階にあります。したがって日本の今後の大きなトレンドとして人口減少は避けられず、横浜の街づくりも人口減少を前提にして考える必要があります。横浜港が港湾施設として世界の流れに遅れつつあるとのことですが、これは日本の産業政策の帰結であり、横浜だけが頑張っただけで回復できるものではありません。そこで、山下ふ頭に「にぎわいによる集客機能」を持たせようということのようですが、</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|--------|------|---|
| 69 瀬谷区 | 70歳代 | <p>（B）これも集客機能であれば何でもよいというものではありません。前市長の時代に山下ふ頭にI Rを導入する計画が持ち上がりました。I R開発では1兆円規模の初期投資が行われるので、短期的には地元の経済を潤す効果はあります。そして完成すればそれなりの集客効果はあるでしょう。しかしI Rの中心であるカジノでは日本人の財産が海外資本に搾取される仕組みになっており、いずれは日本人の富が奪われ、長期的には国力の衰退を招きます。集客効果はあっても、長期的に国力の衰退を招くようなものは横浜の隣には東京があり、東京にはにぎわいの要素がすべて整っているため、にぎわいによる集客力では東京には勝てません。また横浜には美術館や博物館は数えるほどしかなく、東京には比べ物になりません。横浜はにぎわい集客力でも文化的な魅力による集客力でも東京に大きく劣っています。以上の観点に立脚して、横浜の街づくりの方向性として私は以下の2点を提案したいと思います。（1）落ち着いた街づくりを目指してほしい 私は、横浜の街づくりの方向として、</p> |
| 70 中区 | 40歳代 | <p>横浜市資料について、第1回検討会時に寺島委員よりファクトの確認が重要と話が出たが横浜市事務局側の資料(ファクトシート)や案は、輸出港横浜の歴史の変化を捉えきれていない資料と展望が発表されたこと、港湾競争力の維持・発展という、過去通りの流れ、これだけ大きな空間や事柄に広い視野を持っていないような資料に残念さを感じました。委員の皆様が仰るように未来を見据えた議論とスタートが必要だと思います。例えば、いま小学校に通う子供が30歳でも横浜で家族がいて、50～60歳まで至るような市民の生活イメージも着地点として取入れることが必要だと思います。未来の横浜も「港町 横浜」と語り継がれる港湾地区から(つまりインナーハーバーから)瀬谷区のランドマーク(涌井委員の提案)地区へ、連鎖的につながり発展し、横浜の各地で人々の暮らしと未来がイメージできるような大きなプランで山下ふ頭を利用してほしいと感じます。港湾競争力で維持するような土地ではなく、新しい事を受け入れ(新流行・手法・事業)、手をとれる・馴染める風土(友好)や街づくりをできる、いま横浜で生まれているハマッ子に未来に任せられる土地にしてほしい。</p> |
| 71 瀬谷区 | 70歳代 | <p>（C）賑やかなニューヨークではなく、ボストンのような落ち着いた街を目指してほしいと考えています。文化的で落ち着いた街の魅力で集客力を発揮できる街を目指してほしいと思います。（2）将来の横浜市民を増やそう 子供たちは（他都市の子供であっても）将来の横浜市民であると考えましょう。今後の人口減少は不可避ですが、その中で横浜の少子化の度合いを全国レベルよりも小さくする施策として、新しく開発するこれらの施設（山下ふ頭や上瀬谷の施設など）では、横浜の子供たちや他都市の子供たちに繰り返し来たいと思わせるものにしてください。たとえば、子供たち専用の小規模サッカー場や小規模な野球場、屋内競技施設を何面も作り、子供たちが自由に使える施設にするなどはいかがでしょうか。最後に山下ふ頭再開発検討委員会のメンバー構成について：以前に名古屋造形大学学長だった〇〇さんを検討委員会のメンバーに加えてほしいと思います。本人に確認しましたが、横浜市から呼ばれば喜んで参加します、とのことでした。（以上）</p> |
| 72 港北区 | 60歳代 | <p>北山委員のプレゼンテーションに共感しました。北山委員の語る横浜の都市（まち）づくりの歴史には大いに学ぶところがあると思います。戦後の飛鳥田市政での横浜という都市のアイデンティティづくり、その精神を受け継いでの50年後を見据えた芸術文化創造都市を目指す「海都横浜構想2059」（2009年）、さらには2010年3月の「次なる50年 横浜は海都へ「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書」での構想、と連綿と続いている横浜の都市づくりに横浜市民の気骨を感じました。山下埠頭再開発に当たっては、先人の業績に謙虚に学び、未来の横浜市民にも誇れる都市づくりをしていきたいものです。その点で、北山委員が今後の人口減少社会、定常社会における新しい都市モデルを目指すべきと提起した点は、委員会の諸氏が共有すべき論点と思いました。もはや終わっているとしか言いようのない紋切り型のテーマパーク型都市づくりに替わって、資本が活動するだけでなく、「自然とコミュニティと共生」する都市づくりこそが、横浜の目指すべき都市づくりだとの意見に激しく同意します。「未来の市民のための固有の文化を表現」する内実が問われています。</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|--------|------|--|
| 73 市外 | 70歳代 | <p>横浜の都市計画の歴史は独特でおもしろい。全国いや世界から注目される画期的なものでした。それは1963年、飛鳥田市長から始まる市民参加と自治体改革をめざす「人間中心の都市構想」でした。「第2回有識者会合」において、北山恒（横浜市大教授）さんはこの「学識者」の中で際立って市民派のメンバーです。彼は「横浜のまちづくりの歴史を振り返ってください」と言いたいということがよくわかる。この飛鳥田市政による都市計画の理念は市長が変わっても（社会党から自民党）歴代市政に脈々と受け継がれてきました。1965年「1万人市民集会」と「都市づくり構想（六大事業）」。1973年「横浜市基本構想（長期ビジョン）」。2004年「創造都市横浜構想（クリエイティブシティ）」。2009年「海都横浜構想（インナーハーバー整備構想）」。しかし2015年、林市政によって覆られます。カジノを中心とする街作り。360万市民を置き去りにした改革を見直し横浜の歴史、市民主体の街作りに帰るべきです。</p> |
| 74 南区 | 70歳代 | <p>（1）学識者と委員会担当者メンバーは横浜の都市計画の歴史を知るべきだ。それは全国いや世界から注目される画期的なものだ。1963年、飛鳥田市長から始まる市民参加と自治体改革をめざす「人間中心の都市構想」だ。「第2回有識者会合」において、北山恒さんのプレゼンテーションで示された。北山さんはこの「学識者」の中で際立って市民派のメンバーだ。彼は「横浜のまちづくりの歴史を振り返ってください」と言いたいということがよくわかる。この飛鳥田市政による都市計画の理念は市長が変わっても（社会党から自民党へ）歴代市政に脈々と受け継がれてきた。1965年「1万人市民集会」と「都市づくり構想（六大事業）」1973年「横浜市基本構想（長期ビジョン）」2004年「創造都市横浜構想（クリエイティブシティ）」2009年「海都横浜構想（インナーハーバー整備構想）」。（2）へつづく</p> |
| 75 南区 | 70歳代 | <p>（2）しかし2015年、林市政によってそれは覆される。「（カジノ付きの）都心臨海部再生マスタープラン」によって「人間中心の都市」「市民の政府」から市民抜き・カジノありの、グローバル企業だけが「輝き続ける世界都市」構想に様変わりした。そして今、「山下ふ頭再開発」が慌ただしいスケジュールで進みつつある。なぜ急ぐのだろうか？ 市民とともにじっくりと考える、という気配は感じられない。やるべきは「山下ふ頭再開発」ではなく「山下ふ頭まちづくり」なのではないか？ 山下埠頭に求めるのは物流の国際競争力強化ではなく、横浜市民にとっての魅力ある都市づくりではないだろうか？ 市民の意見を多く取り入れるには、庁内横断的な組織体制で各局に蓄積された資源を集約して、さらに市民や事業者が参加する部局を創設したり、市民が主導する市民会議、区民会議を開催するなど長期的な計画が必要だ。</p> |
| 76 港北区 | 60歳代 | <p>ズバリ断言できます。港湾局は、市民目線で動いていません。横浜市民を軽んじています。意見募集の締め切りが1カ月先になったことをなぜ分かり易く市民に知らせようとはしないのでしょうか。当初の締め切り日に合わせて、息急き切って、午後5時の刻限に間に合わせようと遮二無二努めたところ、締め切りが1カ月先の1月29日になっていた。送信後にも気付かず、今日30日になって初めて他人に教えて貰って知りました。慌てる必要などなかったわけです。正に人を食ったやり方です。これを行政がやる。最大の基礎自治体である横浜市がやる。これまでも再三再四に亘り、広報の在り方について、市民目線に立ってやって欲しいと要望して来たにも拘らず、一向に改めることなく、同じ対応を繰り返すばかりです。港湾局は、この山下埠頭再開発問題で、本当に市民の参画を望んでいるのでしょうか。これまでの対応を見る限り、極めて疑問です。港湾局がこの疑念に異を唱えるならば、直ぐにでも、検討委員会の動画の案内を市のホームページの目立つところに出して然るべきです。</p> |
| 77 南区 | 60歳代 | <p>私は山下埠頭にフェリーを就航させると良いと考えています。フェリーターミナルは広い駐車場を必要としますが、フェリーの接岸時にしか使わず、かつヒートアイランドの元凶です。そこでその場所をRVパークを付設した立体駐車場にすれば良いと思っています。一階はフェリーの乗降用に天井を高くします。山下公園の駐車場は時折予約車で満車になっているので接岸時以外はバスの駐車場にしてもいいと思います。2階は一般の駐車場、3階をRVパークにします。キャンピングカーを使う人の中には子供連れのエコツアーが趣味という方がいます。横浜港周辺の観光だけでなく、JR石川駅に近いので、車を置いて鎌倉などに電車でアクセスすることができます。首都高速から次のRVパークにアクセスも可能です。そして屋上に太陽光発電パネルを設置してメガソーラーにします。メガソーラーは3ha以上必要なそうなので、横浜市内で数少ないメガソーラーとなります。</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| No. | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|-----|----|------|--|
| 78 | 南区 | 60歳代 | <p>私が、リニューアルされたマリントワーにのぼった日は快晴でした。すばらしい眺めでした。そして、眼下にある山下埠頭の半分が「市民がつくった森」で半分が「低層の建造物の屋上につくられたメガソーラーであったならば。と想像しました。マリントワーから眺めるとき、横浜港を囲んで瑞穂埠頭に風力発電ハマウイング、山下埠頭に森とメガソーラーが見渡せる景観は「環境都市横浜」の象徴となるでしょう。 私にはとても残念な景観があります。それはグランモール公園から見た横浜美術館です。あんな風になってしまったら、もう百年変えることはできないでしょう。 マリントワーからの景観は、次の百年の横浜市民が誇れる「環境都市」の景観をつくってほしいと願っています。 学識者会議をみさせていただいて、その見識の深さや広さに目を見張るばかりでした。その道の最前線におられる方々は、その実務や学究の細かい内容に心を砕き、さらに世界的な競争に晒されながら、底には日本や世界の未来への思いが沸々と流れていると信じています。横浜の未来もよろしく願います。</p> |
| 79 | 南区 | 60歳代 | <p>私は、山下埠頭にフェリーを就航させるとよいと思っています。国際的な運行では客船も貨物船も大きくなりベイブリッジの内側へ入って来れない状況です。せっかく船着場として存在している山下埠頭を無駄にしないという観点で考えてみました。ある報道では「鹿児島県の農産物を新門司港にトラックで、そこからフェリーで神戸に。再びトラックで東京まで運ぶ。」これによって運転手の労働時間の割り振りを凶っていました。フェリーの利用は24年問題のひとつの解決策のようなのです。また、モータリシフトが環境負荷の低減効果の大きい取り組みとして注目されています。例えば鹿児島から横浜までフェリーがあれば、先ほどのトラックはその経路の多くを船に代替できます。別の報道では長距離を運送する会社がその途中に小さな支店を置き、運転手を交代することで24年問題の対策を凶っていました。横浜には多くの物流の会社があるので、フェリーにトラックを積んで横浜の運転手が目的地まで運ぶ。などということが可能になるのではないのでしょうか。横浜の流通は国際的な視野に立っているとは思いますが、視点をかえて、国内の流通にも貢献できるとよいのではないかと思います。</p> |
| 80 | 南区 | 60歳代 | <p>港の見える丘公園の展望台からフランス山地区にかけて、木々の中に遺稿と遊歩道があり、緑の中を歩くことができます。その先の山下ポンプ場のところにも木々があって、マリントワーから見ると緑の帯です。私はこの先の山下埠頭に「まとまった樹林地」をつくとよいと思います。昨年の山下埠頭の再開発のパンフレットには「緑を中心とした提案」があり、「緑28万平方メートル」とありました。これだけの広さがあれば、緑の中にある道を歩く森になります。私は2020年2月の県庁での「脱炭素社会への展望」を受講しました。あるパネラーの方が「脱炭素社会にはまとまった緑が必要だ。しかし中心部では無理云々」と肩を落としておられました。確かに関内を歩くと次々にばらばらに建物が更新されるのを目にします。新しい建物の周りに木々を植えることが精一杯でしょう。山下公園の再開発は、まとまった緑を市の中心部に据えることができるチャンスです。2021年全国植樹祭では、都市公園の一角に「みんなで海岸に森林をつくろう」というテーマで一般の人が参画した植林活動が展開されました。横浜市民みんなで、横浜の中心部に「まとまった樹林地」をつくるのです。</p> |
| 81 | 南区 | 60歳代 | <p>私は、山下埠頭に市民の植林によって28平方メートルの森を。と考えています。その後の管理についても考えてみました。横浜の樹林地は百年以上、肥料や燃料として管理されてきた里山といわれるものです。今その多くが市民活動によって管理されています。肥料は、はまっこユークという取り組みがあり、街路樹の剪定枝等を木質資源として活用しています。そこで、園芸博覧会の会場の一角にバイオマス発電所をつくることを市民の提案に投稿しました。市内の樹林地を木質資源としてバイオマス発電に供給するという考えです。樹林地を再び資源として活用するのです。風力発電ハマウイングでは作った電気です水を分解して水素をつくり、同時にできる酸素は空気中に放出しています。私たちは酸素がなくては生きていけません。その酸素を生み出す方法が光合成以外にもあったのです。樹林地で木々が二酸化炭素を固定、酸素を放出。それを木質資源として発電してまた酸素を放出する。今二酸化炭素からメタンなどの燃料を合成する研究もされています。そのプラントが付設されれば、山下埠頭が持続可能な森林経営の範となるのです。</p> |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| No. | 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|-----|----|------|---|
| 82 | 南区 | 60歳代 | 新潟県長岡市に道の駅ながおか花火館があります。長岡の花火は全国的に有名です。この花火に対する想いがこの道の駅には綴られています。1500柱という命の重さを今もって語り継いでいました。私は先日市役所で開催された市の平和講演会を参観しました。そこで横浜市が「ピースメッセンジャー都市」であることを知りました。この場でひとりの中学生が言いました。「戦争が風化するのはいえないからだ。」横浜は、関東大震災と横浜大空襲でいったい幾柱の命が奪われたのでしょうか。空襲は大空襲だけではありません。この文章を書くのに調べてみました。確定された数がありません。万と数える資料もありました。その痛ましさを市民全員で語り継ぐ場所がないのです。山下公園が大震災の瓦礫でつくられたことは山下公園の片隅に綴られています。一体何人の人がそれを読むでしょう。私は「命の大切さ祈念館」といったものを山下埠頭につくってほしいと思います。毎年語り継ぐイベントができるホールやばらばらにあるそれらの資料を集めた資料室、世界の人が平和について語り合える会議室のある「ピースメッセンジャー都市」にふさわしい施設をつくってほしいと願っています。 |
| 83 | 南区 | 60歳代 | 第2回の学識者会議では、山下埠頭の防災の役割が注目されていたように感じました。私は山下埠頭の再開発には28haの市民がつくる森、RVパークとメガソーラーを付設したフェリーターミナル、「命の大切さ祈念館」をつくとよいと考えています。更に私は防災の視野で考えてみました。災害発生時に使える施設をつくるのです。例えば1階は全天候型の運動場（うまく柱を配置して、トラックや人工芝などがあり、市民が自由に散歩や運動ができるような。臨港パークから続くBAYWALK YOKOHAMAの延長上に。）2階は中第2スポーツセンターとフードコート。このふたつは大規模災害時には船で来てくれた災害ボランティアや運ばれた災害援助物資の受け入れの拠点にします。そして屋上はヘリポートにします。横浜市はペロブスカイト太陽電池の活用を推進しているので、通常はこのペロブスカイト太陽電池を設置しておいて電気を備蓄し、大規模災害時には巻きとり、ヘリポートにします。これからも学識者会議をみて、視野を広げていきます。 |
| 84 | 西区 | 70歳代 | 1. 山下埠頭の再開発検討に当たって、港湾局は2015年に策定された「都心臨海部再生マスタープラン」を基軸とする姿勢である。このプランを既往計画として位置づけたいとの目論見である。顕在的にも潜在的にも少なくない委員がその方向に沿っているように見える。しかし、内田裕子委員の同プランを評価する意見を受けて、幸田雅治委員は「このプランはIR誘致のための前捌きであった。市も認めている」、「これを検討の前提とすべきではない。リセットしてゼロからやり直すべきである」と見事に本質を突く批判を展開した。2021年市民の力でIR誘致を断念させたが、市による「IRの振り返り」はまったく市民目線からかけ離れた身勝手、独善的な内容であった。幸田発言はこのことも間接的に批判したものである。検討委員会を視聴した市民の多くがこの幸田発言を強く支持したことを委員会も港湾局も理解しなければならない。 |
| 85 | 西区 | 70歳代 | 2. プレゼンテーションを行った3人の内の一人、北山恒委員は人口減少に向かう現代を文明の変換点と捉え、「固有の文化の表現」、「自然と文化の共生」、「居住と生産の共有」を視点に新しい都市構想を訴えた。その上で強調したのは「未来の市民のための開発」であった。大所高所から、そして遠い先を見据えた鋭い切口を高く評価したい。8月28日の第1回検討委員会に於ける同委員の発言：「短期間で最大の利益を上げるようなやり方を追求すべきではない」、「効率を追求すると多様性が失われる」に完全に同期するものであり、委員会全体で共有すべきである。 |
| 86 | 西区 | 70歳代 | 3. 寺島実郎委員長のFact Sheet：横浜港の国際競争力強化、港湾物流に関する多くのデータや情報は学びの対象としては興味を覚えた人もいるかもしれない。しかし、内港地区の山下埠頭のあり方を議論するに当たってどれほどの意味、価値を持つのかという疑問をめぐえなかった。明治維新以降の時代の節目に言及しながら寺島氏は「視界と構想力が問われている」とそれ自体は真つ当なことを発したが、そうであるならば飛鳥田市政下における「人間中心の都市構想」（1965年）、北山委員が触れた「横浜市基本構想」（1973年）、「創造都市横浜構想」（2006年）、「都心臨海部・Inner Harbor構想」（2009年）などをしっかり纏めて委員会全体で共有すべきではないか。それこそ最上位にくるべきFact Sheetである。その準備に要する労はそれほど多大ではない。問われるのは港湾局の歴史に真摯に向きあう姿勢と責任感である。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|----|----|------|---|
| 87 | 西区 | 70歳代 | 4. 1) 検討委員会の初めに港湾局から第1回目の委員会を受けての市民意見の数と分類に絞った要約が報告された。それに対する意見・質問はどの委員からも発せられなかった。しかし、議論の中で市民意見に対する言及がまったくないのはどういうことか。港湾局がいつその纏め(資料3)を委員会に配付したのか定かではないが、目を通す時間がなかったとは言えないはずだ。関心がなかったのかじっくりとレビューする意欲がなかったのかは分からないが、このような体であれば何のための市民意見募集かと言いたくもなる。 わずか37人から64件の小規模な投稿であったが、検討委員会の委員が等しく目を通し理解すべき貴重な意見は少なくなかった。 |
| 88 | 西区 | 70歳代 | 2) ただし、委員に刺激を与え、緊張をもたらすには最低その十倍の市民が積極的に意見を提出するような状況を作る必要がある。その意味で港湾局はこの検討委員会の存在と市民意見の募集等について十分な広報を展開しなければならない。 もっとも簡単で有力な方法は「広報よこはま」に掲載することである。それこそが行政の取るべき術ではないか。 2020年の春に募集した「横浜IRの方向性(素案)」には5,040人の市民から9,509件もの意見が提出された。圧倒的なカジノ反対の市民が積極的に応じたことが背景にあるとはいえ、市は大々的な広報を繰り返し、A4 4頁の意見提出用葉書付きのパンフレットを用意した。さらには2019年の12月には「IRの実現に向けて」と題した「広報よこはま」特別号を全戸配布した。2021年3月には実施方針の公表を受けて同じく「広報よこはま」特別号でYOKOHAMA INNOVATION IRをアピールした。 民意に背いても実施したいプロジェクトには全市を挙げての広報に勤しみ、湯水のように金を投じ、なるべく市民意見を抑えたい事業には行うべき広報を控えるのでは真っ当な行政とは言えない。 |
| 89 | 西区 | 70歳代 | 5. 1) 委員会の会合の終了間際に港湾局(竹内紀充部長)は唐突に次回からの地域関係6団体の委員会会合参加を通知した。なぜそのような発言に至ったのかは十分な説明なしであった。 第1回検討委員会では「委員会の自立性が大事」だとか「ある程度固まってから参加してもらいべきである」といった発言があったにも関わらず、それを無視した形だ。 いったいいつ委員会との間で第3回からの参加をよしとしたのか。仮に特定の委員との間だけで合意があったとすればおよそ民主的とは言えない。 そもそも港湾局から発表することではなく、委員会の委員長が発するべきことである。なぜ、一通り各委員から発表が終わるまで待たせることができなかつたのか。何がしかの不当な外部圧力があつたのではないかと勘繰りたくなるような決定だ。 |
| 90 | 西区 | 70歳代 | 2) そもそも6団体すべてが利権を持った団体である。山下埠頭の再開発で何らかの大きな儲けを得よう、またはおこぼれに預かろうとすることで名を連ねたと見るのが自然だ。かれらが健全な市民の意向や想いを代弁することはまずありえない。 第1回委員会で冒頭の意見が出た後、寺島委員長は「地元の意見をまったく聞かないと言うのはおかしい話だ」と言った。 地元というのであれば本来は市民の代表複数を委員会メンバーに加えるのが公平で民主的であるはずだ。 任命権が市にあるとして端から市民排除するのはIR誘致での市民無視の姿勢に通じるものである。 どうしても市民の代表の参加が不可ということであれば、100歩譲って委員会としての答申(原案)が出された段階で、委員会の場で市民の代表複수에意見陳述の機会を与えるべきである。さらにはその最終案が示された後、広く市民意見を募集し、合理的で多数を占める意見はその修正に生かすことを保証しなければならない。 |
| 91 | 西区 | 70歳代 | 6. 1) 2回の検討委員会で完全に素通りされた極めて重大で市民の関心も高いテーマがある。それは瑞穂埠頭の米陸・海軍基地であるNorth Dock(以降NDと略す)である。どの委員からもNDへの言及がまったくなかつた。 瑞穂埠頭は同じく内港に位置しながらその性格上2015年の「都心臨海部再生マスタープラン」からは対象外とされた。しかし、前述したように本プランをベースに検討することの非が徹底されたはずと見ている。 外形的には神奈川県も横浜市も長年NDの返還を求めてきた。しかし、今年1月の日米2+2で米陸軍の小型揚陸艇部隊の新編が合意されてからは、県、市共に新編に伴う情報提供や市民の安全・安心のための対策要求に矮小化し基地の早期、全面返還の絶対的要求をトーンダウンさせている。 自治体としての自立、存立に鑑みて、山下埠頭のあるべき姿を検討するに当たっては、ND問題を議論の対象外にするのではなく徹底的に議論し、委員会としての矜持を示してもらいたい。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿（500文字まで） |
|----|-----|------|---|
| 92 | 西区 | 70歳代 | 2) 因みに、わたしは瑞穂埠頭から直線距離で1,600mの処に住んでいる。音響測定船、小型揚陸艇、多種類の輸送船などが日常的に視認できる。今春以降明らかに米軍船の出入りが増えているが、横浜市の基地対策課が把握しているのは船名、形状と入出港情報程度である。それ以外は米軍の運用に関する事項としてすべて隠されている。日米地位協定という国家的課題に及ぶ問題であるが、かかる現状を看過するわけにはいかない。検討委員会が本件に目をつぶることは許されない。 |
| 93 | 西区 | 70歳代 | 7. 1) 寺島委員長は8/28第1回検討会議の冒頭で次のような発言をした。「IR=カジノにされたために議論が貧困になってしまい、悲劇となった」。これはとんでもない言い草で、市民を侮辱するものであった。横浜市が誘致しようとしていたのはあくまでカジノであって、IRはカモフラージュでしかなかった。そこを大半の市民が正しく見抜いていたからこそカジノ誘致撤回をもたらしたのである。寺島氏はSuntory HDの代表取締役社長と共に「IR推進協議会」が設立された際（2015年4月）に暫定共同代表の任に就いた。その後、カジノ解禁を是とし、IRは観光立国に必須であるとの啓蒙に努めた。 |
| 94 | 西区 | 70歳代 | 2) もちろんこの山下埠頭の再開発検討において自ら改めてIRの誘致を提言することはないであろう。しかし、彼は8/28の検討会議後の報道陣の取材の中で、集約される見通しの二つの内の一つに訪日客や国内観光客を山下埠頭に引きつけるプロジェクトを挙げた。それが即IRとは限らないが、IR復活の可能性は決してないとは言えない。現に検討委員会委員の中にはIR賛成派が相当数いる。また2025年の横浜市長選挙には再びIR誘致派市長誕生を目論む動きが始まっている。市民はこうした点を押さえながらこの検討委員会の動向に目を光らせていかなければならない。 |
| 95 | 都筑区 | 30歳代 | 山下ふ頭にはアゴヒゲアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館であるタマちゃんマリナランドをつくってください。山下ふ頭は横浜市の海に面しています。海洋都市横浜を振興していくとともに、地球環境保護推進や観光客を誘致するため水族館があるとより発展すると思います。 横浜市には2002年にアゴヒゲアザラシのタマちゃんがきて、流行語大賞を受賞し、横浜市から特別住民票の交付をうけるなど大変話題になりました。横浜市や海に親しみを持ってもらうためにもタマちゃんを冠した水族館を作れば山下ふ頭の発展により効果的と考えます。 また、山下ふ頭まで横浜駅からLRT（Light rail）を通せば発展に効果的だと思います。山下ふ頭は交通の便が必ずしもいいとは言えません。車やバスより環境にやさしいLRTを通せば脱炭素・SDGsをアピールできるとともに、横浜駅、みなとみらい、山下ふ頭までつながり通勤通学観光に便利になり、交流人口が増え観光客も誘致できると思います。 タマちゃんマリナランドを併設しかつ横浜駅からLRTを繋げばより横浜市の発展に繋がります。 |
| 96 | 市外 | 70歳代 | ・学識者委員会のビデオを拝聴しました、山下ふ頭についての私の提案を是非ご検討していただきたくメールしました ・提案の概要書をつくりましたがA4版2枚でこの枠には納まりませんので、港湾局にメールしますのでご覧いただけ、ご検討いただけましたら幸いです ・提案の要約はタイトルは「MORE YOKOHAMA MORE YOKOHAMA PROJECT」で、サブタイトルは「開港以降消滅したヨコハマの建物や街並みを興し、その時代の港町の賑わい・生活・文化・風俗等を体験し、時間のなかでなかで都市が重層化されて今日に至っていることを実際に体験する場をつくる」というものです |
| 97 | 金沢区 | 60歳代 | 大型の天体望遠鏡を寄贈できるという市民があり、住民向け・一般市民向けの天体観望会用に活用してはどうでしょうか。 ホテルなどの宿泊施設が付帯していれば観光客だけでなく学校利用も考えられます。 |

インターネットに寄せられた投稿一覧

| | 居住 | 年代 | 投稿 (500文字まで) |
|-----|-----|------|---|
| 98 | 港北区 | 50歳代 | <p>運営が市民不在となっています。そう思いませんか？第二回委員会で委員から市民の意見について、なにも意見がありませんでした。一方通行です。</p> <p>第3回からは地域関係団体からの委員も参加するそうですが、なぜ、こうなったのかわかりません。山下埠頭は市有地であり、倉庫をどかすのに多額の税金を使っています。市民のために使われるべきですが。企業のために使われてしまいます。市民の意見と真逆の方向に行っています。これでは、市民の意見を無視して、強引に進められたカジノを含むIR誘致とまるで同じです。市民の意見は聞いたけれども、結局は横浜市と企業で水面下で話を進めてしまいました。説明会は一方的。虚偽だらけ。横浜市民の満足度が低いのは、財政が厳しいからではなく、市民のためにお金を使わず、企業のためにお金を使っているからです。</p> <p>第3回の突然の発表。1月12日。市民意見は1月8日まで。あまりにも身勝手。方針変更。許されません。</p> |
| 99 | 港北区 | 70歳代 | <p>私は、山下ふ頭再開発について港湾局主催の市民ワーキングに2回参加し、意見募集も2回提出した港北区民です。以下、意見を述べます。①前述の市民ワーキングでは、たくさんの市民が参加して活発な意見交換が行われ、若い世代からもユニークで有効な構想案が出ました。この重層的な市民の意見は、この検討委員会のどこに位置付けられたのか全く説明がなく、参加した市民には理解できません。②冒頭に1回目後の市民意見の報告が簡単にされた後、委員長、3名の委員からのプレゼンがありました。しかし、それぞれの考え方を述べるにとどまり、市民意見に触れるのでもなく、再開発に向けてお互いの知見を発展させるのでもなく、言いつばなしです。無責任だなと感じます。港湾局も、まず、ここでこれまでの市民の意見を丁寧に報告・説明するのが筋ではないですか？③次回から地元の地域関係団体の6団体が加わるとの話がありましたが、その理由や説明がありません。山下ふ頭は市民の財産です。今でさえ納税者である市民の存在が見えない学識者会合に、さらに地元利権を持つ団体を加えるのなら、そもそも地元の市民を加えないやり方は、民主主義にほど遠いです。</p> |
| 100 | 港北区 | 50歳代 | <p>第一回の市民の意見。39名78件。少ないと思います。第二回の意見募集は、締切が唐突だったので、のびないと思います。こんなに少なくてもいいのでしょうか？今。横浜市に関心を寄せる市民の間では、この委員会を設置した山中市長、横浜市への批判が、渦巻いています。山下ふ頭検討委員会は、これから地元の関係団体が入り、具体的な議論になっていきそうですが。その前に、市民として、横浜市の問題点が、たくさんあります。ちょっと待ってください。</p> |

令和 6 年 1 月 5 日

意見書

1 団体概要

- (1) 団体名 一般社団法人横浜港振興協会
- (2) 構成会員数 505社
- (3) 設立年 昭和28年7月7日
- (4) 設立趣旨 横浜港の振興発展に向けた諸事業を推進することにより、横浜港ひいては地域経済の発展と市民生活の向上に寄与することを目的とする。
- (5) 主な事業活動 (1) 横浜港の振興対策に関する調査・研究とその実現に向けた関係諸団体との連携・協力事業
(2) 横浜港の利用促進に向けた船舶、貨物の誘致及びPR事業
(3) 横浜港の振興宣伝を広く展開する市民と港を結ぶ事業、情報誌の発行、情報発信事業など

2 山下ふ頭再開発に向けての意見

(まちづくりの方向性や再開発を進めるにあたって検討すべき事項等)

別紙のとおり

2024年1月

一般社団法人横浜港振興協会 ～ 山下ふ頭再開発検討委員会への意見書 ～

1. 横浜港振興協会の概要

横浜港振興協会は、昭和28年（1953年）、横浜市および横浜商工会議所の呼びかけにより設立されて以来、会員や関係者の皆様方に支えて頂き、令和5年7月に創立70周年を迎えました。

港湾関係団体や企業を結集して横浜港の活動を振興する目的で設立し、10年ほど前まで港湾関係者のみで活動して来ましたが、さらに横浜市全体で横浜港を活性化させ振興を図る目的で各区の町内会・商店街・青少年団体・ホテルなどのご参加を頂き、現在では、多様性に富んだ会員数500社超を有する体制となりました。

港には、「国際貿易」、「港湾産業」、「観光・憩い楽しむ」の三つの面があります。これらを有機的に結び付け、ミナト町ヨコハマが発展を遂げるのが当協会の任務です。具体的には、港内見学会や港に関する講座は勿論、客船の誘致・受入れ、大さん橋国際客船ターミナルの指定管理、八景島マリーナの運営、臨海部の賑わい創出、港の広報宣伝など広範な事業を実施しています。横浜港振興協会の現在の活動は他の港に見られないほど活発です。

2. 山下ふ頭の歴史と共に歩んだ当協会

山下ふ頭は、戦後の接収された瑞穂ふ頭の代替施設としてばかりではなく、戦後経済を立て直し、我が国の国際貿易を発展させる期待を背負って、昭和28年（1953年）に建設が始まり、我が国最初の国際貿易を担う近代的大規模ふ頭として全国に先駆けて10年後の昭和38年についに供用開始され、現在に至っています。

山下ふ頭の建設に着手した昭和28年は当協会の創設の年であり、このふ頭の歴史は当協会の歩みに重なります。共に横浜港の発展に大きな寄与を果たしてきており、今後も切っても切れない関係といえます。これまで、当協会含め横浜港の関係者全員で港の船混み対策としての効率的な利用や、臨港鉄道のふ頭乗り入れなど、管理運営に両者共同で工夫を凝らしながら我が国の高度経済成長を支えて参りました。まさに山下ふ頭と当協会は共に歩んできており、港の振興を担っている当協会は、今後も山下ふ頭の再開発に積極的に携わっていく所存です。

当協会は港関係者ばかりではなく商店街・町内会・ホテル・金融機関などの会員も有しており、様々な有益な意見具申が可能です。第1回の山下ふ頭再開発検討委員会で、山下ふ頭の再開発は港の機能を十分に生かすことが重要との方向性が打ち出されました。当協会はその方向性に沿って、将来にふさわしい提言を行っていきたいと思います。

3.山下ふ頭再開発に関する意見と要請

以下に掲げる項目について委員会で審議して頂きたく掲載させていただきますので、ご検討頂くようお願い致します。

- ① 山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を鑑みた開発にして頂きたい
- ② 横浜港の発展の歴史を踏まえた開発として頂きたい
- ③ 横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させて開発として頂きたい
- ④ 山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定して頂きたい
- ⑤ 安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論して頂きたい
- ⑥ 横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることとし、委員会の方向性として最初に議論して頂きたい
- ⑦ 横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置づけと国際貿易に寄与する視点を最重要視して頂きたい
- ⑧ 憩いの場としては、市民が自由に使い樂しめ、賑わいが創出できるような空間を検討して頂きたい
- ⑨ 事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮した後決定して頂きたい
- ⑩ 国際交流や日本文化を発信するような機能を検討して頂きたい
- ⑪ 100年前の関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討して頂きたい
- ⑫ 障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れた開発として頂きたい
- ⑬ 周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討して頂きたい
また、現在1か所しかない進入路の機能向上についても検討をお願いしたい
- ⑭ 臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい21地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース（BAYWALK YOKOHAMA）や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい
- ⑮ 横浜港へさらなる客船誘致を推進する観点から整備を検討して頂きたい

4.委員会に参加するにあたって

当協会の使命である“横浜港の振興発展”を図るため、山下ふ頭の再開発に際しては計画段階から意見を具申し、積極的に事業に関わって参ります。当協会の体制として、「検討部会」を協会内に設置しました。本検討部会を通じて会員の意見を広く吸い上げて、当協会の意見を全体としてまとめて、提言して参ります。

以上、山下ふ頭再開発検討委員会に参加するに際して、現在の当協会の意見とさせていただきます。なお、今後当委員会の進展に従って具体的な提言を都度委員会に上程させていただきます。と思います。

令和 6 年 1 月 1 2 日

意見書

1 団体概要

- (1) 団体名 : 横浜商工会議所
- (2) 構成会員数 : 12,214 会員（令和 5 年 11 月 30 日現在）
- (3) 設立年 : 明治 13 年（1880 年）
- (4) 設立趣旨 : 本商工会議所は、地区内における商工業者の共同社会を基盤とし、商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資し、もって我が国商工業の発展に寄与することを目的とする。
- (5) 主な事業活動 :
- ・商工会議所としての意見を公表し、これを国会、行政庁等に具申し、及び建議すること
 - ・行政庁等の諮問に応じて、答申すること
 - ・商工業に関する調査研究を行うこと
 - ・商工業に関する情報及び資料の収集及び刊行を行うこと 他

2 山下ふ頭再開発に向けての意見

（まちづくりの方向性や再開発を進めるにあたって検討すべき事項等）

1. 横浜経済の核となる活性化拠点の形成

山下ふ頭は、美しい港の景観に囲まれ、地区面積・約 47ha に及ぶ都心部に隣接した魅力的な土地であり、高度経済成長期には横浜経済をけん引した港湾施設として重要な役割を担ってきました。

こうした素晴らしい立地環境と歴史性を十分に活かし、山下ふ頭の再開発が観光産業等のリーディング・プロジェクトとして、また、横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進していただきたい。

2. 山下ふ頭全域の一体的な再開発の推進

山下ふ頭の再開発につきましては、戦後の横浜港の中心的なふ頭として活躍してきた歴史を尊重すると共に、ふ頭特有の地形を活かした一体的な再開発が重要と考えます。また、世界に誇れる横浜特有の魅力的な施設とするために、山下ふ頭全域を統一されたテーマの下に再開発することが不可欠であります。

つきましては、整備効果を最大限発揮させるため、みなとみらい 21 地区のように街区ごとに区切って開発するのではなく、山下ふ頭全域の一体的な再開発を推進していただきたい。

3. これまでの再開発プロジェクトにより得た知見を活かした魅力的な施設の導入

横浜市において、これまでに進められてきた数々の再開発プロジェクトにおいて、観光・MICE や文化芸術の振興、新たな雇用の創出、海外の先進事例の導入など、横浜経済の活性化に資する多くの知見が得られたものと認識しております。

こうした卓越した知見を山下ふ頭の再開発に活かしていただくと共に、防災拠点・感染症対策拠点としての機能、さらには、カーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する再生可能エネルギーの活用など魅力的な施設を導入していただきたい。

4. 山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出

横浜には、元町や中華街、山下公園通りなど、既に魅力ある個性的な街や商店街などが多く存在しております。山下ふ頭の再開発にあたっては、こうした既存の商店街はもとより、都心臨海部の各地区（東神奈川臨海部周辺、横浜駅周辺、みなとみらい21、関内・関外、山下ふ頭周辺など）との相乗効果が図られることが重要と考えます。

つきましては、山下ふ頭の再開発が既存の商店街や都心臨海部の各地区などと十分に相乗効果が発揮され、横浜のさらなる賑わいの創出が図られるよう推進していただきたい。

5. 旧上瀬谷通信施設跡地等の街づくりとの連携による市内全域の活性化

2015年に返還された旧上瀬谷通信施設跡地は、横浜市の西部・内陸部（旭区・瀬谷区）に位置し、242haに及ぶ平坦な広大な土地となっており、その約4割に当たる約100haを利用して2027年に国際園芸博覧会が開催されます。

開催後の土地利用については、内陸部の新たな賑わいの拠点として博覧会で実証される最先端のGX技術等を継承した新たなまちづくりが進められることになっておりますが、同跡地を含めた横浜西部の活性化を図るためには、都心臨海部との連携強化が不可欠であります。

つきましては、山下ふ頭の再開発につきましては、旧上瀬谷通信施設跡地等との連携と機能分担を十分に考慮すると共に、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して市内全域の活性化を図っていただきたい。

6. 横浜市財政に寄与する税収効果と外国人材を含めた雇用創出の促進

山下ふ頭の再開発につきましては、将来の横浜経済を牽引する新たな産業を創出し、国内外から多くの人々が訪れるインバウンド拠点として開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加と共に、海外企業の市内進出や市内投資の拡大を図っていただきたい。

また、新たな産業の整備により雇用創出を図ると共に、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受け入れを強化していただきたい。

横浜市内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現していただきたい。

市民意見募集等のとりまとめ結果



市民意見募集等のねらい

山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定にあたっては、三方を平穏な海で囲まれた広大な開発空間、優れた交通利便性等、山下ふ頭の高いポテンシャルを最大限に生かし、**市民の皆様のご意見を反映させた、かつ事業成立性の高い計画**とすることが必要

第1回

2021(令和3)年12月
～2022(令和4)年6月

第2回

2022(令和4)年11月
～2023(令和5)年2月

市民意見募集、意見交換会、事業者提案募集

第1回 市民意見募集の結果概要 2021(R3)年12月~2022(R4)年6月

**内港地区の将来像と
山下ふ頭の再開発**

横浜市民の方をはじめ、市外在住の方や
事業者等の皆様もご意見をお聞かせください

—募集期間—
令和3年12月23日(木)~
4年6月30日(木)
まで

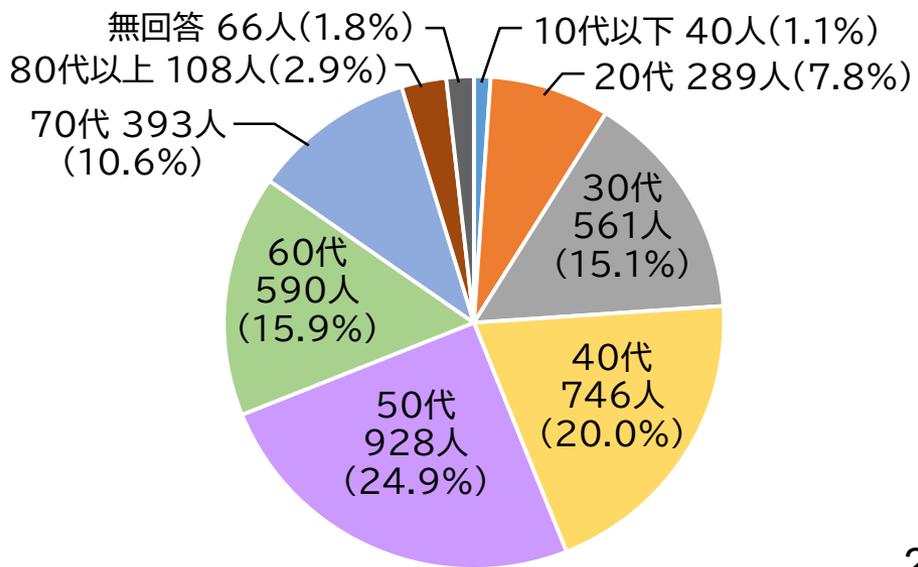
ベイブリッジ内側の内港地区や山下ふ頭再開発については、これまで市民の皆様から、観光・観光施設、ビジネス拠点、緑豊かな環境の場等、様々なご意見が寄せられました。この度、内港地区の将来像の検討と山下ふ頭再開発の新たな事業計画の策定に向け、改めて、市民の皆様のご意見を募集します。日本を代表するウォーターフロントの景観を持つ内港地区、三方を平穏な海で囲まれた広大な開港空間・優れた交通利便性など高いポテンシャルを持つ山下ふ頭、各々の立地特性を十分に活かし、横浜の魅力を更に高めていくため、多くの方々のご意見を心よりお待ちしております。(※付属のアンケート形式によらない自由なご意見・アイデアも歓迎いたします。)

横浜市港湾局

- 再開発のイメージ
(海・みたと、国際性など)
 - ふさわしい導入機能
(エンターテインメント機能、水辺・親水機能など)
 - 再開発に取り入れる視点
(持続可能なまちづくり、多様性社会など)
- 択一式アンケート、自由意見

○回答数 3,721件
(うち、自由意見があったもの:1,942件)

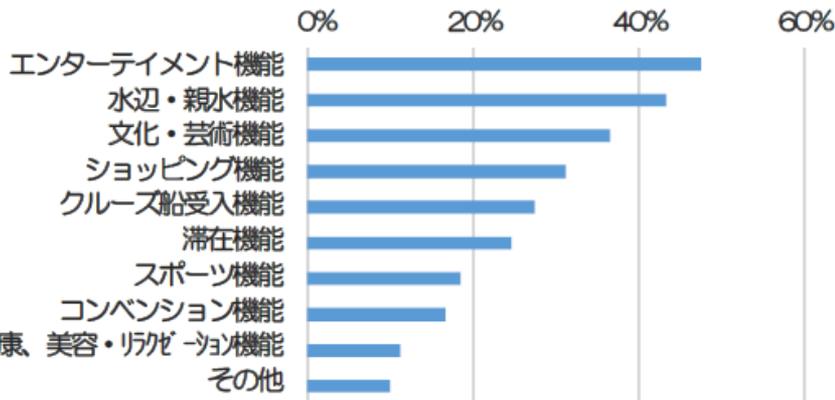
○回答者の年代別割合



第1回 市民意見募集の結果概要 2021(R3)年12月~2022(R4)年6月

○ふさわしい導入機能

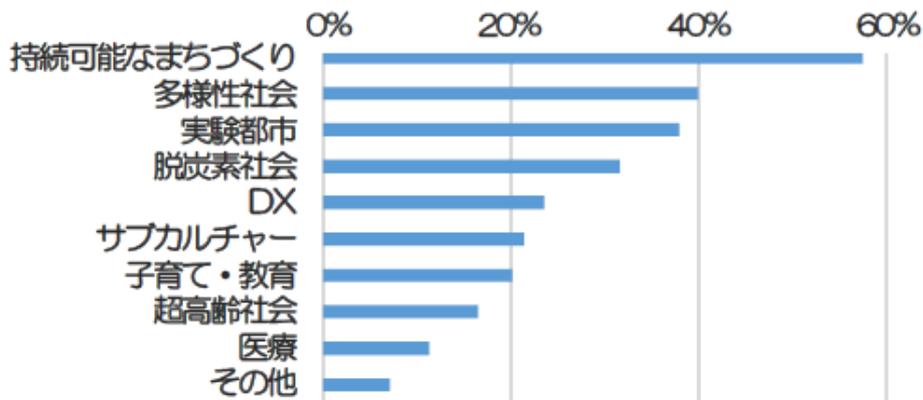
エンターテインメント機能、水辺・親水機能、文化・芸術機能のほか、スタジアム等のスポーツ機能やホテル等の滞在機能を複合的に導入していくとともに、観光・交通の充実、楽しさなどの視点も必要



第1回 市民意見募集の結果概要 2021(R3)年12月~2022(R4)年6月

○再開発に取り入れる視点

持続可能なまちづくり、多様性社会、実験都市といった視点に加え、市民への還元、防災や環境対策の充実、将来を見据えたまちづくり、税収の確保、企業誘致による産学連携などの視点も必要



第1回 意見交換会の結果概要 2022(R4)年5月~6月



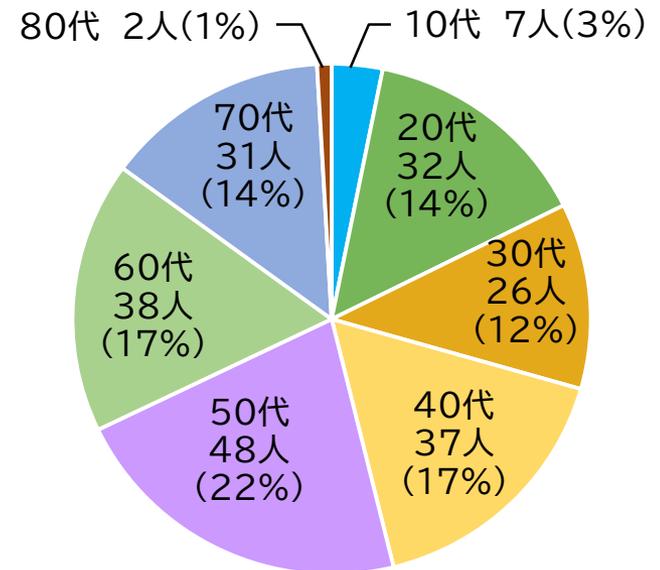
意見交換会の様子

- ・まちづくりのテーマ
- ・ふさわしい導入機能
- ワークショップ

○参加者総数 221人
付箋で出された意見の数 3,120件

| | 開催日 | 場所 | 参加者数 |
|-----|----------|----------|------|
| 第1回 | 5月29日(日) | 市庁舎 | 70人 |
| 第2回 | 6月12日(日) | 泉公会堂 | 34人 |
| 第3回 | 6月18日(土) | 港北公会堂 | 60人 |
| 第4回 | 6月26日(日) | 金沢地区センター | 57人 |

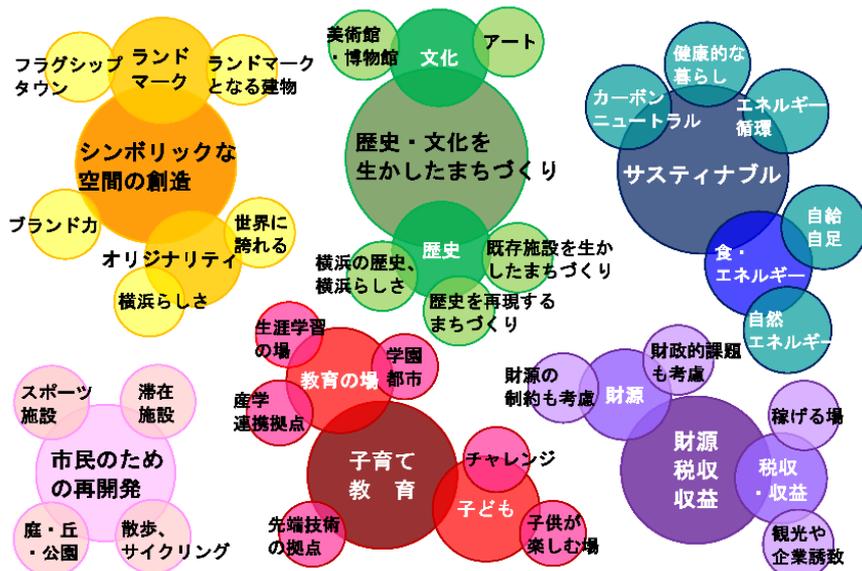
○参加者の年代別割合



第1回 意見交換会の結果概要 2022(R4)年5月~6月

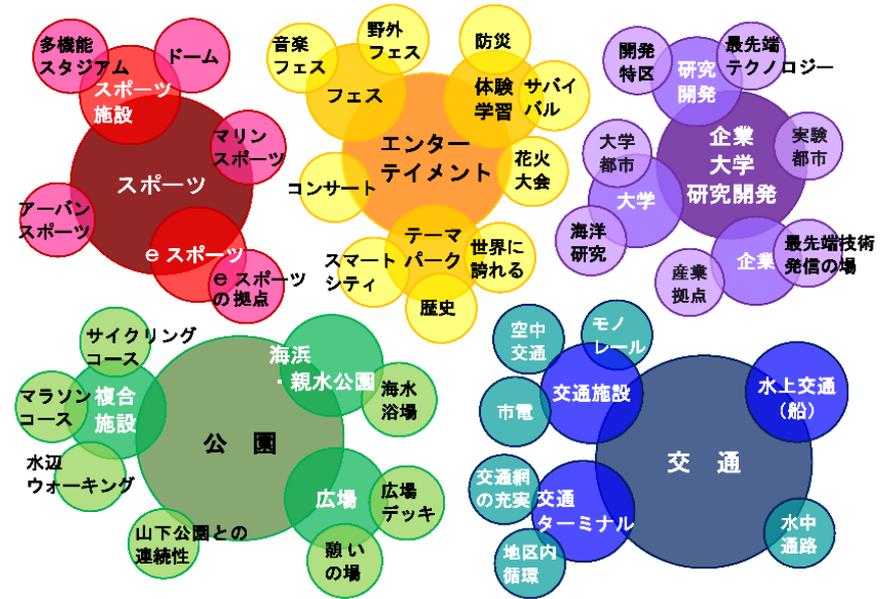
○まちづくりのテーマ

- ・シンボリックな空間の創造と横浜の歴史や文化を生かしたまちづくり
- ・子育て・教育にも配慮した市民のための再開発
- ・税金を意識した環境にも優しいサステイナブルなまち



○導入機能

- ・スポーツ、音楽等を中心とするエンターテインメント施設
- ・最先端技術等を扱う企業・大学・研究開発施設
- ・海を生かした公園と水上交通を含めた充実した交通インフラ



第1回 事業者提案募集の結果概要 2021(R3)年12月～2022(R4)年6月

企業・大学等のイノベーション施設を中心とした提案

【開発コンセプト】 Civic Campus City

【導入施設】

キャンパス型オフィス 93万㎡ グローバル企業、研究機関、大学等

中長期型滞在施設 16万㎡ サービスアパートメント、スポーツ・医療ツーリズム、研修施設、研究者用滞在施設等

複合集客施設 6万㎡ ホール・シアター、ミュージアム、フードホール、エンターテインメント施設

リゾート型滞在施設 5万㎡ (200室～300室)

賑わい施設 4万㎡ 商業、飲食等

大規模集客施設を中心とした提案

【開発コンセプト】 夢・希望・期待・楽しさを抱ける場所

【導入施設】

国際展示場 25万㎡

コンサート・イベント会場 (7～8万人収容)

SDGsエネルギー施設

その他施設 次世代中長期滞在型宿泊施設 (7,000～10,000室)、

植物工場・生鮮食料品市場・レストラン、給食センター、F1、医療防災拠点、教育施設

【開発コンセプト】 周辺市街地の魅力向上を目指したFUSION ISLAND

【導入施設】

マルチアリーナ 12万㎡ スポーツ、コンサート、コンベンション等

ホテル 28万㎡ (3,500室)、商業施設等 13万㎡、展示場・会議室 10万㎡、客船ターミナル 1万㎡、

エネルギー施設 1万㎡、歩行者デッキ 14万㎡

第1回 事業者提案募集の結果概要 2021(R3)年12月~2022(R4)年6月

緑を中心とした提案

【開発コンセプト】 世界一の環境港湾都市 山下山~緑の山をつくる

【導入施設】

緑 28万㎡、水素発電・浄化システム 7万㎡、滞在・研修施設 9万㎡、運動・健康施設 4万㎡、
水際線プロムナード 3万㎡、客船ターミナル 5万㎡、生態館 2万㎡

【開発コンセプト】 スマート・グリーンシティ型開発

【導入施設】(検討例)

エンターテイメント施設 海上一体型半屋外シアター、水上ステージ、全天候型プール等、
フードマーケット

文化芸術施設 メディア芸術(デジタルアート)、グローバル拠点施設

研究施設 海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター

開発に関する主なご意見等

- ・埠頭内だけでなく、**周辺地区の開発促進**や**アクセス強化**も必要である。
- ・**段階的な開発**の考え方も導入する必要がある。
- ・整備における**公民の役割分担**の協議や**行政による支援**をお願いしたい。

第2回 市民意見募集等を実施した理由

○前回の市民意見募集では「市民意見を反映し、その結果を踏まえて、広く事業者から提案募集をするべき」とのご意見を多くいただいた



事業者提案募集の実施

○市民や事業者の皆様からいただいたご意見やご提案を踏まえて、より具体的な再開発のイメージや導入機能などを伺う



市民意見募集や意見交換会の実施

第2回 市民意見募集の結果概要 2022(R4)年11月~2023(R5)年2月

山下ふ頭の再開発 についてご意見を 募集します

—募集期間—
令和4年11月22日(火)~
5年2月28日(火)



新たな事業計画策定に向けて、
横浜市民の方をはじめ、
市外在住の方や
企業・団体等の皆様も
ご意見をお聞かせください

前回の市民意見募集では、「市民意見を反映し、その結果(地元経済活性化、雇われ創出などの視点・機能等)を踏まえて、広く民間から提案募集をするべき」とご意見を多くいただきました。そこで、市民意見募集等の結果を踏まえ、改めて横浜市内の法人(企業・団体等)の皆様から新たな提案の募集を行います。

一方、市民の皆様からも、既にいただいた市民意見や企業・団体等からの提案を踏まえて、より具体的な再開発のイメージや導入機能などを伺うため、改めて市民意見募集や意見交換会を行います。

いただいたご意見やご提案は、今後の計画の検討に活用していきます。

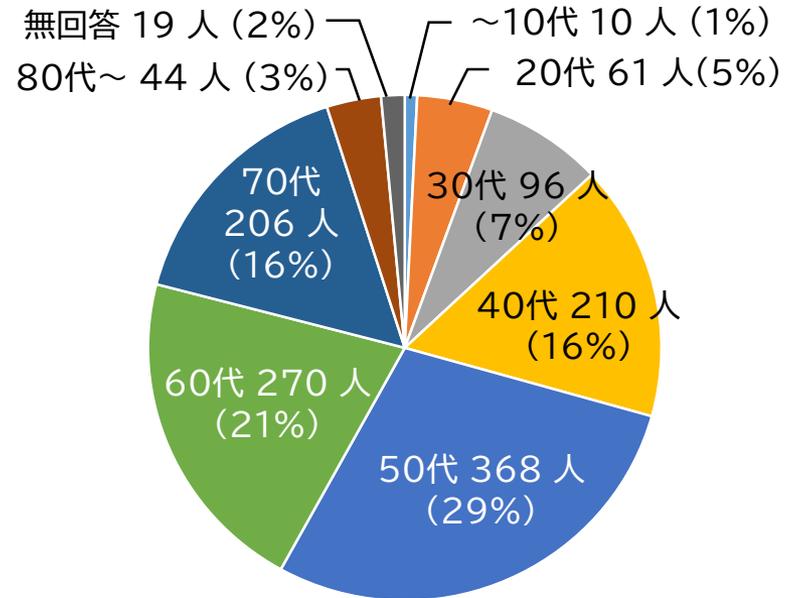
横浜市港湾局

第1回の結果を踏まえ、より具体的な

- ・再開発のイメージ
- ・導入機能

→ 自由意見

○回答者の年代別割合

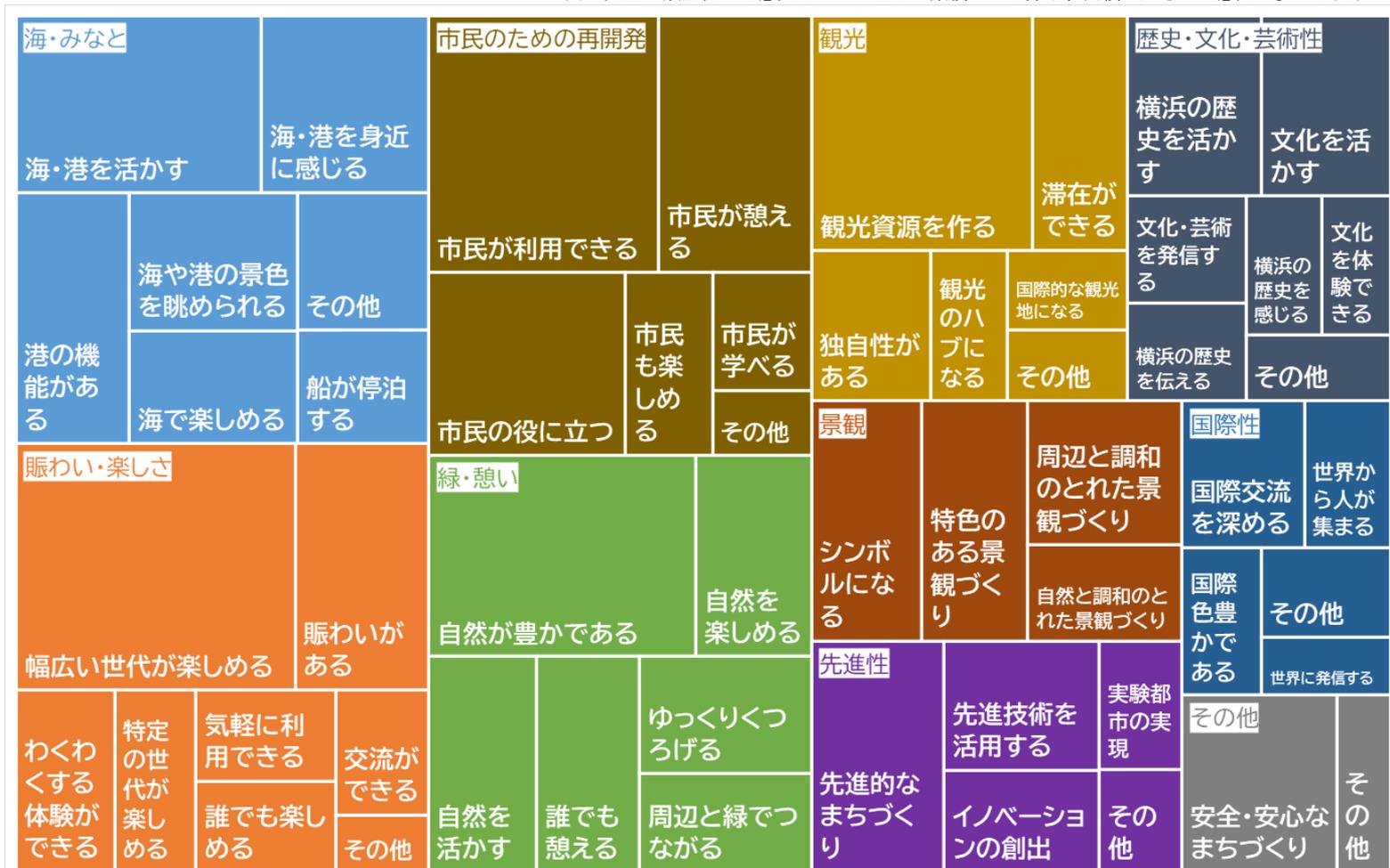


○回答数 1,284件

第2回 市民意見募集の結果概要 2022(R4)年11月~2023(R5)年2月

○再開発のイメージ

※図の見方：類型化した意見をテーマごとに集積して色分け、面積の大きさは意見の多さを表す

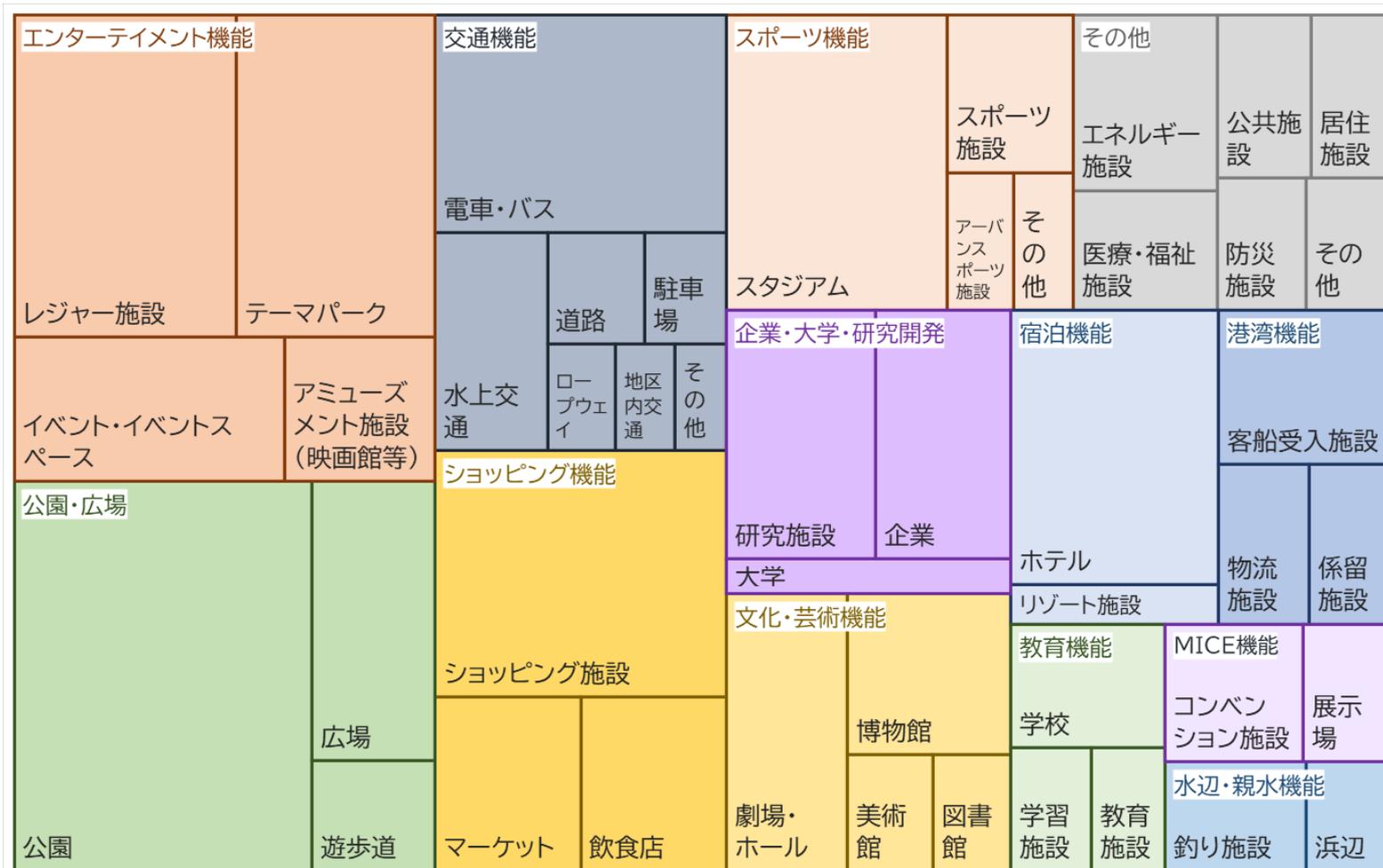


「幅広い世代が楽しめる」「市民が利用できる」「自然が豊かである」「観光資源を作る」「海・港を活かす」等の意見が多い

第2回 市民意見募集の結果概要 2022(R4)年11月~2023(R5)年2月

○導入機能

※図の見方：類型化した意見をテーマごとに集積して色分け、面積の大きさは意見の多さを表す

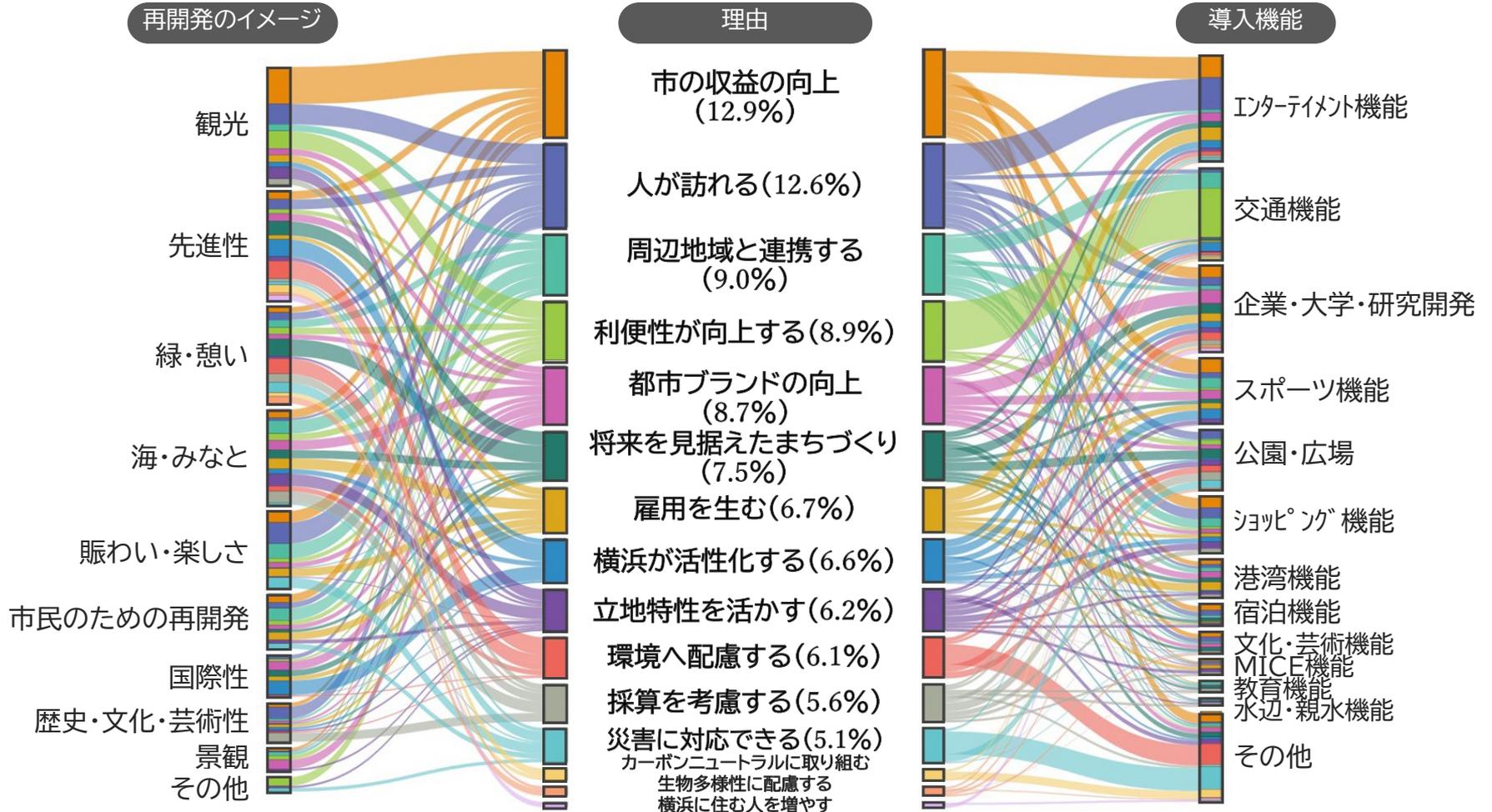


「公園」「レジャー施設」「ショッピング施設」「スタジアム」「テーマパーク」「電車・バス」「ホテル」等の意見が多い

第2回 市民意見募集の結果概要 2022(R4)年11月~2023(R5)年2月

○再開発のイメージ及び導入機能を提案した理由

※理由に関する記載があった意見のみを集計



「市の収益の向上」「人が訪れる」「周辺地域と連携する」「利便性が向上する」「都市ブランドの向上」「将来を見据えたまちづくり」などが提案の大きな理由となっている

第2回 意見交換会の結果概要 2022(R4)年12月~2023(R5)年2月



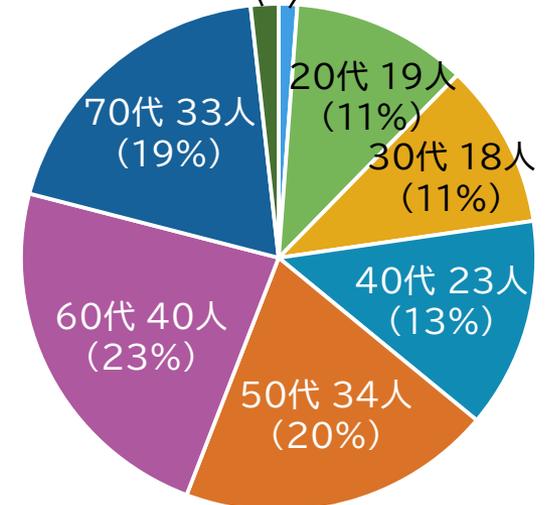
意見交換会の様子

第1回の結果を踏まえ、
より具体的な再開発のイメージや
導入機能などについて
→ ワークショップ

○参加者総数 172人
付箋で出された意見の数 2,555件

○参加者の年代別割合

80代 3人 (2%) 10代 2人 (1%)

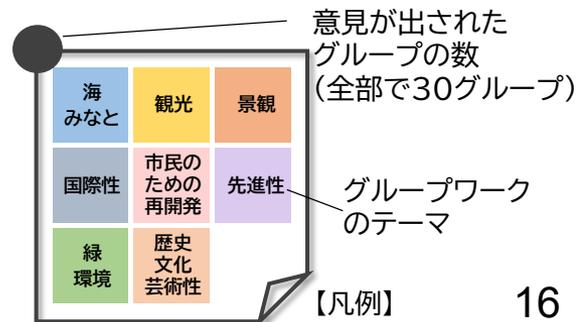


| | 開催日 | 場所 | 参加者数 |
|-----|-----------|--------------|------|
| 第1回 | 12月17日(土) | 市庁舎 | 44人 |
| 第2回 | 1月14日(土) | 横浜市庁舎 | 38人 |
| 第3回 | 1月21日(土) | 山内地区センター | 21人 |
| 第4回 | 1月28日(土) | 神奈川県労働文化センター | 26人 |
| 第5回 | 2月5日(日) | 市庁舎 | 43人 |

○再開発のイメージ

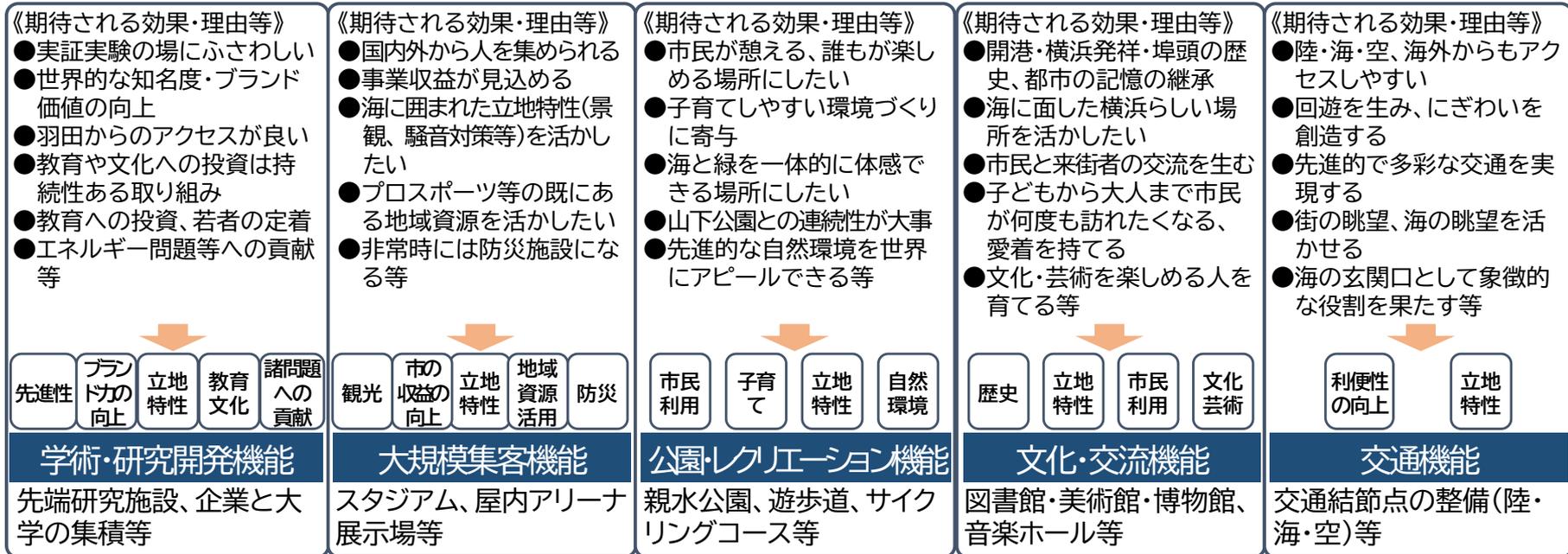


「市の収益の向上」「横浜ブランドを創る・高める」「市民が楽しめる・利用できる」等が多くのグループから出された



第2回 意見交換会の結果概要 2022(R4)年12月～2023(R5)年2月

○導入機能



先進性やブランド力の向上等を期待して「**学術・研究開発機能**」、観光や市の収益の向上等を期待して「**大規模集客機能**」、市民利用や子育て等の視点から「**公園・レクリエーション機能**」、歴史等の視点から「**文化・交流機能**」、利便性の向上等を期待して「**交通機能**」が出された

第2回 事業者提案募集の結果概要 2022(R4)年11月~2023(R5)年2月

スポーツ・コンサート等のエンターテインメント施設を中心とした提案

【開発コンセプト】 環境と共生する『世界基準の遊び』を創造

【導入施設】

発信する11万㎡(アリーナ・半屋外ステージ、美術館、商業施設等)、
学ぶ7.5万㎡(大学、専門学校、産学連携施設等)、創る7万㎡(制作スタジオ・アトリエ、研究開発等)、
宿泊17.9万㎡(ホテル、コンベンションホール等)

【開発コンセプト】 横浜文化発、世界の若者の成長拠点

【導入施設】

文化2万㎡、スポーツ拠点、エンターテインメント・コンベンション機能5万㎡、
ホテル・滞在(若者のみ)施設・教育・ショッピング・行政・医療等日常利用施設10万㎡、
レストラン・ギャラリー・休憩・映画・トイレ0.3万㎡

【開発コンセプト】 周辺市街地の魅力向上を目指したFUSION ISLAND

【導入施設】

スポーツ、コンサート、コンベンション等マルチアリーナ12万㎡、オフィス施設10万㎡、
ホテル24.5万㎡(3,200室)、商業施設9万㎡、展示場・会議室10万㎡、
滞在型研修施設2.5万㎡、客船ターミナル1万㎡、エネルギー施設1.4万㎡

【開発コンセプト】 海と風のヨコハマ・エンターテインメント・タウン「YET」

【導入施設】

横浜デザインミュージアム(企画展、海外施設の巡回展)、県内外の大学の研究施設の誘致、
MICE、ワールドカップ(インドアスポーツ、食)、
エンターテインメント(大小コンサート、食)、ホテル10,000室

第2回 事業者提案募集の結果概要 2022(R4)年11月~2023(R5)年2月

体験型テーマパークを中心とした提案

【開発コンセプト】 BAY CRUISE YOKOHAMA

【導入施設】

世界最大の陸上クルーズ船(様々な客室、国内外文化体験、イベント)、
日本全国アンテナショップ(アンテナショップ)、
日本最大の文化体験スタジオ(ダンス・イノベーション・e-sports等)、スペースクルーズ(宇宙旅行模擬体験)

【開発コンセプト】 SPACEPORT“YOKOHAMA”

【導入施設】

アミューズメント施設、展示館(月面基地、アルテミス計画、火星移住計画、体験広場)、ハード展示館(体験広場)、
インターネット配信サービス(NASA制作の映像配信、教育)、スペースショップ・レストラン

国際展示場等の施設を中心とした提案

【開発コンセプト】 夢・希望・期待・楽しさを抱ける場所

【導入施設】

国際展示場25万㎡、コンサート・イベント会場(7~8万人収容)、SDGs・水素エネルギー施設、
その他施設(次世代中長期滞在型宿泊施設(7,000~10,000室)、
植物工場・生鮮食料品市場・レストラン、給食センター、F1、医療防災拠点、教育施設)

【開発コンセプト】 Yokohama WaterRing - Ship

【導入施設】

国際展示場25万㎡、野外展示場、多目的ホール(コンサート・スポーツイベント会場)、
エネルギーセンター、ホテル

これまでに市民の皆様からいただいたご意見のまとめ

これまでの市民意見募集・意見交換会で いただいたご意見をまとめました

市民が主体

市**の**収益をしっかりと確保！

山下ふ頭は都心臨海部に残された希少な空間。
収益をしっかりと確保することで身近な市民サービスの充実を！



SERVICE!

市民が**楽**しみ、利用できる**よ**うに！

子どもも働く世代も高齢者の方も。
市民の誰もが笑顔になれるまちに！



SMILE!

子育て・教育につ**な**がる**ま**ちに！

親子で過ごせる、自由に遊べる、
体験を通して学べる、・・・。
子育てや教育の視点も取り入れた再開発に！



PLAY! LEARN!

港ヨコハマの象徴

横浜**ブ**ランドを創る・高**め**る！

先進的でここにしかないもの、
市民が誇れるもの、・・・。
世界から注目される横浜、住みたくなる横浜
であることが重要！



BRANDING!

いろいろな人が**訪**れる**ま**ち！

にぎわいが生まれる、交流できる、
文化が育つ、・・・。
市民も観光客も日本人も外国人も
訪れるまちに！



WELCOME!

周辺**地**域と連**携**を！

横浜を代表する観光スポットに
囲まれた山下ふ頭。
再開発が起爆剤となって
地域全体の魅力がアップするように！



ENJOY!

山下ふ頭の持つ**特**性を**活**かす！

三方を海で囲まれた立地、埠頭特有の形状、
港の歴史や文化、・・・。
再開発に活かせる特性が
山下ふ頭にはたくさんある！



CULTURE!

交通機能の充**実**で**利**便性の**向**上を！

訪れやすくなる、
周辺への回遊性を生む、・・・。
山下ふ頭へ陸や海などからの
アクセスを良くすることが必要！



Go! Go!

港町ヨコハマらしい**景**観**づ**くり！

新たなシンボル、周辺と調和した街並み、・・・。
山下ふ頭が横浜の景観の
一部になる！みなとみらい、
ベイブリッジ、船、そんな風景が
楽しめる場所もあるといい！



BAYVIEW!

持続的**な**まち

持続**可**能なまち**づ**くりで**次**世代**につ**なげる！

50年後、100年後まで
夢や希望が溢れる。
次世代の子どもたちにイイね！と
言ってもらえる再開発に！



FUTURE!

海や**緑**などの自然が**感**じられる**ま**ちに！

豊かな緑の中で、海風を感じながら、
ゆっくりくつろげる。
そんな空間があってほしい！



RELAX!

防**災**や**環**境**対**策も**し**っかり！

いざという時は防災拠点になったり、
カーボンニュートラルや生物多様性など、
先進的な環境の取組があるといい！



SAFE!

山下ふ頭再開発検討委員会ファクトシート
【基礎資料編】 横浜市の現状について



ファクトシート【基礎資料編】 ～横浜市の現状について～

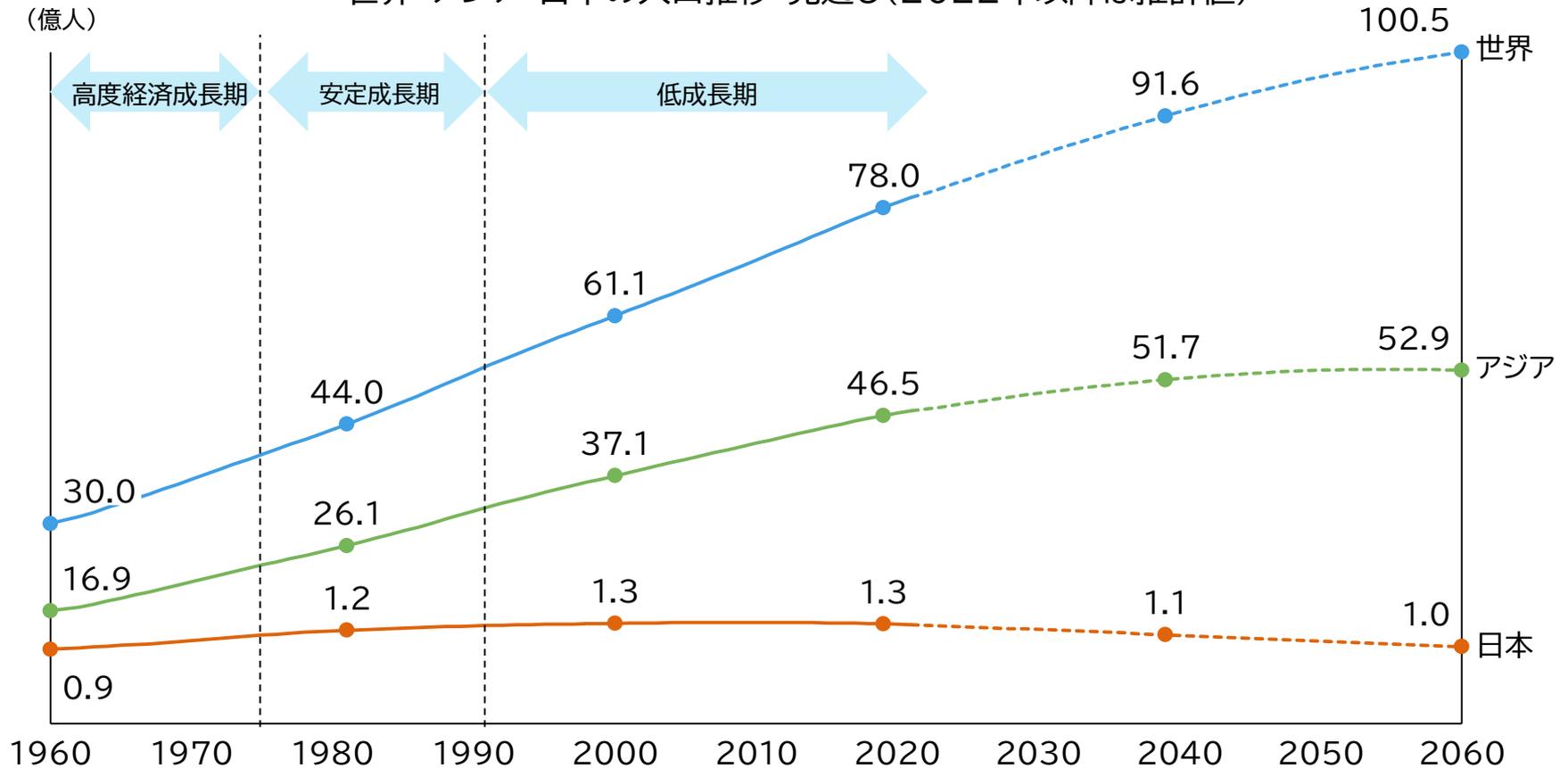
- 1 人口動態
- 2 財政状況
- 3 経済状況
- 4 観光実績
- 5 交通ネットワーク

1. 人口動態

世界、アジアの人口動向

- 世界の人口は、増加傾向にあり、2060年には100億人規模に達する見込み
- アジアの人口も増加傾向で推移する一方で、日本の人口は減少が見込まれる。

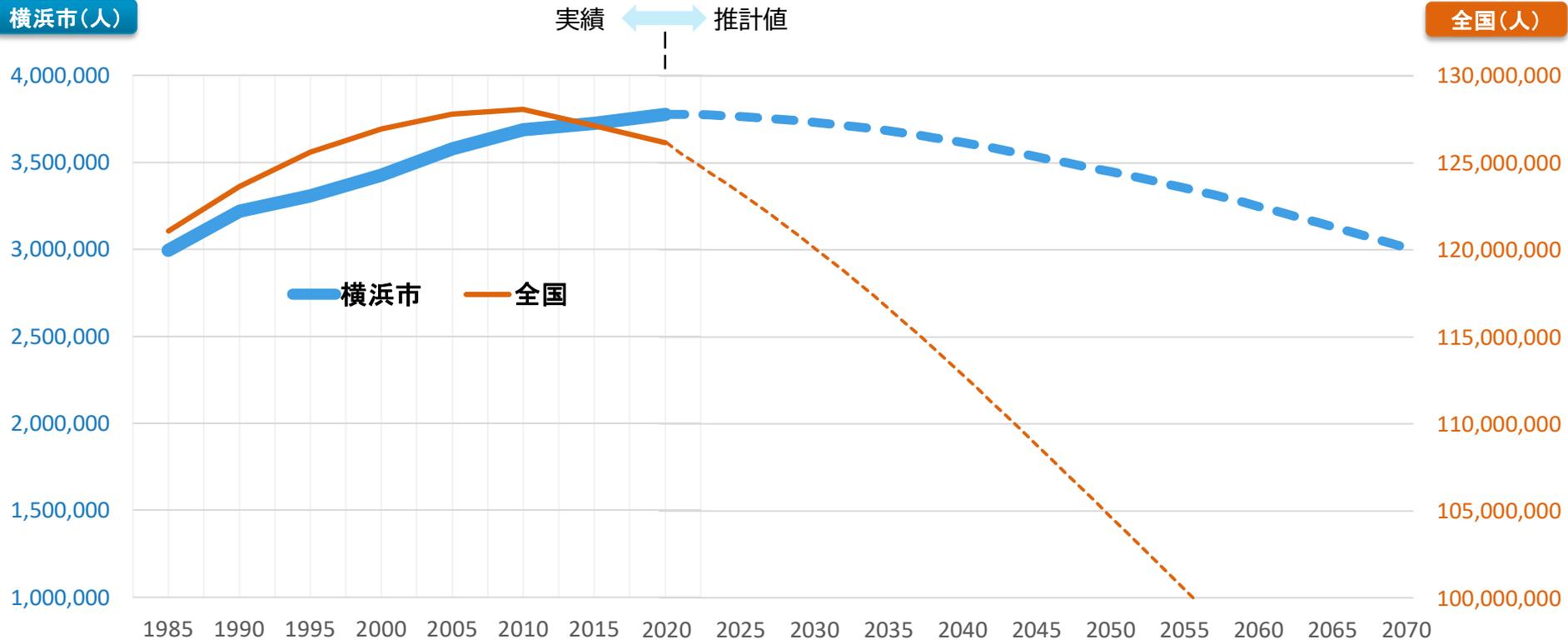
世界・アジア・日本の人口推移・見通し(2022年以降は推計値)



1. 人口動態

人口減少社会の到来、超高齢社会の進展

- 横浜市は2021年に377万9千人(2023年度将来人口推計)でピークを迎え、その後減少。全国と比べピークは遅く減少カーブも緩やかとなる見込み



1985～2020年は、国勢調査

2021年以降は、横浜市は「横浜市の将来人口推計」、全国は「日本の将来推計人口(令和5年推計)」

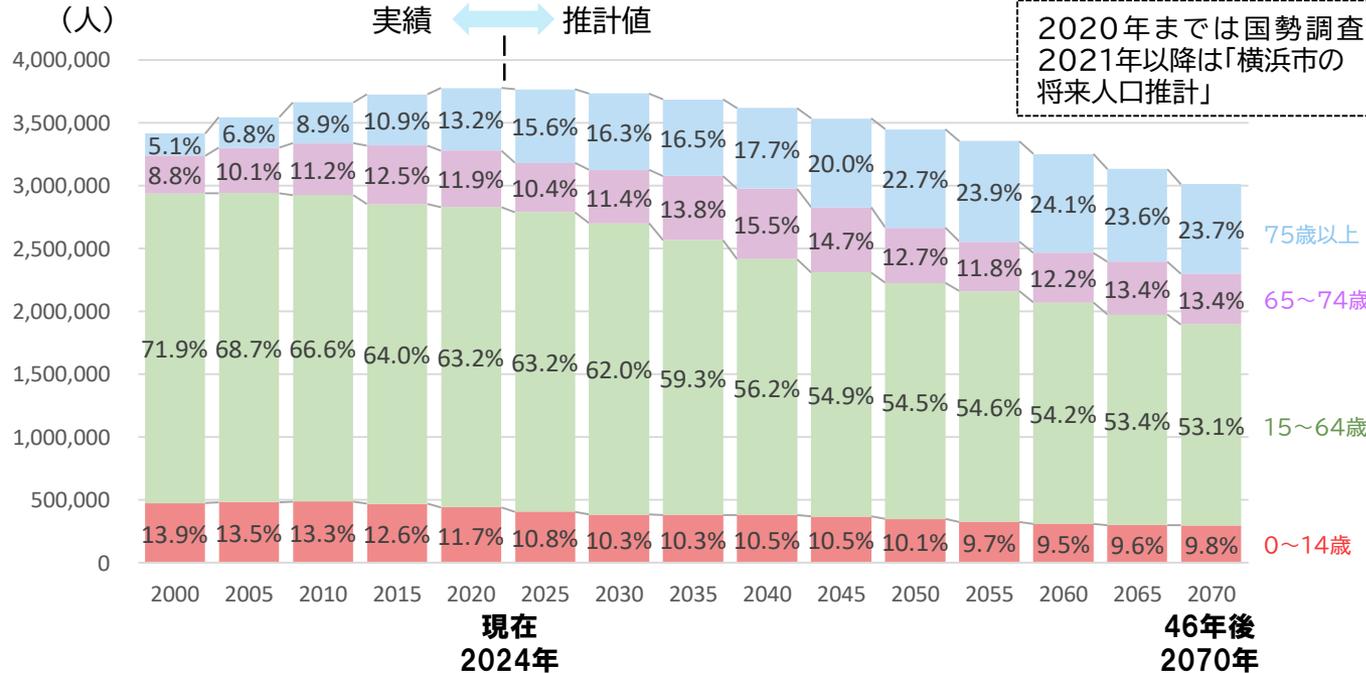
横浜市将来人口推計(2023年度)に2020年国勢調査数値を簡易に反映した見通し

1. 人口動態

横浜市の人口減少、超高齢化の進展

- 年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)は減少が続く。
- 高齢化率は2020年の25.1%から増加し、2045年には34.7%、2070年は37.1%となる見込み

< 横浜市の年齢4区分別人口の推移 >



経済活力
の低下

個人市民税
の減少

社会保障費
は増加



出典:横浜市政策局

「令和2年国勢調査 横浜市の概要」
「横浜市の将来人口推計」より作成

1. 人口動態

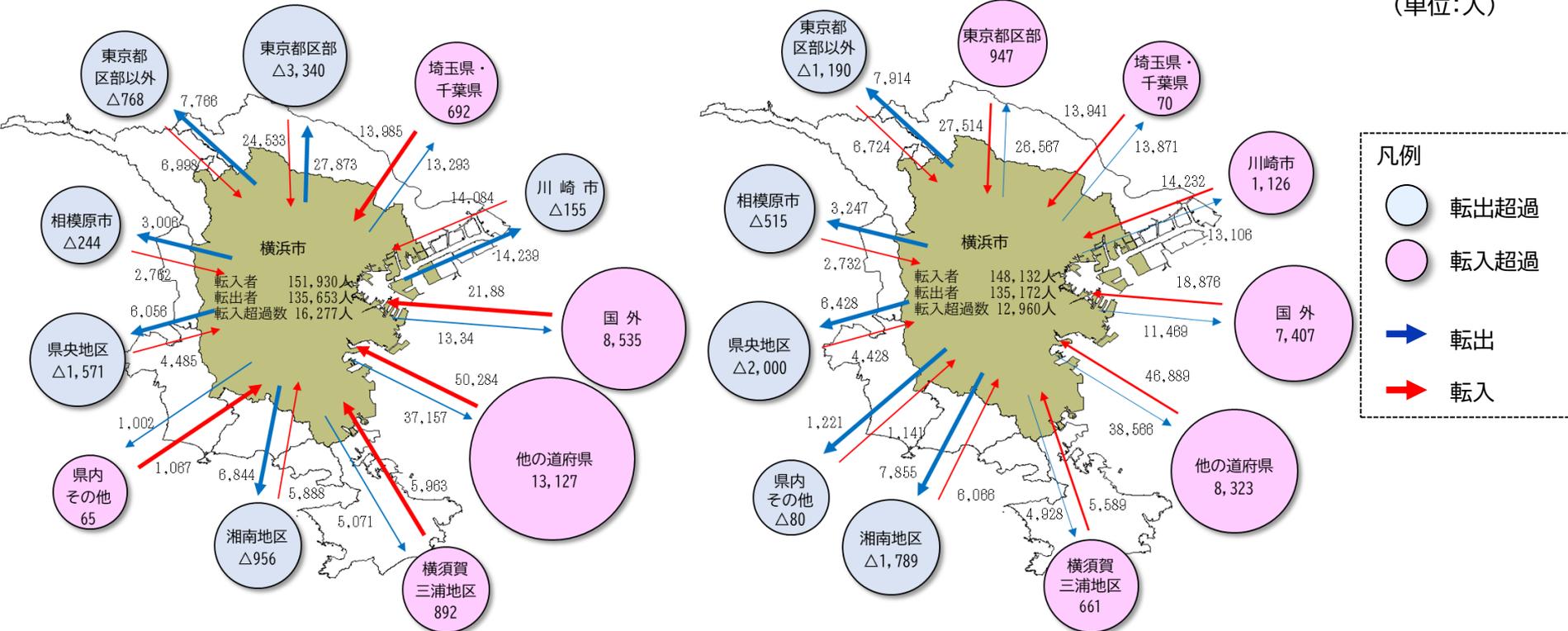
横浜市の人口動態

- 全体としては転入超過となっており、他の道府県や国外等からの転入が多くなっている。
- 東京都区部と川崎市は、コロナ禍前の2019年は転出超過となっているが、2022年は転入超過となっている。

< 2019年(コロナ禍前) >

< 2022年 >

(単位:人)

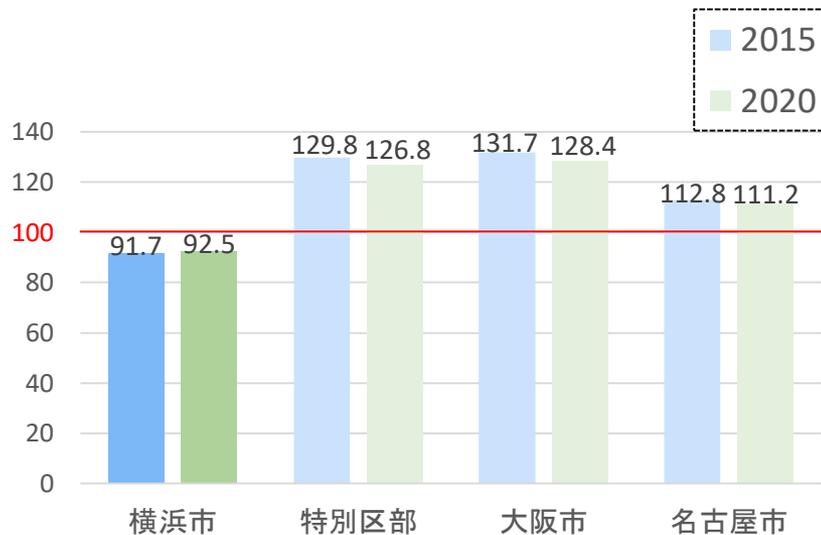


1. 人口動態

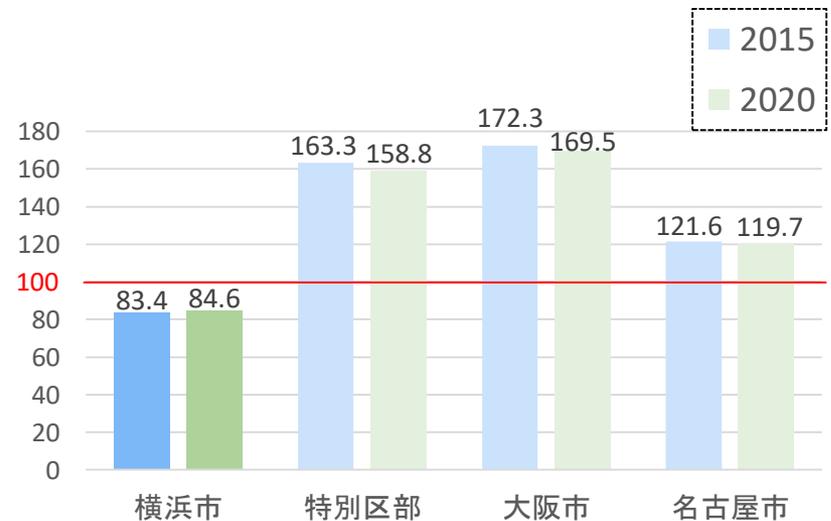
昼夜間人口比率・就従比率

- 東京都特別区部、大阪市、名古屋市と比べると、昼夜間人口比率・就従比率ともに低く、それぞれ100を下回っている。

< 昼夜間人口比率 >



< 就従比率 >



昼夜間人口比率と就従比率は以下の通り算出

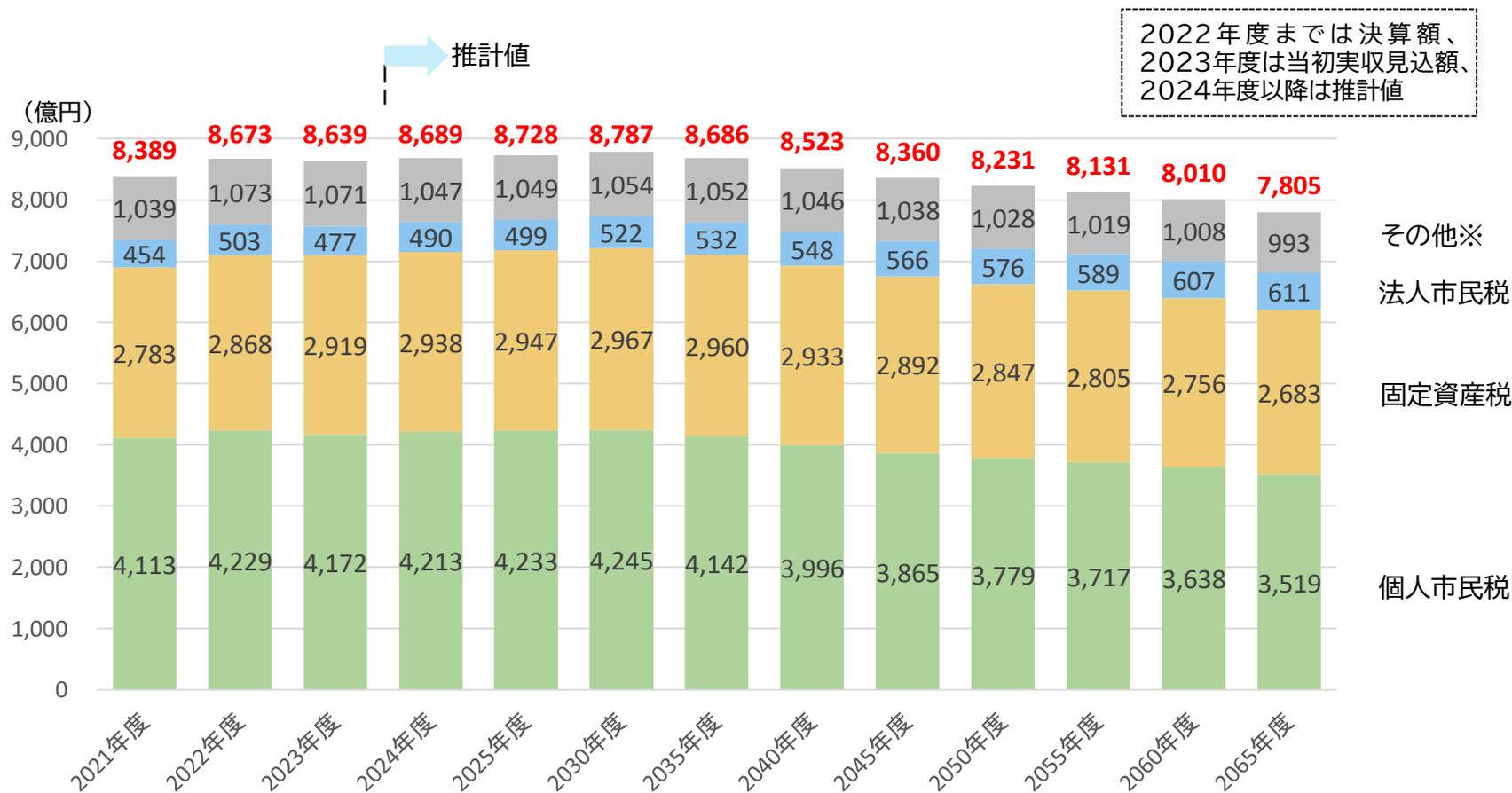
昼夜間人口比率 = (昼間人口 ÷ 夜間人口) × 100 就従比率 = (市内従業者数 ÷ 市民就業者数) × 100

市内従業者は各市内を従業地とする従業者(市外からの通勤者を含む)、市民就業者は各市内が常住地の就業者

2. 財政状況

市税における税目別収入額の推移

○人口減少により個人市民税を中心に市税収入の減少が見込まれる。

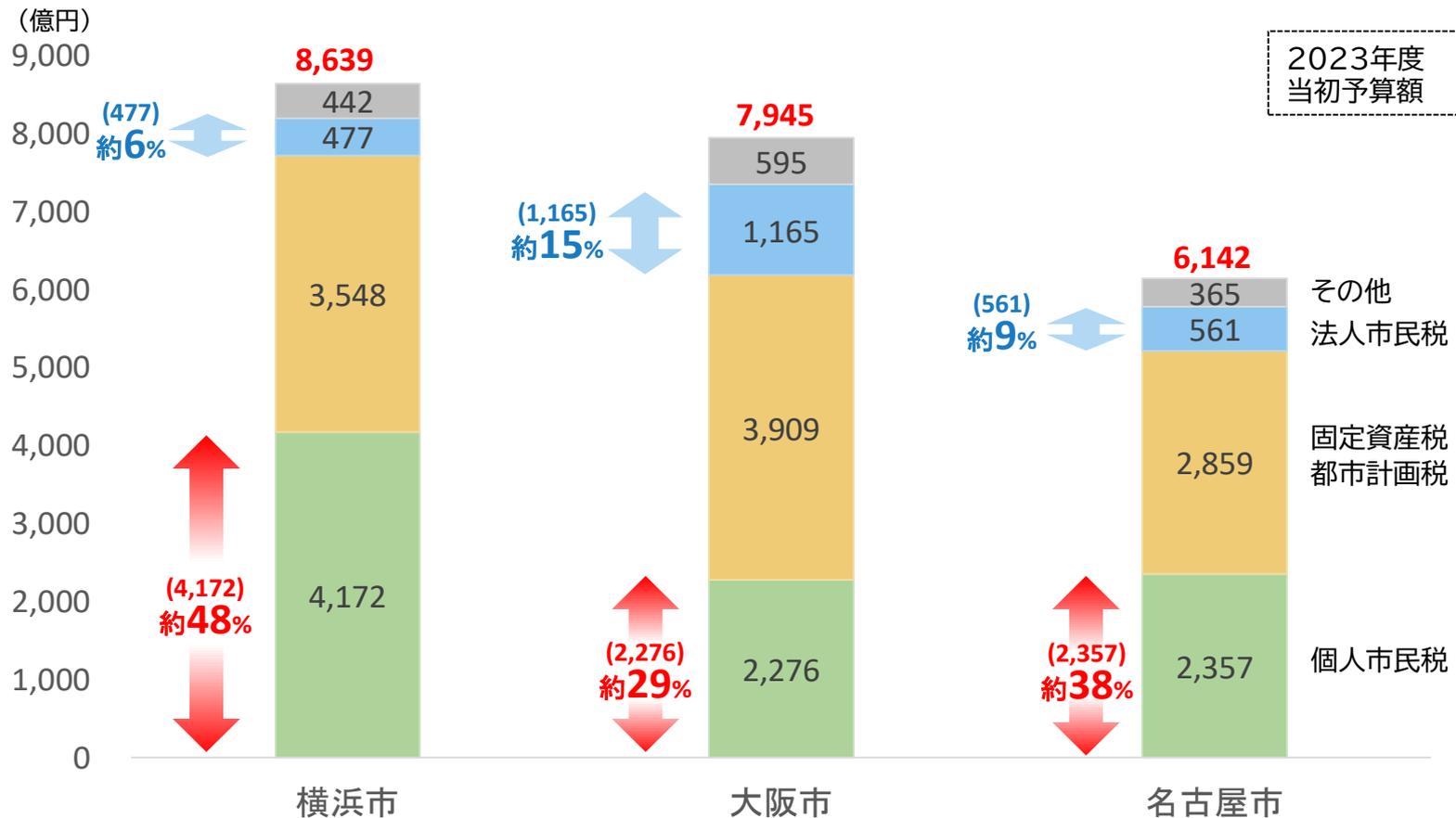


※ その他：都市計画税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、事業所税

2. 財政状況

主な税目別内訳の政令市との比較

○大阪市、名古屋市と比べ、個人市民税の割合が大きく、法人市民税の割合が小さい。

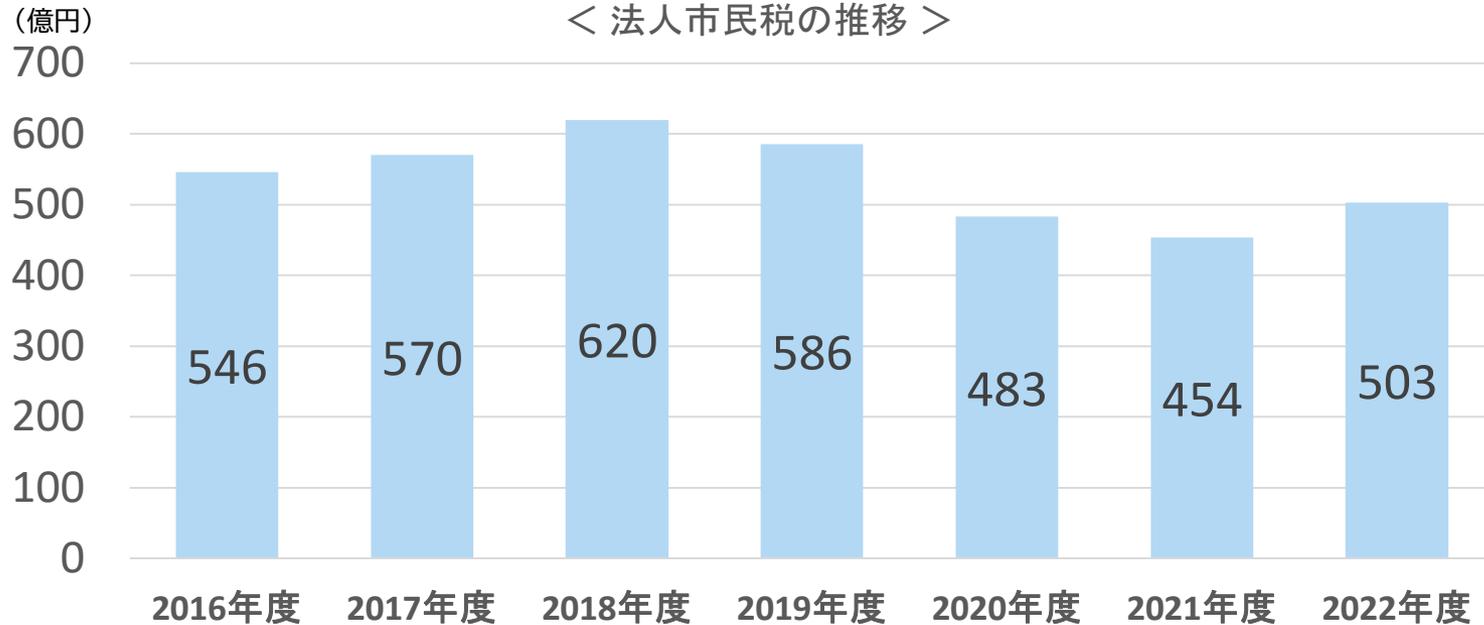


出典:横浜市 財政局「令和5年度予算案について」、大阪市 財政局「令和5年度(2023年度)当初予算(案)について」、
名古屋市 財政局「令和5年度予算の概要」より作成

2. 財政状況

法人市民税の推移と直近の企業誘致

○ 2022年度の法人市民税は企業収益の増などにより増収となっている。



出典:横浜市財政局「令和4年度 一般会計決算の概要」「令和元年度 一般会計決算の概要」より作成

＜ 直近の企業誘致の主な実績(みなとみらい21地区) ＞

2019年

・京セラドキュメント
ソリューションズ
株式会社 ほか

2020年

・ソニー株式会社

ほか

2022年

・LG Japan Lab株式会社
・ヤマハ株式会社

ほか



京セラ株式会社



ソニー株式会社

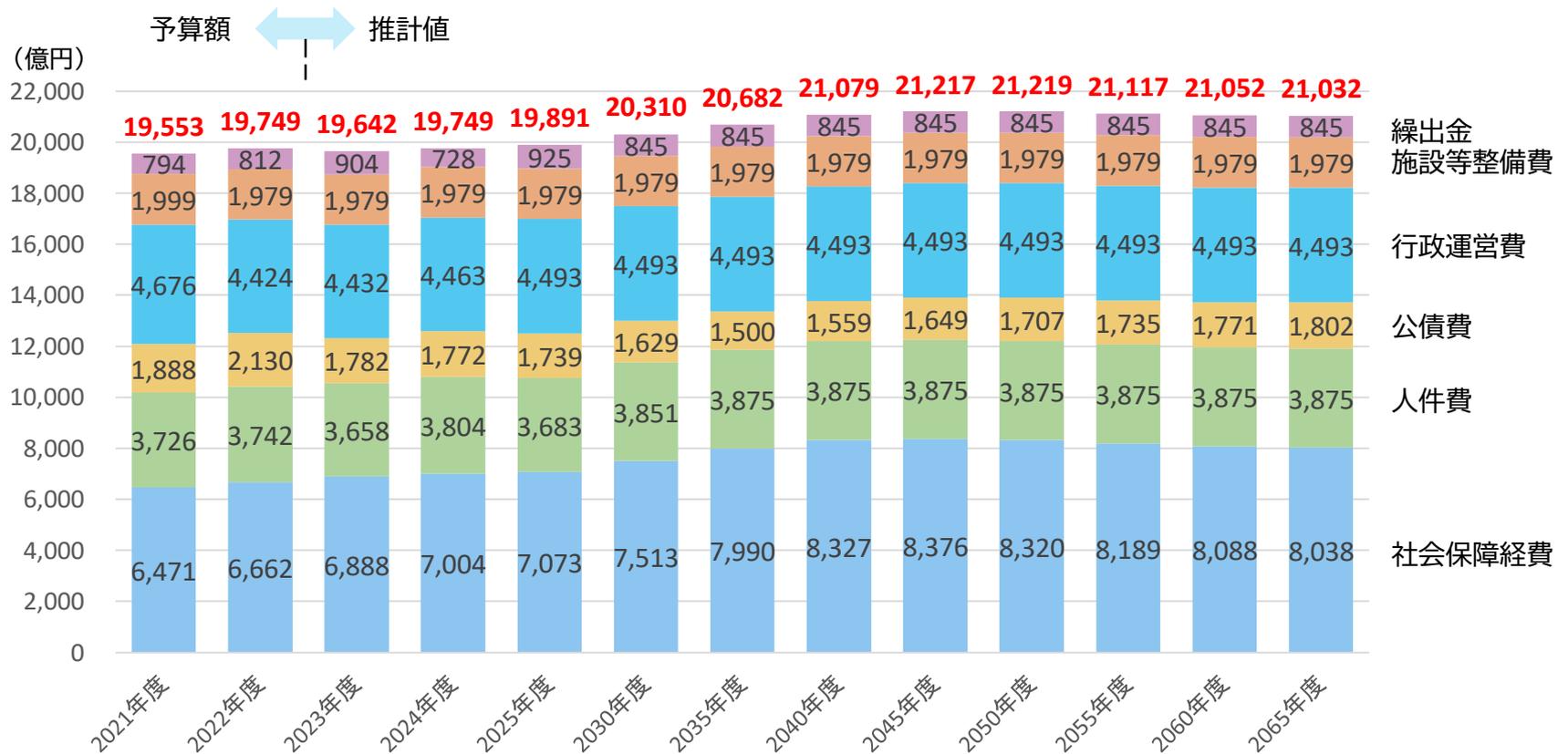


ヤマハ株式会社

2. 財政状況

一般会計歳出予算額(性質別)の推移

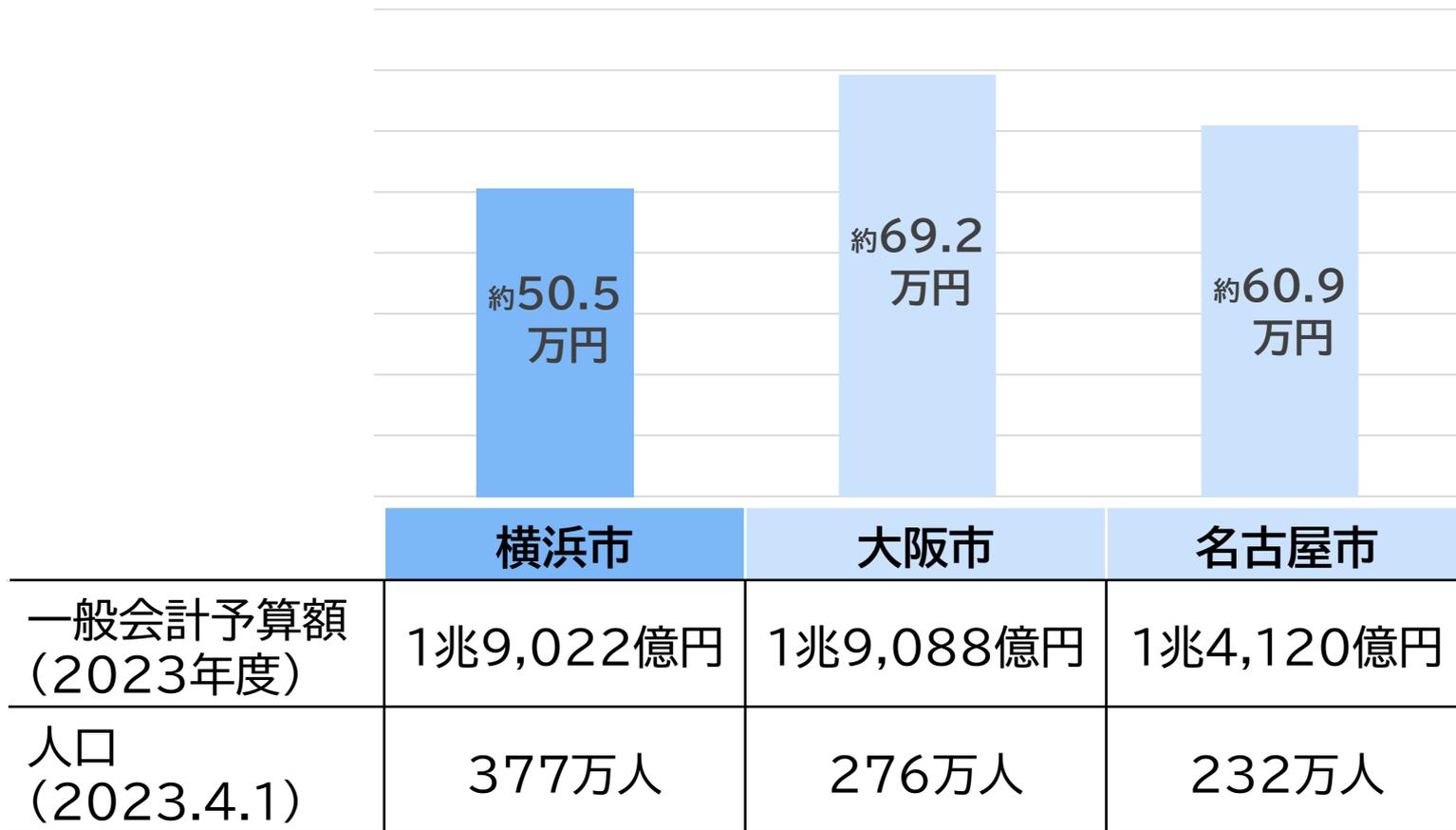
- 社会保障経費は、高齢化の進展とともに、2045年頃にかけて支出が増加する見込み



2. 財政状況

市民一人あたり一般会計予算額の政令市との比較

○ 大阪市、名古屋市と比べ、市民一人あたりの予算額が少ない。



出典:横浜市 財政局「令和5年度予算案について」、政策局「横浜市人口ニュース」

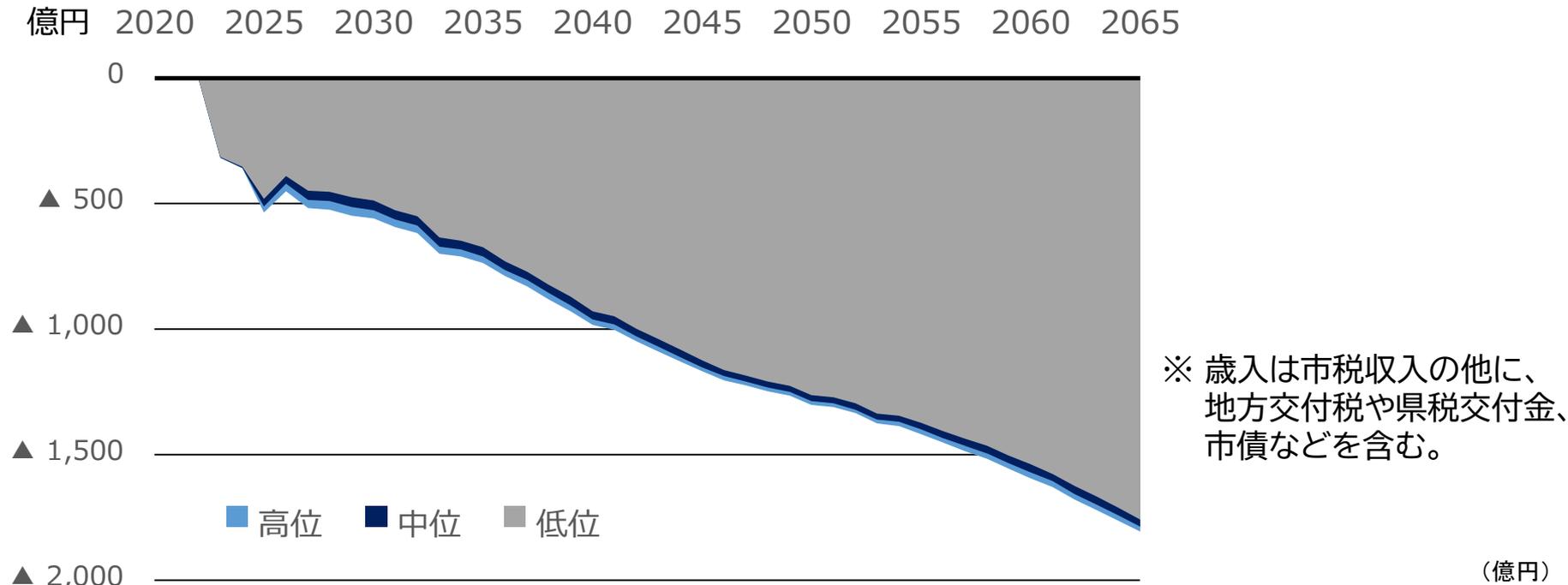
大阪市 財政局「令和5年度予算案について」、計画調整局「大阪市の推計人口」

名古屋市 財政局「令和5年度名古屋市一般会計予算に関する説明書」、総務局「名古屋市の世帯数と人口」より作成

2. 財政状況

将来収支差の見通し

- 高齢化の進展による社会保障経費の増加や人口減少による市税収入の減少により、今後、各年度の収支差が拡大し続ける見込み



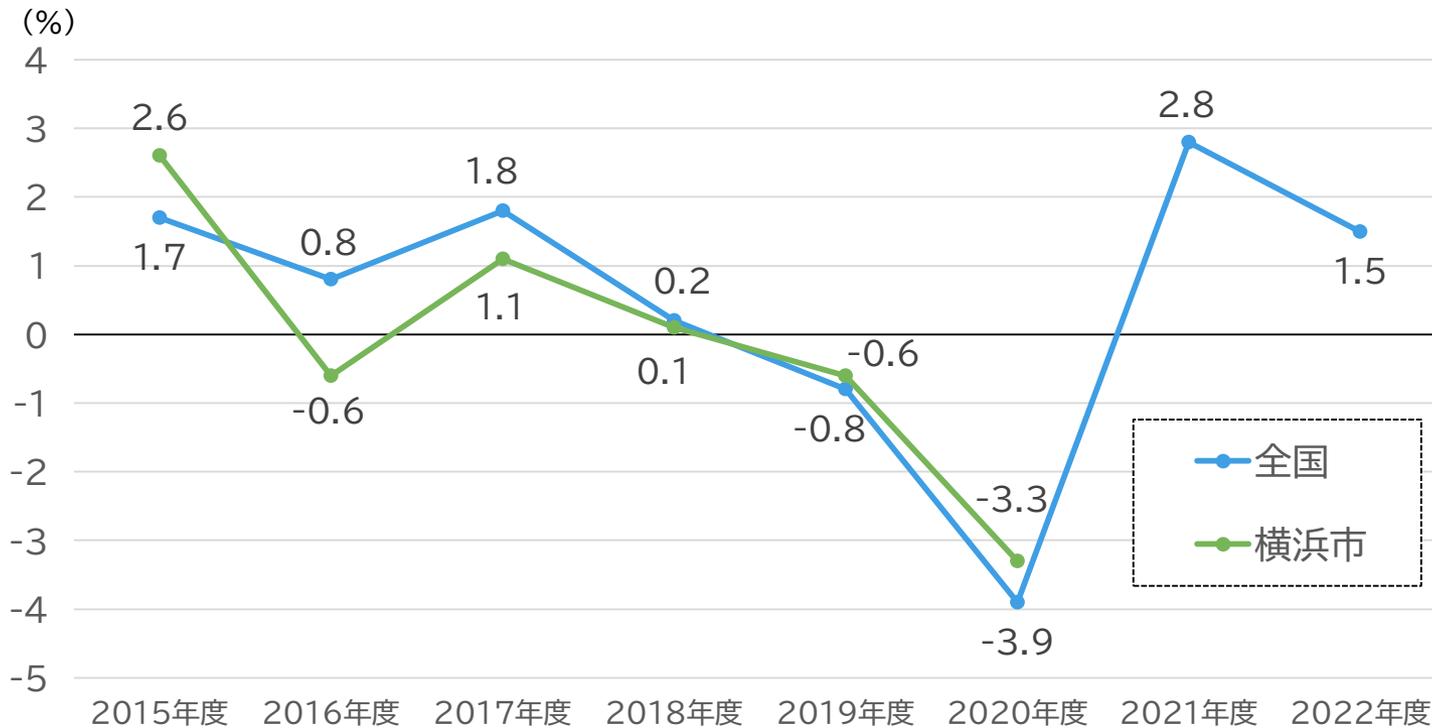
※2020 (R2)、2021 (R3) 年度については
当初予算額を記載

| | 2030年度 | 2040年度 | 2050年度 | 2060年度 | 2065年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 高位 | ▲559 | ▲984 | ▲1,303 | ▲1,594 | ▲1,806 |
| 中位 | ▲526 | ▲962 | ▲1,288 | ▲1,571 | ▲1,788 |
| 低位 | ▲487 | ▲929 | ▲1,264 | ▲1,539 | ▲1,759 |

3. 経済状況

横浜市の経済成長率(実質)

- 全国と概ね同じ動きで推移
- 2020年度の実質経済成長率は-3.3%で、2年連続のマイナス成長

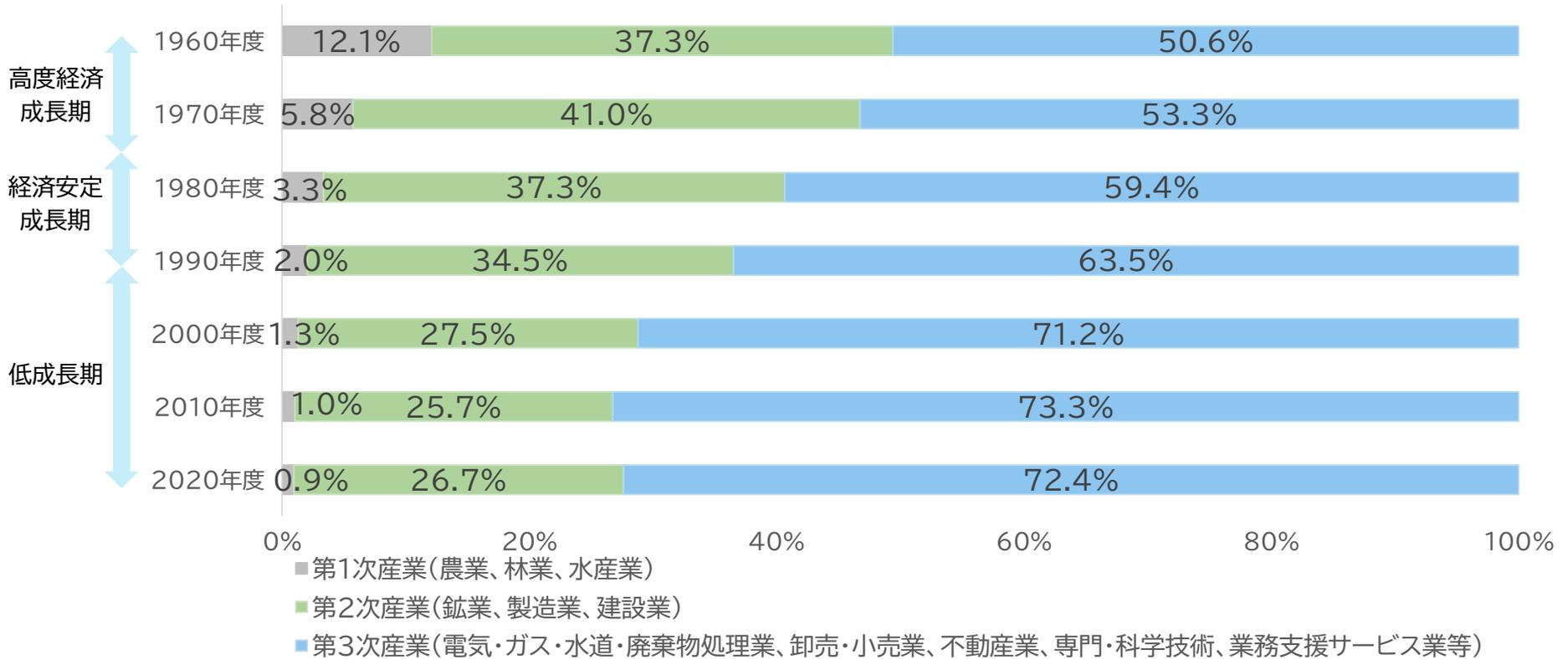


3. 経済状況

日本の産業構造の変化

- 第3次産業全体の締める割合が増加傾向が続き、近年では第1次産業、第2次産業の合計は3割程度

< 経済活動別のGDP構成比 >

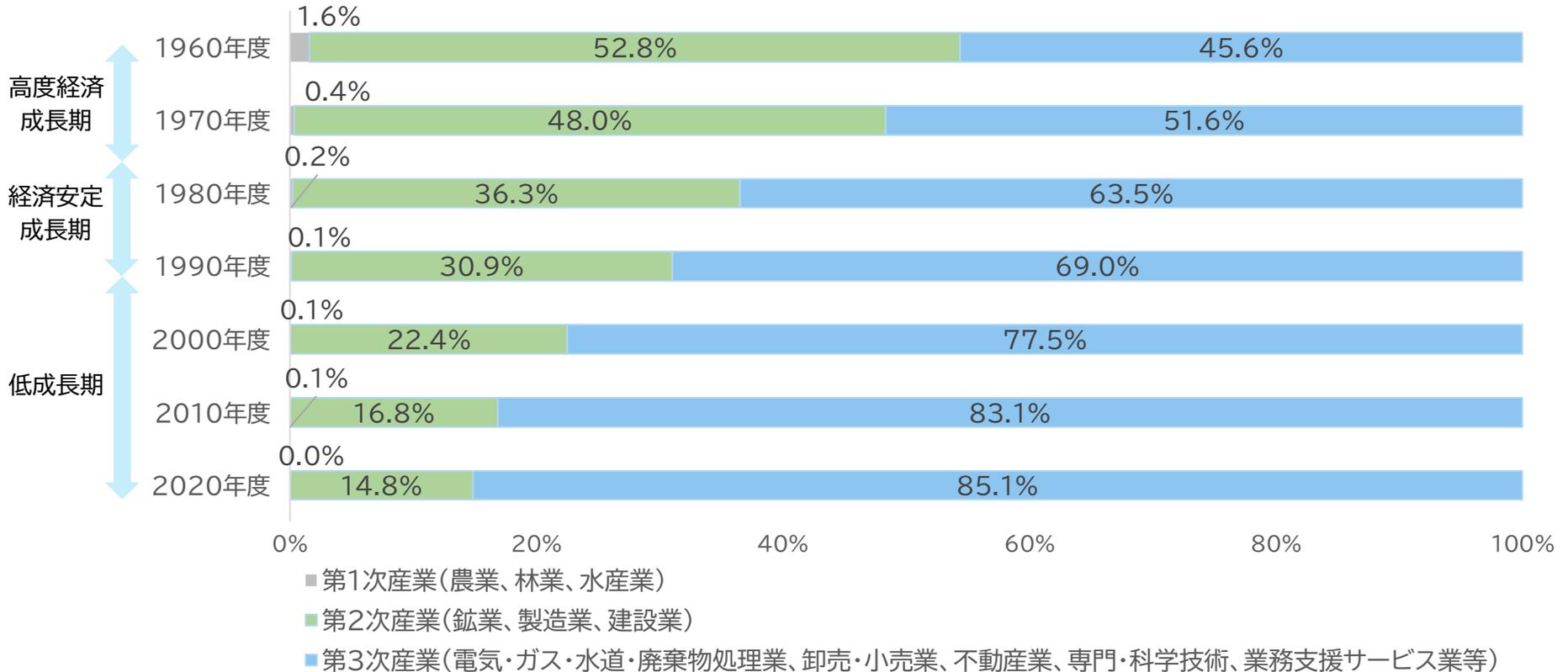


3. 経済状況

横浜経済圏(横浜市)の産業構造の変化

- 第3次産業全体の締める割合が増加傾向が続き、近年では第1次産業、第2次産業の合計は1割5分程度

< 経済活動別のGDP構成比 >



※ 1970年以前は、横浜市統計書の市内純生産(要素費用表示)の値から構成比を算出

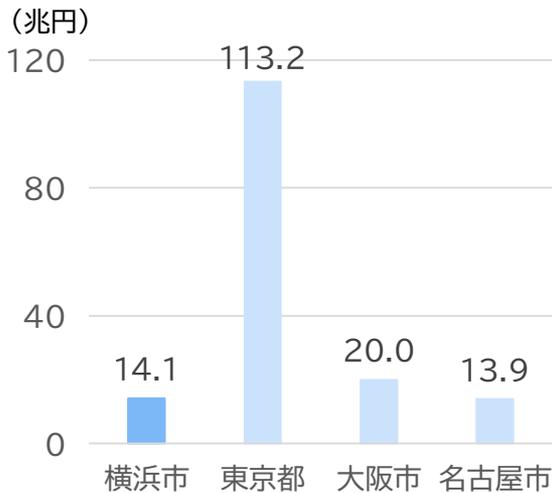
出典:内閣府経済社会総合研究所「経済活動別県内総生産」、横浜市「横浜市統計書」より作成

3. 経済状況

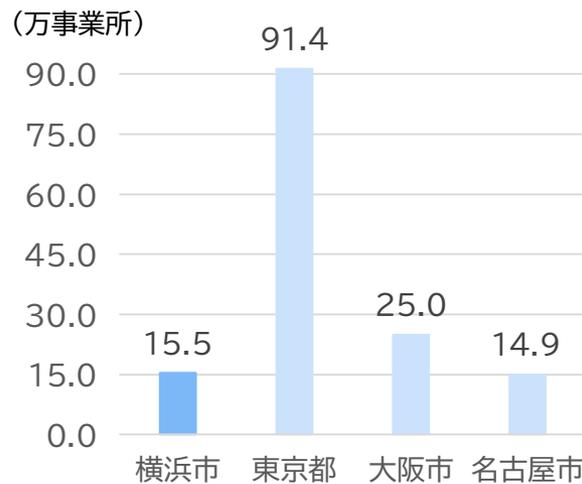
横浜市の経済状況

○ 東京都、大阪市と比べると、市内総生産や事業所数、法人市民税収入において差がある。

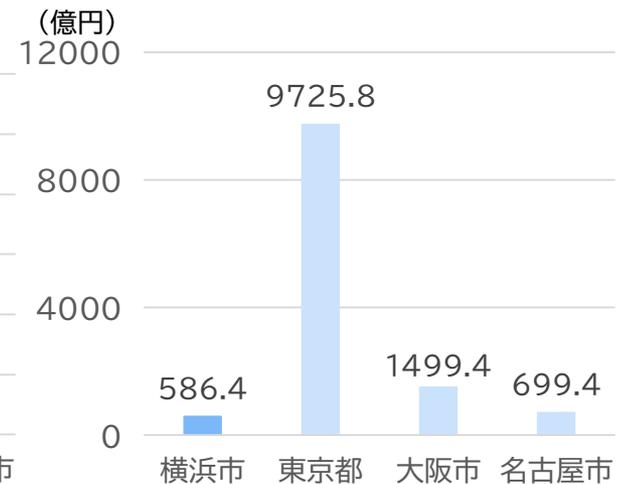
< 市内総生産(2019年度) >



< 事業所数(2019年) >



< 法人市民税(2019年度) >



出典

左図: 横浜市政策局「令和2年度 横浜市の市民経済計算(令和5年度刊行)」、東京都「都民経済計算年報 令和2年度」、大阪市「令和2年度 大阪市民経済計算」、名古屋市「令和2年度 名古屋の市民経済計算」より作成
市内総生産は実質

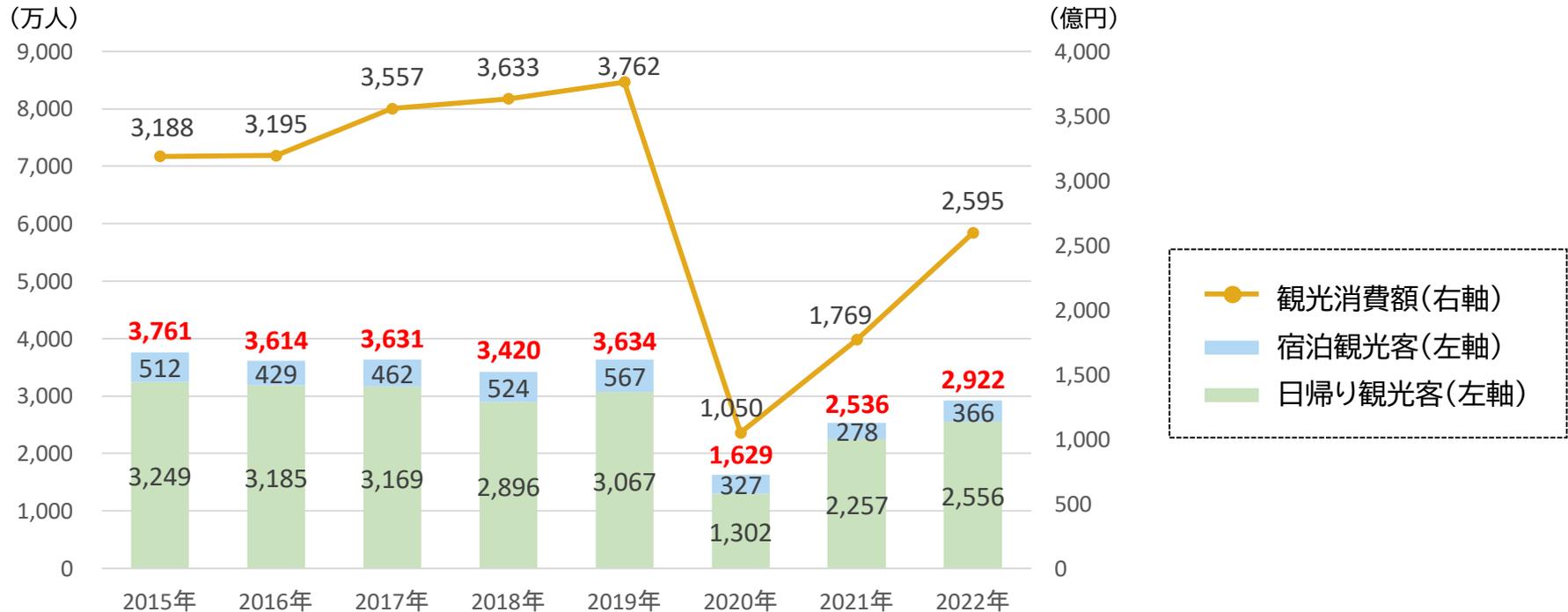
中図: 総務省統計局「令和元年経済センサス」より作成

右図: 横浜市財政局「令和元年度一般会計決算の概要」、東京都「令和元年度 都税収入決算額について」、大阪市「令和元年度の一般会計、政令等特別会計決算について」、名古屋市「一般会計決算(令和元年度)」より作成

4. 観光実績

横浜市の観光入込客数(実人数)と観光消費額の推移

- 2019年の横浜市の観光入込客数は、3,634万人(観光消費額3,762億円)だったがコロナ禍で急減。その後、回復傾向となり、2022年は2,922万人(観光消費額2,595億円)
- 観光入込客数を内訳で見ると、日帰り客の比率が高い。
- コロナ禍前5か年の平均消費額は、宿泊客:27,688円、日帰り客:6,752円

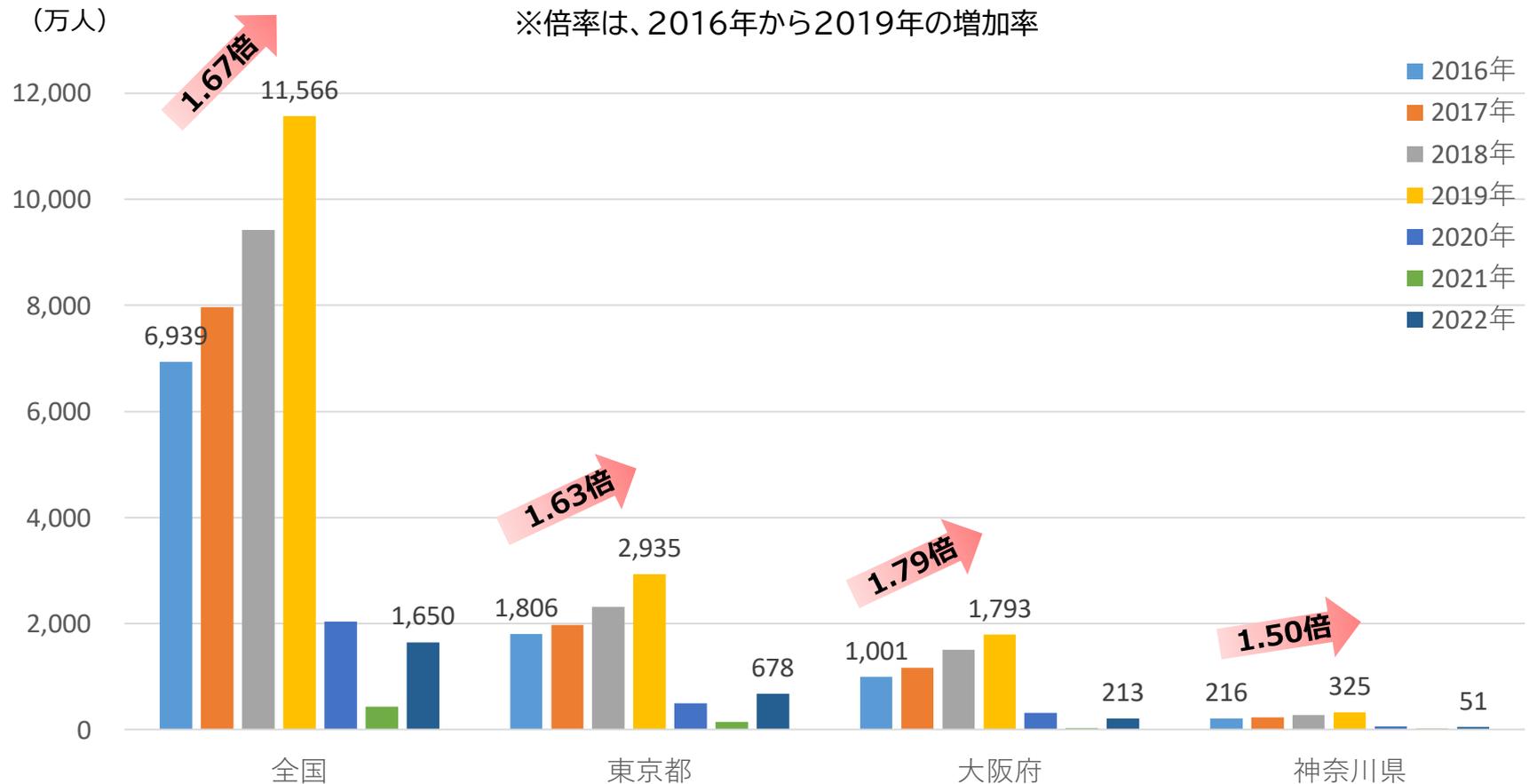


4. 観光実績

神奈川県外国人宿泊者数

○ 全国、東京都、大阪府と比べ、外国人宿泊者数は少ない。

< 外国人延べ宿泊者数の推移 >
※倍率は、2016年から2019年の増加率



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

5. 交通ネットワーク

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)

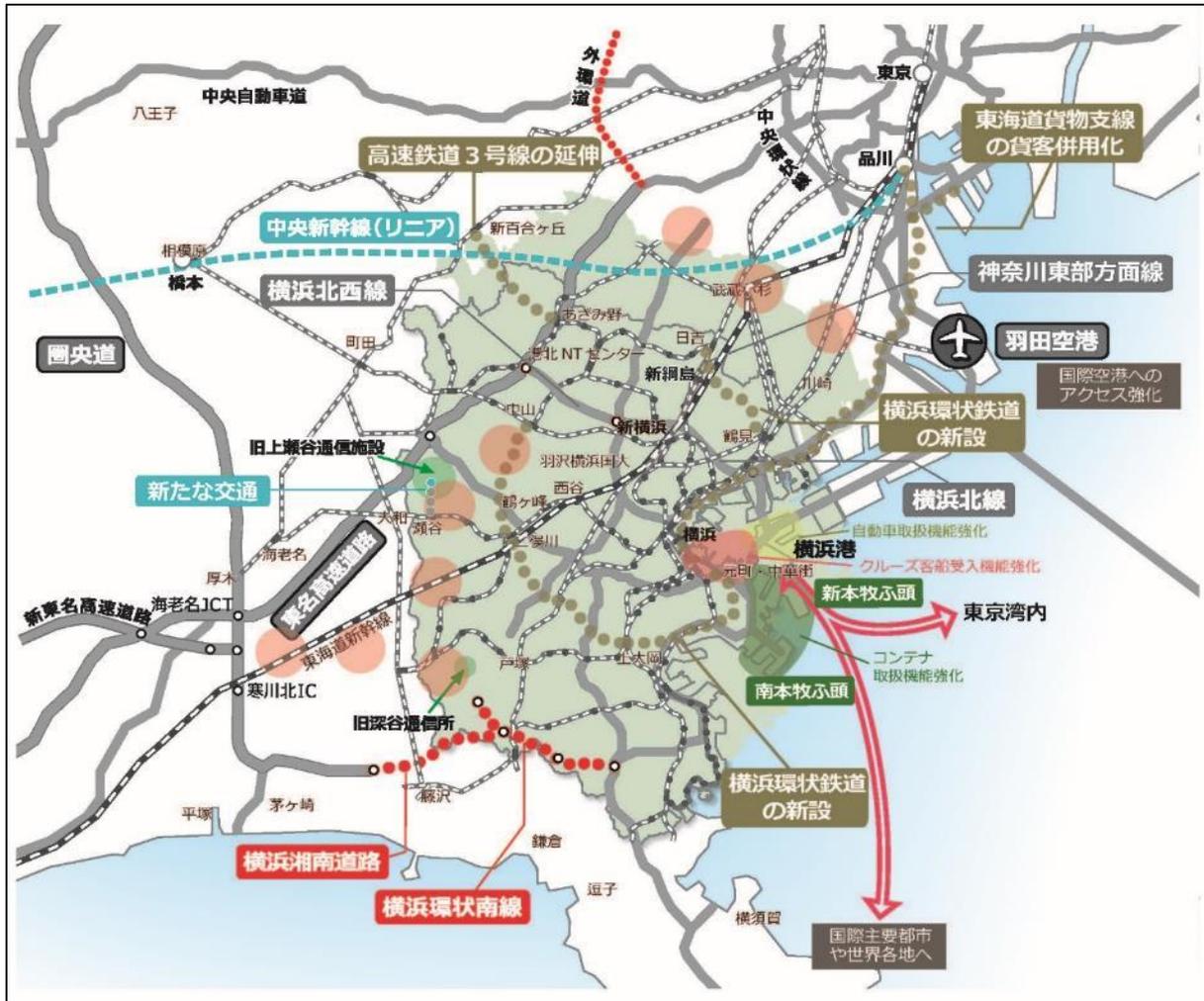
- 東名高速道路、中央自動車道等の放射状に延びる高速道路等と一体となって首都圏の広域的な幹線道路網を形成



5. 交通ネットワーク

生活や経済を支える交通ネットワーク等

○横浜経済の更なる発展と国内外からの人・投資を呼び込むため、道路や鉄道、港などの整備を推進しています。



- 道路
横浜湘南道路※
横浜環状南線※
※ 開通時期については、事業者(国土交通省及び東日本高速道路株式会社)により検討中
- 鉄道
【2027年以降】リニア中央新幹線(品川～名古屋)
【2030年】高速鉄道3号線の延伸(開業目標)※
※交通政策審議会答申の目標年次
- 港湾
【2027年度以降】新本牧ふ頭

- 中央新幹線
- 構想中(新たな交通)
- 事業中(自動車専用道路)
- 供用中(自動車専用道路)
- 構想中(自動車専用道路)
- 供用中(鉄道)
- 東海道新幹線
- 計画路線(鉄道)

出典:「横浜市中期計画2022～2025」を
もとに港湾局作成

日時：令和6年7月12日（金）
10：00～12：00（予定）
場所：横浜シンポジア

第4回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会

次 第

1 議 事

(1) 前回委員会後の市民意見等の説明

(2) 事務局の説明

- ・ 前回の補足説明
- ・ ファクトシート「国内外開発事例編」について

(3) 地域関係団体委員の意見書の説明

(4) 学識者委員プレゼンテーション

(5) 意見交換

(6) その他

【配布資料】

- 資料1：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿
- 資料2：前回委員会後の市民意見等
- 資料3：前回の補足説明
- 資料4：ファクトシート【国内外開発事例編】
- 資料5：地域関係団体 意見書

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 委員名簿

地域関係団体委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------------|-----------|------------------|
| さかくら とおる 坂倉 徹 | 経済団体 | 横浜商工会議所 副会頭 |
| たかはし のぶまさ 高橋 伸昌 | まちづくり団体 | 関内・関外地区活性化協議会 会長 |
| たからだ ひろし 宝田 博士 | 商店街 | 協同組合元町エスエス会 理事長 |
| たどめ やすし 田留 晏 | 物流業団体 | 神奈川倉庫協会 会長 |
| ふじき こうた 藤木 幸太 | 港湾運送事業団体 | 横浜港運協会 会長 |
| ふじき ゆきお 藤木 幸夫 | 横浜港振興推進団体 | 横浜港振興協会 会長 |

学識者委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|-------------------|--------------------|----------------------------|
| いしわた たかし 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| いまむら としお 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所代表取締役会長 |
| うちだ ゆうこ 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| かわの まりこ 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| きたやま こう 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| くま けんご 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| こうだ まさはる 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工藝社代表取締役社長 |
| ひらお こうじ 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| むらき みき 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| わくい しろう 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

山下ふ頭再開発検討委員会後に インターネットフォームに寄せられた市民意見等について

1 受付期間

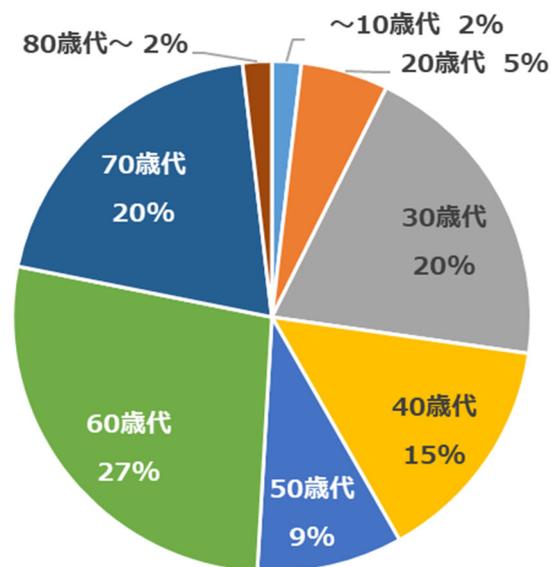
令和6年1月12日から令和6年7月9日まで

2 意見数

市民意見等は**55名から111件の御意見**をいただきました。

(居住区分：市内54名、市外1名)

※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、投稿数から除外しています。



投稿人数（年代別）

3 御意見の主な内訳

(1) まちづくりの方向性に関する御意見

- ・今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、**地域活性・観光・防災を考慮**したイメージ戦略を基盤として必要な事業を考えるべき（40歳代）
- ・横浜にしかない開港以来の美しい歴史的景観や財産と調和する、**100年後も世界に誇れる都市デザイン**を実現してほしい（20歳代、40歳代）
- ・「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、**市民参画による市民のための**、豊かで持続可能な都市づくりを推し進める（60歳代、70歳代）
- ・**市民の暮らしを守るための防災拠点**として、過去の震災に学んだ「防災・減災」機能を付与すべき（60歳代、70歳代）
- ・**技術の継承**をする意義も込めて、**ヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代を再現**するとともに、**各エリアの魅力を活かして共存関係を構築**する（70歳代）
- ・山下ふ頭で集客が増えて渋滞が起きると新山下以降の地元民が困るので、**渋滞回避**を考えてほしい（40歳代）
- ・**まず市民にとって魅力的な施設を開発し、その良さが知られてからインバウンドを増やす方向**を目指すべき（70歳代）
- ・市民の目を気にしていたら、代り映えがなく失敗に終わる予感がするので、**富裕層にターゲットを絞り、長年続く開発**にしてほしい（30歳代）
- ・高層ビルが立ち並ぶ計画は将来に禍根を残すので、賑わい・観光というならば投資の場にするのではなく、**景観を大切にすべき**（50歳代）

など

(2) 導入機能に関する御意見

- ・山下ふ頭へのアクセスは良くないので、**横浜駅から山下ふ頭をつなぐLRTや自走式ロープウェイなどの利便性向上と脱炭素や省エネにつながる新交通** (30歳代)
- ・「インバウンドの来日目的は観光だけでなく日本らしさである」という意見があるので、**日本の文化・伝統を見学、体験できる複合施設** (30歳代、70歳代)
- ・交通アクセスの強化を図り、広大な開発空間を活かした、アジア地域の中心を担う**世界的な超大型展示場** (40歳代)
- ・山下ふ頭は港町ヨコハマとして最適地であるので、**船で直接お店にアクセスできるようにするための海沿いの海岸通りや船着き場** (70歳代)
- ・幅広い層が利用しやすく、地元民にも観光客にも良いIKEAやコストコのような**大型店舗** (40歳代、50歳代)
- ・横浜Fマリノスがあるのに見合った施設がないので、**サッカー専用スタジアム** (30歳代)
- ・市民の心の充足を図る現代版「里山・里海」たる「**入会地**」、緑の連続性を延長する**公園**、海と緑に囲まれた**美術館** (20歳代、60歳代、70歳代)

など

(3) その他の御感想等

- ・山下ふ頭に他にないものをつくる、**広く横浜に足りないものをつくるという意見に賛同** (30歳代)
- ・横浜市での財政も踏まえて、**市の収益が確保でき、事業が継続性を持つことは必須** (20歳代)
- ・**横浜市各局を横断する庁内総合調整組織**を作り、この計画を**横浜市が総力を挙げた一大プロジェクト**として取り組むべき (60歳代、70歳代)
- ・今回も**各委員のプレゼンは視聴し甲斐があった** (60歳代)
- ・「**現役世代が将来的な社会保障費の負担増に耐えられるようにする**」仕組み作りが大切であり、独立採算の取れない施設は避けるべき (20歳代)
- ・首都圏で広くまとまった土地がなかなかないということがイメージしづらいので、**他の事例などの比較資料を出してもらいたい** (30歳代)
- ・現在「よこはま」は、**外国人観光客の通過地点でしかない** (70歳代)
- ・行政は経営とは違い、**経済成長に囚われる市政運営は時代錯誤**なので、**もっと広範な層の地域関係団体を呼ぶべき** (60歳代)
- ・再開発を最大限に活かすために、**外国人相手のエリアを作るための感性も必要**なので**開発メンバーを外資や代理店の若い優秀な人材にしてほしい** (40歳代)
- ・**市民が有志でまとめた提言書は極めて貴重な検討案件**なので、今後の議論に生かして欲しい (60歳代、70歳代)
- ・市民意見を議題に取り上げるための**市民参画のあり方を検討**してもらいたい (50歳代～)
- ・**経済だけでなく、もっと自由な発想とグローバルな視点**を持った議論を期待 (30歳代、70歳代)
- ・**瑞穂ふ頭の米軍**の存在も議論の俎上に乗せるべき (60歳代、70歳代)
- ・市民が「**カジノは駄目**」とした、**明確なメッセージが欠落しては駄目** (50歳代、60歳代、70歳代)

など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

| | 居住地 | 年代 | 投稿（2000文字まで） |
|---|------|------|--|
| 1 | 青葉区 | 70歳代 | 【11月30日会議への意見です・締切りが1月29日となっていたので】 横浜市のファクトシートには、住民の意識についてふれていないのはどうしてでしょうか。市としての取組み、戦略性については詳細に記載されていますが、それに対する住民の意識についても事実として併記されるべきだと考えます。市が住民意識をどう捉えているかは、今後の山下埠頭開発に市民をどのように参画させるのがいいか、に影響すると思います。 |
| 2 | 青葉区 | 70歳代 | 【11月30日会議への意見です】 各委員のプレゼンも内容が濃いものだったと思います。涌井委員の発表は、現在進行中の米軍から返却された上瀬谷跡地の活用計画の一つである「花博」のからめた話しをしていました。市の計画としての事実としても、住民の間で異論がある計画でもあり、山下埠頭と土地の権利状態が異なっていることもあります。「花博」ありきで山下埠頭開発を検討するのは開発の方向性をゆがめる危険性があるかと思われます。今後の取扱いに一考が必要だろうと思います。なお、隈研吾委員も花博と関わっていますが、お二人とも上記の点は十分認識されていると考えています。 |
| 3 | 青葉区 | 70歳代 | 【11月30日会議への意見です】 各委員の発表資料は公開されないのでしょうか。是非、公開してほしいと思います。 |
| 4 | 青葉区 | 70歳代 | 【11月30日会議への意見です】 寺島委員（座長でしょうか）は後半で、「市民が参画できるものを意図することが問われている」と発言をされていました。とても重要なポイントだろうと思います。まちづくりのこれまでも関わってきた団体だけではなく、抽選で住民を選んで「再開発検討委員会」のメンバーに入れることを早い時点で行なってほしいと思います。専門家や自治会、団体、組合、などとはかけ離れたものしか発言できないとしても、ガス抜きではない真に住民の声を聞き出すことができる自治体に近づいてほしいと願います。2024年1月6日の朝日新聞は、寺島実郎氏へのインタビュー記事を掲載しました。この中で寺島氏は日本経済の問題点として「力を合わせ要素を統合してプロジェクトを完結する総合エンジニア力が欠如していること」をあげています。続けて、「それには全体知に立つ構想力と指導力が不可欠」と結んでいます。私はこの記事を読み、検討委員会がこのフレームとフローの中に住民、市民を多数関わらせももらえないか、期待するに至りました。是非、将来に役立つ住民参画の形を検討してください |
| 5 | 港北区 | 60歳代 | 第3回委員会の全体を通して、今後の展開に関して最大の問題となった論点は、この委員会の所管を港湾局だけに留めておくのは如何なものかということです。今村委員のプレゼンで「現在の港湾局だけの枠組みではなく、各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要」との指摘がありました。この発言を受けて、北山委員が、問題の枠組みとして、「市の財政を考えていくときに」山下埠頭だけでなく「広域の問題として捉えて」いかねばならないこと、さらに立て付けの問題として、「都市の問題、市全体の問題、広域の問題」なので港湾局だけでは駄目で、かつてあった「企画調整室」のように「部局を横断して都市の問題を解決」していかなければならないことを付言していました。既に市民意見でも、「市全域の広域戦略が必要なので、市庁横断で総合調整組織が設けられるべき」との声が寄せられています。当局にもはや躊躇している余裕はありません。速やかに検討を開始して、次回の委員会開催までには改善された庁内体制で臨んで頂くことを切望します。 |
| 6 | 中区 | 30歳代 | 大変勉強になった。他にない物をつくる、広く横浜としてみたときに足りないものをつくるという意見に賛同する。議論の中に首都圏でこれだけ広くまとまった土地は中々出てこないということであったがいまいちイメージしづらい。過去の事例や現在進んでいる築地などほかの開発と比べてどれぐらいの広さなのかが分かるような比較資料を出していただきたい。 |
| 7 | 磯子区 | 60歳代 | 横浜市は東京と違い法人税に頼れず住民税が主な財源のため今後人口減が予想される中財政難に陥ることになる。それには税収を増やさなければならぬところ何故IRがダメなのか理解できない。利権のことだけを考えているような人達が決めることになれば、横浜市は破滅する。 |
| 8 | 神奈川区 | 30歳代 | アトキンソン委員他の意見から、良い意味でも悪い意味でも横浜というのは東京に依存している産業構造になっており、山下埠頭においては、東京にはない独自の機能が求められると感じた。他の委員が「首都圏全体の目線」で仰っていたり、寺島委員長が「後背地の産業に注目する必要がある」と仰っていることにも通じるかと思う。また会議中に藤木幸太委員が「我々はこれまで使わせていただいた縁で」ということを仰っていたが、それこそが「利権」だと考える。山下埠頭は市の土地。よりグローバルな視点での議論を期待したい。 |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 9 | 都筑区 | 30歳代 | 山下ふ頭までいく交通について検討してください。山下ふ頭は行き、団体の意見書にもあります通り、ロープウェイなど公共交通が必要です。横浜市全体の発展に資するため、横浜駅からみなとみらいから山下ふ頭まで続くLRTがいいと考えます。宇都宮市では成功しました。環境によく路面電車自体が観光資源になり、通勤通学にも便利で山下ふ頭まで便利になるだけでなく横浜駅やみなとみらいの発展にもつながります。路面電車が難しいなら、現在秦野で実験中の自走式ロープウェイZipparを導入してはいかがでしょうか。神奈川県知事が視察し、国内外の自治体で導入が検討されています。LRTより導入しやすくかつ神奈川の交通を取り入れれば便利かつ横浜市の発展や新技術の発展につながります。山下ふ頭ふくめ横浜市発展のための公共交通を希望します。 |
| 10 | 瀬谷区 | 70歳代 | 再開発検討委員会の議論に関する私見（2-1）再開発検討委員会の3回目の議論をYouTubeで拝見しました。アトキンソン委員のプレゼンでは、横浜への観光客は日帰り客が多く宿泊客が少ないとの説明でしたが、これは2019年8月に前市長が突然横浜にIRを誘致すると記者発表をした際の説明と同じです。あのときの説明は、IRを誘致してインバウンド宿泊者を増やし横浜の税収を増やすとの論法でした。IR誘致については市長選挙で結論が出たはずですが、アトキンソン委員はまだ山下ふ頭にIRを誘致しようと考えておられるのでしょうか。また横浜商工会議所の副頭取は、山下ふ頭の再開発では観光産業に資するものを強く要望されていました。経済界の皆さんは、インバウンドの増加や観光産業の振興を盛んに要望されていますが、これは再開発の内容を考える順序としておかしいのではないのでしょうか。私は風景スケッチが趣味で、毎月数回仲間と横浜の各地に出かけています。主な活動範囲は日本大通りを中心にして南はイタリア山庭園から北は赤レンガ倉庫までの領域で、それ以外は住宅地であり、横浜の潜在的な観光能力はその程度のもです。（続く） |
| 11 | 瀬谷区 | 70歳代 | 再開発検討委員会の議論に関する私見（2-2）横浜は観光客数で東京や大阪に劣っているとのデータが示されましたが、明治以降に発展した横浜村と400年以上の歴史を有する東京や大阪との実力の差であり、言わば当然のことです。最近、日本では観光客の増加に悲鳴をあげている地域が増えています。京都や鎌倉など有名な観光地の住民は、観光客の急増で交通が不便になり日常の買い物にも窮するような状態で、観光公害とも呼ばれています。インフラの整備が追いつかないまま観光客を増やす施策を講じれば、地元住民の日常生活に支障をきたすのは当然のことです。そもそも日本では観光客の増加を想定して街づくりを行ってきたわけではありません。日本の観光地に人気があるのは、長い歴史の中で築かれた日本固有のデリケートな文化や細やかな心遣いの素晴らしさがインターネットなどによって世界中に広く知られるようになった結果であり、政府の観光政策の結果ではありません。収容能力を超える観光客の来訪で地元を疲弊させ、先人の築いた遺産を食い潰す結果にならないのでしょうか。このような観光政策によって恩恵を受けるのは一部の観光業者のみであり、（続く） |
| 12 | 瀬谷区 | 70歳代 | それ以外の一般住民に何が価値あるものが残るのでしょうか。私が言いたいのは、開発の順序が重要であるということです。最初から観光産業やインバウンドの増加ありきではなく、まず、横浜市民にとって魅力的な施設が開発され、その良さや素晴らしさが広く知られてインバウンドが増える方向を目指すべきであり、初めからインバウンドの増加を目的にするのは開発の順序が逆ではないかということです。たとえば、横浜市民が拒否したIR誘致では、まず観光客の増加を狙うことが大目的であり、それが横浜市民にとって価値あるものかどうかは考慮されなかったわけです。このため計画の発表後にギャンブル依存症などの弊害が次々と明らかにされて挙句の果てに市民からそっぽを向かれたわけです。「まずインバウンドありき」の開発は失敗に終わるといふことの良い事例です。私は、山下ふ頭再開発はインバウンドのためではなく横浜市民のために行うべきだと北山委員の意見に賛同し支持します。最後に一つ付言しますが、今年のアメリカ大統領選の結果次第では、横浜にカジノを誘致する話が再度持ちあがる可能性がありますので、横浜市民の皆さん注意が必要です。（終） |
| 13 | 青葉区 | 70歳代 | 地域関係団体の参加については、北山委員も言及したように、必要に応じて参加してもらい、意見交換をすればいいと思います。商工会議所の板倉氏は、商工会議所として既に市に要望された6点を改めて説明した感じでした。この調子でメンバーとして常時参加されて、商工会議所の立場で発言をされるのであれば、熟議する委員＝自分の立場を超えて議論できる＝として機能しないのではと危惧します。委員を増やすことは、意見の出し合いが増えることになり、十分な議論ができないと強く感じました。地域関係団体の常時参加は止めてほしいと思います。大事なことは、立場を超えての議論ができるか、だと思います。北山委員は、そのことを「熟議」として表現したと思うのですが、その発言を理解されない方が委員として継続参加されると、今後の議論が中身のあるものになるか不安です。（「熟議民主主義」については、手軽に読める新書「現代民主主義」山本圭著・2021年中公新書の第四章「熟議と格闘」がわかりやすいようです） |
| 14 | 青葉区 | 70歳代 | 藤木幸夫氏から出されていた15項目の内容がどのようなものなのか、は公表されないのでしょうか。 |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 15 | 青葉区 | 70歳代 | 平尾委員は、開発事業者の立場からの発言でしたが、その中で「市民とともに」という提案がありました。やはり、会議への傍聴、意見募集、に止まらない会議への市民参画の方法を早期に構築してください。市民の中にも、それなりの見識があり委員の発言にその場でコメントできる人もいます。 |
| 16 | 港北区 | 60歳代 | 北山委員は「熟議の民主主義」の観点から、議論を豊かなものにするためには10人までが宜しかろうとのことで、学識者12人に加えて地域関係団体委員6人を入れ総勢18人で進める会議の在り方に一石を投じています。北山委員は決して地域関係団体委員の参加を拒んでいるわけではありません。この委員会を所管するのが港湾局であることから、港湾関係の団体が多いことも当然の事と受け止めています。その上で、この山下埠頭再開発が横浜という都市の「イメージアイデンティティー」を決定するプロジェクトであるからには、港湾関係および経済関係の団体だけに限ることなく、市内全域の多種多様な分野からの団体をも参加できるような「会議のシステム」作りを提唱していました。尤もなことです。市庁横断の総合調整組織が設けられるのに並行して、横並びの小委員会を複数、せめて二つ作り、大本の検討委員会の答申作りに反映させる仕組みが求められています。当局の果敢な検討を期待します。 |
| 17 | 港北区 | 60歳代 | 藤木幸太委員の発言で、「瑞穂埠頭があったら」カジノはそこで「やればよかった」という発言は全く頂けませんが、瑞穂埠頭の米軍による接収の解除に触れた点はとても良かったです。横浜市が「積極的に接収解除」を求めて来なかったという指摘もありましたが、厳然たる事実として、現状の瑞穂埠頭では、返還されるどころか、実戦部隊の配備までが為されてしまいました。しかも2月8日には式典を開催し、いよいよ本格運用を開始することです。基地の固定化、恒久化に繋がる恐れが極めて強く、横浜港は実動部隊の軍艦が行き交う禍々しい港と化すことに一直線であります。ベイブリッジの下をくぐれば正面に瑞穂埠頭、左手に山下埠頭があります。山下埠頭再開発を議論する上で、インナーハーバー（港湾内）全体に関する論議が不可欠であり、瑞穂埠頭の米軍の存在も議論の俎上に乗せて然るべきです。折しも市会にかけられた来年度予算案の冒頭には「市民の安全安心」が掲げられています。軍港横浜では「市民の安全安心」は保たれません。委員各位の積極的な発言を期待します。 |
| 18 | 港北区 | 60歳代 | 今村委員は、人口減少時代の新しい都市開発についての見解を示した上で、経済合理性の観点から山下埠頭再開発の方向性を論じていました。「国際的交流人口を吸収」「国際的な投資資金を吸引」という点を前面に出し、事業性において「説得力ある開発ストーリー」を提示することが強調されていました。「国際交流都市を先行した160年の歴史」を持つ横浜の「独自の立ち位置」を活そうとの提言、また「スポーツとフード」の名所作りの一案は傾聴に値します。更に、横浜市のランドデザインを新たに制作するために、横浜市全域での各地域の都市機能の再構築と、それに伴う山下埠頭の位置付けの再設定と現在の商業地域という用途地域の見直しが必要との提言は、理に合ったものであり、この計画を、横浜市全局を横断する一大プロジェクトに「昇華」させるという提案については、北山委員の発言と相俟って、当局には真剣に検討して頂きたいです。今村委員の発言の主旨は総じて金儲けの話で、それも大事だとは理解しますが、行政は決して経営ではないこと、経済合理性だけを追求したら市民の共有財産は搾取の対象になるばかりで大半の市民が不幸になることを肝に銘じておきたい。 |
| 19 | 港北区 | 60歳代 | アトキンソン委員のプレゼンは今村委員の話に輪を掛けて経済合理性を追求する話でした。アトキンソン委員が再優先に考えるのは、観光振興の観点から経済活性化を求めることで、端的に言えば、金儲けを追求することでした。インバウンドに活路を見出すべし、特に宿泊客の増大に努めるべし、との提言自体は理解できますが、「歴史文化にそれほど魅力はない」、ショッピング、ナイトライフ、アクティビティなどに多様性と付加価値を求めるべし、との提起には、何らの根拠も示されないままの不合理な説明に終始していて、残念な発言でした。歴史文化を軽視して、世界中何処にでもあるような都市（まち）づくりをしたら、その都市の魅力は一遍に消失します。北山委員の「投資やインバウンドの為に」都市があるわけではなくて、都市には「人が住んでいる」、住民の「プライドのある魅力的な都市」ならば観光客はやって来る、この言葉に本当に救われます。地域住民と協働して行って来た横浜市の都市づくりだったのを、みなとみらい地区の開発が壊した、との見解にも溜飲が下がりました。藤木幸夫委員も、みなとみらいの開発は失敗と強調していたことを付言しておきます。 |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 20 | 港北区 | 60歳代 | <p>今回も、各委員のプレゼンは視聴し甲斐がありました。今村委員のプレゼンでは、都市開発の在り方が語られました。人口急減時代での新しい都市開発の目的は「国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発する」、資金としては「国際的な投資資金を主役に吸引」していくことが求められるので、「事業性において説得力ある開発ストーリーの組み立て」が大事であるとの提言でした。要は、インバウンドを増やして地域経済を潤すことが都市開発の目的であり、国際的な投資資金が十分金儲けできるとの見込みを抱けるだけの儲け話を組み立てる必要がある、ということです。儲け話の作成に当たって、横浜の持つ「国際交流都市を先駆けた160年余の歴史」と「独自の都市文化、地理特性」は大いに活用すべしとの話には説得力がありました。とは言っても、所詮、金儲けの話で、金儲けを優先したら、有形無形の都市の財産は資本の餌食になるばかりで、共同体としての都市の一体性はズタズタにされて、やがては都市自体が捨てられてしまいます。市民の共有財産としてのコモンを維持し再生していく物語は、経済合理性を語る物語よりも優先されなくてははいけません。</p> |
| 21 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その1】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○（60代男 鶴見区在住）</p> <p>標記、「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」（以下、「検討委」という）が開催され、今回から地域関係団体による説明が始まりました。話された内容等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。「検討委」及び検討委事務局におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受入れ、第4回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。 つづく</p> |
| 22 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その2】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○（60代男 鶴見区在住）</p> <p>▼まず、能登半島地震については、冒頭、事務局サイドが「お悔み」や「お見舞い」を申し述べていた。しかし、この大惨事が発生する前、本件、山下ふ頭再開発の第1回、第2回の検討委において、「防災・減災」との観点から発言や提案があった。ところが、今回の検討委において発言した委員からは、当該震災について一言の言及もなかった（少なくとも、当方にはそのように受け止められた）。これには驚かされる。しかもこの時期（1月～3月）は、阪神淡路大震災（発生から29年）、東日本大震災（発生から14年）の存在もある、ののである。今回、検討委発言者には本当に再開発対象地域=山下ふ頭に「防災・減災」機能を何らかの形で付与する、とは考えてはいないのだろうか。それならそれで、当方ら横浜市民は、当該（今回発言した委員らの）意見を無視・却下すればいいのではあるが、それ程、横浜市民の生活に関心のない人々が、横浜市「検討委」のメンバーになっているのかと思うと、寂しくもあり、寒々しくもある。 つづく</p> |
| 23 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その3】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○（60代男 鶴見区在住）</p> <p>▼アトキンソン委員のプレゼンについて、氏は観光の観点から、インバウンド戦略について、「自治体に負担をかけない」ことであると強調した。財政状況が逼迫寸前の自治体=横浜市にとって、「自治体に負担をかけ(ず)」に山下ふ頭再開発が実現すれば、万々歳、それに越したことはない。横浜市民にとって、これこそ最大の利益であろう。</p> <p>また、一般的に「経済合理性」を欠いた計画は、現実的ではない、のも事実とも述べていた。氏にとっては「経済合理性」こそ最高善、唯一無二の価値なのかもしれない。しかし、当方ら横浜市民にとっては、「経済合理性」とは、残念ながら物事の一面でしかない、と言い得る。 つづく</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 24 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その4】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>①「経済合理性」とは、効率的で合理的な方法を選び、最大の利益や最小の損失を追求することである。アトキンソン委員の言う「自治体に負担をかけない」というのは、この定義のうちの「最小の損失」のみを指しているに過ぎない。ここで確認すべきことは、同定義のうち「最大の利益」を得るのが横浜市民であるか、ということ。アトキンソン委員は、そこまで言うてはいない(言う必要もない(?))が前後の発言から推測するに、氏が言う・望む「最大の利益」を得るのは、市民ではなく、「民間事業者」であるのは疑いようがない、だろう。 つづく</p> |
| 25 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その5】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>②「経済合理性」との考え方は、「経済学の基本概念」という点である。この語が真に発揮される空間は、経済学やビジネス世界という生存圏。いま横浜市が行おうとしているのは、街づくり行政や市民生活・自然・コミュニティなどに関わる分野。これらの分野は、経済性・効率性よりも公共性が第一にもとめられ、往々にして非「合理」・非「効率」が前面に出てくる場合が多い。経済学にとっては、最高善なのではあろうが、それを行政等の場面に無理やり持ち込むと、「多様性が失われる」(北山委員の第2回検討委での発言)ことになる。 つづく</p> |
| 26 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その6】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>③「経済合理性」と発言したアトキンソン委員が、長年、金融市場で大活躍してきた人物だという点も見逃すことはできない。一般人が言う「経済合理性」と、氏が放つ「経済合理性」とはおのずと相違がある。つまり上記①で述べた「最大の利益」の受益者が、横浜市民ではなく市民を軽視・無視して、否、押しつけて山下ふ頭再開発事業に割って入ろうとするのは、利潤追求を最大善、「経済合理性」を第一の目的とする民間企業であるのは、誰が見ても間違いない。分かりやすく言えば、「市民」は眼中にない。これである。 つづく</p> |
| 27 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その7】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>▼横浜港振興協会の藤木委員は、自身所属の組織の考える「意見」(資料3 P23)にはまったく触れず、検討委においては、自らの経歴や、第2次大戦の敗戦後=米軍による接收後の横浜(港)の様子を語られていた。(一社)横浜港振興協会の代表として出席された藤木委員は、「山下ふ頭再開発検討委員会への意見書」(資料3 P23～)として再開発案を提案している。しかし、検討委当日「意見書」に関しては、まったく触れていなかった。それによると・・・、</p> <p>3.山下ふ頭再開発に関する意見と要請 として、</p> <p>①山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を鑑みた開発</p> <p>②横浜港の発展の歴史を踏まえた開発</p> <p>③横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させて開発</p> <p>④山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定</p> <p>⑤安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論 つづく</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 28 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その8】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>⑥横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることとし、委員会の方向性として最初に議論して頂きたい</p> <p>⑦横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置づけと国際貿易に寄与する視点を最重要視して頂きたい</p> <p>⑧憩いの場としては、市民が自由に使える、賑わいが創出できるような空間を検討</p> <p>⑨事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮した後決定して頂きたい</p> <p>⑩国際交流や日本文化を発信するような機能を検討して頂きたい</p> <p>⑪100年前の関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討して頂きたい</p> <p>⑫障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れた開発として頂きたい</p> <p>つづく</p> |
| 29 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その9】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>⑬周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討して頂きたい。また、現在1か所しかない進入路の機能向上についても検討をお願いしたい</p> <p>⑭臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい21地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース (BAYWALK YOKOHAMA) や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい</p> <p>⑮横浜港へさらなる客船誘致を推進する観点から整備を検討して頂きたい</p> <p>——と、なっている。今後、同委員がどのような発言をするかを考慮し、今回、当方のコメントは控えることにする。</p> <p>つづく</p> |
| 30 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その10】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>▼横浜商工会議所の坂倉委員は、「山下ふ頭再開発に向けての意見」(資料3 P27)として、6つの要望を掲げている。</p> <p>同会議所は、毎年9月前後に次年度の予算・政策実現の「要望」として、横浜市(神奈川県にも同様)に提出している。今年度も山中市長あてに「24年度版 横浜市政に関する要望」として提出している。ところが、今般、検討委に提示した「山下ふ頭再開発に向けての意見」は、最新の「横浜市政に関する要望」(24年度版 23年8月、市に提出)ではなく、その前年度(23年度版)が、その「基礎」となっているのではないかと、瓜二つとは言わないまでも、「そうではないか」と思わせるほど類似点(特に章立て)が多い。</p> <p>市民にとって、商議所が今般山下ふ頭再開発に関して策定・提出した「意見書」が、どの年度版を参考にしようが関係はないし、問題はないのだが、ひとつ気にかかるのは、22年度版つまり、横浜市長選挙において、カジノを完全否定した山中氏が初当選(21年8月22日)を果たした。</p> <p>つづく</p> |
| 31 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その11】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>その直後の21年9月に提出した商議所の「22年度版 同要望書」には、厚かましくも「IRの横浜誘致の実現」と、恥ずかしげもなく、しっかり要望・記載されているのだ。「統合型リゾート(IR)横浜推進協議会」としては、統合型リゾート(IR)の誘致が、周辺地域との相乗効果を発揮し、横浜経済・観光の活性化はもとより、新型コロナウイルスで疲弊した地域経済の再興の起爆剤となることを大いに期待」(P4、P5)など。</p> <p>もう一度言う。山中市長の当選は、21年8月。一方、同会議所の「要望書」の提出は、21年9月。山中市長が実現した後であっても、横浜商工会議所は、IR=カジノを目指していたのだ。</p> <p>つづく</p> |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 32 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その12】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇（60代男 鶴見区在住）</p> <p>今般、当方が問題とする「23年度版 要望書」を見てみる。あからさまなIR=カジノの実現云々との記載はない。ないが、2章3項目の(1)として、「山下ふ頭再開発事業による新たな活性化拠点の形成」の中で、「統合型リゾート(IR)に匹敵する大型プロジェクトによる新たな産業振興が重要」(P19)などの文言がある。いまだに、横商議は、うらめし気に、心苦し気にカジノの亡霊を追っているのである。</p> <p>その章立てを見てみる。今般「山下ふ頭再開発に向けての意見」(資料3 P27～)では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 横浜経済の核となる活性化拠点の形成 2 山下ふ頭全域の一体的な再開発の推進 3 これまでの再開発プロジェクトにより得た知見を活かした魅力的な施設の導入 4 山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出 5 旧上瀬谷通信施設跡地等の街づくりとの連携による市内全域の活性化 6 横浜市財政に寄与する税収効果と外国人材を含めた雇用創出の促進——である。 つづく |
| 33 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その13】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇（60代男 鶴見区在住）</p> <p>一方、「23年度版 要望書」では、2 将来を見据えた横浜の「稼ぐ力」を高めるための戦略的な取組の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 都心・臨海部のさらなる活性化 <p>(1)山下ふ頭再開発事業による新たな活性化拠点の形成 ・山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に向けた取組に関する要望の実現</p> <p>(2)関内・関外地区等の活性化及び地区間連携軸の強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 横浜の魅力をさらに高める戦略の推進 <ol style="list-style-type: none"> 1 観光・MICE振興による賑わいの創出 <p>(1)拠点間ネットワークの形成による相乗効果の創出</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 拠点開発事業の推進 <p>(1)2027年国際園芸博覧会の開催成功と旧上瀬谷通信施設の跡地活用による内陸部の活性化——と、なっている。</p> <p>その名残、未練を看とることができる。読む人が読めば、横商議が何を言わんとするのが伝わってくる。 つづく</p> |
| 34 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その14】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇（60代男 鶴見区在住）</p> <p>今般提出された「意見書」と、「22.6 山下ふ頭要望」との関係を見てみる。当方は、「『23年度版 横浜市政に関する要望』が、今般『意見書』の「基礎」となっているのではないかと述べた（【その10】を参照）。しかし、時間的な順序や書かれている内容などから判断すると、むしろ、「22.6山下ふ頭要望」が両者（『23年度版 横浜市政に関する要望』と、今般「意見書」）の「基礎」となっていることがわかる。「意見書」は、その影響をより強く受けている。もっとも、いくつかの相違は存在する。例えば、「5」（旧上瀬谷通信施設跡地等の街づくりとの連携による市内全域の活性化）の内容に、語句のうえで多少の異同（表題は全く同じ）がみられる。しかし、大意は微塵の変化もない。 つづく</p> |
| 35 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その15】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇（60代男 鶴見区在住）</p> <p>それに比べ、「3」は表題から意図的に大きく変えられている。22年6月版「要望」が、まっすぐに「統合型リゾート(IR)の横浜誘致活動により得た知見を活かした魅力的な施設の導入」だったのに対し、「意見書」の方は、「これまでの再開発プロジェクトにより得た知見を活かした魅力的な施設の導入」と、ひねくれた表現に変えられている。22年6月版「要望」には横商議のIR=カジノに対する未練・心残りが見てとれる。それに対し「意見書」には、IR=カジノに反対した市民の目が集まる。それを気にして表題を替えたのは、彼らなりの「努力」「苦渋の選択」なのかもしれない。しかしいずれにせよ、横浜商工会議所の「IR=カジノ隠し」以外の何ものでもない、「否定による肯定」のもっとも典型的な・鮮明な事例であり、証拠である。 つづく</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 36 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その16】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>▼学識者委員プレゼンの(1)今村委員のプレゼンテーションについて検討する。</p> <p>①まず最初に言っておく、今村委員は、同業他社(コンサル会社、デベロッパー、ゼネコン等)による東京都渋谷区と新宿区にまたがるスポーツ施設も存在し、先人たちが厳しい規制(景観維持)をかけて、100年守ってきた都心の緑一一を破壊する大「再開発」案件に対し、市民から起こった開発反対の大きな声に、影響を受けたのではないかと思う。当該地域は、全国の市民の協力・寄付により植林・献木された地域であるにもかかわらず、開発事業者が新たな「(再)開発」のために勝手に、献木された樹木を伐採する、という暴挙を厭わない計画を平然と出してきたことに起因する。これは、横浜市において林前市長が市民の意見を一切聞かず、強引に推し進めたIR=カジノ誘致と同じ構図である。 つづく</p> |
| 37 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その17】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>そこから得た今村委員の回答は、「市民参加」なのであろう。しかし今村委員が、本検討委のなかで「市民参加」を唱えたところで、当検討委には、一般市民は一人も参加できないのだ。市民が参加できないのは、今村委員の責任ではないのは百も承知ではあるが、氏が関わる状況下の検討委でいくら「市民参加」を強調したところで、空念仏でしかない、のは何の変化もない。かの米大統領・リンカーンの有名な言葉「人民の、人民による、人民のための政治」一一の言を借りれば、今村委員が訴えたのは「人民による」無き・抜きの、「人民のため」の「政治」でしかない。最重要なのは「人民による」である。必然、「市民参加」は「人民による」が実現してはじめてその意味が生きてくる。 つづく</p> |
| 38 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その18】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>②ちなみに、今村委員は「東京圏の都市開発と横浜」と題した話のなかで、「都市開発」をすすめる視点を・価値観を、これまでの「過去」と、これからの「今後」とを分ける必要がある、と説明していた。「過去」と「今後」とを分かつ岐点を、氏は、労働力人口の「増」から「減」に、国・自治体の財政「黒字・裕福(?)」から「赤字・逼迫」へ、「公共事業」から「官民共創」への移行、などとしていた。しかし、当方は上記①で述べた、都心の一等地に眠る再開発利権に対する市民の異議申し立て、横浜の場合は、IR=カジノ放棄を公約に掲げた市長の選出が、その画期、とする方がより正解にちかいし、わかりやすい、と考える。 つづく</p> |
| 39 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その19】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>③次に「開発ストーリー」を取り上げる。当方は「東京圏の都市開発と横浜」のなかで今村委員が説く「開発ストーリー」について、当該地域住民を惹きつける「事業性」としての「開発ストーリー」をどう描けるか、が重要と言っていると受け止めた。</p> <p>真偽のほどは不明だが、某行政機関主幹の助成金は、複数ある支給要件のうち他は達成するが、1点だけ僅差で未達となった場合、「ストーリー」を組立てて、当該助成金の設置目的に沿えば、例外的ではあるが一律に不支給としないケースもある、旨の話聞いたことがある。それに従い、同逸話から類推すると、今村委員の言説から導き出される「結論」は、「今後」の「東京圏の都市開発」の要件として氏が示した、「交流人口の吸引」、「地域経済活性化の誘発」、「交流人口の吸引・地域経済活性化の誘発」のうちいずれか一つでも未達であったとしても、 つづく</p> |

| | | | |
|----|-----|-------|---|
| 40 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その20】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>「東京圏の中で独自の立ち位置」が示せるだとか、今でいえば、「サステナブル」だとか「脱炭素に貢献」、「多様性に富む」とか、開発をすすめるうえでの「ストーリー」さえ格好がつけ(=デッチ上げれば)、実態が旧態依然であり、利潤最優先であったとしても、当該事業は選出され、実行に移され得る、ことになる。否、客観的な証拠・定量的な資料がないからこそ、ゼロから「有」を生み出せるし、事業者側にとって都合の悪い、利権や利潤第一など表面化させたくないことも容易に隠蔽できるのである。まったく便利で、重宝で、安上がりな「魔法の杖」だ。しかも有名アニメのネコ型ロボットがもつ4次元ポケットは空想の世界の話であるのに対し、こちらは実在するうえ、すでに各所で実際に行使されている(これから)。係る権限行使できる地位にいる、「上級国民(?)」の検討委員(1)や同(2)らはその代表。</p> <p>今村委員は、そういったことを何も知らない一般市民に暴露してくれた、正直な検討委員とすることができる。</p> <p>つづく</p> |
| 41 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第3回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 【その21】</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿</p> <p>〇〇 (60代男 鶴見区在住)</p> <p>▼当方が第2回検討委に対する意見書で申し述べた、市が提示した「ファクトシート」にした(隠した)、ファクトシートから目隠し(第2回資料4など)をした「瑞穂ふ頭=米軍ノースドック」の存在について、今回第3回目の検討委においても、前回とまったく同じ状況・取扱いであるのは、どういうことか!市民から「意見」を求めているが、単に「ガス抜き」のため、当該市民「意見」を聞くにとどめ、アリバイづくりのために市(事務局)の対応には、憤りを禁じ得ない。これはどうしたことなのか、当局の見解を聴きたい。</p> <p>最後にもう一点、本件検討項目と直接関係のない、どうでもいい、親子喧嘩など当方は見たくも聞きたくもないし、関わりたくもない。レフェリー役の検討委員長や、同委員らを選出した事務局(港湾局)が、かかる見苦しいシーンが二度と再現されることのないよう調整し、会議をコントロールするよう要望する。 おわり</p> |
| 42 | 港北区 | 70歳代 | <p>今村氏も資本投下・事業性の視点、アトキンソン氏も山下埠頭の開発を経済合理性での視点で述べていたが、北山氏が指摘した海辺として市民生活を取り込んだ土地利用をすべきで、まずもって横浜市民が次世代に『カジノは駄目と国策を否定した』明確なメッセージが欠落しては駄目です。また瑞穂埠頭が未だ返還されない『米軍基地は市民として許さない』との立ち位置を示す山下埠頭の土地利用を図るべきで以下3点を指摘したい。</p> <p>関東大震災で被災した横浜の瓦礫で山下公園が創られ、先頃の能登半島地震でも市民の生活が守られていない地震国である日本に於いて①市民370万の生活・暮らしを守る防災拠点としての役割②市民の落ち着いた憩いの場所としての役割は市民がカジノを否定したメッセージを取り込める③文化創造都市として世界へ各種情報発信、世界からの各種情報を取り込む『平和の大切さを世界に呼び掛ける横浜』の役割は特に米軍基地は要らないとのメッセージが確実に伝わります。</p> <p>そして何より委員の皆様には市民が参画する仕組み造りを構築し継続的に市民の生活向上に資する土地利用に焦点を絞った論議を積み重ねて欲しい。</p> |
| 43 | 金沢区 | ~10歳代 | <p>IRを建設して横浜を豊かにしましょう!</p> |
| 44 | 中区 | 40歳代 | <p>再開発地区の近くに住んでいます。今回動画を流してみました。まず感じたこと、おじさんばかりで議論して再開発が成功することはないだろうと残念な気持ちになりました。長く形式ばった議論。今時代が求めている流れとに遡っているようにしか見えませんでした。若者に早くバトン、渡して欲しい。あー、だめだと途中で見るのをやめました。開発メンバーをもっと若手の優秀な人材にバトンを渡して欲しい。せっかくの横浜の最大チャンスを最大限に活かしてほしい。お台場の二の舞になるのは避けたい。今後、期待しています。</p> |
| 45 | 中区 | 40歳代 | <p>1番まともなことをいってるのは外国人の人だった。もう、役人メインではなく外資か代理店、もっと若い優秀なメンバーに託すべきだ。外国人相手のエリアを作っていくのにこの年代の感性で成功すると思えない。失敗は許されない時代は先をいっています。もう60代では対応できない。頼みます。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 46 | 中区 | 30歳代 | <p>拝見しました 中で、インバウンドばかりではない、市民のための 市民のための。わかります。しかし、これから日本は衰退していきます。メンバーの中に今の外国で生活をしている人はいるでしょうか？外から日本をみてる人はいますか。世界では日本は貧乏です。給料も低く、可哀想だと言われています。横浜市民もこれから、高齢化していきます。若者も貧困化します。市民のことばかり考えていたらこの計画は失敗におわるでしょう。ニセコを見てくださいインバウンドに追いついていないかもしれませんが雇用は生まれ、街にパワーがある。白馬もこれから。横浜にはどこよりもその可能性がある。市民の目を気にしていたら、平均的な今までと変わり映えのしない、20年後にはさびれてる そんな予感がしてたまりません。今の日本は安さをもとめすぎている 外からみたら衝撃的です。富裕層にターゲットを絞り、長年続く開発にして欲しい</p> |
| 47 | 中区 | 40歳代 | <p>この場所の再開発は、今後の横浜のイメージを確定する重要な案件と考えます。自分は海外で暮らしてみて、現地の人々が日本に対して好意的イメージしか持っていなかったことに驚きました。しかし、横浜がどこだか知られてないし、港町であることさえ知りません。一方で日本=アニメが海外では当たり前です。近くの東京に観光で勝っていくならイメージ戦略が大事です。これまで横浜ではポケモンに関するイベントやゲームイベント、アニメに関連する観光地が多く、国内でのイメージ戦略は成功していると思います。海外に向けてのイメージ戦略は、横浜=アニメまたはポケモン+ポートタウンであれば競争性もなく、成功が望めます。このようにイメージ戦略を基盤としてそれに必要な事業を考えるべきかと思います。もちろんその事業も地元根付いた事業所と行うことで地域活性にも繋がります。これらの開発に公園なども含め、そこにもアニメのコンセプト含めれば一石二鳥です。地域活性、観光、防災を考慮したイメージ戦略をお願いしたいです。</p> |
| 48 | 中区 | 50歳代 | <p>すでに国際都市としての役割はある程度果たしていると思いますので、むしろ地元民が満足できる空間ができればよいと思います。敷地が広大なので、IKEAやコストコのような大型店舗を受け入れるなどすると、地元民はうれしいですし、観光客も帰りに買い物をして帰るなどできるかなと。少なくとも地元の主婦ではいつもこのような話をしております。</p> |
| 49 | 中区 | 40歳代 | <p>山下町在住の者です。毎日愛犬と山手からみなとみらいまで散歩していると、横浜の魅力に心打たれます。大棧橋から眺めると、右手にはみなとみらいの現代的なビル群、左手には山下公園、氷川丸、ホテル・ニューグランド、山手、ベイブリッジの風情が広がります。歴史的な山下町の趣を損なうことなく、さらなる美しさと魅力を追求め、かつ税金を見込める経済地域にデザインするバランスについて、委員会の皆様が悩んでおられることを感じます。私たち横浜市民が願うのは、100年後も誇りに思える横浜であり、歴史的景観を守り抜いた山下町です。コンクリートとガラスのビルが埋める都市空間は世界中にたくさんありますが、山下ふ頭はそのような場所ではあってはなりません。開港以来の歴史と連なる景観の一部として、ホテル・ニューグランド、氷川丸、山下公園と調和することは絶対条件として守って頂きたい。横浜にしかない、この歴史的景観と財産を際立たせ、世界に誇れる都市デザインを実現することが、横浜市民として訴えたいことです。</p> |
| 50 | 中区 | 20歳代 | <p>アトキンソンさんが言う「現役世代が将来的な社会保障費の負担増に耐えられるようにする」仕組みづくりが一番大切だと思う。 独立採算のとれてない公園や憩いの施設などを作って「これが将来の若者にはいいんだ」なんて言ってる高齢者は絶対将来の若者のことなんか考えてない。</p> |
| 51 | 戸塚区 | 30歳代 | <p>横浜にサッカー専用のスタジアムが必要です。 現在ある日産スタジアムは、陸上競技場のためサッカー観戦には不適切であり、横浜Fマリノスというビッグクラブを抱えているにも関わらず、集客面で問題を抱えております。また、コンサートなど他のイベントと併用していることから、芝が荒れており、とてもサッカーができる状況ではありません。 一方、サッカー専用スタジアムである三ツ沢球技場も問題を多く抱えております。同球技場は、施設が古く、観客席が屋根で覆われていないなど、Jリーグの基準を満たしておりません。 国際都市であり、大都市である横浜が、このような状況であるのは非常に恥ずかしい状況です。 (お隣の川崎市は、等々力競技場サッカー専用スタジアムに改造します) 山下ふ頭に、ぜひサッカー専用スタジアムを整備願います。これ以上陸上競技場は不要です。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 52 | 港北区 | 60歳代 | 先日、「横浜の都市づくりに関するワークショップ」に参加しました。令和7年（2025年）に改定予定の「都市計画マスタープラン」は、目標年次が2040年となっていますが、目標年次2050年である「都心臨海部マスタープラン」の上位計画に位置するものと市当局から説明を受けました。となると、山下埠頭再開発の検討に当たっても、この改定される「都市計画マスタープラン」および「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針等」が「ファクトシート」として委員諸氏で共有されるべきものと考えます。これまで3回行なわれた検討委員会では、この「都市計画マスタープラン改定」に関する話は一切出てきません。一方で、市会での副市長の答弁では、山下埠頭再開発が港湾局事案に留まることなく、全市庁横断的な取り組みで進めていくプロジェクトとして認知されています。今春に開催される第4回会議には是非とも、この「都市計画マスタープラン改定」を議論の俎上に乗せて頂きたいと念じます。 |
| 53 | 中区 | 30歳代 | 山下ふ頭再開発について 外国籍の方と接する機会が多い仕事をしており 横浜市中区に来る外国籍の方々から 次のような意見を聞きます 「山下ふ頭周辺には日本の文化や伝統芸能を体験できる場所がない、みなとみらいの景色は他国でも見れる、中華街についてはなんで日本に来たのに中華街なんだ、私達は日本の伝統芸能や文化を見たいんだ」 このような意見を基に提案するのは 日本の伝統芸能 歌舞伎、能、日本舞踊、侍、忍者や相撲(試合だけでなく一般が見れる稽古を含め)が見れたり体験できる複合施設を作る事を提案します。 |
| 54 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その1） ・市民意見の改ざん 市民からの意見を改ざんしないでください。どうしても変更したい場合は、本人に確認する必要があります。そのためには、投稿フォームに氏名と連絡先の記入欄が必須です。 |
| 55 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その2） ・ |
| 56 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その3） ・ |
| 57 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その4） ・ダダッピロバ 非公表の私の山下ふ頭構想には、直径450mのダダッピロバが描かれています。このアイデアは、中区にあったハウスが点在する広々とした芝生の占領地がヒントになりました。日本のごみごみした家並みとは対照的だったからです。 |
| 58 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その5） ・水族館と温室 非公表の私の山下ふ頭構想には、水族館と温室が描かれています。水族館は葛西臨海水族館、温室は夢の島熱帯植物館より魅力のある施設を造ります。両施設の目的は、市民と観光客に楽しんでもらうだけでなく、市職員にやりがいのある仕事を提供するためでもあります。上手な計画・運営をしてもらいたいと思っています。 |
| 59 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その6） ・食の博物館とドローン 非公表の私の山下ふ頭構想には、食の博物館とドローンが含まれています。博物館は民営で、横浜と全国の料理人たちが自慢の安価な料理を提供できる場です。ドローンは大阪と違い、3.4km離れている中央卸売市場から食材を運ぶために使います。 |
| 60 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その7） ・スパ 非公表の私の山下ふ頭構想には、スパが埠頭の先端に描かれています。このアイデアは山手に住む女性から聞きました。海水を利用する公衆浴場、水着で入るプール、たくさんの休憩ルームで構成します。温水は水族館と温室で再利用でき、休憩ルームは災害時の一時避難所になります。 |
| 61 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その8） ・読めない市民意見 傍聴時に配布された市民意見の文字が非常に小さくて読めません。紙を節約したいのなら、後からネットからPDFがダウンロードできるので、意見集を委員会で配る必要はありません。 |
| 62 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その9） ・狭い傍聴席 1回目のメルパルク、2回目のロイヤルホールでは、傍聴席がテーブル席でしたが、3回目の横浜シンポジウムではテーブルもなく狭いエリアに押し込められました。常に、傍聴人のことを考慮していただければと思います。 |
| 63 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その10） 竹内部長は第3回委員会で、「第1回の市民意見募集では、市民意見を反映し、それを踏まえ広く事業者から提案募集をするべきとの意見をいただいた」と言いましたが、この意見を言った市民の人数を教えてください。逆に、事業者提案は不要という意見もあったと思いますが、こちらの人数も教えてください。上記の数字を次回の検討会でお願いします。 |
| 64 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その11） ・日帰り客はゴミを落とすだけ アトキンソン委員は「日帰り客はゴミを落とすだけ」と言いました。竹内部長によると、横浜市の宿泊客と日帰り客の消費額割合は4対1、客数割合は1対8です。よって、全消費額は1対2です。日帰り客のほうが宿泊客より2倍のお金を横浜市に落としています。中区の老舗は地元の人に愛されているので、商売を長く続けています。鎌倉は人気の観光地ですが、宿泊客の割合はたった2%です。だからといって、アトキンソン委員が勧めるインフラ投資・整備を実施したら、鎌倉の特徴が消えてしまいます。横浜も同じです。中区で最も有名な代官坂から、昔は海も船も見えました。ところが、横浜市が規制緩和を実施した結果、山下町に高いビルがたくさん建ち並び、今では海がまったく見えません。それどころか、横浜のシンボルである高さ100mのマリンタワーさえも、谷戸橋交差点に建ったマンションで見えなくなりました。横浜市はアトキンソン委員が推奨するやり方で、横浜の特徴を消しているのがファクトです。 |

| | | | |
|----|----|------|---|
| 65 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その12） ・手不足な港湾局 北山委員と今村委員が「（山下ふ頭プロジェクトを）港湾局だけでやってもダメ」と言いました。私も前回の意見として「（山下ふ頭は）港湾開発ではなく街づくりなので、港湾局にその能力があるか疑問です」と指摘しました。専門の部署にバトンタッチするほうがよいと思います。放っておくと手遅れになるので、次回の検討会までに対応策をお示し願います。 |
| 66 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その13） ・委員の人選 関連地域団体の代表がすべて男性で、年齢も上の方ばかりです。トップが委員として参加する必要はありませんので、人選の見直しをお願いします。 |
| 67 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その14） ・羽田イノベーションシティ 今村議員は天空橋のコンベンション施設を含む羽田イノベーションシティをよい例のように言いましたが、何の魅力もない施設です。1周10分の自動運転バスは運用停止、水素ステーションはほとんど役に立ちません。仕事以外で、人が集まる場所ではありません。 |
| 68 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その15） ・港湾局による選択肢の限定 委員会の第2回とは第3回で、学識者から重要な発言がありました。幸田委員は「過去の方針はリセットすべき」、北山委員は「山下ふ頭に経済を頼ってはいけな」と言いました。私たちも、山下ふ頭再開発のホームページに掲載されている「横浜経済をけん引」の削除を要求しました。「横浜経済をけん引」は1つの選択肢にすぎないのに、港湾局が示すと、選択肢の限定になってしまいます。この問題を所管課に指摘しましたが、知らん顔です。何が気に入らないのか分かりませんが、結局、市民の声も学識者の声も聴く気がないのでしょうか。 |
| 69 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その16） ・横浜商工会議所 板倉委員は「横浜経済の活力を牽引が不可欠」と言いました。横浜商工会議所はカジノでも横浜市と足並みを揃えましたが、今回もまったく一緒に、前回のカジノ誘致の反省がありません。もっと自由な発想で、横浜のことを考えていただきたいと切に願います。 |
| 70 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その17） ・市民意見の説明が遅れた理由 所管課の皆様は私たちに「令和4年11月から5年2月までに募った市民意見を各委員に事前に説明した」と言いましたが、日時などを答えてくれませんでした。ところが、第3回の委員会で突然、市民意見の内容を説明しました。すでに説明したことをどうして委員会でもう一度説明する必要があったのかを、次回の委員会で説明願います。関連地域団体が新たに加わったというのは理由になりません。 |
| 71 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その18） ・山手の丘からの景観 北山委員は、1970年の都市デザインで港の見える丘公園からの景観を大事にしてきたことを説明しました。この考え方は、私たちが所管課の皆様を紹介した山手地区都市景観形成ガイドラインに書かれています。所管課の皆様は「参考にする」と言いましたが、必須事項です。一部の委員がインバウンドのための巨大ホテルを考えているようですが、これはガイドライン違反になります。ですから、委員全員にガイドラインを読んでいただく必要があります。たとえば、横浜市庁舎の向かいにある「ザ・タワー横浜北仲」というタワマンは景観違反です。なぜなら、山手の丘から見えるランドパークを隠しているからです。ところが、景観違反を都市整備局が意図的に見逃しました。イタリヤ山からの景観だけを都市美対策審議会に見せて、山手の丘からの景観に問題なしと委員に判断させました。このような悪質行為を2度としないでください。 |
| 72 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その19） ・考え方の基本 第1回の委員会から、東京湾全体、横浜全体、上瀬谷との連携、ランドデザインなど、テーマが拡大してしまう意見が多く出ています。石渡委員長代理も第3回委員会の最後に、「横浜全体の未来を振り返ったときに、今日があるなど言ってもらえるようなものにしなきゃいけない」と締めました。確かに、全体の中で山下ふ頭がどんな役割を担うかを決めることは意義があると思いますが、話が非常に複雑になってしまいます。そこで、山下ふ頭の構想が他の地域の手本になるのだという考え方で議論するほうが良いと思います。東京都がやっている摩天楼競争ではなく、多くの人が住む都市の中心部に何が必要かを議論すべきです。 |
| 73 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その20） ・計画プロセスの改善 私たちは計画プロセスの改善提案を提出しています。現在の複雑怪奇なプロセスとシンプルな提案プロセスをフローチャートで比較しています。このフローチャートは文字では表せないで、書面を港湾局に送りましたが、公開も検討もされずに、ゴミ箱行きのようなので、委員からも、港湾局の対応能力に疑問の声があがっています。 |
| 74 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その21） ・中区のグリーンベルト 中区には3km以上に及ぶグリーンベルトがあります。大通り公園、旧市庁舎跡地、横浜公園、日本大通り、開港資料館、山下公園、フランス山、港の見える丘公園です。ところが、三井不動産が旧市庁舎跡地でグリーンベルトを切断する事業を実施しています。非常に嘆かわしいことです。山下ふ頭はグリーンベルトを延長する選択肢を提供していますので、公園が最適解になります。 |
| 75 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その22） ・プロジェクトリーダー 私はたくさんのプロジェクトに参加したり見たりしました。プロジェクトの成功の鍵はプロジェクトリーダーが握っています。港湾局の誰がプロジェクトリーダーでしょうか。プロジェクトリーダーは実務と管理の両方ができる人でなければいけません。プロジェクトの実質的な責任者であるプロジェクトリーダーを決めて発表願います。 |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 76 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その23） ・市民からの意見文書の扱い 第1回と第2回の意見募集で、港湾局は市民から合計118件の文書を受け取りました。ところが、取りまとめには、タイトル表示だけで内容が分かりません。内容を公開しない理由を次回の検討会で説明願います。学識者の皆様、非公開は問題だと思いませんか。 |
| 77 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その24） ・意見の全文公開 横浜市パブリックコメント実施要領には「意見等を要約して公表した場合、意見等の原文を実施機関の事務所における備付けその他の適当な方法により公にしなければならない」と書かれています。市民意見の原文へのアクセス方法を山下ふ頭再開発ウェブページに記載願います。「パブリックコメントではない」「手間が大変」などを理由に、原文公開を拒否しないでください。 |
| 78 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その25） ・プロジェクト名 山下ふ頭再開発の「再開発」は限定的でイメージが悪いので、単純に、山下ふ頭プロジェクトに変更していただけないでしょうか。 |
| 79 | 中区 | 70歳代 | 山下ふ頭の釣り人（その26） ・市税が増えない理由 複数の委員が「みなとみらい開発は失敗」と言いました。私たちが「平成5年以降いろいろ開発をしているが、どうして市税収入が増えないのか」と質問したら、横浜市は「開発を行ったことが直ちに市税収入の増加につながるものでない」と回答しました。つまり、再開発は打ち出の小槌ではありません。不動産会社とゼネコンが儲かるだけです。 |
| 80 | 港北区 | 50歳代 | この検討委員会は、山中市長の附属機関であり構成メンバーに問題があります。 令和6年1月12日の第3回は地域関係団体も加わりました。 市民の声を聞くはどこにいったのでしょうか。 令和5年2月 井上市議の本会議の質疑どおり。ひとたび方針が決まれば、その通りに進んでいきます。 その後で市民の意見を聞くは詐欺です。方針が変わることはありません。 方針が決まる前に市民の意見を交えて、市民に選ばせてください。 横浜市のやり方は市民無視の傲慢。カジノIR誘致の反省はありません。 市民の生活よりみなとみらい地区の観光にぎわい。もうたくさんです。 |
| 81 | 中区 | 30歳代 | 横浜市の財政、今後少子化が続く事を考えると山下埠頭はIRにするべきです。カジノの利用は韓国のように外国人専用になればギャンブル依存になる可能性はありません。 |
| 82 | 港北区 | 50歳代 | 山下埠頭再開発検討委員会は、カジノIR誘致の振り返りの反省から行われていると理解していますが、また市民無視です。横浜市は変わりませんね。山中市長のうちに方向性を決めてしまおうという魂胆が見え見えます。 カジノIR誘致の振り返りですが、〇〇の〇〇がカジノにはまってしまった記事で、あらためてギャンブル依存症の怖さが国民に知れ渡ったところです。市民への説明、理解が足りなかったという実に失礼な締めくくりは撤回してください。横浜市は、間違っていたことがわかって、突っ走る。インパール作戦です。 |
| 83 | 港北区 | 50歳代 | 話の流れから、委員の構成にしても、港湾、経済常任委員会にしても。山下埠頭を投資の場にしたいように見えます。横浜市の経済効果の出し方は過大です。指摘しても治りません。（レシ活）投資してもらうために、市の税金で補助をしたり、交通整備をしたり、横浜市は、借金だらけです。観光、にぎわいと言うなら、景観は大事だと思います。 関内駅前が高層ビルが立ち並ぶ計画で、将来に禍根を残します。桜木町の新市庁舎は大きな財政負担になっています。 |

| | | | |
|----|----|------|--|
| 84 | 市外 | 70歳代 | <p>「山下ふ頭再開発新たな事業計画策定に向けた意見」に寄せての提案です（文字数制限のため3回に分けて提出します）1/3 タイトル：more yokohama all yokohama サブタイトル：歴史の復興と文化の継承、いまそして未来へ 一時の蓄積・重層化と場の創出ー 提案の背景：1. 時間が蓄積・重層化されない日本の都市・日本の大都市の中心部はこの数十年に忽然とできた街だと言われても信じてしまうほど新しい建物で埋め尽くされています。古い建物を壊して次々に新しい建物がつくられてきています。現在ますます大型化して繰り返されています。・その原因は震災や戦争による破壊によるものであったり、都市の急成長によるキャパシティ不足を補うために作り替えられたりしてきましたが、それだけでは説明できない速さと数で建物のスクラップ&ビルドが繰り返されています。・一方ヨーロッパではローマ時代からの建造物が現存し、パリもロンドンもウィーンもマドリードも19世紀以前の建物が残る街並みを形成し、いまも使われています。ローマ大学には建築歴史修復学科があり、現存している建造物の修復し使用できるようにいまの問題として研究しています。ブダペストでは戦争で壊滅的に破棄された街並みを前にあった通りに復元したと地元のガイドが誇らしげに語っていました。・どうやら日本人と欧米人とは文化や習慣・生活スタイル等の継続性についてのこだわりや価値感が大きく異なっているようです 2. いままでの大規模開発の傾向・いままでの大規模開発の多くはその規模等のために大手企業主導で進められ、なぜその場所なのか？なぜその計画なのか？なぜいまそれなのか等々という疑問が生じるようなプロジェクトも見受けられました。・もう一つの問題点は地元の意向の反映や参加が難しかったり限定的だった傾向があることです。 3. ヨコハマの街の成り立ちが見えない・ヨコハマは約160年前に開港地としてできた街ですが、震災前の建物は数えるほどしか残っていません。そのために歴史的な出来事でき反映したという特徴的で独自性のある街だったことを知ることができない。・関内エリアは震災以降の建物は市民や行政の努力で他の都市と比べて保存されていますが、埋め立てによって海（港湾）が生活圈から遠くなり、湾施設やその周辺施設が縮小するなどで港町ヨコハマを感じにくくなってしまっています。</p> |
| 85 | 市外 | 70歳代 | <p>「山下ふ頭再開発計画新たな事業計画策定に向けた意見」に寄せての意見です（2/3） 計画の概要：1. ヨコハマの歴史の復興と文化の継承・開港当時からハマカジ・ハマトラのヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代までの失われてしまった建物・街並みと文化・生活・風俗等を再興し、開港地そして港ヨコハマの移り変わりを楽しみながら体験する施設・仕掛けを山下ふ頭につくろうという提案です・ホテル・店舗・飲食店・演芸場・映画館・銀行・郵便局等々を復元し、その時代時代の生活・文化を再現し、都市の変遷を体験することができます・あらゆる分野でバージョンアップ・リニューアルが進み、たとえばこの数十年の間にレコードがテープにMDにCDにそして音楽配信に変わってきました。建物を含めて全ジャンルで生産方法も材料も変わってきて、過去のを復元することが難しくなっています。技術を継承するには職人（技術者）・道具・材料の確保が必要で、いまが最後の機会かもしれません・ヨーロッパの都市の中心部は歴史的建造物で形成されているのではないかと見えますが、日本では様々な原因でスクラップ&ビルドが繰り返されて、都市が時間の蓄積や重層化されてこなかった。ならばリアルな街の中に壊してしまった建物を再興して古い街並みをつくろうという日本ならではの手法です。 2. 山下ふ頭は最適地・赤レンガ倉庫・大さん橋・山下公園・氷川丸そして山下ふ頭と連なり、港町ヨコハマゾーンが形成され最適地です。・バンド（海岸通り）を海沿いにつくったり、山下ふ頭内に堀川や船着き場をつくり直接お店に船でアクセスできたりします。ヨコハマには舟遊び文化がありませんでしたが、新しい楽しみ方を提案します。 3. 歴史のワンダーランド・民族博物館をリアルな都市につくってしまうようでもあり、ディズニーランドやジブリパークのように楽しみながらむかしにタイムスリップしてむかしを知り街の変遷を知ります。・再興された建物で実際に飲食・物販・郵便局・銀行もむかしのスタイルで営業します。またむかしの中街や山手にあったビール醸造所も再興します・地上のワンダーランドを円滑に効果的に演出するために地下を活用します。地下に人・物流通路・バックヤード・倉庫・駐車場・都市防災施設等を設けます 4. その他・新しい事業が継続性を持つためには、事業収支計画を練ることは必須です。</p> |

| | | | |
|----|----|------|---|
| 86 | 市外 | 70歳代 | <p>「山下ふ頭再開発計画新たな事業計画策定に向けた意見」に寄せての意見（3/3）</p> <p>補足説明：1. 日本は明治以降の建物だけでなく生活様式（スタイル）まで変えてしまっています</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパでは19世紀前の建物に住み、スタイルの変化はあるが洋服を着つけ、食べるものの大きな変りもなく、生活スタイルの大きな変化はなくいまに至っているように見えます ・一方日本は明治以降でも建物は和風から洋風に、着るものは和服から洋服に、食べるものは和食から洋風・パンその他のいろいろな国の料理が加わり、間取りも変わり、床に座って食べて寝て勉強していたのがテーブルやベッドやデスクに変わるなど生活の根幹にかかわる衣食住すべてわたって変わってきていますが、これほどまでに変えてしまっている民族はほかにいるでしょうか。 <p>2. AIや量子コンピューターの実用化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の進歩等により世の中が大きく変わる時代が到来するのではと思われます。 ・都市や建築でもこの数十年間で大規模化大型化が進行していますが、この傾向は後数十年続き、その後はコンクリート・鉄骨・ガラスに変わる材料が開発され、建築もいまとは全く違う材料でつくられ都市も全く違ったものになっていくでしょう。 ・まだ古い技術がかろうじて残っているいま歴史的建造物を再興することは、技術の継承を含めて意義があることと思います。 <p>3. 山下ふ頭の歴史的街並みと周辺エリアの共存関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たにできる歴史的街並みをつくることにより、周辺エリアをそれぞれ特徴的な魅力ある街並みに誘導して、一層魅力的な計画になると思います。 ・みなとみらいエリアは名前の通り、自動運転や自動配送やドローンの活用等をはじめとして来るべき時代の要請の実証的研究の場として、積極的に新たな都市のあり方を提案していきます。 ・関内エリアは商業・観光をはじめとして街に開かれた都市空間にしていくようにします。 ・オープンカフェ・フリーマーケット・屋台。 ・キッチンカー等で街歩きが楽しめる街並みにしていきます。 ・日本大通りは縁日やイベントやオープンカフェ等があり、川沿いは博多の屋台があり、昼も夜も楽しく街歩きがしたくなる仕掛けを考えます。 <p>4. MORE YOKOHAMA ALL YOKOHAMA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当計画は一見地味に見えますがヨコハマの知識・叡智・行動力・面白がるころ・愛情等によって魅力が増す計画だと思います。 ・山下ふ頭の再開発事業ですが、ヨコハマの成り立ちや経緯を知るだけでなく、市民がつくる再開発計画ですのでMORE YOKOHAMA ALL YOKOHAMAです。 ・いままでこのような再開発はなかったのではないのでしょうか。 <p>5. 長崎も出島を再興するとかも同じ流れで面白いのではないのでしょうか。街並み再興プロジェクト。</p> <p>※この意見書は申込番号26293555と47951517の続きで、3枚で一つの意見・提案です</p> |
|----|----|------|---|

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 87 | 青葉区 | 70歳代 | <p>【日本文化の殿堂】の建設を提案します</p> <p>和文化きもの ○○の会 ○○屋号にも表しているように、私は着物のことに携わって約20年。何となく始めた着付教室から、今では、着付師として年間約100人の人に、花嫁衣装から振袖、袴、訪問着、お子様の七五三の着物、男性の着物や紋服など、あらゆるお着物をお着付けさせていただいているのと共に、着物に関しての相談アドバイスも致しております。そういった中で非常に危機感を持っているのが、日本の伝統的着物文化が、人々からどんどん遠ざかっているという事実です。着物整理帖など作成し、筆笥などに眠っている着物などを蘇らせて、活用してもらい、継承伝承していくことを目指して「蘇活継承」の言葉をモットーに取り組んでいるところです。それでもなかなか進まず心も折れそうになりながらも、進める道を探しながら頑張っているのですが、そんな中、こちら「山下埠頭の再開発」の中の一つとして検討してもらいたく、提案させて頂きたいと思っております。それは日本文化 展示、体験型の会館（ミュージアム）をぜひ横浜のこの地に作って欲しい！！という願いです。その大まかな内容は、次のようなことを考えています。（現段階での一構想ではありますが）</p> <p>1階：子供の遊び場（昔からの日本の遊び）竹馬・駒回し・ビー玉・まりつき・竹蜻蛉・その他手軽に、気軽に遊べる遊び場とそれらを作る体験の場所 1階というのは、子供の遊びはやはり土や水、植物などの自然との触れ合いの中で行うことも大事だと思います。屋内と外とが簡単に出入りできる作りが望まれます。一方でカルタや折り紙その他の部屋遊びもあるかと思っております。</p> <p>2階：日本の行事と料理 曆に合わせた行事・・・1月はお正月、2月は節分、3月はひな祭り、4月5月は端午の節句 6月は7月は七夕8月9月10月 11月12月*それ等の謂れや、各地での風習なども取り上げたいところです。通過儀礼としての行事・・・赤ちゃんの誕生 お七夜 お食い初め 七五三祝い 結婚式 歳祝い（還暦・喜寿等々）お葬式といった数々の通過儀礼のしきたりとその謂われを知る、それに合わせた料理：各地に伝わる郷土料理なども提供。簡単なものであれば体験できるコーナーもおにぎりや簡単な和菓子、大福とかは作って食べる体験コーナーなどを設置</p> <p>3階：ここに日本の伝統文化を一堂に集めて、紹介・体験・販売の場所とする。着物・茶道・和菓子・書道・華道・居合道・柔道・剣道など、日本の伝統文化に裏打ちされている文化的なことの、体験・教室・ショーなどを通して、日本人も外国人も楽しみながら日本文化に近づいてきてくれるセオリーを考える。それぞれの所の運営は、横浜市はもちろん、文化人の方々の他、日本文化の伝統、継承に賛同できる事業者や個人で話し合いの元、交代制で行っていく</p> <p>4階：日本各地の伝統的なものを紹介、販売する店舗を入れる</p> <p>5階：日本の料理の店舗を揃えて、食堂街とする。身近なお店（家庭的な料理やさんから、雰囲気のある高級料理屋さんまで）会席料理から、地方独自の料理、寿司屋さん、などなど。</p> <p>上記内容はまだまだ不十分であることは承知の上での提案です。 コロナもとおりあえず鎮静して、インバウンドの外国人の方は増える一方です。そんな中、日本での目的がただの観光ではなく、日本の自然も含めての日本らしさを求めて来日される方が増えているということのようです。日本らしさとは日本の四季の移ろいの中で感じてきた日本人の感性が長い歴史とともに息づいていることへの憧れだと思われるのです。そこには、日本らしい各地の自然の風景はもとより、そこから生まれ出た日本の文化を一堂にして感じられる素敵な場所として、このような【日本の伝統文化の殿堂】をぜひ横浜に作って欲しいのです。 現在「よこはま」は外国人の観光客の通過地点でしかないのが、何とも寂しく、悔しいのです。通常に私たち日本人が和を求めて行く場所としても是非欲しい施設です。運営も市民一体となって行えると、さらに価値あるものにもなると思っております。日本の伝統文化を次世代に伝承し、継承するためにも、実現できることを切に望みます。</p> |
| 88 | 港北区 | 70歳代 | <p>私達の住む横浜のど真ん中に米軍が使用する瑞穂埠頭があり、朝鮮戦争やベトナム戦争の後方軍事拠点となり1972年にはベトナムへ運びこまれる戦車の輸送を市民・反戦団体により村雨橋で阻止したことを思い出して欲しい。 岸壁から30mの海域は立入禁止海域となっており今年に入り沖縄南西諸島と連携する陸軍揚陸艇部隊が実戦配備された現状で、山下埠頭をどのようにに活用するかは言うまでもなく私達市民として『平和』を希求している旨をしっかりと次世代に伝えるメッセージ・内容となる事業を打ち出し、港の軍事利用は横浜だけでなく日本の何処にも不要である事をコンセプトにすべきと思慮します。 ゼネコンが横浜各所で見受けられる公有地を一括地上げし収益の対象にする利活用は容認出来ません。公有地にカジノを開設し収益を上げることを明確に否定した私達市民は投資を呼び込む等の開発用地ではなく市民の共有地（コモン）として文化創造・憩い・生活・防災の場所として利活用すべきでしょう。そして未だに瑞穂埠頭を接收して戦争を呼び込む米軍の軍事基地化にNOを明確に示す内容とすることが私達の市民の役割です。</p> |

| | | | |
|----|------|------|--|
| 89 | 港北区 | 60歳代 | <p>寺島委員長が繰り返し言及する「市民参画」とは、いったいどのように具体化されていくものなのか、大いに注目しています。山下埠頭再開発プロジェクトが「上から目線で」与えられたものではなく、「市民参画」のできるようなものを「意図」したい、との委員長の発言内容が日の目を見るように、市当局には格段の配慮をお願いします。地元の地域関係団体からの意見聴取だけで「市民参画」が終わるのではないことは言うまでもないでしょうが、委員会が答申するという山下埠頭再開発の「方向性」と「付加価値」を議論する場に、経済界の地域関係団体を呼んだからには、もっと広範な層から種々の団体をも呼ぶのが、「市民参画」の第一歩でありましょう。行政は経営とは違うし、また再開発と言っても経済主導とは限らないし、今時、経済成長に囚われる市政運営は時代錯誤なのですから、医療、介護、子育て、教育、芸術、スポーツ等の分野からも地元で活動している団体の声を聞くべきです。北山委員が提起していたように、委員会の立て付けに関しても再考の余地があり、検討委員会の中に、あるいは検討委員会と並行して、市民が意見を述べる場の設置が不可欠ではないでしょうか。市会の常任委員会でも、副市長の「できるだけ多くの市民意見を踏まえた意思形成ができる工夫」との発言、また山下埠頭再開発調整室長の「スケジュールよりも、市民の意見・理解に重きを置いて」との約言がありました。この点で、今般市民有志がまとめた提言書「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」の扱いは、極めて重要な検討案件となります。市民を決して置き去りにしないという、市当局の初心にも鑑みて、山下埠頭の一角に市民協働の場を要望している市民団体からの具体的提案にも積極的に耳を傾けるくらいの「開かれた」委員会の運営をして頂きたいものです。この提案が呼び水となって、他の多くの市民団体による具体的な提案が陸続として上がって来れば、「市民参画」は大いに進むものとなりましょう。まずは、この提言書に基づく市民代表によるプレゼンの実現を検討委員会に求めます。</p> |
| 90 | 港北区 | 60歳代 | <p>地域関係団体委員の意見書のうち、横浜商工会議所の「意見書」は、当然のこととは言え、経済に特化した内容でした。山下埠頭再開発が「観光産業等のリーディング・プロジェクト」として「横浜経済の核となる活性化拠点の形成」となることを求めています。そして、この意見の方向性をより強く打ち出したのが、東急総合研究所会長今村委員のプレゼンでした。「東京圏の都市開発と横浜～新しい流れに沿って～」というプレゼンの見出しがすべてを語っています。開発目的に「国際的な交流人口を吸収し、地域経済の活性化を誘引する」、開発資金に「国際的な投資資金を主役に吸引」を掲げて、人と金の双方でのインバウンドを当て込んだ横浜経済の金儲けの話です。「新しい流れ」とは詰まるところ「インバウンド依存」です。少子高齢社会、人口減少社会という時代の転換期にあって、インバウンドに活路を求めて、経済を回していく。確かに経済は物質的な充足を与え、それに伴って一定程度の心の充足を齎すことは否定できないでしょう。しかし、人間の幸福はそんな底の浅いものではない。一つの事業に関して、参画、協同、創造という一連の営みから生まれる心の充足こそが人間の幸福には不可欠です。市政への市民の参画、行政との協同、創造的価値の創出。行政による上から配給される福祉だけでは、市民の福祉、幸福は決して成就しない。市民の幸福には市民のコモン（共有材・公共財）の再生が必須であります。山下埠頭の一角に横浜市民の現代版「里山・里海」たる「入会地」を設けて、何世代にも亘って市民が「手入れ」をしていく。インバウンドや観光のために都市があるわけではありません。都市は住民のためにある。日本の代表的な観光地京都の都市（まち）づくりは観光客目当てに行われたものではありません。都市の魅力は、そこに居住し生業を営む市民の佇まいとしてのコモンの放つ吸引力です。京都には千年以上に亘って営まれてきたコモンがある。コモンあってこそその観光、住民あってこそその都市です。北山委員が指摘していた、資本の活動とは切り離された「自然とコミュニティとの共生」は、コモンの再生と密接不可分であり、「未来の横浜市民のための固有の文化を表現」する都市（まち）づくりとはコモンの再生に掛かっていると言っても過言ではありません。そうした観点から見れば、この度市民有志によって編まれた提言書「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」は、提言書作りそのものからして市民参画であり、提言書の打ち出す方向性は、正しく市民の参画、協同、創造を体現しようとするものであります。その内容も、横浜の自然的、地理的、地形的特質と人為的、歴史的、社会的特性との両方を踏まえています。過去を受け継ぎ未来へと繋ぐ今の横浜のまちづくりを進めるのに示唆に富んだ説得力のあるものとなっています。開港165年の水都・海都である横浜の都市（まち）づくりの核心にコモンの再生を掲げるべく、「市民共創」を謳っています。曰く、「海と街の有機的なつながりを取り戻し、将来につづく、豊かな横浜」「市民が考え、市民がはぐくむ、山下ふ頭の未来」と。この方向性を検討委員会並びに市当局は尊重して今後の議論に生かして欲しい。文明の転換期にある今、提言書に言う「市民共創エリア」の創出が横浜の未来を切り拓く鍵となります。</p> |
| 91 | 神奈川区 | 40歳代 | <p>コストコを作ってください！よろしくお願いします！</p> |

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 92 | 都筑区 | 30歳代 | <p>山下ふ頭への交通について提案します。山下ふ頭は横浜駅や関内駅等駅から遠く、必ずしもアクセスがいいとは限りません。そこで、横浜駅からみなとみらいを通り、山下ふ頭まで新交通でつなぐことを提案します。山下ふ頭に行きやすくなるだけでなく、みなとみらい含め、観光や通勤通学が便利になります。</p> <p>宇都宮市で大成功しているLRT、秦野市で実験され今は相馬市で実証実験している自走式ロープウェイ Zippar、YOKOHAMA AIR CABINを運営している泉陽興業が提唱しているエコライド等があげられます。</p> <p>交通の便がよくなり脱炭素につながり、さらに最先端の交通で、横浜市全体の利便性や発展につながります。</p> |
| 93 | 神奈川区 | 40歳代 | <p>コストコをお願いします！</p> <p>幅広い層が利用しやすいです！</p> |
| 94 | 中区 | 20歳代 | <p>山下町に住んでいます。20代女性です。赤レンガから山下公園にかけての美しい海岸沿いは世界に誇れる景観だと思います。山下ふ頭を目先の経済合理主義的で台無しにすることはしないで下さい。文化、美術、教育に重きを置き、人間的な豊かさを追求する横浜市であって欲しいと願っています。海と緑に囲まれた美術館（文化施設と教育機関も併設）がこの土地に出来たら、世界で活躍する若者を輩出し、世界から訪れられるヨコハマになると思います。ご検討下さい。何卒よろしくをお願いします。</p> |
| 95 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>第3回「山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合」を傍聴しての意見 その1 第3回検討委員会から4か月が経った。第3回会議は、地域経済団体の委員が初めて参加する会合になり、委員のプレゼンも経済を重視して積極的に再開発を推進すべきという意見が出されたのが特徴だった。ただ、この期間にはいわゆる予算議会があり、山下ふ頭の問題でも市会本会議および委員会での質疑がなされた。また注目すべきは、山下ふ頭のあり方について市民サイドから提言書が発表された。いずれも第4回会議以降の議論を進めるうえで考慮すべき重要な事案である。今回はそれらも踏まえて感想、意見を述べたい。1、第1番目に今村委員のプレゼンについての感想、意見を述べる。渋谷再開発にも関わっていると思われる東急総研会長が山下ふ頭の再開発についてどのような「方向性」を提示するか、大いに関心を持って繰り返し聴いた。委員の言わんとするところは、「東京圏の都市開発と横浜～新しい流れに沿って～」というタイトルに集約されていると感じた。まず、最近の東京圏の都市開発は、人口急減時代におけるものであり、過去の人口急増時代のものとは大きく変化していると指摘された。すなわち、都市開発の「目的」については、「国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発する」ことであり、また「資金集めの方法」も「国際的な投資資金を主役に吸引」できるようになった。したがってもっとも重要なことは「プロジェクトの事業性において説得力ある開発ストーリーの組み立て」であるとして論を展開された。東京の大規模再開発をけん引しているシンクタンクの会長らしく、自信に満ちた率直なプレゼンだった。だが結論的に言って、今村委員が提示された「方向性」に沿って山下ふ頭が再開発されることになれば、短期的には地域経済にいくらか刺激にはなっても、市民が誇りとする「横浜らしさ」は壊され、市民生活の豊かさなど実感できない、持続不可能な都市に変貌するのではないかと、市民意見募集の結果に示された市民の願望に反するものにならざるをえないと大きな危惧を持たざるをえなかった。なぜなら第一に、開発の「目的」については「地域経済の活性化を誘発する」と言うが、そもそもどのような都市づくりを目指すのか、肝心の「理念」については全く述べられていない。この点に大きな違和感をもった。戦後の横浜の都市づくりは、1963年の飛鳥田市政時代から始まる6大事業を軸に、「都市デザイン」としての展開も含め50年以上の歴史を持つ。飛鳥田市政は「国際文化管理都市」という新しい都市像と、「誰もが住みたくなる都市づくり」「市民による都市づくり」という明確な理念を掲げ、6大事業のプロジェクトを市民に示して、市民と共に横浜をつくってきた。そのために、市民向けのパンフレットをつくり、議論し、周知した。それは高度成長期、人口急増期の都市づくりの先進例として全国的な評価を受けた。北山委員の都市デザインのプレゼンでも強調された通りである。それゆえプロジェクトに直接参画した人々はいまでもなく、多くの市民がこれまでの横浜の都市づくりに愛着と誇りを感じているのである。そこへ国政を握る「ハードパワー」がカジノ誘致を強引に進め、「横浜らしさ」を台無しにしかねない挙に及んだ。横浜市民は怒り、市長選挙で「鉄槌」を下した。それを一部の委員が言うような「ボタンの掛けちがいがい」などと曲解されてはたまらない。こうした体験をもつ市民が、検討委員会のメンバーに対して、これまでの横浜の都市づくりをどのように評価しているのか、これからの都市づくりはどのような「理念」でやろうとするのか、大きな関心をもつのは当然であろう。だが、今村委員は、こうした市民の関心に真っ当に答えていない。「国際交流都市を先駆けた160年の歴史」も「独自の都市文化」も、「説得力ある開発ストーリー」の宣伝文句にすぎず、いわば刺身のツマのようなものでしかない。少し考えれば解ることだが、「資金の主役に吸引」しようとしている「国際資本」にとっては、「事業性」つまりは金儲けになるかどうかすべてである。これまでの横浜の都市づくりの歴史も、これからの「理念」も、そこに住む市民の生活など眼中にないのである。生き馬の目を抜くような貪欲な「国際資本」、ヘッジファンドは、金もうけできると見るやリスクをとって投資するが、そうでなければ投資せず、投資していても瞬時に売り飛ばす。山下ふ頭の再開発はそうした金融商品の一つにすぎない。そうした「国際資本」の投資に頼るといふ今村委員が、都市づくりの「理念」を語れないのは、当然ともいえよう。その2につづく</p> |

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 96 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>その2 第二に、そうした「国際資本」頼みの、「理念なき」都市開発はどのような都市に行きつくか、われわれはさらに問わねばならない。結論から先に言えば、「国際資本」頼みの大手デベロッパーのなすがままにつくられる都市は、「短期的利益の最大化」が目的である以上、経済的合理性の圧力がかかり配置が「適正化」され、多様性のない画一的で、どこにでもある都市に変貌せざるを得なくなる。論より証拠、今村委員がかかわっている、東京都心部における大規模再開発の現実がそれを物語っている。2023年12月31日付の「東京新聞」は、一面トップに「東京変貌100年に1度の再開発」の見出しで、その様子を掲載している。オリンピックを機にギアチェンジした「東京大改造」は、昨年も続き「羽田イノベーションシティ」が全面開業、330メートルの日本一の高さを誇る「麻布台ヒルズ・森JPタワー」がオープンした。今年に入って、築地市場跡地の事業者選定、「渋谷サクラステージ」の全面開業、常盤橋日本橋川、日比谷公園周辺、中野サンプラザ跡地など、2024年以降に計画される6つの再開発計画が動いている。今村委員によれば、2050年までの計画があるという。だが、こうした再開発によって、いったいどのような都市ができてくるのか？検証してみると、東京都心部は廃都に向かって直走しているとしか言いようがない深刻な事態が進行している。短期的には「事業主体の大企業にエリア価値向上や経済活性化などの恩恵」をもたらしているが、引き換えに都民生活の豊かさや地元の営業が犠牲にされ、東京のこれまでの魅力が失われ、高層ビルが林立する単調で持続不可能な都市へと変貌しつつある。それはなによりも、地元住民の激しい抵抗が物語っている。明治神宮の森の伐採に対する幅広い反対運動をはじめ、秋葉原の電気街や板橋区の大山商店街など住民が反対運動に立ちあがっている。都民は環境破壊に対して、生活の豊かさや営業が奪われることに怒り、民主主義、市民自治に反するトップダウンの進め方に怒り、東京の魅力が壊されていくことに怒っているのだ。より深刻なのは、人口急減時代にあって東京が「ブラックホール型」都市に陥っているという事実である。「人口戦略会議」の報告書が警告した。2050年には全国自治体の4割が「消滅可能性自治体」になるとの予測と併せ、東京23区のうち16区において若年女性人口の減少率が50%を超え、出生率も低く、他都市からの人口流入に依存しなければ持続できなくなる自治体と発表された。都心部で「短期的利益の最大化」を追求する大規模再開発の帰結である。それは、人口急減時代に東京一極集中、地方衰退の日本の国土政策が持続不可能な危機に直面していることを示す新たな指標である。さらに深刻な事態は、供給過剰による都心部におけるオフィス賃料の低下と空き室率の悪化にも表れている。空き室率はすでに危険水域の5%を超えて6%台となり、27年には7.2%まで悪化するとの予測もある。不動産(オフィス)市場そのものが崩壊の危機に直面しているのだ。以上の検証からでも、都心部で推し進められている大規模再開発の行き着くところは明らかである。人口急減時代、加えて「地球沸騰」の時代に人が安心して住める都市として生き残るのは到底無理である。今村委員が提示された「方向性」に沿って山下ふ頭、まして横浜のグランドデザインを再調整して都市再開発を進めるなら、東京都心部の再開発の「新しい流れ」が行き着くところと同じようなものにならざるをえまい。その流れに取り込まれ、競争に勝ち残ったとしてそれは、横浜市民が望む都市とは真反対のものである。第三、今村委員のプレゼンは図らずも、これからの都市再開発を誰が何のために進めるのかという根本問題を焦点化させた。20年前から、「不動産の証券化」の制度創設によって、海外投資家がわが国の都市再開発に自由に投資できるようになった。この投資マネーを「主役に吸引する」、これがミソである。今村委員は、それによって自治体財政に負担をかけない、資金集めの方法が見つかった、最近の東京大規模再開発は彼らによって支えられていると自慢げに報告された。だが、国際的資本の投資マネーを吸引すればするほど彼らの発言力は増し、主役となって都市再開発を推し進めることになるのは明らかであろう。すでに海外の投資家、ヘッジファンドは、年間4兆円にもものぼる事業用不動産市場のうち1兆円を投資していると言われている。彼らは、欧米諸国に比して開発規制が緩く、大規模金融緩和で円安が続く東京圏を最大の獲物と見て、投機マネーを集中しているのだ。その3につづく</p> |
|----|-------|------|--|

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 97 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>その3 だが、批判されるべきは彼らだけではない、東京都心部の再開発を推進している中心は、自らも不動産投資ファンドをもつわが国の大手デベロッパーである。彼らは、世界的に新自由主義が横行し始めた1980年代から中曽根「民活」を受けて都市開発の分野に参入し、2000年代初めには、小泉政権の「官から民への改革」の流れに乗って主役に躍り出た。安倍政権の「日本再興戦略」ではさらに勢いを増し、今日の東京大改造の主役を担っている。三井不動産、三菱地所、東急不動産ホールディングス、住友不動産、野村不動産ホールディングス、森ビル、等々である。さらにわれわれはもう一つの元凶をあげなければならない。これら大手デベロッパーの意を受けて政治、制度面でバックアップしてきた歴代政権と、それに追従した東京都政である。彼らがどんなやり口で次から次へと、都市計画、建築規制を緩和、撤廃してきたか、筑波大学研究グループがまとめた『協働型都市開発』に詳しい。1980年代の中曽根政権の「アーバン・ルネサンス計画」「首都改造計画」による「国有地の民間払い下げ」「高度利用による容積率緩和」から始まって、2000年代の小泉政権による「都市再生特別措置法」、「都市再生緊急整備地域」等を経て、安倍政権による「世界と戦えるための国際都市の形成」「国家戦略特区」と段階を画して「大胆な規制・制度の緩和」を推し進めた。加えて、手厚い「税制の優遇、金融面から支援」も図っている。東京都政、とりわけ石原都知事から小池都知事に至る都政は、国政でのこうした特例制度・特別措置を最大限活用してありとあらゆる方策を駆使し、大手デベロッパーに法外な「便宜」を図った。結果、「国家戦略特区」割増容積率の中央値は600%にまで跳ね上がり、870%、高さ360メートルの超高層ビルも計画されている。当初、容積率拡大の制約条件でもあった「公共貢献」は、限りなく多様化し、大規模化し形骸化している。米欧諸国では、開発地域における市民が入手しやすい「アフォーダブル住宅」の建設などが義務づけられているが、日本にはそうした規制もなく、タガが外れる一方である。ここで横浜市もすでに、その方向に踏み出している事実を指摘しておかねばならない。2002年の都市再生特別措置法を受けて2003年以降今日まで、みなとみらい21地区を中心に高さ100～200メートルを超えるタワーマンションが20棟以上も乱立し、スカイラインを壊し、横浜を象徴する3塔が海から見えなくなっている。唯一の「既存計画」として提出された「都心臨海部再生マスタープラン」は、2014年の「国家戦略特区」の指定を受けて計画された。以上から、この40年間、東京都心部の大規模再開発を推し進めた人々と都市の実相が明らかになった。論を戻すと、今村委員はこうした人々、集団によって山下ふ頭、横浜の再開発を推し進めるべきだと言っている。「市民参画」は、全くのお題目に過ぎない。そういう意味で、今村委員のプレゼンは、これからの山下ふ頭、横浜の都市づくりを誰が何のために進めるのかという根本問題に違いがあることを焦点化してくれた。カジノを止めたわれわれ市民の態度は、明快である。今村委員が連携する人々、集団に都市づくりを任せるわけにはいかない。われわれはこれまでの横浜の都市づくりに「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、知見と力を持つ市民参画によって、歴史的転換期にふさわしい市民生活の豊かさが実感できる、持続可能な都市づくりを推し進める、これが回答である。検討委員のすべてのメンバーは、立場を明確に示していただきたい。ほかに今村委員は、山下ふ頭の再開発の検討に当たって広い視野で臨み、横浜の都市像、ランドデザインが必要であること、したがって、港湾局だけでなく、横浜市が総力を挙げた体制で取り組むべきことなど発言された。立場は異なるが私もその部分には同感で、第1回目の検討委員会に対する意見から述べてきている。この点も付け加えておきたい。2、2番目にアトキンソン委員のプレゼンについての意見だが、長くなったので別の機会に述べる。ただ、彼のプレゼンにもこれまでの横浜の都市づくりについての評価も、都市づくりの「理念」もなく、「経済合理性」だけが強調された。ここでは市民として批判的意見を持っていることだけを表明しておきたい。3、横浜商工会議所の坂倉委員の意見書についても、別の機会に譲りたい。ここも一言だけふれる。今回説明された6項目の要望は、一昨年6月20日に横浜市に提出されたものだが、全体の前置きとして「統合型リゾートIRに匹敵する大型プロジェクトによる新たな新たな産業振興が重要」と主張されている。その4につづく</p> |
|----|-------|------|--|

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 98 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>その4 そして「観光産業等のリーディング・プロジェクトとして、また、横浜経済のシンボリックな拠点となるよう推進していただきたい」という。これは、われわれが批判してきた「理念なき」山下ふ頭再開発の提案ではないのか。東京都心部のような大手デベロッパーや海外資本の再開発の「新しい流れ」に取り込まれ、既存の利益さえ奪われかねない。横浜の経済人ならば、偉大な先人・原三溪の態度に学ぶべきであろう。彼は、関東大震災で横浜が壊滅的打撃を被る中で、「市民の力こそ第1」と言って、横浜復興の先頭に立った。その偉業は、三溪園と共に時代を超えて市民の心に残っている。こうした横浜の都市づくりに胸をはるべきだ。もう一度IRまがいを持ち出して市民の反感を買うようなことはしないで、市民と共に歩んでこそ道は拓けるのではないか。よく考えていただきたい。</p> <p>4、今村委員のプレゼンへの意見の流れの中で、どうしても述べておきたい問題がある。第3回検討委員会開催の後に発表された、市民有志による山下ふ頭のあり方についての提言書をどう扱うかという問題である。「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイナ」プロジェクトが約370人余りの市民の参画、1年間の議論を経てまとめたものである。2月下旬の発表と同時に、港湾局をはじめ横浜市長、副市長など行政幹部、それに市会議員全員に小冊子が届けられた。市民には、ホームページを通じて紹介されている。3月15日の市会「国際・経済・港湾委員会」では、藤崎議員が提言書を紹介し、港湾局はどう受け止めたか、どう扱うか質問された。議員は「市民は検討委員会の席につけない。市民が意思決定のプロセスに入っていることが重要」と指摘し、「検討委員会と市民の意見をまとめるプロセスは両輪でやってほしい」と要望された。港湾局からは「スケジュールよりも、市民の意見・理解に重きを置いて進めないといけない」との答弁もなされた。市長記者会見でも、「検討委員会で提言書のプレゼンテーションをやらせることは考えていないか」との質問があった。これらは新聞でも報道されている。提言書にかかわるこうした経過を共有していただいたうえで、さらに提言書の内容を紹介するのは、今村委員が示したものと根本的に異なる「方向性」が提起されているからである。提言書は、「市民の意志と力でカジノ事業を撤廃させました。その市民は、代替案を示す責任があると考えます」と、なぜ提言するに至ったか思いを述べるところから始めている。われわれは時に一部の委員のプレゼンを厳しく批判するが、それは決して批判のための批判ではなく、責任を果たそうとしていることを理解していただきたい。そのうえで提言書は、開港以前からの先人たちの横浜の都市づくりの歴史を踏まえ、歴史的転換期、50年後の都市を「海と街の有機的なつながりを取り戻し、将来につづく、ゆたかな横浜」という明確な「理念」の下に創ると宣言している。</p> <p>「市民共創エリア」の具体的提案をした後、それを進めるために、「市民が考え、市民がはぐくむ、山下ふ頭の未来」という「方向性」を提言している。この提言書は、決して完成品ではない。たたき台として市民の広い知見を汲み上げる呼び水として発表されたものだが、注目していただきたいのは横浜市民は、このような提言書をまとめる知見と力をもっているという事実である。寺島委員長は、第1回会合から「市民は意見を言うだけでなく、責任ある市民参画を」と強調された。提言書は、山下ふ頭の付け根部分に「市民共創エリア」をつくる具体的提案と同時に、その管理、運営についても市民の力を発揮すると明言している。すでに検討委員会事務局の港湾局には、検討委員会が提言書をどのように取り扱うかを含め議題にのせるよう要望している。寺島委員長の賢明な判断を待ちたい。さらに、寺島委員長は、「検討委員会の役割は、付加価値を付けることだ」と発言された。私は、第3回会合までの各委員のプレゼン、とりわけ今村委員のプレゼンを聴いて、「誰のために付加価値を付けるのか」こそが検討委員会に問われているのではないかと考えるようになった。これからの各委員のプレゼンとそれらを受けての議論が、さらに市民の提言内容を含めて、370余万・横浜市民の未来を切り開くものになるよう、違いを恐れず、真摯で自由闊達な議論が戦わされるよう大いに期待したい。その5につづく</p> |
|----|-------|------|--|

| | | | |
|-----|-------|-------|--|
| 99 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>その5 5、もう一つ、2月8日に瑞穂ふ頭のノース・ドックに米軍揚陸艇部隊の配備が本格的に開始された。年内に280人の米兵が配置される問題について検討委員会としての態度がとわれている、と述べておかねばならない。この問題については、第1回会合に対する意見として述べし、ほかの市民からも意見が出ている。だが、この期間に新たなより危険な方向に事態が進んでいるので、あらためて検討委員会のメンバーの皆さんに、共有すべき重大なファクトとして受け止めていただきたく意見を述べる。米軍ノース・ドックは、横浜のインナーハーバーの「顔」に当たる瑞穂ふ頭にあるが、戦後78年間も長く占拠され続けている。海外大型客船も出入りする大さん橋に近接し、多くの市民が生活する都心部に隣接している。しかも、検討している山下ふ頭とは切っても切れない縁がある。というのは、米軍が「北風に強く」使い勝手のよい瑞穂ふ頭を使い続けるために、市民の返還要求に迫られて「代替ふ頭」としてつくられた経緯がある。朝鮮戦争、ベトナム戦争の時期には、米軍の一大補給拠点となり、横浜市が市民と共に戦場に送られる戦車をとめた経験もある。昨年1月の日米2+2において、ノース・ドックが南西諸島と結ばれ、対中国戦略の軍事物資補給拠点として新たに配備されることが決定された。この2月に本格配備が始まり、横浜港が戦場になりかねないリスクを負うことになった。瑞穂ふ頭は、山下ふ頭よりも広く(52ヘクタール)、「活力ある横浜の大きなポテンシャル」を有し、行政、市会、市民が一体となって早期全面返還を求めてきた。その切実な思いを横浜港で働く労働者は、「平和でこそ港は栄える」という横断幕に書いて山下ふ頭の入り口に設置している。この問題は国政の問題で当委員会が取り扱うべきではないとしたら、無責任のそしりは免れない。50年後、100年後の山下ふ頭、横浜内港の未来を議論する委員会として、横浜のまさに玄関口に米軍基地が居続けることを容認するに等しく、歴史に汚点を残すことにならないか。都市づくりの有識者としては矜持にかかわることである。ぜひとも検討委員会の「答申」に、「配備は中止、基地の即時返還」と書き込んでいただきたい。</p> |
| 100 | 中区 | 40歳代 | <p>新山下に住んでいます。現状でも鉄道がみなとみらい線で元町中華街までしかない中、渋滞回避をまず考えては貰えませんか？山下ふ頭で集客が増えれば、現状のみなとみらい線と市バスだけの対応では周辺の渋滞回避は無理かと思われます。そして山下公園の駐車場だけでは足りなくなり駐車場を求めて大渋滞が出来るのであれば、市バスでしか交通手段がない新山下以降の地元住民は困ってしまいます。本牧までみなとみらい線を延伸する計画などないでしょうか？</p> |
| 101 | 南区 | 80歳代～ | <p>山下ふ頭は横浜港の中心地であり、市民が最も集うところです。このにおける開発は何よりも市民の意見を十分取り入れることが必要と考えます。</p> <p>ところが検討委員会には一般市民は皆無です。是非公募して数人の一般市民を委員にしてください。今の検討委員会の構成では市民のための開発計画にはなりません。</p> <p>これ迄、一般市民を対象にして開発計画に関するワークショップが行われ様々な意見や要望が出されました。これらの意見や要望は検討委員会でどのように取り入れられたのでしょうか。良い意見が多かったのでは是非取り入れてもらいたい。</p> |
| 102 | 都筑区 | 30歳代 | <p>山下ふ頭は交通の便が必ずしも良くなく、横浜駅や関内駅からも行きづらいです。そこで横浜駅等とつなぐ公共交通機関が必要です。従来の公共交通は敷設が難しいので、自走式ロープウェイZippar かエコライドを提案します。</p> <p>自走式ロープウェイZippar https://zip-infra.co.jp/index.html は神奈川県秦野市で実験され、現在は福島県南相馬市で実験線が建設中ですが、神奈川県と連携協定を結び、秦野市ははじめ各地の自治体で導入を検討しています。従来の公共交通機関と比べ低コストかつカーブも可能です。</p> <p>エコライド http://www.senyo.co.jp/newbiz/1052/ は横浜市のロープウェイや観覧車を運営している泉陽興業が開発しており、ジェットコースターの技術を公共交通システムに発展させ、車両側には駆動モーターやブレーキを持たず、車両の動きを全て地上側から操作する方式(=地上一次型交通システム)であるため、車両重量を大幅に軽量できる点において「究極の省エネ交通システム」です。上野動物園のモノレール跡地にも建設予定です。これらの新交通を横浜駅や桜木町、関内から山下ふ頭、さらに山下ふ頭内の交通に使えば、山下ふ頭に行きやすくなるだけでなく、みなとみらい含めた通勤通学観光等交通が便利になり、横浜市発展や新技術発展につながり、横浜市の交通が時代の最先端になります。また、省エネにもなります。ご検討をお願いします。</p> |

| | | | |
|-----|-------|------|--|
| 103 | 中区 | 50歳代 | <p>山下埠頭の開発について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○駐車場をなるべく沢山用意する！ ○バーベキュー、テント貼るスペースの確保 ○人口の砂浜を作る ○サップ、カヌーなどやれる場所とする ○ホテル、商業施設、劇場、野球場作成 ○映画館、車から見れる映画館 ○首都高速の出入り口 ○桜木町駅からのロープウェイを延長してここまで伸ばす。できれば八景島、海の公園まで伸ばす。 ○みなとみらいから八景島までのサイクリングロードの整備 ○韓国の美味しいお店を誘致 ○再度ガンダム ○藤子不二雄ランド、もしくはJAPAN漫画ランド建設 |
| 104 | 神奈川区 | 20歳代 | <p>横浜市の財政も踏まえて、収益が最大化できる事業者が良いのではないのでしょうか。 市民の憩いの場もいいですが、収益確保の優先をお願いします。</p> |
| 105 | 中区 | 30歳代 | <p>1月の検討委員会で今後の会議スケジュールなど再開発計画決定に向けたロードマップが示されなかった 案の定半年経っても次の日程が公表されずやる気や本気を感じない</p> |
| 106 | 中区 | 30歳代 | <p>委員会の貴重な時間を内輪の自分語りに費やして、山下ふ頭の再開発をどうすべきか、どのように計画決定していくべきか具体的なことを何も表明しようとしなかった</p> |
| 107 | 保土ヶ谷区 | 40歳代 | <p>私は現在横浜在住ですが、経営している会社を東京都に移し事業を拡大しています。事業の一環で、日本を含む世界各国で開催する展示場でのイベントへ出展する事が多々あるのですが、日本の展示場は面積が小さく数も大変少ない事から不便を強いられる事が多々あり、世界規模の超大型イベント等も開催できない実情があると感じていました。お隣の中国でも面積30から40万平米超えの大型展示場が複数ある中で、日本では国内最大の「東京ビッグサイト」でも約14万平米で世界36位です。今話題の東京都知事選でも、「経済発展」が今後の日本を復活させるキーワードとして話題ですが、ぜひ世界的な展示場を山下ふ頭に作り、横浜をアジア展示場の中心を担わせる事での経済効果を狙っていただきたいと考え、僭越ながら意見させていただきます。大阪市を超える377万人の人口を誇る「横浜市」のような場所中心部に超大型展示場を作れるチャンスは、恐らく今後現れないと思います。徒歩圏内には中華街や山下公園を始めとする魅力的な観光地が沢山あり、展示会目的で来日する海外の方々のインバウンド観光による効果も狙えます。人の運搬については、首都高3号狩場線への直結インターの新設に加え、横浜ならではの海上交通を強化する事などで近未来都市という見せ方も出来るのではないのでしょうか。羽田空港からのアクセスも良く、世界中から来場者を狙える超大型展示場を作れるのは【山下ふ頭だけ】と言っても過言ではありません。横浜をアジア経済の中心に1歩近付けるべく、ぜひご検討のほど宜しくお願いいたします。</p> |

| | | | |
|-----|----|------|---|
| 108 | 南区 | 60歳代 | <p>前回の学識者会議で「みなとみらいは失敗だった」という発言がありました。私は横浜駅東口から馬車道までみなみらい大通りを歩くのが好きです。道が広く、街路樹が美しく、企業のミュージアムが文化的で心地よく歩くことができます。私が失敗だと思うのは横浜美術館のまわりと桜木町駅前の商業ビルです。なぜあそこに広い公園をつくるゆとりがなかったのかと残念に思います。特に横浜美術館は、モダニズム建築の巨匠という方が設計したという建築が、高いビルに埋もれてしまってその形がよくわかりません。なんともったいないことだと思います。みなとみらい大通りからビルの隙間に横浜美術館を覗き見ると本当に悲しくなります。それこそ子育て感覚があればあそこに子どもが遊べる芸術公園をつくるというアイデアもあったと思うのです。そして、先日大黒ふ頭から国道357号でベイブリッジを通ったとき、みなと未来方向を見ると、タワーマンションの団地のようで、ランドマークタワーが目立たなくなっているように見えました。学識者会議での発言は、このことを言っていたのかなと思いました。また、学識者会議で、市役所の都市計画の担当の方が山下埠頭について扱うべきだという発言がありました。そこで私は3月に「都市計画審議会」を傍聴しました。たまたま関内駅前旧市庁跡の再開発についてを扱っていました。その膨大な資料の中に公述意見とそれに対する「市の考え」がありました。この公述意見の中に「ビルばかりつくって、共倒れする」とありました。確かに審議会ではみなとみらいにとられた客足を取り戻したいというような説明をしていました。「市の考え」には、この根本的な心配に対する考えは書いていませんでした。「市」はその開発の横浜市全体におけるバランスや、地域全体の景観といった観点はないのだと思われました。ないから書けないのだと思いました。学識者会議では山下埠頭に高いビルを建ててしまうと港の見える丘公園から港が見えなくなるという発言がありました。マリンタワーからも見えなくなります。だから私は山下埠頭の建築物は低層のものを提案しました。都市計画にはそういう観点はないから平気でタワーマンションを市役所の隣に立てることを許してしまうのだなど、市役所3階のラウンジから工事現場を見ながら悲しくなりました。どうか景観を重視した観点を山下埠頭や横浜市内の開発の計画に加えて欲しいと思います。</p> |
| 109 | 南区 | 60歳代 | <p>私は山下埠頭に「28haの緑を」という事業者提案に賛成をする者です。まず、一般の人の植林活動を提案しました。それでも掘り返すとか土を入れるとか遊歩道をつくるとかの費用が必要で、これはガバメントクラウドファンディングを利用するとよいと思います。そうすればこの樹林地が横浜の緑被率を回復する開発の象徴の森であることを全国に知ってもらうことができます。それにお礼の品として横浜のPRとなる品物や企画をつけることで横浜の魅力の発信にもなります。次に、その木々の持続可能な管理の方法としてバイオマス発電所と共に水素エネルギーの産出及び二酸化炭素からメタンをつくる研究所をセットにして建てる提案をしました。横浜市内の市民の森や、街路樹、南区にいくつか見られる斜面の緑の管理で出る木質資源を活用することもできるからです。第三に下草刈りなどの管理は市民のボランティアを募ります。私が参加した中田宮の台市民の森の「助っターズ」の活動では若い人が多く参加していました。森づくりの活動を学ぼうと板橋から来た人々もいました。私は横浜の緑の回復のために横浜・トラスト基金といったような組織をつくとよいと考えています。そういう組織が中心となってボランティアを募れば、横浜の顔であるインナーハーバーのまとまった緑を守ろうという人がたくさん集まるのではないかと考えているのです。ところで、今盛んにPRされている2027年の園芸博覧会のキャッチフレーズに「ネイチャーベースドソリューションズ」というのがあります。これは今世界的な持続可能な開発の潮流となっていて、その柱のひとつに「回復」というのがあります。また、横浜市は国際熱帯林機関というところの事務局になっていてそこは乱開発されたマングローブの森の回復の支援などもしています。私たちは、ジャングルの一面緑の衛星写真の一部が灰色に削られているのを見て地球環境問題を考えるわけですが、横浜の衛星写真は一面灰色で、一部に緑が残っている状態です。横浜の緑被率は1980年代は40%、2000年代が30%、その後も減っています。みどり税などの努力によって減少のスピードはかなり鈍化していると思いますが、アップになっていません。今コンクリートで敷き詰められた山下埠頭にまとまった樹林地をつくることは、横浜のこれからの30年の「回復」の象徴となると信じます。</p> |

| | | | |
|-----|-----|------|---|
| 110 | 南区 | 60歳代 | <p>私は、マリントワーからの横浜港の景観を大切にしたいということとせつかくの船着場を活かせるというよいということで、まず、山下埠頭に南九州からのフェリーを誘致するよいと考えています。1月の学術会議では、電車の便がないという発表がありました。また、横浜は東京への通勤という電車の便があり、それが宿泊客の少なさの原因のひとつではないかと考えています。遅くまで働いても帰ることができる。つまり遅くまで遊んでも帰ることができるのです。そこで、JRの石川町駅の活用を考えてはどうでしょうか。石川町駅からは元町にも中華街にも出られます。私は、このフェリーターミナルの3階にRVパークをつくとよいと考えています。山下埠頭に車を置いて、例えば鎌倉散策に出かけ、帰りに元町や中華街で夕食をとるといった、石川町駅を拠点にした観光です。山下公園の世界の広場から山下埠頭は目の前です。そこから人形の家の前を通りフランス山の入り口につながる歩道橋があります。例えばフェリーターミナルから世界の広場までは動く歩道、世界の広場から堀川までは屋根をつけてそこから高速道路の高架下、川の上に石川町駅まで動く歩道をつけるのはどうでしょう。谷戸橋で動く歩道を降りることができるようにすれば、元町を歩けます。私はJR石川町駅存在を山下埠頭再開発のプランに加えることが有用であると考えます。そのフェリーターミナルの3階にRVパークをつくることを提案しているのですが、先日私は、横浜に本部を置くRV協会が能登半島地震の災害支援にキャンピングカーを貸与したという報道に接し、感動して協会のWPを調べました。すると、横浜市内でキャンピングカーを使った防災訓練を実施していることが紹介されていました。また、キャンピングカーのレンタルも神奈川県内に展開していることもわかりました。私はフェリーターミナルの屋上にメガソーラーを設置するとよいと考えていて、それは3ha以上の広さが必要です。そこでRVパークの一角にキャンピングカーのレンタルショップも設置すれば、大規模災害拠点としても活用できるのではないかと期待しているのです。第二に、私は大規模災害時には船での支援の拠点となり、平常は市民のスポーツセンターをつくることを提案しました。私は南区の住宅街に住んでいます。多くは戸建てで低層の集合住宅が見られます。そして、幾つかの小さな公園があり、町内会の当番制で掃除をしたり公園愛護会の方が整備しています。そのひとつにこんな公園があります。広さは0.5ha位かと思われ、半分は高いフェンスに囲まれた少年野球場になっていて土日には地域の少年野球チームが練習しています。平日には地域のお年寄りがゲートボールをしたり、幼稚園の体育の授業なのか、サッカーやマーチングバンドの練習をしています。半分は遊具広場で午前中は地域の母子が、午後は小学生の子供達が所狭しと遊んでいます。私は、学術会議では観光地として位置づけられているインナーハーバーと称されているところに、実は多くの人が住んでいるのではないかと考えているのです。前回の事務局の説明では横浜市全体の人口の動向が説明されましたが、インナーハーバーにはいったいどんな世帯がどれ位住んでいるのでしょうか。「子供が遊べる公園」はとても切実な要望なのではないでしょうか。みなとみらいにはオフィスビルもたくさんあります。山下埠頭を含むインナーハーバーは観光地であると共にビジネス街であり、さらに住宅街であるという観点が必要だと思えます。</p> |
| 111 | 港北区 | 60歳代 | <p>春まで（5月まで）には次の会をと言われていたのに、ここまで遅れた理由を、今度の12日の会議の冒頭に市民に対して説明するのは、当局に求められる最低限の事と考えます。しっかりと市民の納得のいく説明をお願いします。遅れた事そのこと自体よりも、遅れた理由が重要です。それが明らかにされなければ、委員会の運営そのものがブラックボックス化している誹りを免れません。</p> |

山下心頭再開発検討委員会補足資料



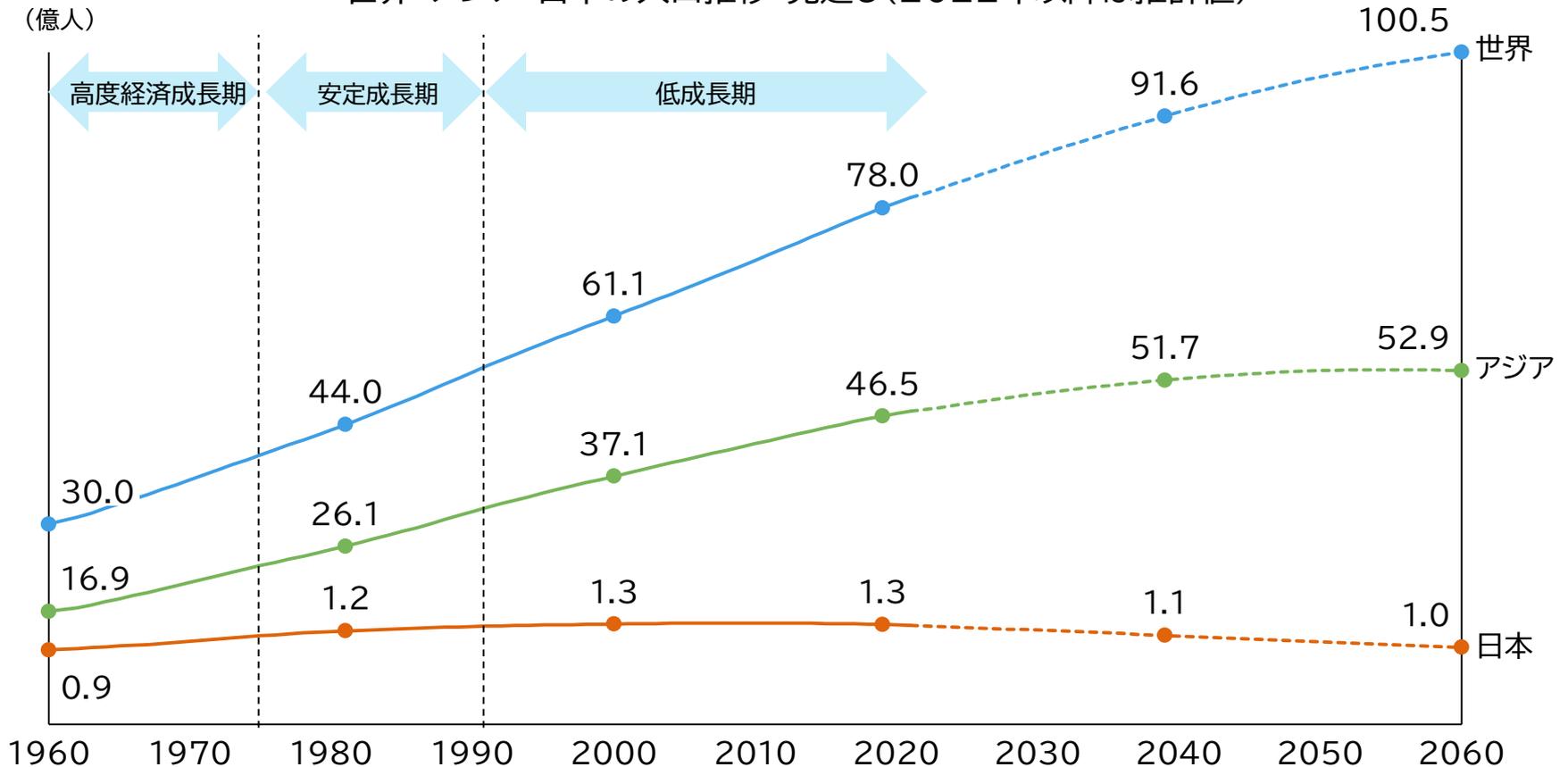
1. 人口動態

※1月12日委員会資料抜粋(ファクトシート【基礎資料編】P2)

世界、アジアの人口動向

- 世界の人口は、増加傾向にあり、2060年には100億人規模に達する見込み
- アジアの人口も増加傾向で推移する一方で、日本の人口は減少が見込まれる。

世界・アジア・日本の人口推移・見通し(2022年以降は推計値)

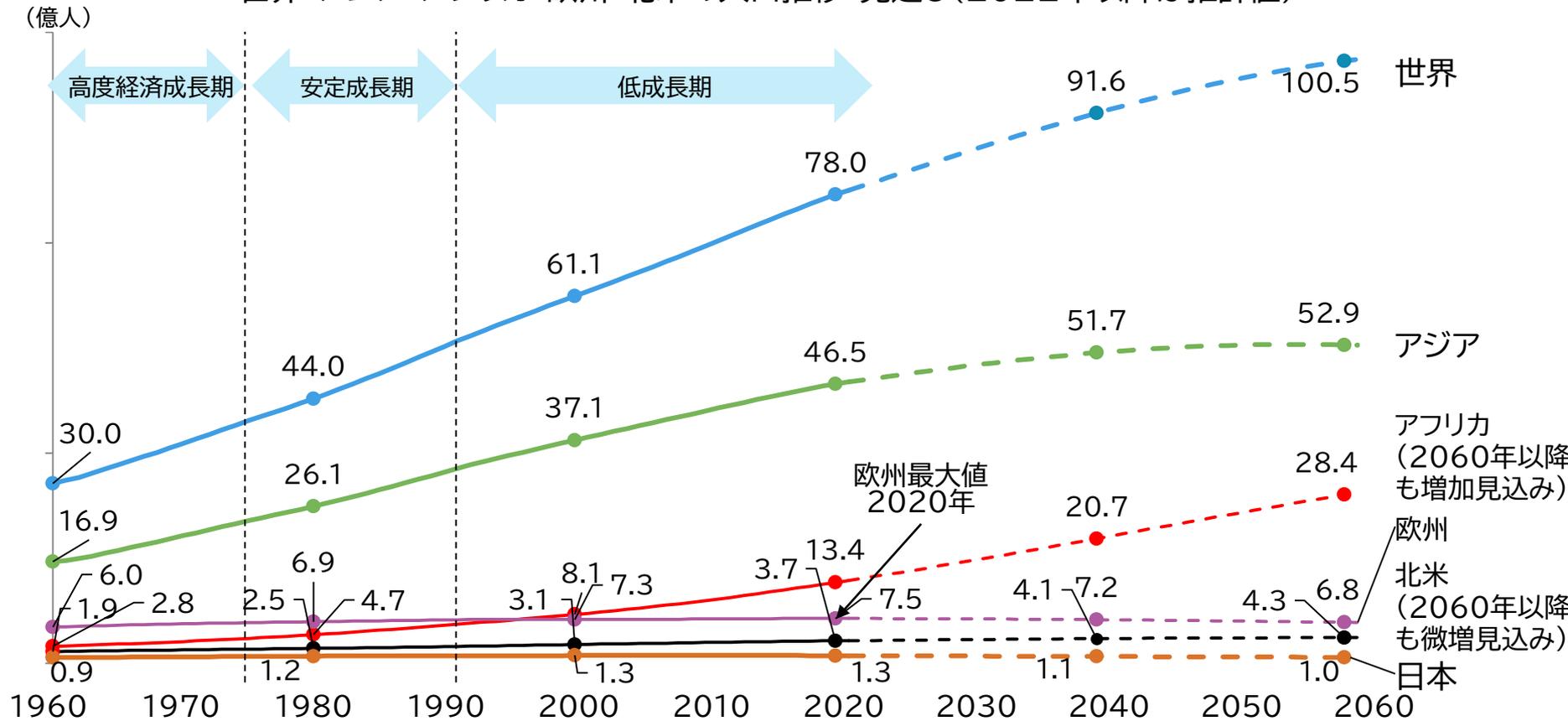


1. 人口動態

世界、アジア、アフリカ、欧州、北米の人口動向

- アフリカの人口は増加傾向、北米の人口は微増の見込み
- 欧州の人口は2020年をピークに減少見込み

世界・アジア・アフリカ・欧州・北米の人口推移・見通し(2022年以降は推計値)



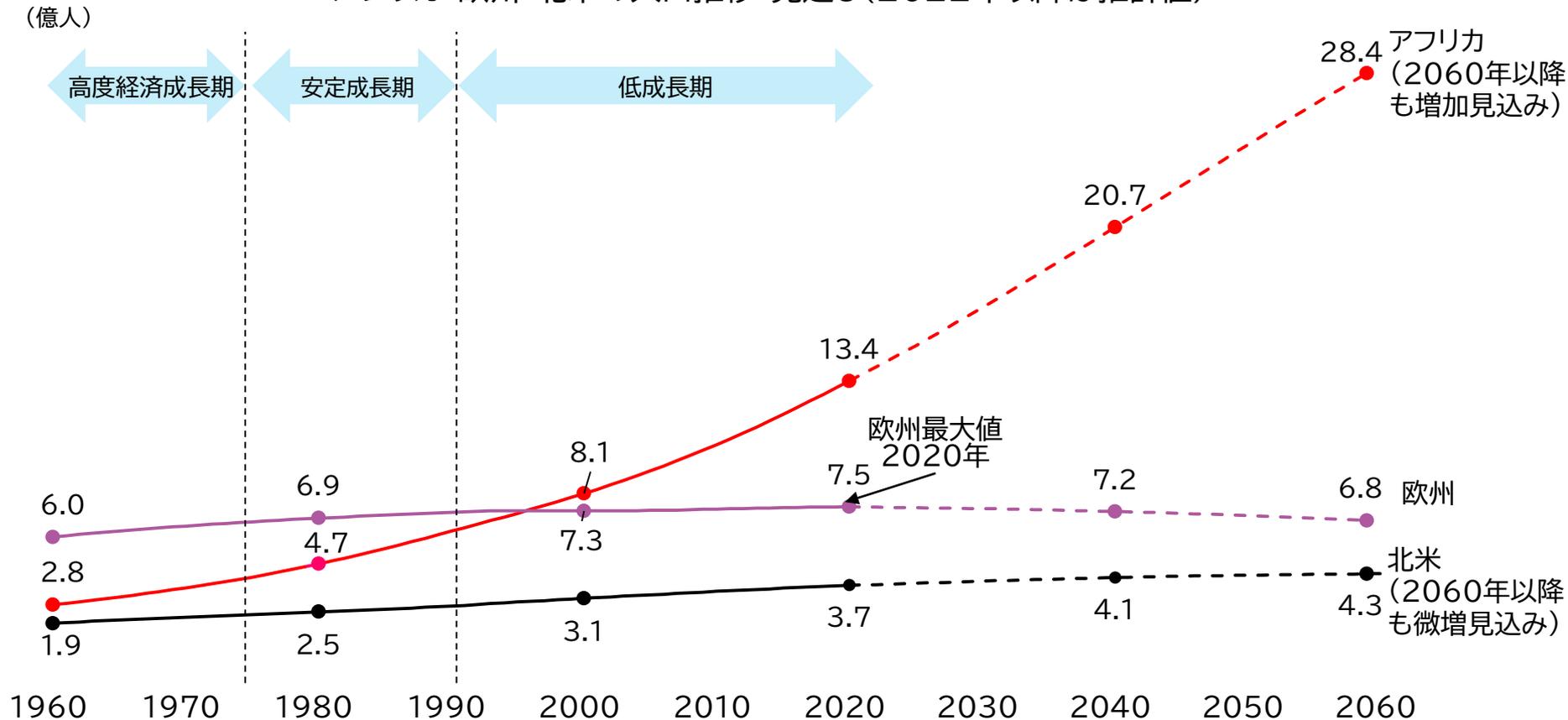
出典: UN「World Population Prospects 2022」より作成

1. 人口動態

アフリカ、欧州、北米の人口動向

- アフリカの人口は増加傾向、北米の人口は微増の見込み
- 欧州の人口は2020年をピークに減少見込み

アフリカ・欧州・北米の人口推移・見通し(2022年以降は推計値)



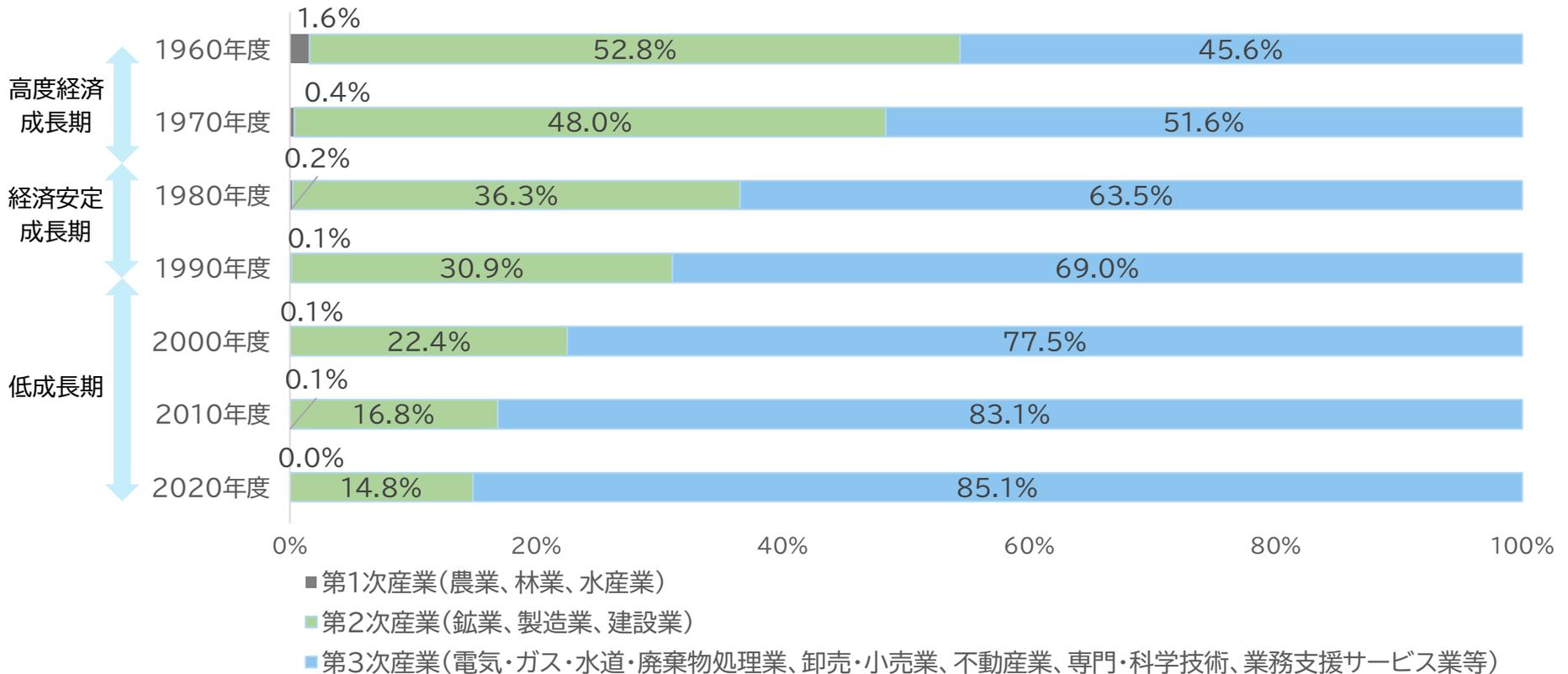
出典:UN「World Population Prospects 2022」より作成

2. 経済状況 ※1月12日委員会資料抜粋(ファクトシート【基礎資料編】P15)

横浜経済圏(横浜市)の産業構造の変化

- 第3次産業全体の占める割合が増加傾向が続き、近年では第1次産業、第2次産業の合計は1割5分程度

< 経済活動別のGDP構成比 >



※ 1970年以前は、横浜市統計書の市内純生産(要素費用表示)の値から構成比を算出

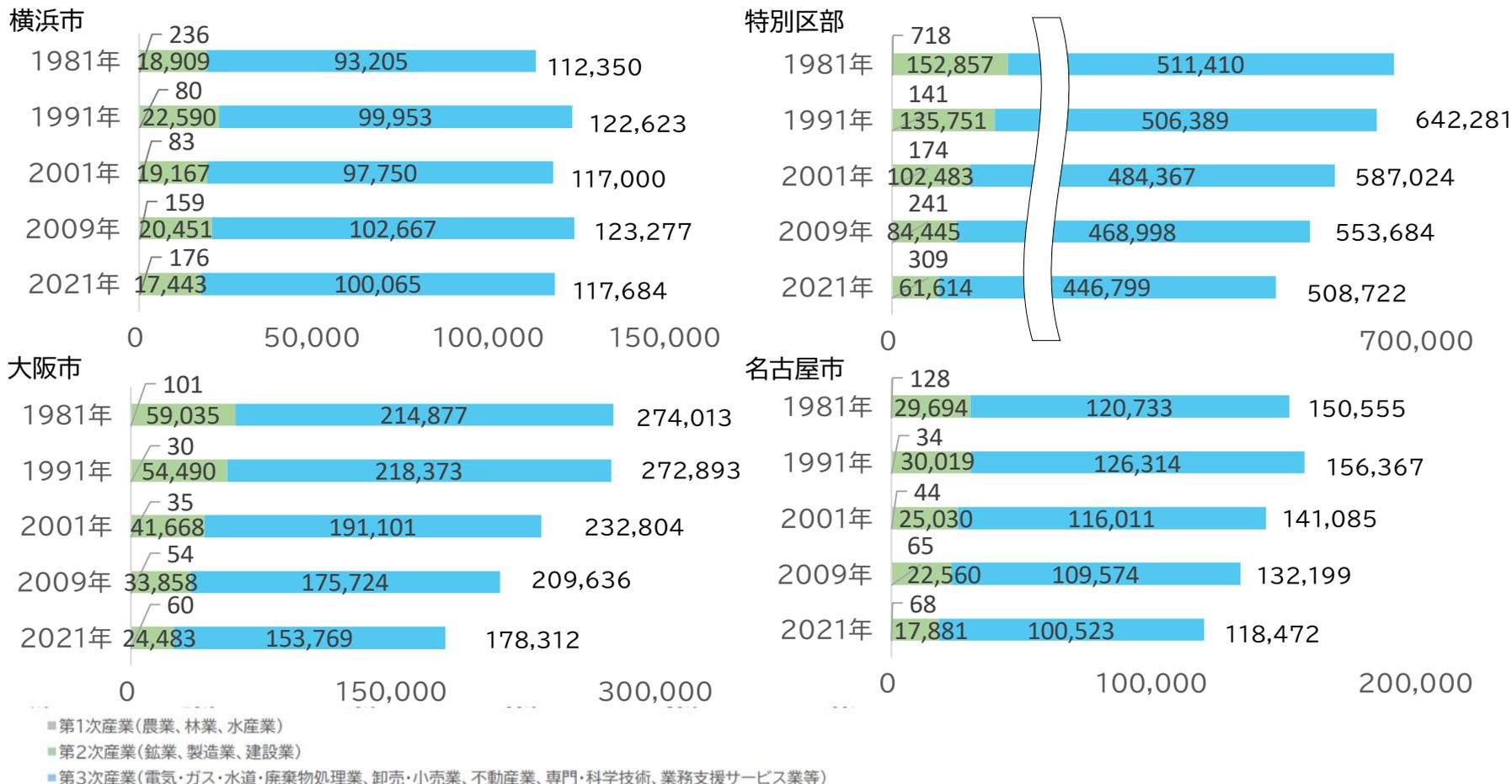
出典:内閣府経済社会総合研究所「経済活動別県内総生産」、横浜市「横浜市統計書」より作成

2. 経済状況

産業別の事業所数

○ 横浜市は、他市が減少する中、概ね横ばいの事業所数となっている。

事業所数合計における各産業の事業所数(単位:施設)



注釈:各年の統計は集計方法が統一がされていないため、参考比較

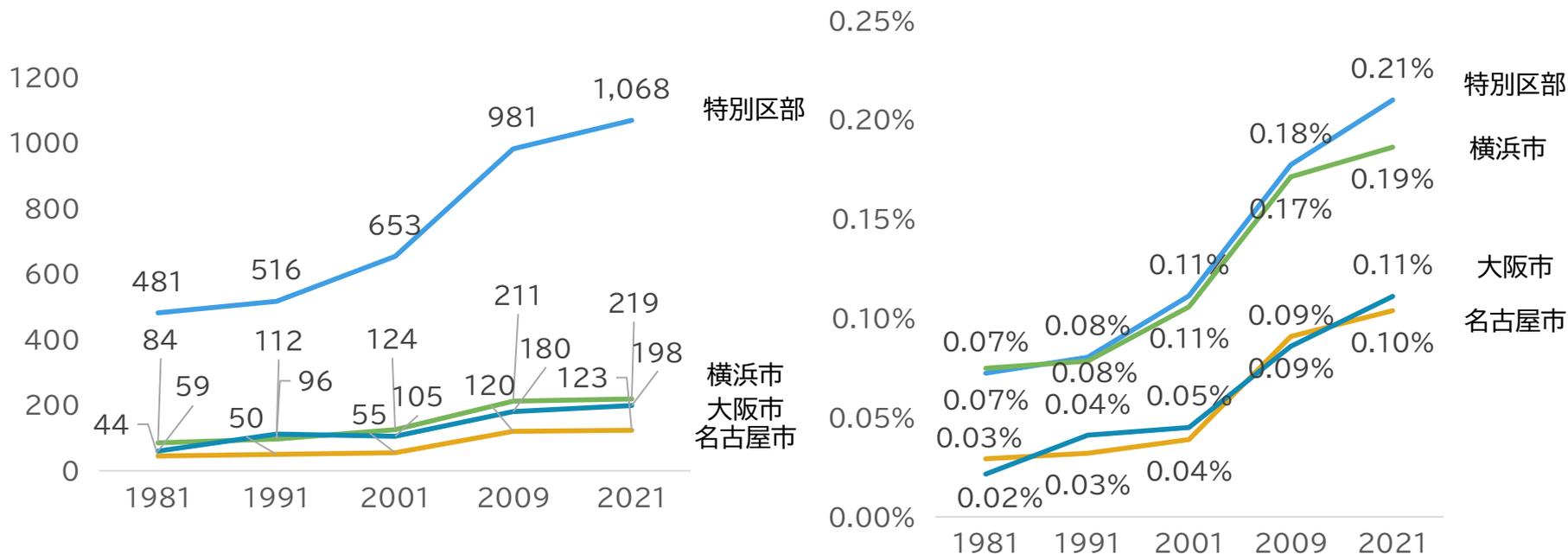
出典:総務省経済センサス及び事業所企業統計調査より作成

2. 経済状況

研究開発の事業所数(第3次産業)

○ 横浜市の学術・研究開発機関の事業所数は、名古屋市、大阪市と比較するとやや多い。

学術・研究開発機関の事業所数の推移(左:施設、右:全事業所数に占める割合)



注釈:各年の統計は集計方法が統一がされていないため、参考比較

なお、1981~2001の統計では「学術研究機関」を、2009、2021の統計では「学術・研究開発機関」の事業所数を引用。

「学術・研究開発機関」は、日本標準産業分類の大分類20種のうちの1つ「学術研究, 専門・技術サービス業」に含まれる中分類の1つ。中分類としては、①「学術・研究開発機関」、②「専門サービス業(他に分類されないもの)」、③「広告業」、④「技術サービス業(他に分類されないもの)」があり、②の例は、法律事務所や税理士事務所、④の例は、獣医業、土木建築サービス業がある。

出典:総務省経済センサス及び事業所企業統計調査より作成

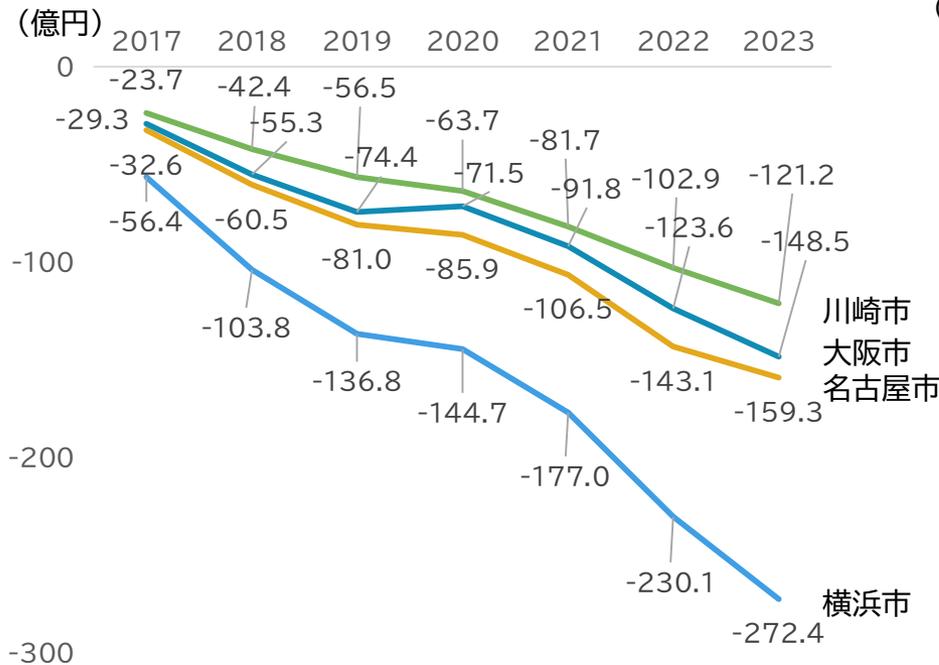
3. ふるさとと納税

ふるさとと納税流出入額

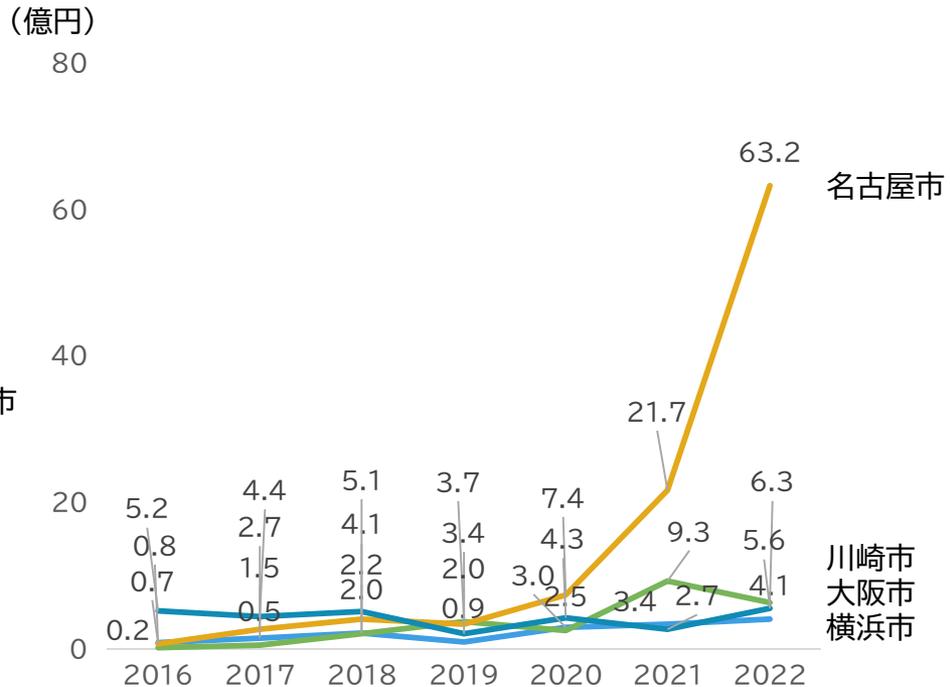
- 各都市において、ふるさとと納税による税収入の影響額は拡大傾向にある。
- 横浜市は2023年度の控除額(流出額)が272億円で全市区町村の中でトップ

< ふるさとと納税による住民税控除額、ふるさとと納税の受入金額の推移 >

控除額の推移(流出額)



ふるさとと納税の受入金額の推移(流入額)



注釈:ふるさとと納税で控除(流出)した税収の75%が、普通交付税を算定するうえで、基準財政収入額から減じられている。

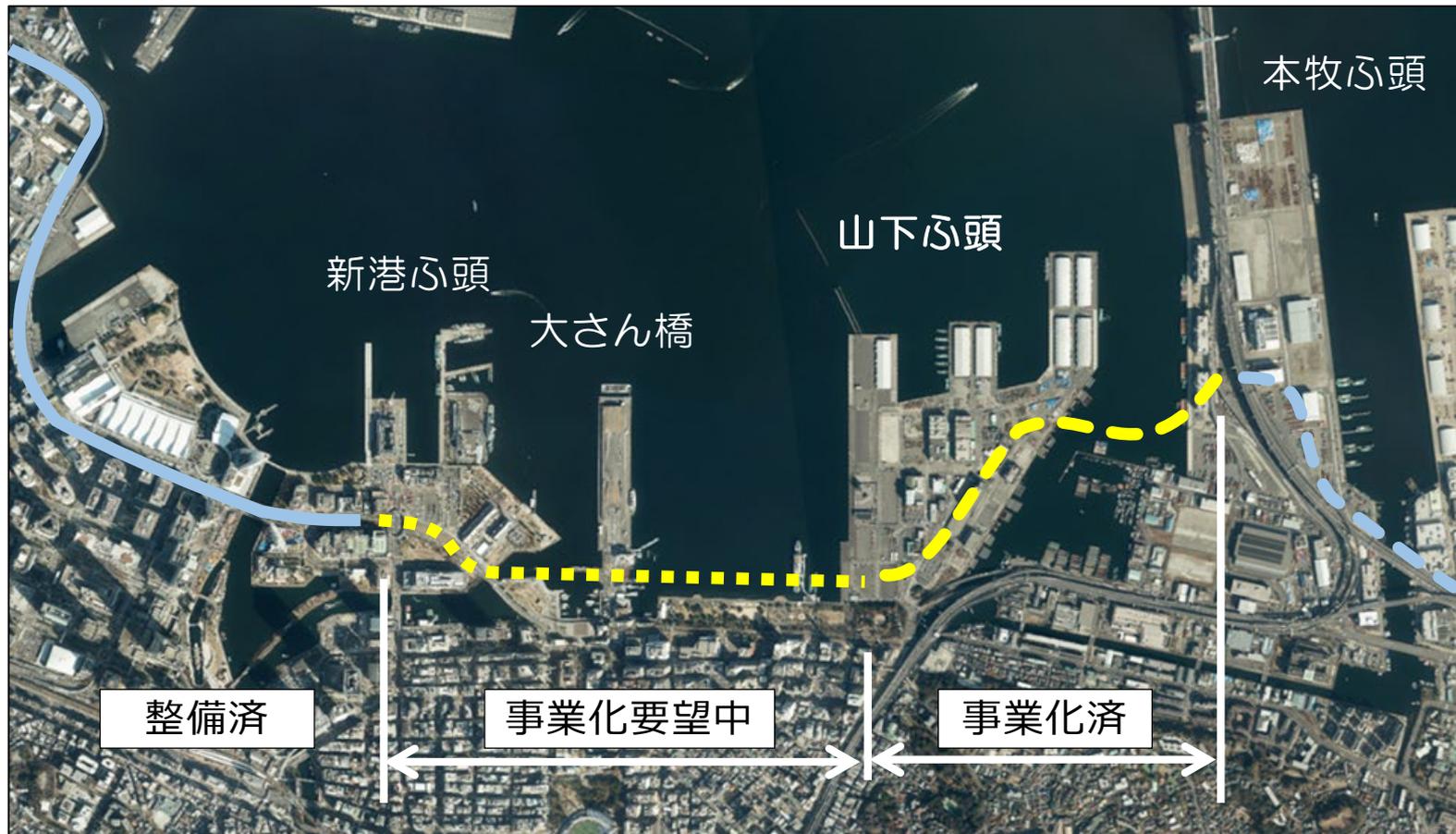
出典:総務省「ふるさとと納税ポータル」より作成

4. 臨港幹線道路

臨港幹線道路(新港ふ頭～山下ふ頭～本牧ふ頭)

- 山下ふ頭本牧ふ頭間は、国直轄事業として事業化されている。
- 新港ふ頭山下ふ頭間は、都心臨海部の一体化と埠頭間のアクセス強化のため、国直轄事業による整備を要望している。

<都心臨海部における臨港幹線道路の整備>



山下心頭再開発検討委員会ファクトシート 【国内外開発事例編】

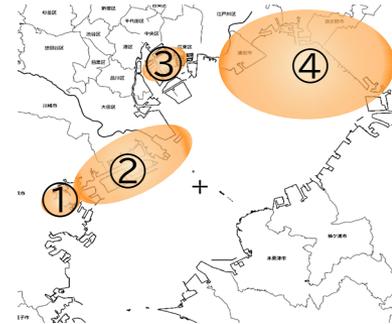


1. 東京湾沿岸部における開発事例

東京湾沿岸部における都市開発の経緯

■ 概要

- 高度経済成長期では、重化学工業地帯としての工業地化が多い
- 安定成長期では、従来の機能からの質的転換を図る地域が多い
- 低成長期では、次の時代につながる産業・ビジネスの創出、国際交流の場を設ける地域が多い



①横浜都心臨海部

【安定成長期】

港湾機能の質的転換による一体化した新しい都心部の形成。都市デザイン手法の導入や文化芸術創造都市横浜の取組

【低成長期】

国際ビジネス、ホスピタリティ、クリエイティビティの視点から都心機能を強化

②京浜臨海部+周辺

【安定成長期】

高付加価値型製品の生産へ特化するため、研究開発拠点としての機能を担う

【低成長期】

安全で快適な環境下で、国際社会に貢献する産業創造地域として、産業においては企業間の連携や生産機能、研究開発機能、市場開発機能の連携を促進

③臨海副都心+周辺

【安定成長期・低成長期】

一点集中型から多心型都市構造への転換を目的として、国際化・情報化の拠点を整備するとともに、職と住の均衡のとれた未来型都市を実現

④京葉臨海地域+周辺

【安定成長期・低成長期】

幕張新都心では、未来型の国際業務都市を目指し、「職・住・学・遊」の複合機能を集積。
現在では、機能の整備から強化・連携など次の展開へ。
浦安では、テーマパークを擁するアーバンリゾートや大規模住宅団地を形成

注: 高度経済成長期(1955~1973年頃)、安定成長期(1973~1991年頃)、低成長期(1991年~)

出典: 国土地理院地図、京浜臨海部再編整備協議会HP、臨海副都心まちづくり推進計画、幕張新都心まちづくり将来構想、浦安市都市計画マスタープラン、横浜市都心臨海部再生マスタープランより作成

1. 東京湾沿岸部における開発事例

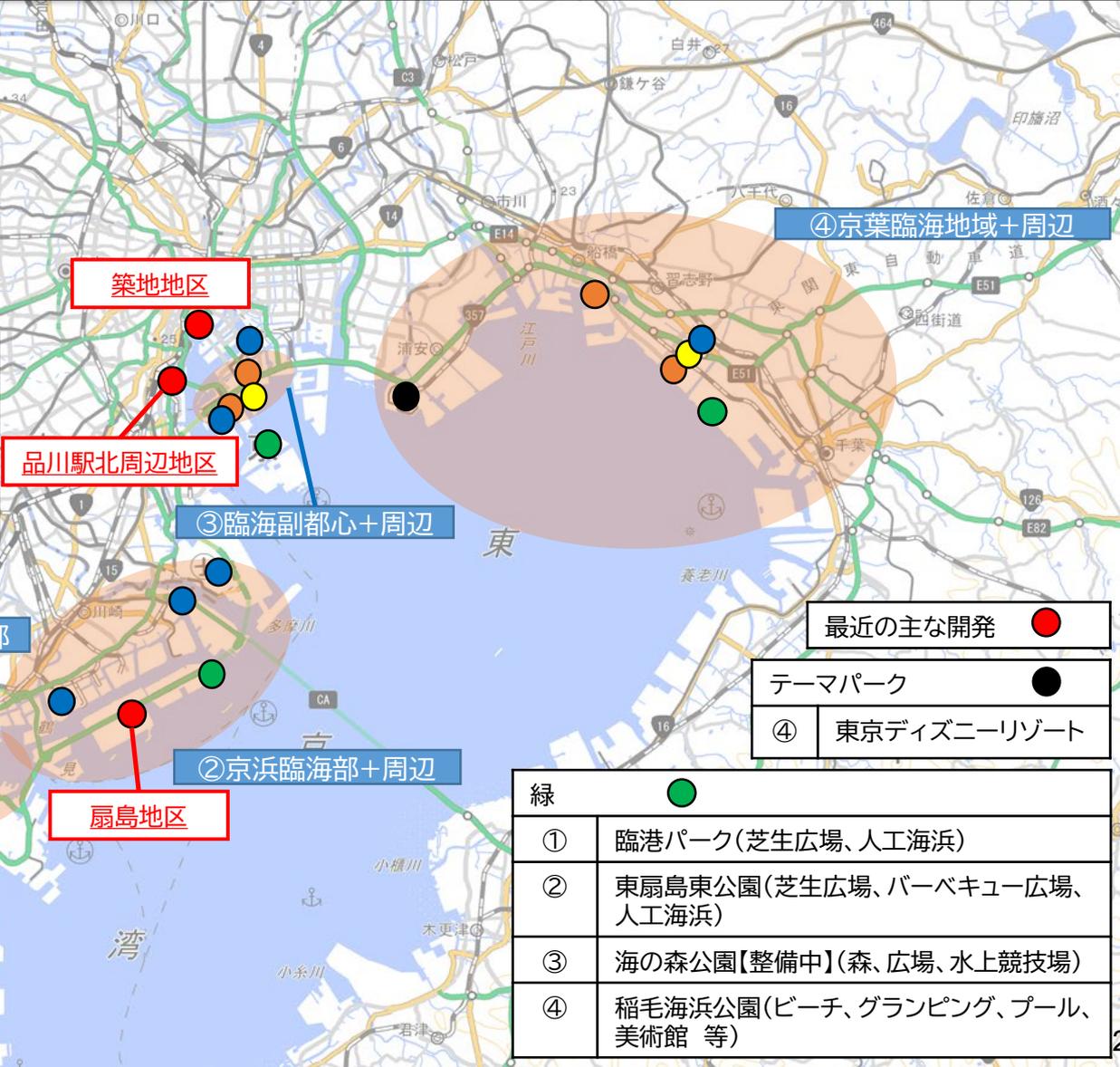
主な導入機能・施設

| | |
|--------------------|---------------------------------|
| 企業・大学等のイノベーション施設 ● | |
| ① | みなとみらい21地区 |
| ② | 殿町キングスカイフロント、羽田イノベーションシティ、未広町地区 |
| ③ | 臨海副都心青海地区 |
| ④ | 幕張新都心業務研究地区・文教地区 |
| その他 | 豊洲1～3丁目地区 |

| | |
|---------------------------|------------------------------------|
| スポーツ・コンサート等エンターテインメント施設 ● | |
| ① | 横浜スタジアム、Kアリーナ |
| ③ | 有明アリーナ、TOKYO A-ARENA |
| ④ | ZOZOマリンスタジアム、La La arena TOKYO-BAY |

| | |
|-------------|----------|
| 国際展示場等の施設 ● | |
| ① | パシフィコ横浜 |
| ③ | 東京ビッグサイト |
| ④ | 幕張メッセ |

※ 事業者提案の主な中心施設



1. 東京湾沿岸部における開発事例

都心臨海部・インナーハーバー整備構想

- 次なる50年を見据えた都市づくりの方向性として2010(平成22)年3月に横浜市インナーハーバー検討委員会が提言。
- 横浜市民と世界から集まる多彩な人が幸福と豊かさを実感できる都市を目指して、①人間中心の都市、②持続可能な環境、③人材・知財を活かす社会、④文化芸術創造都市の更なる展開、⑤市民社会の実現を基本理念としている。

基本理念

横浜市民と世界から集まる多彩な人が
幸福と豊かさを実感できる都市を目指して

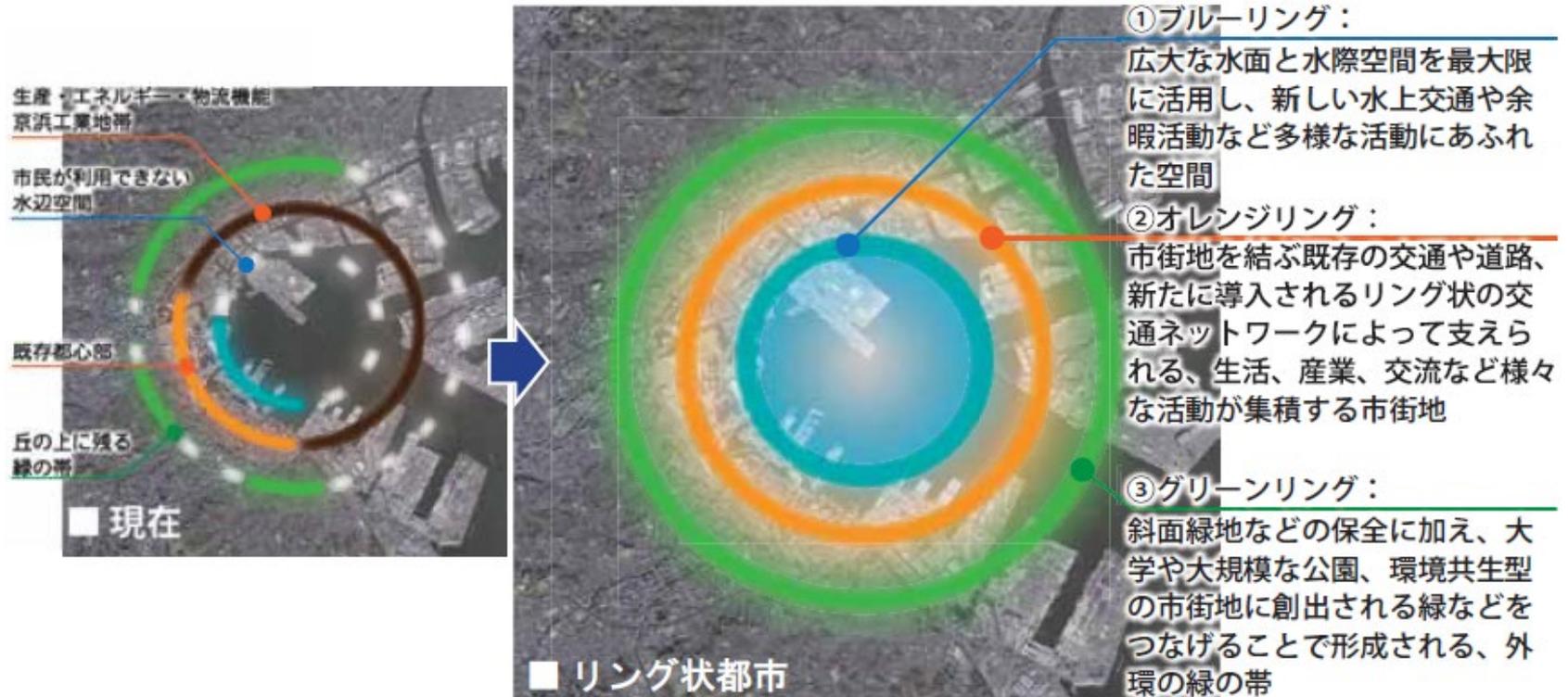


1. 東京湾沿岸部における開発事例

都心臨海部・インナーハーバー整備構想

- インナーハーバー地区内各エリアの用途変換等に合わせ、現在の都心部から段階的に成長し、徐々にリング状の都市構造を形成。

インナーハーバー地区の将来都市構造



1. 東京湾沿岸部における開発事例

横浜市都心臨海部再生マスタープラン

- 2050年を目標年次に目指すべき将来像や、その実現に向けた戦略・地区別の方向性として2015(平成27)年2月策定。
- 世界が注目し、横浜が目的地となる新しい都心～都心臨海部を中心とした新しい横浜ライフの実現～を目指して先進、交流、創造、感動、快適、活躍を将来像としている。

都心臨海部の将来像



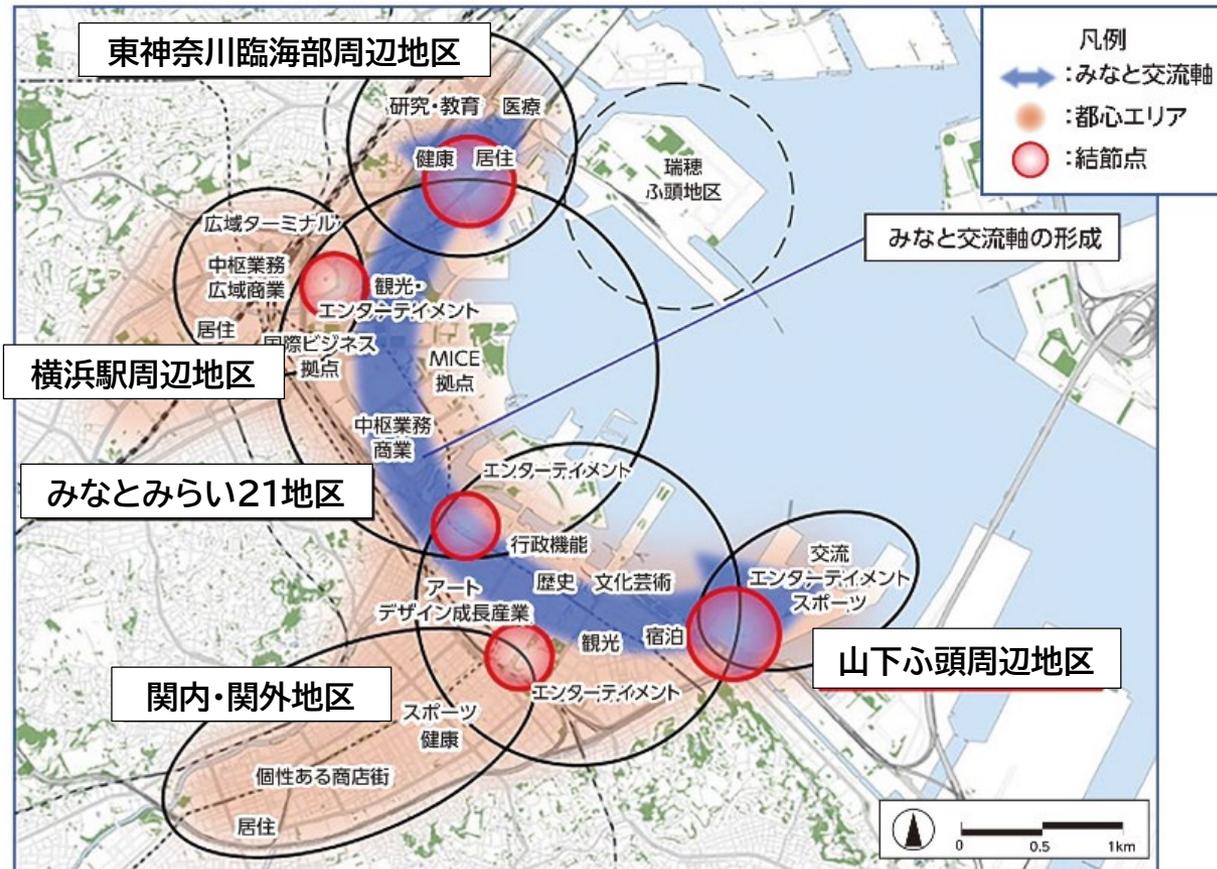
出典:横浜市都心臨海部再生マスタープラン

1. 東京湾沿岸部における開発事例

横浜市都心臨海部再生マスタープラン

- それぞれの地区の魅力をつなぎ合わせる「みなと交流軸」の形成と、「地区の結節点」における連携強化を重点的に進め、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりにより、港と共に発展する横浜ならではの都心を形成する。

都心臨海部の機能配置とみなと交流軸・結節点の配置イメージ



出典：
横浜市都心臨海部再生
マスタープラン

1. 東京湾沿岸部における開発事例

旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 約248.5ha

- 2015年6月に返還された米軍施設跡地の広大な事業区域
- 事業区域内で4つの土地利用：観光・賑わい地区（テーマパークを核とした複合的な集客施設）、農業振興地区（農体験、ICTなどを活用した「収益性の高い農業」の展開など新たな都市農業モデルとなる拠点）、物流地区（新技術を活用した効率的な国内物流拠点）、防災・公園地区（国際園芸博覧会のレガシーを継承する公園や災害時における広域的な防災拠点）
- 「観光・賑わい地区」（約70.7ha）：2023年9月に事業予定者（三菱地所 株式会社）を決定、2024年3月に三菱地所株式会社を代表企業とする事業者グループと基本協定締結、開業時期は2031年頃
- 土地区画整理事業は2038年度に完了（清算期間5年含む）



【旧上瀬谷通信施設地区の将来の土地利用(2024年5月時点)】

観光・賑わい地区 (テーマパークゾーンのイメージ)



出典：横浜市都市整備局 令和5年9月14日記者発表資料

・旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画 **デザインノート**

・横浜国際港都建設事業旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業事業計画書(第1回変更)

1. 東京湾沿岸部における開発事例

GREEN×EXPO 2027

- 私たちの生活に大きな影響をもたらす気候変動に着目し、環境と共生し市民の皆様と共につくる「環共」を感じて頂ける、日本で初めての国際博覧会を目指す。
- 圧倒的な花と緑でお迎えするとともに、気候変動などの世界的な課題に“自然の力”、“グリーン”の力”で最適解を示し、環境にやさしい未来の暮らしを考え、横浜から世界に発信することで、博覧会のテーマである「幸せを創る明日の風景」につなげていく。
- 2027年3月より約半年間開催

名 称 : 2027年国際園芸博覧会
(International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan)
博覧会種別 : A1 (最上位) クラス (AIPH承認 + BIE認定)
開催場所 : 旧上瀬谷通信施設 (神奈川県横浜市)
開催期間 : 2027年3月19日 (金曜日) ~ 9月26日 (日曜日)
博覧会区域 : 約100ha (内、会場区域80ha)
参加者数 : 1,500万人 (地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む)
(有料来場者数 1,000万人以上)

< 資金計画 >

会場建設費 320億円
(財源: 国、地方公共団体、民間による負担)
運営費 360億円
(財源: 入場料、営業権利金等)



1. 東京湾沿岸部における開発事例

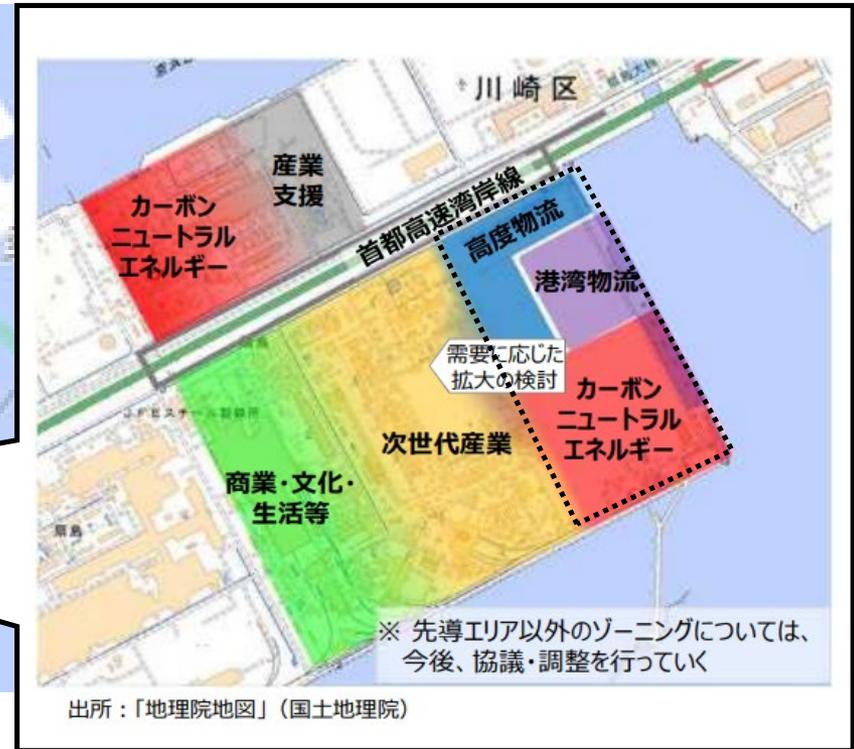
川崎臨海部(扇島地区) 約280ha

- JFEスチール株式会社東日本製鉄所京浜地区の高炉等休止により生まれた広大な土地
- カーボンニュートラルを先導、首都圏の強靱化を実現、新たな価値や革新的技術を創造、未来を体験できるフィールドの創出、常に進化するスーパーシティを形成等
- 先導エリア(約70ha)の概成は2030年度を目指す。全体の概成は2050年頃

< 扇島地区のゾーニングイメージ >



< 先導エリアのゾーニング >



1. 東京湾沿岸部における開発事例

築地地区 約19.5ha

- 2018年10月、豊洲市場が開場したことに伴い、閉鎖された旧築地市場地区
- 大規模集客・交流機能の導入や屋外広場などによる新しい文化を創出する舞台、ゼロエミッションの実現、デジタルと先端技術の活用等
- 2024年4月に事業予定者(三井不動産株式会社他10社)の決定、遅くとも2030年代前半までには事業者が貸付範囲全体を借り受ける計画



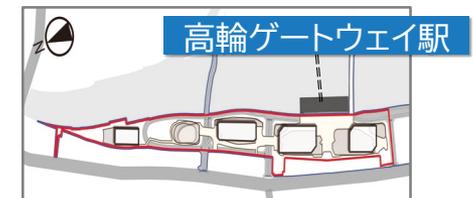
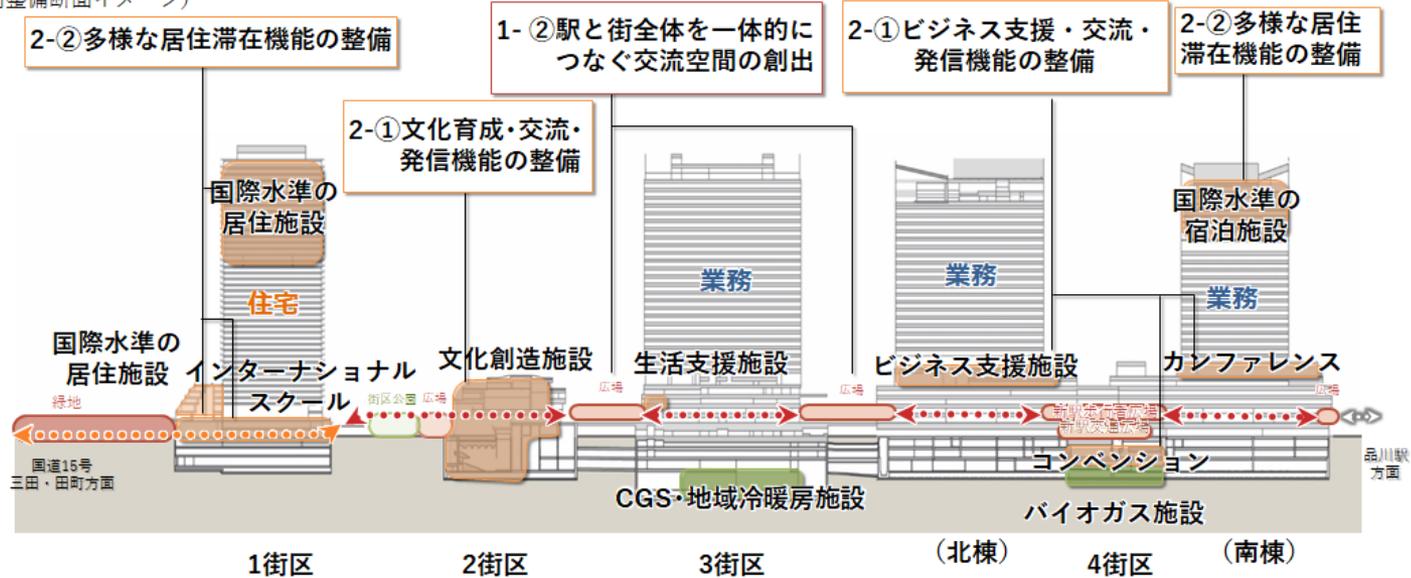
出典：築地まちづくり事業 事業者募集要項
 ・東京都都市整備局 令和6年4月19日記者発表資料
 ・東京都HP「事業予定者の提案概要」

1. 東京湾沿岸部における開発事例

品川駅北周辺地区(TAKANAWA GATEWAY CITY) 約13ha

- 品川車両基地の基地設備や車両留置箇所の見直しによって大規模な用地を創出
- 文化・ビジネスの創造に向けた、育成・交流・発信機能、外国人のニーズにも対応した、多様な居住滞在機能、地域の防災対応力強化とエネルギーネットワーク構築
- 2025年3月に一部まちびらき

(南北方向整備断面イメージ)



出典:・JR東日本 2014年6月3日記者発表資料
・JR東日本 2022年4月21日記者発表資料
・都市再生特別地区(品川駅北周辺地区)都市計画(素案)の概要

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

事例選定について

【市民意見・事業者提案のまとめ】

○ 市民意見・意見交換会で示された主な機能・施設・視点(順不同)

第一回市民意見

- ・「エンターテインメント機能」、「水辺・親水機能」、「文化・芸術機能」、「スタジアム等のスポーツ機能」、「ホテル等の滞在機能」
- ・「持続可能なまちづくり」、「多様性社会」、「実験都市」、「市民への還元」、「防災」、「環境対策」、「将来を見据えたまちづくり」、「税金の確保」、「企業誘致による産学連携」

第二回市民意見

- ・「公園」、「レジャー施設」、「ショッピング施設」、「スタジアム」、「テーマパーク」、「電車・バス」、「ホテル」

第一回意見交換会

- ・「シンボリックな空間の創造」、「横浜の歴史や文化」、「子育て・教育にも配慮した市民のための再開発」、「税金を意識」、「サステイナブル」
- ・「エンターテインメント施設」、「企業・大学・研究開発施設」、「海を生かした公園」、「充実した交通インフラ」

第二回意見交換会

- ・「学術・研究開発機能」、「大規模集客機能」、「公園・レクリエーション機能」、「文化・交流機能」、「交通機能」

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

事例選定について

【市民意見・事業者提案のまとめ】

○ 事業者提案で示された主な機能・施設(順不同)

第一回事業者提案

- 企業大学等のイノベーション施設を中心とした提案
- 大規模集客施設を中心とした提案
- 緑を中心とした提案

第二回事業者提案

- スポーツ・コンサート等のエンターテインメント施設を中心とした提案
- 体験型テーマパークを中心とした提案
- 国際展示場等の施設を中心とした提案

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

開発事例

ハーフェンシティ(ドイツ)

学術研究施設や文化・芸術施設が集積



出典:iStock.com/golero

ミッションベイ(米国)

ライフサイエンス産業やスポーツ・エンタメを集積



出典:iStock.com/DianeBentleyRaymond

スタンレーパーク(カナダ)

自然系アクティビティを楽しむことができる公園



出典:iStock.com/edb3_16

マルセイユ旧港地区(フランス)

劇場や博物館、商業施設等の複合開発



出典:PORALU MARINE



ボルチモア(米国)

オフィスビルや歴史的な船舶の展示、水族館等の複合開発



出典:iStock.com/Brendan Beale

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

開発事例

ダブリンドックランズ(アイルランド)

劇場、MICE施設等の
複合開発



出典:iStock.com/icarmen13

バルセロナ旧港地区(スペイン)

水族館や博物館、オフィス・
会議室等の複合開発



出典:iStock.com/pawel.gaul

LAウォーターフロント(米国)

商業施設や公園、レクリエー
ション施設等の複合開発



出典:iStock.com/Kirk Wester

釜山北港(韓国)

劇場・展示場、文化観光施設
等の複合開発(開発中)



出典:iStock.com/IgorSPb



マンハッタン(米国)

堤防の役割を担う親水公園
等の整備計画



出典:Rebuild by Design

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ハーフェンシティ(ドイツ) 約157ha

- ✓ハーフェンシティはハンブルク市の港湾機能の中心的役割を担ってきたが、コンテナ船が大型化したことで船舶が接岸できなくなり、1997年に再開発計画が決定され、2001年より開発がスタートした。
- ✓2006年にヨーロッパで唯一の**高等教育・研究機関を設立**、2017年にはかつての倉庫を基盤として建てられた**文化施設**が開館するなど、**学術研究施設や文化・芸術施設の集積が進んでいる**。
- ✓まち全体では、約4.5万人の雇用創出や約5千人の学生集積等の目標が掲げられている。



2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ハーフェンシティ(ドイツ)の主な施設



大学・研究機関:ハーフェンシティ大学



コンサートホール:エルプフィルハーモニー



模型船等を展示する博物館:
国際海洋博物館

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ミッションベイ(米国)約123ha

- ✓従来、造船所等の工業地帯だったが、2000年頃より、**ライフサイエンス産業の研究開発機能の集積**を目指した再開発計画が進行。**スポーツ・エンターテインメント施設**も整備されるなど、複合的なまちづくりが行われている。
- ✓UCSF(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)と**保育園・幼稚園・小学校との連携**により、幼少期から質の高い教育やキャリア体験が提供されるなど、**子育て・教育にも注力**している。
- ✓サンフランシスコ全体で約3.6万人の雇用や約65億ドルの産業生産をもたらしたと推定されている*。



2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ミッションベイ(米国)の主な施設



大学・研究機関:カリフォルニア大学サンフランシスコ校



スタジアム:オラクルパーク



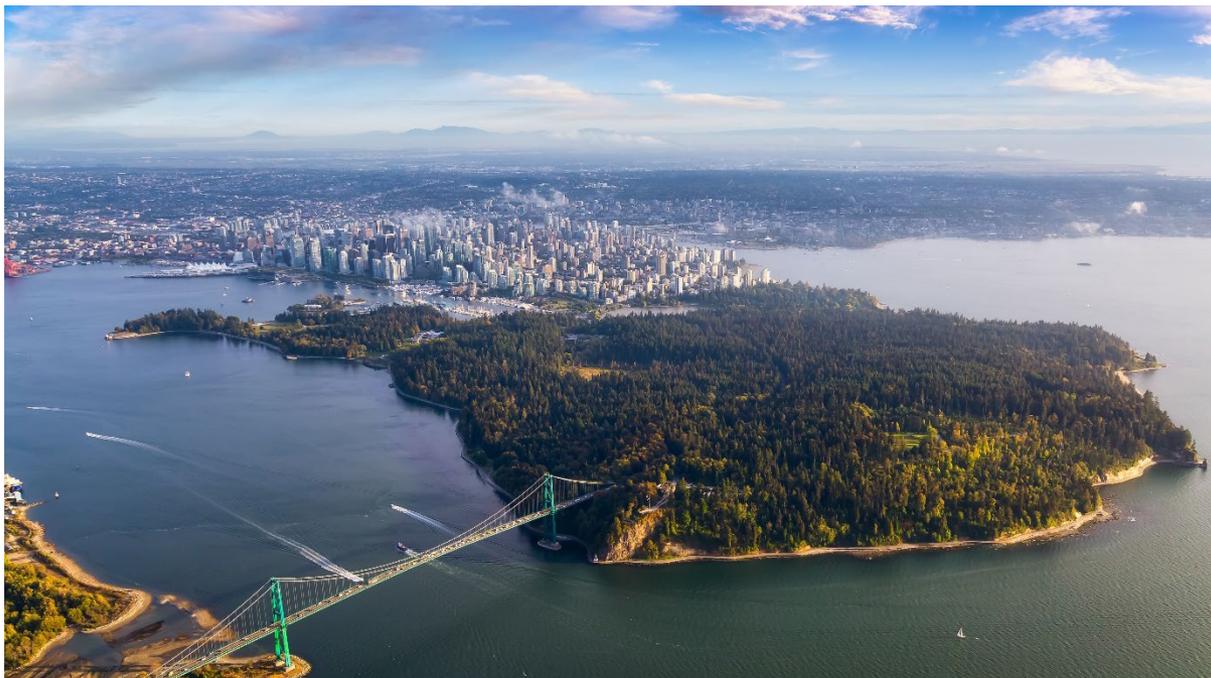
アリーナ:チェイスセンター

出典:iStock.com/
Tomsmith585(左上)
Chris Szvedo(右上)・
DaineBentleyRaymond(下)

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

スタンレーパーク(カナダ) 約400ha

- ✓石炭採掘または軍事利用を見越してカナダ政府が管轄していたが、バンクーバー市からの要望を受け、バンクーバー市に貸し出され、公共の**公園**として1888年に設立された。
- ✓従来は、単なる**市民の自然系リゾート地**としての役割を果たしていたが、**娯楽機能の整備**がなされ、近年は、ファミリー層や観光客向けに、**自然系アクティビティ**を楽しむ機会が提供されている。
- ✓国内外から毎年800万人以上が訪れる人気の観光スポットとしての地位を確立している。



出典: iStock.com/edb3_16

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

スタンレーパーク(カナダ)の主な施設



自然系アクティビティ:サイクリングコース



自然系アクティビティ:ローンボーリング場



自然系アクティビティ:
ウォーターパーク

出典:iStock.com/
Marc Bruxelle(左上)
HamidEbrahimi(右上)
Alexandre Rocha(下)

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

マルセイユ旧港地区(フランス) 約400ha(マルセイユ東港の面積)

- ✓従来、コンテナ心頭だったが、2010年頃、国家プロジェクトとして地中海の南北間の**交流促進**と**経済・社会・文化開発**を目指した再開発計画が進行した。
- ✓**劇場、博物館、商業施設等**が立地した複合的なまちづくりが行われている。倉庫を劇場に転用するなど、既存施設を活用し、**地域の歴史**を尊重するとともに、**周辺の景観**と調和した開発がなされている。
- ✓上記開発を含む再開発計画で、1.9万人以上の雇用が創出されている。



出典: PORALU MARINE

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

マルセイユ旧港地区(フランス)の主な施設



国立演劇センター:ラ・クリエ劇場



地中海文明に関する博物館:ヨーロッパ地中海文明博物館



商業施設:
ギャラリー・ラファイエット

出典:iStock.com/olrat(左上)・
bbsferrari(右上)・
Marina113(下)

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ボルチモア(米国)約78ha

- ✓18世紀以来、ボルチモアのインナーハーバーは、米国の海運において重要な役割を担ってきたが、船舶が大型化したことで接岸できなくなり、1960年代より公園やオフィスビル、ホテル、小売店の再建等をはじめとした複合的な開発が進められた。
- ✓1970年代以降、歴史的な船舶の展示や国立水族館、体験型科学博物館等の建設が進められ、現在は観光地としての地位を築いている。
- ✓2012年の調査では1,000万人以上が訪れ、経済活動全体に23億ドルもの影響*を及ぼしているが、現在は、インフラの老朽化等に対応するための再開発が検討されている。



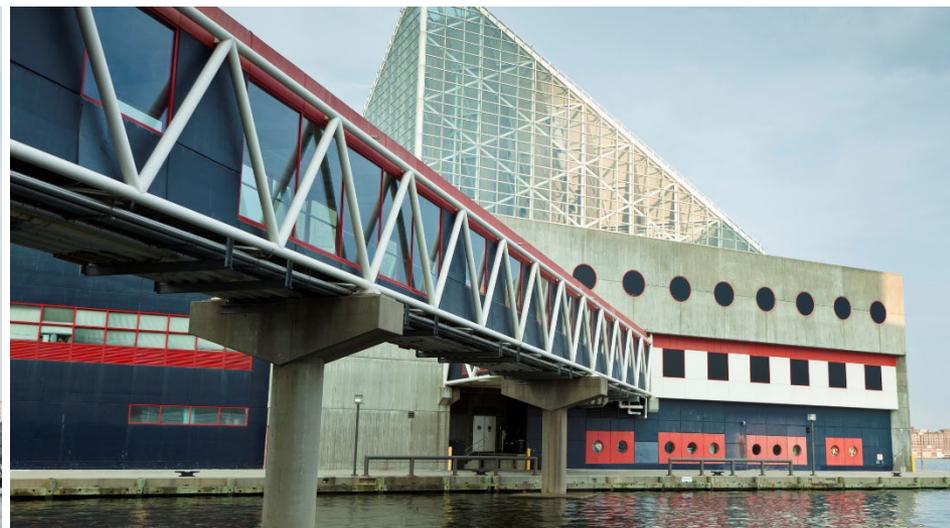
*2012年
IMPLANによる調査

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ボルチモア(米国)の主な施設



歴史的な船舶の展示:トレジャリー級警備艦7番艦(タニー)



国立水族館:ナショナルアクアリウム



体験型科学博物館:
メリーランド科学センター

出典:iStock.com/
joeravi(左上)・
drnadig(右上)
eurobanks(下)

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ダブリン・ドックランズ(アイルランド) 約520ha

- ✓ 従来、工業団地であったが、1997年にダブリン・ドックランズ開発局が設立され、**文化施設やMICE施設等**の複合開発が進展。
- ✓ **劇場やMICE施設**から周辺の河川や山脈、市内中心部のパノラマの景色を眺められるなど、**景観に配慮した施設構成**となっている。
- ✓ 本開発全体で、官民合わせて約33.5億ユーロを超える投資が実現するとともに、**就業者数や人口増**にも貢献している。



出典: iStock.com/anyaivanova

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ダブリン・ドックランズ(アイルランド) の主な施設

劇場: スリーアリーナ



MICE:
ダブリン・コンベンション・センター



2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

バルセロナ旧港地区(スペイン) 約70ha

- ✓従来、空き倉庫や鉄道操車場、工場が立ち並ぶ地域だったが、1992年のバルセロナオリンピックに先立ち、都市再生プログラムの一環として整備が進められた。
- ✓水族館や博物館等の文化施設に加え、ケーブルカーや遊覧船、ヘリコプター等、バルセロナ旧港の景色を楽しむことができる交通機関が整備されている。
- ✓年間約1,600万人以上の観光客が来訪するとともに、約70の企業進出の創出に貢献している。



出典: iStock.com/pawel.gaul

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

バルセロナ旧港地区(スペイン) の主な施設



水族館を併設した商業施設:ポルト・ベル



バルセロナの歴史に関する展示を行う博物館:
カタルーニャ歴史博物館



交通機能:ケーブルカー
オフィス・会議室:WTCバルセロナ

出典:iStock.com/
taranik(左上)・
David Taijat(右上)・
elvirkin(下)

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

LAウォーターフロント(米国)約160ha

- ✓ 現在もコンテナ輸送が行われているロサンゼルス港のオープンスペースを活用し、**経済活性化や公共空間の拡充**等の都市的土地利用を目的として、2000年代より、**商業施設や公園、レクリエーション施設**を含む複合的な開発が行われている。
- ✓ クルーズ船が寄港することに加え、**商業施設や公園、レクリエーション施設**が整備され、**観光地としての地位も築いている**。
- ✓ 年間約200万人の観光客が訪れている。今後の開発に向けた検討も進められており、周辺地域住民が参加したワークショップ等の結果を踏まえ、将来計画が策定されている。



2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

LAウォーターフロント(米国)の主な施設



商業施設:サンペドロマーケット



公共空間:ダウンタウンハーバー



体験型展示施設:戦艦アイオワ

出典:iStock.com/
Debbie Ann Powell(左上)
ianmcdonnell(右上)
jmoor17(下)

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

釜山北港(韓国) 約153ha

- ✓水深が浅く老朽化した釜山北港のコンテナ物流機能を他地区に移転させ、**海洋観光及び国際ビジネス拠点**形成に向けた再開発が2008年頃より進められている。
- ✓ITやメディアコンテンツ産業の集積を目指した**業務施設、水族館等の文化施設、アミューズメント施設、公園の整備等**、複合的なまちづくりが行われている。
- ✓開業後の経済効果として約280億ドル、雇用効果として約12万人が見込まれている*。



出典: iStock.com/IgorSPb

*釜山港湾局による試算

2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

マンハッタン(米国)

- ✓マンハッタンのU字形沿岸部約16kmを水害から守ることを主目的としつつ、親水空間などの機能ももたらすことで、気候変動対策と都市の活性化の両立を図るプロジェクトとして計画されている。
- ✓堤防の役割を果たす都市公園や防潮壁を兼ね備えた親水空間等で囲み、洪水や海水面の上昇から守るなど、防災機能の向上を図っている。
- ✓計画の提案書において、2014年時点の正味現在価値で、約9.7億ドル投資することで、今後50年間で回避できる損害額が約29.3億ドルとなることが試算されている。



2. 国外のウォーターフロント等の開発事例

BIG U(米国)の主な施設

防災機能:防潮堤



防災機能:遊水地公園



3. 導入機能や視点のまとめ

市民意見・事業者提案と国内外事例のまとめ

- 市民意見・意見交換会等や国内外事例により示された機能やテーマは、以下の通り。

| | | |
|-----|--------------------|---|
| 施設 | 娯楽 エンターテインメント | 「スポーツ機能」、「スタジアム」、「エンターテインメント機能・施設」、「レジャー施設」、「(体験型)テーマパーク」 |
| | MICE | 「大規模集客機能」、「国際展示場等の施設」 |
| | 研究開発 | 「企業大学等のイノベーション施設」、「学術・研究開発機能」、「実験都市」 |
| | 文化 | 「文化・芸術機能」、「文化・交流機能」、「横浜の歴史や文化」、 |
| | 公園・緑地 | 「水辺・親水機能」、「公園・レクリエーション機能」、「海を生かした公園」 |
| | 商業・宿泊 | 「ホテル等の滞在機能」、「ホテル」、「ショッピング施設」 |
| | 交通 | 「交通機能」、「電車・バス」、「ロープウェイ」 |
| テーマ | 子育て・教育 | 「子育て・教育」、「子育て・教育への配慮」 |
| | 景観・DX・ サステナビリティ | 「シンボリックな空間」、「DX」、「多様性社会」、「脱炭素社会」、「持続可能なまちづくり」、「環境への配慮・サステナビリティ」 |
| | 防災 | 「防災」 |
| | その他 | 「市民への還元」、「将来を見据えたまちづくり」、「税金の確保」、「税金を意識」 |

令和6年7月5日

意見書

1 団体概要

(1) 団体名

関内・関外地区活性化協議会

(2) 構成会員数

52 団体

(3) 設立年

2012(平成24)年12月6日

(4) 設立趣旨

関内・関外地区の活性化を持続可能なものとするため、地域全体の活性化に効果のある重点的な取組について、地域が一体となって議論、情報共有し、様々な主体が実施する具体的事業と適切かつ効果的に関わりを持って支援することで、地域の発展に寄与することを目的としています。

(5) 主な事業活動

関内・関外地区の活性化に向け、関内・関外地区活性化ビジョンに基づく取組や議論、情報共有等を行っています。

2 山下ふ頭再開発に向けての意見

1. 市民の生活向上に貢献できる場所であること。【詳細は別紙1をご参照ください】

生産年齢人口の減少や少子高齢化の進展を見据え、横浜市の税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には「税収を生み出す場所」としての観点が必要不可欠であると考えます。また、段階的な開発が進む中で、その一部を地域の賑わい創出や課題解決につながる社会実証等の場として活用させていただきたいと考えています。

2. 横浜経済の牽引役となる場所であること。【詳細は別紙2をご参照ください】

山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるものです。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討する必要があります。

3. 市民や来街者の防災拠点となる場所であること。【詳細は別紙3をご参照ください】

山下ふ頭に隣接する横浜都心臨海部には、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであることから、山下ふ頭の開発においても「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が不可欠であると考えます。

具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、開発が進む横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案します。

4. 検討委員会の運営等について【詳細は別紙4をご参照ください】

検討委員会を有意義な場とするため、横浜市が再開発に関する考え方や議論のポイントを示し、これに対して学識経験者や地元関係者はもとより県や国など、関係者全員が建設的な意見交換を行える運営をお願いしたい。

また、検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与や委員会への出席が必要と考えます。また、観光立国を推進する観点からも国や県の関与も必要不可欠だと考えます。

山下ふ頭再開発検討委員会ファクトシート
【基礎資料編】 横浜市の現状について

【別紙 1】
横浜市山下ふ頭再開発検討
委員会（第 3 回）資料抜粋



ファクトシート【基礎資料編】 ～横浜市の現状について～

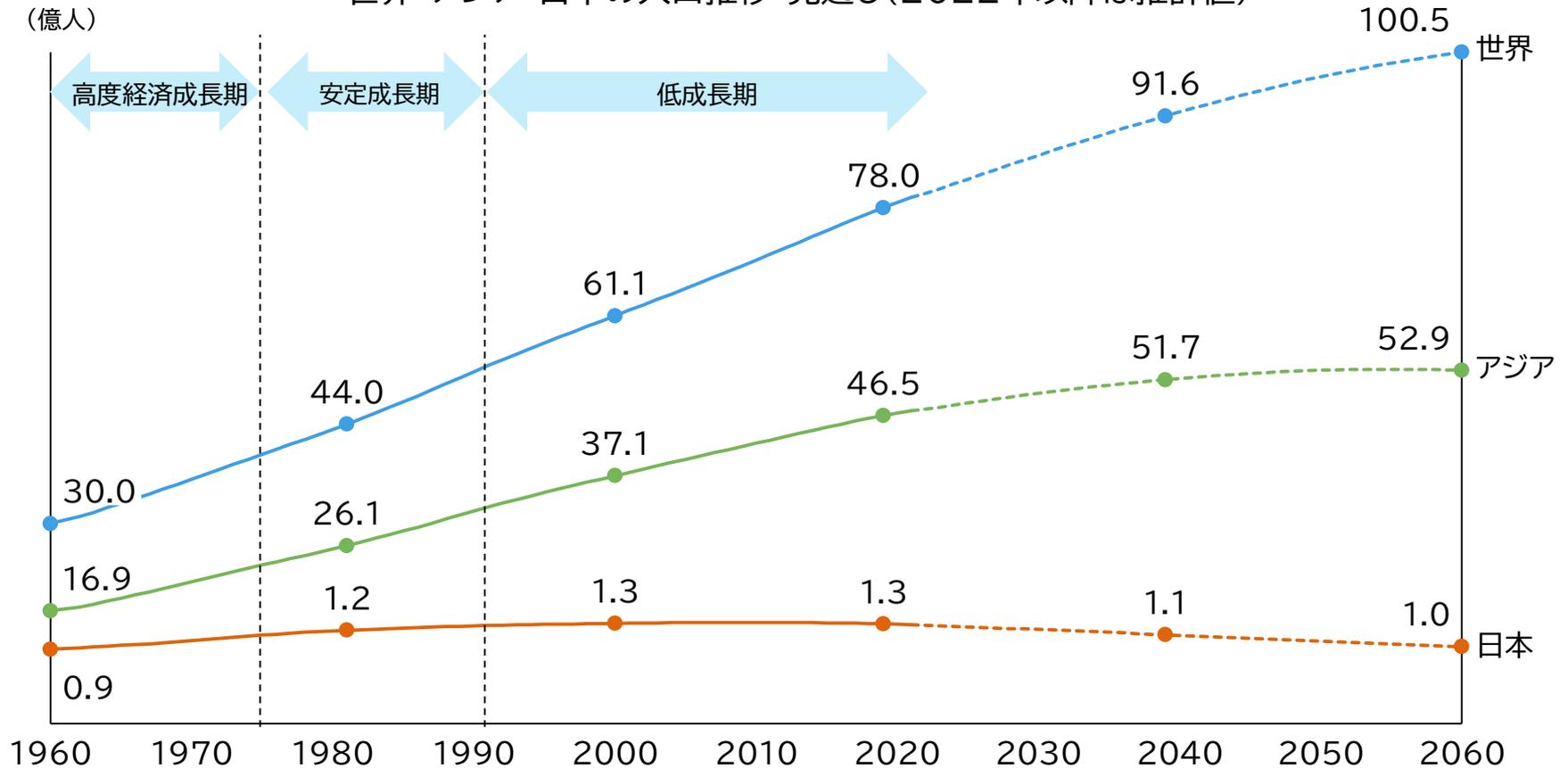
- 1 人口動態
- 2 財政状況
- 3 経済状況
- 4 観光実績
- 5 交通ネットワーク

1. 人口動態

世界、アジアの人口動向

- 世界の人口は、増加傾向にあり、2060年には100億人規模に達する見込み
- アジアの人口も増加傾向で推移する一方で、日本の人口は減少が見込まれる。

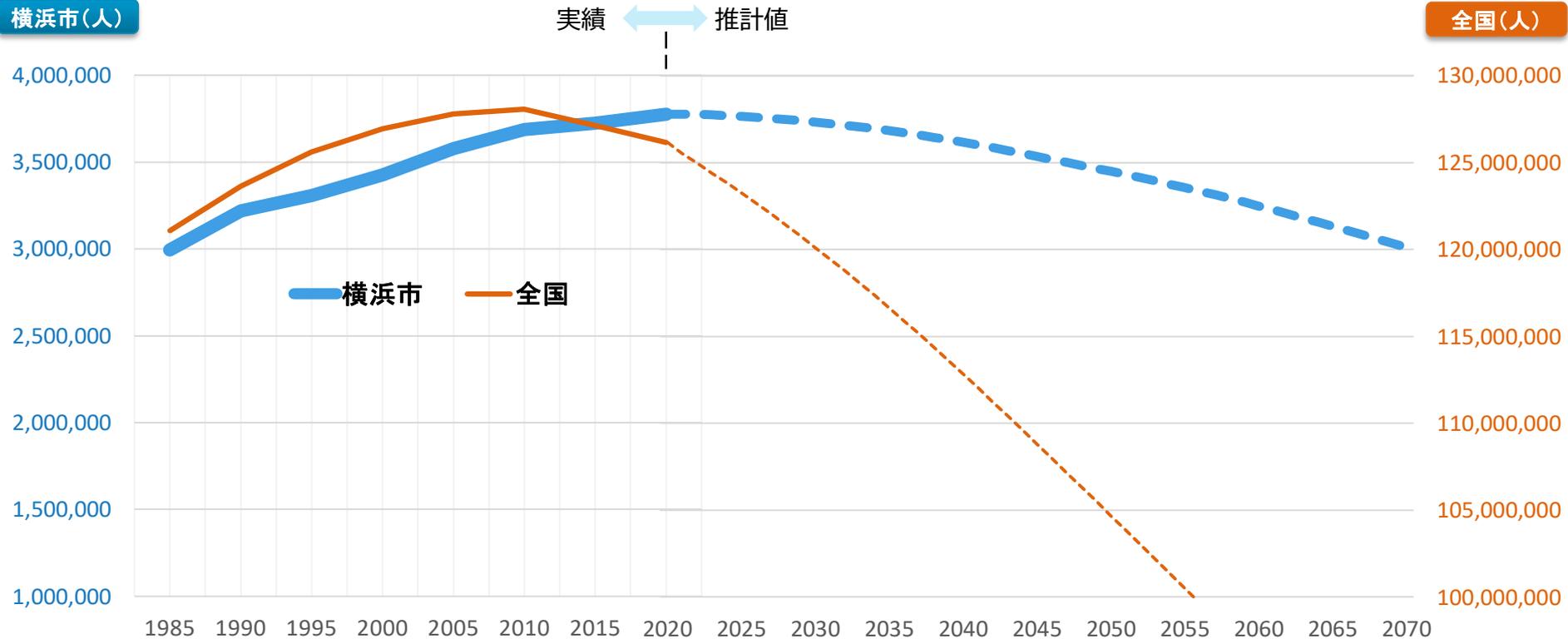
世界・アジア・日本の人口推移・見通し(2022年以降は推計値)



1. 人口動態

人口減少社会の到来、超高齢社会の進展

- 横浜市は2021年に377万9千人(2023年度将来人口推計)でピークを迎え、その後減少。全国と比べピークは遅く減少カーブも緩やかとなる見込み



1985～2020年は、国勢調査

2021年以降は、横浜市は「横浜市の将来人口推計」、全国は「日本の将来推計人口(令和5年推計)」

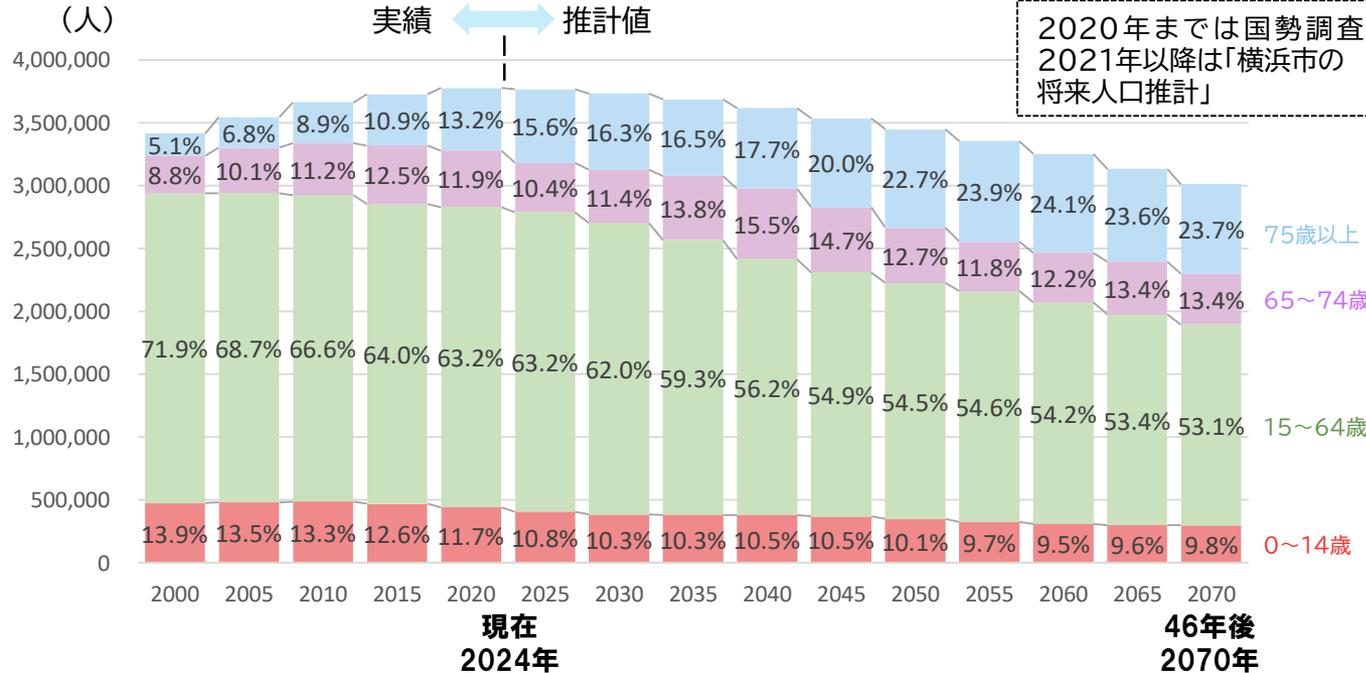
横浜市将来人口推計(2023年度)に2020年国勢調査数値を簡易に反映した見通し

1. 人口動態

横浜市の人口減少、超高齢化の進展

- 年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)は減少が続く。
- 高齢化率は2020年の25.1%から増加し、2045年には34.7%、2070年は37.1%となる見込み

< 横浜市の年齢4区分別人口の推移 >



経済活力
の低下

個人市民税
の減少

社会保障費
は増加



出典:横浜市政策局

「令和2年国勢調査 横浜市の概要」
「横浜市の将来人口推計」より作成

1. 人口動態

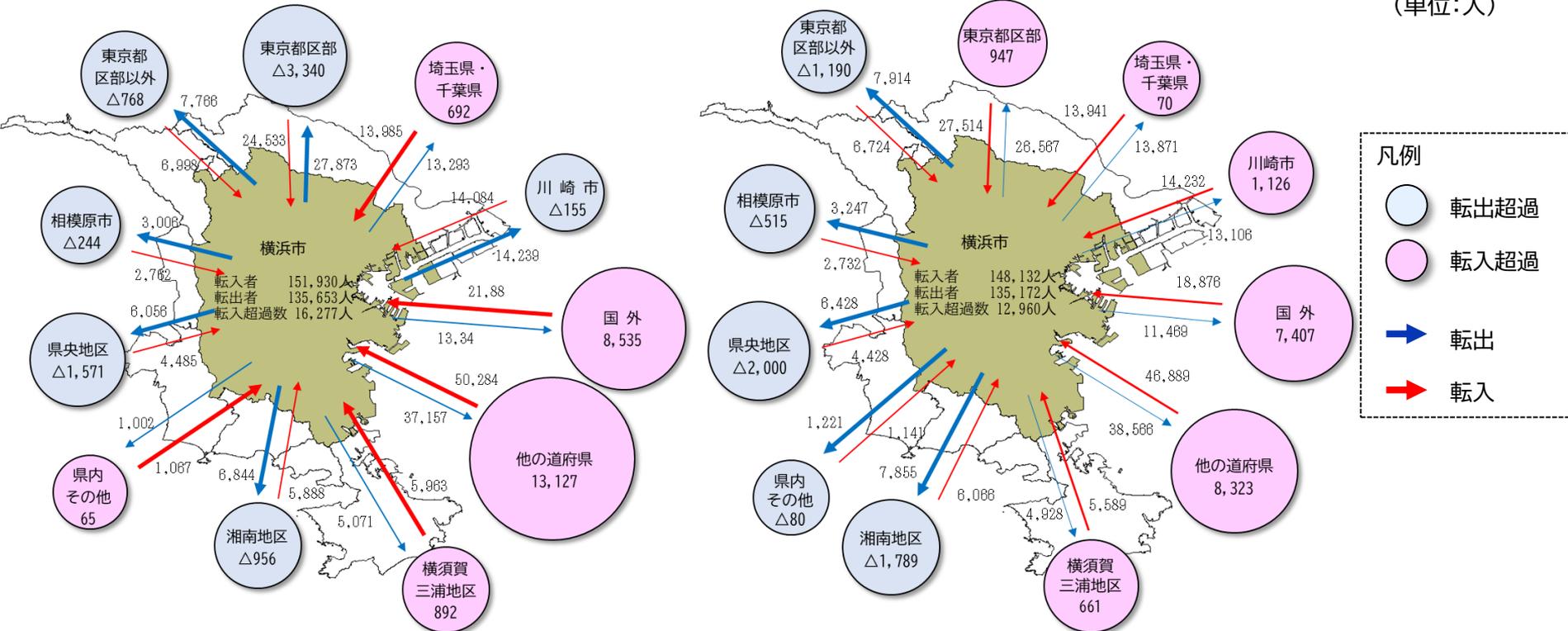
横浜市の人口動態

- 全体としては転入超過となっており、他の道府県や国外等からの転入が多くなっている。
- 東京都区部と川崎市は、コロナ禍前の2019年は転出超過となっているが、2022年は転入超過となっている。

< 2019年(コロナ禍前) >

< 2022年 >

(単位:人)

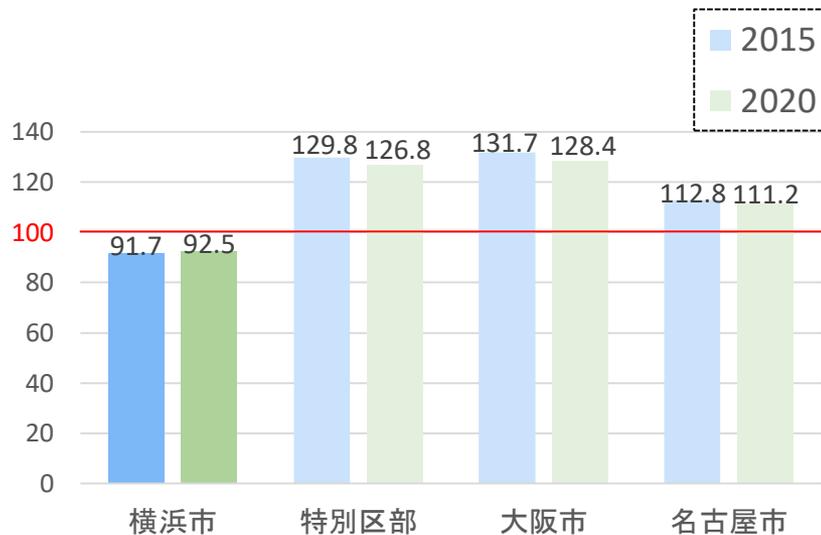


1. 人口動態

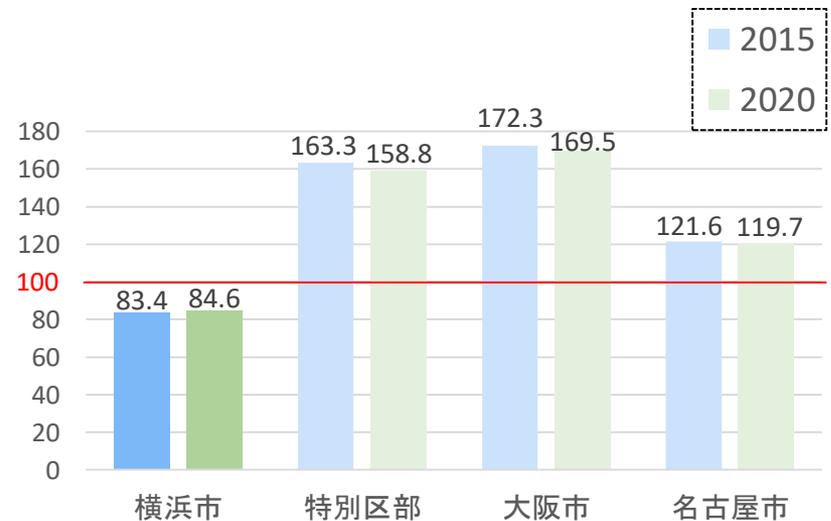
昼夜間人口比率・就従比率

- 東京都特別区部、大阪市、名古屋市と比べると、昼夜間人口比率・就従比率ともに低く、それぞれ100を下回っている。

< 昼夜間人口比率 >



< 就従比率 >



昼夜間人口比率と就従比率は以下の通り算出

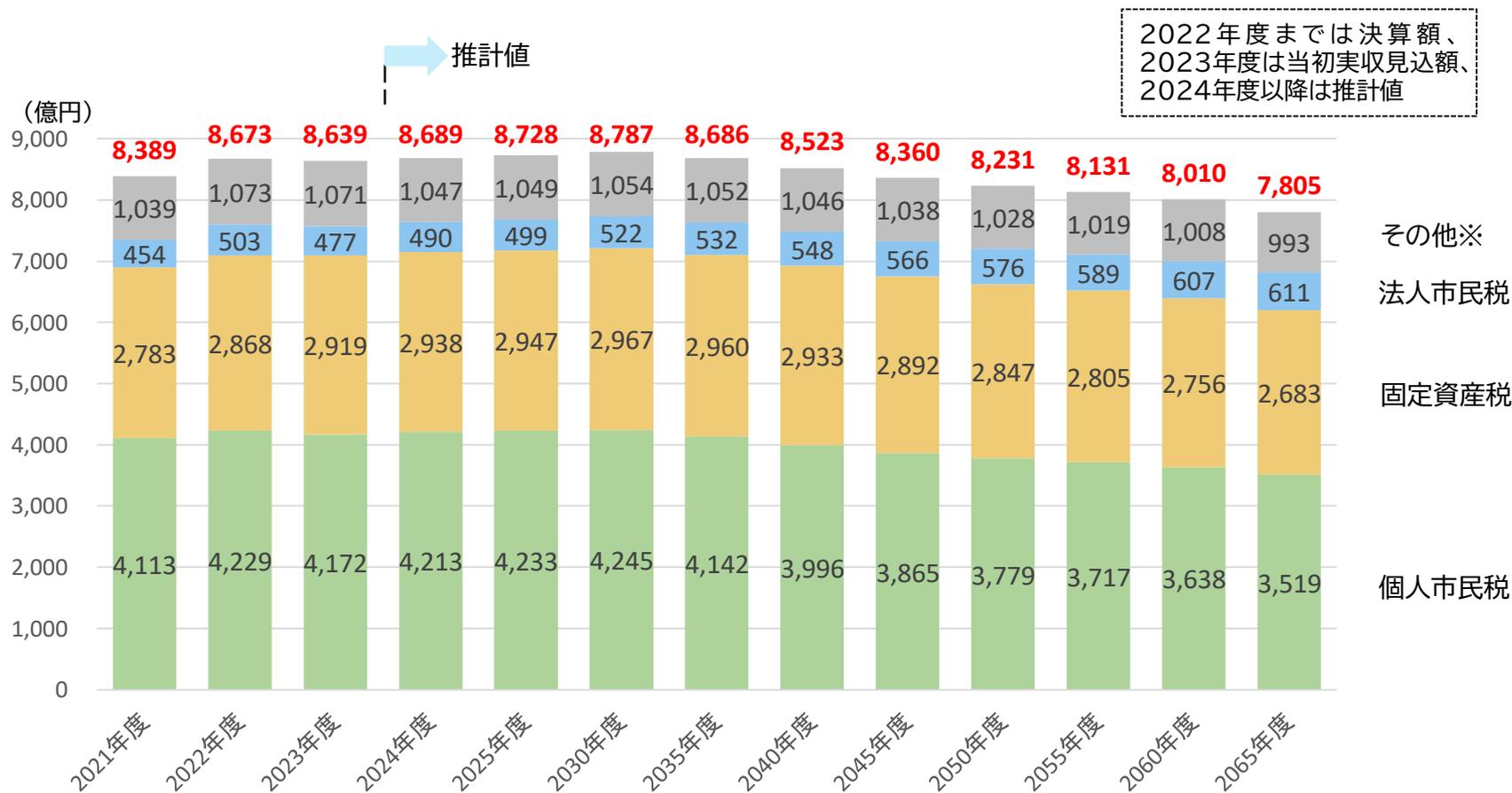
昼夜間人口比率 = (昼間人口 ÷ 夜間人口) × 100 就従比率 = (市内従業者数 ÷ 市民就業者数) × 100

市内従業者は各市内を従業地とする従業者(市外からの通勤者を含む)、市民就業者は各市内が常住地の就業者

2. 財政状況

市税における税目別収入額の推移

○人口減少により個人市民税を中心に市税収入の減少が見込まれる。

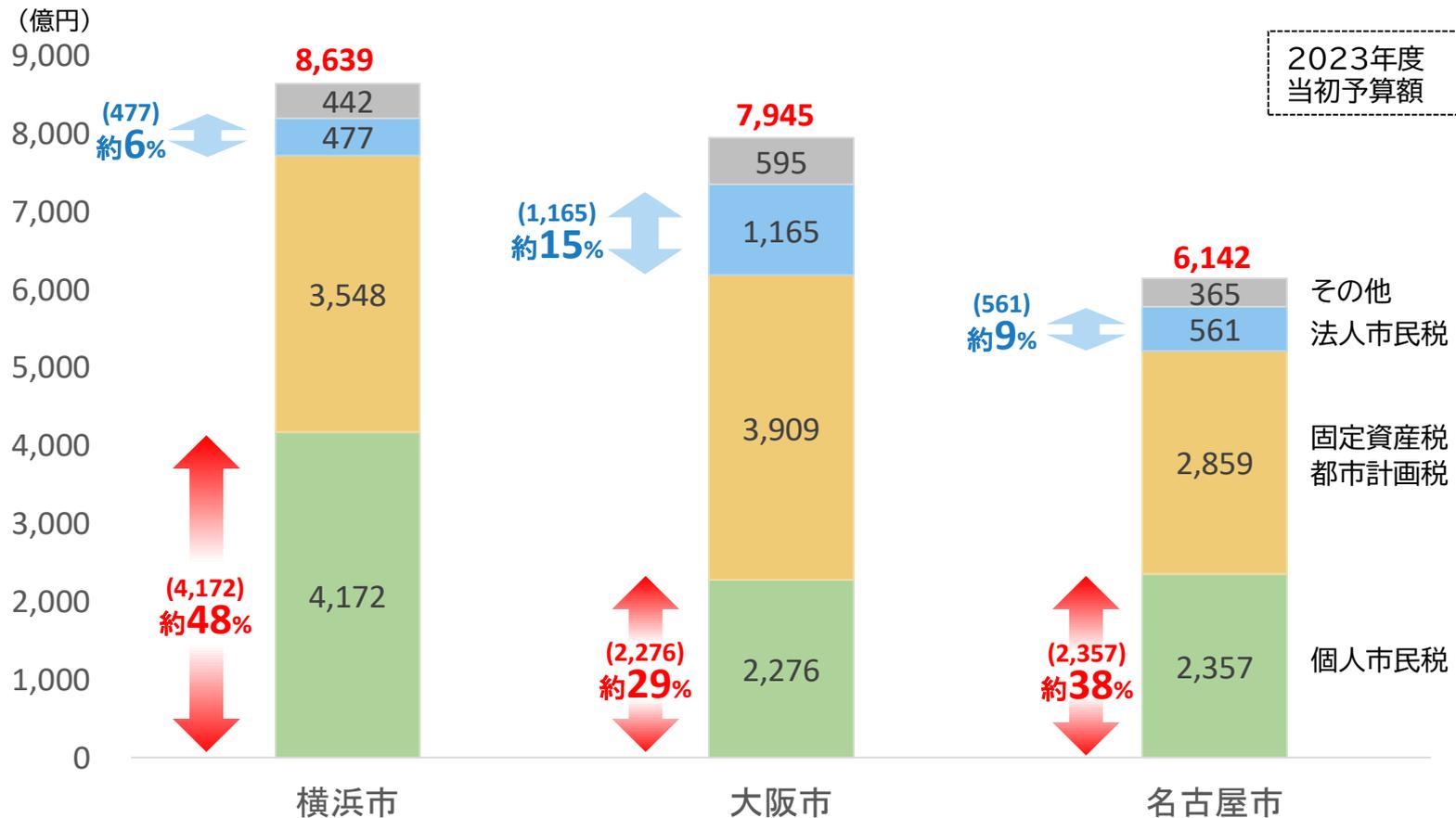


※ その他：都市計画税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、事業所税

2. 財政状況

主な税目別内訳の政令市との比較

○大阪市、名古屋市と比べ、個人市民税の割合が大きく、法人市民税の割合が小さい。

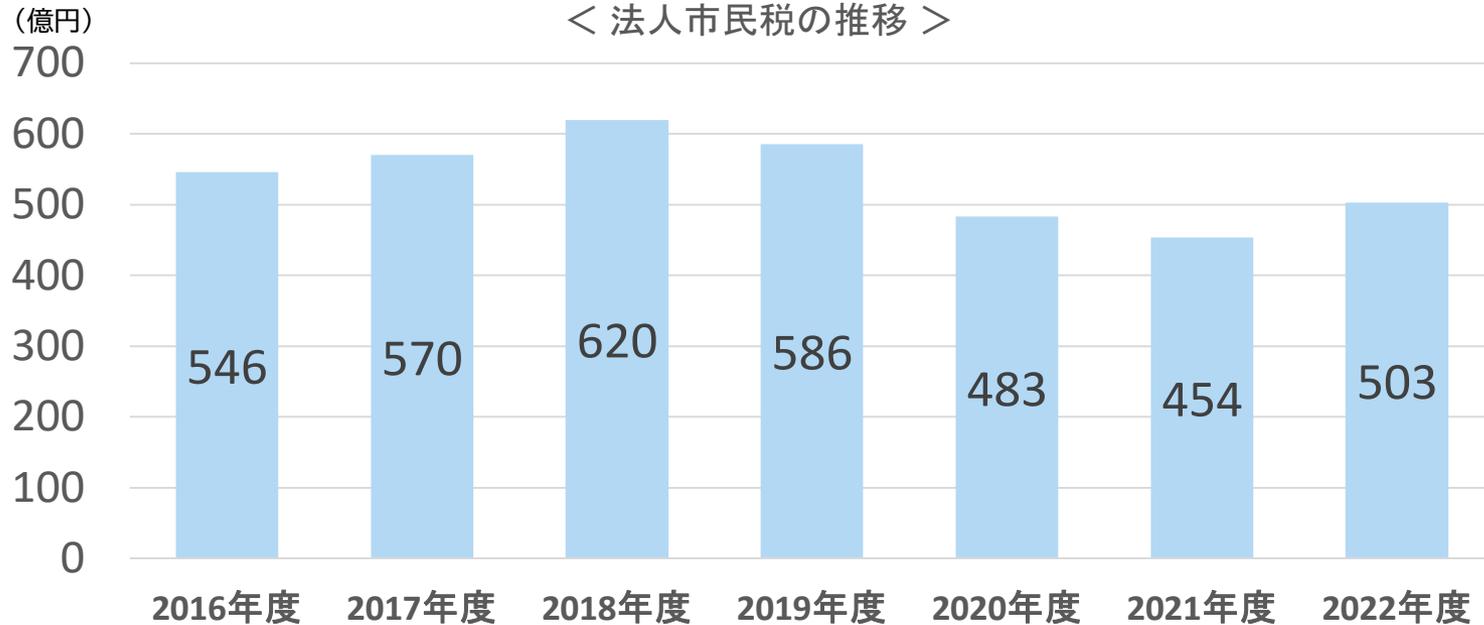


出典:横浜市 財政局「令和5年度予算案について」、大阪市 財政局「令和5年度(2023年度)当初予算(案)について」、
名古屋市 財政局「令和5年度予算の概要」より作成

2. 財政状況

法人市民税の推移と直近の企業誘致

○ 2022年度の法人市民税は企業収益の増などにより増収となっている。



出典：横浜市財政局「令和4年度 一般会計決算の概要」「令和元年度 一般会計決算の概要」より作成

＜ 直近の企業誘致の主な実績(みなとみらい21地区) ＞

2019年

・京セラドキュメント
ソリューションズ
株式会社 ほか

2020年

・ソニー株式会社

ほか

2022年

・LG Japan Lab株式会社
・ヤマハ株式会社

ほか



京セラ株式会社



ソニー株式会社

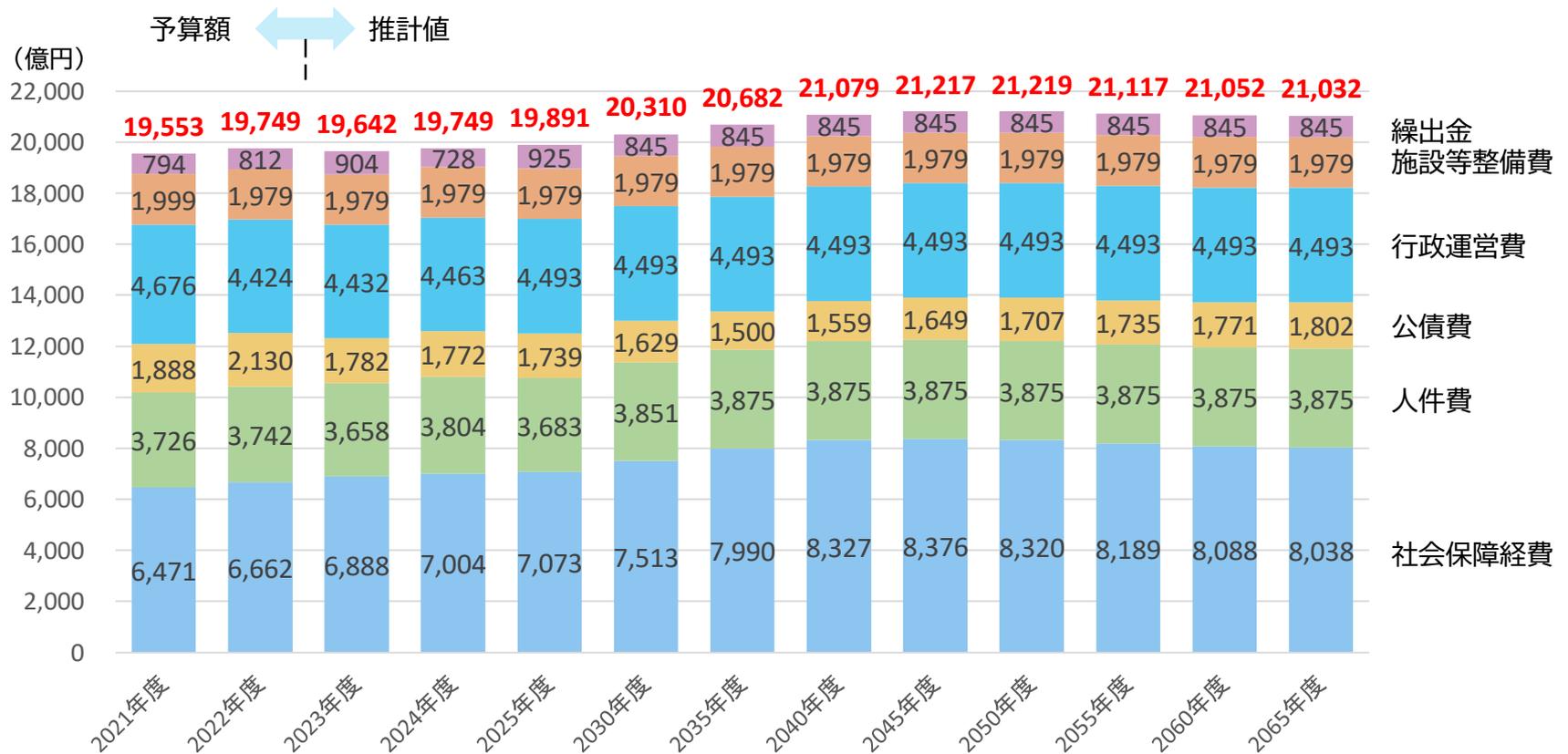


ヤマハ株式会社

2. 財政状況

一般会計歳出予算額(性質別)の推移

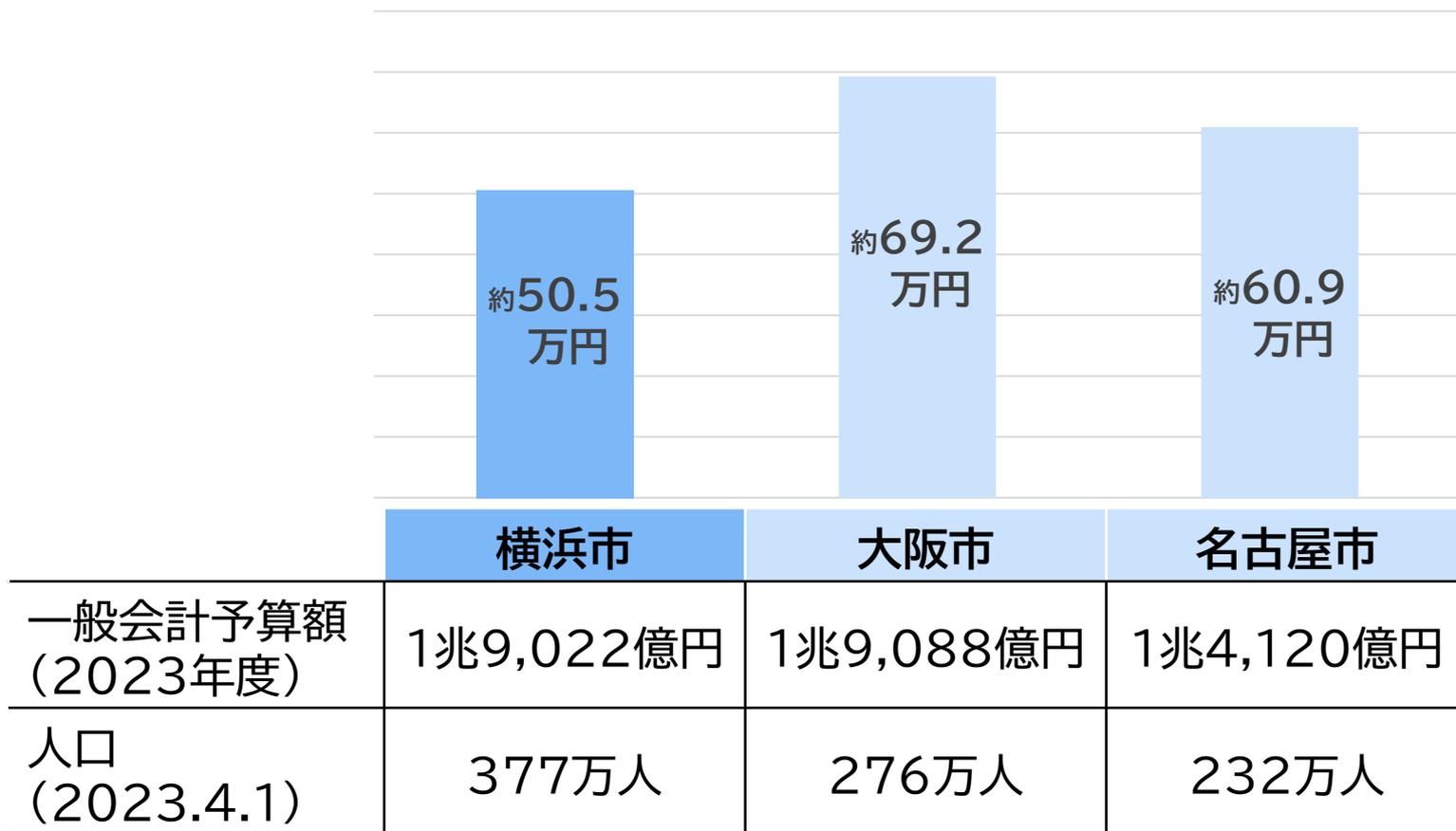
- 社会保障経費は、高齢化の進展とともに、2045年頃にかけて支出が増加する見込み



2. 財政状況

市民一人あたり一般会計予算額の政令市との比較

○ 大阪市、名古屋市と比べ、市民一人あたりの予算額が少ない。



出典:横浜市 財政局「令和5年度予算案について」、政策局「横浜市人口ニュース」

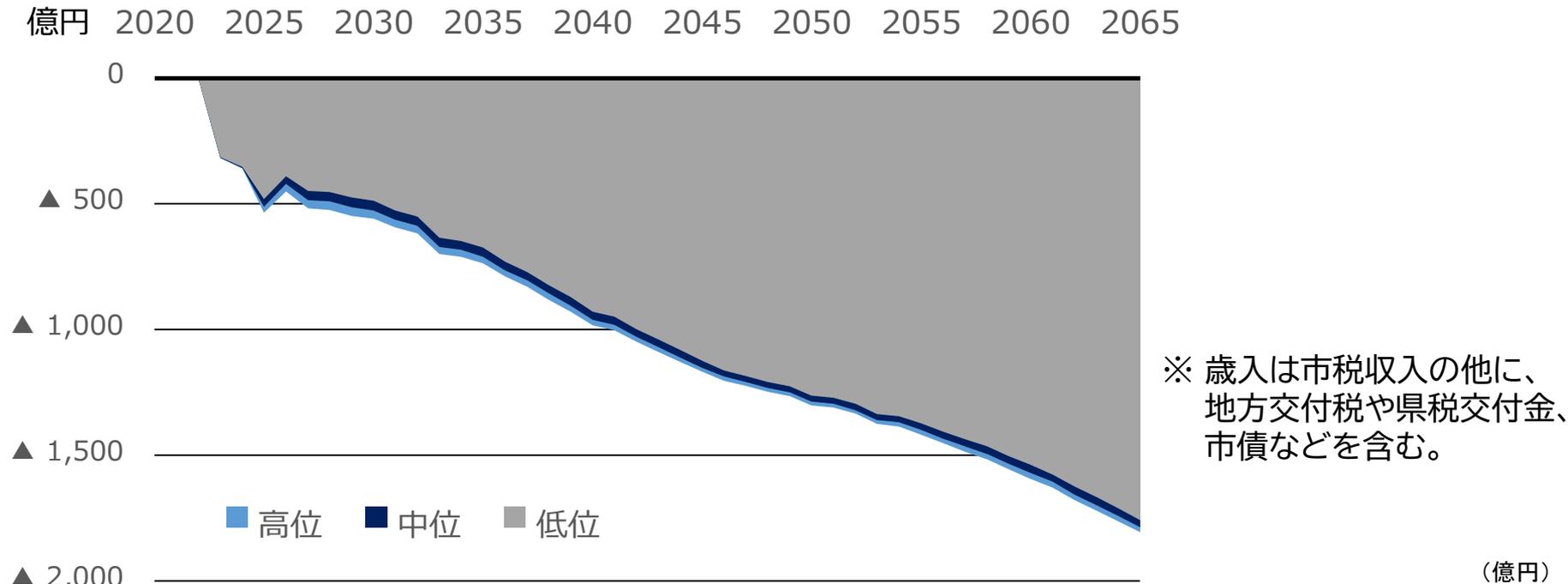
大阪市 財政局「令和5年度予算案について」、計画調整局「大阪市の推計人口」

名古屋市 財政局「令和5年度名古屋市一般会計予算に関する説明書」、総務局「名古屋市の世帯数と人口」より作成

2. 財政状況

将来収支差の見通し

- 高齢化の進展による社会保障経費の増加や人口減少による市税収入の減少により、今後、各年度の収支差が拡大し続ける見込み



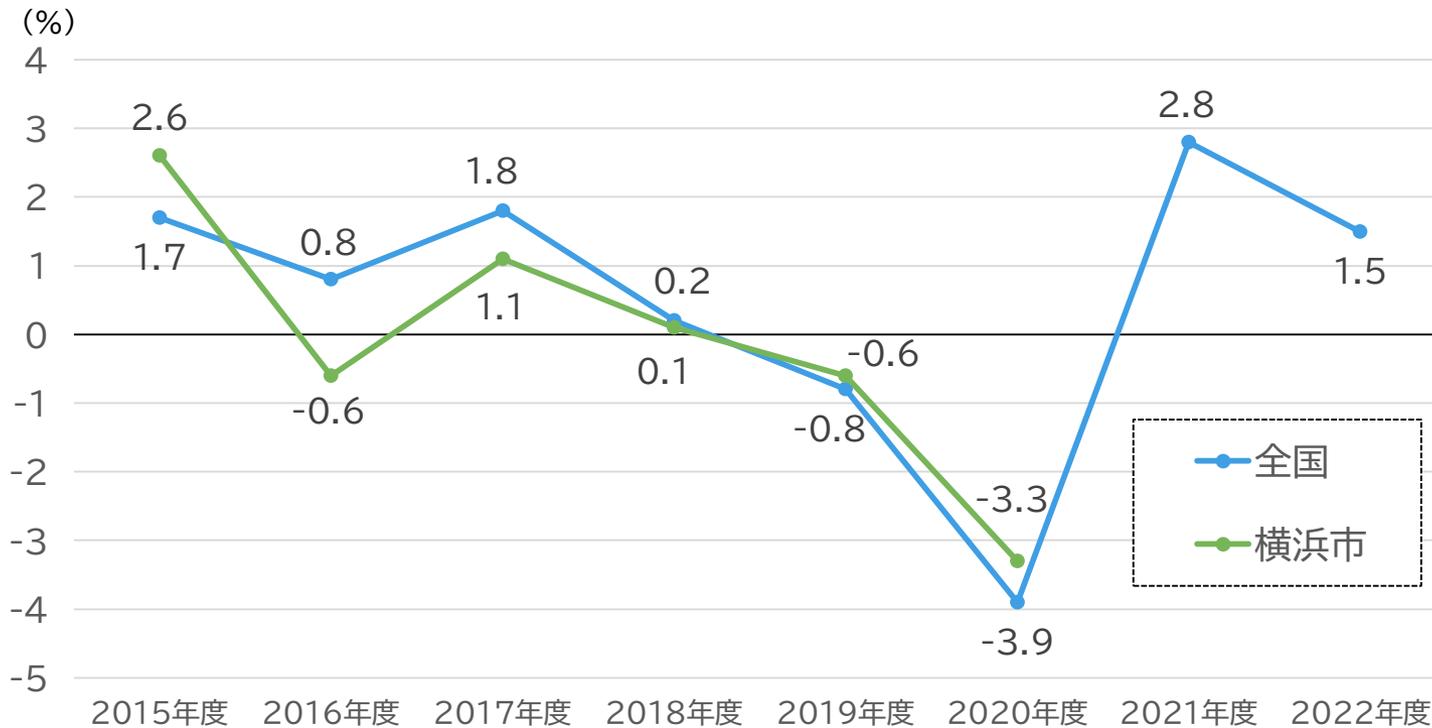
※2020 (R2)、2021 (R3) 年度については
当初予算額を記載

| | 2030年度 | 2040年度 | 2050年度 | 2060年度 | 2065年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 高位 | ▲559 | ▲984 | ▲1,303 | ▲1,594 | ▲1,806 |
| 中位 | ▲526 | ▲962 | ▲1,288 | ▲1,571 | ▲1,788 |
| 低位 | ▲487 | ▲929 | ▲1,264 | ▲1,539 | ▲1,759 |

3. 経済状況

横浜市の経済成長率(実質)

- 全国と概ね同じ動きで推移
- 2020年度の実質経済成長率は-3.3%で、2年連続のマイナス成長

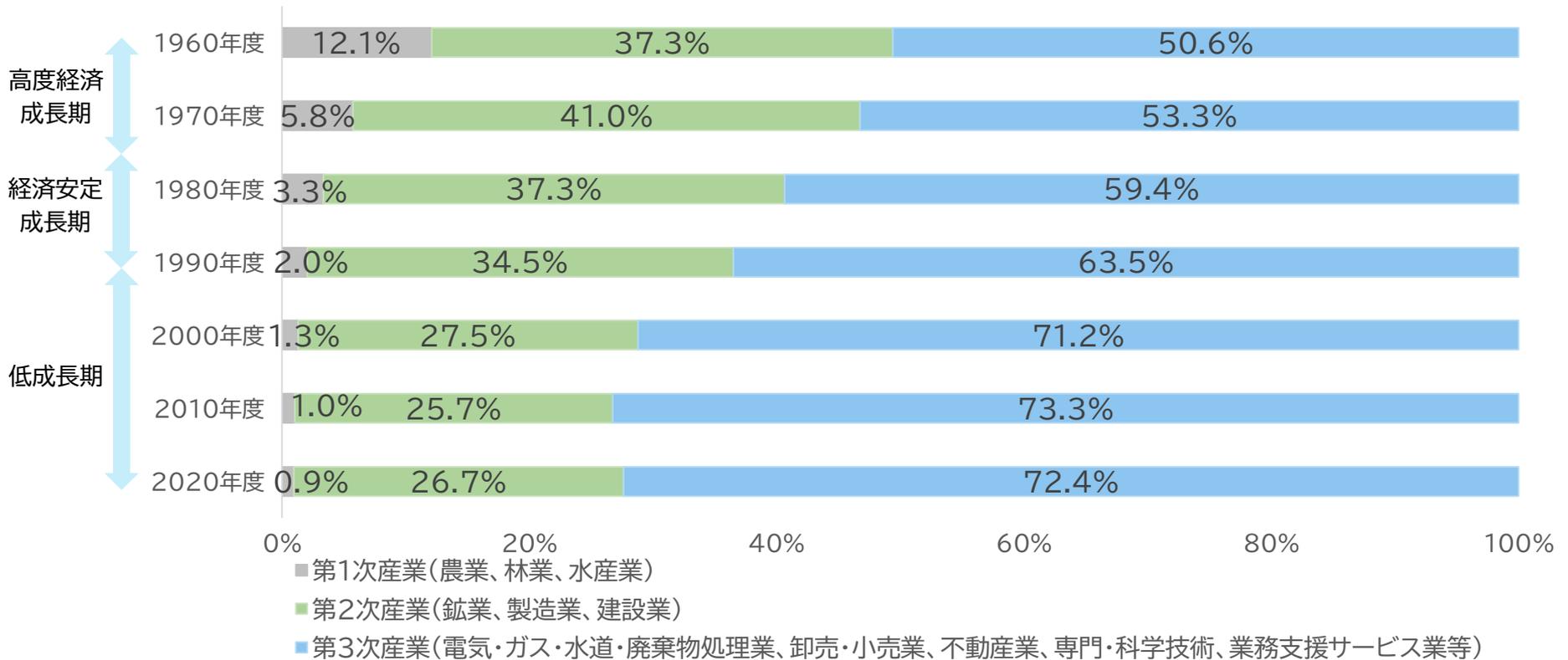


3. 経済状況

日本の産業構造の変化

- 第3次産業全体の締める割合が増加傾向が続き、近年では第1次産業、第2次産業の合計は3割程度

< 経済活動別のGDP構成比 >

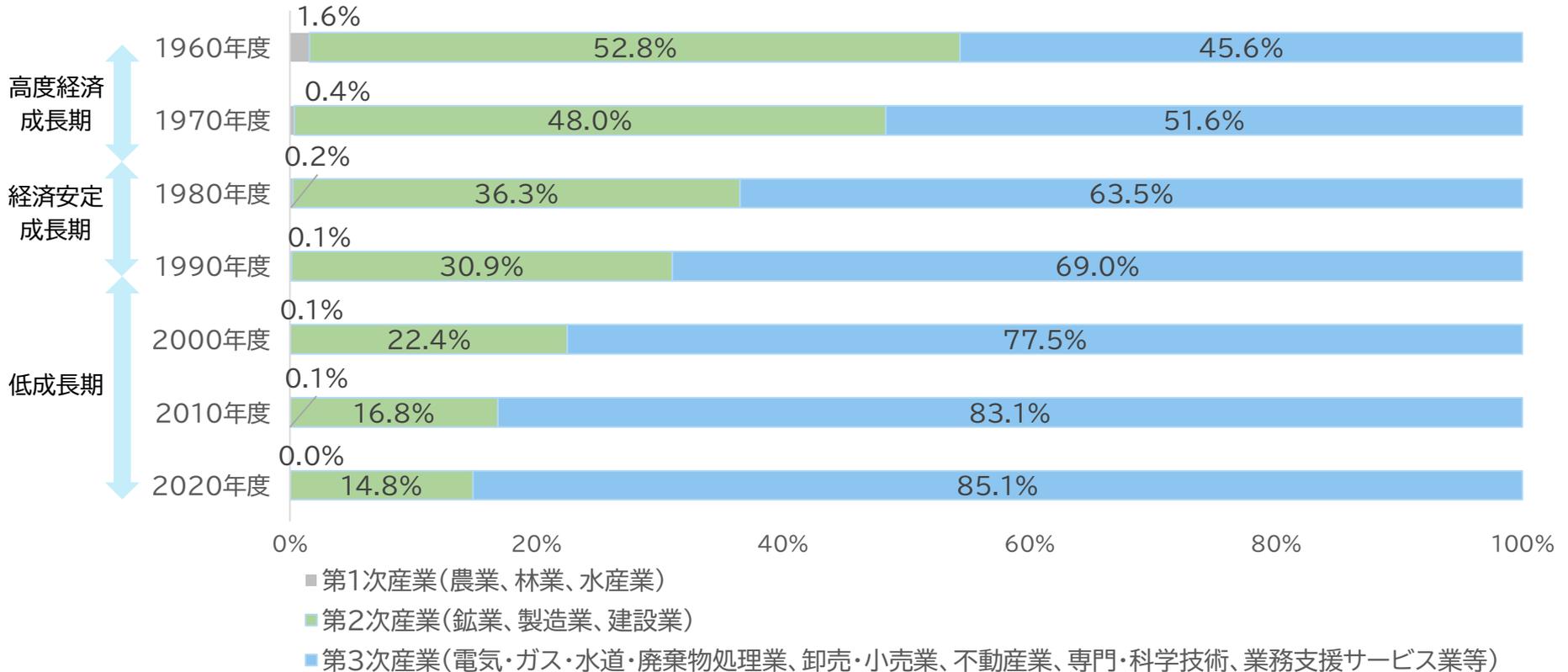


3. 経済状況

横浜経済圏(横浜市)の産業構造の変化

- 第3次産業全体の締める割合が増加傾向が続き、近年では第1次産業、第2次産業の合計は1割5分程度

< 経済活動別のGDP構成比 >



※ 1970年以前は、横浜市統計書の市内純生産(要素費用表示)の値から構成比を算出

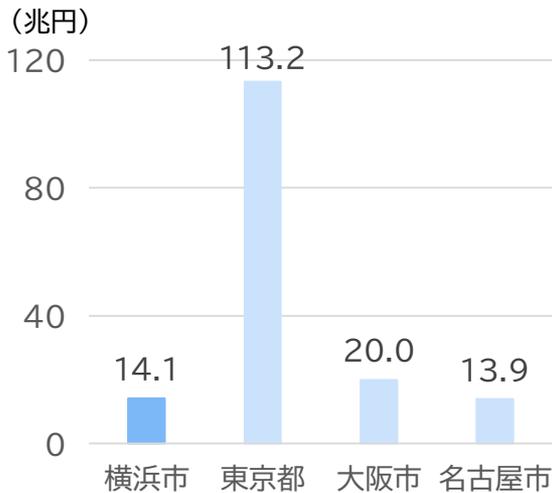
出典:内閣府経済社会総合研究所「経済活動別県内総生産」、横浜市「横浜市統計書」より作成

3. 経済状況

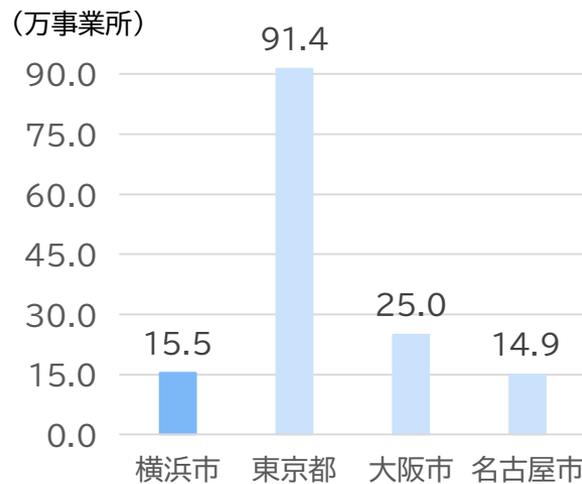
横浜市の経済状況

○ 東京都、大阪市と比べると、市内総生産や事業所数、法人市民税収入において差がある。

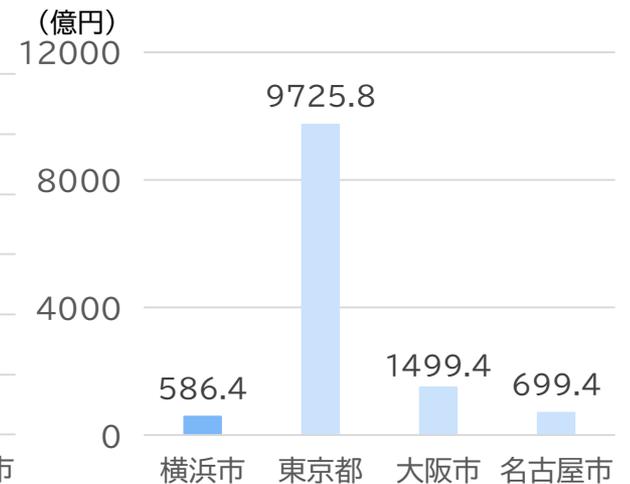
< 市内総生産(2019年度) >



< 事業所数(2019年) >



< 法人市民税(2019年度) >



出典

左図: 横浜市政策局「令和2年度 横浜市の市民経済計算(令和5年度刊行)」、東京都「都民経済計算年報 令和2年度」、大阪市「令和2年度 大阪市民経済計算」、名古屋市「令和2年度 名古屋の市民経済計算」より作成
市内総生産は実質

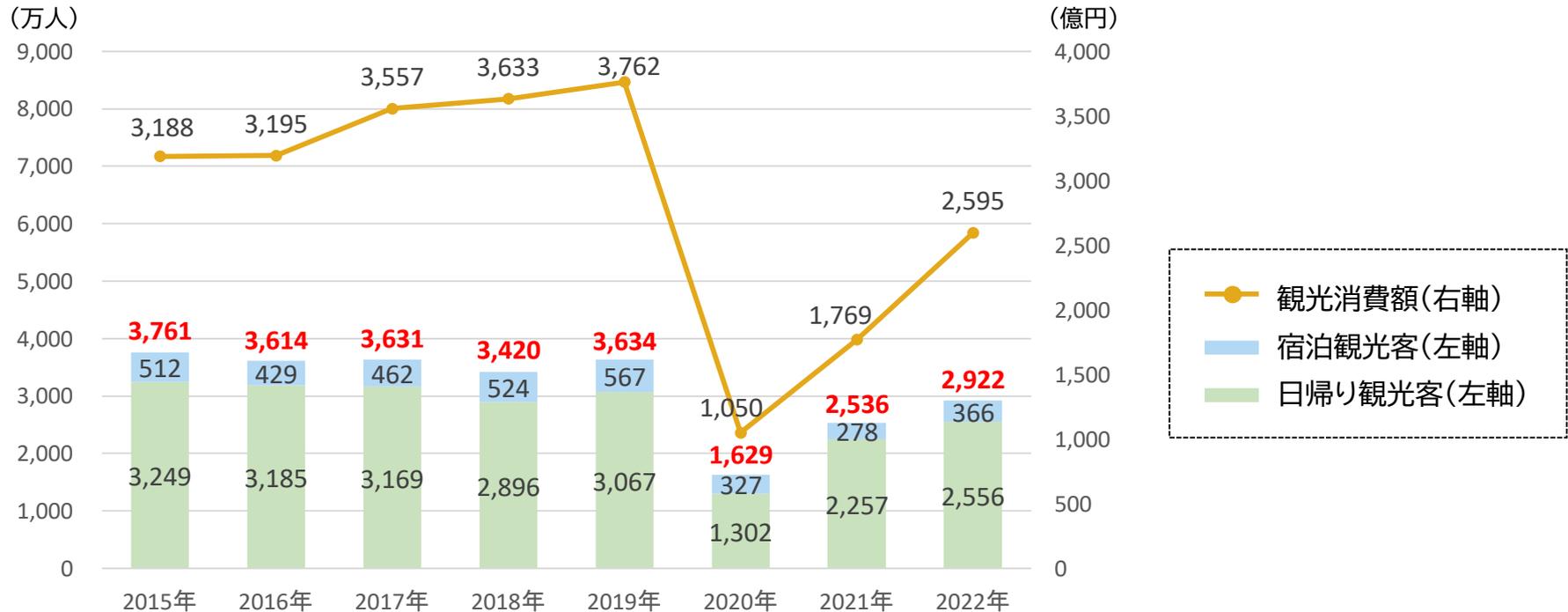
中図: 総務省統計局「令和元年経済センサス」より作成

右図: 横浜市財政局「令和元年度一般会計決算の概要」、東京都「令和元年度 都税収入決算額について」、大阪市「令和元年度の一般会計、政令等特別会計決算について」、名古屋市「一般会計決算(令和元年度)」より作成

4. 観光実績

横浜市の観光入込客数(実人数)と観光消費額の推移

- 2019年の横浜市の観光入込客数は、3,634万人(観光消費額3,762億円)だったがコロナ禍で急減。その後、回復傾向となり、2022年は2,922万人(観光消費額2,595億円)
- 観光入込客数を内訳で見ると、日帰り客の比率が高い。
- コロナ禍前5か年の平均消費額は、宿泊客:27,688円、日帰り客:6,752円

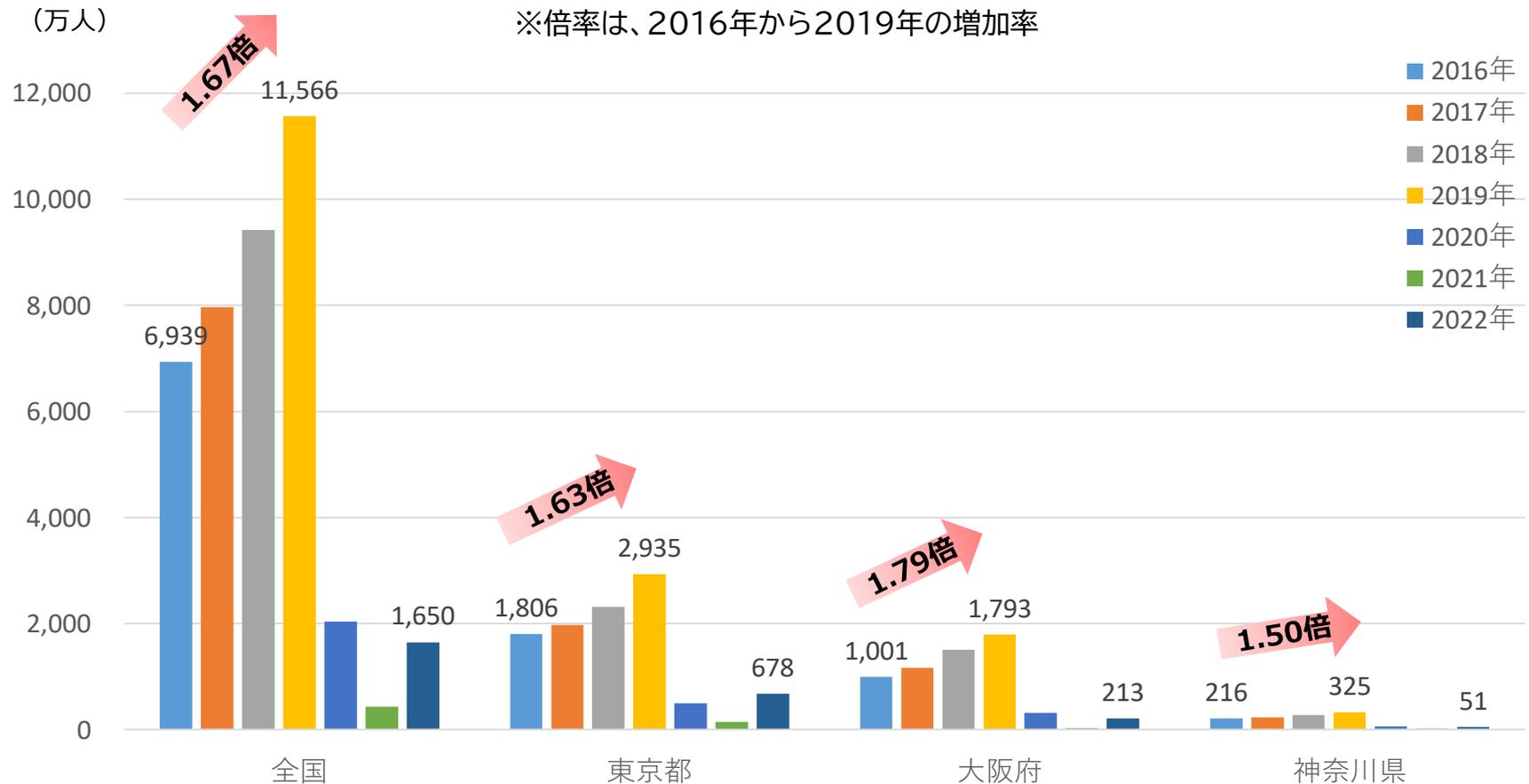


4. 観光実績

神奈川県外国人宿泊者数

○ 全国、東京都、大阪府と比べ、外国人宿泊者数は少ない。

< 外国人延べ宿泊者数の推移 >
※倍率は、2016年から2019年の増加率



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

5. 交通ネットワーク

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)

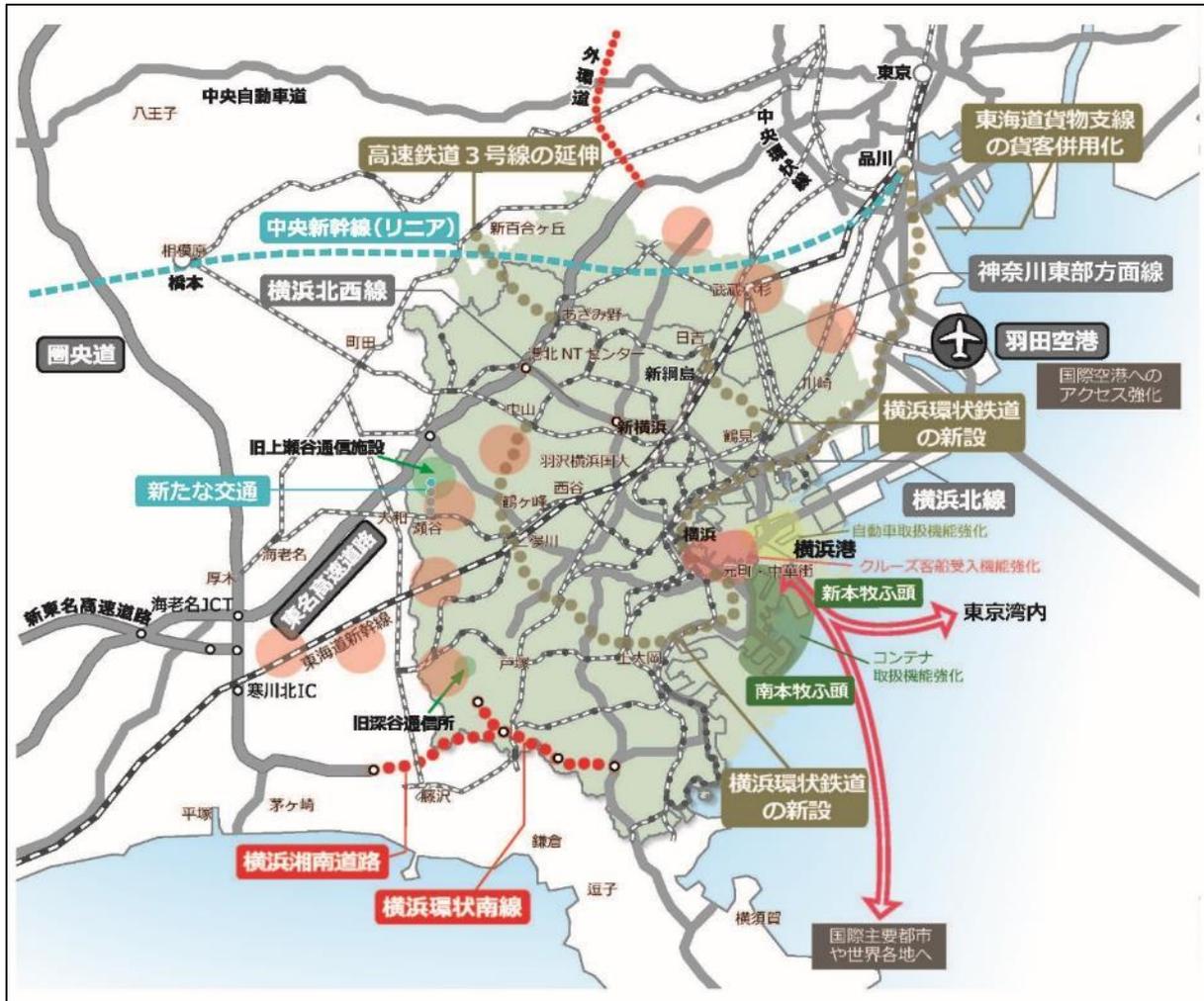
- 東名高速道路、中央自動車道等の放射状に延びる高速道路等と一体となって首都圏の広域的な幹線道路網を形成



5. 交通ネットワーク

生活や経済を支える交通ネットワーク等

○横浜経済の更なる発展と国内外からの人・投資を呼び込むため、道路や鉄道、港などの整備を推進しています。



- 道路
横浜湘南道路※
横浜環状南線※
※ 開通時期については、事業者(国土交通省及び東日本高速道路株式会社)により検討中
- 鉄道
【2027年以降】リニア中央新幹線(品川～名古屋)
【2030年】高速鉄道3号線の延伸(開業目標)※
※交通政策審議会答申の目標年次
- 港湾
【2027年度以降】新本牧ふ頭

- 中央新幹線
- 構想中(新たな交通)
- 事業中(自動車専用道路)
- 供用中(自動車専用道路)
- 構想中(自動車専用道路)
- 供用中(鉄道)
- 東海道新幹線
- 計画路線(鉄道)

出典:「横浜市中期計画2022～2025」を
もとに港湾局作成

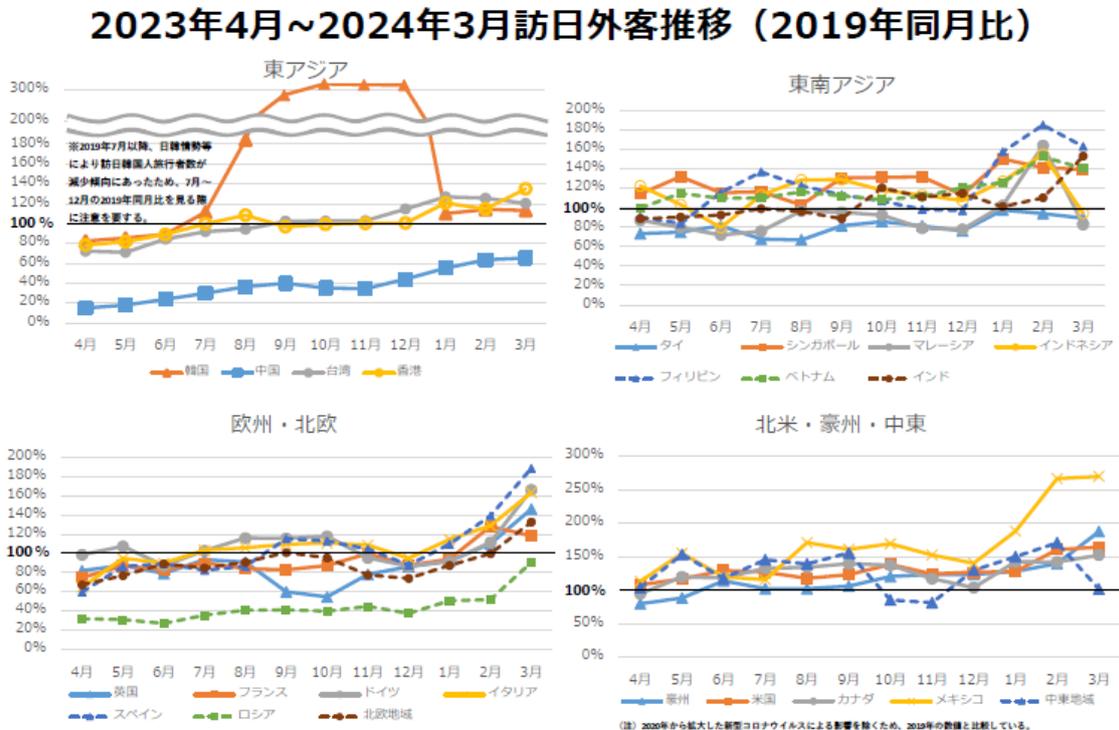
2. 横浜経済の牽引役となる場所であること。

山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるものです。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討する必要があります。

JNTO(日本政府観光局)の訪日外客数調査によると、2024年3月の訪日外客数は、3,081,600人で、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2019年の同月比で11.6%増となり、単月としては初めて300万人を超えました。さらに、同JNTOが世界22市場を対象とした、国外旅行の意向等に関するアンケート調査では、「今後行きたい旅行先」として、東アジア・東南アジア地域の、10か国中9か国が日本を1番にあげています。欧米豪・インド・中東地域についても、ほとんどの国が上位5位以内に日本を挙げており、外国からの注目が高い状況となっています。

山下ふ頭の再開発事業は、こうした外国からの観光需要をうまく捉え、大規模集客施設(エンターテインメント等)、ホテル機能の導入など旅の目的地となることによって、消費や雇用創出など、横浜の地域経済活性化の起爆剤となることが求められています。

日本を代表する都市として発展し続ける横浜にとって、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は、世界との玄関口になるべき場所であり、横浜の成長を牽引し、横浜市民のより豊かな生活につながる場所としていくべきと考えます。大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済に波及させることが重要だと考えます。



出典: 2024年4月「訪日外客数(2024年3月推計値)」日本政府観光局

URL: https://www.into.go.jp/news/20240417_monthly.pdf (左記 URL の P6 を参照)

今後行きたい旅行先（想起集合）－東アジア・東南アジア地域

| | 韓国 | 中国 | 台湾 | 香港 | タイ | シンガポール | マレーシア | インドネシア | フィリピン | ベトナム |
|----|--------------|-------------|----------------------|-------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------|
| 1位 | 米国 29.1% | 日本 25.8% | 日本 61.1% | 日本 61.1% | 日本 60.4% | 日本 44.0% | 日本 32.2% | 日本 47.5% | 日本 45.9% | 日本 41.9% |
| 2位 | 日本 21.5% | 米国 25.3% | 韓国 24.3% | 台湾 27.0% | 韓国 29.3% | 韓国 19.4% | 韓国 19.9% | サウジ アラビア 25.5% | 韓国 30.7% | 韓国 31.9% |
| 3位 | 豪州 18.9% | 豪州 19.0% | 米国 22.3% | 韓国 21.1% | 米国 20.7% | 台湾 18.6% | ニュージ ランド 18.7% | 韓国 24.6% | 米国 26.3% | 米国 27.1% |
| 4位 | カナダ 18.3% | 韓国 15.0% | ニュージ ランド 13.1% | 豪州 19.3% | スイス 13.9% | 豪州 18.3% | 豪州 16.1% | 米国 18.0% | カナダ 20.9% | 豪州 17.1% |
| 5位 | スイス 17.3% | タイ 14.9% | 豪州 12.3% | タイ 13.8% | ニュージ ランド 12.1% | ニュージ ランド 18.0% | スイス 14.1% | シンガポール 16.8% | ニュージ ランド 16.1% | 中国 15.5% |

※今後行きたい旅行先（最大3か国・地域まで選択）の回答結果を用いて、各旅行先の選択率を集計。
 ※日本についての調査であるというバイアスがつかからないよう、旅行経験等を聴取する前に聴取。選択肢は地域ごとにグループ化し、グループ間およびグループ内でランダム表示。
 ※東アジア・東南アジア地域の調査対象は、2017年～2023年調査時点における飛行機を利用したレジャー目的の国外旅行経験者。
 ※本調査は、訪日旅行時の具体的な体験内容などを把握するため、回答者の1/3程度以上を訪日旅行経験者が占める割合で実施。
 そのため、訪日旅行経験者の割合は、各市場の実際の「国外旅行経験者における訪日旅行経験者の割合」と一致しない点に留意。

今後行きたい旅行先（想起集合）－欧米豪・インド・中東地域

| | インド | 豪州 | 米国 | カナダ | メキシコ | 英国 | フランス | ドイツ | イタリア | スペイン | 北欧地域 | 中東地域 |
|----|-----------------------|---------------|---------------|----------------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------|----------------------|----------------------|----------------|
| 1位 | 米国 32.2% | 日本 25.5% | イタリア 22.9% | 豪州 23.7% | カナダ 35.9% | 米国 36.3% | カナダ 31.8% | 米国 36.1% | 米国 37.8% | 米国 40.3% | 米国 36.8% | 日本 26.5% |
| 2位 | シンガポール 22.7% | カナダ 22.7% | 豪州 17.8% | 日本 17.5% | 日本 26.1% | 豪州 28.5% | 米国 28.7% | 豪州 24.4% | 日本 30.2% | 日本 30.3% | 豪州 27.7% | 米国 20.5% |
| 3位 | 豪州 18.7% | 米国 19.5% | 日本 16.5% | イタリア 16.1% | フランス 19.7% | カナダ 25.4% | 豪州 27.2% | カナダ 21.2% | 豪州* 30.2% | 豪州 30.2% | ニュージ ランド 25.3% | 英国 13.0% |
| 4位 | アラブ首長 国連邦 17.9% | イタリア 16.7% | 英国 14.1% | 英国 14.1% | スペイン 19.1% | ニュージ ランド 24.5% | 日本 24.0% | ニュージ ランド 19.8% | カナダ 20.2% | カナダ 19.7% | 日本 19.3% | モルディブ 11.9% |
| 5位 | スイス 17.0% | 英国 13.7% | フランス 13.1% | ニュージ ランド 13.1% | イタリア 18.1% | 日本 22.2% | ニュージ ランド 15.9% | 日本 16.5% | モルディブ 14.7% | ニュージ ランド 19.1% | カナダ 17.8% | スイス 11.4% |

(日本)
8位
10.8%

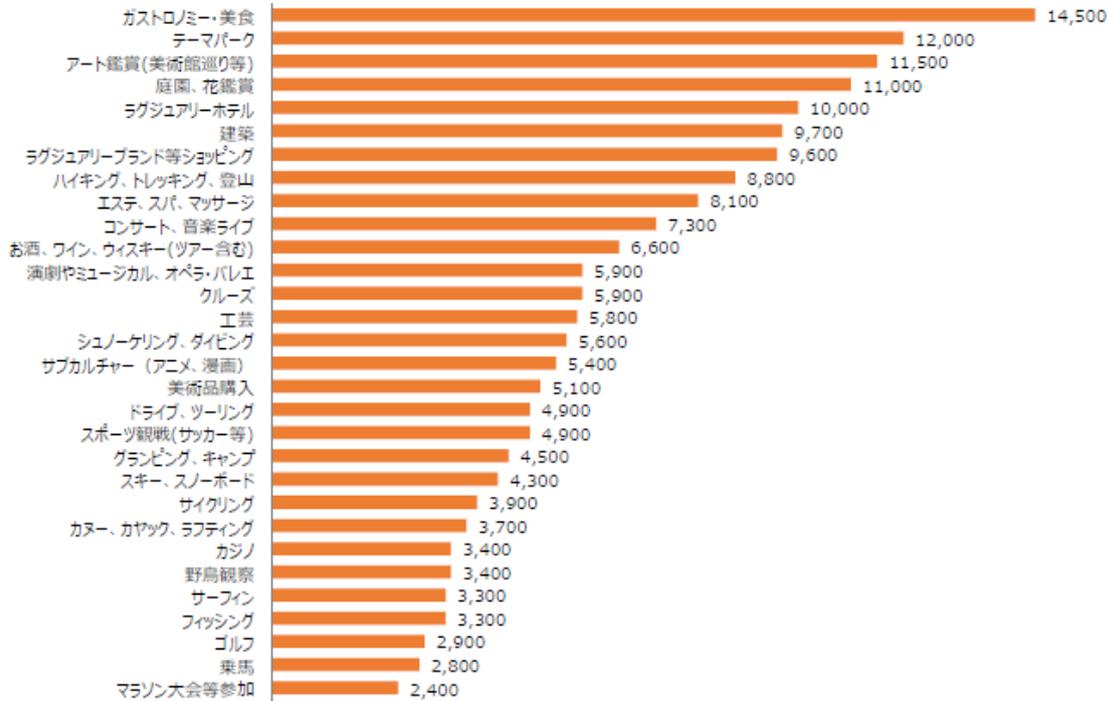
*同率2位

※今後行きたい旅行先（最大3か国・地域まで選択）の回答結果を用いて、各旅行先の選択率を集計。
 ※日本についての調査であるというバイアスがつかからないよう、旅行経験等を聴取する前に聴取。選択肢は地域ごとにグループ化し、グループ間およびグループ内でランダム表示。
 ※欧米豪・インド・中東地域においては、2017年（メキシコおよび中東地域は2015年）～2023年調査時点における飛行機を利用したレジャー目的の中長距離国外旅行経験者を対象に、選択肢は当該市場からの中長距離旅行先に限定して調査。
 ※本調査は、訪日旅行時の具体的な体験内容などを把握するため、回答者の1/3程度以上を訪日旅行経験者が占める割合で実施。
 そのため、訪日旅行経験者の割合は、各市場の実際の「国外旅行経験者における訪日旅行経験者の割合」と一致しない点に留意。

出典：2024年1月「VJ 重点市場基礎調査結果概要」日本政府観光局

URL：<https://www.jnto.go.jp/news/20240125.pdf>（左記 URL の「結果概要」P16、17 を参照）

国外旅行の主な目的別の市場規模（万人、推計値）



出典：2024年1月「VJ 重点市場基礎調査結果概要」日本政府観光局

URL：<https://www.into.go.jp/news/20240125.pdf> (左記 URL の「結果概要」P24 参照)

3. 市民や来街者の防災拠点となる場所であること。

山下ふ頭に隣接する横浜都心臨海部には、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであることから、山下ふ頭の開発においても「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が必要であると考えます。

具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、開発が進む横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案します。

山下ふ頭が立地する中区は、人気観光地・商業地が多々あり、住民だけでなく、観光客、通勤客が多いため、昼間人口比率は「168.7%」にもなります。(参照:【3】データ1)

彼らの多くは中区外で、特に観光客は首都圏を中心に全国から訪れます。コロナ後は、外国からの観光客も増えており、国・県・市がインバウンド観光推奨をしていることもあり、その傾向はますます増えてくると推測されます。

また、外国籍の住人も多く、その国籍も多様です。(参照:【4】データ2)

日本は地震大国です。そして、南海トラフ沿いで大規模地震も想定されています。このように「滞在人口」「土地勘がない人々が占める比率」「多様な国籍」などの特徴がある中区で災害が起きた場合、残念ながら現在の中消防署では、主となる管轄消防署としてのキャパシティが足りません。それだけではなく、老朽化による建物被害の懸念があり、災害対策の根幹としての消防署の機能に及ぼし兼ねません。

山下ふ頭が立地する中区の、災害対策の重要な拠点である、中消防署の機能強化については早急に対策すべきことだと考えます。

参考資料【1】～【4】

【1】横浜の他の区:南消防署

中区に隣接する南消防署(2017年竣工)と同様に、中消防署についても充実した機能等が望まれます。



左:中消防署、右:南消防署

【2】中区と特徴が類似する都市:神戸市中央区(中央消防署)

港町神戸の人気観光地と商業地を有する神戸市中央区。旧居留地、ハーバーランドなどのベイエリア、神戸の中華街・南京町があり、昼夜間人口比率は、横浜市中区を超える 192.8%です。(参照:総務省による統計ダッシュボード調査・2023年8月時点)

阪神淡路大震災が起きた神戸の消防体制は、その経験が生かされた充実した施設が整備されており、ベンチマークとすべきだと考えます。



神戸市中央消防署配置車両:

小型タンク車(中央11)、資材搬送ポンプ車(中央5)、50m級はしご車(中央18)、15m級高所活動車(中28)、大型化学高所放水車(中央20)、泡原液搬送車(中央23)、指揮車(中央75)、高規格救急車(中央90)、高規格救急車(中央95)、救助工作車(神消30)、特殊災害対策車(神消21)、輸送車(神消2)

神戸市中央消防署紹介 URL: <https://www.city.kobe.lg.jp/a43960/cyuuousyo.html>

【3】データ1: 中区の昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率

| | 昼間人口(人) | 夜間人口(人) | 流出人口(人) | 流入人口(人) | 流入超過人口 | 昼夜間人口比率 |
|-----|-----------|-----------|---------|---------|----------|---------|
| | A | B | C | D | D-C | A/B×100 |
| 横浜市 | 3,440,070 | 3,777,491 | 846,624 | 509,203 | △337,421 | 91.1 |
| 中区 | 255,403 | 151,388 | 50,977 | 154,992 | 104,015 | 168.7 |

出典: 令和2年国勢調査従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果

URL: [従業地・通学地による人口・就業状態等集計 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](#) (左記 URL の「結果の概要」P6 を参照)

【4】データ2: 中区外国人住民数及び割合(令和6年2月末時点)(単位:人)

| 外国人住民総数 | 人口総数(3/1) | 割合 |
|---------|-----------|-------|
| 17,348 | 152,133 | 11.4% |

出典: 住民基本台帳(横浜市統計情報ポータル(横浜市の外国人の人口))

URL: [令和6\(2024\)年 外国人の人口 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](#)

国籍別内訳(令和6年2月末時点)(単位:人)

| 中国 | 韓国 | ベトナム | フィリピン | ネパール | インド | 台湾 | その他 |
|-------|-------|------|-------|------|-----|-----|-------|
| 9,194 | 1,951 | 634 | 791 | 761 | 350 | 736 | 2,931 |

出典: 住民基本台帳(横浜市統計情報ポータル) URL: [令和6\(2024\)年 外国人の人口 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](#)

4. 検討委員会の運営等について

検討委員会を有意義な場とするため、横浜市が再開発に関する考え方や議論のポイントを示し、これに対して学識経験者や地元関係者はもとより県や国など、関係者全員が建設的な意見交換を行える運営をお願いしたい。

また、検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与や委員会への出席が必要と考えます。また、観光立国を推進する観点からも国や県の関与も必要不可欠だと考えます。

現在の組織体制

1. 横浜市(港湾局)
2. 地域関係団体(経済団体×1、街づくり団体×1、商店街×1、物流業団体×1、港湾運送事業団体×1、横浜港振興推進団体×1)
3. 学識者委員



新たな組織体制案

例えば、以下 **赤字** の方々を新たに招聘し、多角的かつ観光戦略に繋がるよう組織体制を強化いただきたい。

1. 横浜市(港湾局、**観光振興のにぎわいスポーツ文化局**、**経済の経済局**、**街づくりの都市整備局**、**各施策の全体調整・シティプロモーションの政策経営局**、**市営交通の交通局** 他)

⇒①**経済、環境など関係する各局のリーダー(局長及び局長級)**

⇒②**管轄各局の統括(4副市長)**

※②が参画いただくことで、検討が深まり、実行性も高まる

2. 地域関係団体(経済団体×1、街づくり団体×1、商店街×1、物流業団体×1、港湾運送事業団体×1、横浜港振興推進団体×1)

3. 学識者委員

横浜経済を持続的に活性させるために、学識者委員に、経済や経営を主幹とする経済学者に参画いただく。

4. **経済人**

現在の学識者委員は学術的な方々が多く、そこに現在日本経済の最前線でリーダーなっている経済人を招くことで、より多角的で、大胆な議論と実行性を期待できると考えます。

5. **国と県**

国: **観光を管轄する国土交通省**、**国家戦略特区を管轄する内閣府**

県: **観光を管轄する文化スポーツ観光局** 他

国と県の関係者に参画いただくことで、大きい視点が加わり、また補助金や規制改革などの情報も得やすく、再開発の具体的な設計にも大変有益になると考えます。

日時：令和6年8月22日（木）
14：00～16：00（予定）
場所：横浜シンポジア

第5回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会

次 第

1 議 事

(1) 事務局の説明

- ・ 前回委員会後の市民意見等の説明
- ・ 前回の補足説明

(2) 地域関係団体委員の意見書の説明

(3) 学識者委員プレゼンテーション

(4) 第1回～第4回の意見のまとめの説明

(5) 意見交換

(6) その他

【配付資料】

- 資料1：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿
- 資料2：前回委員会後の市民意見等
- 資料3：前回の補足説明
- 資料4：地域関係団体 意見書
- 資料5：第1回～第4回の意見のまとめ

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 委員名簿

地域関係団体委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------------|-----------|------------------|
| さかくら とおる 坂倉 徹 | 経済団体 | 横浜商工会議所 副会頭 |
| たかはし のぶまさ 高橋 伸昌 | まちづくり団体 | 関内・関外地区活性化協議会 会長 |
| たからだ ひろし 宝田 博士 | 商店街 | 協同組合元町エスエス会 理事長 |
| たどめ やすし 田留 晏 | 物流業団体 | 神奈川倉庫協会 会長 |
| ふじき こうた 藤木 幸太 | 港湾運送事業団体 | 横浜港運協会 会長 |
| ふじき ゆきお 藤木 幸夫 | 横浜港振興推進団体 | 横浜港振興協会 会長 |

学識者委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|-------------------|--------------------|----------------------------|
| いしわた たかし 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| いまむら としお 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所取締役会長 |
| うちだ ゆうこ 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| かわの まりこ 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| きたやま こう 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| くま けんご 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| こうだ まさはる 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工藝社代表取締役社長 |
| ひらお こうじ 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| むらき みき 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| わくい しろう 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

山下ふ頭再開発検討委員会後に インターネットフォームに寄せられた市民意見等について

1 受付期間

令和6年7月12日から令和6年8月19日まで

2 意見数

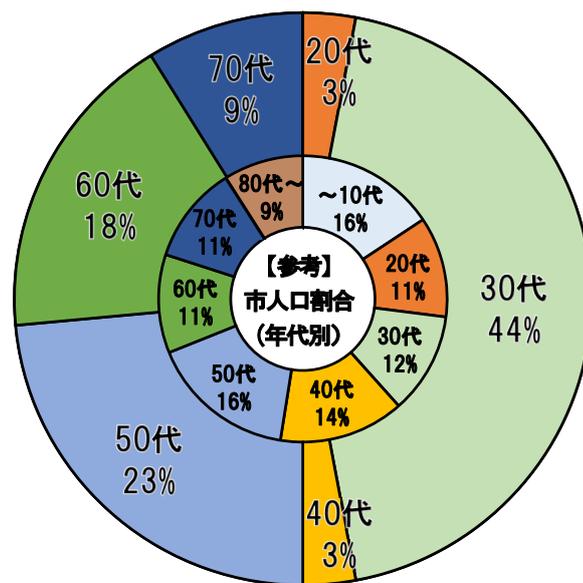
市民意見等は**33名から36件の御意見**をいただきました。

(内訳) 市内30名

市外3名 (30歳代2名、60歳代1名)

※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、
投稿数から除外しています。

※「横浜市年代別人口 (グラフ内側)」は、
住民基本台帳による令和6年3月時点参照



投稿割合(年代別)

3 御意見の主な内訳

(1) まちづくりの方向性に関する御意見

- ・アクセスの悪さは再開発の大きなネックになるので、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を計画に組み込む視点や大量輸送手段の確保が必要<30歳代、50歳代>
- ・この地区が持つ港というブランドの変遷を正しく理解し、他地域と比べた優位性を導き出した再開発をすすめるべき<30歳代>
- ・脱炭素化社会実現のため「ペロブスカイト太陽電池」や「電気運搬船」など、横浜発の先駆的技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待<20歳代>
- ・駅近で巨大スペースがあることが山下ふ頭の価値の1つなので、イベントとのシナジーを創出するため、一部をオープンスペースとして活用できる内容を盛り込めると良い<30歳代>
- ・このような巨大プロジェクトは一市民の想像力では手に余るので、複数のブロックに区切って議論するとよい<30歳代>
- ・経済の話だけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要<70歳代>

など

(2) 導入機能に関する御意見

- ・横浜港の情景を大切にすべく、山下公園から連続する緑の多い空間<30歳代、50歳代>
- ・緑が多く、港としての機能として「海とのアクセス」を誰もが活用できるインフラ整備<30歳代>
- ・夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設<50歳代>
- ・海洋都市横浜として、振興・環境保護推進アピール・観光客誘致のためにアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館<30歳代>
- ・読書を推進するような場所作りとしてのハーバー図書館<40歳代>
- ・4～5万人収容の球技専用スタジアムと8千人収容のスポーツアリーナ<50歳代>

など

(3) その他の御感想等

- ・市内で競争が起こらないように、山下ふ頭ならではの特色のある再開発計画を実施することが、横浜市としての追加の価値につながる<30歳代>
- ・時代の変化に合わせ、用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい<30歳代>
- ・平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスの調整を考慮できると、より有効な活用につながる<30歳代>
- ・市民からのアイデアに基づき、委員が豊富な見識により補完し、深度化するような議論を期待<50歳代>
- ・実際の着工までの複数年間、山下ふ頭を放置しておくのはもったいないので、年単位の暫定利用を募集して、早期の活性化につなげることも必要<30歳代>
- ・建築の制限を受けそうな建築物の用途について市からファクトや見解が示されていると良い<30歳代>
- ・市民の意見を尊重し、話し合いの場を設けるため、市民参加型のワークショップをもっと開催してほしい<50歳代>
- ・現状のスケジュールでは市民参画は有名無実になる恐れがあるので、委員会に市民を参加させるなど、計画づくりや意思過程に対して、市民への門戸を開くべき<60歳代>
- ・モノを消費させることを核とするのではなく、この場所での経験を人々の思い出にできるような場所にしてほしい<30歳代>

など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

| | 居住地 | 年代 | 投稿（2000文字まで） |
|---|-----|------|---|
| 1 | 磯子区 | 50歳代 | 市民意見募集やワークショップで出た横浜市民からのアイデアに基づき、委員の豊富な見識による肉付け・深度化となるような議論をお願いしたい。時間はそう残されていません。 |
| 2 | 磯子区 | 50歳代 | 4～5万人収容の球技専用スタジアムと、8千人収容のスポーツアリーナ、氷川丸側の岸壁には山下公園から連続性のある公園、夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設があれば、あとはなんでもいいです。 |
| 3 | 中区 | 50歳代 | みなとみらい地区等の開発が進む中、古き良き横浜の雰囲気を感じられる再開発を進めて頂きたい。 |
| 4 | 市外 | 60歳代 | 山下埠頭の未来は、横浜の未来だけでなく、日本・世界の未来です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。 |
| 5 | 港北区 | 60歳代 | <p>（1）インターネットでの同時配信をしながら、視聴数が極めて少ないのには、はっきりとした理由がある。この会合が開かれることを市がともに広報していないからである。12日開催が記者発表されたのは、僅か1週間前の4日であり、それも市のホームページ上の記者発表サイトだけである。この広報の仕方、いったいどれほどの市民がこの開催を知るであろうか。せめてトップページに大きく掲出することを何故しないのだろうか。市民を置き去りにしないという言葉と実際の広報、告知のあり方との乖離が著しい。再度、改善を望む。（2）半年ぶりの委員会開催となったが、この6か月の間に何があったのか、委員長交代に絡んで寺島前委員長と市当局との間にどんな行き違いがあったのか、この事について、事務局から全く説明がない。一委員の辞任とは違い、委員長の交代があったことは特別な事である。報道によれば、「自分の依頼されていた役割を終えた。次の段階に進んでいる」と寺島氏は説明しているそうだが、第3回会合からの地域関係団体委員の参加によって、検討委員会が当初の目的とした再開発に向けての「方向性」と「付加価値」を付けるための議論の段階から、「利害調整の場」の段階に移ったということならば、この事態は市当局による専横と言ってもよい差配が齎した不手際であろう。第一回委員会では、北山委員と涌井委員が、地域関係団体委員の早期参加に慎重な意見を述べ、これに寺島委員長も、一案として、「ある段階でまとまった形でもって、仮に10分ずつとかですね、この方向付けについてきちっと意見を言ってもらってという機会を設ける」と応じた上で、「行政の方でもって、今日の意見を踏まえてですね、調整していただければ、だいたい見えてくるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。」と結んでいた。こうした委員会側の意見を蔑ろにした結果の寺島氏辞任ということならば、市側の責任が問われよう。事務局がきちんとした説明をしないのは、市民に向き合う姿勢として誠実さを欠いているとの誹りは免れない。（3）事務局からの説明で、最初の市民意見についての報告は、相も変わらず、只の意見紹介に終わっていて、出された市民意見が検討委員会で議論の俎上に上がることはない。市民意見をどう扱うかについての取り決めがないので、市民側から見れば意見の言いっぱなし、市当局側から見れば意見の聞きっぱなしに終始する仕組みであり、市民参加とは言っても形式上であり、市民が合意形成に関わるような実質的参画とはなっていない。「市民による市民」検討が有名無実に終わらないような抜本的な改善を今後の運営に求めたい。</p> |
| 6 | 港北区 | 60歳代 | <p>（1）事務局からの説明でファクトシートとして提出された開発事例に、これまで全く触れられなかった2010（平成11）年3月提言の「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」が取り上げられたことは評価したい。読み上げられた5つの基本理念は、横浜に住む市民が主役の都市づくりの指針となるもので、今度の再開発検討に当たっても道標たる価値を聊かも失っていない。（2）高橋委員のプレゼンテーションは、詰まるところ、山下埠頭を「税金を生み出す場所」として「横浜経済の牽引役となる場所」にするように求めるものであった。今後の検討委員会の運営についても、「経済や経営を主幹とする経済学者」や「最前線でリーダーになっている経済人」、さらには「観光を管轄する」国、県、市の職員を委員会メンバーに入れるようにとの要望まで出している。市民の望むことをひたすら経済の発展に限定する所から導き出された意見であり、検討委員会が企図する大所高所からの提言書作りとはかけ離れた一面的な意見と言わざるを得ない。関内・関外地区活性化協議会の会長としての高橋委員の立場からは当たり前の要求なのかも知れないが、このような意見書を提出するのは地域関係団体委員によるエゴ丸出しの主張であり、寺島前委員長が危惧したように、検討委員会が「方向性」と「付加価値」を検討する役目を終えて「利害調整の場」と変容した証左と受け取られてもいたしかたあるまい。地域関係団体委員が今後もこのようなプレゼンテーションを繰り返すならば、委員長交代の問題も併せて、委員会の運営の仕方での市当局の顛倒是非は咎められなくてはいけない。（3）内田委員のプレゼンテーションは、ディズニーランドを範とするテーマパーク構想を語るもので、山下埠頭再開発と関連づける必然性を欠いている。上瀬谷開発で既に事業予定者となっている企業グループ向けにプレゼンテーションをされたら良からうと思う。内田委員の用いた生成AIが横浜の地理的、歴史的、文化的特性を十分に学習していなかったためであろうか、インバウンドの為に横浜の存在理由であるかのような、経済面に偏った皮相的な提案内容であった。第3回会議での北山委員の発言にあった「投資やインバウンドの為に」都市があるわけではなくて、都市には「人が住んでいる」、「住民のプライドのある魅力的な都市」ならば観光客はやってくる、この言葉を改めて噛みしめたい。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 7 | 中区 | 30歳代 | 会議中に村木委員が発言していたように時代の変化に合わせた用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい以前各団体から提出された提案書ではいずれも1回作ったら終わりでの視点が抜けているものばかりだったと思う |
| 8 | 中区 | 30歳代 | 内田委員の提案は大変楽しいもので興味深かったのですが、山下ふ頭は非常に広いので1テーマだけで使い切れるものではないと思いました。質だけでなく、需要や必要面積など量の視点から議論を深められるといいと思います。また、平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスを調整を考慮できると山下埠頭のより有効な活用につながると思いました。 |
| 9 | 中区 | 30歳代 | 藤木委員の今回の山下ふ頭活用事例のプレゼンはとても興味深かったです。広い空き地を利用したガンダムファクトリーの設置や岸壁を利用したしらせの接岸イベントなど、駅近でこのようなイベントができる巨大スペースは少なく、山下ふ頭固有の価値の1つであると思いました。再開発計画でも無理に使い切るのではなくあえて空きスペースを残してこういったイベントとのシナジーを創出する内容を盛り込めると良いと思いました。 |
| 10 | 中区 | 30歳代 | 坂倉委員の発言にあったように山下ふ頭のアクセスの悪さは再開発の大きなネックになるように思いました。元町・中華街駅から中枢部まで若干距離がある上に山下公園駐車場が根本に鎮座していて視界を遮っているのが心理的な障壁を追加しているように思います。ベイサイドブルー・あかいくつの延伸は当然視野に入れていると思いますが、他にも例えば横浜合同庁舎の跡地を駅前広場にするなど、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を再開発計画に組み込む視点が必要ではないでしょうか。参考事例として、同様に駅から距離のある大さん橋ホールは県民ホールや産貿ホールなどと比べると利用率があまり高くなさそうで、そもそも大さん橋自体が割と閑散としている気がします。 |
| 11 | 中区 | 30歳代 | 山下ふ頭は山下町内に所在しますが、地域関係団体委員として山下町自治会など住民代表がないのは良くない気がします |
| 12 | 中区 | 30歳代 | 幸田委員から事業計画検討委員会を傍聴していない事業者は応募できないという提案がありました。しかし、大手事業者はアライバイ程度で温度感で数人の関係者を傍聴させるのは容易であるので簡単に形骸化してあまり意味がないと思います。実際に議論に参加させたり計画をプレゼンさせてレビューしたりといったことをさせてはいかがでしょうか。それによって委員会の進行とともに空気の読めない事業者や信用できない事業者は自然と脱落させることができると思います。 |
| 13 | 中区 | 30歳代 | アトキンソン委員の意見にあったように市内で奪い合いにならないようにしなければならないというのはとても重要な視点だと思いました。以前の事業者による再開発提案でも横浜駅周辺・みなとみらい・新港地区と重複の大きい計画が多く提案されていましたが、それらは市内でのパイの奪い合いになると思います。山下ふ頭ならではの他エリアと差別化要素のある再開発計画を実施することが横浜市としての追加の価値につながると思います。 |
| 14 | 中区 | 30歳代 | 第4回検討委員会がほぼプレゼンだけで終わってしまったのは非常に残念に思います。プレゼンだけであれば最悪録画の事前共有でも可能なはずですが。高給取りの方を多数集めて時間を取っているからには対面での議論時間を十分確保していただきたく思いました。 |
| 15 | 都筑区 | 30歳代 | 山下ふ頭にはアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館、タマちゃんマリランドを設置してください。山下ふ頭は横浜市の海に面しています。海洋都市横浜を振興していくとともに、環境保護の推進アピールや観光客を誘致するために水族館があるとよりよいと思います。横浜市には2002年にアゴヒゲアザラシのタマちゃんがきて、帷子川護岸等に住み着き、流行語大賞を受賞し、横浜市から特別住民票の交付をうけるなど大変話題になりました。横浜市や海に親しみを持ってもらうためにも横浜市に住んでいたタマちゃんの名を冠し、特別住民票を交付等横浜市とタマちゃんの結びつきを顕彰する水族館を作れば、他の施設との相乗効果により、山下ふ頭の発展により効果的です。山下ふ頭は横浜市発展の切り札になります。他市との差別化や脱炭素、海洋都市や自然環境保護、生き物との共生を図るため、かつて横浜市が特別住民票を交付したアザラシを活かした山下ふ頭開発、街づくりを行ってください。港湾と自然が親しむ都市になれると思います。 |
| 16 | 中区 | 30歳代 | 以前の事業者提案では色々夢のある提案がなされていたと思いますが、これまでの委員会では建築の内容の制限に関してファクトの説明がなかったように思います。山下ふ頭は横浜の湾内に直接突き出た埋立地であるため高潮・津波・液状化などの災害リスクがあります。また山下公園通り、港の見える丘公園の崖下など周辺地域一体には景観を遮らないよう高さ制限がかかっています。それらを踏まえて戸建て住宅地やタワマンのような超高層建築など制限を受けそうな用途について市から見解が示されていると良いと思います。 |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 17 | 中区 | 30歳代 | 山下ふ頭のスケール感を理解されていない委員が散見されるように思いました。赤レンガ倉庫パーク一帯が5.5haやパシフィコ横浜・パシフィコ横浜ノースが7haに対し、山下ふ頭は47haもあり非常に広いです。思いつきの1テーマだけで使い切れるような広さではないと思います。このような巨大プロジェクトはやはり1小市民の想像力では手に余るので、7~10の仮のブロックを区切って利用したいブロックとともに議論してはどうでしょうか？例：ガンダムファクトリー(第5ブロック), 新コンベンションホール(第1,第3,第7ブロック) など |
| 18 | 中区 | 30歳代 | <p>答申が年末まで目標だそうですね。</p> <p>そうするとそこから大方針を決定して事業者提案のコンペをしてと考えると着工は最速でも3年後くらいになりそうだと思います。</p> <p>その間山下ふ頭を放置することになり非常にもったいないと思います。</p> <p>ガンダムファクトリーのような1から3年程度の暫定利用を募集して早期の活性化につなげるということも必要だと思います。</p> <p>意見募集や市民会議などでやってる雰囲気だけを演出するだけでなく、山下ふ頭の有効活用には時間という要素も含まれることを肝に銘じて着実な前進を求めます。</p> |
| 19 | 磯子区 | 60歳代 | <p>デービット・アトキンソン氏を委員から外してください。彼は日大准教授による戦国時代の日本における黒人奴隷説という、当時の一次資料では何の裏付けもない歴史捏造に同調し、ましてや嘘である根拠を示せとSNSに投稿した。</p> <p>言論の自由はあれども根拠のない歴史捏造に加担するような人を委員に据えて良いのか。</p> <p>日本の横浜市としての姿勢が問われる。</p> |
| 20 | 中区 | 40歳代 | <p>日本で1番素敵でハーバー図書館を作ってください。僕は海外歴が長いのですが、どの街にも必ず中心地には中央図書館があり人の集まる場所になっています。大好きな横浜市民にはテレビやネットを見る時間を本を読む事を推進するような場所作りをしていただくとことを所望します。</p> <p>https://youtube.com/shorts/CdHq9gAjnDo?si=jh4A7TiR6vRyJ3Po 人は読んだ本の積み上げた高さから世界を見えるのだといいます。どうか横浜市民の為に、世界に誇れる素敵なハーバー図書館を盛り込んでくださることを期待します。</p> |
| 21 | 港北区 | 60歳代 | <p>幸田委員のプレゼンテーションは、専門の住民自治に関する高い見識に基づくもので、寺島前委員長が再三強調し、平尾新委員長も「市民による市民のための市民の再利用」との言葉で継承するところとなった「市民参画」の議論を前に進めるものとなった。幸田委員は、IR誘致の際の市民を置き去りにした進め方への反省の上にたち、「事業計画の策定手続きは市民参加の手続きとすべき」と指摘した。この検討委員会からの答申が出された後に、「事業計画検討委員会」を新たに設置し、そこには市民の代表委員が過半数を占めるようにするとの画期的な提案も出された。これまで市民の意見を取り入れるための市民意見募集とは言うものの、市民はただ意見を言うだけで実質的合意形成の場には参加できていない。市が予定している今後のスケジュールでは、答申後に事業計画案を作成し、市民意見募集及び意見交換会を経て、事業計画の策定、事業者募集となっているが、これまでのやり方を踏襲する限り、市民参画は有名無実になる恐れが濃厚である。しかしながら、既に市民側では、学識経験者の向こうを張って、具体的な事業計画案も公表している市民団体も出てきている。この横浜の地に生きてきた、そして生きていこうとする市民は、今回の会議からでも参加して、横浜の地理、歴史、文化に根差した質の高いプレゼンテーションを行うことができる。地域的特性に関する学習が十分でない生成AIによるプレゼンテーションに勝るとも劣らない、文化の香り馥郁たる、血の通った、味わい深い企画が披露されるであろう。計画づくりや決定過程に、今こそ、市民に大きく門戸を開くべき時である。市当局の英断に期待したい。また、幸田委員が事務局に対して次回までの調査回答を要望していた、社会保障費と物件費の一般財源ベースでの負担割合に関するファクトの件は極めて重要である。なぜならば、よく言われていて、とかく税収を上げることはばかり市民の目が行くように仕向けられている財政上の理由が本当かどうか、確かめる必要があるからである。今後、社会の高齢化に伴って社会保障費が増大するので、市民サービスを縮減しないのなら、税収を上げなくてはいけないし、税収を上げるには、インバウンドを主とした観光事業に狙いをつけて経済発展をするほかはない、との通説がまかり通っているきらいがあるが、この説明にはどこか胡散臭いものがある。幸田委員の要望通りに事務局がきちんとしたファクトシートを提示して、市の財政に関する正しい認識を持てるようにして欲しい。市税が市民の為に正しく使われているようになっているのか、確かな検証が必要である。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 22 | 中区 | 30歳代 | <p>・IRも含めて、大規模商業施設をはじめとした所謂、「箱物」を核とした再開発にはしてほしくない。どんなに画期的なコンセプトで施設を建てたとしても、一見して見栄えはいいが、結局は他地域と似たようなデベロッパー等の事業者だけが利するような再開発になる。 ・山下埠頭周辺地区（山下公園、元町、中華街）はみなとみらい地区とは異なる都市としてブランドを既に持っており、そのブランドに引きつけられて週末に限らず多くの人々が余暇を過ごしている。 ・再開発にあたってはこの地区がなぜこのようなブランドを持つことができたのかといった変遷を正しく理解し、特に山下埠頭が辿った土地の履歴から他地域と比べた優位性を導きだした上で、再開発に取り組んでほしい。 ・個人的に考えるこの地区が持つブランドは港という土地として、多くの人種を受け入れた寛容性こそが最大のブランドだと思う（山手洋館、ホテルニューグランドといった西洋文化、そして中華街のアジア文化） ・山下埠頭は港としての機能を有しているなのでその機能、すなわち「海へのアクセス」は損なわないでほしい。（船舶の利用、または海上施設の玄関口）そして何より横浜港の海と山下公園の緑との連続性を高層または大規模建築物によって遮断するような開発は避けて欲しい。 ・緑が多く、世界へ広がる海へ誰もがアクセスできる、インフラの整備されたオープンスペースとしての活用を望む。 ・モノを消費させることを核とするのではなく、この場所で体感した経験を人々の人生の思い出にできるような場所にしてほしい。その些細かもしれない思い出が次の横浜への歴史になるはずだと確信します。 ・したがって横浜港の情景を大切にしてほしい。</p> |
| 23 | 磯子区 | 50歳代 | <p>7/12の委員会の映像を拝見して。坂倉委員からの交通アクセスに関するご意見について、大量輸送手段の確保は必須です。ロープウェイなどはそれを補完する手段にしかかなりえないからです。元町・中華街駅からMM線を延伸する構想を検討した過去があるのは初耳でしたが興味深いものでした。道路とともに、真剣に早く検討しなければならない事案です。涌井委員からの最後のご意見は、この再開発を検討するにあたっての重要な柱3点が詰め込まれていました。この意見はとても重要です。一番最初にご発言していただけると、もっと良かったかなと。あと、幸田委員からの事業計画案策定の体制と手続きについては理解できましたが、多様な意見をもつ「市民」をいかにバランスよく公正に選ぶことができるかが課題だと思います。坂倉委員と涌井委員、幸田委員からのご意見を聞いただけでも良かったと思いましたが、これらを真剣に考えてほしいです。</p> |
| 24 | 市外 | 30歳代 | <p>検討委員会の委員の年齢層が高齢者に偏っている。検討委員会の委員の性別が男性に偏っている。将来について議論をするのだから、委員の過半数は若年層にすべきである。委員の半数は女性にすべきである。</p> |
| 25 | 市外 | 30歳代 | <p>山下ふ頭の開発と、横浜港の内港地区の有効活用を有機的に関連させるべきである。内港地区の有効活用のために、高さ制限があり邪魔なベイブリッジを廃止・解体すべきである。廃止・解体されるベイブリッジの代替道路として、山下ふ頭から大黒ふ頭に通じる海底トンネル道路を建設すべきである。ベイブリッジの高さ制限がなくなることで、より多くの船舶を内港地区へ呼び込むことができ、横浜港の一体的活性化を実現することができる。</p> |
| 26 | 戸塚区 | 20歳代 | <p>横浜市は脱炭素化社会の実現に積極的に取り組んでいます。山下ふ頭では、〇〇大学の〇〇教授が発明した「ペロブスカイト太陽電池」や民間企業と連携協定を結んでいる「電気運搬船」など、横浜初の先駆的な技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待しています。</p> |
| 27 | 中区 | 70歳代 | <p>利害関係人が委員会のメンバーにいるのは、純粋な再開発検討に弊害になると思う。 知事は委員委嘱の必要性を勘案して、委員会メンバーの見直しを検討してもらいたい。</p> |
| 28 | 金沢区 | 50歳代 | <p>検討委員会の委員に事業者提案をしている法人の代表がいますが、何故でしょう。本当に他にいなかったのですか？何か忖度していませんか？ 利害関係企業の代表を地域関係団体委員に選出し続けるなら、本事業に当該企業が関わらない、落札させないことを、次の委員会の中で宣言してください。</p> <p>また、第3回の委員会から、何を検討しているのか内容がよく分からなくなってきましたか？ 経団連の話とか。ご先祖とか、米中の話とか。 このまま、地元の声の大きい人に寄り添った再開発になっていくのでしょうか。 横浜市には失望です。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 29 | 瀬谷区 | 70歳代 | <p>山下ふ頭再開発に関する私見（3-1） 70歳代 男性 瀬谷区在住</p> <p>再開発検討委員会の4回目の議論をYouTubeで拝見しました。</p> <p>1）ある委員から、検討委員会に経済人や経済学者を多く招きたいと提案がありましたが、経済人が多いと金儲けの話ばかりになり、成果物（＝山下埠頭再開発）が貧相なものになります。山下埠頭再開発検討委員会は横浜の玄関をどう設計するかの議論ですから、金儲けだけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要と思います。具体的には、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリッカー賞を受賞された横浜市在住の〇〇さんは、高い見識をお持ちの建築家ですから、〇〇さんにも再開発検討委員会のメンバーに加わっていただいて、山下埠頭再開発に関するご提案をいただきたいと思います。</p> <p>（3-2に続く）</p> |
| 30 | 瀬谷区 | 70歳代 | <p>山下ふ頭再開発に関する私見（3） 70歳代 男性 瀬谷区在住</p> <p>再開発検討委員会の4回目の議論をYouTubeで拝見しました。</p> <p>1）ある委員から、検討委員会に経済人や経済学者を多く招きたいと提案がありましたが、経済人が多いと金儲けの話ばかりになり、成果物（＝山下埠頭再開発）が貧相なものになります。山下埠頭再開発検討委員会は横浜の玄関をどう設計するかの議論ですから、金儲けだけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要と思います。具体的には、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリッカー賞を受賞された横浜市在住の〇〇さんは、高い見識をお持ちの建築家ですから、〇〇さんにも再開発検討委員会のメンバーに加わっていただいて、山下埠頭再開発に関するご提案をいただきたいと思います。</p> <p>2）再開発検討委員会の議論では毎回、横浜市の税収減が話題になります。皆さんご承知のように、横浜市の市民税は、ふるさと納税制度のため300億円以上の減収で、この影響で市バスの減便などの弊害が出ており、特に市バスへの依存度が高い高齢者が困っています。ふるさと納税による減収問題を放置しておきながら、山下埠頭の再開発で税収を増やす方策を考えるというのは行政者の判断能力が疑われてもやむを得ません。横浜市は他都市との返礼品競争で減収分を取り返そうなどと愚かしいことはやめ、まず政府に対して、毅然としてこの有害無益な制度を中止するよう提唱すべきです。</p> <p>3）幸田委員から、IR誘致問題の反省の上立って、事業計画策定の決定手続きを確立すべきとの提言がありました。私は幸田委員の提案の中でも、市民を加えた「事業計画検討委員会」にて事業計画を進めようとの提案に賛成で、強く支持します。事業計画の策定に市民を加えるのは運営上難しい面もあるでしょうが、是非実現してもらいたいと思います。</p> <p>今回の検討委員会では山下埠頭に何を作るかを定めることが大きなテーマですが、これを最終目標とせず、山下埠頭再開発検討委員会の議論を通じて、横浜市の今後の他の再開発計画策定の模範となるようなプロセスが確立されることを期待します。</p> <p>（以上）</p> |
| 31 | 港南区 | 50歳代 | <p>山下ふ頭の再開発計画に当たっては、市民の意見を最大限尊重した話し合いの場を継続して設けるべきです。港湾局が当初行ったような、市民参加型ワークショップをもっともっと行ってほしいです。市幹部と企業が計画を押し進めていけば、カジノ誘致計画の二の舞になりかねません。</p> |
| 32 | 港北区 | 50歳代 | <p>市民の意見は、自分たちにとって都合のいいものしか聞きません。</p> <p>具体的には、山下ふ頭までの交通アクセスが悪いから、新たな交通を敷いたほうがいい。</p> <p>横浜市は財政が厳しく、山下ふ頭になにができるかわからないのに、そのようなことでもいいのでしょうか？</p> |
| 33 | 港北区 | 50歳代 | <p>カジノ誘致の失敗を踏まえて、山下ふ頭の再開発はゼロベースで、市民の意見を聞いては、やはり建前だと思いません。</p> <p>お盤明けに開催、市民の意見は8時半まで。市民の意見は、なるべく聞きたくないとしか思えません。</p> |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | <p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 1</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>標記、「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」(以下、「検討委」という)において委員の発言等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。</p> <p>「検討委」及び検討委事務局におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受入れ、第5回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。</p> <p>「寺島委員長」辞任 この横浜・山下ふ頭の将来の姿を方向づけの役割を担う重要な検討委。その「顔」が突然退任=寺島委員長辞任について、会議冒頭、市・事務局は、「本人からの申出で」と言うのみ。前回(第3回 寺島委員長欠席)検討委で委員長代理を務めた石渡委員は、「寺島委員が辞任されました」と事実関係を報告するだけ。そして、新委員長に選出された平尾委員も「諸般の事情から」とあっけない説明して次のテーマに。と、だれも真相を語っていない。市側は本検討委初回における事務局説明で、「透明性の高い運営を行う」と宣言している、にもかかわらずである。当方が、新聞報道等を総合した理由を列挙すれば、</p> <p>1 「自分の役割は終わった」、「議論が次の段階に進んだ」「方針が変わった」。</p> <p>2 ①市側と考え方の違い、「学識者による検討委と聞いて議論のまとめ役を引受けた」、「世界の港湾の動向を踏まえた街づくりのあり方について議論」。</p> <p>2 ②市側と考え方の違い。「地域の声を取入れることは否定していないが、利害調整の場になることを懸念」「地元関係団体を交えた議論が始まった。利害調整組織になると懸念」</p> <p>3 「多忙」と、これらすべてが「辞任の理由」となるのであろう。</p> <p>まず前回(第3回 寺島委員長欠席)から今回の開催まで、6ヵ月も経過していることの異常さを指摘する。そのうえの委員長の辞任である。</p> <p>寺島氏自身が、自分の口から・自分の考えを、横浜市民に向かって経過説明すべきであろう。これこそ、同氏が常に言っている「説明責任」である。まさか「同責任はない」と逃げることはないと思うが、説明責任を果たさないのであれば、氏は「政治家以上の政治家」に成下がったかと扱われるべきである。少なくとも横浜市は以後、「寺島氏を市に関係する審議会・委員会等に招聘は、すべきではない」と申述べておく。</p> <p>次に、「辞任」の理由である。</p> <p>3 「多忙」。各委員がこれを理由に挙げたら、当検討委だけでなく、世界中で開催・実施される(あらゆる)会議は成立たない。寺島氏だけが特別なわけではない。しかるに、これは検討の要なし、却下。</p> <p>2 ②市側と考え方の違い。「地域の声を取入れることは否定していないが、利害調整の場になることを懸念」「地元関係団体を交えた議論が始まった。利害調整組織になると懸念」である。地域関係団体の本検討委への参加に懸念を表明し、検討委の本旨から外れ「利害調整の場」に墮すことにクギを刺したしたのは、北山委員であり、涌井委員(同氏はちょっと方向性が違うようにも)である。決して寺島氏ではない。</p> <p>事実、寺島氏は、市民参画が必要「意見を述べるだけじゃない、山下ふ頭を支えていく、市民がどういう責任を担いながら参画していくかが重要」と。また第1回検討委の最後には「地域関係団体からまったく意見を聞かないというのもまた、おかしな話だ」と当検討委への(「委員」での参画か否かはともかく、一般市民ではない!)が)地域関係団体の本検討委への参加・意見表明を認めている。</p> <p>寺島氏は、第2回検討委後、記者会見で、市民が参画できるプランじゃないと納得できないと意見が出るとも語っている。なにが市との相違なのか、当方には理解ができない。</p> <p>2 ①市側と考え方の違い。寺島氏は、「学識者による検討委と聞いて議論のまとめ役を引受けた」、「世界の港湾の動向を踏まえた街づくりのあり方について議論」と。当方は、これだけの報道で詳細まで掴むことはできないが、初回検討委において寺島氏が、市・事務局に、横浜港に関する「ファクトシート」の提出を求めた。その時点から当方は疑問を抱いた。もしかして(そうでないことを望むが)氏は、今後、横浜港の港湾機能(輸出/輸入)を、どう取戻すか(再強化)が、氏の頭のどこかにあるのではないかと。夢よもう一度ではないが、横浜港の輸出/入貨物取扱量の減少、ヨコハマ・パッシング=日本海航路の活況、日本の埋没等に危惧を表明していた。それもその表れと言うこともできる。</p> |
|--|--|--|--|

| | | | |
|--|--|---------------------------|---|
| | | <p>35 鶴見区</p> <p>60歳代</p> | <p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 2</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>しかし、北山委員が言うように、今後の横浜港=少なくともインナーハーバーの生き方は、「都市機能」の(必ずしも、商業主義には陥らない)発展・充実・強化。</p> <p>また、幸田委員が言う、IR=カジノの前捌きとしての港湾開発(「都市機能」)ではなく、保税地区の活用等「港湾機能」を残しつつ「都市機能」強化への変遷、ではないのか。少なくとも、当方はそう捉え・考える。</p> <p>1「自分の役割は終わった」、「議論が次の段階に進んだ」「方針が変わった」についてである。「終わった」か否かは当人の感覚次第なので、第三者の私たちの入込む余地はない。が、「次の段階に進んだ」かどうかは、意見が分かれるのではないか。何をもち「次の段階」なのか、第3回から寺島氏自らが再三言っている「市民参画」が始まった、と言うのであれば、答えは、「否」である。当方ら、市民運動を行っている者からすれば、「地域関係団体」は「市民」であって市民ではない。また、「方針が変わった」かは、当該検討委から外されている当方らには皆目見当がつかない。ここからも、寺島氏は横浜市民に対し、辞任を決意しそこまで至った理由・経過をしっかりと説明すべきである。</p> <p>しかしながら、寺島氏は、(第2回)委員会後の記者会見で「市民が参画できるプランじゃないと納得できないと意見が出る」など、市民参画をたびたび口にしていた。当方ら市民は、これを期待していた。堅牢・頑強な市当局の厚い壁を打破れるのは、寺島氏の突破力だけだからである。</p> <p>また寺島案に近い意見として、幸田委員の発言がある。この意見をいかに発展させるか</p> <p>次に、内田委員のプレゼンについて、 本件「山下ふ頭再開発」を取組むにあたって市当局は、「都心臨海部再生マスタープラン」を「既往計画」「上位概念」にまつり上げている問題がある。この「マスタープラン」は、横浜市においてカジノに言及した最初の「公式文書」だと言われている。このような、カジノを大前提とした「計画」がいまだに横浜市の街づくりの基礎に居座っていることが最大の誤りであり、事業進行の障害・矛盾の根源である。しかし、内田氏は本「プラン」を相も変わらず金科玉条のように扱っている。</p> <p>本検討委の目的は、山下ふ頭の再開発にあたっての「方向性」と「導入機能」であるが、内田氏のプレゼンは、個別・具体論にまで踏込んでいる。内田氏にはこの意味が理解できているのだろうか。しかも持ち時間を2倍も使って延々と駄作の披歴であったのだからあきれ</p> <p>内田氏は、北山委員が言った「ネガティブ・マスタープラン。つくりたくない計画という考え方もある」を肝に銘ずべきだ。</p> <p>「eスポーツの館」、「世界選手権の会場としての『山下ふ頭』で」などと言う話があった。これはパクリだ。この発想は、発言者である内田氏が考案したアイデアでもなく、ビッグデータとアルゴリズムとの融合に基づき(内田氏が借用した)AIが産出した「提案」「解決案」でもない。「(eスポーツの)世界チャンピオン決勝戦を、みなとみらいのホールでやりたい」と言ったのは、○○氏だ。「を、みなとみらいで」を「を、山下ふ頭で」に置き換えただけで、「自作」の装っているのだから悪質だ。</p> |
|--|--|---------------------------|---|

| | | | |
|--|--------|------|---|
| | 36 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 3</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>本検討委は、時間ありきではない、はず。しかし、事務局は結論を急ぎ、「年内答申」をめざしている。委員会ではまだ議論すべき課題・テーマが残っている。その一つは、市民から出された意見に対する議論である。事務局は、委員会の開催終了ごとに市民意見を募っている。これはこれで歓迎なのだが、言いはなし、聞きばなしに終わっている。市民参画の一環として検討委の中で活用すべきである。</p> <p>蛇足、当方は、前回(第3回)の意見表明で、(地域関係団体間での)「親子喧嘩など当方は見たくも聞きたくもないし、関わりたくもない。レフェリー役の検討委員長や、同委員らを選出した事務局(港湾局)が、かかる見苦しいシーンが二度と再現されることのないよう調整し、会議をコントロールするよう要望する」と書いた。しかし、選出基準に問題なし、とはしないが、市の重要事業に関わる検討委員に選出された重みを考慮すれば、ケツワリはないだろう。検討委員長や事務局(港湾局)は開催までの間、何をしていたのか、問い質したい。一方、ケツワリを決め込んだ「委員」は、自らの属する検討委を軽く・甘くみているのではないのか、猛省を求める。当方は別のところでも書いたが(もちろん、当人には届いていないだろうが)、当該ケツワリ委員の本検討委「委員」選任に際し、利益相反と批判されることのないよう注意を、と呼掛けた。届かぬものをいくら叫んでも、しょせん負け犬の遠吠え。</p> <p>時間の関係上、これまで、とする。</p> |
|--|--------|------|---|

山下ふ頭再開発検討委員会補足資料



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ハーフェンシティ(ドイツ)

- 2006年にヨーロッパで唯一の高等教育・研究機関を設立、2017年にはかつての倉庫を基盤として建てられた文化施設が開館するなど、学術研究施設や文化・芸術施設の集積が進んでいる。

開発計画・学術論文等に記載された開発初期の目標

- 都心の居住地としての魅力を高め、その上で2025年頃までに5,500戸の住居を建設することが目標として掲げられた。
- 学生5,000人に居住を目標として掲げられた。
- 経済面で魅力がある都市を目指し、**2万人の雇用を創出することが目標**として掲げられた。

想定外の課題

- 開発中に周辺にて、**地下鉄等の交通網の整備計画**が決まり、開発区域と**一貫性のある統合的な計画が必要**となった。

報告書・学術論文等に記載された目標に対する成果

- 2010年の計画変更により、合計7,500戸の住宅が2030年頃までに建設される予定となっている。現在、4,000戸が竣工し、約8,000人が入居している。
- 現在、学生約7,000人が居住している。
- 現在、**1.5万人の雇用が生まれており**、今後、**最大4.5万人の雇用が創出されると予想**されている。

課題に対する対応策

- 2010年に周辺を含むマスタープランへと改訂**され、周辺地域の役割を新たに設定しながら統合的な開発を進めている。

成功要因として評価された事項

時代の変化に合わせた開発

- 開発のコンセプトやステップ・開発業者の競争における条件等については定められている一方、道路構造や建物高さ、公共施設の配置計画等の技術的パラメータは更新可能なものとなっている。

自治体等の関わり

- 事業主体は、市が100%出資する有限会社が担っている。
- マスタープランは、民間提案から選ばれたものであり、さらに開発事業者についても街区毎に選定されている。
- 土地売却にあたっては、用途や高さ制限など多くの条件設定と土地価格のバランスにより、民間の投資を呼び込んでいる。

地域のルール

- 一貫した都市・建築となるよう、都市計画によってコントロールされている。具体的には、新しく建てられる建物の高さは一部を除き、市内中心部の建物と同じ高さになるように定められている。

報告書・学術論文等に記載されたその他の成果

- 公的投資30億ユーロに対し、民間投資約100億ユーロを引き出した。
- 子どものいる世帯の割合が高い(ハーフェン市:26.4%、ハンブルク平均:19.0%)

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

ボルチモア(米国)

- 1970年代以降、歴史的な船舶の展示や国立水族館、体験型科学博物館等の建設が進められ、現在は観光地としての地位を築いている。

開発計画・学術論文等に記載された開発初期の目標

- 第2期計画(1960年代の計画)は、**観光施設等を整備し、大規模集客を目指した**ものであった。

想定外の課題

- オープンスペースの管理が個々の建物所有者に委ねられ、修繕が適切に実施されない**等により景観が損なわれた。

報告書・学術論文等に記載された目標に対する成果

- 1,000万人以上が訪れ、23億ドルの経済波及効果**をもたらしたと推計されており、学術論文で成功事例として評価される。

課題に対する対応策

- 非営利法人が**オープンスペースを一元管理**するようになり、景観が整えられた。

成功要因として評価された事項

時代の変化に合わせた開発

- 再開発には、長期間の大規模投資が見込まれたため、まず小規模なエリアの開発に着手した。
- 当初のビジョンと目標を追求しながらも、詳細な計画は、柔軟に策定することで持続可能な開発に繋がった。

自治体等の関わり

- 州法に基づいて設立された非営利法人が再開発の責任を担うことで、官民協力を実現した。
- 非営利法人が、民間に土地を貸し出す利益で交通インフラの整備等を実施し、民間が施設の建設・運営に専念できる環境を整えた。

地域のルール

- 全米から専門家を集め、「建築審査評議会」を設置し、建築物のデザイン、クオリティー等の審査を実施している。

その他

- 大規模集客施設の誘致だけでなく、周辺地域との交通アクセスの確保等にも重点が置かれた。
- 土地価格の上昇で、従来の市民が住めなくなる事態を回避すべく、低価格住宅の提供等も行われた。

報告書・学術論文等に記載されたその他の成果

- 2000年代初頭までに、不動産価格は、600%上昇し、市は年間6,000万ドルの税金を徴収した。
- 15,000人の直接雇用と50,000人の間接雇用が創出された。

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

マルセイユ旧港地区(フランス)

- 劇場、博物館、商業施設等が立地した複合的なまちづくりが行われている。倉庫を劇場に転用するなど、既存施設を活用し、地域の歴史を尊重するとともに、周辺の景観と調和した開発がなされている。

開発計画・学術論文等に記載された開発初期の目標

- マルセイユ旧港地区を含む再開発計画では、マルセイユ都市圏が2015年頃までに**1.5万人～2万人程度の雇用を創出することが目標**として掲げられた。
- 1ユーロの公共投資が4ユーロの民間投資を生み出すこと**も目標として掲げられた。

想定外の課題

- 港湾機能が衰退した地域であった。開発により賑わいを創出したが、**開発区域の周辺は衰退したままの状態であった。**

報告書・学術論文等に記載された目標に対する成果

- これまでに**2万人の雇用が創出**された。
- 2012年までに**5億ユーロの公共(国やマルセイユ市など)投資が、30億ユーロの民間投資を生み出した。**

課題に対する対応策

- 周辺地区と一体的な賑わいを創出するために、交通的なつながりを生み出す**アクセス機能の強化を図ることとした。**

成功要因として評価された事項

自治体等の関わり

- 開発を主導しているユーロメディテラネは、マルセイユ市、マルセイユ都市共同体等の地方共同体に加え、国益に資するという観点から国が関わっている。
- 国と地方公共団体の代表からなる役員会のメンバーが年に2回集まり、予算/決算・公共団体と民間企業との協定の締結等に関する議事について討議・調整が行われている。
- 国が関わること(具体的には、事業の承認を国として行うこと)で、国が運営・管理に係るヨーロッパ地中海文明博物館等の改修・移転等の開発が進められた。
- ユーロメディテラネでは、持続可能な都市イノベーションを生み出すことを目指し、ビジネスセンターを構築することで企業の誘致や起業家の支援や都市開発プロジェクトの実現と理解を促進するためのワークショップ等を行っている。

報告書・学術論文等に記載されたその他の成果

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

その他

2010年3月に大学まちづくりコンソーシアム横浜()が取りまとめた「海都横浜構想2059」
において参考にした事例(北山委員提供)

大学まちづくりコンソーシアム横浜: 神奈川大学、関東学院大学、東京大学、横浜国立大学、横浜市立大学による連携組織。故北沢猛氏、北山委員が参画

1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

1. ヴェネチア(イタリア)

・ジャルディーニ

都心近くの造船所跡に設けられている都市公園。低い建蔽率で各国のパビリオンが建てられ、ビエンナーレの会場として使われている。都市観光のエンジンとなっている。

全体写真



公園の様子



セルビアパビリオン



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

2. シドニー(オーストラリア)

- ・王立植物園
- ・オペラハウス、およびコッカトゥーアイランド

シドニー湾の都心に設けられた美しい水際公園。公園内に有名なオペラハウスが建っており、湾内にある造船所跡地のコッカトゥーアイランドには、キャンプ施設が設けられ市民の憩いの場になっている。

全体写真



王立植物園



オペラハウス



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

3. ポートランド(米国)

・パールディストリクト

ポートアイランドの港湾機能が衰退した地区の再開発。既存ホテル(エースホテル)をコミュニティ拠点とし、倉庫のリノベーションによるギャラリー、ショップの設置やLRT・ストリートカーの導入を行っている。創造都市の拠点として成功している事例。

全体写真



倉庫をリノベーションした店



LRT / Streetcar



1. 国外のウォーターフロント等の開発事例

4. アムステルダム(オランダ)

ボルネオ地区、スポーレン地区はアムステルダムの都心から近い埋め立て地。低層の住宅地として開発されている。高密で、居住とオフィスやショップが混在(hi-density hypermix)した街。

全体写真



住宅地の様子



パイソブリッジ



首都圏の広域ネットワーク

東名高速道路、中央自動車道等の放射状に延びる高速道路等と一体となって首都圏の広域的な幹線道路網を形成



2. 交通ネットワーク

都心臨海部の主な交通ネットワーク

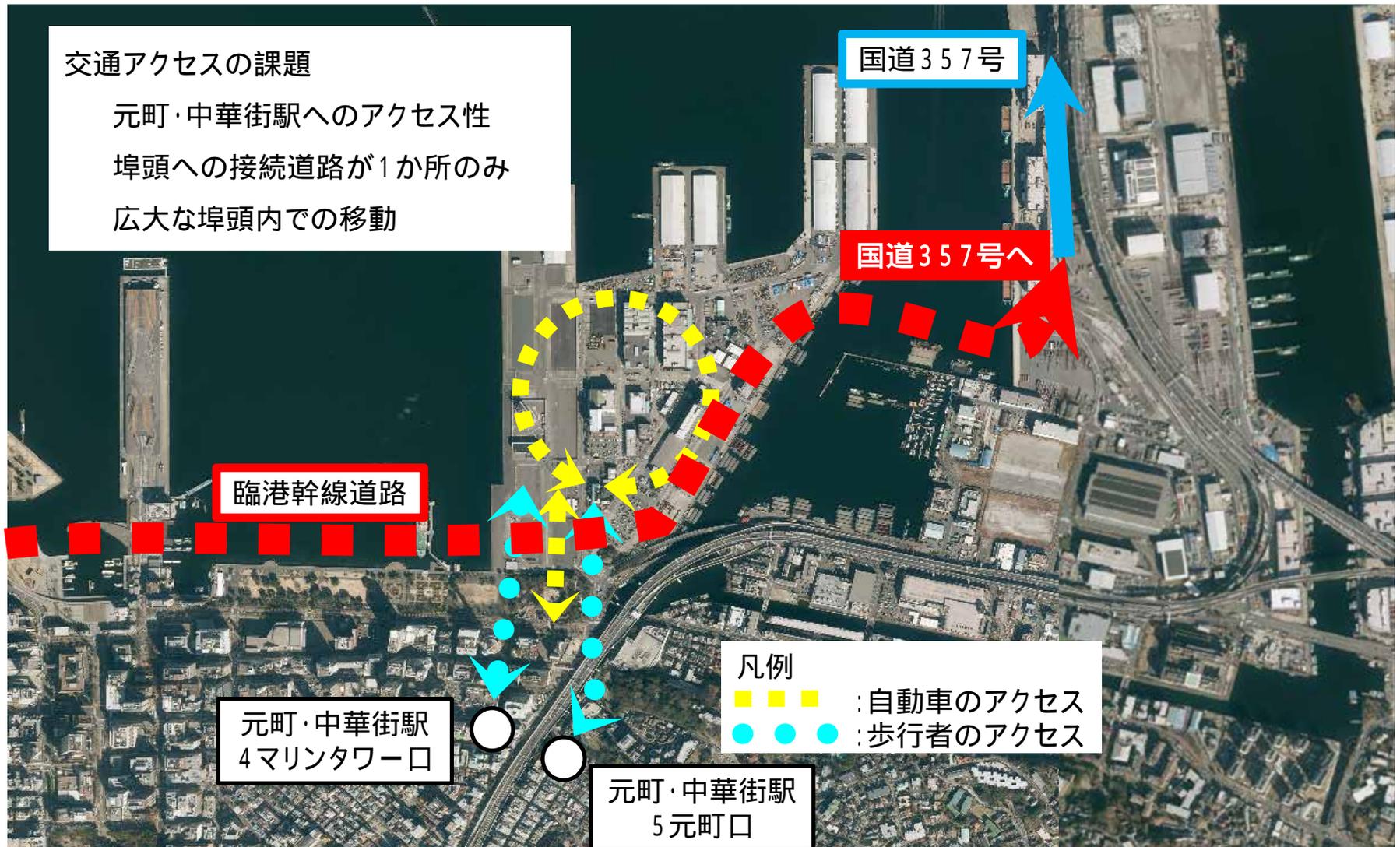


2.交通ネットワーク

山下ふ頭への交通アクセス

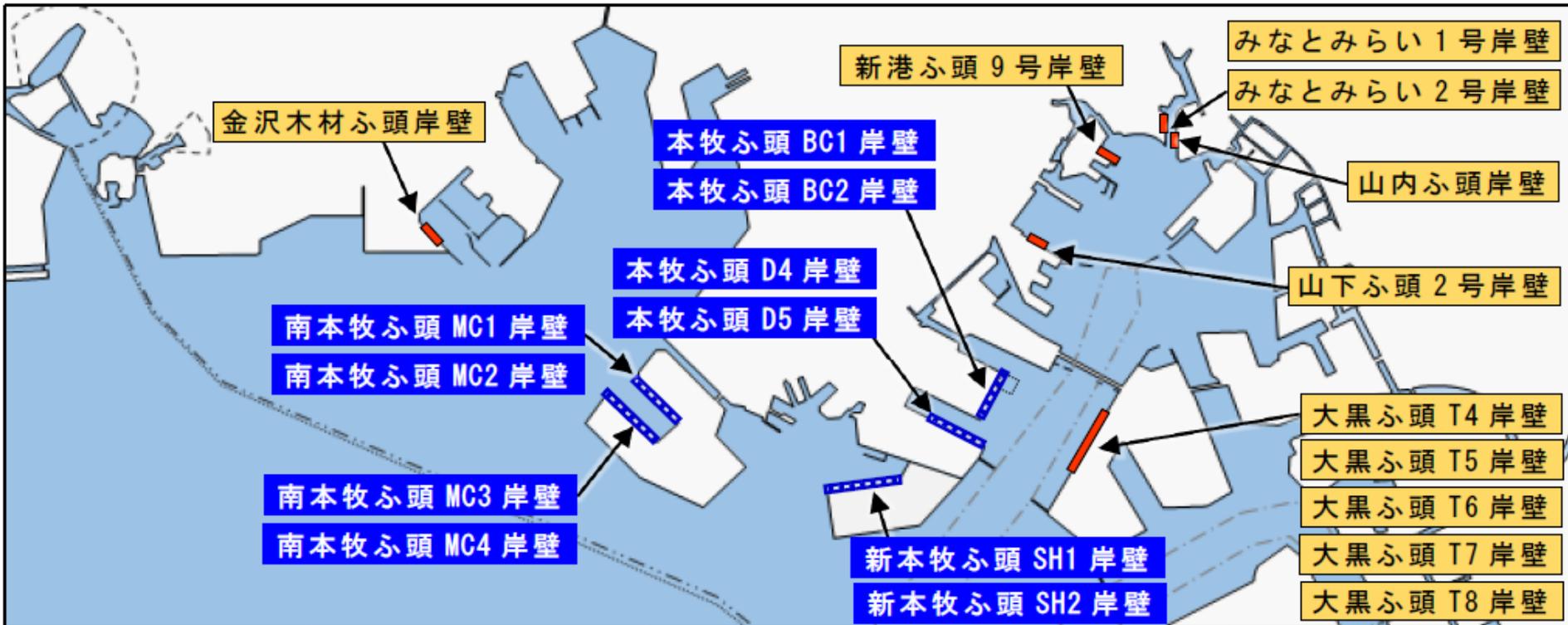
交通アクセスの課題

元町・中華街駅へのアクセス性
埠頭への接続道路が1か所のみ
広大な埠頭内での移動



3.耐震強化岸壁

耐震強化岸壁の整備状況



| | 役割 | 凡例 | バース数 | 延長 (m) | | 整備率 (%) |
|-------------------|-----------------------|----|------|--------|-------|---------|
| | | | | 計画 | 整備済 | |
| 緊急物資輸送用 耐震強化岸壁 | 緊急物資受入のための 海上輸送拠点 | | 12 | 2,085 | 915 | 43.9% |
| 幹線貨物輸送用 耐震強化岸壁 | 災害時であっても 国際物流機能を維持 | | 10 | 4,050 | 1,670 | 41.2% |

新港ふ頭9号岸壁は 1岸壁 2バース換算

3.耐震強化岸壁

山下ふ頭における耐震強化岸壁(計画)

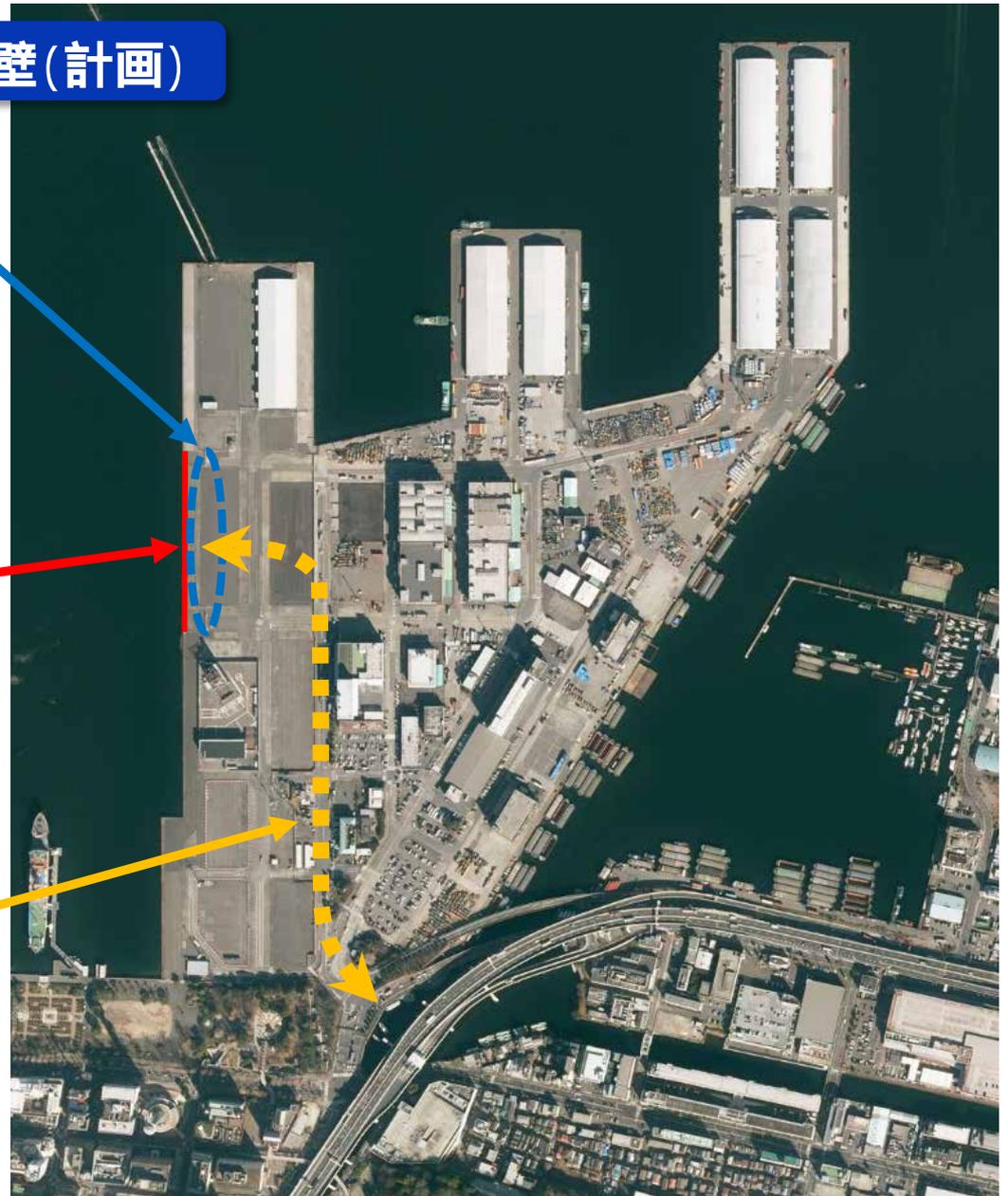
ふ頭用地(荷さばき地)

【山下ふ頭2号岸壁】

(延長200m・水深12m)

災害時に背後の荷さばき地や
オープンスペースと一体的に利用
することで、水や食料などの緊急
物資や復旧資機材等の輸送を確
保するための海上輸送拠点

緊急輸送路



意見書

1 団体概要

(1) 団体名

協同組合元町エスエス会

(2) 構成会員数

212

(3) 設立年

昭和 25 年（1950 年）

(4) 設立趣旨

元町で商う店舗が一体となって共同宣伝、共同売出し、共同施設の設置・運営管理、経営・技術の改善・向上等に取り組むことで、会員店舗の売上の増加を図り、以って元町商店街の発展に寄与することを目的として設立。

(5) 主な事業活動

販売促進イベントの企画・実施および広告・宣伝業務、クレジットカード包括加盟店業務、不動産賃貸・共同施設の管理、街内清掃・安全対策業務、Free Wi-Fi の管理・運営など

2 山下ふ頭再開発に向けての意見

（まちづくりの方向性や再開発を進めるにあたって検討すべき事項等）

【近隣エリアのアクセス状況について】

山下ふ頭の周囲には、元町をはじめ中華街、山下公園通りなどの商店街が多数存在しており、そこには多数の観光客、就労者、居住者がおります。

山下ふ頭地域は、現在でも多くの観光客、物流などの車両が行き交うエリアとなっていて、車で山下ふ頭にアクセスする場合、現状、山下長津田線を利用するしかなく、山下長津田線は交通量が多く、頻繁に渋滞が発生している状況です。

また歩行者についても同様で、隣接する元町・中華街駅からのアクセスについても横断歩道が限られた個所に設置されており、歩行禁止場所などもあることから、近隣エリアからは近くても訪れるのに時間のかかるエリアとなっております。

【山下ふ頭近隣エリアの交通インフラ整備】

山下ふ頭は47haあり、赤レンガ倉庫、ハンマーヘッドがある新港ふ頭41haよりも広いエリアとなります。

その新港ふ頭地域には、年間約1,770万人が来街しておりますが、それに対するアクセスが、山下公園側、馬車道方面、みなとみらい方面と多岐に渡っており、近隣エリアとのアクセスが非常に便利で、特に、歩行者や車での来街者にとっては、訪れやすいエリアとなっています。

それ以上に年間来街者数が予想される山下ふ頭エリアを訪れる方々にとって、まずは安全にそのエリアでの時間を過ごしてもらう為にも災害等での避難経路の確保といった側面も考慮していただきたいことと思います。

現在、水上交通網の整備が近隣エリアで進んでおり、山下ふ頭に隣接したエリアでは、陸及び海からのアクセスが格段に向上していきます。周辺地域の回遊性を重視する立場から、このことを鑑みると、観光客、就労者、車両、物流などの歩車道に加え、災害時の避難経路を確保することが、最も大事な要件であると考えられます。

これにより山下ふ頭の再開発と同時に、周辺交通インフラの整備を行って頂きたいと要望します。

<みなとみらい21・新港地区のデータ>

| | みなとみらい21地区 | (新港地区) |
|--------------------|------------|-----------|
| 来街者数 ^{※1} | 7,730万人 | (1,770万人) |
| 就業者数 ^{※2} | 134,000人 | |
| 面積 | 182ha | (41ha) |

※1 令和5年1~12月における年間来街者数

※2 令和5年12月時点

【出典】

- ・令和5年みなとみらい21地区来街者調査
- ・みなとみらい21 Information2024 Vol.95





出典：よこはまっぷをもとに作成
(中区区民生活マップ)
(c)GeoTechnologies, Inc.
(c) PASCO CORPORATION

意見書

1. 団体概要

- ① 団体名 神奈川倉庫協会
- ② 構成会員数 204社
- ③ 設立年 1947年10月31日
- ④ 設立趣旨 神奈川県内において倉庫業を営む者をもって組織し、会員相互の親睦を図り、併せて倉庫業に関する調査、研究及び各種情報の交換、普及等を行い、斯業の健全な発達に資することを目的とする。
- ⑤ 主な事業活動
 - (1)人材育成活動
 - (2)防災安全衛生活動
 - (3)法令遵守活動
 - (4)環境保全活動
 - (5)監督官庁への窓口業務、貨物動向等統計資料の作成等

2. 山下ふ頭再開発に向けての意見

1) 倉庫と山下ふ頭との関わり

我が国最大の国際貿易港である横浜港を構成する山下ふ頭は、供用開始の昭和38年以来、多くの倉庫事業者が参入し、横浜港の貿易活性化に大きく寄与して参りました。60年の長きに亘り事業を営み、多くの従業員が働いて参りました、とても思い出のある大切な場所です。

2) 要望事項

① 山下ふ頭再開発における交通問題

山下ふ頭の再開発に際し、これまでにない大きな規模の新しい人流が発生するものと思われます。

山下ふ頭周辺道路は我々物流事業を営む者だけでなく、生活道路として市民生活にとりましても重要な道路であるため、周辺交通網の整備、又、海上交通を含めた新たな交通網の拡張等アクセス手段の拡充をお願い致します。

② 山下ふ頭再開発に際し

山下ふ頭は、横浜港頭地区にありながら、横浜市街にも近い好立地にあります。

是非、この魅力的なロケーションを活かした事業開発として頂きますようお願い致します。

又、従来、我々物流事業者は、横浜市に於いて経済面だけでなく雇用の促進も担ってきましたので、山下ふ頭がいかなる開発事業になったとしても、採算性の良い、横浜市にとっても経済効果が上がり、雇用を創出する持続可能な事業開発となりますようお願い致します。

③ 山下ふ頭の防災拠点機能

- ・山下ふ頭の船舶が着岸出来るバース機能を活用し、災害時の海上輸送ルート及び、援助物資の保管拠点機能の確保をお願い致します。

以上

2024 年 8 月 22 日

横浜港運協会
会長 藤木幸太

意見書

1. 横浜港運協会の概要

- ① 団体名 : 横浜港運協会
- ② 構成会員数 : 236 社（窓口店社数）
- ③ 設立年 : 1956 年 4 月 1 日
- ④ 設立趣旨 : 横浜港における港湾事業全般の事業の秩序を保ち、さらに横浜港の発展に寄与することを目的とした団体。港湾運送事業法に基づく事業許可を得ている事業者を主体として横浜港地区における運送事業を生業とする事業者から構成され、横浜港における日常の運送事業の秩序形成を行い、横浜港の将来の発展のために、経済・社会・技術開発情勢に則った戦略の立案と、行政への要望・要請を民間事業者の立場から実行する為に設立されました。
- ⑤ 主な事業活動 : 1859 年の横浜港開港以来、165 年の間、横浜港の発展に寄与して来ました。戦後の横浜市への移管後も横浜港の発展に努力して来ましたが、地方自治体のみによる港湾管理に限界があること、我々自ら国が直接関与する国家戦略として横浜港を位置づける必要を感じて、2009 年に国際戦略港湾の必要性を政府に主張して「国際コンテナ戦略港湾政策」として 2011 年に位置づけられるように致しました。当時は、横浜港・川崎港・東京港で地方自治体のみで集結する「三港連携」が他方で始っていましたが、これに対して国家戦略港を提唱しました。国際戦略港湾となったことで、国の投資が可能となって、今の南本牧の日本一のコンテナターミナルが実現したことは、結果として我々の主張が正しかったものと思います。

横浜港・南本牧コンテナターミナルは 700 か所に上る世界のコンテナターミナルのランキングでトップテン以内に 10 年以上続けて入っています。このランキングは取扱い量ではなく、①生産性、②信頼性、③サービス性のこれら要素の総合評価です。このように港運事業者として世界トップテンに入っており、今も継続して輝かしい成果を上げています。

2011 年 3 月 11 日に発生した東北沖大震災では、原発の爆発事故による放射能汚染が広がり、横浜市で発生した高濃度下水道汚泥焼却灰の南本牧への埋立を即時阻止して造成地の放射能汚染から守りました。この結果、今では南本牧地区では安心して大型倉庫も建設・運営できるようになっています。汚染された土壌では特に食品関係の物流事業はできなくなります。

山下ふ頭への IR/カジノ誘致には真っ先に抵抗し、結果的に山下ふ頭への IR/カジノの誘致を阻止しました。これからも我々港湾人・横浜港運協会は横浜港の良き発展に尽くして参ります。

2. 山下ふ頭再開発に向けての意見

① これまでの山下ふ頭との関わりと今後の雇用確保

山下ふ頭の最盛期には港湾物流事業の従事者が約 5,000 人以上働いたこともあり、活況を呈していました。また、昭和 40 年代、50 年代は付近の治安は荒れていて、仕事に支障も生じたほどでした。そこで我々港湾物流事業者を中心に、山下ふ頭及び周辺的环境を良くする努力を行い、今や一等地となりました。この努力に報いるためにも我々港湾物流事業者の雇用の確保を是非検討して頂きたいと思えます。

② 山下ふ頭の現況と我々の事業継続の可能性の検討

山下ふ頭は在来船貿易の拠点からコンテナ物流が主体になって、その存在意義が消失しましたが、近年、国内の宅配の急増に伴い、国内物流と国際物流をつなげる山下ふ頭の地理的位置の価値が大きくなり、この好位置の結節点として山下ふ頭の物流拠点としての利用可能性が期待されています。是非、この観点からの考慮をして頂き、物流に関連する開発事業及び雇用の確保につながる再開発の可能性について検討して頂きたいと思えます。

③ 保税地区の継続

山下ふ頭は現状全域で保税地区指定されています。再開発に当たり、他に例を見ない保税指定地区であることを生かした開発を進めて頂きたいと思えます。そのため将来にわたり保税地区指定を外すことなく保持して頂きたいと思えます。

④ 臨港地区・商港区の継続

山下ふ頭は横浜港の臨港地区として地区指定されていて、港湾機能が十分に発揮できるようになっています。今後開発を進める際も、世界の先端に行く横浜港としての一翼を担い続けながら港湾機能を最大限に取り入れて進めるべきだと思えます。

⑤ 海運を利用した交通網の構築

新港ふ頭、大棧橋、大黒ふ頭、中村川、大岡川、さらに横浜駅方面、羽田空港、東京方面などと山下ふ頭を海上交通網で結び、集客体制を確立して頂きたいと思えます。この海運による交通網の整備がなされてはじめて、山下ふ頭に多くの人々を受け容れることが可能になると思えます。

⑥ SDGs の導入

山下ふ頭には上屋も残っており、ここで最新の太陽エネルギーを利用する実証事業などを行って頂きたいと思えます。いずれ横浜港全体に導入することを考慮すると、その前段階でしっかりと実証する場として山下ふ頭に残っている上屋など設置可能な空間を利用して事前検証・評価した上で横浜港全体に広げて頂きたいと思えます。

以上。

山下心頭再開発検討委員会
第1回～第4回の意見のまとめ



第1～4回の意見のまとめ

まとめ資料作成までの流れ

①学識者委員の皆様のパレゼンテーション

②地域関係団体委員の皆様の見書

③委員会での議論

①～③の内容を踏まえて整理し、16のカテゴリーに分類

第1～4回の意見のまとめ

分類した16のカテゴリー

- 次世代につなげる持続可能なまちづくり
- 市民合意形成、プロジェクト体制
- 観光・インバウンド ■横浜の魅力・ブランド力の向上
- 周辺地域への波及 ■国内外から人々が集まる
- 横浜経済を牽引 ■防災・安全
- 交通ネットワーク ■脱炭素(環境・エネルギー等)
- 市域全体と連動した賑わい創出
- 海に囲まれた立地特性 ■歴史・文化 ■緑・水辺
- 景観形成 ■デジタル活用

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につなげる持続可能なまちづくり

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

長期的な
視点に
基づく開発

- ・ 50年先または次の世代、または100年後の都市の様子を想像しながら開発の方向性を検討すべき、その際、現状では非効率でも、長期的な視点も踏まえて利益があるような都市のデザインを検討することが望ましい。
- ・ 美しい街、強い街でなければならない。未来に向けて持続性や永続性のある街づくりを進めることが必要。
- ・ 次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのは全然ダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。
- ・ 現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜を作るために描いた未来に基づいた開発を進め、50年100年後に振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのおかげと言ってもらえるようにしたい。
- ・ 税金を投入しなければ成立しないプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ持続的な運営が求められる。
(市民意見等)世界に誇れるダイナミックな未来像を描くとともに、将来を見据えたまちづくりを期待。

- トップランナーとして世界のウォーターフロント開発を先行し、国内外に誇れる横浜を作るために、50年後、100年後を想像しながら、未来に負担を残さない持続的な運営が可能な開発を行うべき。

Point 2

発展を
支える
イノベーション
・教育

- ・ 日本では、海外からの直接投資が少なく、増加に向けて、企業、学校、病院の誘致、世界中の一流の人材や企業の受け入れのための具体的な取組を検討すべき。
- ・ 日本の若者、ミレニアル世代、Z世代が、何を重視していくかということをもとに考えていくことが必要。
- ・ バーチャルリアリティの館として、みなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業の研究開発をしている最先端イノベーションの実証実験の場。
- ・ 教育などにより横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。
- ・ 段階的な開発が進む中で、その一部を地域の賑わい創出や課題解決につながる社会実証等の場として活用していくべき。
(市民意見等)企業誘致による産学連携。
(市民意見等)先導できるグローバル企業を誘導して、山下ふ頭から内港地区や周辺地区のイノベーションを促進。

- 次世代のニーズに応え続けるイノベーション創出や、海外からの直接投資を増加させる観点で、企業・大学の誘致等による教育的役割の付加や世界中の一流人材の確保を目指すとともに、新たな技術等の社会実証の場として活用していくべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につながる持続可能なまちづくり

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 3

次世代に
渡る
市民生活の
安定

- ・ 中長期的な視野、時間軸で、横浜経済を動かし、市民生活の維持につながる再開発の方向性を考えることが必要。
 - ・ 現在の現役世代の子世代、孫世代にもつながるような将来的にも永続的になるような再開発の内容を検討すべき。
 - ・ 再開発の内容を民間主体で運営する場合、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、新しい未来に向けた若者のため、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。
 - ・ 都市を構想することは、これから生まれてくる未来の人のための都市を構想することです。山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。
 - ・ 顕在化する労働者不足に対応するため、外国人等の定住人口増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。
- (市民意見等)いま横浜で生まれているハマッ子に未来を任せられるようなまちづくり。
(市民意見等)国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視。

- 子世代、孫世代のための都市の構想と、税収効果を図る取組や、将来に渡る経済効果の維持を両立させることで、市民生活を支える持続可能な開発を実現するべき。

Point 4

柔軟な
開発計画

- ・ 巨視的に考えた上で、段階的な整備の計画を立てる必要がある。一度に全てを作り上げていく考え方は不適合であり、10年後は現在から変わっているのか、それとも変わっていないのかということは、再開発の方向性の定めていく上で戦略的に誘導することが重要。
 - ・ 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進してほしい。
 - ・ この計画も50年とは申しませんが、ロングスパンで考えるべき。一気に完成に再開発を進めていくということでは必ずしもない。全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことが極めて大事。
- (市民意見等)2050年位を目指して、社会情勢にフレキシブルに対応することが持続的な発展に必要。
(市民意見等)二段階の開発とすることで、I期の収益性や社会情勢等を検討し、II期で確実性の高い、時代に合った開発が可能となる。

- 山下ふ頭全域で統一されたテーマを持った上で、将来の情勢やニーズにも柔軟に即応できるよう、一定規模のオープンスペースを確保するなど、開発余地を残しながら段階的に整備を進めていく計画を立てることも考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

市民合意形成、プロジェクト体制

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

市民のための 再開発

- ・ 横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。
- ・ 定常型に向かう社会では、都市は資本活動だけではなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを求める場になると考えられ、横浜はその新しい都市モデルを追求してほしい。
- ・ 経済を否定はしないものの、都市には人が居住する場所であることから、住人のための都市という考え方が1番最初にあるべき。投資の呼び込み、インバウンドのために都市があるわけではなく、プライドのある魅力的な都市であれば、結果として人々が訪れる場所になる状態になると好ましい。
- ・ 経済成長や財政収支などのファンダメンタルズと市民や住民により、意味のある形で活用するという問題意識が、両輪で必要。
- ・ 市の多額の予算が山下ふ頭再開発に投下されることは避けるべきである一方、財政削減を優先して、市民のための開発という点が考慮されないことも避けるべき。
- ・ 横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用。
(市民意見等) 憩える、学べる、市民も楽しめる。

- 市民が憩い楽しむとともに、自然やコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを求める人々が集う空間を提供するような新たな都市モデルの追求も考えられる。
- 横浜市がイニシアチブを持って市民のために再開発を行うという視点と、経済成長や財政収支などのファンダメンタルズを両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。

Point 2

横浜市全体の プロジェクト 体制

- ・ 市有地である山下ふ頭は、市の部局をまたいで長い時間軸で考え、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していく。そのため、市全体のランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えにも取り組むべき。
- ・ 横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要。そのうえで、ランドデザインに沿って、事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高まることで、プロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業を迎えることができる。
- ・ 山下ふ頭の再開発を検討するにあたり、横浜市も、港湾局だけではなく、複数の関係部局で、部局横断で都市の問題を解決することが必要。
- ・ 検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与等が必要不可欠。
(市民意見等) 再開発は横浜市が総力を挙げた体制で取り組むべき。

- 市の関係部局が横断的に連携して中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発とするべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

市民合意形成、プロジェクト体制

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 3

答申策定後に 経るべき プロセス

- ・ 住民自治の観点から、答申後に市が事業計画案を策定し、市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定する流れとするのは適当と考えられる。答申後の手続について、委員会が担う役割も、答申に盛り込んでほしい。計画内容というハード面だけではなく、事業者の募集方法などのソフト面を含めて答申内容を検討してほしい。
- ・ 市民からの意見の中に「参画」という言葉があり、市民が参画できるようなものを意図するということが問われていると思う。
- ・ 横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させて開発していただきたい。
- ・ 事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮したうえで、決定してほしい。
- ・ 横浜市資料では、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっておらず、極めて不適切であるため、事業計画の検討委員会を設置し、そこに市民も入れて検討すべきである。
- ・ 事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどをしっかりと市民に伝える。事業者の選定にあたっては、市民がどういうことを考え、どういうことを望んでいるのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではない。
- ・ 横浜港あるいは横浜市全体のランドデザインを改めて議論することが必要。
- ・ 山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定してほしい。
- ・ 安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論していただきたい。
- ・ 市域全体のマスタープランですね。横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、部分最適にはなるが全体の最適にならない。
- ・ 大規模プロジェクトは全体最適と部分最適のバランスだと思う。ただし、一番大事なものは、部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。
(市民意見等)「横浜らしさ」の愛着と誇りを持ち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくり。
- ・ (市民意見等)民間マネジメントによる新たなコミュニティや、多様な人々がつながるコミュニティインフラの構築。

- 答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を実施するプロセスを経ることが適当であり、加えて、市民参画の在り方や、開発に対する市民意見の伝達手法等についても考慮する必要がある。
- 山下ふ頭の再開発が部分最適だけでなく全体最適の事業となるよう、横浜港あるいは市域全体のランドデザインとの関係性を常に意識し、事業のあるべき姿について十分な議論・審議を行っていく必要がある。

カテゴリー別意見とりまとめ

観光・インバウンド

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

観光・
インバウンド
の必要性

- ・ ダイナミズムで引きつける力、横浜がすごいことを始めたなど国内外から関心を惹きつけ、人流、投資、あらゆる面で引きつける力の醸成を考えつつ、議論を深めることが必要。
- ・ 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にするか。
- ・ 人口減少による観光客減少の対策にインバウンド戦略として外国人を呼び込み稼働率を高める取組が行われている。
(市民意見等)世界から人が集まり、国際交流の拠点になる。

- 既存の観光資源の活性化も含めた経済成長に向けて、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込む取組を行い、海外からの関心、人流、投資等を引きつける必要がある。

Point 2

観光資源の
事業性確保

- ・ 観光資源の保存と活用を両輪とした、独立した持続的な採算による運用をすることが重要。
- ・ インバウンド戦略によるインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的。

- 観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識するべき。

Point 3

インバウンド
のニーズを
捉えたコン
テンツの提
供

- ・ 幼少期に触れた日本のアニメ・漫画・ゲーム等のポップカルチャーのクリエイションが、外国人の日本への憧れを抱く具体的な内容になっている、ということへの意識も非常に重要。
- ・ 来日するインバウンドの目的地が横浜ではない現状を打破するためには、世界的に、日本文化への好感度が非常に高いことを踏まえ、我々が再評価して、日本の文化の価値を認め形にすることや、世界基準である、老若男女多様性すべてを受容する寛容性が必要。
- ・ 今後世界の多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめる、近未来の価値観にも適う施設を整備することが必要。
- ・ 歴史・文化を中心とした施設は多様性がなく、魅力が少ない。ショッピングやナイトライフ、食文化、アクティビティ等の都市の文化を展開するためのインフラ投資と整備を進め、多様なアピールをした結果、7年間で外国人観光客が4倍に増加した。
(市民意見等)これからの子供たちと世界のファンに多様な刺激を与えるための、アニメ・ゲーム・マンガ文化などの日本文化の大型施設。

- インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、例えば外国人が憧れるポップカルチャーやデジタルコンテンツを盛り込むなど、その価値を形にしていけるべき。

- ショッピングやナイトライフ、食文化、アクティビティ等、今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

観光・インバウンド

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 4

近隣の 観光資源と の連携

- ・ 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、東京に似た開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。
- ・ 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。
(市民意見等)観光のハブになり、周辺地域と連携・相乗効果を発揮する。

- 観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。

Point 5

宿泊に繋がる 魅力創出

- ・ 観光収入の半分は宿泊と飲食。日帰り観光客の数は多い一方で、経済への貢献は少ない。宿泊につなげるために必要なことを検討することが重要。
- ・ 常に人が集まる施設にする必要。魅力を高めることにより宿泊につなげることを最初から徹底的に考えたときに、付加価値の高さを重視することが重要。
- ・ クルーズ発着港の横浜であっても、地域に落ちるお金は限られており、乗客が観光バスで鎌倉、箱根、東京へ流出してしまっている。
- ・ 市の観光の中期目標は、2030年に5,000億円。現在は観光客の9割が日帰りで、今後さらに日帰り観光客だけが增加すると、オーバーツーリズムを引き起こすうえに、単価が安い。客単価、宿泊需要も上げていくためには、インバウンドに注目していくことが重要。
(市民意見等)現在の「よこはま」は外国人の観光客の通過地点でしかない。滞在時間が増加する取組が必要。

- 経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜の魅力・ブランド力の向上

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

横浜の
魅力・
ブランド力
の向上

- 古きものを尊重しながら新しいものを添えていく、横浜ブランドを再度磨き上げる取組は、山下ふ頭の再開発と密接不可分。
- 横浜の持っている不易と流行の組み合わせ方を考えることが、非常に重要な戦略ではないか。
- ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、複数の地域価値、地域向上、地域貢献を検討していることが非常に重要。
- 横浜全体のブランド価値を上げる、宿泊客を増加させるためには、例えば、山下ふ頭を1つの公園にして、鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与することも考えられる。
- 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されていると思料するが、さらに評価を高めるために防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応える土地利用を考えた時に、環境価値と感性価値に非常に優れ、横浜ブランドと三位一体になっている事業をどのように創出するか。
(市民意見等)今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤としてそれに必要な事業を考えるべき。

- 古きを尊重し、新しいものを添えていく、横浜の不易と流行を組み合わせて、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。
- 地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。
- 横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、新たな機能付加が必要。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応えていくため、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。

Point 2

新しい時代
の象徴と
なる
ウォーター
フロント
開発

- 先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技、伝統もあいまった拠点として開発することが適当。
- 再開発を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持が両立し、経済効果も生み出しつつ、持続性のある方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承する必要があるものを混在させながら、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげるのが理想。
- ウォーターフロント開発のトップランナーになる可能性。世界の事例を目標とせず、先行する意識で夢のある内容を議論したい。
- 港湾機能とまちづくり機能の両用一体にした、今後の臨海部再開発のモデルになる自負を持って取り組むということが重要。
- グローバルで新しい社会に合致した開発が望ましい。
(市民意見等)「これまで培われた歴史・文化」、「新たなテクノロジーやサステナビリティ」、「多様な人々と価値観」を融合してイノベーションを起こし続け、今後の内港地区や横浜全体を牽引する場所とする。

- 未来を担う若者のために、先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技や伝統等、継承すべきものを混在させた拠点形成を進めるべき。
- グローバルで新しい社会に合致し、世界のウォーターフロント開発を先行するような臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

周辺地域への波及

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

地元経済への 貢献と 雇用創出

- 新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発して、観光客やビジネス客等の交流人口の増加や雇用創出を図るべき。
- 地域への経済効果が、雇用をはじめ、可能な限り域外に流出せず、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要。
- このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。
- 港湾の機能は基本であり、この機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないか。
- ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという、人に対する支援にもつなげることが可能である。
- 人口減少が進行する中で経済を維持するために必要なことは、地元の賃金を上げることが非常に重要であり、賃上げにつながることを焦点にしてこの再開発を進めるべきではないか。
- 再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要。
- 横浜の独自性を発揮し経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取る必要があることから、この山下の当該地域だけではなく、全体バランスを考えて進めていくことが必要。
- 大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要。
(市民意見等)企業中心の開発ではなく、市民生活や地域産業にも依拠した開発を検討するべき。
(市民意見等)再開発により創出されるビジネスや技術をまちづくりへ還元していくべき。

- 新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。
- 再開発を契機とし、周辺地域で働く方々の収益向上や、消費・雇用の創出を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。
- 新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

国内外から人々が集まる

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

人々を惹きつけ続ける開発の実現

- ・ダイナミズムで引きつける力。国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。
- ・地域の定住人口が減少しているため、都市開発の目的は、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発することが主流になることを踏まえ、国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要。
- ・東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が必要な観光資源を参考に、かなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。
- ・時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。
(市民意見等)わくわくする体験ができ、世界から注目される。
(市民意見等)様々な目的を持った人々を横浜・日本・世界から迎え入れる。

- 山下ふ頭が国内外からの関心、人流、投資等を引きつける力を醸成するために、プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーが必要。
- 東京湾全体の港や空港の機能を踏まえ、人流の動向を意識することが必要。
- 顧客のニーズが変わっていく中で、時代遅れとならないために、投資をし続ける覚悟が必要。

Point 2

独自の魅力構築

- ・東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要である。
- ・都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進してほしい。

- 周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発により、独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が重要。

Point 3

大規模集客施設の導入等による活性化

- ・横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。
- ・このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設やホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤を目指してほしい。
(市民意見等)スポーツ施設のある市民のための再開発。
(市民意見等)世界最高水準の国際展示場とコンサート・スポーツイベント会場のハイブリッド型中核施設を導入する。

- 横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

国内外から人々が集まる

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 4

インクルー
シブな空間
づくり

- 周辺の事例等も参考にすることで、横浜の名所として市内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないかと。
- 憩いの場としては、市民が自由に使える、賑わいが創出できるような空間を検討してほしい。
- 障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れてほしい。
(市民意見等)幅広い世代の誰もが楽しめる。

- 横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、誰もが自由に楽しめる、賑わいが創出されるような、インクルーシブな空間を整えることが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜経済を牽引

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

地域経済の 活性化

- 地域の定住人口減少化において、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発するまちづくりが主流になってくる。
- 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済を牽引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとなるよう、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。
- 山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるもの。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討することが必要。
- 日本を代表する都市として発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所である。
- 横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることも検討してほしい。
- 横浜の成長を牽引し市民のより豊かな生活につながる場所となるべき。
(市民意見等)市全体の活性化に寄与する。
(市民意見等)山下ふ頭に国内外から多くの人々が集うことで、インナーハーバー域では新たな賑わいが生まれ、アウターハーバー域でも貿易・物流が活性化し、市全体の経済発展、税収増に寄与する好循環が生まれる。

- 定住人口が減少する時代にあって、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。
- 横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。
- 横浜市民に憩いの場を提供する取組と、横浜経済を活性化させる視点を両立させ、市民のより豊かな生活に繋がる場所とするべき。

Point 2

市の収益 向上と 市民への 還元

- 生産年齢人口の減少や少子高齢化の進展を見据え、税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には税収を生み出す場所としての観点が不可欠。
(市民意見等)市民への還元と税収の確保。

- 市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜経済を牽引

Point 3

我が国の
貿易との
関係性

意見(抜粋)

- 強固な地盤、広大な土地という魅力的な特徴を生かしつつ、横浜港、東京湾全体からの観点で国際競争力をもたすための場所として活用する発想を持つことも有効。
- 横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置付けと国際貿易に寄与する視点を最重要視して頂きたい。
- 再開発においては、港湾機能をどう活用するかという点も検討すべきであり、その際、山下ふ頭が東京湾や市内陸部との結節点となっていることを十分意識する必要がある。

意見要旨(案)

- 東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

防災・安全

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

市民の
安全安心

- 3.11、そしてコロナの教訓として、「医療防災」は、このプロジェクトの可能性に埋め込まなければならない言葉。
- 世代を越えて取り組む必要のあること、キーワードはレジリエンス。市民の安定・安全を図るための、例えば医療とか防災について役割を持つ場とすることも考えるべき。
- 防災拠点、感染症対策拠点としての機能などの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。
- 横浜都心臨海部は、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであるから、山下ふ頭の開発において「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が必要。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案。
(市民意見等)過去の大地震の学び、「防災・減災」機能を何らかの形で付与すべき。
(市民意見等)大地震や津波から守る最先端の防災対策。

- 世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入すべき。

Point 2

リダン
ダンシー性
の高い
まちづくり
への貢献

- 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価を受けていると聞いたことがあるが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。
- 首都高の路線があることで、グランドレベルが火災で機能不全になっていても、十分に救援活動ができる可能性もあることから、上瀬谷に整備予定の広域防災拠点との連携の観点で、災害対応車が待機できる場所として山下ふ頭を位置付けるなど、周囲のインフラを一体化しながら、山下ふ頭周辺が安全で安心できる地域であるという一つのブランドも重要。リダンダンシー性の高いブランド、まちづくりを考え続けることも重要な論点。
- 関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討してほしい。
(市民意見等)災害援助物資受け入れ拠点となるスポーツセンター、ハリポートなどの災害発生時に使える施設。

- 旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

交通ネットワーク

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

陸海からの
交通
アクセスの
向上

- ・ 現在 1 か所しかない進入路の機能向上についても検討してほしい。
- ・ 横浜港へさらなる客船誘致を推進するための整備を検討してほしい。
- ・ 山下ふ頭の交通アクセスが良くない。山下ふ頭の入り口から先端まで距離がある。開発に大量輸送機関を検討したほうが良い。臨港幹線道路を積極的に利用していただく、都心臨海部とその山下ふ頭、そしてあの関内・関外地区のトライアングルをうまく回遊性が取れるような道路になる。
- ・ 旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図ってほしい。
- ・ 交通アクセスは、内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで大変重要な論点。
(市民意見等)陸・海・空、海外からもアクセスしやすい交通機能の導入。
(市民意見等)横浜内港の各地区を歩行者ネットワークでつなげることで、それぞれの機能を連携させ、魅力的な臨海部を形成できる。

- 山下ふ頭への新たな進入路の確保や臨港幹線道路の整備等により、来街者の利便性向上を図るとともに、客船誘致に向けた整備を更に推進していくべき。
- 市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。

Point 2

多彩な
交通手段

- ・ 山下ふ頭と中華街、隣接するみなとみらい等も含めてモビリティを高めるような交通システムが導入することができないか、「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになる。
- ・ 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要である。防災の観点でも海上交通がかなり重要な役割を果たす。
- ・ 周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討してほしい。
(市民意見等)自走式ロープウェイやエコライドを導入することで、省エネや市の発展につなげ、市の交通を時代の最先端にする。
(市民意見等)スマートモビリティによる交通ネットワークの強化と水上交通ネットワークの構築による域内外の移動促進や、自動運転モビリティの導入。

- 三方を海で囲われた立地条件を最大限生かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。
- ロープウェイ、空飛ぶ車を含めた多彩な未来の交通手段、元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区との回遊性を高めるモビリティ等の導入も目指すべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

脱炭素(環境・エネルギー等)

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

脱炭素型の 再開発

- 脱炭素の取組は、面だからこそできることを認識することも重要で、エネルギーの需要は用途によって異なるため、最適な組み合わせを考え、効率的なエネルギー利用を検討することが重要。
- 今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。
- ロンドンでは、第5世代のエネルギーネットワークを進めており、再開発では再生可能エネルギーの導入を行っている。山下ふ頭で開発をする場合には、エネルギーの利用を減らし、CO₂の排出量を抑えられるような開発を進めることが必要。
- 防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。
(市民意見等)太陽光やバイオマスなどの地球温暖化対策に資する施設。
(市民意見等)グリーンインフラ(緑化)の導入やクリーンエネルギー(水素)の活用。

- カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小化した施設の導入や、用途に応じた域内でのエネルギーのベストミックスの取組等により、日本初の脱炭素型の再開発プロジェクトを目指すべき。

Point 2

脱炭素の 取組・魅力 の プロモーション

- 横浜港がCNPとしての取組を進めていることの魅力を世界に発信するための場所として活用することも考えられる。
- サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくことも重要。
(市民意見等)横浜発の先駆的な技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待。

- 再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取組を国内外に広くプロモーションする場所としても活用するべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

市域全体と連動した賑わい創出

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

都心臨海部、
横浜市全体
への波及

- ・ 欧州全体のソフトウェアのベースとなったイーストロンドンの成功事例等のように、開発には連鎖反応を起こすことが非常に重要。
- ・ 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、他の事例と同様の開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。
- ・ 山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街、関内・関外地区等の都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出を図ってほしい。
- ・ 山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を踏まえた開発にしてほしい。

(市民意見等) 山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画を望む。
(市民意見等) 周辺のゾーンとの連携によるビジネス創出、内水面のアクセス整備や景観形成により、内港地区全体での連携を促進。

- 元町や中華街、山下公園通りなどのエリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような再開発とするべき。

Point 2

巨視的な
視点を
持った開発

- ・ 日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。京浜地区、あるいは東京湾沿岸の港湾における土地利用の見直しの機運の高まりを整理しなければ、山下ふ頭が他地区と競合する、あるいは特徴が持てないことになりかねない。
- ・ 山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要。
- ・ 山下ふ頭の再開発を出して、特に東京に繋がるようなベイエリアから山の方について、全体的に連鎖的なものを起こすことが必要。

(市民意見等) 再開発においては、広域的(東京湾全体、横浜市全体等)な視点での山下ふ頭の位置付けを考えるべき。

- 経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響も考慮する必要がある。

カテゴリー別意見とりまとめ

海に囲まれた立地特性

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

立地特性の活用

- 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭が一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。
- 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要である。
- マリントワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけを感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。
- 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要。
- 素晴らしい立地環境と歴史性を十分に活かし、山下ふ頭の再開発が観光産業等のリーディング・プロジェクトとすべき。
- 立地条件から水上交通をはじめとした、周辺との多彩な交通網の充実は必須。
- 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に活かすということが大切。
(市民意見等)海に面する特性を活かす。
(市民意見等)特異な立地を生かした横浜の経済振興・都市文化醸成に資する国際的な人物・情報の集まる拠点形成すべき。

- 観光産業等の活性化や、水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする方々からの映り方等、再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を十分に活かしていくべき。

Point 2

海を活かした人材育成

- クルーズの出発点が横浜となっており、若者の教育的な見地や人生感などを変えている。世界の起点となる横浜として、刹那的な快楽を求めるのではなく、帆船での航行を通じた海洋人材の育成など、教育により横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。

- 将来の海洋人材などの育成に向けて、若い世代への教育的な役割が果たせる開発も考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

歴史・文化

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

横浜の歴史
を踏まえた
開発

- 横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜の歴史を振り返る必要がある。未来を見据えた再開発の根底にある横浜の歴史、先人たちがそれぞれの時代に合わせて積み上げた歴史を紡ぐことが必要。
- インナーハーバーと称される最後のエリアとして、山下ふ頭が総仕上げになるような形で、点在している文化とか技術とか歴史をネットワーク化してすべてがつながる形で完成されることが適当。
- 横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史があり、独自の都市文化、地理特性が備わっていることから、こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべき。
- 横浜港の発展の歴史を踏まえた開発としていただきたい。
(市民意見等)横浜のアイデンティティ、歴史文化を尊重し、横浜らしさが感じられるまちづくり。
(市民意見等)開港から紡がれてきた想いがある横浜中華街や関内地区など、周辺のまちとの融合を図る。

- 160余年に及ぶ横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。

Point 2

歴史文化の
魅せ方

- 外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。
- 歴史・文化だけでは多様性がないため、インフラ投資による都市の文化、具体的にはショッピングやナイトライフ、日本の食文化、アクティビティなど、様々なアピールをすることが重要。
- 国際交流や日本文化を発信するような機能を検討してほしい。
(市民意見等)文化、芸術を発信し、体験ができる。

- インフラ投資により都市の文化の魅力を上向きさせることに加え、外国人が憧れを抱くサブカルチャー、食文化、国際交流の歴史等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

緑・水辺

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

緑で
つながり
市民が
憩える
空間づくり

- ・ 地域全体、ある意味広いエリアも含めて考え、横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。
- ・ 臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい 21 地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース(BAYWALK YOKOHAMA)や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい。
- ・ 港湾と都市の共生により、市民の憩いの場を確保していくべき。
(市民意見等)山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生。
(市民意見等)ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードを整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出。

- みなとみらい21地区の水際線から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線の繋がりを生かしながら、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性の向上を図るとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保していくべき。

Point 2

水辺空間の
有効利用

- ・ マリントワーに登ってみると横浜のとてもし美しい港に船がほとんどない、水面があるだけ。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。
- ・ 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。やはり水際という非日常空間を生かすべき。
(市民意見等)海や港を身近に感じ、港町の風景が見られる。

- 海外の事例も参考にしながら、水面の賑わい創出や水際における非日常空間の形成等、ウォーターフロントの都市として相応しい取組を進めるべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

景観形成

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point

景観を 考慮した 開発

- 船で帰ってくる時の景色、みなとみらいの近未来的な景色と、遠くに見える富士山、大さん橋にクルーズ船、今この山下ふ頭がある。みなとみらいと山下ふ頭の景観のバランスを踏まえながら、それぞれのデザインの美しさに磨きをかけることを考えることもよいのではないか。
- 山下ふ頭は、ベイブリッジから眺めると目立つ場所にある。ここは羽田空港から入ってくる人たちにとって入口そのもの。かなり景観も、作り方によっては大変素晴らしいものになると考えており、素晴らしいものにしなければならない。
- 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先からみると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。
- 横浜市が1970年代に検討していた景観の考え方を踏まえつつ、特に、港の見える丘公園から横浜港が美しく見えるように開発のポイントを押さえることも必要ではないか。

(市民意見等)周辺と調和のとれた景観づくり。

(市民意見等)内港地区の景観を継承しながら新たな港まち横濱のシンボルを生み出す。

- 横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえつつ、海陸両面の視点場からの山下ふ頭の見え方や、周辺地区との景観のバランスを意識した開発とするべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

デジタル活用

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point

デジタル時代への対応

- デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることから、デジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備することが必要。
- コンテナ船の大型化に伴い物流機能の沖合への展開が進むエリアと、シースケープ再創造エリアとして、港をランドスケープの背景として、これらのゾーンを囲うような形で、上瀬谷を含めた都市農業のグリーンゾーンを一体的にして、横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を考えたときに、山下ふ頭に建設する象徴的な施設が何かを考えるべき。
(市民意見等)DXの導入等、先端技術を活用する。
(市民意見等)スマートシティ構想など先進的な取り組みを実装するエネルギー・デジタルネットワークの構築。

- 横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を踏まえるとともに、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することも考えられる。

答申のイメージ(案)

1 まちづくりの方向性

- 横浜経済を牽引
- 横浜の魅力・ブランド力の向上
- 国内外から人々が集まる
- 次世代につなげる持続可能なまちづくり
- 市域全体と連動した賑わい創出

2 新たなまちを支える基盤・空間の考え方

- 海に囲まれた立地特性
- 交通ネットワーク
- 緑・水辺
- 景観形成

3 再開発に必要な視点

- 脱炭素(環境・エネルギー等)
- デジタル活用
- 防災・安全
- 周辺地域への波及
- 観光・インバウンド
- 歴史・文化
- 市民合意形成、プロジェクト体制

第1回～第4回の意見のまとめ

資料5

■次世代につなげる持続可能なまちづくり

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|--|---------------|--------------|---|
| 長期的な視点に基づく開発 | 50年先または次の世代、または100年後の都市の様子を想像しながら開発の方向性を検討すべき、その際、現状では非効率でも、長期的な視点も踏まえて利益があるような都市のデザインを検討することが望ましい。 | 委員会 第1回 | 北山 委員 | <p>■トップランナーとして世界のウォーターフロント開発を先行し、国内外に誇れる横浜を作るために、50年後、100年後を想像しながら、未来に負担を残さない持続的な運営が可能な開発を行うべき。</p> |
| | 美しい街、強い街でなければならない。生き残るいわゆる持続が必要。未来に向けて持続性や永続性のある街づくりを進める必要。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | 次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのはダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。 | 委員会 第1回 | 隈 委員 | |
| | 現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜を作るために描いた未来に基づいた開発を進め、50年100年後に振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのときのおかげと言ってもらえるようにしたい。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | 新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 広大な土地を再開発する際は、40,50年後を考慮に入れながら進める必要があり、短期的な目線で開発を進め、必要な時に改めて再開発をすればよいという考え方は避けるべき。 | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | 税金を投入しなければ成立しないといプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ持続的な運営が求められる。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | ○持続可能なまちづくり ○将来を見据えたまちづくり | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○サステナブルを実現する | 意見交換会第2回 | | |
| | ○世界に誇れるダイナミックな未来像を描いてもらいたい。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○横浜のまちづくりも人口減少を前提にして考える必要がある。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○歴史的転換期において、「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくりを推し進める。 ○市民の目を気にしていたら、代り映えがなく20年後にはさびれて失敗に終わる予感がするので、富裕層にターゲットを絞り長年続く開発にしてほしい。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○山下埠頭の未来は、横浜の未来だけでなく、日本・世界の未来 ○モノを消費させることを核とするのではなく、この場所での経験を人々の思い出にできるような場所にしてほしい。 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |
| ○国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視した構想の立案が何よりも求められる。 | 事業者提案第1回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|---|---------------|------------|--|
| 発展を支えるイノベーション・教育 | 日本では、対外直接投資というのは非常に低いため、増加させるために、企業、学校、病院の誘致、世界中の一流の人材や企業の受け入れのための具体的な取組を検討すべき。 | 委員会 第1回 | 今村 委員 | ■次世代のニーズに応え続けるイノベーション創出や、海外からの直接投資を増加させる観点で、企業・大学の誘致等による教育的役割の付加や世界中の一流人材の確保を目指すとともに、新たな技術等の社会実証の場として活用していくべき。 |
| | 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にしていくか。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | |
| | みなとみらい地区に企業とか大学のイノベーション拠点の立地が進んできてますけれども、点的な存在になっていてネットワーク化・クラスター化されていない。クラスター化していく仕掛け作り、山下ふ頭をプラットフォームにできないか。 | 委員会 第1回 | 平尾 委員 | |
| | 日本の若者、ミレニアル世代、Z世代が、何を重視していくかということをしかりと考えていく必要がある。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | バーチャリアリティーの館ってということで、みなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業の研究開発をしている最先端イノベーションの実証実験の場。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | 段階的な開発が進む中で、その一部を地域の賑わい創出や課題解決につながる社会実証等の場として活用させていただきたいと考えています。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | クルーズの出発点の横浜により、教育的な見地や人生感などが変わる。旅行の世界の起点となる場所では、刹那的な快楽を求めるのではなく、教育などにより横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。 | 委員会 第4回 | 藤木幸 太委員 | |
| | ○企業誘致による産学連携 ○実験都市の実現 | 市民意見募集第 1回 | | |
| | ○先進的なまちづくり ○先進技術を活用する ○イノベーションの創出 ○研究施設 ○大学 ○学校 ○学習施設 ○教育施設 | 市民意見募集第 2回 | | |
| | ○子育て教育（子どものチャレンジ、先端技術の拠点、産学連携拠点、学園都市） ○企業大学研究開発（開発特区、最先端テクノロジー、大学都市、海洋研究、実験都市、産業拠点、最先端技術発信の場） | 意見交換会 第1回 | | |
| ○海に面する特性を生かす ○世界から注目される ○横浜の競争力を高める ○新しい文化が育つ ○人材が育つ ○国際都市としてのイメージがアップする ○世界から人が集まる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○国際交流の拠点になる ○実証実験の場となる ○カーボンニュートラルに取り組む ○DX等を取り入れる ○学術・研究開発機能（実証実験の場にふさわしい・教育や文化への投資は持続性ある取り組み・教育への投資、若者の定着による） | 意見交換会 第2回 | | | |
| ○横浜の知的財産を確保するための国際図書館、大学機関の誘致。 ○基礎研究ができる研究開発拠点、技術者・研究者を生み出す教育拠点 | 市民意見募集委 員会第1回後 | | | |

| | | |
|---|----------------------|--|
| <p>○オープンイノベーションを先導できるグローバル企業を誘致して、ふ頭から内港地区や周辺地区のイノベーションを促進、創作の場の共有・オープン化によるイノベーション創出。</p> <p>○内港地区が築いてきたモノづくりのプライドを継承し、市民と協働で次なる「横浜発祥」を生み出すイノベーションキャンパス</p> <p>○神奈川県在または海外の大学や研究室の誘致。美術・デザイン・エネルギー関連などの研究室の誘致。</p> <p>○多面的な社会課題を解決するスマートシティへの取組。 (社会実験やイベントが実施可能なパイロットフィールドとしての開発)</p> <p>○国策へアプローチする社会実証モデル都市としての開発。</p> <p>○供用後も継続して一定エリアを社会実証場所として暫定利用。 (山下ふ頭での社会実証の成果を持続的に都心臨海部のまちづくりで実装)</p> <p>○先進都市としてイノベーションを誘発・発信する3つの次世代型都市基盤(①コミュニティインフラ・②デジタルインフラ・③グリーンインフラ)と文化創造都心・国際交流都心を目指す3つのグローバルハブ機能(エンターテインメント、メディア・芸術、研究・アカデミー)による次世代の街づくり「スマート・グリーンシティ型開発」</p> | <p>事業者提案 第1回</p> | |
| <p>○街としての賑わい創出や経済発展を図るためには、企業による地域への投資が必須。立地特性を活かした実証実験の場として活用できる環境を整えることで、企業誘致や企業投資が活発となる。</p> <p>○エンタメ関連企業のスタジオやオフィスを集積し、最先端のクリエイティブ環境を整備。</p> <p>○世界のエンタメ関連企業のスタジオやオフィスを集積。</p> <p>○横浜市においても産業ターゲット及び場所を定めた推進を行うことで、制度活用によりインセンティブを得られる企業の誘致とまちの魅力づくりを同時に実現することが可能。</p> <p>○キャンパス型オフィス、グローバル企業、研究機関、大学等</p> <p>○研究施設 海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター</p> <p>○滞在型研修施設(国内外の多様な職種・業種の研修やセミナーを中期間滞在しながら集中して行える施設)</p> <p>○『世界基準の遊び』を学べる環境の創出と次世代型産官学連携の構築、持続性を高める産官学連携の仕組みづくり。</p> <p>○「横浜デザインミュージアム」の創設。世界のデザインミュージアムとのパートナーシップ/NPO法人。日本唯一の市営デザインミュージアムとして国内外へアピールする。</p> | <p>事業者提案 第2回</p> | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|--|--|-------------|--|
| 次世代に渡る市民生活の安定 | <p>持続可能であるかどうかということが重要。横浜経済を動かす拠点として、また市民生活の維持に向けて、どのような場所とするのかを検討するべき。中長期的な視野、時間軸で再開発の方向性を考えることが必要。</p> | 委員会第1回 内田委員 | <p>■子世代、孫世代のための都市の構想と、税収効果を図る取組や、将来に渡る経済効果の維持を両立させることで、市民生活を支える持続可能な開発を実現するべき。</p> |
| <p>現在の現役世代の子世代、孫世代にもつながるような将来的にも永続的になるような再開発の内容を検討するべき。</p> | 委員会第1回 今村委員 | | |
| <p>再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。</p> | 委員会第1回 石渡委員 | | |
| <p>都市を構想することは、これから生まれてくる未来の人のための都市を構想することです。山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。</p> | 委員会第2回 北山委員 | | |
| <p>顕在化する労働者不足に対応するため、外国人等の定住人口増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。</p> | 委員会第3回 坂倉委員 | | |
| <p>横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用。</p> | 委員会第4回 高橋委員 | | |
| <p>○市の収益の向上 ○横浜ブランドを創る・高める ○市民が楽しめる・利用できる ○次世代につなげる ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○滞在時間が増加する ○文化・芸術に触れられる ○多世代が楽しめる・交流できる ○横浜に住みたくなる・住み続けたい</p> | 意見交換会第2回 | | |
| <p>○横浜があらゆる世代にとって魅力的であり続けるために横浜市民の象徴的な場所としての多機能図書館</p> | 市民意見募集委員会第1回後 | | |

| | |
|--|---------------|
| ○新しい事を受け入れ、手をとれる・馴染める風土や街づくりをできる、いま横浜で生まれているハマッ子に未来に任せられるような未来を見据えた議論とスタートが必要。 ○再開発にあたっては、先人の業績に顕著に学び、未来の横浜市民にも誇れる都市づくりをしていきたい。 | 市民意見募集委員会第2回後 |
| ○「国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発する」方向性は、短絡的には地域経済にいくらか刺激になっても、市民が誇りとする「横浜らしさ」は壊され、市民生活の豊かさは実感できず、持続不可能な都市に変貌してしまう。 | 市民意見募集委員会第3回後 |
| ○山下ふ頭再開発の目的は、「夢・希望・楽しさを託そう」ということであり、更に分解して、①健全（公序良俗・環境）、②子孫への遺産をしっかりと残す、③経済をしっかりとすることを具体的な目標とする。 ○社会課題、地域課題を解決する公共サービスの自立。 | 事業者提案第1回 |
| ○日本は少子高齢化、地球温暖化、デジタル社会化、複雑化する国際関係などの対応を通じて政治・社会、経済の中長期にわたるイノベーションが不可欠である。国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視した構想の立案が何よりも求められる。 | 事業者提案第2回 |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|--|--|---------------|------|---|
| 柔軟な開発計画 | 巨視的に考えた上で、段階的な整備の計画を立てる必要。一度にすべてを作り上げていく考え方は不適合、そのうえで、10年後は現在から変わっているのか、それとも変わっていないのかということは、再開発の方向性の定めていくうえで、戦略的に誘導することが重要。 | 委員会第2回 | 涌井委員 | ■山下ふ頭全域で統一されたテーマを持った上で、将来の情勢やニーズにも柔軟に即応できるよう、一定規模のオープンスペースを確保するなど、開発余地を残しながら段階的に整備を進めていく計画を立てることも考えられる。 |
| | 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | 時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | この計画も50年とは申しませんが、ロングスパンで考えるべき。一気に完成に再開発を進めていくということでは必ずしもない。全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことが極めて大事。 | 委員会第4回 | 涌井委員 | |
| | ○2050年位を目指して、社会情勢に合わせてフレキシブルに対応することが持続的な発展に必要。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○「段階的」開発となれば、未来世代が手を入れられる余地も残しておく必要がある。 ○広さを活用して20-30年かけて成長させるまちづくり。 ○幾世代にも亘って継続的に手を入れていく「現代版里山」の一角を確保。 ○広域避難場所にもなる緑地を整備し、その後、徐々に、周辺に賑わいを作る施設を、時代のニーズに合わせて建設していく方がよい。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○「現役世代が将来的な社会保障費の負担増に耐えられるようにする」仕組み作りが一番大切で、独立採算の取れない公園等の施設は将来の若者のことを考えていない。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○時代の変化に合わせた用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい。 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |
| ○二段階の開発とすることで、I期の収益性や社会情勢等を検討し、II期で確実性の高い、時代に合った開発 | 事業者提案第2回 | | | |

■市民合意形成、プロジェクト体制

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|---------------|----------|---|
| 市民のための再開発 | 経済成長や財政収支などのファンダメンタルズと市民や住民により、意味のある形でもって活用するという問題意識が、両輪で必要。 | 委員会 第1回 | 寺島 委員 | <p>■市民が憩い楽しむとともに、自然やコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを求める人々が集う空間を提供するような新たな都市モデルの追求も考えられる。</p> <p>■横浜市がイニシアチブを持って市民のために再開発を行うという視点と、経済成長や財政収支などのファンダメンタルズを両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。</p> |
| | 市の多額の予算が山下ふ頭再開発に投下されることは避けるべきである一方、財政削減を優先して、市民のための開発という点が考慮されないということも避けるべき。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | |
| | 横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | 横浜市民の為に計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | |
| | 定常型に向かう社会では、都市は資本活動だけではなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを求める場になると考えられ、横浜はその新しい都市モデルを追求してほしい。 | 委員会 第2回 | 北山 委員 | |
| | 経済を否定はしないものの、都市には人が居住する場所であることから、住人のための都市という考え方が1番最初にあるべき。投資の呼び込み、インバウンドのために都市があるわけではなく、プライドのある魅力的な都市であれば、結果として人々が訪れる場所になる状態になると好ましい。 | 委員会 第3回 | 北山 委員 | |
| | ○市民も楽しめるまちづくり ○市民への還元 ○税収の確保 | 市民意見募集第 1回 | | |
| | ○市民が利用できる、憩える、学べる ○市民の役に立つ ○市民も楽しめる ○公共施設 ○居住施設 | 市民意見募集第 2回 | | |
| | ○子育て教育（生涯学習の場、子どものチャレンジ、子供が楽しむ場） ○市民のための再開発（スポーツ施設、滞在施設、庭・岡・公園、散歩、サイクリング） | 意見交換会 第1回 | | |
| | <p>○市の収益の向上 ○横浜ブランドを創る・高める</p> <p>○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○海に面する特性を生かす</p> <p>○歴史文化を尊重する ○世界から人が集まる ○先進的なまちである</p> <p>○開放的な憩いの場づくり ○ステナブルを実現する ○国際交流の拠点になる</p> <p>○文化を活用する・発信する ○居住できる ○世界から注目される</p> <p>○人材が育つ ○歴史資産を残す ○防災機能を備える ○次世代につなげる</p> <p>○横浜らしさが感じられる ○教育・知的探求の場 ○市全体の活性化に寄与する</p> <p>○横浜の魅力をアップする ○市民が楽しめる・利用できる</p> <p>○横浜に住みたくなる・住み続けたいとなる ○多世代が楽しめる・交流できる</p> <p>○身近な市民生活を豊かにする</p> | 意見交換会 第2回 | | |
| <p>○市民の山下ふ頭の利用を視野に入れることが肝要。</p> <p>○再開発にあたっては公共性のない事業に多額の補助金が入らないようにしてもらいたい。</p> <p>○横浜の歴史、市民主体のまちづくりに帰るべき。</p> <p>○事業性や収益性に捉われるのではなく、横浜市民にとって快適なまちづくりを目指すべき。</p> <p>○市民が幸せな生活を営んでゆくために、夢や希望を抱きながらものを考えるスペースを作っていくことの重要性。</p> | 市民意見募集委 員会第1回後 | | | |
| <p>○大型の天体望遠鏡の活用。サッカー場、テニス場、卓球、バドミントン、バスケット等、スポーツ場</p> <p>○将来の横浜市民を増やすために、子供専用のサッカー場や野球場、屋内競技施設などの子供たちが繰り返し来たいと思わせる施設</p> <p>○収容能力を超える観光客は地元を疲弊させ、先人の遺産を食い潰しうる。まず市民にとって魅力的な施設を開発し、その良さが知られてからインバウンドを増やすべき。</p> <p>○山下ふ頭再開発はインバウンドのためにではなく横浜市民のために行うべき。</p> <p>○空き地を放置せず、定期的貸出ができるとうよさそう。</p> <p>○投資やインバウンドの為に都市があるわけではなく、都市には人が住んでいる、住民のプライドのある魅力的な都市ならば観光客はやって来る。</p> | 市民意見募集委 員会第2回後 | | | |

| | |
|--|---------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ○海辺として市民生活を取り込んだ土地利用をすべき。 ○市民の落ち着いた憩いの場所としての役割 ○すでに国際都市としての役割は果たしているので、地元民が満足できる空間が良い。 ○市民の共有地として文化創造・憩い・生活・防災の場所として利活用すべき。 | 市民意見募集委員会第3回後 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○行政は経営ではないこと、経済合理性だけを追求したら市民の共有財産は搾取されて市民が不幸になることを肝に銘じてほしい。 ○山下ふ頭の再開発は経済合理性よりも市民の共有財産としての認識を優先すべき。 ○参画、協働、創造という一連の営みから生まれる心の充足こそが市民の幸福には不可欠、山下ふ頭の一角に市民の共有地として現代版「里山・里海」たる「入会地」を作る。 | 市民意見募集委員会第4回後 |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|----------------|--|---------------|------|--|
| 横浜市全体のプロジェクト体制 | 市有地である山下ふ頭は、市の部局をまたいで長い時間軸で考え、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していく。そのため、市全体のランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えにも取り組むべき。 | 委員会第3回 | 今村委員 | ■市の関係部局が横断的に連携して中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発とするべき。 |
| | 横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要。そのうえで、ランドデザインに沿って、事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高まることで、プロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業を迎えることができる。 | 委員会第3回 | 今村委員 | |
| | 山下ふ頭の再開発を検討するにあたり、横浜市も、港湾局だけではなく、複数の関係部局で、部局横断で都市の問題を解決することが必要。 | 委員会第3回 | 北山委員 | |
| | 検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与や委員会への出席が必要と考えます。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | |
| | ○再開発にあたっては、横浜市全体のまちづくりをどうするかは重要な論点。 ○各局の課題解決または創造的なプランを創出するため、若いスタッフを集めた組織横断的なチームを作る。 ○「人間中心の都市」・「持続可能な環境」などを理念として掲げる「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」を参照すべき。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○市長直属の全市庁横断的な総合調整部署が設けられてしかるべき。 ○横浜市全域に関わる広域戦略が求められるのであるから、市庁横断的な、調整的な組織が本答申の受け皿として相応しい。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○この計画を横浜市各局横断する一大プロジェクトにする提案を検討してほしい。 ○再開発は横浜市が総力を挙げた体制で取り組むべき。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」が取り上げられたことは評価。 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|---|---------------|------------|--|
| 答申策定後に経るべきプロセス | 住民自治の観点から、答申後に市が事業計画案を策定し、市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定する流れとすることは適当と考えられる。答申後の手続について、委員会が担う役割も、答申に盛り込んでほしい。計画内容というハード面だけでなく、事業者の募集方法などのソフト面を含めて答申内容を検討してはどうか。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | <p>■答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を実施するプロセスを経ることが適当であり、加えて、市民参画の在り方や、開発に対する市民意見の伝達手法等についても考慮する必要がある。</p> <p>■山下ふ頭の再開発が部分最適ではなく全体最適の事業となるよう、横浜港あるいは市域全体のランドデザインとの関係性を常に意識し、事業のあるべき姿について十分な議論・審議を行っていく必要がある。</p> |
| | 山下ふ頭のプロジェクトに市民が参画するということは、意見を言うだけではなく、メンテナンスと方向付けの議論における、市民が負うべき責任があることを明確にする必要。 | 委員会 第1回 | 寺島 委員 | |
| | 市民からの意見の中に「参画」があります。市民が参画できるようなものを意図することがすごく問われていると思う。 | 委員会 第2回 | 寺島 委員 | |
| | 横浜港あるいは横浜市全体のランドデザインを改めて議論する必要。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 太委員 | |
| | 山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮したうえで、決定してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどの情報をしっかりと市民に伝える。事業者の選定にあたっては、市民がどういうことを考え、どういうことを望んでいるのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではない。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | 横浜市の資料では、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっておらず、極めて不適切であるため、事業計画の検討委員会を設置し、そこに市民も入れて検討すべきである。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | 事業計画の検討委員会には市民・学識経験者、横浜市の職員も入っていただいて検討するということが1つ、この委員会に入らない市民の意見あるいは有識者、地域関係団体等もその委員会に意見を出せる。事業に応募する事業者は検討委員会を毎回傍聴。そして公聴会を市長によって開催を義務付ける。市民からも開催要求が出せる。委員会に対して議会は意見を言え、その後の議会審議にも円滑に進めることができる。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | 市域全体のマスタープランですね。横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、部分最適にはなるが全体の最適にならない。 | 委員会 第4回 | 涌井 委員 | |
| | 安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させた開発としてほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 大規模プロジェクトは全体最適と部分最適のバランスだと思う。ただし、一番大事なのは、部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | <p>○東京湾全体の視点で山下ふ頭の位置付けを明らかに。事業体のあり方も議論提言すべき。</p> <p>○民主的決定プロセスも議論提言すべき。重要項目の一つとして「市民参画」。</p> <p>○まちづくりに市民が主体的に参画することで地域主権主義に通じる市民自治を進める。</p> <p>○様々なテーマで自主的に活動し、まちづくりや市民生活の課題解決に実践的に携わっている市民グループの声こそ「新しいまちづくり」に必要。</p> <p>○若い人の感性を取り込むことが不可欠、また、市民参加の各種形態を入れ込んでいくことに集中してもらいたい。この計画に市民がどう関与するのか期待。</p> <p>○長期的に1000回の市民ミーティングを行う「1000ミーティング」を提案。</p> | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| <p>○庁内横断的な組織体制で各局に備蓄された資源を集約して、さらに市民や事業者が参加する部局を創設する。山下ふ頭をどうするかは住民投票で決めるべき。</p> <p>○市民が主導する市民会議、区民会議を開催するなど長期的な計画が必要。</p> <p>○大阪万博の工事の遅れなどを考慮すると、供用化の期限を決めて開発を急ぐべきではない。</p> <p>○実際に供用開始する頃のメインの使い手世代の意見を取り入れる。そういった世代で未来を語る場があってもいい。</p> | 市民意見募集委員会第2回後 | | | |

| | |
|--|----------------------|
| <p>○歴史的転換期において、「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくりを推し進める。</p> <p>○「市民参加」は「人民による」が実現してはじめてその意味が生きてくる。</p> <p>○いままでの大規模開発は地元の意向の反映や参加が難しく、大手企業主導で進められて疑問が残るようなプロジェクトがあったが、山下ふ頭再開発事業は市民がつくる再開発計画なので、「MORE YOKOHAMA ALL YOKOHAMA」な計画である。</p> <p>○運営を市民一体となっていけると、さらに価値のあるものになる。</p> <p>○横浜市ファクトシート住民意識について触れるべきであり、市の住民意識の捉え方は市民参画のあり方に影響すると思う。</p> <p>○行政は経営とは違うし、今どき経済成長に囚われる市政運営は時代錯誤なので、もっと広範な層の地域関係団体と呼ぶのが「市民参画」の第一歩である。</p> <p>○横浜市のランドデザインを新たに制作するために、横浜市全域での各地域の都市機能の再構築と山下埠頭の位置付けの再設定と用途地域の見直しが必要との提言は理に適ったもの。</p> <p>○市はひとたび方針が決まれば、それを変えずにその通りに進めていくので、方針が決まる前に市民に選ばせるべき。</p> | <p>市民意見募集委員会第3回後</p> |
| <p>○現状のスケジュールでは市民参画は有名無実になる恐れがあるので、委員会に市民を参加させるなど、計画づくりや意思過程に対して、市民への門戸を開くべき。</p> <p>○多様な意見を持つ「市民」をいかにバランスよく公正に選ぶことができるかが課題。</p> <p>○市民を加えた「事業計画検討委員会」にて事業計画を進めること。横浜市の今後の他の再開発計画策定の模範となるようなプロセスが確立されることを期待。</p> <p>○市民の意見を最大限尊重した話し合いの場を継続して設けるため、市民参加型ワークショップをもっともっと行ってほしい。</p> <p>○開発事業者実際に議論に参加させる・計画をプレゼンさせるなどがよい応募条件となる。</p> | <p>市民意見募集委員会第4回後</p> |
| <p>○民間マネジメントによる新たなコミュニティや、多様な人々がつながるコミュニティインフラの構築。</p> <p>○市民参加型共創活動を通じてコミュニティを醸成。</p> <p>○開発手法提案として、「市民の意見を広く遍く聴き、提案されたアイデアを集約」、「山下ふ頭のあるべき姿」を構築すべきと提言しており、そこには当然に「多様性社会」の実現。</p> | <p>事業者提案 第1回</p> |

■観光・インバウンド

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|---------------|---|-----------|----------|---|
| 観光・インバウンドの必要性 | ダイナミズムで引きつける力です、外から。要するにインバウンドも含めて、人だけじゃなくて投資も含めて、横浜がすごいこと始めたなと思うような、外からの引きつける関心、それから人流、投資、あらゆる面で引きつける力がどこまで持っていけるのか、そういう中で議論を深めていかなきゃいけない。 | 委員会第1回 | 寺島委員 | ■既存の観光資源の活性化も含めた経済成長に向けて、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込む取組を行い、海外からの関心、人流、投資等を引きつける必要がある。 |
| | 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にしていくか。 | 委員会第1回 | 内田委員 | |
| | 人口減少においては、観光客の減少の補填として、外国人に来ていただくことで稼働率を高めていくことが、インバウンド戦略として行われてきている。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| | ○観光 ○非日常 ○観光の充実 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○国際的な観光地になる ○世界から人が集まる ○世界に発信する | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○市民が楽しめる・利用できる ○世界から人が集まる ○国際交流の拠点になる ○世界から注目される ○横浜の魅力をアップする ○観光資源を作る ○市の収益の向上 | 意見交換会第2回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|------------|--|--------|----------|---|
| 観光資源の事業性確保 | 観光資源の保存と活用を両輪とした、独立した持続的な採算による運用をすることが重要。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | ■観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識すべき。 |
| | インバウンド戦略の一環として実施したインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的。インバウンドに向けて区別する必要はない。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| | 今までの観光施設は経済合理性を軽視してきた。これからは経済合理性をさらに求める必要がある。市の財政に悪影響を与えることだけは避けるべき。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|--|-------------------|--------------|--|
| インバウンドのニーズを捉えたコンテンツの提供 | デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることからデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備する必要。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | <p>■インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、例えば外国人が憧れるポップカルチャーやデジタルコンテンツを盛り込むなど、その価値を形にしていくべき。</p> <p>■ショッピングやナイトライフ、食文化、アクティビティ等、今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。</p> |
| | 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、そのうえで、外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | |
| | 歴史・文化を中心とした施設では多様性がなく、魅力が少ない。都市の文化、要するにショッピングやナイトライフであったり、日本の食文化、それにアクティビティなど、インフラ投資と整備を進め、多様なアピールをすることで、結果として7年間で外国人観光客を4倍に増加させた。 | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | インバウンドはやはり、観光の強い味方であり、都市競争の中で勝っていくには必要だが、今は、日本に来るインバウンドが、目的地が横浜になっていない。逆転していくためには、世界的に見ても、日本文化に対する好感度というのは非常に高いことから、我々が再評価して、日本の文化の価値というものを認めていき形にしていくことや、世界基準、老若男女ダイバーシティすべてを受け入れる寛容性が必要。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | 世界中からのインバウンドを取り込める街になることが必須。海外の若い世代中心にですね、日本の魅力を示す代名詞ポップカルチャー。漫画・アニメ・ゲームはもう世界中に熱心な愛好者がいて、やっぱりそこは日本がとてもレベルが高い、この強みをやはり生かしていくために、日本のポップカルチャーの集積地にしたらどうか。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションとなるよう取り組むべき。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | ○スタジアム等のスポーツ機能 ○コンベンション機能 ○クルーズ船受入機能 ○食・美容 ○健康・リラクゼーション機能 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○独自性がある ○レジャー施設 ○テーマパーク ○イベント・イベントスペース ○アミューズメント施設（映画館等） ○ショッピング機能 ○マーケット ○飲食店 ○スタジアム ○スポーツ施設 ○アーバンスポーツ施設 ○リゾート施設 ○コンベンション施設 ○展示場 ○居住施設 | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○海に面する特性を生かす ○防災機能を備える ○次世代につなげる ○多世代が楽しめる・交流できる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○居住できる ○新しい文化が育つ ○船が停泊する ○交通利便性の向上 ○シンボルがある ○ナイトタイムの活性化 ○横浜ブランドを創る・高める | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○ビール工場、ウィスキー蒸留所、ビアホールを集合させたテーマパーク ○横浜や神奈川の特産品や海鮮市場などが販売できる横浜観光マーケット | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| ○鹿鳴館時代の衣装で町ブラができ、写真映えするスポットがあると良い。 ○地球環境保護推進や観光客を誘致するための海洋哺乳類を中心とした水族館 ○これからの子供たちと世界のファンのために多様な刺激を与えるためにも山下ふ頭にアニメ・ゲーム・マンガ文化などの日本文化の大型施設 | 市民意見募集委 員会第2回後 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|-------------|---|---------------|----------|---|
| 近隣の観光資源との連携 | 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、東京に似た開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | ■観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。 |
| | 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | ○観光のハブになる | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○市全体の活性化に寄与する | 意見交換会第2回 | | |
| | ○山下ふ頭を含むインナーハーバーは観光地であるとともにビジネス街、住宅街でもあるという観点が必要。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|------------|--|---------------|----------|--|
| 宿泊に繋がる魅力創出 | 観光収入の半分は宿泊と飲食。日帰り観光客の数は多い一方で、経済への貢献は少ない。宿泊につなげるために必要なことを検討することが重要。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | ■経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。 |
| | 常に人が集まる施設にする必要。魅力を高めることにより宿泊につなげることを最初から徹底的に考えると、付加価値の高さを重視することが重要。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| | 日帰りの観光客、安い観光客というものになってしまっている。横浜やここで、世界の超富裕層にも支持されることも挑戦していかなければいけない。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | 観光の中期目標は2030年に5,000億円を目標。現在は観光客の9割が日帰りさらに日帰り観光客だけが増えていくと、オーバーツーリズムなるし、単価が安い。やはり客単価を上げていく、そして宿泊需要も上げていくためには、インバウンドに注目していくことが重要。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | クルーズ発着港の横浜であっても、地域に落ちるお金は限られており、乗客が観光バスで鎌倉、箱根、東京へ流出してしまっている。 | 委員会第4回 | 藤木幸太委員 | |
| | ○ホテル等の滞在機能 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○滞在ができる ○ホテル | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○滞在時間が増加する | 意見交換会第2回 | | |
| | ○みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店、遠方の方のためにホテル設置。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○ホテルを誘致。 ○現在「よこはま」は外国人の観光客の通過地点でしかない。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |

■横浜の魅力、ブランド力の向上

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|--------|----------|--|
| 横浜の魅力・ブランド力向上 | ダイナミズムで引きつける力、国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。 | 委員会第1回 | 寺島委員 | <p>■古きを尊重し、新しいものを添えていく、横浜の不易と流行を組み合わせ、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。</p> <p>■地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。</p> <p>■横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、新たな機能付加が必要。</p> <p>■国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応じていくため、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。</p> |
| | 横浜市は最新の日本の都市特性評価において、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されているということだと思料するが、さらに評価を高めるために必要なことを検討するべき。具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。 | 委員会第1回 | 平尾委員 | |
| | 山下ふ頭という重要な都心臨海部のランドマークになる、横浜経済を動かす拠点として、また市民生活の維持に向けて、どのような場所とするのかを検討するべき。 | 委員会第1回 | 内田委員 | |
| | 山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。 | 委員会第2回 | 北山委員 | |
| | 横浜の持っている不易と流行の組み合わせ方を考えることが、非常に重要な戦略ではないか。 | 委員会第2回 | 涌井委員 | |
| | 既往の概念に無い柔軟で有機的な空間を創出するうえで、世界の状況、日本の若者が重視するものを押さえることが重要であるとともに、古きものを尊重しながら、新しいものを添えていくことで、横浜ブランドを、再度磨きあげるという作業に取り組むことは、山下ふ頭の再開発の性格や構造というものと非常に密接不可分。国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応えられる土地利用を考えた時に、環境価値と感性価値に非常に優れ、横浜ブランドと三位一体になっている事業をどうやって創出するか。 | 委員会第2回 | 涌井委員 | |
| | ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという雇用の確保にもつなげることが可能であることから、脱炭素のビルをつくるということだけではなく、複数の地域価値、地域向上、地域貢献ということを検討していることが非常に重要。 | 委員会第2回 | 村木委員 | |
| | 開発には、複数の目的と価値を追求していくことが重要。開発の目的の組合せを考えつつ、地域を変えて、そして価値をどうやって導入していくのかということが大事。 | 委員会第2回 | 村木委員 | |
| | 低廉な家賃で治安も悪かったロンドンのイーストロンドンがオリンピックの開催によって、地域の環境浄化が図られて、緑の増加、運河の浄化、隣接する高密度で貧困の象徴であった町も浄化され、インテリジェンスを持った若者たちが低廉な家賃という魅力で住み込んで、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、非常に創造的な地域に変貌を遂げた。このように、開発においては連鎖反応を起こすことが非常に重要。 | 委員会第2回 | 涌井委員 | |
| | 横浜は東京都心のコピーである必要もなく、サブ的な存在ではない。東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要で、そのうえで東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が色々な観光資源を参考にかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。また、横浜の国際交流都市を先駆けた160年余の歴史、独自の都市文化、地理特性を活用したプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、先んじて積極的に動き出すべき。 | 委員会第3回 | 今村委員 | |
| | 横浜全体のブランド価値を上げる、宿泊客を増加させるためには、例えば、山下ふ頭を1つの公園にして、もう鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与する、ということも考えられる。 | 委員会第3回 | 藤木幸太委員 | |
| | 横浜市は、画一的な都市ではなくて、モザイク状のいろんな興味のある面白い街ができてきている。横浜らしさを壊さないように、各地で見られるガラスのカーテンウォールのビルを建設する開発は避ける必要がある。 | 委員会第3回 | 北山委員 | |
| | インバウンド戦略の一環として実施したインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的で国内外にとって魅力的な施設である。インバウンドに向けてと区別する必要はない。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| ○横浜の歴史を活かす、伝える、感じる | 市民意見募集第2回 | | | |
| ○シンボリックな空間の創造（ブランド力、横浜らしさ） ○歴史・文化を生かしたまちづくり（横浜の歴史、横浜らしさ） | 意見交換会第1回 | | | |

| | |
|--|---------------|
| <p>○横浜ブランドを創る・高める ○横浜のアイデンティティ</p> <p>○横浜らしさが感じられる ○横浜に住みたくなる・住み続けたい</p> <p>○横浜の魅力をアップする ○シンボルがある ○世界から注目される</p> <p>○国際都市としてのイメージがアップする</p> <p>○学術・研究開発機能による世界的な知名度・ブランド価値の向上</p> | 意見交換会 第2回 |
| <p>○山下ふ頭の方向性を議論するうえではこれまでの横浜市の都市づくりの経験に学び、活かすことが大事であり、そこから離れた上から目線、外部から持ち込む議論、短絡的な経済一辺倒の議論では、市民の共感と支持は得られない。</p> <p>○ヨコハマブランドの確立。(リブランディング)</p> | 市民意見募集委員会第2回後 |
| <p>○この場所の再開発は今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤としてそれに必要な事業を考えるべき。</p> <p>○技術の継承をする意義も込めて、様々な原因によるスクラップ&ビルドでなくなった建物・街並みを再現することでヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代を再興するとともに、各エリアの魅力を活かして共存関係を構築し、一層魅力的な計画にする。</p> <p>○文化、美術、教育に重きを置き、人間的な豊かさを追求する横浜市であって欲しい。</p> <p>○横浜にしかない歴史的景観と財産を際立たせ、100年後も世界に誇れる都市デザインを実現することが横浜市民として訴えたいこと。</p> <p>○他にないものをつくる、広く横浜としてみたときに足りないものをつくる。</p> <p>○横浜は東京に依存している産業構造になっており、山下ふ頭では東京にない独自の機能が求められると感じた。</p> | 市民意見募集委員会第3回後 |
| <p>○この地区が持つ港というブランドの変遷を正しく理解し、他地域と比べた優位性を導き出した再開発をすすめるべき。</p> <p>○市内で競争が起こらないように、山下ふ頭ならではの特色のある再開発計画を実施することが、横浜市としての追加の価値につながる。</p> | 市民意見募集委員会第4回後 |
| <p>○山下公園地区と連携した新たな横浜のシンボルかつ収益源となるよう利活用策を早期に検討。</p> | 事業者提案 第1回 |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|------------------------|--|---|---|
| 新しい時代の象徴となるウォーターフロント開発 | <p>次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのはダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。</p> <p>横浜の誇りとか、歴史、景観とか集客の問題、それから事業採算の問題、就労の問題、税収の問題など、色々あると思います。先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技、伝統もあいまった拠点として開発することが適当。</p> <p>再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。</p> <p>工場移転等生産の拠点の移転により、広大な土地が空き地になる状況が京浜工業地帯全体に起こりうる可能性が高い中で、港湾機能とまちづくり機能の両用一体にした、これからの臨海部再開発のモデルという自負を持って取り組むということが非常に重要。</p> <p>グローバルで新しい社会に合致した開発が望ましい。</p> | <p>委員会 第1回 隈 委員</p> <p>委員会 第1回 石渡 委員</p> <p>委員会 第1回 石渡 委員</p> <p>委員会 第2回 涌井 委員</p> <p>委員会 第3回 藤木幸 太委員</p> | <p>■未来を担う若者のために、先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技や伝統等、継承すべきものを混在させた拠点形成を進めるべき。</p> <p>■グローバルで新しい社会に合致し、世界のウォーターフロント開発を先行するような臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。</p> |
| | <p>○山下埠頭の再開発が日本の未来を切り開くプロジェクトになるよう、最高のプランを提示してもらいたい。</p> <p>○日本でここ独自というものを用意していただきたい。斬新で革新的なアイデアに期待。</p> | 市民意見募集委員会第1回後 | |
| | <p>○「これまで培われた歴史・文化」、「新たなテクノロジーやサステナビリティ」、「多様な人々と価値観」を融合してイノベーションを起こし続け、今後の内港地区や横浜全体を牽引する場所。</p> | 事業者提案 第1回 | |

■周辺地域への波及

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|--|-------------------|--------------|--|
| 地元経済への貢献と雇用創出 | 地域への経済効果については、雇用の面をはじめとして、可能な限り経済効果が域外に流出しないで、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | <p>■新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。</p> <p>■再開発を契機とし、周辺地域で働く方々の収益向上や、消費・雇用の創出を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。</p> <p>■新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。</p> |
| | 横浜市だけの財政ではかなり困難ですから、民間とか東京とか、いろんな人がそこに投資を促すような、そういうような発信力も必要じゃないか。 | 委員会 第1回 | 今村 委員 | |
| | 再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという、人に対する支援にもつなげることが可能であることから、脱炭素のビルをつくるということだけではなくて、複数の地域価値、地域向上、地域貢献ということを検討していることが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 低廉な家賃で治安も悪かったロンドンのイーストロンドンが、オリンピックの開催によって、地域の環境浄化が図られて、緑の増加、運河の浄化、隣接する高密度で貧困の象徴であった町も浄化され、インテリジェンスを持った若者たちが低廉な家賃という魅力で住み込んで、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、非常に創造的な地域に変貌を遂げた。このように、開発においては連鎖反応を起こすことが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 人口減少が進行する中で経済を維持するために必要なことは、地元の賃金を上げることが非常に重要であり、賃上げにつながることで、必要なことを最大の焦点にしてこの再開発を進めるべきではないか。 | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | 横浜の独自性を発揮しつつも、経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取る必要があることから、この山下の当該地域だけではなく、全体バランスを考えて進めていく必要がある。 | 委員会 第3回 | 石渡 委員 | |
| | 新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 横浜市地元経済に経済波及効果を大いにもたらす。直接再開発に参加する企業や団体、または山下エリアだけではなく横浜全体、もっと言うと日本経済にプラスになる優れた場所として開発されるべき。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | 税収のプラスになるっていう話で、横浜市の一部の税収源がここに移るのは何の意味もない。事業化をしていくにあたって、横浜市にとって追加的な需要を生み出すだけではなくて、市全体としてプラスなるかという観点も取り入れるべき。 | 委員会 第4回 | アトキンソン 委員 | |
| | このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | 大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要だ。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | 港湾の機能は基本であり、この機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないか。 | 委員会 第4回 | 涌井 委員 | |
| | ○企業中心の開発ではなく、市民生活や地域産業にも依拠した開発を検討するべき。 | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| ○昼間人口・夜間人口のバランスを取ってほしい。 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | | |
| ○平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスの調整を考慮できると、より有効な活用につながる。 | 市民意見募集 委員会第4回後 | | | |
| ○創出されるビジネスや技術のまちづくりへの還元。 | 事業者提案 第1回 | | | |
| ○環境やコミュニティづくりを優先したまちづくりを行うべき。それにより賑わいや経済の活性化が続く。 | 事業者提案 第2回 | | | |

■国内外から人が集まる

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|--|---------------|------|--|
| 人々を惹きつける開発の実現 | ダイナミズムで引きつける力。国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。 | 委員会第1回 | 寺島委員 | <p>■山下ふ頭が国内外からの関心、人流、投資等を引きつける力を醸成するために、プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーが必要。</p> <p>■東京湾全体の港や空港の機能を踏まえ、人流の動向を意識することが必要。</p> <p>■顧客のニーズが変わっていく中で、時代遅れとならないために、投資をし続ける覚悟が必要。</p> |
| | 地域の定住人口が減少しているため、都市開発の目的は、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発することが主流になることを踏まえ、国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要。 | 委員会第3回 | 今村委員 | |
| | 東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が必要な観光資源を参考にかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。 | 委員会第3回 | 今村委員 | |
| | 時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | ○賑わいがある ○わくわくする体験ができる ○国際交流を深める ○世界から人が集まる ○世界に発信する | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○横浜のアイデンティティ ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○シンボルがある ○横浜ブランドを創る・高める ○世界から人が集まる ○国際交流の拠点になる ○世界から注目される | 意見交換会第2回 | | |
| | ○IKEAやコストコのような大型店舗を受け入れれば、地元民にも観光客にも良い。 ○商業施設、劇場、野球場、韓国の美味しいお店を誘致。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |
| ○日本の日常は他の国から見ると非日常であり、そのライフスタイルがエンターテイメントになる。感動を世界に向けて横浜から発信する。 ○様々な目的を持った人々を横浜・日本・世界から迎え入れる。 ○世界的なコンテンツを展開し世界から人を呼び込む。 ○人と文化が交流し、物やサービス、知が行き交い、価値が生まれる場 | 事業者提案第2回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---------|---|-----------|------|---|
| 独自の魅力構築 | 東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要である。 | 委員会第3回 | 今村委員 | <p>■周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発により、独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が必要。</p> |
| | 都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | ○国際色豊かである | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○世界に誇れるシンボリックな空間の創造 | 意見交換会第1回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-------------------|--|-------------------|----------|--|
| 大規模集客施設の導入等による活性化 | 横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、扇島の工業用地の今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | ■横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。 |
| | このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | ○賑わい・楽しさ ○エンターテインメント機能 ○スタジアム等のスポーツ機能 ○楽しさ ○コンベンション機能 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○賑わいがある ○レジャー施設 ○テーマパーク ○イベント・イベントスペース ○アミューズメント施設（映画館等）○スタジアム ○スポーツ施設 ○アーバンスポーツ施設 ○コンベンション施設 ○展示場 | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○スポーツ（多機能スタジアム、ドーム、マリンスポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツの拠点） ○エンターテインメント（音楽フェス、野外フェス、コンサート、花火大会、サバイバルの体験学習、スマートシティ・歴史・世界に誇れるテーマパーク） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○市の収益の向上 ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○大規模集客機能（国内外から人を集められる・事業収益が見込める・海に囲まれた立地特性（景観形成、騒音対策等）を活かしたい・プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい） | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○横浜スタジアムが狭いので、大きなスタジアム（野球場） ○子供たちにプロサッカーを近くで見せてあげられるサッカー専用スタジアム ○ポケモンなど日本の漫画・アニメ文化を発信するテーマパーク ○横浜にインバウンドを招致するため、ビール工場、ウィスキー蒸留所、ビアホールを集合させたテーマパーク | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | ○みなとみらい側バックに屋外ライブステージ会場 ○地球環境保護推進や観光客を誘致するための海洋哺乳類を中心とした水族館 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| | ○横浜Fマリノスがあるにも関わらず、それに見合った設備がないのは恥ずかしい状況なので、サッカー専用スタジアムの整備が必要。 ○「国際交流都市を先行した160年の歴史」を持つ横浜の「独自の立ち位置」を活そうとの提言、また「スポーツとフード」の名所作りの一案は傾聴に値する。 ○市民と観光客に楽しんでもらう・市職員にやりがいのある仕事を提供する場として水族館と温室 ○ドローンで中央卸売市場から食材を運び、横浜と全国の料理人たちが自慢の安価な料理を提供できる場として食の博物館 ○陸海空でのアクセスをより良くすることで、周辺地域のインバウンド観光による経済効果も狙えるため、アジア展示場の中心を担うことのできる世界的な展示場 ○物流通路や都市防災機能を作るなど地下を活用しつつ、民族博物館をリアルな都市のように作る歴史のワンダーランド | 市民意見募集 委員会第3回後 | | |
| | ○海洋都市横浜として、振興・環境保護推進アピール・観光客誘致のためにアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館 | 市民意見募集 委員会第4回後 | | |
| | ○運動・健康施設、生態館 ○山内ふ頭で実現できない場合、「食」で賑わい創出するために、地産地消商店街・飲食店街、山下ふ頭に市内漁港の漁船をつけてその場での水揚げや、通常は洋上廃棄してしまう未利用魚の販売、食のカルチャースクール（食の学校）の創設などを実施し「食」で賑わい創出。 ○世界中のヒト・モノの集中点、活動の拠点に再生される。 ○創作の場の共有・オープン化による集客。 ○臨海部の先進事例、新しい貿易形態を意識した展示会・見本市の開催。 | 事業者提案 第1回 | | |

- 音楽、劇場、ホール、会館
- 海上コンサート会場の設営。大型イベントスペース・・・コンサートホール（海上含め3か所）として中央の埠頭を活用する。街角でのコンサート。
- マルチアリーナ-国内外のアーティストによるライブ・コンサートやスポーツイベントなどさまざまなエンターテインメントが提供できるふ頭を中心施設
- ダンススタジオ・ミュージックスタジオ・クッキングスタジオに加えて、イノベーションスタジオ・ユーチューブスタジオ・e-sportsスタジオ
- グローバルスタンダードの国際展示場、コンサート・スポーツイベント・国際会議等の会場となる多目的ホールなどを整備する。これにより、パシフィコ横浜と相俟って山下ふ頭を核としたインナーハーバーに、国内のみならず世界中から多くの人々が集い、賑わい、それに伴い貿易・物流が活性化し、横浜市の経済の好循環を生み出す。
- 文化芸術施設：メディア芸術（デジタルアート）、グローバル拠点施設
- 研究施設：海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター

- エンターテインメント施設：海上一体型半屋外シアター、水上ステージ、全天候型プール等、フードマーケット。日本のエンターテインメントのメインステージ。
- 文化、コンベンションとエンターテインメント機能の拠点が横浜港周囲の既存施設と共生し配置される。
- 世界的なコンテンツを展開し世界から人を呼び込む。
- 複合集客施設：ホール・シアター、ミュージアム、フードホール、エンターテインメント施設、賑わい施設、商業、飲食等
- コンサート・イベント会場、その他施設：F1
- マルチアリーナ：スポーツ、コンサート、コンベンション等
- スポーツ拠点、エンターテインメント・コンベンション機能
- ふ頭の来街者を迎え入れる広場。マルチアリーナや商業施設との一体利用やイベント広場としての利用。
- ワールドカップの開催（スポーツ（インドア）/食のワールドカップ（和食など））
- アリーナ・半屋外ステージ、美術館、商業施設等
- 全身で宇宙旅行を疑似体験
- 宇宙をテーマとしたNASAの名前を冠したテーマパーク、子供から大人まで楽しめるアミューズメント施設
- 世界の学者やビジネスパーソンの利用を想定した、国際会議や政府系会合に対応するコンベンションホールや会議室を整備。
- MICE施設-国際会議や展示会等の場として日本を代表する確たる地位を築く。
- MICE（国際会議）の開催誘致、国際会議対応ブースを大中3ヶ所持つ。徒歩10分以内にホテルを用意。
- 国際社会とのリアルな人的交流、実物を介した情報交流の場となる国際見本市や国際会議というMICEが、新産業育成などのビジネス創出、日本や横浜のブランド力強化といったイノベーションの最重要ツールとなる。

事業者提案
第2回

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---------------|---|---------------|------------|---|
| インクルーシブな空間づくり | 横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、扇島の工業用地の今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | <p>■横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、誰もが自由に楽しめ、賑わいが創出されるような、インクルーシブな空間を整えることが必要。</p> |
| | 憩いの場としては、市民が自由に使い楽しめ、賑わいが創出できるような空間を検討してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れてほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 賑いを創出し、人々に喜びや楽しみ、感動や癒しを提供する場であること、ということですね。あとは、新しい街を創造すると。人々のウェルビーイングに貢献する場所であるところ、まず1つあるとっております。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | ○国際性 ○交流・出会い ○超高齢社会 ○多様性社会 | 市民意見募集第 1回 | | |
| | ○幅広い世代が楽しめる ○特定の世代が楽しめる ○気軽に利用できる ○誰でも楽しめる ○交流ができる | 市民意見募集第 2回 | | |
| | ○多世代が楽しめる・交流できる ○異文化・多文化にふれる ○誰もが利用できる | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○世界約200か国の若者たちが集まり、学び、交わる | 事業者提案 第2回 | | |

■横浜経済を牽引

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|--|---|------------------|--|
| 地域経済の活性化 | 横浜市GDPや、財政は厳しくなっていく中で、重要な都心臨海部のランドマークになり、横浜経済をいかに生み出し、動かすとともに、市民の生活を維持していくために、どのような場所にしていくのか。 | 委員会第1回 内田委員 | <p>■定住人口が減少する時代において、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。</p> <p>■横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。</p> <p>■横浜市民に憩いの場を提供する取組と、横浜経済を活性化させる視点を両立させ、市民のより豊かな生活に繋がる場所とするべき。</p> |
| | 地域の定住人口減少化において、これらの都市開発はビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発するまちづくりが主流になってくる。都市開発の資金は人口減で税収が減少しますので、自治体財政の負担を軽減し、法人税などで税収増を補っていくような新たな仕組みづくりが必要。 | 委員会第3回 今村委員 | |
| | 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。 | 委員会第3回 坂倉委員 | |
| | 山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるもの。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討する必要。 | 委員会第4回 高橋委員 | |
| | 日本を代表する都市として、発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所である。 | 委員会第4回 高橋委員 | |
| | 横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることも検討してほしい。 | 委員会第3回 藤木幸夫委員 | |
| | 横浜の成長を牽引し、横浜市民のより豊かな生活につながる場所となるべき。 | 委員会第4回 高橋委員 | |
| | ○市全体の活性化に寄与する ○横浜の競争力を高める | 意見交換会第2回 | |
| ○インナーハーバー域とアウターハーバー域の結節点にある山下ふ頭に国内外から多くの人々が集うことで、インナーハーバー域では人で賑わい、アウターハーバー域でも貿易・物流が活性化し、市全体の経済発展、税収増に寄与する好循環が生まれ、世界一魅力的、豊かで幸せな都市となる。 | 事業者提案第1回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|---------------|--|----------------|---|
| 市の収益向上と市民への還元 | 生産年齢人口の減少や少子高齢化の進展を見据え、横浜市の税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には「税収を生み出す場所」としての観点が必要不可欠。 | 委員会第4回 高橋委員 | <p>■市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。</p> |
| | ○市民への還元 ○税収の確保 | 市民意見募集第1回 | |
| | ○財源税収収益（財源の制約・財政的課題も考慮、稼げる場、観光や企業誘致） | 意見交換会第1回 | |
| | ○市の収益の向上 | 意見交換会第2回 | |
| | ○新しい事業が継続性を持つためには、事業収支計画を練ることは必須。 ○横浜市の財政も踏まえて、収益確保を優先して欲しい。 ○横浜市の財政も踏まえて、収益が最大化できる事業者が良い。 ○「横浜経済の活力のけん引が不可欠」といったが、経済だけでなく、もっと自由な発想で横浜のことを考えてもらいたい。 ○「横浜経済のけん引」という言葉の使用は選択肢の限定になるので、避けるべき。 | 市民意見募集委員会第3回後 | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|-------------|---|------------------|---|
| 我が国の貿易との関係性 | 強固な地盤、広大な土地という魅力的な特徴を生かしつつ、効率的に意味のある活用方法を検討する必要、その際に、横浜港、東京湾全体からの観点で国際競争力をもたらすための場所として活用する発想を持つことも有効。 | 委員会第1回 河野委員 | <p>■東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。</p> |
| | 横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置づけと国際貿易に寄与する視点を最重要視してほしい。 | 委員会第3回 藤木幸夫委員 | |
| | 再開発においては、港湾機能をどう活用するかという点も検討すべきであり、その際、山下ふ頭が東京湾や市内陸部との結節点となっていることを十分意識する必要がある。 | 委員会第4回 幸田委員 | |

■防災・安全

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---------------------|--|---------------|------|---|
| 市民の安全安心 | 3.11、そしてコロナの教訓として、「医療防災」は、このプロジェクトの可能性に埋め込まなければならない言葉。 | 委員会第1回 | 寺島委員 | ■世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入するべき。 |
| | 横浜市は最新の日本の都市特性評価において、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されているということだと思料するが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。 | 委員会第1回 | 平尾委員 | |
| | 世代を超えて取り組む必要のあること、キーワードはレジリエンス。市民の安定・安全を図るための、例えば医療とか防災について役割を持つ場とすることも考えるべき。 | 委員会第2回 | 寺島委員 | |
| | 防災拠点、感染症対策拠点としての機能などの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | 全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことは、防災の対応のためにも実は大変重要。 | 委員会第4回 | 涌井委員 | |
| | 横浜都心臨海部は、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであるから、山下ふ頭の開発において「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が必要。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | |
| | ○医療、防災施設 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○安全・安心なまちづくり ○医療・福祉施設、防災施設 | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○防災の体験学習によるエンターテインメント | 意見交換会第1回 | | |
| | ○防災機能を備える | 意見交換会第2回 | | |
| | ○横浜市は首都直下地震に向けた震災対応が不十分である。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○横浜の火災対応、震災対応等の安全問題についての検証が必要。 ○「ピースメッセンジャー都市」として相応しい被災の記録を語り継ぐ「命の大切さ祈念館」 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○過去の大震災の学び、「防災・減災」機能を何らかの形で付与すべき。 ○市民370万の生活・暮らしを守る防災拠点 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○ビッグデータ・センシングによる人流シミュレーション、避難シミュレーションの実装 ○ホテル・滞在（若者のみ）施設・教育・ショッピング・行政・医療等日常利用施設 | 事業者提案第1回 | | |
| ○大地震や津波から守る最先端の防災対策 | 事業者提案第2回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|---|-------------------|------------|--|
| リダン ダン シー性 の 高い まちづ くりへ の 貢献 | 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価を受けていると聞いたことがあるが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。 | 委員会 第1回 | 平尾 委員 | ■旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。 |
| | 首都高の路線があることで、グランドレベルが火災で機能不全になっていても、十分に救援活動ができる可能性もあることから、上瀬谷に整備予定の広域防災拠点との連携の観点で、災害対応車が待機できる場所として山下ふ頭を位置付けるなど、周囲のインフラを一体化しながら、山下ふ頭周辺が安全で安心できる地域であるという一つのブランドも重要。リダンダンシー性の高いブランド、まちづくりを考え続けることも重要な論点。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | ○非常時には防災施設になる大規模集客機能 | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○全天候型の運動場や災害援助物資受け入れ拠点となるスポーツセンター、ヘリポートなどの災害発生時に使える施設 | 市民意見募集委 員会第2回後 | | |
| | ○人工地盤構築によるBCP対策（域外への避難動線や緊急物資輸送用道路の整備） ○津波浸水レベルを想定した施設配置。 ○エネルギー拠点や下水処理場等の整備による有事や災害時でも自立した拠点の形成。 ○津波などの災害時に、避難場所となる防災センター機能を持つ医療防災拠点の誘致。 ○TP3. 7m以上の人工地盤整備。 ○津波高さを想定したエリア内環状道路の整備。 ○5万人想定防災拠点広場、淡水化装置、防災トイレなど防災機能の整備。 ○医療防災拠点 | 事業者提案 第1回 | | |

■交通ネットワーク

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|-------------------|------------|--|
| 陸海からの交通アクセスの向上 | 旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図ってほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | <p>■山下ふ頭への新たな進入路の確保や臨港幹線道路の整備等により、来街者の利便性向上を図るとともに、客船誘致に向けた整備を更に推進していくべき。</p> <p>■市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。</p> |
| | 現在1か所しかない進入路の機能向上についても検討をお願いしたい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 横浜港へさらなる客船誘致を推進するための整備を検討してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 山下ふ頭の交通アクセスが良くない。山下ふ頭の入り口から先端まで距離がある。開発に大量輸送機関を検討したほうが良い。臨港幹線道路を積極的に利用していただくと都心臨海部とその山下ふ頭、そしてあの関内・関外地区のトライアングルとして、うまく回遊性が取れるような道路になる。 | 委員会 第4回 | 坂倉 委員 | |
| | 交通アクセスは、内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで大変重要な論点。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | ○クルーズ船受入機能 | 市民意見募集第 1回 | | |
| | ○船が停泊する ○客船受入施設 ○道路 ○駐車場 | 市民意見募集第 2回 | | |
| | ○交通（交通ターミナルによる地区内循環・交通網の充実、水中道路） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○船が停泊する ○羽田からのアクセスが良い ○交通機能（陸・海・空、海外からもアクセスしやすい・回遊性を生み、にぎわいを創造する、街の眺望、海の眺望を活かせる・海の玄関口として象徴的な役割を果たす） | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○高速道路ではベイブリッジ経由でより羽田に近いことを活用してほしい。 | 市民意見募集委 員会第2回後 | | |
| ○山下ふ頭で集客が増えて渋滞が起きると、新山下以降の地元住民が困るので、本牧までみなとみらい線を延伸するなど渋滞回避を考えてほしい。 ○山下ふ頭は周辺施設のつながりを考えて、港町ヨコハマとして最適地であるので、海岸通りを海沿いに作る、船着き場を作って船で直接お店にアクセスできるようにする。 ○駐車場をたくさん用意する。 ○陸海空でのアクセスをより良くすることで、周辺地域のインバウンド観光による経済効果も狙えるため、アジア展示場の中心を担うことのできる世界的な展示場 | 市民意見募集委 員会第3回後 | | | |
| ○山下ふ頭のアクセスの悪さは再開発の大きなネックになるので、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を再開発計画に組み込む視点が必要。 ○交通アクセスを考えるにあたり、道路とともに大量輸送手段の確保は必須。 ○緑が多く、港としての機能として「海へのアクセス」を誰もが活用できるインフラの整備。 ○より多くの船舶を内港地区に呼び込むために、ベイブリッジを廃止・解体し、その代わりとして山下ふ頭から大黒ふ頭に通じる海底トンネル道路 | 市民意見募集委 員会第4回後 | | | |
| ○横浜内港の各地区が歩行者ネットワークでつながり、それぞれの機能で連携し、魅力的な臨海部を形成。 ○客船ターミナル | 事業者提案 第1回 | | | |
| ○客船ターミナル | 事業者提案 第2回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|-------------------|------------|---|
| 多彩な交通手段 | 山下ふ頭と中華街、隣接するみなとみらい等も含めてモビリティを高めるような交通システムが導入することができないか、「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになる。 | 委員会 第1回 | 平尾 委員 | ■三方を海で囲われた立地条件を最大限生かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。 |
| | 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要であると考えていたうえ、防災の観点で海上交通がかなり重要な役割を果たすと考えられた。 | 委員会 第2回 | 北山 委員 | |
| | 周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | ■ロープウェイ、空飛ぶ車を含めた多彩な未来の交通手段、元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区との回遊性を高めるモビリティ等の導入も目指すべき。 |
| | ○交通の充実 | 市民意見募集第 1回 | | |
| | ○電車・バス ○水上交通 ○ロープウェイ ○地区内交通 | 市民意見募集第 2回 | | |
| | ○交通（空中交通、モノレール、市電、水上交通（船）） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○交通利便性の向上 ○先進的で多彩な交通を実現する交通機能 | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○シーバス、シータクシー場、各種イベント船のりば、バス停、タクシーのりば、水上交通は重要。 ○あかいくつ、ベイサイドブルーやシーバスなどの交通手段を十分整備してほしい。 ○RVパークとメガソーラーを付設したフェリーターミナル ○脱炭素・SDGsをアピールでき、通勤通学観光が便利になり、交流人口が増え観光客も誘致できるため、山下ふ頭から横浜駅までLRTを通す。 | 市民意見募集委 員会第2回後 | | |
| ○LRTや自走式ロープウェイなど山下ふ頭を含め横浜市発展のため、公共交通、交通の便が良くなり、脱炭素につながり、市全体の利便性や発展にもつながるので、横浜駅からみなとみらいを通り、山下ふ頭までを新交通でつなぐこと。 ○山下ふ頭は交通の便が悪いので、自走式ロープウェイやエコライドを導入することで、省エネや市の発展につなげ、市の交通を時代の最先端にすること。 ○船着き場を活かし、大規模災害拠点としても活用できるよう、メガソーラーやRVパーク等の施設・設備を含めたフェリーターミナル ○首都高速の出入り口、桜木町駅からのロープウェイを山下ふ頭、八景島、海の公園まで延長。 | 市民意見募集委 員会第3回後 | | | |
| ○交通利便性の向上策として、山下ふ頭を中心に、横浜駅から港の見える丘公園付近までの隣接域をロープウェイや海上交通、陸上交通などで結ぶ交通網サービスの整備。 ○横浜港はインナーハーバーの核とし、水上交通の動線として機能する一方、周辺エリアと連携したイベント会場としても活用。 ○スマートモビリティによる交通ネットワークの強化と水上交通ネットワークの構築による域内外の移動需要促進、自動運転モビリティの導入。 | 事業者提案 第1回 | | | |

■脱炭素（環境・エネルギー等）

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|----------|--|-------------------|----------|---|
| 脱炭素型の再開発 | 時代を越えて、生物多様性とか、生命圏というような視界を持ったものを、どうリンクさせるか。このあたりが世代論を越えたプロジェクトになっていくんじゃないか。 | 委員会 第2回 | 寺島 委員 | ■カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小化した施設の導入や、用途に応じた域内でのエネルギーのベストミックスの取組等により、日本初の脱炭素型の再開発プロジェクトを目指すべき。 |
| | 脱炭素の取組は、面だからこそできることを認識することも重要で、エネルギーの需要は用途によって異なるため、最適な組み合わせを考え、効率的なエネルギー利用を検討することが重要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくということも重要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | ロンドンでは、第5世代のエネルギーネットワークを進めており、再開発では再生可能エネルギーの導入を行っている。山下ふ頭で開発をする場合には、エネルギーの利用を減らし、CO2の排出量を抑えられるような開発を進める必要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | カーボンニュートラルに貢献するというのは、当然の常識。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | ○環境対策の充実 ○脱炭素社会 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○エネルギー施設 | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○サステナブル（エネルギー循環、自然エネルギー、カーボンニュートラル、健康的な暮らし、自給自足） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○市の収益の向上 ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○カーボンニュートラルに取り組む ○海と緑が調和している ○学術・研究開発機能によるエネルギー問題等への貢献 | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○地球温暖化阻止するための施設（太陽光やバイオマス） | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | ○再開発では脱炭素・省エネが必須となる。必要事項として議論する方が良い。 ○日本のエネルギーネットワークの失地回復に繋がるようなものが求められる。 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| | ○横浜内港に世界一の環境港湾都市を創るために、都心臨海部を冷やし、きれいに。 ○SDGs・水素エネルギー施設・その他施設、水素発電・浄化システム、エネルギーセンター ○「都市生活インフラの深化」×「職住遊機能の拡充」×「環境との共生」により、魅力的なインナーハーバーへと深化し、横浜から「YOKOHAMA」へ価値を創造・発信。 ○地球温暖化の悪影響が世界を覆いつつあるため、SDGs 対応、水素利用の促進。 ○世界人口の増加に伴う、将来的な水不足・食料不足への緩衝性を高める方策の導入。 ○次世代型エネルギー拠点を形成し、インナーハーバー全体のエネルギー創出・循環を強化・拡張。 ○海洋資源の有効活用。 ○SDGs 水素エネルギー供給センター構想、「水素ベース地域熱電供給システム」構築、大災害時は市中へ電力供給。 ○SDGs を基軸とした計画やカーボンニュートラルの取組み。 ○「2027園芸博」のレガシーを受け継ぐグリーンインフラ整備。（「砂浜再生」による親水空間形成、「海の森（アミ場）づくり」「湿地づくり」による生物多様性の実現とCO2吸収 地表の緑被率を高めることによるヒートアイランド抑制） ○グリーンインフラ（緑化）の導入やクリーンエネルギー（水素）の活用による環境未来都市の整備。 | 事業者提案 第1回 | | |

| | | |
|--|----------------------|--|
| <p>○太陽光、風力、海波の再生エネルギー発電設備管理スペースが配置され、山下埠頭のすべてに供給し管理する。</p> <p>○山下ふ頭エリア全体で電気・熱の供給を担うエネルギーセンターの計画</p> <p>○環境と人に優しく・文化のある街創り。～SDGsの考え方をベースに置く～自然エネルギーの活用と物を大切にする街～</p> <p>○水素エネルギーセンター、液化水素タンク、液化水素運搬船、豪州褐炭から水素精製下水ガス化発電、メタネーション、海水淡水化</p> <p>○地球温暖化阻止のため太陽光パネルを設置して全て電源は再生可能エネルギーの利用のみで運営。</p> <p>○港湾物流はトラック輸送が主体であったが、アウターハーバーのふ頭の増設に対応してCO2排出量の少ない鉄道輸送の復権を考える時期に来ている。</p> <p>○「蚤の市」の常設スペース。捨てるからまだまだ使えるへ。不用品から必要品へ。</p> <p>○ごみ焼却施設を作り、そのエネルギーを活用する。</p> <p>○環境技術は日進月歩の分野であり、開発時期も大きく異なるため、各ふ頭や大規模敷地などの単位で自律・分散しつつ、全体としての効率化などを目指すべき。</p> <p>○エネルギーの効率化を図る設備や取組の充実、周辺エリアとのエネルギー連携などのテクノロジーを導入し、サステナブルな社会に向けて行動する。</p> | <p>事業者提案 第2回</p> | |
|--|----------------------|--|

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|-------------------|--|-------------------|--|
| 脱炭素の取組・魅力のプロモーション | 横浜港がCNPとしての取組を進めていることの魅力を世界に発信するための場所として活用することも考えられる。 | 委員会 第1回 | ■再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取組を国内外に広くプロモーションする場所としても活用すべき。 |
| | 今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくということも重要。 | 委員会 第2回 | |
| | ○世界から注目される ○先進的な自然環境を世界にアピールできる公園・レクリエーション機能 | 意見交換会 第2回 | |
| | ○山下ふ頭全体を環境脱炭素化・再生可能エネルギー・廃棄物を含む物質の再生循環・情報技術等のハード・ソフトの先端的取組のショーケースとする。 | 事業者提案 第2回 | |
| | ○脱炭素化社会実現のため「ペロブスカイト太陽電池」や「電気運搬船」など、横浜発の先駆的技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待。 | 市民意見募集 委員会第4回後 | |

■市域全体と連動した賑わい創出

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-----------------|---|-------------------|--------------|---|
| 都心臨海部、横浜市全体への波及 | <p>治安も悪かったイーストロンドンの成功は、山下ふ頭を考える上でも重要な動機になる。五輪開催を契機に、緑の増加、地域の環境浄化が図られ、隣接する高密度で貧困の象徴と言われた町も浄化され、インテリジェンスを持った若者が低廉な家賃という魅力で住み込み、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、創造的な地域に変貌を遂げ、今や欧州全体のソフトウェアのベースになった事例がある。このように、開発には連鎖反応を起こすことが非常に重要。</p> | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | <p>■元町や中華街、山下公園通りなどのエリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような再開発とするべき。</p> |
| | <p>横浜は東京都心のコピーである必要もありませんし、サブ的な存在ではないと思っております。東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う、そういう観点が重要。横浜の国際交流都市を先駆けた160年余の歴史、独自の都市文化、地理特性を活用したプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、先んじて積極的に動き出すべき。</p> | 委員会 第3回 | 今村 委員 | |
| | <p>地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを抑えて開発しない限り、他の事例と同様の開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。</p> | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | <p>山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街、関内・関外地区等の都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出を図ってほしい。</p> | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | <p>山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を踏まえた開発にしてほしい。</p> | 委員会 第3回 | 藤木幸夫 委員 | |
| | <p>○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する</p> | 意見交換会 第2回 | | |
| | <p>○山下ふ頭再開発が横浜の中心の山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画を望む。</p> | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | <p>○日本の港、横浜港、山下ふ頭の立ち位置から、港と結びつける開発が重要。 ○海の方ばかりではなく陸側とのつながりをもっと意識してほしい。 ○山手・元町・中華街という文化的バックグラウンドを活用してみなとみらいとの差別化を図ってほしい。</p> | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |

| | | |
|--|----------------------|--|
| <p>○山下ふ頭だけでなく周辺のゾーンとの連携によるビジネス創出、内水面のアクセス整備や景観形成により、内港地区全体での連携を促進。</p> <p>○これからの内港地区は、各エリアの特徴を活かしながら、業務・芸術・商業などのさまざまなチャレンジャーが世界へ羽ばたく“港まち横濱”として発展を続ける。</p> <p>○都心臨海部拠点（5地区）をつなぎ、豊かな回遊性・滞留性を創造する公共空間ネットワーク「横浜パークライン」の形成。</p> <p>○中央卸売市場は、SDGsを意識した未利用の産品を含めた県産市産の物販や飲食を中心とするファーマーズマーケット&フィッシャーマンズワーフをイメージした地区に全面協力。</p> <p>○ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードも整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出、「山内ふ頭」において横浜の持つ食文化を広く内外に発信し、周辺への賑わいを創出。</p> <p>○“海洋都市の実現”もキーワードに、横浜港はインナーハーバーの核とし、水上交通の動線として機能する一方、周辺エリアと連携したイベント会場としても活用。東側都心部は、東側都心臨海部の対岸の地理的特性を活用し、港に面する緑部分にはにぎわい空間の創出を検討。西側都心部は、市の都市再生マスタープランを基本にまちづくりを推進。関内・外地区、山下公園周辺地区、山下ふ頭地区をそれぞれの特徴を生かし整備。</p> | <p>事業者提案 第1回</p> | |
|--|----------------------|--|

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|--|---|------------|--|
| 巨視的な視点の確保 | 日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。京浜地区、あるいは東京湾沿岸の港湾における土地利用の見直しの機運の高まりを整理しなければ、山下ふ頭が他地区と競合する、あるいは特徴が持てないことになりかねない。 | 委員会 第1回 | <p>■経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響も考慮する必要がある。</p> |
| 山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要。 | 委員会 第1回 | 平尾 委員 | |
| 山下ふ頭の再開発を出して、特に東京に繋がるようなベイエリアから山の方について、全体的に連鎖的なものを起こす必要がある。 | 委員会 第1回 | 今村 委員 | |
| ○再開発にあたっては、広域的（東京湾全体、横浜市全体等）な視点での山下ふ頭の位置付けを考えるべき。 | 市民意見募集委員会 第1回後 | | |
| ○横浜は東京に依存している産業構造になっており、山下ふ頭では東京にない独自の機能が求められると感じた。 | 市民意見募集委員会 第3回後 | | |

■海に囲まれた立地特性

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---------|--|--------------|------------|---|
| 立地特性の活用 | 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | ■観光産業等の活性化や、水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする方々からの映り方等、再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を十分に活かしていくべき。 |
| | マリンタワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけに感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。 | 委員会 第1回 | 北山 委員 | |
| | 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要である。 | 委員会 第2回 | 北山 委員 | |
| | 素晴らしい立地条件と歴史性を十分に活かし、山下ふ頭の再開発が観光産業等のリーディング・プロジェクトとすべき。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 立地条件から水上交通をはじめとした、周辺との多彩な交通網の充実は必須。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | ○海に面する特性を活かす ○海に面した横浜らしい場所を活かしたい ○海の玄関口として象徴的な役割を果たす | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○特異な立地を生かし、横浜の経済振興・都市文化醸成に資する国際的な人・物・情報の集まる拠点を形成すべきである。 | 事業者提案 第2回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|------------|---|------------|------------|--|
| 海を活かした人材育成 | クルーズの出発点が横浜となっており、若者の教育的な見地や人生感などを変えている。世界の起点となる横浜として、刹那的な快楽を求めるのではなく、帆船での航行を通じた海洋人材の育成など、教育により横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。 | 委員会 第4回 | 藤木幸 太委員 | ■将来の海洋人材などの育成に向けて、若い世代への教育的な役割が果たせる開発も考えられる。 |

■歴史・文化

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|--|--|------------------|--|
| 横浜の歴史を踏まえた開発 | 横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜の歴史を振り返る必要がある。未来を見据えた再開発の根底にある横浜の歴史、先人たちがその時代その時代に合わせて作ってきた歴史を紡いでいく必要がある。 | 委員会第1回 石渡委員 | ■160余年に及ぶ横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。 |
| | インナーハーバーと称される最後のエリアとして、ここが総仕上げになるような形で、点在してきた文化とか技術とか歴史をネットワーク化して、山下ふ頭ですべてがつながる形で完成されることが適当。 | 委員会第1回 石渡委員 | |
| | 横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史がありますし、独自の都市文化、地理特性が備わっております。こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべきだと思っております。 | 委員会第3回 今村委員 | |
| | 横浜港の発展の歴史を踏まえた開発としてほしい。 | 委員会第3回 藤木幸夫委員 | |
| | ○文化や歴史 ○芸術 ○文化・芸術機能 ○サブカルチャー | 市民意見募集第1回 | |
| | ○横浜の歴史を活かす ○文化を活かす ○横浜の歴史を伝える、感じる ○新しい文化が育つ ○異文化・多文化にふれる | 市民意見募集第2回 | |
| | ○歴史・文化を生かしたまちづくり（横浜の歴史、横浜らしさ、歴史を再現する・既存施設を生かしたまちづくり） | 意見交換会第1回 | |
| | ○海に面する特性を生かす ○次世代につなげる ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○多世代が楽しめる・交流できる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○横浜らしさが感じられる ○横浜の競争力を高める ○国際都市としてのイメージがアップする ○歴史資産を残す ○文化・交流機能（開港・横浜発祥・埠頭の歴史都市の記憶の継承・市民と来街者の交流を生む・子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持てる・文化・芸術を楽しむ人を育てる） | 意見交換会第2回 | |
| | ○横浜らしい個性ある持続可能な都市像と山下ふ頭のあり方を議論するため、横浜の都市づくりの歴史をたどり、先人の精神と経験に学ぶべき。 ○横浜の伝統を護る政策に絞ったEuropeの文化を活かしたまちづくり。 | 市民意見募集委員会第1回後 | |
| | ○横浜の過去のまちづくりの構想など、歴史に真摯に向き合う姿勢と責任感が大切。 ○文化的で落ち着いたまちづくりを目指してほしい。 | 市民意見募集委員会第2回後 | |
| ○技術の継承をする意義も込めて、様々な原因によるスクラップ&ビルドでなくなった建物・街並みを再現することでヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代を再興するとともに、各エリアの魅力を活かして共存関係を構築し、一層魅力的な計画にする。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| ○古き良き横浜の雰囲気が感じられる再開発を進めてほしい。 ○歴史や文化などの視点からの議論も必要。 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |
| ○開港から紡がれてきた思いがある横浜中華街や関内地区など、周辺のまちとの融合を図る。 ○各地の日本文化を紹介し、また同時に海外の文化を紹介する事で、横浜独自の国際交流拠点となる。 | 事業者提案第2回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|----------|---|--------------------|---|
| 歴史文化の魅せ方 | 外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。 | 委員会第1回 内田委員 | ■インフラ投資により都市の文化の魅力を向上させることに加え、外国人が憧れを抱くサブカルチャー、食文化、国際交流の歴史等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていくことが必要。 |
| | 歴史・文化だけでは多様性がないもので、インフラ投資による都市の文化、要するにショッピングやナイトライフであったり、日本の食文化、それにアクティビティなど、いろんなアピールをすることが重要である。 | 委員会第3回 アトキンソン委員 | |
| | 国際交流や日本文化を発信するような機能を検討してほしい。 | 委員会第3回 藤木幸夫委員 | |
| | ○文化・芸術を発信する ○文化を体験できる ○劇場・ホール ○博物館 ○美術館 ○図書館 | 市民意見募集第2回 | |

| | |
|--|-------------------|
| <p>○歴史・文化を生かしたまちづくり（美術館・博物館、アート）</p> <p>○歴史のテーマパークによるエンターテインメント</p> | 意見交換会 第1回 |
| <p>○横浜ブランドを創る・高める ○市民が楽しめる・利用できる</p> <p>○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○港町の風景が見れる</p> <p>○文化を活用する・発信する ○シンボルがある ○歴史・文化を感じることができる</p> <p>○開発に緑を取り入れる ○文化・芸術に触れられる</p> | 意見交換会 第2回 |
| <p>○文化創造都市として世界へ各種情報発信、世界からの各種情報を取り込む『平和の大切さを世界に呼び掛ける横浜』の役割</p> <p>○文化、美術、教育に重きを置き、人間的な豊かさを追求する横浜市であって欲しい。</p> <p>○海外では日本＝アニメが当たり前なので、各種イベント等で国内のイメージ戦略が成功している横浜は、アニメまたはポケモン+ポートタウンであれば競争性もなく、成功が望める。</p> <p>○外国籍の方々から「山下ふ頭周辺に日本の文化や伝統文化を体験できる場所がない」という意見があるので、日本の伝統芸能を見る・体験できる複合施設を作ることを提案。</p> <p>○日本の伝統的着物文化が人々から遠ざかっている・インバウンドの来日目的が観光だけでなく、日本らしさを求めていることから、日本文化の展示、体験型のミュージアムのような【日本文化の殿堂】を建設することで日本の伝統文化を次世代に伝承し、継承する。</p> <p>○文化施設と教育機関が併設された海と緑に囲まれた美術館ができれば、世界で活躍する若者を輩出し、世界から訪ねられるヨコハマになる。</p> <p>○映画館（車から見れるものも含む）、再度ガンダムを誘致、藤子不二雄ランド、もしくはJAPAN漫画ランド建設。</p> | 市民意見募集 委員会第3回後 |
| <p>○横浜市民がテレビやネットを見る時間を読書の時間にあてることを推進するような場所作りのために世界に誇れる素敵なハーバー図書館</p> | 市民意見募集 委員会第4回後 |
| <p>○メディア芸術（デジタルアート）、 グローバル拠点施設</p> | 事業者提案 第1回 |
| <p>○アート・デザイン・スポーツ・音楽・ダンスそして食はエンターテインメントになる!ライフスタイルがエンターテインメントになる。</p> <p>○日本国内や海外を旅行する際に、各地方の魅力や特産品・老舗を紹介。</p> <p>○居ながらにしてクルーズ文化体験</p> | 事業者提案 第2回 |

■緑・水辺

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|---|---------------|--------|--|
| 緑で繋がり市民が憩える空間づくり | 地域全体、ある意味広いエリアも含めて考え、横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。 | 委員会第1回 | 幸田委員 | ■みなとみらい21地区の水際線から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線の繋がりを生かしながら、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性の向上を図るとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保していくべき。 |
| | 港湾と都市の共生により、市民の憩いの場を確保していくべき。 | 委員会第4回 | 幸田委員 | |
| | 臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい21地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース（BAYWALK YOKOHAMA）や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい。 | 委員会第3回 | 藤木幸夫委員 | |
| | ○海と緑の調和 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○周辺と緑でつながる | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○庭・岡・公園のある市民のための再開発 ○散歩・サイクリングできる市民のための再開発 ○サイクリングコース・マラソンコース・水辺ウォーキングのある公園 ○広場、デッキなど憩いの場のある公園 | 意見交換会第1回 | | |
| | ○市民が楽しめる・利用できる ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○開放的な憩いの場づくり ○豊かな緑がある ○防災機能を備える ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○サステナブルを実現する ○国際交流の拠点になる ○横浜に住みたくなる・住み続けたい ○カーボンニュートラルに取り組む ○周辺の景観と調和している ○海と緑が調和している ○開発に緑を取り入れる ○公園・レクリエーション機能（市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい・子育てしやすい環境づくりに寄与・海と緑を一体的に体感できる場所にしたい・山下公園との連続性が大事にしたい） | 意見交換会第2回 | | |
| | ○公共財の管理に市民が参画していく現在版の入会地、里山のようなスペース | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生。 ○自然が豊かである、自然を活かす、自然を楽しめる、誰でも憩える、ゆっくりくつろげる、公園、広場、遊歩道 ○厚生労働省の児童館機能強化方針を踏まえた、遊具のある広い公園と、そこに併設する、小さな子供から中高生まで幅広く活動し、また、一人でもくつろげる児童館 ○28haの市民がつくる森 ○山下埠頭を広大な森林公園（山）にする。山の下に広大な駐車場に。 ○園の中にキャンプ場（ホテルチックなバンガロー）の設置。手ぶらキャンプ | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○中区内の緑地の連続性を延長するための直径450mの公園（ダダッピロバ） ○海水を利用した公衆浴場・水着で入るプール、災害時の一時避難場所となる休憩ルーム。バーベキュー、テント張るスペース。 ○みなとみらいから八景島までのサイクリングロード ○横浜が園芸博覧会のキャッチフレーズである「ネイチャーベイスドソリューションズ」の象徴となるようにまとまった樹林地 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| ○駅近で巨大スペースがあることが山下ふ頭の価値の1つなので、イベントとのシナジーを創出するため、一部をオープンスペースとして活用できる内容を盛り込めると良い ○氷川丸側の岸壁には山下公園から連続性のある公園 ○横浜港の情景を大切にすべく、横浜港の海と山下公園の緑との連続性を高層または大規模建築物によって遮断するような開発は避けて欲しい | 市民意見募集委員会第4回後 | | | |
| ○ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードも整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出。 ○東側都心部は、京浜臨海部再整備マスタープランに沿った開発を進める一方、東側都心臨海部の対岸の地理的特性を活用し、港に面する緑部分にはにぎわい空間の創出を検討。 ○緑、水際線 | 事業者提案第1回 | | | |

| ポイント | 関連する委員意見 | 回数 | 委員 | 要旨 |
|------------------------|--|-------------------|----------|--|
| 水辺空間の有効利用 | マリンタワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけを感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。 | 委員会 第1回 | 北山 委員 | ■海外の事例も参考にしながら、水面の賑わい創出や水際における非日常空間の形成等、ウォーターフロントの都市として相応しい取組を進めるべき。 |
| | 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。やはり水際という非日常空間を生かすべき。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | ○海・みなと ○水辺・親水機能 | 市民意見募集第 1回 | | |
| | ○浜辺 ○釣り施設 ○海・港を活かす、身近に感じる ○港の機能がある ○海や港の景色を眺められる ○海で楽しめる ○船が停泊する | 市民意見募集第 2回 | | |
| | ○海水浴場のある公園 ○マリンスポーツ | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○横浜ブランドを創る・高める ○海に面する特性を生かす○港に親しみが持てる ○港町の風景が見れる ○先進的なまちである ○新しい文化が育つ ○横浜らしさを感じられる ○国際都市としてのイメージがアップする ○横浜らしい景観が見れる | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○人工の砂浜（海水浴場）とプール（冬季温水プール） | 市民意見募集委 員会第2回後 | | |
| ○サップ、カヌーなどやれる場所 ○人工の砂浜 | 市民意見募集委 員会第3回後 | | | |

■景観形成

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-----------|--|-------------------|----------|--|
| 景観を考慮した開発 | 船で帰ってくる時の景色、みなとみらいの近未来的な景色と、遠くに見える富士山、大さん橋にクルーズ船、今この山下ふ頭がある。みなとみらいと山下ふ頭の景観のバランスを踏まえながら、それぞれのデザインの美しさに磨きをかけることを考えることもよいのではないか。 | 委員会 第1回 | 河野 委員 | ■横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえつつ、海陸両面の視点場からの山下ふ頭の見え方や、周辺地区との景観のバランスを意識した開発とするべき。 |
| | 山下ふ頭は、ベイブリッジから眺めると目立つ場所にある。ここは羽田空港から入ってくる人たちにとって入口そのもの。かなり景観も、作り方によっては大変素晴らしいものになると考えており、素晴らしいものにしなければならない。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | |
| | 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | 横浜市が1970年代に検討していた景観の考え方を踏まえつつ、特に、港の見える丘公園から横浜港が美しく見えるように開発のポイントを抑えることも必要ではないか。 | 委員会 第3回 | 北山 委員 | |
| | ○景観形成 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○海や港の景色を眺められる ○シンボルになる ○特色のある・周辺と調和のとれた・自然と調和のとれた景観づくり | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○横浜ブランドを創る・高める ○港町の風景が見れる ○シンボルがある ○周囲の景観と調和している ○海と緑が調和している ○横浜らしい景観が見れる ○誇れる街並みを創る | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○みなとみらいとは違ったランドスケープに。 ○みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店 ○銭湯（横浜港が一望出来る巨大露天風呂） ○横浜港が一望出来る夏季ビアガーデン、冬季屋外こたつ式おでん居酒屋 ○開港以来の歴史と連なる景観の一部として、ホテルニューグランド、氷川丸、山下公園と調和することは絶対条件。 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| | ○港の見える丘公園からの景観を大事にするため、「山手地区都市景観形成ガイドライン」は委員会では必須事項である。 ○賑わい・観光というならば投資の場にするのではなく、景観を大切にすべき。 ○過去の都市計画での失敗を踏まえ、景観を重視した観点を山下ふ頭の開発の計画に加えてほしい。 ○市の経済効果の出し方は過大であるため、賑わい・観光というならば投資の場にするのではなく、景観を大切にすべき。 ○赤レンガから山下公園にかけての美しい海岸沿いは世界に誇れる景観であるので、山下ふ頭を経済合理主義で台無しにすることはしてほしくない。 | 市民意見募集 委員会第3回後 | | |
| | ○内港地区の景観を継承しながら新たな港まち横濱のシンボルを生み出す。 ○良好な環境基盤（緑・景観・街並み）づくり-地域とつながる景観・街並み」づくり。 | 事業者提案 第2回 | | |

■デジタル活用

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|------------|--|---------------|----------|---|
| デジタル時代への対応 | デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることから、デジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備する必要。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | ■横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を踏まえるとともに、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することも考えられる。 |
| | コンテナ船の大型化に伴い物流機能の沖合への展開が進むエリアと、シースケープ再創造エリアとして、港をランドスケープの背景として、これらのゾーンを囲うような形で、上瀬谷を含めた都市農業のグリーンゾーンを一体的にして、デジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を考えたときに、山下ふ頭に建設する象徴的な施設が何かを考えるべき。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 都市開発の一方で市域の7パーセントにあたる農業地域についても、人口減少で農業の担い手が急減する中で、横浜市の食料自給率のアップ、例えばDXを活用した収穫量の増大、営農型太陽光発電のソーラーシェアリングによる収支改善などの対策検討を、市がしっかりとしたリーダーシップを持って進めていただきたい。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | |
| | ○DX（デジタルトランスフォーメーション） | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○先進技術を活用する | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○DX等を取り入れる | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○スマートシティ構想など先進的な取り組みを実装するエネルギー・デジタルネットワークの構築。 ○最新のデジタル技術（入山証アプリ等）を駆使した社会実証の実施。 ○接客・配送ロボット導入や最先端の広告技術の導入。 | 事業者提案 第1回 | | |

日時：令和6年12月9日（月）
14：00～16：00（予定）
場所：横浜シンポジア

第6回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会

次 第

1 議 事

(1) 事務局の説明

- ・ 前回委員会後の市民意見等
- ・ 第1回～第5回の意見のまとめ

(2) 答申（案）について

(3) 意見交換

(4) その他

【配付資料】

- 資料1：横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿
- 資料2：前回委員会後の市民意見等
- 資料3：第1回～第5回の意見のまとめ
- 資料4：答申（案）の考え方
- 資料5：答申（案）

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 委員名簿

地域関係団体委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------------|-----------|------------------|
| さかくら とおる 坂倉 徹 | 経済団体 | 横浜商工会議所 副会頭 |
| たかはし のぶまさ 高橋 伸昌 | まちづくり団体 | 関内・関外地区活性化協議会 会長 |
| たからだ ひろし 宝田 博士 | 商店街 | 協同組合元町エスエス会 理事長 |
| たどめ やすし 田留 晏 | 物流業団体 | 神奈川倉庫協会 会長 |
| ふじき こうた 藤木 幸太 | 港湾運送事業団体 | 横浜港運協会 会長 |
| ふじき ゆきお 藤木 幸夫 | 横浜港振興推進団体 | 横浜港振興協会 会長 |

学識者委員

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|-------------------|--------------------|----------------------------|
| いしわた たかし 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| いまむら としお 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所取締役会長 |
| うちだ ゆうこ 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| かわの まりこ 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| きたやま こう 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| くま けんご 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| こうだ まさはる 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工藝社代表取締役社長 |
| ひらお こうじ 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| むらき みき 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| わくい しろう 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

山下ふ頭再開発検討委員会後に
インターネットフォームに寄せられた市民意見等について

1 受付期間

令和6年8月22日から令和6年12月4日まで

2 意見数

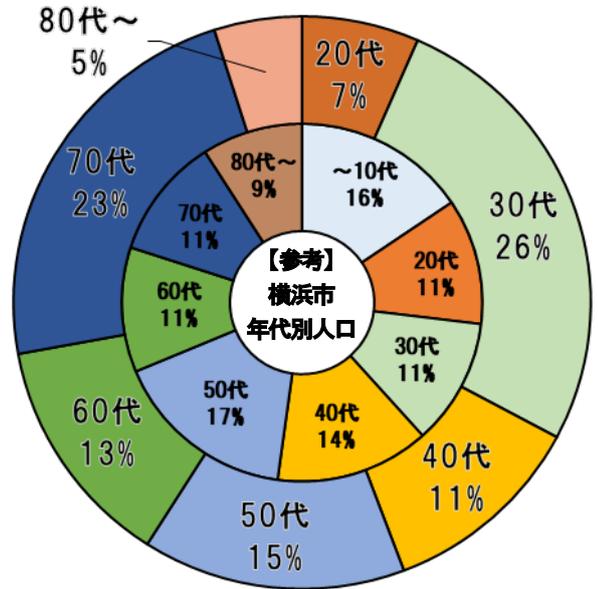
市民意見等は**61名から82件の御意見**をいただきました。

(内訳) 市内59名

市外2名 (20歳代2名)

※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、
投稿数から除外しています。

※「横浜市年代別人口 (グラフ内側)」は、
住民基本台帳による令和6年9月末時点参照



投稿割合(年代別)

3 御意見の主な内訳

(1) まちづくりの方向性に関する御意見

- ・緑豊かな空間は地域の発展と市民生活の質の向上に重要なので、周辺地域との緑地のつながりを整備して基盤を作り、時代の変化に対応しながら発展させるのが理想的<40歳代>
- ・交通関連の課題は重要なので、中区全体の回遊性を向上させるためにも、山下ふ頭を交通の結節点とし、民間事業者による投資を呼びやすい計画とするべき<30歳代>
- ・歴史ある港としての景観と最新技術の融和など、将来に渡って陳腐化しない横浜らしいと感じられるコンセプトを検討してもらいたい<40歳代>
- ・部分最適を考えても全体最適とはなり得ないので、周辺地域との相互関係を考慮した、経済効果を高めるまちづくりを進めるべき<70歳代>
- ・将来の財政を考えて産業の活性化や観光者の誘致を目指すのがよい<20歳代、40歳代>
- ・「平和の大切さを世界に呼びかける都市・横浜」の役割を事業の基礎におくべき<70歳代>
- ・横浜港の景観を大切にするために建造物は低層にするべき<60歳代>

など

(2) 導入機能に関する御意見

- ・災害時に近隣住民が避難できる防災拠点機能を兼ね備えた施設やスペースなど<40歳代、60歳代>
- ・市民がリラックスできるよう、芝生と施設のバランスを考え、山下公園から連続して海沿いを歩ける芝生のオープンスペース<40歳代>
- ・プロ、アマチュア、子供の習い事・試合などが一か所でまとまるような採算性の取れるスポーツ総合施設<40歳代、70歳代>
- ・市の脱炭素化等につながり、交通が便利になるような自走式ロープウェイやエコライド、LRT等の新交通<30歳代>
- ・投資が継続する開発とするために段階的開発の余地を残し、フレキシブルな活用ができるような広場<30歳代>
- ・海外からの集客を目指すため、世界的に有名なポケモンを活かすなど、東京に負けないランドマークやエンターテインメント施設<40歳代>

など

(3) その他の御感想等

- ・再開発された山下ふ頭を実際に利用することとなる若い世代からの意見や夢を中心に計画素案を作るべき<20歳代、50歳代>
- ・都会の再開発において樹林地を回復することが世界のトレンドであることを知り、大いに喜び力強く思った<60歳代>
- ・再開発で最初に建てられる建築物は未来の景観を左右する重要な要素なので、世界に誇れる「ヨコハマらしい」建築物を最初に建ててほしい<40歳代>
- ・緑を多く取り入れる際には、採算性を考え持続可能な開発を検討するべき<20歳代>
- ・豊富な住民サービスを提供する東京都との都市間競争に対抗できる税金が必要であり、それが可能な施設整備が必要<30歳代>
- ・市民と協力して、多様性を受け入れ活かすことが町の魅力となるので、今後の都市開発のモデルケースとなるような市民の声を聞き入れる市民参加制度の構築を期待<30歳代、50歳代、70歳代>

など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

| | 居住地 | 年代 | 投稿（2000文字まで） |
|---|-----|------|---|
| 1 | 港北区 | 70歳代 | 藤木幸太委員の立ち位置として紹介した海洋航海体験は若い人たちのワクワク感が溢れていて良かった、次世代が航海を通じて色々な事柄を吸収していく、港湾関係事業者として貿易港としての役割を終えた山下埠頭を教育の面から活用していく切り口は今後多くの市民に共感が得られますでしょう。高橋信昌委員として唯一防災拠点の役割を山下埠頭が果たして欲しいとの意見は良かった。幸田雅治委員として市民参加をしっかりと説明され安心感を得られる内容で、市民参加の各種形態を入れ込んでいくことに集中しており素晴らしかった。内田裕子委員として時間管理が出来ず残念ですが委員会の一員として失格、テーマパーク促進者として他の場所で頑張ってください。事務局にはキッチリと『平和の大切さを世界に呼び掛ける都市・横浜』の役割を常に事業の基礎に置いて欲しい。 |
| 2 | 港南区 | 40歳代 | 市民として、憩いを感じられ、身近に感じ、そして誇れるものであってほしい。そのためにも市民がいつでもアクセスしやすい交通網の整備は是非しっかりと検討して頂きたい。本件に合わせた鉄道網（横浜環状鉄道案、地下鉄ブルーライン延伸や、乗り入れ）など検討をお願いします。 |
| 3 | 旭区 | 50歳代 | 8/22に行われた委員会の映像をyoutubeにて拝見しました。その中で隈研吾氏のNYセントラルパーク等を手本とする緑化計画に大変感銘を受けました。新たな商業施設を建設するよりも老若男女、全ての世代の人々が憩う場を造る事の方が息の長い観光スポットとなり、横浜のブランド価値が上がると思います。商業施設は、流行り廃りがあります。再開発を行って目先の経済発展を目指すより、横浜のど真ん中にセントラルパークの方が逆に新しく、集客効果が望めるのではないのでしょうか。 |
| 4 | 中区 | 40歳代 | 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会に関して、意見を述べさせていただきます。まず、未来志向を持つ平尾委員と隈委員のプレゼンテーションは、将来の都市開発に対する洞察に満ちており、大変素晴らしいものでした。一方で、河野委員と前回の内田委員のプレゼンテーションは、山下ふ頭の再開発というテーマから外れており、現実味を欠いていると感じました。特に藤木委員の提案には強く賛同します。まずはグリーンベルトを整備し、基盤を作り、その後、時代の変化に対応しながら山下ふ頭をゆっくりと発展させていくというアプローチは、持続可能な再開発の理想的な進め方だと考えます。山下ふ頭の再開発には、長期的な視点と柔軟な発展計画が必要であり、これにより地域社会全体に利益をもたらすことができると確信しています。 |
| 5 | 中区 | 40歳代 | 山下ふ頭の再開発にあたり、まず緑豊かな空間を整備するという考え方には、心から賛同します。これは、地域の発展と住民の生活の質を向上させる重要なステップだと思います。しかし、山下町に住む一市民として、ひとつお願いがあります。それは、山下ふ頭に建設される最初の建築物についてです。景観は既存の建物との連続性を保ちながら発展していくべきものです。この地域には、ホテル・ニューグランドや山手の洋館など、歴史と品格を兼ね備えた建物が景観を形成してきたという事実があります。再開発に携わる皆様も、この点を十分に理解されていることと思います。そのため、山下ふ頭に最初に建てられる建築物が、未来の景観を左右する重要な要素となることは間違いありません。大きな建築物や多数の建物を建てるのが目的ではありません。ただ、世界に誇れる「ヨコハマらしい」建築物を最初に建てていただけることを強くお願い申し上げます。余談ですが、大さん橋ふ頭ビルは、どの方向から見ても景観の一貫性を損なっており、散歩するたびに残念な気持ちになります。どうか、同じ過ちを繰り返さないよう、慎重にご検討いただければ幸いです。 |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 6 | 都筑区 | 30歳代 | <p>第5回検討委員会では山下ふ頭への交通について団体から意見書がありました。確かに山下ふ頭は交通の便が良くなく、横浜駅や関内駅からも行きにくいです。車で行くのも渋滞等の可能性があり、徒歩では気軽に観光は難しい。脱炭素効果やガソリン消費、排気ガス、渋滞等を減らすためにも車で行くのを減らす必要があります。そこで鉄道駅等と山下ふ頭をつなぐ公共交通機関が必要です。従来の公共交通は建設費用や土地収用等敷設が難しいので、自走式ロープウェイZippar、エコライド、LRT等新交通を提案します。自走式ロープウェイZippar https://zip-infra.co.jp/index.html は神奈川県秦野市で実験され、現在は福島県南相馬市で大規模実験線が建設中ですが、神奈川県と連携協定を結び、秦野市ははじめ各地の自治体で導入を検討しています。従来の公共交通機関と比べ低コストかつカーブも可能です。ロープウェイなら陸上だけでなくYOKOHAMA AIR CABINのように海上に建設してもいいかもしれません。エコライド http://www.senyo.co.jp/newbiz/1052/ は横浜市YOKOHAMA AIR CABINや観覧車を運営している泉陽興業が開発しており、ジェットコースターの技術を公共交通システムに発展させ、車両側には駆動モーターやブレーキを持たず、車両の動きを全て地上側から操作する方式（＝地上一次型交通システム）であるため、車両重量を大幅に軽量できる点において「究極の省エネ交通システム」です。上野動物園のモノレール跡地に建設予定です。LRT(次世代型路面電車)は宇都宮市で新設され、沿線人口が増える、乗客が予測より2割ほど増える、各自治体や団体から視察される等大成功をおさめています。検討委員会資料の国外ウォーターフロント等の開発事例にも記載の通りポートランドではLRTが導入されています。LRTは環境によく、利用者が使いやすく、それ自体が観光資源になります。これらの新交通を横浜駅や桜木町駅、みなとみらいや関内駅等から山下ふ頭、さらに山下ふ頭内の交通に使用すれば、山下ふ頭に行きやすくなるだけでなく、みなとみらいを含めた通勤通学観光等が便利になり、横浜市発展や新技術発展につながり、横浜市が世界の交通の最先端になります。宇都宮市のLRTのように、新交通に乗るためにくる観光客も期待できます。山下ふ頭内の交通も便利になります。また、車利用が減り、脱炭素につながり、ガソリン利用や排気ガスや渋滞が減る、駐車場を減らせる、省エネ等効果があります。ご検討をお願いします。</p> |
| 7 | 市外 | 20歳代 | 埋め立てし、整形地として再開発すべきと考えます。 |
| 8 | 中区 | 30歳代 | 臨港幹線道路計画興味深かったです。本町通りや山下公園通りを大型車が通ることで振動が起きやすいので開通に期待しています。高架方式では景観に大きな影響が出るのでトンネル方式が採用されることを期待しています。一方、臨港幹線道路は山下ふ頭再開発という観点ではどうしても歩行者空間を遮ってしまうので埠頭内区間の導入方法について深い議論を求めます |
| 9 | 中区 | 30歳代 | 山下ふ頭にはすでに強化岸壁の整備や臨港幹線道路などの計画があるという話でした。これらは再開発にあたって予約された空間となるのではないのでしょうか？もし他にも再開発とは別枠で決まっているものがあれば、それらも事業者提案等で考慮すべき項目としてファクトシートに記載するのが望ましいと思いました。 |
| 10 | 中区 | 30歳代 | くま委員の緑地化提案は興味深かったのですが課題もあるように思いました。1. 横浜市の財政が厳しく、他にも都市機能のための用途がある中で全体を緑地として遊ばせておく余裕はない。それらは根岸住宅地区や瀬谷で十分である 2. 樹木や芝生のような一般的な都市公園で見られる緑地は横浜湾地域本来の自然とは異なっている。もし作るのであればベリー上陸図のように砂浜や松の生えた岩場など開港前の原風景を再現した緑地が望ましい |
| 11 | 中区 | 30歳代 | 河野委員の物流拠点としての集荷・創荷という考え方は興味深かったです。ただ残念なことにこれが山下ふ頭再開発検討委員会という場での発言であったことに強い違和感を感じました。貨物に関する責務は大黒ふ頭・本牧ふ頭・新本牧ふ頭・南本牧ふ頭の役目ですし、山下ふ頭再開発自体が貨物の責務が移転したことにより空間利用に余力ができたというのが出発点にあると思います。当然ながら今までの再開発提案においても集荷のための倉庫の再整備や創荷のためのコンビナート建設はなかったように思います。それを踏まえると、河野委員のプレゼンは率直に言って時代錯誤的で空気が読めておらず、さらにはそれでいて具体的な提案を欠いている点が無責任ではないかと思いました。 |
| 12 | 中区 | 30歳代 | 後半の意見交換で埋め立てという意見が出ていたことが気になりました。山下ふ頭周辺は航路や景観的に埋め立てできる空間があまりないように見受けられるので、本牧ふ頭と一体的な再開発を計画に組み込みたいというのが発言の意図なのかと推測しました。将来的な計画の拡張について考えるのはいいと思います。ただ予算が限られることや、現時点で山下ふ頭単体の計画もまとめられていない段階では、流石に勇み足かと思えます。埋め立てのような内容は答申のスコップから外して一旦最小の計画をまとめるのがより適切だと思いました。 |
| 13 | 中区 | 30歳代 | 山下ふ頭の交通の便の改善のため、みなとみらい線だけでなく、ベイブリッジや首都高出入口に近い立地を活かして、YCATを発着する高速バスが経由できるようなターミナルを用意すると良さそう |

| | | | |
|----|----|------|--|
| 14 | 中区 | 30歳代 | 山下ふ頭への移動手段の確保で、元町・中華街駅だけでなく、元町ショッピングストリートや中華街の石川町側などもう少し広い範囲が考慮されると良いと思いました。特に市営バスで山下ふ頭付近から横浜・桜木町・関内・山手・根岸・磯子・新高島・みなとみらい・馬車道・日本大通りへのバスはあるのに石川町だけないのはなぜなのでしょう。 |
| 15 | 中区 | 30歳代 | 市民参加と言いつつ広報よこはまでの扱いが少ない 議論の進捗を市民に対し十分報告を行ってほしい |
| 16 | 市外 | 20歳代 | 今現在山下ふ頭内で働いているものです。山下再開発事業は今のようになっているんですか。いつから撤退しなければいけないのでしょうか |
| 17 | 中区 | 30歳代 | 交通面の強化に関する話題があったが、元町・中華街駅との連絡だけでなく、中区全体との回遊性の向上につなげてほしい。既存の山下ふ頭付近から連絡バスの豊富な新港地区・山手町・本牧地区・山手駅・三溪園・シンボルタワー等だけでなく、若干行きづらい関内駅・石川町駅・根岸森林公園等につながる交通の結節点としてほしい。 |
| 18 | 中区 | 30歳代 | 今年末にまとめられるという委員会の答申は再開発計画着手に向けて着実に前進できたと市民に対して胸を張って言えるものにしてほしい。市民から意見を聞いたというアリバイ作りのためだけの、沢山の人の意見を羅列しただけのお茶を濁した内容を出されても困る。IR白紙撤回に2度の事業者提案募集の破棄と、市民目線からは何度もちゃぶ台返しを繰り返して着実に再開発から遠のいてきているように見えるので、この有識者検討委員会も同じような結果にならないことを祈っている。 |
| 19 | 中区 | 30歳代 | ・議論の結論としては統合型リゾート（IR）のような大型施設整備に収斂する。その際に、数年前の横浜IRでは大型展示場を含めたMICE施設だけでは黒字にならないので、カジノとセットとしていた。という、前提条件の共有が必要である。・いずれ首都圏にも設置されるであろうカジノを横浜に設置することは本当に不可なのか。東京や海外から税収を得るチャンスではないのか、等の真摯な議論を期待する。お台場にカジノができてから横浜に作るにしても手遅れである。・カジノがどうしても不可ならば、公営競技であればいいのか。大昔に根岸に競馬場があったが、山下ふ頭の一部に競馬場を新設し、収益を横浜市の入収とすることはできないのか。海外（ヨーロッパ）では高貴なスポーツでもあるので、横浜は国際的な競馬場とする選択肢もある。・横浜市は東京との都市間競争にさらされている。東京都は豊富な住民サービスで周辺自治体から住民を吸収している。横浜も対抗できるだけの税収を得る必要があり、これが可能な施設整備とする必要がある。 |
| 20 | 中区 | 70歳代 | 山手の崖の化石発掘人（その1） ・アクセスに関するフェイク 第4回検討委員会で、商工会議所副会頭の板倉委員が「（山下ふ頭に）元町の駅から行くのもかなり困難」と言いましたが、これは完全なフェイクです。山下ふ頭へのアクセス手段の追加を求めるための発言だと思いますが、非常に悪質です。みなとみらい線元町・中華街駅の元町口から山下公園経由で山下ふ頭に行ける専用の歩道橋があります。段差がなく坂もゆるやかなので、車椅子の人も利用可能な設計になっています。板倉委員は歩道橋設計者を侮辱したことに気づくべきです。なので、港湾局に謝罪と訂正を求めましたが、回答は「委員のご意見として受け止めています」でした。過ちを認めない体質が依然として変わりません。元町・中華街駅から山下ふ頭に行くルートは歩道橋を除き5本あります。元町口からは2本の道があり、山下ふ頭に直接入れます。1本目は谷戸橋交差点を経由して山下ふ頭入口交差点に向かうルート、2本目は運河沿いを歩き、山下橋交差点を左折して山下ふ頭入口交差点に行くルートです。その他の3本は山下公園経由です。マリンタワー口から1本、中華街口から1本、山下公園口から1本あります。一番近いのはマリンタワー口からで、距離は300メートル弱です。他のルートも距離は長くて450メートルぐらいです。ちなみに、IR誘致でも商工会議所は横浜市と一緒に事業を強引に進めました。その時も、「日帰り客の割合が東京は約50%なのに、横浜は90%近いのでIRが必要」とフェイクを言いました。横浜市では、フェイクを根拠にして事業を計画するのが常態化しています。まずは、これを改めましょう。 |

| | | | |
|----|----|------|--|
| 21 | 中区 | 70歳代 | <p>山手の崖の化石発掘人（その2） ・ 不要な道路整備 多くの委員が山下ふ頭で車で楽に行けるように、道路整備を要求しています。横浜市も以前から「山下ふ頭へのアクセス性の脆弱さ」と言って、2本の道路を提案してきました。しかし、誰も山下ふ頭の駐車場に関してはアイデアを示していません。第5回検討委員会補足資料のスライド11に2本の道路と駐車場を囲むような円形道路が黄色で示されています。山下ふ頭の中心部に車のための道路と駐車場が描かれているのです。港湾局はこんな低レベルな発想しか持っていないのです。たとえば、3,000台の青空駐車場を想定すると、山下ふ頭の面積の約20%を占めることになります。有効活用面積がかなり減ってしまいます。私は数百台の車とバスの駐車場をふ頭の一番目立たない端に設置することを提案しましたが、検討さえしてくれません。横浜市が考えている2本の道路には大きな問題があります。臨港幹線道路は国の事業ですが、国土交通省は道路の目的を「円滑なコンテナ物流を実現」としています。これは非常に重要で、コンテナ専用トラックが本町通りや本牧通りなどの中心部を走ることを禁止できるようになります。臨港幹線道路を山下ふ頭へのアクセス道路にすると、トラックと一般車が入り混じるのでよくありません。もう1本の計画道路は山下公園の南側の駐輪場（マリントワーの向かい）辺りを道路にして、まっすぐ山下ふ頭と直結する計画です。つまり、公園を壊しイチョウを伐採する計画で、こんな計画を許す市民はいないでしょう。今時、車優先社会を目指すなんて、愚の骨頂です。そもそも、山下ふ頭はアクセス性が非常に良く、シーバス、みなとみらい線、根岸線、市バス、空港バスが充実しています。たとえば、新横浜駅から最寄りのバス停までは、電車とバスで30分ぐらいしかかかりません。羽田からも約30分以内です。道路ではなく公共交通機関の充実を図るべきです。この件を委員会できちんと議論すべきという意味で書きました。</p> |
| 22 | 中区 | 70歳代 | <p>山手の崖の化石発掘人（その3） ・ 議論の場を削る女性委員 第4回検討委員会と第5回検討委員会で、議論の時間が特定の委員によって削られてしまいました。私が大嫌いな大学の先輩で元総理の〇〇氏が東京オリンピック大会組織委員会の会長だったときに、「女性がたくさん入っている理事会の会議は時間がかかる」と言いましたが、それが現実になってしまいました。第4回検討委員会では内田委員、第5回検討委員会では河野委員が長く喋るだけでなく、平尾委員長から注意されても、お構いなく喋り続けました。結局、十分な議論をせず、学識者と地域関係団体の代表が自分の主張を説明しただけで、答申をまとめることになりそうです。もっと議論の時間を増やしてください。港湾局が答申案を示しましたが、答申の内容は港湾局ではなく委員と市民が決める必要があります。勝手なことをすべきではありません。</p> |
| 23 | 南区 | 60歳代 | <p>7月12日に実施された検討委員会で日本のポップカルチャーが日本の強みであるというプレゼンを聞いていて、私は南区の公会堂で実施されたIRの説明会を思い出しました。この説明会では舞台上に市長と事務局、観客席に市民という形で行われました。ある市民から「カジノではなく日本の誇るべき文化であるアニメのテーマパークをつくるのではダメでしょうか」という発言がありました。それに対し元市長は「すばらしいお考えですね。しかしIRはカジノあつてのIRなのです。」と回答しました。治安について、また依存症について心配する質問もありましたが、予算を使って対策するのだと説明されました。私はお金がないから導入すると言っているのにお金を使って対策をするのかと思いました。カジノにおける市の収入の一部は入場料のようでした。それ以外の収入については説明がなかったように記憶しています。しかもその入場料は国と折半で、取り分は国の方が多かったのです。こんなにリスクをかかえる市のほうが少ないのだと私はあきれていました。そんな説明ばかりなので、そのたびに客席は大騒ぎとなり怒号渦巻く状況になってしまいました。「こんなに市民が反対するのに市長は進めるのですか」という質問に対し、元市長は「それは議会が決めることです。」と答えてにやりと笑いました。私はこのとき議会に関心が高まり、横浜市議会に傍聴に行きました。そのとき、市議会ではIRを推し進めようという会派の議員が「説明会では態度の悪い市民が罵言を放ち云々」と発言したので、私は驚きました。選挙前には「白紙」と言っておいて選挙後有利と見るや手の裏を返すやり方のほうがよっぽど態度の悪い、民主主義への冒涇であり、公序良俗違反とも言うべきだと思います。そして、住民投票を望む21万もの署名もこの議会によって否決されました。あのままIRがつくられたら、千葉県舞浜市は夢の国、愛知県長久手市はトトロの国、神奈川県横浜市は金の亡者の国になるところだったのだなあ。と正に将来に禍根を残す事業であったと、横浜の将来を思い、胸をなで下ろしました。あの頃、市役所にはIR推進室といったようなところがありました。市民の95%が反対しているものを市長と議員が強引に進めている事業を推進していく公務員はどのような気持ちなのだろうと思っていました。この乖離した市民と公務員の気持ちを収束させていくために、市民意見の思い、学識者の方々の見識や思いを汲み取って進めていただきたいと思います。かつて「女性がいると、会議が長くなる」と言って辞任した人がいましたが、会議というのは上意下達の場ではないのです。参加する人それぞれの見識と思いのすり合わせの場です。会議が長くなることは、参加する人の、性別の問題ではなく話し合おうとしている内容に思い入れがあるかないかの問題なのです。</p> |

| | | | |
|----|----|------|--|
| 24 | 南区 | 60歳代 | <p>私はかねがね失われた30年などといって景気の悪い状況のようなのに、なぜ、あんなにビルがあちこちに建っているのか、とても不思議に思っていました。その答えが7月の検討委員会の市民意見に説明されました。(NO.96)「ああ、あれらは泡だったのか」と納得しました。泡ははじけるのです。泡の正体は不良債権。30年たった今も日本各地にある廃墟ビルが泡の恐ろしさを語ります。崩壊の危機が迫る廃墟ビルを自治体の予算で解体するという報道もありました。ビルがたくさん建ち並べば「お金が入っている」と言う人もいるのだと思います。かつてバブルと呼ばれた時期、私は「こんなにもお金が余っているのに、なぜ『景気がよい』と喜んでいるのか」不思議でした。報道では「バブルとは実態のない経済」と説明していたのですが意味がわかりませんでした。そしてそれがはじけたとき、「不良債権」だったということがわかりました。はじけて初めて「不良債権」という姿を現すのですが、使わないものをどんどんつくり、それらを買かさるといふ行為そのものが「不良債権」だと私は思います。やがて50年後、廃墟ビルが立ち並んでいるかもしれないと思うと本当に恐ろしい。「今、親の家が空き家となり、『負の遺産』とか『負動産』と言う。」といった報道がありました。今建てているビル群は、50年後負の遺産になってしまうのでしょうか。そういえば、「日本国内の土地や建物(不動産)を外国人が買っている。」という報道の中で、「国防上重要でないところは関知しない」というような見解が出されていました。私は「日本の中に国防上重要でないところなどあるのか」と思いました。その一方でその外国人と戦争をするためにお金をかけて武器を増やし、美しい横浜港に軍隊が駐留しているのです。かつて日本人はエコノミックアニマルと言われていました。GDPは4位になったという報道がありましたが、一方でジェンダーギャップ指数は118位だそうです。いまだに人権を置き去りにしたエコノミックアニマル的なお金の使い方をしていて悲しみを覚えます。あのビル群はその象徴としてこれから50年以上立ち並び続けるのです。そして、これらの泡のビルばかり建てる状況は、先人の横浜を愛する計画を差し置いておこなわれた規制緩和の振る舞いであることも市民意見で説明されていました。(NO.97) そのために、大切なランドマークタワーからの横浜港の景観、ベイブリッジからのみなとみらいの景観、海からの横浜三塔の景観を台無しにしたのでした。いろいろな市町村の経営方針にみるキーワードのひとつは「その街の〇〇を大切にする」ということです。長野県は国の自然環境保全法に先駆けて1971年に自然保護条例を施行しました。いま、日本の自然や文化や歴史を知り、リスペクトする大勢の質の高い人たちがインバウンドとして長野県を訪れているのです。いくら国が規制を緩和しても、横浜市がインナーハーバーを横浜の大切なものとして保護する条例をつくれれば、守ることができたはずだと思います。8月の委員会の市民意見では、若い人たちの横浜港の大切なものを守っていこうという意見がいくつかありました。実は、守っていきたいと思っているのは年寄りばかりなのかと感じていたのですが、とても力強く感じました。</p> |
| 25 | 南区 | 60歳代 | <p>もともと住民税は、行政サービスの為の税金なのだそうです。そしてその収入が人口減少によって減るので横浜はお金がない。と市民が追い詰められています。「東京は法人税があるからお金持ち。」と言われていますが、その法人税とは法人住民税と事業税のことかと思われます。そして、これらの税金の額は、そこにある事業所が国に収める法人税や従業員の数や資本金によって決められており、事業所の多い東京は確かに収入が多くなるはずですが。7月の委員会ではディズニーランドの法人税が紹介されていました。さらにその従業員の20%が横浜市民だそうです。横浜市民は通勤ラッシュにもまれて他の市町村に出向き、そこで労働して出た利益の税金は他の市町村に収められ、他の市町村の行政サービスに使われるのです。さて、経済学の言葉に「生産の3要素」というものがあるそうです。資本と土地と労働です。横浜市内のあらゆる場所から東京への交通網がどんどん整備され、横浜市民は他の市町村で労働を供し、その事業所において資本を増殖させ、さらにその事業所が存在する市町村の行政サービスのためのお金をうみ出しているのです。一方家庭は横浜市内にありますから若い間は子育て等、引退後は福祉等で行政サービスを受けます。(実はこれも社会保険という形で市民の互助的な性質も強くあります。社会保障費が実はどれくらいになるのかという発言は大いに賛成するところです。)おそらくこの住民税の仕組みは労働者の職住がほとんど同じ市町村で行われていた時代の仕組みのままなのではないかと思われます。さらに8月の市民意見の中で、ふるさと納税によっても横浜の市民税が少なからず圧迫されていることが書かれていました。(NO.30)。「お金がない。ない。」と言って市民を追い詰める横浜市会の議員は、日本の地方自治体の議員の中でも給料がいいそうです。この横浜市民が追い詰められている市民税の改良の法制化の運動を、市の議員の方々には、横浜市民のために積極的に行ってほしいものだと考えました。</p> |

| | | | |
|----|-------|------|---|
| 26 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>第4回「山下ふ頭再開発検討委員会会合」を傍聴しての意見 2024年9月23日 第4回検討委員会は、1月12日開催の第3回会議から半年間も空白期間をおいての開催であった。しかも突如、冒頭で寺島委員長辞任が報告された。その理由については何の説明もなく、平尾委員長選出に入るといふ、きわめて異常な運営で再開された。さらに、この期間、市民サイドからは「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイナ」プロジェクトが山下ふ頭のあり方について、1年間検討した提言書を発表、この扱いをどうするかが問われていた。しかし、何の説明もなく無視された。学識者のプレゼンでは、内田委員からは資本の短期的利益のための「開発ストーリー」が滔々と紹介された。それと対照的に幸田委員からは、カジノ導入の教訓を生かして実効性ある「市民参加」を実現するには、「事業計画検討委員会」に市民を代表する委員が過半数を占めるようにすべきなど具体案が提示された。こうして今回の検討委員会では、前回に明らかになった山下ふ頭のあり方をめぐって2つの「方向性」があることが、より顕在化した。「年内答申」のスケジュールも発表されたが、委員各位には自らの立場を鮮明にして、市民が理解できるような、突っ込んだ議論を期待したい。市民にとっては、どの委員のプレゼンが市民が望む山下ふ頭の「方向性」を示しているか、見分けるための眼力が試される局面に入ったと感じた。</p> |
| 27 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>1、「市民の意見は聴かない」というばかりの会議開催告知について 本論に入る前に、どうしても声を大にして言っておきたいことがある。私は毎回、検討委員会に対する意見を出してきた市民だが、いつも次回会議の直前に提出するようにしてきた。なぜなら、会議と会議の間に山下ふ頭をめぐる動きを直近まで見たうえでなければ、市民として適切で責任ある意見が出せないからである。そういう観点から、これまで再三、会議開催の市民への告知について期間や方法について改善を求めてきた。にもかかわらず、今回、第5回会合の告知は改まっていないばかりか、お盆の最中に告知、土、日を挟んでという市民から見ると最悪のやり方となった。第4回会議から約1ヵ月余日後という最短の日程設定もあり、「インターネットフォームに寄せられた市民意見等」は、33名から36件と過去最低を記録した。私も急いで意見を書きあげたが、半日遅れで締め切りに間に合わず、第5回会合では紹介されなかった。本来なら、回を重ねるごとに市民の関心は高まり、意見も多く寄せられるはずである。それが真逆の結果になっている。まるで「市民意見は聴かなくてよい」というばかりのやり方の結果である。背景には、何が何でも「年内答申」にこぎつけなければという港湾局、市当局の企図が透けて見える。新保港湾局長(当時は山下ふ頭再開発調整室室長)は「スケジュールよりも、市民の意見・理解に重きを置いて進めないといけない」(3月15日、市会委員会での藤崎議員に対する答弁)との発言は、どうなったのか?! 今回の市民への告知問題のまずさは、「答申」のまとめに入る第6回会合以降の運営にも関わってくる重大な問題として、態度を改めるよう強く要請しておきたい。その3につづく</p> |
| 28 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>2、寺島委員長の辞任問題について そもそも委員長の辞任は、運営、答申もふくめ、検討委員会全体に権限と責任を持つ立場にある者の進退に関わる大問題である。にもかかわらず、メディアではいろいろ報道されたものの、事務局からは「本人からの申し出がありました」と言うのみで、その理由については一切説明がなかった。条例で設けられた検討委員会などにおける委員長の途中辞任というのは、これまでの横浜市政史上、前代未聞の出来事ではあるまいか。それは、市民の側から見れば、検討委員会とはそんなに軽いものなのか、信頼に値するものか、信認に疑念を生じさせかねない失態に見える。にもかかわらず、市を代表してあいさつに立った平原副市長もまた、この問題にはいっさい触れなかった。果たして、運営をめぐって辞任に至るほどの意見の違いがあったのかどうか、あったとすれば、どういう内容だったのか。半年間も委員会を空転させた責任を含め、つまびらかにしていただきたい。それを抜きに、平尾新委員長が「寺島委員長の思いを引き継ぐ」と言っても、何を引き継ぐのか理解できないと疑問が沸くのは、当然ではないだろうか。いずれにしても委員長辞任問題は、検討委員会自身の威信、信認にかかわる大問題である。あらためて、事務局、市当局の責任ある説明を求める。他方、寺島氏にも、わずか2回の会議を運営しただけで、なぜ早々に辞任したのか、説明を求めたい。氏は、第1回会議から検討委員会の目的、運営についても独自データなどを示すなどリーダーシップを発揮するかなのような意欲的な姿勢を示し、とりわけ「市民には責任ある市民参画を」と強調してきた。にもかかわらず、これからという時、何の説明もしないまま辞任するというのははなはだ無責任、責任を投げ出したとしか思えない。「市民参画」への期待を抱かされた市民からすれば、昭和の流行歌ではないが、「うれしがらせて泣かせて消えた」である。失望し、幻滅が残るばかりである。</p> |

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 29 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>3、内田委員のプレゼンテーションについて「経済の原理原則を踏まえて」と、極めてあからさまな経済競争力重視の立場を鮮明にしてのプレゼンであった。ディズニーランドを範とするテーマパーク構想・日本のポップカルチャー(漫画、アニメ、ゲームなど)の集積地に・・が提示された。次から次へと投資を続け、インバウンドの観光客を世界から引き入れ、「目的地」となって宿泊客も増え、横浜経済、ひいては日本経済にも貢献する、と煽られた。だが、これは、市民が生活の豊かさを実感でき、持続可能な都市づくりの「方向性」とは大きく異なる。論より証拠、プレゼンの最初の方で「市民のウェルビーイング」など一言ふれたものの、進めば進むほど「インバウンドをいかに増やすか」のアイディア紹介の渦中に「市民」は消えてしまった。当然ながら、都市づくりの「理念」も「市民参画」も語られず、飛鳥田市政以来の横浜の都市づくりの経験など眼中にないプレゼンだった。思わず第3回検討委員会の今村委員のプレゼンを想起した。前回の「感想、意見」で詳しく論評したが、東京大改造の再開発ラッシュをけん引するシンクタンク会長のプレゼンは、海外投資家の資金に依拠して、短期的利益を最大化する巨大デベロッパーの「理念なき」都市づくりであった。その中で「もっとも重要なこと」として強調されていたのが、「プロジェクトの事業性において説得力ある開発ストーリーの組み立て」である。内田委員プレゼンは、まさに山下ふ頭における「説得ある開発ストーリーの組み立て」そのもので、海外投資家と巨大デベロッパーを相手に、「これでどうか」とさも自信ありげに売り込もうとするプレゼンではないかと思間違えるほどだった。「山下ふ頭に世界一のものをつくる気概で」などと煽られると、一部の地域団体の経営者は心が揺さぶられるかもしれないが、くわばら、くわばら。そのご利益に与れるのはごく一握りに過ぎないことを知っておくべきだ。内田委員が提示された「方向性」に沿って山下ふ頭が再開発されることになれば、市民が誇りとする「横浜らしさ」は壊され、市民生活の豊かさなど実感できない、持続不可能な都市に変貌することになる。それにしてもプレゼン時間25分、制限時間の2・5倍も使ったやり方は、市民のひんしゅくを買ったに違いない。</p> |
|----|-------|------|--|

| | | | |
|----|-------|------|---|
| 30 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>4、高橋委員(地域関係団体)の意見書説明について 高橋委員の意見書説明は、関内・関外地区活性化協議会の代表らしく、経済を重視するものであったがそれは地域経済で、今村委員や内田委員のプレゼンの「方向性」とは区別して受け取っている。山下ふ頭を「税金を生み出す場所」「横浜経済のけん引役となる場所」という言い方にも表れていたが、何よりも飛鳥田市政以来の6大事業が横浜の都市づくりに大きな貢献をしたことが強調された。「部分最適が過ぎるのではなく、全体最適とのバランスが必要」と述べたのは、海外投資家の資金依存、巨大デベロッパーによる短期的利益最大化の都市づくりをけん制したものと受け止めた。一方で気になる点もある。山下ふ頭の再開発を「6大事業に匹敵する事業」「横浜経済の要」という位置づけをしているが、過大な願望である。「大規模集客施設、ホテル機能の導入」によって旅の「目的地」とするという意見は、「部分最適」に傾いていないか、海外投資家依存の今村、内田委員らの「方向性」に引っ張られないか心配になる。もう1点、検討委員会の「新たな組織体制案」を提案され、横浜市的全庁的部局、「経済人」、「国と県」の補充を求めている。しかし、「市民の参加」が入っていないのはどうしてか。飛鳥田市政以来の都市づくりを評価するのであれば、その核心としての「市民参画」は不可欠の要素であり、人口減社会の都市づくりには必須ではないか。私は前回の「感想、意見」の中で、横浜が生んだ誇るべき経済人の先輩として、原三溪の名を挙げた。私財を惜しみなく投じて三溪園をつくり市民に開放したこともさながら、関東大震災のがれきの中から横浜市復興会の会長として復興の先頭に立たれた。その時の三溪は、「市民の元気こそ横浜復興の原動力なり」と檄を飛ばして復興に向け獅子奮迅の働きをした。ぜひ、横浜の地域経済を支えている皆さんには、時代の転換期にある今日こそ、偉大な先輩の気概に学んで、市民と共に次代の横浜を築いてほしいものである。さらに「財政を生み出す場所」という言い方に関連して、どうしても指摘しなければならないことがある。こうした言い方は、短期利益最大化を図るデベロッパーも、「市民のための再開発」と着色するために常套句として用いているので、要注意！高橋委員が使ったファクトシート「2、財政状況」の最後のシート「将来収支差の見通し」で収支差が拡大し、赤字が2065年には1800億円にもなるという数字は、決して根拠にはならないのだ。カジノ導入を推進しようとした人々は、これを最大の論拠に使った。しかし、これはためにするデータであると指摘しなければならない。詳しくは市の財政ビジョン素案策定の際にパブコメで述べたので展開しないが、「将来収支差の見通し」なるものは、全く当てにならない2065年までの人口の超長期推計・データを唯一の「論拠」にして作成している。他の都道府県を含む他の自治体財政の推計期間は、長くて10年、5年。大阪府は15年、広島県10年など10年以上は限られている。神奈川県は5年、川崎市は10年、相模原市は7年。横浜市の45年というのが異常な長さであることが判るであろう。しかも「中長期の視点に立った財政運営」を奨励している「地方公共団体金融機構」でさえ、2018年6月公表の報告書で「推計期間について、10年とした場合には後半の推計値の精度が低下することが懸念されるため、5年が一般的である」と指摘しているのである。また内閣府の報告書の中では、「金融危機などの経済的ショック、新たなイノベーションとその普及、地政学的リスクの顕在化、大規模自然災害など予測困難な要素は数多く、長期経済予測には大きな不確実性がある」と、歴史的転換期における長期予測の難しさを率直に吐露している。国家、中央政府予算のプライマリーバランスの試算そのものが絶えず見直しを迫られているのは、衆知の通りである。以上、財政予測に関わる専門家の間には非常識な横浜市の45年後の「長期財政推計」なるものは、およそ確たる根拠がないことが明らかであろう。したがって、「財政に資する」再開発という言葉は、眉に唾をつけて聞かなければならない。そもそもこの長期推計が作成されたのは、カジノ導入が市民の反対を招いた後であったことも指摘しておきたい。さらに付け加えれば、地盤が脆弱な47ヘクタールの山下ふ頭の再開発を「横浜経済を牽引する」、さらには「日本経済活性化の起爆剤」にし、「財政に資する」財源にするなどというのは、およそ現実的ではない過大な願望と言わざるを得ない。これこそ排すべき、「部分最適」に偏った、市民に幻想を煽る誤った判断ではあるまいか。</p> |
|----|-------|------|---|

| | | | |
|----|-------|------|---|
| 31 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>5、幸田委員のプレゼンテーションについて今村委員、内田委員またアトキンソン委員など短期利益の最大化を図ろうとする山下ふ頭再開発の「方向性」「導入すべき機能」のプレゼンが続く中で、幸田委員のプレゼンは、「市民参加」の「方向性」を前面に押し出した点で、市民が大いに励まされ、共感するものであった。カジノ誘致の「振り返り」できちんとした根拠に基づく見解を陳述した経過も踏まえ、市は「市民を置き去りにした進め方の反省」に立って、「事業計画の策定」は「市民参加」の実質を保証すべきと述べられた。要は検討委員会の答申策定後に、市の資料にはない「事業計画検討委員会」を新たに設置し、そこに「市民も入れて検討すべき」という点である。「事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどの情報をしっかりと市民に伝える。事業者の選定に当たっては、市民がどういうことを考え、どういうことを望んでいるのかというコンセプトを十分に頭に入れた事業者しか応募させるべきではない」とも具体的に示された。実質的に「市民参加」の都市づくりを切り開くための画期的な提案であった。これこそカジノを止めた市民が望んでいることである。この間、市民意見募集やワークショップなどが開かれ、山下ふ頭再開発検討委員会にも傍聴、オンライン視聴、意見募集などが取り入れられてきたが、検討委員会に市民代表の席は設けられず、「方向性」と「導入すべき機能」の議論には、直接参加できてこなかった。私も含めそうした意見を出してきたが、いまだ実現せず、「責任ある市民参画を」と言っていた寺島実郎委員長も辞任した。そうした中で、「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」プロジェクト370人超によって事業計画をふくむ「提言書」（「理念」「方向性」「導入すべき機能」も提案している）が発表された。市会では「検討委員会と市民提言を両輪にして事業計画をつくるべき」という発言もなされるまでになっている。「市民参画」の山下ふ頭都市づくりの主体的条件は、現実に整ってきており、その場をどう保証するかが、検討委員会には問われているのである。幸田委員のプレゼンは、こうした市民の意欲を大いに掻き立て、新たな横浜を担う世代の参加をも呼び起こすものになろう。6、2つの「方向性」が争われている！最後に、今回の委員会は前回の今村委員のプレゼンを契機に、山下ふ頭、そして横浜の都市づくりを誰が何のために進めるのかという根本問題に突き当たらせ、2つの異なった「方向性」が提起されていることを焦点化した。カジノを止めたわれわれ市民の態度は、明快である。今村委員が連携する人々、デベロッパー、海外投資家に横浜の都市づくりを任せるわけにはいかない。われわれはこれまでの横浜の都市づくりに「横浜らしさ」の愛着と誇りを持ち、知見と力を持つ市民参画によって、歴史的転換期にふさわしい市民生活の豊かさが実感できる、持続可能な都市づくりを推し進める。北山委員、幸田委員のプレゼンは、「理念」「方向性」「市民参画」の点で、市民が大いに支持、共感するものである。「年内答申」がスケジュールとして示されたが、これまでの経過を踏まえ、2つの「方向性」「導入すべき機能」が提示されている下で、自らの立場を鮮明にして、率直かつ市民に分かりやすい論戦を期待する。</p> <p>以上</p> |
| 32 | 中区 | 70歳代 | <p>山手の崖の化石発掘人（その4）・旧態依然の意思決定プロセス 港湾局は検討委員会からの答申に基づいて計画を策定し、議会の承認を得るという旧態依然の意思決定プロセスで山下ふ頭プロジェクトを進めています。これでは平尾委員長が言った「市民による、市民のための、市民の山下ふ頭」を実現することは不可能です。しかも、検討委員会の視聴回数は9月23日時点で、第1回が2,338回、第2回が1,084回、第3回が2,112回、第4回が347回、第5回が231回です。港湾局は市民の関心を喚起することにも失敗しています。さらに、検討委員会は委員が自分の考えを示す場でしかなく、建設的な議論がほとんどありません。このような状況で示された答申は期待できません。そこで、SDGsのゴール16に従った意思決定プロセスを提案したいと思います。市民の誰でもが自分のアイデアを提案でき、誰でもがそれを評価できるシステムを作ります。たとえば、ネット上にコンペ用プラットフォームを立ち上げます。各アイデアにはいいねボタンを付け、横浜市民なら誰でもが自由に押せるようにします。また、DXが苦手な市民のために、広報よこはまにもアイデアを掲載し、ハガキなどで投票できるようにします。港湾局はすでに、市民から複数のアイデアを受け取っています。検討委員会の学識者も提案してもよいと思います。アイデアはあるが文書化や図示が苦手な市民に対しては、職員が手助けしてアイデアをまとめます。合計投票数がある数値に達したら、トップ3のアイデアが決まります。次に、提案者と専門家が一緒に具体的な計画と鳥瞰図を作成します。最後に、3つの計画から1つを選ぶために、住民投票を実施します。このプロセス以外で「市民による、市民のための、市民の山下ふ頭」を実現する方法はないでしょう。</p> |
| 33 | 中区 | 70歳代 | <p>山手の崖の化石発掘人（その5）・文章の改行に注意 公開された市民意見を見ると、改行が認識されないために、文章が分かりづらくなっている場合があります。一方、改行が機能している市民意見もあります。意見をまとめる際に、このような差が生れないようご注意願います。</p> |

| | | | |
|----|----|------|--|
| 34 | 中区 | 70歳代 | <p>山手の崖の化石発掘人（その6） ・中区の一人当たりの公園面積 中区の1人当たりの公園面積は6.68平方メートルしかありません。日本の平均値の半分ぐらいです。山下ふ頭を公園にすれば、9.78平方メートルになります。さらに、大通り公園、旧市庁舎跡地、横浜公園、日本大通り、開港資料館、山下公園で構成されるグリーンベルトの延長に山下ふ頭があります。つまり、山下ふ頭を公園にするのが横浜市にとってベストの選択肢になります。</p> |
| 35 | 中区 | 70歳代 | <p>山手の崖の化石発掘人（その7） ・水族館 第4回検討委員会で、洞澤部長が国外のウォーターフロント開発事例を説明しました。その説明で、バルセロナ、ボルチモア、釜山の水族館が示されました。私は2023年2月から水族館を提案していますが、一切取り上げてもらえません。第3回検討委員会に対する意見でも、水族館と温室を書きました。第5回検討委員会で、隈委員がセントラルパークの開発事例を説明しました。セントラルパークに水族館はありませんが、動物園があります。日本では、動物園より水族館のほうが人気が高いので、港湾局の皆様が水族館に興味を持っていただけることを期待しています。理由はお金より大事なものがあからず。</p> |
| 36 | 南区 | 60歳代 | <p>私は事業所提案の28haの緑に強く賛成する者です。8月の委員会では、都会の再開発において樹林地を回復することが世界のトレンドであることを知り、大いに喜び力強く思いました。委員会では、今までの発表をまとめていたので、私もまとめてみたいと思います。 ①マリンタワーからの横浜港の景観を大切に、建造物は低層にする。 ②28haの緑は樹林地にする。 1) 基礎工事はガマメントクラウドファンディングで実施する。 2) 育苗と植林(※1)は市民の手で行う。 ③横浜全体の樹林地の回復と、管理における市民ボランティアの調整をおこなうような公益財団法人を、市民などの寄付によってつくる。 ④横浜全体の樹林地の管理のために、木質バイオマス発電所(山下埠頭でない場所※2)をつくり、緑の持続可能な管理に貢献する。 ⑤今までの埠頭の役割を残す一環として、南九州とのフェリーを就航し、国内の物流の働き方改革やモーダルシフトに貢献する。(※3) ⑥フェリーターミナルは3階建てとし、屋上はメガソーラーを建設する。(3ha以上) 1) 1階は2階分の高さにし、フェリーターミナルとする。使わない時間や場所は観光バスなどの駐車場にあてる。 2) 2階は一般の駐車場にする。 3) 3階はRVパークとキャンピングカーのレンタルショップにし、エコツーリングの拠点、あるいは中継点にする。 ⑦フェリーターミナルから、石川町駅までの動く歩道を整備し、山下埠頭や山下公園近辺から中華街、元町や山手を含めた観光ルートをつくる。 ⑧地域の住民の為と発災時の為を兼ねたスポーツセンター(※4)をつくり、発災時には海からの救援の受付場所にする。 ⑨山下公園側に「命の大切さ祈念館」といった施設をつくり、いまだばらばらになっている関東大震災と横浜大空襲の資料をまとめると共に、慰霊のイベントや会議を横浜が主宰してピースメッセンジャー都市として貢献する場所にする。【補足説明】 ※1例えば、市内の低年齢の教育機関に協力をしてもらって、大池公園などのどんぐりを拾い、育ててもらおう。市民に小さな苗を買ってもらい、庭やベランダで植樹用まで育ててもらおう。そしてそれらの苗木を植えてもらう。人生植樹などは切らずに育てるが、この植樹は樹林地育成のためのものなので、5年～30年のスパンで切ることを前提とする。この方法は今ある樹林地の部分完伐といった管理にも適用できると考えられる。 ※2例えば、保土ヶ谷区狩場町の環境活動支援センターの裏、保土ヶ谷焼却工場の一部につくる。あるいは、2027年国際園芸博覧会の会場の一角につくる。持続可能な発電研究所(例；二酸化炭素からメタンをつくる技術。間伐材や剪定枝の細断技術、そしてパシフィコで開催された「テクニカルショー」で紹介されていた乾燥技術。)などと、その資料館。温排水を利用した温水プール、スーパー銭湯、温室といった集客施設と共につくる。 ※3市役所で開催された「海コン」で紹介された「アンモニア」やクイーンズスクエアに掲示されている「廃油」を活用した燃料とする船を使い、STIに貢献する。 ※4例えば1階は、天井を高くして、全天候型のこどもの野球場、サッカー場や自転車競技場、遊具広場。2階は、室内競技用のコート。3階は有料のシャワー施設とコンビニとイトイン。中区民の方が中心となって利用できるイベントスペース。(商用施設は、中華街や元町を圧迫する恐れがあるので入れない。)屋上は発災時にはヘリポートにできるようにしておく。平時はペロプスカイト太陽電池を敷設し、発災時には巻き取れるようにしておく。以上です。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 37 | 都筑区 | 30歳代 | <p>山下ふ頭にはアザラシを保護展示する水族館、タマちゃんマリナランドを開設してください。山下ふ頭は横浜市の海に面しています。海洋都市横浜を振興していくとともに、環境保護の推進アピールや観光客を誘致するために水族館があるとよいと思います。今、オランダのアザラシ保護施設ピーテルブレンアザラシセンター（通称アザラシ幼稚園）が人気ですが、日本のアザラシ保護施設である北海道紋別市のアザラシ保護・飼育施設「オホーツクとっかりセンター」も注目を集め、紋別市のみならず北海道の観光の目玉にもなっています。下記神奈川新聞リンク先の記事の通り https://www.kanaloco.jp/news/social/entry-39159.html タマちゃんマリナランド構想の具体的思案もあります。記事内から抜粋しますが「横浜市民はタマちゃんに優しかった。タマちゃんの仲間に北極海から来てもらい、横浜港でのびのびと暮らしてもらおう。市民は北極海に思いをはせてほしい」「横浜港を選んだ理由は、近年開発が進む北極海航路の存在だ。国土交通省によると、ドイツ・ハンブルク港から横浜港への航行距離は、スエズ運河を通る「南回り航路」（約2万1千キロ）の約6割となる約1万3千キロに短縮でき、燃料も安く済むという。「タマちゃんの古里を通る船が発着する横浜港でやることに意味がある」と記載がある等港湾都市、海洋都市として横浜市と北極海との関わりは今後重要です。横浜市には2002年にアゴヒゲアザラシのタマちゃんがきて、帷子川護岸等に住み着き、流行語大賞を受賞し、横浜市から特別住民票の交付をうけるなど大変話題になりました。横浜市や海に親しみを持ってもらうためにも横浜市にかつて住んだタマちゃんの名を冠し顕彰する水族館を作れば、他の施設との相乗効果により、山下ふ頭の発展により効果的です。他市との差別化や脱炭素、海洋都市や自然環境保護、生き物との共生を図るため、かつて横浜市が特別住民票を交付したアザラシを活かした山下ふ頭開発、街づくりを行ってください。港湾と自然や海洋が親しむ都市になれると思います。</p> |
| 38 | 中区 | 40歳代 | <p>東京に負けないランドマークを建設し、海外からの集客を目指す。エンターテイメント施設も導入し、利用料金は、スイスの鉄道用に国民割を設けて日本在住の人は割引を受けられるシステムとし、実質外国人旅行者からの収入を増やす。</p> |
| 39 | 都筑区 | 70歳代 | <p>スポーツパーク構想 現在、市内にはスポーツ施設は各所にありますが、370万都市としてはまだ十分とはいええないでしょう。そこで、総合的な施設をこの広大な土地にまとめて建設してはどうでしょうか?採算の問題もあるので、プロ、アマ（市民）共に利用が出来る施設を、検討してください。野球、サッカー、テニス、スケートパーク等の屋外施設、バスケット、バレー、バドミントン、卓球、スポーツクライミング等の屋内施設 卓球、バドミントン、</p> |
| 40 | 中区 | 40歳代 | <p>海外に赴任中です。ポケモンは、どの国の子供達にとっても、日本の子供達のドラえもんやアンパンマンに匹敵する子供コーナーに必ずあるグッズです。任天堂と交渉の上、世界に一つだけのポケモンミュージアムを作ることを強くすすめます。世界中から必ず人が集まります。山下公園から続けて海岸を安全に歩けるベンチが点在する芝生のオープンスペースが欲しいです。子供のスポーツの習い事と試合が一箇所でもとまる総合ジムが欲しいです(例えば、水泳、サッカー、バスケット、テニス、ダンススタジオ、ジム、ローラースケート場)</p> |
| 41 | 南区 | 20歳代 | <p>緑を多く取り入れるべきであるという意見が委員から出ていたが、採算性がなく、現実的ではないと感じた。市の財政状況も考慮に入れ、持続可能な開発となるよう、検討を進めていくべきではないか。また、山下ふ頭の再開発においては、若者の意見を重要視する必要がある。高齢者の意見を聞くことも重要ではあるが、実際に将来に亘って長く利用する層は若者である。したがって、今後の計画案に対する市民意見募集においては年齢制限を設けるなど、工夫を行うべきではないだろうか。</p> |
| 42 | 中区 | 40歳代 | <p>再開発に当たっては世界のハーバーリゾートの成功例も参考とし、横浜らしいと感じられるコンセプトを検討していただきたいと思います。歴史ある港としての景観と最新技術の融和を通じて、将来にわたって陳腐化しないものとしていただきたいです。機能としては市民がリラックスして過ごせる広々とした空間を設けるべく、芝生と施設のバランスを考慮していただきたいです。また、中高一貫校や大学、そして企業誘致による最先端技術の研究開発拠点機能を持たせることも良いと思います。災害時には近隣住民が避難できる防災拠点機能を持たせることも重要と思います。市民の意見も取り入れて良いマスタープランの検討をお願いします。</p> |

| | | | |
|----|-------|------|---|
| 43 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>第5回「山下ふ頭再開発検討委員会会合」を傍聴しての意見 2024年10月21日 もくじ はじめに 1、第5回会合における各委員のプレゼン、意見書説明について若干 2、事務局が提出した資料5「第1回～第4回の意見のまとめ」は問題がある イ、16の 카테고리区分による「整理」は恣意的で、大規模開発の「方向性」ありきの「答申」を導くものになっている ロ、まちづくりの「方向性」については、2つの基本的に異なった見解が提示されている。公正で市民に分かりやすい議論を保证する資料の再提出を 3、カジノを止めた市民としての、「答申」に盛り込むべき意見 イ、「東京大改造」のような大規模開発の後追いは断固拒否！歴史的転換期にふさわしい「理念」を持ち、横浜市民が生活の豊かさを実感し、持続可能なまちづくりの「方向性」を ロ、事業計画策定に「市民参加」を保证する問題は、「市民重視」の試金石 ハ、瑞穂ふ頭の米軍ノース・ドック問題をスルーしてはならない ニ、若干の疑問に答える・問われているのは、誰のために付加価値を付けるのかである はじめに 第5回検討委員会は、第4回会合から約1ヵ月余日後で最短、かつ「市民の意見は聴かない」と言わんばかりのお盆休み中の告知という状況下で開かれた。会合では、学識者委員3人からのプレゼンテーション、地域関係団体2人からの意見書説明がなされ、委員による見解表明は終了した。驚いたのは、その後に「答申のイメージ案」が書き込まれた「第1回～第4回の意見のまとめ」なる文書が配布され、説明されたことである。平原副市長が前面に出てきた第4回会合から危惧するようになった。新保港湾局長・当時は山下ふ頭再開発調整室長・が3月の市会常任委員会で言明した「スケジュールよりも、市民の意見・理解に重きを置いて進めないといけない」の時とは、明らかに雰囲気が変わってきている。「年内答申」は至上命令なのかと疑念が湧いてくる。こうした拙速な運営ぶりから推測すると、次回の第6回会合は、「答申案」が議論される最初で最後の会合となる可能性が大きい。私は、第1回から第5回まで委員会を欠かさず傍聴し、毎回「意見」を出し続けてきた。カジノを止めた市民の責任として、「意見」を出すことによって検討委員会において市民の意見がきちんと扱われ、議論にも反映されるはずと期待していたからである。検討委員会に市民代表の席が設けられていない以上、それしか方法がなかった。しかし、期待はまったく裏切られた。市民が提出した「意見」は、事務局の恣意的な判断で選別され、短いフレーズに圧縮されて「紹介」された。さらに問題は、市民有志からなる「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナプロジェクト」の提言書が2月下旬以降、市長以下の市幹部をはじめ港湾局など行政職員、市会全会派全議員に配布され、市民にもホームページを通じて公表されているにもかかわらず、検討委員会にはいまだに配布されず、無視されたままになっている。こうした取り扱いを受け続けると、「市民の意見を重視・理解に重きを置く」という港湾局(事務局)の運営方針は口先だけで、これまでのパブリック・コメントと変わらない「ガス抜きのため」だったのではないかと、徒労感を通り越して、怒りがこみあげる。それに追い打ちをかけるように、第5回会合に「答申まとめのイメージ案」がいきなり示された。まるでインバウンドのためのテーマパーク、大型集客施設など大規模開発の「方向性」で決まり、と言わんばかりの雰囲気であった。</p> |
|----|-------|------|---|

| | | | |
|----|-------|------|---|
| 44 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>「答申案」の議論が予定されている第6回会合を前にして、私は検討委員会のすべての委員の皆さんに危機感をもって強く訴えたい。あらためて認識してほしいのは、「山下ふ頭再開検討委員会」は、ほかでもなく横浜市政史上最大の蹉跌となったIRカジノ誘致の反省の上に設置されたという経緯である。「市民不在」の市政運営に、市民はNOを突きつけたのである。であれば、「市民の意見を重視・理解に重きを置く」のは当然で、そのために心を砕かなければならない。そうした原点に立ち返ってこの1年間余りの検討委員会を振り返った時、果たして十分だったか。市民意見を重視して発言したと言える人は、誰一人いまい。言うまでもないことだが、「答申」に求められているのは、インナーハーバーに残された貴重な「横浜市民の共有財産」である山下ふ頭の50年、100年後のあり方、まちづくりの「方向性」である。それがどうなるかは、横浜のまちづくり全体に相互作用して都市・横浜の未来を形成する。横浜は1963年に登場した飛鳥田市政が「生産優先主義から生活中心主義へ」、「都市本来の機能への回復と都市生活の人間性の優位」をめざして、長期を見据えた新たな都市構想を掲げた。6大事業は自律的な都市構造の骨格づくりのプロジェクトだが、コントロール、都市デザインと一体となり、全国的にも先進的と評価される市民のための都市(まち)づくりの経験と実績をもつ。2022年3～4月には、都市デザイン50周年横浜展が開催され、その足跡と成果を市民が再確認する機会となった。50年後の山下ふ頭のあり方は、先人たちが切り開いてきたまちづくりの精神・哲学と経験を継承し、次代に発展させるものでなければならない。一方、時代は変転し、人口減、格差社会、生成AIなどの技術革新、気候危機など再び都市のあり方が根本的に問われる歴史的転換期にある。どんな「理念」と構想でまちづくりを進めるのかは、決定的に重要となる。そのような時代にあって、「理念なき」短期的利益の最大化を追い求める「東京大改造」のようなまちづくりの限界は目に見えている。「理念」を明確に掲げ長期の構想に基づくまちづくり・横浜に住む市民が生活の豊かさを実感でき、誰もが住みたくなる、持続可能なまちづくりの「方向性」が求められている。とりまとめようとしている「答申」には、「横浜の未来」がかかっている。歴史の試練に耐えうる「答申」内容でなければならない。そのためには、委員各位は部分的意見にとどまらず、まちづくりの「理念」を含む「方向性」についての見解を明確にして、市民に分かりやすい言葉で「論戦」をしていただきたい。「年内答申」のスケジュールに縛られずに徹底的に議論を尽くされるよう要望する。もう一つ、「答申」には、「答申」後の事業計画策定過程に「市民参加」をいかに保証するか態度が問われる。これはまちづくりの「方向性」の不可分の一部である。これまでのようなパブリック・コメント、ワークショップでは市民意見の反映は不可能である。市民代表が直接参加する「事業計画検討委員会」を設置していただきたい。これは次代のまちづくりの「方向性」と不可分のきわめて重要な「答申」すべき内容である。以上、「答申案」が議論される次回会合の課題と要望について述べた。以下に、この1年間検討委員会に提出してきた「意見」の締めくくりとして「答申」に反映させるべき総括的「意見」を述べる。カジノを止めた市民として、次世代に「誰もが住みたくなる横浜」をバトンタッチする責務を負って。その3に続く</p> |
|----|-------|------|---|

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 45 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>2、事務局が提出した資料5「第1回～第4回の意見のまとめ」は問題がある結論から述べると、資料5はきわめて作為的で、検討委員会における意見を公正に反映していない。まちづくりの「方向性」をめぐってどんな意見が出されたか、市民に分かりやすい資料をつくって提出し直すべきである。イ、16のカテゴリー区分による「整理」は恣意的で、大規模開発の「方向性」ありきの「答申」を導くものになっている。第一に、それは単的に「まとめ資料作成までの流れ」の図に表れている。図は「①学識者委員の皆様のパレゼンテーション」、「②地域関係団体委員の皆様意見書」、「③委員会での議論」、そして、「①～③の内容を踏まえて整理し、16のカテゴリーに分類」と4つの段階に分かれている。私たち市民が毎回提出してきた「市民の意見」の項目は設けられておらず、影もカタチもない。市民を置き去りにした、「市民不在」の検討委員会の運営の本質が、端無くも表れている。第二に、「16のカテゴリー別意見とりまとめ」は恣意的で、市民に分かりにくい「整理」になっている。この資料に作為性を感じるの、各委員の意見を16のカテゴリーに分解したことにある。なぜこの16のカテゴリーに区分するのか、そうするねらいや基準はなんの説明もない。そのうえで、「答申のイメージ(案)」には、「まちづくりの方向性」として「観光・インバウンド」「横浜の魅力・ブランド力の向上」「国内外から人々が集まる」「横浜経済を牽引」の4つと「次世代につながる持続的なまちづくり」が並列に並べられている。これはあまりにも恣意的な「整理」の仕方ではあるまいか? 「まちづくりの方向性」について整理しようとするれば、「次世代につながる持続的なまちづくり」に対応するカテゴリーをつくるべきであろう。たとえば、「大規模開発」というカテゴリーを設けるべきで、前の4つのカテゴリーをカテゴリーとして独立させたのは、不適切である。こうした事務局の16のカテゴリーによる「整理」には、「次世代につながる持続的なまちづくり」を主張した北山委員らには、不可解、不公正を感じさせたに違いない。さらに問題なのは、「市民のための再開発」というカテゴリーは設けられておらず、「市民合意形成、プロジェクト体制」という進め方に関わる別のカテゴリーにくくられている。こうして16のカテゴリーによる「整理」は、「答申」に求められているまちづくりの「方向性」についてどのような議論があったのか、市民には分かりにくく、混乱を持ち込むものになっている。さらに不適切なのは、その「整理」に基づく「答申のイメージ(案)」が、「市民不在」の大規模再開発のまちづくりありきの「方向性」へと導くものになっているということである。「観光・インバウンド」「横浜の魅力・ブランド力の向上」「国内外から人々が集まる」「横浜経済を牽引」の4つのカテゴリーを並べ立てることで、大規模再開発「必至」とイメージさせている。ロ、まちづくりの「方向性」については、2つの基本的に異なった見解が提示されている。公正で市民に分かりやすい議論を保証する資料の再提出を16のカテゴリーによる「整理」の問題点は、検討委員会のプレゼン、議論の中に、まちづくりの「方向性」について2つの基本的に異なった見解があることを認めようとせず、無理やり一つにまとめようとした点にある。私は、第3回検討委員会における今村委員の「東京圏の都市開発と横浜～新しい流れに沿って～」と題するプレゼンを聴いて、検討委員会にはまちづくりについて「2つの方向性」が提示されていると認識させられた。今村委員は、「東京大改造」の大規模再開発を推進している東急総研の会長として、これからのまちづくりの「方向性」は、海外ファンドから資金を集め、巨大デベロッパーが「事業性において説得力のある開発ストーリーを組み立てて」を進めるべきだと明け透けに述べたからである。それは、第2回検討委員会で提示された北山委員のまちづくりの「方向性」とは、基本的に異なるものであった。北山委員は、短期的利益を最大化する「方向性」ではなく、「文明の歴史的転換期にふさわしい」「定常社会の住民のための都市モデル」こそが追求すべき目標であると提起された。私は、あらためて各委員のプレゼンを振り返ってみて、両者のまちづくりの「方向性」の違いは、他の委員のプレゼンにも程度の差はあれ、含まれていると感じるようになった。第3回会合への「意見」として「まちづくりの『2つの方向性』が争われている」と概括したのはそれゆえである。もう少し正確に言うなら、「地域関係団体」の意見書説明は、大規模再開発に引き込まれてはいるが、その中間の「方向性」と位置付けるべきであろう。その4に続く</p> |
| 46 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>したがって、「答申」の議論を深めるには、山下ふ頭のまちづくりの「2つの方向性」、さらには中間の「方向性」について、それぞれの言い分が何であるかを整理することが不可欠である。そうして初めて、市民は検討委員会でどんな議論がされているのか理解できるようになる。事務局が提出すべきは、そのような市民を置き去りにしない、公正で分かりやすい資料である。委員各位は、その資料を基に、自らが主張する「方向性」を明確に示したうえで、市民に分かるように、なぜそうするのか、論拠をあげて「論戦」するよう要望したい。両者には、まちづくりの「方向性」について基本的な違いがある以上、無理やりひとつにまとめる必要はない。複数の選択肢が示されることは、決してマイナスではない。なぜなら、その「論戦」は、市民のまちづくりについての関心と知見を高め、「市民参加」を促進することになるからである。拙速的な官僚的手法による一つの選択肢の提示こそ、害あって益なしというべきである。結果として「両論併記」になった場合、どちらを選択するかを最終的に決めるのは、市民である。山下ふ頭は「市民の共有財産」であって、市民に決める権利がある。</p> |

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 47 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>3、カジノを止めた市民としての、「答申」に盛り込むべき意見 最後に、この1年間検討委員会に「意見」を述べてきた締めくくりとして、総括的に「答申」に書き込んでいただきたい意見を述べる。イ、「東京大改造」のような大規模開発の後追いは断固拒否！歴史的転換期にふさわしい「理念」を持ち、横浜市民が生活の豊かさを実感し、持続可能なまちづくりの「方向性」を 私たち市民は、今村、内田、アトキンソン委員らが強く主張する、海外ファンドに資金を依存し、巨大デベロッパーが推進する大規模再開発に山下ふ頭の未来をゆだねるわけにはいかない。「100年に1度の大規模再開発」ラッシュに猛進している「東京大改造」のようなまちづくりの「方向性」を後追いつことは、断固拒否する。なぜなら、第一に、その「方向性」は飛鳥田市政以来の先進的な都市づくりの経験と実績を継承・発展させようとしていないからである。というより否定、断絶するものと言ったら言い過ぎだろうか？飛鳥田市政は、「国際文化管理都市」という新しい都市像を示し、「誰もが住みたくなる都市づくり」「市民による都市づくり」という「理念」を掲げて、50年後の「都市づくり将来計画の構想」の下、6大事業のプロジェクト、コントロール、都市デザインの都市づくりを市民と共に進めてきた。結果、自律的な都市構造が形成され、市民は「横浜らしさ」を感じている。その重要な経験は、「都市美対策審議会」の設置、「都市デザインの7つの目標」などとして受け継がれてきている。それは2004年の「創造都市」構想につながり、「創造限界形成」「ナショナルアートパーク」などの戦略プロジェクトとして追求された。注目すべきは、その展開として2009年に山下ふ頭を含むインナーハーバー全域を対象とする「海都横浜構想2059」が提出されていた事実である。それは、2015年のIRカジノ導入の前捌きとしての「都心臨海部再生マスタープラン」によって棚上げされたが、人口減社会を想定したものであり、今回の「答申」を議論する際に参考にすべき構想である。大規模開発を唱える人々には、短期的利益をいかに最大化するかに腐心するあまり、こうした横浜のこれまでのまちづくりの画期的な成果と経験にはまったく眼を向けようとししない。第二の理由は、これからの歴史的転換期は、人口減、格差社会、生成AIなどの技術革新、気候危機などリスクが多く、どのような都市をつくるべきか深刻に問われる。改めて「誰もが住みたくなる」、住民第一の「理念」が切実に求められる。にもかかわらず、大規模再開発を唱える人々は、「理念」などそっちのけの、短期的利益の最大化を「目的」とする都市づくりに盲進しようとしているからである。この点について私は、第3回検討委員会への「意見」の中で、今村委員のプレゼンに関わって批判した。80年代の中曽根「民活」から始まって、小泉政権による「都市再生特別措置法」を画期とし、安倍政権の「国家戦略特別区域法」に至るまで、政府が都市開発にかかわる規制を次々に撤廃、緩和した歴史的経過を詳しく暴露した。それは都市のあり方を巨大デベロッパーと(「不動産の証券化」を契機に)海外ファンドにゆだねる過程であり、東京圏の自治体が追随した過程であった。今日の東京都心部で大規模に展開している「東京大改造」は、その帰結であって、廃都への道に突き進んでいると言っても過言ではない。50年後の山下ふ頭のまちづくりが、その後追いのような「方向性」をとるべきでないことは、誰にとっても明らかであろう。私たち市民にとって望ましいまちづくりの「方向性」は、北山、幸田委員らが示したものである。検討委員会では少数派だが、市民の多くが支持、賛同できるものである。とりわけ北山委員は50年後の山下ふ頭のあり方を検討するにあたって、飛鳥田市政以来の都市づくりの経験と実績をあらためて紹介し、その経験を踏まえて50年後の「次代につながる持続的なまちづくり」の「方向性」を提示した。「『住人のための都市』という考え方が一番最初にある」まちづくりの「理念」を掲げ、かつ時代の転換期における定常社会を想定して「都市は資本活動だけでなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを感じられる場にする」という「方向性」である。それは決してユートピアでない。300人を超す市民有志「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」プロジェクトが1年がかりでまとめた提言書が物語っている。「海と街の有機的なつながりを取り戻し、将来につづく、豊かな横浜」という「理念」を示し、「市民共創エリア」「大岡川運河とのつながり」など「導入すべき機能」も盛り込んでいる。これをたたき台に市民はさらに充実発展させようと運動を継続している。これこそ、「答申」に書き込んでいただきたい。</p> |
|----|-------|------|--|

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 48 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>その1から続く これこそ、「答申」に書き込んでいただきたい、市民のためのまちづくりの「方向性」である。口、事業計画策定に「市民参加」を保証する問題は、「市民重視」の試金石 私たち市民が望む「市民のための」まちづくりの「方向性」を実現するには、それが「答申」に盛り込まれるだけでは足りない。事業計画の策定過程に、「市民参加」が保証されるかどうか実現するかどうかの決定的な条件となる。カジノを止めた私たち市民は、検討委員会において「市民参加」がどのように議論され、実践されるか、「1丁目1番地の課題」として一貫して追求してきた。だが、この1年間を振り返ってみると、その期待が裏切られたというのが、率直な気分である。検討委員会に先んじて2年前から行われた2度にわたる市民意見募集、ワークショップまで立ち返ってみても、はじめのうちは幻想を抱かせたものの、時間と共に幻滅に変わり、今日、怒りに変わっている。したがって、「市民の意見・理解に重きを置いて進める」と言うなら、「答申」を受けてはじまる事業計画の策定過程に「市民参加」を保証する仕組みをつくらなければならない。市が事業計画(案)をつくり、それに市民意見、パブコメを募集するという従来型のやり方を改め、事業計画の策定過程に市民参加を保証するやり方に転換しなければならない。第4回会合における幸田委員の提案・・・市民が過半数を占める「事業計画検討委員会」を新たに設置するなど・・・は、その具体案である。幸田委員の提案は、IRカジノ誘致の反省に立って提起されたもので、これまでの「市民参加」の壁を突破する画期的な意義がある。それは決して突飛な理想論ではない。山下ふ頭のあり方に対する市民の関心の高さは、検討委員会開催に先立って行われた市民意見募集が1回目3221件、2回目1284件、意見交換会にも221人、172人の老若男女が参加したことに示されている。この関心の高さは、市民代表が過半数を占める事業計画検討委員会を設置すべき必要さを示している。市民に専門的知見を必要とする事業計画を議論できる能力はあるのか?これには、「みんなの山下ふ頭に〇〇があったらイイナプロジェクト」の提言書をまとめた事例をあげよう。しかもそれは氷山の一角にすぎず、飛鳥田市政以来の先進的まちづくりを担い、知見を持つ人材は、市民の中に、市職員の中に数多く蓄積されている。Bankart1929、濱橋会、海洋市民大学、諸々のまちづくり団体、県内大学教員・学生などなど。この市民の力を信じ、そこに依拠できるかどうかこそ、市が「市民の意見・理解に重きを置いて進める」運営の試金石となる。 私たち市民は、幸田提案を断固支持し、「答申」に書き込むだけでなく、事業計画の策定過程に「市民参加」を保証する、市民が過半数を占める「事業計画検討委員会」を設置するよう強く要望する。 その3に続く</p> |
|----|-------|------|--|

| | | | |
|----|-------|------|--|
| 49 | 保土ヶ谷区 | 70歳代 | <p>ハ、瑞穂ふ頭の米軍ノース・ドック問題をスルーしてはならない この問題は私たち市民が第1回会合から一貫して要望してきたが、検討委員会では藤木幸太委員も発言され、注目していた。瑞穂ふ頭、米軍ノース・ドック問題である。インナーハーバーの「顔」に当たる瑞穂ふ頭は、山下ふ頭よりも広く、ポテンシャルのある横浜の発展にとって、最大かつ危険な阻害要因となっている。それゆえ、行政、市会、市民が一体となって早期返還を求めてきた。にもかかわらず昨年1月の日米2+2で、南西諸島と結ばれる対中国戦略の物資・要員の補給拠点として部隊新編、配備されることになって事態は逆行、戦場になりかねないリスクを負うことになった。山下ふ頭は、瑞穂ふ頭の代替ふ頭としてつくられた因縁もある。山下ふ頭の入り口には、「平和でこそ港は繁栄する」という横断幕が設置されている。横浜港労働組合協議会によるもので、開港以来横浜港で働いてきた労働者の思いが込められたものである。検討委員会がこれは国政問題だからとして何一つ発言しないとすれば、見識が問われ、無責任のそしりを免れまい。50年後の山下ふ頭のあり方を検討した委員会が、ノース・ドックに居座り続けることを容認すべきではない。ノース・ドックへの「配備中止、即時返還」を「答申」に書き込んでいただきたい。二、若干の疑問に答える 問われているのは、誰のために付加価値を付けるのかである 1)で述べた市民のためのまちづくりの「方向性」について、「横浜経済は発展しなくていいの?」「市財政はどうなるの?」などの批判が聞こえてくる。それについてまずは、大規模開発の「方向性」を唱える人々がどの程度の横浜経済の発展を見込んでいるか、再開発の収支を含めた試算を提示してもらわなければならない。大規模開発のために、膨大な市財政投入を必要とする提案もあった。それが「市財政の収支」にどのように資するのか明らかにしていただきたい。往々にして、とらぬ狸の皮算用になりかねない現実がそここの再開発に多く見られる。そして肝心なことは、誰のための付加価値を付けるかである。第1回会合で寺島委員長(当時)は、検討委員会の役割に触れ、山下ふ頭の付加価値を付けることだと言った。それに対して私は、「問題は誰のための付加価値を付けるか」だと返した。大規模開発を唱える人たちは、市民のために、どの程度の付加価値を付けようとしているのだろうか? 大規模開発を唱える人々には、この点についての根拠ある数字を示す責任があろう。そもそも山下ふ頭は、市有地、すなわち「市民の共有財産」である。市民にはそれを決める権利があることを忘れてはならない。そのうえで考え方だけ若干示しておきたい。第一に、横浜経済発展の効果は、山下ふ頭のあり方だけから算定できないということである。例えば、観光、インバウンドの経済効果にしても、都心部5地区の相互関係がどのようになるかによって変わってくる。相互関係の中で市民のための山下ふ頭のあり方の存在価値が高まれば、旅行者を引き付け、経済効果も高まるに違いない。住民にとって生活の豊かさを感じるどころが、観光地としても評価されるようになっていく。第二に、それとは反対に山下ふ頭を大規模開発することで過度な経済効果を期待したものの、部分最適が全体最適とのバランスがなくなって市財政への効果は期待はずれに終わることは大いにありうることである。蛇足ながら第三に指摘してすべきは、市が示している45年後の「長期財政推計」に基づく「財政の収支差」のデータは、あてにならない超長期の推計値に過ぎない。他市の財政の推計値は、5年~10年で、10年以上はごくまれであるということである。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
| 50 | 神奈川区 | 30歳代 | <p>①「横浜経済(日本の経済)を牽引」というキーワードに対する各委員の想いが強いと感じた。また北山委員や涌井委員が言われている「長期的な視点を持った開発」に対しても共感するところがあり、それに向けた「現実的な目標スケジュール」を組み立てる必要があると感じた。市の人口減少による財政悪化への対応等は待ったなしの状況であり、当初より市が考えているR8年頃の事業化、R12年頃の供用開始はあまりに現実的でないと思うので、答申を機会に今一度、目標を明確にしていきたい。②交通関連の課題は複数の委員から課題提起されており、地元の間人としても重要であると考えている。事務局側の見解は「臨港幹線道路の整備を国に要望している」という話に終始していたが、既に10年近くの要望を出している中で、このままではいつまでたっても臨港幹線道路の整備は進まないと思う。国直轄事業だけが正解ではないと思うので、市としてもできることを検討いただき、答申に「アクセスの課題に対して、臨港幹線道路や交差点改良等のインフラ整備を前提とする」等の宣言をすることで、国または市によるインフラ整備を促し、民間事業者による投資を呼びやすい計画としていただきたい。③涌井委員のコメントがあったパブリックリザーバー的な考えについては賛成。ただし単純に広場を計画するというだけでなく、段階的な開発の余地を残した空地(広場)など時間軸と併せたフレキシブルな活用ができるようなことができれば、前回に内田委員が言われていた「投資が継続する」ような開発ができるのではないだろうか。</p> |
| 51 | 中区 | 30歳代 | もう年末の答申まで委員会の開催ないんですか? |
| 52 | 磯子区 | 50歳代 | <p>年内に答申を出し、これを受けて今後どのように進めるのかよくわかりませんが、いろいろ手続きを踏んで建設すると、この再開発が実現するのは約10年後だと思う。であれば、市民の意見を聞くにしても、計画素案を作るにしても中心を担うのは中堅層(40~30歳代)や若年層(20歳代以下)にして、大いに夢を語って実現して欲しい。なぜならば、再開発された山下ふ頭を末永く利用しその利益を享受するのはこの年齢層とそれよりも若い世代、そして生まれてくる子供たちだから。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 53 | 瀬谷区 | 70歳代 | <p>山下ふ頭再開発に関する私見（４－１） １）7月12日の検討委員会では、子供騙しの施設でTDL並みの収益が得られるとの妄想のような提案を聞き大変驚きました。山下ふ頭再開発検討委員会には様々な分野の専門家が集まっておられるので、議論の方向がバラバラになり勝ちなのはやむを得ない面がありますが、インバウンドを増やすことだけが目的の提案に終始する委員で議論を進めて、果たして胸を張って報告できるような答申がまとまるのかと心配しておりました。しかし8月22日の検討委員会では、隈委員のプレゼンによるNYセントラルパーク等を例示しての「緑中心のウォーターフロントで街づくりをする構想」は大きなインパクトがあり、平尾委員長の「横浜市民が誇りに思えるような開発をしよう」の話、藤木幸太委員のウォーターフロントにも緑が必要の意見など、ようやく大きな方向性がまとまりかけてきたようで、安堵しています。また、横浜市は財政不足を山下ふ頭だけに押しつけず、横浜の財政問題は横浜全体で考えるべきであり、山下ふ頭の再開発は50年先になっても自慢できるものにしたと北山委員や藤木委員の大局的見地からのご意見に意を強くしたのは私だけではないでしょう。 ２）幸田委員の7月12日の「事業開発計画の策定に市民参加を」の提案ですが、今村委員の1月12日の「市民の参加によってプロジェクトの成功確率が高くなる」との説明や明治神宮外苑の開発問題なども加味すれば、事業開発計画の策定を市民参加で行うことは、今後ますます重要になっていくと思えます。ただしここでの「市民参加」ですが、単なる言葉だけでなく実効性のあるものにすることが必要です。幸田委員の提案にあるよう、従来の方式は、市民意見募集の後で市が事業計画を策定するため、市民意見が実際に反映されず形だけの市民参加になる可能性があります。それに対して幸田委員の提案では、市が提示した事業計画案を元に、事業計画検討委員会で市民や学識経験者等を加えて内容を検討し直して事業計画を策定するため、市民意見を計画に反映させる実効性の高い方式になることが期待できます。市民参加の具体的な制度設計は今後詰めることにして、私は、大きな視点からこの方式に賛同します。ただ、このままでは山下ふ頭再開発検討委員会は開発計画を策定するための方向性を羅列した答申を提出するだけで終わる可能性が高くなります。今回の議論は、今後の都市開発のモデルケースになるような仕組みを構築するための方向付けをすることです。その点から、市民参加で事業開発計画を策定することを単なる作文ではなく、横浜市の条例として定めることが必要と考えています。なお、行政府の立場からは、市民参加によって面倒な仕事が増えることにはなりますが、「道を誤らないためには手間と時間がかかる」ということを肝に銘じて、横浜市の担当者の皆さんには実効性の高い市民参加制度を構築していただきたく思います。 ３）山下ふ頭再開発検討委員会はIR誘致計画の反省の上に立って開催されているとのことですが、IR誘致計画と同様に反省点の多い事例が他にもあります。それは「旧横浜市庁舎跡地の再開発計画」です。この問題の詳細な経緯は省きますが、2016年頃から市民不在で旧市庁舎跡地の再開発の議論が行われ、2019年になって旧市庁舎建物が7700万円という破格の安値で売却されることが明らかになりました。これに不信感を抱いた市民団体により民事訴訟が提起されたのですが、残念ながらこの計画を中止することはできず、2021年9月末に、横浜市と事業者グループとの本契約が締結され、現在工事が進んでいます。この再開発計画で看過できない点は、不動産価値が10億円程の旧市庁舎建物を破格の7700万円ですべて売却する決定を行ったのは横浜市財産評価審議会ですが、その決定のプロセスが全く開示されないことです。現在進行中の民事訴訟で、どのような議論で価格決定を行ったのか開示を求めても、「横浜市財産評価審議会条例」で財産評価審議会の会議と議事内容は非公開と定められていることを盾に、黒塗りのデータが開示されるのみです。</p> |
| 54 | 瀬谷区 | 70歳代 | <p>山下ふ頭再開発に関する私見（４－２） ４）この事例からも、答申案で「市民参加で事業開発計画策定を行う」と明記することは最低限必要ですが、それだけで事業開発計画の透明性が保証されるわけではありません。市民参加で事業開発計画を検討するとしても、資金の出入りに関する議事内容が非公開とされている限り、グレーなままでも開発計画が策定される可能性があります。したがって議事内容を非公開と定めている「横浜市財産評価審議会条例」を改訂し、「事業開発計画に関する議事内容は原則公開とする」ことを答申案に書くべきと考えています。 ５）以上論じた内容をまとめると、「答申のイメージ（案） 3. 再開発に必要な視点 ■市民合意形成、プロジェクト体制」のセクションで、「▲一定規模以上の開発計画は、市民参加の事業計画検討委員会で計画を策定する、 ▲事業開発計画に関する議事内容は原則として公開する、 の2点を横浜市条例として定める。」と明記してください。 ６）なお、相も変わらず、収益性を力説する経済人が多いので一言付言しますが、大和市に「シリウス」という図書館を中核にした複合施設があります。ここは5階建ての図書館で、芸術作品を展示できるギャラリーや演劇・講演ができるホールも併設し、コンビニや喫茶店もあってコーヒーを飲みながら読書ができる素晴らしい施設ですが、この建設費が150億円と聞いております。横浜市は「ふるさと納税」で毎年、実質的に75億円の税収減を被っていますが、この減収額は2年分でシリウス1棟を失っている勘定です。また75億円あれば、高橋委員から要望のあった中区の老朽化した消防署を新築することも容易なはずで、私が力説したいのは、この減収は一過性のものでなく、今後も増え続けるということです。したがって横浜の財源不足が深刻と主張する人達は、横浜市のみならず横浜の経済界を挙げて、ふるさと納税制度の廃止を政府に求めるべきでしょう。（以上）</p> |

| | | | |
|----|----|------|---|
| 55 | 西区 | 70歳代 | <p>年内答申がほぼ既定となっているようだ。第5回検討委員会では「第1～4回の意見のまとめ」に加えて「答申イメージ（案）」まで事務局から提示された。それについて、まず大いなる疑問と異議がある。なぜ年内答申が必至なのか。至上命令なのか。そうだとすれば誰のどういう理由に因るのか。地域関係団体も含めてすべての委員の意見表明・説明がなされたが、その要約でもって事務局が強引に答申に結び付けようとするのは拙速過ぎる。第一に答申（案）を事務局が提起し、それを基に検討委員会で論議を経て答申に仕上げるプロセスはそもそもおかしい。答申はあくまで検討委員会自体で作成、決定すべきである。一通りすべての委員からのPresentationが終わったとはいえ、それはそれぞれの分野、立場からの意見表明あるいは説明であって、それらを基に活発な意見交換や論議というのはいっさいおこなわれていない。いわば、言いつ放し、聞きっぱなしといても過言ではない。第4回検討委員会において退任した寺島委員長に代わって平尾委員がその後任に選出された際、氏は繰り返し意見交流を深める、意見交換の時間を創る旨を発した。だが、実態はそうではなく、近づいてすらない。検討委員会発足に当たって、その任務、役割り、責任が十分に明確にされなかったこと、さらには事業をどのように展開するかのRoad Mapが不在のまま進められてきたことに問題がある。今さら原点に戻るわけにはいかないが、今後は次のように進めるべきである。数々提出された市民からの意見を検討委員会としてどう受け止めたのか、受け止めるべきかを徹底して議論し、街づくりの方向性や再開発に必要な視点に取り込むべき意見類を整理すること。その上でどれを答申に反映させるかを真摯に検討、選択することが必須の作業である。そもそも検討委員会に市民代表は初めから排除されてきた。とすると提出された市民意見はその代替である。市民意見の尊重、市民の合意形成を謳うのであればそれらに誠実に向き合わなければならない。もっとも尊重すべき重要な意見は、経済の牽引、Inboundも射程に入れた賑わいの創出、ブランド力の向上などを意図した大規模開発による短期的な利益や財政への寄与の最大化ではなく、「市民による市民のための開発」、「50年～100年を見据えた未来の市民のための都市構想」、「IRカジノ誘致の反省を踏まえた事業プロセスの公明正大化、透明化」、「市民参加の保証」である。各委員にはこれら市民の意見や要望を自らの意見、提案と重ね合わせながら、どのように汲んでいくのがあるべき姿かを真摯に熟考してもらいたい。その上でそれぞれが発した意見、提案に拘ることなく検討委員会として遠い未来にまで責任を持つ最善、最良の方向性を答申の骨子とすることを強く望む。まもなく提示されるはずの事務局からの答申（案）に惑わされてはならない。どのような内容を検討委員会が答申としようが、決して落としてはならない絶対的要件がある。それは市民参加のあり方である。横浜市がこの検討委員会で示してきた姿勢から察するに、答申に基づいて作成した事業計画（案）について市民意見募集や意見交換会を催して事業計画を策定しようとする可能性が極めて高い。すなわち従来の事業の進め方に等しい。典型的に、IRカジノ誘致においては市民の大半がPublic Commentや公聴会などで反対の意思表示をしたにも拘わらず、市は強引に誘致を推し進めた。市民の声を聴いたとするアリバイ作りに過ぎなかった。誘致が失敗に終わると「市民の理解が足りなかった」という本質を捻じ曲げた居直りを見せた。他のさまざまな事業やプロジェクトでも同様の実態が見られた。いわば茶番のようなかかる市民参画を排するためには、事業計画を策定するための公正、中立な事業計画検討委員会を設け、その過半数の委員を市民が占めるようにしなければならない。第4回検討委員会（2024/7/12）で、幸田雅治委員が提起した最重要提案であり、これを断固支持する。検討委員会が答申自体に本提案をしっかりと盛り込むことを強く求める。</p> |
| 56 | 西区 | 70歳代 | <p>これまで非常に多くの意見提出者が掲げた極めて大事なテーマがある。それは瑞穂埠頭の米陸・海軍基地であるNorth Dock（以降NDと略す）である。第5回委員会ですぐに藤木幸太委員が瑞穂埠頭の返還を一言発したに過ぎず、Inner Harbor全体の中でこの瑞穂埠頭をどう位置づけるか、NDの返還をどう実現させていくのかについてまったく議論されていない。横浜市は表向きNDの早期返還を求めてきたとしているが、国の専管事項として主体的、能動的な取り組みは行ってこなかった。2015年の「都心臨海部再生マスタープラン」も瑞穂埠頭は恣意的に除外していた。2023年1月の日米2+2で米陸軍の小型揚陸艇部隊の新編が合意され、2024年2月には同部隊「第5輸送中隊」の運用が開始された。県、市共に新編に伴う情報提供や市民の安全・安心のための対策要求に矮小化し基地の早期、全面返還の絶対的的要求をトーンダウンさせている。しかし、それは横浜港が戦争の準備と遂行のための拠点になることを容認することになる。自治体としての自立、存立に鑑みて、山下埠頭のあるべき姿を検討するに当たっては、ND問題を議論の対象外にするのではなく徹底的に議論し、委員会としての矜持をしっかりと示すべきである。</p> |

| | | | |
|----|------|------|--|
| 57 | 瀬谷区 | 70歳代 | 山下ふ頭再開発に関する私見（４－３）最後に少し気になっていることを書きます。それは、山下ふ頭再開発検討委員会の冒頭挨拶をIR誘致を策謀した林前市長時代からの副市長が行い、山中市長が挨拶に出て来ない点です。私は3年前、カジノ反対の立場から山中氏に一票を投じたのですが、その後、山中市長から「横浜の街づくりをこうしたい」との考えを聞いたことがありません。この人物は横浜の街づくりに確固たる考えを持っているのでしょうか、周りの役人や政治家の意向に沿って動いているだけなのではないのでしょうか、果たしてこの人物に横浜の街づくりを任せて良いのだろうかと心配しています。横浜市長の口から「横浜の街づくりはこうあるべきだ」との哲学を聞きたいと思っているのは、私だけではないでしょう。多くの横浜市民が横浜市長の決意を聞きたいと思っていますでしょう。（以上） |
| 58 | 中区 | 50歳代 | 近隣住民が家族で利用できる駐車場付きのリーズナブルなスポーツ施設（テニスコート等）が欲しい。 |
| 59 | 西区 | 50歳代 | お世話になっております。こちらは横浜の住民で、山下ふ頭の再開発は凄く期待しています。こちらの考えはシンガポールの成功例を参考できると思います。①景観形成、100年先に見据えて、横浜市を世界にアピールできるシンボルになる建物を建てる必要があります。ある程度高さがあって、空中、海、山から見て分かるようにすればよいと思います。（シンガポールでホテルの屋根に船のような識別度の高いもの）②海とハーバーとのコンセプトを活かし、国内外観光者やお金持ちを誘致します、お金を落とすため、ある程度例えばヨット、少しゴージャスなマリンスポーツ、水上ショー、③将来に見えて、収入源になるもの、IRを否定されましたが、将来財政が悪くなれば、制度改正で復活できる施設が必要ではないか モナコの例を見ると、映画、ファッション、最先端技術を利用したレーザー、ロボット、AI適用で、新しい娯楽、ギャンブル類④海上のスペースを活用する、山下ふ頭は広いと言え、その延長線上に海上スペースをうまく利用してもよいと思います。ランドマークタワー、大さん橋から見えて、ペーブリッジと合わせて、現代風景になるものを考えて頂きたいと思います。 |
| 60 | 西区 | 50歳代 | 景観形成について |
| 61 | 神奈川区 | 20歳代 | 横浜の産業を活性化させるべく、会社の本社誘致やテーマパーク・IR等の複合施設がよいのではないのでしょうか。横浜は住民税の割合が高く、今後高齢化社会で残っていけるのか懸念しております。 |
| 62 | 中区 | 40歳代 | 山下ふ頭再開発提案書 本提案は、山下ふ頭の再開発を通じて、日本全国と海外の食文化が交差する総合施設を創設するものです。本施設では、日本全国の自治体が誇る食事や特産品を提供するとともに、Eatalyのように世界各国の食文化を楽しめる店舗を併設します。国内外から訪れる来場者は、全国の自治体の魅力的な食文化を体験できると同時に、ふるさと納税を活用した地域支援をその場で行うことが可能です。さらに、山下ふ頭が保税地域である特性を活かして、輸入食品に対する消費税の軽減措置が実現すれば、コストを削減しつつ国内外の観光客に魅力的な価格で提供することを目指します。本提案は、日本全体の地方創生を図ると同時に、横浜市と神奈川県に持続可能な経済成長と税収拡大を実現するものです。本施設の主な機能としては、1.日本全国の食文化と特産品の発信（各自治体が飲食や物販ブースを設置し、地元ならではの食事や特産品を提供します。来場者は日本各地を旅する感覚で、郷土料理を楽しみながら地域の魅力を学ぶことができます）、2.ふるさと納税を活用したワンストップサービス（日本の利用者は施設内で食事や商品を購入しながら、ふるさと納税制度を通じて地域支援をその場で完了できます。これは、消費と納税を一体化させた新しい体験型サービスです）、3.海外の食文化発信と多文化交流（世界各国の料理や食材を提供する店舗を併設します。日本の来場者には異文化体験を、インバウンド観光客には世界と日本が交わる特別な場を提供します）、4.港湾地区の特性を活かした輸入食品の効率的流通（山下ふ頭の保税地域としての港湾特性を利用し、輸入食品にかかる消費税の軽減措置が可能であれば、海外食材の価格競争力を向上させ、多国籍な魅力をさらに引き出します）の4点です。続く |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 63 | 中区 | 40歳代 | <p>山下ふ頭再開発提案書 続き 以下の仮定に基づき、経済効果を試算しました。年間来場者数は国内外合わせて300万人（横浜市中区を訪れる観光客約2300万人の10パーセント程度が来場すると仮定）。1人当たりの平均消費額を施設内5000円、施設外1万円と想定し、宿泊客の割合を30パーセント（約100万人）と設定しました。その結果、施設内直接収益は年間300万人×5000円で1500億円、施設外消費（宿泊や観光、飲食など）は300万人×1万円で3000億円と試算しています。また、税収効果としては、消費税（税率10パーセント）150億円、宿泊税2億円、その他観光消費や雇用創出による所得税を含めて200億円以上が見込まれます。さらに施設運営に伴う直接雇用1500人、関連産業での間接雇用3000人の雇用創出も期待できます。輸入食品については、年間取扱額200億円を目標に、消費税軽減措置が実現すれば20億円から30億円のコスト削減効果を見込みます。本提案によって横浜市と神奈川県が得られる具体的なメリットとしては、地方自治体との連携による収益確保（施設内で自治体が出店する際の賃料収入を横浜市や神奈川県に還元する仕組みを整備し、地元産業や神奈川県内自治体の出店を促進することで県内経済を活性化）、観光誘致力とブランド価値の向上（横浜市が食文化の国際的拠点として認知されることで観光地としての価値が向上し、国内外の観光客を呼び込む効果が期待されます）、地域全体への波及効果（来場者による周辺観光地や宿泊施設の利用が促進され、地域経済全体が潤います。また施設を訪れることで新たな観光需要が生まれます）、持続可能な収益モデル（国内外の観光需要を取り込み、施設の収益を維持しながら横浜市と神奈川県の税収増加を実現）、輸入食品市場の拡大と多国籍な魅力の強化（消費税軽減措置を活用し、輸入食品の価格競争力を向上させ、施設の多国籍な魅力をさらに高めまます）などがあります。本施設は、「食文化の交差点」をテーマに、日本全国と海外の食文化が融合する独自性の高い観光および商業拠点を創設するプロジェクトです。本提案は、地方創生を促進するとともに、横浜市と神奈川県の観光振興と経済成長を推進します。この施設は、自治体、横浜市、神奈川県、そして訪れる全ての人々に新たな価値を提供します。横浜市のさらなる発展に寄与するため、ぜひご検討いただけますようお願い申し上げます。</p> |
| 64 | 青葉区 | 70歳代 | <p>いろいろな検討、ありがとうございます。これまでも、委員会を傍聴（録画含む）して意見を出してきました。早い段階で、答申含め最初から市民が参画できることを要望してきました。このような要望は私だけではないと思います。委員会でどのように話がされているのでしょうか。初代座長の寺島氏も「市民が参画できるものを意図することが問われている」と発言をされていたと思います。市民参加含め、運営の仕方でも意見がまとまらなかったから辞任されたのか、その方向にもっていったのかはわかりませんが、すくなくとも、IRカジノを市民が否定したということを中心に考えると、市民参加のない形での答申、計画作りはあり得ないと思います。委員内部で開発の方向性についていろいろな意見があるのは当然としても、市民参加を前提することで一致してください。それなくしては、山中市政の評価も大きく変わります。</p> |
| 65 | 青葉区 | 70歳代 | <p>11月8日の市民のための山下ふ頭シンポジウムが開かれ、参加した。二人の先生が話をされ、ともに開発計画に「市民が参画することに意義がある」と話をされた。このことを実現してほしいと思う。パブコメやグループインタビューなどで市民の声を聴く、という一時的なものではなく、計画に参画することが将来にわたって意味のあるものになる。市民を参画させる方法は、いくつもありどれが一番いいとまでは言えないが、どれでもいいから計画に参加して最後まで見届ける市民を少しでも多くつくるのが、山下ふ頭の開発をよりよいものにしていくことにつながると思う。シンポジウムでは、「公募市民」「無作為抽出の市民」「両方者の組み合わせ」などが出されていた。また、第4回検討委員会での幸田委員の以下の発言が紹介された。「事業計画検討委員会を設置し、委員の半数以上を市民とするとともに、市民の合意形成の実効性を高めるための手続の下で進めるべきである」既に、現検討委員会でも出されている視点でもあり、複数の事業者も委員会に入っているのが実態である。市民の声は必要に応じて意見公募している、とうことではすまされない重要なポイントだ。必ず実現してほしい。市民の税金も使われている委員会でもあるし、開発にも市民の税金が使われる事業でもある。（企業負担で行政の負担はない、というような本末転倒の考えはないと思うが）</p> |
| 66 | 中区 | 50歳代 | <p>このたびは僭越ながら、以下、市民のとして意見を述べさせていただきます。開発計画では、歴史のある古い建物を壊さず、樹木を切らずに、文化歴史の維持に期待しております。よくある近代的なデザインの建物が乱立しては、横浜の個性が失われ、東京にいるのか、横浜にいるのか、違いがわからず、来訪者の興味はかえって失われると思います。関内の歴史的建造物は残して、周囲は、むしろ、それに近いデザインで、明治や大正時代のイメージを再現するほうが、横浜の魅力がイキイキと生かされると思います。イメージとしては、大正ロマンの建物やインテリアです。言い方は悪いですが、建築家の個人の自己満足ではなく、横浜のレガシーを忠実に模倣するような建物、街の再現を目指すべきだと思います。また、カジノにはまったく反対ではありません。横浜市の財源が増えることが大切だと思います。東京の外国人観光客を横浜へと引っ張ってくることに期待しています。みなとみらい、関内、山下埠頭、本牧の三溪園まで、みなとみらい線の延長計画を再度検討すべきだと思います。以上</p> |

| | | | |
|----|-----|------|--|
| 67 | 鶴見区 | 70歳代 | <p>横浜市港湾局 新保康裕局長 ○○代表 ○○ 市民の意志と力でカジノ事業を撤廃させた市民には、山下埠頭再開発の在り方に関して責任があるとの認識の下、私たちはこの問題に大きな関心を寄せて来ました。これまで五回開かれた検討委員会を欠かさず傍聴し、議論を注視するとともに、会議後に募集される意見、要望等も数多く出し続けて来ました。検討委員会が二年目に入り、いよいよ答申案が作成される時期にあたり、以下の要望をします。 要望項目 1 従来の意見募集や意見交換会だけでなく、「事業計画検討委員会」に市民の代表委員による参加を求め、実質的な合意形成の場への市民参画を実施すること。 2 1の提言を検討委員会の答申案に明記すること。経緯と理由 カジノ誘致の際の市民を置き去りにした進め方への反省からも、山下埠頭再開発の進め方には「市民参画」が欠かせません。第1回検討委員会冒頭での「このプロジェクトを進めていくにあたっては、市民の皆様のご理解が不可欠です。これが1番基本的なことであり、この山下埠頭再開発のコンセプトのベースになるものであると考えております。」という山中市長の挨拶にもあった通りです。平尾委員長も「市民による市民のための市民の再利用」との言葉で「市民参画」を謳っています。そして、第4回検討委員会では、幸田委員から「事業計画の策定手続きは市民参加の手続きとすべき」と指摘があり、検討委員会からの答申が出された後に、「事業計画検討委員会」を新たに設置し、そこには市民の代表委員が過半数を占めるようにするとの画期的な提案が出されました。さらに、事業に応募できる事業者は、「事業計画検討委員会」を毎回傍聴して市民要望の何たるかを理解したものに限りという条件が示されました。また、市民10人以上の連署による公聴会の開催請求の提言もなされました。しかしながら、第5回検討委員会で出された資料「第1～4回の意見のまとめ」を見る限り、検討委員会の議論がこのまま推移すれば、この山下埠頭再開発の進め方においても、「市民による」再開発とは名ばかりの、意見を言うだけ、聞くだけの「市民参画」で終わってしまう懸念が拭えません。市民の合意形成の実効性を高めるには、従来の意見募集や意見交換会では全く不十分であり、事業計画を策定する議論の場に市民が参加することが必要不可欠です。</p> |
| 68 | 港北区 | 70歳代 | <p>ワークショップや意見募集が市民参加であると思違いしているのでは？市民参加の構築論議がスッポリと抜け落ちて、各委員の見識を開陳しているだけで具体的なプランをどの様に提示できるかの論議が無いのは駄目でしょう、これでは市民が事業計画に参画できる答申になるのか疑問を覚えています。 幸田委員の市民が過半数の事業検討委員会はパブリックスペースの在り方を市民が責任を担う仕組み作りとして日本に於ける嚆矢となる、お任せではない国策であるカジノを止めた市民の責務です。 平和でなければ私達の生活暮らしは維持できない、横浜港のど真ん中に位置するノースドックの存在を許しがたいと平和をシッカリと打ち出すシンボルとなるものが重要です。戦争を呼び込む施設はいらないと平和は不断の努力が大切とのメッセージを世界・将来世代に伝えていくことが私達市民の役割です。</p> |
| 69 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「山下埠頭再開発検討委員会」に対する意見 山下埠頭再開発検討委員会 平尾委員長 様 ○○会員 ○○（60代男 鶴見区在住） 標記、「山下埠頭再開発検討委員会」（以下、「検討委」という）において各委員の発言等について、当方の希望・意見・疑問を述べさせていただきます。 検討委及び検討委事務局に、当方及び市民からの意見が反映されますよう、ご配慮をお願い申し上げます。</p> <p>記 1 市事務局・港湾局は、第5回検討委（実質的には第4回まで）を終えた段階における各検討委員によるプレゼン・地域関係団体委員の意見表明だけをもって、「答申」を取りまとめようとしております。貴氏・委員長におきましては、是非、こうした前のめりになっている市事務局の姿勢を諷め、検討委のうしろに控え・聞いている市民の声を十分反映していただけますよう、働きかけをお願い致します。 2 市事務局は、先の第5回検討委において「答申とりまとめのイメージ案」、「第1回～第4回の意見のまとめ」等を検討委に提示し、「『答申』取りまとめ近し」との圧力をかけた、と当方は感じました。貴氏・検討委員長におかれましては、かかる市事務局の圧力に屈することなく、市民の意見がしっかりと反映されますよう、検討委におけるご配慮を、市事務局との調整をお願い致します。 3 これまで私たち市民が各回の検討委開催後に提出してきた意見に対する市事務局の取扱いを見る限り、また第5回検討委で提示された「答申とりまとめのイメージ案」を見る限り、市民の意見はほとんど反映されない、との危機感を抱きました。そこで私たち市民は、11月8日に本件に関する街づくりや行政の学識経験者等を招き「シンポジウム」を開催し、市民が共同して声を上げることにしました。その成果として「答申」にどのように市民の声を反映させるべきかの共通認識ができたと思っております。同シンポジウムにおける市民の声・最大公約数を「意見書」として取りまとめ、市事務局・港湾局を通じ（11.22 市事務局のウソがない限り）貴氏・検討委員長あてに手渡してもらい、伝わっているものと思料いたします。「答申」とりまとめに当たりましては、検討委・検討委員長・各検討委員が市民からの「意見書」をどのように受止め・議論し・取扱っていただけるか、大いに注視しております。市事務局同様、拙速に走ることなく、またスケジュールありきではなく、市民の意見を反映し、なおかつ市民に分かりやすい「答申」になりますよう、最後の最後まで慎重に議論を尽くしていただきますよう、重ねてお願い申し上げます。</p> <p>以上</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 70 | 中区 | 50歳代 | <p>のっけから平原副市長が「横浜経済の将来にわたる活力を創出すること・横浜の未来を切り開くこと・持続可能なまちづくりを実現していきたい」、「事業性のある再開発を目指してまいりたい」と語った。これまでの会議自体がどうでも良い扱いで、始めから商業的な「事業性」と前提にしている横浜市の裏面の実態を明かして余りあるものではないか？ 平原副市長はまた、委員会の「皆様方の豊富なご知見をいただきながら、そして市民の皆様からのご理解をいただける」と述べた。市民の埠頭であり市民が本来主役でありながら、市民は「理解」するだけの客体扱いで、主体とは見なされていないのだ。主権在民を副市長が否定する市とはとんでもないことである。委員会はただのガス抜きでしかなく、始めから山下埠頭再開発は「事業性」前提で決まっているということだ。要するにカジノに代わって、真ん中に違う「事業」を置くだけの、テーマパーク式の業者任せの再開発をしたいということだ。これほど会議の委員も市民も軽んじけにした委員会もない。何のための会議なのか。横浜市民は皆このような市の対応には既視感がある。横浜カジノ推進と全く同じであり、毫も反省していないではないか。平原副市長は横浜カジノ推進の主役の一人であったが、市民を軽視する一方的なカジノ強行を行った。カジノが市民の圧倒的反対で市長選とともに否定されても、その後なお副市長に留まり続けている。市民を無視した一方的なカジノ推進の反省は構造的にも全くなされてはいないということだ。次回の第6回目でもう横浜市は「とりまとめ」をまたしても一方的にしようとしているようだが、このような状況で市民の山下埠頭再開発を簡単に取り纏めるなどということはあってはならない。委員も市民も無視して、事前に経済界と話をつけた企業優先の「事業性のある」再開発をするためのアリバイに、委員会が使われてはならない。「事業性」は近視眼的な経済効果でしかなく、長期的に考えれば、決して平原副市長が挙げた「将来」性も「未来」性もましてや「持続可能」性もまるでないかもしれない。平原副市長は企業とともに「事業性はない」と唾棄するのだろうか、自然と歴史を満喫できる大公園にした方が、子どもや若い親世代も利用出来て、よほど長期的な「将来」性も「未来」性も「持続可能」性もあるのではないか？ ①第6回の会議で「とりまとめ」を行うことはやめ、引き続き市民参画を促して会議を継続すること。②平原副市長の言った「事業性」とは何かを追及し、「将来」性と「未来」性と「持続可能」性から見た真の「事業性」とは何かを審議すること。③横浜カジノ推進再開発の経緯を深く審議し、繰り返さぬためにはどうすべきか方針を立てること。④平原副市長始め、カジノ推進に関わった市職員は再開発に関与しないようにすること。⑤市民参加を委員会にもっと取り入れること。例えば「山下埠頭に〇〇があったらイイナプロジェクト」という市民の集まりは、様々な意見を受容して独自の提言書も作り、シンポジウムも開いていると聞く。また横浜カジノ反対の声を挙げた人々は山下埠頭の長期的な展望をもって活動していた。委員会の人選にそもそも偏りがあると思う。各世代を代表して男女比率を考えた市民の代表者を委員会に入れるべきである。以上</p> |
| 71 | 港北区 | 60歳代 | <p>答申案作成に関する要望として以下3点を挙げる。第一に、とにかく急ぐ事由は全くないので、じっくり意見交換をしてから作成に取り掛かるということ。第二に、検討委員会での最重要検討項目として、再開発計画に市民参画をどう取り入れるのか、を上げる。第三に、市民の合意形成の実効性を高めるには、従来の意見募集や意見交換会に留まらない、事業計画の策定手続きへの市民参加を可能とすること。山中市長が言う「市民目線で山下ふ頭を開発していくことが必要だ」との具現化は、答申提出後に事業計画策定のために設置される「事業計画検討委員会」への市民加入において他にない。</p> |
| 72 | 港北区 | 60歳代 | <p>市当局の作成する市民意見の纏めは、その「意見要旨(案)」を読む限り、市にとって都合の良い方向で纏めたものとしか受け取れない。一例を挙げれば、「答申後に市が取り組む事業計画策定においては、市民意見募集や意見交換実施するプロセスを経ることが適当であり、加えて、市民参画の在り方や、開発に対する市民意見の伝達方法等についても考慮する必要がある。」との要旨は、当局の牽強付会の見解の表明に過ぎない。当局の思惑に合致する意見を真っ先に挙げ、意に沿わない意見は、その数が多数であっても、「考慮する必要」と補足的な扱いになっている。このような扱いが続く限り、市民意見は、市民は言うだけ、市は聞くだけ、という従前のレベルでの市民参画で終始してしまう。市は、もっと市民を信頼したらどうか。これまで横浜の街づくりに真剣に取り組んできて、今度の事案にあたって、横浜の地理、歴史に根差し、横浜の文化の香り馥郁たる、健康的で、魅力的な、胸躍るプロジェクト案を提示した市民グループも出て来ている。横浜から未来と世界に向かって発信しようという気概があるなら、今や世界的な潮流となっている事業計画策定会議への市民参加を実現するのに躊躇する暇はない。</p> |

| | | | |
|----|-----|-------|---|
| 73 | 港北区 | 70歳代 | <p>山下埠頭は私有地であり、公共空間である。そこは市民によって、市民のために、市民が集う空間でなくてはならない。さらには世界中の市民がそこで交流をしさらに発展して、と言うように一時的な利益よりも公共性と将来の展望をまず第一に考えるべきである。カジノに反対し、山下埠頭の再開発について、真剣に取り組んできた市民ならではこそその思いと決意がある。それを無駄にしてはいけない。商業ベースのいつ荒廃するか分からない事業に再開発をゆだねるわけにはいかない。従って計画策定においては、市民の参加抜きには考えられず、これまで市が行ってきたパブリックコメント、検討委員会の傍聴・意見募集、市民参加の意見交換会だけでなく、具体的な事業策定を行う事業検討委員会への市民参加が不可欠である。現在、答申案が出されようとしているが、答申案作成について要望したい。①急ぐ必要はないので、じっくり意見交換をしてから作成に取り掛かること。②検討委員会での重要検討事項として、再開発計画に市民参画をどう取り入れるのか、取り上げること。③市民の合意形成の実効性を高めるには、従来の意見募集や意見交換会に留まらない、事業計画の策定に市民参加を可能とすること。この三点である。是非とも実現していただきたい。</p> |
| 74 | 南区 | 80歳代～ | <p>横浜の中心地にある山下ふ頭は市民にとっては誇りの地区です。跡地に何をつくるかは極めて重要な課題です。何よりも市民が誇りを持って、市民が集える憩いの場とすることが重要です。そのためには市民参加により跡地利用計画を立案することです。自治体の行政運営は国政と違って住民自治が原則です。市民参加の方法を提案します。1 事業計画検討委員会には専門家や学識経験者・地元代表に加えて公募して少なくとも3分の1の委員は一般市民にしてください。（このうち半数は女性）2 広範な市民から直接意見を聴く場を設けてください。例えばワークショップや行政区ごとに意見交換の集会を開くこと。3 事業者のプランは白紙に戻し、過去実施したワークショップや意見募集の内容を分析し市民は何を求めているかを共有しこれをもとに区ワークショップや市民集会に投げかけ意見集約をはかる。そのうえで検討委員会で検討をしてください。</p> |
| 75 | 南区 | 80歳代～ | <p>横浜の中心地にある山下ふ頭は市民にとっては誇りの地区です。跡地に何をつくるかは極めて重要な課題です。何よりも市民が誇りを持って、市民が集える憩いの場とすることが重要です。そのためには市民参加により跡地利用計画を立案することです。自治体の行政運営は国政と違って住民自治が原則です。市民の意見を聴きながら行政運営を行うことが原則です。その立場から提案します。1 市民参加の方法を提案します。*事業計画検討委員会には専門家や学識経験者・地元代表に加えて公募して少なくとも3分の1の委員は一般市民にしてください。（このうち半数は女性）*広範な市民から直接意見を聴く場を設けてください。例えばワークショップや行政区ごとに意見交換の集会を開くこと。2 事業者のプランは白紙に戻し、過去実施したワークショップや意見募集の内容を分析し市民は何を求めているかを共有しこれをもとに区ワークショップや市民集会に投げかけ意見集約をはかる。そのうえで検討委員会で検討をしてください。</p> |
| 76 | 栄区 | 80歳代～ | <p>1. 横浜市の下山ふ頭再開発計画の素案の基として重要な答申を作成する諮問機関である同再開発検討委員会の構成員には、開発業関係・経済団体・商店街・まちづくり団体（関内・関外地区活性化協議会）・物流業団体・学識経験者などの代表者が含まれているが、一般市民を代表する委員が含まれておらず、この計画検討の当初から民意が締め出されている。その結果、市民有志が時間をかけて創り上げた素晴らしい「山下ふ頭に〇〇があったらイイナ」構想などが、同委員会で検討されないまま、答申が作成されようとしている。このことは、都市計画法が行政に絶大な権能を与えていて、民意を無視した行政のゴリ押しがまかり通ってきたことの延長線上にあり、非民主的な横浜市政を象徴していると考えられる。横浜市は、かつて大半の市民が反対していることを認知しながら、カジノ誘致を強行しようとしていたことなどが、その証左である。2. 凋落の一途を辿っている横浜港の世界的な位置づけを元に戻そうとする意見があるが、日本の人口減・物流内容と量の変化・日本海を経由する大圏航路の時間的経済的優位性などを勘案すると、この趨勢に逆らってお金をかけるのは無駄であると考えられる。韓国や中国のハブ港を経由する物流の活用が実際のであり、ほかの有効なことに資金を使うべきである。3. 市有地（市民の財産）である同ふ頭の再開発にあたり、集客や雇用創出などの市の財政への寄与を第一に考えるのではなく、生活者としての市民が、いかに文化的に楽しく有意に過ごせるコミュニティを形作れる場所とできるかに重点を置くべきである。緑地の面積をできるだけ大きく取り、空間を圧迫する高層建築や薄っぺらいテーマパーク型の建築物は不要である。世界中にある様になる街並に惹きつけられるのは、そこに生活する市民の地域主権やコモン、文化が体現されているからであり、集客を意識した単なる建物や景色ではない。4. 政府は地方自治体への交付金配分の匙加減で自治体の財政政策に圧力をかけ、自治体運営において何事にも財政改善を主眼とするよう仕向けているように映る。カジノ誘致も政府主導であったし、同様にタワマンやテーマパーク建設などを含む都市計画においても、収益性や事業性第一が見え隠れしている。神戸市が先陣を切ってタワマン建設に反旗を翻しているが、特別市を標榜する横浜市も、この頸木から脱し地域主権を掲げ地方分権を取り戻すべきである。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 77 | 金沢区 | 30歳代 | <p>このような意見を言える機会を設けてくださり、ありがとうございます。皆様、色々検討くださり、取り組みにも感謝いたしております。ただ、今の様子は、残念ながら、話し合いの内容や決定過程がわかりづらい所があります。また市民の意見が反映されている・もしくは市民が政策形成過程の意思決定を行える位置にいるようには見えません。なので、ぜひ、市民が自分たちのまちづくりの意思決定を本当にできるようより実効力のある機会を設けていただけることを希望します。それは、これからの国際社会を考えると、横浜が市民と協力してまちづくりを行う事、多様性を受け入れ活かす事が、街の魅力となり、日本において一つの良いロールモデルにもなれると思います。横浜には沢山の国籍の方がいます。市民皆が協力できることは、横浜から平和構築をも発信できる可能性に十分つながります。それは世界的にも優秀な人材を横浜に引き寄せる、一つの材料にもなり得ると思います。それは横浜の未来にとって、社会・環境的にも、経済的にも大変有益だと思います。アメリカのシアトルにも山下ふ頭と同じように高架下も跡地をどうするか?という課題が10年前にありました。それは現在、公園や市民が活動できる場所になっています。それは市民の声から作られ、市が時間をかけて市民と協力して進めました。シアトルは多様性が溢れ、環境にも配慮された大変魅力的な街です。アマゾンなど有力企業の本社も多数ございます。横浜もシアトルと似ている点が沢山あるので、同じように魅力的な場所にできると思います。特にアジアにおいて、これは横浜がより特徴的な場所になれると思います。なので、ぜひ、結論を出すのを急がず、もっと時間をかけて、市民がまちづくりに参加できる機会を、話し合いの場をくださることを強く切望します。不勉強な所がありましたら申し訳ありません。恐れ入りますが、どうぞよろしくお願いたします。</p> |
| 78 | 金沢区 | 30歳代 | <p>※47534913に加筆して書き直したものです。こちらが最終版です。このような意見を言える機会を設けてくださり、ありがとうございます。皆様、色々検討くださり、取り組みにも感謝いたしております。ただ、今の様子は、残念ながら、話し合いの内容や決定過程がわかりづらい所があります。また市民の意見が反映されている・もしくは市民が政策形成過程の意思決定を行える位置にいるようには見えません。ぜひ、市民が自分たちのまちづくりの意思決定を本当にできるようより実効力のある機会を設けていただけることを希望します。それは、これからの国際社会を考えると、横浜が市民と協力してまちづくりを行う事、多様性を受け入れ活かす事が、街の魅力となり、日本において一つの良いロールモデルにもなれると思います。横浜には沢山の国籍の方がいます。市民皆が協力できることは、横浜から平和構築をも発信できる可能性に十分つながります。それは世界的にも優秀な人材を横浜に引き寄せる、一つの材料にもなり得ると思います。それは横浜の未来にとって、社会・環境的にも、経済的にも大変有益だと思います。アメリカのシアトルにも山下ふ頭と同じように高架下も跡地をどうするか?という課題が10年前にありました。それは現在、公園や市民が活動できる場所になっています。シアトル・ウォーターフロント・パークという名前です。 https://waterfrontparkseattle.org/ それは市民の声から作られ、市が市民と協力して進めました。シアトルは多様性が溢れ、環境にも配慮された大変魅力的な街です。アマゾンなど有力企業の本社も多数ございます。横浜もシアトルと似ている点が沢山あるので、同じように魅力的な場所にできると思います。特にアジアにおいて、これは横浜がより特徴的な場所になれると思います。なので、ぜひ、結論を出すのを急がず、もっと時間をかけて、市民がまちづくりに参加できる機会を、話し合いの場をくださることを強く切望します。恐れ入りますが、どうぞよろしくお願いたします。</p> |
| 79 | 港北区 | 50歳代 | <p>年内に答申を取りまとめる理由は？市長選挙前に、決めてしまおうということですか？インバウンドは必須のようですが、中身は、なにでしょう？公募型プロポーザルは、やめてください。結局、事業者ありきです。このあとは、市民意見募集でしょうか？カジノ誘致の時は、事業者の過大な税収効果が発表されました。横浜国際プール再整備は2億円のコスト削減が強調され、横浜市の説明が詐欺です。市民無視。市民をバカにしています。戸塚のドリームランド、マイカル本牧、金沢ハイテクセンター。いずれも立派なものを作り失敗ばかりしています。このままでは、夕張のようになります。引き続き、市民の声を真摯に聞いて下さい。グリーンエキスポは赤字になります。Y150の経験があるのに、なぜ、同じ間違いをして平気でいられるのかわかりません。税源は、ますます、厳しくなります。</p> |
| 80 | 港北区 | 50歳代 | <p>山下埠頭の再開発にあたり、ノースドックで、今年2月に、小型揚陸艇部隊が、新たに配備、運用が、始まったことについては触れない。横浜市は、引き続き、返還を求めて行くと、なんとも心もとない。横浜市は、開発ありきで信用がおけない。</p> |
| 81 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>検討委員会の委員に市民代表を複数人加えることを強く求めます。横浜市の土地であり、市民の視線からの街づくりを進める上で重要です。市民生活重視、環境にやさしい視点から検討をお願いします。再開発にありがちな大企業の利権優先にならないことを求めます。時間をかけて市民の合意を重視した検討を求めます。</p> |

| | | | |
|----|-----|------|---|
| 82 | 鶴見区 | 60歳代 | <p>「第5回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会員 ○○（60代男 鶴見区在住） ◆ いさみ足でしかない事務局・市港湾局 第5回検討委における最大の問題は、事務局から提起された「第1回から第4回の意見のまとめ」である。確かに「第4回」との断わりはあるが、河野委員、隈委員、平尾委員長による学識者委員のプレゼンの提言、宝田委員、田留委員の地域関係団体委員の意見発表がまだ残っている（発言は今第5回検討委）段階で、「まとめ」なるものを提示したのである。自己（市当局）の意思が望む方向へ各委員を誤誘導させるべく圧力をかける意志があったと思わざるを得ない。上記「まとめ」には、市民からの意見に対する議論がまったくないばかりでなく、事務局推奨の議論の進め方にも、市民からの意見が含まれていない。事務局（市港湾局）にとって、「市民」とは客体でしかないのだろう。</p> <p>つづく</p> |
|----|-----|------|---|

山下心頭再開発検討委員会
第1回～第5回の意見のまとめ



第1回～第5回の意見のまとめ

まとめ資料作成までの流れ

①学識者委員の皆様プレゼンテーション

②地域関係団体委員の皆様意見書

③委員会での議論

①～③の内容を踏まえて整理し、16のカテゴリーに分類

第1回～第5回の意見のまとめ

分類した16のカテゴリー

- 次世代につなげる持続可能なまちづくり
- 市民合意形成、プロジェクト体制
- 観光・インバウンド ■横浜の魅力・ブランド力の向上
- 周辺地域への波及 ■国内外から人々が集まる
- 横浜経済を牽引 ■防災・安全
- 交通ネットワーク ■脱炭素(環境・エネルギー等)
- 市域全体と連動した賑わい創出
- 海に囲まれた立地特性 ■歴史・文化 ■緑・水辺
- 景観形成 ■デジタル活用

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につなげる持続可能なまちづくり

Point 1

長期的な
視点に
基づく開発

意見(抜粋)

- 50年先または次の世代、または100年後の都市の様子を想像しながら開発の方向性を検討すべき、その際、現状では非効率でも、長期的な視点も踏まえて利益があるような都市のデザインを検討することが望ましい。
- 美しい街、強い街でなければならない。未来に向けて持続性や永続性のある街づくりを進めることが必要。
- 次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのは全然ダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。
- 現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜を作るために描いた未来に基づいた開発を進め、50年100年後に振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのおかけと言ってもらえるようにしたい。
- 税金を投入しなければ成立しないプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ持続的な運営が求められる。

(市民意見等)世界に誇れるダイナミックな未来像を描くとともに、将来を見据えたまちづくりを期待。

意見要旨(案)

- 世界のウォーターフロント開発のトップランナーとして、50年後、100年後を見据えた持続的な運営が可能な開発を行い、国内外に誇れる横浜を作るべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につなげる持続可能なまちづくり

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 2

発展を
支える
イノベー
ション
・教育

- 日本の若者、ミレニアル世代、Z世代が、何を重視していくかということを丁寧に考えていくことが必要。
- バーチャルリアリティの館として、みなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業の研究開発をしている最先端イノベーションの実証実験の場。
- 段階的な開発が進む中で、その一部を地域の賑わい創出や課題解決につながる社会実証等の場として活用していくべき。
- **人口の増加減少を補っていくための経済の発展は、イノベーションであって単なる発明だけではなく、社会実装を展開していくこと。**
- 日本では、海外からの直接投資が少なく、増加に向けて、企業、学校、病院の誘致、世界中の一流の人材や企業の受け入れのための具体的な取組を検討すべき。
- 教育などにより横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。
- **企業誘致とか雇用を確保するためには、行政のアクションプランを示した上で、行政だけでなく、どこを巻き込むかという具体的な策が必要。**

(市民意見等)企業誘致による産学連携。

(市民意見等)先導できるグローバル企業を誘導して、山下ふ頭から内港地区や周辺地区のイノベーションを促進。

- 次世代のニーズに応え続けるため、イノベーションを創出し、拠点を集中的に配置する。また、新しい技術や地域の賑わい創出等の社会実証や実装の場として活用していくべき。
- **官民の役割を明確にし**、海外からの直接投資の増加、世界中の優れた人材の確保、教育的な役割の追加を目指すことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につなげる持続可能なまちづくり

Point 3

次世代に
渡る
市民生活の
安定

意見(抜粋)

- 中長期的な視野、時間軸で、横浜経済を動かし、市民生活の維持につながる再開発の方向性を考えることが必要。
- 現在の現役世代の子世代、孫世代にもつながるような将来的にも永続的になるような再開発の内容を検討すべき。
- 再開発の内容を民間主体で運営する場合、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、新しい未来に向けた若者のため、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげるのが理想。
- 都市を構想することは、これから生まれてくる未来の人のための都市を構想することです。山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。
- 顕在化する労働者不足に対応するため、外国人等の定住人口増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。
- **環境問題や経済、社会課題と向き合い、いかなる開発事業になったとしても、採算性の良い、横浜市にとっても経済効果が上がり、雇用を創出する持続可能な事業開発となることを期待。**

(市民意見等)いま横浜で生まれているハマッ子に未来を任せられるようなまちづくり。
(市民意見等)国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視。

意見要旨(案)

- 子から孫へと世代を繋ぐまちづくりの構想や、税収効果を生み出し**雇用創出**を図る取り組みを進めることで、将来にわたる経済効果の維持と市民生活の支援を両立させるべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

次世代につなげる持続可能なまちづくり

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 4

柔軟な 開発計画

- 巨視的に考えた上で、段階的な整備の計画を立てる必要がある。一度に全てを作り上げていく考え方は不適合であり、10年後は現在から変わっているのか、それとも変わっていないのかということは、再開発の方向性の定めていく上で戦略的に誘導することが重要。
- 埠頭特有の地形を活かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進してほしい。
- この計画も50年とは言わないまでも、ロングスパンで考えるべき。一気に完成に再開発を進めていくということでは必ずしもない。全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことが極めて大事。
- 「可変性」というキーワードが重要だと思う。例えば、平時の際は人が賑わう用途として供用するが、災害等の有事の際は支援拠点として活用するなど、柔軟に空間を利用する視点が必要。時代の変化や需要に応じたまちづくりの視点も重要。柔軟に空間を活用できるような整備を検討すべき。

(市民意見等)2050年位を目指して、社会情勢にフレキシブルに対応することが持続的な発展に必要。

(市民意見等)二段階の開発とすることで、I期の収益性や社会情勢等を検討し、II期で確実性の高い、時代に合った開発が可能となる。

- 開発テーマの統一性を保ちつつ、将来の情勢やニーズ、**災害発生等**に柔軟に対応できるよう、一定規模の**可変性ある**オープンスペースを確保し、段階的に整備を進める計画を立てるべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

市民合意形成、プロジェクト体制

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

市民のための 再開発

- ・ 横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。
- ・ 定常型に向かう社会では、都市は資本活動だけではなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを求める場になると考えられ、横浜はその新しい都市モデルを追求してほしい。
- ・ 経済を否定はしないものの、都市には人が居住する場所であることから、住人のための都市という考え方が1番最初にあるべき。投資の呼び込み、インバウンドのために都市があるわけではなく、プライドのある魅力的な都市であれば、結果として人々が訪れる場所になる状態になると好ましい。
- ・ 経済成長や財政収支などのファンダメンタルズと市民や住民により、意味のある形で活用するという問題意識が両輪が必要。
- ・ 市の多額の予算が山下ふ頭再開発に投下されることは避けるべきである一方、財政削減を優先して、市民のための開発という点が考慮されないことも避けるべき。
- ・ 横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用すべき。

- 市民がリラックスして楽しめる場所を提供し、自然やコミュニティと共生しながら、文化や生活の豊かさを求める人々が集まる新しい都市モデルを追求すべき。
- 横浜市がイニシアチブを持ち、市民のための再開発を行う視点と、経済成長や財政収支を両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。

Point 2

横浜市全体の プロジェクト 体制

- ・ 市有地である山下ふ頭は、市の部局をまたいで長い時間軸で考え、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していく。そのため、市全体のランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えにも取り組むべき。
- ・ 横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要。そのうえで、ランドデザインに沿って、事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高まることで、プロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業を迎えることができる。
- ・ 山下ふ頭の再開発を検討するにあたり、横浜市も、港湾局だけではなく、複数の関係部局で、部局横断で都市の問題を解決することが必要。
- ・ 検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与等が必要不可欠。

- 市の関係部局が横断的に連携し、中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発を行うべきである。

カテゴリー別意見とりまとめ

市民合意形成、プロジェクト体制

意見(抜粋)

Point 3

答申策定後に 経るべき プロセス

- ・ 住民自治の観点から、答申後に市が事業計画案を策定し、市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定する流れとするのは適当と考えられる。答申後の手続について、委員会が担う役割も、答申に盛り込んでほしい。計画内容というハード面だけではなく、事業者の募集方法などのソフト面を含めて答申内容を検討してほしい。
- ・ 市民からの意見の中に「参画」という言葉があり、市民が参画できるようなものを意図するということが問われていると思う。
- ・ 横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させて開発していただきたい。
- ・ 事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮したうえで、決定してほしい。
- ・ 横浜市資料では、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっておらず、極めて不適切であるため、事業計画の検討委員会を設置し、そこに市民も入れて検討すべきである。
- ・ 事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどをしっかりと市民に伝える。事業者の選定にあたっては、市民がどうしているのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではない。
- ・ 山下ふ頭のプロジェクトに市民が参画するということは、意見を言うだけではなく、メンテナンスと方向付けの議論における、市民が負うべき責任があることを明確にする必要がある。
- ・ **山下公園、山下ふ頭の新しい緑地についても、市民がただ楽しむだけではなく、市民がそのメンテナンスにも参加するような仕組みが必要ではないか。**
- ・ 市域全体のマスタープランにおいて、横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、部分最適にはなるが全体の最適にならない。
- ・ 大規模プロジェクトは全体最適と部分最適のバランスだと思う。ただし、一番大事なものは、部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。

意見要旨(案)

- 答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を行うプロセスを経ることが適当である。また、市民参画の在り方や開発に対する市民意見の伝達手法についても考慮することが必要。
- **事業計画策定後には、市民など多様な主体が管理に参加できる仕組みの検討も必要。**
- 山下ふ頭の再開発が部分最適だけでなく全体最適の事業となるよう、バランスを取るべきである。

カテゴリー別意見とりまとめ

市民合意形成、プロジェクト体制

意見(抜粋)

- 横浜港あるいは横浜市全体のグランドデザインを改めて議論することが必要。
- 山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定してほしい。
- 安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論していただきたい。
- 50年とか100年とか、またはこれから未来の住人のために都市空間を議論するにあたって、人口が減少していく、経済も縮減する日本の中でどのような横浜を作っていくかという構想がすでに2009年に作られている。そういう蓄積を元に大きい時間空間の中で考えるということを是非やっていただきたい。

(市民意見等)「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくり。

(市民意見等)民間マネジメントによる新たなコミュニティや、多様な人々がつながるコミュニティインフラの構築。

意見要旨(案)

- 横浜港や市域全体のグランドデザインや、これまで議論されてきた構想との関係性を常に意識し、山下ふ頭の事業について大きな時間空間の視座に立って十分な議論・審議を行うべきである。

Point 3

答申策定後に
経るべき
プロセス

カテゴリー別意見とりまとめ

観光・インバウンド

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

観光・インバウンドの必要性

- ダイナミズムで引きつける力、横浜がすごいことを始めたなど国内外から関心を惹きつけ、人流、投資、あらゆる面で引きつける力の醸成を考えつつ、議論を深めることが必要。
- 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にするか。
- 人口減少による観光客減少の対策にインバウンド戦略として外国人を呼び込み稼働率を高める取組が行われている。

(市民意見等)世界から人が集まり、国際交流の拠点になる。

- 既存の観光資源の活性化を含め、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込み、海外からの関心、人流、投資等を惹きつける必要がある。

Point 2

観光資源の事業性確保

- 観光資源の保存と活用を両輪とした、独立した持続的な採算による運用をすることが重要。
- インバウンド戦略によるインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的。

- 観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識すべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

観光・インバウンド

意見(抜粋)

- ・ 幼少期に触れた日本のアニメ・漫画・ゲーム等のポップカルチャーのクリエイションが、外国人の日本への憧れを抱く具体的な内容になっている、ということへの意識も非常に重要。
- ・ 来日するインバウンドの目的地が横浜ではない現状を打破するためには、世界的に、日本文化への好感度が非常に高いことを踏まえ、我々が再評価して、日本の文化の価値を認め形にすることや、世界基準である、老若男女多様性すべてを受容する寛容性が必要。
- ・ **土地利用については港湾機能を軽視してはならず、例えば近年高付加価値インバウンド客のプライベートジェットや大型クルーザーの発着機能が用意されていない、などの不評が問題化している。**
- ・ **インバウンド進行政策を国是とする以上、こうした需要に応え、かつ滞在時間や消費単価が高いこうした層へのサービス機能を一部に組み込むべき。市民や海外来訪者の魅力向上にも繋がると思料している。**
- ・ 今後世界の多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめる、近未来の価値観にも適う施設を整備することが必要。
- ・ 歴史・文化を中心とした施設は多様性がなく、魅力が少ない。ショッピングやナイトライフ、食文化、アクティビティ等の都市の文化を展開するためのインフラ投資と整備を進め、多様なアピールをした結果、7年間で外国人観光客が4倍に増加した。

(市民意見等)これからの子供たちと世界のファンに多様な刺激を与えるための、アニメ・ゲーム・マンガ文化などの日本文化の大型施設。

意見要旨(案)

- インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、その価値を形にしていくべき。**また、滞在時間や消費単価が高い層の需要に応えるようなサービス機能も必要。**
- 今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。

Point 3

インバウンドのニーズを捉えたコンテンツの提供

カテゴリー別意見とりまとめ

観光・インバウンド

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 4

近隣の
観光資源と
の連携

- ・ 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、東京に似た開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。
- ・ 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。

(市民意見等)観光のハブになり、周辺地域と連携・相乗効果を発揮する。

- 観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。

Point 5

宿泊に繋がる
魅力創出

- ・ 観光収入の半分は宿泊と飲食。日帰り観光客の数は多い一方で、経済への貢献は少ない。宿泊につなげるために必要なことを検討することが重要。
- ・ 常に人が集まる施設にする必要。魅力を高めることにより宿泊につなげることを最初から徹底的に考えたときに、付加価値の高さを重視することが重要。
- ・ クルーズ発着港の横浜であっても、地域に落ちるお金は限られており、乗客が観光バスで鎌倉、箱根、東京へ流出してしまっている。
- ・ 「横浜市観光・MICE戦略」における目標は、2030年に観光消費額5,000億円。現在は観光客の9割が日帰りで、今後さらに日帰り観光客だけが増加すると、オーバーツーリズムを引き起こすうえに、単価が安い。客単価、宿泊需要も上げていくためには、インバウンドに注目していくことが重要。

(市民意見等)現在の「よこはま」は外国人の観光客の通過地点でしかない。滞在時間が増加する取組が必要。

- 経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜の魅力・ブランド力の向上

意見(抜粋)

- 古きものを尊重しながら新しいものを添えていく、横浜ブランドを再度磨き上げる取組は、山下ふ頭の再開発と密接不可分。
- 横浜の持っている不易と流行の組み合わせ方を考えることが、非常に重要な戦略ではないか。
- ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、複数の地域価値、地域向上、地域貢献を検討していることが非常に重要。
- 横浜全体のブランド価値を上げる、宿泊客を増加させるためには、例えば、山下ふ頭を1つの公園にして、鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与することも考えられる。
- 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されていると思料するが、さらに評価を高めるために防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応える土地利用を考えた時に、環境価値と感性価値に非常に優れ、横浜ブランドと三位一体になっている事業をどのように創出するか。
- 先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技、伝統もあいまった拠点として開発することが適当。
- 再開発を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持が両立し、経済効果も生み出しつつ、持続性のある方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承する必要があるものを混在させながら、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげるのが理想。
- グローバルで新しい社会に合致した開発が望ましい。

(市民意見等)今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤としてそれに必要な事業を考えるべき。

意見要旨(案)

- 古きを尊重し、新しいものを取り入れることで、横浜の不易と流行を組み合わせ、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。
- 地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。
- 横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、新たな機能付加が必要。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応じていくため、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。
- 未来を担う若者のために、先進的な技術やグローバルな社会に合致する要素を取り入れつつ、伝統的な技術や文化を継承する拠点を形成するべき。

Point 1

横浜の 魅力・ ブランド力 の向上

カテゴリー別意見とりまとめ

周辺地域への波及

Point 1

地元経済への貢献と雇用創出

意見(抜粋)

- ・ 地域への経済効果が、雇用をはじめ、可能な限り域外に流出せずに、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要。
- ・ 新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発して、観光客やビジネス客等の交流人口の増加や雇用創出を図るべき。
- ・ 港湾の機能は基本であり、この機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないか。
- ・ このふ頭の新開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。
- ・ ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという、人に対する支援にもつなげることが可能である。
- ・ 人口減少が進行する中で経済を維持するために必要なことは、地元の賃金を上げることが非常に重要であり、賃上げにつながることを焦点にしてこの再開発を進めるべきではないか。
- ・ **人口減少の中で求められるのは良質な労働条件の雇用の創出。国のインバウンド戦略は、観光産業需要の平準化、労働条件の改善の上で進めている。良い労働条件で高い生産性を考える必要がある。**
- ・ 再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要。
- ・ 横浜の独自性を発揮し経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取る必要があることから、この山下の当該地域だけではなく、全体バランスを考えて進めていくことが必要。
- ・ 大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要。

(市民意見等)企業中心の開発ではなく、市民生活や地域産業にも依拠した開発を検討するべき。

(市民意見等)再開発により創出されるビジネスや技術をまちづくりへ還元していくべき。

意見要旨(案)

- 新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。
- 再開発を契機とし、周辺地域で働く人々の収益向上や、消費・雇用の創出、**より良い労働環境や高い生産性の確保**を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。
- 新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

国内外から人々が集まる

Point 1

人々を
惹きつけ
続ける
開発の実現

意見(抜粋)

- ダイナミズムで引きつける力。国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。
- 地域の定住人口が減少しているため、都市開発の目的は、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発することが主流になることを踏まえ、国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要。
- 時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。

(市民意見等)わくわくする体験ができ、世界から注目される。

(市民意見等)様々な目的を持った人々を横浜・日本・世界から迎え入れる。

意見要旨(案)

- プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーを構築し、国内外から人流や投資を呼び込む力を醸成することで、顧客のニーズが変わっていく中でも飽きられず時代遅れとならないよう継続的な投資を促すことが必要。

Point 2

独自の
魅力構築

- 東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要である。
- 都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進してほしい。
- 日本は世界的に見ても、テクノロジーやカルチャーにおいて非常に独自性がある。日本ならではの魅力というものを横浜というところに集積して、世界中の人を集められる可能性がある。

- 周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発や、日本のテクノロジーやカルチャーの集積により独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

国内外から人々が集まる

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 3

大規模集客
施設の導入
等による
活性化

- ・ 横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。
- ・ このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設やホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤を目指してほしい。

(市民意見等)スポーツ施設のある市民のための再開発。

(市民意見等)世界最高水準の国際展示場とコンサート・スポーツイベント会場のハイブリッド型中核施設を導入する。

- 横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。

Point 4

インクルー
シブな空間
づくり

- ・ 周辺の事例等も参考にすることで、横浜の名所として市内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。
- ・ 障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れてほしい。

(市民意見等)幅広い世代の誰もが楽しめる。

- 横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、インクルーシブな空間を整えることが必要。

Point 5

多文化共生
社会への
対応

- ・ 横浜市は人口減少が見込まれているなか、外国人の定住人口が非常に増えてきており、計算してみると2040年には約9人に1人は外国人になってくる。多文化共生のまちな実現ということ横浜市に課せられている課題。
- ・ 多様な人材が集まることによって新しいまちの発展が進められていく。まちのダイナミズムは、多様な文化の創造によって進められていくという都市理論があり、多文化共生のプラットフォームを横浜で展開し、その基盤が山下ふ頭になる。

- 人口減少や外国人の定住人口の増加を見据え、多様な人材が集まる多文化共生のプラットフォームを展開し、街の発展に繋げていくべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜経済を牽引

意見(抜粋)

Point 1

地域経済の 活性化

- 地域への経済効果が、雇用をはじめ、可能な限り域外に流出せずに、地場の産業にも地域の定住人口減少化において、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発するまちづくりが主流になってくる。
- 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済を牽引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとなるよう、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。
- **魅力ある持続的で将来性につながるのがある一体的な街づくりを目指し、横浜経済の起爆剤になることを願う。**
- 山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるもの。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討することが必要。
- 日本を代表する都市として発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所である。
- **是非横浜経済ひいては日本経済を牽引するぐらいの気概を持っていただけると良い。**

(市民意見等)市全体の活性化に寄与する。

(市民意見等)山下ふ頭に国内外から多くの人々が集うことで、インナーハーバー域では新たな賑わいが生まれ、アウターハーバー域でも貿易・物流が活性化し、市全体の経済発展、税収増に寄与する好循環が生まれる。

意見要旨(案)

- 定住人口が減少する時代にあって、**魅力ある将来に繋がるまちづくりを目指し**、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。
- **日本経済を牽引する気概を持って**、横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

横浜経済を牽引

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 2

市の収益
向上と
市民への
還元

- ・ 生産年齢人口の減少や少子高齢化の進展を見据え、税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には税収を生み出す場所としての観点が不可欠。
- ・ 横浜の成長を牽引し市民のより豊かな生活につながる場所となるべき。
- ・ **15ヘクタールから20ヘクタールぐらい埋め立て、市民の財産を増やしていく、そして市の収入を得るのも一つのアイデア。**

(市民意見等)市民への還元と税収の確保。

- 市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、**横浜の成長を牽引し、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。**

Point 3

我が国の
貿易との
関係性

- ・ 強固な地盤、広大な土地という魅力的な特徴を活かしつつ、横浜港、東京湾全体からの観点で国際競争力をもたらしめるための場所として活用する発想を持つことも有効。
- ・ 横浜市を活性化させる方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置付けと国際貿易に寄与する視点を最重要視して頂きたい。
- ・ 再開発においては、港湾機能をどう活用するかという点も検討すべきであり、その際、山下ふ頭が東京湾や市内陸部との結節点となっていることを十分意識する必要がある。
- ・ **日本の産業にとって何よりも重要な基幹航路の維持にあたっては、集荷と創荷が必要であり、横浜港は大水深岸壁、大型のコンテナ船に対応できるふ頭が日本で唯一ある。**
- ・ **基幹航路の維持にあたっては、DX化とGX化による新たな価値に対応して、港湾を機能強化することも必要。**
- ・ 横浜港は、日本国民にとっても重要な港であり、その港と市街地を結節する場所として山下ふ頭の土地というのは大きな意味を持つという観点からこの跡地の利用を検討してほしい。

- 日本、東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。
- **横浜港は横浜市民だけでなく日本国民にとって重要な港であり、山下ふ頭が港と市街地を結節する場所だということを十分に意識することが必要。**

カテゴリー別意見とりまとめ

防災・安全

意見(抜粋)

- 3.11、そしてコロナの教訓として、「医療防災」は、このプロジェクトの可能性に埋め込まなければならない言葉。
- 世代を越えて取り組む必要のあること、キーワードはレジリエンス。市民の安定・安全を図るための、例えば医療とか防災について役割を持つ場とすることも考えるべき。
- 防災拠点、感染症対策拠点としての機能などの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。
- 横浜都心臨海部は、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであるから、山下ふ頭の開発において「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が必要。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案。

(市民意見等)過去の大震災の学び、「防災・減災」機能を何らかの形で付与すべき。
(市民意見等)大地震や津波から守る最先端の防災対策。

意見要旨(案)

- 世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入すべき。

Point 1

市民の 安全・安心

カテゴリー別意見とりまとめ

防災・安全

意見(抜粋)

Point 2

リダン
ダンシー性
の高い
まちづくり
への貢献

- 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価を受けていると聞いたことがあるが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。
- 首都高の路線があることで、グランドレベルが火災で機能不全になっていても、十分に救援活動ができる可能性もあることから、上瀬谷に整備予定の広域防災拠点との連携の観点で、災害対応車が待機できる場所として山下ふ頭を位置付けるなど、周囲のインフラを一体化しながら、山下ふ頭周辺が安全で安心できる地域であるという一つのブランドも重要。リダンダンシー性の高いブランド、まちづくりを考え続けることも重要な論点。
- 関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討してほしい。
- 災害物資の受け入れ広域防災拠点避難場所等にする。岸壁を強靱化してドローン等の防災基地にすることも考えられる。
- 国で議論されている病院船や自衛隊の船舶の着岸岸壁や、ヘリポートの整備が必要。
- 歩行者・車道を含めたアクセスのしやすい交通インフラの整備と避難経路を計画してほしい。
- 船舶が着岸できる岸壁機能を活用し、災害時の海上輸送ルートや保管拠点機能の確保も重要な役割になる。

(市民意見等)災害援助物資受け入れ拠点となるスポーツセンター、ヘリポートなどの災害発生時に使える施設。

意見要旨(案)

- 旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全・安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。
- 海上からの物資や救援部隊の受け入れだけでなく、国で議論されている病院船などが着岸できる耐震強化岸壁や新たな歩車道の整備等により防災機能を強化することが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

交通ネットワーク

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

陸海からの 交通 アクセスの 向上

- 現在 1 か所しかない進入路の機能向上についても検討してほしい。
- 周辺は多くの観光客や就労者が行き交う場所である。山下ふ頭は、年間1770万人が訪れる新港ふ頭よりも広大な敷地面積であるため、さらに多くの人が集まる可能性がある。そのため、歩行者・車道を含めたアクセスのしやすい交通インフラの整備と避難経路を計画してほしい。
- 周辺で取り組まれている水上交通も利用した新しい全体的な交通インフラを整備してほしい。
- 再開発に伴い大規模な人流が発生すると思われるため、物流事業者だけでなく、市民生活にとっても支障をきたさないよう、新港ふ頭から山下ふ頭、本牧ふ頭までをつなぐ国直轄事業である臨港幹線道路等、周辺交通網の整備を改めて進めていただきたい。
- 山下ふ頭の交通アクセスが良くない。山下ふ頭の入り口から先端まで距離がある。元町・中華街駅に行くのも困難。開発に大量輸送機関を検討したほうが良い。臨港幹線道路を積極的に利用していただくと、都心臨海部とその山下ふ頭、そしてあの関内・関外地区のトライアングルをうまく回遊性が取れるような道路になる。
- 旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図ってほしい。
- 交通アクセスは、内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで大変重要な論点。

(市民意見等)陸・海・空、海外からもアクセスしやすい交通機能の導入。

(市民意見等)横浜内港の各地区を歩行者ネットワークでつなげることで、それぞれの機能を連携させ、魅力的な臨海部を形成できる。

- 山下ふ頭へのアクセス箇所が限られていることや、再開発による来街者の大幅な増加を見据え、新たな進入路や歩行者動線の確保、臨港幹線道路の整備等により、利便性向上や防災機能の強化、周辺住民や物流への影響緩和を図るとともに、市内で取り組まれている水上交通の活用も推進していくべき。
- 山下ふ頭の入り口から先端まで距離があることや、元町・中華街駅とのアクセス性に課題があることから、来街者の埠頭内での円滑な移動や周辺地域との回遊性向上に寄与する交通インフラの整備が必要。
- 市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

交通ネットワーク

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 2

多彩な 交通手段

- 山下ふ頭と中華街、隣接するみなとみらい等も含めてモビリティを高めるような交通システムが導入することができないか、「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになる。
- 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要である。防災の観点でも海上交通がかなり重要な役割を果たす。
- 周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討してほしい。
- **山下ふ頭と横浜市の従来の街とのアクセスを強めていくモビリティ等の新しいイノベーションが必要。**

(市民意見等)自走式ロープウェイやエコライドを導入することで、省エネや市の発展につなげ、市の交通を時代の最先端にする。

(市民意見等)スマートモビリティによる交通ネットワークの強化と水上交通ネットワークの構築による域内外の移動促進や、自動運転モビリティの導入。

- 三方を海で囲まれた立地条件を最大限活かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。
- 元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区とのアクセスを向上させるモビリティを導入し、**未来の多彩な交通手段の革新**を目指すべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

脱炭素(環境・エネルギー等)

意見(抜粋)

Point 1

脱炭素型の 再開発

- 脱炭素の取組は、面だからこそできることを認識することも重要で、エネルギーの需要は用途によって異なるため、最適な組み合わせを考え、効率的なエネルギー利用を検討することが重要。
- 今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。
- ロンドンでは、第5世代のエネルギーネットワークを進めており、再開発では再生可能エネルギーの導入を行っている。山下ふ頭で開発をする場合には、エネルギーの利用を減らし、CO2の排出量を抑えられるような開発を進めることが必要。
- 防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。

(市民意見等)太陽光やバイオマスなどの地球温暖化対策に資する施設。

(市民意見等)グリーンインフラ(緑化)の導入やクリーンエネルギー(水素)の活用。

意見要旨(案)

- カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小限に抑えた施設の導入や、用途に応じたエネルギーの最適な組み合わせを実現することで、日本初の脱炭素型再開発プロジェクトを目指すべき。

Point 2

脱炭素の 取組・魅力 の プロモーション

- 横浜港がCNPとしての取組を進めていることの魅力を世界に発信するための場所として活用することも考えられる。
- サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくということも重要。

(市民意見等)横浜発の先駆的な技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待。

- 再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを国内外に広くプロモーションする場所としても活用するべきである。

カテゴリー別意見とりまとめ

市域全体と連動した賑わい創出

意見(抜粋)

- ・ 欧州全体のソフトウェアのベースとなったイーストロンドンの成功事例等のように、開発には連鎖反応を起こすことが非常に重要。
- ・ 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、他の事例と同様の開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。
- ・ 山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街、関内・関外地区等の都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出を図ってほしい。
- ・ 山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を踏まえた開発にしてほしい。
- ・ 山下公園や中華街、元町、新山下と色々な地域と繋がっており、1つの場所としてたくさん緑や自然があり、商店街なども広がっていることから、回遊ができるような、今までと違った新たなまちづくりを目指してほしい。

(市民意見等)山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画を望む。
(市民意見等)周辺のゾーンとの連携によるビジネス創出、内水面のアクセス整備や景観形成により、内港地区全体での連携を促進。

意見要旨(案)

- 元町や中華街、山下公園通りなどの近隣エリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような今までと違った新たなまちづくりを目指すべき。

Point 1

都心臨海部、
横浜市全体
への波及

カテゴリー別意見とりまとめ

市域全体と連動した賑わい創出

意見(抜粋)

- 日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。京浜地区、あるいは東京湾沿岸の港湾における土地利用の見直しの機運の高まりを整理しなければ、山下ふ頭が他地区と競合する、あるいは特徴が持てないことになりかねない。
- 山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要。
- 山下ふ頭の再開発を出して、特に東京に繋がるようなベイエリアから山の方について、全体的に連鎖的なものを起こすことが必要。
- 東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の人々が色々な観光資源を参考に、かなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。

(市民意見等)再開発においては、広域的(東京湾全体、横浜市全体等)な視点での山下ふ頭の位置付けを考えるべき。

意見要旨(案)

- 日本の経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響、港や空港の機能による人流の動向も考慮する必要がある。

Point 2

巨視的な
視点を
持った開発

カテゴリー別意見とりまとめ

海に囲まれた立地特性

意見(抜粋)

Point 1

立地特性の活用

- ウォーターフロント開発のトップランナーになる可能性。世界の事例を目標とせず、先行する意識で夢のある内容を議論したい。
- 港湾機能とまちづくり機能の両用一体にした、今後の臨海部再開発のモデルになる自負を持って取り組むということが重要。
- 埠頭特有の地形を活かした一体的な再開発が重要。
- 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に活かすということが大切。
- 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。
- マリンタワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけに感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。
- 素晴らしい立地条件と歴史性を十分に活かし、山下ふ頭の再開発が観光産業等のリーディング・プロジェクトとすべき。
- 立地条件から水上交通をはじめとした、周辺との多彩な交通網の充実は必須。

(市民意見等)海に面する特性を活かす。

(市民意見等)特異な立地を活かした横浜の経済振興・都市文化醸成に資する国際的な人物・情報の集まる拠点形成すべき。

意見要旨(案)

- 再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を活かし、世界のウォーターフロント開発を先行する臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。
- 観光産業の活性化や水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする人々の視点を意識するべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

海に囲まれた立地特性

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 2

海を
活かした
人材育成

- クルーズの出発点が横浜となっており、若者の教育的な見地や人生感などを変えている。世界の起点となる横浜として、刹那的な快樂を求めるのではなく、帆船での航行を通じた海洋人材の育成など、教育により横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。

- 将来の海洋人材などの育成を目指し、若い世代への教育的な役割を果たす開発も考えられる。

カテゴリー別意見とりまとめ

歴史・文化

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 1

横浜の歴史を踏まえた開発

- 横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜の歴史を振り返る必要がある。未来を見据えた再開発の根底にある横浜の歴史、先人たちがそれぞれの時代に合わせて積み上げた歴史を紡ぐことが必要。
- インナーハーバーと称される最後のエリアとして、山下ふ頭が総仕上げになるような形で、点在している文化とか技術とか歴史をネットワーク化してすべてがつながる形で完成されることが適当。
- 横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史があり、独自の都市文化、地理特性が備わっていることから、こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべき。
- 横浜港の発展の歴史を踏まえた開発としていただきたい。

(市民意見等)横浜のアイデンティティ、歴史文化を尊重し、横浜らしさが感じられるまちづくり。

(市民意見等)開港から紡がれてきた想いがある横浜中華街や関内地区など、周辺のまちとの融合を図る。

- 横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。

Point 2

歴史文化の魅せ方

- 外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。
- 歴史・文化だけでは多様性がないため、インフラ投資による都市の文化、具体的にはショッピングやナイトライフ、日本の食文化、アクティビティなど、様々なアピールをすることが重要。
- 国際交流や日本文化を発信するような機能を検討してほしい。

(市民意見等)文化、芸術を発信し、体験ができる。

- インフラ投資により都市の文化の魅力を上させることに加え、外国人が憧れを抱く日本文化等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていくことが必要。

カテゴリー別意見とりまとめ

緑・水辺

意見(抜粋)

- 地域全体、ある意味広いエリアも含めて考え、横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。
- 臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい 21 地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース(BAYWALK YOKOHAMA)や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい。
- 港湾と都市の共生により、市民の憩いの場を確保していくべき。
- **世界の都市開発を見ると、緑をどのように復活するかというのが、大きな流れです。ウォーターフロントにとって環境というのが大きなテーマになっていて、単に緑があるだけではなくて、人も呼べる緑の計画ということが重要。**
- **新しい世界の都市、ウォーターフロントは緑にカバーされている。山下ふ頭と山下公園、他の地域と繋いで、緑の総量を増やす。**
- **世界の事例では、ウォーターフロントから変化し、街全体に波及して大きな経済効果を生み出したところがあるので、周りとの経済の連携という考え方を応用すると、財政の厳しい中でも可能性が開けていく。**
- **全て建物で埋め尽くすのではなく、まず緑があって、その中に建物を置いてく順序の考え方が大変貴重。インフラをまずしっかり整備し、緑を置く。山下ふ頭だけで横浜を良くするのではなく、横浜港全体で良くしていく考え方が重要。**
- 横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることも検討してほしい。
- 憩いの場としては、市民が自由に使える、賑わいが創出できるような空間を検討してほしい。

(市民意見等)山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生。
(市民意見等)ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードを整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出。

意見要旨(案)

- **みなとみらい21地区から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線を活かし、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性を向上させるとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保すべき。**
- **世界の都市開発では緑の再生が主流であり、周辺地域の緑地と連携して緑の総量を増やし、人々を呼び込む計画が必要。**
- **インフラを整備し、緑を確保した上で、その中に建物を整備する発想も考えられる。その際、周辺地域への経済的効果の波及も意識することが必要。**
- **誰もが自由に楽しめる憩いの場を作り出し、同時に経済の活性化を図る開発を進めることが必要。**

Point 1

緑で
つながり
市民が
憩える
空間づくり

カテゴリー別意見とりまとめ

緑・水辺

意見(抜粋)

意見要旨(案)

Point 2

水辺空間の 有効利用

- マリントワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけを感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。
- 横浜港へさらなる客船誘致を推進するための整備を検討してほしい。
- 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に活かすということが大切。やはり水際という非日常空間を活かすべき。

(市民意見等)海や港を身近に感じ、港町の風景が見られる。

- 水面の賑わい創出、客船誘致に向けた整備、水際における非日常空間の形成など、ウォーターフロント都市として相応しい取組を進めるべき。

カテゴリー別意見とりまとめ

景観形成

意見(抜粋)

Point 1

景観を
考慮した
開発

- 船で帰ってくるときの景色、みなとみらいの近未来的な景色と、遠くに見える富士山、大さん橋にクルーズ船、今この山下ふ頭がある。みなとみらいと山下ふ頭の景観のバランスを踏まえながら、それぞれのデザインの美しさに磨きをかけることを考えることもよいのではないか。
- 今まで、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先からみると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。
- 横浜市が1970年代に検討していた景観の考え方を踏まえつつ、特に、港の見える丘公園から横浜港が美しく見えるように開発のポイントを押さえることも必要ではないか。
- 山下ふ頭は、バイブリッジから眺めると目立つ場所にある。ここは羽田空港から入ってくる人たちにとって入口そのもの。かなり景観も、作り方によっては大変素晴らしいものになると考えており、素晴らしいものにしなければならない。
- 山下ふ頭は、横浜港頭地区にありながら、横浜市街にも近い好立地にある。是非、この魅力的なロケーション、横浜の特性を活かした魅力的な事業開発としてもらいたい。

(市民意見等)周辺と調和のとれた景観づくり。

(市民意見等)内港地区の景観を継承しながら新たな港まち横濱のシンボルを生み出す。

意見要旨(案)

- 横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえ、海と陸の両方の視点場から見た山下ふ頭の景観や、周辺地区とのバランスを意識した開発を行うべき。
- 羽田空港からバイブリッジを渡ってくる来街者や、その下をくぐって訪れるクルーズ客にとって、横浜への入口となる場所であり、**市街地にも近いという魅力的なロケーションを活かした開発を進めることが必要。**

カテゴリー別意見とりまとめ

デジタル活用

Point 1

デジタル
時代への
対応

意見(抜粋)

- デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることから、デジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備することが必要。
- コンテナ船の大型化に伴い物流機能の沖合への展開が進むエリアと、シースケープ再創造エリアとして、港をランドスケープの背景として、これらのゾーンを囲うような形で、上瀬谷を含めた都市農業のグリーンゾーンを一体的にして、横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を考えたときに、山下ふ頭に建設する象徴的な施設が何かを考えるべき。
- **世界の人口が100億人の時代を迎え、そのほとんどがデジタルネイティブになっていく。あと10年もしたら、デジタルネイティブがメインとなっていく世の中にしっかりとフィットするようなものに、山下ふ頭はなっていかなければならない。**
- **横浜港はDX化とGX化ということで、先進国ならではの港湾であるべきであり、こうした新たな価値に対応して、港湾を機能強化することも必要。**

(市民意見等)DXの導入等、先端技術を活用する。

(市民意見等)スマートシティ構想など先進的な取り組みを実装するエネルギー・デジタルネットワークの構築。

意見要旨(案)

- デジタルとリアルを有効にミックスユースした横浜市全体の土地利用を背景として、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することが必要。
- **DX化とGX化による新たな価値に対応して、山下ふ頭を含めて横浜港の強化を図ることも必要。**

第1回～第5回の意見のまとめ

資料3

■次世代につなげる持続可能なまちづくり

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|--|---------------|----------|---|
| 長期的な視点に基づく開発 | 50年先または次の世代、または100年後の都市の様子を想像しながら開発の方向性を検討すべき、その際、現状では非効率でも、長期的な視点も踏まえて利益があるような都市のデザインを検討することが望ましい。 | 委員会第1回 | 北山委員 | ■世界のウォーターフロント開発のトップランナーとして、50年後、100年後を見据えた持続的な運営が可能な開発を行い、国内外に誇れる横浜を作るべき。 |
| | 美しい街、強い街でなければならない。生き残るいわゆる持続が必要。未来に向けて持続性や永続性のある街づくりを進める必要。 | 委員会第1回 | 石渡委員 | |
| | 次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのはダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。 | 委員会第1回 | 隈委員 | |
| | 現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜を作るために描いた未来に基づいた開発を進め、50年100年後に振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのときのおかげと言ってもらえるようにしたい。 | 委員会第1回 | 石渡委員 | |
| | 新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | 広大な土地を再開発する際は、40,50年後を考慮に入れながら進める必要があり、短期的な目線で開発を進め、必要な時に改めて再開発をすればよいという考え方は避けるべき。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| | 税金を投入しなければ成立しないといプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ持続的な運営が求められる。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | ○持続可能なまちづくり ○将来を見据えたまちづくり | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○サステナブルを実現する | 意見交換会第2回 | | |
| | ○世界に誇れるダイナミックな未来像を描いてもらいたい。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○横浜のまちづくりも人口減少を前提にして考える必要がある。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○歴史的転換期において、「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくりを推し進める。 ○市民の目を気にしていたら、代り映えがなく20年後にはさびれて失敗に終わる予感がするので、富裕層にターゲットを絞り長年続く開発にしてほしい。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○山下埠頭の未来は、横浜の未来だけでなく、日本・世界の未来 ○モノを消費させることを核とするのではなく、この場所での経験を人々の思い出にできるような場所にしてほしい。 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |
| ○国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視した構想の立案が何よりも求められる。 | 事業者提案第1回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|--|---------------|--------|---|
| 発展を支えるイノベーション・教育 | 日本では、対外直接投資というのは非常に低いため、増加させるために、企業、学校、病院の誘致、世界中の一流の人材や企業の受け入れのための具体的な取組を検討すべき。 | 委員会第1回 | 今村委員 | <p>■次世代のニーズに応え続けるため、イノベーションを創出し、拠点を集中的に配置する。また、新しい技術や地域の賑わい創出等の社会実証や実装の場として活用していくべき。</p> <p>■官民の役割を明確にし、海外からの直接投資の増加、世界中の優れた人材の確保、教育的な役割の追加を目指す必要がある。</p> |
| | 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にしていくか。 | 委員会第1回 | 内田委員 | |
| | みなとみらい地区に企業とか大学のイノベーション拠点の立地が進んできてますけれども、点的な存在になっていてネットワーク化・クラスター化されていない。クラスター化していく仕掛け作り、山下ふ頭をプラットフォームにできないか。 | 委員会第1回 | 平尾委員 | |
| | 日本の若者、ミレニアル世代、Z世代が、何を重視していくかということをしっかりと考えていく必要がある。 | 委員会第2回 | 涌井委員 | |
| | バーチャルリアリティの館ってということで、みなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業の研究開発をしている最先端イノベーションの実証実験の場。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | 段階的な開発が進む中で、その一部を地域の賑わい創出や課題解決につながる社会実証等の場として活用させていただきたいと考えています。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | |
| | クルーズの出発点の横浜により、教育的な見地や人生感などが変わる。旅行の世界の起点となる場所では、刹那的な快楽を求めるのではなく、教育などにより横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。 | 委員会第4回 | 藤木幸太委員 | |
| | やはり人口の増加減少を補っていくための経済の発展というのはイノベーションであって、イノベーションが単に発明がされるだけではなく、山下ふ頭で社会実装を展開していくこと。 | 委員会第5回 | 平尾委員 | |
| | 日本の人口が減るため、中の取り合いではなく、企業誘致とか外国人の労働者を含めた人の雇用を確保できるような状況を作るためにはどうしたらいいか。行政のアクションプランを示した上で、行政だけでは難しいので、どこを巻き込むかという具体的な策が必要。 | 委員会第5回 | 今村委員 | |
| | ○企業誘致による産学連携 ○実験都市の実現 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○先進的なまちづくり ○先進技術を活用する ○イノベーションの創出 ○研究施設 ○大学 ○学校 ○学習施設 ○教育施設 | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○子育て教育（子どものチャレンジ、先端技術の拠点、産学連携拠点、学園都市） ○企業大学研究開発（開発特区、最先端テクノロジー、大学都市、海洋研究、実験都市、産業拠点、最先端技術発信の場） | 意見交換会第1回 | | |
| | ○海に面する特性を生かす ○世界から注目される ○横浜の競争力を高める ○新しい文化が育つ ○人材が育つ ○国際都市としてのイメージがアップする ○世界から人が集まる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○国際交流の拠点になる ○実証実験の場となる ○カーボンニュートラルに取り組む ○DX等を取り入れる ○学術・研究開発機能（実証実験の場にふさわしい・教育や文化への投資は持続性ある取り組み・教育への投資、若者の定着による） | 意見交換会第2回 | | |
| | ○横浜の知的財産を確保するための国際図書館、大学機関の誘致。 ○基礎研究ができる研究開発拠点、技術者・研究者を生み出す教育拠点 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| ○山下ふ頭を教育の面から活用していく切り口。 ○国または市によるインフラ整備を促し、民間事業者による投資を呼びやすい計画とすべき。 ○中高一貫校や大学、企業誘致による最先端技術の研究開発拠点機能 | 市民意見募集委員会第5回後 | | | |

| | | |
|---|----------------------|--|
| <p>○オープンイノベーションを先導できるグローバル企業を誘致して、ふ頭から内港地区や周辺地区のイノベーションを促進、創作の場の共有・オープン化によるイノベーション創出。</p> <p>○内港地区が築いてきたモノづくりのプライドを継承し、市民と協働で次なる「横浜発祥」を生み出すイノベーションキャンパス</p> <p>○神奈川県在または海外の大学や研究室の誘致。美術・デザイン・エネルギー関連などの研究室の誘致。</p> <p>○多面的な社会課題を解決するスマートシティへの取組。 (社会実験やイベントが実施可能なパイロットフィールドとしての開発)</p> <p>○国策へアプローチする社会実証モデル都市としての開発。</p> <p>○供用後も継続して一定エリアを社会実証場所として暫定利用。 (山下ふ頭での社会実証の成果を持続的に都心臨海部のまちづくりで実装)</p> <p>○先進都市としてイノベーションを誘発・発信する3つの次世代型都市基盤(①コミュニティインフラ・②デジタルインフラ・③グリーンインフラ)と文化創造都心・国際交流都心を目指す3つのグローバルハブ機能(エンターテインメント、メディア・芸術、研究・アカデミー)による次世代の街づくり「スマート・グリーンシティ型開発」</p> | <p>事業者提案 第1回</p> | |
| <p>○街としての賑わい創出や経済発展を図るためには、企業による地域への投資が必須。立地特性を活かした実証実験の場として活用できる環境を整えることで、企業誘致や企業投資が活発となる。</p> <p>○エンタメ関連企業のスタジオやオフィスを集積し、最先端のクリエイティブ環境を整備。</p> <p>○世界のエンタメ関連企業のスタジオやオフィスを集積。</p> <p>○横浜市においても産業ターゲット及び場所を定めた推進を行うことで、制度活用によりインセンティブを得られる企業の誘致とまちの魅力づくりを同時に実現することが可能。</p> <p>○キャンパス型オフィス、グローバル企業、研究機関、大学等</p> <p>○研究施設 海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター</p> <p>○滞在型研修施設(国内外の多様な職種・業種の研修やセミナーを中期間滞在しながら集中して行える施設)</p> <p>○『世界基準の遊び』を学べる環境の創出と次世代型産官学連携の構築、持続性を高める産官学連携の仕組みづくり。</p> <p>○「横浜デザインミュージアム」の創設。世界のデザインミュージアムとのパートナーシップ/NPO法人。日本唯一の市営デザインミュージアムとして国内外へアピールする。</p> | <p>事業者提案 第2回</p> | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|----------------------|--|---|--|---|
| <p>次世代に渡る市民生活の安定</p> | <p>持続可能であるかどうかということが重要。横浜経済を動かす拠点として、また市民生活の維持に向けて、どのような場所とするのかを検討するべき。中長期的な視野、時間軸で再開発の方向性を考えることが必要。</p> <p>現在の現役世代の子世代、孫世代にもつながるような将来的にも永続的になるような再開発の内容を検討するべき。</p> <p>再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。</p> <p>都市を構想することは、これから生まれてくる未来の人のための都市を構想することです。山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。</p> <p>顕在化する労働者不足に対応するため、外国人等の定住人口増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。</p> <p>横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用。</p> <p>山下ふ頭の再開発は環境問題や経済、社会課題と向き合い、いかなる開発事業になったとしても、採算性の良い、横浜市にとっても経済効果が上がり、雇用を創出する持続可能な事業開発となることを期待。</p> <p>○市の収益の向上 ○横浜ブランドを創る・高める ○市民が楽しめる・利用できる ○次世代につなげる ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○滞在時間が増加する ○文化・芸術に触れられる ○多世代が楽しめる・交流できる ○横浜に住みたくなる・住み続けたいくなる</p> | <p>委員会 第1回</p> <p>委員会 第1回</p> <p>委員会 第1回</p> <p>委員会 第2回</p> <p>委員会 第3回</p> <p>委員会 第4回</p> <p>委員会 第5回</p> <p>意見交換会 第2回</p> | <p>内田 委員</p> <p>今村 委員</p> <p>石渡 委員</p> <p>北山 委員</p> <p>坂倉 委員</p> <p>高橋 委員</p> <p>田留 委員</p> | <p>■子から孫へと世代を繋ぐまちづくりの構想や、税収効果を生み出し雇用創出を図る取り組みを進めることで、将来にわたる経済効果の維持と市民生活の支援を両立させるべき。</p> |

| | |
|--|---------------|
| ○横浜があらゆる世代にとって魅力的であり続けるために横浜市民の象徴的な場所としての多機能図書館 | 市民意見募集委員会第1回後 |
| ○新しい事を受け入れ、手をとれる・馴染める風土や街づくりをできる、いま横浜で生まれているハマッ子に未来に任せられるような未来を見据えた議論とスタートが必要。 ○再開発にあたっては、先人の業績に顕著に学び、未来の横浜市民にも誇れる都市づくりをしていきたい。 | 市民意見募集委員会第2回後 |
| ○「国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発する」方向性は、短絡的には地域経済にいくらか刺激になっても、市民が誇りとする「横浜らしさ」は壊され、市民生活の豊かさは実感できず、持続不可能な都市に変貌してしまう。 | 市民意見募集委員会第3回後 |
| ○山下ふ頭再開発の目的は、「夢・希望・楽しさを託そう」ということであり、更に分解して、①健全（公序良俗・環境）、②子孫への遺産をしっかりと残す、③経済をしっかりとすることを具体的な目標とする。 ○社会課題、地域課題を解決する公共サービスの自立。 | 事業者提案第1回 |
| ○日本は少子高齢化、地球温暖化、デジタル社会化、複雑化する国際関係などの対応を通じて政治・社会、経済の中長期にわたるイノベーションが不可欠である。国際社会における横浜と日本の将来を見据えた中長期的視点を重視した構想の立案が何よりも求められる。 | 事業者提案第2回 |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|---------|---|---------------|------|--|
| 柔軟な開発計画 | 巨視的に考えた上で、段階的な整備の計画を立てる必要。一度にすべてを作り上げていく考え方は不適合、そのうえで、10年後は現在から変わっているのか、それとも変わっていないのかということは、再開発の方向性の定めていくうえで、戦略的に誘導することが重要。 | 委員会第2回 | 涌井委員 | ■開発テーマの統一性を保ちつつ、将来の情勢やニーズ、災害発生等に柔軟に対応できるよう、一定規模の可変性あるオープンスペースを確保し、段階的に整備を進める計画を立てるべき。 |
| | 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | 時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | この計画も50年とは言わないまでも、ロングスパンで考えるべき。一気に完成に再開発を進めていくということでは必ずしもない。全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことが極めて大事。 | 委員会第4回 | 涌井委員 | |
| | 「可変性」というキーワードが重要だと思う。例えば、平時の際は人が賑わう用途として供用するが、災害等の有事の際は支援拠点として活用するなど、柔軟に空間を利用する視点が必要。時代の変化や需要に応じたまちづくりの視点も重要。柔軟に空間を活用できるような整備を検討すべき。 | 委員会第5回 | 石渡委員 | |
| | ○2050年位を目指して、社会情勢に合わせてフレキシブルに対応することが持続的な発展に必要。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○「段階的」開発となれば、未来世代が手を入れられる余地も残しておく必要がある。 ○広さを活用して20-30年かけて成長させるまちづくり。 ○幾世代にも亘って継続的に手を入れていく「現代版里山」の一角を確保。 ○広域避難場所にもなる緑地を整備し、その後、徐々に、周辺に賑わいを作る施設を、時代のニーズに合わせて建設していく方がよい。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○「現役世代が将来的な社会保障費の負担増に耐えられるようにする」仕組み作りが一番大切で、独立採算の取れない公園等の施設は将来の若者のことを考えていない。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○時代の変化に合わせた用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい。 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |
| | ○緑地のつながりを整備して基盤を作り、その後に時代の変化に対応しながら発展させていくというアプローチが持続可能な再開発の理想的な進め方。 ○投資が継続するような開発とすべく、時間軸と併せたフレキシブルな活用ができるような段階的開発の余地を残した空地 ○再開発における長期的な視点と柔軟な発展計画が地域社会全体に利益をもたらす。 ○二段階の開発とすることで、I期の収益性や社会情勢等を検討し、II期で確実性の高い、時代に合った開発 | 市民意見募集委員会第5回後 | | |
| | 事業者提案第2回 | | | |

■市民合意形成、プロジェクト体制

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-----------|--|---------------|----------|---|
| 市民のための再開発 | 横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | <p>■市民がリラックスして楽しめる場所を提供し、自然やコミュニティと共生しながら、文化や生活の豊かさを求める人々が集まる新しい都市モデルを追求すべき。</p> <p>■横浜市がイニシアチブを持ち、市民のための再開発を行う視点と、経済成長や財政収支を両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。</p> |
| | 経済成長や財政収支などのファンダメンタルズと市民や住民により、意味のある形で活用するという問題意識が両輪で必要。 | 委員会 第1回 | 寺島 委員 | |
| | 市の多額の予算が山下ふ頭再開発に投下されることは避けるべきである一方、財政削減を優先して、市民のための開発という点が考慮されないということも避けるべき。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | |
| | 定常型に向かう社会では、都市は資本活動だけではなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを求める場になると考えられ、横浜はその新しい都市モデルを追求してほしい。 | 委員会 第2回 | 北山 委員 | |
| | 経済を否定はしないものの、都市には人が居住する場所であることから、住人のための都市という考え方が1番最初にあるべき。投資の呼び込み、インバウンドのために都市があるわけではなく、プライドのある魅力的な都市であれば、結果として人々が訪れる場所になる状態になると好ましい。 | 委員会 第3回 | 北山 委員 | |
| | 横浜市がイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち有効に活用すべき。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | ○市民も楽しめるまちづくり ○市民への還元 ○税収の確保 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○市民が利用できる、憩える、学べる ○市民の役に立つ ○市民も楽しめる ○公共施設 ○居住施設 | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○子育て教育（生涯学習の場、子どものチャレンジ、子供が楽しむ場） ○市民のための再開発（スポーツ施設、滞在施設、庭・岡・公園、散歩、サイクリング） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○市の収益の向上 ○横浜ブランドを創る・高める ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○海に面する特性を生かす ○歴史文化を尊重する ○世界から人が集まる ○先進的なまちである ○開放的な憩いの場づくり ○ステナブルを実現する ○国際交流の拠点になる ○文化を活用する・発信する ○居住できる ○世界から注目される ○人材が育つ ○歴史資産を残す ○防災機能を備える ○次世代につなげる ○横浜らしさが感じられる ○教育・知的探求の場 ○市全体の活性化に寄与する ○横浜の魅力をアップする ○市民が楽しめる・利用できる ○横浜に住みたくなる・住み続けたいとなる ○多世代が楽しめる・交流できる ○身近な市民生活を豊かにする | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○市民の山下ふ頭の利用を視野に入れることが肝要。 ○再開発にあたっては公共性のない事業に多額の補助金が入らないようにしてもらいたい。 ○横浜の歴史、市民主体のまちづくりに帰るべき。 ○事業性や収益性に捉われるのではなく、横浜市民にとって快適なまちづくりを目指すべき。 ○市民が幸せな生活を営んでゆくために、夢や希望を抱きながらものを考えるスペースを作っていくことの重要性。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○大型の天体望遠鏡の活用。サッカー場、テニス場、卓球、バドミントン、バスケット等、スポーツ場 ○将来の横浜市民を増やすために、子供専用のサッカー場や野球場、屋内競技施設などの子供たちが繰り返し来たいと思わせる施設 ○収容能力を超える観光客は地元を疲弊させ、先人の遺産を食い潰しうる。まず市民にとって魅力的な施設を開発し、その良さが知られてからインバウンドを増やすべき。 ○山下ふ頭再開発はインバウンドのためではなく横浜市民のために行うべき。 ○空き地を放置せず、定期の貸出ができるとうよさそう。 ○投資やインバウンドの為に都市があるわけではなくて、都市には人が住んでいる、住民のプライドのある魅力的な都市ならば観光客はやって来る。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |

| | |
|---|---------------|
| <p>○海辺として市民生活を取り込んだ土地利用をすべき。</p> <p>○市民の落ち着いた憩いの場所としての役割</p> <p>○すでに国際都市としての役割は果たしているので、地元民が満足できる空間が良い。</p> <p>○市民の共有地として文化創造・憩い・生活・防災の場所として利活用すべき。</p> | 市民意見募集委員会第3回後 |
| <p>○行政は経営ではないこと、経済合理性だけを追求したら市民の共有財産は搾取されて市民が不幸になることを肝に銘じてほしい。</p> <p>○山下ふ頭の再開発は経済合理性よりも市民の共有財産としての認識を優先すべき。</p> <p>○参画、協働、創造という一連の営みから生まれる心の充足こそが市民の幸福には不可欠、山下ふ頭の一角に市民の共有地として現代版「里山・里海」たる「入会地」を作る。</p> | 市民意見募集委員会第4回後 |
| <p>○実際の着工までの複数年間、山下ふ頭を放置しておくのはもったいないので、年単位の暫定利用を募集して、早期の活性化につなげることも必要。</p> | 市民意見募集委員会第5回後 |
| <p>○市民として、憩いを感じられ、身近に感じ、誇れるものであってほしい。</p> <p>○市民が誇りを持ち、集い、憩える場所となる必要があるため、市民の意見を聞きながら行う行政運営の原則に則り、市民参加により跡地利用計画を立案することが重要。</p> <p>○市民が集う空間で世界中の市民がそこで交流をし発展するような、一時的な利益よりも公共性と将来の展望をまず第一に考えるべき。</p> <p>○市の財政ではなく、市民がいかに有意義に過ごせるコミュニティーを形作れる場所とできるかに重点を置くべき。</p> | 市民意見募集委員会第5回後 |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|----------------|--|----------------|---|
| 横浜市全体のプロジェクト体制 | 市有地である山下ふ頭は、市の部局をまたいで長い時間軸で考え、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していく。そのため、市全体のランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えにも取り組むべき。 | 委員会第3回 今村委員 | ■市の関係部局が横断的に連携し、中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発を行うべきである。 |
| | 横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要。そのうえで、ランドデザインに沿って、事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高まることで、プロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業を迎えることができる。 | 委員会第3回 今村委員 | |
| | 山下ふ頭の再開発を検討するにあたり、横浜市も、港湾局だけではなく、複数の関係部局で、部局横断で都市の問題を解決することが必要。 | 委員会第3回 北山委員 | |
| | 検討にあたっては、港湾局だけでなく、横浜市関係部局の関与や委員会への出席が必要と考えます。 | 委員会第4回 高橋委員 | |
| | ○再開発にあたっては、横浜市全体のまちづくりをどうするかは重要な論点。 ○各局の課題解決または創造的なプランを創出するため、若いスタッフを集めた組織横断的なチームを作る。 ○「人間中心の都市」・「持続可能な環境」などを理念として掲げる「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」を参照すべき。 | 市民意見募集委員会第1回後 | |
| | ○市長直属の全市庁横断的な総合調整部署が設けられてしかるべき。 ○横浜市全域に関わる広域戦略が求められるのであるから、市庁横断的な、調整的な組織が本答申の受け皿として相応しい。 | 市民意見募集委員会第2回後 | |
| | ○この計画を横浜市各局横断する一大プロジェクトにする提案を検討してほしい。 ○再開発は横浜市が総力を挙げた体制で取り組むべき。 | 市民意見募集委員会第3回後 | |
| | ○「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」が取り上げられたことは評価。 | 市民意見募集委員会第4回後 | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|------------|------------|---|
| 答申策定後に経るべきプロセス | 住民自治の観点から、答申後に市が事業計画案を策定し、市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定する流れとすることは適当と考えられる。答申後の手続について、委員会が担う役割も、答申に盛り込んでほしい。計画内容というハード面だけでなく、事業者の募集方法などのソフト面を含めて答申内容を検討してはどうか。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | <p>■答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を行うプロセスを経ることが適当である。また、市民参画の在り方や開発に対する市民意見の伝達手法についても考慮することが必要。</p> <p>■事業計画策定後には、市民など多様な主体が管理に参加できる仕組みの検討も必要。</p> <p>■山下ふ頭の再開発が部分最適だけでなく全体最適の事業となるよう、バランスを取るべきである。</p> <p>■横浜港や市域全体のランドデザインや、これまで議論されてきた構想との関係性を常に意識し、山下ふ頭の事業について大きな時間空間の視座に立って十分な議論・審議を行うべきである。</p> |
| | 山下ふ頭のプロジェクトに市民が参画するということは、意見を言うだけではなく、メンテナンスと方向付けの議論における、市民が負うべき責任があることを明確にする必要。 | 委員会 第1回 | 寺島 委員 | |
| | 市民からの意見の中に「参画」があります。市民が参画できるようなものを意図するということがすごく問われていると思う。 | 委員会 第2回 | 寺島 委員 | |
| | 横浜港あるいは横浜市全体のランドデザインを改めて議論する必要。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 太委員 | |
| | 山下ふ頭は貴重な存在であることから、慎重に議論を重ねて十分に審議されたのち、具体案を策定してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 事業化に際しては、市民参加も含めて、様々なケースを考慮したうえで、決定してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 安易に公募により決めるのではなく、オール横浜で事業のあるべき姿を事前に議論してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 横浜港を支えてきた人々の意見を十分に反映させた開発としてほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 事業計画はどういうコンセプトか、何が変わるのかなどをしっかりと市民に伝える。事業者の選定にあたっては、市民がどういうことを考え、どういうことを望んでいるのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではない。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | 横浜市の資料では、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっておらず、極めて不適切であるため、事業計画の検討委員会を設置し、そこに市民も入れて検討すべきである。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | 事業計画の検討委員会には市民・学識経験者、横浜市の職員も入っていただいて検討するというのが1つ、この委員会に入らない市民の意見あるいは有識者、地域関係団体等もその委員会に意見を出せる。事業に応募する事業者は検討委員会を毎回傍聴。そして公聴会を市長によって開催を義務付ける。市民からも開催要求が出せる。委員会に対して議会は意見を言え、その後の議会審議にも円滑に進めることができる。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | 市域全体のマスタープランにおいて、横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、部分最適にはなるが全体の最適にならない。 | 委員会 第4回 | 涌井 委員 | |
| | 大規模プロジェクトは全体最適と部分最適のバランスだと思う。ただし、一番大事なのは、部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | 長期ビジョン、中期計画とも、来年が最終年度になるで、これまでの計画を振り返りながらどう新しい横浜市のあり方を模索するのか、その中で山下ふ頭をどういう風に位置づけるのかということが課題。 | 委員会 第5回 | 平尾 委員 | |
| | 山下公園、山下ふ頭の新しい緑地についても、市民がただ楽しむだけではなく、市民がそのメンテナンスにも参加するような仕組みが必要ではないかということを期待したい。 | 委員会 第5回 | 平尾 委員 | |
| | 50年とか100年とか、またはこれから未来の住人のために都市空間を議論するにあたって、人口が減少していく、経済も縮減する日本の中でどのような横浜を作っていくかっていう構想がすでに2009年に作られている。そういう蓄積を元に大きい時間空間の中で考えるということを是非やっていただきたい。 | 委員会 第5回 | 北山 委員 | |
| 人口減少、財源の問題も含めて都市の持つ財政基盤をどう考えるか、部分最適ではなく全体最適が重要。 | 委員会 第5回 | 高橋 委員 | | |
| 市民のため市民による、そういう市民の合意形成によってこの事業計画を作っていくという仕組みについては是非この委員会の答申の中に盛り込んでそれを市の方で受け止めて進めていくというような道筋ができるように是非して欲しい。 | 委員会 第5回 | 幸田 委員 | | |

| | |
|--|----------------------|
| <p>○東京湾全体の視点で山下ふ頭の位置付けを明らかに。事業体のあり方も議論提言すべき。</p> <p>○民主的決定プロセスも議論提言すべき。重要項目の一つとして「市民参画」。</p> <p>○まちづくりに市民が主体的に参画することで地域主権主義に通じる市民自治を進める。</p> <p>○様々なテーマで自主的に活動し、まちづくりや市民生活の課題解決に実践的に携わっている市民グループの声こそ「新しいまちづくり」に必要。</p> <p>○若い人の感性を取り込むことが不可欠、また、市民参加の各種形態を入れ込んでいくことに集中してもらいたい。この計画に市民がどう関与するのか期待。</p> <p>○長期的に1000回の市民ミーティングを行う「1000ミーティング」を提案。</p> | <p>市民意見募集委員会第1回後</p> |
| <p>○庁内横断的な組織体制で各局に備蓄された資源を集約して、さらに市民や事業者が参加する部局を創設する。山下ふ頭をどうするかは住民投票で決めるべき。</p> <p>○市民が主導する市民会議、区民会議を開催するなど長期的な計画が必要。</p> <p>○大阪万博の工事の遅れなどを考慮すると、供用化の期限を決めて開発を急ぐべきではない。</p> <p>○実際に供用開始する頃のメインの使い手世代の意見を取り入れる。そういった世代で未来を語る場があってもいい。</p> | <p>市民意見募集委員会第2回後</p> |
| <p>○歴史的転換期において、「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による、豊かさが実感できるような持続可能な都市づくりを推し進める。</p> <p>○「市民参加」は「人民による」が実現してはじめてその意味が生きてくる。</p> <p>○いままでの大規模開発は地元の意向の反映や参加が難しく、大手企業主導で進められて疑問が残るようなプロジェクトがあったが、山下ふ頭再開発事業は市民がつくる再開発計画なので、「MORE YOKOHAMA ALL YOKOHAMA」な計画である。</p> <p>○運営を市民一体となっていけると、さらに価値のあるものになる。</p> <p>○横浜市ファクトシート住民意識について触れるべきであり、市の住民意識の捉え方は市民参画のあり方に影響すると思う。</p> <p>○行政は経営とは違うし、今どき経済成長に囚われる市政運営は時代錯誤なので、もっと広範な層の地域関係団体と呼ぶのが「市民参画」の第一歩である。</p> <p>○横浜市のランドデザインを新たに制作するために、横浜市全域での各地域の都市機能の再構築と山下埠頭の位置付けの再設定と用途地域の見直しが必要との提言は理に適ったもの。</p> <p>○市はひとたび方針が決まれば、それを変えずにその通りに進めていくので、方針が決まる前に市民に選ばせるべき。</p> | <p>市民意見募集委員会第3回後</p> |
| <p>○現状のスケジュールでは市民参画は有名無実になる恐れがあるので、委員会に市民を参加させるなど、計画づくりや意思過程に対して、市民への門戸を開くべき。</p> <p>○多様な意見を持つ「市民」をいかにバランスよく公正に選ぶことができるかが課題。</p> <p>○市民を加えた「事業計画検討委員会」にて事業計画を進めること。横浜市の今後の他の再開発計画策定の模範となるようなプロセスが確立されることを期待。</p> <p>○市民の意見を最大限尊重した話し合いの場を継続して設けるため、市民参加型ワークショップをもっともっと行ってほしい。</p> <p>○開発事業者実際に議論に参加させる・計画をプレゼンさせるなどがよい応募条件となる。</p> | <p>市民意見募集委員会第4回後</p> |

| | | |
|---|----------------------|--|
| <p>○市民参画は不可欠の要素であり、人口減社会の都市づくりには必須。</p> <p>○事業計画策定過程に「市民参加」をいかに保証するかが重要。</p> <p>○市民が過半数を占める「事業計画検討委員会」を設置することを要望する。</p> <p>○他事例を踏まえると事業計画の策定を市民参加で行うことは重要なので、今後の都市開発のモデルケースになるような実効性のある市民参加制度の構築を期待。</p> <p>○アリバイ作りとならない市民参画のためにも、過半数の委員が市民となるような事業計画策定委員会を設けるべき。</p> <p>○「市民参画」は市民の意欲を大いに掻き立て、新たな横浜を担う世代の参加をも呼び起こすものになる。</p> <p>○横浜全体の樹林地の回復と、管理における市民ボランティアの調整をおこなうような公益財団法人を、市民などの寄付によってつくる。</p> <p>○将来に渡って長く利用する若者の意見を重要視するため、今後の市民意見募集においては年齢制限を設けるなどの工夫をするべき。</p> <p>○住民第一の理念をないがしろにする「東京大改造」のような大規模開発の後追いは断固拒否。</p> <p>○部分最適を考えても全体最適とはなり得ず、都心部5区との相互関係を鑑みた、市民のための山下ふ頭を考えることで経済効果を高めるべき。</p> <p>○再開発が実現するのはまだまだ先なので、再開発された山下ふ頭を実際に利用する中堅層や若年層、それよりも若い世代からの意見を踏まえて計画素案を作るべき。</p> <p>○市民参加のない形での答申・計画作りはありえない。</p> <p>○パブコメ等のように一時的に市民の声を聴くのではなく、市民が委員となる「事業計画検討委員会」のように計画に参画することが将来に渡って意味のあるものになる。</p> <p>○市民の合意形成の実効性を高めるには議論の場に市民が参加することが必要不可欠であるため、「事業計画検討委員会」での市民参画の実施を要望。</p> <p>○現状の市民意見の取扱いでは市民は言うだけ、市は聞くだけというレベルで終始してしまうので、事業計画検討策定会議のような市民参加を実現すべき。</p> <p>○市民と協力してまちづくりを行い、多様性を受け入れ活かす事が、街の魅力となり、良いロールモデルになるので、市民が意思決定をできるような実効力のある機会を設けることを希望。</p> <p>○市民生活・環境を重視するなど、市民視線からのまちづくりを進めることが重要なので、市民代表を検討委員会に加え、時間かけて市民合意を重視した検討を求める。</p> <p>○税源が厳しくなる中で、他事例の失敗を踏まえ、市民の声を真摯に聞くべき。</p> | <p>市民意見募集委員会第5回後</p> | |
| <p>○民間マネジメントによる新たなコミュニティや、多様な人々がつながるコミュニティインフラの構築。</p> <p>○市民参加型共創活動を通じてコミュニティを醸成。</p> <p>○開発手法提案として、「市民の意見を広く遍く聴き、提案されたアイデアを集約」、「山下ふ頭のあるべき姿」を構築すべきと提言しており、そこには当然に「多様性社会」の実現。</p> | <p>事業者提案 第1回</p> | |

■観光・インバウンド

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|-----------|----------|---|
| 観光・インバウンドの必要性 | ダイナミズムで引きつける力です、外から。要するにインバウンドも含めて、人だけじゃなくて投資も含めて、横浜がすごいこと始めたなと思うような、外からの引きつける関心、それから人流、投資、あらゆる面で引きつける力がどこまで持っていけるのか、そういう中で議論を深めていかなきゃいけない。 | 委員会第1回 | 寺島委員 | ■既存の観光資源の活性化を含め、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込み、海外からの関心、人流、投資等を惹きつける必要がある。 |
| | 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、呼び込むために、世界の港湾イノベーションをいかに参考にしていくか。 | 委員会第1回 | 内田委員 | |
| | 人口減少においては、観光客の減少の補填として、外国人に来ていただくことで稼働率を高めていくことが、インバウンド戦略として行われてきている。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| | ○観光 ○非日常 ○観光の充実 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○国際的な観光地になる ○世界から人が集まる ○世界に発信する | 市民意見募集第2回 | | |
| ○市民が楽しめる・利用できる ○世界から人が集まる ○国際交流の拠点になる ○世界から注目される ○横浜の魅力をアップする ○観光資源を作る ○市の収益の向上 | 意見交換会第2回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|------------|--|--------|----------|--|
| 観光資源の事業性確保 | 観光資源の保存と活用を両輪とした、独立した持続的な採算による運用をすることが重要。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | ■観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識するべき。 |
| | インバウンド戦略の一環として実施したインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的。インバウンドに向けて区別する必要はない。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| | 今までの観光施設は経済合理性を軽視してきた。これからは経済合理性をさらに求める必要がある。市の財政に悪影響を与えることだけは避けるべき。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|--|-------------------|--------------|---|
| インバウンドのニーズを捉えたコンテンツの提供 | デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることからデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備する必要。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | <p>■インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、その価値を形にしていくべき。また、滞在時間や消費単価が高い層の需要に応えるようなサービス機能も必要。</p> <p>■今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。</p> |
| | 経済を盛り上げていくためには、インバウンドを考慮すべき、そのうえで、外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象をもっており、そのような視点も非常に重要。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | |
| | 歴史・文化を中心とした施設では多様性がなく、魅力が少ない。都市の文化、要するにショッピングやナイトライフであったり、日本の食文化、それにアクティビティなど、インフラ投資と整備を進め、多様なアピールをすることで、結果として7年間で外国人観光客を4倍に増加させた。 | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | インバウンドはやはり、観光の強い味方であり、都市競争の中で勝っていくには必要だが、今は、日本に来るインバウンドが、目的地が横浜になっていない。逆転していくためには、世界的に見ても、日本文化に対する好感度というのは非常に高いことから、我々が再評価して、日本の文化の価値というものを認めていき形にしていくことや、世界基準、老若男女ダイバーシティすべてを受け入れる寛容性が必要。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | 世界中からのインバウンドを取り込める街になることが必須。海外の若い世代中心にですね、日本の魅力を示す代名詞ポップカルチャー。漫画・アニメ・ゲームはもう世界中に熱心な愛好者がいて、やっぱりそこは日本がとてもレベルが高い、この強みをやはり生かしていくために、日本のポップカルチャーの集積地にしたらどうか。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションとなるよう取り組むべき。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | 土地利用については港湾機能を軽視してはならず、例えば近年高付加価値インバウンド客のプライベートジェットや大型クルーザーの発着機能が用意されていない、などの不評が問題化している。 | 委員会 第5回 | 涌井 委員 | |
| | インバウンド進行政策を国是とする以上、こうした需要に応え、かつ滞在時間や消費単価が高いこうした層へのサービス機能を一部に組み込むべき。市民や海外来訪者の魅力向上にも繋がると思料している。 | 委員会 第5回 | 涌井 委員 | |
| | ○スタジアム等のスポーツ機能 ○コンベンション機能 ○クルーズ船受入機能 ○食・美容 ○健康・リラクゼーション機能 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○独自性がある ○レジャー施設 ○テーマパーク ○イベント・イベントスペース ○アミューズメント施設（映画館等） ○ショッピング機能 ○マーケット ○飲食店 ○スタジアム ○スポーツ施設 ○アーバンスポーツ施設 ○リゾート施設 ○コンベンション施設 ○展示場 ○居住施設 | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○海に面する特性を生かす ○防災機能を備える ○次世代につなげる ○多世代が楽しめる・交流できる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○居住できる ○新しい文化が育つ ○船が停泊する ○交通利便性の向上 ○シンボルがある ○ナイトタイムの活性化 ○横浜ブランドを創る・高める | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○ビール工場、ウィスキー蒸留所、ビアホールを集合させたテーマパーク ○横浜や神奈川の特産品や海鮮市場などが販売できる横浜観光マーケット | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | ○鹿鳴館時代の衣装で町ブラができ、写真映えするスポットがあると良い。 ○これからの子供たちと世界のファンのために多様な刺激を与えるためにも山下ふ頭にアニメ・ゲーム・マンガ文化などの日本文化の大型施設 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| ○日本在住の人は割引を受けられるシステムを導入し、実質的に外国人旅行者からの収入を増やす。 ○元町中華街、元町、山手を含めた観光ルートを整備するべく石川町から動く歩道 | 市民意見募集 委員会第5回後 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|-------------|---|---------------|----------|---|
| 近隣の観光資源との連携 | 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを押さえて開発しない限り、東京に似た開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | ■観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。 |
| | 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | ○観光のハブになる | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○市全体の活性化に寄与する | 意見交換会第2回 | | |
| | ○山下ふ頭を含むインナーハーバーは観光地であるとともにビジネス街、住宅街でもあるという観点が必要。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|------------|---|---------------|----------|--|
| 宿泊に繋がる魅力創出 | 観光収入の半分は宿泊と飲食。日帰り観光客の数は多い一方で、経済への貢献は少ない。宿泊につなげるために必要なことを検討することが重要。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | ■経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。 |
| | 常に人が集まる施設にする必要。魅力を高めることにより宿泊につなげることを最初から徹底的に考えると、付加価値の高さを重視することが重要。 | 委員会第3回 | アトキンソン委員 | |
| | 日帰りの観光客、安い観光客というものになってしまっている。横浜やここで、世界の超富裕層にも支持されることも挑戦していかなければいけない。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | 「横浜市観光・MICE戦略」における目標は、2030年に5,000億円を目標。現在は観光客の9割が日帰りさらに日帰り観光客だけが増えていくと、オーバーツーリズムになるし、単価が安い。やはり客単価を上げていく、そして宿泊需要も上げていくためには、インバウンドに注目していくことが重要。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | クルーズ発着港の横浜であっても、地域に落ちるお金は限られており、乗客が観光バスで鎌倉、箱根、東京へ流出してしまっている。 | 委員会第4回 | 藤木幸太委員 | |
| | ○ホテル等の滞在機能 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○滞在ができる ○ホテル | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○滞在時間が増加する | 意見交換会第2回 | | |
| | ○みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店、遠方の方のためにホテル設置。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○ホテルを誘致。 ○現在「よこはま」は外国人の観光客の通過地点でしかない。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |

■横浜の魅力・ブランド力の向上

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--------|---|------------|----------|--|
| 横浜の魅力・ | ダイナミズムで引きつける力、国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。 | 委員会 第1回 | 寺島 委員 | ■古きを尊重し、新しいものを取り入れることで、横浜の不易と流行を |
| ブランド力向 | 横浜市は最新の日本の都市特性評価において、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されているということだと思料するが、さらに評価を高めるために必要なことを検討するべき。具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。 | 委員会 第1回 | 平尾 委員 | 組み合わせ、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。 |
| 上 | 山下ふ頭という重要な都心臨海部のランドマークになる、横浜経済を動かす拠点として、また市民生活の維持に向けて、どのような場所とするのかを検討するべき。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | ■地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。 |
| | 次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのはダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。 | 委員会 第1回 | 隈 委員 | ■横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、 |
| | 横浜の誇りとか、歴史、景観とか集客の問題、それから事業採算の問題、就労の問題、税収の問題など、色々あると思います。先進的なものを取り込みながら、古き良き匠の技、伝統もあいまった拠点として開発することが適当。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | 新たな機能付加が必要。 |
| | 再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要な一方、様々な意見を合意形成しつつ、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統などの継承しなければならないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりにつなげることが理想。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | ■国内外の新たなサービス価値を求め、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。 |
| | 山下ふ頭は市の市有地であり、小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したい。 | 委員会 第2回 | 北山 委員 | ■未来を担う若者のために、先進的な技術やグローバルな社会に合致する要素を取り入れつつ、伝統的な技術や文化を継承する拠点を形成する |
| | 横浜の持っている不易と流行の組み合わせ方を考えることが、非常に重要な戦略ではないか。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | べき。 |
| | 工場移転等生産の拠点の移転により、広大な土地が空き地になる状況が京浜工業地帯全体に起こりうる可能性が高い中で、港湾機能とまちづくり機能の両用一体にした、これからの臨海部再開発のモデルという自負を持って取り組むということが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 既往の概念に無い柔軟で有機的な空間を創出するうえで、世界の状況、日本の若者が重視するものを押さえることが重要であるとともに、古きものを尊重しながら、新しいものを添えていくことで、横浜ブランドを、再度磨きあげるという作業に取り組むことは、山下ふ頭の再開発の性格や構造というものと非常に密接不可分。国内外の新たなサービス価値を求め、環境価値と感性価値に非常に優れ、横浜ブランドと三位一体になっている事業をどうやって創出するか。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという雇用の確保にもつなげることが可能であることから、脱炭素のビルをつくるということだけではなく、複数の地域価値、地域向上、地域貢献ということを検討していることが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 開発には、複数の目的と価値を追求していくことが重要。開発の目的の組合せを考えつつ、地域を変えて、そして価値をどうやって導入していくのかということが大事。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 低廉な家賃で治安も悪かったロンドンのイーストロンドンがオリンピックの開催によって、地域の環境浄化が図られて、緑の増加、運河の浄化、隣接する高密度で貧困の象徴であった町も浄化され、インテリジェンスを持った若者たちが低廉な家賃という魅力で住み込んで、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、非常に創造的な地域に変貌を遂げた。このように、開発においては連鎖反応を起こすことが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 横浜は東京都心のコピーである必要もなく、サブ的な存在ではない。東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要で、そのうえで東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が色々な観光資源を参考にかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。また、横浜の国際交流都市を先駆けた160年余の歴史、独自の都市文化、地理特性を活用したプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、先んじて積極的に動き出すべき。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | |

| | | |
|---|-------------------|------------------|
| 横浜全体のブランド価値を上げる、宿泊客を増加させるためには、例えば、山下ふ頭を1つの公園にして、もう鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与する、ということも考えられる。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 太委員 |
| グローバルで新しい社会に合致した開発が望ましい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 太委員 |
| 横浜市は、画一的な都市ではなくて、モザイク状のいろんな興味のある面白い街ができてきている。横浜らしさを壊さないように、各地で見られるガラスのカーテンウォールのビルを建設する開発は避ける必要がある。 | 委員会 第3回 | 北山 委員 |
| インバウンド戦略の一環として実施したインフラ整備や投資は、インバウンド以上に日本人が活用しており、日本人にも魅力的で国内外にとって魅力的な施設である。インバウンドに向けてと区別する必要はない。 | 委員会 第3回 | アトキン ソン 委員 |
| ○横浜の歴史を活かす、伝える、感じる | 市民意見募集 第2回 | |
| ○シンボリックな空間の創造（ブランド力、横浜らしさ） ○歴史・文化を生かしたまちづくり（横浜の歴史、横浜らしさ） | 意見交換会 第1回 | |
| ○横浜ブランドを創る・高める ○横浜のアイデンティティ ○横浜らしさが感じられる ○横浜に住みたくなる・住み続けたくなる ○横浜の魅力をアップする ○シンボルがある ○世界から注目される ○国際都市としてのイメージがアップする ○学術・研究開発機能による世界的な知名度・ブランド価値の向上 | 意見交換会 第2回 | |
| ○山下埠頭の再開発が日本の未来を切り開くプロジェクトになるよう、最高のプランを提示してもらいたい。 ○日本でここ独自というものを用意していただきたい。斬新で革新的なアイデアに期待。 | 市民意見募集委 員会第1回後 | |
| ○山下ふ頭の方角性を議論するうえではこれまでの横浜市の都市づくりの経験に学び、活かすことが大事であり、そこから離れた上から目線、外部から持ち込む議論、短絡的な経済一辺倒の議論では、市民の共感と支持は得られない。 ○ヨコハマブランドの確立。（リブランディング） | 市民意見募集委 員会第2回後 | |
| ○この場所の再開発は今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤としてそれに必要な事業を考えるべき。 ○技術の継承をする意義も込めて、様々な原因によるスクラップ&ビルドでなくなった建物・街並みを再現することでヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代を再興するとともに、各エリアの魅力を活かして共存関係を構築し、一層魅力的な計画にする。 ○文化、美術、教育に重きを置き、人間的な豊かさを追求する横浜市であって欲しい。 ○横浜にしかない歴史的景観と財産を際立たせ、100年後も世界に誇れる都市デザインを実現することが横浜市民として訴えたいこと。 ○他にないものをつくる、広く横浜としてみたときに足りないものをつくる。 ○横浜は東京に依存している産業構造になっており、山下ふ頭では東京にない独自の機能が求められると感じた。 | 市民意見募集委 員会第3回後 | |
| ○この地区が持つ港というブランドの変遷を正しく理解し、他地域と比べた優位性を導き出した再開発をすすめるべき。 ○市内で競争が起こらないように、山下ふ頭ならではの特色のある再開発計画を実施することが、横浜市としての追加の価値につながる。 | 市民意見募集委 員会第4回後 | |
| ○歴史ある港としての景観と最新技術の融和など、将来に渡って陳腐化しない横浜らしいと感じられるコンセプトを検討してもらいたい。 ○横浜の真ん中にセントラルパークのような全ての世代の人々が憩う場の方が、横浜のブランド価値が上がる。 ○横浜市を世界にアピールするために、ある程度高さがあって、空中・海・山から見て分かるようなシンボルとなる建物 | 市民意見募集委 員会第5回後 | |
| ○山下公園地区と連携した新たな横浜のシンボルかつ収益源となるよう利活用策を早期に検討。 ○「これまで培われた歴史・文化」、「新たなテクノロジーやサステナビリティ」、「多様な人々と価値観」を融合してイノベーションを起こし続け、今後の内港地区や横浜全体を牽引する場所。 | 事業者提案 第1回 | |

■周辺地域への波及

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|--|--------------|--------------|--|
| 地元経済への貢献と雇用創出 | 地域への経済効果については、雇用の面をはじめとして、可能な限り経済効果が域外に流出しないで、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要。 | 委員会 第1回 | 幸田 委員 | <p>■新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。</p> <p>■再開発を契機とし、周辺地域で働く人々の収益向上や、消費・雇用の創出、より良い労働環境や高い生産性の確保を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。</p> <p>■新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。</p> |
| | 横浜市だけの財政ではかなり困難ですから、民間とか東京とか、いろんな人がそこに投資を促すような、そういうような発信力も必要じゃないか。 | 委員会 第1回 | 今村 委員 | |
| | 再開発の内容を民間主体で運営する場合に、収支、雇用の維持を両立させながら経済効果を生み出すことができるような、持続性を持った方向性とするのが重要。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | ビルの建設には、建物の存在する期間の経済効果への期待だけではなく、工事関係者として、この地域の失業者を工事に活用するという、人に対する支援にもつなげることが可能であることから、脱炭素のビルをつくるということだけではなくて、複数の地域価値、地域向上、地域貢献ということを検討していることが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 低廉な家賃で治安も悪かったロンドンのイーストロンドンが、オリンピックの開催によって、地域の環境浄化が図られて、緑の増加、運河の浄化、隣接する高密度で貧困の象徴であった町も浄化され、インテリジェンスを持った若者たちが低廉な家賃という魅力で住み込んで、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、非常に創造的な地域に変貌を遂げた。このように、開発においては連鎖反応を起こすことが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 人口減少が進行する中で経済を維持するために必要なことは、地元の賃金を上げることが非常に重要であり、賃上げにつながることを、必要なことを最大の焦点にしてこの再開発を進めるべきではないか。 | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | 横浜の独自性を発揮しつつも、経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取る必要があることから、この山下の当該地域だけではなく、全体バランスを考えて進めていく必要がある。 | 委員会 第3回 | 石渡 委員 | |
| | 新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現してほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 横浜市地元経済に経済波及効果を大いにもたらす。直接再開発に参加する企業や団体、または山下エリアだけではなく横浜全体、もっと言うと日本経済にプラスになる優れた場所として開発されるべき。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | 税収のプラスになるっていう話で、横浜市の一部の税収源がここに移るのは何の意味もない。事業化をしていくにあたって、横浜市にとって追加的な需要を生み出すだけでなく、市全体としてプラスなるかという観点も取り入れるべき。 | 委員会 第4回 | アトキンソン 委員 | |
| | このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | 大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要だ。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | 港湾の機能は基本であり、この機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないか。 | 委員会 第4回 | 涌井 委員 | |
| 港湾機能、保税地域でもある、そういったところを活用するという視点は非常に重要。山下ふ頭の特色として港湾機能についての活用。 | 委員会 第5回 | 幸田 委員 | | |
| 人口減少の中で求められるのはあくまでも労働条件の今よりいい良質な雇用の創出がここに言及されないといけない。国のインバウンド戦略では、観光産業における需要の平準化または労働条件の改善というそのことを十二分考えた上で進められている。 | 委員会 第5回 | アトキンソン 委員 | | |

| | |
|---|-------------------|
| ○企業中心の開発ではなく、市民生活や地域産業にも依拠した開発を検討すべき。 | 市民意見募集 委員会第1回後 |
| ○昼間人口・夜間人口のバランスを取ってほしい。 | 市民意見募集 委員会第2回後 |
| ○平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスの調整を考慮できると、より有効な活用につながる。 | 市民意見募集 委員会第4回後 |
| ○山下ふ頭が保税地域であることを活かして、輸入品に対する消費税の軽減措置を実現すれば、コスト削減をしつつ魅力的な価格で提供できる。 | 市民意見募集 委員会第5回後 |
| ○創出されるビジネスや技術のまちづくりへの還元。 | 事業者提案 第1回 |
| ○環境やコミュニティづくりを優先したまちづくりを行うべき。それにより賑わいや経済の活性化が続く。 | 事業者提案 第2回 |

■国内外から人々が集まる

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---------------|--|---------------|------|--|
| 人々を惹きつける開発の実現 | ダイナミズムで引きつける力。国内外からの関心、人流、投資等の様々な観点で引きつける力の醸成について考えるべき。 | 委員会第1回 | 寺島委員 | ■プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーを構築し、国内外から人流や投資を呼び込む力を醸成することで、顧客のニーズが変わっていく中でも飽きられず時代遅れとならないよう継続的な投資を促すことが必要。 |
| | 地域の定住人口が減少しているため、都市開発の目的は、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発することが主流になることを踏まえ、国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要。 | 委員会第3回 | 今村委員 | |
| | 時代と顧客のニーズが変わっていく中で、投資をし続ける覚悟が何より重要。ハード・ソフト両面で最新のものを投入し続けることにより、飽きられず、老朽化せず、時代遅れにもならない。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | ○賑わいがある ○わくわくする体験ができる ○国際交流を深める ○世界から人が集まる ○世界に発信する | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○横浜のアイデンティティ ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○シンボルがある ○横浜ブランドを創る・高める ○世界から人が集まる ○国際交流の拠点になる ○世界から注目される | 意見交換会第2回 | | |
| | ○IKEAやコストコのような大型店舗を受け入れれば、地元民にも観光客にも良い。 ○商業施設、劇場、野球場、韓国の美味しいお店を誘致。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設 | 市民意見募集委員会第4回後 | | |
| | ○将来の財政を考えて、海とハーバーとのコンセプトを活かし、国内外観光者やお金持ちを誘致する。 | 市民意見募集委員会第5回後 | | |
| | ○日本の日常は他の国から見ると非日常であり、そのライフスタイルがエンターテインメントになる。感動を世界に向けて横浜から発信する。 ○様々な目的を持った人々を横浜・日本・世界から迎え入れる。 ○世界的なコンテンツを展開し世界から人を呼び込む。 ○人と文化が交流し、物やサービス、知が行き交い、価値が生まれる場 | 事業者提案第2回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---------|---|-----------|------|---|
| 独自の魅力構築 | 東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う観点が重要である。 | 委員会第3回 | 今村委員 | ■周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発や、日本のテクノロジーやカルチャーの集積により独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が必要。 |
| | 都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | 日本は世界的に見ても、テクノロジーやカルチャーにおいて非常に独自性がある。日本ならではの魅力というものを横浜に集積し、世界中の人を集められる可能性がある。 | 委員会第5回 | 内田委員 | |
| | ○国際色豊かである | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○世界に誇れるシンボリックな空間の創造 | 意見交換会第1回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-------------------|--|-------------------|----------|--|
| 大規模集客施設の導入等による活性化 | 横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、扇島の工業用地の今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | ■横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。 |
| | このふ頭の再開発事業は外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など横浜の地域経済活性化の起爆剤になってもらいたい。 | 委員会 第4回 | 高橋 委員 | |
| | ○賑わい・楽しさ ○エンターテインメント機能 ○スタジアム等のスポーツ機能 ○楽しさ ○コンベンション機能 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○賑わいがある ○レジャー施設 ○テーマパーク ○イベント・イベントスペース ○アミューズメント施設（映画館等）○スタジアム ○スポーツ施設 ○アーバンスポーツ施設 ○コンベンション施設 ○展示場 | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○スポーツ（多機能スタジアム、ドーム、マリンスポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツの拠点） ○エンターテインメント（音楽フェス、野外フェス、コンサート、花火大会、サバイバルの体験学習、スマートシティ・歴史・世界に誇れるテーマパーク） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○市の収益の向上 ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○大規模集客機能（国内外から人を集められる・事業収益が見込める・海に囲まれた立地特性（景観形成、騒音対策等）を活かしたい・プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい） | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○横浜スタジアムが狭いので、大きなスタジアム（野球場） ○子供たちにプロサッカーを近くで見せてあげられるサッカー専用スタジアム ○ポケモンなど日本の漫画・アニメ文化を発信するテーマパーク ○横浜にインバウンドを招致するため、ビール工場、ウィスキー蒸留所、ビアホールを集合させたテーマパーク | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | ○みなとみらい側バックに屋外ライブステージ会場 ○地球環境保護推進や観光客を誘致するための海洋哺乳類を中心とした水族館 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| | ○横浜Fマリノスがあるにも関わらず、それに見合った設備がないのは恥ずかしい状況なので、サッカー専用スタジアムの整備が必要。 ○「国際交流都市を先行した160年の歴史」を持つ横浜の「独自の立ち位置」を活そうとの提言、また「スポーツとフード」の名所作りの一案は傾聴に値する。 ○市民と観光客に楽しんでもらう・市職員にやりがいのある仕事を提供する場として水族館と温室 ○ドローンで中央卸売市場から食材を運び、横浜と全国の料理人たちが自慢の安価な料理を提供できる場として食の博物館 ○陸海空でのアクセスをより良くすることで、周辺地域のインバウンド観光による経済効果も狙えるため、アジア展示場の中心を担うことのできる世界的な展示場 ○物流通路や都市防災機能を作るなど地下を活用しつつ、民族博物館をリアルな都市のように作る歴史のワンダーランド | 市民意見募集 委員会第3回後 | | |
| | ○海洋都市横浜として、振興・環境保護推進アピール・観光客誘致のためにアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館 | 市民意見募集 委員会第4回後 | | |

| | |
|---|---------------------------|
| <p>○収益性を考え、公営競技であり、ヨーロッパでも高貴なスポーツである国際的な競馬場。</p> <p>○発災時の対応を兼ねたスポーツセンター</p> <p>○お金よりも大事なものがあるので水族館や温室</p> <p>○他市との差別化や脱炭素、海洋都市や自然環境保護、生き物の共生を図るためにアザラシを保護・展示する水族館</p> <p>○海外からの集客を目指すため、東京に負けないランドマークやエンターテインメント施設</p> <p>○プロ・アマの双方が利用することで採算性の取れるスポーツ総合施設</p> <p>○有名なポケモンを活かし、世界に一つだけのポケモンミュージアム</p> <p>○子供のスポーツの習い事と試合が一箇所ですとまる総合ジム</p> <p>○近隣住民が家族で利用できる駐車場付きのリーズナブルなスポーツ施設</p> <p>○高齢化社会の中で、住民税の割合の高い横浜市は税収が不安なので、産業の活性化させるべく、会社の本社誘致や各種複合施設を組み込む。</p> <p>○日本全体の地方創生を図ると同時に、市と県の持続可能な経済成長、観光振興による税収拡大を実現するため、日本全国と海外の食文化が交差する総合施設</p> | <p>市民意見募集 委員会第5回後</p> |
| <p>○運動・健康施設、生態館</p> <p>○山内ふ頭で実現できない場合、「食」で賑わい創出するために、地産地消商店街・飲食店街、山下ふ頭に市内漁港の漁船をつけてその場での水揚げや、通常は洋上廃棄してしまう未利用魚の販売、食のカルチャースクール（食の学校）の創設などを実施し「食」で賑わい創出。</p> <p>○世界中のヒト・モノの集中点、活動の拠点に再生される。</p> <p>○創作の場の共有・オープン化による集客。</p> <p>○臨海部の先進事例、新しい貿易形態を意識した展示会・見本市の開催。</p> | <p>事業者提案 第1回</p> |

| | | |
|---|----------------------|--|
| <p>○音楽、劇場、ホール、会館</p> <p>○海上コンサート会場の設営。大型イベントスペース・・・コンサートホール（海上含め3か所）として中央の埠頭を活用する。街角でのコンサート。</p> <p>○マルチアリーナ-国内外のアーティストによるライブ・コンサートやスポーツイベントなどさまざまなエンターテインメントが提供できるふ頭を中心施設</p> <p>○ダンススタジオ・ミュージックスタジオ・クッキングスタジオに加えて、イノベーションスタジオ・ユーチューブスタジオ・e-sportsスタジオ</p> <p>○グローバルスタンダードの国際展示場、コンサート・スポーツイベント・国際会議等の会場となる多目的ホールなどを整備する。これにより、パシフィコ横浜と相俟って山下ふ頭を核としたインナーハーバーに、国内のみならず世界中から多くの人々が集い、賑わい、それに伴い貿易・物流が活性化し、横浜市の経済の好循環を生み出す。</p> <p>○文化芸術施設：メディア芸術（デジタルアート）、グローバル拠点施設</p> <p>○研究施設：海洋リサーチパーク、水産ガストロノミーセンター</p> <p>○エンターテインメント施設：海上一体型半屋外シアター、水上ステージ、全天候型プール等、フードマーケット。日本のエンターテインメントのメインステージ。</p> <p>○文化、コンベンションとエンターテインメント機能の拠点が横浜港周囲の既存施設と共生し配置される。</p> <p>○世界的なコンテンツを展開し世界から人を呼び込む。</p> <p>○複合集客施設：ホール・シアター、ミュージアム、フードホール、エンターテインメント施設、賑わい施設、商業、飲食等</p> <p>○コンサート・イベント会場、その他施設：F1</p> <p>○マルチアリーナ：スポーツ、コンサート、コンベンション等</p> <p>○スポーツ拠点、エンターテインメント・コンベンション機能</p> <p>○ふ頭の来街者を迎え入れる広場。マルチアリーナや商業施設との一体利用やイベント広場としての利用。</p> <p>○ワールドカップの開催（スポーツ（インドア）/食のワールドカップ（和食など））</p> <p>○アリーナ・半屋外ステージ、美術館、商業施設等</p> <p>○全身で宇宙旅行を疑似体験</p> <p>○宇宙をテーマとしたNASAの名前を冠したテーマパーク、子供から大人まで楽しめるアミューズメント施設</p> <p>○世界の学者やビジネスパーソンの利用を想定した、国際会議や政府系会合に対応するコンベンションホールや会議室を整備。</p> <p>○MICE施設-国際会議や展示会等の場として日本を代表する確たる地位を築く。</p> <p>○MICE（国際会議）の開催誘致、国際会議対応ブースを大中3ヶ所持つ。徒歩10分以内にホテルを用意。</p> <p>○国際社会とのリアルな人的交流、実物を介した情報交流の場となる国際見本市や国際会議というMICEが、新産業育成などのビジネス創出、日本や横浜のブランド力強化といったイノベーションの最重要ツールとなる。</p> | <p>事業者提案 第2回</p> | |
|---|----------------------|--|

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 |
|---------------|--|----------------------|--|
| インクルーシブな空間づくり | <p>横浜港周辺の各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、扇島の工業用地の今後の大規模再開発動向など視野を広くとることで山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくる。周辺の事例等も参考にすると、横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつけるようなアイデアも浮上するのではないか。</p> | 委員会 第3回 今村委員 | <p>■横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、インクルーシブな空間を整えることが必要。</p> |
| | <p>障害の有無や年齢にかかわらず市民の誰もが利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインを取り入れてほしい。</p> | 委員会 第3回 藤木幸夫委員 | |
| | <p>賑いを創出し、人々に喜びや楽しみ、感動や癒しを提供する場であること、ということですね。あとは、新しい街を創造すると。人々のウェルビーイングに貢献する場所であるところ、まず1つあると思っております。</p> | 委員会 第4回 内田委員 | |
| | <p>○国際性 ○交流・出会い ○超高齢社会 ○多様性社会</p> | 市民意見募集第 1回 | |
| | <p>○幅広い世代が楽しめる ○特定の世代が楽しめる ○気軽に利用できる ○誰でも楽しめる ○交流ができる</p> | 市民意見募集第 2回 | |
| | <p>○多世代が楽しめる・交流できる ○異文化・多文化にふれる ○誰もが利用できる</p> | 意見交換会 第2回 | |

| | | |
|---------------------------|--------------|--|
| ○世界約200か国の若者たちが集まり、学び、交わる | 事業者提案 第2回 | |
|---------------------------|--------------|--|

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-------------|--|------------|----------|--|
| 多文化共生社会への対応 | <p>横浜市の人口減少が見込まれているなか、外国人の定住人口が非常に増えてきており、計算してみると2040年には約9人に1人は外国人になってくる。多文化共生のまちに横浜市がなっていくのではないかと、そういう多文化共生のまちの実現ということが横浜市に課せられている課題。</p> <p>多様な人材が集まることによって新しいまちの発展が進められていく。まちのダイナミズムというのは多様な文化の創造によって進められていくという都市理論があり、多文化共生のプラットフォームを横浜で展開していく、その基盤が山下ふ頭になる。</p> | 委員会 第5回 | 平尾 委員 | <p>■人口減少や外国人の定住人口の増加を見据え、多様な人材が集まる多文化共生のプラットフォームを展開し、街の発展に繋げていくべき。</p> |
| | | 委員会 第5回 | 平尾 委員 | |

■横浜経済を牽引

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|----------|---|----------|------|--|
| 地域経済の活性化 | 横浜市のGDPや、財政は厳しくなっていく中で、重要な都心臨海部のランドマークになり、横浜経済をいかに生み出し、動かすとともに、市民の生活を維持していくために、どのような場所にしていくのか。 | 委員会第1回 | 内田委員 | <p>■定住人口が減少する時代において、魅力ある将来に繋がるまちづくりを目指し、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。</p> <p>■日本経済を牽引する気概を持って、横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。</p> |
| | 地域の定住人口減少化において、これらの都市開発はビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発するまちづくりが主流になってくる。都市開発の資金は人口減で税収が減少しますので、自治体財政の負担を軽減し、法人税などで税収増を補っていくような新たな仕組みづくりが必要。 | 委員会第3回 | 今村委員 | |
| | 都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | 山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部はもとより横浜市全体にとっても横浜の礎を作った「横浜市六大事業」に匹敵する事業となるもの。観光の観点も含め「横浜経済の牽引役」となる再開発事業を検討する必要。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | |
| | 日本を代表する都市として、発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所である。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | |
| | 魅力ある持続的で将来性につながるの一体的な街づくりを目指し、横浜経済の起爆剤になることを願う。 | 委員会第5回 | 田留委員 | |
| | 是非横浜経済ひいては日本経済を牽引するぐらいの気概を持っていただけると良い。 | 委員会第5回 | 河野委員 | |
| | ○市全体の活性化に寄与する ○横浜の競争力を高める | 意見交換会第2回 | | |
| | ○インナーハーバー域とアウターハーバー域の結節点にある山下ふ頭に国内外から多くの人々が集うことで、インナーハーバー域では人で賑わい、アウターハーバー域でも貿易・物流が活性化し、市全体の経済発展、税収増に寄与する好循環が生まれ、世界一魅力的、豊かで幸せな都市となる。 | 事業者提案第1回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---------------|--|---------------|------|---|
| 市の収益向上と市民への還元 | 生産年齢人口の減少や少子高齢化の進展を見据え、横浜市の税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には「税収を生み出す場所」としての観点が不可欠。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | <p>■市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、横浜の成長を牽引し、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。</p> |
| | 横浜の成長を牽引し、横浜市民のより豊かな生活につながる場所となるべき。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | |
| | 15ヘクタールから20ヘクタールぐらい埋め立て、市民の財産を増やしていく、そして市の収入を得るのも一つのアイデア。 | 委員会第5回 | 坂倉委員 | |
| | ○市民への還元 ○税収の確保 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○財源税収収益（財源の制約・財政的課題も考慮、稼げる場、観光や企業誘致） | 意見交換会第1回 | | |
| | ○市の収益の向上 | 意見交換会第2回 | | |
| | ○新しい事業が継続性を持つためには、事業収支計画を練ることは必須。 ○横浜市の財政も踏まえて、収益確保を優先して欲しい。 ○横浜市の財政も踏まえて、収益が最大化できる事業者が良い。 ○「横浜経済の活力のけん引が不可欠」といったが、経済だけでなく、もっと自由な発想で横浜のことを考えてもらいたい。 ○「横浜経済のけん引」という言葉の使用は選択肢の限定になるので、避けるべき。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○埋め立てし、整形地として開発すべき。 ○将来的な拡張計画は良いが、予算が限られ、現時点での都市計画もまとめられていない状態では勇み足なので、埋め立てのような内容は答申から外す方がよい。 ○豊富な住民サービスで周辺自治体から住民を吸収している東京都との都市間競争に対抗できるだけの税収を得る必要があり、これが可能な施設整備が必要。 ○横浜市の財政不足は山下ふ頭だけに押し付けるのではなく、横浜の経済界を挙げてふるさと納税制度の廃止をもとめるなど横浜全体で財政問題を考えるべき。 ○東京の外国人観光客を横浜に引っ張り、横浜市の財源を増やすことが大切。 | 市民意見募集委員会第5回後 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-------------|---|---------------|------------|---|
| 我が国の貿易との関係性 | <p>強固な地盤、広大な土地という魅力的な特徴を生かしつつ、効率的に意味のある活用方法を検討する必要、その際に、横浜港、東京湾全体からの観点で国際競争力をもたらすための場所として活用する発想を持つことも有効。</p> | 委員会 第1回 | 河野 委員 | <p>■日本、東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。</p> <p>■横浜港は横浜市民だけでなく日本国民にとって重要な港であり、山下ふ頭が港と市街地を結節する場所だということを十分に意識することが必要。</p> |
| | <p>横浜市の経済を活性化する方策としての役割を検討する際に、横浜港の位置づけと国際貿易に寄与する視点を最重要視してほしい。</p> | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | <p>再開発においては、港湾機能をどう活用するかという点も検討すべきであり、その際、山下ふ頭が東京湾や市内陸部との結節点となっていることを十分意識する必要がある。</p> | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | <p>国際基幹航路を維持するということが日本の産業にとって何よりも重要な意味を持つと考えられ、基幹航路を維持にあたっては集荷と創荷が必要であり、横浜港は大水深岸壁、大型のコンテナ船に対応できるふ頭が唯一日本にある港であることから、日本国内からの集荷、それから東南アジアの地域からの集荷と創荷も必要。</p> | 委員会 第5回 | 河野 委員 | |
| | <p>基幹航路の維持にあたっては、DX化とGX化による新たな価値に対応して、港湾を機能強化することも必要であり、発信してポートセールスをしていただきたい。</p> | 委員会 第5回 | 河野 委員 | |
| | <p>横浜港は、日本国民にとっても重要な港であり、そしてその港と市街地を結節する場所として山下ふ頭の土地というのは大きな意味を持つと思う。そういった観点からこの跡地の利用を検討してほしい。</p> | 委員会 第5回 | 河野 委員 | |
| | <p>○今までの埠頭の役割を残し、国内の物流の働き方改革やモーダルシフトに貢献するため南九州とのフェリー ○集荷・創荷は本牧ふ頭等の役目であり、その役目が移転し余剰空間ができたことが再開発の出発点。 ○横浜港を世界的な位置付けを元に戻そうとすることは昨今の趨勢に逆らう無駄なこと。</p> | 市民意見募集委員会第5回後 | | |

■防災・安全

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|----------|--|---------------|------|--|
| 市民の安全・安心 | 3.11、そしてコロナの教訓として、「医療防災」は、このプロジェクトの可能性に埋め込まなければならない言葉。 | 委員会第1回 | 寺島委員 | <p>■世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入するべき。</p> |
| | 横浜市は最新の日本の都市特性評価において、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価されているということだと思料するが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。 | 委員会第1回 | 平尾委員 | |
| | 世代を超えて取り組む必要のあること、キーワードはレジリエンス。市民の安定・安全を図るための、例えば医療とか防災について役割を持つ場とすることも考えるべき。 | 委員会第2回 | 寺島委員 | |
| | 防災拠点、感染症対策拠点としての機能などの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。 | 委員会第3回 | 坂倉委員 | |
| | 全ての計画を決めていくのではなく、非常に柔軟で時代に即応できるスペースを一定規模確保しておくことは、防災の対応のためにも実は大変重要。 | 委員会第4回 | 涌井委員 | |
| | 横浜都心臨海部は、多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであるから、山下ふ頭の開発において「市民及び来街者の安全・安心」をより強固なものとするための防災機能の拡充の観点が必要。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能・場所の確保、横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充、老朽化した中消防署機能の強化などを提案。 | 委員会第4回 | 高橋委員 | |
| | ○医療、防災施設 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○安全・安心なまちづくり ○医療・福祉施設、防災施設 | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○防災の体験学習によるエンターテインメント | 意見交換会第1回 | | |
| | ○防災機能を備える | 意見交換会第2回 | | |
| | ○横浜市は首都直下地震に向けた震災対応が不十分である。 | 市民意見募集委員会第1回後 | | |
| | ○横浜の火災対応、震災対応等の安全問題についての検証が必要。 ○「ピースメッセンジャー都市」として相応しい被災の記録を語り継ぐ「命の大切さ祈念館」 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○過去の大震災の学び、「防災・減災」機能を何らかの形で付与すべき。 ○市民370万の生活・暮らしを守る防災拠点 | 市民意見募集委員会第3回後 | | |
| | ○関東大震災と横浜大空襲の資料をまとめると共に、慰霊イベントや会議を主催して横浜がピースメッセンジャー都市として貢献できるようにするために「命の大切さ祈念館」といった施設 | 市民意見募集委員会第5回後 | | |
| | ○ビッグデータ・センシングによる人流シミュレーション、避難シミュレーションの実装 ○ホテル・滞在（若者のみ）施設・教育・ショッピング・行政・医療等日常利用施設 | 事業者提案第1回 | | |
| | ○大地震や津波から守る最先端の防災対策 | 事業者提案第2回 | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|---|---------------|------------|---|
| リダンダンシー性の高いまちづくりへの貢献 | 横浜市は、文化的な拠点、交流的な拠点が非常に評価を受けていると聞いたことがあるが、さらに評価を高めるために必要なことを検討すべき、具体的には、首都圏における防災機能に対して果たす役割について検討することが重要。 | 委員会 第1回 | 平尾 委員 | <p>■旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全・安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。</p> <p>■海上からの物資や救援部隊の受け入れだけでなく、国で議論されている病院船などが着岸できる耐震強化岸壁や新たな歩車道の整備等により防災機能を強化することが必要。</p> |
| | 首都高の路線があることで、グランドレベルが火災で機能不全になっていても、十分に救援活動ができる可能性もあることから、上瀬谷に整備予定の広域防災拠点との連携の観点で、災害対応車が待機できる場所として山下ふ頭を位置付けるなど、周囲のインフラを一体化しながら、山下ふ頭周辺が安全で安心できる地域であるという一つのブランドも重要。リダンダンシー性の高いブランド、まちづくりを考え続けることも重要な論点。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 関東大震災を教訓として、大規模地震等の災害に対応できる耐震バースなど防災機能の導入を検討してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 災害時における災害物資の受け入れ広域防災拠点避難場所等にする。あるいは山下ふ頭の岸壁を強靱化してドローン等の新しい防災の基地にするというそういうことも考えられる。 | 委員会 第5回 | 平尾 委員 | |
| | 防災の観点が重要。有事の際は国で議論されている病院船や自衛隊の船舶が着岸できる岸壁や、ヘリポートの整備が必要。 | 委員会 第5回 | 涌井 委員 | |
| | 山下ふ頭の周辺は山下公園や個性的な商店街などが点在し、多くの観光客や就労者が行き交う場所である。年間1770万人が訪れる新港埠頭よりも広大な敷地面積であるため、この先さらに多くの人が集まる可能性がある。そのため、歩行者・車道を含めたアクセスのしやすい交通インフラの整備と避難経路を計画してほしい。 | 委員会 第5回 | 宝田 委員 | |
| | 山下ふ頭は船舶が着岸できる岸壁機能の有意性を活用した災害時の海上輸送ルートや保管拠点の機能確保も重要な役割になる。 | 委員会 第5回 | 田留 委員 | |
| | ○非常時には防災施設になる大規模集客機能 | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○全天候型の運動場や災害援助物資受け入れ拠点となるスポーツセンター、ヘリポートなどの災害発生時に使える施設 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| | ○災害時に近隣住民が避難できる防災拠点機能。 | 市民意見募集委員会第5回後 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○人工地盤構築による BCP 対策（域外への避難動線や緊急物資輸送用道路の整備） ○津波浸水レベルを想定した施設配置。 ○エネルギー拠点や下水処理場等の整備による有事や災害時でも自立した拠点の形成。 ○津波などの災害時に、避難場所となる防災センター機能を持つ医療防災拠点の誘致。 ○TP3、7m以上の人工地盤整備。 ○津波高さを想定したエリア内環状道路の整備。 ○5万人想定防災拠点広場、淡水化装置、防災トイレなど防災機能の整備。 ○医療防災拠点 | 事業者提案 第1回 | | | |

■交通ネットワーク

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|----------------|---|-------------------|------------|--|
| 陸海からの交通アクセスの向上 | 旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図ってほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | <p>■山下ふ頭へのアクセス箇所が限られていることや、再開発による来街者の大幅な増加を見据え、新たな進入路や歩行者動線の確保、臨港幹線道路の整備等により、利便性向上や防災機能の強化、周辺住民や物流への影響緩和を図るとともに、市内で取り組まれている水上交通の活用も推進していくべき。</p> <p>■山下ふ頭の入り口から先端まで距離があることや、元町・中華街駅とのアクセス性に課題があることから、来街者の埠頭内での円滑な移動や周辺地域との回遊性向上に寄与する交通インフラの整備が必要。</p> <p>■市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。</p> |
| | 現在1か所しかない進入路の機能向上についても検討をお願いしたい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 山下ふ頭の交通アクセスが良くない。山下ふ頭の入り口から先端まで距離がある。元町・中華街駅に行くのも困難。開発に大量輸送機関を検討したほうが良い。臨港幹線道路を積極的に利用していただくと都心臨海部とその山下ふ頭、そしてあの関内・関外地区のトライアングルとして、うまく回遊性が取れるような道路になる。 | 委員会 第4回 | 坂倉 委員 | |
| | 交通アクセスは、内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで大変重要な論点。 | 委員会 第4回 | 幸田 委員 | |
| | 15ヘクタールから20ヘクタールぐらい埋め立て、入り口の狭さを是正するのもアイデア。 | 委員会 第5回 | 坂倉 委員 | |
| | 交通の件に関して、非常に急がなければいけないぐらいの課題だと思ってるため、必ず入れ込んで欲しい。 | 委員会 第5回 | 宝田 委員 | |
| | 山下ふ頭の周辺は山下公園や個性的な商店街などが点在し、多くの観光客や就労者が行き交う場所である。年間1770万人が訪れる新港埠頭よりも広大な敷地面積であるため、この先さらに多くの人が集まる可能性がある。そのため、歩行者・車道を含めたアクセスのしやすい交通インフラの整備と避難経路を計画してほしい。 | 委員会 第5回 | 宝田 委員 | |
| | 周辺で取り組まれている水上交通も利用した新しい全体的な交通インフラを整備してほしい。 | 委員会 第5回 | 宝田 委員 | |
| | 再開発に伴い大規模な人流が発生すると思われるため、物流事業者だけでなく、市民生活にとっても生活道路として支障をきたさないよう、新港ふ頭から山下ふ頭、本牧ふ頭までをつなぐ国直轄事業である臨港幹線道路等、周辺交通網の整備を改めて進めていただきたい。 | 委員会 第5回 | 田留 委員 | |
| | ○道路 ○駐車場 | 市民意見募集第 2回 | | |
| | ○交通（交通ターミナルによる地区内循環・交通網の充実、水中道路） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○羽田からのアクセスが良い ○交通機能（陸・海・空、海外からもアクセスしやすい・回遊性を生み、にぎわいを創造する、街の眺望、海の眺望を活かせる・海の玄関口として象徴的な役割を果たす） | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○高速道路ではベイブリッジ経由でより羽田に近いことを活用してほしい。 | 市民意見募集委 員会第2回後 | | |
| | ○山下ふ頭で集客が増えて渋滞が起きると、新山下以降の地元住民が困るので、本牧までみなとみらい線を延伸するなど渋滞回避を考えてほしい。 ○山下ふ頭は周辺施設のつながりを考えて、港町ヨコハマとして最適地であるので、海岸通りを海沿いに作る、船着き場を作って船で直接お店にアクセスできるようにする。 ○駐車場をたくさん用意する。 ○陸海空でのアクセスをより良くすることで、周辺地域のインバウンド観光による経済効果も狙えるため、アジア展示場の中心を担うことのできる世界的な展示場 | 市民意見募集委 員会第3回後 | | |
| | ○山下ふ頭のアクセスの悪さは再開発の大きなネックになるので、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を再開発計画に組み込む視点が必要。 ○交通アクセスを考えるにあたり、道路とともに大量輸送手段の確保は必須。 ○緑が多く、港としての機能として「海へのアクセス」を誰もが活用できるインフラの整備。 ○より多くの船舶を内港地区に呼び込むために、ベイブリッジを廃止・解体し、その代わりとして山下ふ頭から大黒ふ頭に通じる海底トンネル道路 | 市民意見募集委 員会第4回後 | | |

| | | |
|---|---------------|--|
| <p>○中区全体の回遊性の向上につなげるため、交通の結節点となってほしい。</p> <p>○山下ふ頭のアクセス性はよく、車優先社会を目指すのは不適切なので、公共交通機関の充実を図るようにすべき。</p> <p>○元町・中華街駅から山下ふ頭へのアクセスは悪くない。</p> <p>○交通の便の改善のため、YCAT発着の高速バスが経由できるターミナル。</p> <p>○臨港幹線道路は歩行者空間を遮ってしまうので、導入方法について議論が必要。</p> <p>○元町や石川町など、もう少し広い範囲で移動手段の確保を考慮すべき。</p> <p>○本牧の三溪園までみなとみらい線の延長計画を再度検討。</p> <p>○鉄道網（横浜環状鉄道、ブルーラインの延伸、乗り入れ等）などの交通網の整備を検討してほしい。</p> | 市民意見募集委員会第5回後 | |
|---|---------------|--|

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|---|---|---------------|--------|--|
| 多彩な交通手段 | 山下ふ頭と中華街、隣接するみなとみらい等も含めてモビリティを高めるような交通システムが導入することができないか、「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになる。 | 委員会第1回 | 平尾委員 | <p>■三方を海で囲まれた立地条件を最大限活かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。</p> <p>■元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区とのアクセスを向上させるモビリティを導入し、未来の多彩な交通手段の革新を目指すべき。</p> |
| | 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要であると考えていたうえ、防災の観点で海上交通がかなり重要な役割を果たすと考えられた。 | 委員会第2回 | 北山委員 | |
| | 周辺との多彩な交通網の充実は必須と考えられる。立地条件から水上交通をはじめ、ロープウェイや空飛ぶ車を含めた将来的な総合交通網の在り方も検討してほしい。 | 委員会第3回 | 藤木幸夫委員 | |
| | 山下ふ頭と横浜市の従来の街とのアクセスを強めていく新しいイノベーション、モビリティのイノベーションが必要。 | 委員会第5回 | 平尾委員 | |
| | 輸送能力が格段に高い鉄道の検討も必要。山下ふ頭を中心に広域にまたがる海上交通を開通させ、アクセス手段の選択肢を広げ、交通網の整備拡張を図ることにより、観光や新たな事業展開に役立つ。 | 委員会第5回 | 田留委員 | |
| | ○交通の充実 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○電車・バス ○水上交通 ○ロープウェイ ○地区内交通 | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○交通（空中交通、モノレール、市電、水上交通（船）） | 意見交換会第1回 | | |
| | ○交通利便性の向上 ○先進的で多彩な交通を実現する交通機能 | 意見交換会第2回 | | |
| | ○シーバス、シータクシー場、各種イベント船のりば、バス停、タクシーのりば、水上交通は重要。 ○あかいくつ、ベイサイドブルーやシーバスなどの交通手段を十分整備してほしい。 ○RVパークとメガソーラーを付設したフェリーターミナル ○脱炭素・SDGsをアピールでき、通勤通学観光が便利になり、交流人口が増え観光客も誘致できるため、山下ふ頭から横浜駅までLRTを通す。 | 市民意見募集委員会第2回後 | | |
| ○LRTや自走式ロープウェイなど山下ふ頭を含め横浜市発展のため、公共交通、交通の便が良くなり、脱炭素につながり、市全体の利便性や発展にもつながるので、横浜駅からみなとみらいを通り、山下ふ頭までを新交通でつなぐこと。 ○山下ふ頭は交通の便が悪いので、自走式ロープウェイやエコライドを導入することで、省エネや市の発展につなげ、市の交通を時代の最先端にすること。 ○船着き場を活かし、大規模災害拠点としても活用できるよう、メガソーラーやRVパーク等の施設・設備を含めたフェリーターミナル ○首都高速の出入り口、桜木町駅からのロープウェイを山下ふ頭、八景島、海の公園まで延長。 | 市民意見募集委員会第3回後 | | | |
| ○市の発展、脱炭素等につながり、交通が便利になる自走式ロープウェイやエコライド、LRT等の新交通 | 市民意見募集委員会第5回後 | | | |
| ○交通利便性の向上策として、山下ふ頭を中心に、横浜駅から港の見える丘公園付近までの隣接域をロープウェイや海上交通、陸上交通などで結ぶ交通網サービスの整備。 ○横浜港はインナーハーバーの核とし、水上交通の動線として機能する一方、周辺エリアと連携したイベント会場としても活用。 ○スマートモビリティによる交通ネットワークの強化と水上交通ネットワークの構築による域内外の移動需要促進、自動運転モビリティの導入。 | 事業者提案第1回 | | | |

■脱炭素（環境・エネルギー等）

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|----------|---|-------------------|----------|--|
| 脱炭素型の再開発 | 時代を越えて、生物多様性とか、生命圏というような視界を持ったものを、どうリンクさせるか。このあたりが世代論を越えたプロジェクトになっていくんじゃないか。 | 委員会 第2回 | 寺島 委員 | ■カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小限に抑えた施設の導入や、用途に応じたエネルギーの最適な組み合わせを実現することで、日本初の脱炭素型再開発プロジェクトを目指すべき。 |
| | 脱炭素の取組は、面だからこそできることを認識することも重要で、エネルギーの需要は用途によって異なるため、最適な組み合わせを考え、効率的なエネルギー利用を検討することが重要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくということも重要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | ロンドンでは、第5世代のエネルギーネットワークを進めており、再開発では再生可能エネルギーの導入を行っている。山下ふ頭で開発をする場合には、エネルギーの利用を減らし、CO2の排出量を抑えられるような開発を進める必要。 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | |
| | 防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入してほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | カーボンニュートラルに貢献するというのは、当然の常識。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | ○環境対策の充実 ○脱炭素社会 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○エネルギー施設 | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○サステナブル（エネルギー循環、自然エネルギー、カーボンニュートラル、健康的な暮らし、自給自足） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○市の収益の向上 ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○カーボンニュートラルに取り組む ○海と緑が調和している ○学術・研究開発機能によるエネルギー問題等への貢献 | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○地球温暖化阻止するための施設（太陽光やバイオマス） | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | ○再開発では脱炭素・省エネが必須となる。必要事項として議論する方が良い。 ○日本のエネルギーネットワークの失地回復に繋がるようなものが求められる。 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| | ○横浜内港に世界一の環境港湾都市を創るために、都心臨海部を冷やし、きれいに。 ○SDGs・水素エネルギー施設・その他施設、水素発電・浄化システム、エネルギーセンター ○「都市生活インフラの深化」×「職住遊機能の拡充」×「環境との共生」により、魅力的なインナーハーバーへと深化し、横浜から「YOKOHAMA」へ価値を創造・発信。 ○地球温暖化の悪影響が世界を覆いつつあるため、SDGs 対応、水素利用の促進。 ○世界人口の増加に伴う、将来的な水不足・食料不足への緩衝性を高める方策の導入。 ○次世代型エネルギー拠点を形成し、インナーハーバー全体のエネルギー創出・循環を強化・拡張。 ○海洋資源の有効活用。 ○SDGs 水素エネルギー供給センター構想、「水素ベース地域熱電供給システム」構築、大災害時は市中へ電力供給。 ○SDGs を基軸とした計画やカーボンニュートラルの取組み。 ○「2027園芸博」のレガシーを受け継ぐグリーンインフラ整備。（「砂浜再生」による親水空間形成、「海の森（アマエ場）づくり」「湿地づくり」による生物多様性の実現とCO2吸収 地表の緑被率を高めることによるヒートアイランド抑制） ○グリーンインフラ（緑化）の導入やクリーンエネルギー（水素）の活用による環境未来都市の整備。 | 事業者提案 第1回 | | |

| | | |
|--|----------------------|--|
| <p>○太陽光、風力、海波の再生エネルギー発電設備管理スペースが配置され、山下埠頭のすべてに供給し管理する。</p> <p>○山下ふ頭エリア全体で電気・熱の供給を担うエネルギーセンターの計画</p> <p>○環境と人に優しく・文化のある街創り。～SDGsの考え方をベースに置く～自然エネルギーの活用と物を大切にする街～</p> <p>○水素エネルギーセンター、液化水素タンク、液化水素運搬船、豪州褐炭から水素精製下水ガス化発電、メタネーション、海水淡水化</p> <p>○地球温暖化阻止のため太陽光パネルを設置して全て電源は再生可能エネルギーの利用のみで運営。</p> <p>○港湾物流はトラック輸送が主体であったが、アウターハーバーのふ頭の増設に対応してCO2排出量の少ない鉄道輸送の復権を考える時期に来ている。</p> <p>○「蚤の市」の常設スペース。捨てるからまだまだ使えるへ。不用品から必要品へ。</p> <p>○ごみ焼却施設を作り、そのエネルギーを活用する。</p> <p>○環境技術は日進月歩の分野であり、開発時期も大きく異なるため、各ふ頭や大規模敷地などの単位で自律・分散しつつ、全体としての効率化などを目指すべき。</p> <p>○エネルギーの効率化を図る設備や取組の充実、周辺エリアとのエネルギー連携などのテクノロジーを導入し、サステナブルな社会に向けて行動する。</p> | <p>事業者提案 第2回</p> | |
|--|----------------------|--|

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|--|------------|----------|------------|----------|--------------|--|--------------|--|-------------------|--|--|
| <p>脱炭素の取組・魅力のプロジェクト</p> | <p>横浜港がCNPとしての取組を進めていることの魅力を世界に発信するための場所として活用することも考えられる。</p> <p>今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点として、世界は脱炭素型の都市開発が一般的であることを踏まえ、日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討する事も重要。サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化など、市民に広く知らせていくということも重要。</p> <p>○世界から注目される</p> <p>○先進的な自然環境を世界にアピールできる公園・レクリエーション機能</p> <p>○山下ふ頭全体を環境脱炭素化・再生可能エネルギー・廃棄物を含む物質の再生循環・情報技術等のハード・ソフトの先端的取組みのショーケースとする。</p> <p>○脱炭素化社会実現のため「ペロブスカイト太陽電池」や「電気運搬船」など、横浜発の先駆的技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待。</p> | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1325 1050 1423 1148">委員会 第1回</td> <td data-bbox="1423 1050 1528 1148">河野 委員</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1325 1148 1423 1317">委員会 第2回</td> <td data-bbox="1423 1148 1528 1317">村木 委員</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1325 1317 1528 1415">意見交換会 第2回</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1325 1415 1528 1513">事業者提案 第2回</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1325 1513 1528 1641">市民意見募集 委員会第4回後</td> </tr> </table> | 委員会 第1回 | 河野 委員 | 委員会 第2回 | 村木 委員 | 意見交換会 第2回 | | 事業者提案 第2回 | | 市民意見募集 委員会第4回後 | | <p>■再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを国内外に広くプロモーションする場所としても活用すべきである。</p> |
| 委員会 第1回 | 河野 委員 | | | | | | | | | | | | |
| 委員会 第2回 | 村木 委員 | | | | | | | | | | | | |
| 意見交換会 第2回 | | | | | | | | | | | | | |
| 事業者提案 第2回 | | | | | | | | | | | | | |
| 市民意見募集 委員会第4回後 | | | | | | | | | | | | | |

■市域全体と連動した賑わい創出

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|-----------------|--|-------------------|--------------|---|
| 都心臨海部、横浜市全体への波及 | 治安も悪かったイーストロンドンの成功は、山下ふ頭を考える上でも重要な動機になる。五輪開催を契機に、緑の増加、地域の環境浄化が図られ、隣接する高密度で貧困の象徴と言われた町も浄化され、インテリジェンスを持った若者が低廉な家賃という魅力で住み込み、相互に化学反応しながら、ケミストリーな環境を形成して、創造的な地域に変貌を遂げ、今や欧州全体のソフトウェアのベースになった事例がある。このように、開発には連鎖反応を起こすことが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | ■元町や中華街、山下公園通りなどの近隣エリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような今までと違った新たなまちづくりを目指すべき。 |
| | 横浜は東京都心のコピーである必要もありませんし、サブ的な存在ではないと思っております。東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う、そういう観点が重要。横浜の国際交流都市を先駆けた160年余の歴史、独自の都市文化、地理特性を活用したプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、先んじて積極的に動き出すべき。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | |
| | 地方の観光地の場合、成功するためには複数種類の観光施設があり、それぞれ連携している必要があることを踏まえ、山下ふ頭、横浜の周辺にあるもの、それぞれの関係性、相乗効果が期待できることを抑えて開発しない限り、他の事例と同様の開発となり、差別化につながらず、失敗するおそれがある。 | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | 山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街、関内・関外地区等の都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出を図ってほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 山下ふ頭の再開発は山下ふ頭域に留まらず、横浜港ひいては横浜市全体を踏まえた開発にしてほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸夫 委員 | |
| | 都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進してほしい。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 山下公園や中華街、元町、新山下と色々な地域と繋がっている。既存のものも活用しながら山下ふ頭を横浜の地域の1つの場所として、他の周りのエリアたくさん緑や自然があり、これまでの商店街なども広がっているので、周辺地区を回遊ができるような、今までと違った山下ふ頭、新たなまちづくりっていうのを目指していただきたい。 | 委員会 第5回 | 宝田 委員 | |
| | ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○山下ふ頭再開発が横浜の中心の山下町、元町、関内、伊勢佐木、野毛などの賑わいにつながる計画を望む。 | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | ○日本の港、横浜港、山下ふ頭の立ち位置から、港と結びつける開発が重要。 ○海の方ばかりではなく陸側とのつながりをもっと意識してほしい。 ○山手・元町・中華街という文化的バックグラウンドを活用してみなとみらいとの差別化を図ってほしい。 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |

| | | |
|--|----------------------|--|
| <p>○山下ふ頭だけでなく周辺のゾーンとの連携によるビジネス創出、内水面のアクセス整備や景観形成により、内港地区全体での連携を促進。</p> <p>○これからの内港地区は、各エリアの特徴を活かしながら、業務・芸術・商業などのさまざまなチャレンジャーが世界へ羽ばたく“港まち横濱”として発展を続ける。</p> <p>○都心臨海部拠点（5地区）をつなぎ、豊かな回遊性・滞留性を創造する公共空間ネットワーク「横浜パークライン」の形成。</p> <p>○中央卸売市場は、SDGsを意識した未利用の産品を含めた県産市産の物販や飲食を中心とするファーマーズマーケット&フィッシャーマンズワーフをイメージした地区に全面協力。</p> <p>○ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードも整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出、「山内ふ頭」において横浜の持つ食文化を広く内外に発信し、周辺への賑わいを創出。</p> <p>○“海洋都市の実現”もキーワードに、横浜港はインナーハーバーの核とし、水上交通の動線として機能する一方、周辺エリアと連携したイベント会場としても活用。東側都心部は、東側都心臨海部の対岸の地理的特性を活用し、港に面する緑部分にはにぎわい空間の創出を検討。西側都心部は、市の都市再生マスタープランを基本にまちづくりを推進。関内・外地区、山下公園周辺地区、山下ふ頭地区をそれぞれの特徴を生かし整備。</p> | <p>事業者提案 第1回</p> | |
|--|----------------------|--|

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | 要旨 | |
|-----------|---|-------------------|----------|---|
| 巨視的な視点の確保 | 日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。京浜地区、あるいは東京湾沿岸の港湾における土地利用の見直しの機運の高まりを整理しなければ、山下ふ頭が他地区と競合する、あるいは特徴が持てないことになりかねない。 | 委員会 第1回 | 涌井 委員 | <p>■日本の経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響、港や空港の機能による人流の動向も考慮する必要がある。</p> |
| | 山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要。 | 委員会 第1回 | 平尾 委員 | |
| | 山下ふ頭の再開発を出して、特に東京に繋がるようなベイエリアから山の方について、全体的に連鎖的なものを起こす必要がある。 | 委員会 第1回 | 今村 委員 | |
| | 東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を踏まえ、物流や人の移動の役割分担の進化、成田空港や羽田空港に到着された海外の方々が色々な観光資源を参考にかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべき。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | |
| | ○再開発にあたっては、広域的（東京湾全体、横浜市全体等）な視点での山下ふ頭の位置付けを考えるべき。 | 市民意見募集委員会 第1回後 | | |
| | ○横浜は東京に依存している産業構造になっており、山下ふ頭では東京にない独自の機能が求められると感じた。 | 市民意見募集委員会 第3回後 | | |

■海に囲まれた立地特性

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|--|--------------|------------|--|
| 立地特性の活用 | 次の100年を見据えた計画ができることも踏まえて、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのはダメで、逆にトップランナーになれる可能性を持っている。世界のウォーターフロントに追いつくのではなく、先行する意識をもって夢のある内容を議論したい。 | 委員会 第1回 | 隈 委員 | <p>■再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を活かし、世界のウォーターフロント開発を先行する臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。</p> <p>■観光産業の活性化や水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする人々の視点を意識するべき。</p> |
| | 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | マリンタワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけに感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。 | 委員会 第1回 | 北山 委員 | |
| | 水運を中心とした都市構造を検討する中で、羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要である。 | 委員会 第2回 | 北山 委員 | |
| | 工場移転等生産の拠点の移転により、広大な土地が空き地になる状況が京浜工業地帯全体に起こりうる可能性が高い中で、港湾機能とまちづくり機能の両用一体にした、これからの臨海部再開発のモデルという自負を持って取り組むということが非常に重要。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 素晴らしい立地条件と歴史性を十分に活かし、山下ふ頭の再開発が観光産業等のリーディング・プロジェクトとすべき。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要。 | 委員会 第3回 | 坂倉 委員 | |
| | 立地条件から水上交通をはじめとした、周辺との多彩な交通網の充実は必須。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。 | 委員会 第4回 | 内田 委員 | |
| | ○海に面する特性を活かす ○海に面した横浜らしい場所を活かしたい ○海の玄関口として象徴的な役割を果たす | 意見交換会 第2回 | | |
| ○特異な立地を生かし、横浜の経済振興・都市文化醸成に資する国際的な人・物・情報の集まる拠点を形成すべきである。 | 事業者提案 第2回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|------------|---|------------|------------|--|
| 海を活かした人材育成 | クルーズの出発点が横浜となっており、若者の教育的な見地や人生感などを変えている。世界の起点となる横浜として、刹那的な快楽を求めるのではなく、帆船での航行を通じた海洋人材の育成など、教育により横浜が自分の心の故郷という場所になるような開発にすべき。 | 委員会 第4回 | 藤木幸 太委員 | <p>■将来の海洋人材などの育成を目指し、若い世代への教育的な役割を果たす開発も考えられる。</p> |

■歴史・文化

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|--|-------------------|------------|--|
| 横浜の歴史を踏まえた開発 | 横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜の歴史を振り返る必要がある。未来を見据えた再開発の根底にある横浜の歴史、先人たちがその時代その時代に合わせて作ってきた歴史を紡いでいく必要がある。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | ■横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。 |
| | インナーハーバーと称される最後のエリアとして、ここが総仕上げになるような形で、点在してきた文化とか技術とか歴史をネットワーク化して、山下ふ頭ですべてがつながる形で完成されることが適当。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | 横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史がありますし、独自の都市文化、地理特性が備わっております。こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべきだと思っております。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | |
| | 横浜港の発展の歴史を踏まえた開発としてほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸 夫委員 | |
| | ○文化や歴史 ○芸術 ○文化・芸術機能 ○サブカルチャー | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○横浜の歴史を活かす ○文化を活かす ○横浜の歴史を伝える、感じる ○新しい文化が育つ ○異文化・多文化にふれる | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○歴史・文化を生かしたまちづくり（横浜の歴史、横浜らしさ、歴史を再現する・既存施設を生かしたまちづくり） | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○海に面する特性を生かす ○次世代につなげる ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○多世代が楽しめる・交流できる ○先進的なまちである ○新たな産業や技術を創出する ○サステナブルを実現する ○横浜らしさが感じられる ○横浜の競争力を高める ○国際都市としてのイメージがアップする ○歴史資産を残す ○文化・交流機能（開港・横浜発祥・埠頭の歴史都市の記憶の継承・市民と来街者の交流を生む・子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持てる・文化・芸術を楽しむ人を育てる） | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○横浜らしい個性ある持続可能な都市像と山下ふ頭のあり方を議論するため、横浜の都市づくりの歴史をたどり、先人の精神と経験に学ぶべき。 ○横浜の伝統を護る政策に絞ったEuropeの文化を活かしたまちづくり。 | 市民意見募集 委員会第1回後 | | |
| | ○横浜の過去のまちづくりの構想など、歴史に真摯に向き合う姿勢と責任感が大切。 ○文化的で落ち着いたまちづくりを目指してほしい。 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| | ○技術の継承をする意義も込めて、様々な原因によるスクラップ&ビルドでなくなった建物・街並みを再現することでヨコハマ文化が華やかで元気だった70年代を再興するとともに、各エリアの魅力を活かして共存関係を構築し、一層魅力的な計画にする。 | 市民意見募集 委員会第3回後 | | |
| | ○古き良き横浜の雰囲気を感じられる再開発を進めてほしい。 ○歴史や文化などの視点からの議論も必要。 | 市民意見募集 委員会第4回後 | | |
| | ○「平和の大切さを世界に呼びかける都市・横浜」の役割を事業の基礎においてほしい。 | 市民意見募集 委員会第5回後 | | |
| ○開港から紡がれてきた思いがある横浜中華街や関内地区など、周辺のまちとの融合を図る。 ○各地の日本文化を紹介し、また同時に海外の文化を紹介する事で、横浜独自の国際交流拠点となる。 | 事業者提案 第2回 | | | |

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|-------------------|--------------|--|
| 歴史文化の魅せ方 | 外国人は、日本のアニメ、漫画、ゲーム等のクリエイションで小さいときから育ち、日本に対する憧れがある海外での取材を通して明らかとなった。外国人からの日本のあこがれの対象がサブカルチャーといったソフトの部分に代替されたという印象を持っており、そのような視点も非常に重要。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | ■インフラ投資により都市の文化の魅力を向上させることに加え、外国人が憧れを抱く日本文化等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていく必要がある。 |
| | 歴史・文化だけでは多様性がないもので、インフラ投資による都市の文化、要するにショッピングやナイトライフであったり、日本の食文化、それにアクティビティなど、いろんなアピールをすることが重要である。 | 委員会 第3回 | アトキンソン 委員 | |
| | 国際交流や日本文化を発信するような機能を検討してほしい。 | 委員会 第3回 | 藤木幸夫 委員 | |
| | ○文化・芸術を発信する ○文化を体験できる ○劇場・ホール ○博物館 ○美術館 ○図書館 | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○歴史・文化を生かしたまちづくり（美術館・博物館、アート） ○歴史のテーマパークによるエンターテインメント | 意見交換会 第1回 | | |
| | ○横浜ブランドを創る・高める ○市民が楽しめる・利用できる ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○港町の風景が見れる ○文化を活用する・発信する ○シンボルがある ○歴史・文化を感じることができる ○開発に緑を取り入れる ○文化・芸術に触れられる | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○文化創造都市として世界へ各種情報発信、世界からの各種情報を取り込む『平和の大切さを世界に呼び掛ける横浜』の役割 ○文化、美術、教育に重きを置き、人間的な豊かさを追求する横浜市であって欲しい。 ○海外では日本＝アニメが当たり前なので、各種イベント等で国内のイメージ戦略が成功している横浜は、アニメまたはポケモン＋ポートタウンであれば競争性もなく、成功が望める。 ○外国籍の方々から「山下ふ頭周辺に日本の文化や伝統文化を体験できる場所がない」という意見があるので、日本の伝統芸能を見る・体験できる複合施設を作ることを提案。 ○日本の伝統的着物文化が人々から遠ざかっている・インバウンドの来日目的が観光だけでなく、日本らしさを求めていることから、日本文化の展示、体験型のミュージアムのような【日本文化の殿堂】を建設することで日本の伝統文化を次世代に伝承し、継承する。 ○文化施設と教育機関が併設された海と緑に囲まれた美術館ができれば、世界で活躍する若者を輩出し、世界から訪ねられるヨコハマになる。 ○映画館（車から見れるものも含む）、再度ガンダムを誘致、藤子不二雄ランド、もしくはJAPAN漫画ランド建設。 | 市民意見募集 委員会第3回後 | | |
| | ○横浜市民がテレビやネットを見る時間を読書の時間にあてることを推進するような場所作りのために世界に誇れる素敵なハーバー図書館 | 市民意見募集 委員会第4回後 | | |
| | ○歴史のある古い建物を壊さず、樹木を切らずに、横浜のレガシーを模倣するような建物・街を再現することで、文化歴史の維持に期待。 | 市民意見募集 委員会第5回後 | | |
| | ○メディア芸術（デジタルアート）、 グローバル拠点施設 | 事業者提案 第1回 | | |
| ○アート・デザイン・スポーツ・音楽・ダンスそして食はエンターテインメントになる!ライフスタイルがエンターテインメントになる。 ○日本国内や海外を旅行する際に、各地方の魅力や特産品・老舗を紹介。 ○居ながらにしてクルーズ文化体験 | 事業者提案 第2回 | | | |

■緑・水辺

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|---|---|-----------|--------|---|
| 緑でつながり市民が憩える空間づくり | 地域全体、ある意味広いエリアも含めて考え、横浜市民の為になる計画にする必要があり、例えば、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのか。 | 委員会第1回 | 幸田委員 | <p>■みなとみらい21地区から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線を活かし、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性を向上させるとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保すべき。</p> <p>■世界の都市開発では緑の再生が主流であり、周辺地域の緑地と連携して緑の総量を増やし、人々を呼び込む計画が必要。</p> <p>■インフラを整備し、緑を確保した上で、その中に建物を整備する発想も考えられる。その際、周辺地域への経済的効果の波及も意識することが必要。</p> <p>■誰もが自由に楽しめる憩いの場を作り出し、同時に経済の活性化を図る開発を進めることが必要。</p> |
| | 臨海部の回遊性を高めるため、みなとみらい 21 地区から大さん橋や山下公園に繋がるウォーキング・ジョギングコース（BAYWALK YOKOHAMA）や、イルミネーション・ライトアップによる山下ふ頭への連続性の確保をお願いしたい。 | 委員会第3回 | 藤木幸夫委員 | |
| | 横浜市民の憩いの場と経済活性化が両立できるような開発を進めることも検討してほしい。 | 委員会第3回 | 藤木幸夫委員 | |
| | 憩いの場としては、市民が自由に使える、賑わいが創出できるような空間を検討してほしい。 | 委員会第3回 | 藤木幸夫委員 | |
| | 港湾と都市の共生により、市民の憩いの場を確保していくべき。 | 委員会第4回 | 幸田委員 | |
| | 新しい世界の都市全て、ウォーターフロントは緑にカバーされている。山下ふ頭と山下公園、他の地域と繋いでグリーンベルトを、緑の総量を増やす。 | 委員会第5回 | 平尾委員 | |
| | 全て建物を埋め尽くすのではなく、まず緑があって、その中に後から建物を置いてくというようにそういう順序のものの考え方というのが大変貴重。インフラをまずしっかりとすることで、緑を置く。要するに横浜港全体で横浜を良くしていくという考え方、山下ふ頭だけで良くするのではなく。 | 委員会第5回 | 藤木幸太委員 | |
| | 世界の都市開発の流れを見ると、緑をどのように復活するかというのが、大きな流れ。ウォーターフロントにとって環境というのが大きなテーマになっていて、単に緑があるだけではなく、人もちゃんと呼べる緑を作ろうという計画として進んでいる、ということが重要。 | 委員会第5回 | 隈委員 | |
| | 単独で見ると山下ふ頭は決して大きくない。しかし周りとの連携で見ると、1つの緑のネットワークを作れるような大きさで、海外事例と比較しても、決して小さいことはない大きさであるため、周りとの連携というのは非常に重要。 | 委員会第5回 | 隈委員 | |
| | ウォーターフロントから変わってその後ですね、スーパーブロックによって街全体に波及して大きな経済効果と呼んでいったみたいなどころがあるので、周りとの経済の連携って考え方というのをですね、応用するところという財政の厳しい中でもですね、可能性が開けていく。 | 委員会第5回 | 隈委員 | |
| | 緑、それからパブリックスペースというのは大変重要。特に海に近いこういった水辺空間におけるパブリックスペースというのは憩いの場にもなり、非常に重要。 | 委員会第5回 | 幸田委員 | |
| | 緑と調和したまちづくりのため、15ヘクタールから20ヘクタールぐらい埋め立て、緑の地域を確保する。 | 委員会第5回 | 坂倉委員 | |
| | ○海と緑の調和 | 市民意見募集第1回 | | |
| ○周辺と緑でつながる | 市民意見募集第2回 | | | |
| ○庭・岡・公園のある市民のための再開発 ○散歩・サイクリングできる市民のための再開発 ○サイクリングコース・マラソンコース・水辺ウォーキングのある公園 ○広場、デッキなど憩いの場のある公園 | 意見交換会第1回 | | | |
| ○市民が楽しめる・利用できる ○周辺地域と連携・相乗効果を発揮する ○開放的な憩いの場づくり ○豊かな緑がある ○防災機能を備える ○横浜のアイデンティティ ○歴史文化を尊重する ○サステナブルを実現する ○国際交流の拠点になる ○横浜に住みたくなる・住み続けたい ○カーボンニュートラルに取り組む ○周辺の景観と調和している ○海と緑が調和している ○開発に緑を取り入れる ○公園・レクリエーション機能（市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい・子育てしやすい環境づくりに寄与・海と緑を一体的に体感できる場所にしたい・山下公園との連続性が大事にしたい） | 意見交換会第2回 | | | |

| | |
|--|---------------|
| ○公共財の管理に市民が参画していく現在版の入会地、里山のようなスペース | 市民意見募集委員会第1回後 |
| ○山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生。 ○自然が豊かである、自然を活かす、自然を楽しめる、誰でも憩える、ゆっくりくつろげる、公園、広場、遊歩道 ○厚生労働省の児童館機能強化方針を踏まえた、遊具のある広い公園と、そこに併設する、小さな子供から中高生まで幅広く活動し、また、一人でもくつろげる児童館 ○28haの市民がつくる森 ○山下埠頭を広大な森林公園（山）にする。山の下に広大な駐車場に。 ○園の中にキャンプ場（ホテルチックなバンガロー）の設置。手ぶらキャンプ | 市民意見募集委員会第2回後 |
| ○中区内の緑地の連続性を延長するための直径450mの公園（ダダッピロバ） ○海水を利用した公衆浴場・水着で入るプール、災害時の一時避難場所となる休憩ルーム。バーベキュー、テント張るスペース ○みなとみらいから八景島までのサイクリングロード ○横浜が園芸博覧会のキャッチフレーズである「ネイチャーベイスドソリューションズ」の象徴となるようにまとまった樹林地 | 市民意見募集委員会第3回後 |
| ○駅近で巨大スペースがあることが山下ふ頭の価値の1つなので、イベントとのシナジーを創出するため、一部をオープンスペースとして活用できる内容を盛り込めると良い。 ○氷川丸側の岸壁には山下公園から連続性のある公園 ○横浜港の情景を大切にすべく、横浜港の海と山下公園の緑との連続性を高層または大規模建築物によって遮断するような開発は避けて欲しい。 | 市民意見募集委員会第4回後 |
| ○緑豊かな空間を整備することは地域の発展と住民の生活の質を向上させる重要なステップ。 ○ベンチが点在し、海岸を安全に歩ける芝生のオープンスペース ○市民がリラックスできるよう、芝生と施設のバランスを考えてもらいたい。 ○都市公園で見られる緑地と港湾地域本来の自然は異なるので、緑地化するなら開港前の原風景のような緑地を再現。 ○大通公園からのグリーンベルトを延長し、中区の1人当たり公園面積を増やすために公園 ○緑を多く取り入れるという意見は採算性がなく、現実的ではないので、市の財政状況も考慮した持続可能な開発を検討すべき。 | 市民意見募集委員会第5回後 |
| ○ポートサイド地区に繋がる緑のプロムナードも整備し、来街者が憩い楽しめる空間を創出。 ○横浜市が財政が厳しい中で、ふ頭全体を緑地として遊ばせておく余裕はない。 ○東側都心部は、京浜臨海部再整備マスタープランに沿った開発を進める一方、東側都心臨海部の対岸の地理的特性を活用し、港に面する緑部分にはにぎわい空間の創出を検討。 ○緑、水際線 | 事業者提案第1回 |

| ポイント | 関連する委員意見 | 回数 | 委員 | 要旨 |
|-----------|---|-----------|--------|---|
| 水辺空間の有効利用 | マリントワーに登ってみると横浜のとても美しい港に船がほとんどない、水面があるだけに感じる。シドニー湾はウインドサーフィンやヨットで賑わっている。横浜はウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセスしていない状態。 | 委員会第1回 | 北山委員 | ■水面の賑わい創出、客船誘致に向けた整備、水際における非日常空間の形成など、ウォーターフロント都市として相応しい取組を進めるべき。 |
| | 横浜港へさらなる客船誘致を推進するための整備を検討してほしい。 | 委員会第3回 | 藤木幸夫委員 | |
| | 水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に生かすということが大切。やはり水際という非日常空間を生かすべき。 | 委員会第4回 | 内田委員 | |
| | ○海・みなと ○水辺・親水機能 ○クルーズ船受入機能 | 市民意見募集第1回 | | |
| | ○浜辺 ○釣り施設 ○海・港を活かす、身近に感じる ○港の機能がある ○海や港の景色を眺められる ○海で楽しめる ○船が停泊する ○客船受入施設 | 市民意見募集第2回 | | |
| | ○海水浴場のある公園 ○マリンスポーツ | 意見交換会第1回 | | |
| | ○横浜ブランドを創る・高める ○海に面する特性を生かす ○港に親しみが持てる ○港町の風景が見れる ○先進的なまちである ○新しい文化が育つ ○横浜らしさが感じられる ○国際都市としてのイメージがアップする ○横浜らしい景観が見れる ○船が停泊する | 意見交換会第2回 | | |

| | |
|-----------------------------------|---------------|
| ○人工の砂浜（海水浴場）とプール（冬季温水プール） | 市民意見募集委員会第2回後 |
| ○サップ、カヌーなどやれる場所 ○人工の砂浜 | 市民意見募集委員会第3回後 |
| ○観光・一般の駐車場やメガソーラー等を兼ね備えたフェリーターミナル | 市民意見募集委員会第5回後 |
| ○客船ターミナル | 事業者提案第1回 |
| ○客船ターミナル | 事業者提案第2回 |

■景観形成

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|--|--|-------------------|----------|---|
| 景観を考慮した開発 | 船で帰ってくる時の景色、みなとみらいの近未来的な景色と、遠くに見える富士山、大さん橋にクルーズ船、今この山下ふ頭がある。みなとみらいと山下ふ頭の景観のバランスを踏まえながら、それぞれのデザインの美しさに磨きをかけることを考えることもよいのではないか。 | 委員会 第1回 | 河野 委員 | <p>■横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえ、海と陸の両方の視点場から見た山下ふ頭の景観や、周辺地区とのバランスを意識した開発を行うべき。</p> <p>■羽田空港からベイブリッジを渡ってくる来街者や、その下をくぐって訪れるクルーズ客にとって、横浜への入口となる場所であり、市街地にも近いという魅力的なロケーションを活かした開発を進めることが必要。</p> |
| | 山下ふ頭は、ベイブリッジから眺めると目立つ場所にある。ここは羽田空港から入ってくる人たちにとって入口そのもの。かなり景観も、作り方によっては大変素晴らしいものになると考えており、素晴らしいものにしなければならない。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | |
| | 今までは、丘や陸から海をみて、横浜の一面の景観を美化してきたが、洋上から山下ふ頭の一番突先から見ると、横浜の街が見える。山手、高速、ビル街が見えて、横浜の駅とか東神奈川が見える。このロケーションはとても美しい絵になる。海から見た横浜の景観を、国内外からくる来街者からの映り方も含めて考えてみるべきではないか。 | 委員会 第1回 | 石渡 委員 | |
| | 横浜市が1970年代に検討していた景観の考え方を踏まえつつ、特に、港の見える丘公園から横浜港が美しく見えるように開発のポイントを抑えることも必要ではないか。 | 委員会 第3回 | 北山 委員 | |
| | 山下ふ頭は、横浜港頭地区にありながら、横浜市街にも近い好立地にある。是非、この魅力的なロケーション、横浜の特性を活かした魅力的な事業開発として頂きたい。 | 委員会 第5回 | 田留 委員 | |
| | ○景観形成 | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○海や港の景色を眺められる ○シンボルになる ○特色のある・周辺と調和のとれた・自然と調和のとれた景観づくり | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○横浜ブランドを創る・高める ○港町の風景が見れる ○シンボルがある ○周囲の景観と調和している ○海と緑が調和している ○横浜らしい景観が見れる ○誇れる街並みを創る | 意見交換会 第2回 | | |
| | ○みなとみらいとは違ったランドスケープに。 ○みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店 ○銭湯（横浜港が一望出来る巨大露天風呂） ○横浜港が一望出来る夏季ビアガーデン、冬季屋外こたつ式おでん居酒屋 ○開港以来の歴史と連なる景観の一部として、ホテルニューグランド、氷川丸、山下公園と調和することは絶対条件。 | 市民意見募集 委員会第2回後 | | |
| | ○港の見える丘公園からの景観を大事にするため、「山手地区都市景観形成ガイドライン」は委員会では必須事項である。 ○賑わい・観光というならば投資の場にするのではなく、景観を大切にすべき。 ○過去の都市計画での失敗を踏まえ、景観を重視した観点を山下ふ頭の開発の計画に加えてほしい。 ○市の経済効果の出し方は過大であるため、賑わい・観光というならば投資の場にするのではなく、景観を大切にすべき。 ○赤レンガから山下公園にかけての美しい海岸沿いは世界に誇れる景観であるので、山下ふ頭を経済合理主義で台無しにすることはしてほしくない。 | 市民意見募集 委員会第3回後 | | |
| ○横浜港の景観を大切にするために建造物は低層にする。 ○再開発で最初に建てられる建築物が未来の景観を左右する重要な要素なので、世界に誇れる「ヨコハマらしい」建築物を最初に建ててほしい。 ○臨港幹線道路の計画は高架方式だと景観に大きな影響が出るので、トンネル方式が採用されることを期待。 ○海上スペースをうまく利用し、現代風景になるものを考えるべき。 ○若い人からの意見にもあるように、保護条例を制定するなどして、ビル群を建てて横浜港の大切なもの（景観等）が壊れるようなことがないようにしてもらいたい。 | 市民意見募集 委員会第5回後 | | | |
| ○内港地区の景観を継承しながら新たな港まち横濱のシンボルを生み出す。 ○良好な環境基盤（緑・景観・街並み）づくり-地域とつながる景観・街並み」づくり。 | 事業者提案 第2回 | | | |

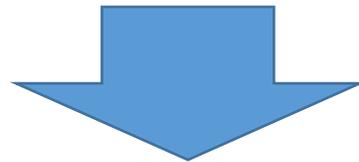
■デジタル活用

| ポイント | 関連する意見 | 意見者 | | 要旨 |
|------------|--|---------------|----------|---|
| デジタル時代への対応 | デジタルネイティブ世代が今後世界のマジョリティになることが明らかであることから、デジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う施設を整備する必要。 | 委員会 第1回 | 内田 委員 | <p>■デジタルとリアルを有効にミックスユースした横浜市全体の土地利用を背景として、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することが必要。</p> <p>■DX化とGX化による新たな価値に対応して、山下ふ頭を含めて横浜港の強化を図ることも必要。</p> |
| | コンテナ船の大型化に伴い物流機能の沖合への展開が進むエリアと、シースケープ再創造エリアとして、港をランドスケープの背景として、これらのゾーンを囲うような形で、上瀬谷を含めた都市農業のグリーンゾーンを一体的にして、デジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を考えたときに、山下ふ頭に建設する象徴的な施設が何かを考えるべき。 | 委員会 第2回 | 涌井 委員 | |
| | 都市開発の一方で市域の7パーセントにあたる農業地域についても、人口減少で農業の担い手が急減する中で、横浜市の食料自給率のアップ、例えばDXを活用した収穫量の増大、営農型太陽光発電のソーラーシェアリングによる収支改善などの対策検討を、市がしっかりとしたリーダーシップを持って進めていただきたい。 | 委員会 第3回 | 今村 委員 | |
| | 世界の人口が100億人の時代を迎え、そのほとんどがデジタルネイティブになっていく。あと10年もしたら、デジタルネイティブがメインとなっていく世の中にしっかりとフィットするようなものに、山下ふ頭はなっていかなければならない。 | 委員会 第5回 | 内田 委員 | |
| | 横浜港はDX化とGX化ということで、先進国ならではの港湾であるべきであり、こうした新たな価値に対応して、港湾を機能強化することも必要。 | 委員会 第5回 | 河野 委員 | |
| | ○DX（デジタルトランスフォーメーション） | 市民意見募集 第1回 | | |
| | ○先進技術を活用する | 市民意見募集 第2回 | | |
| | ○DX等を取り入れる | 意見交換会 第2回 | | |
| | <p>○スマートシティ構想など先進的な取り組みを実装するエネルギー・デジタルネットワークの構築。</p> <p>○最新のデジタル技術（入山証アプリ等）を駆使した社会実証の実施。</p> <p>○接客・配送ロボット導入や最先端の広告技術の導入。</p> | 事業者提案 第1回 | | |

山下心頭再開発の方向性にかかる 答申(案)の作成の考え方

○委員会設置目的：

「山下ふ頭の再開発にかかる計画の策定に関する事項」の議論



○まちづくりの大きな方向性を示すことに主眼を置き、答申（案）を作成

前回委員会での意見の分類案

1 まちづくりの方向性

- 横浜経済を牽引
- 横浜の魅力・ブランド力の向上
- 国内外から人々が集まる
- 次世代につなげる持続可能なまちづくり
- 市域全体と連動した賑わい創出

2 新たなまちを支える 基盤・空間の考え方

- 海に囲まれた立地特性
- 交通ネットワーク
- 緑・水辺
- 景観形成

3 再開発に必要な視点

- 脱炭素(環境・エネルギー等)
- デジタル活用
- 防災・安全
- 周辺地域への波及
- 観光・インバウンド
- 歴史・文化
- 市民合意形成、プロジェクト体制

答申(案)の構成

1 目指すべき姿

- 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間の創造
- 市民と共に歩み、豊かなみらいに繋げる持続可能なまちの実現
- 横浜らしさと賑わいが広がり、新たな活力を創出する都市モデルの構築

2 基盤・空間の考え方

- まちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実
- 安全・安心とレジリエンス*の確保 *強靱性、適応力
- 横浜らしさを感じる景観づくり

答申(案)の構成

世界に誇れる、魅せる
「緑と海辺」空間の創造

目指すべき姿

市民と共に歩み、豊かなみらいに
繋げる持続可能なまちの実現

横浜らしさと賑わいが広がり、
新たな活力を創出する都市モデルの構築

基盤・空間の考え方

まちをつなぎ一体感を
高める交通アクセスの充実

安全・安心と
レジリエンス*の確保

*強靱性、適応力

横浜らしさを感じる
景観づくり

○今後のまちづくりに向けて

議論においては、具体的な言及なども見られた。これらの意見については、答申の付属資料という形で反映しており、市においては、これらも参考にしながら事業計画の検討を進めていただきたい。

加えて、委員会での議論やこれまでの本委員会を視聴した市民からのご意見を踏まえ、次の2点を申し述べておく。

- ①再開発の恩恵を47ヘクタールに留めず、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部とも連動させ、市域全体の更なる活性化に向けて相乗効果が最大限発揮されるよう取り組む必要がある。
- ②2度にわたり実施された市民意見募集等では、延べ10,000件を超える意見が寄せられ、また本委員会における議論に対しても多くの意見をいただいております、引き続き多様な意見を問うプロセスを経ることが望ましいと考えている。

山下小頭再開発の方向性について(答申)

<案>

横浜市山下小頭再開発検討委員会

令和●年●月

「山下ふ頭再開発の方向性について（答申）」（目次）

| | |
|--|----------------|
| はじめに | 2 |
| 1 山下ふ頭再開発が目指すべき姿 | 8 |
| (1) 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間の創造 | |
| (2) 市民と共に歩み、豊かなみらいに繋げる持続可能な まちの実現 | |
| (3) 横浜らしさと賑わいが広がり、新たな活力を創出する 都市モデルの構築 | |
| 2 基盤・空間の考え方 |24 |
| (1) まちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実 | |
| (2) 安全・安心とレジリエンス*の確保 *強靱性、適応力 | |
| (3) 横浜らしさを感じる景観づくり | |
| 今後のまちづくりに向けて |30 |
| (参考) |31 |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会委員名簿 | |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会審議経過 | |
| 付属資料 | |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 資料（一式） | |
| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 会議録（一式） | |

はじめに

私たちは今、人口減少と少子高齢化の急速な進展、自然災害の激甚化・頻発化、深刻化する気候変動問題など、時代の大きな転換期を迎えている。377万人の市民を擁する我が国最大の基礎自治体である横浜市は、こうした局面に立ち向かいながらも、都市の活力を未来につなげていく役割を果たしていかなければならない。その中で、山下ふ頭の再開発は、港町・横浜を象徴する美しいウォーターフロントを舞台に、新たな価値を創造し、世界の人々を惹きつける魅力的なまちづくりを実現するプロジェクトとして位置づけられている。

これまで市においては、横浜市民の理解が得られる、そして事業性のある再開発を目指し、令和3年度から市民意見募集や市民意見交換会を重ねるなど、幅広い取組が丁寧に進められてきた。

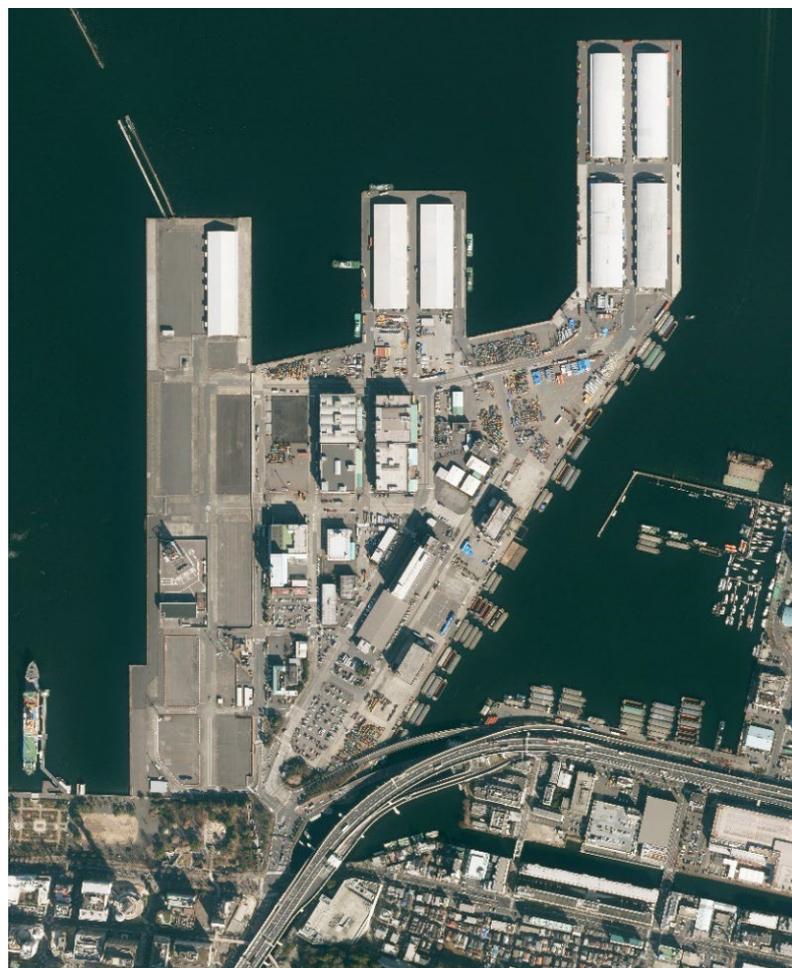
横浜市山下ふ頭再開発検討委員会は、山下ふ頭の優れた立地や広大な開発空間を活かした、新しい時代の象徴となるまちづくりに向けて、その方向性について議論するための機関として設置されたものである。

本委員会においては、市が抱える課題等のファクトや市民意見等の説明、地域関係団体委員の意見書の提出、学識者委員のプレゼンテーションなどが行われるとともに、各委員が活発に意見を交わし、議論を積み重ねてきた。

また、開催にあたっては、傍聴に加え、インターネットによる生配信を行うなど、透明性を確保しながら運営が行われたことは、特筆すべき点である。さらには、視聴をされた方々からいただいたご意見を、委員会各回で報告を受け、多様な市民意見を取り入れながら委員会を進めてきた。

この度とりまとめた答申は、本委員会での議論を「目指すべき姿」と「基盤・空間の考え方」に整理をしたものである。今後は、この答申を羅針盤としながら、魅力あふれるまちづくりを実現していただきたい。

山下ふ頭の概要

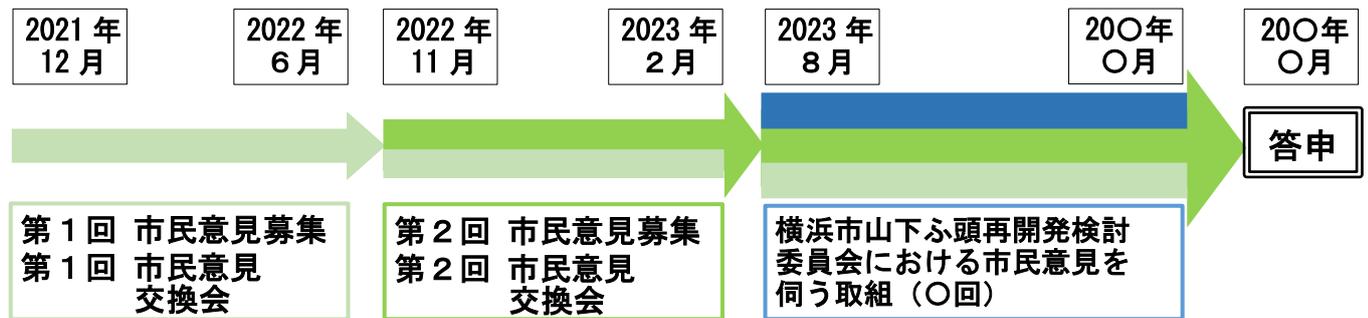


| | |
|------|-------------------------|
| 敷地面積 | 約 47ha |
| 用途地域 | 商業地域 |
| 容積率 | 400% |
| 建蔽率 | 80% |
| 高度地区 | 第 7 種高度地区 (最高限 31m) |
| 防火地域 | 準防火地域 |
| 臨港地区 | 横浜港臨港地区 (分区：商港区) |
| その他 | 都市再生緊急整備地域・特定都市再生緊急整備地域 |

【市民意見募集、市民意見交換会等の取組】

横浜市では、横浜市民の理解が得られる、そして事業性のある再開発を目指し、令和3年度から市民意見募集や市民意見交換会を重ねるなど、幅広い取組が進められ、**合計〇〇件の意見が寄せられた。**

○ 経緯



○ 主な取組内容

■ 2021 (R3) 年12月
~2022 (R4) 年6月

第1回 市民意見募集

山下ふ頭再開発の新たな事業計画の策定に向け、市民の皆様から再開発のイメージ(海・みなと、国際性など)や再開発に取り入れる視点(持続可能なまちづくり、多様性社会など)について、意見を募集。

○回答数 3,721件(うち、自由意見があったもの:1,942件)

■ 2022 (R4) 年5月
~2022 (R4) 年6月

第1回 市民意見交換会

第1回 市民意見募集の一環として、市民から直接意見を伺うため、まちづくりのテーマなどについて、市民意見交換会(ワークショップ)を実施。

○参加者総数 221人、意見の数 3,120件

①結果の公表

(※ 詳細は付属資料を参照)

■ 2022 (R4) 年11月
~2023 (R5) 年2月

第2回 市民意見募集

第1回の市民意見募集や市民意見交換会を踏まえ、より具体的な再開発のイメージなどについて、意見(自由意見)を募集。

○回答数 1,284件(全て自由意見)

■ 2022 (R4) 年12月
~2023 (R5) 年2月

第2回 市民意見交換会

第2回市民意見募集の一環として、直接市民意見を伺うため、より具体的な再開発のイメージなどについて、市民意見交換会(ワークショップ)を実施。

○参加者総数 172人、意見の数 2,555件

②結果の公表

(※ 詳細は付属資料を参照)

これまでの市民意見募集等では、「海と緑が調和」「持続可能で環境にやさしい」「幅広い世代が楽しめる」「横浜ブランドを創る」など、数多くの声が寄せられた。

これらの市民意見を基に横浜市山下ふ頭再開発検討委員会で議論がスタートした。

■ 2023（R5）年8月 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会における
～200（R0）年〇月 市民意見を伺う取組

委員会の開催にあたっては、傍聴に加え、インターネットによる生配信を行うなど、透明性を確保しながら運営が行われた。

また、視聴をされた方々に対して、各回、インターネットフォームによる意見募集が行われ、その結果が委員会で、都度、報告された。

第1回 意見者数 39 人、意見数 78 件

第2回 意見者数 39 人、意見数 105 件

第3回 意見者数 55 人、意見数 111 件

第4回 意見者数 33 人、意見数 36 件

第5回 意見者数 61 人、意見数 82 件

第6回 意見者数 〇人、意見数 〇件

〇総意見者数 〇人、総意見数 〇件

(※ 詳細は付属資料を参照)

市民意見募集等の結果をまとめた資料が、委員会で配布され説明を受けた。

■ 200（R0）年〇月 答申

これまでの市民意見等を踏まえて、委員会での議論を進め、3つの「目指すべき姿」と「基盤・空間の考え方」を整理し、答申を作成したものである。

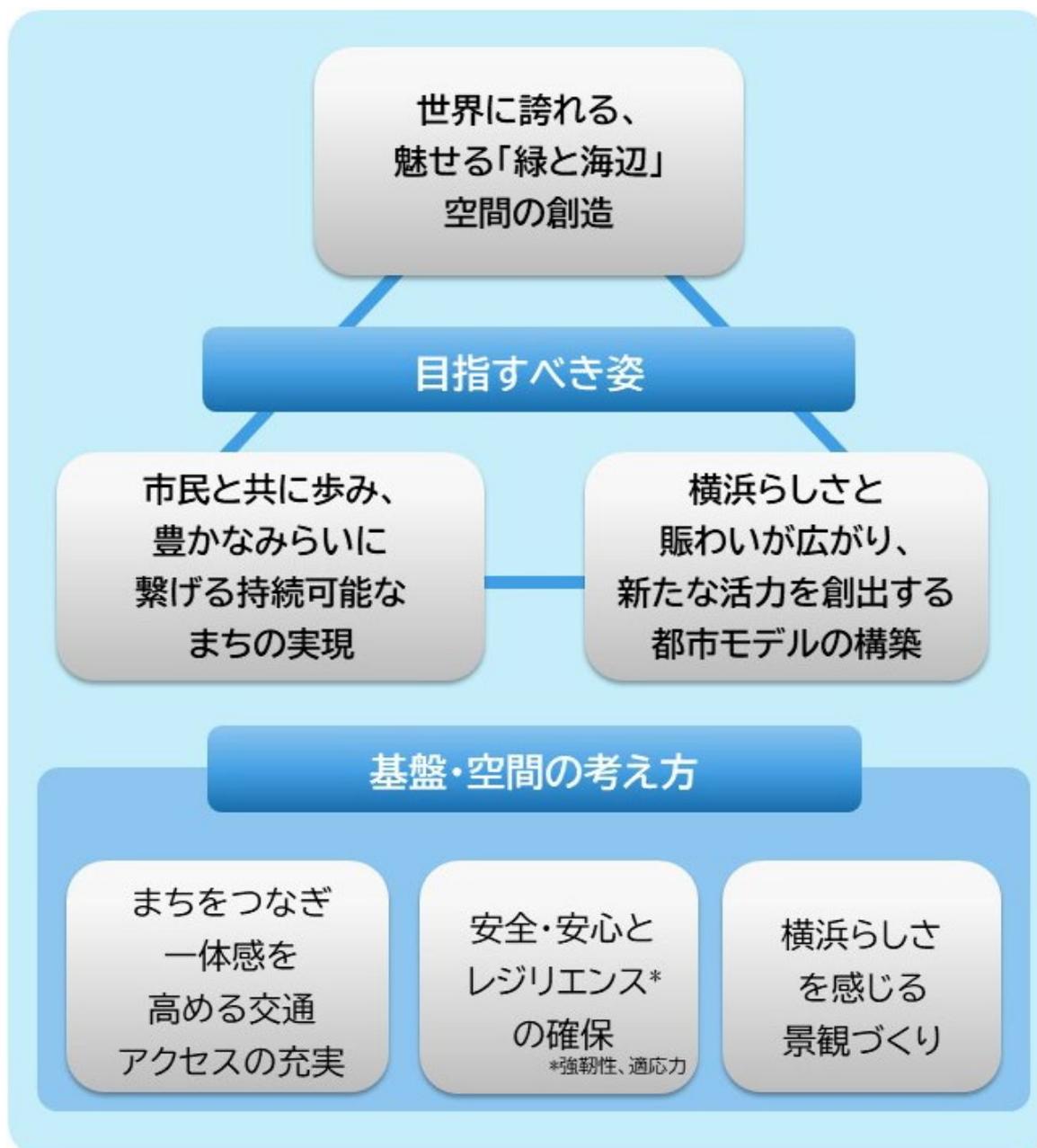
【市民意見募集、市民意見交換会等の取組の様子】



【本答申の構成について】

本答申では、まちづくりの大きな方向性を示すことに主眼を置き、山下ふ頭再開発が「目指すべき姿」を明確にしたうえで、その実現に向けた土台となる「基盤・空間の考え方」を整理することとした。

【答申の全体像】



1 山下ふ頭再開発が目指すべき姿

本答申では、まず、まちづくりの方向性や導入機能、持つべき視点として「目指すべき姿」を以下の通り整理し、取りまとめを行った。

目指すべき姿①：世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間の創造

(1) 実現に向けた方向性と導入機能

(方向性)

- 世界の都市開発でも見られる「緑の再生」を核としながら、臨港パークから山下公園に至る水際線と連続したまとまりのある緑化空間を創出し、人々を呼び込み、デスティネーションとなる魅力的な緑を中心としたまちづくりを推進すべき。
- 三方を海に囲まれた地の利を活かして、世界のウォーターフロント開発をリードする臨海部再開発モデルを構築すべき。

(導入機能)

- 臨港パークから大さん橋、山下公園までの水際線と連続し、市民や来街者が憩い、賑わうオープンスペースの形成
- 建築物と一体となった立体的な緑の創出
- 水際線の賑わいのある歩行者空間の形成
- 水上からのアクセス環境の整備
- 緑や水際線を活かした上質な滞在空間の形成

などが必要。

【委員会での主な意見】

- 世界の都市開発では緑の再生が主流であり、周辺地域の緑地と連携して緑の総量を増やし、人々を呼び込む計画が必要。
- みなとみらい 21 地区から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線を活かし、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性を向上させるとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保すべき。
- インフラを整備し、緑を確保した上で、その中に建物を整備する発想も考えられる。その際、周辺地域への経済的効果の波及も意識することが必要。
- 再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を活かし、世界のウォーターフロント開発を先行する臨海部再開発モデルの構築を目指すべき。
- 観光産業の活性化や水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする人々の視点を意識すべき。
- 水面の賑わい創出、客船誘致に向けた整備、水際における非日常空間の形成など、ウォーターフロント都市として相応しい取組を進めるべき。

【緑でつながる歩行者空間づくり】



(2) 実現に向けて持つべき視点

①市民の憩いと共生

市民が緑や海の自然を楽しめる憩いの場の創出や、そこに集う人々がコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを感じられる新しいまちづくりを考える。

②人々の行動変容を促す取組

環境や海洋分野において、若い世代への教育的な役割を果たす機能を考える。

[委員会での主な意見]

- 市民がリラックスして楽しめる場所を提供し、自然やコミュニティと共生しながら、文化や生活の豊かさを求める人々が集まる新しい都市モデルを追求すべき。
- 誰もが自由に楽しめる憩いの場を作り出し、同時に経済の活性化を図る開発を進めることが必要。
- 将来の海洋人材などの育成を目指し、若い世代への教育的な役割を果たす開発も考えられる。

紹介事例1 (第4回検討委員会)

スタンレーパーク(カナダ)では、従来は、単なる市民の自然系リゾート地としての役割を果たしていたが、娯楽機能の整備がなされ、近年は、ファミリー層や観光客向けに、自然系アクティビティを楽しむ機会が提供されている。



スタンレーパーク遠景
出典：iStock.com/edb3_16



自然系アクティビティ「ローンボーリング」
出典：iStock.com/HamidEbrahimi



自然系アクティビティ「サイクリングコース」
出典：iStock.com/Marc Bruxelles

| | |
|--|--|
| <p>紹介事例 2 (第5回検討委員会)</p> <p>ジャルディーニ (イタリア) では、都心近くの造船所跡に都市公園が設けられている。低い建蔽率で各国のパビリオンが建てられ、ビエンナーレの会場として使われており、都市観光のエンジンとなっている。</p> |  <p>ジャルディーニ遠景 出典：iStock.com/ BMG_Borusse</p> |
|  <p>公園 出典：iStock.com/greta6</p> |  <p>パビリオン 出典：iStock.com/Bojanikus</p> |
| <p>紹介事例 3 (第5回検討委員会)</p> <p>セントラルパーク (米国) では、広大な芝生、森林、小川、湖といった自然に加えて、野球場やサッカー場、回転木馬、スケートリンク、動物園、コンサートや劇場などが導入され、毎年約 4,200 万人が訪れている。</p> |  <p>セントラルパーク遠景 出典：iStock.com/ stockinasia</p> |
| <p>紹介事例 4 (第5回検討委員会)</p> <p>ダンディー (イギリス) では荒廃したウォーターフロントの整備により都市機能を水辺まで延長して、水辺を都市に取り込み、商業、オフィス、住居及びレジャーの機能を整備する計画となっている。</p> |  <p>博物館「V&A ダンディー」 出典：iStock.com/ tekinturkdogan</p> |

【立地特性の活用】



【客船受入施設】



目指すべき姿②：市民と共に歩み、豊かなみらいに繋げる持続可能なまちの実現

(1) 実現に向けた方向性と導入機能

(方向性)

- 多くの市民が集い、地域の賑わい創出等に取り組める場を創り、様々な人材や技術が交流し新しい価値を常に生み出す、持続的に発展するまちを目指すべき。また、若者など次代を担う多様な人材が、環境分野等の新たな技術を体感し学べる空間を創出すべき。
- グリーントランスフォーメーション等の新たな価値に対応するイノベーション創出など、横浜の強みとなるような拠点の形成を図るべき。また、エネルギーの効率的な利用の推進や、用途に応じた最適な組み合わせの実現を目指すべき。

(導入機能)

- カーボンニュートラル、次世代モビリティの導入などを促進する新たな技術の社会実証・実装、体験・体感の場としての活用
- 多様な人材が集まるプラットフォームの展開
- 市民をはじめ多様な主体がまちづくりに参画できる仕組み
- エネルギー利用を最小化した施設の導入など、脱炭素型まちづくりの推進

などが必要。

[委員会での主な意見]

- 次世代のニーズに応え続けるため、イノベーションを創出し、拠点を集中的に配置する。また、新しい技術や地域の賑わい創出等の社会実証・実装の場として活用していくべき。
- DX化とGX化による新たな価値に対応して、山下ふ頭を含めて横浜港の強化を図ることも必要。
- カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小限に抑えた施設の導入や、用途に応じたエネルギーの最適な組み合わせを実現することで、日本初の脱炭素型再開発プロジェクトを目指すべき。
- 再開発の機会を捉え、サステナビリティの重要性と合わせて、横浜港におけるカーボンニュートラル実現に向けた取り組みを国内外に広くプロモーションする場所としても活用するべきである。
- 元町・中華街やみなとみらいなど周辺地区とのアクセスを向上させるモビリティを導入し、未来の多彩な交通手段の革新を目指すべき。
- 人口減少や外国人の定住人口の増加を見据え、多様な人材が集まる多文化共生のプラットフォームを展開し、街の発展に繋げていくべき。
- 官民の役割を明確にし、海外からの直接投資の増加、世界中の優れた人材の確保、教育的な役割の追加を目指すことが必要。
- 事業計画策定後には、市民など多様な主体が管理に参加できる仕組みの検討も必要。

(2) 実現に向けて持つべき視点

①持続可能なまちづくり

50年後、100年後を見据え、環境面と経済面で未来に負担を残さない持続可能なまちづくり、適切な市民参画、全体最適となる事業の実現を考える。

②柔軟性のあるまちづくり

まちづくりのテーマの統一性を保ちつつ、将来の情勢やニーズ、災害発生等に柔軟に対応できるよう、一定規模の可変性があるオープンスペースを確保し、段階的な整備を考える。

[委員会での主な意見]

- 世界のウォーターフロント開発のトップランナーとして、50年後、100年後を見据えた永続的な運営が可能な開発を行い、国内外に誇れる横浜を作るべき。
- 答申後に市が取り組む事業計画の策定においては、市民意見募集や意見交換を行うプロセスを経ることが適当である。また、市民参画の在り方や開発に対する市民意見の伝達手法についても考慮することが必要。
- 山下ふ頭の再開発が部分最適だけでなく全体最適の事業となるよう、バランスを取るべきである。
- 横浜市がイニシアチブを持ち、市民のための再開発を行う視点と、経済成長や財政収支を両輪として長期的な視点でまちづくりを進めるべき。
- 市の関係部局が横断的に連携し、中長期的な時間軸で考え、市の財政維持や課題解決に資する再開発を行うべきである。
- 横浜港や市域全体のグランドデザインや、これまで議論されてきた構想との関係性を常に意識し、山下ふ頭の事業について大きな時間空間の視座に立って十分な議論・審議を行うべきである。
- 開発テーマの統一性を保ちつつ、将来の情勢やニーズ、災害発生等に柔軟に対応できるよう、一定規模の可変性あるオープンスペースを確保し、段階的に整備を進める計画を立てるべき。

| | |
|--|---|
| <p>紹介事例 5 (第 4 回検討委員会)</p> <p>ハーフェンシティ (ドイツ) では、2006年に高等教育・研究機関を設立、2017年にはかつての倉庫を基盤として建てられた文化施設が開館するなど、学術研究施設や文化・芸術施設の集積が進んでいる。</p> |  <p>ハーフェンシティ遠景 出典：iStock.com/golero</p> |
|  <p>学術研究施設「ハーフェンシティ大学」 出典：iStock.com/Tupungato</p> |  <p>文化・芸術施設「エルプフィルハーモニー」 出典：iStock.com/Lukas Bischoff</p> |
| <p>紹介事例 6 (第 2 回検討委員会)</p> <p>バンクサイド・ヤード (イギリス) では、再生可能エネルギーによる発電で運用され、敷地の建物は最先端のエネルギーネットワークを使用することで、エネルギー使用の効率化、節電につなげている。</p> |  <p>バンクサイド・ヤード遠景 出典：iStock.com/mediartist Matthias Schloenvogt</p> |

【多彩な交通手段】

| | |
|--|--|
|  <p>都市型循環式ロープウェイ「YOKOHAMA AIR CABIN」</p> |  <p>LRT/Streetcar 出典：iStock.com/jdornoff</p> |
|  <p>空飛ぶ車「eVTOL」 出典：iStock.com/peepo</p> |  <p>グリーンスローモビリティ 出典：iStock.com/y-studio</p> |

**目指すべき姿③：横浜らしさと賑わいが広がり、
新たな活力を創出する都市モデルの構築**

(1) 実現に向けた方向性と導入機能

(方向性)

- 160年以上にわたる横浜港の発展の歴史や横浜独自の都市文化を活かしたまちづくりを進めるべき。また、既存の観光資源の活性化を含め、海外からの関心、人流、投資などを惹きつけるべき。
- 横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、魅力的な施設の導入を図り、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅のデスティネーションとなる開発にすべき。

(導入機能)

- インバウンドの目的地としての横浜の価値向上
- まちづくりへの投資による都市の文化的魅力の向上
- 付加価値の高い魅力的な施設の提供
- ユニバーサルデザインに配慮したインクルーシブな空間の整備
などが必要。

[委員会での主な意見]

- 横浜港発展の歴史を紡ぐとともに、独自の都市文化、技術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき。
- 未来を担う若者のために、先進的な技術やグローバルな社会に合致する要素を取り入れつつ、伝統的な技術や文化を継承する拠点を形成するべき。
- 既存の観光資源の活性化を含め、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込み、海外からの関心、人流、投資等を惹きつける必要がある。
- 横浜港の周辺地域に設置された賑わい・観光拠点や、今後の開発動向を踏まえた上で、地域経済活性化の観点から、国内外から多くの人を惹きつけ、横浜が旅の目的地となるような大規模集客施設の導入等も考えられる。

- 元町や中華街、山下公園通りなどの近隣エリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような今までと違った新たなまちづくりを目指すべき。
- 周辺地区の魅力との相乗効果を発揮するような開発や、日本のテクノロジーやカルチャーの集積により独自の立ち位置を構築し、他都市と切磋琢磨していく観点が必要。
- 新たな市場の経済効果を山下ふ頭内に留めることなく、回遊性向上等により周辺地域に波及させていくなど、市として全体のバランスを考え、経済合理性を求めていくことが必要。
- インフラ投資により都市の文化の魅力を向上させることに加え、外国人が憧れを抱く日本文化等、ソフトな部分を含めてプロモーションしていくことが必要。
- インバウンドの目的地が横浜となるよう、世界的に見ても日本文化に対する好感度が非常に高いことを再評価し、その価値を形にしていくべき。また、滞在時間や消費単価が高い層の需要に応えるようなサービス機能も必要。
- 経済への貢献やオーバーツーリズムの回避を考えると、付加価値が高い、常に人が集まる魅力的な施設にすることで、クルーズ客の市外への流出を防ぐとともに、宿泊客の増加に繋げていくことが必要。
- デジタルとリアルを有効にミックスユースした横浜市全体の土地利用を背景として、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にも適う象徴的な施設を整備することが必要。
- 今後多数を占めるデジタルネイティブ世代のインバウンドが楽しめるインフラ投資を進めるとともに、多様なアピールを行うべき。
- 横浜の名所として国内外から多くの人を惹きつけるだけでなく、ユニバーサルデザインに配慮することで、インクルーシブな空間を整えることが必要。

【東京湾沿岸部における開発事例】



| | | |
|------------------|---------------------------------|---|
| 企業・大学等のイノベーション施設 | | ● |
| ① | みなとみらい 21 地区 | |
| ② | 殿町キングスカイフロント、羽田イノベーションシティ、末広町地区 | |
| ③ | 臨海副都心青海地区 | |
| ④ | 幕張新都心業務研究地区・文教地区 | |
| その他 | 豊洲 1～3 丁目地区 | |

| | | |
|-------------------------|--|---|
| スポーツ、コンサート等エンターテインメント施設 | | ● |
| ① | 横浜スタジアム、Kアリーナ | |
| ③ | 有明アリーナ、TOKYO A-ARENA | |
| ④ | ZOZO マリンスタジアム La La arena ToKYO-BAY | |

| | | |
|-----------|----------|---|
| 国際展示場等の施設 | | ● |
| ① | パシフィコ横浜 | |
| ③ | 東京ビッグサイト | |
| ④ | 幕張メッセ | |

| | | |
|---|------------------------------|---|
| 緑 | | ● |
| ① | 臨港パーク（芝生広場、人工海浜） | |
| ② | 東扇島東公園（芝生広場、バーベキュー広場、人工海浜） | |
| ③ | 海の森公園【整備中】（森、広場、水上競技場） | |
| ④ | 稲毛海浜公園（ビーチ、グランピング、プール、美術館 等） | |

| | | |
|--------|------------|---|
| テーマパーク | | ● |
| ④ | 東京ディズニーランド | |

| | | |
|---------|--|---|
| 最近の主な開発 | | ● |
|---------|--|---|

紹介事例 7 (第4回検討委員会)

ミッションベイ (米国) では、ライフサイエンス産業の研究開発機能の集積を目指した再開発計画が進行。スポーツ・エンターテインメント施設も整備されるなど、複合的なまちづくりが行われている。サンフランシスコ全体では年間 2,310 万人の来街者、3.6 万人の雇用、約 65 億ドルの産業生産をもたらした。



ミッションベイ遠景

出典：iStock.com/DianeBentleyRaymond



大学・研究機関「カリフォルニア大学サンフランシスコ校」

出典：iStock.com/Tomsmith585



アリーナ「チェイスセンター」

出典：iStock.com/DaineBentleyRaymond

紹介事例 8 (第5回検討委員会)

シドニー (オーストラリア) では、シドニー湾の都心に美しい水際公園が設けられている。公園内にあるオペラハウスは 1973 年に竣工し、世界遺産にも登録され、オーストラリアの象徴的な建物の一つとなっている。

また、造船所跡地のコッカトゥーアイランドには、キャンプ施設があり市民の憩いの場になっている。



シドニー湾遠景

出典：iStock.com/jamenpercy



王立植物園

出典：iStock.com/LeoPatrizi



オペラハウス

出典：iStock.com/julianneBirch

(2) 実現に向けて持つべき視点

①人々を呼び込む拠点形成

定住人口が減少する時代において、巨視的な視点を持ち、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を図るとともに、山下ふ頭の立地特性を活かし、横浜経済の核となるシンボリックな拠点の形成を考える。

②横浜全体のブランド価値の向上と成長の牽引

国内外からの人流や投資を呼び込むため、環境価値や感性価値に優れた事業の創出により、横浜全体のブランド価値の向上を考える。また、市の収益向上や産業の活性化、雇用創出など将来にわたる地域経済への波及効果により、市民生活を支えるまちづくりを考える。

[委員会での主な意見]

- 定住人口が減少する時代にあって、魅力ある将来に繋がるまちづくりを目指し、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき。
- 日本の経済構造や国際的物流の転換という観点において東京湾沿岸の港湾が同様の状況に置かれていることを踏まえ、巨視的な視点を持って、都市機能の分担や連鎖的な影響、港や空港の機能による人流の動向も考慮する必要がある。
- プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーを構築し、国内外から人流や投資を呼び込む力を醸成することで、顧客のニーズが変わっていく中でも飽きられず時代遅れとならないよう継続的な投資を促すことが必要。
- 観光資源の保存と活用を両輪とした持続的な経営を目指すとともに、インバウンド戦略の一環として行うインフラ投資が、日本人にも魅力的な環境の創造に繋がることを意識するべき。
- 横浜港は横浜市民だけでなく日本国民にとって重要な港であり、山下ふ頭が港と市街地を結節する場所だということを十分に意識することが必要。
- 観光産業等のリーディングプロジェクトとして、周辺の観光施設と連動させ相乗効果を生み出すことで、東京との差別化を図るべき。
- 国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果にに応じていくため、環境価値と感性価値に優れ、横浜ブランドと三位一体となった事業を創出することが必要。

- 地域価値の向上、地域貢献を実現し、横浜全体のブランド価値を上げるという視点が必要。
- 古きを尊重し、新しいものを取り入れることで、横浜の不易と流行を組み合わせ、横浜ブランドを再度磨き上げるべき。
- 日本経済を牽引する気概を持って、横浜と世界を結ぶ玄関口として、都心臨海部はもとより「横浜経済の牽引役」となる再開発を実現するべき。
- 市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、横浜の成長を牽引し、市の収益を生み出す場所としての観点が必要。
- 子から孫へと世代を繋ぐまちづくりの構想や、税収効果を生み出し雇用創出を図る取り組みを進めることで、将来にわたる経済効果の維持と市民生活の支援を両立させるべき。
- 新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき。
- 再開発を契機とし、周辺地域で働く人々の収益向上や、消費・雇用の創出、より良い労働環境や高い生産性の確保を図るなど、地域経済活性化の起爆剤としていくべき。
- 日本、東京湾全体における横浜港の位置づけを踏まえ、国際貿易への寄与や国際競争力向上に資する場所として活用する発想を持つことも考えられる。

紹介事例 9 (第 4 回検討委員会)

ボルチモア (米国) では、公園やオフィスビル、ホテル、小売店の再建等の複合的な開発が進められた。1970 年代以降、歴史的な船舶の展示や国立水族館、体験型科学博物館等の建設が進められ、観光地としての地位を築いている。

2012 年の調査では 1,000 万人以上が訪れ、23 億ドルの経済波及効果を及ぼしている。



ボルチモア遠景
出典：iStock.com/Brendan Beale



国立水族館「ナショナルアクアリウム」
出典：iStock.com/drnadig



体験型科学博物館「メリーランド科学センター」
出典：iStock.com/eurobanks

紹介事例 10 (第 4 回検討委員会)

マルセイユ旧港地区 (フランス) では、劇場、博物館、商業施設等が立地した複合的なまちづくりが行われている。倉庫を劇場に転用するなど、既存施設を活用し、地域の歴史を尊重するとともに、周辺の景観と調和した開発がなされている。



マルセイユ旧港地区遠景
出典：PORALU MARINE



劇場「ラ・クリエ劇場」
出典：iStock.com/olrat



商業施設「ギャラリー・ラファイエット」
出典：iStock.com/Marina113

紹介事例 11 (第 4 回検討委員会)

LA ウォーターフロント (米国) では、現在もコンテナ輸送が行われているロサンゼルス港のオープンスペースを活用し、経済活性化や公共空間の拡充等の都市的土地利用を目的として、2000年代より、商業施設や公園、レクリエーション施設を含む複合的な開発が行われている。



LA ウォーターフロント遠景
出典：iStock.com/Kirk Wester



商業施設「サンペドロマーケット」
出典：iStock.com/Debbie Ann Powell



公共空間「ダウタウンハーバー」
出典：iStock.com/ianmcdonnell

紹介事例 12 (第 4 回検討委員会)

バルセロナ旧港地区 (スペイン) では、水族館や博物館等の文化施設に加え、ケーブルカーや遊覧船、ヘリコプター等、バルセロナ旧港の景色を楽しむことができる交通機関が整備されている。年間約 1,600 万人以上の観光客が来訪するとともに、約 70 の企業進出の創出に貢献している。



バルセロナ旧港地区遠景
出典：iStock.com/pawel.gaul



水族館を併設した商業施設「ポルト・ベル」
出典：iStock.com/taranik



博物館「カタルーニャ歴史博物館」
出典：iStock.com/David Taijat

2 基盤・空間の考え方

山下ふ頭再開発の目指すべき姿の実現に向けて、再開発エリア全体のインフラ整備や空間デザインの土台となる「基盤・空間の考え方」を以下のとおり整理した。

基盤・空間の考え方①：まちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実

都心臨海部の水際線に連続する緑の快適な歩行者空間の整備による回遊性向上や、郊外部との交通アクセス強化を図るべき。また、羽田空港とのアクセスや防災の観点から水上交通の活用を図るべき。

さらに、山下ふ頭へのアクセスは限られていることや、再開発による来街者の大幅な増加を見据え、新たな進入路や埠頭内での円滑な移動手段、臨港幹線道路、水上交通等の交通インフラ整備により、利便性向上、防災機能の強化、周辺住民や物流への影響緩和を図るべき。

[委員会での主な意見]

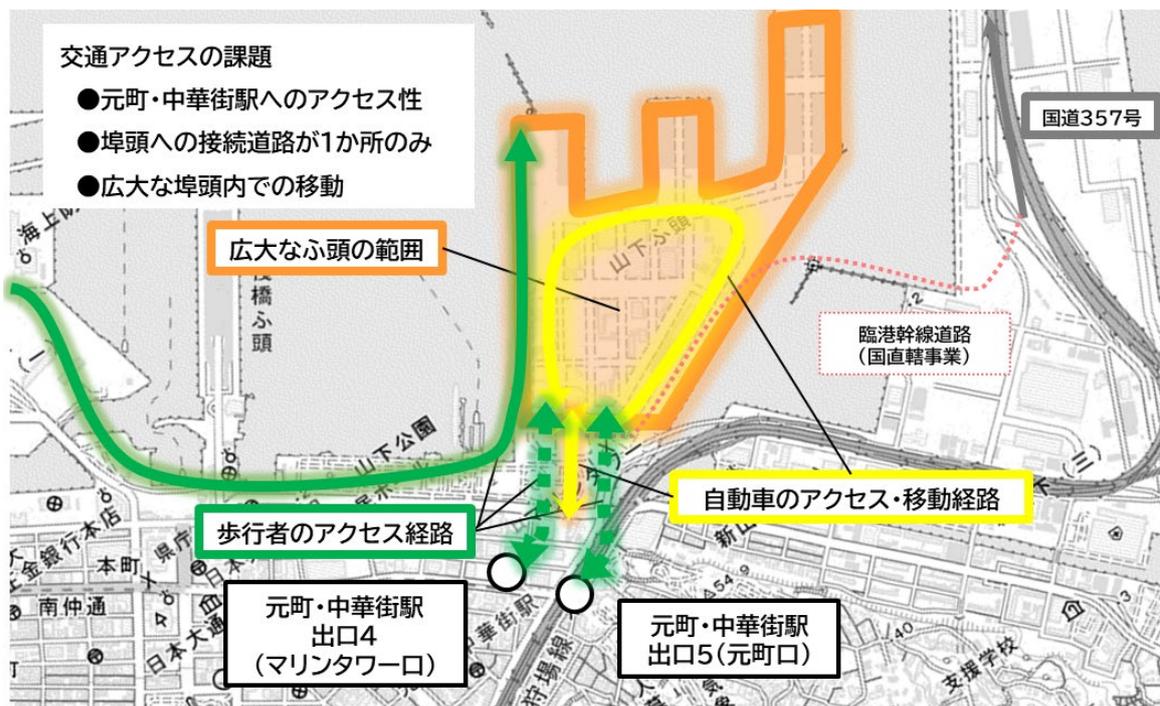
- 市域全体の活性化や結節点としての機能向上に向けて、都心臨海部や旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部との交通アクセス強化も図るべき。
- 三方を海で囲まれた立地条件を最大限活かせる水上交通は、羽田空港とのアクセス機能や、防災の観点でも重要な役割を果たすと考えられる。
- 山下ふ頭の入り口から先端まで距離があることや、元町・中華街駅とのアクセス性に課題があることから、来街者の埠頭内での円滑な移動や周辺地域との回遊性向上に寄与する交通インフラの整備が必要。
- 山下ふ頭へのアクセス箇所が限られていることや、再開発による来街者の大幅な増加を見据え、新たな進入路や歩行者動線の確保、臨港幹線道路の整備等により、利便性向上や防災機能の強化、周辺住民や物流への影響緩和を図るとともに、市内で取り組まれている水上交通の活用も推進していくべき。

【都心臨海部の主な交通ネットワーク】



第5回山下ふ頭再開発検討委員会資料を編集 (出典:国土地理院地図を基に作成)

【山下ふ頭への交通アクセス】



第5回山下ふ頭再開発検討委員会資料を編集 (出典:国土地理院地図を基に作成)

基盤・空間の考え方②：安全・安心とレジリエンス*の確保 *強靱性、適応力

大規模地震等への災害対応力の向上や感染症対策の強化を図るべき。旧上瀬谷通信施設地区との連携を見据え、物資や救援部隊の海上からの受け入れ、病院船の着岸等が可能な耐震強化岸壁の整備など、インフラ整備により、防災機能の強化、山下ふ頭周辺の安全性向上を進めるべき。防災的役割を果たす新たな機能を導入することで、市民と来街者の安全・安心を確保し、持続可能なまちづくりの実現を目指すべき。

[委員会での主な意見]

- 世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震等に対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策等の新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入するべき。
- 旧上瀬谷通信施設地区に整備予定の広域防災拠点機能との連携などを見据えながら、耐震強化岸壁の整備等により防災機能を強化することで、リダンダンシー性の確保と、山下ふ頭周辺が安全・安心な地域であるというブランド構築に繋げることが必要。
- 海上からの物資や救援部隊の受け入れだけでなく、国で議論されている病院船などが着岸できる耐震強化岸壁や新たな歩車道の整備等により防災機能を強化することが必要。
- 横浜の特性として評価されている文化的な拠点、交流的な拠点に加え、例えば防災的な役割を果たすなど、新たな機能付加が必要。

紹介事例 13（第4回検討委員会）

マンハッタン（米国）では、U字形沿岸部約16kmを水害から守ることを主目的としつつ、堤防の役割を果たす都市公園や防潮壁を兼ね備えた親水空間等で囲み、洪水や海水面の上昇から守るなど、防災機能の向上を図っている。



マンハッタン遠景
出典：Rebuild by Design

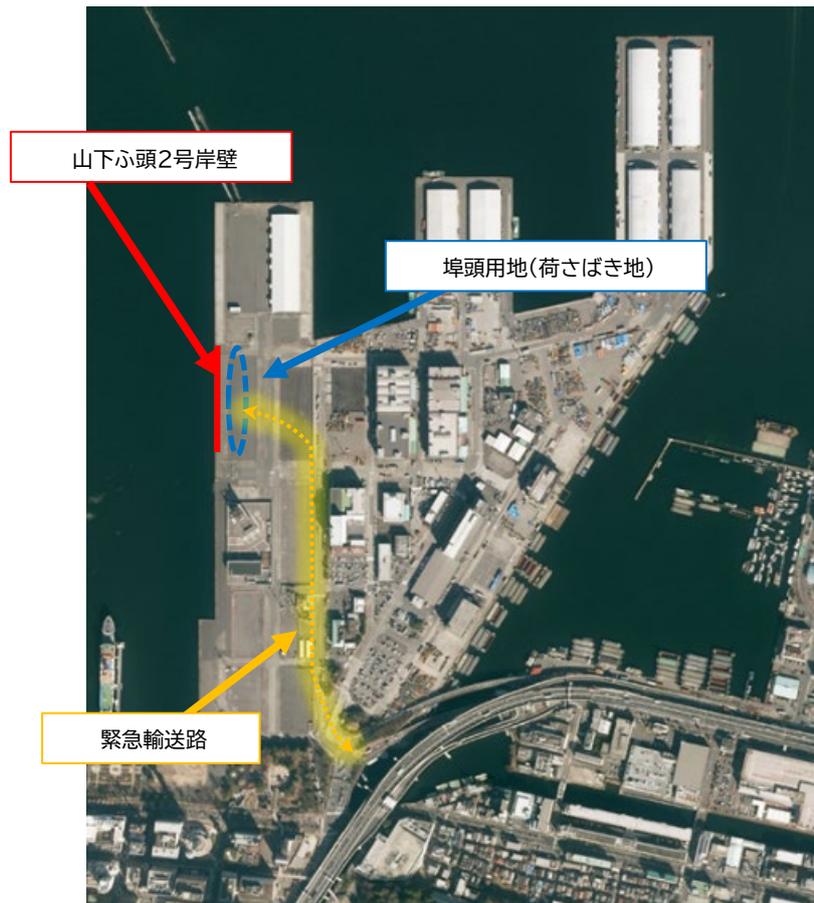


防潮堤



遊水地公園

【耐震強化岸壁の概要】



第5回山下ふ頭再開発検討委員会資料

山下ふ頭では、延長 200m・水深 12m の耐震強化岸壁の整備（国直轄事業）を計画しており、災害時に背後の荷さばき地やオープンスペースと一体的に利用することで、水や食料などの緊急物資や復旧資機材等の輸送を確保するための海上輸送拠点となる。

紹介事例 14（第4回検討委員会）

GREEN×EXPO 2027 開催後の跡地には、「環境」と「防災」をテーマとする公園を整備し、大規模地震などが起きた場合に、「広域防災拠点」として、全国から集まる広域支援部隊（消防、警察、自衛隊等）の活動や、市内各避難所に救援物資をいち早く送り届けるための活動を支える拠点となる。



基盤・空間の考え方③：横浜らしさを感じる景観づくり

海陸両面からの山下ふ頭の見え方や周辺地区との景観のバランスを意識したまちづくりを行うべき。また、羽田空港からベイブリッジを渡る来街者やクルーズ客にとっての横浜の入口としての魅力的なロケーションを活かしたまちづくりを進めるべき。

【委員会での主な意見】

- 横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえ、海と陸の両方の視点場から見た山下ふ頭の景観や、周辺地区とのバランスを意識した開発を行うべき。
- 羽田空港からベイブリッジを渡ってくる来街者や、その下をくぐって訪れるクルーズ客にとって、横浜への入口となる場所であり、市街地にも近いという魅力的なロケーションを活かした開発を進めることが必要。

【海側からの視点】



【陸側（港の見える丘公園）からの視点】



【みなとみらい21地区のスカイライン】



出典：iStock.com/ DoctorEgg

紹介事例 15（第4回検討委員会）

ダブリン・ドックランズ（アイルランド）では、文化施設や MICE 施設等の複合開発が進展。劇場や MICE 施設から周辺の河川や山脈、市内中心部のパノラマの景色を眺められるなど、景観に配慮した施設構成となっている。



ダブリン・ドックランズ遠景

出典：iStock.com/anyaivanova



劇場「スリーアリーナ」

出典：iStock.com/Derick Hudson



ダブリン・ドックランズ遠景

出典：iStock.com/ AirfilmDrone

今後のまちづくりに向けて

令和5年8月から〇回にわたり行われてきた本委員会では、山下ふ頭再開発の方向性について、多様な意見をもとに様々な角度から議論が交わされた。個々の意見に目を向けると、より具体的な言及なども見られたが、答申においては、まちづくりの大きな方向性を示すことに主眼を置き、取りまとめを行った。

これらの個別具体の意見についても参考にしていただくとともに、今後この答申を受けて、市の政策や方向性に照らし整合を図りながら、市において事業計画のさらなる検討を進めていただきたい。

加えて、委員会での議論やこれまでの本委員会を視聴した市民からのご意見を踏まえ、次の2点を申し述べる。

1 市域全体への波及を見据えたまちづくり

本委員会において、周辺地域や市域への波及、連携等の言及があり、その重要性を共有した。

それらや関連する市の広域的な計画を踏まえ、山下ふ頭の再開発においては、その恩恵を47ヘクタールの中に留めず、都心臨海部や、GREEN×EXPO 2027の開催及びその後の開発が計画されている旧上瀬谷通信施設地区等の郊外部と連動させ、市域全体の更なる活性化に向けて相乗効果が最大限発揮されるよう取り組む必要がある。

2 まちづくりへの市民の関わり

2度にわたり実施された市民意見募集等では、延べ10,000件を超える意見が寄せられ、また本委員会における議論に対しても延べ〇件の意見をいただいております、引き続き多様な意見を問うプロセスを経ることが望ましいと考える。

市は、市民の思いに応え、未来を担う子どもたちをはじめ、一人ひとりの豊かな暮らしを実現していかなければならない。

臨港パークから山下公園に至る水際線と連続し、人々を呼び込む魅力的な緑や海辺が広がる山下ふ頭を舞台に、歴史と文化が継承され、新たな価値や活力を創出するまちづくりにより、横浜市全体の持続的な発展につながることを大いに期待したい。

(参考)

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会委員名簿（敬称略）

学識者委員（五十音順）

令和6年12月時点

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|--------------|--------------------|----------------------------|
| 石渡 卓 | 経営、教育 | 神奈川大学理事長 |
| 今村 俊夫 | 都市開発 | 株式会社東急総合研究所取締役会長 |
| 内田 裕子 | イノベーション、経済、経営 | 経済ジャーナリスト、イノベディア代表 |
| 河野 真理子 | 国際法、海洋政策 | 早稲田大学法学学術院教授 |
| 北山 恒 | 都市理論、建築デザイン | 建築家、横浜国立大学名誉教授 |
| 隈 研吾 | 建築 | 建築家、東京大学特別教授・名誉教授 |
| 幸田 雅治 | 住民自治 | 神奈川大学法学部教授 |
| デービッド アトキンソン | 観光 | 株式会社小西美術工芸社代表取締役社長 |
| 平尾 光司 | 地域経済、イノベーション、ベンチャー | 専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事 |
| 村木 美貴 | 都市計画、脱炭素型都市づくり | 千葉大学大学院工学研究院教授 |
| 涌井 史郎 | 造園、都市景観 | 東京都市大学特別教授 |

地域関係団体委員

| 氏名 | 分野 | 現職等 |
|-------|---------------------|------------------|
| 高橋 伸昌 | まちの活性化を推進している 団体 | 関内・関外地区活性化協議会 会長 |
| 藤木 幸夫 | | 横浜港振興協会 会長 |
| 坂倉 徹 | 地域の経済活動を担っている 団体 | 横浜商工会議所 副会頭 |
| 宝田 博士 | | 協同組合元町エスエス会 理事長 |
| 田留 晏 | 埠頭で事業を営む事業者の 団体 | 神奈川倉庫協会 会長 |
| 藤木 幸太 | | 横浜港運協会 会長 |

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会審議経過

| 開催回 | 開催年月日 | 主な議題 |
|-----|------------|---------------------------------|
| 第1回 | 令和5年8月28日 | 現地視察、埠頭の歴史・周辺地区の状況の説明、意見交換等 |
| 第2回 | 令和5年11月30日 | 委員のプレゼンテーション、意見交換等 |
| 第3回 | 令和6年1月12日 | 委員のプレゼンテーション、意見書説明、意見交換等 |
| 第4回 | 令和6年7月12日 | 委員のプレゼンテーション、意見書説明、意見交換等 |
| 第5回 | 令和6年8月22日 | 委員のプレゼンテーション、意見書説明、とりまとめに向けた議論等 |
| 第6回 | 令和6年12月9日 | 答申（案）のとりまとめに向けた議論等 |

*注 紹介事例は、「山下ふ頭再開発の方向性について（答申）」として包括的、総合的な観点からまちづくりの方向性をとりまとめるに当たり、幅広い観点からの議論に資するよう、会議において報告されたものである。

| 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合会議録 | |
|--------------------------|---|
| 日 時 | 令和5年8月28日（月）14時00分～15時30分 |
| 開催場所 | ホテルメルパルク横浜 エトワール／シェリー |
| 出席者 ※敬称略 | 石渡 卓 (神奈川県立大学理事長) 今村 俊夫 (株式会社東急総合研究所代表取締役会長) 内田 裕子 (経済ジャーナリスト、イノベディア代表) 河野 真理子 (早稲田大学法学学術院教授) 北山 恒 (建築家、横浜国立大学名誉教授) 隈 研吾 (建築家、東京大学特別教授・名誉教授) ※ウェブ参加 幸田 雅治 (神奈川県立大学法学部教授) ※ウェブ参加 寺島 実郎 (一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長) 平尾 光司 (専修大学社会科学研究所、昭和女子大学名誉理事) 涌井 史郎 (東京都市大学特別教授) |
| 欠席者 ※敬称略 | デービッド アトキンソン (株式会社小西美術工藝社代表取締役社長) 村木 美貴 (千葉大学大学院工学研究院教授) |
| 開催形態 | 公開（傍聴者20人／記者17人） |
| 次第 | 1 市長挨拶 2 学識者会合委員長の選任 3 (1) 山下ふ頭の概要 (2) 意見交換 (3) 地域関係団体の参加について (4) その他 |
| 決定事項 | 次第2 委員長は寺島委員に決定した。 |
| 議 事 | 別紙 |
| 資 料 | 当日配布資料 (1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 委員一覧 (2) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 座席表 (3) 山下ふ頭の概要 (4) 市民や事業者の皆様からいただいたご意見・ご提案のまとめ |

横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 議事

【事務局】

定刻になりましたので、これより横浜市山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合を開催します。私は、横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課長の荻原と申します。どうぞよろしくお願いたします。学識者会合の委員長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

お手元に、資料として、次第、名簿、座席表、山下ふ頭の概要、参考資料の市民・事業者のご意見等のまとめ、グリーンエキスポ 2027 のパンフレットを配布しております。ご確認ください。

委員の皆様のご紹介については、名簿及び座席表をお手元に配布しておりますので、それに代えさせていただきます。なお、本日は隈委員、幸田委員はウェブでご参加する予定でございます。アトキンソン委員、村木委員はご欠席でございます。

それでは、学習者会合の開催にあたりまして、主催者を代表いたしまして、横浜市長の山中よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いたします。

【山中市長】

皆様こんにちは。横浜市長の山中竹春です。

本日はお忙しいところ山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合に、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様におかれましては、日頃から本市の発展にお力添えをいただき、また今回の委員もお引き受けいただきましたこと、この場を借りまして改めて御礼を申し上げます。

本日は、様々な分野でご活躍をされている学識者の皆様方にご意見を賜りたいと考えております。山下ふ頭の再開発は、横浜が活力ある都市であり続けるために大変重要なプロジェクトです。そして、このプロジェクトを進めていくにあたっては、市民の皆様のご理解が不可欠です。これが1番基本的なことであり、この山下ふ頭再開発のコンセプトのベースになるものであると考えております。

横浜市では、昨年から今年にかけて、市民の皆様からの、意見募集、意見交換会を重ねてまいりました。その中で、経済波及効果、都市ブランドの向上、将来にわたる街の持続可能性、そういった視点をはじめ、実に一万件を超えるご意見を頂戴いたしました。また、事業者の皆様からは、企業や大学等のイノベーション施設、あるいは大規模集客施設などを中心とした提案をはじめ 18 件のご提案をいただいたところであります。いただいたご意見、ご提案を踏まえまして、市民の皆様からご理解をいただける、そして事業性のある再開発の実現を目指していきたいと考えております。

委員の皆様方におかれましては、山下ふ頭の優れた立地、そして広大な開発空間を生かした、新しい時代の象徴となるまちづくりに向けて、それぞれのお立場から、ぜひご議論をお願いたしたく存じます。

山下ふ頭から、横浜経済をけん引し、都市ブランドを高めるまちづくりを進めていきたい

と考えております。そして、市民の皆様横浜に暮らす幸せ、そして世界から選ばれる町としての発展、そういったものにつなげられるよう、力を尽くしてまいります。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございました。恐れ入りますが市長は公務のため、ここで退席いたします。

会議に先立ちまして、現場をご視察されました委員の皆様につきましては、ありがとうございました。本日の会議は、学識者の方々に対し、山下ふ頭の現状等をご説明いたします。主に、埠頭の歴史、周辺地区の状況等を紹介し、意見交換等を行っていただきます。また、地域関係団体の参加についてご意見をいただきたいと考えております。

本日は、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料についてはインターネット中継により配信されます。また、会議室内に傍聴席と記者席を設けておりますので、ご承知おきください。その他、会議の模様を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、あらかじめご了承ください。

続きまして、学識者会合の委員長の選任に移ります。条例により、委員長は委員の互選により選出することになっております。どなたかご意見ございますでしょうか。

特にご意見がないようですので、事務局の方からご提案させていただいてよろしいでしょうか。事務局としましては、実績や経験から寺島委員にお願いしてはどうかと考えますが、いかがでございましょうか。

【各委員】

異議なし

【事務局】

ありがとうございます。寺島委員に委員長就任をお願いいたします。それでは、寺島委員長、委員長席の方へお移りください。

ここで報道関係の方に、撮影にあたり、場所を広げて開放しますので撮影できるエリアにご移動をお願いいたします。

それでは、委員長、一言ご挨拶をお願いいたします。

【寺島委員長】

どうも、寺島でございます。この委員長の就任にあたって、私の方から3点ほど、自身のこの委員会に対する思いと、方針といいますか、方向感をお話しさせていただきます。

1点目ですが、今日は有識者の会合となっておりますけど、我々の基本的な役割は付加価値をつけることです。どういう意味かという、この会合自体が意思決定機関ではありません。横浜及び山下ふ頭の将来を、責任を持って決めるのは、行政のラインであり、議会であり、市民そのものです。我々はその選択肢や議論の厚みをつけるために、付加価値

をつけたりするための一定の役割が果たせればというのが、私のこの委員会に対する思いです。

2点目ですが、これは事務局に対する私の要望と言いますか、市民の皆さんが山下ふ頭及び横浜の将来を考える上で、知っておかなければいけない基本的なファクト、ファクトシートと言いますか、事実関係をしっかりと確認することが議論の中身を厚くする上で重要だと思っています。

例えば、私自身そのデータと向き合っているからですが、世界での港湾物流の中における横浜の位置付け、一体、世界の大きな経済構造の変化の中で、横浜という日本を代表する港が今どういう位置付けになっているのか。横浜港というものの中身が、この歴史の中で大きく変化してきています。かつて、日本の主力産業だった生糸の輸出港として大きく存在感を持っていた横浜が、今我々の分析では明らかに輸入港として大きな役割を果たしていると言いますか、港湾としての横浜の意味というものをもっと深く我々自身も認識を深める必要があります。

さらに、後背地産業構造という言葉がありますが、私は北海道の、今度ラピダス株式会社が進出していった苫小牧東の工業団地の経営諮問委員会の委員長をやっているものから、強く思うのですが、この横浜という港が背負っている産業構造、つまり神奈川を睨み、一体どういう産業構造が、横浜という港及び羽田にも繋がることになるのですが、どういう産業構造にしていかなければいけないのか、問題意識も含めて視界に入れておく必要があります。

それから、当然のことながら人口動態と人流です。インバウンドの動き等も含めて、一体どういう形で横浜を活性化しようとしているのかということについて、やはりファクトシートがある、しっかりと踏み固める。それが2点目です。

それから3点目は、固定観念に囚われずに、多様な選択肢を視界に入れてみよう、戦略的な視点で。私自身、世界のベイエリアと言われている所を色々と見てきています。つい先月も、サンフランシスコベイエリアをシリコンバレーとともに見てきたところですが、例えば、非常に気になるのが、シンガポールモデルという言い方はありますが、シンガポールがどうしてあれだけの活力を持つ地域になったのかということなどは、しっかり理解する必要があります。視界に入れるべき世界の様々なプロジェクト、先行している事例等を、しっかり、やはり我々自身学びながら、それがこの有識者会議の皆さんが持っておられる情報のネットワークとか体験を吸収したい思いです。

この山下ふ頭が、IR、インテグレートドリゾートの1つの基点として検討されていた事情もよく知っています。IR＝（イコール）カジノになってしまったことが、私は非常に悲劇だったと思います。統合型リゾートというのは、高付加価値観光というものを目指す1つの切り口で、そのワンオブゼムに過ぎないカジノというところに、いきなり比重がいったしまったことが、たぶん議論が貧困になったことの大きな理由だろうと僕は思っています。そういうことで、多様な選択肢の中で、思いっきり柔らかく、21世紀を睨んで、横浜の未来のために、我々の知見の中で発言できること、方向付けられることについ

て、テーブルの上で議論してみようよということが、多分この会の非常に重要な意味だろうと僕は思っています。

そんなことで、私自身としてはそう思っていますが、様々なご意見があって結構ですので、吸収しながら少しでも前に進めるための役割を果たせればということで、私の役割を果たしていきたいと思います。以上です。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、撮影を終了させていただきます。記者の方は報道エリアから後方の記者席に移動してください。

これより先の進行は委員長にお願いいたします。では、寺島委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【寺島委員長】

それでは、まず何よりも第一の議事として、山下ふ頭の概要について理解を深めましょうということで、事務局の方から準備していただいている山下ふ頭についての概要の説明をお聞きしたいと思います。よろしく申し上げます。

【事務局】

山下ふ頭再開発調整担当部長の竹内と申します。着座にて失礼いたします。よろしく申し上げます。

では、山下ふ頭の概要について、スライドの1ページをご覧ください。本日は、目次の6項目についてご説明させていただきます。

2ページをご覧ください。まず、横浜港の歴史です。左図は1865年頃です。横浜港は1859年に開港しましたが、この頃はまだ船が波止場に着岸できなかつたため、沖に停泊し、はしけによる荷役が行われていました。右図は1920年頃です。濃い茶色の部分が埋め立てられた場所になります。この頃には船が棧橋や岸壁に直接つけて荷役ができるようになりました。現在の大さん橋はイギリス人技師のパーマーによって作られ、現在の津波、高潮の防護水準にも対応しております。鉄道も整備され、工業地帯としての原型が作られていきました。

3ページをご覧ください。左図は1945年ごろです。瑞穂ふ頭などが埋め立てられています。第2次世界大戦後、1953年に米軍により、瑞穂ふ頭は接収されています。その代替として1953年に山下ふ頭の埋め立てが開始され、右図のとおり、1963年に山下ふ頭の埋め立てが完了しました。

4ページをご覧ください。山下ふ頭の歴史です。左図、円グラフで見ただけのように、1964年頃は横浜港を支える主力ふ頭として重要な役割を果たしてきました。その後、コンテナ船による物流が主流になりましたが、山下ふ頭はコンテナ船には対応していなかったため、本牧、大黒ふ頭等のコンテナ埠頭が建設されていき、右図棒グラフ・折れ線グラフにも示すとおり、次第に山下ふ頭の取扱貨物量、着岸隻数は減少していきました。そ

のような中、1997年の港湾計画改定により、機能転換していくエリアとして決定されました。

5ページをご覧ください。こちらは当時の写真です。

6ページをご覧ください。次に、山下ふ頭の再開発検討の経緯を紹介します。2014年に港湾計画において、新たなにぎわい拠点として都市的な土地利用に転換することとしました。2014年から15年にかけて、港湾計画改定及び横浜市都心臨海部再生マスタープランを策定し、都心臨海部の一体的なまちづくりを推進しています。2019年にはIR誘致を表明しましたが、2021年に撤回しました。2021年から22年にかけて、新たな事業計画を策定するべく、市民の皆様からの意見募集、意見交換会や事業者の皆様からの提案をいただきました。結果を取りまとめた概要につきましては、お手元に配布させていただきました。こちらにつきましては、改めて次回ご説明させていただきます。

7ページをご覧ください。山下ふ頭の現状についてです。山下ふ頭は約47ヘクタールという広大な開発空間で、街の中にそのエリアを移動させて当てはめると、中華街から山下公園周辺までが入る広さとなっています。三方を海で囲まれた立地が特徴です。元町・中華街駅や首都高速道路の出入口からも近いなど、優れた立地と広大な開発空間を生かしたまちづくりが求められています。

8ページをご覧ください。再開発に向けて倉庫などが移転したエリアは、動く実物大ガンダムを展示する施設や交通広場とバス待合所を開設するなど、暫定的な利用がされています。

9ページをご覧ください。ここからは、周辺地区における様々な施設についてご説明いたします。まずは、スタジアム・アリーナ施設です。横浜スタジアムに加えて、この9月に約2万人を収容できるKアリーナ横浜が開業。来年4月には新たに約5,000人を収容できる横浜BUNTAIが関内駅周辺地区に開業する予定です。

10ページをご覧ください。次に、大学です。2021年4月に神奈川大学みなとみらいキャンパスが、本年4月に関東学院大学の新たなキャンパスが関内に誕生しました。

11ページをご覧ください。次に、みなとみらい21地区に多く集積する研究開発機能を設置している企業です。

12ページをご覧ください。企業ミュージアムです。

13ページをご覧ください。国際展示場です。2020年にパシフィコ横浜ノースが開業しました。

14ページをご覧ください。テーマパーク等です。

15ページをご覧ください。公園緑地です。海沿いや関内に緑の軸線が形成されています。

16ページをご覧ください。商業施設です。

17ページをご覧ください。文化芸術施設です。

18ページをご覧ください。次に、ホテルです。都心臨海部にはさまざまな施設が集積されています。

19 ページをご覧ください、続いて、既往計画についてです。ここでは、山下ふ頭周辺地区も含めた都心臨海部の将来計画である横浜市都心臨海部再生マスタープランについて説明します。2015年に策定された横浜市都心臨海部再生マスタープランでは、「みなと交流軸」の形成や「地区の結節点」における連携強化により、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりを推進することとされています。都心臨海部の将来像の達成に向けて、山下ふ頭は「地区の結節点」のひとつとしての役割が期待されています。

20 ページをご覧ください。最後に、山下ふ頭や横浜市の現状と特徴、取り巻く環境をご説明いたします。まず、現状と特徴としまして、立地特性ですが、三方海に囲まれた優れた立地特性や大規模な開発用地を有しておりますが、山下ふ頭へのアクセスが1か所のため、課題として認識しています。次に歴史・文化です。豊かな水域と港の景観、開港時からの国際性や歴史・文化が集積していることなどが魅力の一つです。次に産業・人材です。オープンイノベーションの進展や学術研究開発機関、人材の集積が進んでいることや、昼夜間人口比率が低いなどといった特徴が挙げられます。次に観光ですが、宿泊客に比べ、日帰り客の割合が高いという特徴があります。次に、取り巻く環境としましては、社会・経済ですが、アジアを中心とした人口・経済状況の変化から、インバウンド需要の増加が見込まれます。しかし、人口動態の変化や、それに伴う税収減少、担い手不足などの課題が挙げられます。

そのような中、都市間競争の対応も求められています。お手元にパンフレットを配布していますが、一都三県で初めての万博、グリーンエキスポ2027の開催や上瀬谷などの大規模開発の動きも視野に入れながら、開発の検討を進める必要があります。また、交通として、広域アクセスの改善環境、技術として、GX、DXの加速といった社会環境の変化も踏まえるとともに、気候変動に伴う環境問題や自然災害についても対応していく必要があります。以上で資料の説明を終わります。ありがとうございます。

【寺島委員長】

どうもありがとうございました。山下ふ頭についてのコンパクトな説明をしていただいたところですが、質問のある方、何かこの点、もう少し聞きたいということがあれば、挙手いただいでご発言いただけますか。いかがでしょうか。

山下ふ頭についての説明、大概のものはこの周りに1つの目玉があるということで、結節点という言葉が1つのキーワードだと思って、受け止めていました。大きくいって、外から引きつける、要するにインバウンドを含むツーリズムに対する問題意識と、ファンダメンタルズというか、この地域を市民や住民により、意味のある形でもって活用するという問題意識が、両輪で必要だと思い聞いていましたが、質問ある方、いかがでしょうか。

なければ、このご説明をベースにして、意見交換という中で、話を深めていただきたいと思います。私はよく、審議会や有識者会議に色々出てきて、うつろな会議に終わらせないためには、総合資源エネルギー調査会や文科省の中央教育審議会にずっと出てきていますが、「1分半で話してください」というような話で、委員の話が終わるとというのが、大変もったいないと思います。私は次回から、委員の方に、少なくとも10分くらいご自身の山

下ふ頭を中心としたこのプロジェクトに関するご意見を、お話を伺って、じっくり聞くきっかけにしたいというように思っています。次回からは、各委員に、責任先頭制のようなものですね、当番として、10分ずつぐらいのプレゼンテーションを準備していただいて、事務局の方から順次、順番を決めていただいて、話を聞く方向でいきたいと思えます。まとまった話は、そこで話としてお聞きするとして、今日の段階で皆さんに一言ずつでも、ご意見というかお話を伺いたいと思えます。涌井さんからお願いしますか。何か今日の段階で俺はこう思うよというような、冒頭の話で結構ですので。

【涌井委員】

分かりました。ありがとうございます。

今このところの説明を伺っている中で、様々な疑問が湧いてくる訳です。多分先進的な港湾区域、日本の歴史の中で先進的な港湾区域であればあるほど、実は同じ問題を抱えている可能性がある。ましてや京浜臨海部の港湾、全体にわたって、多分同じ問題を抱えていると思っています。いわば、日本の経済構造の転換や、あるいは国際的物流の転換という観点からいっても、横浜だけがこういう状況になっている訳ではなく、東京湾沿岸の、特に京浜地域の港湾が同じような状況になっている。そういう中で、それぞれの地域がそれぞれの新たな土地利用転換を図ろうとしている。したがって、単に横浜の山下ふ頭だけという観点ではなくて、今この京浜地区なり、あるいは東京湾沿岸の港湾にどのような見直しの機運が高まっているのかというところの情報をきちっと整理しておかないと、結局は、競合する、あるいは特性を持たないということになりはしないか。この点が一番気がかりな点です。

それからもうひとつ敢えて言うならば、これほど、市街地とこの港湾区域が近接している、こういう立地も実は他には見られない訳です。例えば川崎とその川崎の臨港地域、あるいはそういう意味で、ずっと眺めていっても、ようするに都市の中心市街地と港湾が近接している所がない。こういうような流れの中で、例えば先ほど委員長がおっしゃったように、世界の最先端のイノベーション、港湾イノベーションの地域で、どういう事例があるのかというあたりの資料も、ぜひご提供いただけないかと。つまり、もう少し山下ふ頭というところにだけ焦点を絞るのではなくて、全体を俯瞰してる中で、戦略的な位置付けというものに対する理解を深めていく必要があるのではないかという気がします。

たまさか平尾先生と私は今ご一緒しているんですが、寺島先生にも絡んでいただいて、川崎の臨港部についての議論も進んでいるところがございます。そういった観点からも、他との、ようするに整合性なり、あるいは競争力をつけるという意味からも、今の視点をぜひ利活用していただきたいというのが、私の意見でもあり、お願いでもあります。

【寺島委員長】

平尾さん。

【平尾委員】

ありがとうございます。平尾でございます。

今の涌井委員のご発言にも関わってきますけれども、やはり山下ふ頭を考える場合に、東京湾全体の都市機能が、どういうふうに分担されていくのか、その中で横浜山下ふ頭が、どういう位置づけになっているのかという少し巨視的な視点も必要ではなからうかと思っております。

それからもう1つは、山下ふ頭を取り巻く横浜市のリソースですね、今事務局の方からご説明いただきましたように、大変豊かなリソースがあって、最近発表された日本の都市の特性のランキングで横浜市は2位になっていますが、2位というのはやはり文化的な拠点、交流的な拠点というものが非常に評価されているということだと思わなければならないけれども、これを更に高めていくためにはどうしたらいいのかということです。具体的には明日、関東大震災の100周年ですが、そういう100周年の中で、首都圏における防災機能で横浜市あるいは山下ふ頭がどういう役割をするのかという観点が非常に大事じゃないかというふうに思っております、例えば港湾機能もそうですけれども新しいドローンの基地とか、そういったことが災害・防災対策として必要になってくるだろうし、防災拠点としての機能をどういうふうに持っていくのかということが、検討する必要があると思っております。

それから3番目はイノベーション拠点という形で、みなとみらい地区にかなり企業とか大学のイノベーション拠点の立地が進んでおりますけれども、私が見ると、バラバラに、点的な存在になっていて、それがネットワーク化されていないのではないかと、クラスター化されていないのではないかと気がしましてですね、クラスター化していく仕掛け作りをどうしたらいいのか、せつかくこの山下ふ頭の47ヘクタールという土地を1つのプラットフォームにできないかという、そういう思いがございます。

それから、もう1つは今日もこの横浜駅からこっちに来るときに感じたことですが、この地域へのアクセスが、みなとみらい線と、後はバスということですがけれども、もっと、モビリティを高めるような交通システムを導入できないだろうか、しかもそれが、山下ふ頭と中華街、それからこの地域の隣接するみなとみらいも含めて、そういう交流人口の機能もインフラとして、もう少しそのモビリティというのをどう高めるか「アクセス」「モビリティ」というのがキーワードになるのではという気がしております。

その他色々ありますけれども、とりあえず、第1ラウンドとしてはこんなところでお話させていただきました。ありがとうございました。

【寺島委員長】

北山さん。

【北山委員】

敷地の見学会に、この前に行って見てきたんですけれども、マリントワーにすごい久しぶりに登ってみると横浜のとても美しい港が見えるんですが、水面に船がほとんどない、水面があるだけで。昔シドニー行ったとき、シドニー湾ってウインドサーフィンやヨットで賑わっているんですよね。ウォーターフロントの都市であるにも関わらず、実は海は誰もアクセ

スしていない状態だなど、上から見て思います。これは 20 年前くらいに横浜のベイエリアを検討したときもそれを感じたがそれが続いている。

それと、港湾施設としては山下ふ頭の港湾施設というのは、実はもう港湾施設にはなくなって、物流のセンターになっているだけだということで、港湾という概念も少し変わってきている。それと、見ているとフランス山のあたりは非常に豊かな緑があるにも関わらず、山下ふ頭はある意味ではタブラ・ラサというか、誰も使わない更地になっている状態という無残な状態になっている気がしました。

それともう一つ見ていて、みなとみらいの辺りは昔、私が大学院のときにみなとみらい計画というのを 50 年くらい前にやったんですけども、そのときに見ていたのとはぜんぜん違ってタワーマンションがいっぱい建ってグレイッシュな 20 世紀後半型の都市風景になっていて、とても残念なみなとみらいに、期待していたものと違うみなとみらいができてきている気がします。横浜というのは都市デザイン室というところがあって、地区ごとにキャラクターが明確な都市を作っていくというのをかなりやってきました。それが横浜の街の面白さであり、街歩きの楽しみであったはずなんですけれども、次第に、割に同じような資本のスプロールが進んで、どこでも同じように短い期間で最大利益を上げるような事業開発があちこちで行われている。

今回も再開発検討委員会という、再開発を検討するのかなということですが、再開発という言葉自体がかなり 20 世紀的な言葉だと思います。おそらく我々は次の世代のために都市を考えているはずなんです。ところが、短期間で最大利益を上げるようなシステムが稼働しているために都市がどんどん食いつぶされているような状態が目の前にある。だから、もしここで検討委員会でやるならば、50 年先または次の世代、または 100 年後の都市がどうなっているのかというあたりから話をしていくこと。

それともう一つは、20 世紀型の都市というのは経済開発のために資本活動として都市を作ってきましたが、それではない時代がもう始まっている。これは寺島さんがおっしゃったように人口動態としては大きい変動が始まっていますので、拡張拡大をしていくような、そういう世界ではなくて、どういうふうに着陸させるのか。定常型社会といいます。定常型の豊かな社会をどうやってデザインするのか。

それと、経済の短期的な利益のために、都市を作っていくと、効率のいい都市を作り始めると、機能分化していくんですね。多様性がどんどん無くなっていくと。そうではない、ある意味では現状では効率が悪いけれども、未来のある長期的利益のある都市をどうデザインできるのかというのを考えていくのかなと思います。そういう意味で平尾さんがおっしゃった交通インフラというのは水上交通なんかどうなんだろうと。僕もこの前ベネチアに行ってきたが、ベネチアというのは車がなくて船だけなんですけども、船に乗るとすごい時間がかかるので、本当は街の中歩いたほうが早いんですが、街の中は迷路のようになっているので、よく知っていないと街の中を歩けない。だけど、だから地域的な人がそこに集まっている。そこに文化がある。不便だからこそ文化が高くなるような、そんなまちづくりもある。そういうことを考えながら、この委員会に参加できればと思っています。

【寺島委員長】

ありがとうございます。今日ウェブで参加していただいている、隈さんと幸田さんが最後までおられるのかどうかというのをちょっと確認できていないので、先にお二人にご発言いただくということで進めたいと思います。じゃあ、隈さん、ご発言いただけますか。

【隈委員】

中国の高速鉄道の中なので、音が途切れるかもしれませんが、まず、個人的な思い出から話しますと、私は横浜で生まれて育って、山下ふ頭はブラックボックスというか、何にもない良い場所なのに、行くことのできない不思議な場所でした。この山下ふ頭がなかった横浜もあったと思うのですが、あの場所は不思議な場所だと子供ながらに感じていたわけですが、今、寺島さんはじめ、みなさんが言う、繋がるということが今回重要だというのは実感として思っています。

山下ふ頭のせいで、本牧の方とみなとみらいが切断されてしまっているわけです。山下ふ頭の計画というのは、山下ふ頭だけをどうするかという話ではなくて、横浜をどう繋げ直すかという全体に係る話で、そのための会議だろうなと思っていました。そういうことを色々な意味で恵まれている、面白い場所であるにもかかわらず、それを生かしきっていない、繋ぎきれていないという感じがいたします。

世界中のウォーターフロントが産業社会、工業社会的な用途から、その先の社会のための用途へと変わってきつつあるなかで、山下ふ頭が取り残されたということは色々な事情があって、取り残されていたという利点をどう生かすかというのが重要だと思っています。取り残されたということは、逆に次の100年を見据えたような計画をすることもできるわけで、そういう意味で、単に、今の先進のウォーターフロントを追いかけるのは全然ダメで、逆に取り残されたことでトップランナーになれる可能性を持っているなと思っています。

色々なアイデアがあって、色々な議論ができると思うのですが、例えば、ニューヨークのセントラルパークは19世紀半ばにあのような形で大きな緑として計画されたことによって、その後の、1世紀半、2世紀くらい経つわけですが、200年間にわたってニューヨークという場所にそのエネルギーを送り続けたみたいなことが、もしかしたら山下ふ頭でできるかもしれないということも夢見て、そういうような夢のあることが横浜でできたらいい。要するに世界のウォーターフロントに迫っていくという意識ではなくて、先に行く夢のような話ができればいいなと思っています。

僕自身、世界のウォーターフロントでいくつかの場所、釜山、スコットランド、シンガポールの計画に携わっているのですが、やっぱり、先進のウォーターフロントは既に拘束がたくさんあって、その拘束の縛りのなかでやらなくてはならず、凄くある意味大変なのですが、この山下ふ頭はある意味で自由なので、その自由を生かしてほしい。そこが今回の計画で非常にわくわくするような点だと感じています。以上です。

【寺島委員長】

ありがとうございました。それじゃあ幸田さん、お願いします。

【幸田委員】

どうも、ありがとうございます。

私自身、今先ほどお話がございましたように、結節点ということと、それからやはり 47ヘクタールという広大な土地が残されている、大変市民にとっても大変貴重な場所だということで、横浜市民の思いも大変強い、自分たちにとって宝のような場所だ、というような声もよく聞くところであります。

そういう意味では、どういう機能を重視していくのか、どういう計画にしていくのか、両方繋がっていくかと思うんですけど、それを是非、市民とともにですね、煮詰めていく。そういうことが是非この委員会、その後の事業計画の策定に向けて取り組むことが、非常に重要ではないかなと。

地域全体、地域というのはかなり、先ほどからお話がありますように、ある意味広いエリアも含めて考える必要があるかと思えますけれども、それとやはり横浜市民の為になる計画ということにしていく必要があるんじゃないかなと思えます。そういう意味では、周辺に公園、山下公園もあるんですけども、公園などを含む公共空間をどの程度、どのように確保していくのかということも、ぜひ議論していただきたいなと思っているところです。

それから、2点目としては、住民自治、市民自治という観点から、市の資料では、答申後に市が事業計画案を策定し、改めて市民意見募集、意見交換を実施したうえで事業計画を策定するとなっている訳で、これは適切な手順であると思っておりますけれども、答申後のそういった手順を含めて、委員会でのどのような手順を進めていったらいいのか、ということもぜひ答申に盛り込んで欲しいと思えます。計画内容というハード面だけではなくて、事業者の募集の方法などのソフト面を含めても検討してはどうかと思っているところであります。

やはりですね、こういった事業計画、アメリカ等では、都市計画というのは必ず複数案示すというふうな、日本では一案しか示さなくて、それを行政が説得するみたいなことが各地で行われている訳ですけども、実際に市民が適切に判断するためには、選択肢は1つでは、人間というのは1つではそれが適切かどうか判断することができない、と言われている訳ですね。2つ以上のまともな選択肢があつてこそ、きちんと市民は考えることができる。十分差違のある選択肢を複数案以上出して、それを市民が比較した上で、市民が意見を出して、それを集約して、計画につながっていく。そういうふうには是非していただきたいと思っております。

やはり、情報公開、それから応答性、透析性というかですね、市民の疑問にもきちんと応答することが果たされる必要があると思えます。IRの誘致では、非常にこの面では不透明であったし、市民の疑問への応答性は欠如していたと考えているところです。

最後に、経済効果・財政効果について、やはり地域への経済効果については、雇用面はもちろんですけども、雇用以外の面でも、できるだけ経済効果が域外には流出しないで、地場の産業にも利益が及ぶようにすることも重要ではないかと思えます。また、こういった面の分析についても、しっかりとエビデンスに基づいて、分析をされることを、ぜひ期待したいと思えます。

後は、財政削減については、財政削減を優先して、この本件についていうと、市民の利便性や市民の為の開発という点がおろそかになることはあってはならないと思っています。市が多額の予算をかけて整備することはもちろん避けるべきですが、だからといって、財政削減が目的の最初に来るとするのは本末転倒だと思っています。

港湾については、私自身もヨーロッパのハンブルグ、ハンブルグはヨーロッパでも若者の住みたい街ナンバーワンというふうに何回もなっているところですけど、あるいはマルセイユなども視察をさせていただいたことがあります。そういう意味で、将来に向けて、本当にこの開発が、先を見越した、そういう日本の中でも非常に素晴らしい開発計画になるように、いろんな、様々な機能については先ほどから有識者の方々からご発言がありましたけれども、そういった機能を十分、しっかりと踏まえて、専門の方が多く揃っておられますので、議論ができればなと思っていますところであります。簡単ですが以上とさせていただきます。

【寺島委員長】

はい、ありがとうございました。では、河野委員。

【河野委員】

まず、今日視察をさせていただきまして、あれだけの広い場所がすぐ港の傍にあるということ、これを本当に生かせるような計画を考えなければいけないということ、しみじみ感じた次第でございます。

特に先ほど伺いましたら、東日本大震災の時にもあまり液状化ということもなかったと、それだけの強固な地盤があって、それだけの広さがあるということ、これは何よりも大きな資産であって、それをいかに効率的に意味のある利用方法をするか、ということ考えなければいけないというふうに、まずは今日見せていただいて、しみじみ感じました。

その上で、今色々な方々のご意見を伺っておりまして、そもそもこの場所をどういう目的で利用するのかというときに、港湾の利用の仕方というときに、港湾本来の使い方である、例えば横浜港あるいは東京港の東京湾全体の港の国際競争力を、どういうふうに付けるかということを考える一環として捉えるということも必要でしょうし、でも例えばIRとか観光ということからいけば、いわゆる賑わい空間としての港の利用という利用方法もありうるのかな、と思いました。

ただ、今年に入りまして、例えば戦略コンテナ港湾の利用の会議に出ておりましたけれども、少なくとも日本にこれから先、将来どれだけ基幹航路の船舶を入れることができるかということを見ると、やはりこれだけのポテンシャルがある土地をですね、横浜港あるいは東京湾全体として見たときの港湾の魅力、それから国際競争力を付けるための場所として使うという発想はあっても良いのではないかというふうに感じる次第です。

それからもう一つは、同じ時期に検討会ございましたけれども、港湾のCNP（カーボンニュートラルポート）ですね。CNPを考えると、CNPの実現のためにも、実はこれは色々な論点がありますけれども、場所が必要な計画がほとんどですので、そうすると横浜港がどれだけCNPとしての魅力を世界に発信できるか、という場所としても使う可能性があ

るのではないかと、というふう感じた次第です。

それからもう一つ、これは私のかかなり個人的な感想でございますけれども。実は私、横浜港でベイブリッジから横浜港に船で帰ってくる時の景色がとても好きなんです。特にみなとみらいの近未来的な景色と、それから遠くに見える富士山の景色がとても美しいと思っ
ていまして、そうすると大さん橋に船を、特に観光向けのクルーズ船とかをつけるとき、それから横浜港の湾の中を周遊する船舶から見たときでもそうかもしれませんけど、みなとみ
らいの景色が少なくとも横浜港、大さん橋に入ってくる時ですと、右側にみなとみらいの
景色が見えて、左側に今この山下ふ頭がある訳で、ここの景色のバランスがいかにとれるか
とか、それからみなとみらいとの、どういうデザインでその美しさを更に磨くかということ
も考えても良いのだろうと考えた次第です。

ですので、少なくとも今日の時点で私が申し上げられるとすれば、横浜港あるいは東京湾
全体の港の国際競争力を付けるための魅力を持たせるために土地を使うこと、それからグリー
ンイノベーションとか、それからCNPの強化のために場所を使うこと、そして横浜港全
体として、いかに美しい景色を使えるようなデザインにするか、この3つを考えていただき
たいと思いますし、そういう意味では、やはり港本来の機能としての国際競争力を付けるこ
とと、それから市民の方々がいかにアクセスができる、楽しい空間にするか、この2つの側
面も、ぜひ検討していただければと思います。以上です。

【寺島委員長】

はい、ありがとうございました。内田さん。

【内田委員】

内田です。よろしくお願いいたします。

私は、3年前に「横浜イノベーション」という単行本を書いて、その時に、横浜をあらゆる
視点から取材をさせていただいたものです。そのようなところからのコメントをさせてい
ただきたいと思っています。

今、河野先生が言ったように、私、今日出張先、羽田空港から高速のバスに乗ってきたん
ですが、ベイブリッジから眺める横浜の姿、みなとみらいの景色、都心臨海部ですね。本当
に素晴らしいな、としみじみ感じてきたばかりです。特に山下ふ頭を意識して見てきました
が、こんなにも目立つ場所にあるんだな、というのは改めて実感しまして、ここは本当に羽
田空港から入ってくる人たちにとってみたら、入口そのものだと思ひまして、かなり景観で
あるとか、そういうものも作り方によっては大変素晴らしいものになるなと思ひましたし、
ならなければいけないと思ひたばかりです。

そういったことも含めて、山下ふ頭は横浜市の未来を考えたときに、とても重要な場所にな
る。市民の方が思っている以上に、山下ふ頭の持っている可能性というのは、とても大き
いものであると私は感じておりました。ですので、先ほど寺島先生が言ったように過去の議
論で、山下ふ頭がカジノという議論になってしまったのは悲劇だったというお言葉を使われ
ましたけれども、まさに私は同意見でして、議論が貧困になってしまったというところ、I

R = (イコール) カジノではなく、色んな可能性があった訳で、そうした誤解やインフォメーション不足であったとか、そういったことが何となく市民の意見になってしまったということがですね、本当にそれが市民の意見だったかということは分かりませんが、残念だったというのが率直な私の感想です。

また、ファクトが大事であるという寺島先生の意見も重要な観点であると思ひまして、どうしても山下ふ頭の議論になると、いろいろな方がいろいろな意見を持ち、どうしても各それぞれがポジショントークになりがちだな、というのは客観的に引いた目線で私は感じておりました。

なので、やはりその中で、ファクト、大義、サステナビリティ、今は何を語るにも持続可能であるかどうかということが重要になっていきますので、そうした観点から議論を積み上げていくというのも非常に大事になってくるであろうと思ひました。

例えば、横浜市の産業構造をどうするのか、ということですね。どういう街にしていくのか、どういう市にしていくのか、ビジョンがすごく大事で、例えば、横浜市のGDPや、この先の横浜市の財政は厳しくなっていくという予想というのはあるわけです。そういった予想の中で、この山下ふ頭という重要な都心臨海部のランドマークになる、ここが横浜経済をいかに生み出して、動かし、そして市民の生活を維持していくために、どのような場所にしていくのか、ということ。

後は、短的な経済活動効果だけでなく、30年後50年後という長い視野を見据えて、あのときの議論していた人たちは、とんでもない負の遺産を残してしまったな、と将来の人たちに言われぬように、そういった長い視野、時間軸で、考えていく必要があると思ひています。

これから世の中が、世界、インバウンドというもの、日本だけの人口動態を見ていると、どうしてもシュリンクしていくということは仕方がないです。これは分かり切っていることです。だけれども、世界を見渡すと人口は100億に向かっているわけです。そういう意味では、もう経済をどんどん盛り上げていくためには、インバウンドというところを視野に入れなければいけないと思ひています。

ですので、そういったところを呼び込むために、世界の港湾イノベーションというキーワードが先ほど出ましたけれども、それをいかに参考にしていくか。また、世界、海外に出ていくと、日本は素晴らしいよねって言われます。昔はプロダクトだったんです。トヨタすごいね、ソニーすごいね、というようなことで、皆メイドインジャパンを大喜びでもって評価してくれた。でも今は、世界に出て行って、日本すごいね、日本語上手だね、どうしたのと言ったときに、皆日本のアニメ、漫画、ゲーム、そういうクリエイションで小さいときから育って、それがまあ日本である、日本に対する憧れである。そういうソフトの部分に取って代わっているなというのが、私が海外に取材するときの印象です。ですので、そういう視点もとても大事である。

後は、先ほど申し上げた、世界の人口が100億に向かっている中で、デジタルネイティブですね。もう生まれた時に、既にもう世の中が全てデジタルである。インターネットの環境が当たり前の、何も説明書を見なくても手が勝手に動くようなデジタルネイティブ世代。こ

れがもう過半数を占めてきて、世界の人口の中のマジョリティになっていくということが分かっている訳ですね。ですので、そういったデジタルネイティブ世代がマジョリティになっていく、そういったインバウンドをいかに、楽しませるかという近未来の価値観に耐えうる、そういう施設にもしていかなければいけないというふうに思っています。ですので、この委員会の中でも、タイミングを見て若い世代の方たちの意見を聞くような、そういうようなタイミングもあると、とてもいいのかな、と感じています。

言いたいことはいっぱいあるんですけど、今日はこんなところにおきまして、徐々にこの委員会の中で、イノベーション、経済の観点から発言をさせていただきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

【寺島委員長】

今村さん。

【今村委員】

今村でございます。私共は都市開発をグループで行っておりまして、総合的に研究するものとして意見を言いたいと思っております。

山下ふ頭の再開発は2030年以降という感じであります。そのころ日本はどんな感じになっているのか、首都圏とくに東京ではどう感じるのか、そういう中で横浜地域はどうすればいいのかという全体的な形の俯瞰的な目線がまず重要であるかなと思っております。

よく言われておりますけども、日本経済の実態は、GDP（世界全体に占める割合）においては、1994年は17.7%、2000年が14%、2022年は4.2%とかなり実は落ち込んでおります。

ご存じのとおり、総人口も2008年がピークで1億2808万人、生産年齢人口は1995年がピークでグーッと下っています。65歳人口ですけど2030年がそのうち31.2%、2065年が38.4%という形で4割弱でずっと維持する形になっています。2053年頃には1億人を割るんじゃないかという予想もされてます。

実は、そういうところで東京はどうするのだろうという話で、今わかるなかで話をさせていただきますと、今の再開発は、2050年くらいまで大手中小含めたデベロッパーが再開発の予定があります。

また、都内にはですね、オフィスビルが結構ありまして、特に東京オリンピック、1964年あの頃に立ったビルが結構あるんです。バブル期にそのあと結構できています。一万棟くらいあるんですよ。そうするとぼちぼち建て替えの時期にかなりきていて、当然耐震基準になっていないところもありますから、そうすると都心においては建て替えるんだろうなど。地価とやっぱり、市場がまだいいですから。そういうことになってくると、やはり都心、東京六区といえますけれども、徐々にやはり人口は増えるんじゃないかと思っています。

それから、ちょっと遅れると思うんですが、リニアが2027年予定ですから、当然そのころには羽田空港も多分拡張の余地がまだあります。ですから東京においては、今言ったよう

に、人口は激減とかではなく微増じゃないかと思っています。

一方横浜におきましては、経済成長率は大体全国と同じくらいの感じで来ているんです。特にコロナの時は、実質3%程度マイナスということになっておりまして。財政状態も今は何とかなんですけども、2029年とか30年くらいになるとやはり減収が起きてきます。2065年には2022年頃と比較すると570億~710億の減収になっています。

特に法人税(R元年度)、東京においては9,700億円という多額の法人税があるんですよ。横浜市は580億円ということで一桁全く違う。人口も出生率が減少する中、18歳人口も徐々に減っているというのが、これが今の実態であります。

こうした中で、山下ふ頭の再開発をやるということになって、そのときにどういう方向感かというものをまず出して、じゃあ山下ふ頭がこんなことをやるんだよね、ということがあったら、やっぱり、特に東京に繋がるようなベイエリアから、もうちょっと山の方についてはですね、じゃあおれたちはこういうことをやろうという全体的に連鎖的なものを起こす必要があるんじゃないかなと思っています。

当然横浜市だけの財政ではかなり困難ですから、民間とか東京とか、いろんな人がそこに投資を促すような、そういうような発信力も必要じゃないかと実は思っています。

それから、日本におきまして、対外直接投資というのは非常に結構低いんですよ。テレビでやっていますけど、かなり低い位置です。これを増加するには、どうしたらいいのかと。当然、企業とか学校とか病院、こういった誘致も、世界中の一流の人材とか企業を受け入れるためにはどうしたら具体的にいいのかと。こういうことをやっていかないと。どうしても人口というのはなかなか簡単にはとまりませんから、そういった必要もあるかなと実は思っています。

それから先ほど羽田空港の拡張ですけども、このエリアは私が見た上でも、日本で一番いい場所というか、最先端のメガリージョン地域であるかなと実は思っています。羽田空港から築地、それから勝鬨とか、当然千葉エリアもあります。また、こちらの方でみなとみらいとか大黒ふ頭とか当然山下ふ頭というものがあり、やはりどういう形になるにしても、リゾートなのか24時間化するのか、いろんなことがあるにしても、非常に可能性を秘めている場所であるのは間違いないです。

こういったことを踏まえて、先ほど委員の方もおっしゃっていましたが、当然我々、皆さん方のお子さんお孫さんにもつながるような、将来的にも永続的になるような再開発、さっき言った経済的な事も当然考える、それから楽しいとか色々な事があると思います。ということ踏まえて、こういった中で議論をして、発信のやり方についてもデリケートな問題があるにしても、やはり他を巻き込むようなスタイルが一番いいのではないかと考えております。

私からは以上であります。

【寺島委員長】

はい、ありがとうございました。それでは石渡さんお願いいたします。

【石渡委員】

もう皆さんから色々ご意見が出て、重複する部分もありますが、今日私は感想としてまず、先ほど、他の委員からもありましたが、今まで私たちは丘から海を見て、海が見える何とかと言って。丘から、または陸から海をみて、横浜の一面を美化してきましたし、誇りにも感じてきました。今日、洋上からではありませんでしたが、埋立地の一番突先から振り返ってみると、海の面が見えたその先に、横浜の街が見える。で、山手が見える。そして高速が走り、そしてビル街が見えて、で右側の方へ行くと横浜の駅とか東神奈川が見えると。このロケーションはおいしいロケーションだなと。とても美しい絵になるものだなというふうに感じました。

したがって、海から見た景観を、というよりも、逆に自分の位置を、または海外から来る人も含めて、私たちは一度海から見た横浜を考えてみるべきではないかと感じました。これは、先ほど現場の見学をしてから感じたことです。

私が今日申し上げたいことはいくつかありまして、具体的なものでありませんが、横浜の港は開港 164 年目になりますよね。そして私見ではありますけども、私は横浜の歴史というものをやはりよく、まあファクトとして、いろんな数値も必要ですが、まず横浜市民または横浜のこの事を語るに横浜のやっぱり歴史というのを振り返る必要があるだろうと。

そして、横浜は日本初とか発祥の物が色々ありますよね。そしてそれには歴史の問題、技術とか事業であるとか文化とか芸術、まあ遺産も入っていますけども、要は過去から私たちの今の現在と、そして未来というところで、まさに「みなとみらい」という名称に等しく、未来を見据えた、この再開発という部分に視点を置かなければいけない。そこに根底にあるものは横浜の歴史だと思っています。

横浜の歴史を振り返る中で、私は例えば横浜の三名士と言われた高島嘉右衛門さんとか、それから原三溪さん、そして浅野総一郎さんなどが築いてきた横浜のそのものを、ただものを作るのではなくて街を作ってきた。つまり、横浜の港の埋め立てであるとか、ガス灯とかですね。財政立て直しをしたり、それから貿易であり、文化であり、それに基づく色んなものが出来てきて、そして横浜港そのものの構築でイギリス波止場、フランス波止場って、今象の鼻とかありますけれども、こういったまちづくりをずっと過去の先人たちがその時代その時代に合わせて、そして未来を見据えて作ってくれた。この紡いできた歴史みたいなものに、私たちが今これからの横浜の未来を縦糸、横糸にして紡いでいかなければいけないという責任を感じます。

そして、やはり横浜、地元横浜のためというものは必須ですけども、あまりそれに拘っていくと狭あいのですね、利権であったり色んなことが出てくるので、それはそれで事実でしょうけども、現実と少し乖離して、世界に誇れる横浜みたいなものを作るために未来を描き、若い人に私たちが今やろうとしていることが、それこそ 50 年 100 年経った時に、振り返った時に横浜、今の横浜、そのときの横浜があるのは、あのときのおかげと言ってもらえるようなことにしたいと思っています。

そして、やはり横浜の歴史の中で、東神奈川のエリアとか横浜の駅周辺であるとか、それからみなとみらい 2 1、そして関内・関外とありますけど、横浜の、やはりここはインナー

ハーバーと称される最後のエリアとして、ここが総仕上げになるような形で、先ほどもご意見がありました。点在してきたそういったもの、文化とか技術とか歴史を織りなしてきたもの、ここでネットワーク化してみんなが、すべてがつながる形で集大成的なものがこの山下ふ頭に、再開発をすることによって、完成されるというふうに出て来たらいいなと思っています。

そして、やっぱり美しい街でなければいけないし、先ほど防災の話もありましたが、強くなければいけないと思います。水深は10m~15m程とお話を伺いました。でも海面から地面の表面は1~2m程ですよ。これでたまたま液状化がなくて、今の現状を守ってますが、一方、ちょっと目を離れた大黒ふ頭は、数10cm、下手すると1m位な液状化で沈みました。たまたまかもかもしれません。ですから、本当に頑丈な土地なのかということも含めなければいけないし、つまり、美しくなければいけないし、強くなければいけない。そして生き残れるというのは、いわゆる持続、そこにできたものとかそこにある機能は生き残りながら、未来に向けて持続性とか永続性がでる、そういったものを作らなければいけないのであろうと思っています。

やはり、私も経済人でもありますし、大学関係やっておりますけれども、まずは市民の声を聴くというのは、もう基本中の基本で、ただし、市民のためのというところに最重要点を置くと小さなものになりますので、もっと大きなものにしなければいけない。しかしながら今までのものやことではなくて新しい始まりの拠点、または今まで出来たものを集大成する一つの終着点。終着点は始発点でもありますので、そういったものにしてきたいと思っています。

やはり、横浜の誇りとか、歴史、そして足元では景観とか集客の問題、それから事業採算の問題、就労の問題、税収の問題など、色々あると思います。それら相反するものをどこで折り合いをつけるかということの議論になっていくのかと思いますが、私は先進的なものを取り込み、そして、いにしえとは言いませんけども、古き良き、匠の技みたいな、または伝統みたいなものも、あいまった所の拠点にしていけたらいいのかなと思っています。

いずれにしても委員長から先ほどお話があったとおり、あまり固定概念に拘らずやっていかなければいけないと思っていますので、今後の皆さんとの意見交換をしていきたいと思っています。

もう一つは、これらを描くと莫大な金がかかると思います。そのお金の、いわゆるイニシャルコストみたいなものを、それからそれを続けていく、民営でやっていくとすると、どの企業がどういった中で収支をつけながら、雇用を守りながら経済効果を出していくのかという、そういった面での持続性ということを考えると非常に、それを現場でやるところの行政の方々、頭痛いと思いますよ。絵面だけでは済まない現実がありますので。この辺をやはり丁々発止やらなければいけないと思いますけども。いずれにしても民間でやっていかなければいけないということですから。そこをコンセプトに置くとすると、かなり綺麗事だけは済まない。

ただし、先ほどもあったようにIR＝(イコール)カジノではありませんのでね。これはもう市民がそれを結論付けたわけですから。本当に色々な相反する意見を合意形成していき

ながら、新しい未来に向けた若者のための、そして伝統とかいろんな守らなければいけないものを混在させながら、新しい、世界に誇れる横浜のまちづくりになっていけばいいかなと思います。

以上です。

【寺島委員長】

ありがとうございました。僕の方から若干、皆さんに意見を伺っていて、入り口のところで、こういうことなんだろうと受け止めたのが、まず、そのファンダメンタルズとして港湾競争力という言葉が登場してきましたが、やはり経済とか産業とか物流だとか、その港湾の競争力ということについて、僕が港湾局の方からのファクトシートでもってしっかり確認したいと言おうとしたことに繋がるんですけども。

私が色々調べてきていて、私自身が三井物産という総合商社の新入社員として入社した1970年代、横浜、神戸というのはいわゆるコンテナ取扱量で世界一、世界二を競っていたんです。しかし、直近の状況では、一番直近の数字は確認したいと思いますが、横浜は73位まで落ちてきています。今、アジアダイナミズムの力学の中で、日本列島全体の物流軸が太平洋側から日本海側の港湾へと移ってきているというのが大きな流れなわけですけども。そういう状況下で、港湾競争力というものをどうしていくのか。

一方で、横浜がすごいなと思うところは、荷役の効率ということにおいては、世界でもトップクラスの効率を誇っているんですね。システムとして。

そういう状況を前提として、ファンダメンタルズの議論です。つまり経済・産業・物流の視点から、横浜港という港湾をどうしていくんだということに対する知見が必要だと、まずベースですね。

もう一点ですけども、これはより長期的な未来圏をにらんだ議論をしようよ、ということが多くの人たちの方向感かなと。明治維新から戦争に負けるまでが77年と。戦争に負けてから去年までが77年と。たぶん我々が、僕盛んに今こういう発言してるんですけども、責任をもって議論しなければいけないのは、2023年、今年を劈頭とする77年、77足すと2100年ですから、翌年から22世紀というやつなんですけど。

この77年に対する大きな視界と構想力が我々に試されているんだろうと思います。そういう長期的な未来圏を睨んで、夢があって、わくわく感のあるような、世界に誇れるような、ようするに構想・プロジェクトみたいなものが、どういうふうに見えてくるんだろうかと。もう1つが、広域連動という言葉が出てきましたけど、横浜が独立して頑張ってるという部分もちろんあるけれど、やはり東京湾全体を睨んでとか、日本全体を睨んだ広域の中で、どうしていくんだいというポイントが必要になってくると。

もう1つは参画という言葉がやはり非常に重要だと思ってまして、市民参画ですね。ようするに、市民が、その参画というのは、僕は意見を述べるだけじゃないだろうと思います。参画して、山下ふ頭を支えていくというのかな。山下ふ頭のプロジェクトに市民が参画するということは、意見を言うだけの話では済まない。そのメンテナンスと方向付けの中に、市民がどういう責任を担いながら参画していくのかという視点を、どう加えるのか。

私は今、医療防災産業の創生協議会の会長というのをやって、国会議員連盟 80 人近くの人たちがバックアップしてくれて、超党派のですね。例えば医療防災なんていうのが、3. 11、そしてコロナの教訓ということで、日本人なら誰もが震え上がったですね、どうしていきんだいってという防災っていうところに、やはりこのプロジェクトの可能性に埋め込まなきゃいけない言葉があるんだろうと、僕は、直感的に思っています。

それからもう1つは、ものすごいダイナミズムで引きつける力です、外から。要するにインバウンドも含めて、人だけじゃなくて投資も含めて、横浜がすごいこと始めたなと思うような、外からの引きつける関心、それから人流、投資、あらゆる面で引きつける力がどこまで持っていけるのか、そういう中で議論を深めていかなきゃいけないと思います。

冒頭申し上げたように、この会は決定機関ではないんです。決定機関は責任あるラインをもって決定していただきたいわけです。それに対して、真っ当な選択肢と、付加価値をつけて意見を出しておくということが、この会の役割であり、まとめるところでの責任だと思っていますので。その方向感で進みたいってということで、今日の皆さんの意見を、集約しておきます。

次の議事として、地域団体の参画についての話を事務局の方からしていただきたいと思います。

【事務局】

はい。それでは地域関係団体の参加について、スクリーンに提示しました資料でご説明をさせていただきます。

今回の検討委員会は、事業予定者を審査・決定するものではなく、傍聴に加えて、インターネット配信、視聴した皆様からご意見をいただくなど、透明性の高い運営を行います。

また、今後の事業予定者の選定において、委員会に参加した委員が属する事業者等に有利・不利に働くことはありません。

検討委員会では、学識者の皆様方の専門的なご意見に加え、都心臨海部の一体的なまちづくりに向けて、周辺地区との連携、再開発の経済効果を周辺へ波及、地域で事業を行っている方々の思いなど、地域の皆様からのご意見を伺うことが必要です。

そうしたことを踏まえ、各地域関係団体へ委員の推薦を依頼したいと考えております。

地域関係団体の案としては、まちの活性化等を推進している団体から、地元のまちづくりを行っている団体の代表として「関内・関外地区活性化協議会」、横浜港の振興策を担っている団体の代表として「一般社団法人横浜港振興協会」。地域の経済活動を担っている団体から、商工業の振興等のために活動している経済団体の代表として「横浜商工会議所」、地元の商店街の代表として「協同組合元町エスエス会」。埠頭で事業を営む方々の団体から、港湾運送事業の団体の代表として「横浜港運協会」、物流の拠点である倉庫業を営む団体の代表として「神奈川倉庫協会」。以上6つの地域関係団体からそれぞれ1名をご推薦いただき、今後の検討委員会にご参加いただきたいと考えております。

委員会の目的である、まちづくりの方向性、導入機能等の検討に向け、様々なまちづくりや開発等の委員会等にご参加され、議論されてきた皆様方に地域関係団体の参加について、

ご意見を伺い、本市が任命する際の参考とさせていただきたいと考えております。

説明は以上となります。どうぞ、よろしくお願い致します。

【寺島委員長】

ただいまの説明に関して委員の皆様からのご意見があれば、ご発言いただきたいと思いません。

【北山委員】

僕は、巨大再開発とかをやるときに連絡協議会とかそういう会議が開かれて、利権を持っている利益団体が参加して入ってくるということになると、大きい将来の夢とか、さらに100年とか次世代のことまで考えた新しい都市のイメージを作ろうとするときに、利益調整組織のようになってしまおうとですね、本来の目的と違ってくるんじゃないかなと思うので、それは僕の勘違いかもしれませんが、できればこの委員会とは自立していた方がいいんじゃないかなと思います。

先ほどももっと大きいエリアで考えた方が良くという話もありましたけども、その小さい、特に山下ふ頭と関係するようなその空間の中だけの話ではなくて、もっとさらに大きい空間の中で話をしようと思うと、特定の団体、これは決まっているわけなんですか、まだ決まってない案なんですか。

【事務局】

一応、今、我々としての案ということでございまして、今日のご議論なども踏まえましてですね、決定してきたいというふうに考えております。

【涌井委員】

地域関係団体っていうのは行政上の立場から言えばですね、こういった方々が入ってくれることは非常に結構なことだと思いますが、我々自身が今スタディをしている最中であり、ある種の方向性みたいなものがなんとなく見えてきた段階で、地域の意見としてどうなんだと、地区の意見としてどうなんだと、こういう問いかけをしていくのであればですね、合理性があると思うんですけども、例えばこの次の、次回からこういう方々に参加していただく必然性とか必要性というのがですね、本当にあるのかなというのを考えてみますと、いつの段階から参加していただくのかっていう論点は非常に大事だと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

我々の方もですね、今日案としてこういう形で出させていただいて、今みたいなご意見をいただきましたので、我々としては次回から入っていただきたいと思っておりますけども、その辺含めて検討させていただきたいというふうに思います。

【寺島委員長】

これは僕が委員長として決めつける気持ちは一切ないですけども、いろんな各種委員会や審議会出てきてですね、まったく意見を聞かないというのもまた、おかしな話だと思うんですね。そこで、例えば総合エネルギー調査会だったらですね、例えばエネルギー研究機関とか、経済団体とかにですね、ご意見があればまとまった形でもって意見を聞きますよということで意見書をね、ぴちっと準備してもらってですね、それである段階でまとまった形でもって、仮に10分ずつとかですね、この方向付けについてきちっと意見を言うてもらってという機会を設けるっていうのもですね、一つの案かもしれないと思いますね。

一切、地域のもですね、実際問題として責任もって地域に関わっている方たちの意見を聞かないというのも変です。そういう意味合いにおいて、我々は付加価値をつける役割なんですね、行政の方でもって、今日の意見を踏まえてですね、調整していただければ、だいたい見えてくるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょう。

【事務局】

私どもとしてはやはり、山下ふ頭の開発には地元の方の声、これはやっぱり大事だと思いますので、そのやり方についてはですね、今委員長からも発言ありましたけども、やり方はすいません、考えさえていただきながら進めていければというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

【寺島委員長】

じゃあ、今日のところはそういうことでもって、ご意見を伺ったということで。それではですね、事務局からの連絡事項等あればお願いいたします。

【事務局】

はい。それでは、先程、議事の2の意見交換会におきまして、委員長から提案のあった学識者委員からのプレゼンを次回以降に行っていきたいというふうに思っております。次回、プレゼンいただく委員の方々につきましては、後日、個別に調整をさせていただきます。また、本日、インターネットにより視聴されている方々からご意見をいただいております。いただいたご意見につきましては、次回までに取りまとめ、委員会の冒頭でご報告させていただきます。では、以上でございます。

【寺島委員長】

それではですね、その他、何かご意見が、委員の方で、言っておきたいというのがあればですね、お聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、今日の議事はですね、こういう形でもって締めくくっておきたいと思いますので、事務局の方に進行をお渡ししたいと思います。

【事務局】

はい。寺島委員長、どうもありがとうございました。

学識者委員の皆様においては、お忙しい中、長時間にわたり熱心にご意見交換いただきまして、どうもありがとうございました。

次回の日程等についてはですね、後日お知らせしたいと思います。

以上をもちまして、横浜市、山下ふ頭再開検討委員会学識者会合を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

【各委員】

ありがとうございました。

| 第2回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 会議録 | |
|-------------------------------|--|
| 日 時 | 令和5年11月30日(木) 13時15分～15時10分 |
| 開 催 場 所 | ロイヤルホール横浜 ユインザーの間 |
| 出 席 者 ※敬称略 | <p>今村 俊夫 (株式会社東急総合研究所代表取締役会長)</p> <p>内田 裕子 (経済ジャーナリスト、イノベディア代表)</p> <p>河野 真理子 (早稲田大学法学学術院教授) ※ウェブ参加</p> <p>北山 恒 (建築家、横浜国立大学名誉教授)</p> <p>隈 研吾 (建築家、東京大学特別教授・名誉教授) ※ウェブ参加</p> <p>幸田 雅治 (神奈川大学法学部教授) ※ウェブ参加</p> <p>寺島 実郎 (一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長)</p> <p>デービッド アトキンソン (株式会社小西美術工藝社代表取締役社長) ※ウェブ参加</p> <p>村木 美貴 (千葉大学大学院工学研究院教授)</p> <p>平尾 光司 (専修大学社会科学研究所、昭和女子大学名誉理事)</p> <p>涌井 史郎 (東京都市大学特別教授)</p> |
| 欠 席 者 ※敬称略 | 石渡 卓 (神奈川大学理事長) |
| 開 催 形 態 | 公開 (傍聴者 18 人/記者 16 人) |
| 次 第 | <p>1 議 事</p> <p>(1) 前回学識者会合後の市民意見等</p> <p>(2) ファクトシートの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜港の国際競争力強化に向けた取組」について ・委員長からの報告 <p>(3) 委員からのプレゼンテーション</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>2 その他</p> |
| 議 事 | 別紙 |
| 資 料 | <p>当日配布資料</p> <p>(1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 名簿</p> <p>(2) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 座席表</p> <p>(3) 前回学識者会合後の市民意見等</p> <p>(4) ファクトシート【横浜港取組編】</p> <p>(5) 委員長報告資料</p> <p>(6) 日本インフラの体力診断</p> |

第2回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合 議事

【事務局】

定刻になりましたので、これより、「第2回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合」を開催します。私は、事務局を務めます、横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課長の荻原と申します。よろしくお願いいたします。

お手元に資料として、次第、名簿、座席表、前回学識者会合後の市民意見等、ファクトシート横浜港取組編、委員長報告資料、参考資料として土木学会発行の日本インフラの体力診断を配付しています。ご確認ください。

本日の委員の皆様の出席状況についてご報告させていただきます。学識者委員12名の内、11名が出席予定でございます。河野委員、隈委員、幸田委員、アトキンソン委員はWEBでご参加でございます、石渡委員はご欠席でございます。隈委員は途中からの参加と連絡がきております。よろしくお願いいたします。それでは、開催にあたりまして、横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整室長の新保よりご挨拶申し上げます。

【事務局】

皆様、こんにちは。横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整室長の新保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、大変お忙しい中、第2回学識者会合にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、次第にございますように、前回の学識者会合後に私共事務局にいただいた市民の皆様からのご意見の説明、次に、事務局からのファクトシートの説明や委員長からの報告、そして本日は4名の委員の方にお問い合わせさせていただきましたが、プレゼンテーションを行っていただいて、そののちに意見交換という形で予定をしております。皆さまの豊富な知見や広い視野から、新たな事業計画の策定に向けて、限られた時間ではございますが、ご議論いただければ、幸いです。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

委員の方々のプレゼンテーションにつきましては、涌井委員、北山委員、今村委員、村木委員に10分程度行っていただきまして、各々の質疑時間を5分程度設けております。終了後、最後に意見交換を15分程度行っていただきたいと思います。お待ちしております。

本日は公開での開催となっております、インターネット中継により配信されます。また、会議室内に傍聴席と記者席を設けております。ご承知おきください。なお、会議の様態を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、ご了承ください。ここで撮影を終了させていただきますので、記者の方、お戻りください。

これより先の進行は寺島委員長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

いたします。

【寺島委員長】

はい。皆さんご苦勞様です。それでは、議事に入りたいと思います。

まず、議事の1つ目ですね。前回のこの会合以降の市民の意見等につきまして、事務局からですね、ご説明していただきたいと、こう思います。

【事務局】

はい、山下ふ頭再開発調整担当部長の竹内と申します。よろしくお願いたします。

では、前回学識者会合後にインターネットフォームに寄せられました市民意見等についてご説明させていただきます。お手元の資料3をご覧ください。

委員の皆様には事前に本資料をお送りさせていただいておりますが、1から2ページは市民の皆様のご投稿をまとめたものになります。3ページ以降は、市民の皆様のご投稿をそのまま綴った資料となっております。

資料の1ページをご覧ください。第1回学識者会合開催日の8月28日から11月27日まで、ご意見、ご感想をインターネットフォームで受け付け、39名の方から78件のご投稿いただきました。なお、山下ふ頭再開発に関連しないご意見等は投稿数から除外させていただきました。

3ご意見の内訳をご覧ください。ご意見78件のうち、(1)まちづくりの方向性、導入機能に関するご意見は27件あり、このうち、まちづくりの方向性については17件で、広域的な視点で山下ふ頭の位置付けを考えるべき、先人の精神と経験に学ぶべき、社会情勢に合わせてフレキシブルに対応する、などのご意見をいただきました。

2ページをご覧ください。導入機能についてのご意見は10件、研究開発拠点、教育拠点、スタジアム、テーマパークなどのご意見をいただきました。

(2) 地域関係団体の参画に関するご意見は10件。地元の意見代表として必ず参加すべき、地元の人々の意見を取り入れるべきなどのご意見をいただきました。

(3) 市民の参加に関するご意見は8件。まちづくりに市民が主体的に参画する。市民グループの声こそ新しいまちづくりに必要、などのご意見をいただきました。

(4) その他のご意見、ご感想は33件、今後の議論が楽しみ、この学識者会合はなかなか良いと思った、などのご意見をいただきました。説明は以上となります。よろしくお願いたします。

【寺島委員長】

はい、どうもありがとうございました。ただいまの事務局からの説明に関連して、質問、ご意見があれば挙手をしてご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。なければ、議事を進めさせていただきます。

2番目の議事として、ファクトシートの説明ということで、私はこの委員会において、ものすごく重要なのは、我々が客観的な事実をどこまで正確に認識するかが、これからど

ういう構想だとか戦略だとかが浮かび上がってくるかの基本的な要件だと思っています。その意味で、前回お話したように、事務局にも、横浜市としてこの案件についての、我々が知っておくべきファクトシートをしっかりと準備していただきたいということで、いくつかの設問も含めて、課題を提起しています。

それに関連して、まずご説明いただいて、そのあと、我々が共有しておくべき情報に関して、僕の方からフォローアップする説明をしたいと、こう思っています。それでは、まず、事務局からの説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

横浜市港湾局長の中野でございます。

先ほど、委員長からもご説明ありましたとおり、ファクトシートは、この検討委員会の議論のための参考資料集のことでございまして、横浜市の人口動向、財政状況などの基礎資料編や、国内外の再開発事例編などを用意させていただいているところでございます。

私からは、横浜港取組編として、横浜港の国際競争力強化に向けた取り組みについて、ご報告させていただきます。こちらが項目でございまして、この順にご説明をさせていただきます。

まず、横浜港の概要です。横浜港は、総合港湾であることが大きな特徴です。外交船の寄港数は約60年間にわたり国内第1位、クルーズ船も昨年に続き第1位となる見込みです。コンテナでは東京港に次いで第2位。完成自動車はトヨタのお膝元、名古屋港、三河港に次いで第3位です。1つの港で様々な種類の船舶に多く寄港いただいております。

横浜港の地理的条件ですが、北米航路のファーストポート、ラストポートであり、東京湾の湾港に近く静穏な海域と自然推進が深い天然の良港です。

これは、横浜港主要エリアの航空写真です。1859年に開港した場所が大さん橋と書いてある付近で本日の会場の少し海の方に行ったところですが、この大さん橋を中心に山下ふ頭から新港ふ頭に至る一帯の、緑の点線、ベイブリッジの内側・インナーハーバーがかつての横浜港でございました。

世界中の歴史のある港に共通しているところですが、物流のコンテナ化と船舶の大型化により、港は沖合に展開をしてみられました。このインナーハーバーでは、みなとみらい21事業など、ウォーターフロント開発が行われ、観光やクルーズ船受入の機能を担っております。

黄色の本牧ふ頭・南本牧ふ頭は、主にコンテナ船の受入、青の大黒ふ頭は、主に自動車専用船の受入機能を担っています。

次に、港湾を取り巻く状況についてでございます。我が国の輸出入貨物の割合のうち海上輸送が99.5%でございまして、港湾はなくてはならない都市インフラでございます。そして、定期航路のコンテナ化率は90.8%となっております。自動車、産業機械等の生産は、世界中でパーツごとに、分業体制がとられており、コンテナ物流は、グローバルサプライチェーンの基礎となって、これらを支えています。

我が国がコンテナ船の基幹航路から外れ、上海港、釜山港で積替えとなってしまいます

と、貨物の輸送に時間を要する、貨物が痛む、国際情勢によりまして、貨物が停滞してしまうなど、我が国経済に甚大な支障が生ずる恐れがあります。そのため、国を挙げて、基幹航路の維持・拡大に向けて、国際コンテナ戦略港湾の取組を推進しているところです。

現在、横浜港の定期コンテナ航路は95航路と、世界中にネットワークが広がっています。そして、基幹航路は15航路と国内最多となっています。物流の効率性から、コンテナ船の大型化の進展が著しく、今では水深18mの岸壁が必要な全長約400mの船が入港しております。超大型船は世界中で増加しておりまして、現実には横浜港においても入港隻数が増加の一途を辿っております。

それでは、国際コンテナ戦略港湾の推進について、ご説明をさせていただきます。基幹航路の維持・拡大に向けまして、コンテナターミナルの整備、DX導入など、左の赤い文字で書いてありますが、競争力強化。ロジスティクス施設で流通加工を行い、貨物を創る、真ん中の青色の創貨。戦略港湾に貨物を集める右側緑の集貨の取組を進めています。

まず、競争力強化の取組で、白線で困っている南本牧ふ頭の整備についてです。我が国最大唯一の水深18m岸壁を持ち、世界最大の超大型コンテナ船の受入が可能となっています。コンテナターミナルはターミナル毎の運用が通常ですが、2021年から4つのターミナルが一体運用されており、多方面の航路の船舶が船型やスケジュールなどに応じ、施設全体を柔軟に利用できる画期的な運営が実現できています。内航コンテナ船も沖待ちの必要がなく、ハブポートとして着岸・積替えがしやすくなっております。

次は、本牧ふ頭D突堤です。船舶の大型化に対応するため、D4・D5コンテナターミナルの一体運用が可能となるよう、ヤードの拡張・荷役方式の変更など再整備を進めています。

そして、新本牧ふ頭です。水深18m以上、延長1,000mの岸壁を持つコンテナターミナルと高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設からなる最新鋭の物流拠点の形成を目指し、2021年度から埋立を進めております。コンテナターミナルのゲートや荷役機械、ロジスティクス施設等には、DX・AI等の機能が導入され、競争力強化が進められております。

次に、創貨の取組で、本牧ふ頭A突堤の再整備です。本牧ふ頭A突堤では、船舶の大型化により、水深が不足しヤードが手狭となったコンテナターミナルから転換をした跡地を活用いたしまして、ロジスティクス拠点の整備を進めております。臨海部の物流拠点は、輸送の効率化、雇用の確保などの点で注目されておりまして、横浜港の増加する輸入貨物の取扱強化策としても重要です。2025年までに新たな施設が合計10棟稼働する予定でございます。

集貨の取組としましては、地方自治体同士のお付き合いを活用しまして、東日本の各港湾と協定を締結し、連携をしながら進めております。内航航路も日本各地から週約38便、横浜港に寄港していただいております。2022年の横浜港のコンテナ取扱量は298万個で、コロナ前の水準に戻ってまいりました。そのうち内貿は35万個と過去最高を記録しました。東日本の各港湾と内航航路の機能強化に取り組んだことも、その要因と考えております。本質的には、背後圏の製造業の工場などの生産、経済活動が活性化しまして、輸出入する

貨物そのものが増えなければ、取扱量を増加させることが難しいわけですが、港湾管理者としましても、いまご紹介しました集貨・創貨・競争力強化の取組により、少しでも貨物を増加させ、基幹航路の維持・拡大に努めているところでございます。

前回の会合では、コンテナ取扱量の世界ランキングについて、ご発言をいただきました。ご指摘のとおり、真ん中にありますように、95年には横浜港が世界第7位であったところ、2022年では70位となっております。コンテナ取扱個数としては増加しているものの、中国をはじめとする経済発展が著しい新興国の港湾が台頭している状況であります。

その下になりますが、中国と日本のGDPを比較しておりますが、95年までは中国の8倍でしたが、22年では1/4程度となっております。人口が多く、経済活動が活発な、つまり、GDPが高い地域は、貨物の取扱も多くなります。

横浜港の競争力についてです。世界銀行は2020年のコンテナ港湾生産性指数において横浜港が世界第1位と発表をいたしました。効率的なコンテナターミナルの運営や高品質な港湾サービスが総合的に評価をされました。

31ページでございます。横浜港は、かつては輸出の港と言われ、自動車や産業機械の取扱が主力でございました。左のグラフですが、現在では、輸入が輸出を上回り、冷凍食品などの製造食品、野菜・果物が輸入貨物の取扱の主力となっております。右のグラフにありますとおり、この輸入超過の傾向は日本全体でも共通しており、2022年の貿易赤字は過去最大を記録しております。

37ページです。続いて、クルーズ船の誘致と、観光による市内経済の活性化についてです。インバウンドによる観光消費は輸出と同じ効果があるわけですが、コロナ前の2019年は、半導体や自動車部品の輸出を上回りました。今や観光立国として、インバウンドの受入は日本経済にとって不可欠な状況と言えます。そこで、インナーハーバーを中心にクルーズ船誘致に向けた競争力強化に取り組んでおりまして、そのことについてご説明をいたします。

横浜港では、総合港湾である特徴を活かし、物流埠頭との兼用を含め、国の支援や民間事業者の皆様との連携により、岸壁・客船ターミナルの整備を進めてまいりました。その結果、世界でも最大レベルの7隻同時着岸が可能となっております。

大黒ふ頭客船ターミナルは、ベイブリッジを通過できない超大型クルーズ船が着岸いたします。荷さばき地を活用して、クルーズの間に車をお預かりするドライブ&クルーズが好評をいただいております。新港ふ頭客船ターミナルは、日本初の商業・ホテル一体型の複合客船ターミナルでございます。大さん橋国際客船ターミナルは、横浜港の主力ターミナルでウッドデッキの屋上広場が特徴であります。

クルーズ船の経済効果ですが、クルーズ船が寄港するたびに、給油・給水や食材、アメニティグッズ等の各種船用品の需要が発生するとともに、乗客や船を見に来られる観光客の方々のお土産や飲食等の支出が加わり、ご覧のとおり、大きな経済波及効果をもたらします。また、クルーズ船の寄港は、一時寄港と発着寄港の2つのパターンがございます。上の、一時寄港は、朝着岸し、乗船客が観光などに出掛け、夕方に同じクルーズ船に戻り出港するというものです。発着寄港は、着岸すると乗客が全て下船をし、新たなツアーを

開始するもので、クルーズ前後の市内での観光や宿泊が望め、より多くの経済効果が見込めます。横浜港は9割以上がこの発着寄港で、圧倒的に多いのが特徴です。

コロナ前の2019年の発着寄港回数は、もちろん日本で第1位、アジアでも4位となっております。下に書類のコピーがありますけれども、2019年シートレード・クルーズ・アワードというのがありまして、ポート・オブ・ザ・イヤーのファイナリスト、準優勝にも横浜港が、世界の中で選定をされております。2023年の寄港回数は、過去最多を記録した2019年の188回を上回る200回となる見込みでございます。

49ページです。横浜市では、関係機関や民間事業者の皆様と連携し、クルーズのお客様を都心臨海部で観光していただく様々な取組を行っております。51ページです。街を上げて、クルーズのお客様やクルーの皆様のおもてなしを行おうと、都心臨海部の80店舗以上にクルーズ・フレンドリー・プログラムに加盟していただいております。割引、英語対応等のサービスをしていただいております。

また、旅行会社等と連携し、クルーズのお得意様を対象に市内ホテルの紹介を行うサロン・ド・ヨコハマ、夜間の水際線でのイベント開催など、横浜市内での宿泊を促進するための取組を行っております。

脱炭素化・防災力向上の取組についても、力を入れて行っているところですが、後ほどご覧いただければと思います。

67ページです。最後になりますが、山下ふ頭再開発検討の経緯についてです。高度経済成長期では横浜港の貨物の1/3以上を取り扱う主要埠頭でございましたが、コンテナ物流が主体となり取扱量が減少してまいりました。山下ふ頭にコンテナターミナルを整備してはどうかのご意見もときどき伺うところでございます。しかし、最近のコンテナ船ではベイブリッジを高さの関係で通過できないこと、岸壁の水深が不足することなどから困難な状況でございます。そこで、2014年の港湾計画の改訂により、山下ふ頭を「都心臨海部の新たな賑わい拠点」として、港湾から都市的な土地利用への転換を位置付けました。2021年には、山中市長が就任し、カジノを含む統合型リゾート、IRに頼ることなく、山下ふ頭の持つ優れた立地と広大な開発空間を活かして、横浜経済をけん引する開発を推進することを表明いたしました。そして、市民意見募集等を行ったうえで、山下ふ頭再開発の新たな事業計画を策定するため、検討委員会の開催に至ったものでございます。横浜港の国際競争力強化に向けた取組についての説明は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

【寺島委員長】

はい、どうもありがとうございました。資料4の説明に関する質疑もですね、私の話を終えた後、一括して進めたいというふうに思っています。

ここからが私のレポートというか、話なんですけど。まず、横浜市が準備してくれているファクトシートというのは大変重要でして、我々の基本認識に据えておかないといけないポイントです。今後も、世界の港湾の状況等について、このあたりをもう少し調べてもらいたいよねっていう希望があれば、僕自身もいくつか論点があるんですけど、さらにこ

のレポートを深めていってもらいたいと思います。

そこで私のレポートなんですけど、いくつか我々が本当のことを知らなきゃいけないという問題意識で私は、そのことを横浜市、あのですね

まずその土木学会のレポートいうものをちょっと手元に見ていただきたいと思います。

土木学会というのは、土木というと建設土木というイメージが非常に大きいんですけど、シビルエンジニアリングなんですね。ようするにシビルエンジニアリングを土木と訳してしまったことにちょっと疑問を感じるんですけど。いずれにしても、2万人の会員を要する、この分野の専門家を集結している日本の、ある知のインフラです

そこが今、港湾について、日本の港湾インフラの体力診断ということで、VOL 1、2、3と3つインフラを分析している、最近出たレポートなんですけど、VOL 1は道路と河川と港湾のですね、日本のインフラについて今土木学会がどう思っているのか。とりわけ37ページ以降に、港湾ワーキンググループが出してきたインフラ体力診断というページがあります。これは本当は、率いているキーパーソンの一人である東大の家田先生に直接説明していただきたいというふうに思ったんですけども。

これは皆さんがまず手元において、僕はこれを踏まえた上で、自分自身のレポートに触れていきたいと思いますので。これも非常に我々にとっては考えさせられる、日本のインフラの現状に関する、特に港湾インフラの現状に関する認識なんだということをしっかり読み込んで共有していただきたいと思います。

そこでなんですが、資料5というのが、私が話をしようと思っている資料ですね。僕のいわゆる出している資料集から抜粋して、関連のところをコンパクトにお話するのが、今日のまず入り口の議論だなと思っているものですから。

まず1ページ目に、10月版のIMFの世界経済見通しの直近の数字が載っています。これ解説するだけでも大変なんですけれども、今年の世界GDPの見通しが、10月版、もう11月ですから、ほぼいわゆる実績見込みに近い数字ですけど、3月頃懸念されていた金融不安というものをですね、なんとかソフトランディングに持って行って実質3%、これは地球全体の実質GDPの動きですけども、3%くらいの成長と。で来年に向けてはさらに減速してくる、つまり金利を引き上げてますので。

先進国ブロックとブリックスに分かれています。注目したいこのページの一番重要なのは、後での話に繋がるからなんですけれども、インドとアセアン5ってところをよく見てもらいたいんですが、アセアン5というのは、アセアンは10か国から成り立ってますけど、その中心にいる5つの国って意味なんですけれども。

インドが6%成長軌道を走っていると。アセアン5がですね、4から5%台の成長軌道を走っているというのが。わかりやすく言うと、除く中国のアジアがものすごい牽引力となっているんだというのが、世界経済の一つの大きなポイントだということを確認したいと思います。

そこでなんですが、その下の、日本の埋没という言葉を使ってますけど、これは世界動いてみて、まさにこの言葉をかみしめなければいけない状況になっていると思うんですが。

1950年、戦後のつまりサンフランシスコ講和会議の前の年ですね、日本の世界GDPに占める比重は3%だったと。で1994年という年にピークを迎えるんです。18%までいっていたんですね。工業生産力モデルの優等生として、横浜港湾もここを支えたんですね。世界GDPの18%を占める国になっていたわけです。除く日本のアジアは全部足しても、中国インドアセアン全部足しても5%ですから、日本はアジアダントツの経済国家だったんですね。

2000年、21世紀に入る前の年です。日本はまだ15%で持ちこたえていた。除く日本のアジアを全部かき集めて7%の比重ですから、日本の半分にもなっていなかった。

ところがこのわずか22年のパラダイム転換ですね。私経団連研修率いてますけれど、経団連トップクラスの、ようするに経営企画部長クラスの間でも、この頭についていないです。わずか22年の間にこうなったっていう、日本の世界GDPに占める比重はわずか4%に落ちてきた。除く日本のアジアは25%を占めてますから。6倍を超えてたんです。2分の1に満たなかった、除く日本のアジアが、日本の6倍を超えてたっていうパラダイム転換に、なぜこうなったかですね、本質的な問題意識がないと、乗り切っていけない状況の中に今、日本はあるんだといってもいいだろうということです。

特に一人当たりGDPというのは豊かさのシンボルなんですけれども、右にブレイクダウンした2ページに書いてありますけど。日本はですね、シンガポールにダブルスコア以上でおいでいかれていると。でここが僕はインバウンドの話も含めて頭に入れておくべきなんですけども。

去年僕は台湾に追い越されるんじゃないかと思ってたんですけど、一人当たりGDPがですね。めでたく追い越されなかったんですけど、日本3万4000ドル、台湾3万3000ドル、韓国3万2000ドルってことですね、東アジアの3か国が並んだってことなんです。ですから今インバウンドでやってきているのが、中国本土よりも、圧倒的に台湾香港シンガポールの華人華僑と韓国です。

つまり、これらの人たちは、コロナ前のインバウンドと違うんです。つまり二泊三日で3万円のツアー客をかき集めた中国人中心のツアーじゃないんです。ようするに個人旅行で、さらにはレンタカーを借りて、自分たちでファミリーで主体的に動くっていうレベルの、ハイエンドのインバウンドに変わって来てるっていう問題意識をですね、強く持たなければいけないと。

ここからが一番重要な今日の僕の話に入っていくんですけども、我々はこのことをよく知らなければいけないと。今日の横浜のレポートでも、土木学会のレポートでも、このあたりがまだ視界に入っていないのが僕の申し上げたいポイントなんですけども。

3ページです。じーっとにらんでいただいたら僕の言おうとしてる意味が分かります。我々が基本認識にしなければいけないことのイロハのイです。アジアダイナミズムと日本海物流っていうページがあります。つまり我々は埋没っていうけど、アジアのダイナミズムに突き上げられるような形で埋没感を深めている訳です。

今、メディア等が投げつけてくる世界認識の中で、簡単にそういう認識に踏み込んではいけないのがですね、世界は分断されてきていると。2極分断だと。米中対立極まれり。あるいは権威主義陣営である中国ロシア対自由主義陣営の戦いだなんてですね、2極

で世界を分けるっていう視界が流布しているんですけども、実は根本的に違います。世界は多次元的に、世界を分断するなんていう、グローバルサウスの人たちの力がぐんぐん高まってきている。本当の意味で、グローバル化という局面に入ってきているんだという視界を取らないといけない。

まずそこに、米国と中国の貿易の数字をよく見ていただきたいんですけども、米中対立が進行しているというのは表面的には事実なんです。選別的対立なんです。ハイテクをめぐる激しく戦いあっています。DXをめぐる。安全保障をめぐるですね。

だけど、ファンダメンタルズにおける米中貿易は増え続けているんです。日米貿易の3倍を超したんですね。日米貿易の3倍を超したなんて話を聞かされると、多くの日本人は、鹿児島と上海の緯度がほぼ一緒ですから、鹿児島の南の太平洋を米中物流が動いているんだと考えがちですけど、ここなんです、横浜にとって真剣に目に入れておかないといけないのは、日本海物流と言うキーワードがものすごく重くなってきているんです。つまり日本海を抜けているんです、米中貿易は。どうしてかというと、その方が2日早いからです。メルカトル図法で考える視界からですね、地球儀で考える視界に転じたならば、日本海を抜けた方が2日早いってことにピンとくるはずですよ。圧倒的な物流が日本海、そして津軽海峡を抜けているんです今。でこのことによって、太平洋側の港湾に大きなインパクトが起こっているんです。

でまず一番上の段ですね。先ほど横浜のレポートにもありましたように、横浜の、世界の外貿におけるコンテナの取り扱い量の地位は驚くべき勢いでもって落ちてきているんですね。私が新入社員で三井物産という会社に入った時代があるんですけど、そのころ横浜神戸は世界1位、世界2位の港だったんです。

ところがですね、この直近の数字21年まで入れていますが、横浜世界72位、神戸は73位まで落ちてきましたと。日本の港で一番外貿貿易のコンテナの取扱いが多いのは東京港の46位だってわけです。

トップ10をよく見ていただいたら僕の言おうとしてることがわかります。上海をトップにして、華人華僑圏の中国、英語で言うとグレーターチャイナっていうんですけど。ようするに、連結の中国、本土の中国だけじゃないですね、その港湾がこう名を連ねてますと。

で日本にとってものすごく注目すべきなのが実は7位に浮上してきている釜山なんです。釜山トランスシップという言葉がありまして、ようするに先ほどから紹介している土木学会のレポートでも、あるいは横浜のレポートでも、トランスシップという言葉を目しているキーワードにしてきてますが、釜山で積み替えているんです。

例えば神戸がかくも無残なまでに後退している理由というのはですね、四国の物流分析をやるとすぐわかります。今までは内港船で神戸に繋いで太平洋航路にのせるという物流だったんです。ところが今、ようするに釜山に繋いで日本海物流に乗せて、世界最大のマーケットであるアメリカと、世界最大のマーケットに迫りつつある中国アジアの物流に繋げるのは釜山で積み替えた方がいいって、これがプサントランスシップなんですよ。その方が時間もかからないし、金もかからないっていう流れが、まるでパラダイムを変えてし

まったんですね。

そこで見ていただきたいのは、日本海物流に突き上げられるように、日本海沿海の港がものすごい勢いで、外貿コンテナを増やしてきているという数字をそこで確認することができると思いますけども。例えばですよ。仙台・酒田に点が打ってあると。どうしてだっというんですね、特に3.11後、加速度的にこの傾向が出てきたんですけれども、宮城の物流を山形の酒田が取り込んでいるんですね。どうしてっという、日本列島は本州北にいくほど狭いからですね。ようするにわずか高速道路で2時間で繋がりますから。沖合にアメリカと中国を結ぶ物流が動いているわけですから。一番戦略的に金をかけずにそれに繋げるとしたら、酒田の港を活用した方がいいって流れがどんどんどんどん多くなっているんですね。

でこれ皆さん、去年今年と日本にとって、これがこれからの攻め筋だったという勢いでもって話題になっている、千歳にラピダスっていう半導体の5兆円のプロジェクトが立地しましたと。なぜだっという、私、政投銀に頼まれて、苫東開発、苫小牧東って意味ですけど、日本最後の大型工業団地と言われている、千歳空港から苫小牧港にいたるまでの大型工業団地の経営委員長ってのをやってですね、このプラットフォームの上に様々な立地ですね、例えばカネカの医療機器だとか、日本最大のメガソーラーだとかを立地させるってことを積み上げてきたんですけど、いきなり隣の、まさに隣接している千歳にラピダスが来た。なぜラピダスがここに立地したのかという最大の理由は、苫小牧の沖に米中物流が動いているってことなんです。

あとでもその言葉は拘りますけど、後背地産業構造っということがすごく重要なんです。背中に背負っている産業構造が、ぴしっと港湾物流とリンクすれば、世界最大のマーケットに効率的にアクセスするところに立地するってのはもう、理の当然なんですね。ですからなぜラピダスがここに来たのか。

さらにいうなら、横浜にもっとも関係のある関東ブロックの物流なんですけども、実はですね、日本海側と太平洋側をつなぐっというのが、これからのアジアダイナミズムと向き合うときにはものすごく重要になっていまして。東京を取り巻くように圏央道という高速道路が整備されています。鶴ヶ島インターチェンジのところで、関越自動車道に繋がるんですけども、ようするにこれがすごく意味があるんですね。関越自動車道を使って日本海側の港湾に繋ぐっというのが。つまり首都圏の産業立地にとってもすごく大きな意味を持ってきてしまっている訳です。実は名古屋港、つまり愛知東海ブロックにおいても、北陸東海自動車道の意味がどんどん重くなっているんですね。北陸側からの港湾から、ようするに日本海物流に載せるっというのがですね。しかもこれ、あとでこの資料をよくご覧になってる訳ですけど、いま2ページに日本の貿易相手国のシェアの推移という細かい数字が載っていますけど、今アジアとの貿易が日本の貿易の約半分です。これ10年後に間違いなく6割を超します。この流れが日本海物流とリンクするんですね。

ですから、これ国土交通省の国土形成計画のその言葉、僕自身が参画してきましたからなんですけど、使ってますけど、対流。対流っというのはお風呂をかき混ぜるときに使う対流っというのはですね。日本海側と太平洋側を戦略的に対流させるっというのが、日本

の財布事情にとって大変重要だという論点が、僕は大変大切だというふうに思っています。

いずれにしても、このアジアダイナミズム、日本海物流の時代というのに、じゃあ横浜がどう向き合うのかということが、ものすごく戦略的に問われてくるっていう問題意識を、僕はここで今日一つの大きな柱として提起しておきたいわけです。

で実はその次のページに、これで僕の今日のレポートは止めておきますけど、5ページ6ページにアタッチしてるのがなんだったかというと、私が率いている日本総合研究所が県民幸福度ランキングの分析というのを5回に渡って、一年おきに積み上げて来ています。これは、鉛筆なめて県民の幸福度、幸福なんていうのは相対的な概念ですから、定性的な分析だと思われるかもしれませんが違うんですね。

ここに書いてあるようにビッグデータ解析なんです。つまり基本指標、さらにですね、健康・文化・仕事・生活・教育に関する指標を選び出して、客観的に対比できる数字で分析できるものだけを積み上げてですね、県民幸福度ランキングというやつをビッグデータ解析でやってきているんです。で、色々な意見を受けて改定の度ごとに地方公共団体と向き合って、例えば2014年度版から出ているんですけど、指標を付け加えていっています。

そこでまず横浜港が背負っている神奈川県県民幸福度ランキングなんですけど、これ基本指標においては、きわめて恵まれた地域にある訳で、第3位なんですね。たとえばあらゆる面で、人口だとか財政の健全だということをとって、基本指標だけでいうと第3位なんですけど、神奈川県はこのトレンド見ていただいたらわかりますけど、じわりじわりとランクを下げています。都道府県の中で今24位というのは客観的な位置付けだと言っていいたいと思います。

何が一番、ようするに例えばその全国トップクラスの指標であり、取り組むべき課題はどういうところにあるのかということを出していますので、あくまでも参考値として、背中に背負っている、横浜港が背負っている神奈川県というテリトリーがどういう経済産業構造を持っているのか、で県民にとってどういう意味合いを持っているのかということを考える指標として、これをじーっと眺めていただいたら、なぜ神奈川が全国の都道府県ランキングで24位なのかということについて多分腑に落ちていただけたらと思います。

今度は右の横浜市なんですけど。これは政令指定都市におけるランキングなんですけど、政令指定都市は日本に20あります。その中で横浜は8位だってことなんですね。どうして8位なのか。例えば基本指標1人あたり市民所得においては全国1位だと。それから様々な意味で全国をリードしているような指標というのものもある訳なんですけど、今後考えなければいけないポイントがどこに横浜というのは抱えているのか。私が言いたいのは、港湾のことだけ視界に入れていちゃダメだということなんですね。背中に背負っている産業構造、背中に背負っている経済構造、そしてここに生きてる生身の人間としての市民とかですね、県民の、ようするに、あえていうならば幸福度というんですか、そういうものも視界に入れながらですね。さて、港としての横浜、どういうふうにしていくという大きな問題意識がないと、我々のようするに方向感が見えないだろうと思うから、あえてこういう資料を付け加えてみましたと。

今日はこれを踏まえる必要もないんですけど、各委員の意見をしっかり聞いてみようというのを積み上げようと思ってますので、議論を進めていきたいわけですけど。まず、横浜のプレゼンテーションと私のレポートを踏まえてですね、質問ないし意見のある方はぜひご発言いただきたいというふうに思います。いかがでしょうか。

どうでしょうか。はい、平尾さん。

【平尾委員】

横浜市の方から、横浜港についての基本的な状況の分析と、今、寺島さんから、グローバルな視点から見た横浜のお話がありましたけど、まず、横浜港について、港の競争力っていうか、強化からいくと、よく3Cっていうのは言われますね。3CのCというのは、あのCargoですね、貨物がその背景地からどこまで港に集まってくるかっていう、そのCargoのCargoVolumeっていうのは、1番目のCです。で、2番目は、そのポートチャージ等も全部入れた、コスト、港の港湾機能のコストが。それからあとは、その3番目のCはConvenienceっていうんでしょうか、やはりその港湾機能の、レベルの高さ、使い勝手が良いこととかですね、そういうことだと思っんですけども。

そういう点からいきますと、今日お話いただいた港湾機能の全体的なことはよくこれで分かったんですけども、こういったその3つの指標から見て、どうなんだろうかと。将来ですね、そういう点が1つ知りたいなというふうに思ったところであります。

それから、寺島座長からのご報告については全くそのとおりで思っんですけども、ただですね、その日本海と太平洋の物流が繋がっていくということは、貨物の種類とかですね、貨物の内容とかによって、かなり色んなあれがあるんじゃないかと。したがって、全部がこう日本海の方にくるんでなくて、やはり日本海と太平洋の港湾の、機能分化、あるいはその背景にある産業構造の違いとかですね、そういったことと、それからそのアクセスコスト、流通コストですかね、そういったものをもう少し詳しく知りたいなっていうことを、ちょっとお話を伺って感じました。以上です。ありがとうございます。

【寺島委員長】

質問、ご意見伺いたいと思いますけど、いかがでしょうか。

今の点についてですね、僕の方から、まとめる意味じゃないんですけども、僕の説明の1つの流れとして、我々が確認しておきたいのは、この京浜の港湾っていうのは、横浜も含めてなんですけども、急速に輸出港湾から輸入港湾化してきてるってことなんです。1つのキーワードが、市のレポートにもありましたけれど、で、それが1つ重要なポイントです。

それからもう1つは、そのトランスシップっていうですね、さっき横浜が、その内港貨物ですね、他の国内港湾との連携を重要にしてるっていうことなんですけど、トランスシップっていうやつをですね、やはりこれから1つのキーワードにした戦略っていうのがいるだろうなってのが、僕の申し上げたいポイントです。

平尾さんが言うように、産業別あるいは業態別でもって物流っていうのは大きく変わり

ますから、日本海と太平洋側をどういう風に戦略的に繋ぐのかっていうのは、より、きめ細かい戦略が必要になってくるっていうことも確かだろうと思います。

幸田さんが手挙げておられるんですね、はい。

【幸田委員】

ありがとうございます。今お聞きした話、全くそのとおりで、委員長のお話、よく分かりました。そのとおりだと思っております。ただ、1つこの点はどうなのかなと思ったのは、今おっしゃるように、輸出港から輸入港の方にシフトしてるっていうことですが、日本の経済を考えた場合には、やはり輸出というものが果たす、貿易が果たす役割、大変大きいと思うんですね。

そういう意味で、日本の底力、経済を底上げするには、輸出港として、横浜が本当に、中心的な輸出港だと思いますので、輸出港としての機能をどう、こう向上させていくかという観点が必要ではないかなということが1点。もう1つは、やはり、東京湾の方は大消費地を抱えていますので、これは輸入港であって、大きな振り分けとすればですね、で、横浜の方は、輸出という。東京と比較すると、そういうことが言えるのと。

最近の統計を見てますと、輸出については、東京湾から、横浜湾の方に、ややシフトして、コロナ後ですけどね、シフトしてるっていう傾向も見えるんじゃないかっていうふうに思うところで。やはり輸出港としての役割を強化するにはどうしたらいいのかということをややはり検討すべき、ことがあるんじゃないかなと。で、前回、河野先生がおっしゃられたように、私も港湾機能について、この山下ふ頭という立地条件、それからその臨港地区であり、また、あの保税地域であるということを生かす、そのためにはどういう、この山下ふ頭の開発計画を検討したらいいのか、港湾機能の強化をどうしたらいいのかということもしっかりと議論する必要があるんじゃないかな、というふうに考えてるところであります。以上です。

【寺島委員長】

河野さんが先に手を挙げておられるので、じゃ、河野さん、お願いします。

【河野委員】

ありがとうございます。今のその横浜港のその強化というお話なんですけれども、かつて日本の国内で産業がたくさん物を生み出していた時代は、日本国内の荷物で十分に横浜港から積み出すものがあつたと思うんですね。

ところが、なかなか日本の産業構造はそういう風にその物を作るものではなくなり始めて、ただ、最近それがまた戻ってきているというお話もございますから、そこをどれだけ日本、少なくとも18メートル水深の岸壁を持っているのは、太平洋側というか、日本全国で横浜港だけな訳ですから、そこをややはり活用する方策を日本全国として考えないといけないのだろうと思います。

で、釜山港がなぜ強いかというと、それは背後にあのヒンターランドとしての中国があ

り、それから日本の日本海側の港からも、実は釜山でトランシップをしているという現実があって。そうすると、日本国内の荷物をいかに横浜港に集めてくるかという、これはもう政策上の支援をしないとイケないと思います。最近、内港の船舶が少しずつ、特にコンテナ船が大きくなって、かつ、それが日本海側と太平洋側を結び始めていますので、こういう荷物をできるだけやはり日本の荷物として日本から出すという認識を持たないといけません。そのための政策誘導が必要だろうと思います。

もう1点は、日本だけの荷物では、おそらくやはりボリュームとしてかなわないわけですから、いかに、あとは東南アジアからのトランシップを促すか。その時に、例えば、日本に持ってきて、付加価値をつけて日本から出すというような方策を考えないといけないのではないかというふうに考えております。そうすると、東南アジアから例えば北米、ヨーロッパに出る荷物というのは必ずしも決まった港を経由しているわけではないようですので、これを日本に引きつけるためには、日本の港が魅力を持たないといけません。で、選ばれる港に横浜港をしていかないといけないと思うんですね。私は、ですので、山下ふ頭のこれだけ大きな跡地も、そのような目的に資する計画であるべきであろうというのが個人的な意見でございます。

ありがとうございました。

【寺島委員長】

ありがとうございました。どうぞ。

【北山委員】

このファクトシートは港湾局の方で作られているので、最初に、港湾機能の説明があったと思いますけども。この中、28ページを見ているんですけども、世界港湾別コンテナ取扱個数ランキングっていうのが、90年、95年、22年と、こうありますけども、この90年、95年の上位にあるロッテルダム、ハンブルグ、ロサンゼルスっていうのが、都市機能に変換して、港湾のところ、港湾のエリアがですね、ウォーターフロントが大きく都市機能に変換されていくという、港湾機能から都市機能に変換するというような動きをしている都市が港湾ランキングからは下がっていつていると。こういう大きい流れが20世紀後半から21世紀頭にあったということだと思います。

それで、横浜も、今見てると、本牧ふ頭の方に、ほぼほとんど物流は移ってますので、インナーハーバーを港湾機能として考えるというよりは、都市機能としてどうなるのかっていうのを考えるのが、大事なんじゃないかなと思います。ですから、この会議自体が港湾局が仕切ってらっしゃるので、都市整備という概念からいくと、もう少し違う見方が出てくるだろうと思います。

港湾の機能の話だと、私自身はですね、学生時代に山下ふ頭で沖仲仕のバイトやったことあるんですけども、市内からミニバスに乗せられて、ふ頭で荷物の上げ下ろしなんてやっていたんですけども、その頃から比べると、もう全然そういうふ頭の機能も変わりましたし、業務も変わっていると。そうすると、インナーハーバーをどうするかっていう、新し

い横浜の都市のあり方を考えると、当然、港湾の都市から始まってますけども、背後にある大きい横浜市という、都市全体、全域の問題として考えていく必要があるんじゃないかなと思います。

それは寺島委員長から、日本海物流って話を聞いて、すごく、あ、なるほどと思ったんですけども、ある意味では、太平洋側っていうのは、違う、港湾に特化するのではない、違う方向にどうもいく可能性がある。もう当然、港湾機能も持ってますけど、それで世界で競争していくというものではなくて、違う機能を持っていくんだらうなというふうに思いました。

【寺島委員長】

ありがとうございます。いかがでしょうか。どうぞ。

【内田委員】

いいでしょうか。ありがとうございます。寺島先生のお話は、非常にこう、横浜市はもう少し危機感を持つ側面も大事だよねっていうお話だったかなというふうに受け止めまして、横浜市の今のプレゼンテーションで、横浜港これだけ整備してきてですね、素晴らしい機能を持っている、確かにそうだと思うんですけども。一方で、その世界引いてグローバル経済を見たときに、それがあ意味横浜港がスルー、日本海物流が盛んになってスルーされていく可能性も将来的にはなくはないんだよっていうような、お話をいただいたと思って。じゃあ、その時に横浜はどうするんですか、っていうようなことも一方で考えていくべきでしょうというご提案というか、あのお話だったと受け止めました。

また、その幸福度ランキングっていうお話をしていただいた時に、多分皆さんがこう思っている、イメージしている、横浜豊かだね、なんか街としていいねっていうものですね、実際、じゃあデータで見たときに、あれ意外と低いねと、そういうようなところのギャップっていうのをお示しいただいたんだと思うんですね。

じゃあ、その中でなぜ数値が低いのかと。もっとこれをこう上げていって、市民の幸せというのはどんなふうにあげていくんであろうかということも、都市整備というところを考える時に必要なんじゃないかっていうようなことをおっしゃっていただいたというふうに思います。

私、港湾の方の審議員もやっておりますので、ほんとにベイブリッジから向こう側、こっち側はもうなかなか巨大コンテナはもう入れないという現実があつてですね、その本牧ふ頭と南本牧ふ頭の方で、整備されている、どんどんね、その港湾機能は整備されているっていうところでご尽力されてきたっていうのは知っておりますので。そこをさらに、合理化していくとか機能化していくっていうことはあつて、でも、こっちのインナーハーバーの部分は、この2014年の時の決定でも位置付けとしてもありますように、臨海都心部の新たなにぎわいの拠点として都市的な土地利用を転換していくんだというようなことで明記されていますので、やはり、そういうようなところで、いかに横浜港というものの新しい産業創出ですよ、そういうものを考えていく場であるんだと。そういうようなことな

んだらうというふうに受け止めさせていただきました。以上です。

【寺島委員長】

ありがとうございました。大体そこで次のプレゼンテーションに移りたいんですが、僕の方から事務局にですね、もう1点、これは実はこの会の趣旨とか狙いとはちょっと違うけどですね、すごく重要な気になる点なんです。

ニューヨークニュージャージーポートオーソリティっていう機関があるんですね。要するに、空港も港湾も一括管理してるんです。要するに、ニューヨーク側の海の港も、空の港も、ニュージャージー側の海の港も空の港も、一括管理してると。

貨物ってのはですね、日本の産業構造の高度化もあって、どんどん、どんどん、要するに、ロットの大きなものを港からダウンと大きな船で運ぶっていうだけじゃなくて、航空貨物で対応していくようなハイテク型の物流ってのも、ものすごく重要になってくるわけで。

本当のこと言えば、この京浜港湾という、海の港だけじゃなくて、空の港としての羽田とも含めてですね、そういった視界でほんとは議論しなきゃいけない部分もあるんですけど、これはより大きな視界でのですね、その国土交通戦略の大きなポイントになってくるからですね。我々としてはこういう方向がありうるんじゃないかっていうことを意見として言う、可能性はですね。その報告書の中であるかと思えますけれども。このポートオーソリティの現状についてですね、ぜひ、みんなで問題意識を共有すべきだと思うんで、調べてもらいたいなというふうに思います。

幸田委員が手挙げてるわけですね。どうぞ。

【幸田委員】

今ちょっとご発言があった、委員のご発言については、ちょっとどうしても申し上げなければいけないので、発言させてください。

2014年の方向性とおっしゃいまして、港湾機能から都市機能へ、それから平成27年、これ同じですけど、山下ふ頭再開発基本計画、これについては、この委員だった方4人に私は直接ヒアリングをしましたけれども。

この時の計画の検討については、IR、カジノを誘致するための前捌きをするものであったというふうに、市の当局自身が言っていたというふうに聞いています。今回は、今の市長になりまして、こういった、山下ふ頭再開発基本計画っていうのは、最初のパンフレット、市民アンケートを取った時には入ってて、これは非常に違和感があったんですけども、前回の資料、今回の資料にも出てませんので、特に言わないでおこうと思ったんですが、今ちょっとご発言がありましたように、この平成26年、27年の計画は、カジノの前捌きをするという、そういうことで進めていたということで、大変不透明であり、かつ市民に対して不誠実なものであったというふうに認識しております。

そして、これは、今の市長になって、これをリセットして、この検討会で1から検討するということですので、そういうこともあってかなと思ってましたが。前回のこの委員会の

資料から落ちてましたけれども。したがって、前、こういうふうに港湾機能から都市機能へということになっているっていうことについては、これはもう前提とすべきではないということをまず申し上げたいと思います。

したがって、港湾機能、都市機能、いずれにしても、しっかりと検討して、どのような方向性を出すかということをこの検討委員会で議論すべきであると。あの1つ、やはりどうしてもですね、市のほうが、例えば国際展示場っていうのも賑わい拠点というところにかつ分類されていたりするんですけど、国際展示場っていうのを複数の法人が提案してますが、これは国際貿易展示場であって、いわば臨港地区保全地域を活用して、そこで商売ができる、入管手続きもしなくてできる、こういうものとして提案されているもので、やはりこれは港湾地区、それから保全地域ということを活用して、この山下ふ頭をどのように活用するかという提案ですので、しっかりと港湾機能の強化についてやはり検討した上で、どのように方向を目指すかというのを、この検討委員会でやっていただきたいと思いますので、先ほどご発言があったような、以前そういう計画があって都市機能へとなっているということについては、ちょっと私としては聞き逃すことができないので、コメントさせていただきました。以上です。

【寺島委員長】

聞き逃せるかどうか別にしてですね。僕はやはりそのインナーハーバーとしての都市機能っていうものを見つめないで我々の議論にはならないと思います。

【幸田委員】

それはもちろんです。

【寺島委員長】

なぜならば、我々がやろうとしてる、今日の説明の中ですごく重要なポイントの1つがですね、あの山下ふ頭と、つまり横浜港の港湾機能を強化していくっていう努力がものすごく重要です。だから18メートルだとか、要するに先端的な競争力のある港湾にするっていう方向感を出していくっていうのは最もな議論なんだけど、じゃあ山下ふ頭がですね、それじゃあその18メートル化するかって言ったら、そんな話じゃありませんよねっていうのはさっきのポイントなんでですね、それは我々としてバランスよく認識しとかなきゃですね。話が進まないで、こう思います。

【幸田委員】

はい、おっしゃるとおりだと思います。

【寺島委員長】

じゃあ、まあそういうことで、いよいよ、あの、今日の委員のですね、皆さんの意見もしっかり聞きたいんで、プレゼンテーションをお願いしたいと思います。じゃあ、涌井委員

からお願いいたします。

【涌井委員】

それでは、私の方からプレゼンテーションということなのですが、その前に、せめて今日のファクトシートなり、あるいは寺島座長のお話というものを、我々の耳に入れていただきたかったなというふうに思うところであります。

私はですね、この山下ふ頭の取り組みをどういうふうに位置付けていくのか、これはそう簡単には答えが出るものではないというふうに考えておまして、一番重要なことは今委員長の方からもファクトシートで、非常に厳しい現実というものを見据えろというお話があったように、巨視的に考えて、それで段階的に整備していくという、こういう計画論をどのように持つのかと。一挙に何かを作り上げていくという一つの考え方というのは馴染まないというふうに思っているわけでありまして。それはおそらく委員長もご同意いただけると思いますが、世界の動きというのは急速な動きがございました。今確かにそのアジアダイナミックに対して日本はどうするんだという話であります。じゃあ10年後、同じシチュエーションであるのかというと、必ずしもそうではない可能性もある。そういう様々な観点からですね、我々はどんなふうに戦略的にこれを誘導していくのかということが非常に大事なんじゃないだろうか。

私は今の時代というのはトランスフォーマティブチェンジと言いますか、文明の転換を促すほどの大きな時代の流れの渦中にあると。そこで横浜の持っている不易と、それからくるであろう流行というものをどのように組み合わせたらいいのかということが、非常に重要な戦略なんではないかなという論点から、今日の話をしていただきたいと思えます。

もうこれはですね、私が説明するまでもございませぬ。先ほど寺島委員長の方からも、それから横浜市からもあったわけですが、広域で戦略を考えて地域で差別化などの構想を練るということでありますけれども、実は日本のですね、特に京浜地域の臨海部というのは、大変な立場に置かれていると。かつて今から、私が若い頃でしたから、40年ほど前に飯島先生が、いわゆる臨海工業地帯の立地案というのを作って、日本全国に埋め立てが進められました。

それはいったい何かというと、原料をそのまま工場の脇に船でつけて、そして加工したものをまたすぐにその工場の脇から輸出をするというようなことで、いわば臨海工業地帯というものがどんどん整備されていった。しかし、今のそのアジアダイナミズムの話も含めて環境問題もあって、原産地で原料を供給する場所で工場を立地させる、あるいは加工の工場を立地させる方が合理的ではないかとか、ロジスティックコストからみたらどうなのか、という形でどんどん実は生産の拠点が移り、同時に製鉄業を含めて、どこに集約していったら最も合理的なのか、つまり非常に非効率な昔の炉を使っているよりは、最先端の炉を作った方が環境負荷も少ないし、非常に生産性も高いというような形で工場移転というものが起き始めて、今お隣の川崎市では、もう相当規模の、300ha近い、あるいは周辺も入れると400ha近い土地が空いてしまうと、こういうような状況が出てるわけですね。

これは実は京浜工業地帯全体にそういう傾向というものが起こりうる可能性が強いと、そういう中で山下ふ頭の問題はどう取り組むの、という課題があるという位置付けをしながら、この山下ふ頭を臨海部再開発のモデルというような自負を持って取り組むということが非常に重要なのかなと。港湾という機能と、そしてまちづくりという機能と、これを両用一体にしてどのような解を導き出すのかということが非常に重要な手順じゃないかというふうに私は考えています。

その時に、どうしても私は今GreenExpo2027というところで色々、国際園芸博覧会のことも手掛けているわけでありますので、港湾地域だけを見ていくという目線ではなくて、内陸とこの港湾をどう一体的に考えていくのかという。先ほど日本海と太平洋のリンクというのがありましたが、そういう考え方を見ていきますと、実は横浜は、実に巧みに首都高やその他高規格道路との連携というものを図ってきたな、というふうに見ることができるんじゃないかと思えます。

皆さんから見て左側は土地利用で、右側が一つのコンセプト図でありますけれども、とにかく横浜北西線というものが首都高で繋がって以来、極めて内陸部、最奥部とそれからこの地域がリンクしているということは言い得るのではないだろうか。仮に山下ふ頭のことをちょっと置いて、上瀬谷の辺りに何が可能性があるのかと言いますと、ご存じのとおり、あそこにはズーラシアがあります。

そして今度の博覧会では、植物という、生物多様性条約の中で最も重視しなければいけない、種や生物多様性を保全していくという過程の中で植物に焦点を絞った博覧会になりますので、そういたしますと、この動物と植物が相並んでですね、言ってみると世界の中で言うところのイギリスのですね、ご存じのとおり非常に片田舎でものすごい観光客を集めているという場所が英国にはあるわけですが、それと同じような機能を持ったバイオスフェアと言いますか、地球の生物圏、生命圏の尊さというものを知らしめる拠点にもなるかもしれない、それがここに（仮称）YOKOHAMAバイオスフェアキャンパスという名前がつけられた、博覧会後のレガシー、ズーラシアと組んでですね、都市農業も交えたレガシーというものがこの辺に作られて、同時にそこをずっと都市農業の地域が包んでいる。そういう場所をヒンターランドに持ちながらですね、今度は外交港湾と言いますか、ロジスティック港湾として本牧、南本牧、新本牧という形で整備が進んでいながら、ベイブリッジによってインナーハーバーはですね、別の性格を持たざるを得ないと。

こういう中のまちづくりとですね、こういうヒンターランド、ヒンターとの対比の中でどのようなまちづくりを進めていくべきなのかということもしっかり考えていく必要があるのではないかということが二番目の提案になります。

それから3番目の提案は、既往の概念に無い柔らかで有機的な空間の創出をしよう。これ何かと言いますと、実は我々が今議論をしているんですが、おそらくこの山下ふ頭で整備された何物かを一番メインに利用する世代というのは、我々がどれほど急いでも実は完成には10年かかる。で、熟していくのに約20年くらいかかるだろう。

すると20年先の人たちがどういう市場行動をとるのか、購買行動をとるのか、あるいはライフスタイルを持つのか、もうこういう話になるわけですね。それは例えば今ここにも

ございますように、ミレニアム世代とか、Z世代とか、我々の既往の概念ではとても計り知れないような価値観、そうしたものを持った若者がここのメインのユーザーになっていく。そういうものをターゲットにして何を描き出すのか、その頃に世界はどんなふうに変わっていくのか。これは寺島委員長が今日ファクトシートで示していただいた、ご提案の中で示していただいたところとも共通するわけですが。その頃の要するに世界の状況はどうなのかということと、日本の若者、ミレニアム世代、Z世代がですね、何を重視していくのかということをしっかり考えていく必要があるのではないかと。

その時に先ほど申し上げました、古のものは大事にしてですね、新しいものをそれに添えていくんだと。その時に私ふっと考えたのがですね、実はハマっ子というブランドのことなんです。非常にポピュラーな、さっきの高尚な話から非常にポピュラーな話になって恐縮なんですけど、ハマっ子ブランドというのはですね、我々は昔、非常に横浜を考える時に尊重してきました。私の世代ではないんですが、私より遥かに若い世代はハマトラなんていう、そういうファッションすら生み出されたと。つまり、横浜というのは、ある種の地域的な特性みたいなものをファッションというものに象徴させながら、いわばアイコンとして、横浜のカルチャーや、あるいはこの品格というものを表現していったという時代があったことを忘れてはいけないんじゃないかと思います。改めてどうやって我々が、しかし残念なことにこのハマっ子ブランド、あるいはそのハマトラなんていうのは、どんどんどんどん過去の歴史の彼方になってしまっていて、それを改めてイノベーションしようという状況になってない。これをもう一度横浜ブランドを、シティのブランドと言いますか、まちのブランドをもう一回磨きあげるという作業を、どれだけするのかということは、実はこの山下の再開発の性格や構造というものと非常に密接不可分なのではないかという気がします。

これからの若者はですね、おそらく二つの価値で動いていくんだらうと。一つは環境価値、もう一つは感性価値。この環境と感性というのが非常に重要でですね、こういうようなものが結果としては大きなマーケットを作っていくことに我々は目を向けなきゃいけないのではないかと、こんなような気がいたします。つまり、価格を決定するものは何かということ、従来の機能的な価値だけではないんだと、情緒的な価値と自己実現価値というものが合わせ持って、いわば市場価格が決定していくというマーケットができる中で、じゃあ今我々は何をしなきゃいけないのかと。国内外の新たなサービス価値を求める世代の訴求効果に応えられる土地利用、これをどうやって考えていくのかということ考えた時に、今申し上げたように、環境価値と感性価値が非常に優れていて、しかもこの横浜ならではの横浜ブランドというものが三位一体になったような、そうした事業というものをどう創出できるかということに全てがかかっているというふうに思います。もう一度このミレニアム世代とZ世代のいわば特徴というものを少し大きくして見ていただくと分かるかもしれませんが、全然我々とは違う価値観を持った市場が出現するというにはしっかり着目しておく必要があるんじゃないだらうか。X世代なり、あるいは我々の世代でものを考えて、こうした世代からそっぽは向かれないような、そういうことをどういうふうに考えていったらいいのか。例えば、ミレニアム世代ではですね、自分らしさや平

等、リベラル、真正性、利便性、個性、自分のスタイルというものがある。それからミレニウム世代になるともっと絞られてきてですね、その関心事が明確でカスタマイズされたものであって、人に自慢をしたり、特別感を持つこと、自身がですね、自分の差別化に繋がるというようなところにも繋がっています反面、非常に孤独な個性を楽しむ、一人旅行とか。それからコスパ、コストパフォーマンスというものに非常に敏感であって、環境への影響とか地域との関係というのは意外と重視すると、こういうような人たち、こういう人たちの個性をどのように我々が誘因していくのかということが非常に大事なんじゃないだろうかなど。繰り返して申し上げますけど、少し小さいところで見えないものを大きくしたわけではありますが、こういうような方向をどのように考えていくのかということなんだろうと思います。

私は今のところ頭に浮かぶことはですね、高度海陸物流ゾーンと、それから先ほどの、ちょっとここに本牧の方のことは書いてないですが、高度高速物流港湾機能と、それからシースケープ再創造エリアというのがあってですね、これはいわば港というものをランドスケープの背景にして考えていって、新たな他では生み出すことができないライフスタイルなり、あるいはランドスケープのシーンをこしらえて、これに支えられたエキゾチックゾーンと洒落町ゾーンのようなものを考えながら、その背景にはDXとGXがミックスしたような新業務核みたいなものを作る。それをくるむような形で、先ほど申し上げた内郭としてのグリーンインフラ再整備ゾーン、これを海岸段丘のところにもそうした緑がついてます。それに加えて先ほどの横浜市全体の、上瀬谷を含めたいわば都市農業のグリーンゾーンというものを一体的にして、いわばデジタルとそれからリアルというものが非常に上手くミックスユースした土地利用というものの中で、ここにどういう象徴的な施設を持つてくのか。その内容というものをこれから皆さんと一緒に議論していくわけですが、私はいくつかのキーワードがあると思っています。一つは、固定的なものを作っているのか。必ずしもそうではないんじゃないか。自由で可変性のあるもの、あるいは施設ですね。それからそこに行けばエシカルライフスタイルというものが、しっかり実感できる。で、そういうものに自らが体験し、同時に参加できる、そういう場であって欲しいなど。それからもう一つ忘れてはいけないのは、爆発的なエネルギーですね。これはヨーロッパに行きますと、スペインのバルセロナの沖合にイビサ島というのがあります。このイビサ島というのは何で観光が賄われているかということですね、世界中のビッグスターがみんなそこに行くわけですけども、ひょっこりひょうたん島みたいな恰好をしております、片方の島は、歴史的な世界遺産、片方の島は、5000人収容ぐらいのいわばディスコ、クラブですね。これが6つも8つもあると。このクラブのその爆発的なエネルギーを求めた若い人たちが行く。そして静かな世界遺産の方には成熟した人たちが行く。これが上手くミックスユースになってですね、大変な観光客を集める。こういうような、何か様々な今、我々の頭の中に既往のデータとして残っていないような、新たなクリエイションをどう作っていくのかということが、これからの課題じゃないかというふうに考えているところであります。以上です。

【寺島委員長】

どうもありがとうございます。何かご質問なりご意見あれば。いかがでしょうか。

【全体】

(発言無し)

【寺島委員長】

涌井さん、僕は涌井さんらしい、やわらかいプランというのを感じ取るんですけれども、世代ということを持ち出されているのはすごく重要で、我々を越えた世代の人たちが、ここを評価し、エンjoyできるような場でありたいという気持ちは全く共有なんですけれども、逆に世代を越えてやらねばならないこと、今、例えば僕はその一つのキーワードはレジリエンスだと。市民の安定・安全を図るための、例えば医療とか防災とかっていうものについて意味を持つような場とか。さらに言うならば、市民からの意見の中にもその言葉がものすごく、涌井さんも使ってたけど、「参画」ですよ。つまり何か上から目線だね、こういうプロジェクトをぶち上げるんだというのではなくて、市民が参画できるようなものを意図するということがすごく問われていると思うんですよ。それともう一つは、もうとにかく時代を越えて、おっしゃっていた生物多様性とか、生命圏というような視界を持ったものと、どうリンクさせるか。このあたりが世代論を越えたプロジェクトになっていくんじゃないかという、別のアングルからの、僕自身の見方があるんだけど、そのあたりの噛み合いじゃないかなと僕は思っているんですけどね。

【涌井委員】

おっしゃるとおりだと思います。いわば防災の問題というのは実は深刻でありまして、横浜やあるいは国も今、上瀬谷の公園の地域に広域防災の拠点を作ろうと。それと言うのはどういうことかという、もし首都圏に大規模な災害があった場合に、どうしても東名から首都高に乗れないんですよ。なんとなれば、車が上に全部びっしりになっちゃって、日本中、西方から来た自衛隊や警察は、どこかでそういう条件を開削しなきゃいけない。そのために待機する場所が必要だと。ということで、東名からインターができる、それで物流センターも計画されているですね、この上瀬谷こそ、チヌークのような大型ヘリも着陸の可能性があるし、ここに大きくいわば滞留するという拠点として、上瀬谷について位置づけようという議論も今でてるわけですね。仰せのとおり、横浜は関東大震災のことを振り返ってみてもそのとおりでありまして、実は山下公園もその残材を全部海に入れて、その結果出来上がった公園であるということを我々忘れてはいけないということですね。横浜はおそらく相当の問題があるだろうと、そうしたときに先ほどの北線なり、北西線という首都高の路線が、あれ高架になってますんで、下が燃えていても十分に救援活動ができる可能性もあると、そういったものを一体化しながら非常に安全で安心できる地域なんだよという一つのブランドも非常に重要。レジリエンスな、リダンダンシー性の高いブランド、まちづくりとしても考えていくというふうにし続けるということも重要な論点だと思います。

ます。ありがとうございました。

【寺島委員長】

それじゃあ次、時間の関係もありますので、北山先生お願いいたします。

【涌井委員】

じゃあどうもありがとうございました。

【北山委員】

北山です。今日はパワポですが、大学のレクチャーで使ったパワポを少し編集して持ってきたので、冗長な部分があります。それと昨日ですね、発表の時間を間違えたのに気が付いてですね、すこしスライドを飛ばしますの見苦しいですが我慢してください。

私は横浜国大で建築を学び、その後、2016年まで横浜国大で教鞭をとっていました。横浜には長い付き合いがあります。今日は横浜の都市デザインについて報告したいと思います。これは人口動態です。明治維新から、社会は拡張・拡大してきました。明治は殖産興業を目指してヨーロッパ文明の社会システム、あの、ヨーロッパであることが大事なんですけれどもヨーロッパの社会システムに置き換えられました。戦後はアメリカの社会システム、その中でも民主主義に伴った資本主義が導入されました。そして現在は縮減または定常型社会を迎える文明の変換点、涌井先生もおっしゃっていましたが、文明の変換点にある、そういうときだと思います。世界では過半の人間が都市に住むようになりました。都市社会学によると、都市型社会では人口が減少することが報告されています。アフリカを除く世界では人口減少が実は始まっています。人口の減少は定常型社会に着地させる新しい文明の入り口であるという見方もできます。ヨーロッパ文明圏での近代都市は、パリのオスマンによる大改造が1853年から17年間で行われ、現在の形を作っています。アメリカ大陸では1871年のシカゴ大火の復興計画で、現代都市の原型が作られ、20世紀初頭から恐慌までの約30年ほどで現代都市モデルとしてニューヨークが生まれています。20世紀はこの現代都市類型といいますけれども、この類型で世界のほとんどの都市が覆われています。シカゴ学派という都市社会学の学問領域があります。資本主義が作る都市、シカゴを中心とした資本主義が作る都市を観察しています。完全な土地の私有制度と高度に自由な市場経済という前提条件で、その社会制度が作る現代都市の形を調べています。資本の自由な振る舞いに任せると、都市の中心部にオフィスビルが立ち並び、郊外に専用の住宅地が貼りつくというものです。この都市構造の中で職場と住宅が分離し人々は切り分けられ、共同体が弱くなり、ジェンダー差別が拡大するということが報告されています。横浜は165年前開港を受け入れ港が作られたことから始まります。日本で初めての都市計画街路が関内に作られました。1923年の関東大震災で市内の80%を壊滅しています。1945年の横浜大空襲でまた再び壊滅します。そして、東京に近い港湾だったので、1960年まで都心部は米軍に接収されていました。今でも接収されている瑞穂ふ頭が残っています。横浜は本土の中で最も戦後復興が遅れた都市でした。現在の横浜はここからスタート

しています。

50年前、ベイブリッジもみなとみらいもありませんけれども、この時私は大学で横浜で学んでいました。現在の横浜の都市の形をつくる試みは1963年から始まる飛鳥田市長の時に始まっています。横浜市には地方自治体の最上位の全体計画として、横浜市基本構想、長期ビジョンが設けられています。最初につくられたのは、高度経成長期を終え、経済大国になった1973年、そして次につくられたのは33年後、人口がピークを打つ2006年です。1965年に横浜市は街づくり構想、都市と書いてまちづくりと読ませます、という50年後の未来をつくることを目指したプロジェクトを始めます。この構想の中心人物は後に横浜市の企画調整局長になった田村明さんです。強い自治意識をもって市民の政府としての自治体を目指します。1973年の長期ビジョンには、都市の運営を短期的な視座ではなく、中長期的な総覧が必要とします。短期的な計画ではなくて、都市というものは人間の生命スパンを超えた視座が必要であるということが書かれています。街づくり構想は6大事業という6つのプロジェクトによって拡張・拡大する都市を構造化しようとするものでした。急激に住宅地開発が行われる郊外を含めた、横浜市全域を対象としていました。横浜の都市アイデンティティをどう作るかということが大きな問題でした。横浜駅周辺と関内地区という二極化した都心部をつなぐみなとみらいプロジェクトがここで示されています。その後2004年に芸術文化を中心とする創造都市横浜という都市構想が、横浜市の都市デザイン室長で、後に横浜市参与になった北沢猛さんを中心に提言されています。2009年には海都横浜構想が北沢さんを中心に提案されています。ここで、人口減少社会の未来ビジョンが提示されています。創造都市構想はこの時代多くの都市の未来モデルとなりましたが、横浜では既存市街地とウォーターフロントを縫い込みながら、創造的産業を、畑を耕すように育てようとするものです。先ほど都市機能を入れるということがIRの前置きだったという風に話がありましたけれどもそうではなくてこの時代から都市機能にどうやって組み込むかということが横浜市の方で検討されていました。

これは飛ばします。

田村さんの街づくり構想という50年構想が形を示した後、次の50年後を目指した海都横浜構想が北沢猛さんから提示されています。1965年に構想された街づくり構想によってつくられた部分は、この中でオレンジ色の部分、みなとみらい地区です。そして新たにブルーの部分海都構想で対象とするインナーハーバーです。海都横浜構想はリング状のインナーハーバーという横浜内港の再生構想と同時に空地・空き家の増えている郊外の住宅地を含む横浜市全体を対象とするものでした。

少しここ飛ばします。

現在の横浜の風景は、1965年の街づくり構想に導かれたもので、今我々が経験する横浜はここにできています。海から見えるシンボルであったキング・クイーン・ジャックという横浜のランドマークですが、これは21世紀に入ってから高度制限が外され、高層タワーマンションが立ち並ぶ風景の中でこのクイーン・キング・ジャックは埋もれてしまっています。

飛ばします。

アジアの各都市は港湾地区、ウォーターフロント開発を進めていますが、どこも同じような風景をもつ都市になっています。これを地理学者のフランセスク・ムニョスは、グローバルな資本市場における再開発によってつくられるウォーターフロントのテーマパーク型都市は、世界中どこでも同じガラスカーテンウォールの超高層ビルになる、という報告をしています。

先ほどの人口動態をちょっと強引に引き延ばしたんですけれども、わたしたちはこういう文明の変換点、人口が急激に増えて急激に減るということが、これは大きい変換点じゃないかというふうに見ると、産業革命以降の近代化の中で、社会が拡張・拡大し、都市型社会となり、この100年ほどで世界の都市は固有の文化が漂白されたジェネリックシティといえますけれども、そういうどこでも同じ都市風景を作っています。定常型に向かう社会では、都市は資本活動だけではなく、自然やコミュニティと共生する文化や生活の豊かさを求める場になると考えられます。横浜はその新しい都市モデルを求めてほしいと考えています。

これは10年ほど前、大学院のスタジオで研究していたヨコハマハーバーリング構想、インナーハーバーの構想ですけれども、広域のコンセプトです。水運を中心とした都市構造を検討していました。羽田とどういう連携とるかというのがかなり重要だと思っていましたし、先ほどの防災の面だと陸内の交通ではなくて海上交通がかなり重要な役割を果たすと考えていました。それからこれは横浜国大YGSAの校長だった山本理顕さんが提案するアウターリングとインナーリングです。インナーハーバーを居住のインナーリング、そして郊外にある横浜市のみ営住宅群をアウターリングとしています。横浜市の持つ市有地、郊外の市営住宅と、港湾地区の市の所有地を関連付けて、居住と生産が混在した新しい居住都市、新しい都市構想をここでは提案されています。

このあとちょっと飛ばします。

都市を構想することは、これから生まれてくる未来の人のための都市を構想することです。そして、山下ふ頭の在り様は、横浜市という都市の行方に関連します。いずれにせよこれは横浜市全域の問題として考えるべきです。山下ふ頭は市の市有地であり、民有地ではありません。小さな空間や時間、短期的利益の為ではなく、未来の市民の為の構想が必要です。未来の横浜は、市民の為の固有の文化を表現したいと私は考えています。以上です。

【寺島委員長】

ありがとうございました。今のご説明に対して、質問・ご意見あればお願いします。

【北山委員】

先ほどIRの種地として都市機能といわれたのはちょっと僕勘違いじゃないかと思うので、これはあの都市機能というのは横浜の都市をどうするのかという試みというのはずっと行われてきたことなので、それを確認していただきたいと思います。

【幸田委員】

すみませんよろしいですか。

【寺島委員長】

はいどうぞ

【幸田委員】

いまおっしゃられた点について勘違いといわれたんですけども、私が申しあげたのは、都市機能について検討するというのも重要なことで、港湾と都市の共生も重要だと思っておりますし、

【北山委員】

私もそう思っています。

【幸田委員】

ただ、すみません、私が申しあげたのは、平成26、27年の計画自身がIRを進めるための、前捌きとしてつくられたということだけをコメントとして申し上げたということだけです。都市機能がIRだということを申し上げたつもりではありませんので、

【北山委員】

はいわかりました。

【幸田委員】

そのところは誤解してないので、すみません、ちょっとだけ補足させていただきました。申し訳ございません。

【寺島委員長】

はい。僕は北山先生のこのプレゼンテーションを、今までの横浜づくりの経緯を理解するうえで大変に重要なステップだというふうに思いますので、これ共有させていただいて、構想にちょっと刺激を与えていきたいというふうに受け止めました。

【北山委員】

ありがとうございます。

【寺島委員長】

どうもありがとうございました。

で、ここで事務局の方なんですけれども、時間、これ予定調和の委員会じゃないんでね、何も無理やりに4人詰め込んで終わらせようとも思わないんですけども、今日のご感覚

どうでしょうか、今村さんまでやっていただきますか。どうしますか。それとも次回に、要するになかなかいい議論だと思うんですね、皆さんに準備していただいて、今日の議論踏まえて次の時に今村さん、村木さんにお話しいただく形にした方がね、余裕のある議論になるんじゃないかと僕は思い始めたんですけども、どうでしょう。

【事務局】

次回ご予定が大丈夫であればそういう形でもかまいません。

【寺島委員長】

それではよろしいですか、次回で。どうですか。

【事務局】

そうですね、ちょっと今後の、日程調整がですね、なかなか皆さんお忙しくて、難しいところもあってですね、もしよろしければ、村木先生にですね、今日お願いさせていただいて、ぜひちょっと。

【寺島委員長】

そうですね。そういうことであれば村木さんまでお願いします。じゃあ今村さんそういうことで、よろしくお願いします。ありがとうございます。

【村木委員】

それでは、短めにお話をさせていただきたいと思います。私専門が都市計画でございまして、必ずしも今日横浜の話をするわけでもなく、学生時代からずっとイギリスに毎年毎年行ってきて、そこで学んだ都市開発・都市計画の在り方というのを日本にどうやって役立てることができるのか、そんな形で研究をしておりましたのでその中で最近気が付いたことということをお話したいと思います。最初がですね、横浜市における排出量の経緯と構造ということを出しているんですが、これはなぜこれを持ってきたかといいますと、もう2005年くらいだったと思いますが、ロンドンに調査に行ったときに、日本はそれだけ開発があるんだったら、その頃は低炭素と言っていましたが、低炭素の目標なんてすぐ達成できるんじゃないか、そういう風に言われました。というのはイギリスは、非常に開発を行う際に排出量の削減を行うための取り組みというのをやっているの、日本が同じようにやったら、かなり都市部門でそれができるのではないのか、ということ言われたわけです。横浜の排出量というのをみると、年々減少してきている。ところが、業務部門っていうのが増えていて、これへの対応というのが求められるかと思います。しかしながら日本は、どうしても再エネの導入というのが限定的なので、どうやって今後、山下ふ頭で開発をする場合には、エネルギーの利用を減らしたような開発を考えていくことが大事ではないかと思います。そこでロンドンの面的開発というのを今度見てみたんですけども、キングスクロスの再開発、ロンドンオリンピックサイト、そしてバタシーのパワースター

ション、こういった面的開発の中では、かなり一般的な開発をするよりもCO₂の排出量削減を求めて、面的エネルギーの導入とか、グリーンビルの建設ということを積極的に行ってきました。バタシーのパワーステーションの開発というのはまだ途中の段階にありますので、下の英語で書いてあるものは細かいんですけど、何が言いたかったかというと、最初のところにサステナビリティというのが出てくる。これが大事で、面的開発でネットゼロにチャレンジしていくことがとても大事なことであり、そして、このコロナで2年間海外調査をしませんでしたが、昨年行ったときに私が本当に驚いたのが、もう新規開発ではエンボディドカーボン、オペレーションカーボン、こういったことでゼロカーボンを目指すのが当然になっているという事でした。そうなる横濱の都市再生というのを考えた際に、どうやって排出量を下げていくのかということやどのような機能を入れるにしても考えていくということが大事だという風に私は思います。で、ロンドンではですね、新規の開発をする際には必ずネットゼロに向けた協議をしなければいけないということで、まず第一段階で省エネを図る、第二段階で効率的なエネルギーの供給、これは面的なエネルギーにつなぐということ、そして第三段階で再エネを活用する、ここで、敷地で35パーセントの排出量を削減し、これでゼロにするためにはカーボンオフセットを行う、そんな形になっています。

さらに、今では、全ライフサイクルのCO₂を検討するという事になっておりまして、この下のほうに書かれているロンドンの望ましいレベル、大規模開発については、材料・建設段階から、すでにどれほどCO₂が出るか、あと運用段階、そして建物を除却した後まで含めてですね、CO₂の排出量の計算をするということになっています。

そして、こういう枠組みがある中で、私がこの2年間で一番驚いた開発がこちらです。こちらのテムズ川の南側にあるバンクサイドヤードという再開発なんですけれども、イギリスで最初の脱炭素型の再開発事業というふうに言われています。42万㎡の8棟からなるミクストユースの再開発なんですけれども、第5世代の再開発と言われていまして、非常に低温の熱まで使った、エネルギーを使い切るタイプの再開発事業になっています。

ロンドンでは開発自体グリーンでないと投資も集まらないし、入居者も集まらない、そして、ビジネスについては、新しい世代の人たちは、これに対応する企業でないと、会社に入らない、そこまで言われていまして、ここが私は本当に日本は周回遅れではないかというふうに思った次第です。

第5世代のエネルギーネットワークってというのは、このようになっておりまして、日本はだいたい第2世代って言われております。石炭、石油から再エネを導入した地域冷暖房というのを活用して、供給温度を下げて、第5世代では20℃～25℃、日本では捨てているような温度のものも使っています。そして再生可能エネルギーの導入を再開発事業でほとんど多くのものを使うということになっているわけです。

この事業、今開発が進んでいるところなんですけれども、実際ビルを見せていただきますと、脱炭素を求めて、いろいろな取り組みがなされていました。そして、新規のこういったグリーンビルだけではなくて、地元にもともとあった駅舎の活用とか、そういった古いアイコンというものの活用も非常に考えられています。

こちらは再開発になるんですが、再開発以外でも、いろいろな取り組みがされています。こちらは1棟のビルなんですが、ネットゼロビル、ロンドンのこちらにも南側にある、サザクという区に建つ印刷工場なんですが、1959年に建てられたビルを再開発して、大規模なネットゼロカーボンビルをつくっています。オール電化で運用でのCO₂が一般的なオフィスビルの50%以下、そして2棟建ってまして、プリントビルというのの85%の構造体は再利用されています。

これを見ていきますと、非常に多くの開発価値があるということがわかります。左側が建物レベルなんですが、古いビルの再利用をして、そしてエンボディドカーボン50%の削減ということがされています。一方ですね、そのビルを建設する際に、建物の存在する期間の経済効果が非常に高いということも言われていますが、それだけではなくて、この工事に関わる人たちをですね、失業者、この地域の失業者を工事に活用して、人に対する支援というものを行っている、地元の成長のために地元の商業者をここに入れるということで、つまり、脱炭素のビルをつくるということだけではなくて、複数の地域価値、地域向上、地域貢献ということを検討していることが非常に大事だと思います。

そうしますと、今後山下ふ頭を開発する際に考えるべき点としまして、世界は脱炭素型の都市開発が一般的です。日本初の脱炭素型の都市再生プロジェクトということを検討するのも大事ではないのかなと思いました。脱炭素にプライオリティを与えることは非常に大事であり、目に見えないことは二の次になりやすいので、サステナビリティの重要性を高く提示して、脱炭素の見える化、省エネビルとか、再エネ活用の表示をして、市民に広く知らせていくということが、一つ大事なことだと思います。

また二点目に、面だからこそできることを認識していただくということも大事だと思います。エネルギーの需要というのは用途によって異なるので、最適な組み合わせを考えていくことが大切だと思います。

最後に、開発にどん欲に、複数の目的と価値を追求していくことが大事であり、最初に寺島委員長がおっしゃっていた、幸福度の中でのランクの低いもの、こういうものをターゲットに考えていくこともあるかもしれませんし、涌井先生がおっしゃっていたZ世代、これらの望むものをこの中にどうやって入れていくのかということなのかもしれません。

開発の目的の組合せを考えつつ、地域を変えて、そして価値をどうやって導入していくのかということが大事ではないかと思います。以上です。ありがとうございました。

【寺島委員長】

どうもありがとうございました。

論点が非常に重要なことを指摘しておられるというふうに思います。重く受け止めながら議論を進めたいと僕自身は思っています。

いかがでしょうか、これに含めまして、今日の段階で発言しておきたいということがあればですね、質問も含めてお受けしますけどいかがでしょうか。

【涌井委員】

よろしいですか。

【寺島委員長】

どうぞ。

【涌井委員】

大変明快なご説明ありがとうございました。私も村木先生のご説明のようにですね、非常に重要なのは、たとえばイーストロンドンとオリンピックパークの関係を考えてみると非常に明確だと思うんですけども、もともとロンドンのごみ溜めと言われた地域ですね、しかもゲッターに近いような低廉な家賃で治安も悪かったイーストロンドンがですね、なんでああいうふうによみがえったのか、ということは、山下ふ頭のことを考える上でも非常に重要な動機になるんじゃないかなというふうに思います。

オリンピックをあそこに戦略的に開催することによってですね、地域の環境浄化が図られて、圧倒的な緑量が増えて、テムズ川の分流としての運河もですね、ごみのような運河がものすごく清麗な運河になって、同時にそのすぐ隣接にある、非常に高密度で貧困の象徴のように言われていた町が、なんとなく空気で洗われていって、そこにはかなりインテリジェンスを持った若者たちが低廉な家賃という魅力で住み込んで、そしてお互いに化学反応しながらですね、いわばケミストリーな環境をつくって、非常に創造的になって今やあそこがある種のヨーロッパ全体のソフトウェアのベースになっているという、こういう事実、つまり連鎖反応を起こしていくという、こういうことがすごく大事だというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

【村木委員】

おっしゃる通りだと思います。連鎖反応をどうやってつくっていくかという、タイムラインと図をつくっていくことが大事だというふうに思います。ありがとうございます。

【寺島委員長】

ロンドン、僕も9月に動いたところなんですけれども、コロナでね、英国全体で23万人も死んでてですね、実は議論を深めているとですね、日本は7万5千人なんだけれども、傷付いているというかですね、これはもちろん、脱炭素というところとかこれはものすごく大事にしなきゃいけないんだけど、一方、そのイギリスの誇りだったね、医療システムが破綻したってということについてですね、イギリス社会のこれまでのあり方自体に根源的な問題意識を持ってる人たちが増えているんだなということ僕痛感したんですけども。脱炭素とともに、さっき僕はレジリエンスって言葉使いましたが、レジリエンスは何も地震だとかだけじゃなくてですね、やがてくるパンデミックもまた含めてね、そういう意味での社会としての耐久力っていうものをね、強めるところに、社会工学の新しい論点を迎えるつつあると思うので、脱炭素と、さっきレジリエンスって言った意味はそこにあったんですけども、この論点、ものすごく大事にしなごうですね、我々の議論に

生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

【村木委員】

ありがとうございました。

【寺島委員長】

ということですね、今日は今村さんが次にまわってくれるということになってですね、とりあえず今日の議事っていうところはですね、大変いい問題提起をしていただいたということで、今日の議論を締めくくりたいと思います。

進行を事務局にお返しします。

【事務局】

寺島委員長どうもありがとうございました。それではですね、次第2、「その他」ということで、事務局よりご報告いたします。

【事務局】

それでは、地域関係団体の参加につきまして、ご報告いたします。

前回、学識者委員のみで山下ふ頭と関係するような空間だけではなくて、もっと広い視点で、広域的な議論をしたほうがよい、といったご意見をいただきました。今回、委員の方々のプレゼンテーションや意見交換、それぞれの質疑、意見交換の中において、非常に大きな視点での議論ができたというふうに思っております。次回以降につきましては、地域との関連性が必要な議論をいただくことも予定しており、各地域関係団体の方々も次回から参加していただきたいというふうに考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日はどうもお忙しい中、長時間にわたりましてご意見いただきましてありがとうございました。

以上を持ちまして、この会を閉会させていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

| 第3回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 会議録 | |
|-------------------------|---|
| 日 時 | 令和6年1月12日（金）14時15分～16時00分 |
| 開 催 場 所 | 横浜シンポジア（産業貿易センタービル 9階） |
| 出 席 者 ※敬称略 | 石渡 卓 （神奈川県大学理事長） 今村 俊夫 （株式会社東急総合研究所代表取締役会長） 内田 裕子 （経済ジャーナリスト、イノベディア代表） 河野 真理子 （早稲田大学法学学術院教授） ※ウェブ参加 北山 恒 （建築家、横浜国立大学名誉教授） 隈 研吾 （建築家、東京大学特別教授・名誉教授） ※ウェブ参加 坂倉 徹 （横浜商工会議所 副会頭） 幸田 雅治 （神奈川県大学法学部教授） ※ウェブ参加 高橋 伸昌 （関内・関外地区活性化協議会 会長） 宝田 博士 （協同組合元町エスエス会 理事長） 田留 晏 （神奈川県倉庫協会 会長） デービッド アトキンソン （株式会社小西美術工藝社代表取締役社長） 平尾 光司 （専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事） 藤木 幸太 （横浜港運協会 会長） 藤木 幸夫 （横浜港振興協会 会長） 涌井 史郎 （東京都市大学特別教授） |
| 欠 席 者 ※敬称略 | 寺島 実郎 （一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長） 村木 美貴 （千葉大学大学院工学研究院教授） |
| 開 催 形 態 | 公開（傍聴者16人／記者20人） |
| 次 第 | 1 議 事 (1) 前回委員会後の市民意見等の説明 (2) 地域関係団体委員の挨拶・意見書の説明 (3) 事務局の説明 ・市民意見募集等のとりまとめ結果 ・ファクトシート「横浜市の現状」について (4) 学識者委員プレゼンテーション (5) 意見交換 2 その他 |
| 議 事 | 別紙 |
| 資 料 | 当日配布資料 (1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿 (2) 前回委員会後の市民意見等 (3) 地域関係団体 意見書 (4) 市民意見募集等のとりまとめ結果 (5) ファクトシート【基礎資料編】 |

第3回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 議事

【事務局】

これより、「山下ふ頭再開発検討委員会」を開催します。

私は、事務局を務めます、山下ふ頭再開発調整課長の荻原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

お手元の資料を確認させていただきます。次第、名簿、前回委員会後の市民意見等、地域関係団体意見書、市民意見募集等のとりまとめ結果、ファクトシート「基礎資料編」を配付しています。よろしいでしょうか。

開催に当たりまして、山下ふ頭再開発調整室長の新保よりご挨拶申し上げます。

【事務局】

皆様、こんにちは。室長の新保と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、お忙しい中、山下ふ頭再開発検討委員会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

はじめに、能登半島地震により亡くなられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、今回から地域関係団体の6名の方に、ご参加をさせていただいております。本当にありがとうございます。

また、今後の更なる議論の広がりに向けまして、事務局として本市の政策局の職員も参加をさせていただいておりますので、よろしくお願ひします。

本日は、次第にございますように、前回の委員会後にいただきました市民の皆様からのご意見の説明、そして地域関係団体、本日は2団体の委員の方から意見書のご説明、そして委員会の説明といたしまして、市民意見募集等のとりまとめの結果、そしてファクトシートとして「横浜市の現状」についてご説明させていただきます。

その後、学識者委員の皆様からのプレゼンテーションを行っていただき、最後に意見交換を行っていくという予定でございます。

本日も、これまでと同様、闊達なご議論をいただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】

本日の委員の皆様の出席状況についてご報告させていただきます。委員18名の内、Webでご参加の隈委員、河野委員、幸田委員を含め16名の皆様に、ご出席いただいております。なお、河野委員は1時間程度遅れての参加となります。よろしくお願ひします。

寺島委員長は、急遽ご都合によりご欠席との連絡をいただきました。村木委員もご欠席でございます。

委員長の代理につきましては、横浜市山下ふ頭再開発検討委員会条例第4条4項に基づき、委員長が委員の中から指名することとなっております。寺島委員長からは、あらかじめ石渡委員をご指名いただいておりますので、石渡委員に委員長代理をお願ひしようと思

います。

石渡委員長代理、恐れ入りますが一言お願いします。

【石渡委員長代理】

はい。皆さんこんにちは。今ご説明ありましたとおり、寺島委員長が急遽ご欠席ということでございますので、ご指名によりまして、私が本日の委員長代理を務めさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、どうぞ円滑な議事進行につきましてご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】

ありがとうございました。

本日のタイムスケジュールについては、議事（１）を３分程度、議事（２）地域関係団体委員の方々のご挨拶の後に、藤木幸夫委員、坂倉委員からの意見書のご説明を１０分程度ずつを目安に行っていただきます。

続きまして、議事（３）を１５分程度、議事（４）につきましては、学識者委員プレゼンテーションとして、今村委員、アトキンソン委員から１０分程度ずつ行っていただきます。

終了後、議事（５）意見交換を２０分程度行っていただきたいと思いますと考えております。

本日も、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料については、インターネット中継により配信されます。

なお、会議の様様を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、予めご了承ください。

これより先の進行は、石渡委員長代理にお願いしたいと思います。

石渡委員長代理、どうぞよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】

それでは、議事（１）に入ります。議事次第をご覧いただきながら進めてまいりたいと思います。議事（１）につきましては、前回委員会後の市民意見についてでございます。これにつきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

山下ふ頭再開発調整担当部長の竹内と申します。どうぞよろしくお願い致します。

では、前回委員会後にインターネットフォームに寄せられました市民意見について、ご説明させていただきます。

お手元の資料２をご覧ください。

委員の皆様には、事前に本資料をお送りさせていただいておりますが、１から２ページは市民の皆様のご投稿をまとめたものになります。３ページ以降は市民の皆様のご投稿をそのままつづいた資料となっております。

１ページをご覧ください。受付期間は前回委員会開催日の１１月３０日から１月８日まで、

意見数は39名の方から105件いただきました。なお、山下ふ頭再開発に関連しないご意見につきましては除外させていただいております。

「3 御意見の主な内容」をご覧ください。

「まちづくりの方向性」につきましては「みなとみらい地区との差別化を図るため、山手・元町・中華街の持つ歴史や文化を活用して、陸側とのつながりを意識すべき」「脱炭素・省エネが必須になるという学識者委員の主張は必要事項として議論すべき」「横浜のまちづくりの歴史を委員会でも共有し、先人の業績に学び、未来の市民にも誇れる都市づくりをすべき」などのご意見をいただきました。

「導入機能」については、「他の観光地との差別化を図るアイデアとして、鹿鳴館時代の衣装等で町ブラができる魅力的な空間」、「市民を増やすため、子ども専用のサッカー場や野球場、屋内競技施設など、子どもたちが繰り返し来たいと思わせる施設」、「みなとみらいの眺望など横浜港が一望できる飲食店や入浴施設、イベント会場などの集客施設」などのご意見をいただきました。

裏面をご覧ください。

「(2) 地域関係団体や市民の参加に関する御意見」については「地域関係団体委員についての6団体は適切な選択」、「経済界に限ることなく、地域住民の代表も含めて、広範な領域からの人選を考えるべき」、「様々な分野から、地元で活動している団体の声や市民団体の提案等の声を聞くべき」などのご意見をいただきました。

「(3) その他の御感想等」については、「自然とコミュニティが共生する都市づくりこそが、横浜の目指すべき都市づくりにという意見に同意」、「新しい価値観を尊重し、未来の世代のために再開発をすることが重要」、「優れた知見に基づくプレゼンテーションは視聴し甲斐があり、委員間のやりとりも面白い」などのご意見をいただきました。

説明は以上となります。

【石渡委員長代理】

今説明がございましたけれど、これにつきまして何かご質問・ご意見ございましたら、挙手の上、ご発言をいただきたいと思います。いかがでございましょうか。

Webの方もどうですか、よろしいですか。

【全体】

(発言無し)

【石渡委員長代理】

特にないようにお見受けいたしますので、これにつきましては、特段のご質問・ご意見がないというふうにさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

【全体】

(発言無し)

【石渡委員長代理】

それでは、議事（２）に入りたいと思います。

議事（２）は、地域関係団体委員のあいさつ、その後に意見書の説明をいただくということになっておりまして。本日新たに参加されました地域関係団体委員６名の皆様から一言ずつごあいさつをいただきたいと思います。どうぞ、着席のままごあいさつをいただきたいと思います。私のほうからご指名をいたしますが、６名の方お願いしたいと思います。

なお、藤木幸夫委員と坂倉委員につきましては、あいさつが終わった後に意見書の説明をそれぞれ順番にさせていただければと思います。

それでは順番にご指名をいたします。まず、横浜商工会議所の坂倉委員をお願いいたします。

【坂倉委員】

横浜商工会議所の副会頭を務めております坂倉でございます。当所では、商工業の発展に寄与することを目的として、明治13年に設立をされました。現在では12,214会員、令和5年11月30日現在でございますが、組織する地域総合経済団体でございます。山下ふ頭の再開発につきましては、当所では、去る令和4年6月20日、山中横浜市長に対して、山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に向け、取組に関する要望を提出しておりますので、本要望内容に基づき山下ふ頭再開発に向けての意見を述べさせていただきます。

続けてよろしいですか。

【石渡委員長代理】

一応紹介だけということで、後ほどご意見は別括りをお願いしたいと思います。

【坂倉委員】

そうですか、よろしくお願いたします。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。坂倉委員からの挨拶でございました。

続きまして、関内・関外地区活性化協議会の高橋委員をお願いいたします。

【高橋委員】

初めまして、関内・関外地区活性化協議会の会長をやっております高橋と申します。これで見ると分野はまちづくり団体ということですので、私は今横浜中華街発展会協同組合の理事長もやっております。この検討委員会に今回参加させていただきます。よろしくお願いたします。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。続きまして、協同組合元町エスエス会の宝田委員、よろしく

お願いいたします。

【高橋委員】

協同組合元町エスエス会の理事長を務めております宝田と申します。近隣の商店街代表ということで推挙いただきましてありがとうございます。今日初めてではございますけれど、どうぞよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。続きまして、神奈川倉庫協会の田留委員、お願いします。

【田留委員】

神奈川倉庫協会より推薦されました、会長をしております田留でございます。今後ともよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。続きまして、横浜港運協会の藤木幸太委員、よろしく願いいたします。

【藤木幸太委員】

横浜港運協会の藤木でございます、どうぞよろしくお願いいたします。

山下ふ頭は、我々も山下ふ頭が出来た当時から我々の業界が使わせていただいていた場所です。

それを大事に、市民の意見を聞きながら、我々も今後市に役立つような、港湾だけでなく、市の役に立つようなものになったらいいなというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。最後になりましたが、横浜港振興協会の藤木幸夫委員、よろしくお願いいたします。

【藤木幸夫委員】

藤木でございます、いつも色々お世話になってありがとうございます。港の関係で多くの先輩たちが、今もう我々のご先祖様になってますけれど、そういう皆様の思いも私の口からなんとか皆様にお訴えして、将来非常に明るい、難しいこと言い出したらキリがないこの時代に、横浜港は別だぞ、というような意気込みで、これから皆さんの力を頂戴したい。細かいことはご質問いただければ何でもお話させていただきます。後ほどよろしくお願いいたします。以上です。

【石渡委員長代理】

ありがとうございます。続きまして、今自己紹介が終わりましたので、これからは地域関係団体委員の皆様から意見書の説明を受けたいと思います。それぞれ10分程度という制限の中ではありますが、どうぞよろしくお願ひします。本日は6名の中から2名の方に意見書の発表をお願いしたいと思ひます。

初めに、この意見書の発表は藤木委員からお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【藤木幸夫委員】

話し出すと長い男なものでして、いつも演壇に立ちますと必ず3枚は「時間です」と紙をいただく男です。何分いただけるのでしたっけ。10分ですね。恐れ入ります。

港の話というのは、まず皆さん方に今、港の仕事というのはどの程度の社会的な貢献度があるんだということの色々と。それぞれの思ひは違ふかと思ひますが。

今から50年ほど前に私が初めて自分の仕事として、社会人として色々方々へ足を運んでいた時代がありましたが、東京の経団連に行つて、私は横浜の港の代表として行かせてもらつて、経団連のお偉いさん方がずらつと並んでいるところで、「港の仕事って実は大変なんですよ、皆さんハマのプー太郎呼ばわりしてるけれども、実はそうじゃないんです。私は港湾経済学会という学会の一員でもあるし、勉強している中でなんとかこの港の実態を知ってもらいたい。また、港の悪いところも知ってもらいたい。それに皆さんにお世話になりたい。」ということをお願いしたら、「あんた今、港湾産業という言葉を使ったけど、港湾は産業じゃありませんよ。」という若い職員の発言がありました。「港湾産業という独立した言い方はちょっと難しいのではないですか。産業という言葉をつけるなら、隷属産業ですよ。いろんなものを行っている、百科百般が日本の国は動いているけど、いずれにしてもただ運ぶだけなんだ。」と、「輸入するだけ、輸出するだけ、それが産業だなんて生意気だ。」というような意味のことを言ったんです。初めて経団連行つて、未だに取っ組み合いをやつたのは、私だけらしいですね。

そんな子供じみたことも経験いたしましたし、また反面、いろんな角度で、港で仕事しててよかったな、これだけ私たちを守ってくれているんだな、これはもうご先祖様の港で働いて、港で血を流し、汗を流し、そして亡くなつた我々の先輩たちが俺を守ってくれたな、というような場面もこれも数知れずございます。でも一番大事なのはやっぱりまとまりでしょうね。横浜市民の皆さんと、あるいは横浜のお役所の皆さんと、あるいはまた我々の生活圏を共にして、あるいは経済圏を一緒に担っている人たちと、一緒にこう何かできた時は嬉しいなど。

ベイブリッジができました。長い話は禁物だと思ひますが、一言で申し上げますと、ベイブリッジができたということは、横浜にはいろいろな新しいことはその都度ございましたけれど、これができた時に私は横浜港というのはイメージがガラツと変わったということになるわけですね。私もおかげさまで、10代の時代から外国の港を独り歩きさせてもらつて、あっちを見たりこっちを見たりしてフラフラしてきたんですけど、横浜港の特色というのはなんだって言うと、とにかく日雇いの人が大勢いる。京浜東北線に乗つかつて、終点は桜木町。桜木町行つてあそこで待ってるのは必ず「さぁ仕事あるぞ、こっちへ来

い、俺の会社へ来い。」という、そういう求人の人たちばかりがあそこに毎朝いた。そこへ私たちの会社が「今日の仕事はもう人が足りないから、もういくらお金払っても連れて来るのだ。」というようなことで、もう相場無しの労働市場がそこにできておりました。ですが、人間を用意して「さあ仕事だ」って時に雨が降る。仕事が当時ですからコンテナなんかありませんので、雨の中で荷役はできない。泣きました。一晩中みんな男泣きに泣くのですよ。苦勞して苦勞してお金を払って、私の先輩の年取った明治生まれの先輩たちが、本当に声を出して泣くのですよ。悔しいって、この雨が。という時代がありまして、報告するような中身とは違いますけども、いろんな苦勞がございました。今は夜中に雨の音がしても平気で荷役業者は寝ていられる、これだけでも幸せな思いをしております。

また、方々から問い合わせがあつて、例えば小学生、あるいは中学生、港の話をしろと。そこへ行ってはお話する。今日議長やっておられる石渡さんが今率いてる大学でも講演させてもらったこともございます。横浜の大学に入って新入生の、港の話を聞いてどんな感想を持ったかというスリップがたくさん来て、読ませてもらうとこれこそ誠に涙が出る。新入生ですから、横浜のことはあまり知らない、私が下手な話ですけども、いろんな話を面白おかしくいたしますと、横浜来てよかった、この学校入れてよかった、こんな素晴らしい港があるってことを初めて知ったという。想像していたり、今まで自分が理解していた横浜港と、今藤木のしゃべった横浜港と、こんなに違いがあるのかということで、横浜に住むこと、横浜の大学に入ったことを誇りに思うというようなスリップがありますと嬉しかったですね。

いずれにしても、今日このように中野局長が色々と旗を振っていただいて、横浜市として山中市長を始め、公務員の皆さんが横浜を再認識して、我々を集めてこのような会を持っていただいたことに感謝しております。お礼だけ申し上げてごあいさつを終わります。

【石渡委員長代理】

ありがとうございます。ちょうど10分でございます、ありがとうございます。
続きまして、坂倉委員からお願いいたします。

【坂倉委員】

商工会議所といたしまして、まとめた意見を申し上げたいと思います。山下ふ頭の再開発におきましては、横浜経済の活力をけん引し、将来にわたって持続可能な地域社会を構築するための新たな産業を創出することが不可欠であり、その中でも今後の成長が期待される観光産業の振興に寄与する再開発が重要であると考えているところでございます。

こうした前提を踏まえて、山下ふ頭再開発に関する6項目の意見について説明させていただきます。

まず初めに、横浜経済の核となる活性化拠点の形成であります。山下ふ頭の地区面積は47ヘクタールに及び、都心部に隣接した魅力的な立地環境と横浜経済をけん引する重要な役割を担ってきた歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、また横浜経済の核となるシンボリックな活性化拠点となるよう推進していただきたいと思います。

次に、山下ふ頭全体の一体的な再開発の推進であります。埠頭特有の地形を生かした一体的な再開発が重要であり、山下ふ頭全域を統一されたテーマの基に再開発することが不可欠であることから、みなとみらい21地区のように街区ごとに区切って再開発をするのではなく、山下ふ頭全体の一体的な再開発を推進していただきたいと考えております。

この次に、これまでの再開発プロジェクトにより得た知見を活かした魅力的な施設の導入であります。数々の再開発プロジェクトを推進して得てきた多くの卓越した知見を山下ふ頭の再開発事業に活かしていただくとともに、防災拠点、感染症対策拠点としての機能、さらにはカーボンニュートラルなどの新たな社会課題に対応する魅力的な施設を導入していただきたいと考えております。

次に、山下ふ頭周辺地区との相乗効果を発揮した賑わいの創出であります。元町や中華街、山下公園通りなどの特長ある、魅力や個性のある既存の商店街はもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部の各地区との相乗効果が発揮され、横浜の更なる賑わいの創出が図られるよう、推進していただきたいと考えております。

その次に、旧上瀬谷通信施設跡地等のまちづくりと連携した、市内全域の活性化であります。2027年に国際園芸博覧会が開催される旧上瀬谷通信施設跡地を含めた横浜西部地区の活性化には、都心臨海部との連携・強化が不可欠であります。山下ふ頭の再開発との連携と機能分担を十分考慮するとともに、都心臨海部と内陸部、さらには周辺地域との交通アクセスを強化して、市内全域の活性化を図っていただきたいと考えております。

最後に、横浜市財政に寄与する税収効果と外国人材を含めた雇用創出の促進であります。新たな産業の創出やインバウンド拠点を開発することによって、観光客やビジネス客の増加による交流人口の増加や雇用創出を図るとともに、顕在化する労働者不足に対応するため、特区制度を活用した外国人材の受入れの強化、さらには横浜市内内陸部には外国人材が居住するコミュニティを形成し、定住人口の増加による人口減少の抑制と税収効果を図り、持続可能な横浜経済を実現していただきたいと考えております。

以上が横浜商工会議所の意見となります。人口減少社会が到来する中、山下ふ頭の再開発は横浜経済の希望であり、持続的な成長・発展に不可欠なものだと考えております。当所といたしましては、ただいまご説明をさせていただきました6つの方向性に基づき検討が進められ、山下ふ頭の再開発が将来の横浜経済の活性化につながり、横浜市の財政基盤の強化に寄与するプロジェクトとなることを心から願っております。

以上でございます、ご清聴ありがとうございました。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。今新たな地区関係団体委員の中からお二方ご意見をいただきました。藤木委員におかれましては、総括的なお話でありまして、私の手元には実は15項目の箇条書きになったものが実はあるんですが、時間を配慮していただいて総括的なお話をいただきました。それから坂倉委員からは6項目、具体的に今意見書が出されましたけども、これにつきまして何か特段ご意見等がございましたら、挙手の上でご発言いただきたいと思います。いかがでございましょうか。

【全体】

(発言無し)

【石渡委員長代理】

今日はいきなり意見書ですから、これですぐにどうこうではないかと思しますので、こういったものが出されたということをもう一度記憶に留めながら、また皆さんで色々巡らせていただきたいと思います。特にWebの方も挙手がございますので、今のお二方の意見を伺ったところで、次に進めたいと思いたしますがよろしいでしょうか。

【全体】

(発言無し)

【石渡委員長代理】

特段無いようでございますので、議事の(2)につきましてはこれとして、次に移りたいと思います。

次の議事(3)に入ります。議事の(3)は事務局から報告をいただきますが、2つありまして、市民意見募集等の取りまとめ結果、そしてもう1つは横浜市の現状についてということで、これはスライドをもって説明していただきますので、それぞれ事務局の方から2つの項目について説明をお願いいたします。

【竹内部長】

はい、市民意見募集等の取りまとめ結果につきましてご説明いたします。前面のスクリーンに写し出す資料でご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも配布しております。

山下ふ頭再開発の新たな事業計画策定に当たりましては、三方を平穏な海で囲まれた広大な開発空間、優れた交通利便性等、山下ふ頭の高いポテンシャルを最大限に生かし、市民の皆様のご意見を反映させた、かつ事業成立性の高い計画とすることが必要と考え、2021年から2023年にかけて2回にわたり、市民意見募集、意見交換会及び事業者提案募集を実施してまいりました。その結果概要を第1回より順にご説明いたします。

はじめに、第1回市民意見募集です。再開発のイメージ、ふさわしい導入機能、再開発に取り入れる視点について、択一式アンケートを行うとともに、自由意見を伺いました。結果、3,700件を超えるご意見を幅広い年代の方からいただきました。択一式アンケートを集計したものが左の棒グラフになります。自由意見を分析したものが右の図で、ご意見が多かった単語ほど文字が大きくなっており、頻出単語を明らかにしております。再開発のイメージでは、海・みなど、国際性などをメインテーマとしつつ、文化や歴史、海と緑の調和などの視点を取り込むことも必要、ふさわしい導入機能では、エンターテインメントや水辺・親水などの機能を複合的に導入していくとともに、観光・交通の充実も必要、再開発に取り入れる視点では、持続可能なまちづくりなどの視点に加え、市民への還元、防災や環境対策の充実などの視点も必要といったご意見の傾向が見られました。

続きまして、意見交換会です。まちづくりのテーマ、ふさわしい導入機能について、ワークショップを行いました。4回開催し、幅広い年代の方に参加いただき、多くのご意見をいただきました。意見交換会において、付箋でいただいたご意見を分類、整理したものが下の図です。まちづくりのテーマでは、シンボリックな空間の創造と横浜の歴史や文化を生かしたまちづくり、子育て・教育にも配慮した市民のための再開発などのご意見、導入機能では、スポーツ・音楽等を中心とするエンターテインメント施設、最先端技術等を扱う企業・大学・研究開発施設などのご意見の傾向が見られました。

次に、事業者提案募集です。企業・大学等のイノベーション施設を中心とした提案として、キャンパス型オフィスなどを導入する案、大規模集客施設を中心とした提案として、国際展示場やマルチアリーナなどを導入する案、緑を中心とした提案として、緑や水素発電・浄化システムなどを導入する案をいただきました。また、開発に関する主なご意見等として、周辺地区の開発促進やアクセス強化などをいただきました。以上が第1回の結果概要となります。

第1回の市民意見募集では、「市民意見を反映し、その結果を踏まえ、広く事業者から提案募集をするべき」とのご意見をいただいたことから、改めて事業者提案募集を行うとともに、より具体的な再開発のイメージや導入機能などを伺うため、市民意見募集や意見交換会を行うこととしました。

第2回の市民意見募集では、第1回よりも具体的な再開発のイメージや導入機能などを自由意見で伺い、1,200件を超えるご意見を幅広い年代の方からいただきました。いただいたご意見を、「海・みなと」といったテーマだけではなく、「海や港の景色を眺められる」「船が停泊する」といった、より具体的なレベルで集計・分析したものがこちらの図です。類型化した意見をテーマごとに集積して色分けしており、意見が多かったものほど、面積が大きく表示されています。具体的な再開発のイメージとしては、「幅広い世代が楽しめる」「市民が利用できる」「自然が豊かである」などのご意見が、具体的な導入機能としては、「公園」「レジャー施設」「ショッピング施設」等のご意見が多くみられました。また、再開発のイメージや導入機能に関するご意見について、それを提案した理由との相関を分析したところ、「市の収益の向上」「人が訪れる」「周辺地域と連携する」などが提案の大きな理由となっていることがわかりました。

続きまして、意見交換会です。市民意見募集と同様に、より具体的な再開発のイメージや導入機能などについてワークショップを行いました。5回開催し、こちらも幅広い年代の方に参加いただき、多くのご意見をいただきました。こちらは再開発のイメージについて、グループから出されたご意見を多かった順に左上から並べています。「市の収益の向上」「横浜ブランドを創る・高める」「市民が楽しめる・利用できる」などのご意見が多くのグループから出されました。導入機能については、先進性やブランド力の向上等を期待して「学術・研究開発機能」、観光や市の収益の向上等を期待して「大規模集客施設」などのご意見が出されました。

事業者提案募集では、スポーツ・コンサート等のエンターテインメント施設を中心とした提案として、アリーナやコンベンションホール、マルチアリーナ、エンターテインメント施設などの提案、体験型テーマパークを中心とした提案として、陸上クルーズ船や文化体験

スタジオ、アミューズメント施設、展示館などの提案、国際展示場等の施設を中心とした提案として、大規模な国際展示場を核とした提案がありました。

最後に、これまでの市民意見募集・意見交換会で市民の皆様からいただいたご意見をまとめたものがこちらになります。まず「市民が主体」を趣旨として、「市の収益をしっかりと確保」、「市民が楽しみ、利用できるように」、「子育て・教育につながるまちに」といったご意見、「港ヨコハマの象徴」を趣旨として、「横浜ブランドを創る・高める」、「いろんな人が訪れるまちに」、「周辺地域との連携を」、「山下ふ頭のもつ特性を活かす」、「交通機能の充実で利便性の向上を」、「港町ヨコハマらしい景観づくり」といったご意見、「持続的なまち」を趣旨として、「持続可能なまちづくりで次世代につなげる」、「海や緑などの自然が感じられるまちに」、「防災や環境対策もしっかり」といったご意見をまとめています。こうした市民意見や先ほどご紹介しました事業者提案の内容を踏まえながら、委員会での議論を深めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

続きましてファクトシート【横浜市の現状】について、ご説明させていただきます。目次の5項目について、ご説明させていただきます。

まず、人口動態です。世界の人口は、増加傾向にあり、2060年には100億人規模に達する見込みです。アジアの人口も増加傾向で推移しますが、日本の人口は減少が見込まれ、2060年頃には1億人を割り込む見込みです。

横浜市の将来人口推計です。推計では、2021年に約377.9万人でピークを迎え、その後減少傾向にあります。全国と比べて人口の減少カーブは緩やかとなる見込みです。

横浜市の年齢区分別の人口推移です。年少人口と生産年齢人口は、減少が続き、高齢化率は、増加が続くことが見込まれています。これらから経済活力の低下、個人市民税の減少、社会保障費の増加が見込まれます。

地域別に見た横浜市の転入・転出者数です。全体としては、転入超過となっており他の道府県や国外等からの転入が多くなっています。その中で、東京都区部と川崎市は、コロナ禍前の2019年は転出超過となっていますが、2022年は転入超過となっています。

昼夜間人口比率・就従比率の都市間比較です。東京都特別区部、大阪市、名古屋市と比べると、横浜市の昼夜間人口比率・就従比率はともに低く、それぞれ100を下回っております。通勤・通学等で市外への流出が多くなっています。

横浜市の財政状況です。市税における税目別収入額の推移です。人口減少により個人市民税を中心に市税収入の減少が見込まれています。

主な税目別内訳の政令市との比較です。大阪市、名古屋市と比べ、個人市民税の割合が大きく、法人市民税の割合が小さくなっています。

法人市民税の推移と直近の企業誘致の主な実績です。法人市民税は2019年以前では、企業誘致などから収益増傾向となっています。以降、コロナ禍の影響や税制改正により減収となっていますが、現在は回復してきています。

一般会計歳出予算額の推移です。社会保障経費は、高齢化の進展とともに、2045年頃にかけて支出が増加する見込みです。

市民一人当たり一般会計予算額の政令市との比較です。大阪市、名古屋市と比べ、市民

一人当たりの予算額が低くなっています。

将来の収支差の見通しです。社会保障経費の増加や市税収入の減少により、今後、収支差が拡大し続ける見込みです。

横浜市の経済状況です。経済成長率の推移ですが、2020年度まで概ね全国と同様の推移をしています。国は、2021、2022年度とプラスに転じています。

日本の産業構造の変化です。グラフは経済活動別のGDP構成比です。第3次産業の割合は増加傾向で、近年では第1次、第2次産業の合計は3割に満たない構成です。

横浜市の産業構造の変化です。全国と同様に第3次産業の割合は増加傾向で、近年では第1次、第2次産業の合計は2割に満たない構成です。

経済関連指標における都市間比較です。東京都、大阪市と比べると、横浜市では、市内総生産や事業所数、法人市民税収入において、差があります。

観光実績についてです。2019年の横浜市の観光入込客数は約3,634万人でした。コロナ禍で急減した後、回復傾向となり、2022年は約2,922万人に達しました。観光入込客数を内訳で見ますと、日帰り客の比率が高くなっています。また、コロナ禍前の平均消費額では、宿泊客は約27,700円、日帰り客は約6,800円となっています。

神奈川県外国人宿泊者数です。全国、東京都、大阪府と比べ、外国人宿泊者数が少なくなっています。

交通ネットワークについてです。首都圏の広域ネットワークの一つとして圏央道があります。東名高速、中央道等の放射状に延びる高速道路等と一体となって広域的な幹線道路網を構成しています。

生活や経済を支える交通ネットワークです。

横浜経済の更なる発展と国内外からの人・投資を呼び込むため、道路や鉄道、港などの整備を推進しています。

資料の説明は以上となります。

【石渡委員長代理】

今2種類の資料で、資料5では市民の皆様からの意見をデータベースに落とし込んで字の大きいものというのが一番多いという形でイメージ図として表現していただいたものが説明されてきました。かなり幅広にということろで、資料として読み切りにはなかなか大変だと思いますが、意見をまとめたものは資料5の市民意見データベースのもの。その後はファクトシートと称して、市の実態、いわゆる人口動態であったり財政状況であったり経済状況であったり観光実績、交通ネットワーク等、まさに実際の数字、実数を基礎データベースにして表現したものであります。この2種類の説明がございましたけれど、これにつきまして何か個別にご質問等がございましたら、いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【北山委員】

いいですか。世界の人口動態なんですけども、アフリカを抜いた世界の人口動態を示して欲しい。世界の人口はまだ拡張していくと書いてありますが、都市化が進んだところで

は人口減少し始めてるはずです。特にヨーロッパ。アメリカは流入人口で増えてますけども、基本的には都市化が進んでいる地域は人口減少が進んでいる。文明がどのように変換してるか見ようと思うとその辺りを示していただいた方が分かりやすいと思います。

【竹内部長】

貴重な意見どうもありがとうございます。次回の委員会に際して、またそういった資料の方をご用意させていただければというふうに思っております。ありがとうございます。

【石渡委員長代理】

今、北山委員から要望がありましたので、また次回反映していただければと思います。今河野委員が入られましたけど、河野委員大丈夫ですか、聞こえますか。はい、よろしく願いいたします。他にいかがでございましょうか。

資料もまた読み込んでいただいて、まだまだ不足の分やら表現の仕方に問題があるとか、いろんなご意見もあろうかと思えます。読み込んでいただいた後、次の委員会等にまた反映させていただければと思いますが、何か。涌井委員どうぞ。

【涌井委員】

財政のところで、もしよろしければふるさと納税による流出額がどのぐらいなのか、それをちょっと教えていただきたいと思えます。

【中野局長】

よろしいでしょうか。

【石渡委員長代理】

お願いします。

【中野局長】

今ちょっと数字は持ち合わせていないんですけど、全国最大で50数億だったというふうに記憶しております。またこのデータも次回お見せさせていただこうと思えますので、よろしく願いします。

【涌井委員】

はい、ありがとうございました。

【石渡委員長代理】

ふるさと納税の支出の部分ですね。この負の部分表現してもらいたいということの要望でございます。他にいかがでございましょうか。Webの方どうですか、よろしいですか。それでは、今、北山委員それから涌井委員からの要望がございましたので、次回までに

反映をしていただきたいと思います。はい、どうぞ平尾委員。

【平尾委員】

人口の話伺いましたけども、もう1つ横浜にとって大事なことはやっぱり企業の数がどういうふうに動いてるのかと。これはアトキンソンさんが色々と発言されてるんですけども、企業数が増えてるのか減ってるのか、あるいはそれが産業別にどうなってるのか、ということ。それからもう1つは其中でベンチャー的な企業が、イノベーションを担うベンチャー的な企業がどういうふうな存在をしてるのか。この辺を少し教えていただきたいと。次回で結構ですけども。

【中野局長】

その辺の数字も次回お示しさせていただきます。先ほど流出額が50億程度というふうに申し上げたんですが、今ちょっと調べましたら230億ということでございまして、かなりの金額でございました。失礼いたしました。

【石渡委員長代理】

はいありがとうございます。今、平尾委員からは企業数の増減とその業種と、それからその中にイノベーション的な、ベンチャー的なものがどういうふうに分布されているのかということも調べて欲しいというようなご要望でございました。他にいかがでございましょうか。

この場においてでなくても、また何か各委員からご要望があれば事務局の方に要請をしていただいて、次回に反映していただければと思います。他に皆さんここに会場にいらっしゃる方それからWebの方でご質問・ご意見ありますか。よろしいでしょうか。それでは今のお三方からのご意見を次に反映させていただきたいと思います。

それでは次の議事、4番目に移りたいと思います。議事4番目につきましては、学識委員のプレゼンテーションということで、始めに前回時間の関係で延期になってしまったということもありますので今村委員からお願いをしたいと思います。その後、アトキンソン委員からお願いするという順番でお願いします。それでは今村委員よろしく申し上げます。

【今村委員】

今村でございます、よろしく申し上げます。今回のプロジェクトに関しまして、具体的なアイデアをこれから皆様と色々と検討してまいりたいわけですけども、その大前提として私からは都市開発の専門的な立場から近年の東京圏の都市開発の考え方や進め方について、過去と大きく変わった点について、その概略を話してみたいと思っております。

現在も日本の国内各地で土地開発が盛んに計画されております。東京都心部でも戦後高度成長期に急拡大してオリンピックの前後やバブル期に大量のオフィスビルや高層住宅、商業施設など開発されました。現在もこの図のように大規模開発は次々と予定されておまして、さらに今後50年程度まで計画があると言われております。

しかし、東京圏の都市開発は実は過去のもの大きく変わりつつあります。過去の都市開発ではその目的は人口の増加と経済成長の受け皿としてでありましたが、つまり増えた人口が働く場所、住む場所、楽しむ場所を開発し、提供し、その消費需要を含めて経済成長を下支えするものでした。また、都市開発の資金は自治体が市民から集めた税金、すなわち手元資金、自治体が発行した公債、つまり借金、開発に参加する国内企業の自己資金、そして銀行からの借金、それらを複合させることによって成立させるケースが多かったと思います。

しかし、こうした都市開発の目的や資金集めの方法はこれまでの人口増加時代であった頃だからこそ上手くいったものでありました。今から100年前、日本の人口は6000万人ぐらいでした。それからどんどん増えて、横浜市が都市開発6大事業計画を発表した頃には日本の人口は1億人まで急増しました。さらに増えて、現在は1億2000万人ですから、結局この100年でほぼ倍増したことになります。しかし、昨今の少子化に伴って、日本の人口はこの先100年後には4、5000万人程度に縮んでしまうという国の機関からのこうした推計が出ています。つまり、人口急増時代の都市開発と人口急減時代のこれからの都市開発では根本的にその目的や方法も変化していくということになります。

地域の定住人口が減っていくわけですから、これらの都市開発はその目的はビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、地域経済の活性化を誘発する、そうした都市開発、まちづくりが主流になってくるということです。都市開発の資金は人口減で市民税の税収がだんだんと減っていきますので、自治体財政の負担を軽減し、法人税などで税収増を補っていくような新たな仕組みづくりが必要です。20年前ほどから日本の不動産を国際的な投資商品として扱うことができるよう、いわゆる不動産の証券化の法的な整備が進み、海外からの投資資金が入ってきやすくなっておりまして、先ほどの東京都都心部の再開発でもこうした資金が積極的に活用されております。国際的な外部の投資資金を吸引していくためには、プロジェクトの事業性において、説得力ある開発ストーリーが最も重要になってまいります。

説得力がある開発ストーリーに向けて、今回の委員の先生方や関係者の皆様から色々とアイデアをご提供していただくこととなりますが、なぜ山下ふ頭再開発が完成すると国内外の人や企業を魅了し、吸引しうるのかを意識するのが大事だと思っております。横浜は東京都心のコピーである必要もありませんし、サブ的な存在ではないと思っております。東京圏1都3県の中で独自の立ち位置を築いて、他の都市と切磋琢磨して吸引力を競う、そういう観点が重要と思っております。

横浜には国際交流都市を先駆けた160年余の歴史がありますし、独自の都市文化、地理特性が備わっております。こうした独自要素のプロモーションはプロジェクトの開始を待たず、今からでも積極的に動き出すべきだと思っております。

こうしたストーリーに向けて、視野を広げていくことも重要です。これは、山下ふ頭は東京ドームの10個分、47ヘクタールありますから、これだけを集中して見ているとどうしても、この広大な面積の有効活用だけに注目しがちですが、もっと人工衛星くらいの目線で見ますと、前回寺島委員長と横浜市港湾局の中野局長のお話に関連しまして、東京湾の6つの港、2つの空港の機能全体を見渡して、物流や人の移動の役割分担の進化を見

たり、先ほど国際的な交流人口、インバウンドの吸引の話をしてきましたが、成田空港や羽田空港に到着された海外からの方々が色々な観光資源を参考はかなり広い範囲に積極的に移動され、様々な拠点を訪れることなども意識すべきでしょう。

羽田空港周辺を眺めますと、川崎市側の殿町というエリアにはライフサイエンスの環境分野の新産業創出する拠点が開発されていますし、西側の天空橋ではコンベンション施設を含む羽田イノベーションシティができています。また、北側の京浜島では大田区が次世代の産業拠点としての新しいまちづくりのビジョンを策定されています。

こうしたことを踏まえて、これまでの横浜港周辺での開発された各拠点や様々な観光の拠点との連携、また大黒ふ頭の近未来の開発、さらに扇島のJFEスチールさんの工業用地の今後の大規模再開発動向などなるべく視野を大きく見ていった形で山下ふ頭のより有効な活用策が見えてくると思っております。

例えば、東京では中央卸売市場が豊洲市場に移転しましたが、場外市場は築地にも残されて観光客で大変賑わっています。一方、場内市場の跡地には野球など多目的のスタジアムを持ってきて、ホテルや住居、オフィスを組み合わせるなどという再開発の案があるようです。そうした事例等もヒントにすると横浜スタジアムや中央卸売市場の場外市場の機能などを山下ふ頭に持ってきて、スポーツとフードの大きな横浜の名所にして市の内外から多くの人を惹きつける、そんな大がかりなアイデアも今後たくさん出てくると思っています。

これらは今回の山下ふ頭周辺の用途地域が示された図で山下ふ頭や大黒ふ頭は商業地域に定められています。横浜市全体の話になりますが、それぞれの地域にはこのようにこれまでの歴史的な経過を踏まえて土地の使い方、制度上の用途地域というものが定められています。しかし、この先の人口減少を迎えて横浜市の各地域ごとの未来の姿を長期的に再考していくことになろうと思っております。横浜市の財政は2029年度をピークに減少してまいります。今のうちにあらゆる対策を実行しなければなりません。特に横浜市自身が保有している市有地は部局をまたいで長い時間軸で考えられ、有効に再開発し、活用していくことで市の財政維持に貢献していくと思っております。その全体として、市全体のランドデザインの再整理を含めて、都市機能用途にあった入れ替えも行っていくべきでしょう。加えて、都市開発の一方で市域の7パーセントにあたる農業地域は2,900ヘクタール、山下ふ頭の約80倍あります。人口減少で農業の担い手が急減する中での横浜市の食料自給率のアップ、例えばDXを活用した収穫量の増大、営農型太陽光発電のソーラーシェアリングによる収支改善などの対策検討も市がしっかりとリーダーシップを持って進めていただきたいと思っております。

今後の都市開発による税収規模の維持については、これはイメージ図ですが、横浜市全体で長期的な都市機能のランドデザインの再整理を含めて市が保有する土地資産を積極的に活用し、国際的な都市資金を誘引する都市開発を実現させることで横浜市内に企業が増加して法人税が増加し、また交流人口も増加してお金を使っただけ。これによって税収規模が維持できて、インフラの劣化なども上手にメンテナンスできる。人口の減少による市民税の減収にも耐えうる。こういったフローを実現していくことがこれからの都市開発のあるべき形と考えている次第であります。

山下ふ頭の再開発をこのような大きな観点で捉えて着実に推進するためには、現在の港湾局さんだけの枠組みではなく、横浜市の各局が横断して連携する仕組みづくり、市の総力を挙げてのプロジェクト化が必要だと思っております。

あわせて、今後のプロジェクトの推進に当たっては市民参加と積極的な情報発信が重要という話を申し上げます。まず、市民の皆さんや関係者の皆さんが横浜市の一員として参加されますよう巻き込んでいく仕組みが重要であります。その上でメディアの皆さんにもご協力いただいて、プロジェクトの検討経過を積極的に対外発信し、社会全体の関心を集めていくことです。その過程で今回のように専門家の方々に多様な角度から最新の知恵を出し合っただき、市民の関係者の声から前向きなフィードバックを受けていく。ランドデザインに沿って事業の投資額の収入費用の想定シミュレーション精度が高くなったことでプロジェクトの成功確率が向上し、計画どおりの内容実現、スケジュールどおりの竣工と開業に向かっていきます。

全国の政令指定都市は20市あります。そのうち、横浜市が1番人口が多い市ですが、それに続く大阪市、名古屋市、札幌市、福岡市など今後の都市計画のモデルとなるよう、モデルケースとして参考になっていくと思っております。

以上、私からのお話は今後の議論を進める上での考え方をお示ししました。都市開発ではこうした出発点での大きな展望、大きな考え方の枠組みで皆でしっかりと共有することはとても大事です。

まとめですが、今回のプロジェクトの実現に向けて、横浜市全体での各エリアの都市機能を再構築し、山下ふ頭再開発の位置付けを再設定することを起点として、各局が横断したプロジェクトを作り市民の皆様とともに対外的な情報発信と企画精度向上を実現されることでプロジェクトの成功確率が高まり、全国の政令指定都市、多くの自治体のモデルケースになっていくよう期待するところであります。最後になりますが、山下ふ頭の再開発がトリガーとなって今後の人口減少時代における財政運営を中心としてお子さん、お孫さんたちの世代まで続く、あらゆる施策を立案、実行していることを切に希望いたします。私からは以上であります。

【石渡委員長代理】

はい、ありがとうございました。続きまして、アトキンソン委員からプレゼンをお願いしたいと思います。一部資料の差し替えをするようですので、少しお時間をいただけますか。今、データをパソコンに落とし込んでますので、OKですか。はい、ではコントロールキーをお渡ししますのでよろしく申し上げます。はい、お願いします。

【アトキンソン委員】

小西美術のアトキンソンです、よろしく申し上げます。多少話がダブるかと思いますが、お許しくださいませ。

私は観光の観点で今日発言をさせていただきます。国のインバウンドの委員会にたくさん参加させていただいていますが、そもそもそのインバウンド戦略をなぜやっているのかという観点から、まずそこからご説明をしたいと思います。それがここに出ていますよ

うに、人口減少に対応するためにできていると思います。

まず、日本の人口が大きくは減らないですけど、生産年齢人口が、全体の人口より大幅に減ります。すでに1995年のピークから2023年の間に1,402万人も減っています。これ全国の基準です。生産年齢人口は16歳から65歳までの人口を指すのですが、観光客の大半はこの年齢の人ですので、この年齢が大きく減ることによって、横浜市内の問題だけではなくて、実際に観光して来てくれる人たちの影響を受けることとなります。

しかし、この赤い線に書いてありますように、2023年から2060年の間にさらに日本の生産年齢人口が2,896万人減ると予想されています。併せて、4,298万人が減ることになります。消費ということになりますと大半の個人消費はこの人口ですので、40%ピークから減っていくことによって経済を支える最大の個人消費に大打撃を与えることとなります。

先ほどのご説明にありました全体の人口はそこまで減らないってところですけど、なぜかというところをご覧のように、大体90年辺りから高齢者の人口が倍増していきまして、さらに2020年辺りから高齢者の中で高齢化が進んでいます。ですから75歳以上の人口が2015年当たりから65歳から74歳の人口を上回るようになっていきまして、65歳以上の観光の流入はありますけど、75歳以上になりますと、観光する確率がどんどん下がっていきますので、全体の人口よりは今の現役世代と言われる生産年齢人口に注目するべきものだと思います。

それでなぜ問題なのかというところこの社会保障費の激増が問題になっています。1990年の時に、全国としては47兆円くらいの社会保障費の負担だったのですが、2023年は134.3兆円まで激増しています。これGDPに対して23.5%が経済から吸い上げられていて年金と医療費を中心に社会保障に充てられていますので、現役世代に対して相当の負担になっていることは間違いないです。

これを一人当たりで落としますと、1990年、生産年齢人口1人当たりに対して55.1万円の平均だったのですが、2000年で90.6万円、2010年で128.3万円、2020年で177万円まで増えています。2060年、今の社会保障金額を横ばいとした場合に304万円になりますけど、今までの伸び率からすると、おそらく400万を超えてしまうということになりますので、今の日本人の平均年収が420万くらいですので、ほとんど全部が税金でとられてしまうということに結論としてなります。

この中でどうすればいいのかというと、言うまでもなく人口を大きく増やすことはもう不可能になってしまっている中で、賃金を増やしていったってこの負担増に耐えるような形に持っていかなきゃいけないということが一番の問題になります。そうするとインバウンドのところでは日本人の人口が減ってきますので、地方の観光地にとっては日本国内の人口で維持することは不可能になっていって、問題になっていく、潰していくしか方法がないというような結論になることを避けるために、日本以外のところで79億人の外国人がいるわけなので、そのごくごく一部の人達に毎年来てもらふことによって、日本国内の観光客の減少を補填していくことができると同時に、よりその稼働率を高めていけるということで、インバウンド戦略が実行されてきました。

ただ、ご覧のとおり、1990年のインバウンドの外国人観光客は324万人でした。2011年、今現在のインバウンド戦略が始まる前の年までは836万人まで増えてはいます。要するに、

2.6倍に増えていますが、22年間に2.6倍に増えているだけです。で、ご覧のように2012年以降激増していきまして、2012年の836万人から2019年のピークで3,188万人まで増えています。要するに22年間で2.6倍、平均して毎年4.4%の増加だったものが、7年間で3.8倍、年率で21.1%の増加に上がりました。手前味噌ではありますが、当事者の1人としてなぜこうなったのかということはこの再開発に十分参考になるんじゃないかと思うのです。

要するに実際の観光魅力としてはほとんど何も変わっていません。いきなり4倍になることはありえません。何が起きたかということ、観光の考え方を根本的に変えました。その第一が、この時代の前までは観光は世界平和のためであると、光を見るための産業であるということが言われていたのですが、それだと外国人は来ません。歴史・文化を中心としたものではあったのですが、歴史・文化というのはそんな魅力があるわけではないのです。そうするとこれをビジネスに変えまして、観光の魅力はなんなのかと徹底的に分析した結果、インフラ投資と整備を中心としたもので多様なアピールをすることに変わりました。歴史・文化を中心としたものではやっぱりあまりにも多様性がないもので、そんなに惹き付けるような、先ほどの話ありましたような、魅力はありません。その時に、都市の文化、要するにショッピングであって、ナイトライフであったり、あとは和食にとどまらない日本の食文化、それにアクティビティ、日本の国立公園を中心とした素晴らしい大自然、ビーチ、山、スキーとか、ハイキングとか、いろんなアピールをすることによって、たった7年間で4倍にすることができたのです。

もう1つあるのは、その時は例えば文化庁の内部の組織を見れば分かりますように、昔は例えば文化財の保存がメインだったのですが、今組織改革をした後に、今観光資源の保存と活用が資源活用課というところまでできてきて、やっぱり両輪にしないといけないということで、同じことで、保存だけではなくてやっぱり活用することによって、独立かつ持続的な採算がとれるようなやり方に切り替えています。

その1つで、宿泊をどう考えるかという先ほどの話ですが、観光収入の半分は宿泊と飲食です。どうやって宿泊させるのかというのは最大のポイントでありまして、横浜も奈良市もそうですが、別のところに近い、宿泊してもらえない、要するに日帰りだけをするということは、観光客の数は来ますが、経済にはほとんど貢献しません。そうすると、宿泊をどうやってさせるのかという戦略に切り替えなければいけないわけなので、例えば奈良市の場合は交通の便が横浜同様あまりにも良すぎちゃってみんな日帰りをします。それで観光戦略の一つとして何をしたかということ、1番最初の電車は8時半に着きますので、8時半の前に開催するイベントを作ったりすることで前泊しないと参加することができません。こういうずるいことも考えなきゃいけないことも事実としてあります。観光戦略を考えるに当たって、宿泊施設をどうするのか、あとどうやって宿泊させるのかということを戦略的に考える必要があると思います。

結論から言うと、常に人が集まる施設にしなければならない。魅力を高めることによってどうやって宿泊してもらおうのかということ、最初から徹底的にそれを考える。そしてその次にありますような付加価値の高さを重視する。人が来て日帰りをするだけではゴミだけ落とされて、お札を落としてもらえない戦略はほとんど何の意味もないと思いますので、やっぱり付加価値の高い開発をしなければならない。

その次としては、築地の再開発の委員会もさせていただきましたけど、まとまった土地がなかなか日本国内に出てきませんので、もう何十年に1回しかチャンスがないわけなので、人口減少の話をした理由がそこにありまして。まとまった土地を再開発する時に40年先、50年先のことを考えた上で再開発しなきゃいけないので、短期的な目線でやって、後でまたやればいいっていうことで、そういう考え方はやはり難しいというか、しないことだというふうに思います。

国内外にとって魅力的な施設であるということなのですが、インバウンド戦略をやっているうちに、観光客のために必要なものであって魅力的なものであることを言っていますが、そういうところはインバウンドのためだけということ批判されることがありますが、実は今までインバウンド戦略でやってきたインフラ整備や投資は、それ以上に実際に活用しているのは実は日本人です。ですから外国人に魅力的なものというものは、国内にも魅力的なものなので区別する必要があまりないということで、国内外にとって魅力的なものであるというふうに思います。

先ほどの市のプレゼンにもありましたように、今の時代で人口減少することによって、これ一番ポイントなのですが、人口が減っていく中で経済を維持していくために何が必要なのかというと、地元の賃金を上げるしか方法がないのです。人が減っていったら税収が減って欲しくないということであれば、賃金を上げてもらって、その分だけ税収が増えるわけなのですが、どうやって賃金を上げるということが一番大事なのです。宿泊のこともそうなのですが、先ほど申し上げたように、ゴミだけ落とされて県内の賃金が上がらないような観光戦略というのは私としては無意味なものだと思います。そういうふうに考えると、財政の負担にならないように貢献してもらうことも含めて考えるべきものであって、それどういうものかっていうことはこれからの議論なのでしょうけど、県民の賃金をどうやって上げるのか、そのために何が必要なのかということをも最大の焦点にしてこの再開発を進めるべきではないかと私は思います。以上です、ありがとうございます。

【石渡委員長代理】

ありがとうございます。今お二方からプレゼンがございました。お2人共通しているところは、人口減少は避けて通れないという中で、またそれから高齢社会というところ、それをもとに今村委員からは都市に向けての再開発のご意見、それからアトキンソン委員からは観光とそれから賃金を上げるということで具体的な収入についてのものと、それから財政に貢献していかなくちゃいけないとか、まとまった土地をこのように50年先を見据えてというような、幅広ではありますけど、1つの参考になる意見をいただきました。さて、この2人のプレゼンをいただきましたけど、何か皆さんの方からご質問やご意見ございますでしょうか。

それでは北山委員、どうぞ。

【北山委員】

今村さんの方から、問題の枠組みについて非常に大事な話がされたと思います。今、山下ふ頭の検討委員会をやってますけど、山下ふ頭だけの話ではない、もっと広域の問題で

あると。横浜市の問題としては、郊外の農地がかなりあって、特に介在農地になっている、そういうところに都市型農業の可能性があること。それからエネルギーの話もされましたけど、市の財政を考えていく時にこの山下ふ頭に何かを負わせて考えていくというのではなくて、市全体のもっと広域の問題として捉えていこうという、そういう枠組みの話があったと思います。これは非常に大事なところで、山下ふ頭の開発で市の財政が良くなるかそういう話をする場所ではないと思います。

もう1つは建て付けの問題で、検討委員会を今港湾局がやっているわけですけど、港湾局だけでやってもダメだろうという話がありました。これは都市の問題ですから、市全体の問題ですし、広域の問題なのです。かつては横浜市には企画調整局というのがあって、部局を横断して都市の問題を解決していくというような、そんな部局を作っていました。そういう意味では、今回は港湾局が担当部局になっていますけど、そこだけでやっていくとファクトデータも全部港湾関係になりますし、今回地域関係団体の方を呼ばれるというのもこれも港湾局の方で考えられたと思いますが、やはり港湾関係の方がやはり大きい場所を占めてくるような気がします。そういうこの会議自体の建て付けの問題も今村さんからされていたと私は思いました。

それと人数が今回から地域関係団体の方が6名増えて16名に増えてます。人がちゃんと議論できるのって10人以内であるという熟議の民主主義という概念がありますが、人数が増えてくると議論ができなくなる。僕は地域関係団体の方が議論することはとてもいいと思いますが、それは別の委員会であってよい。そういう検討会があると同時に、他にも広域の方の委員会もあってよい。この横浜のインナーハーバーに関しては、いろんな関係を持って横浜のイメージ・アイデンティティを作る場所ですから、重要な場所です。そういう場所をどうするかという問題をもっと広域に話ができるような会議のシステムが必要じゃないかと思いました。

今村さんの話を伺いながらそういうふうに思いました。ただし、今村さんは東急総合研究所なので、渋谷の巨大再開発をやられていますけど、これが人口減少時代の都市の作り方に本当に合致するのは疑問です。容積を異常に増やして巨大なものを作ってますけど、人口減少する時代にあんなことをやっているといいのかなんていうのは個人的には思っています。

【石渡委員長代理】

ありがとうございました。いろんな時代の流れでフェーズがありますけども、時の流れと現実、リアリティの流れがこうマッチングしていない分、錯誤、錯綜する部分もあるかとは思いますが、今北山委員からは今後の進め方、取り組み方についてのフレームワークみたいな話もありましたので、この辺もまたご一考いただければと思います。

他にいかがでございましょうか。

【藤木幸太委員】

いいですか。

【石渡委員長代理】

はい、どうぞ。

【藤木幸太委員】

今、北山委員のお話の中で、やはり地元ですね、これがあまりこう委員会の中に多く入るのはけしからんというようなお話を伺ったんですけど、例えば我々港湾が多いのは当然今まであそこを使ってた人間として、出していただいているわけですけど、決してそこで利権を主張したりそういうことは北山さんございませんので。むしろ今、今村委員とかデービッドアトキンソン委員に伺ったようなよりグローバルな、それと新しい社会に合致した、こういう開発を我々望んでますので、ぜひその辺は誤解のないように思うんです。

【北山委員】

僕、別にけしからんと言ってるわけではございませんので。

【藤木幸太委員】

それともう1つ、とてもこれはポイントなんですけど、どうも今まであそこカジノってことで注目を浴びた場所なんですよ。そのカジノをどうするかっていうんで8人も市長候補が出て、横浜市を二分するようなことになりまして。本来そんなことじゃなくて、むしろ飛鳥田市長が昔おやりになったような6大計画とか、そういうものをしっかり歴代の市長が作るべきだったんですよ。で、歴代市長は飛鳥田市長が出された6大計画、これをしっかり1つずつ消化して、見事に成し遂げたと思うんです。その次、中田市長の時代にランドデザインをもう1回やらなきゃいけなかったんです。その時に港が例の150周年記念というのをやって、これで新たな100年後の横浜港の姿なんていうのを書いたんですけど、これも本当に絵に描いたような餅で、何も実現なんかしないようなものを描いたわけですね。そうじゃなくて、今回はランドデザイン、これは先ほど委員の方、皆さんの口から出てますけど、やはり横浜の、横浜港あるいは横浜市全体のランドデザインをもう一度しっかりこの委員の方たちの知見をお借りして、しっかりと議論していただきたいと私はそう思っております。その中で、特に港湾だけに関して言えば、今あのエリアはインナーハーバーと呼んでおりますけど、このインナーハーバーは例の瑞穂ふ頭なんかもあるわけで、この接続解除の問題、こういうことも横浜市は全然積極的にやってないんですよ今まで。こういうことも含めて、やっぱり市が全体で何を目標にしてやるかっていうことをもう少し一体的にやっていただかないと、特に瑞穂ふ頭があれば、じゃあカジノをやるんだったら瑞穂ふ頭でやってもよかったわけですし、やはりどこで何をすべきかっていうランドデザインがないと、山下ふ頭の話だけでどうしてこんなここにこれも欲しいあれも欲しいってことを言うんでしょうかね。その中で一番気になる言葉は効率化ってやつなんです。効率的なものはあの47ヘクタール、たかが47ヘクタールで効率的にしたいと、ホテル作りたとかいろんな話出てきますよ。そうじゃなくて横浜全体の、さっきデービッドさんおっしゃったように、横浜全体のブランド価値を上げる、ここで泊まらなきゃいけないぐらいのものにするというためには、例えば山下ふ頭を1つの公園にしちゃって、もう

鎮守の森を作って、それが将来の横浜に全体的に寄与してくるんだというようなものを考えると、そういう話をぜひこの委員の方に意見としてお出しいただきたいと、こういうふうに願っている1人でございます。

【北山委員】

今お話がありましたけれど、ここのテーマが再開発検討委員会になっていますけれど、再開発ではなく、開発をしないという提案もあるはずなんですよね。これはネガティブマスタープランという概念があって、ここに建物を建てさせないというような、そういう計画をするというのがあります。

実は横浜の港の見える丘公園っていうのが、山下ふ頭の前にありますけど、あそこから港が見えなくなったら、港の見える丘公園はどうなるんだっていうことになりますよね。あれはちょうど高さ40mくらいのところにあると思うんですけど、それは横浜市が1970年代に都市デザイン室で視点場、ヴィスタコリドーとヴィスタポイントっていう、どこから何が見えるかっていうことをやってきたんです。

それは何かを作るという計画ではなくて、何かその視線がちゃんと通る、何かが見えてるということが大事だという都市デザイン思想で作られてる不思議な都市なんです。

それを忘れないようにしてほしい。だから特に港の見える丘公園から見た時に、港がちゃんと見えるようにここには作らないようにしようというようなことを決めるってことはあると思います。

【アトキンソン委員】

いいですか。

【石渡委員長代理】

はい、どうぞ。

【アトキンソン委員】

今まさにお話にありましたとおりで、観光の観点から言うと、今、幸太さんがおっしゃったように、前は点として観光が考えられたっていうことと、情報発信だけで考えてるっていう傾向が非常に強かったんです。そうすると、大河ドラマを誘致すればなんかいいことがあるような妄想があったりとか。またはここだけを集中的にそれで開発すればいいっていう考え方があったんですけど。今の話にもありましたように、実はそういうのは何の魅力もなく、宿泊をしてもらうということになると、周りにある施設・設備を全部分析して、近いところにどういうところがあって、もうダブらない、補填していく、そのプラスの考え方でブランドを作っていくっていうことは言うまでもないのです。ですからいろんな東京都心で見ると、またなんか高層ビルでまたなんかいろんな施設やっても全部ダブってるじゃないのっていうことがあるんですけど、都心であればあるほどできるかもしれませんが、それは外の人間をこうやって内部に引っ張ってるだけで、それはやっぱり都心だからこそできるっていう話なのです。

地方の観光地を見てみますと、やっぱりいくつの種類の観光の施設がないといけない。またそういうのは連携をしてないと結局それで誰も来ないっていう問題があります。

簡単に言えば、例えば奈良県で今までやってきたことと、今、京都府を見ると、京都の方が圧倒的に人が来るんですけど、30分しか離れてない奈良にはそこまでは人は来ていなかった。

文化財の専門家からすると文化財的には奈良の方が上なんです。だけど、人が来るのは京都。なぜ京都なのかというと食の文化があって、ナイトライフがあって、買い物があって、1つのところにいろんなものが揃ってるから人が来る。

あと交通の便が意外に悪いという、新幹線が9時半で終わっちゃうとかですね。いろんなことがあって、うまくそこで恵まれてるんですけど、残念ながら戦略的に作られたことではないということを申し上げておきたいです。

ですから今回はそういう意味では、さっきのご指摘にありましたように、周りに何があって、どういう総合関係でどういう相乗関係ができるのかっていうことを十二分に考えた上でやらないと、ただ単に他にもあるようなこと、もう少し北の方にあるようなものをもう1回作っちゃうということになると、私は失敗すると思います。

【北山委員】

横浜の都市デザインは、これまで元町も、地元の商店街と市が共同して独特の街を作る。それから馬車道も馬車道の商店街とその住人と一緒に共同して作っていく。特色のあるものを順番に作っていくと。同じような商店街は作らない。伊勢佐木町も違う、伊勢佐木モールもまた別のアイデアでしかもそこで営んでる人たちが作っていくという作り方をしています。

横浜市の中は今、画一的な都市ではなくて、モザイク状のいろんな興味のある面白い街ができてきている。それをみなとみらいが実は壊したんじゃないか、みなとみらいという新しい都市開発は横浜らしさを壊してる可能性もある。今回はその横浜らしさを壊さないように本当に気をつけて、どこにでもあるようなガラスのカーテンウォールのビルを作っちゃうようなことは絶対やっちゃいけないと私は思っています。

【アトキンソン委員】

もう1ついいですか。

【石渡委員長代理】

はいどうぞ。

【アトキンソン委員】

ただ、観光戦略の深き部分にまで関わらせてもらった中で、もう1つあるのは、財政に悪影響を与えないということを指摘しました。やっぱり多くの今までの観光施設の、要するに経済合理性があまりにも軽視、無視されてきた形でやってきたわけだから、人口減少

って何なのかって、経済合理性をさらにさらに求めなきゃいけないっていうことを意味していることを申し上げておきたかったのです。

その経済合理性を十二分に考えた上で、経済合理性のないもの要するに市の財政に悪影響を与えるようなことだけは避けた方がいいんじゃないかというふうには思います。

例えばなんですけど、私が直接的に今まで関わってきたところで、京都二条城、あと新宿御苑、または赤坂迎賓館とか。いろんなどころの今まで整備をやってきたんですけど、そういうところでどうやって、どういう整備をすれば、その施設は独立した形で要するにどういうプライシングでどういうインフラ投資をすれば、自立ができるかっていうことを今まで測ってきたのです。

で、これがやっぱり言われるほどの難しい話ではないんですけど、今まではあんまり考えられてこなかったから結局悪循環になっていて、京都二条城の場合ですと市の負担になっているので、毎年毎年それでその予算が削られていって、どんどんどんどん人が来なくなって、人が来ないからまた予算が削られていって、またシャビーのものになってしまっていて、また悪化するようなことだったんですけど、徹底的に整備をする代わりに、入場料をドンとあげていって。その時に委員会で言われたんですけど、人が来なくなるよって言うこと言われたにも関わらず、来る人は実は3倍になったっていうこともあって、日本第2の人気のお城に変わっちゃったっていうことがあります。

やっぱりこの経済合理性を一定に保つような形じゃないといけないと私は思います。

【北山委員】

経済は絶対否定できませんが、都市っていうのは人が住んでる場所ですから。住人のための都市っていうのが1番最初にあるべきです。投資されること、それからインバウンドのために都市があるわけではなくて、プライドのある魅力的な都市であれば、そこに結果として人々も訪れるという、そういう状態になると好ましいと私思います。

【アトキンソン委員】

ただそのインバウンドのためっていうことは、私は申し上げてるわけでもないし、市民のためではないということを申し上げてるわけではありません。

【石渡委員長代理】

はい。予定した時刻はまあ45分で5分経過しておりますが、会場の都合もありますけどあと30分ぐらい使えると思いますので、もう少し延長して議論をさせていただきたいと思います。

藤木幸夫委員。

【藤木幸夫委員】

はい。議論がいい方向に入ってきましたね。アトキンソンさんと会うたびに話をするのですよ。しかし今この会合があって、もう本当に山下ふ頭のための会合なんですね。これは林さんの2回目の選挙の時に、林さんが、ある神奈川県下の市長選挙で、カジノが賛成

か反対かになって、調べたらカジノ持ってきたら落とすというような団体まで生まれて。これ横浜じゃありません。

で、林さんが顔色を変えて、横浜で私はどうしようかというお話、まあ私にも相談がありました。反対しなきゃだめですよ、と。でも反対ということはまた、色々差し障りがあるから、白紙ということにしたらどうだと。選挙は白紙で通ったのですよ。それで林さんが当選したのです。で、その白紙という言葉を選挙では使ったけども、本当の公約の中には入れてなかったの。これはある時はっきり言おうと、8月の22日に、たまたま3年後の投票日だったのですが、記者会見で、横浜港でカジノ反対という市民運動が起きてる、密かにこれが、だんだん日に日にでかくなっている、これは放っておくと大きな運動になりそうだと、ここではっきり横浜市長選挙で私は態度を表したいと。そこで使った言葉が白紙なのです。だから白紙以外にあの時使う言葉がなかった。それで選挙に臨んだ。で、勝った。そしたら横浜市民の皆さんはもう署名・捺印。捺印ですよ。捺印までして、もう20万人の人が反対を発表して、それを新聞が書きちゃったから、それから騒ぎが始まって。

ところがその時に密かにアメリカ政府から日本の官邸にどんどん電話が来ていたり、話があって、これはうんと後ほど、ホワイトハウスから私は直に聞いた話です。あの時はそんな辛かったのか。で、私の名前も私の写真も向こうのテレビにじゃんじゃん出たそう。反対派のこれは悪い野郎だと。だから私は遺書を書きましたよ、遺書。まだその遺書あります。あれは書いていて気持ちいいものじゃないですね。

でもそのぐらいの覚悟でなければ。相手はアメリカ政府だ。条件は何だ、と。徴兵制度が条件なのです。これはもう経済問題ではない。横浜の問題ではないなということ。

今私はここでこんなこと言っているのは、この会議が今日は横浜市民の方に中継されてるそうですね。これをご覧になってる横浜市民の方が大勢いらっしゃる。これはあからさまに言います。8月22日のあの普通の記者会見で林文子が白紙だと言ったことが、これが失敗の始まり。

じゃあその白紙ってどういう白紙なのって、先は分かりません。ただ市民運動の方だけが熱が出て、私はどっちの肩も持っていません。けども、忙しい日々が私は続きました。

そして今横浜は真っ二つですよ。商工会議所の今日は、会頭があれで、というお立場で、今日はありがとうございました。あなたが来てくれて。会議所と口聞かなかったのでもんな俺は、ずっと。横浜の人間関係まで崩れちゃったのですよ。だから元へ戻す大変い会がこの会なのだ。これは今日ここで結論が出るわけではないけど皆さん。この会を長続きさせていただいて、私みたいにこうやって黙ってられないから、全部喋ってしまう男がいますからね。これからも喋りますから。

ぜひ横浜の人間関係、あるいは商店街同士の関係、あるいは業界同士の関係、あるいは経済団体同士の関係、これが今乱れているから、横浜の不幸です。で、幸いカジノは、アメリカは諦めました。今、中国の習近平さんだけは自分のとこの足元だけを修正したけど、あとはみんな潰れていますね、どんどん。情報は毎日のように、私は今でも入っています。

この会はとってもワールドワイドの会ですよ。ここであえて、だから今半分本当のこと言っちゃったけれども、皆さんこれ真剣に、横浜市民の幸せのためにお願いします。私も年が年ですから、すぐ今の世の中をさよならしたら港のご先祖様の方へ今度移ってきますから。よくいい報告するために私はあっちへ行きたい。よろしくお願いいたします。

【石渡委員長代理】

はい、ありがとうございます。

【藤木幸夫委員】

中間報告です。

【石渡委員長代理】

はい。なにか、くしくもまとめのような話に、雰囲気になりましたけど。何かまた皆さんもう少し時間がありますけども。いかがですか。

【藤木幸太委員】

ではもう1つよろしいですか。

【石渡委員長代理】

はいどうぞ。

【藤木幸太委員】

今色々、とにかくあの藤木幸夫委員の方は全くこの開発からだいぶ逸脱した話になっておりましたが、でも大きな意味で言えばこの横浜市のあり方って言いますかね。今まで私も市のいろんな委員会に出していただいて。で、東京からいろんな方が学識経験者の方とかいらして、そういう会に出て話を聞くのですけど。横浜市が、これ市の悪口になったら申し訳ないと思うのだけど、市がきちっとフィードバックしてなかったように思うのですね、港湾のことについても。

そういうのをこう考えてみて、今回のこの案件については、やはり横浜市さんが先ほど皆さんの話伺ってても、やはり縦割、これが良くないと。もっと一括してやりなさいというような…

【藤木幸夫委員】

お話中悪いけど、みなとみらいは、あの開発はすごい失敗作だよ、あれは。その二の舞、それをまたやろうとしているのだ、今。あれは失敗作。携わった役所と携わった人間はみんな立派だけれども、全体から見たあのプロジェクトは、俺は失敗だと思っている。以上。

【藤木幸太委員】

その失敗って、全て100%成功は私ないと思っいて。

【藤木幸夫委員】

いいのは名前だけ。

【藤木幸太委員】

ですから、みなとみらいはそれなりにきちっとできていると思うのですが。とにかく私が申し上げたいのは、どんなに立派な方がどんな発言されたり、どんな立派な市長がいても、やはり市会だとか県会だとか、横浜だと市会ですけど。この先生たちが背後になんかいろんな人がいて、いろんな力がかかって、これを通せと言われると、それが通ってしまうのは本当に不思議なのですよね。

【藤木幸夫委員】

いや、あれ手先だから奴ら全部。

【藤木幸太委員】

とにかくそれを、やはりこの委員の方たちに、せっかくいろんないい意見をいただいたら、やっぱり市の方がそれを、市長始め、今日局長もいらっしゃるけど、やっぱりきちっとした方向でこれをまとめていただきたい。これは強くお願いしたいと思います。

【石渡委員長代理】

はい、ありがとうございます。今日は意見交換の中で、北山委員それからアトキンソン委員、それから両藤木委員からご意見いただきました。これは今後の進め方について大きな示唆があると思いますので、もう一度やはり横浜の独自性を発揮しつつも、経済合理性も発揮しつつも、やはり市としての全体バランスを取らなきゃいけないと。

で、この山下の当該地域だけでどうこうではなくて、やっぱり全体バランスを考えて進めていかないと、後世で振り返った時に、この時の委員会のあれがなんだというふうに言われなように。むしろこの時の委員会こそ、これがあって横浜全体の未来を振り返った時に今日があるなど言ってもらえるようなものにしなきゃいけないのかなという感想を持ちました。

時間も時間なので、まだご意見ございますか。

【全体】

(発言無し)

【石渡委員長代理】

もしよろしければ今日はここの部分で一旦閉じさせていただいて、今貴重なご意見いただきましたので、要請事項も含めて、そして今後活発なご意見をいただきながら、やはり小さな目線でやらずにもっとグローバルで、将来を見据えた形で意見交換ができるよう

に、そして全ての人がやっぱり腹落ちするというか、これなかなか難しいんでしょうけどね。100%は難しいでしょうけど、まあ違った意見が様々あった中で腹落ちするようなものにしていければと思いますので。また次回よろしくお願ひします。今日のところはちょうど4時になりましたので、本日はこの議事を閉じたいと思います。進行を務めさせていただきましたけども、今後の方は事務局にお返しをします。ご協力ありがとうございました。

【事務局】

石渡委員長代理ありがとうございました。本日はお忙しい中長時間にわたり意見交換いただきまして、誠にありがとうございました。次回の開催は春頃を予定しておりますが、詳細については後日お知らせいたします。以上を持ちまして閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

| 第4回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 会議録 | |
|-------------------------|--|
| 日 時 | 令和6年7月12日（金）10時00分～12時00分 |
| 開 催 場 所 | 横浜シンポジア（産業貿易センタービル 9階） |
| 出 席 者 ※五十音順 ※敬称略 | <p>石渡 卓 （神奈川県大学理事長） ※ウェブ参加</p> <p>今村 俊夫 （株式会社東急総合研究所代表取締役会長）</p> <p>内田 裕子 （経済ジャーナリスト、イノベディア代表）</p> <p>河野 真理子 （早稲田大学法学学術院教授）</p> <p>坂倉 徹 （横浜商工会議所 副会頭）</p> <p>幸田 雅治 （神奈川県大学法学部教授） ※ウェブ参加</p> <p>高橋 伸昌 （関内・関外地区活性化協議会 会長）</p> <p>宝田 博士 （協同組合元町エスエス会 理事長）</p> <p>田留 晏 （神奈川県倉庫協会 会長）</p> <p>デービッド アトキンソン （株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）</p> <p>平尾 光司 （専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事）</p> <p>藤木 幸太 （横浜港運協会 会長）</p> <p>村木 美貴 （千葉大学大学院工学研究院教授）</p> <p>涌井 史郎 （東京都市大学特別教授）</p> |
| 欠 席 者 ※五十音順 ※敬称略 | <p>北山 恒 （建築家、横浜国立大学名誉教授）</p> <p>隈 研吾 （建築家、東京大学特別教授・名誉教授）</p> <p>藤木 幸夫 （横浜港振興協会 会長）</p> |
| 開 催 形 態 | 公開（傍聴者19人／記者19人） |
| 次 第 | <p>1 議 事</p> <p>(1) 前回委員会後の市民意見等の説明</p> <p>(2) 事務局の説明</p> <p>・前回の補足説明</p> <p>・ファクトシート「国内外開発事例編」について</p> <p>(3) 地域関係団体委員の意見書の説明</p> <p>(4) 学識者委員プレゼンテーション</p> <p>(5) 意見交換</p> <p>(6) その他</p> |
| 決 定 事 項 | 委員長は平尾委員に決定した。 |
| 議 事 | 別紙 |
| 資 料 | <p>当日配布資料</p> <p>(1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿</p> <p>(2) 前回委員会後の市民意見等</p> <p>(3) 前回の補足説明</p> <p>(4) ファクトシート【国内外開発事例編】</p> <p>(5) 地域関係団体 意見書</p> |

第4回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 議事

【事務局】

これより、「山下ふ頭再開発検討委員会」を開催します。

私は、事務局を務めます、山下ふ頭再開発調整課長の周治と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

お手元の資料を確認させていただきます。次第、名簿、前回委員会後の市民意見等、前回の補足説明資料、ファクトシート【国内外開発事例編】、地域関係団体意見書を配付しています。よろしいでしょうか。

開催にあたりまして、横浜市副市長の平原よりご挨拶申し上げます。よろしくお願ひします。

【平原副市長】

皆様、おはようございます。今日はお忙しい中、また足元の悪い中、山下ふ頭再開発検討委員会に、オンラインでのご参加も含めご出席を賜り、誠にありがとうございます。

委員の皆様におかれましては、日頃より横浜市の発展にお力添えいただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年8月に初めてこの委員会を開催して以降、3回の委員会を通じまして、学識経験者の皆様からプレゼンテーションをいただいて参りました。また、地域関係団体委員の皆様から、再開発に対するお考えを意見書として頂戴いたしました。これらを元に、様々な視点で活発なご議論をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、横浜市でございますが、令和3年をピークに人口が減少し、今後は生産年齢人口の減少、少子高齢化が更に進み、市内経済の活力低下も懸念されております。さらには昨今の自然災害の激甚化・頻発化に加え、深刻化する気候変動問題に対し脱炭素をはじめとする地球温暖化への対策が強く求められるなど、時代が大きく転換期を迎えています。こうした中で、山下ふ頭の再開発は、横浜経済をけん引し、都市ブランドを高めるまちづくりの象徴として、今年度も引き続き、皆様方の豊富なご知見をいただきながら取り組んでまいります。そして、市民の皆様からご理解をいただける、事業性のある再開発の実現を目指してまいります。

この山下ふ頭再開発ですが、横浜市全体の発展にも大きくかかわる大変重要なプロジェクトです。令和3年度から、市役所内の横断的な体制として、関係区局による庁内プロジェクトを設置しております。本日は、プロジェクトメンバーである関係区局も参加しております。横浜の活力を未来に繋げていくため、港湾局と関係区局が一丸となって市役所一丸で取り組んでまいります。

本日の委員会では、前回に引き続き、地域関係団体の委員から意見書のご説明、学識者委員からのプレゼンテーションをいただくこととなっております。委員の皆様方におかれましては、横浜を象徴する美しいウォーターフロントを舞台とした再開発により、新たな価値が創造され、世界の人々を惹きつける魅力的なまちづくりとなるよう、それぞれのお立場から、是非、自由なご議論をお願いいたします。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

本日の委員の皆様の出欠状況についてご報告させていただきます。

まず初めに寺島委員についてですが、ご本人からの申し出があり委員を辞任することとなりました。

したがいまして、委員17名の内、WEBでご参加の石渡委員、幸田委員を含め14名の皆様に、ご出席いただいております。

北山委員、隈委員、藤木幸夫委員はご欠席でございます。

条例第4条第4項に基づき、これより先の議事進行は、前回、委員長代理として進行いただいた石渡委員にお願いしたいと思ひます。石渡委員、よろしくお願ひします。

【石渡委員】

承知いたしました。おはようございます。

今、事務局からも報告のあったとおり、寺島委員が辞任されました。したがいまして、改めて委員長を選出するに当たり、条例第4条第2項に基づき互選により選任したいと思ひます。

どなたか委員長のご推薦はございますでしょうか。

【涌井委員】

はい。涌井と申します。

【石渡委員】

涌井委員、どうぞ。

【涌井委員】

まずは事務局にお考えはございませんでしょうか。

【石渡委員】

事務局はいかがでしょうか。

【事務局】

事務局の山下ふ頭再開発調整担当部長の洞澤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご実績やご経験から学識者の平尾委員にお願いしてはいかがかと考えております。

【涌井委員】

ありがとうございます。

私も平尾委員は金融機関の経営陣でもありましたし、併せて諸外国の事情にも精通されておられて、港湾の再開発についてもご知見をお持ちなので、私個人としては大賛成をいたします。

【石渡委員】

ありがとうございました。

ただいま、事務局並びに涌井委員から推薦のご提案がございました。私としても、今まで臨時でやらせていただきましたが、今のご意見を含みおいて平尾委員に委員長をお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

【(委員一同)】

異議なし。

【石渡委員】

ありがとうございます。

異議なしのお言葉をいただきました。それをもとに平尾委員に委員長をお願いしたいと思います。これにつきましては、これで平尾委員に承認ということにさせていただきたいと思います。円滑な議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。

それでは事務局にお返しいたします。以上です。

【事務局】

石渡委員、ありがとうございました。

ここで、委員長席の移動を行いますので、しばらくお待ちください。

報道関係者の皆様方にお知らせします。報道関係者の皆様方は、報道撮影エリア内での撮影にご協力をお願いします。

傍聴者の皆様方は、撮影や録音等はお控えくださいますようご協力をお願いします。

それでは、平尾委員長、一言ご挨拶をお願いします。

【平尾委員長】

ただいまご指名いただきました平尾でございます。着座のままご挨拶させていただきます。

寺島委員長が諸般の事情から辞任され、残念でございます。

私は寺島さんとはニューヨーク時代、30年前から色々なご懇意をいただいております。寺島さんの横浜市や山下ふ頭に対する思いもより理解しております。そういう意味で、今回寺島委員長の後を引き継ぐことになりましたので、寺島さんの思いも引き継いで参りたいと思います。

山下ふ頭の問題は先ほど平原副市長からお話がありましたように、横浜市にとって、あるいは日本経済にとって非常に大きな、貴重な場所であり、47haの広い場所をどういう風に利活用していくかというわけでこの検討委員会を進めてきたわけです。振り返ってみますと、1970年代に横浜市が人口の急増と環境問題の悪化と、あるいは社会インフラの整備の遅れということで、六大事業という目標を作られました。それによってベイブリッジ、あるいは地下鉄、あるいはみなとみらいという壮大な都市建設が進められて、それが今日の横浜の繁栄を導いているわけでございます。

しかし、今大きな環境が横浜市を取り巻いており、その中で人口の減少、あるいは財政の厳しい環境等があり、また同時に価値観の多様化、それからSDGsと言われるような環境問題が課題になっています。その中で山下ふ頭の利活用をどうするかということが課題になっています。そういう意味では、この委員会におきまして学識経験者、それから地域の関係団体の委員の方々の忌憚りの無いご意見を今まで展開してまいりましたが、さらに踏み込んで議論を今後展開してまいりたいと願っております。

山下ふ頭の47haは、横浜市だけではなく日本にとって非常に大事な戦略的なポイントになっていくということで、イノベーションの実装、あるいは防災拠点の強化、あるいは市民の楽しみの場所という色々な課題をあそこの場所で展開していくことになろうかと思えます。そういう意味で、山下ふ頭の考え方はやはり市民による、市民のための市民の山下ふ頭の再利用ということを考えてまいりたいと思えます。

山下ふ頭に隣接する山下公園につきまして、皆さんご存知かと思いますが、100年前の関東大震災の時に横浜市のカレキを市民が運んで山下公園を作ったということです。今後市民の参加による山下ふ頭の再開発ということはこの場の学識経験者と地域団体委員の皆様方との活発な意見交流をさらに深めていただきまして、最終答申にまとめていきたいと思っています。皆様方のご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。以上、私のご挨拶とさせていただきます。

【事務局】

ありがとうございました。

本日も、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料については、インターネット中継により配信されます。

なお、会議の様相を記録するため、事務局側で写真等を撮らせていただきますので、予めご了承いただきたいと思えます。

それでは、これより先の進行は、平尾委員長にお願いしたいと思えます。平尾委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【平尾委員長】

わかりました。

それではこれから議事進行を担当させていただきます。

まず、本日の会議のタイムスケジュールですが、お手元の議事次第をご確認ください。

議事（1）を3分程度、議事（2）が10分程度、議事（3）が高橋委員からの意見書の

ご説明を、10分程度を目安に行っていただきたいと思います。議事（4）につきましては、学識者委員のプレゼンテーションとして、幸田委員と内田委員から10分程度ずつ行っていただきたいと思います。全体的な議事の終了後、意見交換を十分時間をとっておりますので、皆様の活発なご意見をお願いしたいと思います。

それでは、議事（1）に入ります。事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、前回委員会後にインターネットフォームに寄せられました市民意見についてご説明させていただきます。お手元の資料2をご覧ください。

委員の皆様には、事前に本資料をお送りさせていただいておりますが、1から2ページは市民の皆様からのご投稿をまとめたもの、3ページ以降は市民の皆様からのご投稿をそのままつづった資料となっております。本日は、資料の1・2ページをご説明させていただきます。

1ページをご覧ください。受付期間は、前回委員会開催日の1月12日から7月9日までとしています。

意見数は、55名の方から111件いただいております、ご投稿いただいた方の居住地は、市内在住の方が54名、市外在住の方が1名となっております。なお、山下ふ頭再開発に関連しないご意見等は除外させていただいております。

「3 御意見の主な内訳」をご覧ください。

「(1) まちづくりの方向性に関する御意見」については、

- ・今後の横浜のイメージを確定する重要な案件のため、地域活性・観光・防災を考慮したイメージ戦略を基盤として必要な事業を考えるべき
- ・横浜にしかない開港以来の美しい歴史的景観や財産と調和する、100年後も世界に誇れる都市デザインを実現してほしい
- ・「横浜らしさ」の愛着と誇りをもち、市民参画による市民のための、豊かで持続可能な都市づくりを推し進める

などのご意見をいただきました。

資料の2ページをご覧ください。

「(2) 導入機能に関する御意見」については、

- ・山下ふ頭へのアクセスは良くないので、横浜駅から山下ふ頭をつなぐLR Tや自走式ロープウェイなどの利便性向上と脱炭素や省エネにつながる新交通
- ・「インバウンドの来日目的は観光だけでなく日本らしさである」という意見があるので、日本の文化・伝統を見学、体験できる複合施設
- ・交通アクセスの強化を図り、広大な開発空間を活かした、アジア地域の中心を担う世界的な超大型展示場

などのご意見をいただきました。

「(3) その他の御感想等」については、

- ・山下ふ頭に他にないものをつくる、広く横浜に足りないものをつくるという意見に賛同

- ・横浜市の財政も踏まえて、市の収益が確保でき、事業が継続性を持つことは必須
- ・横浜市各局を横断する市内総合調整組織を作り、この計画を横浜市が総力を挙げた一大プロジェクトとして取り組むべき

などのご意見をいただきました。

説明は以上となります。

【平尾委員長】

ありがとうございました。

続きまして、ファクトシートの国内外の開発事例を事務局からスライドでご紹介いただきます。

【事務局】

前回の委員会でご説明させていただいたファクトシートにつきまして、補足説明を今回させていただきます。

前面のスクリーンに映し出す資料でご説明させていただきますが、同じものをお手元にも資料3として配付してございます。

まず、「世界、アジアの人口動向」について、増加傾向にあるとご説明させていただきましたが、北山委員から、基本的に都市化が進んでいる地域では人口減少が進んでいると思うので、アフリカ、欧州、北米の人口動態を確認したいとのお話がありました。

こちらが、前回のグラフにアフリカ、欧州、北米を追加したグラフです。

3地域を引き抜いたグラフがこちらになります。

北山委員のご指摘のとおり、アフリカは増加傾向、北米は微増の見込みとなっていますが、欧州は2020年をピークに減少の見込みとなっています。

次に、「横浜経済圏（横浜市）の産業構造の変化」について、平尾委員から、企業の数や産業別にどうなっているのか、その中でイノベーションを担う企業がどの程度存在しているのか、示して欲しいとのお話がありました。

こちらが、産業別の事業所数を1981年から概ね10年ごとにまとめたものです。

左上が横浜市の事業所数です。東京都特別区部、大阪市、名古屋市は、概ね減少傾向にあります。横浜市は概ね横ばいとなっています。

こちらのスライドの左側は、イノベーションを担う学術・研究開発機関の事業所数の推移を、右側は全事業所数に占める割合をお示ししています。

横浜市の学術・研究開発機関の事業所数は、名古屋市、大阪市と比較するとやや多い形となっています。

次に、横浜市の財政状況についてご説明させていただいた際、涌井委員からふるさと納税の流出額を確認したいとのお話がありました。

こちらがふるさと納税の流出入額の推移で、左が流出額を、右が流入額をお示ししています。

横浜市からの流出額は約272億円となっており、全市区町村の中で流出額トップとなっています。

なお、横浜市を含む地方交付税交付団体は、流出額のうち約75%は、国からの交付税により、補われています。

最後に、先日、委員から道路計画として臨港幹線道路について説明をいただきたいとお話がありました。

こちらが、新港ふ頭から山下ふ頭を経て本牧ふ頭を連絡する臨港幹線道路の計画図です。山下ふ頭から本牧ふ頭間は、国直轄事業として既に事業化されており、山下ふ頭の再開発に併せた整備を国に対して要望しているところです。

新港ふ頭から山下ふ頭間は、都心臨海部の一体化と埠頭間のアクセス強化のため、国直轄事業による整備を要望しております。

補足説明は以上となります。

【事務局】

続きまして、ファクトシート【国内外開発事例編】について、ご説明させていただきます。前面のスクリーンに写し出す資料でご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも資料4として配付しております。

まず、国内の事例として、東京湾沿岸部における開発事例を整理いたしました。高度経済成長期では、重化学工業地帯としての工業地化が進みました。安定成長期では、従来の機能からの質的転換が図られました。低成長期では、次の時代につながる産業・ビジネスの創出、国際交流の場を設けた地域が多くなっています。

各地区の都市的開発の内容は、下段に示したとおりです。各地区の都市的開発により配置された、主な導入機能・施設をプロットした図面をお示ししています。主な導入機能・施設については、本市がこれまでに2回行った事業者提案募集にありました中心施設をプロットしてございます。企業・大学イノベーション施設のうち、施設が複数存在する地区を青色でプロット、スポーツ・コンサート等エンターテイメント施設のうち、10,000席以上の施設をオレンジ色でプロット、国際展示場等の施設のうち、展示場面積10,000㎡以上の施設を黄色でプロット、テーマパークのうち、大規模な施設を黒色でプロット、緑は地区で一番大きい施設を緑色でプロット、おおむね、どの地区にも各機能・施設が配置されていることが見て取れます。また、最近の主な大規模開発を赤でプロットしています。こちらは後ほど紹介いたします。

次からは、地区ごとに事例をご紹介します。まずは、横浜都心臨海部における開発の構想や計画を改めてご紹介いたします。まずは、2010年に提言を受けました都心臨海部・インナーハーバー整備構想です。次なる50年を見据えた都市づくりの方向性として、横浜市民と世界から集まる多彩な人が幸福と豊かさを実感できる都市を目指して、①人間中心の都市、②持続可能な環境、③人材・知財を活かす社会、④文化芸術創造都市の更なる展開、⑤市民社会の実現を基本理念とし、インナーハーバー地区内各エリアの用途変換等に合わせ、現在の都心部から段階的に成長し、徐々にリング状の都市構造を形成していくということが、横浜市インナーハーバー検討委員会により提言されてございます。

続きまして、都心臨海部・インナーハーバー整備構想が提言されたのち、2015年には本市が横浜市都心臨海部再生マスタープランを策定いたしました。世界が注目し、横浜が目

的地となる新しい都心、都心臨海部を中心とした新しい横浜のライフの実現を目指して先進、交流、創造、感動、快適、活躍を将来像といたしまして、それぞれの地区の魅力をつなぎ合わせる「みなと交流軸」の形成と、「地区の結節点」における連携強化を重点的に進め、都心臨海部5地区の一体的なまちづくりによりまして、港と共に発展する横浜ならではの都心を形成するというところでございます。

続きまして、臨海部の開発ではございませんが、横浜市内で行われております大規模開発であり、委員からも連携したまちづくりが必要であるとのご意見を頂いております、旧上瀬谷通信施設地区についてご紹介いたします。旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業では、テーマパークを核とした複合的な集客施設、農体験、ICTなどを活用した「収益性の高い農業」の展開など新たな都市農業モデルとなる拠点、新技術を活用した効率的な国内物流拠点、国際園芸博覧会のレガシーを継承する公園や災害時における広域的な防災拠点を整備する予定です。旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業の一部の区域で、2027年3月から約半年間、GREEN×EXPO 2027が開催されます。

続きまして、川崎臨海部（扇島地区）の開発です。「カーボンニュートラルを先導」、「首都圏の強靱化を実現」、「新たな価値や革新的技術を創造」、「未来を体験できるフィールドの創出」、「常に進化するスーパーシティを形成」等を土地利用の方向性としています。

こちらは、築地地区の開発となります。「大規模集客・交流機能の導入や屋外広場などによる新しい文化を創出する舞台」、「ゼロエミッションの実現」、「デジタルと先端技術の活用」等に取り組むこととしています。

こちらは、品川駅北周辺地区の開発です。文化・ビジネスの創造に向けた、「育成・交流・発信機能」、「外国人のニーズにも対応した」、「多様な居住滞在機能」、「地域の防災対応力強化とエネルギーネットワーク構築」などを方針としています。以上が国内の開発事例となります。

続きまして、国外の開発事例となります。国外事例については、委員会での議論を参考にしながら市民意見募集や事業者提案で示された主な機能・施設・視点が含まれたウォーターフロント等での開発を選定しています。

まず、本日紹介する事例を一覧でお示しします。複合的に機能を導入した開発や一つの機能に重点を置いて開発した事例をご紹介します。

ここからは各事例の開発テーマや特徴などについて、簡単にご紹介いたします。各事例をスライド2枚で構成し、1枚目は代表的な写真と開発の経緯、特徴、経済効果など、2枚目は主な施設写真としています。

ハーフェンシティでは、高等教育・研究機関の設立、かつての倉庫を基盤として建てられた文化施設が開館するなど、学術研究施設や文化・芸術施設の集積が進んでいます。

ミッションベイでは、カリフォルニア大学サンフランシスコ校において、保育園・幼稚園・小学校との連携により、幼少期から質の高い教育やキャリア体験の機会が提供されるなど、子育て・教育にも注力していることが特徴となっております。

スタンレーパークでは、従来は、単なる市民の自然系リゾート地としての役割を果たしていましたが、娯楽機能の整備がなされ、近年は、ファミリー層や観光客向けに、自然系アクティビティを楽しむ機会が提供されていることが特徴となっております。

マルセイユ旧港地区では、倉庫を劇場に転用するなど、既存施設を活用し、地域の歴史を尊重するとともに、周辺の景観と調和した開発が特徴となっています。

ボルチモアでは、歴史的な船舶の展示や国立水族館、体験型科学博物館などの建設が進められ、現在は観光地としての地位を築いています。

ダブリン・ドックランズでは、周辺の河川や山脈、市内中心部のパノラマの景色を眺められるなど、景観に配慮した施設構成が特徴となっています。

バルセロナ旧港地区では、水族館や博物館等の文化施設に加え、ケーブルカーや遊覧船、ヘリコプターなど、景色を楽しむことができる交通機関が整備されていることが特徴です。

LA ウォーターフロントでは、クルーズ船が寄港することに加え、商業施設や公園、レクリエーション施設が整備され、観光地としての地位も築いています。

釜山北港では、IT やメディアコンテンツ産業の集積を目指した業務施設、水族館等の文化施設やアミューズメント施設、公園の整備など、複合的なまちづくりが行われています。なお釜山北港は事業中のため、主な施設の写真はご紹介できません。

マンハッタンでは、堤防の役割を果たす都市公園や防潮壁を兼ね備えた親水空間等で囲み、洪水や海水面の上昇から守るなど、防災機能の向上を図ることが特徴となっています。

最後に、市民意見や国内外事例を基に、機能や視点を取りまとめたスライドをお示ししています。これまで開発事例をご説明して参りましたが、山下ふ頭にふさわしい事例の紹介という趣旨ではなく、あくまで意見交換の際にご参考にしていただければという風に思います。また、開発事例につきまして、委員の皆様方の知見から補足等いただければ幸いです。

ファクトシート【国内外開発事例編】の説明は以上となります。

【平尾委員長】

ファクトシート【国内外開発事例編】のご説明ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明につきまして、皆様方からご質問、ご意見があればお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

今村委員いかがですか。

【今村委員】

今のは開発の事例ですが、例えば成功したところはこのようなところをうまく変えたとか、あるいは色々な地域のルールだとか、ソフト面でのものをもうちょっと絞っていただいて、ハードだけじゃなくて、うまくいったところの例を、何が具体的にどうなったのか、国を含めて、やっていただくと非常にいいかなというふうに思っております。

【平尾委員長】

はい、貴重なコメントありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございます。ちょっとその辺を整理して、また次回お示ししたいと思いません。

【平尾委員長】

村木委員いかがでしょうか、ご感想なり、コメントなり。

【村木委員】

ありがとうございます。今村委員がおっしゃったのと同じようなことを私も思いました。特に、国内外のウォーターフロントの開発事例につきましては、一般的に言われていることだけではなくて、その効果としてどのようなことがあったのかというのを数字で、例えば経済効果とか雇用効果というのが書かれているものもあります。それを目指して開発をしているものもありますが、それによってもたらされた別の効果みたいなものもあるのだと思います。なのでそのようなことを深掘りしないと、参考になるかどうかというのは分からない気がしました。

また、開発は一度すると長い時間それを利用していくことになりますので、今の市民の方々が望むものと将来の横浜市民のために作っていくもの、それと施設の用途転換とか時代の求めるものにどうやって対応していくのか、そのようなことも含めてこういった海外事例等がどんなことをしているのかということも学ばれるといいのではないのかなと思います。以上です。

【平尾委員長】

貴重なコメントありがとうございました。是非事務局の方でまたその辺を。

【事務局】

調べられる範囲で、まずはしっかり事実を確認したいと思います。ありがとうございました。

【平尾委員長】

時間がございますので、次に議事（3）に入ります。地域関係団体委員の高橋委員から意見書を提出いただいておりますので、10分ほどでご趣旨をご説明いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【高橋委員】

はい、ただいまご紹介いただきました高橋でございます。関内・関外地区活性化協議会の会長をやっておりまして、今日こういう場で意見を述べさせていただくということで機会をいただきました、ありがとうございます。

お手元の資料5に出ておりますが、関内・関外地区活性化協議会、まずほとんどの方が知らないと思います。今から12年前に設立されてこの関内・関外地区の活性化を持続可能

なものにするため、地域全体の活性化に効果のある重点的な取組について、地域が一体となって議論、情報共有し、様々な主体が実施する具体的事業と適切かつ効果的に関わりを持って支援することで、地域の発展に寄与する、簡単に言うと、地域をいかに発展させていくかを主眼として事業活動を行っている団体でございます。本日意見書にあたりまして、4つの観点からお話をさせていただければと思っています。

まず1つが市民の生活向上、もう1つが横浜経済、そして3つ目が防災、4つ目がこの検討委員会もしくはこれから検討委員会が終わったとしても、それ以降の運営、そういったものについて意見をさせていただければというふうに思います。

まず、1番目の市民の生活向上に貢献できる場所であることということで別紙1を添付しております。先ほどファクトシートということで出ておりますけれど、これの3ページ目をちょっと開けていただければと思います。先ほどちょっと出ておりましたが、横浜市の人口減少社会の到来ということで他の地区に、全国平均に比べますと緩やかなのですけども、いずれにしてもトレンドとしてはもう減少方向に向かっているということです。

次のページを見ていただきますと、ここに一番端的なものが出ておまして、この現象がどういうことをもたらすかということで、経済活力の低下、そして個人市民税の減少、非常に横浜市は市民税に依存しておりますので、あと社会保障費は逆に増加をするということになります。この結果、12ページを見ていただきたいのですが、このように赤字体質というものが継続されていくということになります。これをどういう風に今後対応していくかということは、非常に市民の生活が、例えば市民税が上がるとか、色々な例えばインフラ面で、例えばバスや地下鉄そういったものに、例えば減便だとかそういった形で現れるとか、今まで我々が当たり前のように受けていたそのサービスが受けられなくなったりとか、色々なことが多分弊害として予想されてくると思います。

そういう中でもう一度意見書の1ページに戻っていただきまして、生産年齢人口の減少や、少子高齢化の進展を見据え、横浜市の税収を確保し、市民の福祉や生活の向上に貢献できるよう、再開発事業には税収を生み出す場所、この赤字の部分少しでも補えるような場所としての観点が不可欠であると考えています。また段階的な開発が進むなかでその一部を地域の例えば、賑わい創出、課題解決そういったものにつながる社会実証の場として活用させてもらえればということが第1点目になります。

第2点目に参ります。これは別紙2を開けていただければと思います。ここにも書かせてもらいましたが、山下ふ頭の再開発は今後の横浜経済の要であり、横浜都心臨海部は元より、横浜市全体にとっても横浜の礎を作った横浜市六大事業、先ほどお話が出ておりましたが、それに匹敵するレベルの事業と、今後10年後20年後30年後、もっと言うと50年後、こういった時に、「やっていてよかったね」、そういったような事業になることが一番好ましいと。また、観光の観点も含めまして横浜経済の牽引役となる再開発事業を検討する必要があるというふうに考えています。特にJNTOの訪日外客数の調査、これは単月で見ると初めて300万人を超えています。あと日本は海外から見ると一番行きたい国らしいので、非常に外国からの注目も高いということで、この埠頭の再開発事業はこうした外国からの観光需要をうまく捉えて大規模集客施設、ホテル機能の導入など、旅の目的地、デスティネーションになることによって消費や雇用創出など、横浜の地域経済活性化の起

爆剤になってもらいたいなというふうに思っています。特に、この日本を代表する都市として、発展し続ける横浜にとっては、横浜都心臨海部に位置する山下ふ頭は世界との玄関口になるべき場所であり、横浜の成長を牽引し市民のより豊かな生活に繋がっていく場所となるべきだと。また、大規模開発によって生まれる新たな市場の恩恵を山下ふ頭内に留めず、街へ回遊させ、地域経済へ波及させることが重要だと。先ほど世界の例が出ておりましたが、地域内だけでの経済効果なのか、その周辺を含めた全体的な経済効果が引き上がっているのかというのは、検証すべきことなのかなというふうに思っています。本当にこの六大事業、1965年、今から60年前に飛鳥田、当時の市長が提唱されて市民に提言をされたことですが、これがあるのとないのとでは今のやっば横浜の発展度合って大きく変わっていると思うのです。ですからそういった意味では、この47haの山下ふ頭をどういう風に活用していくかということは本当に横浜市生命線になるのかなというふうに思っています。

3点目、防災拠点ということで、私ちょうどこの中区の消防団の団長をやっておりまして、この防火・防災こういったものには一般の方よりも非常に深く携わっております。特に別紙3を見ていただきたいのですが、市民や来街者の防災拠点となる場所であること、ということで山下ふ頭に隣接する横浜都心臨海部には多くの市民が暮らし、来街者が訪れるエリアであることから、山下ふ頭の開発においても市民及び来街者の安全・安心をより強固なものにするための防災機能の拡充の観点が必要であるということです。具体的には、横浜市全体の災害対応力の向上を目的とした消防団員の訓練機能。中区だけでも500名近い消防団員がおります。そういった場所の確保。あと開発が住む横浜都心臨海部に対応した水上消防署機能の拡充。あと皆さん見られたことないと思いますが、老朽化した中消防署機能の強化などを提案したいというふうに思っております。特にこの中区というのは、人気観光地や商業地が多々あり、住民だけでなく観光客、通勤客、昼夜間人口比率が168%ということでお分かりいただけると思うのですが、特に中区外から観光客が首都圏を中心に全国から訪れます。ということで、また外国籍も多いということで、多種多様な方々がやってくると。一方で、この首都圏直下型地震、こういったものは2050年までの発生確率は70%を超えているということで、首都圏直下が起きれば、山下公園自体がそういったことによってできた公園ですので、そういったことが起きた時にどういうことが起きるかという、この対応は喫緊のやっばり課題だと思っております。

このように「滞在人口」、「土地勘がない人が占める比率」、「多様な国籍」など特徴がある中区で災害が起きた場合、残念ながら現在の中消防署では主となる管轄消防署としてのキャパシティが全く足りない。それだけではなく老朽化による建物被害の懸念があり、災害対策の根幹として消防署の機能に問題が出てこざるを得ないというような状態です。隣の区の南区、立派な消防署があつて中区はもうボロボロというような状態で、これは資料としてつけさせていただきました。次のページに、阪神大震災が起きた時に消防署が壊滅的な影響を受けて、消火活動ができないということになったのですが、現在の神戸市の中央消防署、こういったものは立派な建物が立っていつでもこういったものに少しでも、全てうまくいくとは思いませんけれども、対応できるような整備がこの山下ふ頭では是非できるのではないかなというふうに思っております。

そして4番目、検討委員会の運営という部分について、資料の別紙4を見ていただければと思います。検討委員会を有意義な場とするために横浜市が再開発に関する考え方や議論のポイントを示し、これに対して学識経験者や地元関係者は元より、県や国など関係者全員が建設的な意見交換を行える運営をお願いしたいというふうに思っております。検討にあたっては港湾局だけでなく、先ほど副市長からもお話がありましたけれども、関係部局の関与や委員会への出席が必要と考えております。また、観光立国ということで特区なんていう話になれば内閣府も関係してまいりますし、国や県の関与も不可欠ということで新たな組織体制案ということでここに出させてもらいましたが、横浜市は関係部局、そのリーダー、そして管轄各局の統括、副市長ということになりますけれども、こういった方々が参画いただくことで検討が深まり、実行性も高まっていくというふうに考えています。地域関係団体というどうしても部分最適の方に皆さん目がいてしまうと思うのですが、そうではなくてこの地域団体もその地域全体が繁栄するという全体最適にもかなり協力的に動くと思いますので、この地域関係団体、あと学識経験者の中には、経済や経営を主観とする経済学者にも是非参画をいただきたいと。あと経済人、現在の学識委員は学術的な方が多く、そこに現在日本経済の最前線でリーダーとなっているような経済人を招くことでより多角的で大胆な議論、実行性を期待できると考えます。あと、先ほど言った国と県、こういったところも参加をいただきたいというふうに思っております。全体を色々、10分ということで早口で話をさせていただきましたが、こういった大規模プロジェクトというのは全体最適と部分最適のバランスだと思うのですね。ただ一番大事なことは部分最適を優先するあまりに全体最適を損なってはいけない。そのように考えています。意見書を参考に、横浜市がきちっとしたイニシアチブを持って、利権優先ではなく横浜市民そして横浜経済の発展のために長期的視野に立ち、山下ふ頭という場所を是非とも有効に活用してもらおうこと。これは横浜市民が多分一番望んでいることだと思いますので、是非ともよろしくお願ひしたいと思ひます。以上、10分です。

【平尾委員長】

高橋委員、ありがとうございました。具体的な山下ふ頭のあり方から、さらに防災の観点、さらに今後のこの検討委員会のあり方について広範なご意見をいただきましてありがとうございました。時間の関係がありますので、関連の質疑は後ほどに回させていただきますと思ひますが、ありがとうございました。

次に議事（4）の学識委員の皆さんからのプレゼンテーションをお願いいたします。

始めにWEBからのプレゼンテーションになりますが、幸田委員からプレゼンテーションをお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

【幸田委員】

はい、ありがとうございます。画面共有をして進めさせていただきたいと思ひます。少しお待ちください。はい、神奈川大学の幸田でございます。今日はこういう機会を与えていただきましてありがとうございます。

時間も10分ということですので、3点に絞ってお話をしたいと思います。再開発で重視すべき要素として、1つは港湾機能の活用と強化、それから2番目は先程来話が出ていますけれども港湾と都市の共生。市民の憩いの場の確保。3番目が事業計画の策定等の決定手続きのあり方でございます。

最初の港湾機能の活用と強化については、臨港地区、保税地域になっているということで、港湾機能をどう山下ふ頭で活用するのかということとは是非検討すべきではないかということは以前も申し上げさせていただきました。これは横浜市の港湾局の図面でございますが、もう少し広くしますと東京湾と横浜湾というものはこういう形で繋がっている。そこをどう連携するのか、結節点ということをよく意識する必要があるのではないかと。そして山下ふ頭、矢印つけていますけれども、この海側の方にはベイブリッジがあるわけですが、横浜市の内陸部との結節点という点についても十分意識をする必要があるのではないかとというふうに思っております。

2番目が港湾と都市との共生ということでございます。これは1976年の横浜市の港湾局長の発言を少し抜粋させていただいておりますけれども、「市民と港の交流が重要である」と。また、「積極的に市民に解放していくことは1つの大きな政策である」ということを発言されておられます。下の方の青山学院大学の北見教授は、前ちょっとハンブルクの話をご私申し上げましたけれども、「港の活動は市民の生活都市の発展と直結をしていた。市民との関係が一体化し、都市と港を支える基盤はブルガーとしての団体だった」ということが書かれています。具体的にハンブルクのハーフェンシティ、ここでは実際のパブリックスペースが28haということで全体の25.8%の割合も占めている。そしてこれ後の話にもつながりますけれども、市民の意見を聞きながら時間をかけて進めている。それからロサンゼルス港でございます。ポートマスタープランの3つの柱の中の1つとして「港と隣接する地域との間の土地利用を調和させる」それから「ウォーターフロントのアクセス」、アクセスの話は先ほども出ていましたけれども、強化することと、「地域社会との共生」ということで、アメリカのロサンゼルス港では様々な団体があって、市民の意見を聞きながら時間をかけて行っているということでございます。

そこで、3点目、事業計画の策定の決定手続きをどういうふうに進めるべきかということについて少し時間をかけて説明させていただきます。この山下ふ頭についてIR誘致で大変問題があったということでございます。この反省の上に立って検討すべきであると。1つは市民への発信手法。簡易な議事録しか作らなかった。有識者委員会も大部分が非公開。そして市民への情報提供はかなり偏っていたという問題。2番目として見えづらい政策決定過程。政策方針の決定にかかる情報の発信というのが非常に不十分だった。また、数値あるいは最新の分析も非公表で、第三者は客観的な分析を行えなかった。情報公開請求は黒塗りが多数だった。こういう問題があったということでございます。こういった問題の反省の上に立って、今回の山下ふ頭の再開発計画は検討すべきだと考えております。この下になりますけれども、事業計画の策定手続きは市民参加の手続きとすべきである。事業計画はどのようなコンセプトか、何が変わるのかなどの情報をしっかりと市民に伝える。事業者の選定に当たっては、先ほど委員長の「市民による市民のための市民の山下ふ頭である」というご発言があったところですが、市民がどういうことを考え、どう

いうことを望んでいるのかというコンセプトを十分頭に入れた事業者しか応募させるべきではないということでございます。現在、このスライドですけれども、横浜市の港湾局のリーフレットはこの委員会を設置する前に「有識者委員会設置予定・事業計画案検討」となっていましたけれども、この委員会設置されて、これは横浜市の港湾局にも確認しておりますけれども、横浜市の港湾局の今年の2月の最新の資料では「まちづくりの方向性や導入機能等を検討する」と変わったところでございます。つまり、事業計画案の検討ではないということですね。そして今年の2月の横浜市の資料によりますと、有識者委員会の後は事業計画案を作成し、パブコメあるいは意見交換をやって事業計画を策定するということになってございまして、事業計画案の検討委員会を設置するとはなっていないわけがあります。しかし、これは極めて不適切であると考えています。事業計画の検討の委員会を設置して、市民も入れて検討すべきだというのが今日の私が是非主張したいこととございます。その1つの仕組みを提案させていただきます。

事業計画の検討委員会には市民、学識経験者、横浜市の職員も入っていただいて検討するということが1つですね。それからこの委員会に入らない市民の意見あるいは有識者、地域関係団体等もその委員会に意見を出せるということ。それと先ほど申し上げましたように、事業に応募する事業者は検討委員会を毎回傍聴して、その委員会・市民の声をきちんと自分のものとして理解する。この傍聴を毎回しない事業者は事業に応募できないというふうにすべきだというのが全体の概要でございます。事業計画案に盛り込むべき事項というのは項目をちょっと上げてみましたけれども、この説明は省略させていただきます。そして公聴会を市長によって開催を義務付けるべきである。それから市民からも開催要求が出せる。それから先ほど申し上げたように外部から色々委員会に意見を出せるようにすべきだということとございます。いわゆる説明会と公聴会の違いというのは皆さんご承知のとおりでございますけれども、こういったいろいろな意見聴取の手段がパブコメ含めてあるわけですが、公聴会を是非やるべきだろう。しかも10人以上の連署による開催要求によって公聴会を行うというふうにすべきだと考えております。そして先ほど言いました事業計画の検討委員会の過半数は市民の代表を入れるべきであるということとございます。

じゃあ多くの市民が手を上げた場合にどうやって参加する市民を選ぶのだということになるかと思えます。一般的には市民委員の選定方法というのは「互選をする」、それから「全員を委員にする」などありますけれども、全員を委員にするということは多くの人が手を上げた場合に難しいので、互選によって参加する市民委員を決めるべきだと考えます。皆さんの中には多くの市民がいた時にどうやって互選するのだと疑問を持つ方がいらっしゃるかもしれませんが、これは可能であると。デンマークなどでは、市役所が大きな体育館を用意してそこに市民が集まって、例えば環境系の団体はそこで集まって誰を代表にするかということを議論して最終的に互選で選ぶということは可能だということとございます。それから実質的な合意形成を確保するための手続きについては先ほど申し上げたようにこういったことを確保すべきだということとございます。そしてこの事業計画検討委員会では原則全員一致で決める。しかし全員が一致しない場合もありますので出席委員の過半数の賛成と出席の市民委員の3分の2以上の賛成で決めるべきだという要件を

考えております。合意形成の経過は地方自治法上、この市民の委員会の結果に市が拘束されるということはできませんので、あくまで市長は合意の内容を尊重するという形になるかと思っております。それから「市民の権利」・「情報の保存と開示」についてはここに書いてあるようなことを確保するべきだということでございます。なお、議会との関係については、地方自治体は二元代表制でございますので、議会と独立して当然判断ができるということで。先ほどの図では委員会に対して議会が意見を言えるというのは事前に情報提供、議会にも提供をして、できるだけ反映し、その後の議会審議にも円滑に進めることができるようにするべきじゃないかということでございます。

これは私が5、6年前にチューリッヒを訪問しまして、都市計画ですね、市民の声を本当にしっかり聞いてものすごい分厚い市民の意見に対する応答の冊子ができていましたけれども、都市計画部長のお話聞いたのですが。これは市役所の地下ホールがこうなっていて、奥の方で市民が集まってワークショップで議論する。模型がありまして、ここは模型がパカパカと外れまして、「例えばA案だったらこうなるよ」と「B案だったらこうなるよ」って見ながらみんなで議論するということでございます。

ということで、山下ふ頭の開発計画、カジノの時の非常に問題があったものの反省の上に立って、しっかりと事業計画検討委員会を設けて検討すべきだということを提案したいと思っております。山下ふ頭の再開発を成功させる上ではやはり今まで色々な観点からのご意見が市民あるいは有識者から出ていますけれども、しっかりとそのコンセプト、そして市民による市民のためのというお話ございましたけれども、そういった検討が実質的に実行的に確保されるようにすべきだと考えているということでございます。以上で私のプレゼンを終わらせていただきます。

【平尾委員長】

はい、非常に具体的な提案、ありがとうございました。時間的なことがございますので、討議はまた後にさせていただきます、次のプレゼンテーションに移りたいと思っております。

続いて、内田委員からのプレゼンテーションお願いできますでしょうか。

【内田委員】

わかりました。よろしくお願ひいたします。

私は経済ジャーナリストという観点、あと2019年に横浜イノベーションという本を執筆いたしました。あらゆる横浜の経済人の方であるとか、職員の方にインタビューをして、取材をして、理解をしたことというものがまずベースとして私の知識の中としてあります。さらに、今皆さんお手元にある港湾局さんから頂いている市民の方たちのアンケート、ここまで審議をしてきた学識者のメンバーの方たちのプレゼンテーション、そういうものから学んだこと、そういうことと、あとは私の本業であるところからの経済の原理原則というものを考えて、私の考えをまとめてみました。

資料作成におきましては、今流行りの生成AIを活用してみました。そこで使っている画像は、生成AIが出してきたイメージでして、完成予想図ではございませんので、そこは

誤解のないようにいただければという風に思います。こんなイメージをAIが、こんな感じっていう感じを出していただいたものです。そのように楽しんでみていただければと思います。

私は、少し具体的なイメージを持っていただくということをあえてプレゼンテーションしたいなというふうに思っております。では始めていきたいと思っておりますけど、横浜山下ふ頭再開発、どうあるべきかというところで整理をしてみました。

まずはここですね。賑いを創出し、人々に喜びや楽しみ、感動や癒しを提供する場であること、ということですね。あとは、新しい街を創造すると、人々のウェルビーイングに貢献する場所であるっていうところ、まず1つあると思っております。

次、大事なところ、横浜市地元経済に経済波及効果を大いにもたらすというところが大事ですね。直接再開発に参加する企業や団体、または山下エリアだけではなく横浜全体、もっと言うと日本経済にプラスになる、そういった影響をもたらすという優れた場所として開発されるべきだろうというふうに思っております。

そして行政や税金の依存や負担がない。ここポイントだと思うのです。もう最初から、税金を投入しなければ成立しないというようなプランは、未来の次世代に負担を残すということにもなりますので、民間がメインによる、自立かつ永続的な運営というものが求められるであろうというふうに思っております。

そして港、水際という素晴らしい立地なわけで、ここの地の利を十分に活かすということが大切かなというふうに思います。やはり水際ってというのは、非日常空間なのですよ。そういうようなことを、どんなふうに生かすことによって、山下ふ頭の価値というものをさらに上げられるかというところに工夫があったらいいな、というふうに思っております。

そして他のどこにもないもの、唯一無二のもの。どこかの真似、なんかこれはどっかで見たことがあるなというようなものだと、やはりちょっと残念な感じになってしまいますよね。やはりここはこだわって、唯一無二、オリジナルであること、そこにものすごい価値が生まれるのだろうというふうに思っております。

そして競争力が持てる、そういうことはつまり経済波及効果も大きくなるというふうに、人々の注目を集めるサプライズを提供することで経済波及効果も生まれるというふうに思っております。

例えば、唯一無二ということであるならば、グローバルの視点で見れば、日本ならではの文化を体験できる。アンケートの中にもありました、こういうようなものは非常に、日本文化ってというのは独自性があります。世界的に見ても、日本文化に対する好感度というのは非常に高い。日本ファンというのがたくさんいるわけです。こういうことは我々よりもむしろ外国人の方の方が、日本の良さを知っているというような傾向が最近感じられるわけで、それを我々が再評価して、日本の文化の価値というものを認めていくと、形にしていくというようなことが求められるのかなということです。

そういうようなことをすることで、インバウンド、これからまた右肩上がりにコロナからV回復を今見せていて、今年度にはまたインバウンド、最高人数を更新していくであろうというふうに言われている。インバウンドってというのはやはり、これからの観光の強い

味方であり、しっかりとお金を落としていただくっていうところが、都市競争の中で勝っていくというふうに思われます。

その中で、じゃあ日本に来るインバウンドが、目的地が横浜なのだと、山下ふ頭なのだというふうにピンポイントで来日の目的としてくれるっていうこと、今まで残念ながらところなのですよ。そういうものを、横浜が逆転していくことをやってみたいなというふうに思います。グローバルの視点というところでさらに付け加えると、やはり世界基準、老若男女ダイバーシティ、すべてを受け入れる寛容性というものが必要だなというふうに思っております。

そして当然環境に配慮したものです。やっぱり環境に負荷を与えるものというのは、これから新しい設備ではもう全く認められませんし、評価が得られませんので、そういったカーボンニュートラルに貢献するというのは、当然の常識というふうになってくるであろうというふうに思っております。

あとは、やはり単価が今、観光客の単価が低いよ、と。日帰りの観光客、安い観光客というものにやっぱりどうしてもなってしまう。横浜やここで、世界の超富裕層にも支持される完成度、そういうものをやっぱりちょっと挑戦していかなければいけないのではないかと、挑戦する価値があるのではないかとというふうに思っております。

そして、横浜ならではというところ、ここ大事なのですけれど、横浜のパーパスって何だっけっていうところですね。横浜は文明開化の窓口だったわけです。日本の文明開化、開港場である横浜から始まったという、横浜っていうのはそういうどこにもない価値を持っているのです。歴史上、開港場であること、それは新種の気質、世界中から新しいものがどんどん入ってきたという、そういう入り口であったということ。世界中の人たちが、ここにある意味ビジネスチャンス、一攫千金を求めて集まってきたっていう、ものすごいワクワクする、大変皆さんが期待をする賑い、そういうものがある場所だったわけですね。そこが横浜の原点。間違いなくそういうところだったわけですね。そういうようなものを、じゃ今の時代に変化させるとどういう形になるのだろうかというところ。そういうものをもう全て含めて、横浜市民がここは素晴らしいと、プライド・誇りに思えるものを作るっていうことですよ。世間話の中で「ねえねえ、最近横浜にすごいのができたんだよ。1回来てみてね」っていうようなことを、日本中の、世界中の友人知人に自慢できるようなもの。そういうことをこうやっていくっていうのが大事ななというふうに思っています。

成功、どんなふうなことが今の要件、色々総花的になりましたけれど、そういうものを全部満たしていきたいよねという、贅沢なというか、必須なのだろうと思うのです。そして見てみると、日本のテーマパーク。テーマパークに限らないのですけれども、今提案しているものは。成功している事例っていうのは圧倒的にディズニーランドなのです。ディズニーランドの成功っていうのはとてもすごい。世界のそういったテーマパークの中でも、第3位なのです、その成功ぶりっていうのが。なんでなんだろうというところを、これを研究する意義はあると思っております。

日本で業界トップ、オリエンタルランド。業績ですね。2024年3月期っていうのは売上高が6,184億。営業利益1,654億円。来園者数2,750万人、コロナの前は3,255万人でし

た。だからこれはもう時間の問題で超えていくと。1人当たりの売上高が16,644円。で、払っている法人税が457億円ということなのですね。で、従業員数が24,400人なのですね。ちょっとここに書いていませんけれども。その従業員、雇用をしていく24,400人。その2割が横浜市民になっているってということなのですね。そういう効果をもたらしている。

じゃあなんで、ディズニーランドは成功しているのか、ということなのですね。皆さん、東京ディズニーランドに行ったことがある方は感じていると思います。お子さんやお孫さんと一緒に行ったらしゃると思いますし、自分自身も行ったと。これ行くたびに新しい発見があるのですね。だからこそ、もう1度行こう、また行こうというリピーター率の高さがある。これウォルト・ディズニーの言葉です。「テーマパークは永遠に完成しない」。もう最初から永遠に新しいものを投入していくのだということが、スタートの時点から決まっているわけです。覚悟が決まっているのですね。

今のオリエンタルランドの社長、吉田社長の言葉ですね。最新の言葉。「創業以来当社は一貫して世代を超えて共感できる価値を提供し続け、心の安らぎや活力を生み出してまいりました。私たちの挑戦に限界や完成形はありません」。これディズニーと合っていますね。で「これからも世界中でここ横浜だけでしか体験できない、そういうことを、夢の世界を創出していく」と。「1つでも多くの笑顔を生み出していけるように挑戦し続けていく」ってということで、もうずっと終わらない、変わり続けていくのだってという覚悟が、この東京ディズニーランドの成功の要なのですね。

ですので、じゃあ成功の要点、顧客の世代交代が起こってくるわけですよ。どんどん時代が変わって、お客さんのニーズが変わっていく。それに、変化に合わせてコンテンツを変え続けていくのだということ。ディズニーランドで言うとショー、パレード、アトラクション、リニューアルし続けているのですね。毎年500億から1,000億の設備投資をし続けている。東京ディズニーシーの新しいテーマポート「ファンタジースプリングス」って、あのアナ雪なんかのコンテンツが入っているのですけれども、今回ここには3,200億円投入していると。

この投資をし続ける覚悟、挑戦し続ける。もうトライアンドエラーで失敗を恐れない、狙いが外れたら変えていけばいいのだと。そういうことでハードだけではないソフトも最新のものを投入し続けていくっていう、そういうことをやり続けているってということなのですね。飽きられてない、老朽化してない、時代遅れにもなっていない。もう30年、40年ですね。企業価値、時価総額はどんどん上がっている。これだけ投資をし続けているにも関わらず、どんどん成長しているっていう。こういうものにやっぱりヒントがあるのだろうなというふうに思っているわけです。

そして、じゃあ横浜の観光の課題っていうところを見ていきたいと思うのですね。横浜の観光、これは令和6年6月にぎわいスポーツ文化局の資料をいただきました。2023年の観光収入、お客さんですね。3,600万人年間に来ました。観光の消費額3,667億円と。で、日帰り客数ですね。これが3,220万ですね。平均の消費額が6,480円。観光消費額2,087億円ですね。

一方宿泊客の方ですね。これが380万人です。桁が違うのですね。使っているお金が41,558円。平均ということで。観光の消費額が1,580億円ってということなのです。これが今のファクトです。

じゃあこれからどうするのですか、横浜の観光の中期目標は何ですか、ということ掲げられている金額を見ると2030年に5,000億円を目標にしているということなのです。これプラス1400億円が必要だってということなのですが、上の数字を見ていただければ分かるのですけれど、あと1,400億円増やしていくと、日帰り観光客で、となるとです。今現在は観光客の9割が日帰りなのです。このままさらに日帰り観光客だけが増えていくと、もう完全にオーバーツーリズムなっちゃうわけですよ。単価が落ちるのがものすごく安い。でも人だけがもううじゃうじゃいて身動きが取れないね。ああもうあんな混んでいるところには行きたくないね、というふうになっていく可能性がある。です。で、やはり客単価を上げていく、そして宿泊需要も上げていく。ここに注力するというのがこの5,000億というものを達成するという、こうリアリティになっていくということなのです。

じゃそれだけお金を落としてくれる人は誰だということ、インバウンドに注目していくということですね。過去最高の数字3,188万人で、先ほど言ったように今もう半期が終わって、1,500万人近いわけですね。このペースだと過去最高を更新する勢いがありますよということ。で訪日外国人がお金を使っている、どれぐらいお金使ってくれているのですか、ということ。5兆3,065億円ということで、宿泊費が一番大きい。買い物をしてくださる。飲食も楽しみだというようなそんな感じで。娯楽サービスっていうのは、5.1%ってということなのですが、ちょっとその部分が、まだまだお金を落としていただけるという器がないのだろうということになっています。

じゃあ誰が、どこの国の方が、どこの地域の方がというところで見ると、台湾・中国・韓国・米国が伸びていますね。で、香港ということで、アジア一帯のところの、色々緊張感があるような状況ですけども、日本に来るともうみんなが楽しんでくれるという、そういう状況になっているわけです。一般客の1人当たりの旅行の支出が21万円ということですね。こうしたもののデータを、ファクトを見ていくと、じゃあこれからの横浜の観光として、経済効果を生んでいくその原動力になっていく鍵というのは何かと言うと、やはり宿泊客を伸ばしていくこと、そしてインバウンド、世界中からのインバウンドを取り込める街になっていくことっていうのが必須かなというふうに見て取れるわけです。

じゃあ、その先ほど言った日本の文化をどう楽しんでいただくかっていうところを最初に紹介していきました。かつて日本は家電製品に、自動車は今もそこは力ありますけれども、それがメイドインジャパンの象徴でした。プロダクトですよ。

でも今は日本のポップカルチャー、それが海外の若い世代中心に、日本の魅力を示す代名詞になっているのです。私なんか海外の取材に行って日本人だというと、日本語で話しかけてくれる外国人の方がたくさんいるのです。で「日本語上手ですね」というふうに言うと、「私は小さい頃から日本の漫画・日本のアニメを見て育ったのですよ。いつか行きたいのです」というような、そういった会話がもうとても多いのです。私の体験として。ああすごいなって、昔はね、古いですけどもソニーのウォークマンがすごいね

とか、そういうようなプロダクトっていうような話だったのですが、今は大体ポップカルチャーと、国際的な理解・信頼を深めている重要なツールになっているのです。だから本当に日本人よりも日本的なことを理解してくれているということです。

漫画・アニメ・ゲームはもう世界中に熱心な愛好者がいて、やはりそこは日本がとてもレベルが高いということもみんな分かってくれている。そこを通じて、ああ日本が好きだな、そんなような思いを持ってくれている。日本語が話せる外国人の多くは、先ほど言ったとおり、こういうようなことなのですね。ここの強みをやはり生かしていく、生かさな理由はない、というふうに私は考えている。ですから世界的なグローバルな視点で見て、今、日本が一番競争力を持っているのは何かっていうようなことの1つが、こうしたポップカルチャーであるっていうことは間違いない。

例えばどういうものか。皆さんおなじみの「ナルト」、世界80か国でテレビ放映されています。「ドラゴンボール」、世界40か国以上で放送されています。「美少女戦士セーラームーン」、40か国以上で。あとは横浜でも、非常に力を入れてポケモンなんかが大行進していますけれど、ピカチュウがね、ポケットモンスターシリーズ。これなんかももう世界中の子供で知らない子供たちはいないのではないかっていうぐらい、そういった認知度です。

そういうようなことを、ちょっと今皆さんにご紹介させていただきましたけれども、じゃあそういったものを加味して、どのようなことができるかなというふうになった時に、山下ふ頭ですね、例えばですよ、日本のポップカルチャーの集積地にしたらどうだということで、アニメの館。非常に夏暑いですから、屋外だけっていうのはかなり命の危険が生じてくるってことで、やっぱり館なのかな、というふうに思っています。

で、コスプレイヤー。アニメの中で今コスプレっていうのがすごいのです。コスプレの、様々なコンテストが世界中で行われていて、そのコスプレのキャラクターは大体日本のアニメのキャラクターに扮しているということです。メイクや衣装のオーダーメイドなんかも、そこでやっていく。ランウェイを歩いて競うショー、展開するというので、コスプレイヤーの聖地は横浜山下ふ頭だということで、世界的に山下に行くぞ、という発信力を持つ。で、当然今ですね、コスプレイヤーも高額賞金を持っていて、コンテストで優勝したコスプレイヤーは何億も報酬を得られているという。そういうことです。

あとはeスポーツですね。これオリンピックにも入ってくるという。ゲームを競うことで、世界トップランクのゲーマーたちの世界選手権っていうものの、最終決戦地が山下ふ頭であったら面白いのだろうなというふうに思っています。ここも、今ゲーマーたちも数億円、もうテニスプレイヤーとかサッカープレイヤーと、そこまでの桁には並ばないにしても、それぐらいの報酬、賞金金額を得られるスポーツに成長してきているということなのです。

あとは漫画の館。日本と言えは漫画。何十万冊も集めた漫画リゾート。漫画喫茶ってありますね。宿泊、簡易宿泊施設になっていて漫画読み放題とあって、若い人たちにとても人気なのです。これの最高級ラグジュアリーホテルを作るのも面白いのではないかなと。そこに人気の作家なんかが来て、トークショーをすればもう世界中の漫画ファン・

アニメファンが、もう本当に喜んでやってくるだろうということは想像に固くないなというふうに思います。

【平尾委員長】

大変申し訳ありません。ちょっと時間が押していますので、まとめていただきますでしょうか。

【内田委員】

はい、急ぎます。もうすぐ終わります。

あとはバーチャルリアリティの館っていうことで、あのみなとみらいにR&Dを構えているグローバル企業がたくさんあるのですね。その研究開発をしている最先端のイノベーション。そういうものを是非この山下ふ頭の中で、実証実験の場としてやってもらいたいなというふうに思っているわけです。

最後のページです。私としては、こんなことがあったらワクワクするなっていう意味では、あらゆるトップクラスの企業、先ほど言いました、みなとみらいにあるソニーであるとか、日産、コエーテクモ、任天堂、資生堂そしてDeNAですね。そんなような会社がどんどん関わってくれるような、最先端のテクノロジーがそこで発揮されるというような感じですね。あとは横浜トリエンナーレっていう有名なアートの祭典がありますので、そうしたアートのコラボレーションをしてもいいでしょうし。あとは横浜JCという横浜の若者たちが集まっている、集積して活動して開港祭なんかやっていて、ものすごいパワーを持っているので、そういう横浜JCの若者たちが、こうしたエンターテイメントのところに入ってきて一緒に活動したらすごくいいなというふうに思うのです。

最後に1つだけ申し上げます。やはりどんどんどんどん変わっていくっていうのはソフト力なのですね。やっぱり日本のこれまでのテーマパークの失敗は、箱物を作って終わって、古びていく。それでおしまいっていう、非常に税金の無駄遣いをし続けてきた歴史なのです。じゃあ何が勝つかっていうので、世界的にデジタル革命で勝ったのはマイクロソフトなのですよ。それは何かというと、ソフトウェアですね。どんどんどんどんアップグレード、更新し続けることによって1回つながったお客さんと、ずっとこうビジネスをし続けるってことなのです。

なので、ポイントは新しいものを更新し続ける。そして投資をし続けるという覚悟が、山下ふ頭を展開していく上で、非常に重要になっていく。あとはデジタルネイティブという世代がこれから世界の過半数の人口を占めてくるのですね。もう生まれた時からデジタルの世の中なのだっていう子たちが世界中の人口の過半数を超えているんです。ここからますます、世界が100億人の人口になっていく時に、もうほとんどがデジタルネイティブになっていくのですね。ですので、もうあと10年もしたらデジタルネイティブがメインになっていくという世の中にしっかりとフィットするようなものに、山下ふ頭はなっていかなければいけないと。そういうようなことがポイントになるかなというふうに思っています。

とにかく世界一のものを目指すという気概、ワクワクするものを横浜から世界に発信していくのだという、そうした大きな目標を持って、山下ふ頭を展開していただければな、というふうに私としては思います。以上です。すみません時間がオーバーしまして、申し訳ございませんでした。

【平尾委員長】

はい、熱の籠った。これAIを使ったのですか。

【内田委員】

はい、これはAIを使って作りました。

【平尾委員長】

へえ、そうですか。

時間がかかり押してまいりましたので、あの申し訳ありませんけども、意見交換、今日は、ご意見をご用意してきていただいている方がいらっしゃいますので、まず藤木さんからお願いいたします。

【藤木幸太委員】

いや内田さんに僕の尺とられちゃったからもうあんまりしゃべれなくなっちゃったけど。

【内田委員】

ごめんなさい。

【藤木幸太委員】

とてもいい話でした。

【内田委員】

ありがとうございます。

【藤木幸太委員】

私、港運協会代表で出ております藤木でございます。今日私も実は意見書を出してしまして、その説明を高橋さんのようにやる予定だったのですが、急遽ちょっとお断りをしました。それはなぜかと言いますと、自分の話す内容が、山下ふ頭の歴史、あるいは港運協会のメンバーがどれだけここで汗をかいてきたかと。こういうことがほとんどなので、これを皆さん委員の前で話すと、なんか利権と捉えられないかという心配が私自身にありまして。で、今日はやめさせてもらいました。その代わりといっは何ですが、今現状山下ふ頭どうなっているか。山下ふ頭を開発するために、我々、倉庫協会も一緒になって倉

庫を新しくしないで、古くして、みんな潰して更地にしたわけです。そこでいきなり IR の話が出て、これはないだろうというところで、山中市長誕生ということになったわけなのですが。いずれにしても、我々はそこで生業、ここに出ています地域関係団体委員という方はみんなここで生業のある方なのですね。で、逆に学識者の方たちは失礼ですけどよそ者の方なわけです。そういう中で、私は今日申し上げたいのはもう喋るのではなくてちょっと映像を見ていただきたい。これが私 5 分と 4 分の映像なのですが、5 分の方は今山下ふ頭がどうなっているか、どう使われているか。委員の皆さんあんまり足運んでないと思いますので、それをまずご覧ください。もう一つは、今笹川平和記念財団の予算で日本とパラオの、帆船、これで移動するのに、今笹川記念財団が世界で 5 年をかけて 100 人の海洋人材を育てるというプログラムをはじめまして。それで世界からみんなその参加者を募ったらもう多すぎちゃって。で、みんな論文書かせたりして、ところが論文書くって 12 歳から 24 歳までに限定していますので、その子たちが 3 月にこの前 2 週間かけて、帆船「みらいへ」でパラオまで行った、その 1 人の女の子が報告したのです。それが 4 分ありますので、申し訳ないですけどいいですか。

【平尾委員長】

はい。

【藤木幸太委員】

5 分は現場の話、4 分はその彼女の報告と。これをちょっとご覧いただきたいと思いません。

【平尾委員長】

お願いします。

<動画再生>

【藤木幸太委員】

今こういうイベントで使っていただいているのですね。

これは高橋さんのとこでやっていますね。

これは Harley-Davidson の横浜での最初のイベントです。

これはランバイク練習であり、小学生ですね、低学年の子が足でこぎ漕いでやるレースなのです。このレースから卒業した子が、今サッカーだとか色々な世界で一流選手になっているのですね。運動能力が非常に高い。

<動画停止>

どうもありがとうございました。何が言いたいかって言いますと、今横浜は 5 隻大きい

客船が同時につける港になっているわけです。これはもう横浜市と港湾局も本当によくやってくださって。それはいいのですが、大型の客船がついても、地元には全然お金落ちない。みんな観光バスが並んで、それで鎌倉行ったり箱根行ったり、中には東京に行ってしまうというような状況で。ところが横浜の場合は横浜に着岸してただ人が観光行くだけじゃないのです。横浜で入れ替えるそこで降りた人がいて乗る人が、新しい人が入ると、これで横浜はある程度、お金が落ちているわけなのですね。で、例えば長崎ですとか、他の港は朝出て夜出でちゃって昼間はみんなどっか行っちゃうので、もうそれこそ迷惑になっているぐらいの話なのですね。で、そういうことをまず気がつく、今の女の子の報告を聞いたなら、あれは同じクルーズの出発点が横浜であってもそれはもう教育的な見地もあれば彼女たちの人生感とかそういうもの全て変えているのですよ。先週それを、その話を彼女たちと一緒にしたのですが、横浜はやっぱそういう世界の起点っていうのはここへ来て刹那的な快樂を求めるところではなくて、やはりここで教育された横浜が自分の心の故郷というふうに見えるような場所にするというような開発を是非お願いしたいと、こう思います。以上です。

【平尾委員長】

藤木委員どうもありがとうございました。

坂倉委員、なにかご意見ございますか。時間が押ししております恐縮ですけども。

【坂倉委員】

具体的なお提案については今後の委員会の中で発表させていただきたいというふうに思うのですが、少し方向性だけお話しすると、この市民の意見にもたくさん出てきているのですけれども、山下ふ頭の交通アクセスっていうのはあんまりいい場所じゃございません。ましてや入り口からその先端までも歩いても相当な距離があるってこともあります。元町の駅から行くのもかなり困難です。そうやって考えますと、今現在で横浜市がここに対しての交通アクセスをどのように考えているのかっていうのはあまりよく示されていないので、是非、やるということを決定はもちろんしてないと思いますが、案として考えられることについて次回以降でご提示いただければというふうに思います。

いい悪いはともかく IR の時には元町の地下鉄の駅、横浜高速鉄道は、海の方へ曲がって行って、今実はあそこに車両の基地を作る土木工事を行っているのですが、その先に海の方に入って行って山下ふ頭の先端の方に、駅を作るというような案も実は検討されていきました。で、それが可能であるのであればこの開発に大量輸送機関の1つとしてそういうことも検討した方がいいのではないかなというふうに思います。それと臨海部の道路建設については、この資料の中にもありますけども、横浜港臨港幹線道路というのが、もう相当昔に計画されていて。これについては神奈川区の恵比寿町から中区の本牧ふ頭までというふうに計画をされているのが、ちょうどMMの中を走って下に海の方へ潜ったところで今止まっているのですけれども、その先は本牧ふ頭まで一直線で結んでいくっていうのは計画をされていますので。これは国の計画としてそういうふうになっているので予算

も当然国が出すということですから、これを積極的に利用していただくと都心臨海部と山下ふ頭、そして関内・関外地区のトライアングルをうまく回遊性が取れるような道路になるのではないかなと思いますので。これもここを利用する時に合わせるような形で完成するようにすべきではないかなということだけ申し上げておきたいと思います。以上です。

【平尾委員長】

はい、坂倉委員、貴重なご意見ありがとうございます。時間が大分押してまいりましたけども、まだ、今までの皆さん方のプレゼンテーションあるいは意見交換でまだ足りなかった点あるいは付け加えたい点がございましたら。アトキンソン委員。

【アトキンソン委員】

先ほど生産年齢人口の話が出ましたので、それに対して1つ考えなきゃいけないことがあるのです。

世界の生産年齢人口は、特に先進国を中心に減っていくって話がありました。しかし、規模が全然違うってということも考えてもらいたいと思うのです。例えば、EUを見てみるとピークから今まで3.1%しか減ってなくて、去年は増加しました。それに対して、日本はピークからもう16.5%減っています。生産年齢人口ってというのは先進国を中心に緩やかに増えていって緩やかに減っていく。それに対して日本は極端に増えていって1995年をピークにしてそこから極端に減っていくってことは特徴的なものなので、ここに出ている海外の例は人口動態が全く違う動きをしています。例えば先ほど事務局からの海外事例で、アメリカの小学校の話があったのですが、日本では小学校を増やすというようなことって極めて考えづらいことなので、どこまで海外の比較ができるかっていうことはもう少し考える必要があるのではないかと思います。

もう1つあるのですが、事業計画を立てるに当たって、市としては奪い合いをどう考えるかっていうことを真剣に考える必要があります。別のところの話になりますが、東京都で見えますと、都心部の千代田区とかに対してどんどん再開発が進むような形を認めていって活性化をするっていう政策を進めています。それによって、都心部に人が集まるような形になっていますけど、人口が減っている中で、それは23区の外からどんどん都心部に一極集中する中で、さらに東京駅の周りに一極集中をしているっていう現状があります。片方では「23区の外側に人が奪われるようなことを防ぐように」という明確に矛盾している政策が一緒に進んでいます。何を申し上げたいのかというと、事業者からするとこの開発をするとなると市の中の一極集中を促すようなことになれば事業者としては儲かりますけど、市としてはもうほとんどゼロサムゲームになってしまいますので、やっぱり追加的な需要を促すようなことをやるのは必要だと思います。

先ほど高橋さんだったと思いますが、税収のプラスになるっていう話で、横浜市の一部の税収がここに移るってことになれば何の意味もないわけなので。そういうことも含めて、事業化をしていくに当たって、山下ふ頭の追加的な需要を生み出すようなことだけではなくて、横浜市全体としてプラスなるかどうかという観点も取り入れるべきもので

あって。事業者はそういうことを一切考えませんので、是非考慮していただきたいと思います。以上です。

【平尾委員長】

アトキンソン委員ありがとうございました。WEBでご参加の幸田委員、どうぞご発言ください。

【幸田委員】

はい、どうもありがとうございます。今、坂倉委員がおっしゃられた交通アクセスは大変重要だと思いますので、先ほど私も内陸部との結節点、東京湾との結節点ということで申し上げましたけど、現在、港湾局がどう考えているか、今後どうするか、これは大変重要な論点だと思いますので、是非取り上げていただきたいと思います。

それで私が1つ別の点でお願いしたいことがあります。それは先ほど高橋委員が社会保障費の増大、それから市民の意見からも社会保障費の負担増に耐えられるようにといったような意見が出ているのですけれど、よく自治体の財政当局が説明するのは、税収が減っていくけど、社会保障費が増えていくと。単純にこう説明していることが多いのですけれど、実はその中身をよく分析をする必要があると。と言いますのは、市のそういった財政の制約要因ってというのは一般財源ベースで考えないといけません。で、私もいくつかの横浜以外の政令指定都市でも色々と分析したことがあるのですが、実は一般財源ベースで見ると社会保障費の負担よりも物件費の負担の方が大きいという自治体は結構多いのです。従ってファクトシートの最初の時にも出ていましたけれども、社会保障費、実額でこうなるよってという表がありましたけれども、そうではないと。それから物件費の区分がされてなかったのですけれど、一般財源ベースでどのような推計をしているのか、またその根拠は何か、もう少し詳しく教えていただきたい。次回で結構ですので、市の方をお願いしたいと思います。ややもすると、ああいう数字だけですと横浜市民の方がかなり誤解する可能性がありますので、もう少しそのファクトの部分について詳細なものを提供いただきたいと思います。そのお願いでございます。以上です。

【平尾委員長】

貴重なコメントありがとうございました。

涌井委員、今日は全体を通じて何かご意見やご感想ありましたら。

【涌井委員】

大変参考になりました。取り分け藤木委員と高橋委員からのプレゼンテーションは非常にある種の現実の側面から頭に染み込んだという感じがいたします。

私やっぱり考えますと、我々急いで考えていく必要もあるのですけれど、先ほどお話があったように飛鳥田市政の大きな目標から50年なのですね。従ってこの計画も50年とは申しませんが、かなりロングスパンで考えていかなきゃいけない。一気に呵成に再開発を進めていくということでは必ずしもないと。そういうことを考えた時にシティリザーバ

一って言いますかね。ギチギチに全ての計画を決めていくっていうのではなくて、非常に柔軟で時代に即応できるようなスペースを一定規模確保しておくっていうことは極めて大事だと。それは防災の対応のためにも実は大変重要であって、機能を全てはめ込んでいくという考え方には不賛成だなということも改めて確認をいたしました。それからもう1つ、やっぱり港湾の機能は基本なのですね。この港湾の機能を睨みながらどう土地利用していくのか、この点も非常に重要な戦略的な視点なのではないかなと。この山下ふ頭の計画というのは、海水面の利用計画と、それからいわば陸域の利用計画、これが上手にマッチングしたものでなければならない。ここのところを忘れないでしっかり考えていかなきゃいけないのではないかと。

最後に、市域全体のマスタープランですね。横浜市の有り様とこの山下ふ頭がどういう関係なのか。これをいつもフィードバックしながら考えていかないと、非常に部分最適にはなるのだけど全体の最適にならないということが起こり得ますので、この点も心がけなきゃいけないという感じを持ったと。以上でございます。

【平尾委員長】

はい、涌井委員、どうも貴重なコメントとご意見ありがとうございました。もう時間が迫っておりますので、私の不手際で議事進行が遅れまして、申し訳ありません。

それでは、ここで皆さん方の意見はございませんでしょうか。なければ、次に私の方から1つよろしいでしょうか。今回が4回目の委員会となりますので、意見書の説明や学識者のプレゼンテーションもほぼ一巡いたしましたので、今後どのように進めていくか、事務局の方から何かお考えがあれば、一言お願いしたいと思います。

【事務局】

はい、今後の進め方についての事務局の考えでございますが、今回は今頂いたご意見に対する対応と、併せて委員の皆様から意見書の説明ですとか、あとプレゼンテーション。それをやった後に、一度これまでの委員の皆様のご意見ですとか市民意見などの結果などを振り返りながら意見交換を行っていただき、答申として今後盛り込むべきまちづくりの方向性なんかを少しこの場でご議論いただければと考えてございます。そして、その後の委員会において、引き続きご議論を深めていただきまして、年内を目途に答申を取りまとめていただけたらと考えてございます。以上でございます。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。確かに、答申策定に向けて、今ご説明があったような進め方がよろしいのではないかと私は思いますので、特にご異議がなければこの方向で進めていきたいと思いますが皆様いかがでしょうか。

【(委員一同)】

異議なし。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。それではこの方向で進めていきたいと思いますので、委員の皆様方、今後ともよろしくどうぞ協力をお願い申し上げます。それでは、本日の議事は全部終了いたしましたので、進行を事務局の方にお返しいたします。

【事務局】

はい、ありがとうございます。本日はお忙しい中、長時間にわたりまして、意見交換等いただきまして誠にありがとうございました。次回の日程等につきましては、後日お知らせいたしたいと思います。以上を持ちまして閉会させていただきます。ありがとうございました。

| 第5回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 会議録 | |
|-------------------------|---|
| 日 時 | 令和6年8月22日(木) 14時00分～16時00分 |
| 開 催 場 所 | 横浜シンポジア (産業貿易センタービル 9階) |
| 出 席 者 ※敬称略 | <p>今村 俊夫 (株式会社東急総合研究所取締役会長)</p> <p>内田 裕子 (経済ジャーナリスト、イノベディア代表)</p> <p>河野 真理子 (早稲田大学法学学術院教授)</p> <p>北山 恒 (建築家、横浜国立大学名誉教授)</p> <p>隈 研吾 (建築家、東京大学特別教授・名誉教授) ※ウェブ参加</p> <p>坂倉 徹 (横浜商工会議所 副会頭)</p> <p>幸田 雅治 (神奈川大学法学部教授) ※ウェブ参加</p> <p>高橋 伸昌 (関内・関外地区活性化協議会 会長)</p> <p>宝田 博士 (協同組合元町エスエス会 理事長)</p> <p>田留 晏 (神奈川倉庫協会 会長)</p> <p>デービッド アトキンソン (株式会社小西美術工芸社代表取締役社長)</p> <p>平尾 光司 (専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事)</p> <p>藤木 幸太 (横浜港運協会 会長)</p> |
| 欠 席 者 ※敬称略 | <p>石渡 卓 (神奈川大学理事長)</p> <p>藤木 幸夫 (横浜港振興協会 会長)</p> <p>村木 美貴 (千葉大学大学院工学研究院教授)</p> <p>涌井 史郎 (東京都市大学特別教授)</p> |
| 開 催 形 態 | 公開 (傍聴者 19人 / 記者 19人) |
| 次 第 | <p>1 議 事</p> <p>(1) 事務局の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会後の市民意見等の説明 ・ 前回の補足説明 <p>(2) 地域関係団体委員の意見書の説明</p> <p>(3) 学識者委員プレゼンテーション</p> <p>(4) 第1回～第4回の意見のまとめの説明</p> <p>(5) 意見交換</p> <p>(6) その他</p> |
| 議 事 | 別紙 |
| 資 料 | <p>当日配付資料</p> <p>(1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿</p> <p>(2) 前回委員会後の市民意見等</p> <p>(3) 前回の補足説明</p> <p>(4) 地域関係団体 意見書</p> <p>(5) 第1回～第4回の意見のまとめ</p> |

第5回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 議事

【事務局】

これより、山下ふ頭再開発検討委員会を開催します。私は事務局を務めます山下ふ頭再開発調整課長の周治と申します。どうぞよろしく願いいたします。まずお手元の資料を確認させていただきます。次第、名簿、前回委員会後の市民意見等、前回の補足説明資料、地域関係団体意見書、第1回～第4回の議論をまとめた資料として横向きのものと同縦向きのものを配付させていただいております。よろしいでしょうか。それでは、開催に当たりまして、横浜市副市長の平原よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。

【平原副市長】

皆さんこんにちは。横浜市副市長の平原でございます。本日は大変お忙しい中、この山下ふ頭再開発検討委員会に、オンラインでの参加も含めましてご出席を賜わり、誠にありがとうございます。

前回の7月の委員会では、山下ふ頭のまちづくりの方向性あるいは導入する機能に関しまして、地域関係団体委員の皆様、それから学識者委員の皆様からご意見・ご説明・プレゼンテーションをいただいたところでございます。意見交換では多様な視点からのご議論をいただきました。本当にありがとうございます。各委員からは事業推進に向けたご意見・ご提案をいただいておりますし、合わせまして多くの市民の皆様からもご意見をいただいております。この山下ふ頭の再開発事業に対する皆様のご期待の現れであると感じているところでございます。この山下ふ頭の再開発におきまして横浜経済の将来にわたる活力を創出すること・横浜の未来を切り開くこと・持続可能なまちづくりを実現していきたいというふうにご考えてございます。引き続き皆様方の豊富なご知見をいただきながら、そして市民の皆様からのご理解をいただける、事業性のある再開発を目指してまいりたいと考えております。

本日の委員会では地域関係団体委員からの意見書のご説明、それから学識者委員からのプレゼンテーションをいただいた後に、これまでの委員の皆様からのご意見等を振り返りながら、答申として盛り込むべきまちづくりの方向性等をご議論いただきたいと考えてございます。是非それぞれの立場から自由な発想でご議論をいただきたいと思っております。また横浜市の検討体制でございますが、前回に引き続きまして庁内プロジェクトメンバーも参画をさせていただいております。港湾局と関係局が一丸となってこの事業の推進に取り組んでまいり所存でございます。さらに本日はオブザーバーとして、神奈川県から文化スポーツ観光局にご出席をいただいているところでございます。各方面からご協力をいただきながら本事業を進めてまいりたいと考えてございます。本日は最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】

ありがとうございました。

本日の委員の皆様の出欠状況についてご報告させていただきます。委員17名の内、現在、WEBでご参加の幸田委員を含めまして10名の皆様にご出席いただいております。なお、途中から高橋委員、デービット・アトキンソン委員は会場でのご参加、村木委員・隈委員はWEBでのご参加の予定でございます。石渡委員、藤木幸夫委員、涌井委員はご欠席でございます。

報道関係者の皆様方にお知らせします。報道関係者の皆様方は、報道撮影エリア内での撮影にご協力をお願いします。

傍聴者の皆様方にお知らせします。傍聴者の皆様方は、撮影や録音等はお控えくださいますようお願いいたします。

本日も、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料につきましては、インターネット中継により配信されます。なお、会議の様態を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、予めご了承ください。

それでは、これより先の進行は、平尾委員長にお願いしたいと思います。平尾委員長、どうぞよろしくお願ひいたします。

【平尾委員長】

平尾でございます。今日は皆様方、天候が不順の中、お忙しい中、ご参集いただきましてありがとうございます。第5回目の検討委員会になりましたけれども、皆様方の活発な意見交換をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは着座によって進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、まずお手元の議事次第をご確認ください。本日のタイムスケジュールについては、議事1を5分程度、・議事2として宝田委員、田留委員から意見書のご説明を、10分程度を目安に行っていただきます。議事3としては、河野委員の方からプレゼンテーションをお願いいたしまして、またオンラインで隈委員からの10分程度のご発言をお願いしたいと思います。最後に私平尾の方からプレゼンテーションを10分程度させていただきます。議事4の終了後、意見交換を40分から50分程度、委員の皆様方をお願いしたいと思っておりますので、どうぞご発言いただきたくお願ひ申し上げます。それでは、よろしくお願ひいたします。

議事1に入ります。事務局の方からご説明をお願いします。

【事務局】

山下ふ頭再開発調整担当部長、洞澤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。前回委員会後にインターネットフォームに寄せられました市民意見について、ご説明いたします。お手元の資料2をご覧ください。委員の皆様には、事前に本資料をお送りさせていただいておりますが、1から2ページは、市民の皆様からのご投稿をまとめたもの、3ページ以降は、市民の皆様からのご投稿を綴った資料です。本日は、資料の1・2ページをご説明いたします。

1ページをご覧ください。受付期間は、前回委員会開催日から8月19日までとしていま

す。意見数は、33名の方から36件いただいております、居住地は、市内在住の方が30名、市外在住の方が3名となっています。円グラフは外側が、今回投稿の年代別割合です。なお、参考として、内側に市の年代別の人口割合を記載しています。

「3 御意見の主な内容」ですが、「まちづくりの方向性に関する御意見」については、「アクセスの悪さは再開発の大きなネックになるので、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を計画に組み込む視点や大量輸送手段の確保が必要」、「この地区が持つ港というブランドの変遷を正しく理解し、他地域と比べた優位性を導き出した再開発をすすめるべき」、「脱炭素化社会実現のため「ペロブスカイト太陽電池」や「電気運搬船」など、横浜発の先駆的技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待」などのご意見をいただきました。

2ページをご覧ください。「(2) 導入機能に関する御意見」については、「横浜港の情景を大切にすべく、山下公園から連続する緑の多い空間」、「緑が多く、港としての機能として「海とのアクセス」を誰もが活用できるインフラ整備」、「夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設」などのご意見をいただきました。

「(3) その他の御感想等」については、「市内で競争が起こらないように、山下ふ頭ならではの特色のある再開発計画を実施することが、横浜市としての追加の価値につながる」、「時代の変化に合わせ、用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい」、「平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスの調整を考慮できると、より有効な活用につながる」などのご意見をいただきました。資料2の説明は以上となります。

続きまして、前回委員会でご説明したファクトシートの補足説明をさせていただきます。スクリーンでご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも資料3として配付しています。前回、「国外開発事例」について、今村委員・村木委員から、具体的な成功内容や、効果の目標と成果、副次的な効果などを示して欲しいとのお話がありました。今回、3地区について、情報が整理できましたのでご説明いたします。

資料の構成として、上から前回お示しした開発の内容、開発初期の目標と成果、想定外の課題と対応策、成功要因として評価された事項、その他の成果をお示ししており、今回は、開発初期の目標と成果、想定外の課題と対応策に絞ってご説明いたします。

まず、「ハーフェンシティ」です。2万人の雇用創出目標に対し、現在1.5万人、今後、最大4.5万人の雇用の創出が予想されています。課題ですが、開発中に周辺にて、地下鉄などの交通網の整備計画が決まり、開発区域と一貫性のある総合的な計画が必要となったため、2010年に周辺を含むマスタープランへと改訂し、周辺地域の役割を新たに設定した総合的な開発を進めています。

次に、「ボルチモア」です。観光施設等を整備し、大規模集客を目指した結果、1,000万人以上が訪れ、23億ドルの経済波及効果をもたらしたと推計されています。課題ですが、オープンスペースの管理が個々の建物所有者にゆだねられ、修繕が適切に実施されないなどにより景観が損なわれましたが、非営利法人が一元管理することで、景観が整えられました。

最後に「マルセイユ旧港地区」です。2015年頃までに1.5万人～2万人程度の雇用を創出

する目標に対し、2万人の雇用が創出されました。また、1ユーロの公共投資が4ユーロの民間投資を生み出す目標に対し、5億ユーロの公共投資が30億ユーロの民間投資を生み出しました。課題ですが、開発により賑わいを創出しましたが、開発区域の周辺は衰退したままの状態でした。周辺地区と一体的な賑わいを創出するため、交通的つながりを生み出すアクセス機能の強化を図ることとしました。

その他として、北山委員から、海都横浜構想2059において参考にした海外の開発事例のご紹介がありましたので、ご説明いたします。これは、ヴェネチアの事例となります。ヴェネチアのジャルディーニは、都心近くの造船所跡に設けられた都市公園で、低い建ぺい率で各国のパビリオンが建てられ、ビエンナーレの会場として使われ、都市観光のエンジンとなっています。続きまして、シドニーの都心に設けられた美しい水際公園の事例となります。これは、ポートランドで創造都市の拠点として成功している事例です。これは、アムステルダム の都心から近い埋立地の事例です。北山委員、恐れ入りますが、補足等ありましたら、議事（5）の意見交換の際にいただければと思います。

次ページ以降の資料につきましては、議事（4）第1回から第4回までの意見のまとめにも関連しますので、後ほどご説明させていただきます。補足の説明は以上となります。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。次に議事2に入ります。宝田委員から意見書の説明を10分程度でお願いいたします。よろしくどうぞ。

【宝田委員】

はい。協同組合元町エスエス会の理事長をしております宝田と申します。今日は商店街の意見を言わせていただく時間を頂戴しました。ありがとうございます。それでは始めたいと思います。

前回、坂倉さんの方からも元町・中華街からのアクセスっていう話がありましたけれど、こちらの委員会にお声をいただいた時から、我々商店街としては、今の現状の交通アクセスの不便さというものを意見書で出ささせていただきたいという旨の話をさせていただいております。前回の市民意見の一番最初のところにも市民の方からの意見を頂戴しておりますが、まず山下ふ頭の周辺は山下公園がありまして、山下公園通り会、中華街、元町と色々商店街がありまして、また近隣エリアには住居もたくさん存在しております。そこに勤めていらっしゃる方もたくさんいて、多くの方が日々あのエリアを利用しております。山下ふ頭地域、特に車でのアクセスというのは限られたアクセスのみになっておりまして、特に新山下の方から山下公園に向かう通りというのはバスの通りにもなっておりますので、日頃から渋滞が多く発生する場所にもなっております。また歩行者について、元町・中華街から限られた道路にしか歩行者が通れない歩道橋があるのですけれども、足の不自由な方、車椅子の方はなかなか利用しづらい。そういった環境があまり整ってないような状況になっております。高速道路の下の歩道部分は、片側だけは歩けるのですけれども、もう片側は歩行者が通行できないような通りになっておりますので、あの辺も全て含めたもので山下ふ頭再開発の検討の

中に入れさせていただきたいと思っております。

広さを比較した時に、41ヘクタールの新港ふ頭よりも広いエリアがこの山下ふ頭のエリアになっております。これに対して本当に限られた場所でしか中に入れられない・中から出てこれられないという状況になっていまして。今現在、新港ふ頭だけでも年間1,770万人の方が訪れているのですが、観光客も働いている方も含んだ数だと思っておりますが、この山下ふ頭のエリアの中にこれからどれだけの人間が日々働きに出るのか。ここにどれだけの方々が観光に訪れるのかということ考えた際に、今の出入り口の広さだけではあまりにも足りないであろうというふうに思っています。万が一災害があった時など、これだけの広さに対してのあられだけのスペースであると、避難するのも迷ってしまうのではないかと。今、イベントなんかがあると山下公園の中から入れるかと思うのですが、そこも限られた広さでしかゲートがオープンしていないという状況もありまして、あそこからなんとか歩行者・車道を含めたアクセスのしやすい交通インフラの整備というものを地元の商店街としてはまずこちらのまちづくりの計画に入れていただきたいと思います。こうやって見ると色々なアクセスがあるように見えるのですが、実は二車線しかなかったり、片側一車線しかなかったり、一方通行であったり、先ほど申し上げたとおり、歩行者が入れないような状況になっている場面、歩道橋をわざわざ使わなければいけないような状況になっている。これが果たしてこれから日々3万人・4万人が訪れるまちづくりをするのに適した道路の数なのかということが非常に疑問に思っているところであります。首都高速へのアクセスがものすごくいいのですが、実はあそこは降りてきてからも渋滞があり、なかなか入る段階では渋滞はそこまで見かけないですが、何かイベントがある際にはあそこでも渋滞が起きる。山下橋を中心に渋滞が起きやすい。交通量が多いということは歩行者もなかなか安心して通ることができないということもありますので、是非そういったところも考慮していただきたい。

また、石川町駅の方に話が変わるのでありますが、今、棧橋が設けられていまして、日ノ出町駅の裏あたりの棧橋から、大岡川、中村川、堀川と回遊ができるような水上交通というのが進められております。今、元町・中華街駅の方に谷戸橋というところがあるのですが、あの辺でもそういった新しい水上交通のインフラ整備という話も上がってきております。そういった水上交通も利用した新しい全体的な交通インフラの整備というものを是非この山下ふ頭再開発検討会議の中に盛り込んでいただきたい。これが元町からの意見となります。

ちょっと短いですが、以上となります。

【平尾委員長】

宝田委員、どうもありがとうございました。山下ふ頭について、アクセス・モビリティ・全体的な交通体系・システムの問題。非常に大きな問題だと思いますので、今日は大変具体的にご説明・ご提案いただきまして、ありがとうございました。

それでは続きまして、田留委員にプレゼンテーションをお願いいたします。どうぞよろしく申し上げます。

【田留委員】

はい、神奈川倉庫協会より推薦されました田留でございます。どうぞよろしくお願いたします。この度、横浜市山下ふ頭再開発検討委員会の地域関係団体委員として発言する機会をいただきましたことに感謝申し上げます。団体概要及び主な事業活動は割愛させていただきます。山下ふ頭には当協会の会員・企業の多くがこれまで関わってまいりました。その総意を踏まえて当協会として提出しました意見書の内容を説明させていただきます。

まず倉庫と山下ふ頭との関わり合いですが、当協会創立76年以上の歴史の中で、1963年、昭和38年に山下ふ頭が供用開始されました。開始以来60年の年月に関わってまいってきたというところがございます。その役割はその時代時代で変遷をたどってまいりましたが、特に我々倉庫事業者はいつの時代も横浜港の中で貿易の結節点であり、活性化や横浜経済の支えに大きく寄与してきた自負と共に、多くの従業員が働いていた場所として、この山下ふ頭に対し強い思い入れを持っております。そのため、この山下ふ頭再開発に当たりまして、今後の展開や将来図に対し、関心とともに注視しているところがございます。

続きまして要望事項に沿いまして要望と意見を申し上げます。

まず1つ目としましては、ただいま宝田委員のご説明の中にありましたように、私どもも交通問題を一番懸念しているところがございます。山下ふ頭の再開発に伴いまして、これまでにない大規模な人流が発生すると思われれます。山下ふ頭は横浜市の中心に位置しておりまして、周辺道路は我々物流事業を営む事業者、特に輸送手段として重要な役割を担う道路が非常に影響を及ぼすものと考えております。物流事業者のみならず、市民生活にとりましても、生活道路として大きな影響と支障を及ぼすことを懸念しております。そのためにも、周辺交通網の整備を山下ふ頭再開発検討の中でも重点課題としてお願いするところがございます。前回の委員会でも説明・掲載がありましたけれども、新港ふ頭から山下ふ頭、本牧ふ頭までをつなぐ国直轄事業であります臨港幹線道路の整備を改めて進めていただくのも1つだと思っております。また、長期計画になるかもしれませんが、輸送能力が格段に高い鉄道、近くまで走っておりますみなとみらい線やブルーラインの延伸についての検討も必要になってくるかと思料しております。さらに山下ふ頭を中心に広域にまたがる海上交通を開通させ、アクセス手段の選択肢を広げ、交通網の整備・拡張を図ることによりまして、観光や新たな事業展開に役立つものと思われれます。

2つ目としましては、山下ふ頭はご承知のとおり、横浜港頭地区にありながら、横浜市街地にも近い好立地にあり、素晴らしいロケーションの中にあります。この優位性を活かし、魅力的な事業開発を願うものでございます。現在関心の高いSDGsの目標を踏まえた環境・経済・社会的課題に対し、持続的で横浜市の成長につなげられる新たな価値や賑いを創出し続ける街づくりも目指す指標にさせていただければと思っております。重なりますけれども、山下ふ頭の再開発は環境問題や経済、社会課題と向き合い、横浜経済の活性化につながる持続可能な事業にさせていただければ幸いです。山下ふ頭におけるこれまでの物流事業は横浜市において経済面だけでなく雇用も促進してまいりました。是非とも、横浜のさらなる経済発展につなげ、活性化に伴う事業展開と共に雇用を創出することを期待しております。

3つ目になりますが、今年に入り、大きな地震が相次いで起きております。また、最近では台風も多く到来しています。この災害時の対応について、問題・課題を見直す機会が出て

いる中で、横浜港湾エリアにおきましても、防災拠点機能として災害時対応の整備が必要不可欠となってくると思われます。山下ふ頭は船舶が着岸できる岸壁機能の優位性を活用した災害時の海上輸送ルートや保管拠点の機能確保も重要な役割になるのではないのでしょうか。

意見書の内容は以上でございますが、最後に山下の再開発は魅力ある持続的で将来性につながるのある一体的なまちづくりを目指し、横浜経済の起爆剤になることを願って、発言を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【平尾委員長】

田留委員、ありがとうございました。横浜市の発展の起爆剤として、山下ふ頭の再開発という最後の言葉が非常に印象に残りました。ありがとうございました。それでは、ご質問に関しましては学識者委員のプレゼンテーションの後にまとめてお受けしたいと思いますので、それでは学識者委員のプレゼンテーションに移らせていただきます。河野委員、お願いいたします。

【河野委員】

本日は限られたお時間の中でプレゼンテーションの時間をいただきまして誠にありがとうございます。

この最初のスライドでございますけれども、私なぜここに座らせていただいているのかということ若干この肩書きでお分かりいただけるのではないかと思います、あえて公式な所属だけでなく1つ付け加えさせていただいております。

昨年、新しい国際コンテナ戦略港湾政策の進め方検討委員会というものが、国土交通省の方で開催されまして、私その座長を務めさせていただきました。おそらくこの検討会の委員をさせていただいておりますのもそれゆえではないか、それから港湾審議会の方でも委員を務めさせていただいた経緯もございますので、そういうことでここに座らせていただいていることと存じます。それゆえに私としましては、横浜市、それから横浜港というものが今の日本、あるいは日本の国民にとってどれだけ重要な港かということ、皆様方にはもう十分お分かりのことではないかと思うので、改めて今回若干プレゼンをさせていただきたいと思った次第でございます。

本日、3つに分けてお話をさせていただきます。1つ目は何よりも今、横浜港が置かれている状況がどういうものなのかということです。実はコロナ禍の前と後でかなり考え方が違ってきておりまして、検討会が国土交通省で開催されましたのもコロナ禍の状況を踏まえての開催ということでございますので、その点若干ご説明をさせていただきたいと思います。それから二番目にその検討委員会の結果としてどのような取りまとめがなされたのかということについてもお話をさせていただいて、何よりその最終的な取りまとめの中で横浜港が持つ役割の大きさということは、これはもう疑いの余地がないものでございますので、若干そういう期待を込めて3つ目のお話をさせていただきたいと思っております。

まず1つ目の国際コンテナ戦略港湾を取り巻く情勢についてでございます。1つ目の問題は、まず1つは世界全体において国際コンテナの取扱量というのは世界経済の発展に伴いま

して飛躍的に伸びております。これが世界を取り巻く中で日本を中心にして国際航路を、輸送ルートを示させていただいている地図なのです。このアジアと欧州、それからアジアと北米、南米、そしてアフリカをつなぐこの航路というものが国際的にはコンテナの貨物量がどんどんどんどん増えているのが現状でございます。問題はこの世界全体において国際コンテナの取扱量が増加しているにもかかわらず、実は日本はこの国際コンテナ戦略港湾がせつかくの商売の機会を逃しているのが今の状況というふうには言わざるを得ません。と申しますのは、これが現状の日本でございます。少なくともアジア主要港と我が国の港湾の国際基幹航路の寄港回数を比較しましても、とにかく劇的に日本の港湾は取扱量が減っている。その結果として、90年代には10位以内に神戸港がございましたし、横浜港も11位でございましたけれども、2022年の速報値でいきますと、もはやもう30位以内にも入れていない。これが今の横浜港の状況というふうに申し上げることができます。これで良いのかというのが今年の検討委員会の何よりの大きな課題でございました。

1つの考え方としては、もはやハブ港である必要はないのではないかと。アジアにおいて例えば釜山港と上海港がハブ港になっているのだから、そこを拠点にすれば良いのではないかという議論も実はあり得るのです。それが実際にコロナの間にもどのような結果をもたらしたかということを見たいと思います。何よりもコロナ禍の中で国際的にはコンテナ輸送のネットワークが非常に需給ひっ迫をし、そして輸送網にかなりの影響がもたらされました。その結果として、何が起こったかと申しますと、少なくともコロナ以前の2020年までの状況と、それから2021年以降のこのグラフの差を見ていただくとお分かりかと思うのですが、コロナウイルスの感染症が蔓延したこの結果として、やはり釜山港を経由することによって、そこで待つという事態が生じます。データによりますと輸送日数の差が最大で50日程度まで伸びたということになります。この状況を見ないではいけないうのではないかと。すなわち荷主等のコメントを検討委員会でもかなり伺ったのですけれども、50日以上リードタイムが出てくるということそのままで放置すべきではないというのはかなりの荷主の方々のご意見として出てきたところでございます。ということは基幹航路を、ハブ港としての日本の港湾の機能をなんとか維持しなければいけないという課題がございます。これまでの日本の国際戦略港湾の特色というのは少なくとも日本発着貨物が十分にあって、そしてその輸送だけで十分な貨物量が確保できたわけです。ところが現在の日本の港湾の事情というのは、まず日本発着の貨物量が減少していて、これは日本社会の変容で少子化や人口減少、それから製造業が国際的に分業化したこと。これが原因になっているものと思われま

す。それからもう1つの大きな事情としては、コンテナ船が大型化しているのですけれども、新しく作られた港ほど、例えば大深度の埠頭を作れますのでコンテナ船の大型に対応できると。こういった事情がございます。日本が抱えている状況というのはこういう状況であり、しかもこれに加えて現在国際海運を取り巻く国際情勢が大きく変化しております。1つはアラビア海、紅海を通る船舶がフーシ派に攻撃をされると。それを避けるために、今喜望峰を回っておりますので、こちらでやはり時間がかかっておりますし、それから若干改善の方向に向かっているというふうには伺っていますけれども、パナマ運河が渇水状態になって、通れ

るものに制限が出てきていると。こういった様々な国際情勢にもやはり対応していかなければならない。日本の産業を支える港としてこれらの点というのを考えなければならない。

このスライドを見ていただきますと最も顕著に日本の港湾のこれまで特色が分かるのですが、日本の港湾は先ほど申し上げたように日本発着貨物だけで十分に荷物量が取れたので、今までトランシップにそれほど注力をしてこなかった。ところが、アジアの経済発展を日本の港湾に取り込んでいくためにはトランシップを取り込んでいかざるを得ないというのが現状であろうということをこの表から分かっていただけたと思います。それからもう1つのデータとして見ていただきたいのは、実は日本の発着貨物がかなりの部分釜山港を経由しているということ。この状況もやはり日本発着貨物は日本をハブ港として発着できるようにすべきではないかということ。これらが日本を発着する貨物の量を確保していくために何より必要であると。しかもこれだけコンテナ船が大型化しているという状況もございます。

こういった状況それから国際情勢ということで、コロナ禍以降の日本としても、何もしてこなかったわけではございません。例えば北米東岸向けの直行航路を維持するための努力、一度止まりましたので、これをもう一度維持するための努力。これは横浜港を起点にして行っておりますし、それから国際フィーダー航路による北米航路への集貨、リードタイムの変化ということについても政策を採っている。こういった様々な取組をすることで、何より重要なことは基幹航路を維持すること。これは国際基幹航路を維持するということが日本の産業にとって少なくとも何よりも重要な意味を持つというふうに考えられます。

この結果として、結論として2点申し上げられると思います。まずどうやったら日本で基幹航路を維持できるのかという時に1つは集貨と創貨ということになります。何より港湾に荷物がなければ船は、基幹航路は寄ってくれませんのでやはり集貨、創貨をしなければなりません。集貨は日本国内だけでなく、今後は東南アジアからの集貨を考えなければなりませんし、それから大深度の港湾施設の機能強化も必要になってまいります。こういった点を踏まえて、少なくとも国際コンテナ戦略港湾政策の進め方の検討委員会は集貨と創貨、それから港湾機能の強化ということを打ち出したということになります。

【平尾委員長】

河野委員、そろそろ時間ですのでまとめていただけますでしょうか。

【河野委員】

最後はあと2～3分だけいただきたいです。

中でも横浜港の重要性は、横浜港には現在大水深の、つまり大型のコンテナ船に対応できる埠頭がある、日本で唯一の港です。その横浜港に日本国内からの集貨の必要性がございます。それから東南アジアの地域からの集貨と創貨も必要です。

さらにはデジタル化とグリーン化ということで先進国ならではの港湾であるべきであろうと考えます。横浜港は今そのための取組を随分していただいているというふうに伺っております。

結論として申し上げたいのは、日本にとって横浜港の重要性ということ、それから日本国民にとって横浜港がいかに重要かということを考えて時に、今後世界的に横浜港が選ばれる港湾になっていただきたい。そのためには、日本国全体としての取組も必要ですし、ですけれども市民の方々の理解や協力も必要であろうと思います。それからDX化とGX化による新たな価値に対応して、港湾を機能強化することも必要ですし、そのためにこれだけの立派な港なのだということを横浜市からも是非発信してポートセールスをしていただきたい。それから激動する世界情勢や国際コンテナ戦略港湾政策のあり方について横浜市あるいは横浜市民の皆様にも興味を持っていただきたい。もちろん十分それはもうしていただいているのですけれども、改めて繰り返させていただきたいと思います。山下ふ頭というものは横浜市民にとって重要であることを十分に私この検討会で理解させていただきましたけれども、ただもう1つは日本国民にとっても重要な港であり、そしてその港と市街地を結節する場所として山下ふ頭の土地というのは大きな意味を持つと思っております。そういった観点からこの跡地の利用をご検討いただければ大変ありがたいと思います。すみません、お時間いただきましてありがとうございます。

【平尾委員長】

河野委員どうもありがとうございました。世界的な物流・コンテナ化という船舶輸送の変化の中で横浜港の位置付けあるいはその中でまた山下ふ頭の位置付けということをご提案いただきまして、ありがとうございました。

それでは次にWEBでご参加の隈委員からプレゼンテーションをお願いいたします。隈委員どうぞよろしくをお願いいたします。

【隈委員】

はい、建築家の隈でございます。今日はWEBからで大変失礼いたします。今回横浜の山下ふ頭を、世界のこのようなウォーターフロント、それからアーバンデザインのプロジェクトの中で考えてみたいなというふうに思います。そういう中で、1つ私が重要だと思うのはセントラルパークのプロジェクトでして、実はニューヨークの真ん中に緑が残ったというのがその後のニューヨークにとって非常に大きな価値を与えたというふうに言われています。

今2000年以降の世界の都市開発の流れを見るとあの基本はやはり緑をどういうふうにして復活するかというのが、大きな流れになっていて、その時このセントラルパークのストーリーは非常に重要です。当時いろんな議論があってニューヨークの真ん中、これ実はこの土地空いていたわけではなくて、土地を買収してここに緑を作ったわけですが、それに値するかどうかいろんな議論の中でこれ市長の英断でここに緑を作ろうということで、これがその後のニューヨークに大変に大きな価値を与えたと言われます。これがその内容です。オルムステッドというランドスケープデザイナー、彼自身が、ただ緑のデザイナーというだけではなくて元々政治家志望で非常に強い政治的意志を持って都市の中には絶対グリーンが必要だと、それが人間の生活にとって必要だということで19世紀の半ばにこのような自然に溢れたランドスケープの絵を書いたわけです。

これが今のセントラルパークの中心部です。彼は交通計画にも東西を結ぶものが、セントラルパークの緑を阻害しないで繋がっているという交通計画にも意を配ってこういう理想的な公園ができたわけです。こういう実際に緑がニューヨークの市民にとって大きな価値を与えたわけです。

その後色々な機能がここに入ってきました。最初からそこに複合機能っていうのではないのですが、やはり複合機能が入れるような余地を残したということで、有名なメトロポリタンライブラリーですとか、有名な動物園ですね。最初はこういう動物の小屋から始まって最終的には大きな動物園になるのですが、これが動物園の計画ですね。

結果としてニューヨークにこのような緑が残って、これだけの大都市がやはり緑、自然に近い大都市として大きな価値を未だに発信し続けているということです。オルムステッド、そのランドスケープデザイナーは、その考え方を非常にアメリカで高く評価されて、その後もブルックリン、それからボストン等で同じような計画でニューヨークの都市の、市街地プラスグリーンという1つの典型を作ったわけです。

これ山下ふ頭の原型ですが今ここに緑ができたらどんなにいいかなというふうに私は考えるわけです。

これはニューヨークの南の部分新たに緑と、それから交通問題の処理、それからもっと大きい目的は防災ということで、開発するプロジェクトのビッグユウというプロジェクトのコンペの最優秀案です。このきっかけになりましたのは2012年にハリケーンのサンディっていうので、ニューヨークが壊滅的な被害を受けて、このままではニューヨークやばいということで、この南の地域に、どのような防災機能を持った公園を作るかというコンペが行われました。これがそのビッグユウの全体で、緑を中心にしてこのような複合機能が入っています。もちろん防災というのが一番大事にされています。これが、その予想図の一部です。水際の緑、それからスポーツ等の活動、それからウォーターフロントの部分は一部立体的に利用されていて、こういう部分の活動の下に、これ一番のウォーターフロントですね。このような既存の構造物とも複合して立体的なウォーターフロントの絵ができています。これはその後、2012年のハリケーンの後、コンペが行われて、今少しずつ実現に向かってどんどん動いています。これは、そのビッグユウの今工事中の部分です。

マルセイユのウォーターフロントの開発というのも、これ私の一部絡んだので親しいのですが、マルセイユの一番の港湾の中心部分を、ここは観光をベースにするエリアとして、作り直そうという計画でありました。このような、ちょうどこの赤いフラックマルセイユっていう国の現代アートのセンターを私がやった関係でこの脇での動きをずっと見ていたのですが、この網掛けの部分を中心にしたことによって以前はこの上のような絵だったわけですが、車も、車が排除されて、全く違うマルセイユ、マルセイユというのはどちらかというと移民が多い、それから車が多いということで、評判の悪かったウォーターフロントが全く違う環境になったわけです。これがビフォーアフターですね。これが、私どもが絡んだ現代アートセンターです。

バルセロナもそういう水辺の開発として非常に世界に名高いのは、実はきっかけは意外に新しく、1992年のバルセロナオリンピックでそれをきっかけにしてこの水際を、今まで倉

庫工場だった水際を一掃して緑のウォーターフロントを作ろうという成功事例です。これがその以前のバルセロナのウォーターフロントの工事中の風景ですが、これが今このような緑と、それから人間がビーチに近づける。この前のバルセロナは全くその水際に人がいけないという街だったのですが、全く違う要素の街に変わりました。市民のパブリックスペースも水際にデザインされて、それから新しいデザインファームなどの誘致もありまして、バルセロナのこの長い水際が全く違うものになったと言われていています。それに合わせて、スーパーブロックという開発が街の中に伸びた。これも画期的なことで、ウォーターフロントから始まって、スーパーブロックという街中の緑プロジェクトも始まるわけです。これがブロックを遊歩道と緑の道路に変えていくという計画です。上が下のような緑のバルセロナに変わったということです。

イギリスの北のスコットランドのダンディも、その水際のプロジェクトに我々関わって、このダンディというのはスコットランドではどちらかというとエディンバラ、グラスゴの影に隠れていた街なのですが、水際はかつて港湾として非常に栄えた。それが、港湾工場倉庫が全く必要なくなってきたので、そこを緑とそれから文化の町に、水際に変えようという計画でした。これが緑になったダンディの水際の絵です。これ工事中の様子です。これ前の様子を見ていると、あまりの変わり様にびっくりするのですが、これで街が生き返りました。今これも工事中で、左下の水際の建物が我々のビクトリアアルバートミュージアムっていう初めてイギリスの国立博物館の分館を作るという計画でした。これが水際と分館と公園の様子です。これが我々の建物ですが、公園はエリザベス女王がオープニングに来て、それだけイギリス全体でこのウォーターフロントの開発、緑の公園を作るのに力を入れていることの象徴が、エリザベス女王のオープニングの参加だったわけです。

シンガポールも、実は都市化の中で非常に環境が悪化したので、緑を再生させるという計画を南側で今進めています。シンガポール、超高層の都市に対して絶対緑が必要だという考え方が出てきて、場所的にはこの有名なマリーナベイサンズの向かい側の土地、このちょうど向こうにクレーンが見えていますけど、その場所です。この緑で書いた場所です。マリーナベイサンズの下にはカジノがある。そういうシンガポールの象徴の脇に、緑の整備を行ったわけです。ここに機能複合するというコンペで我々がシンガポールの創立者と言いますか、ファウンダーズのリー・クアンユー記念館を我々が作る提案で選ばれてこういう計画をしました。これが実は建築物と緑の複合で、一見緑なのですが、実はその中に様々な機能が複合されています。これが最終的な完成予想図。今工事中なのですが、向こうのマリーナベイサンズ以降の超高層のものと補完し合うような関係を作ろうというのがこのシンガポールの国の大きな方針になっているわけです。これ屋上全体が太陽光パネルになっていて、下にファウンダーズメモリアルの機能が入っています。

このモナコのウォーターフロントでも、今プロジェクトの名前がシンビオーズというプロジェクトです。これは、プロジェクトの概要はまだはっきり示せないのですが、ゴミ処理場をモナコの新しいシンボルとして、人々が来られる、それで環境の問題を学ぶことができるゴミ処理場をウォーターフロントの象徴的なものとして作ろう、というプロジェクトです。世界のこういうウォーターフロントにとって環境というのが大きなテーマになってい

て、それがさらに単に緑があるだけではなくて、人もちゃんと呼べる緑を作ろうという計画として進んでいる、ということが重要だなということを、そういう考え方で山下ふ頭も、こういうものに負けない、あるいはそういうものを超えるような緑のプロジェクトができればいいなということで今日お話をさせていただきました。ありがとうございます。

【平尾委員長】

隈委員ありがとうございました。世界各地の開発計画、それが山下ふ頭に参考になるという、そういうプレゼンテーションをいただきました。隈委員の冒頭にご紹介のありましたセントラルパークは、私は10年近くに住んでおまして、毎朝あそこでジョギングしたり散歩したりしておりましたので、大変懐かしく感じました。またあとの都市も、全部来訪しておりまして今日先生のご紹介によってその街がいかに変わっているかということ、非常に印象を強くいたしました。プレゼンテーションどうもありがとうございました。

それでは、最後になりましたけれども、私の方からプレゼンテーションをさせていただきます。ちょっと時間が押しておりますので、ちょっと一部割愛するかも分かりませんが、よろしく願いいたします。

私のテーマは横浜市の都市課題と山下ふ頭ということで、そしてサブタイトルとしては新たなシビックプライド、新しい市民の誇りを創り出すと。横浜市には色々と誇るべきものがありますけれども、山下ふ頭は今までと違った、新しい市民にとっての誇りを、場所を作り出すのだと。そういうことが基本的なテーマかと思っております。

横浜市の色々な都市課題につきましては、横浜市の長期ビジョンあるいは中期計画によって非常に的確に横浜市の当面する課題を取り上げられて、長期的に取り組んでおられて、非常に成果を上げてこられました。それぞれ長期ビジョン、中期計画とも来年が最終年度になりますので、これまでの計画を振り返りながらどういうふうな新しい横浜市のあり方を模索するのか、その中で山下ふ頭をどういうふうに位置づけるのかということが課題かというふうに思っております。

この問題の切り口は色々ございますけれども、私は3つの切り口でご紹介したいと思えます。まず多文化共生ということですが、横浜市は高度成長の過程、1965年、昭和40年にこの6大事業というプロジェクトを展開されまして、大体今完成に近づいてきたということです。この6大事業は高度成長で横浜市の人口が、あるいは産業がどんどん増えていくという中での計画だったわけですが、今後は違った課題に直面するのではないかと。一番大きな問題は先般アトキンソン委員からもご紹介がありました人口の問題ですね。横浜市の人口は今年去年あたりをピークにして、日本全体の人口減少よりは緩やかでありますけれども、しかし大幅な減少が今後予想されているということはこのグラフの線です。青い線が横浜市の人口、それからイエローの線が日本全体の人口減少の状況です。そういう中で横浜市に海外の外国人の定住人口が非常に増えてきているということで、現在12万人を超える外国人の方がいらっしゃいますけれども、さらに今後私どもは色々と計算してみると2040年には外国人の数は40万人近いということで約9人に1人は外国人になると。まさに多文化

共生の町に横浜市がなっていくのではないかということで。そういう多文化共生の町の実現ということに対してどういうふうに、それから定住人口と同時にインバウンド等の交流人口も増えてくるという形でも、そういう意味で第三の開国っていうのが横浜市に課せられている課題だろうと。これは日本全体の課題でもありますけれども、横浜市には特にそういう傾向が強くなっていくのではないかということです。それで多様な人材が集まることによって新しい街の発展が進められていくと。都市経済理論で、ジェイン・ジェイコブズとかリチャード・フロリダなどの都市経済学者の、町のダイナミズムっていうのは多様な文化の総合によって進められていくという都市理論がございます。まさに多文化共生のプラットフォームを横浜で展開していく、その基盤が山下ふ頭になるのではないかということです。

それともう1つはイノベーションです。人口の増加減少を補っていくための経済の発展というのはイノベーションであって、それは横浜市にとって色々な試みがされておりまして、今回みなとみらいにも新しいスタートアップの拠点ができますし、それからYOXOボックスもそうです。ただまだまだ横浜のポテンシャルに比較すれば、このイノベーションの拠点の形成というのは遅れているのではないかというふうな気がいたします。それでイノベーションが単に発明がされるだけではなくてそれが社会実装をされていかないといけない。それを山下ふ頭で展開していくということで、横浜市の誇るべき新しいイノベーションはペロブスカイトという折り曲げられる太陽発電の、これが今、大さん橋で実証実験が始まっております。これを社会実装として全面的に展開して、ソーラーエナジーの街に山下ふ頭をしていくということ、その他多様なイノベーションの展開をこの山下ふ頭で行っていくということ。

それからもう1つは皆さん方から色々のご発言がありましたモビリティ・アクセス。このイノベーションもしないといけないのではないかと。たまたま川崎市では川崎と羽田を結ぶ自動運転のEVバスを導入されようとしていますけれども、この皆さん委員の方々からご発言がありましたように山下ふ頭と横浜市の従来の街との間のアクセスを強めていくと。そのための新しいモビリティのイノベーションが必要ではないかということでございます。今横浜市もご覧いただいておりますような交通インフラのイノベーションを進めておりますけれども、さらにこれを進めていくということです。

それからこれも防災機能の強化ということで、山下ふ頭の埠頭機能を活かして、災害時における災害支援物資の受入れあるいは広域防災拠点、避難場所等にする。あるいは山下ふ頭の岸壁を強靱化して防災に、あるいはドローンその他の新しい防災の基地にするということも考えられるのではないかとということでございます。

また、この山下ふ頭を作っていくためにやはり市民の参画っていうのが非常に重要であるかと。皆さん方のご意見のとおりですけれども、隣接する山下公園が、関東大震災の瓦礫の中から作られたのです。言い伝えによりますと、伊勢佐木町とか元町の瓦礫を市民がリヤカーとか大八車で運んで、山下公園ができたっていうことも聞いたことがあります。この山下ふ頭の開発にも、市民の参画を進めていく必要があろうかということです。

それから山下ふ頭にグリーン強化、先ほど隈委員のご説明のありました新しい世界の都市全てで、ウォーターフロントは緑にカバーされているということで、この山下ふ頭につき

ましてグリーンベルトを山下ふ頭と山下公園と繋いで、あるいはその他の地域と繋いで、グリーンベルトを、緑の総量を増やすということですね。

山下ふ頭につきましては、市民のための市民による山下ふ頭のまちづくりということで、先ほど隈委員の方からニューヨークのセントラルパークのお話がありましたけれども、ニューヨークのセントラルパークを、あれだけの大公園を維持しているのはパークコミッティーという市民の組織があつて、それを市が応援して自主的に市民がセントラルパークの緑を守っているということで、山下公園、山下ふ頭の新しい緑地につきましてもそういったような市民がただ楽しむだけではなく、市民がそのメンテナンスにも参加するような仕組みが必要ではないかということをご期待したいと思っております。

以上で私の方のプレゼンテーション、ちょっと時間が押しておりましたのでちょっと簡単になりましたけれどもこれで終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

それではプレゼンテーションを終わらせて、事務局のご説明と意見書の説明、それからあとプレゼンテーションについてご意見がございましたら挙手をお願いいたします。内田さんいかがですか。なにか感想なり、コメントなり。

【内田委員】

はい、ありがとうございます。各国のウォーターフロントの開発は本当にデザイン性も素晴らしくて、写真を見るだけで、ああこんな街を訪れたいな、というふうな、旅に出かけたくなるような、そういう魅力に溢れているな、というふうに感じました。でもそれはそれでその地域の歴史であるとか機能であるとか、そういうものの自然な流れと言いますか、そのなかで、ああいったものがきつとできているのだろうという、単に素敵なものを作って開発してつていうことではない、もっと奥深いストーリーがきつときつとあるのだろうなというふうな想像しながら聞かせていただきました。そういうものも参考にしながら本当にそれぞれの都市が抱えている課題感っていうのはそれぞれ違うと思うので、今横浜市、山下ふ頭っていうものが抱えている課題感であるとか、バリューつていうものをどんな形で活かせばいいのかというものも踏まえながら考えていくのだなというふうな改めて感じさせていただきました。ありがとうございました。

【平尾委員長】

コメントありがとうございました。今村委員いかがでございますか。

【今村委員】

後でまとめてお話をさせていただきます。

【平尾委員長】

それでは、ちょっと時間が押しておりますので、議事4に入ります。事務局から、第1回から第4回までの振り返りとしての資料をまとめていただいておりますので、そのご説明を

お願いしてもよろしいでしょうか。

【事務局】

それでは、「第1回から第4回の意見のまとめ」について、ご説明いたします。前面のスクリーンでご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも資料5として配付をしております。この資料は、これまでの「学識者委員の皆様のパレゼンテーション」、「地域関係団体委員の皆様意見書」、「委員会での議論」の内容を整理し、16のカテゴリーに分類させていただいたものです。分類した16のカテゴリーはお示ししているとおりとなります。カテゴリーにおいて、ポイントごとに、委員の皆様のご意見の抜粋や関連する市民意見等を基に、「意見要旨案」を整理してございます。カテゴリーごとに、一番上のポイントと意見要旨案を順次、ご説明いたします。

まずは、「次世代につなげる持続可能なまちづくり」です。長期的な視点に基づく開発として、「トップランナーとして世界のウォーターフロント開発を先行し、国内外に誇れる横浜を作るために、50年後、100年後を想像しながら、未来に負担を残さない永続的な運営が可能な開発を行うべき」などです。

次に、「市民合意形成、プロジェクト体制」です。市民のための再開発として、「市民が憩い楽しむとともに、自然やコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを求める人々が集う空間を提供するような新たな都市モデルの追求も考えられる」などです。

つづきまして、「観光・インバウンド」です。観光・インバウンドの必要性として、「既存の観光資源の活性化も含めた経済成長に向けて、世界の港湾イノベーションを参考にしながら、インバウンドを呼び込む取組を行い、海外からの関心、人流、投資等を引きつける必要がある」などです。

次に、「横浜の魅力・ブランド力の向上」です。横浜の魅力・ブランド力の向上として、「古きを尊重し、新しいものを添えていく、横浜の不易と流行を組み合わせ、横浜ブランドを再度磨き上げるべき」などです。

次に、「周辺地域への波及」です。地元経済への貢献と雇用創出として、「新たな産業を生み出し、雇用創出を図るとともに、その恩恵を可能な限り市域外に流出させず、港湾の機能を残した土地利用により地域内の産業にも波及させるべき」などです。

次に、「国内外から人々が集まる」です。人々を惹きつけ続ける開発の実現として、「山下ふ頭が国内外からの関心、人流、投資等を惹きつける力を醸成するために、プロジェクトの事業性に説得力がある開発ストーリーが必要」などです。

次に、「横浜経済を牽引」です。地域経済の活性化として、「定住人口が減少する時代にあって、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を誘発するとともに、山下ふ頭の歴史性を十分に活かし、観光産業等のリーディングプロジェクトとして、横浜経済の核となるシンボリックな拠点とするべき」などです。

次に、「防災・安全」です。市民の安全安心として、「世代を超えて市民や来街者の安全・安心を確保していくため、大規模地震などに対する横浜市全体の災害対応力の向上や、感染症対策などの新たな社会課題に取り組む役割を果たせる機能を導入するべき」などです。

次に、「交通ネットワーク」です。陸海からの交通アクセスの向上として、「山下ふ頭への新たな進入路の確保や臨港幹線道路の整備等により、来街者の利便性向上を図るとともに、客船誘致に向けた整備を更に推進していくべき」などです。

次に、「脱炭素、環境・エネルギー等」です。脱炭素型の再開発として、「カーボンニュートラルに向けてエネルギー利用を最小化した施設の導入や、用途に応じた域内でのエネルギーのベストミックスの取組等により、日本初の脱炭素型の再開発プロジェクトを目指すべき」などです。

次に、「市域全体と連動した賑わい創出」です。都心臨海部、横浜市全体への波及として、「元町や中華街、山下公園通りなどのエリアはもとより、関内・関外地区をはじめとした都心臨海部、更には横浜市全体の魅力や個性との相乗効果や連鎖反応を生み出すような再開発とするべき」などです。

次に、「海に囲まれた立地特性」です。立地特性の活用として、「観光産業等の活性化や、水上交通の充実、水面の賑わい創出に加え、海から山下ふ頭にアクセスする方々からの映り方等、再開発を推進する上では、三方を海に囲まれた地の利を十分に活かしていくべき」などです。

次に、「歴史・文化」です。横浜の歴史を踏まえた開発として、「160余年に及ぶ横浜港発展の歴史をつむぐとともに、独自の都市文化、芸術と合わせてネットワーク化されるような開発を進めるべき」などです。

次に、「緑・水辺」です。緑でつながり市民が憩える空間づくりとして、「みなとみらい21地区の水際線から大さん橋、山下公園までの緑あふれる動線の繋がりを活かしながら、山下ふ頭を連続的に接続させ、回遊性の向上を図るとともに、市民が憩い賑わうオープンスペースを確保していくべき」などです。

次に、「景観形成」です。景観を考慮した開発として、「横浜市がこれまで検討してきた景観に対する考え方を踏まえつつ、海陸両面の視点場からの山下ふ頭の見え方や、周辺地区との景観のバランスを意識した開発とするべき」などです。

次に、「デジタル活用」です。デジタル時代への対応として、「横浜市全体のデジタルとリアルを有効にミックスユースした土地利用を踏まえるとともに、デジタルネイティブ世代が楽しむことのできる、近未来の価値観にもかなう象徴的な施設を整備することも考えられる」です。

最後に、今後とりまとめていただく答申のイメージ案となります。これまでご説明させていただいた16のカテゴリーを「1 まちづくりの方向性」、「2 新たなまちを支える基盤・空間の考え方」、「3 再開発に必要な視点」の3つに分類した構成を答申の骨子としたらどうかと考えております。

第1回から第4回の意見のまとめの説明は、以上となりますが、カテゴリーの交通ネットワークと防災・安全に関連しまして、先ほどお話ししました「資料3前回の補足説明」の9ページ以降の説明をさせていただきます。前面のスクリーンあるいは「資料3前回の補足説明資料」の9ページをご覧ください。

前回委員会において、坂倉委員・幸田委員から、首都圏や都心臨海部の交通ネットワーク、山下ふ頭への交通アクセスの課題と対策を説明して欲しいとのお話がありました。まず、首都圏においては、環状型の圏央道、放射状に延びる東名高速、中央道などの高速道路などにより広域的な幹線道路網を形成しています。次に、都心臨海部の主な交通ネットワークですが、ピンクが鉄道、黄色が高速道路となります。赤色の臨港幹線道路は、実線が整備済み、点線が計画となっております。山下ふ頭から本牧ふ頭間は国直轄事業として既に事業化されており、再開発に併せた整備を国に要望しているところでございます。山下ふ頭への交通アクセスについて、すでに複数の委員の方からご指摘をいただいておりますが、「元町・中華街駅へのアクセス性」、「埠頭への接続道路が1か所のみ」、「広大な埠頭内での移動」が課題と考えています。課題解決に向けまして、赤色の臨港幹線道路と連担して、黄色でお示ししている地区内道路の整備や水色でお示ししている駅出入口と山下ふ頭を連絡する円滑な歩行者動線の確保について、今後検討が必要と考えています。

最後に、山下ふ頭内に計画されている耐震強化岸壁について説明して欲しいとのお話がありました。耐震強化岸壁とは、大規模地震に備えて耐震性を強化した係留施設で、横浜港では、緊急物資輸送用と幹線貨物輸送用の2種類があります。

山下ふ頭では、延長200m・水深12mの耐震強化岸壁の整備を計画しており、災害時には、背後の荷捌きばき地やオープンスペースと一体的に利用することで、水や食料などの緊急物資や復旧資機材などの輸送を確保する海上輸送拠点となります。整備については、国直轄事業による整備を要望しております。説明は以上となります。

【平尾委員長】

はい、どうもありがとうございました。大変多様な意見を整理していただきましてありがとうございました。それでは時間が押しておりますので意見交換に移りたいと思います。プレゼンテーションを含めて、あるいは事務局の説明を含めて、各委員からコメント、ご意見をいただきたいと思います。時間が少ないので皆さん申し訳ございませんけれどもお一人2、3分程度で簡潔にお話しただけのようにご協力をお願いいたします。

それでは今村委員の方から時計の逆回りをお願いいたします。

【今村委員】

検討委員会もそろそろ終盤に入ってきたので、色々な考えがあるにしても、先ほどの平尾先生から話が出た中期計画があるのですけれども、ポイントはこれから人口が減る。それから特に生産年齢人口の減少、これが著しくなるわけですよ。ということは財源がかなり厳しくなるというふうに放っておくと予想されるのです。それをやるために財源の確保ということは何が具体的にできるのか。ですから今のままの形でこんなぐらいはできるっていうことを、あるいは違う形をプラスアルファで採らなければいけないと思っているのです。先ほど外国人の人がいらっしゃると言うのですけど、当然誘致活動の中で日本の人口が減るわけですから、中の取り合いやってもあまり意味なくて、企業誘致とか、外国人の労働者含めた人の雇用を創出する、雇用が確保できるような状況を作るためにはどうしたらいいかというこ

とを、具体的なものを市が中心になってやられないとかなり厳しくなるだろうと思っています。ですからアクションプラン、行政はこのぐらいやる、でも行政だけでは非常に難しいですから、ではどこを巻き込むかという具体的な策を、大雑把なものもある程度作っていかないと。どうしても後手後手になってしまうと財源がないからできないという話になってきてしまいますので、やはり同時並行にそのことをやったらどうかというのが私の意見であります。以上です。

【平尾委員長】

ありがとうございました。それでは内田委員。

【内田委員】

はい、ありがとうございます。やはり日本は世界的に見ても非常に価値があるものが多くて、テクノロジーにしても、カルチャーにしても、非常に独自性のあるものがあるので、やはりそこを私は活かさない手はないというふうに考えております。そういう日本ならではの魅力というものを横浜というところに集積して、世界中の人を集められる可能性があるの
で、それに私は挑戦していくことが、横浜の山下ふ頭では非常にふさわしい場所なのではないかという、非常に期待を持ってその場所としての価値を見ているので、是非そういうことに世界一を目指して挑戦していくっていう気概を持ってやっていければいいと思っています。以上です。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。河野委員お願いいたします。

【河野委員】

はいありがとうございます。1点だけでございますけれども、分類した16のカテゴリーの中で横浜経済を牽引っていう、この中に日本の貿易の強化というものを含めていただいているのですけれども、是非横浜経済ひいては日本経済を牽引するぐらいの気概を持っていただけると良いのではないかと思います。すいません以上でございます。

【平尾委員長】

ありがとうございました。北山委員。

【北山委員】

この山下ふ頭再開発委員会ですけれども、都市を構想するというのは、皆さんおっしゃっていますけれども、50年とか100年とか、またはこれから未来の住人のためにどういう贈り物にするか、どういう都市空間を残していくかということを議論するのだと思うのですね。それで今日の隈さんのプレゼンテーション、それから平尾委員長のプレゼンテーションを共感して聞いておりました。こういうアイデアというのは前の北沢猛さんが作られた海都横

浜構想というので同じようなことを検討されていて、その当時も人口が減少していく、経済も縮減する日本の中でどのような横浜を作っていくかという構想がすでに2009年に作られています。その時にナショナルアートパーク構想と大きな港湾地区に大きな緑地を作るアイデアもありますし、それから経済というものが既存の経済ではなくて、創造的産業をどう作るかというようなことをテーマにしておりました。それと検討する内容も山下ふ頭という特定の場所ではなくて、ベイエリア全体の大黒ふ頭、新港ふ頭、それから瑞穂ふ頭をどうするかということも含めた広域の議論をしまして、それから郊外地、横浜全域の問題としてどう考えるかという、経済の問題というのは山下ふ頭だけに押し付けるわけにはいきませんので、横浜の全域の都市を、経済をどう考えるかというようなことも議論しておりました。そういう既に蓄積がありますので、当然そういう蓄積を元に市の方は分かってやっつけていってほしいと思いますけれども、そういう方向でやっつけていけるといいのかなと思います。経済を中心にしてしまいますとどうしても短期的利益の最大化という方向に向かいますので、そうではなくてもっと大きい時間空間の中で考えるということをして是非やっていただきたいと思います。

【平尾委員長】

是非横浜の中長期計画そういったものに、今のご意見を反映していただきたいと私も思います。坂倉委員、お願いします。

【坂倉委員】

商工会議所の坂倉でございます。短くお話をさせていただきたいと思いますが、商工会議所としては山下ふ頭を開発するということは市の大きな財産になっていかなければならない、またここから得られる収益というものが市の各種の政策に利用できるに足る、そういうものであるべきだというふうに思っております。しかしながら、この山下ふ頭大変に脆弱な地盤でございまして、昭和38年に建設を終了して利用されたと言いますけれども、大変取り急ぎ作った埠頭のために、未だに大きな荷重のかかるものを置くことのできない場所が何箇所もあるようにも聞いておりますし、そうしたものを改善していく地盤改良だとかそういうものにも相当お金がかかるようにも聞いております。この辺も非常に大きな問題だというふうに思っているのですが、隈先生からの色々なお話もお聞きしますと、やはり最近のまちづくりというのは緑と調和した形でまちづくりを進めなければいけないというのが当然のように言われておりますけれども、47ヘクタールっていうのは非常に大きいように見えますけれども、それなりの施設を作ると小さいのです。それで私はもう1つご検討いただきたいのは、周りの基盤を整備すると同時に、15ヘクタールから20ヘクタールぐらい埋め立てたらどうかと思うのです。その埋め立てることによって緑の地域をきちっと確保できて、そして既存のところの地盤の強化をしながら新しい開発を進めるというようなことを同時に進めるようなことがあってもいいのではないかというふうに思いました。いずれにしても市民の財産を増やしていく、そして市の収入を得る、こういうような課題にも対応するためには、そういういい方法を考えていかなければならないというふうに思いますし、今一番問題になっ

ているのは入り口の人が通ったり車が通ったりするところの狭さ、これが将来の開発に色々差し障りが出てくるというふうに思いますので、それを是正するためにも是非その埋め立てを利用した形で新しい基盤整備を行っていくようお願いをしたいというふうに思います。以上です。

【平尾委員長】

坂倉委員どうもありがとうございました。高橋委員お願いいたします。

【高橋委員】

高橋です。よろしくお願ひします。もう先ほどの隈委員の話ですとか平尾委員長の話も素晴らしいと思いました。こんなものができるのだったら本当にいいなというふうには思うのですが、私が思うのはこの横浜というのが人口減少、財源の問題も含めて、今置かれている状況が、これから将来置かれていく状況がある程度見えてはいます。これに何らかの新たな形を付加してこの形を変えようということでしたら別なのですが、あれだけの大きなニューヨークですとか色々なところがやっているもの、それぞれの都市の持つ財政基盤というのですかね、その置かれている財政基盤というのは全く多分違うと思うのですね。例えば横浜市、お金がないと言われてはいますが、東京の1つの区を見ても、こども政策1つ取ってみても、あり余るお金を配るのとなけなしのお金を配るのでは全く違う。そういった今回の問題というのは都市、この場合ですと横浜市という都市になるわけですが、都市の持つ財政基盤をどう考えるか、それによって国を入れるのか市でやるのか。要は山下ふ頭が部分最適になるのか全体最適になるのか、国の中での山下ふ頭なのか横浜市の中の山下ふ頭なのか、これをしっかりと決めていかないと、なかなか議論が伯仲はするのでしょうかけれどもなかなか接点が出てこないような気がします。あと今坂倉委員が言われたような、さらに埋め立てると。こんな発想今までなかったのですけど坂倉委員だなというふうに思いました。いずれにしてもこれからこの山下ふ頭というのは非常に横浜市にとって重要なところになりますので、是非1つ焦点を定めて、議論をさらにしていただければなというふうに思います。以上です。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。続いて宝田委員お願いいたします。

【宝田委員】

今日はありがとうございました。私としてはこのまとめにある16のカテゴリー中の横浜経済を牽引というのが一番大きなテーマであったという認識でこちらに参加をさせていただいていると思っています。山下ふ頭単体で考えるといくらでも色々な楽しい意見が出てくるかと思うのですが、山下ふ頭と色々な周りの地域と繋がっておりまして、上から写真を見ると山下公園や中華街、元町、新山下と色々な地域と繋がっております。ちょっと先ほど上からの写真を少し見たのですが、近くには山下公園があって、フランス山があっ

て、丘公園があつて、元町公園もあつて、山手も緑がたくさんあつて、比較的大きい視点で見ると緑もたくさんあるようなエリアのうちの1つなのではないかというふうに思っております。是非そういった既存のものも活用しながら山下ふ頭を横浜の地域の1つの場所として、47ヘクタールはすごく広いのですけれども、47ヘクタールしかないという考え方もあります。他の周りのエリアたくさん緑もあつて自然もあつて、これまでの商店街もあつて色々な地域が広がっているので、そういったところと是非回遊ができるような、違った山下ふ頭、新たなまちづくりというのを目指していただきたいと思いますというふうに思っております。交通の件に関してはまたしつこいようですけれども、入れ込んでいただきたいとは申し上げたのですけれども、実は坂倉委員からもありましたとおり、非常に今すぐ急がなければいけないぐらいの課題だと思っております。再開発をするためには。あそこに大きなトラックが毎日来た時にもうすでに渋滞で観光客の車が動かないというのは想像できるような状況ではある毎日の交通量でありますので、そういった優先順位はどこかというのは色々あるとは思いますが、そういった大きな視点で山下ふ頭再開発を見ていただきたいと思いますというふうに思います。ちょっとごめんなさい生意気だったのですが以上となります。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。続いて田留委員。

【田留委員】

本日はどうもありがとうございました。私としましては、もう皆様方の各委員の方のお話を伺うだけで、山下ふ頭はいかにロケーションのいいところかということをもたまた再認識させていただいているところでございます。ですからせっかくこの素晴らしいロケーションの中で横浜ブランドと言いますか、横浜の特性を活かした素晴らしい魅力的な開発ができることを望んでおります。以上でございます。

【平尾委員長】

ありがとうございました。アトキンソン委員お願いいたします。

【アトキンソン委員】

資料の中で、あと今日のプレゼンテーションの中でも雇用創出の言及は何回もありました。今人口増加時代ではないので雇用の量さえ増やせばいいという考え方は不適切な考え方だと思います。人口減少の中で求められるのはあくまでも労働条件が今よりいい、良質な雇用の創出がここに言及されないといけないと思います。特に社会保障問題を考えれば、1990年に大体47兆円で、今138兆円ぐらいまで増えています。人が減っていき、社会保障が減らない中で1人1人の負担が大きくなっていくことを考えれば、今より質の高い雇用を創出しなければならないというふうに思います。

特にそこで関連してはいますが観光の言及もありました。観光のインバウンドのやり方次第では、観光は非常に労働条件の悪い産業にもなり得るものでもありますし、きちんと

した戦略を立てていけばより労働環境のいいものを作ることでもあります。飲食・宿泊の生産性を見れば、日本の中では今一番悪いものになっていますけれども、国のインバウンド戦略では、観光産業における需要の平準化または労働条件の改善ということ十二分に考えた上で進められているものですので、観光戦略、インバウンドを進めればいいというものではなくて、あくまでも今より労働条件の高い、生産性の高い観光インバウンド戦略という条件付きで考えてやる必要があると思います。

外国人労働者の言及もありました。これも全く同じものだと思います。実習生などを含めたような考え方で、労働条件が極めて悪い、または低賃金、最低賃金に近いまたは最低賃金の外国人労働者を増やせば増やすほど日本の国益・国力が向上することはあり得ません。事実として1990年以降日本では非正規を含めた最低賃金で働く人または不安定な労働条件で働いている人の割合が激増しています。生産性も上がりません、賃金も上がりません。社会保障の負担がかかるだけで貧困してしまう、そういうことを考えると、全面的にこの計画の中でより生産性の高い、より賃金・労働条件のいいものを条件として加えて進めていくべきじゃないかと思います。以上です。

【平尾委員長】

はい、アトキンソン委員ありがとうございました。それでは藤木委員お願いいたします。

【藤木委員】

各委員の方のそれぞれの視点で色々勉強になりました。私は港運協会、横浜の物流の関連の代表として、横浜港は物流をとっても今まで一生懸命やってきて、この土地を長年使わせていただいた立場です。ここへ来て都市機能をここに持つてくるという1つの大きな変化の中で考えますと、先ほどから各委員、特に隈委員の意見もそうですけれども、やはり世界のウォーターフロントの開発を見ると、今現状で全て建物を埋め尽くすっていうことはまかりならんと。その中にまず緑があって、その中に後から建物を置いていくというような順序のものの考え方というのが大変貴重なのではないかと思いました。ですから経済性とか雇用とか色々なことを委員の方おっしゃいますけれども、自然を守ってまず自然を作る、坂倉さんもおっしゃったようにインフラ、これをまずしっかりやって土地を作るということで、そこにまず緑を置いて。要するに横浜港全体で横浜を良くしていくという考え方、山下ふ頭だけで良くするというのではなくて、極端なこと言うと山下ふ頭は公園に全部しちゃったらお金なんか儲からないわけですから、それでもその部分を他の大黒ですとか、あるいは瑞穂の返還でそこにやるとかいう形で他で、利益を出してここはもう1つ緑だけで行こうじゃないかというようなそういう結論が出せるような、そういう大なたを振るえる開発に是非していただきたいと思います。以上です。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。それでは、欠席されている石渡委員と涌井委員からコメントをいただいておりますので、ご紹介いただけますでしょうか。お願いいたします。

【事務局】

はい、欠席されている石渡委員と涌井委員からお預かりしているコメントをご紹介します。まず石渡委員からのコメントですが、

まちづくりの方向性については、「可変性」というキーワードが重要だと思う。例えば、平時の際は人が賑わう用途として供用するが、災害等の有事の際は支援拠点として活用するなど、柔軟に空間を利用する視点が必要。

時代の変化や需要に応じたまちづくりの視点も重要。柔軟に空間を活用できるような整備を検討すべき。

次に、涌井委員からのコメントですが、

土地利用については港湾機能を軽視してはならず、例えば近年高付加価値インバウンド客のプライベートジェットや大型クルーザーの発着機能が用意されていない、などの不評が問題化している。インバウンド振興政策を国是とする以上、こうした需要に応え、かつ滞在時間や消費単価が高いこうした層へのサービス機能を一部に組み込むべきではなかろうか。地域への経済効果も大きい、同時にこうした機能の導入が逆に市民や海外来訪者の魅力向上にもつながると思料する。

防災の観点が重要。有事の際は国で議論されている病院船や自衛隊の船舶が着岸できる岸壁や、ヘリポートの整備が必要だと思う。こうした機能を発揮するためには、平時の際はオープンスペースとして活用するなど、パブリックリザーバー的な後々時の、平時のみならず非常時の新たなニーズが生じても対応可能な計画的なオープンスペースを確保していくことも忘れてはならない。

コメントの紹介は以上となります。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。それではWEBで参加いただいております隈委員、幸田委員から順番にコメントをお願いいたします。隈委員いかがでしょうか。

【隈委員】

はい。大きさの話があって、実はセントラルパークとか色々比較してみたのですね。単独で見ると山下ふ頭は決して大きくないのですね。しかし周りとの連携で見ると、1つの緑のネットワークを作れるような大きさで、それは今日お見せしたような計画と比較しても、決して小さいことはない大きさですから、周りとの連携というのは非常に重要ではないかなというふうに思いました。今日のお話の中でも、この山下ふ頭だけで考えるのではなくて交通のネットワークは、完全に切れているということは僕横浜に住んでいたのでよくわかるのですけれども、すごく切断した感じがあるのを繋げて、そこが繋がるだけでもものすごく大きな横浜のイメージ変換になる。バルセロナなどは、ウォーターフロントから変わってその後、スーパーブロックによって街全体に波及して大きな経済効果を呼んでいったみたいなどころがあるので、先ほど藤木委員からもそういうふうな周りとの連携の経済って話ありましたけ

れども、そのような考え方というのを応用すると、こういう財政の厳しい中でも可能性が開けていくのではないかなと思います。今日お見せした中でも、例えばスコットランドのダンディなどは本当に財政が非常に厳しくて、19世紀の黄金時代からずっと下がっていたものが、そういう中であのような緑の計画、それから文化の計画みたいなものをひねり出しています。セントラルパーク自身も当時ニューヨーク非常に開発について議論があって、開発すべきではないかみたいな議論もあった中で、あのようなまとまったグリーンを作ったことがその後のニューヨークに大きなプラスになったので、横浜もここで思い切って、思い切った世界に誇れる計画というものを打ち出していくということが、やはり将来に本当に後の世代に何かを残せるということになるのではないかなと思いました。以上です。

【平尾委員長】

隈委員どうもありがとうございました。それでは幸田委員よろしくお願ひいたします。

【幸田委員】

はい、大変今日は色々とプレゼンテーションで勉強させていただきまして、ありがとうございました。今日のプレゼンテーションでも隈委員それから委員長から出てきましたように、緑、それからパブリックスペースというのは大変重要ではないかなと。特に海に近いこういった水辺空間におけるパブリックスペースというのは憩いの場にもなりますし、非常に重要ではないかなと思っています。今日出てこなかった地域として4年ぐらい前に上海の浦東地区に行ったのですが、あそこは高速道路が通っているところは全部取っ払われまして、それでそこがまさに車通れないようにして、市民の憩いの場のパブリックスペースが出来たと。前と後とで比較するともう本当に大きく変化していて、そこに市民が本当にいっぱい集っていたというのが印象に残っているところで、もちろんニューヨークなどそういったところについても私も行って見てきましたけれども、非常に重要なキーワードではないかなというふうに思います。そういう意味で緑、それからパブリックスペースというところについては特に重視をしていく必要があるのではないかなというふうに思います。

それからもう1点は、今日も意見がありましたし欠席の方からもありましたけれども、やはり港湾機能、山下ふ頭はやはり臨港地区であり、前の私がプレゼンさせていただいた時も申し上げましたけれども、保税地域でもある、そういったところを活用するという視点は非常に重要だと思いますので、先ほど河野委員からご指摘ありましたけれども横浜経済牽引という全体の大きなあれではなくて、山下ふ頭なりのそういったまさに特色として現在そう指定をされているので、港湾機能ということについての活用というものについては是非これは特出しして明記する必要があるのではないかなというふうに思うところでございます。それからこの答申のイメージについて前ちょっとお話しさせていただきましたけれども、この山下ふ頭、本当に横浜市民の宝のような場所であるということは全員からご発言あるところで、今日委員長からお話ありましたけれども市民のための市民による、そういう市民の合意形成によってこの事業計画を作っていくという仕組みについては是非この委員会の答申の中に盛り込んで、それを市の方で受け止めて進めていくというような道筋ができるように是

非して欲しいというふうに思うところでございます。

最後に、答申のイメージ案というのが今日ちょっと示されていましたが、この「1 まちづくりの方向性」、「2 新たなまちを支える基盤・空間の考え方」、この区分がちょっと分かりにくいかなという気がする、両方が重なり合う部分もありますし、まちづくりの方向性とするのがいいのか山下ふ頭の再開発の方向性とした方がいいかというのは、そちらの方がいいと私は思っていますけれども、それは置くとしても、その方向性というところはやはり大きな理念、考え方を重視する、そういったことを書いて、実際に今後山下ふ頭再開発を進めていく検討体制をどうするかということは先ほど言いましたようにありますけれども、その基盤空間の考え方、この辺は少し整理をして答申にした方がいいのではないかと。現在の事務局の方で出されている「1 まちづくりの方向性」、「2 新たなまちを支える基盤・空間の考え方」というのがちょっとなんでしょうか、重なり合って分かりにくい、そういう整理になっているので再検討した方がいいのではないかと思います。と言いますのは、今パブリックスペースの話も防災機能との関係でもちょっとご指摘があったかと思いますが、そういうパブリックスペースの確保は市民の憩いの場でもありますけれども、防災機能の時のバッファーにもなる、こういう点などもしっかりと位置づけて欲しいというふうに思うところであります。

最後に、今の議論の中で出てきました財源の問題ということですが、前回ちょっと私ご指摘させていただきましたが、実際にその財源というのがどういう状況なのかということについての資料、事務局の方で検討いただいているのかと思いますけれども、それをしっかり見た上で、ではどうしていくのかと、これは山下ふ頭だけの問題ではないわけですので、財源が苦しいから公共の方の役割ってというのは難しいのだ、というふうに短絡的と言いますか一直線で行くって話になるのかどうかということは、十分検討する必要があると思いますので、最後にちょっと一言申し上げたいと思います。以上です。

【平尾委員長】

幸田委員どうもありがとうございました。

それではですね、意見交換のちょっと時間が過ぎておりますけれども、皆様方から非常に熱心な、コメントをいただきまして論点がさらに深掘りされたというふうに思っております。ありがとうございました。皆様方から一とおりのご意見を頂きましたけれども、あと特に何か、追加的にご発言、ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

特になければ、私の方から1つよろしいでしょうか。

次回の会議は、本日の議論を基に答申案を作成し、とりまとめの議論に入りたいと思いますけれども、年内の答申に向けて、引き続き、皆様方のご協力をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしいでしょうか。

【(委員一同)】

(異議無し)

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。それでは次の議論に必要な資料をまた事務局の方で準備したいと思いますけれどもよろしくお願ひいたします。

それでは今日の議事は終了いたしましたのでマイクを事務局の方にお返ししたいと思います。ご協力ありがとうございました。

【事務局】

はい、ありがとうございました。

本日はお忙しい中、長時間にわたりまして意見交換をいただきまして、誠にありがとうございました。次回の日程等につきましては後日お知らせいたしたいと思ひます。以上を持ちまして閉会させていただきます。ありがとうございました。

| 第6回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 会議録 | |
|-------------------------|---|
| 日 時 | 令和6年12月9日(月) 14時00分～16時00分 |
| 開催場所 | 横浜シンポジア(産業貿易センタービル 9階) |
| 出席者 ※敬称略 | 石渡 卓 (神奈川県大学理事長) 今村 俊夫 (株式会社東急総合研究所取締役会長) 内田 裕子 (経済ジャーナリスト、イノベディア代表) 北山 恒 (建築家、横浜国立大学名誉教授) 坂倉 徹 (横浜商工会議所 副会頭) 幸田 雅治 (神奈川県大学法学部教授) ※ウェブ参加 高橋 伸昌 (関内・関外地区活性化協議会 会長) 宝田 博士 (協同組合元町エスエス会 理事長) 田留 晏 (神奈川県倉庫協会 会長) デービッド アトキンソン (株式会社小西美術工芸社代表取締役社長) ※ウェブ参加 平尾 光司 (専修大学社会科学研究所研究参与、昭和女子大学名誉理事) 藤木 幸太 (横浜港運協会 会長) 涌井 史郎 (東京都市大学特別教授) |
| 欠席者 ※敬称略 | 河野 真理子 (早稲田大学法学学術院教授) 隈 研吾 (建築家、東京大学特別教授・名誉教授) 藤木 幸夫 (横浜港振興協会 会長) 村木 美貴 (千葉大学大学院工学研究院教授) |
| 開催形態 | 公開(傍聴者20人/記者25人) |
| 次第 | 1 議 事 (1) 事務局の説明 ・前回委員会後の市民意見等 ・第1回～第5回の意見のまとめ (2) 答申(案)について (3) 意見交換 (4) その他 |
| 決定事項 | 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会答申について、おおむね案のとおりとし、最終的な確認は平尾委員長に一任することで了承された。 |
| 議 事 | 別紙 |
| 資 料 | 当日配付資料 (1) 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 名簿 (2) 前回委員会後の市民意見等 (3) 第1回～第5回の意見のまとめ (4) 答申(案)の考え方 (5) 答申(案) |

第6回 横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 議事

【事務局】

これより、山下ふ頭再開発検討委員会を開催します。私は事務局を務めます山下ふ頭再開発調整課長の周治と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。まずお手元の資料を確認させていただきます。次第、名簿、前回委員会後の市民意見等、第1回～第5回の議論をまとめた資料として横向きと縦向きのもの、答申案の考え方、答申案を配付してございます。よろしいでしょうか。それでは、開催にあたりまして、横浜市副市長の平原よりご挨拶申し上げます。よろしくお願ひします。

【平原副市長】

皆様、こんにちは。横浜市副市長の平原でございます。本日は、大変お忙しい中、山下ふ頭再開発検討委員会に、オンラインでのご参加を含めましてご出席を賜り、誠にありがとうございます。昨年の8月から開催させていただいております本委員会でございますが、皆様のご協力によりまして、本日第6回を迎えることになりました。前回の委員会では、海外事例を用いた緑やウォーターフロントを活かしたまちづくり、あるいは地域の回遊性向上・防災拠点機能の確保などのプレゼンテーションや意見書説明に加えまして、第1回から第4回までの委員会でいただいたご意見を振り返りながら、多岐にわたる分野において議論をいただいたところでございます。

最近の事例を少し紹介させていただきますけれども、旧市庁舎街区活用事業でございますが、街区名称が「BASE(ベース)GATE(ゲート)横浜関内」となりまして、エンターテインメント施設でありますとか新産業創造拠点などを中心とした開発内容が発表されたところでございます。また、イノベーション分野でございますけれども、横浜発の新技术でございますペロブスカイト太陽電池の実証実験が市庁舎とこの横浜港の大さん橋で開始されたところでございます。本委員会でも議論されております賑わいづくり、あるいは持続可能なまちづくりといった内容が始動しているところでございます。

本日は、これらの分野も含めまして、これまでの委員会での議論を踏まえた答申案について議論をいただきたいと考えてございます。今後いただく答申を踏まえまして、この山下ふ頭再開発において、横浜の未来を切り開く、新たなまちづくりに向けて、しっかりと取り組んでまいりたいと考えてございます。検討にあたりましては、庁内で組織しておりますプロジェクトで引き続き、関係区局が一丸となって取り組んでまいります。

それから本日も、神奈川県の方から文化スポーツ観光局にご出席をいただいております。本市からも関係部局が参加しておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

最後になりますが、本日は、答申案のとりまとめに向けまして、それぞれのお立場から活発なご意見をいただきたいというふうに思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【事務局】

ありがとうございました。ここで本日の委員の皆様の出欠状況についてご報告させていただきます。委員17名の内、現在、WEBでご参加の幸田委員、アトキンソン委員を含めまして13名の皆様にご出席いただいております。河野委員、隈委員、藤木幸夫委員、村木委員はご欠席でございます。

報道関係者の皆様方にお知らせします。報道関係者の皆様方は、報道撮影エリア内での撮影にご協力をお願いします。傍聴者の皆様方にお知らせします。傍聴者の皆様方は、撮影や録音等はお控えくださいますようご協力をお願いします。

本日も、公開での開催となっており、会議の様子及び説明資料については、インターネット中継により配信されます。なお、会議の様態を記録するため、事務局側で写真を撮らせていただきますので、予めご了承願います。

それではこれより先の進行は、平尾委員長にお願いしたいと思っております。平尾委員長、どうぞよろしくお願いたします。

【平尾委員長】

平尾でございます。本日の議事を務めさせていただきますのでよろしくお願いたします。まずお手元の議事次第をご確認ください。本日のタイムスケジュール、時間割につきましては、議事(1)につきましては10分程度、それから議事(2)については20分程度で予定させていただきます。終了後は議事(3)といたしまして委員の皆様方の意見交換のお時間をいただきたいと思いますと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

それでは議事(1)に入ります。事務局から議事についてご説明をお願いたします。

【事務局】

山下ふ頭再開発調整担当部長の洞澤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

前回委員会後にインターネットフォームに寄せられました市民意見について、ご説明いたします。お手元の資料2をご覧ください。委員の皆様には、事前に本資料をお送りさせていただいておりますが、1から2ページは、市民の皆様からのご投稿をまとめたもの、3ページ以降は、市民の皆様からのご投稿を綴った資料となります。本日は、資料の1・2ページをご説明いたします。

1ページをご覧ください。受付期間は、前回委員会開催日から12月4日までとじています。意見数は、61名の方から82件いただいております。居住地は、市内の方が59名、市外の方が2名となっております。円グラフは外側が今回投稿の年代別割合となります。なお、参考といたしまして、内側に市の年代別の人口割合を記載してございます。「3 御意見の主な内訳」ですが、「(1) まちづくりの方向性に関する御意見」については、

- ・緑豊かな空間は地域の発展と市民生活の質の向上に重要なので、周辺地域との緑地のつながりを整備して基盤を作り、時代の変化に対応しながら発展させるのが理想的

- ・交通関連の課題は重要なので、中区全体の回遊性を向上させるためにも、山下ふ頭を交通の結節点とし、民間事業者による投資を呼びやすい計画とするべき

・歴史ある港としての景観と最新技術の融和など、将来にわたって陳腐化しない横浜らしいと感じられるコンセプトを検討してもらいたい

などのご意見をいただきました。

2ページをご覧ください。「(2) 導入機能に関する御意見」については、

- ・災害時に近隣住民が避難できる防災拠点機能を兼ね備えた施設やスペースなど
- ・市民がリラックスできるよう、芝生と施設のバランスを考え、山下公園から連続して海沿いを歩ける芝生のオープンスペース

- ・プロ、アマチュア、子供の習い事・試合などが一か所でまとまるような採算性の取れるスポーツ総合施設

などのご意見をいただきました。

「(3) その他の御感想等」については、

- ・再開発された山下ふ頭を実際に利用することとなる若い世代からの意見や夢を中心に計画素案を作るべき

- ・都会の再開発において樹林地を回復することが世界のトレンドであることを知り、大いに喜び力強く思った

- ・再開発で最初に建てられる建築物は未来の景観を左右する重要な要素なので、世界に誇れる「ヨコハマらしい」建築物を最初に建ててほしい

などのご意見をいただきました。資料2の説明は以上となります。

続きまして、「第1回から第5回の意見のまとめ」について、ご説明いたします。前面のスクリーンでご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも資料3として配付してございます。この資料は、前回と同様に、これまでの「学識者委員の皆様のパレゼンテーション」、「地域関係団体委員の皆様の見解書」、「委員会での議論」の内容を整理し、分類したものでございます。

まず4ページをご覧ください。今回は、前回お示したものに、第5回の意見を追加し、右側の意見要旨案を修正しており、追加・修正した部分を赤字にしています。次からは、新たに追加した意見要旨の一部について、順次、ご説明していきます。

8ページの「市民合意形成、プロジェクト体制」をご覧ください。スライド右側の意見要旨ですが、「事業計画策定後には、市民など多様な主体が管理に参加できる仕組みの検討も必要」を追加しています。

次に、16ページの「国内外から人々が集まる」をご覧ください。「人口減少や外国人の定住人口の増加を見据え、多様な人材が集まる多文化共生のプラットフォームを展開し、街の発展に繋げていくべき」を追加しています。

次に、18ページの「横浜経済を牽引」をご覧ください。「横浜港は横浜市民だけでなく日本国民にとって重要な港であり、山下ふ頭が港と市街地を結節する場所だということを十分に意識することが必要」を追加しています。

次に、20ページの「防災・安全」をご覧ください。「海上からの物資や救援部隊の受け入れだけでなく、国で議論されている病院船などが着岸できる耐震強化岸壁や新たな歩車道の整備等により防災機能を強化することが必要」を追加しています。

次に、29ページの「緑・水辺」をご覧ください。「世界の都市開発では緑の再生が主流であり、周辺地域の緑地と連携して緑の総量を増やし、人々を呼び込む計画が必要」「インフラを整備し、緑を確保した上で、その中に建物を整備する発想も考えられる。その際、周辺地域への経済的効果の波及も意識することが必要」を追加しています。

資料3の説明は、以上となります。

【平尾委員長】

ただいま資料3のご説明がありましたけれども、それにつきまして何かご質問があれば伺いたいと思いますがいかがでしょう。

それではご質問がないようですので次の議題に入らせていただきます。議事(2)答申案の説明でございますが、まず事務局からご説明をいただく前に私の方から答申案のまとめにあたっての考え方を説明させていただきます。スライドをご覧ください。

まず委員会の設置の目的でございますけれども、山下ふ頭の再開発に関わる計画の策定に関する事項の議論ということでございます。その議論はまちづくりの大きな方向性を示すことに主眼を置いて答申を作成するということが委員会の設置規定で盛られているところでございます。前回までの議論につきまして色々な観点から分類をさせていただいたわけですが、大きく分けまして、皆様方の議論は3つに分かれるのではないかとというふうにとまとめました。第一はまちづくりの方向性ということで横浜市を山下ふ頭がどのように牽引していくのか、そしてそれがどのようなブランド力、まちの魅力に基づいて作られるのかということ、それから次世代につながるまちづくりと同時に横浜市全体と連動した賑わいを山下ふ頭で創出するというところが方向性の1番目でございます。2番目が新たなまちを支える基盤空間の考え方、海に囲まれた立地特性、交通ネットワーク、緑と水辺という景観の形成ということで、空間の形成の考え方をまとめております。それから再開発に必要な視点としまして、環境対応、環境エネルギー等の新しいイノベーションそれからデジタル活用、防災・安全、それから周辺地域への波及、それから観光インバウンド、それから歴史文化への視点とそして市民の合意形成というものをこの再開発に必要な視点のポイントに置いております。そのために具体的に今後どういうプロジェクト体制を進めていくかということについての提言を行っておりますけれども、答申案の構成としましては、目指すべき方向、世界に誇れる魅力ある海辺と緑の空間創生と、市民と共に歩み豊かな持続性のあるまちづくり、それから横浜らしさの賑わいと広がり、新たな活力を創出する都市モデルを構築するということが目指すべき姿で、考え方としましてはまちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実と安心・安全、災害に対するレジリエンスの確保ということと、それから横浜らしさを感じる景観作りということでございます。

目指すべき3つの姿としまして、この三角形の形にまとめてみました。ご覧いただきますように目指すべき姿としましては先ほど申しました世界に誇れる、魅せる横浜、緑と海辺の空間の形成ということと、それから市民と共に歩み豊かな未来をつなげる持続可能なまちの実現と、それから横浜らしさと賑わいが広がり、新たな活力を生み出す都市モデルを作って創成するというところでございます。その下にそういうまちを作る目指すべき姿を支える基盤

空間の考え方としまして、まちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実、それから安心・安全とレジリエンスの確保、それから横浜らしさを感じる景観づくりということを3つのピラミッドとそれを支える考え方としてまとめてみました。

次お願いします。今後のまちづくりに向けましてはこれをベースにしまして委員の皆様方から色々なご意見を頂いておりますけれども、それに加えて次の2点を申し上げたいと思います。再開発の恩恵をその山下ふ頭の47ヘクタールにとどめず、横浜都心の臨海部それから旧上瀬谷通信地区と連動させて横浜市全体のさらなる活性化に向けて相乗効果が最大限発揮されるように取り組む、それから今般ですな2度にわたりまして市民の皆様方から山下ふ頭についてのご意見を募集いたしまして、延べ1万件を超えるご意見を市民の方々から頂いております。そしてまた本委員会の討議につきましてもインターネット等で皆様方ご覧いただいて、それについて先ほど報告しましたように多数のご意見をいただいております。このように市民の参加という形で、積み重ねてまいりましたけれども、引き続き今後多様なご意見を伺うプロセスを作っていくべきじゃないかというふうに考えております。それでは私の方の考え方の整理としましては3つ申し上げましたけれども、答申案についてあるいは私のまとめ方につきまして後ほど皆様方にご議論をいただく予定をしておりますので、続けて事務局の方から答申案のご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、「答申（案）」について、ご説明いたします。前面のスクリーンでご説明させていただきますが、同じ物をお手元にも資料5として配付しています。

1ページは目次となります。1番下に記載のとおり、付属資料としまして、今ご覧いただいている冊子に加え、これまでの検討委員会で使用した資料と、委員の皆様にご確認いただいた会議録を答申に添付いたします。2ページ目から6ページ目は、「はじめに」として、導入を何点か記載しています。まず、2ページですが、社会情勢や再開発の位置づけ、委員会の設置目的などを記載してございます。3ページをご覧ください。3ページは山下ふ頭の概要をお示ししています。4ページから6ページは、これまでの市民意見募集、市民意見交換会等の取組となります。本委員会においても、各回、インターネットフォームによる意見募集を行い、先ほどのように都度、委員会へ報告させていただいており、5ページにその概要を載せてございます。7ページは、答申の全体像です。先ほど平尾委員長からご説明いただいたとおり、本答申では、山下ふ頭再開発が「目指すべき姿」を明確にしたうえで、その実現に向けた土台となる「基盤・空間の考え方」を整理することとしています。8ページ、9ページをご覧ください。まず、ページの構成についてご説明いたしますので、前面のスクリーンと合わせてご確認ください。先ほどご説明しました、第1回から第5回の意見のまとめの中で、それぞれの目指すべき姿や基盤・空間の考え方に合致する意見要旨を、委員会での主な意見として、9ページのように列挙してございます。そのうえで、8ページのとおり、主な意見を、方向性、導入機能に分かりやすく要約しています。10ページでは、方向性や導入機能以外の関連意見を、持つべき視点として要約しています。また、委員会で使用した資料や、紹介のあった国内外の開発事例等も掲載しています。

それでは、以降の内容を抜粋して、ご説明いたします。もう1度、8ページをご覧ください。目指すべき姿①の「世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間の創造」では、方向性として、「世界の都市開発でも見られる「緑の再生」を核としながら、臨港パークから山下公園に至る水際線と連続したまとまりのある緑化空間を創出し、人々を呼び込み、デスティネーションとなる魅力的な緑を中心としたまちづくりを推進すべき。」などです。また、導入機能として、「臨港パークから大さん橋、山下公園までの水際線と連続し、市民や来街者が憩い、賑わうオープンスペースの形成」などです。

続きまして、10ページをご覧ください。持つべき視点では、「市民の憩いと共生」として、「市民が緑や海の自然を楽しめる憩いの場の創出や、そこに集う人々がコミュニティと共生し、文化や生活の豊かさを感じられる新しいまちづくりを考える。」などです。

続いて12ページをご覧ください。目指すべき姿②の「市民と共に歩み、豊かなみらいに繋げる持続可能なまちの実現」では、方向性として、「多くの市民が集い、地域の賑わい創出等に取り組める場を創り、様々な人材や技術が交流し新しい価値を常に生み出す、持続的に発展するまちを目指すべき。」などです。また、導入機能として、「カーボンニュートラル、次世代モビリティの導入などを促進する新たな技術の社会実証・実装、体験・体感の場としての活用」などです。

14ページをご覧ください。持つべき視点では、「持続可能なまちづくり」として、「50年後、100年後を見据え、環境面と経済面で未来に負担を残さない持続可能なまちづくり、適切な市民参画、全体最適となる事業の実現を考える。」などです。

16ページをご覧ください。目指すべき姿③の「横浜らしさと賑わいが広がり、新たな活力を創出する都市モデルの構築」では、方向性として、「160年以上にわたる横浜港の発展の歴史や横浜独自の都市文化を活かしたまちづくりを進めるべき。」などです。また、導入機能として、「インバウンドの目的地としての横浜の価値向上」などです。

20ページをご覧ください。持つべき視点では、「人々を呼び込む拠点形成」として、「定住人口が減少する時代において、巨視的な視点を持ち、ビジネスや観光で訪れる国際的な交流人口を吸引し、経済の活性化を図るとともに、山下ふ頭の立地特性を活かし、横浜経済の核となるシンボリックな拠点の形成を考える。」などとなります。

続いて24ページをお開きください。ここからは、「基盤・空間の考え方」となります。構成は、目指すべき姿と概ね同様となっています。こちらも、抜粋してご説明いたします。

基盤・空間の考え方①の「まちをつなぎ一体感を高める交通アクセスの充実」は、「都心臨海部の水際線に連続する緑の快適な歩行者空間の整備による回遊性向上や、郊外部との交通アクセス強化を図るべき。」などとなっています。

次に26ページをご覧ください。基盤・空間の考え方②の「安全・安心とレジリエンスの確保」では、「大規模地震等への災害対応力の向上や感染症対策の強化を図るべき。」などとなります。

28ページをご覧ください。基盤・空間の考え方③の「横浜らしさを感じる景観づくり」は、「海陸両面からの山下ふ頭の見え方や周辺地区との景観のバランスを意識したまちづくりを行うべき。」などです。

30ページをご覧ください。今後のまちづくりに向けて、として、先ほど平尾委員長から概要をご説明いただきましたが、本市が取り組む事業計画の検討等にあたり、留意すべき点やご期待を書き添えていただいています。

最後に31ページをご覧ください。参考として、委員名簿と審議経過を記載しています。資料5の答申案の説明は以上となります。

【平尾委員長】

はい、資料5の説明ありがとうございました。それでは、ただいまから委員の皆様方の意見交換の時間に移りたいと思いますが、皆様方から順番にご意見を賜りたいと思います。私の右の方から時計の反対周りで委員の先生方からお願いしたいと思います。まず石渡委員からお願いいたします。

【石渡委員】

はい、じゃあ反時計周りということで、私から発言させていただきます。私の感想としては、様々なご意見を市民の方々、それから委員の方々からいただきました。もうそれぞれが、なるほどということではありますが、これ寄せてくると膨大な、広範囲の、あまりにも様々すぎてしまうのですが、これをまとめるということになりますと、やはり先ほど委員長からもありましたとおり、答申案の構成ということを考えていくと、私はこの構成のとりまとめ案で賛成であります。ことさら、これ以上にまた広がりをつけても、なかなかまとめるににくいということもありますので、ここまでのご意見をやはりまとめるにはこういった形がよろしいのだろうと思っています。コンセプトとしてもいいと思います。で、ここに書いてあるとおりで重複しますけれども、私は4つの視点は外していただければ困るなと思います。

1つ目はやはり日本の我が国における横浜の港という部分。そして横浜発祥の文化というのは多々ありまして、これが現在に脈々と生きていて、形を変えてブラッシュアップされて、我々の暮らしに役立っているわけで、そういった横浜らしさというところをやはり忘れてはならないと。つまり別の言い方をすると歴史、そして文化、これぞ横浜というこれをまず第一にプライオリティとしておきたいなと思っています。そして、そこにかかる景観、緑の部分も含めて憩いの場であるということも必要だと思います。なぜならばこれは横浜市民のための土地でもありますので、やはり市民の方々の意見の多くに緑ということと海、景観という言葉が散りばめられていますので、このインナーハーバーの中で海と港と緑というところを尊重しなきゃいけないという基盤があると思います。

2つ目が、この場所は横浜にとって、色々な場所がこれから、過去も開発されていますけれども、本当に最後の横浜の象徴する、もしかすると日本を象徴するプロジェクトであろうかと思っています。また、そうなることを期待いたしますが、ここにやはりコミュニティのあるまち、公園とか色々な例もありますけれども、公園もいいのですが、もちろん必要なのですが、やはりコミュニティがあって、人が賑わって、そこでお金が回ると、これは経済効果または税収の問題も含めますけれども、これがないと持続可能にはならないと思います。やはりコミュニティがあってそこに人とお金が集まると、そして世界の人たちが交流できるよう

なポイントにしなければならないのだろうと思っています。これが2番目です。キーワードは、コミュニティとエコノミーと言いますか、それからヒューマンみたいなものがキーワードであります。

3つ目は、やはり機能の充実ということで、交通網の問題も含めて、それから安心・安全という部分も含めて、私は特に防災のことが気になっています。自衛隊と神奈川県と組んで、災害時には横浜の港を使ってここを拠点に物資の搬入をしたり、救済をしたりということもすでにあるようですので、横浜市にとってもこれは有事に関する防災拠点になるだろうと思っています。そして色々な時代時代にそういった要望が変わってくると思いますので、3つ目の私のキーワードは機能の拡充と可変性であります。永久的にこの形で行くのだというよりは、時代時代ニーズに合わせて、しかし、有事が起きた時には、一変してその有事に対応できる迅速性と言いますか、そういったものもないと、この場所もったいなさすぎるなどと思いますので、そういった機能の充実を含めて可変性、これを考えていかなきゃいけないのだろうと思っています。

4つ目は、緑の部分をつないでいくというところで、やはり回遊性という言葉が出ていましたけれども、横浜の港を中心にこの回遊性、もっと広がれば東京千葉にも広がりますけれども、まずは横浜の海辺にあるところの回遊性、これを重視したいと思っています。以前ご意見が出ましたけれども、私はこの埋立地の形状が、もう少し時間をかけていいならば、形状を変えて、ネックのところを広げないとやはり限界感があるのかなとは思っています。

以上、4点だけ申し上げました。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。

では、今村委員お願いします。

【今村委員】

では、簡単なペーパーを作ってまいりましたので、映してください。

本委員会での目的の中で、前委員長から話していた付加価値創出みたいな話があったと思うのです。それについて、私としては交通アクセス、先ほども出てまいりましたけれども、それについて少しお話ししたいなと思っています。

山下ふ頭は物流の拠点でありますので、首都高の出入り口とかアクセスには少し脆弱でありまして、物流には便利ですけれども、元々の人流、一般の人々の流れを引き込むということには、という現況であります。

現在みなとみらい線の終点、元町中華街駅から歩いていく以外には横浜市営バス6系統と、それから横浜駅から直通の二両連結バス、ベイサイドブルーがありますが、これらはほとんどみなとみらい線に沿ったバス路線でありまして、JRで1線、京浜東北線、現在再開発が進んでいる関内駅の方面、古くから人気の元町の起点となっている石川町駅などからアクセスしにくい立地となっております。それで、LRTの導入ということで、考えてみたらどうかということでもあります。次のページをお願いしたいです。これは実は宇都宮のLRTの図な

のですけども、ちょうど私が10年と少し前、当時の市長から相談受けて、LRTを作ったらどうだという話があったのです。それで、宇都宮は、ご存知だと思うのですけれども、工業団地があるのです。それから橋がありまして、そこに非常に渋滞が発生すると。それから東京から1時間ぐらいの所なのですが、観光はまだ脆弱な状況でありました。それで当初LRTを作ることに、当然かなりお金がかかるということで、市の議会についてはかなり反対だという話に来ておりました。ただ、今の市長も同様なのですけれども、当時の市長も、これはやるのだという方向性がありまして、かなり強い意思で、一昨年完成したわけです。実際開けてみたらどうだったかということでもありますけれども、非常に観光は良くなるし、街の発展にも寄与し、なおかつ、先ほどの通勤である工業団地含めた方々も非常に便利だと。なおかつ渋滞も、これLRTですから専用でありますので、上手くくぐり抜けるということがあって、非常にその時間軸がかなり前からやらなきゃいけない問題なのですが、結果的にはいいまちづくりができたなという形で、現在、いろんな所からお客様が来ているという状況でありまして、今後はさらに延伸も考えているということをお聞きしております。それで、実は宇都宮市のお金は、国の補助と市の負担およそ半分ぐらいずつということでありまして、財源は684億、約700億弱、これを半分ずつということで、当初は、かなり赤字になるのではないかと。それからかなり負担が多いので、先ほど言ったように議会とか市の方も反対される方結構多かったのですけれども、やはり実行したが故にこういうようなプラスアルファが出たということになります。ですからこの横浜の場合については、色々な効果がLRTは出ますので、バス以外にはなかなか、そのフリークエンシーというか、頻度もかなり増やすこともできるし、定時性も確保することができるし、そういった意味では、みなとみらい地区あるいは山下ふ頭地区以外のところも非常に効果があるものだと思うので、是非ここは市の方で少しご検討願いたいなと実は思っております。以上であります。

【平尾委員長】

今村委員ありがとうございました。実は私も今年の春に宇都宮にまいりまして、このライトレールに乗ってまいりましたけれども、非常に成功していました。街の活性化にも大きな役割を果たしていただきましたし、これを横浜にどういう形で持って導入できるか、1つ検討事項かと思っております。ありがとうございました。それでは内田委員お願いいたします。

【内田委員】

はい。色々な意見が、多様な意見を、これまとめるのは大変なことだと思って聞いております。私が1番心配する点を申し上げますと、これまでの日本のあらゆる開発が成功しているところと失敗しているところがあるというところに着目すると、やはりうまくいってない、失敗したところというのは、やはり作ったまま放置されて、全くアップデートされない。いわゆる昔の言い方で言うと箱物行政じゃないのですけれども、建屋作って魂入れずみたいところが、全て税金の無駄遣いのような形になっていったってことです。成功しているところという事例を私のプレゼンの時に挙げさせていただきましたが、やはり常にアップデートされていると、そういったソフトウェア的な考え方が今主流になっておりま

すけれども、行くたびに新鮮なものがある、発見がある、そういうような工夫っていうのが必要になってくると思うのです。そして、それをやり続けるためには、知恵も必要ですし、クリエイティビティも必要ですし、何よりもお金が必要になってくる。そういう意味でしっかりとその中で自立してお金を回せるような設備にしていくということが、テーマとなっている経済面で未来に負担を残さないということが大事になってくると思うのです。私は緑が豊かなというのは非常に賛成でございまして、そういうものが求められてくるのは間違いないのですけれども、ヨーロッパやアメリカと違って日本は四季もありますし、台風もありますし、そういうような意味で、公園なりそういった植物たちが常に生き生きと育つためには非常に手間暇・コストがかかってくるというようなことがあるわけです。ですので、その緑豊かになるところは非常にいいのですが、そこにどれぐらいのコスト・維持費がかかるのかということは無視できないポイントだと思っていて、そこもしっかりお見せするところがあるところが市民の方たちの期待を裏切らないところになってくるのかなというふうに思いますので、そこも明確にしていくということが選択肢の1つとなると思います。あともう1つ、横浜らしさという言葉が使われるのですけれども、私も横浜のイノベーションという本を書いた時に、横浜らしさって一体何なのかということで、あらゆる経済人とか、市民の方にインタビューをして聞いたのですけれども、みんなバラバラなのです、横浜らしさのところは。非常に伝統的な港町というのも横浜らしさの間違いない1つですし、進取の気質というありとあらゆるものを、開港から世界中のものをどんどん取り入れていったところも横浜らしさと言えると思うのです。そういうようなものの横浜らしさというものは一体何なのかという定義づけも改めてしていただいて、ではこういう設備ですねというストーリー、物語というものがすごく大事になってくるのかなというふうに思います。そういうようなことも踏まえながら、経済20年、30年、あまりにも変化が大きいわけですから、今の若い人たちがこれから世の中の主流になってくる、更にはデジタルネイティブの人たちがもう世界中の主流になってくる中で、そういう世界の人たち、日本人の期待にかなう、そういったような設備にいかにしていけるのかということや若い方たちの意見も交えながら、進めていくべきだろうというふうに思っております。すみません、以上でございます。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。ご指摘のとおり、やっぱりグリーンとエコノミクス両立は大きなテーマだと思います。これからの課題だと思います。ありがとうございます。では、北山委員お願いいたします。

【北山委員】

はい、私は都市理論を専門にしていますので、第1回の委員の意見ということで、横浜の都市デザインの歴史のお話をいたしました。私は横浜の都市デザインを、この歴史を、尊重していただきたいと思っています。横浜は日本では優れた都市デザインをされた都市として知られています。2006年にグッドデザイン賞金賞、横浜市の一連の都市デザインというので受賞しております。その前年に土木学会で都市デザインの特別賞を受賞しています。これはも

う本当に都市にデザイン賞が与えられたのは日本では横浜だけです。1960年代半ばから、これ以前話しましたがけれども、70年代に行われた田村明さんによる6大事業というのは、当時都市が拡張していく、その中で国や民間の開発圧力をどのように制御するかということ新しい都市デザインの手法にした、すごく特異な都市デザイン手法です。その時代、都市整備局、また、部局を超える都市デザイン室、最初は企画調整室でしたけれども、都市デザイン室など横浜独特の都市行政が行われ、都市を制御し誘導するという独特な、この都市デザイン手法を継続してきて、その成果が都市デザインの受賞になっているということだと思います。で、都市の定常ないし減衰が明らかになってきた20世紀末には、産業構造の変化で港湾施設が変わってききましたので、北沢猛さん、都市デザイン室長でしたけれども、北沢さんたちによって、インナーハーバー構想というのが行われておりました。私はこの構想に参加しておりました。それは山下ふ頭だけでなく、あのインナーハーバーのリング状にある埠頭群全域に対する新しい都市構想というのをやりました。これは50年100年後の都市構想ということで行われました。その北沢さんがナショナルアートパーク構想というのを立てていますが、ウォーターフロントの開発を抑制した壮大な公園計画が提案されています。市民のための文化施設を中心とする公園です。これは今日の資料の中に入れていましたけれども、シドニーのオペラハウスのある王立公園とか、あとベネチアのジャルディーニ、これはベネチアビエンナーレの会場ですけれども、大きな公園がベネチアの中にあります。これは、北沢さんがこれを随分参考にしていましたけれども、会場になってベネチアビエンナーレをそこで行うことですごい経済効果がベネチアにもたらされておられます。埠頭群の中でも山下ふ頭は関内の都市域に連続しますので、都市に織り込むという構想も行われています。山本理顕さん、横浜市在住のプリツカー賞受賞の建築家ですけれども、この山本さんが提案している横浜市が郊外に持つ老朽化した市営住宅の再生と連動した居住開発というのでも提案されています。これはアムステルダムウォーターフロント開発で有名なボルネオ地区の開発とか、ポートランドのパールディストリクト、これは都市デザインやっている人の中ではみんな有名なのですけれども、そういう都市のウォーターフロントに住区計画をするということが参照されています。

21世紀に入って日本は極端な規制緩和によって、異常な巨大開発が今行われていますけれども、林市長になった時に、横浜市も抑制をかけていた都市開発が解放されて、異なった開発型の都市行政がしばらく行われました。それで山下ふ頭の開発がテーマになったわけですがけれども、山下ふ頭はほとんど市有地なので、市民の共有財産です。本来的には横浜市民のコモンズ、市民に裁量権のある場所だと私は考えます。短期的利益、経済開発のために使うのではなくて、本来の未来の住民のために贈り物のように何を残すのかということが検討すべきものだと思います。もうすぐ終わります。拡張を拡大する20世紀の都市デザインではなくて、21世紀に入って縮減する都市の構想が求められています。これは都市がマーケットメカニズムに対応するだけではなくて、文化や生活を支える、そういう都市をどう作るかというのが大きなテーマになっています。この委員会では、いかに市民参加の方法があるか、そして市民から山下ふ頭に対する意見・提案がありますので、そういう意見提案をどれだけ取り込めるか、そういうことを検討するのはすごく大事だと私は思っています。以上です。

【平尾委員長】

北山委員ありがとうございました。横浜市の都市計画の歴史と、また改めて、とりあえず第1回目は。では、次、お願いいたします。

【坂倉委員】

商工会議所を代表して出席しております坂倉でございます。商工会議所の立場を明確に申し上げますと、この地域に期待する点というのは、前の市長選でIRは中止をするという山中市長が当選をし、IRは計画がなくなったわけでございますけれども、IRから得られる収入というのは、実は市の中期計画で不足すると言われた約1000億円と同規模ということが言われておりました。この中期計画はもちろん市民のための各施策を実行していくための計画でございますから、市民サービスが停滞してしまったり、あるいはなくなってしまったりすることは市民にとっても大きな損失だろうというふうに思います。IR自体はなくなりましたけれども、この山下ふ頭における開発というのはやはり横浜市の収入も伴った形でないと開発の意味がないのではないかなというふうに思います。

また港湾局の説明にもありましたとおり、この地域には市民の憩いの場も求められるということもあります。それに加えて、防災拠点としても利用していく。これも必要だろうというふうに思います。陸上からの物資の輸送は上瀬谷の花博の跡地、ここに拠点を設けるという計画でございますが、海上からの輸送については、やはりこの辺りを利用していくことも当然考えなければいけないと思いますので、そうしたものが収納できるような場所、それも確保していく必要もあるのかなというふうに思います。

しかしながら昭和36年にこの山下ふ頭は作られ、使われてきたわけでございますけれども、その建設過程の中でこの埠頭の中に埋められているのは鉾津という鉄屑と、そしてコンクリートを混ぜたものが基盤として使われています。したがって、その緑豊かなというのは表面上の芝生みたいなものはいいかも分かりませんが、かなり根を張るようなものですと、かなり深く掘って、あるいはそういったものを除去してということがついて回りますので、これは港湾局さんがそれを実現していくためにはそれらの除去工事とかそういったものがどのくらいかかるのかということによって、計画を立てていかなければならないのかなというふうにも思います。

いずれにしても、緑とそして作られるまちが調和するというのは今の流れでございますから、どういう形にせよそれを実現していくためにはもう少し埋め立てをしてその基盤をきちっと強化すると同時に、岸壁もやはり相当な補強をしていく必要性を感じますので、そうしたことを総合的に判断して事業者の参加を促していくということが求められるのではないかなと思います。

しかしながら、いずれにしてもこれを建設して開発していくのに税金をたくさん投入するということは、私は反対でございます。民間の力を借りて実現していく、そのためには民間事業者もある一定の利益を得ないと参画してこないというふうに思いますので、その辺を十分考慮した上で募集をしていくということが望まれるのではないかなというふうに思いま

す。

【平尾委員長】

ありがとうございました。確かにエコノミクスというのが先ほどから出ていますけれども、その辺はこれから具体的な事業計画の中で詰めていく大きな問題かと思って、今の坂倉委員のご意見を伺いました。ありがとうございました。

それでは、高橋委員の方にお問い合わせできますでしょうか。

【高橋委員】

私は関内・関外地区活性化協議会の代表ということで出ております。この関内・関外地区というのは、この協議会自体が横浜の臨海部の関内、関外、みなとみらい、横浜駅周辺という海に連なる都市部の活性化を協議する会でございます、そういう代表で出ております。いずれにしても今回のこの答申案、よく意見をまとめてくれたなというふうには思っております。ただ今後もいろんなステークホルダーが最終的にもっと詰めていく段階で入ってくると、やはり誰かがイニシアチブを取らないと、これはまとまらない。全部の意見を取り入れて、全員が満足する意見というものは全くできないわけで、誰か不満があったとしても方向性がいい方向に向かっているというところで着地していかない限りこれは途中で頓挫する可能性があるなというふうに、ここは一番心配しております。

一番大事なことは市民たちが安定した市民生活を送るためにこの47ヘクタールを活用していかなければいけないと。今後の人口動態、また横浜市の財政状況、こういうものを考えるとここは最後の、逆に見たら防波堤になるような1つの場所になると思います。どんどん経済が活性化されて、例えば法人税収も倍に3倍に4倍にということで増えていけばいいのですが、今そういうような状況でもありませんし、この47ヘクタールを将来の市民生活の安定のために使わなければ、市税が上がれば結局いいと言っている市民も税金が上がればなんだという話になってきますし、将来何十年にもわたって横浜市の財政＝市民の安定的な生活を支えるようなものにしてもらいたいなというふうに思います。

あと特にこの47ヘクタールのある中区と隣接する西区については、昼夜間人口が一般の区と逆転しているような、非常に観光客も多い、外からの来街者が多いようなところですので、どうしてもこの災害対応というのが必要になると思います。今現在消防の方は本局が保土ヶ谷にありますけれども、この海側にも本局に対応するような形できちっとした災害に対応するようなところをこの47ヘクタールの中に作るべきだというふうに思います。

最後になりますが、全体最適と部分最適ということで私言ったのですが、47ヘクタール全体を部分最適にすると、部分最適が全体最適になるようにするにはこの中だけで完結するだけでなく、外に出ていかなければいけない。人が出ていく、流れが出ていく、そういうような考え方は必要なのかなというふうに思います。この47ヘクタールを中心に是非株式会社横浜を経営すると。そこにいる市民、企業、また様々なステークホルダー、こういったものがウィンウィンになるような経営をやっていただきたいなというふうに思っています。以上です。

【平尾委員長】

ありがとうございました。それでは宝田委員お願いできますでしょうか。

【宝田委員】

答申案のとりまとめありがとうございました。私としては近隣の元町商店街からこの委員会に出席をさせていただいておりますので、まちをつなぎ、一体感を高める交通アクセスの充実というところが1つの項目となっているところに非常に嬉しく思っております。先ほど宇都宮の事例も出ておりましたけれど、あのように色々な人が行き交うまちが新たに出来上がってくるということで近隣の居住地区となっているところにも違った開発やこれからの発展というのが必要不可欠になっていくものであるというふうに思っております。そのためにも新しい交通網を充実させるというのは当然のことかもしれませんが、先ほど事例で出ていましたJRや、東急線沿線からつなぐみなとみらい線沿線なども重々生かしたようなまちの発展につながるまちづくりというのを是非こちらの山下ふ頭の開発と一緒に考えていただきたいというふうに思います。

山下ふ頭の地図が出てくるとどうしても関内、横浜駅方面の方が一緒になって地図が出てくるのですが、実は右側の方の新山下であり、山手であり、元町であり、山下町であり、そちらの居住地区というのもこの範囲の一部に入っていると思いますので、その部分の方がアクセスしやすい、今までそこでまちを作られてきた方がよりアクセスをしやすいような考えで全体のまちづくりという方向性で考えていただければと思います。以上となります。

【平尾委員長】

宝田委員ありがとうございました。次に田留委員お願いいたします。

【田留委員】

私は地域関係団体委員として第3回目のこの委員会から参加させていただいております。今回の答申案を拝見させていただきまして、その方向性としまして、まだこれから落とし込む内容とは思いますが、特に異論はございません。また私ども山下ふ頭で業をつかさどっておりましたことでもありますけれども、横浜とか横浜港という背景に将来にわたる地域経済と言いますか、波及効果を生む再開発を議論、発信するというこの場があることは大変大きなことだと感じております。

また各皆様方からのご発言、ご提言の中にもたくさん問題点がありますよというご提言がありますけれども、これを今後さらに具現化していくということになりますと一段とハードルも高くなるかなという感じはいたします。しかし、横浜にとりましても経済効果が上がりまして、持続可能な事業開発となることを期待しておりますということで私の発言とさせていただきます。ありがとうございます。

【平尾委員長】

藤木委員お願いいたします。

【藤木幸太委員】

冒頭まず今日お集まりの委員の方にお礼を申し上げたいと思います。私は地元で、港運協会でこの47ヘクタールの土地を含め、これを160年間ずっと我々の先輩が使わせていただいて、その中で、今世界で横浜港は物流としてはナンバーワンです。量が多いとか少ないとかいろいろありますけれども、質に関して横浜は世界一です。それを作り上げてきたこの場所を新しい市民のための開発をするということで、仲間に入れていただきましたが、その中で1つ申し上げたいのは、技術的なこととか歴史性のあることは、今日集まっている色々な方から本当に詳しく色々聞かせていただきました。ただ大切なのは、私はここに何かを作る時のその精神、この話が私は中心にならなければいけないと。先ほどIRが新しい市長でなくなったと坂倉さんがあの言っていましたけれども、IRはなくなっても愛はあるということを、私は言っているのです。ですからこの愛を大事にして、やはりその精神的な柱、今日ここにあるこれを見ると30ページにもう全部網羅してあります。今後のまちづくりに向けてと書いてあります。これがこの委員の方の全部の知見を集めた最後の言葉がこの1ページに表されて、これを我々は市長に答申するわけです。今後は市長とそして議会、これがどう考えてどう判断していくかということがとても大事で、逆に横浜市行政はなかなか行政が自分の意見を言うということは大変だと思います。その中で市会議員の方たちがどれだけ勉強するか、そして市長がしっかりとした判断ができるか、それを今日集まっている委員の方は一番期待をされているのではないかと、こういうふうに思うわけです。

長くなると恐縮ですけど、瀬戸内が今アートなんかとかいうのをやっていますけれども、あれを見ると結局里山スタジアムとか、要は緑とスポーツエンターテインメントがどう一緒になって今後50年100年やっていくかとか、やはりそういう議論になっているわけです。それで一番そこで大事なのがやはりお金です。何か計画してもいつも横浜はそうです。港湾でも新しい埠頭が欲しい、倉庫が欲しいと言ってもいつも予算がなくて、それで国に泣きついてなんとか予算くださいと言ってやってきた、この横浜市なのです。これからはそうではなくて、我々の計画に是非出資したい、参画させてくれというような人間を作るような結論をどうか市の方たちに出していただきたいと、こう思っております。

それからもう1つ付け加えますと、昔はその環境問題などはどうでも良くて、金さえあればよかった。京浜工業地帯見ればよく分かります。とにかく垂れ流し、垂れ流しで。そしてある時から急に環境問題を言い出して、今は環境の問題をやるのが金になるのだと。こういう時代になっていますので、もう我々が心配することはないと。もう地球上の民族全てが今環境の重要性に気がついて、これからあのような馬鹿な開発はしないのだということを結論づけているわけです。我々は堂々とここで開発をして、今言った瀬戸内の開発なのですが、ここは外資を入れていません。地元の11行の金融機関、地銀がみんなお金を出し合って計画を支えています。今まで一番仲が悪かった広島銀行と愛媛銀行が急に仲良くなったり、こういう現象が起きている。今までIRの時はもう外資だ、外資だと、口を開けば外資が

来ると言っていたのですけれども、そのようなものはいらないと。国内の金融で十分できるわけですから、是非そういうことを横浜市さんがこれからしっかりと考えて、いい結論を出していただきたい。それが私の希望でございます。本当に色々ありがとうございました。

【平尾委員長】

藤木委員ありがとうございました。IRがなくても愛があるという、愛は何だということを今考えていたところでございますけれども、ありがとうございました。

それでは、次に涌井委員よろしいでしょうか。

【涌井委員】

ありがとうございます。結論から申せば、よくこういうレポートにまとめていただいたというのが私の感想であります。と申しますのは、この中に30ページに書かれている「今後のまちづくりに向けて」というところの「1」というところに「市域全体の波及を見据えたまちづくり」という項目が立てられていることについて、大変これをありがたいなというふうに思っているわけであります。

私は片方ではご案内のとおり2027年の国際GREEN×EXPOのチェアパーソンを務めているというところの立場からある一定の考え方を持っておりまして、これからの横浜というのはこれまでの多文化共生、そして自然環境重視というコンセプトを今度のGREEN×EXPOで世界中に発信する。そういう動きと共に臨海部があるというふうに考えるべきだと考えております。したがって、横浜全体のまちづくり戦略全体構想の中で振り子を大きく振りながらだんだんだんだんその振れ幅を小さくしながら、山下ふ頭の問題を考えていくべきだというのが私の意見であります。

片方の内陸部は東工大の再開発が今後あるのでございましょうし、それからさらにはそれぞれ私鉄東急田園都市線、それから相鉄線、その他のところ、あるいは高速道路も非常に集積度がどんどんどんどん高まっていくというような状況の中で、実はゾーラシアがあり、今度植物を中心にしたGREEN×EXPOの会場があると。この辺に世界で有数のバイオテクノロジーのセンターが形成される可能性が潜在的に非常に高まっているのではないかというふうに考えております。そうしたことを置きながら、今度は逆に臨海部のことを考えてまいりますと、実は残念なことに従来の歴史の蓄積の中で、次第にその勢いが劣化していつている。中華街もそういう方向でございましょうし、ご関係の方が出てきていただいているのに大変失礼な言い方をしますけれども、元町も私どもが若い頃感じていた勢いというものもどんどん衰退をしていく。非常に残念でたまりません。

とりわけ港湾地区だけではなくて、実は港湾地区に面するこの建物の一体、この街区も非常にうら寂しいものになって、例えばこれがもしバンクーバーであったり、シアトルであったら、あるいはスペインのバルセロナであれば、この辺にジャズバーができたり、カフェがあったり。要するに一本港町の後ろ側の通りというのは、ものすごい活力のある空間があって、多くの人を魅了すると、こういう場所になっているはずであります。そういうようなことを考えていきますと今ここで程よいところに結論を留めて、そこに多様な機能が盛り込ま

れる可能性というものを、横浜市自身の行政の熟度の高まりと、それから財政の問題と、それから現実的な社会変動、これをよく見つめながら、振り子の幅をだんだん小さくしながら内容を詰めていくということが非常に現実的なのではないかとこのように考えております。

ただし基盤の問題は1つございます。それは一体何かというと今村委員がご指摘になっている、ウォークアブルなまちづくりは十分に可能だと思いますが、残念なことに人流の脆弱性と言いますか、これをどう強化するのかという点は急いで検討しなければならない事項だというふうに考えているわけでありまして。そういうような観点の中から極めて程よい委員長のとりまとめによる報告書だということに賛意を表したいと思っております。以上です。

【平尾委員長】

涌井委員ありがとうございました。

これでご出席の方のご意見は伺ったわけでございますけれども、WEBで参加していただいている委員の方に、これからお願いしてご意見を伺ってまいりたいと思っております。それでは幸田委員よろしくお願いたします。

【幸田委員】

はい、どうもありがとうございます。

最初に、委員長がまとめられた再開発の大きな方向性を示すことを主眼においてまとめるということで、その構成についてご説明があって、それに沿った答申案が市の方から示されたということです。この点については前回の委員会でも、分類案で非常に項目も多かったということで、それが大きな方向性に関するまとめがされたということで、大変分かりやすい委員長のまとめになっているということで、委員長の答申案のまとめについては賛成するものでございます。

その上で、市の作成された答申案について、意見を3点、まず大きく申し上げたいと思っております。

1つは、1と2という項目で「目指すべき姿」、それから「基盤・空間の考え方」というのがあるのですが、これは委員長自身が「市民による市民のための市民の山下ふ頭の再利用」だということを強調されておられたところでもあり、今後の事業計画案の検討の進め方という項目は独立して、この答申案に設けていただきたいと思っております。その中身としては市民が実質的に関与する手続きを踏むべきであるということを明記すべきこと。そして、その具体的な手法として、事業計画検討委員会を設置して、市民が委員になるべきだということをこの答申案に明記をすべきだというふうに考えています。

それから第2は、私を含めて何人かの委員が発言していたかと思うのですが、港湾機能の維持及びその港湾機能を踏まえた検討を今後行うべきという点について、この答申には書かれていないということで、これは是非明記すべきだというふうに思います。山下ふ頭が現在法的に位置づけられている港湾機能を活用すべきと私は考えているのですが、どのように活用するかというのは、残念ながらこの委員会では十分な議論がされなかった。それは仕方がないことだと思っております。したがって、港湾機能の活用については今後検討する

ということでいいかと思えますけれども、そこを明記がないというのは、そういった意見が多く出ている、「委員の意見」のところには港湾とか港湾の機能って言葉があるのですけれども、答申の本文には全くないということですので、これは是非明記をしていただきたいというのが2点目です。

それから3点目は「目指すべき姿」についてです。委員の意見を①から③までに大まかに集約されているのですけれども、これらの方向性は両立するものではないと考えます。これらの方向性のどのような方向性に、今まで委員からもいろんな「コモンズ」とかあるいは「収益」とかいろんな意見が出されていましたが、どういう方向性に重点を置くかというのは今後の市民の議論に委ねられるべきであるというふうに考えます。しかしながら、今提示されている市の答申案によりますと、この3つの方向性からいいところ取りをして、それぞれの大きな方向性とは真逆の事業計画案になっても、「いやいや取り入れていますよ」というふうに反論できてしまうということになっています。これは大変まずいことであると思えますので、答申案に是非次の点を明記していただきたいと思えます。「①から③の方向性を同時に実現することは不可能である」ということ。それから「どのような方向性とするかは、今後市民を中心としたしっかりとした議論に委ねられるべきあること」を明記していただきたいと思えます。

時間もあまりオーバーするといけませんので、少しだけ画面に映させていただきます。はい、映っていますでしょうか。今申し上げたような表現として、この1、2について3という「事業計画案の検討の進め方」というのを明記する。それからIR誘致では市民の意見をほとんど無視していたという問題点、この反省の上に立っているということも明記すべきだと考えています。それから「目指すべき姿」というのは、先ほど申し上げたような3つの方向性を全て実現するというのではなく、しっかりと市民が議論する。それから山下ふ頭が有している港湾機能は全く明記がないので、これは是非書いていただきたい。今の港湾機能を維持することを前提とし、これらの機能を活用することを検討することは必要だというふうに明記していただきたいと思えます。その他で、「オープンスペースの形成と緑」、今日ご欠席のお2人も緑と言っていたのですけれども、「建築物と一体となった立体的な緑」というのは意味が分かりませんので、大きな方向性としては、「オープンスペース、緑」というのを明記、明確に分かるようにした方がいい。あと、いくつか表現的なことについても、あそこを大規模開発するというのは不適切だというのがこの「オープンスペース・コモンズ」という考えですので、その1つの方向性。それから③については、私は反対でございます、大規模再開発を目指すことになりますので。ただ、もちろんこういった意見があることは承知していますので、③の考えを書くことはもちろん反対はしません。それから、最後のところに先ほど申し上げた検討の考え方をしっかりと明記をする。それから、今後のまちづくりのところも具体的な方向性というのはこれから市民が中心となった検討委員会で検討すべきだと考えますので、こういった具体的な「どことどう連動する」とかというのを最後に書くのは不適切であるというふうに考えていますので、是非修正をしていただきたいと思えます。

なお、先ほど、市の財政との関係で収益を上げる必要があるということについては、以前私が質問させていただきましたけれども、実際に市の財政がどうかというのは単に税収が減

って、いわゆる福祉財源が増えていく、福祉の支出が増えていくという説明だけなのです。したがって具体的な事業との関連で、ここは市民のための憩いの場、オープンスペースにする、そのためにこういう計画の場合にはこうなる。しっかりシミュレーションをして検討することが必要であって、単純な、一言でいえば一足飛びに収益を上げる施設を作らなきゃいけないというのは全く結びつかないということを最後に申し上げたいと思います。以上です。

【平尾委員長】

幸田委員ありがとうございました。次にアトキンソン委員いらっしゃいますでしょうか。画面出ていらっしゃいますね。それではご意見を伺いたいと思います。

【アトキンソン委員】

はい、ありがとうございます。商工会議所さんの話にありましたように、大きなチャンスを抱え、迎えるものになりますので、国全体、そして横浜市の将来を考える必要があると思います。全体で見れば、生まれる子どもの数が100万人を切ったのは2016年、2019年に90万人を割りました。3年間です。そこから3年間が経って、2022年に80万人を割りました。そこから2年経って今年は68万5千人の子どもが生まれると予想されています。先ほどの話にありましたように、日本全国で誰も使わない箱物を作る、もしくは公園として作って、色々並べて、抽象的なところを作って、誰も行かない、誰も楽しまないようなオープンスペースはいくつもいくつもあります。実際には収入にならないどころか大きな負担になっているところも、全国にいくつもあります。全体の財政を考えて、そういうバブル以降によく作られている、財政のプラスにならずに大きな負担になるようなものを私は作るのはもったいないと思います。後悔のないように、バランスの取れた横浜市全体の財政も含めて考えて経済合理性を考える必要があると私は思います。以上です。

【平尾委員長】

アトキンソン委員ありがとうございました。エコノミクスをしっかり考えろというご意見だというふうに伺いました。それで今日、ご意見をご欠席の隈委員からいただいているようでございますので、事務局の方から隈委員のご意見をご紹介いただきたいと思います。

【事務局】

はい、欠席されている隈委員からお預かりしているコメントをご紹介します。

これまで委員会において、広範な分野に及ぶ有意義な議論が展開される中、示された答申案の構成はよくまとまっており、特に目指すべき姿については議論の要旨と再開発の方向性を適切に捉えていると考えられ、市民にも分かりやすい内容となっている。世界の都市開発の潮流は緑の再生であり、人々が憩うだけでなく、賑わいを生み出すような魅せる緑とした開発コンセプトは、周辺地域のみならず、横浜全体の都市ブランドを高め、世界に誇れる新たなまちの実現が期待できる。

コメントの紹介は以上となります。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。

それでは、ただいまの隈委員のご意見を伺って最後にしまして、一応皆様方のご発言をいただいたわけでございますけれども、今後どのように皆さん方のご意見をまとめて今後の答申に最終的にまとめていくかということにつきまして、今いくつか具体的なご提案がございました。特に幸田委員の方から、市民参加の具体的な形についてございましたけれども、それについてどのように今後答申の中に受け止めていくかにつきましては、まだ議論が熟していないかと思っておりますので、もし市の方でそういうお考えがございましたら、ここでご説明いただきたいと思っております。

まずですね、幸田委員の方から具体的なご提案としまして、この事業計画検討委員会を作る、そこに市民が参加するということを答申に明記すべきだというご意見をいただきました。これにつきまして、私としてはご指摘のとおり、私も度々申し上げておりますように、市民参画が非常に重要なことだと思っております。そしてこれまで市民の方々から1万件を超える意見を寄せられていただいておりますし、またインターネットでこの会議についてのコメントを多数頂戴しておりますので、そういう意味でこの委員会としては、市民の方々の参画ということを進めてまいったつもりでございます。ただ、事業計画の検討委員会の設置、それについて市民が参加するという、この幸田委員の意見につきましては皆様ご意見いかがでございましょうか。

【北山委員】

私は賛成です。今、日本の都市開発っていうのは、市民が参加できないまま事業者が一方的に作っているというような状態ですので、やはり市民が参画していく、すごく大事なアイデアだと思います。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございます。他にございますか。はい、内田委員どうぞ。

【内田委員】

はい、ありがとうございます。もちろん市民の参加というのは大変重要なことかと思えます。ですが、横浜市民って370万人以上いるわけですから。その中で市民の声というものは一体何なのかということのを正しく捉えるのが非常に難しいと考えます。この市民の意見を見ても、おそらく同じ方が何度か言ってらっしゃるようなことも見受けられますし、その部分で偏りのない横浜市民の意見をどうやって集めるのかと。この部分はどのようなのでしょうか、非常に難しい、あらゆる立場のあらゆる横浜市民の方のご意見をきちっと聞けるということであれば、もちろん横浜市民の皆さんの声っていうのは是非取り入れるべきだと思うのです。

が、そこがかなり課題感はあるのかなというような気がします、いかがでしょうか。

【幸田委員】

よろしいですか。

【平尾委員長】

はい。

【幸田委員】

よろしいですか、今のご意見について。

【平尾委員長】

手短にお願いいたします。

【幸田委員】

すいません。はい、手短に。今の内田委員のご意見は、前に私が発表させていただいたように、色々なやり方があるので、それは固定的に考える必要はないと思います。方向性がないと市民の意見を取り入れたことにならない。だから公聴会の場で質問を言えばさらにちゃんと答えるとか、事業計画検討委員会を作るとオープンに議論ができますので、そういうことは最低限必要ではないかなと思います。先ほど少し申し上げましたように、IRの時にはパブリックコメントをやりました、説明会をやりましたというのが市民参加だというふうに言っていたのですが、私ども研究者の方で詳しく分析しましたが、それは全く市民の声を反映してなかったわけです。したがって、それは一方通行なので、今までのようなやり方で市が事業計画案を作成して、その案に対してパブコメやワークショップを形だけやるというやり方はやらないということは明記していただきたいなというふうに思っております。

【内田委員】

はい。多くの方がサイレントマジョリティなのだろうと思うのです。そういうもので、なかなか難しいのだろうと思うのですが、偏りのない市民のお声というのは是非聞いてみたいと思います。

【幸田委員】

議論する場がないとできないので、検討委員会は必ず作る必要があると思います。

【平尾委員長】

委員会の設置等につきましては、横浜市の方としてはどういうふうにお考えになりますでしょうか。今の幸田委員のご意見について何か。

【事務局】

はい、事務局でございます。幸田委員から先ほどご提案いただきました事業計画検討委員会の設置について、これについては我々も市民の皆様からのご意見を計画に反映していくという視点では非常に重要だというふうに考えてございます。そのやり方については、今委員会の中でご議論をいただいておりますけれども、その答申を踏まえまして、今後の市の具体的な取組を進める中で、しっかり、十分に検討していきたいなというふうに考えているところでございます。

【北山委員】

アメリカでこういうのに参画してあるのですけれども、そういうシステムがありますので、デザインボード委員会を作るとか。少し研究していただきたいと思います。

【今村委員】

よろしいでしょうか。

【平尾委員長】

はい。

【今村委員】

事業計画委員会というのが、少し僕が拡大解釈をしているのですけれども、先ほどアトキンソンさんがおっしゃったように、基本的には今2024年ですけれども、例えば3年後5年後10年後に今の少子化とか高齢化とか、要するに人手不足ですね。それからインフレ、それから物価高。例えばそのレンジが単年度だけじゃなくて10年ぐらいで見えていかないと、非常に難しくなるわけです。いい方向に行くならいいのですけれども、財源を含めたものはやはり厳しくなるのは当たり前だと思うのです。その時に前提となるものをどこかで作っていかないと、何をやるにしても非常に難しくなると思うのです。そこのベースがある程度、市の方でじっくりでよいのでなんとなく作っていただいて、そこに基づいてやっていかないと議論が噛み合わないのではないかなという感じがするのです。いくらぐらいまでならいい、あるいはいくらまではダメ、そういう議論があったり。横浜市というのは政令指定都市でありますけれども、色々な意味では徐々に徐々に厳しくなることは間違いのないわけですから、前提条件のベースとなるものだけは、ある程度早めにお作りになっていただいて、それで、事業検討委員会なのか、分かりませんが、その次のステップに行った方が私はよろしいのではなろうかなというふうに思っております。

【平尾委員長】

はい、ありがとうございました。

【幸田委員】

委員会に出すということは当然必要ですので、それは全くそのとおりです。

【平尾委員長】

私の考え方を申し上げます。本委員会は、山下ふ頭の再開発・再利用についての基本的な方向をまとめていくということがその設置条例にもまとめられております。したがって、これを具体的にどうするかということについては、この委員会の権限を超えている問題だと思いますので、私は事業計画検討委員会については、市民の参加の形を認めていくということの表現の中で、事業計画検討委員会の設置については、まとめていくということではいかがかと思えます。つまり事業計画検討委員会の設置ということまで踏み込んだことはこの委員会の答申としては、私としてはそういう意見を尊重しながら進めていくということで。

【涌井委員】

少し質問をさせていただきたいです。

私はこの委員会は、学識者としてここに書いてございますように、山下ふ頭の再開発にかかる計画の策定に関して、学識者の立場でこういう方向性がよろしいのではないかと、方向性の検討の中で参加をさせていただいているつもりなのです。それで、藤木委員ほか皆様方には大変御無礼なことを言ったのですが、最初からいわば地区の代表の方々が、最初の議論の中から参加するというのは、あまりレベル感としてよろしくないのではないかとということから、実は途中からご参加をいただいて、非常に結果としては良かったというふうに思うわけです。つまりそれぞれの計画や構想の段階ではレベル感というものがあまして、このレベルにはもう確実に市民の意見をきちっと反映して、右なのか左なのかを選択しなければいけないという場面がどんどんこれから出てくるのだろうというふうに思います。今、幸田先生からのご指摘というのは、事業計画の検討委員会を設けよと。だけど我々が議論した内容というのは事業計画について踏み込んではいないのです。ある種の方向性をお互いに確認し合って、こういう方向で進めていこうということで合意形成ができたということだろうと思えますし、その合意形成については幸田先生からのご意見の中に、いわば形式論的な市民参加に終わってしまうというご懸念が示されていると。これはそのとおりかもしれません。そういう意味ではなくてきちっとこのアンケートも取られて、ある一定の方向は受けながらそれを反映してこれが出てきたと。それで、事業計画の検討というのは、まだまだ先の話なのではないかと私は思っているわけです。まずこれを受けて、我々は市から諮問を受けて答申をお返しする。答申をした内容について市の方で行政計画としてどのような方向をこういう方向でいかがだろうかということをもう1回打ち返してくると。こういう段階の中でそれぞれの市民意見を徴する、あるいは場合によると利害関係者の方々の意見もそこに投影していくという詰め方というのが、非常に大事なのではないかと。私が冒頭に申し上げたように振り子のように、俯瞰的な大きな振り子から、だんだん具体的な現実的な小さな振り子にしながら精度を上げていくというのが、議論の中身を詰めていくということなのではないかということをおの意見の開陳の時に申し上げさせていただいたのですけれども、そういう考え方ではいけないのでしょうか。どなたかに。どなたにお答えいただければいいのか

わからないので。はい。

【坂倉委員】

意見を言ってよろしいでしょうか。

【涌井委員】

どうぞ。どうぞって、私が言う立場じゃない。委員長どうぞ。

【平尾委員長】

はい。

【坂倉委員】

今の話を聞いていますと、検討委員会で事業の内容まで審議して、こういうような計画ならいいとか悪いとかと言っていますが、それを市民団体を中心にとというのは、一体その事業に対しての責任は誰が取るのですか、ということに対して非常に難しいと思うのです。かつてMM21に開発の時に、区民会議を通じてその計画について横浜市はかなり説明をしたのです。ここに建てる建物についてはこういうもの、そして居住者については1万人という人数を設定して、それで初期の段階では学校は作りませんということも話をし、そういう街を目指すのだということを書いて18区歩いたはずなのです。そこで出た意見は十分取り入れながら進めるという手法をとってきました。仮にこの計画を進めていくと港湾機能を持った土地から商業地域に変えるということは都市計画審議会を経なければならない。その場合は市民代表も入っているのです。ですから決定する時にはきちっとした意見をまとめないと事業が進められないということがあるのです。したがってどういう方がいいのかと言うのはむしろ色々な意見を出し合った中で進めるべきなのですが、作り上げるのは先ほど色々お話が出ていましたように税金で作るのではないのです。民間の事業者が市民の意見や事業者の意見をとりまとめて、調和の取れた形でもって開発を進めるということが望まれるので、そこには当然民間の事業者が投資するお金が回収できるような計画でなければできない。そういうことを踏まえた上で、市民に意見を求めて、いくつか出てくるような事業計画の公募条件を審議していただく、意見を求める、そういうことをやっていくと幸田先生が求められるようなことが実現していくのではないかというふうに思いますので、もう少しその辺については港湾局がこの後の進め方について慎重にご審議をいただくと同時に、そういった市民の意見をどの時点でどういうふうに取り入れていくのかということも検討材料としてお諮りしていただければいいのではないかというふうに思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

【平尾委員長】

他にご意見いただけますでしょうか。

だいぶ予定の時間も迫っておりますので、

【幸田委員】

今おっしゃられた件についてよろしいでしょうか。

方向性が決まっているということはないと思うのです。

通常、委員会というものは、私も政府の委員会とか自治体の委員会に参加していますけれど、議論をしてこういう方向でやりましょうというふうにまとまるのであればそれは一つの方向だと思うのですが、先ほど申し上げましたように今回はずっと委員のプレゼンをして聞いてきたというのは、それはそれでいいと思いますけれども、オープンスペースや緑を基本的なベースにするのか、それとも再開発、収益性を重視するのかというのは分かれています。それを1つの方向性にするというのはやはり難しいし、する必要はないだろうと思いますので、そこをやはりしっかり市民と双方向で、つまり市民のアンケートを取ったから聞いているということにはならなくて、よく言われるように市民参加のはしご、シェリー＝アーンスタインが言うように、「聞けば市民参加だ」というのは実質的な市民参加ではないと言われているわけです。したがって実質的に参加するオープンなところで議論する、それは色々なやり方があると思うのです。人数が多いですから無作為抽出と組み合わせてもいいし、そうではなくてそこに色々な地域団体とか市民の声をオープンなところで議論して、それで最終的にはもちろんこれは判断するのは市長ですので、そこで決めるわけではないのですが、大きな方向性を議論するべきじゃないかと申し上げているだけなのです。ただ、今のままですとそれ無しに進められてしまうという恐れがかなりあるというふうに私は考えています。なので是非明記すべきだということです。

【アトキンソン委員】

一ついいですか。

今の話でオープンスペースか再開発か、という話だったのですが、皆さんどうなのか分かりませんが、私はそういうような二者択一ではないというふうに認識しています。オープンスペースの部分も収益性の部分というのはどちらかということではなくて両立する、両輪ができるのではないかとということも探っていくべきものだとすることを私の認識としてコメントをさせていただきたいです。以上です。

【幸田委員】

今アトキンソン委員がおっしゃられたことは否定しません。だからそれをちゃんと議論する必要があるのではないかとということをございます。そういうことですので、お考えを否定しているわけではございません。

【平尾委員長】

あと、幸田委員の方から論点としまして、港湾機能の活用というのが答申の中に入っていないというご指摘がございましたけれども、この点についてご意見はございますでしょうか。

幸田委員のご意見では、港湾機能の維持・活用を明記すべきだというご意見をいただいていますけれども、この点についてはいかがでしょうか。

【坂倉委員】

港湾機能とはどういう意味を指しているのか分からないのですが。ここは物流や港湾の施設をやめようとしているわけで、それは新本牧の方へ全部移そうとしているはずなので、どういふものを残そうとお考えになっているのかが少し理解できません。

【幸田委員】

何をするのかというのはこれから議論することですが、例えば港運協会・ハーバーリゾート協会が提案している国際展示場というのものもあるし、あるいはこの中にも若干意見として出ていますけれども、いわゆるディズニーリゾートの船が岸壁に着いて、そこで楽しむというのもありうると思うのです。

先ほどどなたかおっしゃっておられたように、港湾機能はもうやめて商業地域にするというのはもちろん都市計画審議会にかける必要があるのですけれども、一応私が承知しているのは、臨港地区や保税地域の指定というのは継続するというふうに聞いています。なので、それを明記しないということ、あるいはもうやめるということについてはもちろん議論した上でそれをどうするかというのはあると思うのですけれど、そこはこの委員会で突っ込んで議論はされていないと思います。したがって、現在の機能を維持するという点について、それに反対であれば、そこはしっかり時間を取って議論すべきだというふうに考えます。

【平尾委員長】

港湾機能につきましては、今の幸田委員のご意見を何らかの形でもって反映させて、答申案に盛り込みたいと思います。

それでは、時間が迫っておりますので、事業計画検討委員会につきましては、今回の答申に書き込むかどうかというのは、私はまだその段階ではないのではないかと。先ほど涌井委員がおっしゃったような形で、この委員会の検討事項のレベルではないというふうに思いますので、これは他の形でもって市民参加の形を明示するという形でもって代えさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【幸田委員】

今の委員長のご意見ですけれども、先ほど申し上げたようにこういった委員会では答申案について示されて意見を出して、事務局がそれはどうかという文案のことがありますので、検討してもう1回この委員会で議論するというのが普通なのです。それで元々11月にこの委員会が設定され、12月の日程も設定されていたわけですが、それはちゃんとこの委員会で委員の間で答申案を議論するためにはもう1回必要じゃないか。だから1月の日程調整もして欲しいというふうに私は4回市の当局に言いました。しかしそれは調整されていないと。今日の委員会の様子を見てということで日程調整する考えかというふうに思っております。

すけれど。それを今日の委員会だけで、今の委員長がお話のようにこういうことに決めるというのは、私は賛成できません。そういった答申のとりまとめには反対します。

【平尾委員長】

ただいま幸田委員の方からこのとりまとめについて事業計画検討委員会を設置するという事まで踏み込んだ答申にすべきだという強いご意見が出ましたけれども、これを議論するためにもう一度委員会を開催すべきだというご提案もございました。

【幸田委員】

元々もう1回やる予定だったのが1回一方的にキャンセルされたわけですよ。

しかも通常の政府の委員会でも自治体のこういった委員会・研究会で1回の答申でそこで全部一任というのは普通ありません。委員会の運営としても不適切であると言わざるを得ません。

これから時間がかかってやっていくことだというご発言もありましたけれど、なぜ今日の委員会で全て打ち切りにするのかという説明をしていただかないといけません。次の予定が決まっているわけではないのです。

【事務局】

事務局でございます。

色々な委員の皆様の大変貴重なご意見・ご議論、ありがとうございます。

今のご議論の内容を踏まえまして、例えば合意形成ではないですけど、こういうふうにしたいというのを決める手段の1つとしまして、本委員会を設置する際に条例で決めているわけですが、条例名「横浜市山下ふ頭再開発検討委員会条例」というものがございまして、その中に第5条第3項というものがございます。その中で、「委員会の議事は出席した委員の過半数をもって決し」というふうな記載がございまして、委員長のご判断にはなりますが、条例に基づき決議をとるということもできますがいかがでしょうか。

【平尾委員長】

それではもう時間もあれですし、ご意見もまだまだ尽きないと思いますけれども、今の市の方からのご提案、もう一度確認したいと思います。

【事務局】

合意形成の手段の一つといたしまして、条例には「委員会の議事は出席をした委員の過半数をもって決し」というふうな記載がございまして、それを使いまして、例えば委員長のご判断によりまして、条例に基づき決議をとるということも可能でございまして。

【平尾委員長】

それでは挙手によって皆様方のご意見をまとめたいと思います。

<傍聴人による不規則発言あり>

【平尾委員長】

どなたですか。
議事進行の妨害はやめてください。

それでは。

【幸田委員】

委員長、よろしいですか。

【平尾委員長】

どなたですか。

【幸田委員】

幸田です。

【平尾委員長】

はいどうぞ。

【幸田委員】

そういうことで、委員長の権限としてあるので多数決をとっていただくのは構わないのですが、その場合にこの答申の中身にこういう意見があったということは必ず明記していただきたいと思うのです。これは色々な政府の審議会とか色々ありますけれども、私が委員として参加した元総務大臣の増田寛也氏が委員長であった所有者不明土地問題研究会というのは、国の経済財政諮問会議、そして骨太方針でも研究会の名称が明記された重要な委員会でした。しかし、この所有者不明土地研究会報告書では、1人の委員の少数意見も必ずこういう意見があったと明記されています。したがって、山下ふ頭のこの答申では、この箇所にはこういう意見が、私の意見が仮に少数意見だった場合には、その発言は明記していただきたいということを申し上げておきたい。

【平尾委員長】

はい。

それでは、横浜市山下ふ頭再開発検討委員会条例の第5条第3項に基づきまして、幸田委員からご提案のあった事業計画検討委員会の設置を答申に記載すべきかどうかにつきまして、皆様の決をとりたいと思います。記載が必要だという方は挙手をお願いいたします。

(挙手1名)

【平尾委員長】

よろしいでしょうか。

皆様ありがとうございます。

それでは当該部分の記載につきましては、委員の皆様方の決を踏まえて、現在の答申案のままとさせていただきます。ご了承お願いいたします。

では、時間がちょうど4時になりましたけれども、意見交換の場をこれで終わらせていただきたいと思います。最後に一言ご挨拶させていただきたいと思います。

本日は、皆様活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。また、ご意見をいただけましたことにつきまして感謝申し上げます。私は途中から寺島委員長の後任として就任させていただきましたが、議論のとりまとめや委員会の運営について不慣れな点が多数ございまして、ご迷惑をおかけしたことをお詫びしたいと思いますが、同時にこのような答申がまとまったことにつきまして皆様方のご協力とご理解に重ねて御礼申し上げます。

本日ご議論いただきましたとおり、私の方に今後の答申につきましてはまとめさせていただきますので、本日が最終の委員会となり、今後、答申案をとりまとめまして、責任をもって私の方から市の方へ提出させていただきたいと思います。

委員会におきまして、各分野の皆様から貴重なご意見をいただきまして、この答申では、まちづくりの大きな方向性を示すことに主眼を置き、取りまとめをさせていただきました。その役割は果たしたかと思えます。

その再開発のコンセプトも、今日ご説明しました3つの柱を議論に踏まえて、これから市の方で具体的に再開発の実施計画に向かって進めていただきたいと思いますが、市民の山下ふ頭に対する強い関心と高い期待、この思いに市の方で応えていただきまして、市民にとって豊かな山下ふ頭の再開発の計画が進捗することを期待したいと思います。

山下ふ頭は東京湾あるいは日本全体にとりましても、あるいは横浜市にとりましても、クラウンジュエル、クラウンジュエルというのは王冠の輝きを待つ宝石のことですけれども、まさに山下ふ頭は横浜の、日本のクラウンジュエルとして今後、今回まとめていただきました方向で具体的な事業計画が展開されることを期待したいと考えております。

以上、私の挨拶とさせていただきます。本日は大変長時間、ありがとうございました。

【事務局】

本日はお忙しい中、長時間にわたり意見交換いただき誠にありがとうございました。

最後に、閉会にあたりまして港湾局長の新保より、ご挨拶申し上げます。よろしくお願ひします。

【事務局】

港湾局長の新保でございます。

本日は大変長い時間にわたしまして、ご議論いただき誠にありがとうございました。平尾委

員長を始め、学識者委員の皆様、そして地元の関係者の団体の皆様、本当にありがとうございました。答申案の中でもご教示いただきましたが、示すべき3つの柱は、山下ふ頭の優れた立地や広大な開発空間を活かしていく大きな方向性を示していただいております。その実現に向けて今から身の引き締まる思いでございます。

今回の答申に基づきまして、我々港湾局含めて横浜市全庁を挙げて検討をしっかりと進めさせていただきたいというふうに思っております。今日後段での議論、色々ありましたが、この答申の最終ページにも引き続き多様な意見を問うプロセスを得ることが望ましいというご意見、答申の中でもいただきましたので、こういったことを踏まえながらやり方についてはしっかりと考えていきたいと思っております。

また、幸田先生から先ほどありましたご意見をしっかりと残せというようなところもしっかり対応させていただきたいというふうに思っておりますのでよろしくお願ひします。

最後になりますが、昨年の8月から1年以上にかけてご議論いただきまして本当にありがとうございました。しっかりと我々取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

今日は誠にありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございました。

なお、答申の提出に関する日程等につきましては、後日お知らせいたします。

以上をもちまして、閉会させていただきます。ありがとうございました。